Oracle® Smart View for Office

ユーザーズ・ガイド

リリース 25.100
F28762-17
4 月 2025 年

Oracle Smart View for Office ユーザーズ・ガイド、リリース 25.100

F28762-17

Copyright © 2004, 2025, Oracle and/or its affiliates.

著者: EPM Information Development Team

This software and related documentation are provided under a license agreement containing restrictions on use and disclosure and are protected by intellectual property laws. Except as expressly permitted in your license agreement or allowed by law, you may not use, copy, reproduce, translate, broadcast, modify, license, transmit, distribute, exhibit, perform, publish, or display any part, in any form, or by any means. Reverse engineering, disassembly, or decompilation of this software, unless required by law for interoperability, is prohibited.

The information contained herein is subject to change without notice and is not warranted to be error-free. If you find any errors, please report them to us in writing.

If this is software, software documentation, data (as defined in the Federal Acquisition Regulation), or related documentation that is delivered to the U.S. Government or anyone licensing it on behalf of the U.S. Government, then the following notice is applicable:

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs (including any operating system, integrated software, any programs embedded, installed, or activated on delivered hardware, and modifications of such programs) and Oracle computer documentation or other Oracle data delivered to or accessed by U.S. Government end users are "commercial computer software," "commercial computer software documentation," or "limited rights data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, reproduction, duplication, release, display, disclosure, modification, preparation of derivative works, and/or adaptation of i) Oracle programs (including any operating system, integrated software, any programs embedded, installed, or activated on delivered hardware, and modifications of such programs), ii) Oracle computer documentation and/or iii) other Oracle data, is subject to the rights and limitations specified in the license contained in the applicable contract. The terms governing the U.S. Government's use of Oracle cloud services are defined by the applicable contract for such services. No other rights are granted to the U.S. Government.

This software or hardware is developed for general use in a variety of information management applications. It is not developed or intended for use in any inherently dangerous applications, including applications that may create a risk of personal injury. If you use this software or hardware in dangerous applications, then you shall be responsible to take all appropriate fail-safe, backup, redundancy, and other measures to ensure its safe use. Oracle Corporation and its affiliates disclaim any liability for any damages caused by use of this software or hardware in dangerous applications.

Oracle®, Java, MySQL, and NetSuite are registered trademarks of Oracle and/or its affiliates. Other names may be trademarks of their respective owners.

Intel and Intel Inside are trademarks or registered trademarks of Intel Corporation. All SPARC trademarks are used under license and are trademarks or registered trademarks of SPARC International, Inc. AMD, Epyc, and the AMD logo are trademarks or registered trademarks of Advanced Micro Devices. UNIX is a registered trademark of The Open Group.

This software or hardware and documentation may provide access to or information about content, products, and services from third parties. Oracle Corporation and its affiliates are not responsible for and expressly disclaim all warranties of any kind with respect to third-party content, products, and services unless otherwise set forth in an applicable agreement between you and Oracle. Oracle Corporation and its affiliates will not be responsible for any loss, costs, or damages incurred due to your access to or use of third-party content, products, or services, except as set forth in an applicable agreement between you and Oracle.

目次

ドキュメントのアクセシビリティについて

ドキュメント・フィードバック

1 EPM センター・オブ・エクセレンスの作成および実行

2 Smart View ユーザー・ガイドへようこそ

3 Smart View の概要

概要 3-1
サポートされているデータ・ソース・プロバイダ 3-2
サポートされている Smart View 拡張機能 3-4
Smart View のコンポーネント 3-7
　リボン 3-7
　Smart View パネル 3-9
　右クリック・コンテキスト・メニュー 3-10
Smart View のインストール 3-11
　Windows、Office および Smart View のロケール設定 3-11
Smart View 機能へのアクセス 3-12
翻訳情報 3-12
このガイドについて 3-13

4 データ・ソース接続

接続 4-1
共有接続とプライベート接続 4-2
データ・ソースへの接続 4-7
　共有接続を使用した接続 4-8
　プライベート接続を使用した接続 4-9

シートのアクティブ接続の設定 4-10
データ・ソースからの切断 4-11
共有接続の作成 4-11
プライベート接続の作成 4-12
プライベート接続ウィザードの使用 4-13
クイック接続方法の使用 4-13
接続のプライベート接続としての保存 4-14
プライベート接続の URL 構文 4-15
接続の変更 4-18
プライベート接続の変更 4-19
Office ドキュメント内の接続の変更 4-20
Financial Reporting のイメージと完全にフォーマットされたレポートの接続の変更 4-22
接続 URL マッピングの管理 4-24
接続 URL マッピングの管理について 4-24
接続 URL マッピングの追加 4-25
接続 URL マッピングの更新 4-28
接続 URL マッピングの削除 4-31
接続の削除 4-34
接続 URL の削除について 4-34
接続 URL の削除 4-35

5 Smart View のオプション

Smart View のオプションの設定 5-1
グローバル・オプションとシート・レベル・オプション 5-2
グローバル・オプション 5-2
シート・オプション 5-2
メンバー・オプション 5-4
Cloud EPM フォームおよびアド・ホックでサポートされているメンバー・オプション 5-9
Oracle Hyperion Planning フォームおよびアド・ホックでサポートされているメンバー・オプション 5-11
Financial Management フォームおよびアド・ホックでサポートされているメンバー・オプション 5-12
Essbase アド・ホックでサポートされているメンバー・オプション 5-13
Narrative Reporting アド・ホックでサポートされるメンバー・オプション 5-14
データ・オプション 5-15
Cloud EPM フォームおよびアド・ホックでサポートされているデータ・オプション 5-18
Oracle Hyperion Planning フォームおよびアド・ホックでサポートされているデータ・オプション 5-19
Financial Management フォームおよびアド・ホックでサポートされているデータ・オプション 5-20

Essbase アド・ホックでサポートされているデータ・オプション 5-21
Narrative Reporting アド・ホックでサポートされるデータ・オプション 5-22
詳細オプション 5-23
フォーマット・オプション 5-30
Planning フォームおよびアド・ホックでサポートされているフォーマット・オプション 5-38
Financial Management フォームおよびアド・ホックでサポートされているフォーマット・オプション 5-39
Essbase アド・ホックでサポートされているフォーマット・オプション 5-39
Narrative Reporting アド・ホックでサポートされるフォーマット・オプション 5-40
セルのスタイル 5-40
Cloud EPM フォームおよびアド・ホックでサポートされているセルのスタイル・オプション 5-43
Oracle Hyperion Planning フォームおよびアド・ホックでサポートされているセルのスタイル・オプション 5-44
Profitability and Cost Management アド・ホックでサポートされているセルのスタイル・オプション 5-44
Financial Management フォームおよびアド・ホックでサポートされているセルのスタイル・オプション 5-45
Essbase アド・ホックでサポートされているセルのスタイル・オプション 5-46
拡張機能 5-46

6 Smart View 拡張機能

Smart View 拡張機能について 6-1
拡張機能アラートの使用 6-2
使用可能な拡張機能の最初のチェック 6-3
拡張機能のインストール 6-5
拡張機能の更新 6-6
拡張機能のインストールのロギングの有効化 6-8
拡張機能のダウンロードのデフォルト URL のオーバーライド 6-8
拡張機能の有効化および無効化 6-9
拡張機能使用時の表示の調整 6-9
拡張機能のアンインストール 6-10

7 ディメンションとメンバー

ディメンションとメンバーについて 7-2
ディメンションおよびメンバーの命名の制限 7-2
数値メンバー名に関するベスト・プラクティス 7-3
メンバー・セレクタからのメンバーの選択 7-3
POV ツールバーからのメンバーの選択 7-9

セルベースの POV を使用したメンバーの選択 7-11
フリーフォーム・モードでのメンバーの入力 7-13
POV ツールバーの表示 7-14
POV マネージャ 7-15
デフォルトまたはバックグラウンド POV のメンバーの選択 7-17
POV のコピーと貼付け 7-18
プライベート接続と名前付き接続のデフォルト POV の設定 7-19
POV の削除 7-20
属性によるフィルタ 7-20
サブセットによるフィルタ 7-21
期間累計メンバーの選択 7-22
メンバー・パースペクティブの 指定 7-22
メンバー情報の表示 7-23
別名および別名表の操作 7-24
別名表の選択 7-24
現在のワークシートまたは接続の別名表を選択できます。 7-25
接続の別名表の選択 7-25
別の別名表からの別名 7-26
グリッドでのメンバー名と別名の表示 7-26
「メンバー・セレクタ」でのメンバーの表示 7-27
メンバー・セレクタでのメンバー名の表示の定義 7-27
重複するメンバーの修飾名の表示 7-29
代替階層での修飾名の表示 7-30
フォームのページでの個々のページ・メンバー名の表示 7-32
ディメンションのプロパティの 表示 7-33

8 データおよびデータ・セル

データのリフレッシュ 8-2
リボンからのリフレッシュ 8-2
ドキュメント・コンテンツからの個々のレポートのリフレッシュ 8-3
データの送信オプションの使用 8-10
データの送信オプションについて 8-10
データの送信 8-12
リフレッシュなしのデータの送信 8-13
データ範囲の送信 8-13
データの計算 8-14
データの計算について 8-14
Financial Management でのデータの計算 8-15
Essbase でのデータの計算 8-15

Essbase でのデータの計算について 8-15
Essbase 計算の実行 8-16
タプルを使用した非対称グリッドの計算 8-19
選択された POV の解決順の変更 8-25
データの集計 8-26
通貨の操作 8-27
Financial Management での通貨換算 8-27
Planning での通貨の変更 8-27
データ・セルでの値の調整 8-28
データ検証エラーの解決 8-29
データ・パースペクティブの 指定 8-31
スマート・リストの操作 8-33
ドリルスルー・レポートの操作 8-36
ドリルスルー・レポート・ガイドライン 8-36
ドリルスルー起動オプションの設定 8-38
ドリルスルー・レポートの起動方法のデフォルト設定および無効化 8-39
ドリルスルー・レポートへのアクセス 8-40
ソース・データへのドリルスルー 8-41
ドリルスルー・レポートのソース POV の表示 8-45
リンク・レポート・オブジェクトの操作 8-47
データ・セルへのリンク・レポート・オブジェクトの添付 8-47
データ・セルからのリンク・レポート・オブジェクトの起動 8-49
リンク・パーティションの起動 8-49
セル・コメント 8-50
Cloud EPM および Oracle Hyperion Planning でのセル・コメントの追加 8-50
Financial Management でのセル・コメントの追加 8-52
添付の追加 8-53
セルの履歴の表示 8-56

9 データ・フォーム

Excel でのフォームの操作 9-1
Excel でフォームを開く 9-2
フォームでの Excel 式の使用 9-3
POV 変更後に式を保存 9-4
ユーザー変数の操作 9-5
Cloud EPM および Oracle Hyperion Planning のフォーム 9-6
Smart View での Cloud EPM および Oracle Hyperion Planning のフォーム動作 9-7
Planning フォームでのフローティング・ツールバーの表示 9-9
アド・ホック・グリッドの保存 9-9

フォームでのアド・ホック分析の実行 9-10
フォームの行ディメンションでのドロップダウン・メンバー・セレクタの使用 9-11
チャートの挿入 9-14
Smart View のセル・レベル・セキュリティ 9-17
有効な交差の使用 9-18
有効な交差について 9-18
ページ・ドロップダウン・リストでの有効な交差の使用 9-19
フォームでの有効な交差の使用 9-23
フレックス・フォーム 9-26
フレックス・フォームについて 9-27
フレックス・フォームの操作に関するベスト・プラクティス 9-28
Smart View でのフレックス・フォームの操作 9-46
アド・ホック・モードでフレックス・フォームを開いてデータを送信 9-49
Financial Management データ・フォーム 9-49
Financial Management メンバーについて 9-49
Financial Management メンバーの追加 9-50
Financial Management のリンク・フォームの使用 9-50

10 アド・ホック分析

アド・ホック分析について 10-2
アド・ホック分析の開始 10-3
シートでの属性ディメンションの挿入 10-4
シートでの属性ディメンションの挿入 -- 例 10-5
属性の挿入に関するガイドライン 10-7
アド・ホック・グリッドでの Excel 式の保持 10-8
Essbase アド・ホック・グリッドの内側および外側にある Excel 式の保持 10-9
アド・ホック・グリッドのフォーマット 10-10
Smart View フォーマットの使用 10-10
Excel フォーマットの使用 10-11
アド・ホック・グリッドの属性関連付け処理の有効化 10-12
ズーム・インおよびズーム・アウト 10-14
ズーム・インおよびズーム・アウトについて 10-14
ズーム・イン 10-15
選択したレベルへのズーム・イン 10-15
デフォルト・レベルへのズーム・イン 10-16
Cloud EPM での共有メンバーへのズーム・イン 10-17
ズーム・アウト 10-19
デフォルト・ズーム・レベルの設定 10-20
ズーム時に表示するメンバーの選択 10-20

ダブルクリックでのズームの使用可能 10-21
ズームおよびフォーマット 10-22
式を含むセルでのズーム操作 10-22
アド・ホック・グリッドでの祖先の位置の指定 10-23
アド・ホック・シートでの Excel フィルタの操作 10-25
ピボット 10-26
行と列の間のディメンションのピボット 10-27
グリッドと POV ツールバーの間のディメンションのピボット 10-28
選択したメンバーのグリッドからの除去 10-29
保存されたワークシートのアド・ホック・グリッドの更新 10-33
行と列の挿入 10-35
繰返しメンバーの表示および抑制 10-35
11.1.2.2.102 以前のワークブックでの繰返しメンバーの抑制オプションの使用 10-37
ワークシート上の複数のグリッドの操作 10-37
ワークシート上の複数のグリッドについて 10-38
複数グリッド・ワークシートの作成 10-39
アド・ホック・ワークシートの複数グリッド・ワークシートへの変換 10-40
複数グリッド・ワークシートの範囲の名前変更 10-41
複数グリッド・ワークシートでの接続の変更 10-44
Essbase の複数グリッド・ワークシート上の POV 10-45
複数のグリッドの例: バタフライ・レポート 10-45
レポートおよびアド・ホック・グリッドのカスケード 10-46
代替変数の使用 10-49
リフレッシュ後の無効なメンバーとコメントの保持 10-49
Essbase シートのコメントおよび不明メンバーの検出 10-52
シート内のコメント表示の有効化 10-52
シート内のコメントの表示 10-53
コメントの編集 10-54
コメントの削除 10-56

11 ブック

EPM ブック拡張機能について 11-1
Smart View でのブック拡張機能の設定 11-4
Smart View インストーラのダウンロードと実行 11-4
Cloud EPM ビジネス・プロセスへの接続の作成 11-5
EPM ブック拡張機能のインストール 11-6
Smart View での「EPM ブック」パネルの起動 11-8
ブックの操作 11-10
Smart View へのブックのインポート 11-11

プロンプトへの応答と編集 11-13
POV の選択と編集 11-17
Smart View でのダウンロードされたブックの操作 11-21
「EPM ブック」の「ジョブ・コンソール」でのジョブの管理 11-24
「ジョブ・コンソール」について 11-24
「ジョブ・コンソール」でのジョブの操作 11-26

12 レポート

レポートについて 12-1
アド・ホック問合せとしてのレポートのインポート 12-3
完全にフォーマットされたレポートのインポート/挿入および操作 12-5
レポートの POV のプレビュー 12-8
レポートのプロンプトの編集 12-9
レポートの POV の変更 12-11
レポートのリフレッシュ 12-12

13 スマート・フォーム

スマート・フォームについて 13-1
スマート・フォームの作成 13-3
スマート・フォームのシナリオ例 13-4
スマート・フォームでサポートされている Excel 関数 13-9

14 タスク・マネージャ

タスク・マネージャ拡張機能のインストールおよび接続 14-1
スケジュールおよびタスクの表示 14-2
タスクの請求またはリリース 14-3
タスクの承認または却下 14-4
タスクの送信 14-4

15 タスク・リスト

タスク・リストについて 15-1
タスク・リストからレポートを開く構成 15-2
Smart View パネルからのタスクの操作 15-3
タスク・リストを開く 15-3
タスク・リストの表示 15-4
タスクの実行 15-4
タスクの完了 15-4

タスク・リスト・レポートの作成 15-5
タスク・リストと Microsoft Outlook の統合 15-5

16 フリー・フォーム・モード

フリーフォーム・モードについて 16-1
フリーフォームに関するガイドラインおよびベスト・プラクティス 16-2
フリー・フォーム・グリッドの例 16-4
簡易グリッド 16-4
列ディメンション 16-6
スタック・ディメンション 16-7
フリーフォーム・グリッドのコメント 16-7
空白の行および列のコメント 16-9
複雑なコメントを含むグリッド 16-9
コメントの無効な配置 16-10
グリッドの境界の内側と外側のコメント 16-10
フリー・フォーム・グリッドの式 16-11
フリーフォーム・モードでの重複する別名 16-12
フリー・フォーム・グリッドの属性ディメンション 16-13
スケール・オプションが有効になっている状態でのフリーフォーム・グリッドからの送信 16-14
フリー・フォーム・レポートの作成 16-14
フリーフォーム・モードでの属性ディメンションの取得 16-15
非対称レポートの作成 16-16
予期しない動作の原因となるアクション 16-17

17 一般的な操作

Smart View の操作 17-2
フォームおよび他のアーティファクトの 検索 17-2
クイック・アクションの使用 17-3
「ドキュメント・コンテンツ」ペインの使用 17-5
「元に戻す」と「やり直し」の使用 17-12
元に戻す処理とやり直し処理の数の指定 17-13
プロバイダ別の「元に戻す」のサポート 17-13
Essbase の「元に戻す」のサポート 17-13
Financial Management の「元に戻す」のサポート 17-15
Planning の「元に戻す」のサポート 17-17
Narrative Reporting での「元に戻す」のサポート 17-18
コピーと貼付け 17-20
Smart View コンテンツのコピー、貼付けおよびリフレッシュ 17-20

Excel、Word、および PowerPoint 間でのデータのコピー 17-20
貼付け済データ・ポイントでのセルの POV およびサーバー情報の表示 17-23
Excel のコピーおよび貼付けのガイドラインおよびベスト・プラクティス 17-24
Office ドキュメントの Cloud EPM への保存 17-25
Smart View から Cloud EPM への Office ドキュメントの保存について 17-26
Web インタフェースを使用した Cloud EPM プラットフォーム・ライブラリでのフォルダの作成 17-27
Smart View を使用した Narrative Reporting ライブラリでのフォルダの作成 17-28
Smart View を使用した Office ドキュメントの Cloud EPM ライブラリへの保存 17-29
Cloud EPM ライブラリの Office ドキュメントへのアクセスの管理 17-31
Office アプリケーションのメタデータのインポート 17-33
コピーしたワークシートへのメタデータのインポート 17-35
コピーされた Word ドキュメントへのメタデータのインポート 17-35
コピーしたスライドまたはプレゼンテーションへのメタデータのインポート 17-38
シート情報の表示 17-40
シート情報ガイドライン 17-42
プロバイダによるシート情報サポート 17-42
Essbase のシート情報サポート 17-42
Financial Management のシート情報サポート 17-43
Cloud EPM および Oracle Hyperion Planning のシート情報サポート 17-44
Web アプリケーション(Web 起動)からフォームおよびアド・ホック・グリッドを開く 17-44
Smart View で大きいワークブックを開く 17-46
Smart View と Smart View (Mac およびブラウザ)の間でのフォームおよびアド・ホック・グリッドの互換性を持った操作 17-46
フォームとアド・ホック・グリッドでのパーセンテージ値の入力 17-48
セルの幅および高さの自動調整の有効化 17-50
共有ワークブックの操作 17-50
保護されたワークシートの操作 17-50
ヘッダーおよびフッターへの POV メンバーの印刷 17-51
Smart View の使用可能/使用不可 17-51
Smart View リボンを使用した Smart View の使用可能/使用不可 17-52
Microsoft Office での Smart View の使用可能/使用不可 17-52

18 関数

関数の使用 18-1
関数の作成 18-3
関数ビルダーでの関数の作成 18-3
セル参照の使用 18-7
関数の手動作成 18-10

関数構文のガイドライン 18-10
関数の実行 18-12
関数内のリンクの修正 18-13
HsGetValue 関数のコピーと貼付け 18-14
関数の説明 18-15
HsGetValue 18-16
HsSetValue 18-19
HsGetSheetInfo 18-23
HsCurrency 18-24
HsDescription 18-25
HsAlias 18-26
HsLabel 18-27
HsGetText 18-28
HsSetText 18-29
HsGetVariable 18-30
HsGetSharedConnectionURL 18-31
一般的な関数エラー・コード 18-32

19 IPM インサイト

Smart View での IPM インサイトの使用 19-1
Smart View でのインサイトの表示 19-2
インサイトの挿入 19-4
関数の挿入 19-7
アド・ホック・グリッドでのインサイトの分析 19-8
シート情報でのインサイト・メタデータの表示 19-9
インサイトの保存およびリフレッシュ 19-10

20 スマート・クエリー

スマート・クエリーについて 20-1
スマート・クエリーの作成 20-2
集合の定義 20-2
集合フィルタの定義 20-4
スマート・クエリーの構築 20-4
スマート・クエリーの完了 20-6
スマート・クエリーを開く 20-7
コピーと貼付け 20-7
Excel でのスマート・クエリー定義のコピー 20-7
スマート・クエリーの集合およびフィルタのコピー 20-8
Word および PowerPoint へのスマート・クエリー・レポートのコピー 20-8

スマート・クエリー定義の共有 20-8
スマート・クエリーの実行 20-9
スマート・クエリーの削除 20-9

21 スマート・スライス

スマート・スライスについて 21-1
スマート・スライスを使用したレポートの作成 21-1
レポートまたはレポート・オブジェクトの削除 21-4
スライダ 21-4
1 つの問合せからのスライダの作成 21-4
結合問合せからのスライダの作成 21-5
スマート・スライス、アド・ホック分析、およびフォーム 21-5
スマート・スライスの作成 21-6
スマート・スライスのデータ境界の設定 21-6
スマート・スライスのプリファレンスの設定 21-7

22 クエリー・デザイナおよび MDX 問合せ

クエリー・デザイナの使用 22-1
クエリー・デザイナについて 22-1
問合せの作成 22-1
問合せの編集およびレポートの再実行 22-3
データのフィルタ処理 22-4
クエリー・デザイナでの時間関連データの分析 22-4
MDX 問合せの操作 22-5
MDX 問合せの操作について 22-5
MDX 問合せの作成および保存 22-6
MDX 問合せの実行 22-8
問合せ接続情報の変更 22-9
問合せリスト表示の変更 22-9
MDX 問合せの削除 22-10

23 Smart View と Cloud EPM

Smart View と Cloud EPM について 23-2
メンバー式の表示 23-2
ローカライズされたアーティファクト・ラベルの表示 23-3
ビジネス・ルールの使用 23-4
Excel でのビジネス・ルールの起動 23-5

実行時プロンプトへの入力 23-7
「フォームの計算」および「通貨の計算」ビジネス・ルールの実行 23-8
フォームでの Groovy ルールの実行 23-9
サポート詳細の操作 23-10
サポート詳細の追加 23-10
サポート詳細の階層における作業 23-11
サポート詳細の表示または変更 23-12
サポート詳細とキューブの同期 23-12
データの分散 23-13
期間に対するデータの分散 23-13
特定セルをロックしたデータの分散 23-14
グリッド分散を使用した値の分散 23-14
一括割当てを使用した値の分散 23-15
変更を送信せずに計算を実行する(オンザフライ計算) 23-16
オンザフライ計算について 23-17
オンザフライ計算の有効化 23-18
オンザフライ計算の実行 23-19
アド・ホック・グリッドでのオンザフライ計算の実行 23-19
フォーム 2.0 でのオンザフライ計算の実行 23-23
オンザフライ計算式の表示 23-24
オンザフライ計算でサポートされている関数およびアウトライン計算 23-26
オンザフライ計算でサポートされていない関数および式 23-30
ガイドラインおよび考慮事項 23-31
アド・ホック・グリッドでの祖先メンバーへのアクセス 23-33
Planning の承認の管理 23-41
プランニング・ユニットのステータスの変更 23-41
プランニング・ユニットの検索 23-43
プランニング・ユニットの移動パス 23-44
プランニング・ユニットの注釈 23-44
不在時のアシスタント 23-45
ジョブ・ステータスのモニタリング 23-45
「ジョブ・コンソール」について 23-46
ジョブ・ステータスの確認 23-47
ジョブ・コンソールの自動リフレッシュの構成 23-49
ダッシュボード 23-50
複合フォームを開く 23-51
バージョンのコピー 23-51
Cloud EPM フォームでのページの検索 23-53
フォームでのフォーマットの表示 23-53
Cloud EPM フォームでのネイティブ Excel フォーマットの使用 23-53

Cloud EPM フォームでのネイティブ Excel フォーマットの使用について 23-54
フォームでの Excel フォーマットの保存 23-54
Smart View での Excel フォーマットの表示 23-55
フォーマットのクリア 23-56
アド・ホック・グリッドからの Excel フォーマットの保存 23-57
サポートされているネイティブ Excel フォーマット 23-58
ネイティブ Excel フォーマットおよび Cloud EPM フォームの操作のガイドライン 23-59
Forms 2.0 での設計時フォーマットの使用 23-60
Forms 2.0 での設計時フォーマットの使用について 23-60
Forms 2.0 での設計時書式の表示 23-62
Forms 2.0 での書式のクリア 23-64
Cloud EPM での複数グリッド・ワークシートの操作 23-64
ワークシート上の複数のグリッドについて 23-64
Cloud EPM ソースによる複数グリッド・ワークシートの作成 23-66
Cloud EPM の単一グリッド・ワークシートの複数グリッド・ワークシートへの変換 23-67
Cloud EPM の複数グリッド・ワークシートの範囲の名前変更 23-68
Cloud EPM の複数グリッド・ワークシートでの接続の変更 23-71
Cloud EPM の複数グリッド・ワークシートでの POV 動作 23-75
ユーザー・プリファレンスの設定 23-75
Cloud EPM での Smart View の動作オプション 23-77
抑制モード 23-78
Smart View のアド・ホック動作 23-78

24 Smart View と Narrative Reporting

Narrative Reporting について 24-2
Smart View での Narrative Reporting の設定 24-3
Smart View インストーラのダウンロードと実行 24-4
Narrative Reporting への接続の作成 24-5
Narrative Reporting 拡張機能のインストール 24-8
Smart View での Narrative Reporting への接続 24-9
Narrative Reporting ホームの使用 24-13
Smart View でのレポート・パッケージの管理 24-17
Smart View でのレポート・パッケージの管理について 24-18
レポート・パッケージ構造の作成 24-18
Smart View でのレポート・パッケージ構造の作成について 24-18
フォルダ内のファイルからのレポート・パッケージ構造の作成 24-20
ファイルからのレポート・パッケージ構造の作成 24-23
レポート・パッケージ構造へのドックレットの追加 24-26
レポート・パッケージ構造へのセクションの追加 24-31

レポート・パッケージ、ドックレットおよびセクションのプロパティの編集 24-32
ドックレットの文書作成 24-33
文書作成フェーズ・プロセスについて 24-33
ドックレットおよび変数について 24-34
Smart View でのドックレットの文書作成 24-37
ドックレットのチェックアウト 24-38
チェックアウトの取消し 24-42
ページ属性とスライド・マスターのアップロードおよび操作 24-43
ドックレットのチェックイン 24-48
ドックレットの提出 24-49
リンクされた標準ドックレットの操作 24-50
リンクされた標準ドックレットについて 24-50
リンクされた標準ドックレットのリンクの削除 24-52
リファレンス・ドックレットからの埋込みコンテンツの操作 24-53
リファレンス・ドックレットからの埋込みコンテンツについて 24-53
レポート・パッケージへのリファレンス・ドックレットの追加 24-55
リファレンス・ドックレットの「使用可能なコンテンツ」ボタンを使用した使用可能なコンテンツの作成 24-55
リファレンス・ドックレットの Excel 名前付き範囲からの使用可能なコンテンツの作成 24-57
リファレンス・ドックレットのフォントの検証 24-62
ドックレットのコンテンツの埋込み 24-64
Excel ベースのリファレンス・ドックレットのコンテンツおよびプロパティの更新 24-69
Excel ベースのリファレンス・ドックレットからの使用可能なコンテンツの削除 24-74
使用可能なコンテンツのプレビュー 24-76
ドックレットの埋込みコンテンツのリフレッシュ 24-79
ドックレットの使用可能なコンテンツ名の表示 24-80
ドックレットからの埋込みコンテンツの削除 24-81
参照ファイルからの埋込みコンテンツの操作 24-82
参照ファイルからのコンテンツの埋込みについて 24-83
参照ファイルの「使用可能なコンテンツ」ボタンを使用した使用可能なコンテンツの作成 24-83
参照ファイルの Excel 名前付き範囲からの使用可能なコンテンツの作成と埋込み 24-86
参照ファイルの名前付き範囲の管理 24-97
参照ファイルでの使用可能なコンテンツの更新 24-98
参照ファイル内でのコンテンツの再マッピング 24-99
変数の操作 24-102
変数について 24-103
静的変数の作成 24-106
参照変数の作成 24-108

共有変数の追加 24-112
ドックレットへの変数の挿入 24-112
PowerPoint 用 Smart View での変数の操作 24-114
変数の検索 24-115
参照変数値のソースの検索 24-117
変数の編集 24-120
変数のフィルタ 24-123
ドックレットでの変数の強調表示 24-126
変数の検査 24-128
参照変数のリンク解除 24-130
変数の削除 24-131
PDF ベースのレポート・パッケージの Excel ドックレットの操作 24-133
サーバー始動リフレッシュの操作 24-134
サーバー始動リフレッシュについて 24-134
データ・ソース接続の作成と編集 24-135
サーバー始動リフレッシュのシートの選択 24-137
Narrative Reporting Web からのリフレッシュの開始 24-139
サーバー始動リフレッシュを使用する場合のガイドライン 24-140
ドックレットのページへのリンクおよび相互参照の挿入 24-148
自動目次の使用 24-152
ドックレットの承認または否認 24-153
ドックレットの承認 24-153
ドックレットの否認 24-154
ドックレットのリコール 24-155
ドックレットの検査 24-156
前のバージョンのドックレットに戻す 24-161
レビューの実行 24-162
レビュー・フェーズ・プロセスについて 24-163
共同レビュー・プロセス 24-164
反復的なレビュー・プロセス 24-164
Smart View でのレビュー・インスタンスの操作 24-164
レビュー・インスタンスの選択 24-165
コメントの投稿 24-166
コメントのフィルタおよびソート 24-170
コメントの編集および削除 24-171
サポート・ファイルの添付とコメント・テキストのカスタマイズ 24-172
レビュー・コメントへの対処およびクローズ 24-174
レビュー・インスタンスの比較 24-175
レビューを完了としてマーク 24-177
配布の操作 24-178

配布について 24-178
配布の表示 24-178
サインオフの実行 24-180
サインオフ・フェーズについて 24-180
レポート・パッケージのサインオフまたは否認 24-180
レポート・パッケージのリフレッシュ 24-182
レポート・パッケージ、セクションおよびドックレットの発行 24-184
Smart View の Narrative Reporting での Office ドキュメントの Cloud EPM への保存 24-185
Smart View でのレポートの操作 24-185
Smart View での Narrative Reporting データの操作 24-185
例: Smart View での Narrative Reporting データの操作 24-185
Narrative Reporting データに対するアド・ホック分析の実行 24-186
ドックレットへの Narrative Reporting データのコピーと貼付け 24-192

25 Smart View および Account Reconciliation

Account Reconciliation での Smart View の使用について 25-1
Smart View での Account Reconciliation の設定 25-1
Smart View インストーラのダウンロードと実行 25-2
Account Reconciliation への接続の作成 25-3
Account Reconciliation 拡張機能のインストール 25-4
Smart View での Account Reconciliation への接続 25-6
照合コンプライアンス用 Smart View 拡張機能を使用した Excel からのトランザクションの直接インポート 25-6

26 Smart View と Profitability and Cost Management

Smart View と Profitability and Cost Management について 26-1
Smart View インストーラのダウンロードと実行 26-2
Profitability and Cost Management へのデータ・ソース接続の作成 26-3

27 Smart View と Financial Reporting

Financial Reporting ドキュメントのインポートについて 27-1
ドキュメントの編集およびリフレッシュ 27-2
Financial Reporting ドキュメントのリフレッシュ 27-2
Financial Reporting のインポート・フォーマット 27-3
Financial Reporting ドキュメントのインポート 27-4
Financial Reporting ドキュメントのインポート 27-4
Excel への Financial Reporting ドキュメントのインポート 27-5

Word および PowerPoint への Financial Reporting ドキュメントのインポート 27-8
Financial Reporting ドキュメントの編集 27-11
PowerPoint ドキュメントでのテンプレートの作成 27-12
PowerPoint テンプレートのリフレッシュ 27-13
Financial Reporting レポートのエクスポート 27-13

28 Smart View および Oracle Hyperion Planning

Smart View および Oracle Hyperion Planning について 28-2
Oracle Hyperion Planning の承認 28-2
Oracle Hyperion Planning ユニットのステータスの変更 28-2
Oracle Hyperion Planning ユニットの検索 28-3
Oracle Hyperion Planning ユニットの移動パス 28-5
Oracle Hyperion Planning ユニットの注釈 28-5
不在時のアシスタント 28-6
Oracle Hyperion Planning のジョブ・ステータスのモニタリング 28-6
ジョブ・コンソールの自動リフレッシュの構成 28-8
Oracle Hyperion Planning フォームでのページの検索 28-8
バージョンのコピー 28-8
複合フォーム 28-9
Oracle Hyperion Planning ビジネス・ルールの使用 28-10
Excel でのビジネス・ルールの起動 28-10
実行時プロンプトへの入力 28-12
「フォームの計算」および「通貨の計算」ビジネス・ルールの実行 28-13
データの分散 28-14
期間に対するデータの分散 28-14
特定セルをロックしたデータの分散 28-15
グリッド分散を使用した値の分散 28-15
一括割当てを使用した値の分散 28-16
メンバー式 28-18
サポート詳細 28-18
サポート詳細の追加 28-19
サポート詳細の階層における作業 28-20
サポート詳細の表示または変更 28-21
サポート詳細と Essbase の同期 28-21
ユーザー・プリファレンスの設定 28-22
Oracle Hyperion Planning へのネイティブ Excel フォーマットの保存 28-23
Oracle Hyperion Planning フォームでの Excel フォーマットの保存 28-23
Smart View でのフォーマットの表示 28-24
フォーマットのクリア 28-25

アド・ホック・グリッドからの Excel フォーマットの保存 28-25
サポートされているネイティブ Excel フォーマット 28-26
ネイティブ Excel フォーマットおよび Oracle Hyperion Planning フォームの操作のガイドライン 28-27

29 Smart View および Oracle Journals for Financial Management

Oracle Journals for Financial Management について 29-1
Oracle Journals 拡張機能のインストール 29-2
Smart View インストール・フォルダからのインストール 29-3
仕訳の役割 29-3
Smart View での仕訳の処理 29-4
仕訳の作成 29-4
仕訳プロパティの編集 29-8
アド・ホック・グリッドまたはデータ・フォームからの仕訳作成のガイドライン 29-10
仕訳を開く 29-11
仕訳のスキャン 29-13
仕訳ステータスの表示 29-14
「仕訳の管理」ウィンドウでのリスト表示の変更 29-14
仕訳の編集 29-15
仕訳詳細のディメンションのメンバーの選択 29-16
仕訳のセルのコピーと貼付け 29-17
仕訳の送信 29-18
仕訳を未送信にする 29-19
仕訳の承認 29-19
仕訳の却下 29-20
仕訳の転記 29-21
仕訳の転記の戻し 29-22
仕訳の検証 29-23
仕訳の分析 29-24
仕訳の削除 29-25
エンティティの詳細レポート 29-25
エンティティの詳細レポートの開始 29-26
視点のレポート 29-26
レポートの行の選択 29-26
基本詳細の表示 29-27
ライン・アイテムの詳細の表示 29-28
仕訳詳細へのリンク 29-28
ソース取引と宛先取引の表示 29-28
Excel へのエンティティの詳細レポートのエクスポート 29-28

仕訳レポートの表示 29-29
Oracle Journals の地域および言語の設定 29-30

30 Smart View および Oracle BI EE

Oracle BI EE と Smart View について 30-1
Smart View の Oracle BI EE の機能およびコンポーネント 30-2
Oracle BI EE 拡張機能のインストール 30-3
Smart View エンド・ユーザーの場合 30-3
Smart View 管理者の場合 30-3
Oracle BI EE の Windows システム・ロケールの操作 30-4
複数の Oracle BI EE データ・ソースへの接続 30-4
Oracle BI プレゼンテーション・カタログ 30-5
Oracle BI EE の分析、ビューおよびダッシュボードの操作 30-8
サポートされている Oracle BI EE のビューおよびオブジェクト・タイプ 30-8
表とピボット・テーブルの挿入 30-10
グラフの挿入 30-14
サポートされている Oracle BI EE のチャートおよびオブジェクトのタイプ 30-16
サポートされていない Oracle BI EE のチャートおよびオブジェクトのタイプ 30-16
複合ビューの挿入 30-17
ダッシュボードの挿入 30-18
プロンプトの操作 30-18
ページ・プロンプトの操作 30-22
ビューのリフレッシュ・プリファレンスの指定 30-23
ビューのリフレッシュ 30-25
ビューのマスキング・データ 30-27
Oracle BI EE オブジェクトのプロパティの表示 30-30
Office アプリケーション間での Oracle BI EE オブジェクトのコピーと貼付け 30-30
Oracle BI EE の分析の編集 30-31
Oracle BI EE から Office へのビューのコピーおよび貼付け 30-31
Oracle BI EE で作成されたビューの編集 30-32
編集が可能および不可能な対象 30-32
PowerPoint に挿入されたピボット・テーブルの編集 30-32
その他のガイドライン 30-33
「ビュー・デザイナ」を使用したビューの操作 30-33
ビュー・デザイナの起動 30-34
ビュー・タイプおよび表示スタイルの定義 30-35
ビュー・レイアウトの定義 30-36
「ビュー・デザイナ」でのビューに対するフィルタ式の定義 30-38
フィルタ演算子 30-40

ビューの発行 30-43
「ビュー・デザイナ」で作成したビューの編集 30-44
「ビュー・デザイナ」で作成したビューの編集について 30-44
「ビュー・デザイナ」で作成したビューの編集のガイドライン 30-45
編集するビューへのアクセス 30-45
ビューが作成された場所の特定 30-46
「ビュー・デザイナ」で作成したビューの編集 30-47
「ビュー・デザイナ」で作成したビューのデータのリフレッシュ 30-47
Oracle BI EE サーバーへの接続のトラブルシューティング 30-47

31 Smart View と Oracle Analytics Cloud

Oracle Analytics Cloud および Smart View について 31-1
Smart View の Oracle Analytics Cloud の機能およびコンポーネント 31-2
Oracle Analytics Cloud 拡張機能のインストール 31-3
Smart View エンド・ユーザーの場合 31-3
Smart View 管理者の場合 31-4
Oracle Analytics Cloud の Windows システム・ロケールの操作 31-4
複数の Oracle Analytics Cloud データ・ソースへの接続 31-4
Oracle BI プレゼンテーション・カタログ 31-5
Oracle Analytics Cloud の分析、ビューおよびダッシュボードの操作 31-8
サポートされている Oracle Analytics Cloud のビューおよびオブジェクトのタイプ 31-8
表とピボット・テーブルの挿入 31-10
グラフの挿入 31-13
サポートされている Oracle Analytics Cloud のチャートおよびオブジェクトのタイプ 31-15
サポートされていない Oracle Analytics Cloud のチャートおよびオブジェクトのタイプ 31-16
複合ビューの挿入 31-16
ダッシュボードの挿入 31-17
プロンプトの操作 31-17
ページ・プロンプトの操作 31-20
ビューのリフレッシュ・プリファレンスの指定 31-22
ビューのリフレッシュ 31-22
ビューのマスキング・データ 31-25
Oracle Analytics Cloud オブジェクトのプロパティの表示 31-27
Office アプリケーション間での Oracle Analytics Cloud オブジェクトのコピーと貼付け 31-28
Oracle Analytics Cloud の分析の編集 31-29
Oracle Analytics Cloud から Office へのビューのコピーおよび貼付け 31-29
Oracle Analytics Cloud で作成されたビューの編集 31-30

編集が可能および不可能な対象 31-30
PowerPoint に挿入されたピボット・テーブルの編集 31-30
その他のガイドライン 31-30
「ビュー・デザイナ」を使用したビューの操作 31-31
ビュー・デザイナの起動 31-31
ビュー・タイプおよび表示スタイルの定義 31-33
ビュー・レイアウトの定義 31-34
「ビュー・デザイナ」でのビューに対するフィルタ式の定義 31-36
フィルタ演算子 31-38
ビューの発行 31-40
「ビュー・デザイナ」で作成したビューの編集 31-41
「ビュー・デザイナ」で作成したビューの編集について 31-42
「ビュー・デザイナ」で作成したビューの編集のガイドライン 31-42
編集するビューへのアクセス 31-42
ビューが作成された場所の特定 31-43
「ビュー・デザイナ」で作成したビューの編集 31-44
「ビュー・デザイナ」で作成したビューのデータのリフレッシュ 31-44

32 Smart View と Essbase クラウド

Smart View と Essbase クラウドについて 32-1
Smart View インストーラの実行 32-2
Essbase へのデータ・ソース接続の作成 32-3
監査証跡でのユーザー・アクティビティの 追跡 32-4
監査証跡について 32-4
監査証跡の起動 32-7
監査証跡のコンテンツのシートへのエクスポート 32-8
監査証跡エントリのリストのリフレッシュ 32-9
監査証跡エントリからのアド・ホック・グリッドの開始 32-10

33 Smart View 診断およびヘルス・チェック

Smart View 診断およびヘルス・チェックについて 33-1
Smart View 診断ツールの使用 33-1
Smart View リボンの診断グループの表示 33-2
診断機能のカスタマイズ 33-3
Smart View 診断ツールの使用 33-5
「トラフィックのトレース」ツールの使用 33-6
診断フォルダの消去 33-8
システムのヘルス・チェックの実行 33-9

Microsoft Office ドキュメントのヘルス・チェックの実行 33-13
ヘルス・チェックについて 33-14
ヘルス・チェックの実行 33-15

A Smart View での他のアプリケーションの使用方法

Crystal Ball EPM A-1
Crystal Ball EPM ワークブックの操作 A-1
ツールバー操作 A-2
リポジトリ・オプション A-3
Smart View および Spreadsheet Add-in A-3

B 関数の移行

関数の移行について B-1
ワークブックの変換 B-1
1 つのワークブックの変換 B-2
複数のワークブックの変換 B-3
関数の接続の移行 B-3

C 情報の検索

ベスト・プラクティス C-1
Smart View に関するよくある質問(FAQ) C-3
アクセシビリティ C-8
VBA 関数 C-8
問題のトラブルシューティング C-8
データ・プロバイダ情報リソース C-9

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての 詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト(http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc)を参照してください。

Oracle サポートへのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Support を通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は(http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info)か、聴覚に障害のあるお客様は(http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs)を参照してください。

ドキュメント・フィードバック

このドキュメントに対するフィードバックは、Oracle Help Center トピックのページの下部にあるフィードバック・ボタンをクリックします。epmdoc_ww@oracle.com に電子メールを送信することもできます。

1

EPM センター・オブ・エクセレンスの作成および実行

EPM のベスト・プラクティスは、CoE (センター・オブ・エクセレンス)を作成することです。

EPM CoE は、導入およびベスト・プラクティスを確実にするための統合された取組みです。パフォーマンス管理およびテクノロジ対応ソリューションの使用に関連するビジネス・プロセスの変革を促進します。

クラウドの導入により、組織がビジネス・アジリティを改善し、革新的なソリューションを促進することが可能になります。EPM CoE はクラウド・イニシアチブを監督し、投資を保護および維持し、効果的な使用を促進するのに役立ちます。

EPM CoE チーム:

- クラウドの導入を確実にし、組織が Oracle Fusion Cloud EPM の投資を最大限に活用することを支援します
- ベスト・プラクティスの運営委員会として機能します
- EPM 関連の変更管理イニシアチブをリードし、変革を促進します

すでに EPM を実装済の顧客を含めて、すべての顧客が EPM CoE からメリットを得られます。

どのように始めたらよいですか。

クリックして、EPM CoE のベスト・プラクティス、ガイダンスおよび戦略を取得します: EPM センター・オブ・エクセレンスの概要。

さらに学ぶ

- クラウド・カスタマ・コネクト Web セミナーを見る: Cloud EPM のセンター・オブ・エクセレンス(CoE)の作成および実行
- ビデオを見る: 概要: EPM センター・オブ・エクセレンスおよびセンター・オブ・エクセレンスの作成。
- *EPM センター・オブ・エクセレンスの作成および実行*の EPM CoE のビジネス上の利点と価値提案の確認。



2

Smart View ユーザー・ガイドへようこそ

このユーザー・ガイドでは、概念やプロセス、例も含め、Oracle Smart View for Office の機能とオプションについて説明します。

対象は、Smart View リリース 11.1.2.5.600 以降です。

特定の Smart View リリースの情報を検索するには:

1. Oracle Help Center の Enterprise Performance Management ページに移動します。
2. **「Smart View for Office」**セクションで、Smart View リリース・ライブラリを選択します。

ガイドで情報を検索するには:

- PDF ファイルで、目次からトピックに移動するか、使用しているリーダーの検索機能を使用します。
- オンライン・ヘルプから、ブラウザ・ウィンドウの左フレームで目次を使用してトピックに移動するか、検索テキスト・ボックスで検索語句を入力します。
- ベスト・プラクティス、トラブルシューティング、アクセシビリティ、FAQ およびその他のドキュメントについては、付録の目次で情報の検索の項を参照してください。

3

Smart View の概要

Oracle Smart View for Office を使用することで、Microsoft Excel、Word、Outlook および PowerPoint を使用して、様々なデータ・ソースからのデータを表示、インポート、操作、配布、共有できます。

次も参照:

- 概要
  Oracle Smart View for Office を使用することで、Microsoft Excel、Word、Outlook および PowerPoint を使用して、様々なデータ・ソースからのデータを表示、インポート、操作、配布、共有できます。
- サポートされているデータ・ソース・プロバイダ
  Oracle Smart View for Office は、複数の Cloud EPM および EPM System のデータ・ソースに加え、Oracle Essbase、Oracle Analytics Cloud、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition のデータ・ソースへの接続をサポートしています。
- サポートされている Smart View 拡張機能
  Oracle Smart View for Office は、複数の Cloud EPM、EPM System の拡張機能に加え、Oracle Essbase、Oracle Analytics Cloud、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition の拡張機能とも連携します。
- Smart View のコンポーネント
  Oracle Smart View for Office の基本コンポーネントはリボンと Smart View パネルで、データ・ソースへの接続や Smart View 機能へのアクセスが可能です。
- Smart View のインストール
  このトピックには、Oracle Smart View for Office のインストール手順へのリンクが含まれます。
- Smart View 機能へのアクセス
- 翻訳情報
  このトピックには、Oracle Smart View for Office のユーザー・インタフェースおよびドキュメントの翻訳情報が含まれています。
- このガイドについて

概要

Oracle Smart View for Office を使用することで、Microsoft Excel、Word、Outlook および PowerPoint を使用して、様々なデータ・ソースからのデータを表示、インポート、操作、配布、共有できます。

Smart View を使用すると、Enterprise Performance Management および Business Intelligence のデータをデータ・ソースから Microsoft Excel、Word および PowerPoint に直接統合できます。Smart View には、次の機能が用意されています:

- 次の完全なアド・ホックおよびフリーフォーム分析機能:

  - Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management データ・ソース(Planning、Planning モジュール、Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Tax Reporting を含む)
  - Oracle Enterprise Performance Management System データ・ソース(Oracle Hyperion Financial Management と Oracle Hyperion Planning を含む)
  - Oracle Essbase クラウドおよびオンプレミス
- Oracle Business Intelligence Enterprise Edition および Oracle Analytics Cloud からインポートされたビューの操作
- リレーショナルまたはマルチディメンショナル・ソースからのデータ・アクセス
- オンプレミスおよびクラウド製品のデータ入力フォームを活用するための代替の Office ベースのインタフェース

関連トピック:

- サポートされているデータ・ソース・プロバイダ
- サポートされている Smart View 拡張機能
- Smart View のコンポーネント
- Smart View のインストール
- ベスト・プラクティス
- 問題のトラブルシューティング
- Smart View に関するよくある質問(FAQ)

サポートされているデータ・ソース・プロバイダ

Oracle Smart View for Office は、複数の Cloud EPM および EPM System のデータ・ソースに加え、Oracle Essbase、Oracle Analytics Cloud、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition のデータ・ソースへの接続をサポートしています。

関連トピック:

- Cloud EPM データ・ソース
- EPM System データ・ソース
- Essbase クラウド・データ・ソース
- Essbase オンプレミス・データ・ソース
- Oracle Analytics Cloud データ・ソース
- Oracle BI EE データ・ソース
- サポートされているデータ・ソースに関するノート

サポートされている Smart View 拡張機能も参照してください。

Cloud EPM データ・ソース

Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management には、次が含まれています:

- Account Reconciliation

Account Reconciliation に接続されている Smart View には、照合コンプライアンス拡張機能が必要です。

- Enterprise Profitability and Cost Management
- Financial Consolidation and Close
- フリーフォーム
- Narrative Reporting

  Narrative Reporting に接続されている Smart View には、Narrative Reporting 拡張機能が必要です。
- Planning
- Planning モジュール
- Profitability and Cost Management
- レポート設定
- Sales Planning
- Strategic Modeling

  Strategic Modeling に接続されている Smart View には、Strategic Modeling 拡張機能が必要です。
- Strategic Workforce Planning
- Tax Reporting

EPM System データ・ソース

Oracle Enterprise Performance Management System には、次のサービスが含まれています:

- Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace
- EPM Workspace の一部としての Essbase
- Oracle Hyperion Financial Management
- Oracle Hyperion Planning
- Oracle Hyperion Reporting and Analysis (レポート設定とも呼ばれる)

  Oracle Hyperion Financial Reporting (Smart View の Financial Reporting 拡張機能が必要) および Oracle Hyperion Web Analysis を含みます。
- Oracle Hyperion Financial Data Quality Management, Enterprise Edition
- Oracle Hyperion Profitability and Cost Management
- Oracle Hyperion Strategic Finance

  Strategic Finance に接続されている Smart View には、Strategic Finance 拡張機能が必要です。

Essbase クラウド・データ・ソース

- マーケットプレイスを介した Oracle Cloud Infrastructure 上の Oracle Essbase には、次のサービスが含まれています:
  - Essbase 19c
  - Essbase 21c

  Essbase クラウドに接続した Smart View はキューブ・デザイナ拡張機能と連携します。

- Oracle Analytics Cloud - Essbase

Essbase オンプレミス・データ・ソース

独立したデプロイメントの Oracle Essbase には、次のサービスが含まれています:

- Essbase 11g
- Essbase 21c

Oracle Analytics Cloud データ・ソース

Smart View は Oracle Analytics Cloud をサポートしています。

Oracle Analytics Cloud に接続されている Smart View には、Oracle BI EE 拡張機能が必要です。

Oracle BI EE データ・ソース

Smart View は Oracle BI EE をサポートしています。

Oracle BI EE に接続されている Smart View には、Oracle BI EE 拡張機能が必要です。

サポートされているデータ・ソースに関するノート

このガイドでは:

- Financial Reporting の説明は、Financial Reporting のオンプレミス・バージョンと Cloud EPM バージョンの両方に適用されます。
- Essbase について:
  - マーケットプレイスを介した Oracle Cloud Infrastructure 上の Essbase を"Essbase クラウド"と呼びます。
  - 独立したデプロイメントの Essbase を"Essbase オンプレミス"と呼びます。
  - ガイドラインまたは注意事項が Essbase クラウドと Essbase オンプレミスの両方に適用される場合は、単純に"Essbase"のみで示します。

サポートされている Smart View 拡張機能

Oracle Smart View for Office は、複数の Cloud EPM、EPM System の拡張機能に加え、Oracle Essbase、Oracle Analytics Cloud、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition の拡張機能とも連携します。

関連トピック:

- Cloud EPM 拡張機能
- EPM System 拡張機能
- Essbase クラウド拡張機能
- Oracle Analytics Cloud 拡張機能
- Oracle BI EE 拡張機能
- サポートされている拡張機能に関するノート

サポートされているデータ・ソース・プロバイダも参照してください。

Smart View の拡張機能に関する一般情報は、Smart View のオプションの章の拡張機能を参照してください。

拡張機能のインストール、更新および削除の詳細は、Smart View 拡張機能の各トピックを参照してください。

Cloud EPM 拡張機能

Table 3-1　Cloud EPM でサポートされている拡張機能

拡張機能名	サポートされているデータ・ソース
管理拡張機能(管理者用 Smart View アドオンとも呼ばれる)	• Enterprise Profitability and Cost Management • Financial Consolidation and Close • フリーフォーム • Planning • Planning モジュール • Tax Reporting
EPM ブック	• Enterprise Profitability and Cost Management • Financial Consolidation and Close • フリーフォーム • Narrative Reporting • Planning • Planning モジュール • Tax Reporting
エンタープライズ仕訳	Financial Consolidation and Close
Financial Reporting	• Enterprise Profitability and Cost Management • Financial Consolidation and Close • フリーフォーム • Planning • Tax Reporting
Narrative Reporting	Narrative Reporting
予測プランニング	Planning モジュール
照合コンプライアンス	Account Reconciliation
Strategic Modeling	Planning モジュール
補足データ・マネージャ	• Financial Consolidation and Close • Tax Reporting
タスク・マネージャ	• Enterprise Profitability and Cost Management • Financial Consolidation and Close • フリーフォーム • Planning • Planning モジュール • Tax Reporting

EPM System 拡張機能

Table 3-2　EPM System でサポートされている拡張機能

拡張機能名	サポートされているデータ・ソース
Oracle Hyperion Financial Reporting	• Oracle Hyperion Financial Management • Oracle Hyperion Planning
Oracle Journals	Financial Management Oracle Journals 拡張機能は、 `\SmartView\extensions` フォルダにあります。
プランニング管理拡張機能	Oracle Hyperion Planning
予測プランニング	Oracle Hyperion Planning
Oracle Hyperion Strategic Finance	Strategic Finance

Essbase クラウド拡張機能

Table 3-3　Essbase クラウドでサポートされている拡張機能

拡張機能名	サポートされているデータ・ソース
キューブ・デザイナ	Oracle Essbase クラウド

Oracle Analytics Cloud 拡張機能

Table 3-4　Oracle Analytics Cloud でサポートされている拡張機能

拡張機能名	サポートされているデータ・ソース
Oracle BI EE	Oracle Analytics Cloud Oracle Analytics Cloud に対する Oracle BI EE 拡張機能は、`\SmartView\extensions` フォルダにあります。

Oracle BI EE 拡張機能

Table 3-5　Oracle BI EE でサポートされている拡張機能

拡張機能名	サポートされているデータ・ソース
Oracle BI EE	Oracle BI EE Oracle BI EE 拡張機能は、 `\SmartView\extensions` フォルダにあります。

サポートされている拡張機能に関するノート

- 前述の拡張機能のほとんどは、それぞれのガイドで説明されています(詳細は Oracle Help Center を参照)。EPM ブック拡張機能、Narrative Reporting 拡張機能、照合コンプライアンス拡張機能および Oracle BI EE 拡張機能については、このガイドで説明されています。
- このガイドの Financial Reporting に関する説明は、Financial Reporting のオンプレミスと Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management の両方のバージョンに適用されます。

- このガイドでは:
  - マーケットプレイスを介した Oracle Cloud Infrastructure 上の Essbase を"Essbase クラウド"と呼びます。
  - 独立したデプロイメントの Essbase を"Essbase オンプレミス"と呼びます。
  - ガイドラインまたは注意事項が Essbase クラウドと Essbase オンプレミスの両方に適用される場合は、単純に"Essbase"のみで示します。

Smart View のコンポーネント

Oracle Smart View for Office の基本コンポーネントはリボンと Smart View パネルで、データ・ソースへの接続や Smart View 機能へのアクセスが可能です。

表示されるコンポーネントは、開いている Microsoft Office アプリケーションによって異なります。

関連トピック:

リボン

Smart View パネル

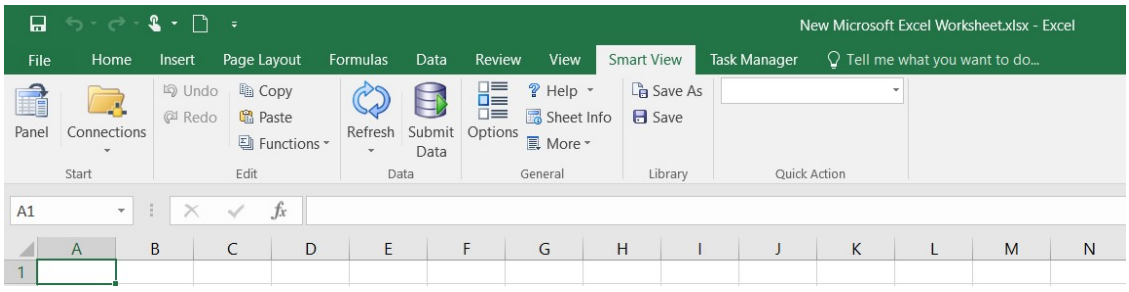
右クリック・コンテキスト・メニュー

リボン

Office アプリケーションから、リボンのコマンドを使用して Oracle Smart View for Office の機能にアクセスします。

「Smart View」リボン

「Smart View」リボンには、様々なデータ・ソース・プロバイダへの接続、「ホーム」パネルや「オプション」パネルの起動、「リフレッシュ」や「データの送信」などの操作の実行、シート情報やヘルス・チェック・パラメータの表示を行うためのコマンドが含まれています。「Smart View」リボンは常に存在します。

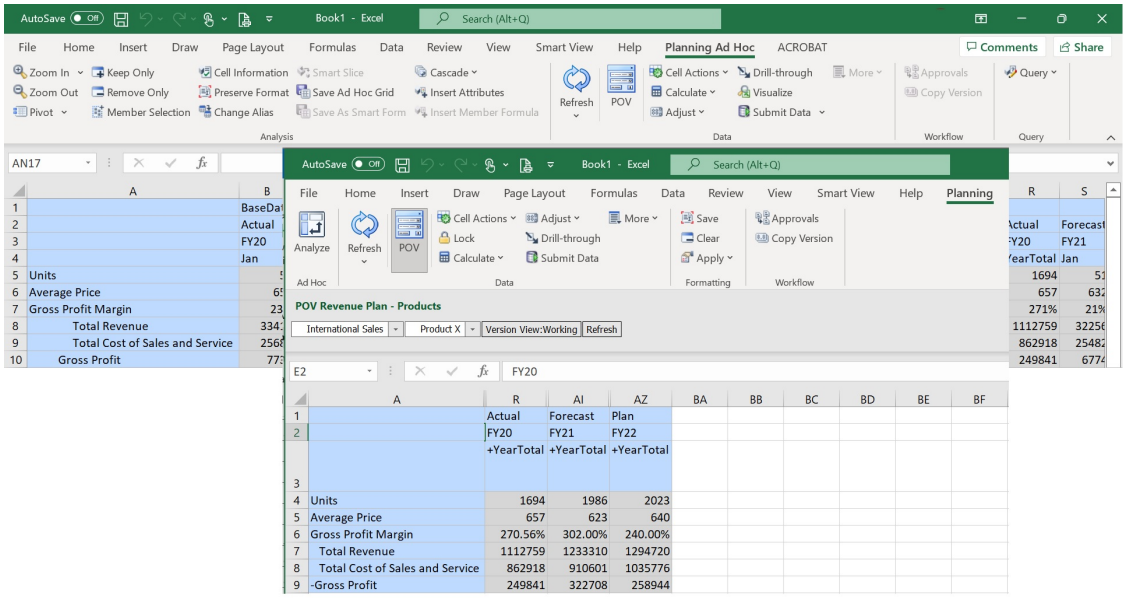


Smart View のリボンのカスタマイズ可能な**「クイック・アクション」**メニューを使用すると、設定を変更するたびにリボンを頻繁に切り替えたり、「Smart View のオプション」ダイアログを毎回起動しなくても、様々なアクションにすばやくアクセスできます。詳細は、クイック・アクションの使用を参照してください。

> **ノート:**
>
> Smart View のインストール後、「Smart View」リボンが表示されなかった場合、管理者以外のユーザーによるインストール後に、「Smart View」リボンが表示されないに記載された解決策を試してください。

プロバイダとプロバイダ・アド・ホックのリボン

Oracle Hyperion Reporting and Analysis 以外のデータ・ソース・プロバイダに接続すると、対応するプロバイダ・リボンが表示されます。各リボンには、そのデータ・ソース・プロバイダとモードでサポートされているコマンドのみが表示されます。たとえば、Oracle Hyperion Planning の次の図で、Planning フォームにアクセスすると、「Planning」のリボンが表示され、アド・ホック分析を入力すると(アド・ホック分析を参照)、「Planning アド・ホック」のリボンが表示されます。



プロバイダおよびプロバイダ・アド・ホックのリボンは次のとおりです:

- **Planning**
- **Planning アド・ホック**
- **EPCM** (Enterprise Profitability and Cost Management)
- **EPCM アド・ホック**
- **FCCS** (Financial Consolidation and Close)
- **FCCS アド・ホック**
- **TRCS** (Tax Reporting)
- **TRCS アド・ホック**
- **Essbase**
- **HFM** (Oracle Hyperion Financial Management)
- **HFM アド・ホック**

- **Oracle BI EE**
- **その他** - サービス管理者が Smart View システムを拡張機能とともにインストールし構成している場合は、**Narrative Reporting**、**タスク・マネージャ** などの他のリボンも表示される場合があります。詳細は、サポートされている Smart View 拡張機能を参照してください。

ビデオ

目的	このビデオを見る
リボンの操作など、Smart View でのナビゲートについて学習します。	 Smart View のナビゲート

Smart View パネル

Smart View パネルからは、データ・ソース接続の管理、データおよびタスクのリストへのアクセス、レポートの作成を実行できます。

Smart View パネルは Smart View のリボンから開かれ、デフォルトでは Microsoft Office アプリケーションの右側に表示されます。タイトル・バーの下矢印から、Smart View パネルを移動、サイズを変更、閉じることができます。

Smart View パネルには次のペインが含まれます:

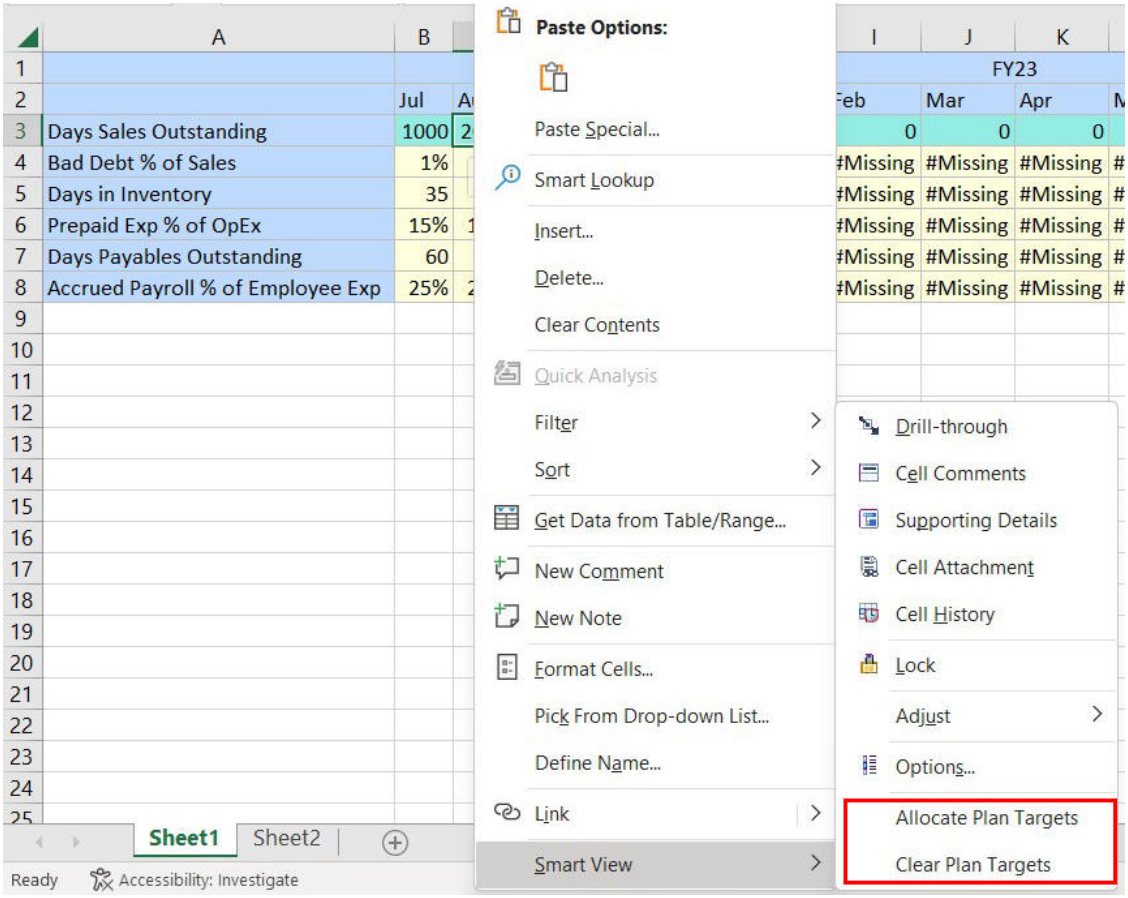
- **ホーム** - 共有接続およびプライベート接続へのリンクと最後に使用した項目(アド・ホック・グリッド、フォーム、タスク・リスト)のリストが表示されるパネルで、この項目をクリックすると接続を確立できます。
- **共有接続** - Oracle Hyperion Shared Services から使用できる接続のドロップダウン・メニューと、現在選択されている接続のコンテンツのツリー表示です。
- **プライベート接続** - ローカル・コンピュータに保存されている使用可能な接続のドロップダウン・メニューと、現在選択されている接続のコンテンツのツリー表示です。ここで URL を入力してデータ・ソースに直接接続することもできます。
- **検索ボックス** - フォーム、レポート、ドキュメント、その他のアーティファクトをより速く検索してアクセスする方法です。詳細は、フォームおよび他のアーティファクトの検索を参照してください。
- **タスク・リスト** - タスクの管理が可能なタスクのツリー・リストです。このペインが開くのは、「共有接続」または「プライベート接続」からタスク・リストを選択したときのみです。
- **アクション・パネル** - 共有接続、プライベート接続またはタスク・リストのツリーでの選択に基づき使用可能な操作のリストです。
- **ドキュメント・コンテンツ** - 現在の Office ドキュメントに存在する接続とコンテンツのビューを提供する、Smart View パネルのタスク・ペインです。詳細は、「ドキュメント・コンテンツ」ペインの使用を参照してください。
- **その他** - 管理者が Oracle Smart View for Office システムを拡張機能付きでインストールおよび構成した場合は、その他のパネルが存在する場合があります; たとえば、Oracle BI EE や Narrative Reporting ホームなどです。

右クリック・コンテキスト・メニュー

右クリック・コンテキスト・メニューは、アクション・メニューとも呼ばれ、選択したセルのコンテキスト内でよく使用するメニュー・アイテムにアクセスするための便利な方法です。

右クリック・コンテキスト・メニューは、フォームとアド・ホック・グリッドで使用できます。コンテキスト・メニューにアクセスするには、シート内のメンバーまたはデータ・セルを選択し、右クリックして **Smart View** メニューをクリックします。コンテキスト・メニュー・コマンドは、デフォルト・メニューの下の最後にリストされています。

次の例では、強調表示されている**プラン・ターゲットの割当て**コマンドと**プラン・ターゲットのクリア**コマンドが、フォーム用に構成されたコンテキスト・メニュー項目です。Cell Comments、Adjust、Options などのその他のコマンドは、Smart View のデフォルト・メニューです。



コンテキスト・メニューで使用可能なコマンドは、選択したメンバーまたはデータ・セルによって異なる場合があります。また、フォーム、アド・ホック・グリッド、キューブによっても異なります。これらのコマンドは、Web アプリケーションの**アクション・メニュー**でサービス管理者とフォーム設計者が決定し、フォームまたはアド・ホック・グリッドに定義されているビジネス・ルールまたはアクション・メニュー項目で構成できます。

アド・ホック・グリッドの場合、右クリックのコンテキスト・メニューは常にキューブのコンテキストで定義されます。メニューは、特定のキューブまたは複数のキューブに関連付けることができます。アド・ホック・グリッドのコンテキスト・メニューを有効にするには、サービス管理者は**アクション・メニュー**のページに移動し、特定のアクション・メニューの**「アド・**

ホックに対して使用可能」チェック・ボックスを選択して、右クリック・コンテキスト・メニューを有効にするキューブを選択します。

右クリック・コンテキスト・メニューの構成の詳細は、『*Planning の管理*』のアクション・メニューの管理を参照してください。

Smart View のインストール

このトピックには、Oracle Smart View for Office のインストール手順へのリンクが含まれます。

インストール手順の参照先

- **オンプレミス・プロバイダ:**

  *Oracle Smart View for Office インストレーションおよび構成ガイド*の「Smart View のインストール」で必要なインストール・シナリオを参照してください。ヘルプ・センターで、Smart View リリースを選択し、次に *Oracle Smart View for Office インストレーションおよび構成ガイド*を選択し、「Smart View のインストール」の章を検索します。

- **Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management:**
  - ユーザー: クライアントのダウンロードおよびインストール
  - 管理者: クライアントのダウンロードおよびインストール
- **Oracle Essbase クラウド:**

  Smart View インストーラのダウンロードと実行を参照してください

また、Smart View をインストールする場合、Windows、Office および Smart View のロケール設定の情報に注意してください。

インストールの問題のトラブルシューティングに関する詳細は、*Oracle Smart View for Office インストレーションおよび構成ガイド*の「ヒントとトラブルシューティング」トピックを参照してください。

ブラウザ・アドオンのインストール

すべてのプロバイダ: ドリルスルー・レポートの使用を計画している場合、または Web アプリケーションから Smart View を起動する場合は、ブラウザ・アドオンが必要です。Firefox、Chrome、Edge のアドオンをインストールする手順については、*Oracle Smart View for Office インストレーションおよび構成ガイド*の「Smart View のインストール」の章の「ブラウザ・アドオンのインストール」トピックを参照してください。

ビデオ

目的	このビデオを見る
Smart View のダウンロードとインストール、データ・ソース接続の設定について説明します。	 Smart View の設定

Windows、Office および Smart View のロケール設定

Oracle Smart View for Office のクライアント・マシンで、次のロケール設定が一致する必要があります:

- Smart View の言語オプション
- Microsoft Office の言語

- Windows の地域の設定
- Windows のオペレーティング・システム

マシンの Windows オペレーティング・システムの言語、システム・ロケールまたは Office 言語以外の言語で Smart View を実行すると、正しくないデータが戻される場合があります。たとえば、Windows オペレーティング・システム、システム・ロケールおよび Office の言語が英語の場合に、Smart View をロシア語で実行すると、レポートまたはチャート・データが正しく表示されません。

Smart View クライアント・マシンで、上で示されたロケール設定が一致することを確認してください。

Smart View 機能へのアクセス

Oracle Smart View for Office 機能へのアクセスは、管理者がビジネス・プロセス(Cloud EPM)またはアプリケーション(EPM System)でユーザーに対して設定したアクセス権によって異なります。

管理者: 詳細は、ご使用の環境に応じてアクセス制御の管理または Oracle Enterprise Performance Management System ユーザー・セキュリティ管理ガイドを参照してください。

翻訳情報

このトピックには、Oracle Smart View for Office のユーザー・インタフェースおよびドキュメントの翻訳情報が含まれています。

次の項目は翻訳されています:

Smart View ユーザー・インタフェース

Smart View ユーザー・インタフェースは、アラビア語、中国語(簡体字および繁体字)、チェコ語、デンマーク語、オランダ語、フィンランド語、フランス語、フランス語(カナダ)、ドイツ語、ギリシャ語、ヘブライ語、ハンガリー語、イタリア語、日本語、韓国語、ノルウェー語、ポーランド語、ポルトガル語、ポルトガル語(ブラジル)、ルーマニア語、ロシア語、スロバキア語、スペイン語、スウェーデン語、タイ語およびトルコ語に翻訳されています。

Smart View ユーザー・インタフェースに表示される言語を変更するには、Microsoft Office アプリケーション(Excel、Word、PowerPoint または Outlook)を開き、次の手順に従います:

1. Office アプリケーションから、Smart View のリボンを選択し、**「オプション」**をクリックして、**「詳細」**タブを選択します。
2. **「言語」**ドロップダウン・リストで、新しい表示言語を選択します。
3. プロンプトで**「OK」**をクリックし、次に**「OK」**をクリックして**「オプション」**ダイアログを閉じます。
4. Office アプリケーションを再起動します。

   Smart View 関連のユーザー・インタフェースの要素(リボン、パネル、ダイアログ・ボックスなど)が新しい言語で表示されます。

> **ノート:**
>
> Smart View 要素を新しい言語で表示するには、現在開いている他の Office アプリケーションを再起動する必要があります。

Smart View オンライン・ヘルプ

Smart View オンライン・ヘルプは、中国語(簡体字および繁体字)、オランダ語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、日本語、韓国語、ポルトガル語(ブラジル)およびスペイン語に翻訳されています。

- Smart View をこれらの言語で使用すると、ヘルプもその言語で表示されます。
- Smart View を他の翻訳言語で使用すると(アラビア語やヘブライ語など)、ヘルプは英語で表示されます。

このガイドについて

このガイドには、Oracle Enterprise Performance Management System のオンプレミス・プロバイダとクラウド・プロバイダの両方に適用される情報が含まれます。

このガイド全体をとおして、特に記載がないかぎり:

- Planning への参照は、Oracle Hyperion Planning オンプレミスと Planning for Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management の両方に適用されます。
- トピックの先頭に、サポートされているデータ・ソースがリストされています:
  - Oracle Hyperion Planning オンプレミスは、Oracle Hyperion Planning と呼ばれています。
  - Planning for Cloud EPM は、Planning と呼ばれています。
- Cloud EPM では、機能が Planning でサポートされている場合、その機能は Planning モジュールでもサポートされています。
- Oracle Hyperion Financial Reporting への参照は、オンプレミス Financial Reporting と Financial Reporting for Cloud EPM の両方に適用されます。
- Oracle Hyperion Reporting and Analysis への参照は、「共有接続」のレポート設定オプションからアクセスされる機能を参照します。

4

データ・ソース接続

Oracle Smart View for Office でのデータ・ソース接続の管理について説明します。

次も参照:

- 接続
  データ・ソースへの接続には、Oracle Smart View for Office の共有接続またはプライベート接続を使用します。
- 共有接続とプライベート接続
  Excel、Word および PowerPoint の Oracle Smart View for Office から、共有接続またはプライベート接続を使用して、Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management や Oracle Enterprise Performance Management System のソースなど、サポートされている様々なデータ・ソースに接続できます。
- データ・ソースへの接続
  Excel、Word、PowerPoint の Oracle Smart View for Office から、Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management ソースや Oracle Enterprise Performance Management System ソースなどの様々なサポートされているデータ・ソースに接続できます。
- データ・ソースからの切断
  現在の接続またはすべての接続から切断できます。
- 共有接続の作成
  Oracle Smart View for Office 管理者によって提供される接続 URL、またはバニティ URL を使用して、共有接続を作成します。
- プライベート接続の作成
  プライベート接続を作成する方法はいくつかあります。
- 接続の変更
  接続の変更は、プライベート接続の変更または Office ドキュメント内の個別のエンティティの接続情報の変更の 2 つの方法で行えます。
- 接続 URL マッピングの管理
  接続 URL マッピングを使用すると、環境間の移行が可能になります。
- 接続の削除
  「接続 URL の削除」ダイアログ・ボックスで接続を削除します。

接続

データ・ソースへの接続には、Oracle Smart View for Office の共有接続またはプライベート接続を使用します。

データ・ソースへの接続や接続の管理、さらにグリッド、フォームおよびタスク・リストのオープンをすべて Smart View パネルから行えます。Smart View を管理者がどのように構成したかに応じて、データ・プロバイダおよび Office アプリケーションを変更するときに、ユーザー名とパスワードの入力が必要な場合と不要な場合があります。

ビデオ

目的	このビデオを見る
Smart View 接続について学習します。	 概要: Smart View 接続を使用した EPM Cloud およびオンプレミス・データの活用
データ・ソースへの接続など、Smart View でのナビゲートについて学習します。	 Smart View のナビゲート
このビデオを視聴して、単一の接続で複数の Cloud EPM ビジネス・プロセスを設定する方法について学習します。	 概要: ビジネス・プロセスを統合するためのナビゲーション・フローの構成

関連トピック:

共有接続とプライベート接続

データ・ソースへの接続

データ・ソースからの切断

共有接続の作成

プライベート接続の作成

接続の変更

接続の削除

共有接続とプライベート接続

Excel、Word および PowerPoint の Oracle Smart View for Office から、共有接続またはプライベート接続を使用して、Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management や Oracle Enterprise Performance Management System のソースなど、サポートされている様々なデータ・ソースに接続できます。

一般的に、シートごとに 1 つのプロバイダ・データ・ソースに接続できます。ただし、次のプロバイダについては、シート、スライドまたはドキュメントごとに、同じデータ・ソース・タイプの複数のインスタンスに接続できます: Planning、Planning モジュール、Enterprise Profitability and Cost Management、フリーフォーム、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting、Oracle Essbase クラウドとオンプレミス、Oracle Analytics Cloud および Oracle Business Intelligence Enterprise Edition。

Smart View ユーザーは、共有接続またはプライベート接続、あるいはその両方にアクセスできます。リリース 20.200 以降、バニティ URL (カスタム URL とも呼ばれます)を使用して接続にアクセスできます。

このトピックでは、次のセクションについて説明します:

- 共有接続
- プライベート接続
- 共有接続とプライベート接続の例
- 共有接続とプライベート接続のガイドライン

共有接続

Cloud EPM ソースおよびオンプレミスの Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace ソースへの共有接続を作成できます。

EPM Workspace 接続では、接続ごとに複数のプロバイダ・タイプに接続できます。図 3 に、このタイプの接続を示します。

Cloud EPM ソースでは、共有接続を使用する方法が 2 つあります:

- 共有接続当たり 1 つのクラウド・プロバイダ。

  たとえば、共有接続"A"はユーザーを Planning ビジネス・プロセス・インスタンスに接続し、共有接続"B"はユーザーを Financial Consolidation and Close ビジネス・プロセス・インスタンスに接続します。

  図 1 に、このタイプの接続を示します。

- 共有接続当たり複数の Cloud EPM プロバイダ。この場合、サポートされるすべてのクラウド・プロバイダは同じドメインに存在する必要があります。

  たとえば、組織が Planning、Financial Consolidation and Close および Tax Reporting を同じドメインでホストしています。共有接続"C"はユーザーを 3 つのビジネス・プロセス・インスタンスすべてに 接続します。

  Smart View では、このタイプの接続は、次の Cloud EPM ビジネス・プロセスにのみ適用されます:

  - Planning
  - Planning モジュール
  - フリーフォーム
  - Financial Consolidation and Close
  - Tax Reporting
  - Enterprise Profitability and Cost Management
  - Narrative Reporting
  - Account Reconciliation

  図 2 に、このタイプの接続を示します。

  Cloud EPM 管理者: 単一の共有接続で複数のプロバイダを設定する方法については、ビジネス・プロセスの *管理ガイド*の「Cloud EPM の環境の接続」トピックを参照してください。たとえば、『*Planning の管理*』の Cloud EPM の環境の接続を参照してください。

共有接続は次のいずれかです:

- 中央のサーバーまたはホストの場所からアクセスし、複数のユーザーが Smart View パネルから使用できます。
- 各 Smart View クライアント・マシン上*または* Web サーバー上の管理者が作成した XML ファイルに格納されます。XML ファイルでの接続は、Smart View パネルの共有接続を介してユーザーが使用できます。

  この XML ファイルの作成および配布の詳細は、*Oracle Smart View for Office インストレーションおよび構成ガイド*の XML ファイルからの共有接続へのアクセスを参照してください。

ユーザーは、共有接続の編集または名前変更を行えませんが、接続のプライベート接続としての保存に記述されたように、共有接続をプライベート接続として保存し、編集および名前変更することができます。

プライベート接続

プライベート接続とは、共有接続をローカル・コンピュータに保存するか、ウィザードを使用するか、プロバイダ・データ・ソースへの URL を入力することにより作成する接続です。プライベート接続は、作成するとアクティブな接続になります。

図 4 に、このタイプの接続を示します。ウィザードを使用して作成された接続とクイック接続方法を使用して作成された接続を示します。

> **ノート:**
>
> Oracle Analytics Cloud、Oracle BI EE、Oracle Essbase および Narrative Reporting を操作する場合は、*Oracle Smart View for Office インストレーションおよび構成ガイド* の XML ファイルからの共有接続へのアクセスで説明しているように、プライベート接続を使用するか、プライベート接続情報を共有接続 XML ファイルに追加する必要があります。

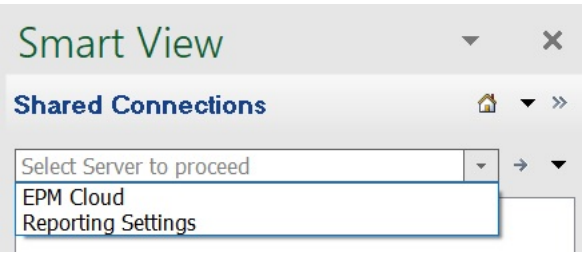
共有接続とプライベート接続の例

次に、様々なタイプの接続の例およびそれらが Smart View パネルにどのように表示されるかを示します。Smart View でデータ・ソースに接続するとどのようになるかの参考にしてください。

単一の Cloud EPM データ・ソースへの共有接続。

図 1 に例示したドロップダウン・メニューでは、ユーザーは Planning データ・ソース(これは **Cloud EPM** オプション)および Financial Reporting(**レポート設定**オプション)への接続にアクセスできます。

図 4-1 単一の Cloud EPM データ・ソースへの共有接続

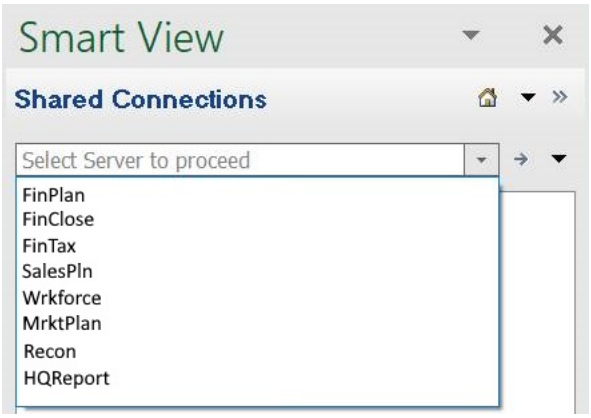


同じドメイン上の複数の Cloud EPM データ・ソースへの共有接続。

図 2 に例示したドロップダウン・メニューでは、ユーザーはサポートされている複数の Cloud EPM データ・ソースにアクセスできます。たとえば、FinPlan は Planning データ・ソースに接続し、FinClose は Financial Consolidation and Close データ・ソースに接続し、Wrkforce は Workforce データ・ソースに接続し、Recon は Account Reconciliation データ・ソースに接続するなど。

サービス管理者が、ドロップダウン・メニューに表示されるデータソース名を指定します。

図 4-2 複数の Cloud EPM データ・ソースへの共有接続

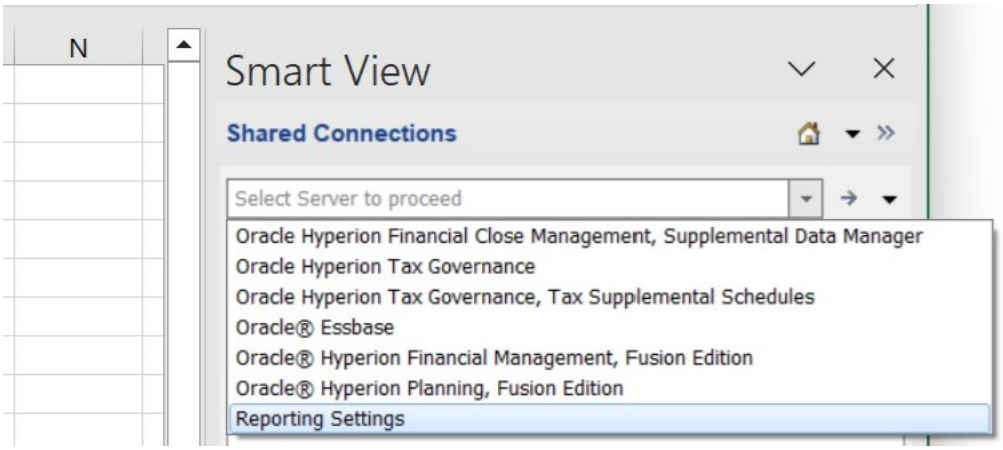


Cloud EPM 管理者: 単一の共有接続で複数のプロバイダを設定する方法については、ビジネス・プロセスの*管理*ガイドの「Cloud EPM の環境の接続」トピックを参照してください。たとえば、『*Planning の管理*』の Cloud EPM の環境の接続を参照してください。

EPM Workspace の共有接続。

図 3 に例示したドロップダウン・メニューでは、ユーザーは Essbase や Oracle Hyperion Planning など 5 つの EPM System データ・ソースにアクセスできます。

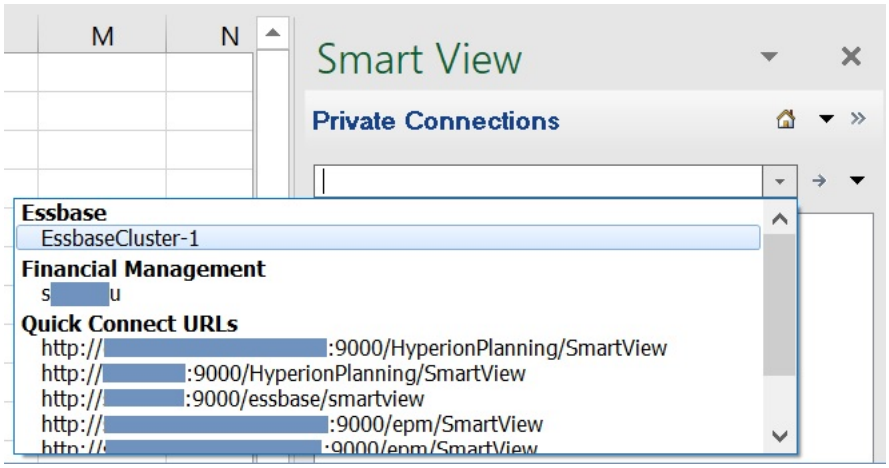
図 4-3 EPM Workspace の共有接続



プライベート接続

図 4 に例示したドロップダウン・メニューには Essbase および Oracle Hyperion Financial Management に対する 2 つの接続が表示され、これらの接続は「プライベート接続」ウィザードを使用して作成されたものです。表示されている残りの接続は、クイック接続方法を使用して作成されたもので、Oracle Hyperion Planning や Essbase などへの接続があります。

図 4-4 様々なプライベート接続



共有接続とプライベート接続のガイドライン

- リリース 20.200 以降、カスタム URL (つまり、バニティ URL)を使用して、Smart View からデータ・ソース・プロバイダにアクセスできます。カスタム URL を構成するには、T.ly、Bitly、Rebrandly、TinyUrl、is.gd などのサードパーティのリンク短縮サービス、または YOURLS などのオープン・ソース・ソリューションを使用します。次に、構成に応じて共有接続、プライベート接続またはクイック接続としてカスタム URL を使用します。

  > **ノート:**
  >
  > – バニティ URL を使用している場合は、サードパーティのリンク短縮ベンダーに機密データを転送する可能性があります。たとえば、リフレッシュまたは送信を実行する際、トランザクションでパスワード情報を転送している可能性があります。
  >
  > – バニティ URL を使用してログインした場合、**「オプション」**ダイアログの**「拡張機能」**タブでは、拡張機能のインストールおよび更新コマンドである**「更新、新規インストールおよびアンインストールのチェック」**はサポートされません。

  管理者または Smart View ユーザーは、バニティ URL を作成できます。バニティ URL の作成の詳細は、選択したサードパーティのリンク短縮サービスのドキュメントを参照してください。

- 一部のデータ・ソースでは、ワークシートごとに接続できるデータ・ソースは 1 つのみです。例外およびその他の接続ガイドラインを次に示します。
- Planning、Planning モジュール、Enterprise Profitability and Cost Management、フリーフォーム、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting: Cloud EPM の複数グリッド・ワークシートでの接続の変更に記述されたとおり、1 つのワークシートで複数のデータベースに接続できます。
- Essbase クラウドおよびオンプレミス:
  – Oracle Essbase クラウドに接続するときは、プライベート接続を使用する必要があります。

  - 複数グリッド・ワークシートでの接続の変更の説明に従って、単一のワークシートの複数の Essbase データベースに接続できます。
  - 同じサーバー上の別のアプリケーションに接続する場合でも、外部認証が使用不可の場合は、セキュリティ上の理由から接続のたびにユーザー名とパスワードを指定する必要があります。
  - Essbase データベースに接続されると、データベースに関連付けられているデータベース・ノートを表示できるようになります。データベース・ノートを表示するには、Smart View パネルで、Essbase データベースの名前を右クリックして、**「データベース・ノート」**を選択します。これらのデータベース・ノートは、Smart View からは編集できません。データベース・ノートは、VBA 関数 HypGetDatabaseNote を使用して VBA に実装できます(*Oracle Smart View for Office 開発者ガイド*の HypGetDatabaseNote を参照)。
- Oracle Analytics Cloud と Oracle BI EE
  - Oracle Analytics Cloud または Oracle BI EE に接続するときは、プライベート接続を使用する必要があります。
  - 複数の Oracle Analytics Cloud データ・ソースへの接続および複数の Oracle BI EE データ・ソースへの接続の説明に従って、単一のシートの複数のカタログに接続できます。
- Narrative Reporting に接続するときは、プライベート接続を使用する必要があります。
- Smart View からのデータ・ソースへのログイン中に問題が発生した場合は、ログインの問題の診断を参照してください。

関連トピック:

データ・ソースへの接続

データ・ソースからの切断

共有接続の作成

プライベート接続の作成

接続の変更

接続の削除

データ・ソースへの接続

Excel、Word、PowerPoint の Oracle Smart View for Office から、Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management ソースや Oracle Enterprise Performance Management System ソースなどの様々なサポートされているデータ・ソースに接続できます。

次も参照:

- 共有接続を使用した接続
  共有接続を使用して、サポートされているデータ・ソースに接続するには、このトピックの手順を使用します。
- プライベート接続を使用した接続
  プライベート接続を使用して、サポートされているデータ・ソースに接続するには、このトピックの手順を使用します。
- シートのアクティブ接続の設定
  各シートにアクティブ接続を設定することにより、ワークブック内の異なるシートで様々なデータ・ソース・プロバイダに接続できます。

共有接続を使用した接続

共有接続を使用して、サポートされているデータ・ソースに接続するには、このトピックの手順を使用します。

共有接続を使用してデータ・ソースに接続するには:

1. Smart View のリボンで、**「パネル」**をクリックします。

> **ノート:**
>
> 最近使用したアイテムを開くには、**「最近使用」**でアイテムをクリックし、手順 3 にスキップします。をクリックすると、アイテムをこのリストに固定できます。

2. Smart View パネルまたはの横にある下向き矢印をクリックすると表示されるドロップダウン・メニューから、**「共有接続」**を選択します。

> **ノート:**
>
> Windows マシンで Office 365 と Smart View を使用しており、Smart View (Mac およびブラウザ)ユーザーとしてもプロビジョニングされている場合: Office に複数の Smart View リボン・タブが表示され、パネルにエラー・メッセージが表示される場合は、*Oracle Smart View for Office インストレーションおよび構成ガイド*の Windows 上の Smart View での Smart View (Mac およびブラウザ)のリボン・タブの表示の説明に従って、正しいリボン・タブからパネルを起動していることを確認してください。

3. **「データ・ソースに接続」**ダイアログまたは**「ログイン」**ダイアログで、ユーザー名とパスワードを入力します。

> **ノート:**
>
> - クラウド・データ・ソースにアクセスすると、**「ログイン」**ダイアログの**「ようこそ」**の横にビジネス・プロセス・ドメイン名が表示されます。ドメインを変更する必要がある場合は、**ドメインの変更**リンクをクリックし、新しいクラウド・アイデンティティ・ドメイン名を入力し、**「実行」**をクリックします。次に、ユーザー名とパスワードの入力に進みます。
> - Oracle Smart View for Office を管理者がどのように構成したかに応じて、データ・プロバイダおよび Office アプリケーションを変更するときに、ユーザー名とパスワードの入力が必要な場合と不要な場合があります。

4. 「共有接続」パネルの**「サーバーを選択して続行」**というラベルが付いたフィールドで、ドロップダウン・メニューからデータ・ソース・タイプを選択します。

   データ・ソース・タイプを選択すると、選択したデータ・ソースに使用可能な接続が Smart View パネルのツリー・リストに表示されます。

5. Smart View パネルで、ツリー・リストにナビゲートし、開くアイテム(フォーム、アド・ホック・グリッド、スマート・スライス、タスク・リストまたはカタログ)をダブルクリックします。

   また、アイテムを右クリックして選択するか、Smart View パネルの下部にあるアクション・パネルからオプションを選択することで、アイテムを開くこともできます。

6. **オプション:** グリッドでアイテムを開いた後、ツリー・ビューでそのアイテムを 容易に特定するには、の横にある矢印をクリックし、**「ワークシート接続の検索」**を選択します。

> **ノート:**
>
> Smart View を管理者がどのように構成したかに応じて、データ・プロバイダおよび Office アプリケーションを変更するときに、ユーザー名とパスワードの入力が必要な場合と不要な場合があります。

プライベート接続を使用した接続

プライベート接続を使用して、サポートされているデータ・ソースに接続するには、このトピックの手順を使用します。

プライベート接続を使用してデータ・ソースに接続するには:

1. Smart View のリボンで、**「パネル」**をクリックします。

> **ノート:**
>
> 最近使用したアイテムを開くには、**「最近使用」**でアイテムをクリックし、ステップ 4 にスキップします。をクリックすると、アイテムをこのリストに固定できます。

2. Smart View パネルまたはの横にある下向き矢印をクリックすると表示されるドロップダウン・メニューから、**「プライベート接続」**を選択します。

> **ノート:**
>
> Windows マシンで Office 365 と Smart View を使用しており、Smart View (Mac およびブラウザ)ユーザーとしてもプロビジョニングされている場合: Office に複数の Smart View リボン・タブが表示され、パネルにエラー・メッセージが表示される場合は、*Oracle Smart View for Office インストレーションおよび構成ガイド*の Windows 上の Smart View での Smart View (Mac およびブラウザ)のリボン・タブの表示の説明に従って、正しいリボン・タブからパネルを起動していることを確認してください。

3. 「プライベート接続」パネルの**「サーバーを選択、またはプロバイダの URL を入力して続行」**というラベルが付いたフィールドで、ドロップダウン・メニューから接続を選択します。

あるいは、このフィールドに接続 URL を入力し、[Enter]を押します。使用する URL 構文の例は、プライベート接続の URL 構文を参照してください。

4. **「データ・ソースに接続」**ダイアログまたは**「ログイン」**ダイアログで、ユーザー名とパスワードを入力します。

> **ノート:**
>
> - クラウド・データ・ソースにアクセスすると、**「ログイン」**ダイアログの**「ようこそ」**の横にビジネス・プロセス・ドメイン名が表示されます。ドメインを変更する必要がある場合は、**ドメインの変更**リンクをクリックし、新しいクラウド・アイデンティティ・ドメイン名を入力し、**「実行」**をクリックします。次に、ユーザー名とパスワードの入力に進みます。
> - Oracle Smart View for Office を管理者がどのように構成したかに応じて、データ・プロバイダおよび Office アプリケーションを変更するときに、ユーザー名とパスワードの入力が必要な場合と不要な場合があります。

5. Smart View パネルで、ツリー・リストにナビゲートし、開くアイテム(フォーム、アド・ホック・グリッド、スマート・スライス、タスク・リストまたはカタログ)をダブルクリックします。

   また、アイテムを右クリックして選択するか、Smart View パネルの下部にあるアクション・パネルからオプションを選択することで、アイテムを開くこともできます。

6. **オプション:** グリッドでアイテムを開いた後、ツリー・ビューでそのアイテムを容易に特定するには、の横にある矢印をクリックし、**「ワークシート接続の検索」**を選択します。

シートのアクティブ接続の設定

各シートにアクティブ接続を設定することにより、ワークブック内の異なるシートで様々なデータ・ソース・プロバイダに接続できます。

ワークシートのアクティブ接続を設定するには:

1. 共有接続またはプライベート接続をプライベート接続として保存することにより、名前付き接続を作成します。

   このプロセスについては、接続のプライベート接続としての保存で説明しています。これらの接続が使用可能になると、次のステップに示されているように、シートのアクティブ接続をこれらのプライベートまたは*名前付き*接続のいずれかに設定できます。

2. ワークブックを開き、名前付きプライベート接続に接続します。

   オプションで、接続せずに開始できます。次のステップでログイン資格証明を求められます。

3. Smart View のリボンで、**「接続」**、**「アクティブ接続」**の順に選択し、接続名の隣のチェック・ボックスがまだ選択されていない場合は選択します。

   前のステップで接続しなかった場合、**「アクティブ接続」**リストに接続名が表示されません。

   「アクティブ接続」リストに接続名が表示されない場合は、**「接続」**、**名前付き接続**の順に選択し、接続名の隣のチェック・ボックスを選択します。その後、**「接続」**、**「アクティブ接続」**の順に選択することにより、シートのアクティブ接続を表示できます。

4. **オプション:** 別のシートに切り替えて前述のステップを繰返し、そのシートのアクティブ接続を設定します。

データ・ソースからの切断

現在の接続またはすべての接続から切断できます。

*現在*の接続のみから切断するには:

1. Smart View パネルのツリー・リストで、現在開いている接続を選択します。
2. **オプション:** この接続を簡単に検索するには、の横にある矢印をクリックし、**「ワークシート接続の検索」**を選択します。
3. 右クリックして**「切断」**を選択します。

   現在の接続から切断しても、シングル・サインオン(SSO)は無効になりません。

接続されている *すべての*共有接続およびプライベート接続から切断するには:

1. Smart View パネルで、をクリックします。
2. **「すべて 切断」**を選択します。

   これを選択すると SSO が無効になり、次回接続するときには再度ログインが必要になります。

> **ノート:**
>
> WebView2 を使用しており、「すべて切断」が機能しない、または「すべて 切断」中に Excel が失敗する場合は、レジストリ・フラグ PreserveThirdPartyCookies を追加して「0」に設定してください。詳細は、*『Oracle Smart View for Office インストレーションおよび構成ガイド』*の WebView2 と切断の問題を参照してください。

共有接続の作成

Oracle Smart View for Office 管理者によって提供される接続 URL、またはバニティ URL を使用して、共有接続を作成します。

接続 URL 情報がある場合、このトピックの手順を完了できます。

> **ノート:**
>
> `<server>`パラメータを指定するときには、常にドメイン名パラメータ`<domain>`を含めます。例:
>
> ```
> http(s)://<server>.<domain>:<port>/workspace/SmartViewProviders
> ```

Smart View で共有接続を作成するには:

1. Smart View リボンから、**「オプション」**をクリックします。
2. **「オプション」**ダイアログ・ボックスで、**「詳細」**タブを選択します。
3. **「共有接続 URL」**テキスト・ボックスに、Smart View 管理者によって提供される接続 URL を入力します。

   オンプレミス接続の URL 構文は次のとおりです。

   ```
   http(s)://<server>.<domain>:<port>/workspace/SmartViewProviders
   ```

   単一クラウド・ビジネス・プロセスへのクラウド接続の URL 構文は次のとおりです。

   ```
   http(s)://<serviceURL>/workspace/SmartViewProviders
   ```

   同じドメイン上の複数の Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management ビジネス・プロセスに対するクラウド接続の URL 構文は次のとおりです:

   ```
   http(s)://<serviceURL>/HyperionPlanning/SmartView
   ```

   > **ノート:**
   >
   > Cloud EPM 管理者: 単一の共有接続で複数のプロバイダを設定する方法については、ビジネス・プロセスの *管理ガイド*の「Cloud EPM の環境の接続」トピックを参照してください。たとえば、『*Planning の管理*』の Cloud EPM の環境の接続を参照してください。

   リリース 20.200 以降、バニティ URL (カスタム URL とも呼ばれます)の場合は、前述の構文を使用して、サードパーティのリンク短縮ベンダーで構成した URL を入力します。構成で使用する構文は、オンプレミスのデータ・ソース、単一のクラウド・ビジネス・プロセス、または同じドメイン上の複数のクラウド・ビジネス・プロセスのいずれに接続するかによって異なります。例:

   ```
   http(s)://<yourVanityURL>
   ```

4. **「OK」**をクリックして、**「オプション」**ダイアログ・ボックスを閉じます。
5. データ・ソースへの接続の手順に従って接続します。

プライベート接続の作成

プライベート接続を作成する方法はいくつかあります。

次も参照:

- プライベート接続ウィザードの使用
- クイック接続方法の使用
- 接続のプライベート接続としての保存

- プライベート接続の URL 構文
  このトピックでは、オンプレミス・データ・ソースおよびクラウド・データ・ソースへのプライベート接続を作成するために Oracle Smart View for Office が必要とする構文をリストします。

プライベート接続ウィザードの使用

ウィザードを使用してプライベート接続を作成するには:

1. Smart View のリボンで、**「パネル」**をクリックします。
2. Smart View パネルから、の横にある矢印をクリックして、**「プライベート接続」**を選択します。
3. アクション・パネルで、**「新規接続の作成」**をクリックして、接続の追加ウィザードを表示します。

   または、の隣の矢印をクリックし、**「新規接続の作成」**を選択します。
4. **「接続の追加 - URL」**で、プライベート接続の URL を入力し、**「次」**をクリックします。

   プライベート接続の URL 構文の構文のガイドラインに従います。
5. **「接続の追加 - アプリケーション/キューブ」**で、操作するアプリケーションおよびデータベースに移動してそれを選択し、**「次」**をクリックします。
6. **「接続の追加 - 名前/説明」**で、接続のわかりやすい名前およびオプションの説明を入力します。
7. **「終了」**をクリックします。
8. **オプション:** プライベート接続を選択するには、Smart View パネルの「接続」テキスト・ボックスのドロップダウン矢印をクリックします。

   プライベート接続はプロバイダ・タイプ別にリストされます。

関連トピック:

クイック接続方法の使用

接続のプライベート接続としての保存

プライベート接続の URL 構文

クイック接続方法の使用

URL がわかれば、クイック接続方法を使用してプライベート接続を作成できます。通常、URL は Oracle Smart View for Office 管理者によって提供されます。

クイック接続方法を使用してプライベート接続を作成するには:

1. Smart View のリボンで、**「パネル」**をクリックします。
2. Smart View パネルから、の横にある矢印をクリックして、**「プライベート接続」**を選択します。
3. テキスト・ボックスに、接続先データ・ソースの URL またはローカル・ストレージ・ディレクトリを入力します。

図 4-5 クイック接続の作成時に URL を入力するテキスト・ボックス



各データ・ソースの URL 構文はプライベート接続の URL 構文に示されています。使用する URL については、システム管理者に問い合せてください。

4. をクリックします。
5. Smart View パネルのツリーを展開し、操作するアプリケーションおよびデータベースに移動します。

   ログインするよう求められたら、ログイン資格証明を入力します。

例 4-1 クイック接続のリストの削除

クイック接続のリスト全体を削除するには、の隣の矢印をクリックし、**「クイック接続 URL エントリのクリア」**を選択します。

関連トピック:

プライベート接続ウィザードの使用

接続のプライベート接続としての保存

プライベート接続の URL 構文

接続のプライベート接続としての保存

共有接続またはプライベート接続をプライベート接続として保存し、それらにわかりやすい名前を付けることができます。

管理権限なしに共有接続を作成することはできませんが、プライベート接続として保存できます。プライベート接続を保存することもできます。どちらの場合も、これらの接続をプライベートとして保存するときに、わかりやすい名前を付けることができます。これらの接続は*名前付き*接続と呼ばれます。

共有接続またはプライベート接続からプライベート接続を作成するには:

1. 共有接続またはプライベート接続を使用して接続します。
2. Smart View パネルで、共有接続またはプライベート接続のツリー・リストから、プライベート接続として保存するアイテムを選択します。

   アプリケーション名またはデータベース名を選択できます。
3. アクション・パネルで、**「プライベート接続への追加」**を選択します。

   このオプションは、選択したアイテムをプライベート接続として保存可能である場合のみ使用可能です。
4. **オプション: 「プライベート接続として保存」**で、接続の名前と説明を編集します。

Oracle Smart View for Office により、接続 URL_アプリケーション名が、選択したアイテムの名前に追加されます。たとえば、アプリケーション XYZ の ABC という名前のデータベースを選択した場合、デフォルトの接続名は次のようになります:

```
ABC - <connection_URL>_XYZ
```

わかりやすくするために、この名前を変更できます。たとえば、次のように変更します:

```
MyABC
```

5. **「プライベート接続として保存」**ダイアログで、**「OK」**をクリックします。

   接続名が次の場所に表示されます:

   - 「共有接続」ツリー・リストに小さい矢印でプライベートとして示される、
   - 「プライベート接続」ツリー・リストに小さい矢印でプライベートとして示される、
   - プライベート接続ドロップダウン・リストからサーバー名(アプリケーション・タイプ(Planning など)の下でグループ化されている)を選択した後の「プライベート接続」ツリー

6. 現在のワークシートが確実に新しく作成したプライベート接続に接続されるようにするには、Smart View のリボンで**「接続」**、**「アクティブ接続」**の順に選択し、新規接続名の横にあるチェック・ボックスを選択します。

   または、Smart View の操作を実行する(たとえば、アクション・パネルで、**「アド・ホック分析」**を選択する)と、自動的に接続されます。

関連トピック:

プライベート接続ウィザードの使用

クイック接続方法の使用

プライベート接続の URL 構文

プライベート接続の URL 構文

このトピックでは、オンプレミス・データ・ソースおよびクラウド・データ・ソースへのプライベート接続を作成するために Oracle Smart View for Office が必要とする構文をリストします。

> **ノート:**
>
> オンプレミス・データ・ソース: <server>パラメータを指定するときには、常にドメイン名パラメータ<domain>を含めます。例:
>
> ```
> http(s)://<server>.<domain>:<port>/HyperionPlanning/SmartView
> ```

次を参照してください。

オンプレミス・データ・ソース

クラウド・データ・ソース

バニティ URL

オンプレミス・データ・ソース:

- Oracle Essbase:

  ```
  http(s)://<server>.<domain>:<port>/aps/SmartView
  ```

- Oracle Hyperion Financial Management:
  - Financial Management 11.1.2.4.x 以降:

    ```
    http://<server>.<domain>:<port>/hfmadf/../hfmadf/officeprovider
    ```

  - Financial Management 11.1.2.3.x 以前:

    ```
    http(s)://<server>.<domain>:<port>/hfmofficeprovider/
    hfmofficeprovider.aspx
    ```

- Oracle Hyperion Planning:

  ```
  http(s)://<server>.<domain>:<port>/HyperionPlanning/SmartView
  ```

- Oracle Hyperion Reporting and Analysis - リリース 11.1.2.4.7xx 以前:

  ```
  http(s)://<server>.<domain>:<port>/raframework/browse/listXML
  ```

- Oracle Financial Reporting Document Repository - リリース 11.1.2.4.9xx 以降:

  ```
  http(s)://<server>.<domain>:<port>/hr/modules/com/hyperion/reporting/web/
  repository/HRRepositoryXML.jsp
  ```

- Oracle Hyperion Financial Close Management:

  ```
  http(s)://<server>.<domain>:<port>/fcc/servlets/smartview/fcmsvservlet
  ```

- Oracle Hyperion Strategic Finance:

  ```
  http(s)://<server>.<domain>:<port>/StrategicPlanning/SmartView
  ```

- Oracle Business Intelligence Enterprise Edition:
  - プライベート接続ウィザードの使用:

    ```
    http(s)://<server>.<domain>:<port>/analytics/jbips
    ```

  - クイック接続方法の使用:

    ```
    OBI:http(s)://<server>.<domain>:<port>/analytics/jbips
    ```

クラウド・データ・ソース:

- Cloud EPM ソース:
  - Planning、Planning モジュール

    ```
    https://<serviceURL>/HyperionPlanning/SmartView
    ```

- エンタープライズ仕訳拡張機能

  ```
  https://<serviceURL>/HyperionPlanning/ej/svp
  ```

- Enterprise Profitability and Cost Management

  ```
  https://<serviceURL>/HyperionPlanning/SmartView
  ```

- Financial Consolidation and Close

  ```
  https://<serviceURL>/HyperionPlanning/SmartView
  ```

- Oracle Hyperion Financial Reporting (レポート設定/ドキュメント・リポジトリ):

  ```
  https://<serviceURL>/hr/modules/com/hyperion/reporting/web/repository/
  HRRepositoryXML.jsp
  ```

- フリーフォーム

  ```
  https://<serviceURL>/HyperionPlanning/SmartView
  ```

- Narrative Reporting

  ```
  https://<serviceURL>/epm/SmartView
  ```

- Profitability and Cost Management:

  ```
  https://<serviceURL>/aps/SmartView
  ```

- Sales Planning:

  ```
  https://<serviceURL>/HyperionPlanning/SmartView
  ```

- 補足データ・マネージャ拡張機能(Financial Consolidation and Close および Tax Reporting で使用)

  ```
  https://<serviceURL>/HyperionPlanning/sdm/svp
  ```

- Strategic Modeling 拡張機能

  ```
  https://<serviceURL>/HyperionPlanning/SmartView
  ```

- Strategic Workforce Planning

  ```
  https://<serviceURL>/HyperionPlanning/SmartView
  ```

- タスク・マネージャ拡張機能(Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close および Tax Reporting で使用)

  ```
  https://<serviceURL>/HyperionPlanning/cm/svp
  ```

  - Tax Reporting

    ```
    https://<serviceURL>/HyperionPlanning/SmartView
    ```

- Oracle Analytics Cloud:
  - プライベート接続ウィザードの使用:

    ```
    https://<serviceURL>/analytics/jbips
    ```

  - クイック接続方法の使用:

    ```
    OBI:https://<serviceURL>/analytics/jbips
    ```

- Oracle Essbase クラウド:

  ```
  https://<serviceURL>/essbase/smartview
  ```

バニティ URL (クラウド・データ・ソースのみ)

Smart View 20.200 以降、バニティ URL (カスタム URL とも呼ばれます)の場合は、前述の構文を使用して、サードパーティのリンク短縮ベンダーで構成した URL を入力します。バニティ URL を作成するとき、ビジネス・プロセスにクラウド・データ接続フォーマットを使用します。例:

```
http(s)://<yourVanityURL>
```

関連トピック:

プライベート接続ウィザードの使用

クイック接続方法の使用

接続のプライベート接続としての保存

接続の変更

接続の変更は、プライベート接続の変更または Office ドキュメント内の個別のエンティティの接続情報の変更の 2 つの方法で行えます。

また、「接続の編集」コマンドを使用して、Oracle Hyperion Financial Reporting のイメージおよび完全にフォーマットされたレポートに対する接続を変更できます。

- **プライベート接続を変更します。**プライベート接続を変更して、接続に関連付けられたすべてのデータ・プロバイダのサーバー、アプリケーションまたはデータベース情報を変更できます。

  接続情報は、接続されているか否かにかかわらず変更できます。

  たとえば、プライベート接続を使用してテスト環境で操作できます。本番環境に移行する準備ができたら、そのプライベート接続のサーバー情報を変更して、新しい環境にアクセスします。

  この手順はプライベート接続の変更で説明します。

- **ドキュメント内の個別のエンティティ 接続情報を変更します。**「ドキュメント・コンテンツ」パネルを使用して、ドキュメント内の個別のエンティティの 接続情報を変更できます。

シートごとに接続を変更できます。または、複数のエンティティを含むシートで、1 つ以上の個別のエンティティのサーバー接続を変更できます。

たとえば、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition への接続中に、10 個のグラフを含む複合ビューを挿入したとします。3 つのグラフに異なる Oracle BI EE サーバーからデータをプルする場合を考えます。「ドキュメント・コンテンツ」パネルを使用して、3 つの各グラフの接続情報を変更し、新規の Oracle BI EE サーバーを指定できます。

この手順は Office ドキュメント内の接続の変更で説明します。

- **Office ドキュメント内の個々の Financial Reporting のイメージおよび完全にフォーマットされたレポート・イメージの接続情報を変更します。**「Smart View」リボンからアクセスできる「接続の編集」コマンドを使用して、Excel、Word および PowerPoint のエンティティの接続情報を変更できます。これは、部門間で Office ドキュメントを共有する場合や、テスト環境から本番環境に移行する際に便利です。

  Financial Reporting のイメージと完全にフォーマットされたレポートの接続の変更を参照してください。

> **ノート:**
>
> 接続情報を変更する際、指定する新規のデータ・ソースには、前のデータ・ソースのすべてのディメンションとメンバーが含まれている必要があります。新規データ・ソースに欠落しているディメンションまたはメンバーがある場合、リフレッシュ時にエラーが発生します。

プライベート接続の変更

プライベート接続を変更するには、接続の編集ウィザードを使用します。

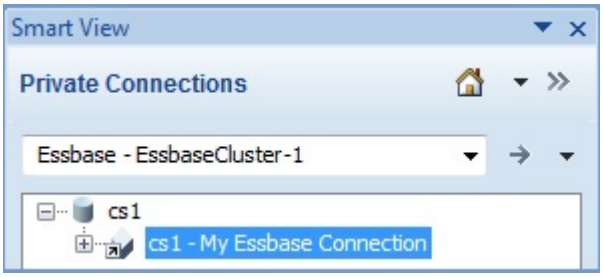
プライベート接続を変更するには:

1. Smart View のリボンで、**「パネル」**をクリックします。
2. Smart View パネルから、の横にある矢印をクリックして、**「プライベート接続」**を選択します。
3. テキスト・ボックス内の矢印をクリックして、変更するプライベート接続を選択し、をクリックします。

   > **ノート:**
   >
   > プライベート接続にすでに接続されていても、その接続を変更できます。

4. Smart View パネルで、ツリーを展開して接続名に移動し、選択します。

図 4-6 Smart View パネルの展開されたツリーと選択された接続名



5. アクション・パネルで**「接続の変更」**を選択します。

   または、プライベート接続名を右クリックして**「接続の変更」**を選択します。

6. **「接続の編集 - URL」**ページで、必要に応じて URL を編集し、**「次」**をクリックします。

   オプションで、**「デフォルト接続として設定」**チェック・ボックスを選択し、**「次」**をクリックします。

7. **「接続の編集 - アプリケーション/キューブ」**ページで、ツリーの新規アプリケーションとキューブに移動して選択し、**「次」**をクリックします。

   または、**「拡張設定」**チェック・ボックスを選択し、**「サーバー」**、**「アプリケーション」**および**「キューブ/データベース」**テキスト・ボックスに新規接続情報を手動で入力し、**「次」**をクリックします。

8. **「接続の編集 - 名前/説明」**ページで、必要に応じて接続名と説明を変更して、**「終了」**をクリックします。

Office ドキュメント内の接続の変更

「ドキュメント・コンテンツ」ペインから、Office ドキュメント内の Oracle Smart View for Office オブジェクトの接続を変更できます。これは、異なるサーバーを指定する部門間で Office ドキュメントを共有する場合や、テスト環境から本番環境に移行する際に便利です。

同じ接続情報を共有するドキュメント内のすべてのエンティティ (特定サーバーの同じアプリケーションやデータベースを指すすべてのワークシートやグリッドなど)の接続プロパティを変更できます。また、Excel ワークブックでシートごとに接続情報を変更することもできます。

「ドキュメント・コンテンツ」ペインから接続を変更するには:

1. Office ドキュメントを開きます。

> **ノート:**
>
> **Narrative Reporting:** Smart View コンテンツの接続情報を Excel ドックレットで変更するには、レポート・パッケージからドックレットを開いてチェックアウトする必要があります。ドックレットのチェックアウトを参照してください。

2. 「ドキュメント・コンテンツ」ペインで、ドロップダウン・リスト・ボックスからアクションを実行します:
   - 選択したドキュメントからシートを選択します
   - 特定の接続を選択します
   - **「すべての接続」**を選択します

3. ペイン下部の**「接続の変更」**リンクを選択します。

   あるいは、接続名またはシート名を右クリックして、**「接続の変更」**を選択します。また、次のようにして接続を変更することも可能です:

   - ワークブック内の全シートの接続を変更するには、「ドキュメント・コンテンツ」で最上位レベルのツリー・ノードの接続名を選択します
   - 特定シートの接続を変更するには、特定のシート・レベルのツリー・ノードで接続名を選択します

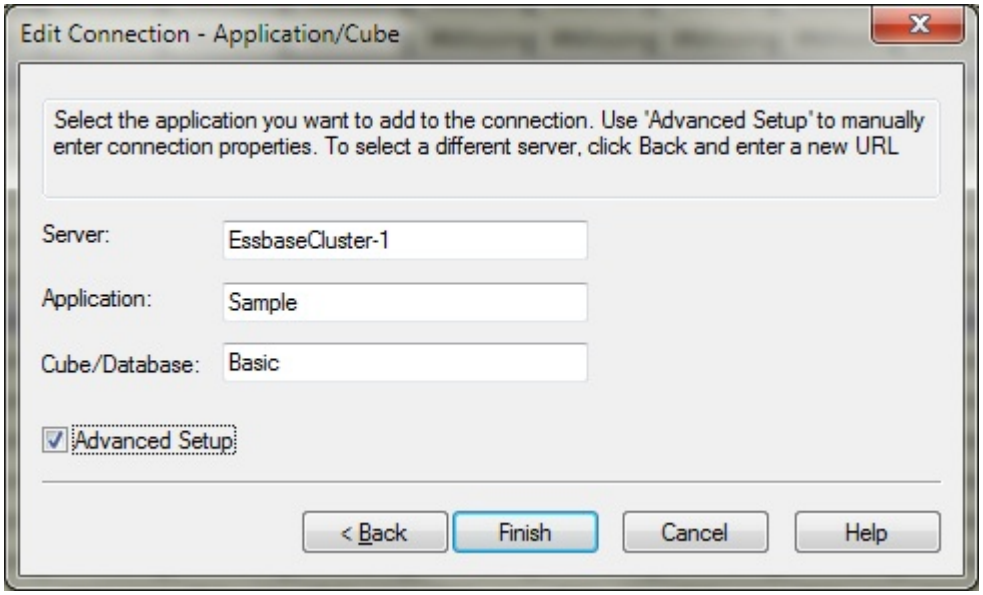
   ウィザードの**「接続の編集 - URL」**ページが表示されます。

4. **「URL」**ドロップダウン・リストで、既存の接続を選択するか、新しい接続 URL を入力します。
5. **「次へ」**をクリックして、**「接続の編集 - アプリケーション/キューブ」**で**「サーバー」**を展開し、プロバイダの要求に応じて、接続先のアプリケーションおよびデータベースに移動します。

   または、**「拡張設定」**チェック・ボックスを選択し、プロバイダの要求に応じて、**「サーバー」**、**「アプリケーション」**および**「キューブ/データベース」**に手動で情報を入力します。

   たとえば、図 1 に、Oracle Essbase アプリケーションおよびデータベースに接続するためのエントリを示します。

図 4-7 接続の編集 - アプリケーション/キューブの拡張設定



6. **「終了」**をクリックします。
7. 「ドキュメント・コンテンツ」ペインの下部の**「リフレッシュ」**リンクを選択します。
8. 変更された接続情報を保存するには、ワークブックを保存します。

   変更された接続情報は、ワークブックを保存するときに保存されます。

> **ノート:**
>
> **Narrative Reporting:** 対象の Excel ドックレットを必ずアップロードしてチェックインしてください。変更された接続情報は、ドックレットをアップロードしてチェック・インすると保存されます。ページ属性とスライド・マスターのアップロードおよび操作およびドックレットのチェックインを参照してください。

Financial Reporting のイメージと完全にフォーマットされたレポートの接続の変更

Oracle Hyperion Financial Reporting の完全にフォーマットされたレポートまたはイメージの接続を**「プライベート接続」**ダイアログを使用して Office ドキュメント内で変更できます。このダイアログには「Smart View」リボンの**「接続」**ボタンからアクセスします。

これは、部門間で Office ドキュメントを共有する場合や、テスト環境から本番環境に移行する際に便利です。

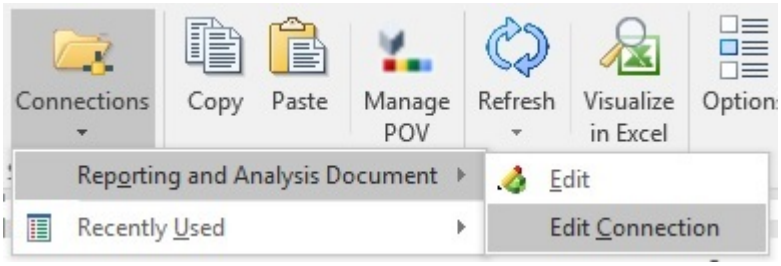
始める前に、次のことを確認してください。

- 変更*先*のデータ・ソースに、元のデータ・ソースと同じフォルダ構造とレポートが含まれている必要があります。
- 次のように Financial Reporting のレポートを処理しています。
  - Excel: 完全にフォーマットされたレポートまたはイメージ
  - PowerPoint および Word: イメージ

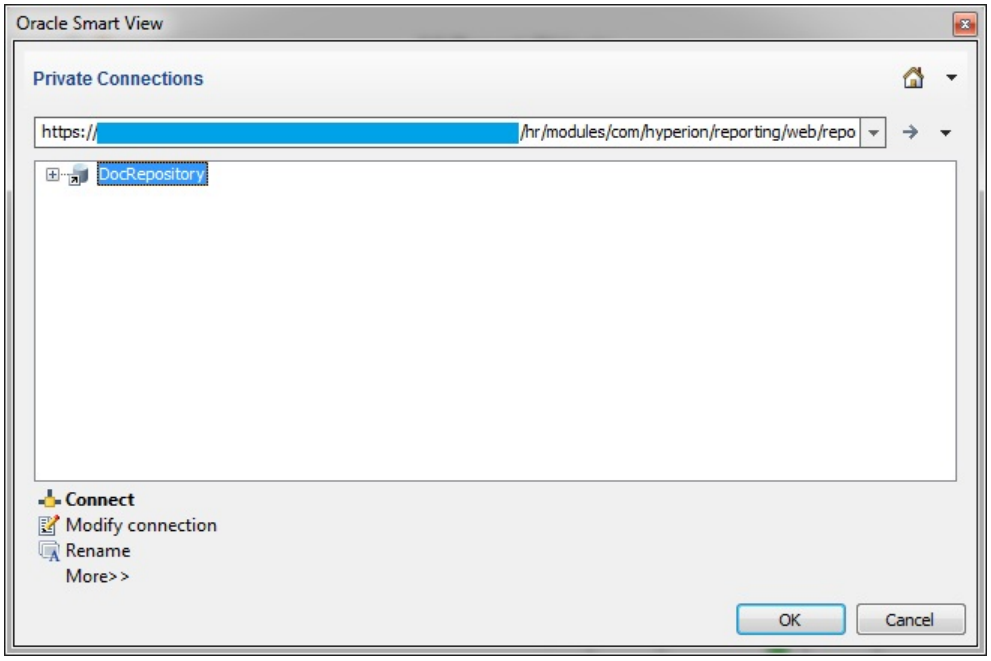
> **ノート:**
>
> この手順は、Excel、Word または PowerPoint の Financial Reporting の完全にフォーマットされたレポートに使用できます。Office ドキュメントで Financial Reporting の問合せ対応レポートおよび関数のグリッドの接続を変更するには、Office ドキュメント内の接続の変更を参照してください。

Financial Reporting のエンティティの接続を変更するには:

1. Word で Financial Reporting のエンティティを 選択します。
2. 「Smart View」リボンで**「接続」**、**「Reporting and Analysis ドキュメント」**、**「接続の編集」**の順に選択します。



3. **「プライベート接続」**ダイアログ・ボックスでドロップダウン・メニューからデータ・ソースを選択し、ツリーでデータ・ソース名を選択して**「OK」**をクリックします。



> **ノート:**
>
> リリースによって Financial Reporting データ・ソースの接続構文は異なります。
>
> - Oracle Hyperion Reporting and Analysis - リリース 11.1.2.4.7xx 以前:
>
>   `http(s)://servername:port/raframework/browse/listXML`
>
> - Oracle Financial Reporting Document Repository - リリース 11.1.2.4.9xx 以降:
>
>   `http(s)://servername:port/hr/modules/com/hyperion/reporting/web/repository/HRRepositoryXML.jsp`

4. ログインするよう求められたら、新規データ・ソースのユーザー名とパスワードを指定します。

   「Workspace ドキュメントのインポート」ダイアログが表示されます。

5. **「Workspace ドキュメントのインポート」**で**終了**ボタンが有効な場合、これをクリックします。
6. Office ドキュメントをリフレッシュします。

   リフレッシュが完了すると、更新されたページの数を示すメッセージが表示されます。

7. Office ドキュメント内の他のエンティティについてこの 手順を繰り返します

接続 URL マッピングの管理

接続 URL マッピングを使用すると、環境間の移行が可能になります。

次も参照:

- 接続 URL マッピングの管理について
- 接続 URL マッピングの追加
- 接続 URL マッピングの更新
- 接続 URL マッピングの削除

接続 URL マッピングの管理について

接続 URL マッピングを使用すると、環境間の移行が可能になります。管理者が、古い接続 URL を新しい URL に置き換えるマッピングを構成します。「プライベート接続」ドロップダウン・メニューからマッピングを管理するには、**「URL マッピングの管理」**オプションを選択します。

マッピング後、Microsoft Excel を再度開くと、プライベート接続と名前付き接続が即座に新しい URL に移行します。この新しいマッピングは、マッピングを削除しても存続します。これらのプライベート接続を使用する関数を伴う保存済のワークブックでは、引き続き新しい URL が使用されます。

アド・ホック・グリッドが含まれている保存済のワークブックの操作

- URL の再マッピングを構成してから(1 回のみ)、Microsoft Excel を再起動します。古い URL を使用していたすべてのワークブックで、自動的に、新しい URL が使用されるようになります。リフレッシュおよびその他の操作が正常に完了するためには、アプリケーション、キューブ名およびアウトラインを同じままにする必要があります。

  つまり、マッピングが作成された後、Excel を再起動し、ワークブックを開いてリフレッシュし、ワークブックを保存します。これにより、ワークブックで常に新しい URL が使用されるようになります。その後、新しいマッピングを使用するワークブックを開いたときには、必ず、そのワークブックでリフレッシュを実行して保存するようにしてください。
- ベスト・プラクティスとして、保存されたワークブックのアド・ホック・シートで新しい URL が保持されるようにするには、リフレッシュを実行してワークブックを保存する必要があります。名前付き接続と名前のない接続の両方について、リフレッシュして保存した後でマッピングを削除しても、新しい URL が引き続き使用されます。
- マッピングを削除する予定があり、保存済シートの名前のない接続でもやはり新しい URL が使用されるようにする必要がある場合は、各シートをアクティブ化してリフレッシュしてから、ワークブックを保存する必要があります。ベスト・プラクティスとして、「すべてのワークシートのリフレッシュ」コマンドを使用してからワークブックを保存することをお薦めします。
- シートをリフレッシュして保存する前にマッピングを削除した場合は、古い URL が使用されます。
- シートをリフレッシュして保存した後にマッピングを削除した場合は、新しい URL が引き続き使用されます。

制限事項

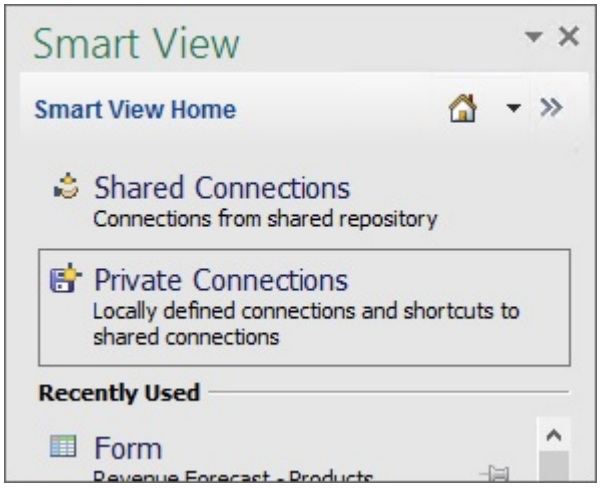
- Oracle Business Intelligence Enterprise Edition および Oracle Analytics Cloud はサポートされていません。

- Oracle Hyperion Financial Management: マッピングは、クラスタ名およびアプリケーションが新しい環境と古い環境で同じである場合にのみ機能します。
- Oracle Essbase オンプレミスと Essbase クラウド: クラウド環境で作成されたシートは、オンプレミス環境では機能しません。または、オンプレミス環境で作成されたシートは、クラウド環境では機能しません。
- ネストした URL マッピングはサポートされていません。
- 適切な URL を入力していることを確認してください。URL エントリは検証されないため、誤った URL エントリが入力される可能性があります。

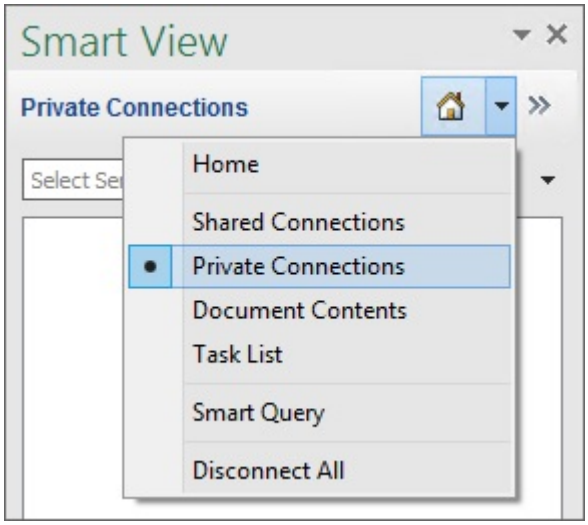
接続 URL マッピングの追加

接続 URL マッピングを追加するには:

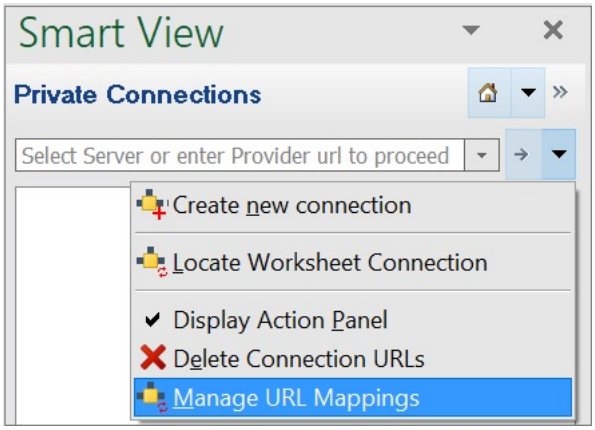
1. Smart View パネルで、「プライベート接続」を選択します。



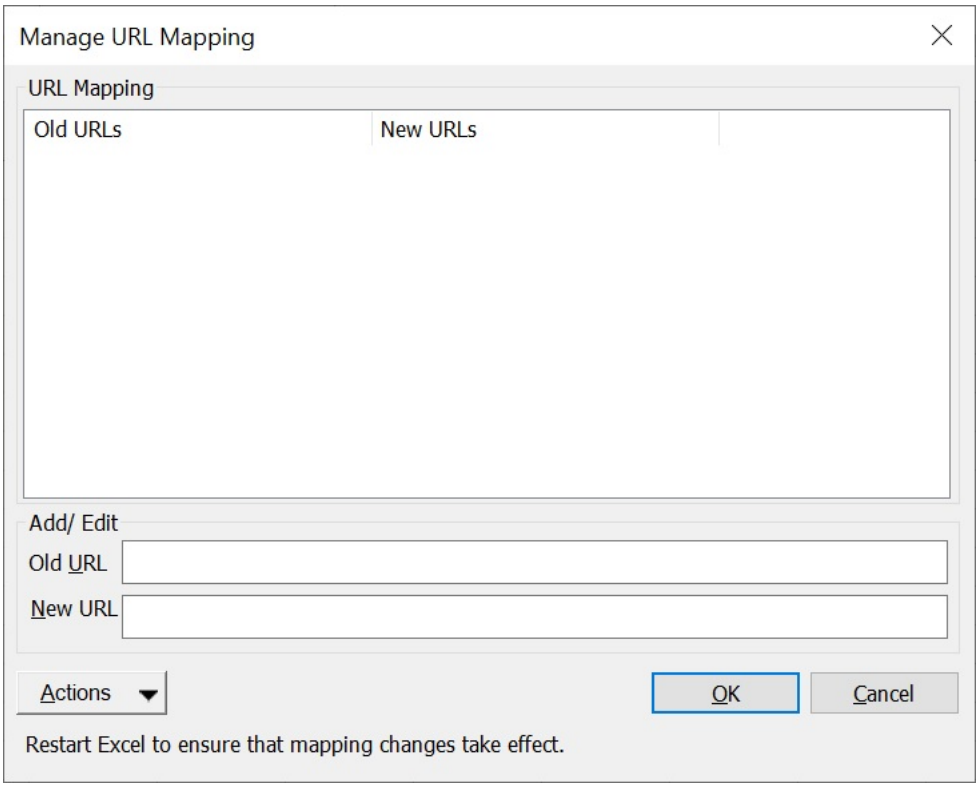
「ホーム」ボタンのドロップダウン・メニューから**「プライベート接続」**を選択することもできます:



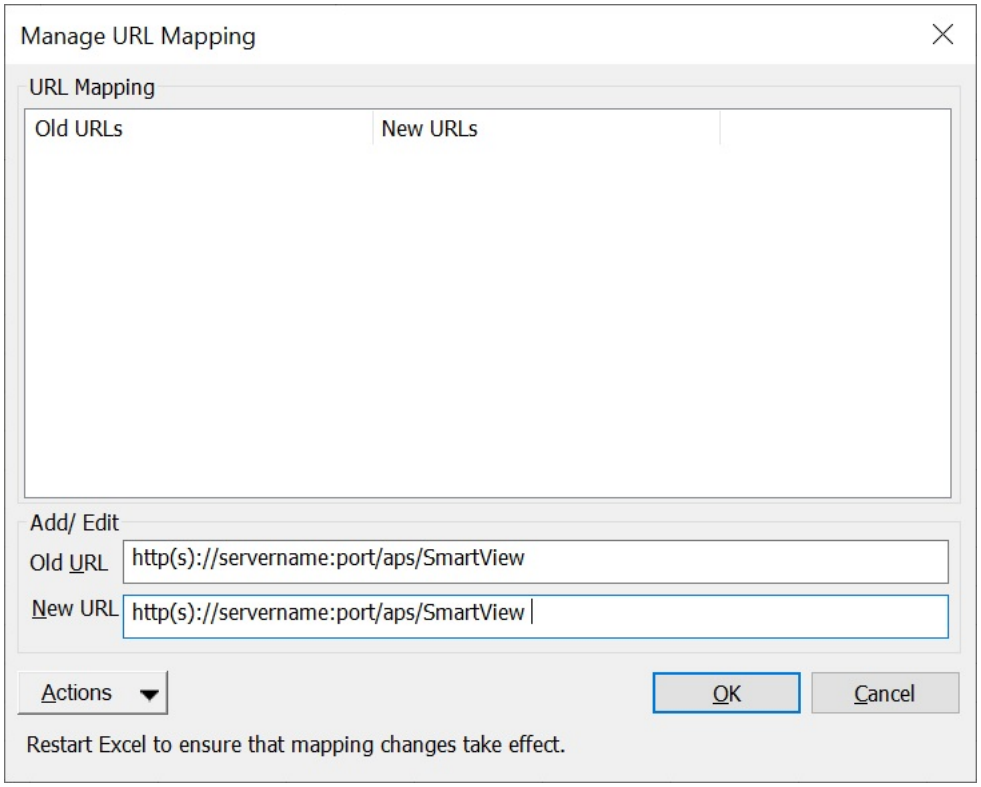
2. の横にある矢印をクリックし、ドロップダウン・リストから**「URL マッピングの管理」**を選択します。



「URL マッピングの管理」ダイアログ・ページが表示されます。



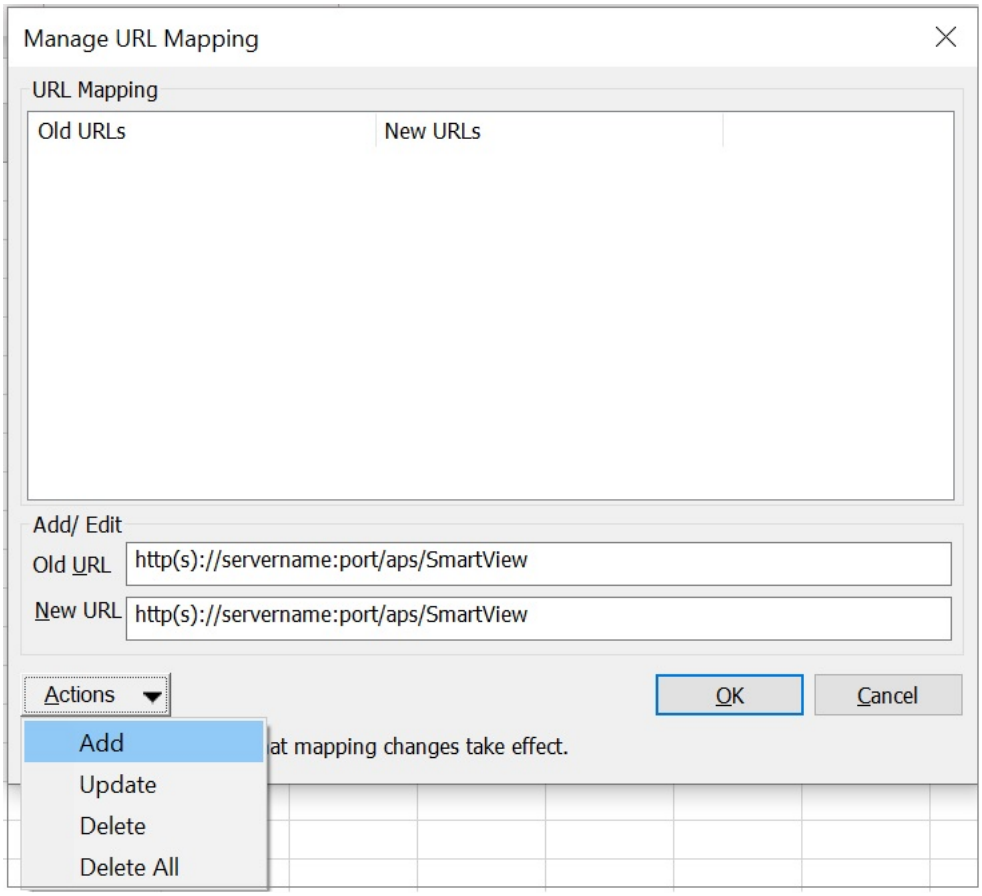
3. **「旧 URL」**フィールドに古い URL を入力します。
4. **「新規 URL」**フィールドに新しい URL を入力します。



5. 

をクリックし、**「追加」**を選択します。

あるいは、**「アクション」**ドロップダウン・メニューから、上下の矢印キーを使用して、**「追加」**にナビゲートし、**[Enter]**を押します。



URL マッピングを正常に追加しました。

6. URL マッピングを追加した後、Microsoft Excel を再起動して、マッピングの変更を確実に反映させます:
   a. 新しいマッピングを使用するワークブックを開きます。
   b. ワークブックをリフレッシュします。ワークブックに複数のシートが含まれる場合は、「すべてのワークシートのリフレッシュ」コマンドを使用します。
   c. ワークブックを保存します。

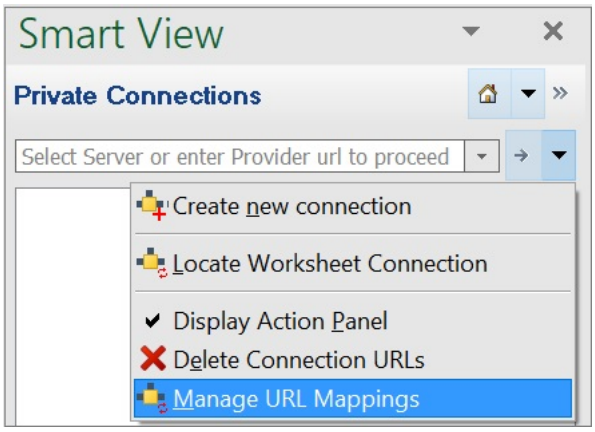
接続 URL マッピングの更新

接続 URL マッピングを更新するには:

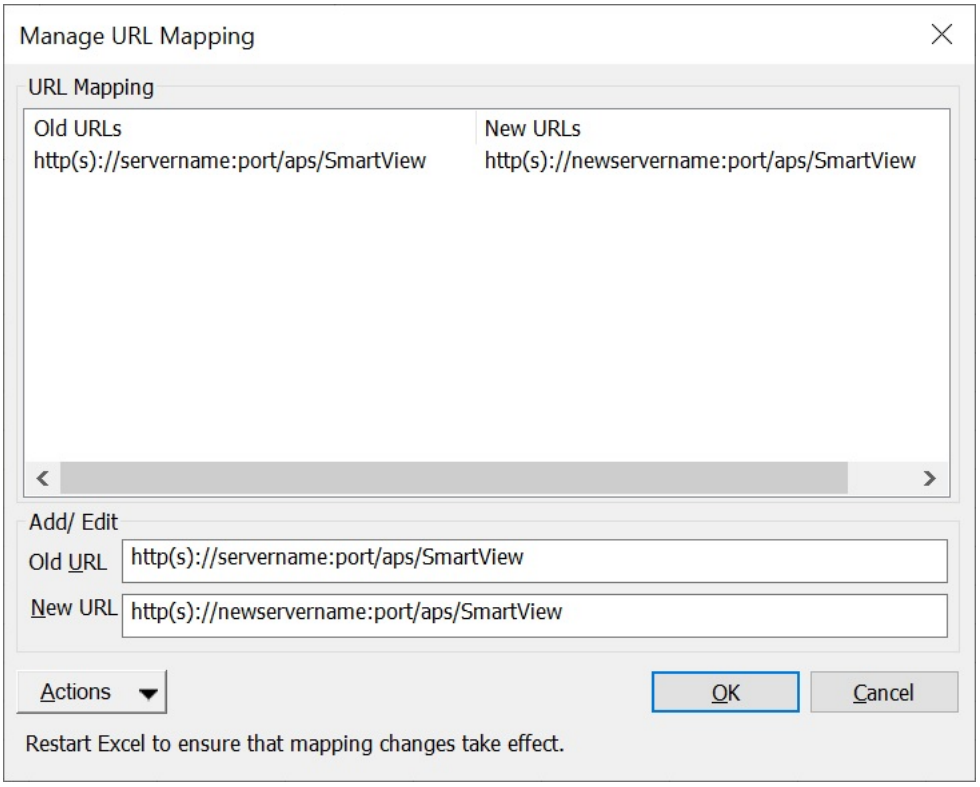
1. Smart View パネルで、「プライベート接続」を選択します。

   「ホーム」ボタンのドロップダウン・メニューから**「プライベート接続」**を選択することもできます:

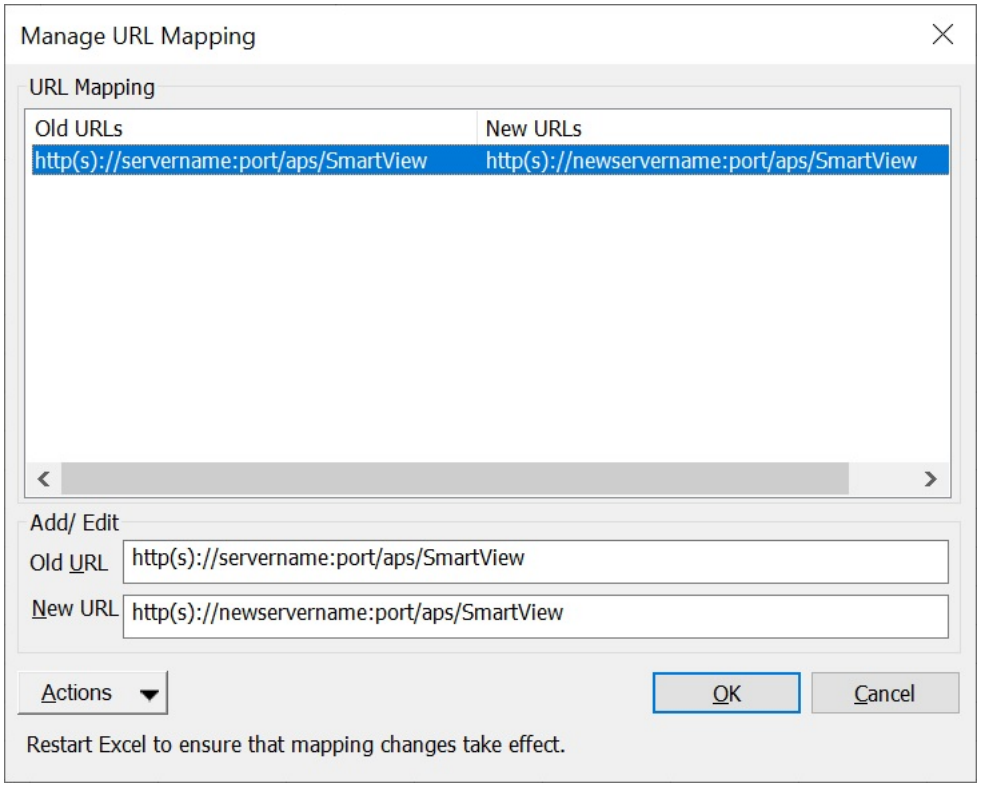
2. の横にある矢印をクリックし、ドロップダウン・リストから**「URL マッピングの管理」**を選択します。



追加された URL マッピングのリストを含む**「URL マッピングの管理」**ダイアログ・ページが表示されます。



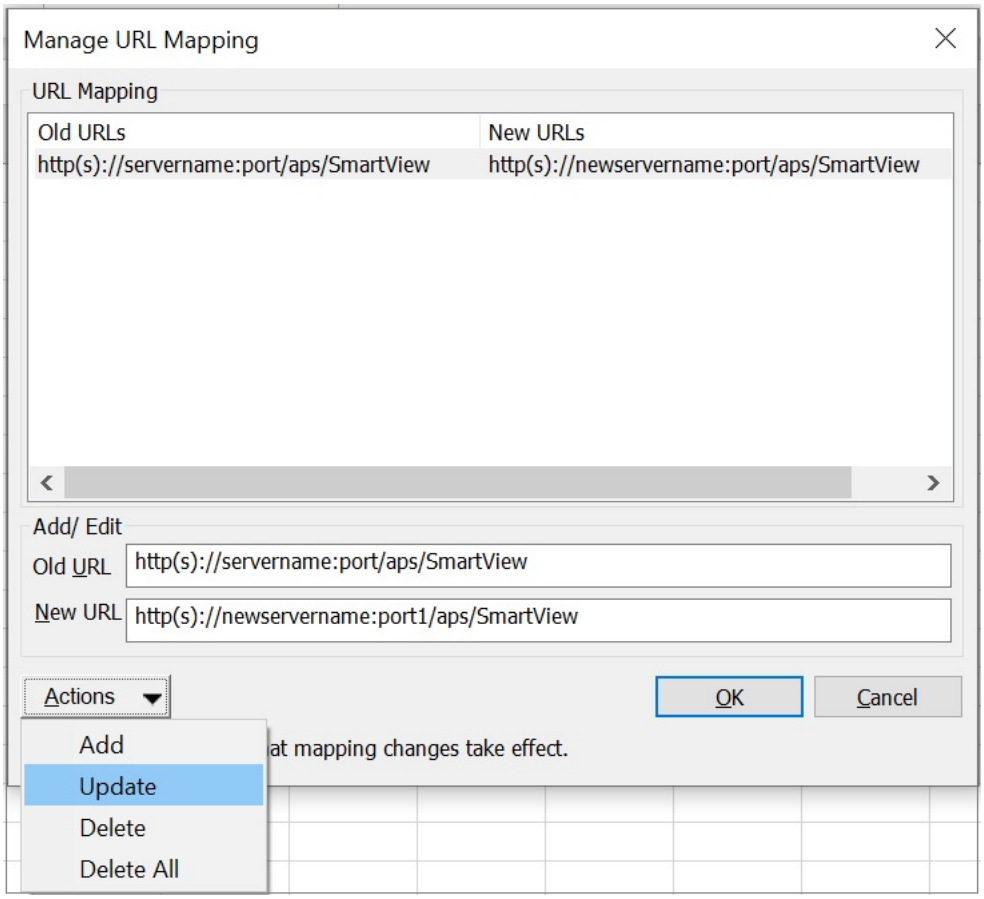
3. 更新する URL マッピングをリストから選択し、要件に従って更新します。



4. 

をクリックし、**「更新」**を選択します。

または、**「アクション」**ドロップダウン・メニューから、上下の矢印キーを使用して**「更新」**に移動し、[Enter]を押します。



URL マッピングを正常に更新しました。

5. URL マッピングの更新後、Microsoft Excel を再起動します。次に、更新されたマッピングが反映されていることを確認するには:
   a. 更新されたマッピングを使用するワークブックを開きます。
   b. ワークブックをリフレッシュします。ワークブックに複数のシートが含まれる場合は、「すべてのワークシートのリフレッシュ」コマンドを使用します。
   c. ワークブックを保存します。

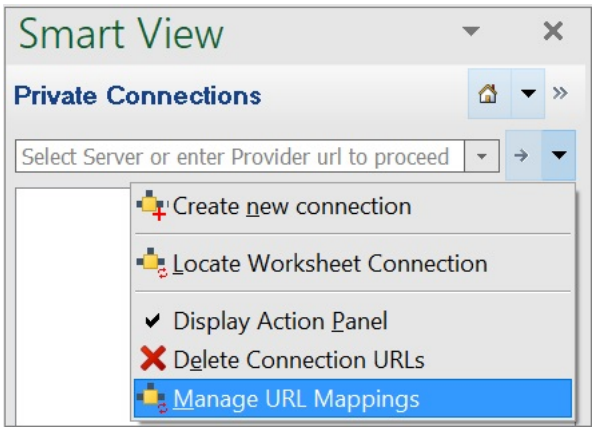
接続 URL マッピングの削除

接続 URL マッピングを削除するには:

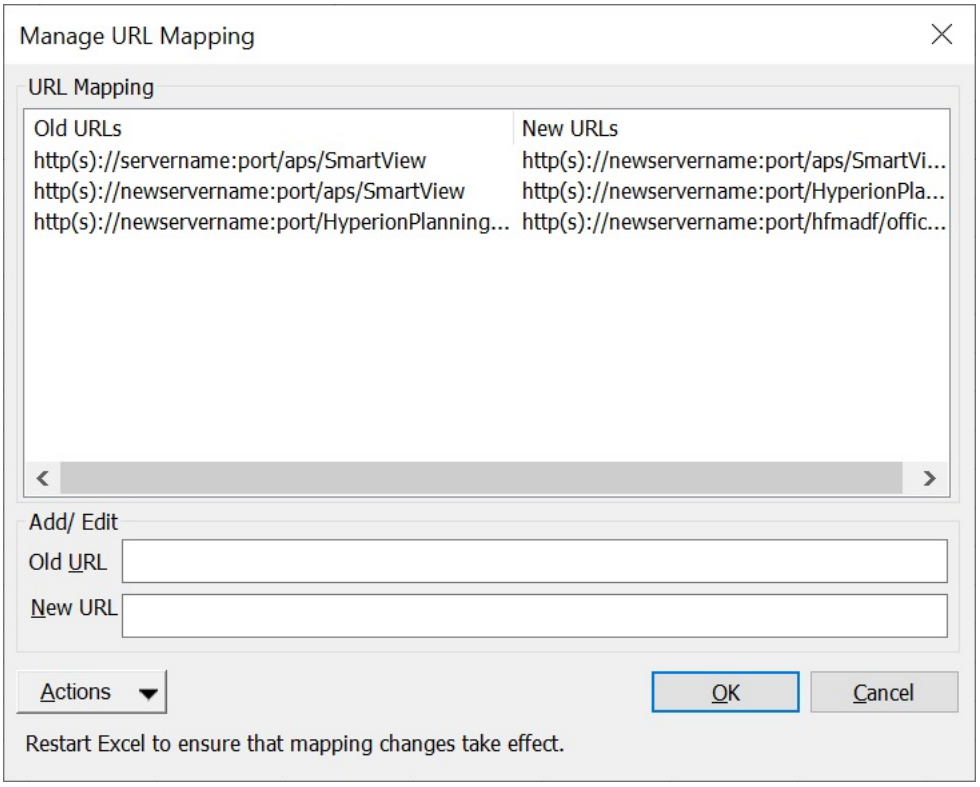
1. Smart View パネルで、「プライベート接続」を選択します。

   「ホーム」ボタンのドロップダウン・メニューから**「プライベート接続」**を選択することもできます:

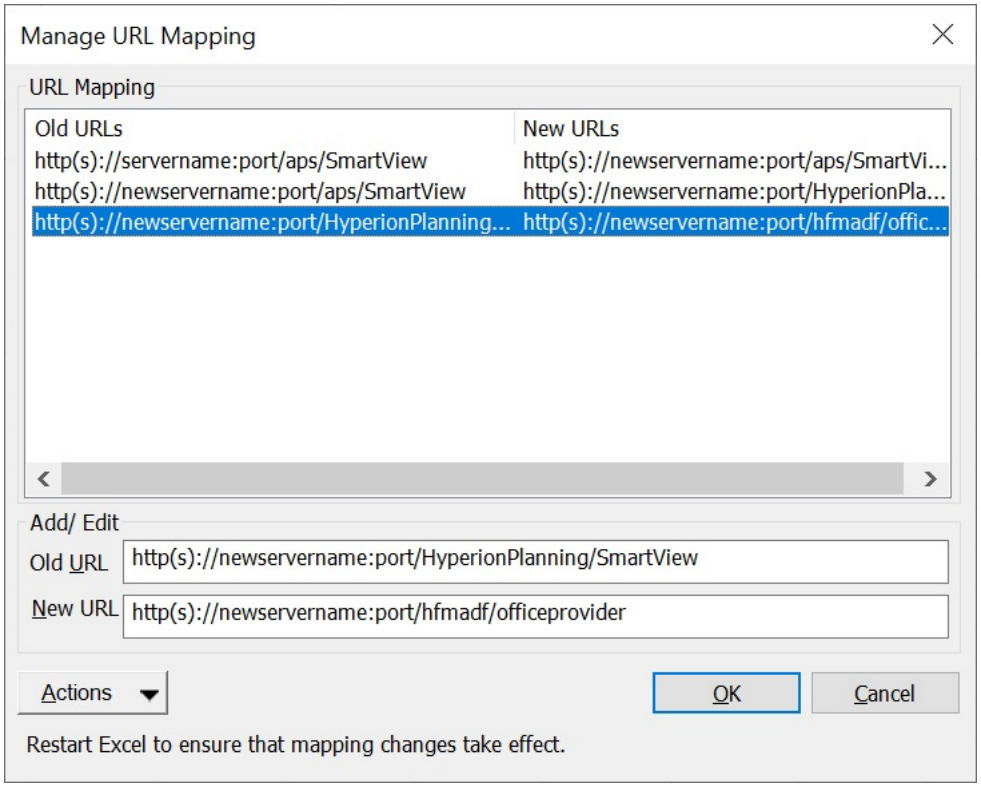
2. の横にある矢印をクリックし、ドロップダウン・リストから**「URL マッピングの管理」**を選択します。



追加された URL マッピングのリストを含む**「URL マッピングの管理」**ダイアログ・ページが表示されます。



3. 削除する URL マッピングをリストから選択します。



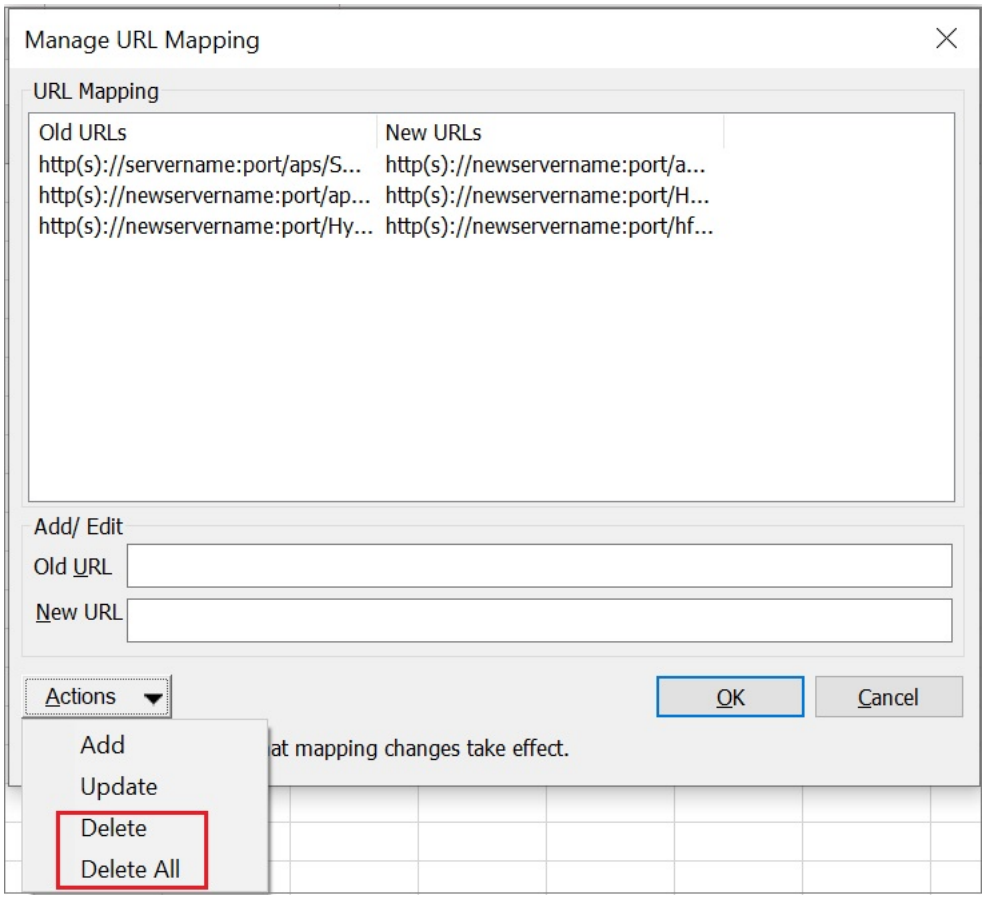
4. 

をクリックして、選択します。

   a. URL マッピングを削除する場合は、**「削除」**。

   b. すべての URL マッピングを削除する場合は、**「すべて削除」**。

   または、**「アクション」**ドロップダウン・メニューから、上下の矢印キーを使用して**「削除」**または**「すべて削除」**に移動し、[Enter]を押します。



URL マッピングを正常に削除しました。

接続の削除

「接続 URL の削除」ダイアログ・ボックスで接続を削除します。

次も参照:

- 接続 URL の削除について
- 接続 URL の削除

接続 URL の削除について

「接続 URL の削除」ダイアログ・ボックスを使用して接続を削除できます。

次の接続 URL タイプを削除できます:

- クイック作成方法を使用して作成されたプライベート接続 URL
- 共有接続 URL
- 拡張機能の更新 URL

接続 URL を削除する際は、次のガイドラインを理解しておいてください:

- 接続 URL の削除の説明に従って接続 URL を削除するには、Oracle Smart View for Office 11.1.2.5.620+が必要です。

- 削除する URL タイプにかかわらず、プロセスを開始するには、Smart View パネルがプライベート接続モードである必要があります。
- プライベート接続ウィザードを使用して作成されたプライベート接続は削除できません。
- まず「削除」をクリックして、次に「OK」をクリックして、削除を受入れます。「削除」をクリックしただけでは、接続または拡張機能の更新 URL は完全に削除されません。
- 削除操作を取り消すには、[Esc]キーを押すか、ダイアログの右上隅にある[X]ボタンをクリックします。
- 「削除」ボタンを先にクリックせずに「OK」ボタンをクリックした場合、アクションを取り消したことと同じになり、何も削除されません。
- 共有接続 URL を削除する場合、「オプション」ダイアログの「詳細」タブの「共有接続 URL」フィールドに現在表示されている URL は削除されません。
- データ・ソース・プロバイダによって、拡張機能の更新を取得できる URL が Smart View に提供されると、この URL は、ローカル・ユーザーの Smart View プロパティ・ファイルに追加されます。これは、ユーザーがプライベート接続を作成する場合のみ発生します。

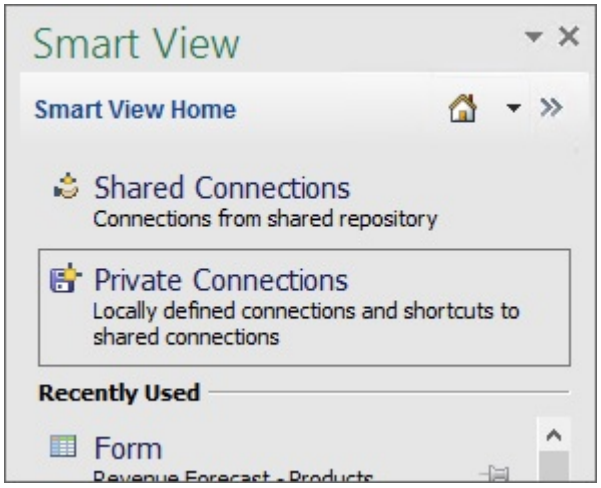
  もう使用されていない、または廃止されているサーバーに属している URL を Smart View が更新対象として問い合せないように、これらを削除したい場合があります。

  削除された URL を再度使用する必要がある場合、次にそのプロバイダにプライベート接続が行われたときに、この URL はローカル・ユーザーのプロパティ・ファイルに追加されます。

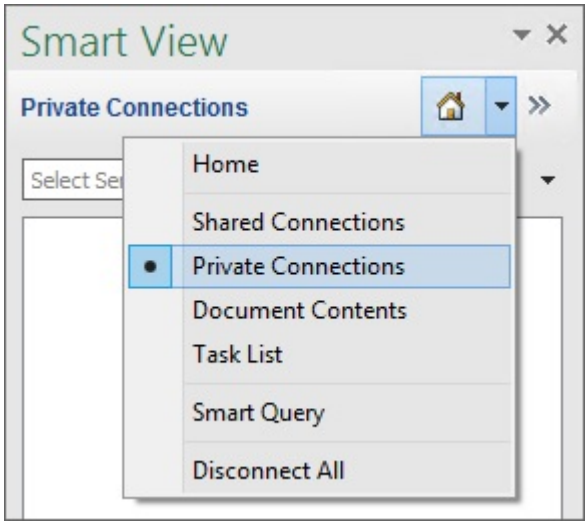
接続 URL の削除

接続 URL を削除するには:

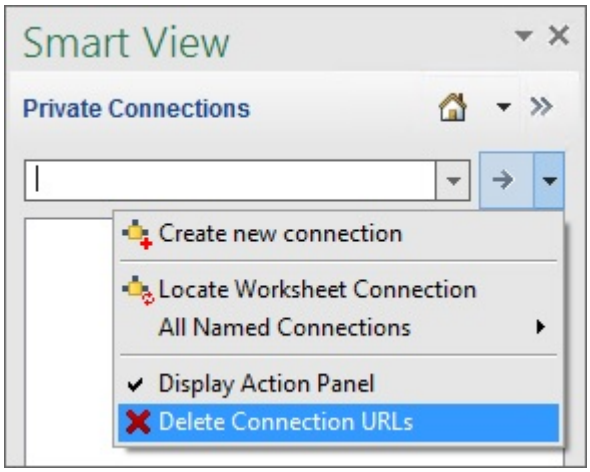
1. Smart View パネルで、「プライベート接続」を選択します。



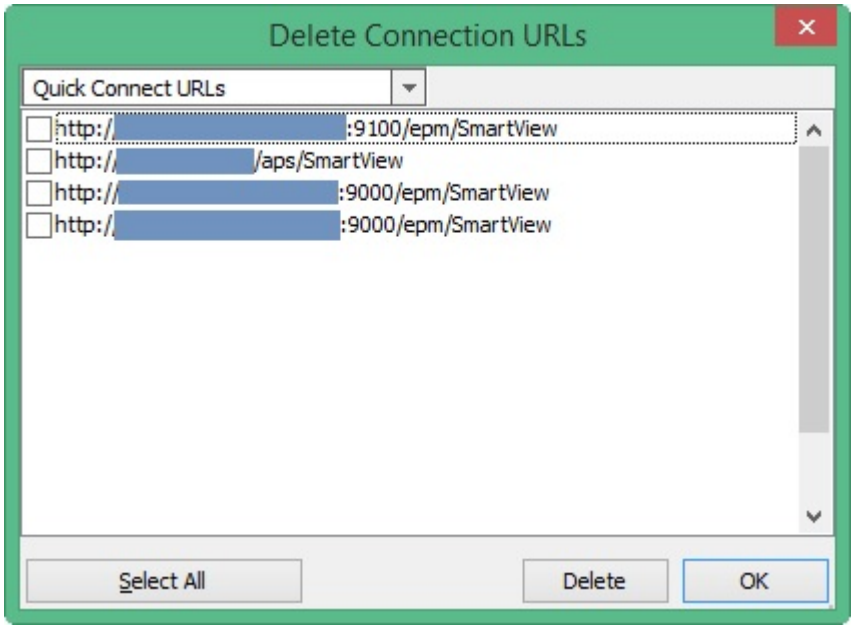
「ホーム」ボタンのドロップダウン・メニューから**「プライベート接続」**を選択することもできます:



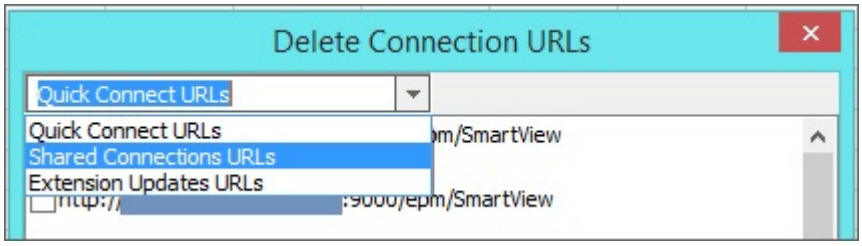
2. の隣の矢印をクリックし、ドロップダウン・リストから**「接続 URL の削除」**を選択します。



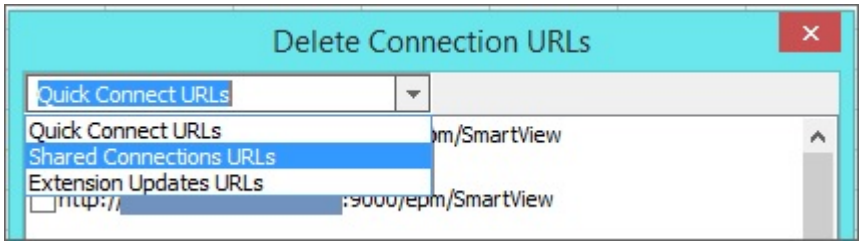
「接続 URL の削除」ダイアログ・ボックスが表示されます。クイック接続方法を使用して作成された接続がデフォルトで表示されます:



削除する共有接続 URL を選択するには、ドロップダウン矢印をクリックして、**「共有接続 URL の変更」**を選択します。



削除する拡張機能の更新 URL を選択するには、ドロップダウン矢印をクリックして、**「拡張機能の更新 URL」**を選択します:



3. **「接続 URL の削除」**ダイアログ・ボックスで、削除する URL の隣のチェック・ボックスを選択して、**「削除」**をクリックします。

   削除対象に指定されたタイプのすべての URL を選択するには、**「すべて 選択」**ボタンをクリックして、次に**「削除」**をクリックします。

> **ノート:**
>
> **「すべて選択」**ボタンを使用してすべての共有接続 URL を削除する場合、「オプション」ダイアログの「詳細」タブの「共有接続 URL」フィールドに現在表示されている URL は削除されません。
>
> 選択した削除を取り消すには、次のステップに進まずに**[Esc]**を押すか、ダイアログの右上隅にある[X]ボタンをクリックします。

削除する URL を選択し、**「削除」**をクリックしてから、URL タイプを切り替え、さらに選択し、「削除」をクリックしてから、完全に削除される次のステップに進みます。

4. 削除を受け入れるには、**「OK」**をクリックします。

「削除」をクリックしただけでは、接続または拡張機能の更新 URL は完全に削除されません。削除を受け入れるには**「OK」**をクリックする必要があります。

5

Smart View のオプション

次も参照:

- Smart View のオプションの設定
  Oracle Smart View for Office のオプションは、**「オプション」**ダイアログで設定します。
- グローバル・オプションとシート・レベル・オプション
  Oracle Smart View for Office には、*グローバル・オプション*と*シート・オプション*の 2 つのタイプのオプションがあります。
- メンバー・オプション
  「メンバー・オプション」は、メンバー・セルの表示を制御します。
- データ・オプション
  「データ・オプション」は、データ・セルの表示を制御します。
- 詳細オプション
  「詳細設定オプション」は、管理タスクや他の高度なタスクの設定です。
- フォーマット・オプション
  「フォーマット」オプションは、メンバーとデータのテキスト表示を制御します。
- セルのスタイル
  「セルのスタイル」は、特定のタイプのメンバーやデータ・セルの表示を制御します。
- 拡張機能
  「拡張機能」には、現在コンピュータにインストールされている拡張機能がリストされ、拡張機能をインストール、更新および削除するためのオプションがあります。

Smart View のオプションの設定

Oracle Smart View for Office のオプションは、**「オプション」**ダイアログで設定します。

Smart View のリボンの**「オプション」**ボタンをクリックして、**「オプション」**ダイアログを開きます。

図 5-1 Smart View のリボンの「オプション」ボタン



ビデオ

目的	このビデオを見る
Smart View のオプションなど、Smart View でのナビゲートについて学習します。	Smart View のナビゲート

グローバル・オプションとシート・レベル・オプション

Oracle Smart View for Office には、*グローバル*・オプションと*シート*・オプションの 2 つのタイプのオプションがあります。

- グローバル・オプション
- シート・オプション

グローバル・オプション

グローバル・オプションは、現在のワークブック全体(現在のワークブックに追加された*新しい*ワークシートを含む)、および今後作成されるワークブックに適用されるオプションです。

グローバル・オプションの設定を変更すると、*既存*のワークシートおよびワークブック、その他の Office ドキュメントに影響があります。

グローバル・オプションは次のとおりです:

- 詳細オプション
- 拡張機能
- セルのスタイル

> **ノート:**
>
> グローバル・オプションを保存する際には、**「OK」**ボタンを使用します。グローバル・オプションの変更は、すべての既存および新規のワークシートやワークブックのデフォルト設定となるため、これらのグローバル・オプションで、**「デフォルト・オプションとして保存」**または**すべてのワークシートに適用**を使用する必要はありません。**「デフォルト・オプションとして保存」**および**すべてのワークシートに適用**は、シート・レベルのオプション設定でのみ使用されます。

シート・オプション

シート・レベル・オプションは、設定しているワークシートに固有のオプションです。シート・オプションは、Excel でのみ適用可能です。Word または PowerPoint では、シート・オプションを設定しません。

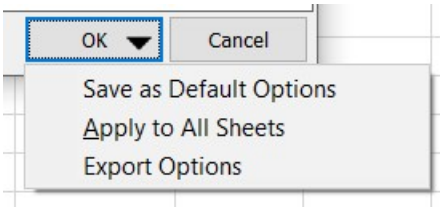
これらのオプションはシート・レベル・オプションの保存に使用できます:

- **OK** - シート・レベル・オプションの変更は、現在のワークブックの現行シートにのみ適用されます。変更内容は、現在のワークブックの既存シートまたは新規シートには適用されません。既存のワークブックや新しいワークブックにも影響しません。

  PowerPoint または Word では、**「OK」**は、**「詳細」**タブで行った選択(グローバル・オプションであり、シート・オプションではありません)にのみ適用されます。

また、**「オプション」**ダイアログ・ボックスの**「OK」**ボタンの矢印をクリックして、**「デフォルト・オプションとして保存」**、**すべてのワークシートに適用**および**「オプションのエクスポート」**に Excel でアクセスします。

図 5-2 「OK」ボタンのコマンド



- **デフォルト・オプションとして保存** - シート・レベル・オプションの変更は、現在のワークブックの*新規*ワークシート、*新規*ワークブック、およびその他の新規 Office ドキュメントのデフォルトのオプション設定にもなります。シート・レベル・オプションの設定を変更しても、*既存*のワークシートまたはワークブックには影響しません。

  たとえば Excel で、メンバー・オプションを変更し、**「デフォルト・オプションとして保存」**を選択したとします。ワークブック内の既存のワークシートにその変更を伝播する場合は、既存の各ワークシートに個別にアクセスし、同じ変更を行う必要があります。これにより、ワークシートごとに、異なるシート・レベル・オプションを使用できます。ただし、変更内容は、現在のワークブックに作成する新規ワークシート、新規ワークブックに自動的に伝播されます。

  > **ノート:**
  >
  > PowerPoint または Word では、**「デフォルト・オプションとして保存」**オプションを使用できません。

- **すべてのワークシートに適用** - シート・レベル・オプションの変更は、現在のワークブックに存在する、Oracle Smart View for Office コンテンツを含むすべての*既存*ワークシートに適用されます。現在のワークブック内の新規ワークシート、その他の*既存*ワークブック、または*新規*ワークブックには適用されません。

  たとえば、メンバー・オプションを変更し、**「すべてのシートに適用」**を選択したとします。変更内容は、現在のワークブックに存在する、Smart View コンテンツを含むすべての既存ワークシートに伝播されます。これにより、現在のワークブックのシート・レベル・オプションのクイック更新が可能になります。ただし、それらの変更は、現在のワークブックの新規ワークシート、既存のワークブックまたは新規ワークブックには伝播されません。

  > **ノート:**
  >
  > PowerPoint または Word では、**すべてのワークシートに適用**オプションを使用できません。

- **オプションのエクスポート**—このオプションは、サービス管理者が、デフォルト・オプションを設定してそれをユーザーへの配布用に `options.xml` ファイルにエクスポー

トするために使用します。これは、組織のユーザー全体に Smart View 構成が一貫して適用されるようにするためです。

サービス管理者として、**「オプション」**ダイアログで使用できる**「メンバー・オプション」**、**「データ・オプション」**、**「詳細」**および**「フォーマット」**タブにあるオプションをエクスポートできます。ただし、**「セルのスタイル」**タブにある構成と、**「詳細」**タブにある**「共有接続 URL」**はエクスポートできません。

> **ノート:**
>
> * **「オプションのエクスポート」**オプションは、PowerPoint および Word では使用できません。
> * このオプションは、**cfg** フォルダへの書込みアクセス権がある場合にのみ表示されます。

- **リセット** — オプションは、サービス管理者が配布する `options.xml` ファイルが `<SmartView Install>/cfg` フォルダ(例: `C:\Oracle\SmartView\cfg`)に存在するかどうかに応じてリセットされます:
  - `options.xml` ファイルが存在しない場合は、**「リセット」**によって Smart View のオプションがそれぞれのシステム・デフォルトに戻されます。
  - `options.xml` ファイルが存在する場合は、**「リセット」**によって、サービス管理者が設定したオプションが使用されます。

> **ノート:**
>
> ベスト・プラクティスとして、`options.xml` ファイルのオプションを手動で変更することは、エラーや不一致の原因となる可能性があるため、お薦めしません。`options.xml` ファイルに手動で変更を加えた場合は、**「リセット」**をクリックすると次のエラー・メッセージが表示されることがあります: *「オプション・データが一致しません。cfg/options.xml を確認してください」*。

「リセット」をクリックした後は、Office アプリケーションを閉じて再度開き、デフォルト・オプションを確認します。

*『Oracle Smart View for Office インストレーションおよび構成ガイド』*のデフォルトの Smart View オプションのエクスポートも参照してください。

シート・レベル・オプションは次のとおりです:

- メンバー・オプション
- データ・オプション
- フォーマット・オプション

メンバー・オプション

「メンバー・オプション」は、メンバー・セルの表示を制御します。

「メンバー・オプション」はシート・レベルのオプションで、設定しているワークシートに固有です。

> **ノート:**
>
> すべてのデータ・プロバイダで、表 1 にリストされているすべてのオプションがサポートされているわけではありません。特定のプロバイダでサポートされているオプションを見つけるには、この項のサブトピックを参照してください。

表 1 に記載されているメンバー・セルの表示オプションを設定するには、Smart View のリボンで**「オプション」**をクリックし、左パネルで**「メンバー・オプション」**を選択します。終了したら、変更を保存するための選択を行います:

- **OK**
- **デフォルト・オプションとして保存**
- **すべてのワークシートに適用**

> **ノート:**
>
> PowerPoint または Word では、**すべてのワークシートに適用**オプションを使用できません。

前述のオプションの完全な説明は、シート・オプションを参照してください。

表 5-1 メンバー・オプション

オプション	説明
全般	**全般**
ズーム・イン・レベル	ドロップダウン・メニューから次のいずれかを選択し、アド・ホック分析のデフォルトのズーム・レベルを指定します: • **「次のレベル」**を選択すると、選択したメンバーの子のデータが取得されます • **「すべてのレベル」**を選択すると、選択したメンバーのすべての子孫のデータが取得されます • **「最下位レベル」**を選択すると、ディメンション内の最下位レベルのメンバーのデータが取得されます。 • **「兄弟レベル」**を選択すると、選択したメンバーと同一レベルのすべてのメンバーのデータが取得されます • **「同一レベル」**を選択すると、選択したメンバーの兄弟のデータが取得されます • **「同世代」**を選択すると、選択したメンバーと同じ世代のすべてのメンバーのデータが取得されます • **「式」**を選択すると、選択したメンバーの式で定義されたすべてのメンバーのデータを取得できます。式は、親へのメンバー式あるいは集計でも可能です。

表 5-1 (続き) メンバー・オプション

オプション	説明
メンバー名の表示	ドロップダウン・メニューから次のいずれかを選択し、セルのメンバー名の表示方法を指定します: • **「メンバー名または別名」**を選択すると、メンバー名のみ(別名表が使用されている場合、別名のみ)が表示されます。 **Oracle Essbase および Narrative Reporting:** 重複メンバー・データベースに接続し、クエリー・デザイナ(Essbase のみ)またはアド・ホック・グリッドを起動するときに、これがデフォルトであることに注意してください。**「個別のメンバー名のみ」**オプションを選択し、デフォルトとして設定した場合でも、これがデフォルトです。 • **「個別のメンバー名のみ」**を選択すると、完全修飾名が表示されます。 • **「メンバー名と別名」**を選択すると、メンバー名とその別名が表示されます • **メンバー名と説明のみ**を選択すると、メンバー名とその別名が同じセル内に表示されます(Oracle Hyperion Financial Management にのみ該当) • **「説明のみ」**を選択すると、別名が表示されます
インデント	ドロップダウン・メニューから次のいずれかを選択し、階層レベルのインデント方法を指定します: • **なし** • **「サブアイテム」**を選択すると、子孫がインデント表示されます。 祖先は列では左揃え、列ヘッダーでは上揃えになります。 • **「合計」**を選択すると、祖先がインデント表示されます。 子孫は列では左揃え、列ヘッダーでは上揃えになります。

> **ノート:**
>
> Cloud EPM 21.02 以上の標準モード・アプリケーションのみ: **「サブアイテム」**オプションまたは**「合計」**オプションを選択した場合は、**「Excel インデントの使用(アド・ホック標準モード)」**チェック・ボックスも選択する必要があります。

表 5-1 (続き) メンバー・オプション

オプション	説明
祖先の位置	ドロップダウン・メニューから次のいずれかを選択し、階層内の祖先の位置を指定します: • **「最上位」**を選択すると、最上位レベルから最下位レベルの順序で階層が表示されます。 • **「最下位」**を選択すると、最下位レベルから最上位レベルの順序で階層が表示されます。 アド・ホック・グリッドでの祖先の位置の指定を参照してください。 **ノート:** Essbase (オンプレミス)は、**「祖先の位置」**オプションをサポートしていません。
Excel インデントの使用(アド・ホック標準モード)	Cloud EPM 21.02 以上の標準モード・アプリケーションのみ: アド・ホック・グリッドのインデントで使用されたネイティブ Excel フォーマットを保持します。 このオプションは、**「インデント」**オプションと組み合せて使用されます。**「インデント」**が**「サブアイテム」**または**「合計」**に設定された場合は、インデントで使用される空白スペースによって 一部のユーザーに問題が発生することがあります。**Excel インデントの使用**を有効にすると、小計および合計のインデントが正しく処理されます。
メンバーの保持	**メンバーの保持** ズーム時に表示するメンバーの選択を参照してください。
選択を含める	選択したメンバーと、操作の結果として取得されたメンバーを表示します。
選択したグループ内	選択したセル・グループでのみアド・ホック操作が実行され、選択していないセル・グループはそのまま残ります。この設定は、グリッドの下に行として、またはグリッドを超えて列として、複数のディメンションがある場合にのみ有用です。**「ズーム」**、**「選択項目のみ保持」**、および**「選択項目のみ除去」**で使用します。
選択されていないグループの除去	**「ズーム・イン」**または**「ズーム・アウト」**では、選択したメンバー、およびズームの結果として取得されたメンバーを除くすべてのディメンションとメンバーが除去されます。
コメントと式	**コメントと式**

表 5-1 (続き) メンバー・オプション

オプション	説明
アドホック操作の式とコメントを保持(ピボットと元に戻すを除く)	問合せ中に、グリッドに式とコメントが保持されます。このオプションをクリアにすると、問合せを高速で実行できますが、式とコメントは除去または無視されます。 このオプションを選択しているかどうかにかかわらず、式はピボットまたは取消し操作用に保持されないことに注意してください。 **「式の充てん」**または**「拡張コメント処理を有効にする」**が選択されている場合は、このオプションを選択する必要があります。 **ノート:** このオプションは、メンバーとデータ・セルの両方の式に適用されます。
式の充てん	メンバー・セルに関連付けられている式を、ズーム・インの結果として取得されたメンバーに伝播します。 **「アドホック操作の式とコメントを保持(ピボットを除く)」**と**「Excel フォーマットの使用」**の両方が選択されている場合、セルのフォーマットがズーム・インの結果として取得されたメンバーに伝播されます。 **ノート:** このオプションは、メンバーとデータ・セルの両方の式に適用されます。
コメントと不明メンバーの保持	**Essbase のみ:** スプレッドシートには、データベース・メンバーと一致しないメンバーが含まれている可能性があります。このオプションを選択すると、コメントまたは不明メンバーに関する警告メッセージなしでアド・ホック・グリッドをリフレッシュできます。 コメントおよび不明メンバーに関するメッセージを表示するには、このオプションがクリアされていることを確認してください。 このオプションがクリアされている場合、このダイアログの**「拡張コメント処理を有効にする」**オプションと Essbase リボンの**「コメントの表示」**オプションの両方が、このアド・ホック・シートで使用できないことに注意してください。

表 5-1 (続き) メンバー・オプション

オプション	説明
拡張コメント処理を有効にする	コメントが含まれているアド・ホック・グリッドでコメントとメンバー名をレビューし、修正できます。
POV 変更時に式を保存	リフレッシュしたり、POV に変更を加えると、セルの式が保持されます。それ以外の場合、グリッドの式は失われます。 追加情報は、POV 変更後に式を保存を参照してください。
フレックス・フォーム: POV およびユーザー変数の変更時にグリッドを保持	POV またはユーザー変数の変更後、変更されたメンバーをフレックス・フォームに保持します。 このオプションが選択されていないと、フレックス・フォームに追加した行または列は POV またはユーザー変数の変更時に削除されます。 詳細は、POV またはユーザー変数の変更後のフレックス・フォームでの変更されたメンバーの保持を参照してください。

後に続く項では、プロバイダでサポートされているメンバー・オプションを示しています。

Cloud EPM フォームおよびアド・ホックでサポートされているメンバー・オプション

Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management には、次のビジネス・プロセスが付属しています: Enterprise Profitability and Cost Management、フリーフォーム、Financial Consolidation and Close、Planning、Planning モジュール、Tax Reporting

Table 5-2　Cloud EPM フォームおよびアド・ホックでサポートされているメンバー・オプション

オプション	フォーム	アド・ホック
ズーム・イン・レベル: 次のレベル	いいえ	はい
ズーム・イン・レベル: すべてのレベル	いいえ	はい
ズーム・イン・レベル: 最下位レベル	いいえ	はい
ズーム・イン・レベル: 兄弟レベル	いいえ	**Smart View の「アド・ホック動作」**オプションが**「標準」**に設定されている場合: はい **Smart View の「アド・ホック動作」**オプションが**「ネイティブ」**に設定されている場合: いいえ

Table 5-2 (Cont.) Cloud EPM フォームおよびアド・ホックでサポートされているメンバー・オプション

オプション	フォーム	アド・ホック
ズーム・イン・レベル: 同一レベル	いいえ	**Smart View の「アド・ホック動作」**オプションが**「標準」**に設定されている場合: はい **Smart View の「アド・ホック動作」**オプションが**「ネイティブ」**に設定されている場合: いいえ
ズーム・イン・レベル: 同一世代	いいえ	**Smart View の「アド・ホック動作」**オプションが**「標準」**に設定されている場合: はい **Smart View の「アド・ホック動作」**オプションが**「ネイティブ」**に設定されている場合: いいえ
ズーム・イン・レベル: 式	いいえ	いいえ
メンバー名の表示: メンバー名のみ	はい	はい
メンバー名の表示: 個別のメンバー名	いいえ	はい
メンバー名の表示: メンバー名と別名	**Smart View の「アド・ホック動作」**オプションが**「標準」**に設定されている場合: はい **Smart View の「アド・ホック動作」**オプションが**「ネイティブ」**に設定されている場合: いいえ **Note:** **「メンバー名と別名」**は、フレックス・フォームではサポートされていません。	**Smart View の「アド・ホック動作」**オプションが**「標準」**に設定されている場合: はい **Smart View の「アド・ホック動作」**オプションが**「ネイティブ」**に設定されている場合: いいえ
メンバー名の表示: 説明のみ	いいえ	いいえ
インデント: なし	いいえ	列メンバー: はい 行メンバー: いいえ
インデント: サブアイテム	いいえ	はい
インデント: 合計	いいえ	はい
祖先の位置: 上位	いいえ	はい
祖先の位置: 下位	いいえ	はい

Table 5-2 (Cont.) Cloud EPM フォームおよびアド・ホックでサポートされているメンバー・オプション

オプション	フォーム	アド・ホック
Excel インデントの使用(アド・ホック標準モード)	いいえ	はい
選択を含める	いいえ	はい
選択したグループ内	いいえ	はい
選択されていないグループの除去	いいえ	いいえ
アドホック操作の式とコメントを保持(ピボットと元に戻すを除く)	いいえ	はい
式の充てん	いいえ	いいえ
コメントと不明メンバーの保持	いいえ	いいえ
拡張コメント処理を有効にする	いいえ	はい
POV 変更時に式を保存	はい	いいえ
フレックス・フォーム: POV およびユーザー変数の変更時にグリッドを保持	はい	はい

Oracle Hyperion Planning フォームおよびアド・ホックでサポートされているメンバー・オプション

Oracle Hyperion Planning は、オンプレミス Planning と呼ばれています。

表 5-3 Oracle Hyperion Planning フォームおよびアド・ホックでサポートされているメンバー・オプション

オプション	フォーム	アド・ホック
ズーム・イン・レベル: 次のレベル	いいえ	はい
ズーム・イン・レベル: すべてのレベル	いいえ	はい
ズーム・イン・レベル: 最下位レベル	いいえ	はい
ズーム・イン・レベル: 兄弟レベル	いいえ	いいえ
ズーム・イン・レベル: 同一レベル	いいえ	いいえ
ズーム・イン・レベル: 同一世代	いいえ	いいえ
ズーム・イン・レベル: 式	いいえ	いいえ
メンバー名の表示: メンバー名のみ	はい	はい
メンバー名の表示: 個別のメンバー名	いいえ	いいえ
メンバー名の表示: メンバー名と別名	いいえ	いいえ
メンバー名の表示: 説明のみ	いいえ	いいえ
インデント: なし	いいえ	列メンバー: はい 行メンバー: いいえ
インデント: サブアイテム	いいえ	はい
インデント: 合計	いいえ	はい
祖先の位置: 上位	いいえ	はい
祖先の位置: 下位	いいえ	はい
Excel インデントの使用(アド・ホック標準モード)	いいえ	はい
選択を含める	いいえ	はい
選択したグループ内	いいえ	はい
選択されていないグループの除去	いいえ	いいえ

表 5-3 (続き) Oracle Hyperion Planning フォームおよびアド・ホックでサポートされているメンバー・オプション

オプション	フォーム	アド・ホック
アドホック操作の式とコメントを保持(ピボットと元に戻すを除く)	いいえ	はい
式の充てん	いいえ	いいえ
コメントと不明メンバーの保持	いいえ	いいえ
拡張コメント処理を有効にする	いいえ	はい
POV 変更時に式を保存	はい	いいえ
フレックス・フォーム: POV およびユーザー変数の変更時にグリッドを保持	いいえ	いいえ

Financial Management フォームおよびアド・ホックでサポートされているメンバー・オプション

表 5-4 Financial Management フォームおよびアド・ホックでサポートされているメンバー・オプション

オプション	フォーム	アド・ホック
ズーム・イン・レベル: 次のレベル	いいえ	はい
ズーム・イン・レベル: すべてのレベル	いいえ	はい
ズーム・イン・レベル: 最下位レベル	いいえ	はい
ズーム・イン・レベル: 兄弟レベル	いいえ	いいえ
ズーム・イン・レベル: 同一レベル	いいえ	いいえ
ズーム・イン・レベル: 同一世代	いいえ	いいえ
ズーム・イン・レベル: 式	いいえ	いいえ
メンバー名の表示: メンバー名のみ	はい	はい
メンバー名の表示: 個別のメンバー名	いいえ	いいえ
メンバー名の表示: メンバー名と別名	はい	はい
メンバー名の表示: メンバー名と説明	はい	はい
メンバー名の表示: 説明のみ	はい	はい
インデント: なし	いいえ	はい
インデント: サブアイテム	いいえ	はい
インデント: 合計	いいえ	はい
祖先の位置: 上位	いいえ	はい
祖先の位置: 下位	いいえ	はい
Excel インデントの使用(アド・ホック標準モード)	いいえ	いいえ
選択を含める	いいえ	はい
選択したグループ内	いいえ	はい
選択されていないグループの除去	いいえ	はい
アドホック操作の式とコメントを保持(ピボットと元に戻すを除く)	いいえ	はい
式の充てん	いいえ	いいえ
コメントと不明メンバーの保持	いいえ	いいえ
拡張コメント処理を有効にする	いいえ	はい
POV 変更時に式を保存	はい	いいえ

表 5-4 (続き) Financial Management フォームおよびアド・ホックでサポートされているメンバー・オプション

オプション	フォーム	アド・ホック
フレックス・フォーム: POV およびユーザー変数の変更時にグリッドを保持	いいえ	いいえ

Essbase アド・ホックでサポートされているメンバー・オプション

表 5-5 Essbase アド・ホックでサポートされているメンバー・オプション

オプション	アド・ホック
ズーム・イン・レベル: 次のレベル	はい
ズーム・イン・レベル: すべてのレベル	はい
ズーム・イン・レベル: 最下位レベル	はい
ズーム・イン・レベル: 兄弟レベル	はい
ズーム・イン・レベル: 同一レベル	はい
ズーム・イン・レベル: 同一世代	はい
ズーム・イン・レベル: 式	はい
メンバー名の表示: メンバー名のみ	はい
メンバー名の表示: 個別のメンバー名	はい
メンバー名の表示: メンバー名と別名	はい
メンバー名の表示: 説明のみ	いいえ
インデント: なし	はい
インデント: サブアイテム	はい
インデント: 合計	はい
祖先の位置: 上位	Oracle Essbase クラウド: はい Essbase オンプレミス: いいえ
祖先の位置: 下位	Essbase クラウド: はい Essbase オンプレミス: いいえ
Excel インデントの使用(アド・ホック標準モード)	いいえ
選択を含める	はい
選択したグループ内	はい
選択されていないグループの除去	はい

ノート:

このオプションが有効になるのは、**「アドホック操作の式とコメントを保持(ピボットを除く)」**および**「式の充てん」**オプションがクリアされている場合のみです。

表 5-5 (続き) Essbase アド・ホックでサポートされているメンバー・オプション

オプション	アド・ホック
アドホック操作の式とコメントを保持(ピボットと元に戻すを除く)	はい
式の充てん	はい
コメントと不明メンバーの保持	はい
拡張コメント処理を有効にする	はい
POV 変更時に式を保存	いいえ
フレックス・フォーム: POV およびユーザー変数の変更時にグリッドを保持	いいえ

Narrative Reporting アド・ホックでサポートされるメンバー・オプション

表 5-6 Narrative Reporting アド・ホックでサポートされるメンバー・オプション

オプション	アド・ホック
ズーム・イン・レベル: 次のレベル	はい
ズーム・イン・レベル: すべてのレベル	はい
ズーム・イン・レベル: 最下位レベル	はい
ズーム・イン・レベル: 兄弟レベル	いいえ
ズーム・イン・レベル: 同一レベル	いいえ
ズーム・イン・レベル: 同一世代	いいえ
ズーム・イン・レベル: 式	いいえ
メンバー名の表示: メンバー名のみ	はい
メンバー名の表示: 個別のメンバー名	はい
メンバー名の表示: メンバー名と別名	いいえ
メンバー名の表示: 説明のみ	いいえ
インデント: なし	はい
インデント: サブアイテム	はい
インデント: 合計	はい
祖先の位置: 上位	いいえ
祖先の位置: 下位	いいえ
Excel インデントの使用(アド・ホック標準モード)	いいえ
選択を含める	はい
選択したグループ内	いいえ
選択されていないグループの除去	いいえ
アドホック操作の式とコメントを保持(ピボットと元に戻すを除く)	はい 「リフレッシュ」操作にのみサポートされています。「ズーム・イン」または「選択項目のみ保持」などの他のアド・ホック操作にはサポートされていません。
式の充てん	いいえ
コメントと不明メンバーの保持	いいえ
拡張コメント処理を有効にする	いいえ
POV 変更時に式を保存	いいえ

表 5-6 (続き) Narrative Reporting アド・ホックでサポートされるメンバー・オプション

オプション	アド・ホック
フレックス・フォーム: POV およびユーザー変数の変更時にグリッドを保持	いいえ

データ・オプション

「データ・オプション」は、データ・セルの表示を制御します。

「データ・オプション」はシート・レベル・オプションで、設定しているワークシートに固有です。

> **ノート:**
>
> すべてのデータ・プロバイダで、表 1 にリストされているすべてのオプションがサポートされているわけではありません。特定のプロバイダでサポートされているオプションを見つけるには、この項にリストされているサブトピックを参照してください。

表 1 に記載されているデータ・セルの表示オプションを設定するには、Smart View のリボンで**「オプション」**をクリックし、左パネルで**「データ・オプション」**を選択します。終了したら、変更を保存するための選択を行います:

- **OK**
- **デフォルト・オプションとして保存**
- **すべてのワークシートに適用**

> **ノート:**
>
> PowerPoint または Word では、**すべてのワークシートに適用**オプションを使用できません。

前述のオプションの完全な説明は、シート・オプションを参照してください。

表 5-7 データ・オプション

オプション	説明
行の抑制	グリッドを見やすくするために、表示する必要のないデータ・タイプを含む行を抑制できます。 **ノート:** • 抑制行では、セルによる Excel の式の参照は更新されません。 • 行の抑制オプションは複数選択できます。ただし、行に複数のデータ型のデータが含まれている場合、その行は抑制されません。たとえば、行に**「データなし / 欠落」**セルと**「無効」**セルの両方が含まれている場合、その行は抑制されません。 • **Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management: 「データなし / 欠落」**と**「ゼロ」**行抑制オプションの使用の詳細は、抑制モードを参照してください。
データなし/欠落	データベース内にデータが存在しないセルを含む行が抑制されます(データなしはゼロとは異なります。ゼロはデータ値です)。 後で**「データなし / 欠落」**をクリアすると、抑制されていた値は、その時点以降にのみ表示されます。このオプションを選択していた間に抑制されていた値を取得するためには、ズーム・アウトしてからズーム・インする必要があります。 「データなし / 欠落」が'0 または&nd に設定されている場合、複数グリッドのシートでデータ値'0 および&nd を送信しても、正常に機能しません。
ゼロ	ゼロのみを含む行が抑制されます。
アクセス権なし	行に含まれるデータを表示するためのセキュリティ・アクセスをユーザーが持っていない場合に、その行が抑制されます。 **ノート:** このオプションがサポートされているのは、Oracle Hyperion Financial Management (オンプレミス)のみです。
無効	無効な値のみを含む行が抑制されます。
アンダースコア文字	メンバー名にアンダースコア文字を含む行が抑制されます(スマート・スライス操作では使用不可)。
繰返しメンバー	グリッドの方向にかかわらず繰り返されるメンバー名を含む行が抑制されます。
列の抑制	グリッドを見やすくするために、表示する必要のないデータ・タイプを含む列を抑制できます。 **ノート:** • 抑制列では、セルによる Excel の式の参照は更新されません。 • 列の抑制オプションは複数選択できます。ただし、列に複数のデータ型のデータが含まれている場合、その列は抑制されません。たとえば、列に**「データなし / 欠落」**セルと**「アクセス権なし」**セルの両方が含まれている場合、その列は抑制されません。 • **「列の抑制」**オプションは、Oracle Essbase データ・ソースに接続しているときには使用できません。 • **「列の抑制」**オプションは、Financial Management データ・ソースに対してアド・ホックを実行する際にはサポートされません。 • **Cloud EPM: 「データなし / 欠落」**と**「ゼロ」**列抑制オプションの使用の詳細は、抑制モードを参照してください。

表 5-7 (続き) データ・オプション

オプション	説明
データなし / 欠落	データベース内にデータが存在しないセルを含む列が抑制されます(データなしはゼロとは異なります。ゼロはデータ値です)。 後で**「データなし / 欠落」**をクリアすると、抑制されていた値は、その時点以降に入力された場合にのみ返されます。このオプションを選択していた間に抑制されていた値を取得するためには、ズーム・アウトしてからズーム・インする必要があります。
ゼロ	ゼロのみを含む列が抑制されます。
アクセス権なし	列に含まれるデータを表示するためのセキュリティ・アクセスをユーザーが持っていない場合に、その列が抑制されます。
置換	**置換**
#NoData/Missing ラベル #NoAccess ラベル #Invalid/ #Meaningless	データ・セルには、データが欠落している、または無効である、あるいは表示権限のないデータが含まれている場合があります。Oracle Smart View for Office では、このようなセルにはデフォルトで`#Missing`、`#Invalid` または `#No Access` とそれぞれ表示されますが、これらのラベルの変更は可能です。これを行うには、これらのフィールドで次のいずれかを入力します: • 任意のテキスト(またはデフォルトのまま)。テキスト・ラベルは説明的であるという利点がありますが、Excel 関数の失敗の原因になります。 • `#NumericZero` は、数値ゼロ(0)の置換ラベルを指定します。 `#NumericZero` とともに関数を使用できますが、下の**「ゼロを送信」**オプションを選択しないかぎり、(ゼロが置換ラベルではなく実際のゼロである場合でも)データベースにゼロを送信することはできません。数値ゼロのラベルを持つセルに依存する計算は正しく計算され、セルの値にゼロが取得されます。 **ノート:** `#NumericZero` を入力する場合は、期間にデータを分散するときに親データが削除されるように**「ゼロを送信」**オプションが選択されていることを確認します。 `#Missing` 置換ラベルにより、セル交差のデータ値をクリアできます。たとえば、ニューヨークの販売データをクリアするには、Sales と New York が交差するセルで手動で`#Missing` と入力し、**「送信」**をクリックします。これにより、データベースからデータ値がクリアされます。このデータベースの後続の問合せでは、Sales および New York の交差で`#Missing` が表示されます。
ゼロを送信	前述の**#Missing** ラベルに`#NumericZero` を選択した場合、ゼロをデータベースに送信可能にする際は、このオプションを選択します。
無効なデータを表示	実際のデータが無効な場合でも、**「#Invalid/#Meaningless」**やその他の置換テキストではなく、実際のデータを表示します。データが存在しない場合、セルは空白のままです。
Essbase フォーマット文字列を有効にする	数値データを表示する特定のフォーマットを管理者が作成している場合、このフォーマットのデータを表示します。
費用タイプの使用	**Essbase のみ:** 収益、負債および所有者の資本勘定科目に関連する列のデータの符号を(正から負または負から正に)反転します。集約ストレージ・データベースでのみサポートされます。 このオプションを使用するには、Essbase 管理者が費用タイプの符号を表示するようにアプリケーションを設定したことを確認します。

表 5-7 (続き) データ・オプション

オプション	説明
属性関連付け処理の有効化	**Essbase のみ:** コンテキスト属性または可変属性に関連付けられていないという理由のみで空のセルに対して#Invalid または#NumericZero を表示する場合に選択します。 デフォルトでは、「属性関連付け処理の有効化」オプションはクリアされ、空のセルが#Missing として表示されます。 アド・ホック・グリッドの属性関連付け処理の有効化も参照してください。
モード	**モード**
セルの表示	Financial Management のみ: 実際のデータを表示するかわりに、セルの計算またはプロセス・ステータスを表示できます: • **「データ」**を選択すると、実際のデータが表示されます。 • **「計算ステータス」**を選択すると、データの計算、変換、集計を行う必要があるかどうかが表示されます。 • **「プロセス管理」**を選択すると、プロセス・ユニットと呼ばれるデータの組合せに対するプロセス管理レベルが表示されます。
データなし操作	ナビゲート中にソース・データを計算しないようにしてピボット、ズーム、選択項目のみ保持、選択項目のみ除去などの操作を高速化します。データを取得する準備ができたら、**「データなし操作」**をクリアします。
欠落ブロックの抑制	データベースにデータが存在しないセルのブロックを抑制します。

後に続く項では、プロバイダでサポートされているデータ・オプションを示しています。

Cloud EPM フォームおよびアド・ホックでサポートされているデータ・オプション

Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management には、次のビジネス・プロセスが付属しています: Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Planning、Planning モジュール、Tax Reporting

Table 5-8　Cloud EPM フォームおよびアド・ホックでサポートされているデータ・オプション

オプション	フォーム	アド・ホック
行の抑制 - データなし / 欠落	はい	はい
行の抑制 - ゼロ	はい	はい
行の抑制 - アクセス権なし	はい	はい
無効	いいえ	いいえ
アンダースコア文字	いいえ	いいえ
繰返しメンバー	いいえ	はい
列の抑制 - データなし / 欠落	はい	はい
列の抑制 - ゼロ	はい	はい
列の抑制 - アクセス権なし	はい	はい
#NoData/Missing ラベル - #Missing	はい	はい
#NoData/Missing ラベル - #NumericZero	はい	はい

Table 5-8　(Cont.) Cloud EPM フォームおよびアド・ホックでサポートされているデータ・オプション

オプション	フォーム	アド・ホック
#NoAccess ラベル - #No Access	はい	はい
#NoAccess ラベル - #NumericZero	はい	はい
#Invalid/#Meaningless - #Invalid	いいえ	いいえ
#Invalid/#Meaningless - #NumericZero	いいえ	いいえ
ゼロを送信	「#NoData/Missing ラベル」が「#No Access」に設定されている場合はいいえ。 「#NoData/Missing ラベル」が #NumericZero に設定されている場合ははい	「#NoData/Missing ラベル」が「#No Access」に設定されている場合はいいえ。 「#NoData/Missing ラベル」が #NumericZero に設定されている場合ははい
無効なデータを表示	いいえ	いいえ
Essbase フォーマット文字列を有効にする	いいえ	いいえ
費用タイプの使用	いいえ	いいえ
属性関連付け処理の有効化	いいえ	いいえ
セルの表示	いいえ	いいえ
データなし操作	はい	はい
欠落ブロックの抑制	はい	はい

Oracle Hyperion Planning フォームおよびアド・ホックでサポートされているデータ・オプション

Oracle Hyperion Planning は、オンプレミス Planning と呼ばれています。

表 5-9 Oracle Hyperion Planning フォームおよびアド・ホックでサポートされているデータ・オプション

オプション	フォーム	アド・ホック
行の抑制 - データなし / 欠落	はい	はい
行の抑制 - ゼロ	はい	はい
行の抑制 - アクセス権なし	はい	はい
無効	いいえ	いいえ
アンダースコア文字	いいえ	いいえ
繰返しメンバー	いいえ	はい
列の抑制 - データなし / 欠落	はい	はい
列の抑制 - ゼロ	はい	はい
列の抑制 - アクセス権なし	はい	はい
#NoData/Missing ラベル - #Missing	はい	はい
#NoData/Missing ラベル - #NumericZero	はい	はい
#NoAccess ラベル - #No Access	はい	はい

表 5-9 (続き) Oracle Hyperion Planning フォームおよびアド・ホックでサポートされているデータ・オプション

オプション	フォーム	アド・ホック
#NoAccess ラベル - #NumericZero	はい	はい
#Invalid/#Meaningless - #Invalid	いいえ	いいえ
#Invalid/#Meaningless - #NumericZero	いいえ	いいえ
ゼロを送信	「#NoData/Missing ラベル」が「#No Access」に設定されている場合はいいえ。 「#NoData/Missing ラベル」が #NumericZero に設定されている場合ははい	「#NoData/Missing ラベル」が「#No Access」に設定されている場合はいいえ。 「#NoData/Missing ラベル」が #NumericZero に設定されている場合ははい
無効なデータを表示	いいえ	いいえ
Essbase フォーマット文字列を有効にする	いいえ	いいえ
費用タイプの使用	いいえ	いいえ
属性関連付け処理の有効化	いいえ	いいえ
セルの表示	いいえ	いいえ
データなし操作	はい	はい
欠落ブロックの抑制	はい	はい

Financial Management フォームおよびアド・ホックでサポートされているデータ・オプション

Oracle Smart View for Office 11.1.2.5.500 および Oracle Hyperion Financial Management 11.1.2.4.100 以降、データ・フォームを開くときに、Smart View では Financial Management Web インタフェースに設定された行と列の抑制オプションがすべて反映されるため、Smart View にすでに設定されていた行と列の抑制オプションはオーバーライドされます。

Smart View でフォームを起動した後に、**「オプション」**ダイアログ・ボックスの**「データ・オプション」**タブで必要な抑制オプションを選択またはクリアすることによって、Financial Management インタフェースに設定された抑制オプションをオーバーライドできます。

Smart View でフォームを起動した後に、アド・ホック・グリッドを含むシートでフォームを上書きする場合、グリッドでは以前に開いたフォームにすでに設定されていた抑制オプションが再利用されることに注意してください。その後、必要に応じて選択した抑制オプションをオーバーライドできます。

表 5-10 Financial Management フォームおよびアド・ホックでサポートされているデータ・オプション

オプション	フォーム	アド・ホック
行の抑制 - データなし / 欠落	はい	はい
行の抑制 - ゼロ	はい	はい
行の抑制 - アクセス権なし	はい	はい
無効	はい	はい

表 5-10 (続き) Financial Management フォームおよびアド・ホックでサポートされているデータ・オプション

オプション	フォーム	アド・ホック
アンダースコア文字	はい	はい
繰返しメンバー	いいえ	はい
列の抑制 - データなし / 欠落	はい	いいえ
列の抑制 - ゼロ	はい	いいえ
列の抑制 - アクセス権なし	はい	いいえ
#NoData/Missing ラベル - #Missing	はい	はい
#NoData/Missing ラベル - #NumericZero	はい	はい
#NoAccess ラベル - #No Access	はい	はい
#NoAccess ラベル - #NumericZero	はい	はい
#Invalid/#Meaningless - #Invalid	はい	はい
#Invalid/#Meaningless - #NumericZero	はい	はい
ゼロを送信	いいえ	いいえ
無効なデータを表示	はい	はい
Essbase フォーマット文字列を有効にする	いいえ	いいえ
費用タイプの使用	いいえ	いいえ
属性関連付け処理の有効化	いいえ	いいえ
セルの表示 - データ	はい	はい
セルの表示 - 計算ステータス	はい	はい
セルの表示 - プロセス管理	はい	はい
データなし操作	はい	はい
欠落ブロックの抑制	いいえ	いいえ

Essbase アド・ホックでサポートされているデータ・オプション

表 5-11 Essbase アド・ホックでサポートされているデータ・オプション

オプション	アド・ホック
行の抑制 - データなし / 欠落	はい
行の抑制 - ゼロ	はい
行の抑制 - アクセス権なし	いいえ
無効	いいえ
アンダースコア文字	いいえ
繰返しメンバー	はい
列の抑制 - データなし / 欠落	いいえ
列の抑制 - ゼロ	いいえ
列の抑制 - アクセス権なし	いいえ

表 5-11 (続き) Essbase アド・ホックでサポートされているデータ・オプション

オプション	アド・ホック
#NoData/Missing ラベル - #Missing	いいえ
#NoData/Missing ラベル - #NumericZero	いいえ
#NoAccess ラベル - #No Access	いいえ
#NoAccess ラベル - #NumericZero	いいえ
#Invalid/#Meaningless - #Invalid	いいえ
#Invalid/#Meaningless - #NumericZero	いいえ
ゼロを送信	「#NoData/Missing ラベル」が「#No Access」に設定されている場合はいいえ。 「#NoData/Missing ラベル」が#NumericZero に設定されている場合ははい
無効なデータを表示	いいえ
Essbase フォーマット文字列を有効にする	はい
費用タイプの使用	はい
属性関連付け処理の有効化	はい
セルの表示	いいえ
データなし操作	はい
欠落ブロックの抑制	いいえ

Narrative Reporting アド・ホックでサポートされるデータ・オプション

表 5-12 Narrative Reporting アド・ホックでサポートされるデータ・オプション

オプション	アド・ホック
行の抑制 - データなし / 欠落	はい
行の抑制 - ゼロ	はい
行の抑制 - アクセス権なし	いいえ
無効	いいえ
アンダースコア文字	いいえ
繰返しメンバー	はい
列の抑制 - データなし / 欠落	はい
列の抑制 - ゼロ	はい
列の抑制 - アクセス権なし	いいえ
#NoData/Missing ラベル - #Missing	はい
#NoData/Missing ラベル - #NumericZero	はい
#NoAccess ラベル - #No Access	いいえ
#NoAccess ラベル - #NumericZero	いいえ
#Invalid/#Meaningless - #Invalid	いいえ
#Invalid/#Meaningless - #NumericZero	いいえ
ゼロを送信	いいえ
無効なデータを表示	いいえ
Essbase フォーマット文字列を有効にする	いいえ
費用タイプの使用	いいえ

表 5-12 (続き) Narrative Reporting アド・ホックでサポートされるデータ・オプション

オプション	アド・ホック
属性関連付け処理の有効化	いいえ
セルの表示	いいえ
データなし操作	はい
欠落ブロックの抑制	いいえ

詳細オプション

「詳細設定オプション」は、管理タスクや他の高度なタスクの設定です。

詳細オプションはグローバル・オプションで、現在のワークブック全体(現在のワークブックに追加された*新しい*ワークシートを含む)、および今後作成されるすべてのワークブックおよびワークシートに適用されます。グローバル・オプション設定への変更は、すべての既存および*新規*の Microsoft Office ドキュメントのデフォルトになります。

これらのオプションで、**すべてのワークシートに適用**または**「デフォルト・オプションとして保存」**を使用する必要はありません。

> **ノート:**
>
> すべてのデータ・プロバイダで、表に表示されているすべてのオプションがサポートされているわけではありません。

表 1 に記載されている管理タスクおよびその他の高度なタスクのオプションを設定するには、Smart View のリボンで**「オプション」**をクリックし、左パネルで**「詳細」**を選択します。完了したら、**「OK」**をクリックします。

表 5-13 詳細オプション

オプション	説明
全般	**全般**

表 5-13 (続き) 詳細オプション

オプション	説明

共有接続 URL	すべての接続に対するデフォルトの URL を指定します。
	オンプレミスのソース: 次の構文を使用します:
	
	`http://servername:19000/workspace/SmartViewProviders`
	
	クラウドのソース: 次の構文を使用します:
	
	`http(s)://serviceURL/workspace/SmartViewProviders`
	
	共有接続の作成を参照してください。
	
	ノート:
	Oracle Smart View for Office オンライン・ヘルプを使用可能にするには、このフィールドに Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace または Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management サービスの有効な URL が含まれている必要があります。

元に戻す処理の数	1 回の操作で許可される元に戻す処理とやり直し処理の数(0 から 100)。 「元に戻す」と「やり直し」の使用を参照してください。
最後に使用したアイテム数	Smart View ホームおよび Smart View のリボンの「開く」メニューに表示される、最後に使用した接続の数(15 以下)。
すべての MRU アイテムの削除	最後に使用したアイテム・リストの全アイテム(リストに固定されたアイテムを 含む)を削除します。
ロギング	**ロギング**

表 5-13 (続き) 詳細オプション

オプション	説明
ログ・メッセージ表示	接続されたデータ・ソースからのすべてのエラー、警告および情報メッセージが、それぞれの発生時に表示されますが、どのメッセージ・レベルをログ・ファイルに記録するかを選択できます。表示および記録のメッセージ・レベルを選択します: • **情報**: 警告とエラーを含むすべてのメッセージ。これは、問題を診断する場合に推奨される選択です。パフォーマンスに悪影響を及ぼす可能性があります。 • **警告**: 警告およびエラーのレベルのメッセージ。パフォーマンスに悪影響を及ぼす可能性があります。 • **エラー**: エラー・メッセージのみ - 一般的な用途に推奨されます。パフォーマンスにわずかな影響があります。 • **なし**: すべてのメッセージが抑制されます。 • **拡張情報**: 情報レベル・メッセージおよびサーバーのすべてのレスポンスとリクエスト。パフォーマンスが低下します。
メッセージをファイルに送る	ログ・メッセージをファイルに保存します。ログ・ファイルの場所を変更するには、省略記号ボタンをクリックします。
次回起動時にログ・ファイルをクリア	Excel が閉じた後に表示される次のログ・メッセージの生成が開始されると、ログ・ファイルがクリアされます。

ヒント:

特にメッセージ・レベルが「警告」または「情報」に設定されている場合、ログ・ファイルのサイズが短時間で非常に大きくなることがあります。**「メッセージをファイルに送る」**が選択され、**「次回起動時にログ・ファイルをクリア」**が選択されていない場合は、ベスト・プラクティスとして、Smart View ログ・ファイルの内容を手動で定期的にクリアする必要があります。ファイル・サイズが大きいと、パフォーマンスに悪影響を及ぼすことがあります。

表 5-13 (続き) 詳細オプション

オプション	説明
Smart View リボンの診断グループを表示	Smart View リボンの「診断」グループ・オプションを表示します。 診断ツールの使用の詳細は、Smart View 診断およびヘルス・チェックを参照してください。
表示	**表示**
言語	Smart View を表示する言語を選択します。言語を変更したら、Office アプリケーションを再起動する必要があります。**「デフォルト」**は、Smart View のインストール時に指定した言語です。 翻訳情報および Windows、Office および Smart View のロケール設定を参照してください。
Smart View ショートカット・メニューのみを表示	ショートカット・メニューに Smart View のメニュー・アイテムのみを表示します。このオプションを設定しない場合、ショートカット・メニューには Excel と Smart View の両方のアイテムが表示されます。
Outlook で Smart View を無効にする	Outlook で Smart View タスク・リストを使用しない場合に、Outlook で Smart View を使用不可にします。
リボン・コンテキストの変更を有効にする	Smart View のリボンのボタンを使用した後に、アクティブなデータ・プロバイダのリボンを自動的に表示します。
フォームにフローティング・ツールバーを表示します	Planning フォーム内のデータ・セルをクリックしたときに、フローティング・ツールバーを表示します。 フローティング・ツールバーを使用すると、次のコマンドに迅速にアクセスできます: • サポート詳細 • セル・コメント • ドリルスルー • 添付 デフォルトは、フローティング・ルールバーの表示です(チェック・ボックスが選択されています)。 フローティング・ツールバーの表示を抑制するには、このチェック・ボックスをクリアします。
アクティブな接続に対して無効なオプションを使用不可にする	アクティブな接続に対して無効な「オプション」ダイアログ・ボックスのオプションを使用不可にします。
Smart View パネルのアイテムのソート	Smart View パネル内のアイテムをまずカテゴリ別にソートし、次にカテゴリ内で順序付けします。順序は、先に数字、その後にアルファベットです。たとえば、このオプションが選択されている場合、Task List フォルダは、Root フォルダの下にソートされます。Task List フォルダ内のアイテムは、数字、アルファベットの順にソートされます。 このオプションがクリアされている場合、Smart View パネル内のアイテムは、プロバイダによって戻された順序に従ってソートされます。
ドリル・スルー・レポートのツールチップの表示	セル上にマウスを移動したときに使用可能なドリルスルー・レポートのリストをデフォルトで表示します。

表 5-13 (続き) 詳細オプション

オプション	説明
進捗情報を表示するまでの時間(秒)	操作が始まってから**「Smart View 進捗」**スタータス・バーが表示されるまでの時間を秒単位で指定します。
数が超過した場合にオン・デマンドでページをロード	フォーム内のページ数がこのフィールドに設定されたページ数を超える場合に、オンデマンドでフォーム内のページをロードすることを使用可能にします。 100 から 9999 の範囲でページ数を入力します。設定した数よりも多いページ数がフォームに含まれている場合、Smart View では選択されたページのみがロードされるためフォームが早く開き、オンデマンドでさらに多くのページをロードできます。リスト内のすべてのページを 表示するには、省略記号(...)をクリックし、リスト内の検索ボックスを使用して特定のページを早く検索できます。 使用可能または使用不可になっている場合、POV ツールバーの変更は次の後にのみ有効になります: • 保存したワークブックを Smart View コンテンツで再度開きます。 • ページ選択を変更し、「リフレッシュ」をクリックします。変更せずに単にリフレッシュしても、POV ツールバーがリロードされないことに注意してください。 • シートで初めてフォームを開きます。
ドリルスルー起動	ドリルスルー・レポートを起動するためのオプションを選択します。 • **Web ブラウザ内** - 常にブラウザで起動します • **新規シート内** - 常に新しい Excel シートで起動します • **ターゲットを選択するプロンプトを表示** - ブラウザ起動または Excel シート起動を選択するプロンプトを実行時に表示します ドリルスルー・レポートの操作を参照してください。 さらに、*Oracle Smart View for Office インストレーションおよび構成ガイド*で説明されているブラウザ・アドオンがインストールされていることを確認してください。ヘルプ・センターで、Smart View リリースを選択し、次に「Smart View のインストール」の章の「ブラウザ・アドオンのインストール」トピックを検索します。
互換性	**互換性**

表 5-13 (続き) 詳細オプション

オプション	説明
Excel ファイル・サイズの縮小	Smart View のワークブックを含む Excel ファイルに保持されているメタデータを圧縮します。 **ノート:** このオプションは、Smart View の異なるバージョン間の相互運用性に関係します。 組織のすべてのユーザーが Smart View 9.3.1.6 以上の場合、このオプションは必ず選択する必要があります。 次のシナリオでは、このオプションをクリアします: • リリース 9.3.1.6 より前の Smart View のユーザー、または Smart View のリリースにかかわらず Microsoft Office 2002 以前のユーザーに Excel ワークブックを送信します。これらのワークブックでは: – 関数を含むグリッドは、データを表示する前にリフレッシュする必要があります。 – アド・ホック・モードで、POV 設定が失われます。この動作は、新規のアド・ホック・グリッドの動作と同じです。 • リリース 9.3.1.6 より前の Smart View のユーザー、または Smart View のリリースにかかわらず Microsoft Office 2002 以前のユーザーから送信されたワークブックを開きます

表 5-13 (続き) 詳細オプション

オプション	説明
向上したメタデータ・ストレージ	内部データ構造のより効率のよい記憶域を使用できます。 このオプションがクリアされる場合、Smart View は互換性の目的でメタデータのコピーを 2 つ保持します。その結果、全体的なパフォーマンスが低下する場合があります。 **ノート:** このオプションは、Smart View の異なるバージョン間の相互運用性に関係します。 組織のすべてのユーザーが Smart View 9.3.1.6 以上の場合、このオプションは必ず選択する必要があります。 次のシナリオでは、このオプションをクリアします: • リリース 9.3.1.6 より前の Smart View のユーザー、または Smart View のリリースにかかわらず Microsoft Office 2002 以前のユーザーに Excel ワークブックを送信します • リリース 9.3.1.6 より前の Smart View のユーザー、または Smart View のリリースにかかわらず Microsoft Office 2002 以前のユーザーから送信されたワークブックを開きます
選択した関数とその従属をリフレッシュ	選択した関数を実行する前に、従属関数を同じシートで実行します。
保存済シートを現状のままリフレッシュ(アド・ホック標準モード)	保存されたワークシート内のアド・ホック・グリッド(標準モード)に加えられた更新を保持し、Smart View でそのまま更新します。 次のシナリオでは、このオプションを選択します: • Smart View の外部で保存されたシート、つまり Smart View をインストールせずに更新および保存されたシートに対する更新を保持します。 • Smart View 管理拡張機能バージョン 23.210 以前を使用して行われた更新を失うことなく、ディメンション・シートをリフレッシュします。 • 様々な言語にローカライズされた式を含む保存済シートをリフレッシュします。 保存されたワークシートのアド・ホック・グリッドの更新を参照してください。
モード	**モード**

表 5-13 (続き) 詳細オプション

オプション	説明
操作にダブルクリックを使用	ダブルクリックすると空のワークシートにデフォルトのアド・ホック・グリッドが取得され、セル・コンテンツがズーム・インまたはズーム・アウトされます。選択しない場合、ダブルクリックは標準の Excel 機能のままで、セルは編集モードになります。**「操作にダブルクリックを使用」**オプションが有効な場合、ダブルクリックはアド・ホック・グリッドでサポートされます。ダブルクリックはフォームではサポートされません。

フォーマット・オプション

「フォーマット」オプションは、メンバーとデータのテキスト表示を制御します。

「フォーマット」オプションは、シート・レベル・オプションで、設定しているワークシートに固有です。

> **ノート:**
>
> すべてのデータ・プロバイダで、表 1 にリストされているすべてのオプションがサポートされているわけではありません。特定のプロバイダでサポートされているオプションを見つけるには、上に示されているサブトピックを参照してください。

表 1 に記載されているセル・フォーマットのオプションを設定するには、Smart View リボンの**「オプション」**をクリックし、左のパネルで**「フォーマット」**を選択します。終了したら、変更を保存するための選択を行います:

- **OK**
- **デフォルト・オプションとして保存**
- **すべてのワークシートに適用**

> **ノート:**
>
> PowerPoint または Word では、**すべてのワークシートに適用**オプションを使用できません。

前述のオプションの完全な説明は、シート・オプションを参照してください。

表 5-14 フォーマット・オプション

オプション	説明
フォーマット	**フォーマット**

表 5-14 (続き) フォーマット・オプション

オプション	説明
セルのスタイルの使用	「セルのスタイル」に定義されているフォーマット、またはデータ・プロバイダによって定義されているフォーマットを使用します。ユーザー・フォーマットをオーバーライドします。 このオプションは、**「Excel フォーマットの使用」**が選択されている場合に無効になります。 セルのスタイルを参照してください。
Excel フォーマットの使用	Oracle Smart View for Office フォーマットではなく Excel フォーマットを使用して、アド・ホック操作に Excel フォーマットを保持します。 このオプションは、**「セル・スタイルの使用」**が選択されている場合に無効になります。 **ノート:** すべてのプロバイダのアド・ホック・グリッドでは、「元に戻す」を実行すると Excel フォーマットは保持されません。 Excel フォーマットの使用を参照してください。

表 5-14 (続き) フォーマット・オプション

オプション	説明
操作時にフォーマットを移動	親セル・フォーマットをコピーしてセルでズームインし、操作後にセルの場所が変更された場合でもこのフォーマットを保持します。 このオプションは、デフォルトでは無効になり、**「Excel フォーマットの使用」**が選択されている場合に有効になりますが、選択はされません。 **「操作時にフォーマットを移動」**が有効になっている場合、特にアド・ホック操作中に、フォーマットがパフォーマンスに影響します。このため、**「操作時にフォーマットを移動」**の選択は、シートごと、セッションごとに維持されます。選択は保存できません。Excel フォーマットの使用を計画している場合は、以前にシートを選択済で、同じセッション内であっても、ワークブックを開くたび、ワークブック内の新しいシートに移動するたび、および元のシートに戻るたびに**「操作時にフォーマットを移動」**を再選択する必要があります。新規または既存のワークブックを開くたびに再選択する必要もあります。 **「デフォルトとして保存」**を使用して**「Excel フォーマットの使用」**の選択を保存できますが、**「操作時にフォーマットを移動」**の選択は保存されません。 次のメッセージは、**「操作時にフォーマットを移動」**を選択するたびに表示されます。 このオプションを有効にするとパフォーマンスに影響することがあり、シートが変更された後にリセットされます。 Excel フォーマットの使用を参照してください。
数値のフォーマットを保持	ディメンションをドリルダウンする場合、Excel の**「ホーム」**リボン、**「書式」**、**「セルの書式設定」**の順に選択する際に、設定した Excel のフォーマットが保持されます。たとえば、負数を赤で表示することを選択している場合、任意のメンバーをドリル・ダウンする際に負数は赤で表示されます。 このオプションは、**「セル・スタイルの使用」**が選択されている場合に有効になります。
列の幅と行の高さの調整	セルの内容に合せて列の幅および行の高さを自動的に調整します。 セルの幅および高さの自動調整の有効化を参照してください。

表 5-14 (続き) フォーマット・オプション

オプション	説明
行および列のヘッダーの固定	すべてのフォームおよびアド・ホック・グリッドの行および列のヘッダーを、サイズおよびレイアウトに関係なく動的に固定します。 たとえば、ヘッダー行が 3 行のフォーム A では、このオプションを選択している場合、Smart View で最初の 3 行が固定されます。次に、ヘッダー行が 2 行のフォーム B を開くと、Smart View でヘッダー行数の違いが認識され、データ行に影響を与えることなく最初の 2 行のみが自動的に固定されます。 新しいフォームを開くとき、手動での変更は必要ありません。このオプションにより、新しいフォームを開くたびに固定を再適用する手間がなくなります。このオプションは、Smart View 23.100 以上で使用可能です。 シートのリフレッシュ、アド・ホック操作の実行、またはレイアウト変更を行うとき、固定された行または列が変更に応じて Smart View によって更新されます。アド・ホック・グリッド内で**「元に戻す」**をクリックすると固定が削除され、**「リフレッシュ」**をクリックすると再び適用されます。 このオプションを使用不可にする場合、行および列の固定が即座に削除され、必要に応じて手動でそれらを固定できるようになります。

表 5-14 (続き) フォーマット・オプション

オプション	説明
スケール	アド・ホックおよびフォームに適用されます。フォーム定義に定義されている設定をオーバーライドします。 正または負のスケール・オプションを選択し、「リフレッシュ」をクリックします。 **正のスケール:** 元の値を係数 10 で除算します。例: • 1 - 元の値はすべて 10 で除算されます: *cell value*/10 たとえば、100/10=10 では、10 が表示されます。 • 2 - 元の値はすべて 100 で除算されます: *cell value*/100 たとえば、100/100=1 では、リフレッシュ後に 1 が表示されます。 • 3 - 元の値はすべて 1000 で除算されます: *cell value*/1000 たとえば、100/1000=0.1 では、リフレッシュ後に 0.1 が表示されます。 パターンは、その他の正のスケール・オプションでも同様です。 **「小数点以下の桁数」**オプションが「デフォルト」または 0 に設定されている場合は、0 が表示されることに注意してください。ただし、表示する値が 0.1 などの場合は、**「小数点以下の桁数」**オプションを 1 に設定する必要があります。 **負のスケール:** 元の値に係数 10 を乗算します。例: • -1 - 元の値はすべて 10 で乗算されます: *cell value**10 たとえば、100*10=1000 では、1000 が表示されます。 • -2 - 元の値はすべて 100 で乗算されます: *cell value**100 たとえば、100*100=10000 では、リフレッシュ後に 10000 が表示されます。 • -3 - 元の値はすべて 1000 で乗算されます: *cell value**1000 たとえば、100*1000=100000 では、リフレッシュ後に 100000 が表示されます。 パターンは、その他の負のスケール・オプションでも同様です。 **ノート:** 目的の表示結果を得られるように、**「小数**

表 5-14 (続き) フォーマット・オプション

オプション	説明
	点以下の桁数」オプションを使用します。
数値のフォーマット カスタムの数値フォーマットの使用	**数値のフォーマット** カスタム・フォーマットを適用して数値の表示を制御する場合、このチェック・ボックスを選択します。有効なフォーマット文字列を入力します。たとえば、$#,##0.000_);[Blue]($#,##0.000)。 カスタム・フォーマットはデータ・セルの数値に適用され、メンバー・セル、日付およびテキスト・コンテンツには影響しません。このオプションは、Smart View 23.100 以上で使用可能です。 選択した場合、このオプションは他の数値フォーマット設定をオーバーライドし、**「3 桁ごとのセパレータの使用」**、**「小数点以下の桁数」**、**負数のフォーマット**などの「数値のフォーマット」セクションのすべてのフィールドは使用不可になり、選択できなくなります。 フォーマットが空白のままである場合、Excel では一般的な数値フォーマットが適用されます。これは、Excel で許可されている程度まで数値の実際の小数点以下の桁数を表示するシナリオで役立ちます。 フォーマットが空であるか、会計またはテキスト・タイプの場合、パーセンテージ値のデータ・セルはデフォルト・フォーマットとして 0%を使用します。
	ノート: 有効なフォーマットを入力したことを確認してください。フォーマットが検証されないために、Excel で一般的な数値フォーマットに戻ったり、無効なフォーマットに対してランダムな文字および望ましくない結果が表示される場合があります。
3 桁ごとのセパレータの使用	数値データでカンマまたは他の 3 桁ごとのセパレータを使用します。Excel の「オプション」の「インターナショナル」タブで、3 桁ごとのセパレータとして#または$を使用しないでください。

表 5-14 (続き) フォーマット・オプション

オプション	説明
小数点以下の桁数	アド・ホックおよびフォームに適用されます。フォーム定義に定義されている設定をオーバーライドします。 数値データ値に表示する小数点以下の桁数を選択します。30 桁までの小数点以下の桁数を表示することを選択し、フォーマットをプレビューできます。 たとえば、Smart View で、選択されている小数点のオプションが"1"だとします。すべての値で、右側の少数の桁が 1 つに変更されます。元の値が 50.56 の場合、リフレッシュ後の値は 50.6 と表示されます。同様に、選択されているオプションが 3 の場合、表示される値は 50.560 になります。 Excel では、IEEE 規格に基づいて小数点以下の桁数について 15 桁のみの精度がサポートされていますが、Excel のフォーマット・オプションを使用して 30 桁までの小数点以下の桁数を使用できます。 Smart View でフォームを開くと、フォーム定義の小数設定は失われます。これは、Excel フォーマットのみ精度の小数桁/値が固定された単一値を受け入れ、Web アプリケーションに定義された最小、最大値はサポートしていないためです。これは Excel フォーマットのデフォルト動作で、Smart View でも同様に動作します。Smart View では、セルに小数値を表示するためにユーザーは「小数点以下の桁数」(精度の長さ)を設定する必要があります。 **ノート:** 目的の表示結果を得られるように、**「スケール」**オプションを使用します。

表 5-14 (続き) フォーマット・オプション

オプション	説明
負数のフォーマット	負数を表示する必要があるフォーマットを選択し、プレビューします。このオプションは、Smart View 23.100 以上で使用可能です。 次のフォーマットが使用可能です: • **デフォルト:** マイナス(-)記号を付けて負数を表示します。たとえば、-125 です。 • **括弧:** 括弧内に負数を表示します。たとえば、(125)です。 • **赤:** 赤のフォント色で負数を表示します。 • **括弧および赤:** 括弧内に赤のフォント色で負数を表示します。 **ノート:** Excel の機能に従って、高コントラスト・モードを使用している場合は、負数が赤のフォント色で表示されません。
フォーム メンバー・ラベルの繰返し	**フォーム** 各行のデータにメンバー名を表示できるようにして、Oracle Hyperion Planning および Oracle Hyperion Financial Management フォームを見やすくします。 繰返しメンバーが 1 つのセルにマージされるフォームでは、メンバー名が画面表示外になり、メンバー名と行データの間でスクロールを繰り返す必要が生じることがあります。**「メンバー・ラベルの繰返し」**を選択すると、フォームをより簡単に読み取り、使用できます。 **ノート:** 行ディメンションのドロップダウン・メンバー・セレクタが有効なフォームおよびフレックス・フォームでは、**「繰返しメンバー・ラベル」**オプションは自動的に有効になり、クリアできません。

表 5-14 (続き) フォーマット・オプション

オプション	説明
個々のページのメンバー名を表示する	フォームのページ・リストに、説明ではなく個々のページ・メンバーの名前または完全修飾名を表示します。 フォームのページでの個々のページ・メンバー名の表示を参照してください。

後に続く項では、プロバイダでサポートされているフォーマット・オプションを示しています。

Planning フォームおよびアド・ホックでサポートされているフォーマット・オプション

表 5-15 Planning フォームおよびアド・ホックでサポートされているフォーマット・オプション

オプション	フォーム	アド・ホック
セルのスタイルの使用	はい	はい
Excel フォーマットの使用 - 操作時にフォーマットを移動	いいえ	はい
数値のフォーマットを保持	はい	はい
列の幅と行の高さの調整	はい	はい
行および列のヘッダーの固定	はい	**Smart View の「アド・ホック動作」**オプションが**「標準」**に設定されている場合: はい **Smart View の「アド・ホック動作」**オプションが**「ネイティブ」**に設定されている場合: いいえ
スケール	はい	はい
カスタムの数値フォーマットの使用	はい	はい
3 桁ごとのセパレータの使用	はい	はい
小数点以下の桁数	はい	はい
負数のフォーマット	はい	はい
メンバー・ラベルの繰返し	はい	はい
個々のページのメンバー名を表示する	はい	はい

ノート:

Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close および Tax Reporting: Web アプリケーションのフォーム定義で**「フォーマットの無効化」**が有効になっている場合、Oracle Smart View for Office の**「フォーマット」**タブで選択するオプションは、フォームには適用されません。

Financial Management フォームおよびアド・ホックでサポートされているフォーマット・オプション

表 5-16 Financial Management フォームおよびアド・ホックでサポートされているフォーマット・オプション

オプション	フォーム	アド・ホック
	はい	はい
セルのスタイルの使用	はい	はい
Excel フォーマットの使用 - 操作時にフォーマットを移動	いいえ	はい
数値のフォーマットを保持	はい	はい
列の幅と行の高さの調整	はい	はい
行および列のヘッダーの固定	はい	いいえ
スケール	はい	はい
カスタムの数値フォーマットの使用	はい	はい
3 桁ごとのセパレータの使用	はい	はい
小数点以下の桁数	はい	はい
負数のフォーマット	はい	はい
メンバー・ラベルの繰返し	はい	はい
個々のページのメンバー名を表示する	はい	はい

Essbase アド・ホックでサポートされているフォーマット・オプション

表 5-17 Essbase アド・ホックでサポートされているフォーマット・オプション

オプション	アド・ホック
セルのスタイルの使用	はい
Excel フォーマットの使用 - 操作時にフォーマットを移動	はい
数値のフォーマットを保持	いいえ
列の幅と行の高さの調整	はい
行および列のヘッダーの固定	はい
スケール	はい
カスタムの数値フォーマットの使用	はい
3 桁ごとのセパレータの使用	はい
小数点以下の桁数	はい
負数のフォーマット	はい
メンバー・ラベルの繰返し	いいえ
個々のページのメンバー名を表示する	いいえ

> **ノート:**
>
> Essbase では、「Smart View のオプション」で数値のフォーマット・オプションが設定されていないか、デフォルトとして保持されていない場合は、数値に一般的なフォーマットを使用する既存の動作が Essbase アド・ホック・グリッドでも継承されます。

Narrative Reporting アド・ホックでサポートされるフォーマット・オプション

表 5-18 Narrative Reporting アド・ホックでサポートされるフォーマット・オプション

オプション	アド・ホック
セルのスタイルの使用	いいえ
Excel フォーマットの使用 - 操作時にフォーマットを移動	はい
数値のフォーマットを保持	はい
列の幅と行の高さの調整	はい
行および列のヘッダーの固定	いいえ
スケール	はい
カスタムの数値フォーマットの使用	いいえ
3 桁ごとのセパレータの使用	いいえ
小数点以下の桁数	いいえ
負数のフォーマット	いいえ
メンバー・ラベルの繰返し	いいえ
個々のページのメンバー名を表示する	いいえ

セルのスタイル

「セルのスタイル」は、特定のタイプのメンバーやデータ・セルの表示を制御します。

「セルのスタイル」ページで、特定のタイプのメンバーやデータ・セルを示すためのフォーマットを指定できます。1 つのメンバー・セルが親と子の両方になれるなど、セルが複数のタイプに属する可能性があるため、タイプごとに別々のスタイルを設定でき、セルのスタイルが適用される優先順位を設定することもできます。プランニング管理拡張機能でも、ディメンションの編集時にセルのスタイルがサポートされます。

「セルのスタイル」オプションはグローバル・オプションで、現在のワークブック全体(現在のワークブックに追加された*新しい*ワークシートを含む)、および今後作成されるすべてのワークブックおよびワークシートに適用されます。グローバル・オプション設定への変更は、すべての既存および*新規の* Microsoft Office ドキュメントのデフォルトになります。

これらのオプションで、**すべてのワークシートに適用**または**「デフォルト・オプションとして保存」**を使用する必要はありません。

ビデオ

目的	このビデオを見る
セル・スタイルの指定など、Planning に関連する Oracle Smart View for Office の基本的な機能について学習します。	 Oracle Planning and Budgeting Cloud による Smart View でのプラン・データの入力および保存

ガイドライン

セルのスタイルを使用する際は、次のガイドラインを考慮してください。

- 1 つのセルが複数のメンバーまたはデータ・タイプに属する場合は、ベスト・プラクティスとして、タイプごとに 1 つのプロパティのみ(フォント、枠線または背景色)を設定することをお薦めします。たとえば、データ・セルには、サポート詳細とセル・テキストを同時に含めることができます。各データ・タイプに 3 つのスタイル・プロパティがすべて 設定されている場合、指定されたスタイルの優先順位に従って、優先度の低いセルのプロパティは優先度の高いセルのプロパティによって完全に上書きされます。セル・タイプごとに 1 つのプロパティのみが設定されている場合(たとえば、サポート詳細の枠線、セル・テキストのフォント・スタイル)、セルは適用可能なすべてのセル・タイプに属することが容易に識別できます。
- Smart View 20.200 以降は、セル・タイプごとに 3 つのスタイル・プロパティをすべて 設定できます。たとえば、親メンバーについてフォント・スタイル、背景色*および*枠線の色を設定できます。

  20.200 より前の Smart View リリースでは、セル・タイプごとに 1 つのスタイル・プロパティのみを設定できます。たとえば、親メンバーのフォント・スタイル*または*背景色*または*枠線の色を設定できますが、親メンバーについて 3 つのスタイルをすべて設定することはできません。
- デフォルトの**「メンバー」**セル・スタイルとは別の**「親」**および**「子」**セル・スタイルを適用することで、親および子メンバー・セルを示すことができます。スタイルを設定した後、次の方法でそれらを有効にできます:
  - **「メンバー」**セル・タイプのチェック・ボックスの選択を解除し、**「親」**および**「子」**セル・タイプを選択します。これにより、空白のメンバー・セルからもフォーマットが削除されます。
  - **「メンバー」**セル・タイプのチェック・ボックスは選択されたままにします。**「親」**および**「子」**セル・タイプを**「メンバー」**セル・タイプの上に移動して、セルのスタイルの優先度を設定します。
- 競合するスタイルは優先順位によってオーバーライドされますが、競合しないスタイルは引き続き保持されて表示されます。たとえば、親および子セル・タイプを高い優先順位で設定しました(つまり、それらをメンバー・セル・タイプの上に異動しました)。ここで、親および子セル・タイプの枠線の色とメンバー・セル・タイプの背景色を設定した場合、親および子セルには枠線の色が表示され、メンバー・セル・タイプに設定した背景色も表示されます。これらは相互に競合しない 2 つの異なるスタイルであるためです。
- ルート・レベルのディメンションは、子を持たないか、またはすべての子がプロバイダ・アプリケーションのキューブで有効でない場合、子メンバーとみなされ、子セル・スタイルが適用されます。
- フォームとアド・ホック・グリッドでは、親および子セル・スタイルの表示方法が異なります。
  - フォームでは、プロバイダ・アプリケーションで「展開開始」プロパティが有効になっているメンバーは親とみなされ、その下のセルが子です。したがって、そのような

展開可能なメンバーには親セル・スタイルが適用されます。フォームのレイアウトは静的でズーム・インできないため、展開可能でなく有効な子を持たない親セルは親セル・スタイルで表示されません。そのようなセルは最下位レベルにあるため、かわりに、メンバーまたは子セル・スタイルで示されます。

- アド・ホックでは、アウトラインで設定された階層に従い、ズーム・インまたはズーム・アウトしてすべての親および子メンバーを表示できます。したがって、親および子セル・スタイルがアウトラインに基づいて適切に表示されます。メンバーが親と子の両方である場合は、親セル・スタイルが適用されます。

たとえば、費用および収益が勘定科目の下の親メンバー・セルであり、費用は展開可能として設定されていますが、収益は設定されていないとします。費用の子には水道光熱費および地代家賃があり、これらはフォームで有効になっています。収益の子には給与および手数料があり、これらはフォームで有効になっていません。セルのスタイルを設定してフォームをリフレッシュすると、親セル・スタイルは勘定科目および費用に適用されますが、収益には適用されません。展開可能なメンバーおよび有効な子を持つメンバーのみが親とみなされるためです。収益は最下位レベルにあるため、子セル・スタイルで示されます。ここで、これをアド・ホックで開くと、費用と収益の両方のメンバーが親セル・スタイルで示されます。いずれもズーム・インしてそれぞれの子を表示できるためです。

- アド・ホック・グリッドに無効なメンバー名が入力されると、数値コメントに変換される数値データを含め、行または列全体がコメントに変換されます。無効なメンバーの存在を示すために、無効なメンバーの行または列にあるすべてのメンバー・セルのメンバー・セル・スタイルが削除されます。コメントのセル・スタイルを有効にし、**「Smart View のオプション」**ダイアログの**「セルのスタイル」**タブの**「コメント・セル」**に特定のセル・スタイルを設定した場合、無効なメンバー行または列のメンバー・セルは、そのコメント・セル・スタイルで表示されます。

セルのスタイルの設定

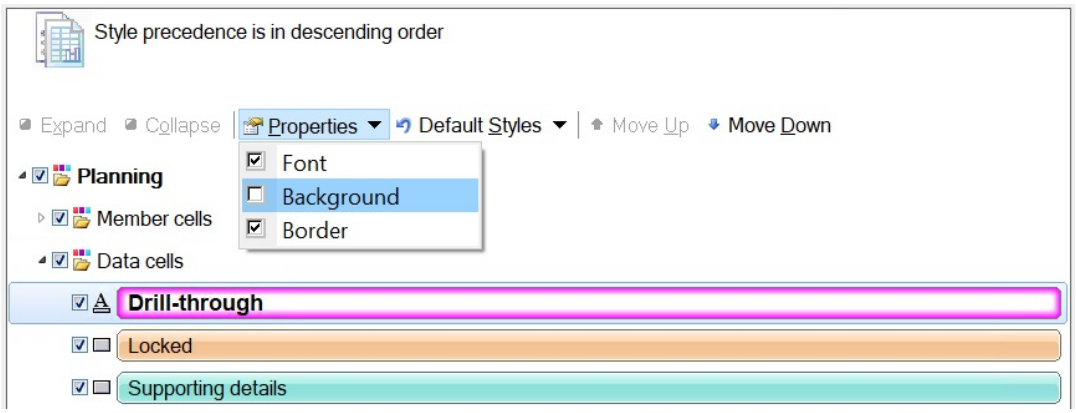
セルのスタイルを設定するには:

1. 使用可能なセル・タイプのリストを展開します。
2. セル・タイプを選択します。
3. **「プロパティ」**を選択して、要件ごとにフォント・スタイル、背景色および枠線の色の組合せを指定します。

   1 つ、2 つまたは 3 つのスタイル・タイプを適用できます。

   スタイル・プロパティのチェック・ボックスの選択が解除されている場合は、プロパティをクリックしてスタイルを定義します。スタイル・プロパティのチェック・ボックスが選択され、スタイルをクリアまたは削除する場合は、プロパティをクリックします。

   次の例では、背景色を追加するために**「背景」**をクリックします。フォント・スタイルをクリアするには、**「フォント」**をクリックします。枠線のスタイルをクリアするには、**「枠線」**をクリックします。



4. セルのスタイルの優先順位を変更するには、**「上へ移動」**および**「下へ移動」**ボタンを使用するか、セルのスタイルをドラッグ・アンド・ドロップします。
5. **「OK」**をクリックします。この設定は、リフレッシュを行うか、ドリル操作を実行すると有効になります。
6. **オプション:** セルのスタイルまたは優先順位を、接続された Smart View プロバイダのデフォルトのスタイルに戻すには、**デフォルトのスタイル**をクリックします。
7. **オプション:** このページで選択した内容をデフォルト設定として指定するには、**「OK」**ボタンの矢印をクリックして、**「デフォルト・オプションとして保存」**を選択します。

> **ノート:**
>
> Narrative Reporting に対してセル・スタイルは定義されていません。その他のプロバイダについて、サポートされているオプションを見つけるには、この項にリストされているサブトピックを参照してください。

Cloud EPM フォームおよびアド・ホックでサポートされているセルのスタイル・オプション

Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management には、次のビジネス・プロセスが付属しています: Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Planning、Planning モジュール、Tax Reporting

Table 5-19　Cloud EPM フォームおよびアド・ホックでサポートされているセルのスタイル・オプション

オプション	フォーム	アド・ホック
メンバー・セル	**メンバー・セル**	**メンバー・セル**
メンバー	はい	はい
カスタム・ラベル	はい	
式	はい	いいえ
親	はい	はい
子	はい	はい
データ・セル	**データ・セル**	**データ・セル**

Table 5-19　(Cont.) Cloud EPM フォームおよびアド・ホックでサポートされているセルのスタイル・オプション

オプション	フォーム	アド・ホック
ロック済	はい	いいえ
サポート詳細	はい	はい
読取り専用	はい	はい
セル・テキスト	はい	はい
ドキュメントの添付	はい	はい
書込み可能(最も低い優先度を推奨)	はい	はい
ドリルスルー	はい	はい

Oracle Hyperion Planning フォームおよびアド・ホックでサポートされているセルのスタイル・オプション

表 5-20 Oracle Hyperion Planning フォームおよびアド・ホックでサポートされているセルのスタイル・オプション

オプション	フォーム	アド・ホック
メンバー・セル	**メンバー・セル**	**メンバー・セル**
メンバー	はい	はい
式	はい	いいえ
親	はい	はい
子	はい	はい
データ・セル	**データ・セル**	**データ・セル**
ロック済	はい	いいえ
サポート詳細	はい	はい
読取り専用	はい	はい
セル・テキスト	はい	はい
ドキュメントの添付	はい	はい
書込み可能(最も低い優先度を推奨)	はい	はい
ドリルスルー	はい	はい

Profitability and Cost Management アド・ホックでサポートされているセルのスタイル・オプション

Table 5-21　Profitability and Cost Management アド・ホックでサポートされているセルのスタイル・オプション

オプション	アド・ホック
メンバー・セル	**メンバー・セル**
メンバーのドリル・スルー	はい
式を含む	はい

Table 5-21 (Cont.) Profitability and Cost Management アド・ホックでサポートされているセルのスタイル・オプション

オプション	アド・ホック
属性	はい
重複メンバー	はい
共有	はい
親	はい
子	はい
メンバー	
動的計算	はい
データ・セル	**データ・セル**
ドリルスルー	はい
リンク・オブジェクト	はい
書込み可能(最も低い優先度を推奨)	はい
読取り専用	はい

Financial Management フォームおよびアド・ホックでサポートされているセルのスタイル・オプション

表 5-22 Financial Management フォームおよびアド・ホックでサポートされているセルのスタイル・オプション

オプション	フォーム	アド・ホック
メンバー・セル	**メンバー・セル**	**メンバー・セル**
メンバーの追加	はい	いいえ
リンク・フォーム	はい	いいえ
メンバー	はい	はい
サーバーによる計算	いいえ	いいえ
クライアントによる計算	いいえ	いいえ
データ・セル	**データ・セル**	**データ・セル**
ドリルスルー	はい	はい
計算結果	いいえ	はい
無効	はい	はい
ロック済	N/A	N/A
影響	はい	はい
読取り専用	はい	はい
セル・テキスト	はい	はい
書込み可能(最も低い優先度を推奨)	はい	はい
サーバーによる計算	いいえ	いいえ
クライアントによる計算	いいえ	いいえ
割当てをサポート	いいえ	いいえ

Essbase アド・ホックでサポートされているセルのスタイル・オプション

表 5-23 Essbase アド・ホックでサポートされているセルのスタイル・オプション

オプション	アド・ホック
メンバー・セル	**メンバー・セル**
属性	はい
動的計算	はい
式を含む	はい
共有	はい
子	はい
親	はい
重複メンバー	はい
メンバーのドリル・スルー	はい
データ・セル	**データ・セル**
ドリルスルー	はい
読取り専用	はい
書込み可能(最も低い優先度を推奨)	はい
リンク・オブジェクト	はい

拡張機能

「拡張機能」には、現在コンピュータにインストールされている拡張機能がリストされ、拡張機能をインストール、更新および削除するためのオプションがあります。

Excel、Word または PowerPoint から、**「拡張機能」**タブの次のタスクを実行します。

- 拡張機能アラートの使用
- 使用可能な拡張機能の最初のチェック
- 拡張機能のインストール
- 拡張機能の更新
- 拡張機能のインストールのロギングの有効化
- 拡張機能のダウンロードのデフォルト URL のオーバーライド
- 拡張機能の有効化および無効化
- 拡張機能使用時の表示の調整
- 拡張機能のアンインストール

前述のタスクについては、Smart View 拡張機能の章を参照してください。

このトピックでは、次の項で拡張機能の詳細を説明します:

- 「オプション」ダイアログの「拡張機能」タブについて
- プロバイダおよびユーザーごとの拡張機能
- ビデオ

「オプション」ダイアログの「拡張機能」タブについて

拡張機能オプションは、Excel、 Word または PowerPoint で設定するグローバル・オプションであり、現在のドキュメントの全体(現在のワークブックに追加された*新規*ワークシート、現在のプレゼンテーションに追加された新規スライド、または現在のドキュメントに追加された新規ページを含む)と、今後作成される Excel ワークブックおよびワークシート、PowerPoint プレゼンテーションおよびスライド、Word 文書を含むすべての Microsoft Office ドキュメントに適用されます。グローバル・オプション設定への変更は、すべての既存および*新規*の Microsoft Office ドキュメントのデフォルトになります。

ユーザーが**「オプション」**ダイアログ・ボックスの**「拡張機能」**タブを初めて開くと、他の Oracle 製品で Oracle Smart View for Office の機能を利用するために現在インストールされている拡張機能がリストされています。サポートされている拡張機能の完全なリストは、サポートされている Smart View 拡張機能を参照してください。ダウンロードおよびインストール可能なその他の拡張機能は、ダイアログ・ボックスの**「更新、新規インストールおよびアンインストールのチェック」**リンクを使用すると表示できるようになります。

> **ノート:**
>
> - 拡張機能を有効化および無効化し、Excel、PowerPoint または Word から拡張機能をインストール、更新およびアンインストールできます。
> - 拡張機能オプションで、**すべてのワークシートに適用**または**「デフォルト・オプションとして保存」**を使用する必要はありません。
> - 一部の Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management 製品では、特定の拡張機能をブラウザからダウンロードし、インストールできます。詳細は、*ユーザー用スタート・ガイド*のクライアントのダウンロードおよびインストールに関する項を参照してください。

プロバイダおよびユーザーごとの拡張機能

- プロバイダの拡張機能
- ユーザーごとの拡張機能

プロバイダの拡張機能

プロバイダの拡張機能は、Cloud EPM コンポーネントに依存しているか、コンポーネントと統合されています。例として、EPM ブック拡張機能およびプランニング管理拡張機能があります。

Smart View では、サポートされている Smart View 拡張機能で説明するプロバイダの拡張機能をサポートしています。

> **ノート:**
>
> スマート・クエリー拡張機能は Smart View にパッケージ化されており、Smart View のインストール時に自動的にインストールされます。
>
> Oracle BI EE 拡張機能および Oracle Journals 拡張機能は、Smart View にパッケージ化されています。この章の拡張機能の更新手順を使用して、それらをインストールできます。

Narrative Reporting、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition、Oracle Journals、スマート・クエリー、照合コンプライアンスおよび EPM ブックについては、このガイドで説明されています。他の拡張機能については、それぞれの Oracle 製品のガイドを参照してください。

ユーザーごとの拡張機能

ユーザーごとの拡張機能は、Oracle Enterprise Performance Management System サーバー・コンポーネントに依存していません。ユーザーごとの拡張機能は、Smart View 管理者が社内で作成した拡張機能、または管理者が Oracle や別の組織から取得した拡張機能になります。

Smart View に同梱されているかどうかにかかわらず、インストールされているすべての 拡張機能は、Smart View を起動すると自動的に使用可能になります。拡張機能の有効化および無効化を参照してください。

ユーザーごとの拡張機能は、このガイドでは説明されていません。

ビデオ

目的	このビデオを見る
Smart View の拡張機能の操作について学習します。	 概要: 拡張機能を使用した Smart View の機能の拡張

6

Smart View 拡張機能

「オプション」ダイアログの**「拡張機能」**タブで、拡張機能をインストール、更新および削除します。

Related Topics

- Smart View 拡張機能について
- 拡張機能アラートの使用
- 使用可能な拡張機能の最初のチェック
- 拡張機能のインストール
- 拡張機能の更新
- 拡張機能のインストールのロギングの有効化
- 拡張機能のダウンロードのデフォルト URL のオーバーライド
- 拡張機能の有効化および無効化
- 拡張機能使用時の表示の調整
- 拡張機能のアンインストール

Smart View 拡張機能について

Oracle Smart View for Office は、複数の Cloud EPM、EPM System の拡張機能に加え、Oracle Essbase、Oracle Analytics Cloud、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition の拡張機能とも連携します。

Smart View の**「オプション」**ダイアログの**「拡張機能」**タブには、現在コンピュータにインストールされている拡張機能がリストされ、拡張機能をインストール、更新および削除するためのオプションがあります。この章ではこれらの操作について説明します。

Excel、Word または PowerPoint から、**「拡張機能」**タブの次のタスクを実行します。

- 拡張機能アラートの使用
- 使用可能な拡張機能の最初のチェック
- 拡張機能のインストール
- 拡張機能の更新
- 拡張機能のインストールのロギングの有効化
- 拡張機能のダウンロードのデフォルト URL のオーバーライド
- 拡張機能の有効化および無効化
- 拡張機能使用時の表示の調整
- 拡張機能のアンインストール

関連トピック:

- 拡張機能
- サポートされている Smart View 拡張機能

拡張機能アラートの使用

データ・ソース・タイプ: Cloud EPM 拡張機能

「拡張機能アラート」ダイアログは、インストールされている Cloud EPM 拡張機能を最新に保つのに有用です。これらの拡張機能をまだインストールしていない場合、ダイアログには拡張機能がインストール可能なことが表示されます。

拡張機能をインストールしていない場合は、インストール可能な拡張機能があることがダイアログで通知されます。拡張機能をすでにインストールした場合は、使用可能な更新があるときにダイアログで通知されます。

拡張機能アラート・ダイアログを表示するには:

1. Narrative Reporting に接続します。
   a. Office を開き、「Smart View」リボンを選択して**「パネル」**をクリックします。
   b. Smart View パネルで**「プライベート接続」**を選択し、ドロップダウン・リストから接続を選択してをクリックします。

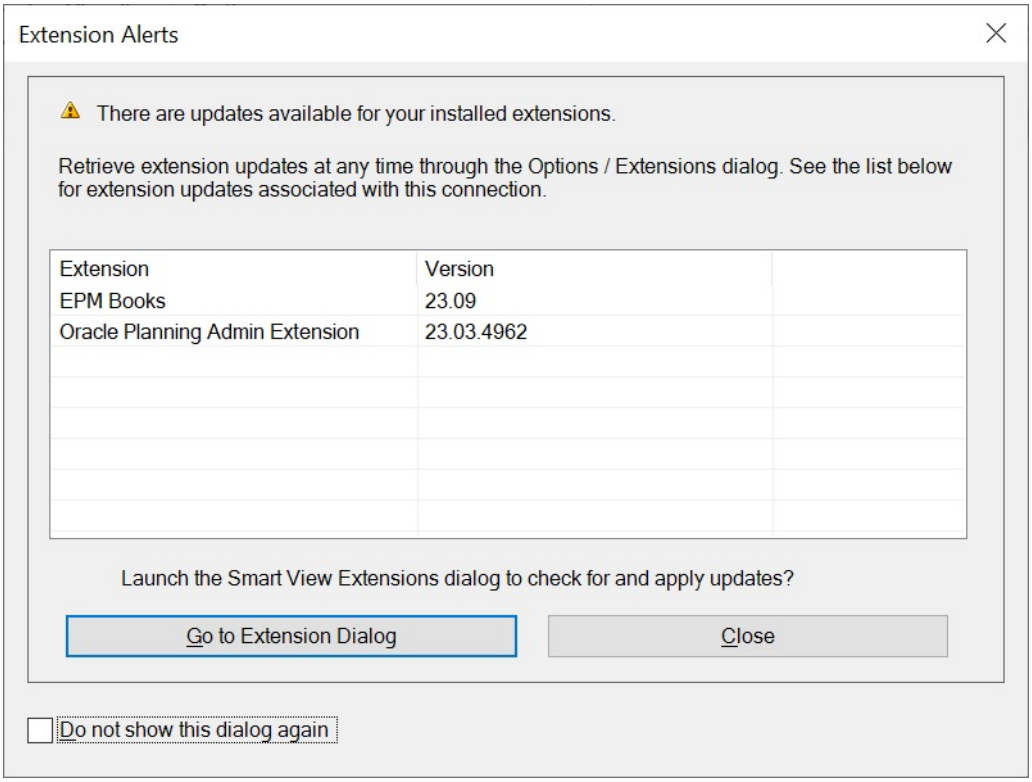
      拡張機能がすでにインスールされている場合(たとえば、Narrative Reporting)、Narrative Reporting のホームで**「ライブラリ」**を選択してツリーを表示し、「ライブラリ」ノードを展開します。

      拡張機能がインストールされていない場合は、ツリーで「ライブラリ」ノードを選択します。
   c. 「アクション」パネルで、**「接続」**をクリックします。

      接続時、Oracle Smart View for Office によってプロバイダ環境で使用可能な拡張機能のバージョンとコンピュータにインストールされているバージョンが比較されます。インストールまたは更新する拡張機能がある場合、**拡張機能アラート**・ダイアログが表示されます。このダイアログでは、インストールまたは更新可能な拡張機能が通知されます。

      図 1

図 6-1 インストールで使用可能な拡張機能を表示した拡張機能アラート・ダイアログ



2. 使用可能拡張機能のリストを確認し、アクションを実行します。
   - **「拡張機能ダイアログに移動」**をクリックして拡張機能のインストールおよび更新のプロセスに進みます。
   - **「閉じる」**をクリックしてこのダイアログを閉じます。拡張機能のインストールおよび更新のプロセスはいつでも実行できます。

   拡張機能の更新を参照して、拡張機能のインストールおよび更新のプロセスを完了します。

   新規 Smart View のインストールの場合、使用可能な拡張機能の最初のチェックを参照してください。
3. **オプション: 拡張機能アラート**・ダイアログが接続時に表示されないようにするには、次のいずれかのアクションを実行します。
   - **拡張機能アラート**・ダイアログ・ボックスで**「今後このダイアログを表示しない」**チェック・ボックスを選択します。
   - **「オプション」**ダイアログの**「拡張機能」**タブで、**「接続中は更新に関する拡張機能アラートを抑制する」**チェック・ボックスを選択します。

   接続時に**拡張機能アラート**が表示されるようにするには、**「オプション」**ダイアログの**「拡張機能」**タブで、**「接続中は更新に関する拡張機能アラートを抑制する」**チェック・ボックスをクリアします。

使用可能な拡張機能の最初のチェック

Oracle Smart View for Office を最初にインストールした後、使用可能なすべての拡張機能をチェックするには、このトピックの手順を完了します。

インストールされた拡張機能への更新をチェックするには、拡張機能の更新の手順を完了します。

> **ノート:**
>
> - Smart View のシステム管理者は、インストール可能な拡張機能、およびインストールが自動かオプションかを制御します。
> - バニティ URL を使用してログインした場合、拡張機能のインストールおよび更新のコマンド**「更新、新規インストールおよびアンインストールのチェック」**はサポートされません。

Smart View の最初のインストール後に拡張機能をチェックするには:

1. Excel、Word または PowerPoint を起動します。
2. Smart View リボンから、**「オプション」**、**「拡張機能」**の順に選択します。
3. **「更新、新規インストールおよびアンインストールのチェック」**リンクをクリックします。
4. **「拡張機能の更新の場所の選択」**で、データ・ソース接続を選択して、拡張機能の更新の有無をチェックし、**「更新の取得」**をクリックします。

   Smart View では、管理者によって使用可能に設定されている拡張機能へのすべての選択済データ・ソース接続がチェックされます。

   すべてのデータ・ソース接続の拡張機能をチェックするには、**「すべて選択」**をチェックします。

   ダイアログ・ボックスが拡大され、拡張機能の問合せの進行状況およびステータスが提供されるメッセージ・ウィンドウが表示されます。

   > **ノート:**
   >
   > Oracle Enterprise Performance Management System、Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition、Oracle Analytics Cloud の複数の製品に接続している場合は、今回更新する拡張機能のみの接続場所を選択できます。たとえば、Narrative Reporting 拡張機能の更新のみをチェックするとします。その場合、Narrative Reporting 接続に対応するチェック・ボックスのみを選択します。

5. **「閉じる」**をクリックして**「拡張機能の更新の場所の選択」**を閉じ、**「オプション」**ダイアログ・ボックスの**「拡張機能」**タブに戻ります。
6. 次のいずれかのアクションを行います:
   - プロンプトに従い、アクティブな Office アプリケーションを閉じます。ベスト・プラクティスとして、Windows タスク マネージャーを確認し、Outlook を含む他の実行中の Office アプリケーションまたはプロセスを終了します。次に、Office を再起動します。

     管理者が拡張機能の更新をチェックした後に自動的にインストールするよう設定し、Office を閉じて再度開いた場合、これ以上何も実行する必要はありません。

- 管理者がオプションの拡張機能インストール更新を設定した場合、拡張機能のインストールのステップ 6 に進みます。

拡張機能のインストール

拡張機能のインストールが可能である場合、**「オプション」**ダイアログ・ボックスの**「拡張機能」**タブからインストールできます。

> **ノート:**
>
> - Oracle Smart View for Office のシステム管理者は、どの拡張機能が使用可能か、およびインストールが自動かオプションかを制御します。インストールが自動である場合、使用可能な拡張機能の最初のチェックの手順にのみ従う必要があります。インストールがオプションの場合、このトピックの手順に従います。
> - Oracle Analytics Cloud および Oracle Business Intelligence Enterprise Edition の両方と互換性がある Oracle BI EE 拡張機能のインストールは、他の拡張機能と異なります。Oracle Analytics Cloud ユーザーは、詳細について Oracle Analytics Cloud 拡張機能のインストールを参照してください。Oracle BI EE ユーザーは、詳細について Oracle BI EE 拡張機能のインストールを参照してください。
> - バニティ URL を使用してログインした場合、拡張機能のインストールおよび更新のコマンド**「更新、新規インストールおよびアンインストールのチェック」**はサポートされません。

拡張機能をインストールするには:

1. Excel、Word または PowerPoint を起動します。
2. Smart View リボンから、**「オプション」**、**「拡張機能」**の順に選択します。
3. **「更新、新規インストールおよびアンインストールのチェック」**リンクをクリックします。

   Smart View では、新規および更新された拡張機能、および必須の拡張機能をチェックします。
4. **「拡張機能の更新の場所の選択」**で、データ・ソース接続を選択して、拡張機能の更新の有無をチェックし、**「更新の取得」**をクリックします。

   > **ノート:**
   >
   > Oracle Journals および Oracle BIEE 拡張機能のインストール・パッケージは、Smart View とともにローカルにインストールされます。

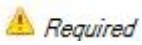
   Smart View では、管理者によって使用可能に設定されている拡張機能へのすべての選択済データ・ソース接続がチェックされます。

   すべてのデータ・ソース接続の拡張機能をチェックするには、**「すべて 選択」**をチェックします。

   ダイアログ・ボックスが拡大され、拡張機能の問合せの進行状況およびステータスが提供されるメッセージ・ウィンドウが表示されます。

5. **「閉じる」**をクリックして**「拡張機能の更新の場所の選択」**を閉じ、**「オプション」**ダイアログ・ボックスの**「拡張機能」**タブに戻ります。
6. 拡張機能のリストおよび Install の表示場所を確認し、**「インストール」**リンクをクリックしてインストーラを起動します。

   必須のユーザーごとの拡張機能は次のように指定されます:

   > **ノート:**
   >
   > リリース 25.100 以降では、Smart View の最小バージョンが必要でも、現在の Smart View インストールが最小バージョンでない場合は、メッセージ・アラートが表示されます。
   >
   > インストールを続行できますが、インストールする拡張機能の一部の機能は利用できない場合があります。

7. プロンプトに従い、拡張機能をインストールします。

   > **ヒント:**
   >
   > アクティブな Office アプリケーションを終了するよう求められます。拡張機能のインストールを正しく完了するには、すべての Office アプリケーションを終了する必要があります。ベスト・プラクティスとして、Windows タスク マネージャーを確認し、Outlook を含む他の実行中の Office アプリケーションまたはプロセスを終了します。

拡張機能の更新

拡張機能の更新が可能である場合、**「オプション」**ダイアログ・ボックスの**「拡張機能」**タブから更新できます。

> **ノート:**
>
> - バニティ URL を使用してログインした場合、拡張機能のインストールおよび更新のコマンド**「更新、新規インストールおよびアンインストールのチェック」**はサポートされません。
> - Oracle Smart View for Office のシステム管理者は、使用可能な拡張機能、および拡張機能の更新のためのオプションを制御します。インストールが自動である場合、このトピックの最初の 3 つのステップのみ実行する必要があります。インストールがオプションの場合、このトピックのすべてのステップを完了します。

拡張機能の更新をチェックしてインストールするには:

1. Smart View リボンから、**「オプション」**、**「拡張機能」**の順に選択します。
2. 拡張機能を更新するには、次のいずれかのタスクを実行します:
   - **「更新、新規インストールおよびアンインストールのチェック」**リンクをクリックして、使用可能なすべての拡張機能の更新と、新しい拡張機能をすぐにチェックします。
   - **「Microsoft Office の開始時に更新をチェック」**チェック・ボックスを選択します。

     Office アプリケーションを起動するたびに、Smart View では拡張機能の更新のチェックを実行します。
3. **「拡張機能の更新の場所の選択」**で、データ・ソース接続を選択して、拡張機能の更新の有無をチェックし、**「更新の取得」**をクリックします。

   Smart View では、管理者によって使用可能に設定されている拡張機能の更新へのすべての選択済データ・ソース接続がチェックされます。

   すべてのデータ・ソース接続の拡張機能の更新をチェックするには、**「すべて選択」**をチェックします。

   ダイアログ・ボックスが拡大され、拡張機能の更新の問合せの進行状況およびステータスが提供されるメッセージ・ウィンドウが表示されます。
4. **「閉じる」**をクリックして**「拡張機能の更新の場所の選択」**を閉じ、**「オプション」**ダイアログ・ボックスの**「拡張機能」**タブに戻ります。
5. 次のいずれかのアクションを行います:
   - プロンプトに従い、アクティブな Office アプリケーションを閉じます。また、Windows タスク マネージャーを確認し、Outlook を含む他の実行中の Office アプリケーションまたはプロセスを終了します。次に、Office を再起動します。

     これ以上何も実行する必要はありません。
   - 管理者がオプションの拡張機能インストール更新を設定した場合、ステップ 6 に進みます。
6. 拡張機能のリストおよび Update Available の表示場所を確認し、**「使用可能な更新」**リンクをクリックしてインストーラを起動します。

   > **ノート:**
   >
   > リリース 25.100 以降では、Smart View の最小バージョンが必要でも、現在の Smart View インストールが最小バージョンでない場合は、メッセージ・アラートが表示されます。
   >
   > インストールを続行できますが、インストールする拡張機能の一部の機能は利用できない場合があります。
7. プロンプトに従い、拡張機能をインストールします。

   更新が使用可能になり、拡張機能インストーラをダウンロードするよう求められたら、Office アプリケーションを閉じて、インストーラを実行します。

> **ヒント:**
>
> 拡張機能のインストールを正しく完了するには、すべての開いている Office アプリケーションを終了する必要があります。ベスト・プラクティスとして、Windows タスク マネージャーを確認し、Outlook を含む他の実行中の Office アプリケーションまたはプロセスを終了します。

Office アプリケーションを再起動すると、拡張機能は、**「オプション」**ダイアログ・ボックスの**「拡張機能」**ページに**「使用可能」**として表示されます。

拡張機能のインストールのロギングの有効化

拡張機能のインストール・プロセスのログを作成するには:

1. Smart View リボンから、**「オプション」**、**「拡張機能」**の順に選択します。
2. **「拡張機能のインストールのロギングを使用可能にする」**チェック・ボックスを選択します。
3. **「オプション」**ダイアログ・ボックスの**「詳細」**タブで、次のステップを完了します:
   a. **「ログ・メッセージ表示」**レベルが少なくとも**「警告」**に設定されていることを確認します。
   b. **「メッセージをファイルに送る」**チェック・ボックスを選択し、ログ・ファイルの場所を記録します。
4. 拡張機能のインストールおよび拡張機能の更新の説明に従って、拡張機能のインストールまたは更新に進みます。

拡張機能のダウンロードのデフォルト URL のオーバーライド

Oracle Smart View for Office 管理者は、デフォルト以外の場所に拡張機能インストーラを移動し、そのインストーラの場所を知らせることができます。これを行う場合、次の手順を完了します。

> **ノート:**
>
> 拡張機能インストーラのデフォルト以外の場所には、URL、ローカル・フォルダまたはネットワーク・フォルダを指定できます。

デフォルトのダウンロード URL またはフォルダの場所をオーバーライドするには:

1. Smart View リボンから、**「オプション」**、**「拡張機能」**の順に選択します。
2. **「デフォルト・ダウンロード URL のオーバーライド」**チェック・ボックスを選択します。

   図 1 に示すように、テキスト・ボックスおよび参照ボタンがアクティブ化されます。

図 6-2 「デフォルト・ダウンロード URL のオーバーライド」チェック・ボックス



3. URL をテキスト・ボックスに入力するか、をクリックして、Smart View 管理者が指定したローカル・フォルダまたはネットワーク・フォルダに移動します。

   `UpdateList.xml` ファイルは、指定された URL またはフォルダのいずれかに自動的に追加されます。

拡張機能の有効化および無効化

拡張機能を使用可能にするには:

1. Smart View リボンから、**「オプション」**、**「拡張機能」**の順に選択します。
2. リストで拡張機能を検索し、**「使用可能」**チェック・ボックスを選択します。

   チェック・ボックスを選択すると、ラベルは**「使用可能」**に変更されます。
3. **オプション:** 拡張機能を無効にするには、リストで拡張機能を検索し、**「使用可能」**チェック・ボックスをクリアします。

> **ノート:**
>
> Oracle Smart View for Office で拡張機能が有効化されている場合に、多数のメンバーでレポートをカスケードすると、Excel が応答しなくなります。この状況を回避するためのベスト・プラクティスとして、「Smart View のオプション」ダイアログ・ボックスの拡張機能ページで、インストールされている拡張機能を無効にします。その後、Excel を再起動してカスケード操作を繰り返します。

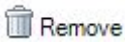
拡張機能使用時の表示の調整

インストールされた拡張機能内で関連付けられたウィンドウが Oracle Smart View for Office で正常にレンダリングおよび表示されない場合は、**「ヘルス・チェック」**ダイアログに移動して、**「ブラウザ・エミュレーション・モード」**オプションが有効になっている(**「使用不可」**に設定されていない)ことを確認します。手順は次のとおりです:

1. Excel の Smart View のリボンから、**「ヘルプ」**の隣にある矢印をクリックし、**「ヘルス・チェック」**を選択します。
2. ダイアログの下部にある**「推奨設定」**をクリックします。
3. 確認ダイアログで、**「はい」**をクリックします。
4. **「設定の更新」**をクリックし、**「閉じる」**をクリックします。
5. Excel を再起動してログインします。

詳細は、システムのヘルス・チェックの実行を参照してください。

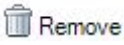
拡張機能のアンインストール

アンインストールする権限のある拡張機能名の隣に、**「削除」**リンク  が表示されます。

> **ノート:**
>
> Oracle Smart View for Office 管理者は、どの拡張機能がアンインストールする権限があるかを決定します。

拡張機能をアンインストールするには:

1. Smart View リボンから、**「オプション」**、**「拡張機能」**の順に選択します。
2. **「更新、新規インストールおよびアンインストールのチェック」**リンクをクリックします。

   Smart View では、削除できる拡張機能をチェックします。
3. 拡張機能リストで、アンインストールする拡張機能を検索し、**「削除」**リンク  をクリックします。

   Office アプリケーションを再起動すると、拡張機能がアンインストールされることを知らせるメッセージが表示されます。すべての Office アプリケーションを閉じて、拡張機能を完全に削除する必要があります。
4. Outlook を含むすべての Office アプリケーションを閉じて再起動します。

> **ヒント:**
>
> アンインストールを正しく完了するには、すべての開いている Office アプリケーションを終了する必要があります。ベスト・プラクティスとして、Windows タスク マネージャーを確認し、Outlook を含む他の実行中の Office アプリケーションまたはプロセスを終了します。

7

ディメンションとメンバー

次も参照:

- ディメンションとメンバーについて
  *ディメンション*は、ビジネス・データを整理して値の取得と保持ができるようにするために使用するデータ・カテゴリです。
- ディメンションおよびメンバーの命名の制限
  ディメンションおよびメンバーの名前を付ける場合、考慮する制限がいくつかあります。
- 数値メンバー名に関するベスト・プラクティス
  Oracle Smart View for Office で数値のメンバー名を操作する場合は、このトピックに記載されているベスト・プラクティスを使用してください。
- メンバー・セレクタからのメンバーの選択
  Oracle Smart View for Office でメンバーを選択する用途には、アド・ホック・グリッド、関数、POV マネージャでの使用があります。
- POV ツールバーからのメンバーの選択
  POV とは、データ・ソース接続におけるディメンションのデフォルトの開始点です。
- セルベースの POV を使用したメンバーの選択
  POV ツールバーを使用せずに、グリッドのページ・ディメンションの行のセルからメンバーを直接選択できます。
- フリーフォーム・モードでのメンバーの入力
  データベースのディメンションとメンバーを詳しく把握している場合、*フリーフォーム・モード*を使用して、これらの名前を直接セルに入力できます。
- POV ツールバーの表示
  グリッドにすべてのメンバーを表示して POV ツールバーを非表示にするか、POV メンバーを含む POV ツールバーを表示するかを選択できます。
- POV マネージャ
  視点(POV)は、フォーム、アド・ホック・グリッドおよび関数の開始点です。
- 属性によるフィルタ
  アド・ホック・グリッドで、属性メンバーを含むディメンションでは属性によるフィルタが可能です。
- サブセットによるフィルタ
  属性メンバーを含むディメンションの場合、属性を選択してその条件を設定し、これらの条件を満たすメンバーのみを表示できます。
- 期間累計メンバーの選択
  時間ディメンションでは、「動的時系列」メンバーと呼ばれる期間累計メンバーを設定できます(定義されている場合)。たとえば、8 月末の年次累計データを表示するには、1 月から 8 月までのデータを含む「動的時系列」メンバーを設定します。
- メンバー・パースペクティブの 指定
  可変属性フィルタを使用して、メンバーの選択時に、可変属性のメンバー・パースペクティブを指定します。

- メンバー情報の表示
  アド・ホック・グリッド上に、任意のメンバーの詳細情報を表示できます。表示される情報は、接続しているデータ・ソースのタイプによって異なります。
- 別名および別名表の操作
  別名は、データベース・メンバー名の代替名です。
- メンバー・セレクタでのメンバー名の表示の定義
  「メンバー名の表示」オプションを選択して、「メンバー選択」ダイアログ・ボックスにメンバー名がどのように表示されるかを変更できます。
- 重複するメンバーの修飾名の表示
  異なるメンバーまたはメンバーの別名に同じ名前が付けられていることがあります。
- 代替階層での修飾名の表示
  代替階層の修飾名動作は、フォームおよびアド・ホック・グリッドの実行時およびメンバー・セレクタの動作に影響します。
- フォームのページでの個々のページ・メンバー名の表示
  フォームのページ・リストに、説明ではなく個々のページ・メンバーの名前または完全修飾名を表示します。
- ディメンションのプロパティの表示
  「Essbase」リボンの**「プロパティの挿入」**コマンドを使用して、アド・ホック・グリッドでディメンションのプロパティを簡単に表示できます。

ディメンションとメンバーについて

*ディメンション*は、ビジネス・データを整理して値の取得と保持ができるようにするために使用するデータ・カテゴリです。

ディメンションには通常、内部でグループ化された関連*メンバー*の階層が含まれています。たとえば、年ディメンションには、四半期や月など期間ごとのメンバーが含まれています。

グリッドのメンバーは、データ・ソースのリボンにある「メンバー選択」ダイアログ・ボックスから、または POV ツールバーから選択するか、フリーフォーム・モードを使用してメンバー名を入力します。

関連トピック:

ディメンションおよびメンバーの命名の制限

メンバー・セレクタからのメンバーの選択

POV ツールバーからのメンバーの選択

フリーフォーム・モードでのメンバーの入力

ディメンションおよびメンバーの命名の制限

ディメンションおよびメンバーの名前を付ける場合、考慮する制限がいくつかあります。

Oracle Smart View for Office セル関数(関数に説明されています)を使用する場合は、メンバー名、ディメンション名または変数名に次の文字を使用しないでください。

- ハッシュ記号(#)
- セミコロン(;)
- カンマ(,)

これらの文字は、Smart View のセル関数でデリミタとして予約されています。

数値メンバー名に関するベスト・プラクティス

Oracle Smart View for Office で数値のメンバー名を操作する場合は、このトピックに記載されているベスト・プラクティスを使用してください。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Planning、Planning モジュール、Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Tax Reporting

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Oracle Hyperion Planning、Oracle Hyperion Financial Management

Smart View で数値のメンバー名を操作する場合:

- アポストロフィ(')付きの接頭辞数値メンバー名。
- 数値メンバー名を入力する前に、メンバー・セルまたは列全体を選択してから、Excel を使用して選択したセルのフォーマットを"テキスト"に設定します。
- 数値メンバー名をすでに入力した場合は、メンバー・セルまたは列全体を選択し、Excel を使用して選択したセルのフォーマットを"テキスト"に設定してから、**[F2]**および**[Enter]**を押して Excel でセル・タイプの更新をトリガーします。

前述のベスト・プラクティスは、ブール値または日付値で構成されるメンバー名を操作する場合にも使用する必要があります。

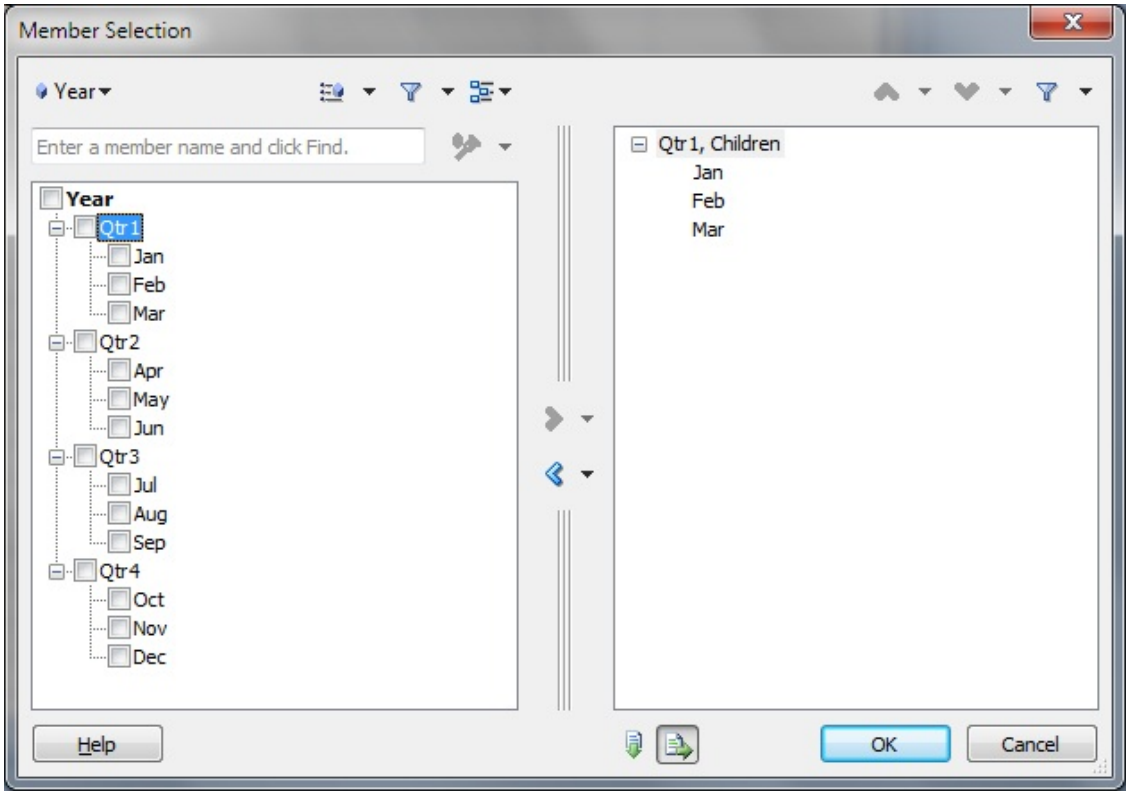
メンバー・セレクタからのメンバーの選択

Oracle Smart View for Office でメンバーを選択する用途には、アド・ホック・グリッド、関数、POV マネージャでの使用があります。

「メンバー選択」ダイアログ・ボックスは、使用する場面によって少し異なり、オプションによっては使用できないものもあります。1 つのディメンションのメンバーを一度に選択できます。

図 1 は、「年」ディメンションとそのメンバーが例として表示された**「メンバー選択」**ダイアログ・ボックスを示しています。

図 7-1 「メンバー選択」ダイアログ・ボックス



> **ノート:**
>
> このトピックでは、Cloud EPM は次のデータ・ソース・プロバイダを指します: Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Planning、Planning モジュールおよび Tax Reporting。
>
> Oracle Hyperion Planning に関する説明では、オンプレミスの Planning を指します。

関連トピック:

メンバーの選択に関するベスト・プラクティス

メンバーの選択

メンバーの選択に関するベスト・プラクティス

- Oracle Hyperion Financial Management: 名前に二重ハイフン(--)が含まれているメンバー・リストを選択すると、エラー(不明なエラー 0x800A139D)が発生します。
- Cloud EPM: 「メンバー名と別名」モードの場合:
  - **「メンバー選択」**ダイアログに表示されるディメンションは、グリッドの別名列に選択したディメンションまたはメンバーに関係なく、デフォルトのディメンションが表示されます。ステップ 2 を実行して、必要なディメンションを選択します。

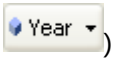
– **「メンバー選択」**ダイアログを使用してメンバーを選択した後、リフレッシュを正常に完了するためには、シートの隣接する列にある対応するメンバーまたは別名を手動で修正または削除する必要があります。

"メンバー名と別名"モードとは、メンバー・オプションで説明されているように、**「メンバー名の表示」**オプションが**「メンバー名と別名」**に設定されていることを指します。

> **ヒント:**
>
> Oracle Essbase および Cloud EPM:
> アド・ホック・グリッドまたはフリー・フォーム・グリッドに属性ディメンションをすばやく追加するには、シートでの属性ディメンションの挿入の手順に従います。次に、このトピックの手順を使用して、属性ディメンションからメンバーを選択して操作できます。

メンバーの選択

メンバーを選択するには:

1. 選択したディメンションで使用可能なメンバーのツリー・リストを含む**「メンバー選択」**ダイアログ・ボックスを表示するには、次のいずれかを行います:
   - グリッドのディメンションまたはメンバーを選択し、プロバイダ・アド・ホックのリボンから**「メンバー選択」**をクリックします。たとえば、Planning アド・ホックのリボンまたは Essbase のリボンから、**「メンバー選択」**をクリックします。
   - メンバーの選択が可能な「開く」ダイアログ・ボックスで、**「メンバー選択」**をクリックします。
   - 空のワークシートで、Smart View パネルから、キューブ名を右クリックして**「メンバー選択」**を選択します。このメソッドを使用して、関数と参照のメンバーを選択します(関数を参照)。
   - フォームのユーザー変数をクリックします。
   - Financial Management: フォームで、選択可能なディメンション、行または列をクリックします。
2. **「メンバー選択」**でディメンションを変更するには、**「ディメンション・セレクタ」**ボタン(たとえば、

)をクリックして、ディメンションを選択します。
3. **オプション:** ツリー・リストで特定のメンバーを検索するには、検索フィールドにメンバー名またはメンバー名の一部を入力して、をクリックします。

   メンバー・リストの最初の結果が強調表示されています。を再度クリックして、入力した検索文字列を含む次のメンバーを見つけます。

   または、ボタンをクリックするかわりに、F3 キーを押すことができます。

> **ヒント:**
>
> 英文字の検索についてのみ、検索フィールドに検索基準を入力した後に**[Enter]**キーを押すことができる場合もあります。一致するメンバーを見つけた後、**[Enter]**を再度押すとエラー・メッセージが表示される場合があります。連続した検索には**[Enter]**キーを使用できますが、一致した結果を見つけた後は、**[Enter]**を再度押す前に常にカーソルを検索フィールドに戻すことがベスト・プラクティスです。

> **ノート:**
>
> - **「メンバー選択」**ダイアログの別名表が**「なし」**に設定されている場合(ステップ 6 を参照)、メンバー名で検索できます。別名表を**「デフォルト」**または他の別名表に変更した場合、デフォルトの別名表または他の選択した別名表に定義された対応する別名に従って検索する必要があります。
> - Essbase および Narrative Reporting では、アスタリスク(*)および疑問符(?)をワイルド・カードとして受け入れます。アスタリスクは、複数の文字を置き換えることができます。疑問符は、1 つの文字のみを置き換えることができます。
>
>   たとえば、`Total` で始まるすべてのメンバー名を検索する場合、`To*`および `To?al` が有効な文字列ですが、`To?`は無効です。
>
>   検索文字列は、アスタリスクから開始できません。たとえば、`*Total` および `*otal` は、サポートされている検索文字列ではありません。

4. **オプション:** の矢印をクリックし、「メンバー選択」ダイアログ・ボックスの右側のペインとグリッドやフォームの両方でメンバーを表示する基準を変更するオプションを選択します:

   - **Essbase:**
     - **階層** - メンバーを標準の階層フォーマットで表示します。
     - **属性** - メンバーを属性別に表示します。属性によるフィルタを参照してください。
     - **サブセット** - 一連の条件に基づいてメンバーのサブセットを表示します。 サブセットによるフィルタ
     - **動的時系列** - 累積計算の基礎となる最新期間別にメンバーを表示します。期間累計メンバーの選択を参照してください。
   - **Cloud EPM および Oracle Hyperion Planning:**
     - **階層** - メンバーを標準の階層フォーマットで表示します。
     - **属性** - Planning のみ。アド・ホック・グリッドでメンバーを属性別に表示します。属性によるフィルタを参照してください。
     - **Cloud EPM のみ:**

       代替変数 - **「プリファレンス」**ダイアログ・ボックスの**「ユーザー変数」**タブで選択された内容に基づいてメンバーを表示します。

> **ノート:**
>
> フォームのユーザー変数から**「メンバー選択」**にアクセスすると、**「代替変数」**オプションが表示されます。

  - **動的時系列** - 累積計算の基礎となる最新期間別にメンバーを表示します。期間累計メンバーの選択を参照してください。

- **Financial Management:**
  - **階層** - メンバーを標準の階層フォーマットで表示します。
  - **メンバー・リスト** - システム生成またはユーザー生成のいずれかのメンバー・リストによってメンバーが表示されます。システム生成のメンバー・リストは、大カッコを使用して指定することに注意してください(例: [*メンバー・リスト名*])。
- **Narrative Reporting:**
  - **階層** - メンバーを標準の階層フォーマットで表示します。
  - **動的時系列** - 累積計算の基礎となる最新期間別にメンバーを表示します。期間累計メンバーの選択を参照してください。

5. **オプション:** ツリー・リストで特定のメンバーまたはメンバー・グループを検索するには、をクリックして、次のフィルタのいずれかを選択します(フィルタ・オプションはデータ・ソース・タイプによって異なる可能性があります):
   - **「子孫」**は、選択したメンバーのすべての子孫を選択します
   - **子孫を含む**は、選択したメンバー、およびそのすべての子孫が含まれます
   - **「子」**は、選択したメンバーの子のみを選択します
   - **子を含む**は、選択したメンバー、およびその子のみが含まれます
   - **「兄弟」**は、選択したメンバーのすべての兄弟を選択します
   - **兄弟を含む**は、選択したメンバー、およびそのすべての兄弟が含まれます
   - **左の兄弟**は、同じ親を持つ選択済メンバーの前に表示されるメンバーのみが含まれます
   - **左の兄弟を含む**は、選択したメンバー、および左の兄弟が含まれます
   - **右の兄弟**は、同じ親を持つ選択済メンバーの後に表示されるメンバーのみが含まれます
   - **右の兄弟を含む**は、選択したメンバー、および右の兄弟が含まれます
   - **「親」**は、選択したメンバーの親のみを選択します
   - **親を含む**は、選択したメンバー、およびその親のみが含まれます
   - **「祖先」**は、選択したメンバーのすべての祖先を選択します
   - **祖先を含む**は、選択したメンバー、およびそのすべての祖先が含まれます
   - **「基本」**は、階層の最下位レベルの階層メンバーのみを選択します
   - **「レベル 0 子孫」**は、選択した中で子のないメンバーのすべての子孫を表示します
   - **レベル**は、メンバー階層の 1 レベルを選択する「レベル」ダイアログ・ボックスを表示します

- **世代**は、メンバー階層の 1 世代を選択する「世代」ダイアログ・ボックスを表示します
- **UDA** は、ユーザー定義属性(管理者が定義した場合にのみ使用可能)を選択する「UDA」ダイアログ・ボックスを表示します

> **ノート:**
>
> Narrative Reporting はフィルタをサポートしていません。

6. **オプション:「メンバー選択」**ダイアログ・ボックスのメンバーの表示オプションおよび選択オプションを選ぶには、をクリックしてアクションを実行します:
   - 適用するメンバーの隣にあるチェック・ボックスにチェック・マークを入れるには、**「子のチェック」**、**「子孫のチェック」**または**「基本メンバーのチェック」**を選択します。
   - すべてのチェック・マークをクリアするには、**「チェックのクリア」**を選択します。
   - ディメンションを展開または縮小した状態で表示するには、**「すべて展開」**または**「すべて縮小」**を選択します。
   - メンバーに関する情報を表示するには、メンバーを選択してから**「メンバー情報」**を選択します。使用可能な場合は、**「別名」**タブをクリックして別名表情報を表示します。

     Essbase、Cloud EPM、Narrative Reporting、Oracle Hyperion Planning に適用されます。
   - **「メンバー選択」**ダイアログ・ボックスのメンバーに別名表を適用するには、**「別名表」**を選択して、別名表を選択します。

     「メンバー選択」ダイアログ・ボックスで行った別名表の選択は、そのダイアログ・ボックスにのみ適用され、Office ドキュメントのグリッドには適用されないことに注意してください。
7. **「メンバー」**で、使用するメンバーを選択します。

> **ノート:**
>
> Financial Management では、名前に二重ハイフン(--)が含まれているメンバー・リストを選択すると、エラー(不明なエラー 0x800A139D)が発生します。

8. をクリックします。

   メンバーは、右側のペインでメンバー・ツリー・リストから選択ツリー・リストに移動されます。
9. **オプション:** これが空白の接続されたワークシートで行う最初のメンバー選択である場合は、**「メンバー選択」**ダイアログを「Smart View パネル」から起動します。これには、**「詳細」**、**「メンバー選択」**の順に選択し、メンバーを選択し、これらの入力ボタンのいずれかを選択します:
   - で、選択したメンバーを、選択したセルから始めて、列に縦方向に入力します

- で、選択したメンバーを、選択したセルから始めて、行に横方向に入力します

入力ボタンは、**「メンバー選択」**を「Smart View パネル」の**「詳細」**メニューから起動したときにのみ表示され、フリー・フォームのアド・ホック・グリッドの作成に役立ちます。入力ボタンは、接続されたデータ・ソース内のすべての対象メンバーに表示されます。

> **ヒント:**
>
> 入力ボタンを使用するときは、必ずカーソルのセルの配置を確認し、シート内で目的の開始点が選択されていることを確認してください。選択したセルから入力が始まります。

たとえば、セル A2 にカーソルを置き**「メンバー選択」**を**「詳細」**メニューから起動し、ディメンション内で任意の 3 つのメンバーを選択し、それらをダイアログ右側に移動します。

「縦方向に挿入」ボタンをクリックし、ダイアログを閉じます。選択したメンバーは、セル A2、A3、A4 に入力されます。

10. **「OK」**をクリックして**「メンバー選択」**ダイアログを閉じます。

    選択したメンバーがグリッドに表示されます。

11. リボンから**「リフレッシュ」**をクリックすると、グリッド上のデータは選択したメンバーに対応して更新されます。

> **ノート:**
>
> 選択したメンバーがグリッドに表示されたら、グリッドで別のメンバーを選択して**「メンバー選択」**を再度起動する前に、**「リフレッシュ」**を実行する必要があります。グリッドをリフレッシュしないと、**「メンバー選択」**はキューブ・アウトラインの最初のディメンションのコンテキストで起動されます。

12. **オプション:** 前のステップの説明に従って最初にグリッドをリフレッシュした後、この手順を繰り返して追加メンバーを選択します。

POV ツールバーからのメンバーの選択

POV とは、データ・ソース接続におけるディメンションのデフォルトの開始点です。

POV ツールバーから、グリッドに追加する各ディメンションのメンバーとフィルタを選択し、グリッドに、またはグリッドからメンバーを移動できます。

変更した POV は、選択したシートにのみ適用されます。ワークブック内の既存のシートおよび新規シートには、変更した POV は適用されません。

各接続に関連付けられるのは 1 つの POV のみですが、ワークブックの複数のワークシートに対する 1 つの接続で、異なる POV を設定することは可能です。

POV マネージャに示されているように、POV を管理できます。

> **ノート:**
>
> Oracle Hyperion Financial Management には、デフォルトでユーザーの視点が表示されます。詳細は、*Oracle Hyperion Financial Management ユーザー・ガイド*を参照してください。
>
> Oracle Essbase および Narrative Reporting の接続の場合は、POV ツールバーの表示を参照してください。

POV ツールバーからグリッドへのメンバーとディメンションの配置

POV ツールバーからディメンションとメンバーを選択するには:

1. 次のいずれかを行います:
   - POV ツールバーでメンバーの名前を対応するディメンションの上に入力して、POV ツールバーで**「リフレッシュ」**をクリックします。
   - POV ツールバーのディメンションの隣の下矢印、省略記号(...)の順にクリックし、メンバー・セレクタからのメンバーの選択の説明に従ってメンバーを選択します。

     > **ノート:**
     >
     > **「メンバー選択」**ダイアログ・ボックスで、POV の 5000 を超えるメンバーを選択できます。ただし、POV ツールバーには選択した最初の 5000 メンバーしか表示できないことに注意してください。

2. POV ツールバーでメンバーの横にある下矢印を右クリックし、それをグリッドにドラッグします。

   メンバーまたはディメンションを編集するために POV ツールバーに移動するには、そのセルを右クリックして POV ツールバーにドラッグします。

3. 必要に応じて繰り返して、グリッドに追加するすべてのディメンションとメンバーを 配置します。

   > **ノート:**
   >
   > 変更した POV は、選択したシートにのみ適用されます。ワークブック内の既存のシートおよび新規シートには、変更した POV は適用されません。

4. これらの POV 選択をワークシートに保存するには、ワークシートの保存前にリフレッシュする必要があります。
5. **オプション:** POV ツールバーを非表示にするには、データ・ソースのリボンで**「POV」**をクリックします。

   「POV」ボタンにより、POV ツールバーの表示と非表示が切り替わります。POV ツールバーでの作業を終了後、再び必要になるまで非表示にしておくことができます。

> **ノート:**
>
> Oracle Smart View for Office 11.1.2.5.520 以降では、重複するメンバー・データベースに接続すると、メンバー名はデフォルトで POV にのみ表示されます。一方、Smart View 11.1.2.5.510 以前で保存されたワークブックでは、修飾メンバー名が POV に表示されます。POV のメンバー名の表示を変更するには、POV から**「メンバー選択」**ダイアログ・ボックスを開き、**「OK」**をクリックします。

例 7-1 POV の使用例

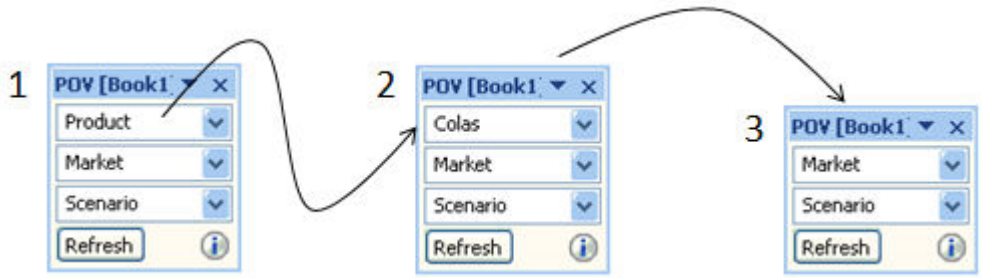
図 1 には、左から右に、次の条件で POV が表示されます:

1. **「Product」**、**「Market」**および**「Scenario」**は POV の開始ディメンションです。
2. **「Colas」**は**「Product」**メンバーとして選択されます。

   「メンバー選択」ダイアログ・ボックスで、POV の 5000 を超えるメンバーを選択できます。ただし、POV ツールバーには選択した最初の 5000 メンバーしか表示できないことに注意してください。

   一度に 1 つのディメンション・メンバーのみを POV に表示できますが、**「メンバー選択」**で、POV のディメンションのドロップダウン・リストに最大 5000 個のメンバーを選択できることに注意してください。選択するメンバーは、ディメンションのドロップダウン矢印をクリックして、POV でアクセスできます。
3. Market および Scenario のみが POV に残るように、**「Colas」**がグリッドに移動されます(また、POV ツールバーに戻すことができます)。

図 7-2 POV — pov2 の使用



セルベースの POV を使用したメンバーの選択

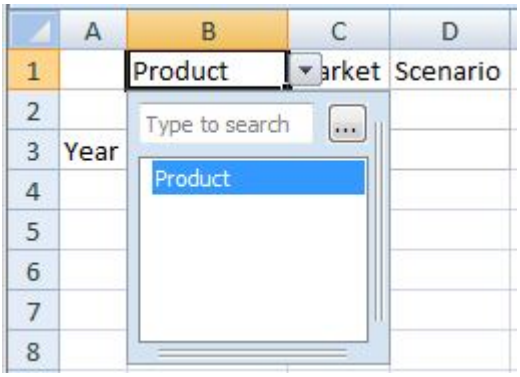
POV ツールバーを使用せずに、グリッドのページ・ディメンションの行のセルからメンバーを直接選択できます。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Planning、Planning モジュール、Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Tax Reporting

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

セルベースの POV は、ページ POV ディメンションのセルをクリックし、セルの右側に表示される下矢印を選択すると使用でき、POV ツールバーと同じように動作します。

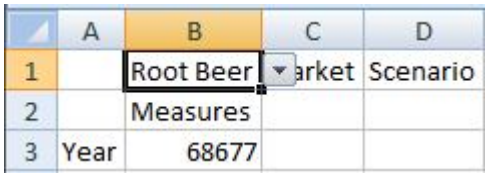
図 7-3 ディメンションのセルの選択と下矢印のクリック



セルベースの POV に表示される省略記号ボタン…をクリックし、**「メンバー選択」**ダイアログ・ボックスでメンバーを選択して、**「OK」**をクリックします。ここで、ディメンションのセルを再度見てください。選択した最初のメンバーがディメンションのセルに表示され、セルベースの POV の下矢印をクリックして他のメンバーを選択するとそのメンバーが使用可能になります。選択するたびに、**「リフレッシュ」**をクリックして更新されたデータを表示します。

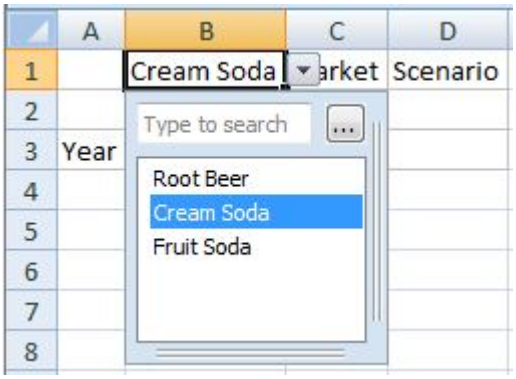
たとえば Product ディメンションに対して Essbase Sample Basic アプリケーションおよびデータベースを使用して、**「メンバー選択」**ダイアログ・ボックスで「Root Beer」、「Cream Soda」および「Fruit Soda」を選択すると、図 2 に示すように「Root Beer」がディメンションのセルに表示されます。**「リフレッシュ」**をクリックして Root Beer のデータを表示します。

図 7-4 セルベースの POV を使用した Product ディメンション POV の Root Beer への変更



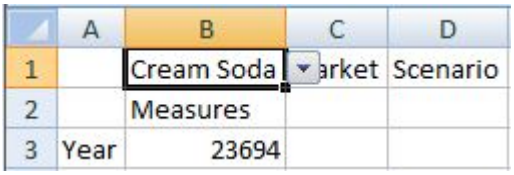
ここで、セルの隣の矢印をクリックして、別の項目、たとえば Cream Soda(図 3)などのセルベースの POV を選択します。

図 7-5 セルベースの POV を使用した POV の Cream Soda への変更



「リフレッシュ」をクリックしてデータを更新します。データが変更されていることに注意してください(図 4)。

図 7-6 リフレッシュされた Cream Soda のデータ



セルベースの POV ドロップダウンの検索フィールドにメンバー名を直接入力することもできます。この場合、一度に選択できるメンバーは 1 つのみです。**「リフレッシュ」**をクリックして更新されたデータを表示します。POV を変更するには、その都度、別のメンバー名を検索フィールドに入力します。

プロバイダ・リボンの**「POV」**ボタンを切り替えると、引き続き POV ツールバーをこれまでどおり使用できます。選択した場所に関係なく、セルベースの POV と POV ツールバーの選択項目は自動的に同期されます。別の別名表に変更すると、セルベースの POV に正しい別名の値が移入されます。

> **ノート:**
>
> この機能を使用できるのは、Essbase および Oracle Hyperion Provider Services 11.1.2.1.102 以降がインストールされている場合のみです。

フリーフォーム・モードでのメンバーの入力

データベースのディメンションとメンバーを詳しく把握している場合、*フリーフォーム・モード*を使用して、これらの名前を直接セルに入力できます。

フリーフォーム・モードでは、現在のグリッドに関連付けられている別名表からの別名を使用できます。

> **ノート:**
>
> **Oracle Essbase、Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management アド・ホック:**
>
> 別の別名表の別名を入力すると、現在の別名表の別名に戻されます。

データ・ソースへの接続後、次のようにメンバー名を入力できます。

- メンバー名を空白のセルに入力します
- セル内のメンバー名を、同じディメンションの別のメンバーに置き換えます

POV、メンバー選択およびフリーフォーム・グリッドでのその他のアド・ホック操作も引き続き使用できます。フリー・フォーム・モードを参照してください。

POV ツールバーの表示

グリッドにすべてのメンバーを表示して POV ツールバーを非表示にするか、POV メンバーを含む POV ツールバーを表示するかを選択できます。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Planning、Planning モジュール、Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Tax Reporting、Narrative Reporting

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

デフォルトでは、すべてのメンバーがグリッドに表示され、POV ツールバーは非表示になっています。グリッドの最初の行のメンバーは"ページ"ディメンションと呼ばれます。このモードでは、他のメンバーやデータ・セルと同じように POV メンバー・セルをフォーマットし、リボンの「メンバー選択」ボタンを使用してメンバーを選択できます。

POV ツールバーを表示すると、ページ・ディメンションが POV ツールバーに移動します。POV ツールバーを非表示にすると、ページ・ディメンションがグリッドの最初の行に戻ります。

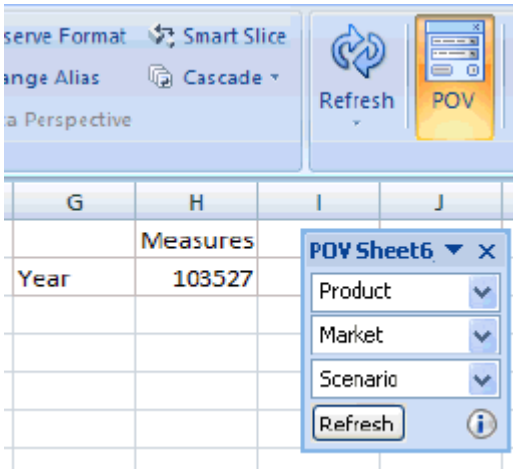
POV メンバーを含む POV ツールバーを表示する場合、POV ツールバーを使用してメンバーを選択し、それらのメンバーを POV ツールバーからのメンバーの選択の説明に従ってグリッドに移動またはグリッドから移動することができます。

POV ツールバーを表示するには:

1. プロバイダ・アド・ホックのリボンを選択します。たとえば、Planning アド・ホックのリボンです。
2. **「POV」**ボタンをクリックします。

   図 1 は、グリッド上の POV ツールバーを示しています。**「メジャー」**と**「年」**がグリッドに表示され、POV メンバー**「製品」**、**「市場」**および**「シナリオ」**が POV ツールバーに表示されています。

図 7-7 POV ツールバーの表示



POV ツールバーを非表示にし、グリッドにすべてのメンバーを表示するには:

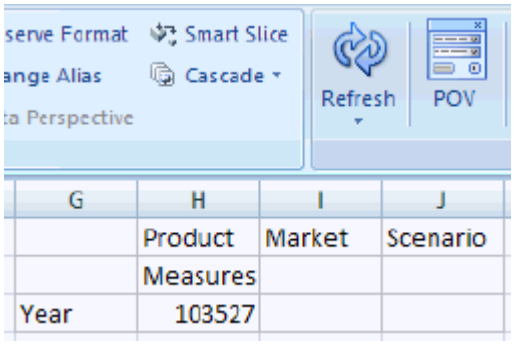
1. プロバイダのリボンを選択します。

2. **「POV」**ボタンをクリックして、オフに切り替えます。

> **ノート:**
>
> **Essbase:** 複数のグリッドを含むワークシートでは、**「POV」**ボタンは使用不可です。複数グリッドのワークシートでは、POV ツールバーは非表示で、すべてのメンバーがグリッドに表示されます。

図 2 では、**「POV」**ボタンがオフ、POV ツールバーが非表示、すべてのメンバーがグリッド上に存在します。

図 7-8 すべてのメンバーをグリッドに表示



> **ノート:**
>
> - 各シートに異なる問合せまたはテンプレートが含まれている、複数のシートを持つワークブックで、POV ツールバーをシートの上部にドラッグしてドッキングすると、そのシートに 2 つの POV ツールバーが表示される場合があります。これは POV ツールバーがドッキングされたいくつかのシートで発生する可能性があります。POV ツールバーの 1 つの右隅にある**「X」**をクリックしてそのツールバーを閉じるか、シートをリフレッシュします。
> - グリッドを編集してリフレッシュする前に POV ツールバーを非表示にする必要があります。そうしないと、リフレッシュ時にエラーが発生することがあります。たとえば、グリッドに新しい行を追加する前に、**「POV」**ボタンをクリックして、シートの行 1 にページ・ディメンションが表示されるようにします。

POV マネージャ

視点(POV)は、フォーム、アド・ホック・グリッドおよび関数の開始点です。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Planning、Planning モジュール、Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Tax Reporting

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Oracle Hyperion Planning、Oracle Hyperion Financial Management

Oracle Smart View for Office の POV マネージャを使用して、フォームおよびアド・ホック・グリッドのデフォルト POV、および関数のバックグラウンド POV を変更できます。

> **ノート:**
>
> ベスト・プラクティスとして、POV マネージャを使用するときは、常にプライベート接続を使用します。共有接続を使用してすでに接続している場合は、**「プライベート接続への追加」**コマンドを使用して、現在の共有接続をプライベートとして保存します。接続のプライベート接続としての保存を参照してください。

POV マネージャで実行できる操作は、次のとおりです:

- デフォルト POV のメンバーの選択、およびデフォルト POV の編集(Financial Management には適用できません)
- 関数のバックグラウンド POV のメンバーの選択
- POV をワークブックに保存
- POV のコピー、および別のワークシートまたはワークブックへの貼付け
- POV の編集
- POV の削除(Financial Management には適用できません)

ビデオ

目的	このビデオを見る
POV マネージャの操作など、Office アプリケーションでのデータの統合について学習します。	Oracle Planning and Budgeting Cloud でのプラン・データと Microsoft Office との統合

> **ノート:**
>
> Essbase で、スマート・リストにリンクされているメンバーが POV 内にある場合、ワークシート内に存在する一部のメンバーのスマート・リスト内の一部の値を変更できない場合があります。
>
> Financial Management の場合、最後にリフレッシュされた POV (Financial Management Web インタフェース内または Smart View 内)がデフォルト POV になり、フォームまたはアド・ホック・グリッドにアクセスする際に Smart View で使用されます。
>
> また、Financial Management では、POV マネージャは、関数のバックグラウンド POV の設定にのみ使用できます。

関連トピック:

デフォルトまたはバックグラウンド POV のメンバーの選択

POV のコピーと貼付け

POV の削除

デフォルトまたはバックグラウンド POV のメンバーの選択

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Planning、Planning モジュール、Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Tax Reporting

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Oracle Hyperion Planning、Oracle Hyperion Financial Management

POV マネージャでは、次のようにメンバーを選択できます:

- 指定された接続のアド・ホック・グリッドのデフォルト POV として使用するため
- 関数使用時のディメンションのバックグラウンド POV として

ベスト・プラクティスとして、アド・ホック POV のメンバーは 1,000 以下にすることをお薦めします。

アド・ホック・グリッドでの作業を開始する前に、POV のメンバーを選択するか、POV を編集します。

> **ノート:**
>
> この手順では、保存されたプライベート接続を操作します。ベスト・プラクティスとして、開始する前に接続のプライベート接続としての保存の説明に従って、保存されたプライベート接続(名前付き接続とも呼ばれる)を作成していることを確認します。

デフォルト POV のメンバーを選択するには:

1. ワークブックを開き、名前付きプライベート接続に接続します。
2. **「接続」**、**「アクティブ接続」**の順に選択した後、接続名の隣のチェック・ボックスを選択することによって、シートのアクティブ接続を設定します。

   「アクティブ接続」リストに接続名が表示されない場合は、**「接続」**、**名前付き接続**の順に選択し、接続名の横にあるチェック・ボックスを選択します。
3. Smart View のリボンから、**「関数」**、**「POV の管理」**の順に選択します。
4. POV のリストを展開します。
5. **「アクティブ」** POV リストで、POV を変更するアクティブな接続を選択します。
6. **「メンバー・セレクタ」**をクリックし、POV に使用するメンバーを選択します。メンバー・セレクタからのメンバーの選択を参照してください。

   POV マネージャでは、ディメンションごとに 1 つのメンバーのみを選択できます。別名を使用している場合は、選択したメンバーが失われます。
7. **「閉じる」**をクリックします。
8. ワークシートをリフレッシュするには、**「リフレッシュ」**を選択します。
9. ワークブックに POV を保存するには、ワークブックを保存します。

> **ノート:**
>
> アド・ホック・グリッドの操作を開始した後、メンバー・セレクタからのメンバーの選択の説明に従って、メンバーを選択または変更できます。

POV のコピーと貼付け

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Planning、Planning モジュール、Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Tax Reporting

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Oracle Hyperion Planning、Oracle Hyperion Financial Management

両方のワークブックのデータ・ソースが完全に同じである場合、POV マネージャを使用して、ワークブック内のシート間またはワークブック間で POV をコピーして貼り付けることができます。

> **ノート:**
>
> この手順では、保存されたプライベート接続を操作します。ベスト・プラクティスとして、開始する前に接続のプライベート接続としての保存の説明に従って、保存されたプライベート接続(名前付き接続とも呼ばれる)を作成していることを確認します。

POV をコピーして貼り付けるには:

1. 操作の対象とするすべてのワークブックを開きます。
2. **「接続」**、**「アクティブ接続」**の順に選択した後、接続名の隣のチェック・ボックスを選択することによって、シートのアクティブ接続を設定します。

   「アクティブ接続」リストに接続名が表示されない場合は、**「接続」**、**名前付き接続**リストの順に選択し、接続名の隣のチェック・ボックスを選択します。
3. Smart View のリボンから、**「関数」**、**「POV の管理」**の順に選択します。
4. POV マネージャの左ペインで、**「アクティブ」**または**「保存済」**ノードを選択し、コピーするアプリケーション接続を選択します。

   > **ノート:**
   >
   > **「アクティブ」**ノードから POV をコピーして、**「保存済」**ノードの下の空のワークシートに貼り付けることができます。
   >
   > 同様に、**「保存済」**ノードから POV をコピーして、**「アクティブ」**ノードの下の空のワークシートに貼り付けることができます。
5. **オプション:** POV マネージャから、**「メンバー・セレクタ」**をクリックして POV のメンバーを選択し(デフォルトまたはバックグラウンド POV のメンバーの選択を参照)、ワークブックを保存します。

> **ノート:**
>
> **「保存済」**ノードの下の POV に変更を加えることができますが、変更内容は、POV を変更したシートではなく、変更された POV を貼り付けたシートにのみ影響を及ぼします。

6. **「アクティブ」**ノードの下の POV または**「保存済」**ノードの下の任意の POV を選択し、**「コピー」**ボタンをクリックします。

   「コピー」ボタンは、**「アクティブ」**または**「保存済」**の POV が選択されている場合にのみ有効になります。

   POV は**「アクティブ」**ノードからコピーして**「保存済」**ノードの空のワークシートに貼り付けることや、**「保存済」**ノードからコピーして**「アクティブ」**ノードに貼り付けることができます。

7. POV マネージャの左ペインで、**「アクティブ」**または**「保存済」**を展開して、POV を貼り付けるワークブックおよびワークシート(空である必要があります)を選択します。

8. **「貼付け」**をクリックします。

9. コピーした POV を含むワークシートをリフレッシュします。

   「リフレッシュ」の後もワークシートが空のままである場合は、2 のステップを参照してシートのアクティブ接続を設定し、再度**「リフレッシュ」**をクリックします。

プライベート接続と名前付き接続のデフォルト POV の設定

プライベート接続と名前付き接続のアド・ホック・グリッドで、デフォルト POV を設定できるようになりました。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Planning、Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Tax Reporting

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Oracle Hyperion Planning

デフォルトの POV を設定すると、特定の接続に接続してアド・ホック・グリッドを開くたびに、設定したデフォルトの POV のデータが表示されます。

デフォルトの POV を設定する際は、次の点に注意してください:

- デフォルトの POV は、プライベート接続とフレンドリ名が割り当てられた名前付き接続に対してのみ保持されます。
- 共有接続または一時接続を使用している場合、デフォルトの POV はアクティブなセッションのみで保持されます。シートを閉じて再度開き、同じ共有接続または一時接続に接続した場合、アド・ホック・グリッドはデフォルトの POV では表示されません。
- デフォルトの POV は、標準モードのアド・ホック・グリッドにのみ適用されます。

特定の接続のデフォルトの POV を設定するには:

1. ワークブックを開き、デフォルトの POV を設定する特定のプライベート接続または名前付き接続に接続します。
2. アド・ホック・グリッドを開き、必要に応じてグリッドで目的の POV 値を選択します。
3. Smart View リボンで、**「リフレッシュ」**をクリックします。
4. 次に、Smart View リボンから**「関数」**を選択し、**「POV の管理」**を選択します。

「POV マネージャ」ダイアログが表示されます。

5. **「POV マネージャ」**ダイアログで、**「アクティブな POV をデフォルトとして設定」**をクリックします。

   グリッドに設定したデフォルトの POV が、**「POV マネージャ」**ダイアログに表示されます。

6. **「閉じる」**をクリックすると、ダイアログが閉じます。
7. ワークブックを閉じて、もう一度開きます。
8. 同じ名前付き接続に接続し、シートにアド・ホック・グリッドを配置します。

   接続のデフォルトとして設定した POV がグリッドに表示されることを確認します。

POV の削除

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Planning、Planning モジュール、Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Tax Reporting

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Oracle Hyperion Planning

Office ドキュメントに保存されている POV を削除するには:

1. Smart View のリボンから、**「関数」**、**「POV の管理」**の順に選択します。
2. POV のリストを展開します。
3. **「POV」**ドロップダウン・リストから、削除する POV を含むワークシートを選択します。
4. 削除する POV を選択します。
5. **「削除」**をクリックします。
6. **「閉じる」**をクリックします。
7. ワークシートをリフレッシュするには、**「リフレッシュ」を選択します。**

属性によるフィルタ

アド・ホック・グリッドで、属性メンバーを含むディメンションでは属性によるフィルタが可能です。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Planning アド・ホック、Financial Consolidation and Close アド・ホック

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

属性によってフィルタするには:

1. グリッドの属性ディメンションを選択して、メンバー・セレクタからのメンバーの選択の説明に従って**「メンバー選択」**を開きます。
2. をクリックし、**「属性」**を選択します。
3. **「属性」**から、をクリックします。
4. **「ディメンション」**の**「サブセット」**から、ディメンションを選択します。たとえば、「Ounces」を選択します。

5. **「メンバー」**で、属性メンバーを選択します。たとえば、「Ounces_16」を選択します。
6. 

をクリックして、属性を表示します。
7. オプション: 表示された属性を変更するには、「ディメンション」および「属性」の選択項目を変更して、**「設定」**をクリックします。
8. **「OK」**をクリックします。

   選択した項目が**「メンバー選択」**のツリー・リストに表示され、その中からグリッドに追加する項目を選択できます。

サブセットによるフィルタ

属性メンバーを含むディメンションの場合、属性を選択してその条件を設定し、これらの条件を満たすメンバーのみを表示できます。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

条件によってフィルタするには:

1. グリッドの属性メンバーを選択して、メンバー・セレクタからのメンバーの選択の説明に従って**「メンバー選択」**を開きます。
2. をクリックし、**「サブセット」**を選択します。
3. **「ディメンション」**の**「サブセット」**から、属性ディメンションを選択します。たとえば、「Ounces」を選択します。
4. **「メンバー」**で、属性メンバーを選択します。たとえば、「True」を選択します。
5. 

をクリックします。
6. **「ディメンション」**で、別の属性ディメンションを選択します。たとえば、「Pkg Type」を選択します。
7. **「メンバー」**で、別の属性メンバーを選択します。たとえば、「Bottle」を選択します。
8. 

をクリックします。

   AND 条件文が作成されます。たとえば、[True] AND [Bottle]などです。
9. **オプション:** 条件文を変更するには、AND 条件文をハイライト表示して**「演算子」**を選択し、**「AND」**または**「OR」**を選択します。
10. **オプション:** 他の属性を選択し、**「追加」**、**「ルート」**の順に選択することで、条件をネストします。
11. **「OK」**をクリックします。

    選択した項目が**「メンバー選択」**のツリー・リストに表示され、その中からグリッドに追加する項目を選択できます。

期間累計メンバーの選択

時間ディメンションでは、「動的時系列」メンバーと呼ばれる期間累計メンバーを設定できます(定義されている場合)。たとえば、8 月末の年次累計データを表示するには、1 月から 8 月までのデータを含む「動的時系列」メンバーを設定します。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Planning、Narrative Reporting

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Oracle Hyperion Planning

「動的時系列」メンバーを選択するには:

1. グリッドの時間ディメンションを選択して、メンバー・セレクタからのメンバーの選択の説明に従って**「メンバー選択」**を開きます。
2. をクリックし、**「動的時系列」**を選択して、使用可能な時系列メンバーをメンバー・ツリー・リストに表示します。
3. メンバー・ツリー・リストから時系列メンバーを選択し、をクリックします。
4. **「DTS メンバーの選択」**から、累計計算を実行する最新の期間を選択します; たとえば、**Aug** です。
5. **「OK」**をクリックします。
6. **オプション:** 必要に応じてステップ 3 からステップ 5 を繰り返して、他の「動的時系列」メンバーを追加します。
7. **「OK」**をクリックします。

   時系列メンバーが、この例のように **Y-T-D(Aug)**としてグリッドに表示されます。リフレッシュすると、8 月までの年次累計データが表示されます。

メンバー・パースペクティブの 指定

可変属性フィルタを使用して、メンバーの選択時に、可変属性のメンバー・パースペクティブを指定します。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

> **ノート:**
>
> メンバー・パースペクティブは、Oracle Smart View for Office システムでは使用可能にできません。メンバー・パースペクティブのオプションは、管理者が使用可能にし、構成します。

メンバー・パースペクティブを 指定するには:

1. **「メンバー選択」**の**「フィルタ」**で、**「可変属性」**を選択します。
2. **「フィルタ引数」**で、をクリックします。

3. 属性を指定してパースペクティブを 設定し、**「OK」**をクリックします。
4. **「可変属性の引数」**(**「可変属性」**の下)で、省略記号ボタンをクリックします。
5. **「サブセット」**の**「ディメンション」**で、属性ディメンションを入力します。
6. **「メンバー」**に属性メンバーを入力し、**「設定」**をクリックします。
7. **「OK」**をクリックします。
8. **「可変属性の引数」**の**「パースペクティブ」**で、省略記号ボタンをクリックします。
9. **「パースペクティブ」**で、次のいずれかを選択します:
   - **スナップショット。**可変属性に関連付けられている基本ディメンションのメンバーを識別する、一連の独立ディメンション・メンバー。ここでは、開始タプルと終了タプルは同じです。
   - **範囲。**独立ディメンション・メンバーの確定範囲。範囲は、連続する独立ディメンション(たとえば"Year")に対してのみ指定できます。個別の独立ディメンションの場合は、1 つの選択のみ行うことができます。
10. **「OK」**をクリックします。

メンバー情報の表示

アド・ホック・グリッド上に、任意のメンバーの詳細情報を表示できます。表示される情報は、接続しているデータ・ソースのタイプによって異なります。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Planning、Planning モジュール、Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Tax Reporting

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、 Oracle Hyperion Financial Management、Oracle Hyperion Planning

Smart View のプロバイダ・アド・ホックのリボンから、**「メンバー情報」**ダイアログにアクセスします。たとえば、Smart View で、Planning データ・ソースに接続し、新しいアド・ホック・グリッドを作成するか、保存済のアド・ホック・グリッドを開きます。メンバー・セルを選択し、Planning アド・ホックのリボンから**「セル情報」**を選択します。

また、次の方法を使用して、**「メンバー情報」**ダイアログにアクセスできます:

- アド・ホック・グリッドで、選択したメンバー・セルを右クリックし、**「Smart View」**を選択して、**「セル情報」**を選択します。
- **「メンバー選択」**ダイアログの右側のペインでメンバーを選択し、**「オプション」**ボタン・ドロップダウン・メニューから**「セル情報」**を選択します。

メンバー情報を表示するには:

1. グリッドでメンバーを選択します。

   Essbase のみ: メンバー・セルまたはデータ・セルのメンバー情報を表示できます。その他のデータ・プロバイダの場合は、メンバー・セルの情報のみを表示できます。
2. データ・プロバイダ・ソース・アド・ホックのリボンから、**「セル情報」**を選択します。

   情報が次のタブに表示されます。メンバーおよび接続に適用できるタブのみが表示されます。

- **情報:** ディメンション、レベル、世代など、メンバーに関する一般情報のリスト。これらのプロパティは、選択したメンバーおよびディメンション・タイプに基づいて異なる場合があります。
- **別名:** メンバーに関連付けられている別名表および対応する別名のリスト
- **属性:** メンバーに関連付けられている属性のディメンション、メンバーおよびタイプの表
- **式:** メンバーに関連付けられている式
- **コメント:** メンバーに関連付けられているコメントのリスト
- **ユーザー定義属性:** ユーザー定義属性のリスト(管理者によって定義されたメンバーの属性)

3. **オプション:** Excel ファイルに情報を保存するには、**「保存」**を選択します。
4. **「閉じる」**をクリックします。

別名および別名表の操作

別名は、データベース・メンバー名の代替名です。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Planning、Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Narrative Reporting、Tax Reporting

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Oracle Hyperion Planning、Oracle Hyperion Financial Management

> **ノート:**
>
> - Financial Management では、別名は"説明"と呼ばれます。
> - データベース・メンバー名は多くの場合、ストック番号や製品コードで、別名はより記述的に指定できます。たとえば、Sample Basic データベースでは、データベース・メンバー 100 の別名は Cola です。別名は、データベースの一部として、*別名表*に保管されます。ディメンションは、複数の別名表に関連付けることができます。
> - 現在のワークシートまたは接続の別名表を選択できます。
> - Essbase では、Oracle Smart View for Office のメンバー名および別名で、等号(=)および一重引用符(')の特殊文字がサポートされています。例: =units、'price。

別名表の選択

データベースで複数の別名表が作成されている場合、現在のワークシートまたはプライベート接続の別名表を選択できます。

現在のワークシートまたは接続の別名表を選択できます。

接続の別名表の選択

現在のワークシートまたは接続の別名表を選択できます。

ここで選択する別名表は現在のワークシートにのみ適用され、将来の接続には適用されません。

現在のワークシートの別名表を選択するには:

1. ワークシートから、データ・ソースに接続します。
2. Essbase またはアドホック・リボンから**「別名の変更」**を選択すると、使用可能な別名表のリストが表示されます。
3. ワークシートの別名表を選択します。

   新しい別名表が自動的に適用されます。

> **ノート:**
>
> Planning、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting: ネイティブ・モードでは、フローティング・ツールバーが表示されているときにシート上で再配置された場合、その位置は新しい別名表を適用した後に変更されます。必要に応じて、フローティング・ツールバーを再配置できます。(ネイティブ・モードとは、アプリケーションの**「Smart View アド・ホック動作」**オプションが**「ネイティブ」**に設定されていることを意味します。)

接続の別名表の選択

別名表を選択できるのは、プライベート接続のみです。共有接続の別名表を選択する場合は、まず共有接続をプライベート接続として保存します。接続のプライベート接続としての保存を参照してください。

プライベート接続に選択された別名表は変更されるまで永久的であり、この接続を使用するたびに使用されます。プライベート接続の別名表を設定すると、Microsoft Office のコピーおよび貼付けコマンドを使用して他のシートからデータがコピーされたアド・ホック・シートを更新した後に表示される、メンバーが正しい位置にないことを示すエラーを防ぐのに役立つ場合があります。

接続の別名表を選択するには:

1. ワークシートから、共有接続を使用してデータ・ソースに接続した後、プライベート接続として保存します。詳細は、接続のプライベート接続としての保存を参照してください。
2. 前のステップで作成したプライベート接続に接続します。
3. 接続名を右クリックして**「別名表の設定」**を選択します。

   接続を選択し、アクション・パネルで**「詳細」**をクリックし、**「別名表の設定」**を選択することもできます。
4. 接続の別名表を選択します。

   次回接続を開くときに、新しい別名表が適用されます。

別の別名表からの別名

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Planning、Planning モジュール、Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Narrative Reporting、Tax Reporting

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

Essbase、Narrative Reporting: 現在のグリッドに関連付けられていない別名表から名前を入力すると、リフレッシュ後に、現在のグリッドに関連付けられている別名表から対応する別名が表示されます。たとえば、ロング名別名に関連付けられているグリッドに `Qtr1` と入力すると、リフレッシュ後に、`Quarter1` が表示されます。

Planning アド・ホック、Planning モジュール・アド・ホック、Enterprise Profitability and Cost Management アド・ホック、Financial Consolidation and Close アド・ホック、フリーフォーム・アド・ホック、Tax Reporting アド・ホック: 現在アクティブな別名表は 1 つのみサポートされています。現在のグリッドのアクティブな表ではない別名表から名前を入力した場合、別名メンバーは不明メンバーとみなされます。

グリッドでのメンバー名と別名の表示

クラウド・データ・ソース・タイプ: Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Planning、Planning モジュール、Tax Reporting、Oracle Essbase

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

Essbase データ・ソースまたは Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management 標準モード・アプリケーションに接続されている場合は、メンバー名と、現在選択されている別名表にあるその別名を同じ行に一緒に表示できます。

> **ノート:**
>
> - この機能は行メンバーにのみ適用され、列メンバーには適用されません。
> - アド・ホック・グリッドを操作する Smart View ユーザーの**「メンバー名と別名」**オプションを有効にするには、サービス管理者がアプリケーション・オプション**「Smart View アド・ホック動作」**を**「標準」**に設定します。新規および再作成済のアプリケーションはすべて、自動的に**「標準」**に設定されます。
> - 別名表が使用されていない場合(つまり、**「なし」**に設定されている場合)でも、メンバー名とその別名が行に表示されます。**「メンバー名と別名」**オプションが選択され、別名表が**「なし」**に設定されている場合、行ディメンションには最後に使用された別名表に基づいて別名が保持されますが、POV 列は影響を受けることなく、最後に使用された別名表に基づいてメンバー名または別名が引き続き表示されます。

メンバー名と別名の両方を表示するには:

1. Oracle Smart View for Office で、標準モードの Cloud EPM アプリケーションまたは Essbase アプリケーションにログインします。

アド・ホック・グリッドを含む、保存されたワークブックを使用するか、または新しいアド・ホック・グリッドを起動することによって、接続を確立できます。

2. Smart View のリボンから、**「オプション」**を選択し、左側のパネルで**「メンバー・オプション」**を選択します。
3. **「全般」**の**「メンバー名の表示」**で、**「メンバー名と別名」**を選択します。
4. Smart View のリボンまたはプロバイダ・アド・ホックのリボンで、**「リフレッシュ」**をクリックします。

   行メンバーについて、メンバー名と対応する別名が表示されます。次の例では、Product データベース・メンバー名が列 A に、その別名が列 B に表示されています。

	A	B	C
1			Year
2			Measures
3	100	Colas	28473
4	200	Root Beer	27954
5	300	Cream Soda	25799
6	400	Fruit Soda	21301
7	Diet	Diet Drinks	28826
8	Product	Product	103527

「メンバー・セレクタ」でのメンバーの表示

クラウド・データ・ソース・タイプ: Planning、Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Narrative Reporting、Tax Reporting、Oracle Essbase

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Oracle Hyperion Planning

「メンバー選択」ダイアログ・ボックスにメンバー名の別名を表示できます。

「メンバー選択」にメンバー名を表示するための別名表を選択するには:

1. メンバー・セレクタからのメンバーの選択の説明に従って、**「メンバー選択」**ダイアログ・ボックスを表示します。
2. ディメンションを変更するには、ダイアログ・ボックスの左上にある**「ディメンション・セレクタ」**ボタンをクリックし、次にディメンションを選択します。
3. **「オプション」**ボタンをクリックして**「別名表」**を選択し、リストから別名表を選択します。

   「メンバー・セレクタ」に表示されるメンバー名は、選択内容に応じて変わります。

メンバー・セレクタでのメンバー名の表示の定義

「メンバー名の表示」オプションを選択して、「メンバー選択」ダイアログ・ボックスにメンバー名がどのように表示されるかを変更できます。

データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Financial Management

このオプションを使用すると、シートでのメンバーの表示方法とは異なる方法で**「メンバー選択」**ダイアログ・ボックスにメンバーを表示できます。

「メンバー選択」ダイアログ・ボックスで行う選択は、ワークシートでのメンバーの表示方法に影響しません。シート内のメンバーは、**「メンバー・オプション」**タブの**「オプション」**ダイアログ・ボックスの**「メンバー名の表示」**フィールドで選択した設定に従って表示されます。

たとえば、Financial Management に接続しているときに、**「オプション」**ダイアログ・ボックスの**「メンバー名の表示」**フィールドを使用して、メンバー名をその説明とともにワークシートに表示できます。また、**「メンバー選択」**ダイアログ・ボックスで、メンバー名をその説明なしで表示することもできます。

> **ノート:**
>
> **Oracle Essbase、Narrative Reporting:** 別名表を使用して、メンバー名の表示を変更します。「メンバー・セレクタ」でのメンバーの表示を参照してください。

メンバー名の表示方法を定義するには:

1. メンバー・セレクタからのメンバーの選択の説明に従って、**「メンバー選択」**ダイアログ・ボックスを表示します。
2. **「メンバー選択」**ダイアログでディメンションを変更するには、ダイアログ・ボックスの左上にある**「ディメンション・セレクタ」**ボタンをクリックし、ディメンションを選択します。
3. **「オプション」**ボタンをクリックして**「メンバー名の表示」**を選択し、オプションを選択します:
   - **「メンバー名」**は、修飾名を表示します。

     > **ノート:**
     >
     > アド・ホック・グリッドで、**「メンバー名」**をフリー・フォーム・モードで選択した場合、列を挿入して新しい列にメンバー名を入力し、シートの別名表を変更するには、最初にシートをリフレッシュしてから別名表を変更する必要があります。

   - **「メンバー名と説明」**を選択すると、修飾名と説明(別名)が同じセルに表示されます。
   - **「説明のみ」**を選択すると、別名のみが表示されます

     > **ノート:**
     >
     > フリーフォーム・モードで**「説明のみ」**を選択した場合は、最初は修飾名が表示されます。手作業でコメントを追加、除去、または編集してリフレッシュすると、別名が表示されます。

「メンバー・セレクタ」に表示されるメンバー名は、選択内容に応じて変わります。

重複するメンバーの修飾名の表示

異なるメンバーまたはメンバーの別名に同じ名前が付けられていることがあります。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Narrative Reporting

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

たとえば、データベースに、1 つはニューヨーク市、もう 1 つはニューヨーク州の、2 つの"ニューヨーク"という名前のメンバーが存在することがあります。グリッドではどちらのメンバーも"ニューヨーク"と表示できますが、両者を区別する場合は、名前のかわりに修飾名を表示できます。修飾名には、`[Market].[New York]`など、メンバー名と、そのメンバーを一意に定義するレベルまでの祖先の名前が含まれます。

重複メンバー名をサポートするデータベースでアド・ホック問合せを最初に実行する場合、グリッドおよび POV のメンバーの**「メンバー名の表示」**表示オプションのデフォルトは、**「メンバー名のみ」**です

このトピックの手順を実行して、グリッドおよび POV の修飾メンバー名を表示します。

> **ノート:**
>
> Narrative Reporting では、重複するメンバー名はディメンション間では許可されますが、ディメンション内では許可されません。

重複するメンバーの修飾名を表示するには:

1. Smart View のリボンから、**「オプション」**を選択し、左側のパネルで**「メンバー・オプション」**を選択します。
2. **「メンバー名の表示」**ドロップダウン・メニューから、**個別のメンバー名**を選択します。
3. **「OK」**をクリックします。
4. グリッドをリフレッシュします。

   グリッドで重複するメンバーが、修飾名で表示されます。この例では、ニューヨーク市は`[East].[New York]`と表示されます。ニューヨーク州は East、West、South の兄弟として、`[Market].[New York]`と表示されます。

	Period
	Stereo
[East].[New York]	15647
Boston	15644
Chicago	15285
East	46576
West	62839
South	24565
[Market].[New York]	22645
Market	133980

代替階層での修飾名の表示

代替階層の修飾名動作は、フォームおよびアド・ホック・グリッドの実行時およびメンバー・セレクタの動作に影響します。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close

代替階層での修飾メンバー名の表示について

Planning、Planning モジュールまたは Financial Consolidation and Close に接続している場合、代替階層はエンティティ・ディメンションでサポートされています。1 つのエンティティは複数の親を持ち、各親に異なるようにコントリビューションできます。これらのメンバーは、*部分共有*エンティティと呼ばれ、入力データの一部のみが、エンティティのすべてのインスタンスで共有されます。

Oracle Smart View for Office で部分共有メンバーを表示するには、ユーザーがメンバーの特定のインスタンスを一意に参照でき、このコンテキストに基づいて適切な値を入力できるように、メンバー名および別名が*修飾*されている必要があります。修飾名には、メンバー名と、そのメンバーを一意に定義するレベルまでの祖先の名前が含まれます。最も一般的な例は、Financial Consolidation and Close で加重連結に使用されるパーセンテージ・コントリビューション(PCON)メトリックです。

代替階層の修飾名動作は次のトピックで説明します:

フォームでの予期される実行時動作

フォームでの別名の予期される実行時動作

アド・ホック・グリッドでの予期される実行時動作

アド・ホック・グリッドでの別名の予期される実行時動作

アド・ホック・グリッドでの予期されるメンバー・セレクタの動作

フォームでの予期されるメンバー・セレクタの動作

フォームでの予期される実行時動作

17.01 以降、Planning、Planning モジュールは、フォーム設計の一部としてメンバー名を修飾するオプションをサポートしています。このオプション**「修飾名の表示」**は、部分共有が有効なディメンションがある場合にのみ表示されます。このオプションには次の 3 つの使用可能な値があります:

- なし
- 必要時
- 常時

デフォルトでは、下位互換性を保つため、「なし」オプションが選択されます。このオプションが表示されない場合も「なし」が使用されます。これは実行時オプションであり、設計時メンバー・セレクタには影響しません。各オプションに対するフォームでの予期される動作を次に示します:

- **なし**
  - PBCS、EPBCS: すべてのメンバー名は修飾されません。

  - FCCS: すべてのメンバー名は修飾されません。
- **必要時**
  - PBCS、EPBCS: 基本メンバーは修飾されません。共有メンバーは修飾されます。
  - FCCS: 共有を含む基本メンバーと共有メンバーの両方が修飾されます。共有を含まない基本メンバーは修飾されません。
- **必要時**
  - PBCS: すべてのメンバーが修飾されます。
  - FCCS: すべてのメンバーが修飾されます。

フォームでの別名の予期される実行時動作

別名動作は、次の例外を含むメンバー名と同じように動作する必要があります。

- 修飾別名を表示する際に両方のコンポーネント(親と子)にかわりに別名が必要な場合、メンバー名または修飾メンバー名が、選択したオプションに従って戻されます。
- 「必要時」または「常時」オプションが選択されている場合、重複する別名も修飾されます。

アド・ホック・グリッドでの予期される実行時動作

メンバー名は修飾されるか、Smart View の**「メンバー名の表示」**オプションの設定に基づかない名前です。部分共有機能をサポートする、**「個別のメンバー名のみ」**および**「メンバー名のみ」**という 2 つの値があります。各オプションに対して予期される動作を次に示します:

- **メンバー名のみ**
  - PBCS、EPBCS: すべてのメンバーが修飾されません。
  - FCCS: すべてのメンバーが修飾されません。
- **個別のメンバー名のみ**
  - PBCS、EPBCS: 前述のフォームの「必要時」オプションと同様に動作します。
  - FCCS: 前述のフォームの「必要時」オプションと同様に動作します。

アド・ホック・グリッドでの別名の予期される実行時動作

別名の動作は、フォームでの予期される実行時動作の場合と同様である必要がありますが、Smart View のアド・ホック別名オプションにも影響を受けます。

- 「なし」別名表オプションが選択されている場合、アド・ホック・グリッド内のメンバーの動作はフォームでの予期される実行時動作の場合と同じになります。
- 別名表が選択されている場合、その表の別名が使用され、メンバーのアド・ホック・オプションが適用されます。フォームの別名の別名動作も、Smart View アド・ホック設定に基づいて適用されることに注意してください。

アド・ホック・グリッドでの予期されるメンバー・セレクタの動作

メンバー・セレクタは、Smart View の「メンバー名の表示」オプション内の設定に基づいて機能します。

メンバー・セレクタは、共有メンバーの修飾名をデフォルトで表示します。

フォームでの予期されるメンバー・セレクタの動作

メンバー・セレクタは、別名のフォーム設定に基づいて機能し、フォームの「必要時」設定のように動作します。

フォームのページでの個々のページ・メンバー名の表示

フォームのページ・リストに、説明ではなく個々のページ・メンバーの名前または完全修飾名を表示します。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Enterprise Profitability and Cost Management、Planning、Planning Modules、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Planning、Oracle Hyperion Financial Management

Oracle Smart View for Office リリース 24.100 以降、**「Smart View のオプション」**の**「個々のページのメンバー名を表示する」**チェック・ボックスを使用して、個々のページ・メンバー名または完全修飾名をフォームのページ・リストに表示できます。説明ではなく個々のメンバー名を表示することで、共有メンバーを正しく認識し、類似した説明との混同を避けることができます。

以前は、ページ・リストでは、実際に選択されたメンバーを表示するのではなく、共有メンバーの最初の出現を強調表示していました。たとえば、"North Sales"は"International Sales"と"Regional Sales"の下に表示される共有メンバーであり、"International Sales"はページ・リストの最初に表示されます。"Regional Sales"の下の"North Sales"が選択されている場合、フォームにはこの選択の値が正しく表示されましたが、ページ・リストを開くと、リストの最初に表示される"International Sales"の下の"North Sales"が強調表示または指し示されました。これは、両方のメンバーの説明が似ているために起こりました。

「個々のページのメンバー名を表示する」チェック・ボックスによりこの混乱が解消され、選択したメンバーをページ・リストで正しく識別できるようになります。このオプションを選択すると、重複した説明ではなく、元のページ・メンバー名または個々のページ・メンバー名をページ・リストに表示できます。たとえば、共有メンバー"North Sales"の場合、ページ・リストには完全修飾名"[International Sales] . [North Sales]"および"[Regional Sales] . [North Sales]"が表示されるようになりました。

このオプションは、デフォルトでは無効になっています。

個々のページ・メンバー名を表示するには:

1. Smart View のリボンから、**「オプション」**、**「フォーマット」**の順に選択します。
2. **「フォーム」**セクションで、**「個々のページのメンバー名を表示する」**チェック・ボックスを選択します。
3. **「OK」**をクリックします。
4. シートをリフレッシュし、ページ・リストを展開して、個々のページ・メンバー名を表示します。

ディメンションのプロパティの表示

「Essbase」リボンの**「プロパティの挿入」**コマンドを使用して、アド・ホック・グリッドでディメンションのプロパティを簡単に表示できます。

データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

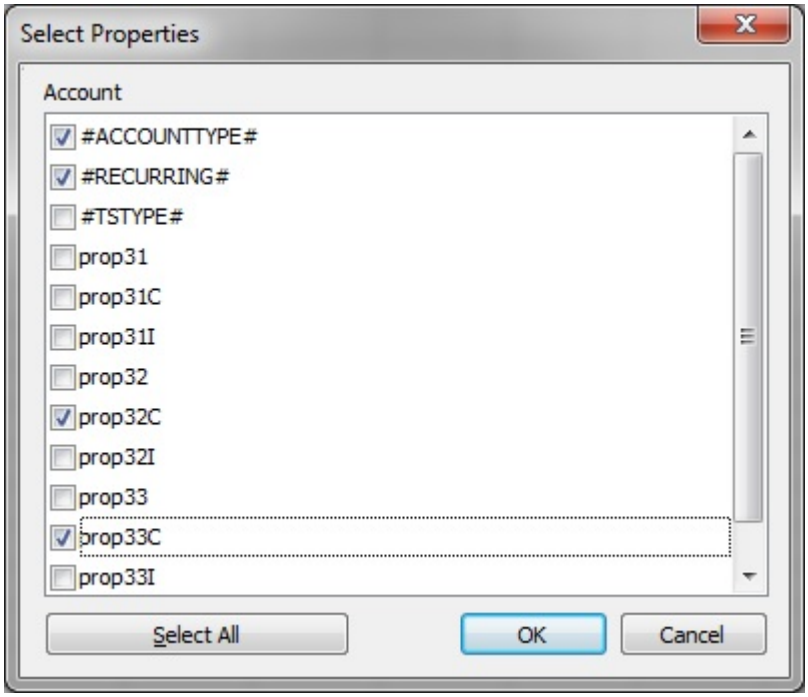
選択したディメンションのプロパティを表示するには:

1. Essbase に接続されたアド・ホック・グリッドで作業していることを確認します。
2. 「Essbase」リボンで**「プロパティの挿入」**を選択します。

   「プロパティの選択」ダイアログが表示され、ディメンションに使用可能なプロパティがリストされています。
3. 図 1 に示すように、チェック・ボックスを使用してグリッドに表示するプロパティを選択します。

   または、**「すべて選択」**をクリックしてすべてのディメンション・プロパティを選択します。

図 7-9 プロパティがいくつか選択された「プロパティの選択」ダイアログ



4. **「OK」**をクリックします。

   選択したディメンション・プロパティとその値が、選択したディメンションの左の列に表示されます。グリッドで、ディメンション・プロパティ列の見出しは次のように示されます。

   ```
   Dimension Name:Property Name
   ```

   例:

```
Account:#ACCOUNTTYPE#

Account:prop32C
```

シナリオ例では、次のグリッドでセル A3 の Account を選択します。

	A	B
1		Dim1
2		Dim2
3	Account	#Missing

「プロパティの挿入」をクリックし、図 1 のように選択します。

ディメンション・プロパティがアド・ホック・グリッドの左側の列に挿入されます。これで、アド・ホック・グリッドは列 E から始まります。列 A から D には、ディメンション・プロパティ情報が含まれます。

	A	B	C	D	E	F
1						Dim1
2	Account:#ACCOUNTTYPE#	Account:#RECURRING#	Account:prop32C	Account:prop33C		Dim2
3	NONE	FALSE	prop32C	TRUE	Account	#Missing

ディメンション・プロパティが表示されている場合、プロパティがグリッドの左に挿入されているかぎり、**「ズーム・イン」**や**「選択項目のみ保持」**などのアド・ホック・コマンドを使用してグリッドの操作を続けることができます。

> **ノート:**
>
> この機能は、今後の Essbase リリースでサポートされる予定です。
>
> また、管理者は、Oracle Smart View for Office で表示するディメンション・プロパティについて Essbase でデータベースを設定する必要があります。

5. **オプション:** ディメンションプロパティを 表示した後、ディメンションプロパティを 含む列を削除してもアド・ホック・グリッドで作業を続けることができます。

8

データおよびデータ・セル

次も参照:

- データのリフレッシュ
  Smart View のリボンの「リフレッシュ」ボタンを使用して、データをリフレッシュできます。また、「ドキュメント・コンテンツ」ペインの「リフレッシュ」リンクを使用して、個々のレポートのデータをリフレッシュできます。
- データの送信オプションの使用
  「データの送信」オプションには、データの送信、リフレッシュせずにデータを送信、およびデータ範囲の送信があります。
- データの計算
  新しいまたは変更されたデータを送信した後、データベース内のデータを計算して、その変更を反映する必要があります。
- データの集計
  集計とは、従属エンティティのデータを、親エンティティに集約することです。
- 通貨の操作
  通貨換算が使用可能になっているフォームでは、セルの基本通貨以外の通貨でデータを入力できます。
- データ・セルでの値の調整
  セルに数値データが含まれている場合は、1 つ以上のデータ・セルの値を、指定した数値またはパーセンテージによって調整できます。
- データ検証エラーの解決
  管理者は、データが会社のガイドラインを満たすようにデータ検証ルールを設定できます。フォーム内のデータがデータ検証ルールの基準を満たさない場合は、Smart View ユーザーがこのフォームでエラーを直接修正できます。
- データ・パースペクティブの 指定
  データ・パースペクティブにより 、独立した連続および個別ディメンションとの関連で異なるディメンション属性である可変属性のデータの表示に使用する視点を指定できます。
- スマート・リストの操作
  スマート・リストと呼ばれるカスタム・ドロップダウン選択リストを使用してデータを入力できます。スマート・リストは、フォームおよびアド・ホック・グリッドのデータ・セルからアクセスします。
- ドリルスルー・レポートの操作
  管理者により事前定義されたドリルスルー・レポートを、ユーザーは指定された個々のデータ・セルから使用できます。
- リンク・レポート・オブジェクトの操作
  *リンク・レポート・オブジェクト*とは、Oracle Essbase データベース内のデータ・セルにリンクされるセル・ノート、外部ファイルまたは URL のことであり、Oracle Smart View for Office ユーザーが Excel で取得できます。
- セル・コメント
  データ・セルにコメントを追加できます。

- 添付の追加
  ドキュメントは、URL (Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management および Oracle Hyperion Planning)またはファイル(Cloud EPM のみ)を使用して個々のデータ・セルに添付できます。
- セルの履歴の表示
  データ・セルまたはデータ・セルの範囲に加えられた変更の履歴を表示できます。

データのリフレッシュ

Smart View のリボンの「リフレッシュ」ボタンを使用して、データをリフレッシュできます。また、「ドキュメント・コンテンツ」ペインの「リフレッシュ」リンクを使用して、個々のレポートのデータをリフレッシュできます。

データ・ソース・タイプ: すべて

> **ノート:**
>
> リフレッシュは、保護されたワークシートではサポートされていません。

関連トピック:

- リボンからのリフレッシュ
- ドキュメント・コンテンツからの個々のレポートのリフレッシュ

リボンからのリフレッシュ

データ・ソース・タイプ: すべて

Excel では、Smart View リボンの**「リフレッシュ」**アイコン(図 1)を使用して、現在のワークシートまたはワークブックの全ワークシートのデータを取得およびリフレッシュできます。

このタイプのリフレッシュ・アクションはシート、ドキュメントおよびスライド全体に適用され、これにはすべてのアド・ホック・グリッドおよびレポート・オブジェクト(関数グリッド、表、チャートなど)のデータが含まれます。

図 8-1 「リフレッシュ」アイコン



接続されているデータ・プロバイダに応じて、「リフレッシュ」アイコンは、リフレッシュ・オプションを含む分割ボタンまたは単純な 1 機能の「リフレッシュ」ボタンのいずれかになります。

> **ノート:**
>
> - アド・ホック・シートで、Excel フィルタがリフレッシュ後に保持されます。
> - 関数グリッド、表、チャートなどの個々のレポート・オブジェクトをリフレッシュするには、ドキュメント・コンテンツからの個々のレポートのリフレッシュを参照してください。
> - 一部の列を削除し、スプレッドシートをリフレッシュした後、選択した POV メンバーがディメンション・メンバーに戻ります。これを回避するには、「POV」ボタンをクリックして POV ツールバーを非表示にします。その後、ページ・メンバーを含む列が削除されないことを確認してください。

「リフレッシュ」を使用するには、次のオプションを選択します:

- 現在のワークシート全体をリフレッシュするには、任意のリボンから**「リフレッシュ」**をクリックします。

  Word または PowerPoint で**「リフレッシュ」**をクリックすると、文書またはプレゼンテーションにコピーされたすべてのデータ・ポイントがリフレッシュされます。

  > **ノート:**
  >
  > 複数のグリッドを含む Oracle Essbase ワークシートで、選択された範囲のセルのみをリフレッシュすることもできます(ワークシート上の複数のグリッドについてを参照)。

- **Oracle Business Intelligence Enterprise Edition の場合のみ:** 現在のワークシート全体のコンテンツをクリアし、最新のメンバーとデータで置換するには、**「リフレッシュ」**の下矢印をクリックして、**「置換およびリフレッシュ」**を選択します。

  > **ノート:**
  >
  > **「置換してリフレッシュ」**オプションは、Oracle BI EE および Oracle Hyperion Financial Reporting 内のレポートにのみ適用されます。

- 現在のワークブックのすべてのワークシートをリフレッシュするには、**「リフレッシュ」**の下矢印をクリックし、**「すべてのワークシートのリフレッシュ」**を選択します。

  「すべてのワークシートのリフレッシュ」操作は表示されているワークシートにのみ適用され、非表示のワークシートには適用されません。

ドキュメント・コンテンツからの個々のレポートのリフレッシュ

データ・ソース・タイプ: すべて

「ドキュメント・コンテンツ」ペインの**「リフレッシュ」**リンクを使用して、個々のレポートのデータをリフレッシュできます。

Oracle Smart View for Office では、レポートはレポート問合せとそれに関連付けられているレポート・オブジェクトで構成されています。これらは**「ドキュメント・コンテンツ」**ペインにリストされています。**「ドキュメント・コンテンツ」**から、次のようなレポート問合せとそれに関連付けられているレポート・オブジェクトを個別にリフレッシュできます:

- 関数グリッド
- 表
- チャート
- 動的データ・ポイント

> **ノート:**
>
> このトピックの手順と例で、**「ドキュメント・コンテンツ」**ペインからの個々のレポートおよびレポート・オブジェクトのリフレッシュについて説明します。ワークシートやワークブック、ドキュメント、およびスライドやプレゼンテーションのすべてのレポート・オブジェクトをリフレッシュするには、リボンからのリフレッシュで説明されているように、Smart View リボンまたはプロバイダのリボンにある**「リフレッシュ」**アイコンを使用できます。

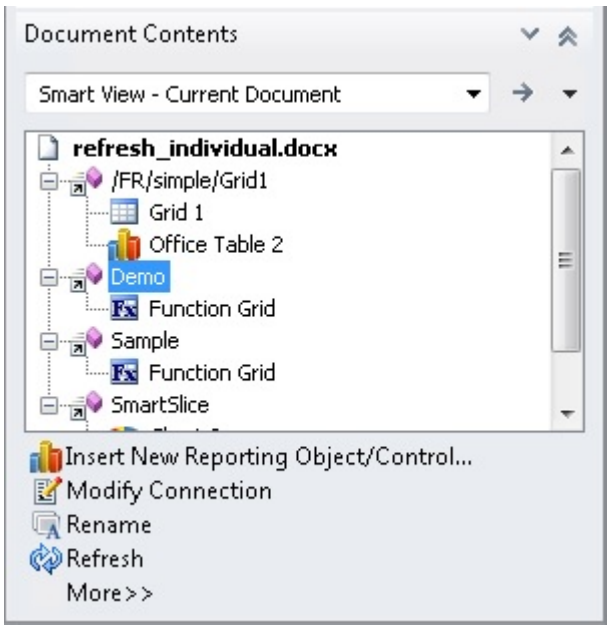
「ドキュメント・コンテンツ」ペインの個々のレポートをリフレッシュするには:

1. リフレッシュする関連付けられたレポート・オブジェクトを含む個々のレポート問合せに移動します。

   レポート・オブジェクトが個々のレポート問合せに挿入された後にのみ、**「リフレッシュ」**リンク Refresh が**「ドキュメント・コンテンツ」**に表示されます。

   たとえば、図 1 で、関数グリッドをリフレッシュします。選択されているのは関数グリッドの「デモ」レポート問合せで、関数グリッドそのものではないことに注意してください。

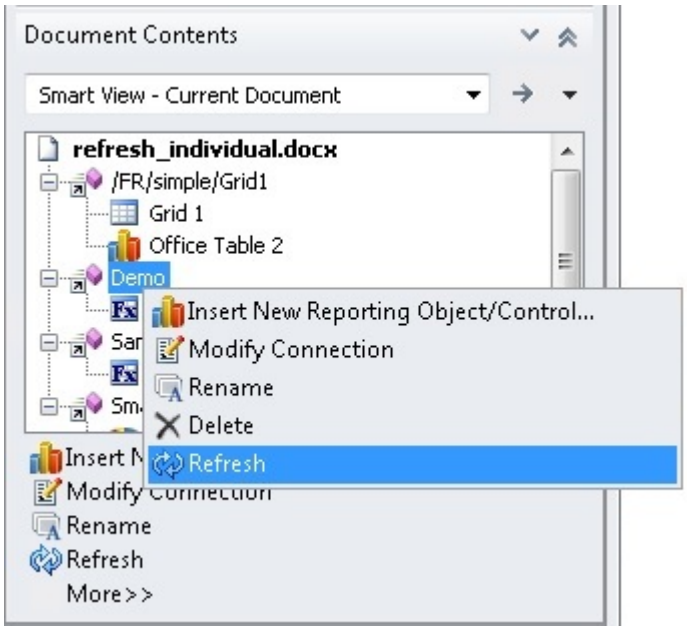
図 8-2 リフレッシュ対象に選択された関数グリッドのレポート問合せ



2. **「ドキュメント・コンテンツ」**ペインで Refresh をクリックします。

   レポート問合せを右クリックして、図 2 に示すようにコンテキスト・メニューから Refresh を選択することもできます。

図 8-3 右クリック・メニューを使用したリフレッシュ



選択されたレポート問合せのレポート・オブジェクトがリフレッシュされます。残りのレポート問合せと関連付けられているレポート・オブジェクトはリフレッシュされないままです。

その他のリフレッシュの例を参照してください。

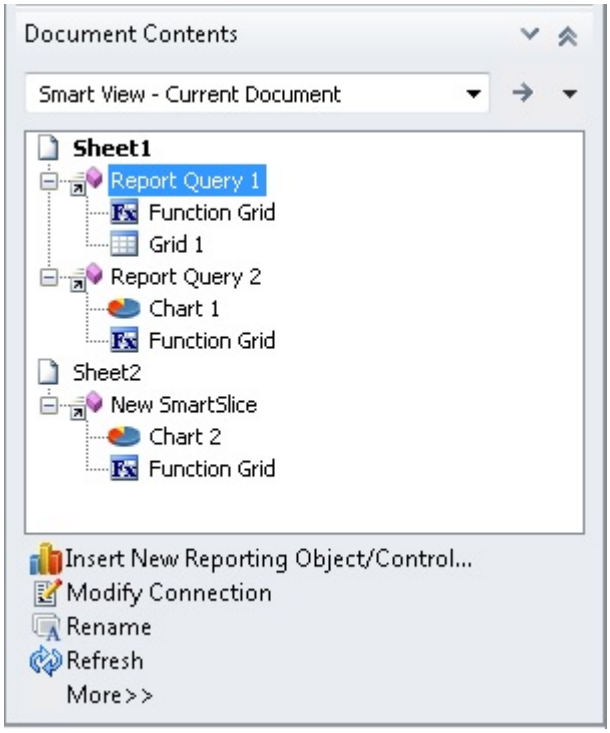
例 8-1 Excel での個々のレポート・オブジェクトのリフレッシュについてのノート

- Excel では、関数グリッドを含むレポート問合せを除き、レポート問合せを個別にリフレッシュできます。

  たとえば、2 つのレポート問合せに関数グリッドが含まれている場合、リフレッシュ中の一方の問合せが他方の問合せの関数グリッドを#NEED REFRESH (未リフレッシュ)状態に戻します。これは関数グリッドでのみ発生します。表やチャートなどの他のレポート・オブジェクトは正常にリフレッシュされます。

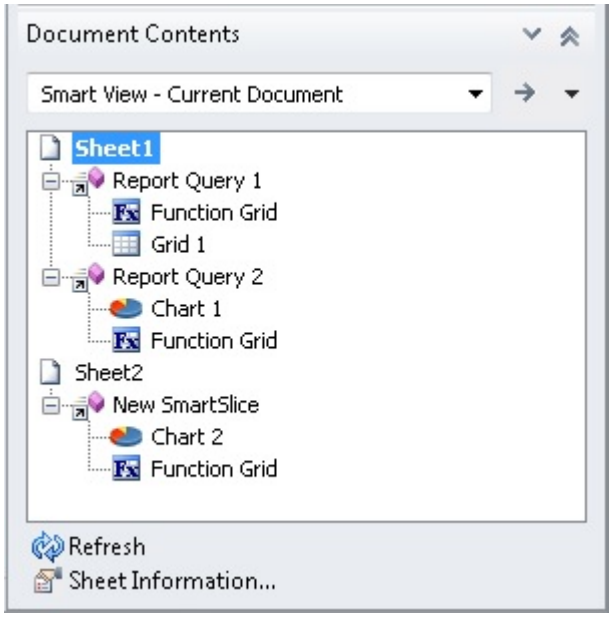
  たとえば、図 3 のシート 1 で、`Report Query 1` をリフレッシュすると、関連付けられているグリッドと関数グリッドはリフレッシュされます。ただし、`Report Query 2` に関連付けられている関数グリッドは未リフレッシュ状態に戻りますが、チャートは正常にリフレッシュされます。シート 2 のレポート問合せと関連付けられているレポート・オブジェクトは影響を受けません。

図 8-4 Excel での 2 つのレポート問合せに関数グリッドが含まれている場合のリフレッシュするレポート問合せの選択



複数の関数グリッドを含むシートのすべてのアイテムをリフレッシュするには、図 4 に示すように**「ドキュメント・コンテンツ」**の Sheet1 を選択して、Refresh をクリックします。

図 8-5 ドキュメント・コンテンツからシート上のすべてのレポート・オブジェクトをリフレッシュする場合のシート 1 の選択



- Excel で、単一のレポート問合せのレポート・オブジェクトが複数のシートに挿入されている場合、レポート問合せを選択して Refresh をクリックすると、表示されている各シートのレポート・オブジェクトがリフレッシュされます。

例 8-2 その他のリフレッシュの例

この項の例では Word ドキュメントを使用し、**「ドキュメント・コンテンツ」**ペインで行う選択に応じて使用可能なリフレッシュ・オプションについて説明します。

図 5 に、**「ドキュメント・コンテンツ」**ペインで選択された Word ドキュメントを示します。Refresh をクリックすると、ドキュメント内のすべてのレポート問合せと関連付けられているレポート・オブジェクトがリフレッシュされます。

図 8-6 リフレッシュ対象に選択された Word ドキュメント

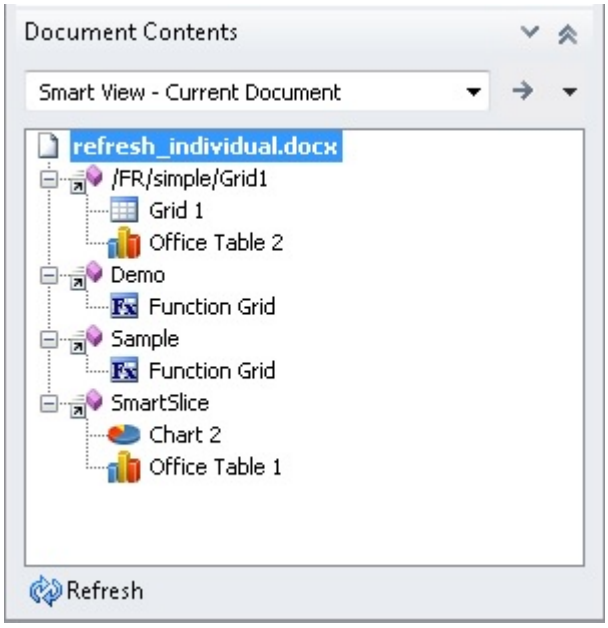
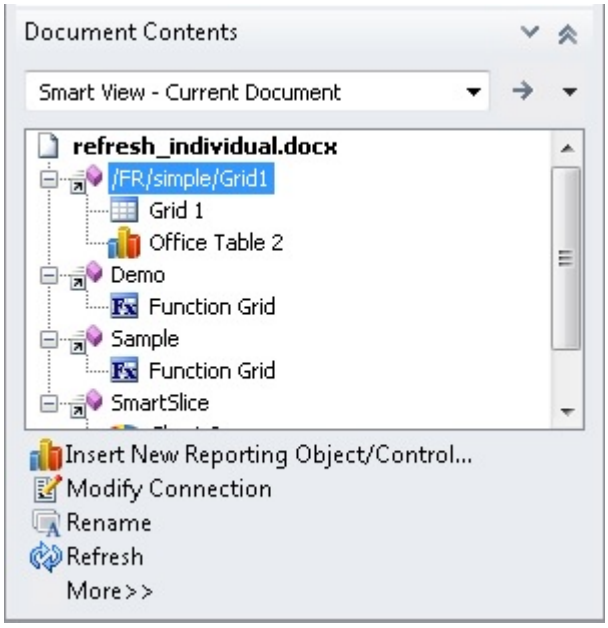


図 6 に、**「ドキュメント・コンテンツ」**ペインで選択されたレポート問合せを示します。レポート問合せには、2 つのレポート・オブジェクト(グリッドと Office 表)が含まれています。Refresh をクリックすると、選択されたレポート問合せとその 2 つの関連付けられているオブジェクトのみがリフレッシュされ、ドキュメント内のその他のレポート問合せとそのレポート・オブジェクトはリフレッシュされないままです。

図 8-7 リフレッシュ対象に選択された 2 つのレポート・オブジェクトを含むレポート問合せ



> **ノート:**
>
> 個々のシートまたはスライドをリフレッシュすると、選択されたシートまたはスライドに関連付けられているレポート問合せとレポート・オブジェクトがリフレッシュされます。たとえば、複数のレポート問合せを含むシートを選択すると、選択したシート上の複数のレポート問合せに関連付けられているすべてのレポート・オブジェクトがリフレッシュされます。
>
> ドキュメント全体をリフレッシュすると、ドキュメント内のすべてのレポート問合せと関連付けられているレポート・オブジェクトがリフレッシュされます。

図 7 では、2 つのレポート・オブジェクトがレポート問合せに関連付けられ、1 つのレポート・オブジェクトが選択されています。Refresh は使用できません。

図 8-8 2 つのレポート・オブジェクトの 1 つを選択 - 「リフレッシュ」は使用不可

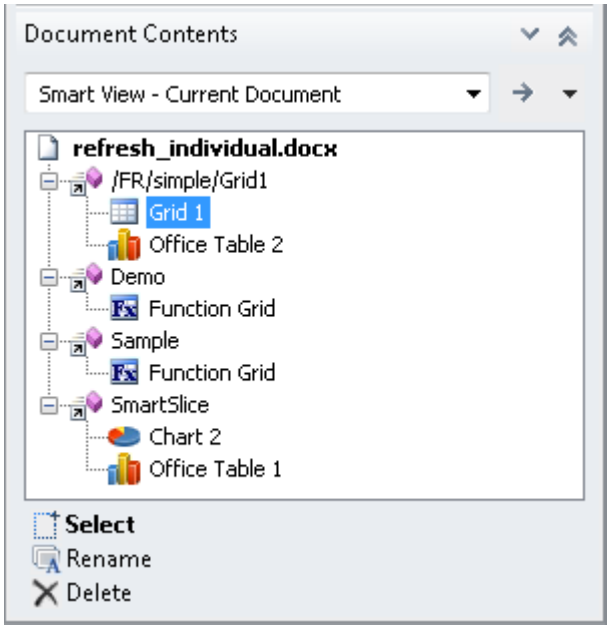


図 8 に、**「ドキュメント・コンテンツ」**ペインで選択されたレポート問合せを示します。レポート問合せには、1 つのレポート・オブジェクト(関数グリッド)が含まれています。Refresh をクリックすると、選択されたレポート問合せとその関連付けられているオブジェクトのみがリフレッシュされ、ドキュメント内のその他のレポート問合せとそのレポート・オブジェクトはリフレッシュされないままです。

図 8-9 リフレッシュ対象に選択された 1 つのレポート・オブジェクトを含むレポート問合せ

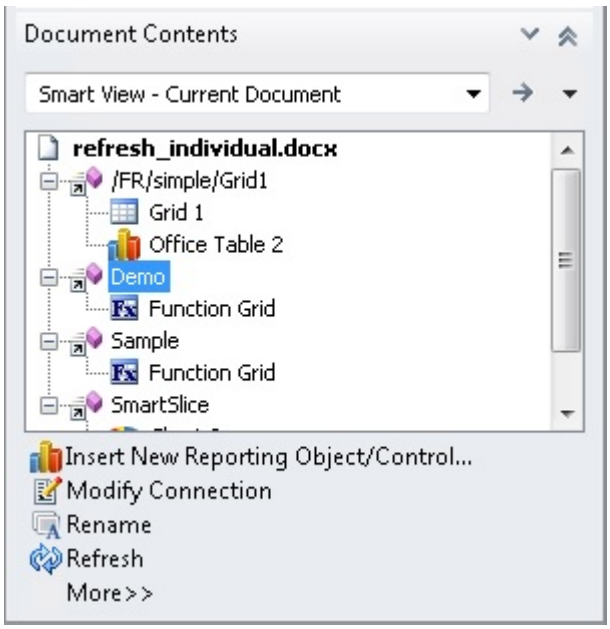
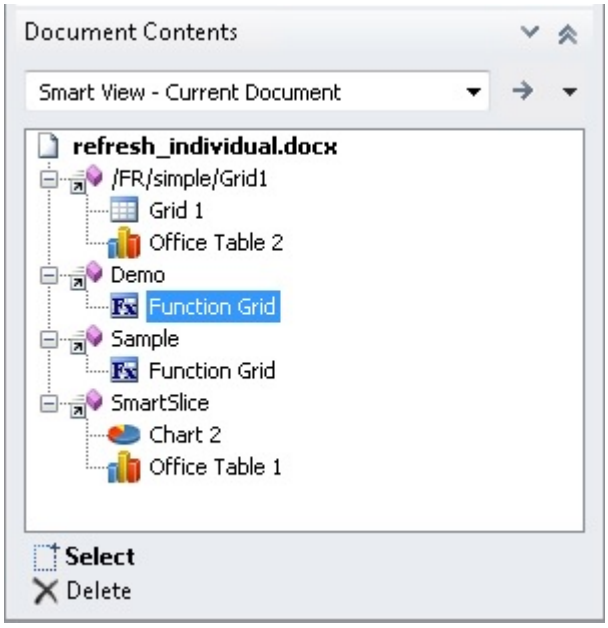


図 9 では、レポート問合せに関連付けられた 1 つのレポート・オブジェクトが選択されています。Refresh は使用できません。

図 8-10 個々のレポート・オブジェクトを選択 - 「リフレッシュ」は使用不可



データの送信オプションの使用

「データの送信」オプションには、データの送信、リフレッシュせずにデータを送信、およびデータ範囲の送信があります。

次も参照:

- データの送信オプションについて
- データの送信
- リフレッシュなしのデータの送信
  「リフレッシュせずにデータを送信」では、ユーザーはワークシートからすべてのデータを送信できます。
- データ範囲の送信

データの送信オプションについて

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Planning、Planning モジュール、Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Tax Reporting

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、 Oracle Hyperion Financial Management、Oracle Hyperion Planning

変更されたデータをフォームおよびアド・ホック・グリッドから送信することにより、データ・ソースのデータのすべてのタイプを 更新できます。切断中に変更した場合、再接続した後に変更を送信できます。

Oracle Smart View for Office には、次のデータ送信オプションがあります:

- データの送信
- リフレッシュせずにデータを送信
- データ範囲の送信

> **ノート:**
>
> データの送信機能は、通常すべてのデータ・ソース・タイプでサポートされます。ただし、特定のデータ・ソース・サポートは、個々のデータの送信トピックを参照してください。

ビデオ

目的	このビデオを見る
データの送信のオプションについて学習します。	 概要: Smart View でのデータの送信

データの送信オプションの使用に関するベスト・プラクティス

- **「データの送信」**オプションを使用する場合:
  - 11.1.2.1.102 以降の Essbase リリースに接続している場合、フリー・フォーム・モードで最初にリフレッシュせずにデータを送信できます。
  - 11.1.2.1.102 より前の Planning アド・ホック、Financial Management アド・ホック、または Essbase リリースに接続している場合、フリー・フォーム・モードでは、データを変更する前に、グリッドをリフレッシュする必要があります。
- 集約ストレージ・データベースを使用している場合、階層の最下位レベル(レベル 0)からのみデータを送信できます。
- **「リフレッシュせずにデータを送信」**および**「データ範囲の送信」**オプションを使用すると、Smart View をインストールしていないユーザーが変更したセルのセル・データを送信できます。
- 複数のグリッドをサポートするワークシートでは、一度に 1 つのグリッドでのみ**「データの送信」**コマンドを実行できます。

  一度に複数のグリッドでデータを送信しようとした場合、つまり、複数のグリッドでセル範囲を選択した場合、Excel によって戻された最初の範囲が、選択されたグリッドの判断に使用され、そのグリッドでのみ送信が実行されます。
- フォームからデータを送信する場合:
  - Planning または Financial Management のフォームでは、セルまたはセル範囲をロックして、データがリフレッシュまたは送信されるまでデータを保護できます。Financial Management では、セルをロックしても実際のデータ・キューブはロックされません。ロックされるのはフォームのセルのみです。データをリフレッシュまたは送信すると、セルのロックは解除されます。
  - 一部のセルがすでにフォーム定義に存在しない場合もあります。この動作は、フォームの定義またはアクセス権を変更した場合や、行または列を抑制した場合に起きる可能性があります。そのような場合は、フォームの新しい定義に存在する書込み可能なセルのみが保存されます。この動作は、セルとサポート詳細の両方の変更に適用され、

データ・プロバイダの接続中または切断中にフォームを操作する場合にも適用されます。

- フォームでの作業中に**「データの送信」**をクリックした場合、実際には、POV ツールバーで選択されている最新の POV にデータが書き込まれています。ベスト・プラクティスとして、POV を変更するたびに、リフレッシュを実行することをお薦めします。リフレッシュによりシートのデータが更新され、最新の POV 変更が反映されます。
- Web アプリケーションから Smart View で開いたフォームでは、変更されたデータは送信できませんが、一部の計算済および読取り専用のセルは、エラー・メッセージが表示されることなく編集できます。

データの送信

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Planning、Financial Consolidation and Close、Planning モジュール、Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Tax Reporting

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、 Oracle Hyperion Financial Management、Oracle Hyperion Planning

ビデオ

目的	このビデオを見る
データの送信など、Oracle Smart View for Office の基本的な機能について学習します。	Oracle Planning and Budgeting Cloud による Smart View でのプラン・データの入力および保存

データを送信するには:

1. データ・ソースに接続します。
2. **オプション:** 変更されたセルを識別するには、セルのスタイルの説明に従い、ダーティ・セルにセル・スタイルを設定します。
3. **Essbase のみ:** Essbase のリボンからリリース 11.1.2.1.102 より前のオンプレミスの Essbase をフリーフォーム・モードで操作している場合、**「リフレッシュ」**を選択します。
4. 必要に応じてデータを変更します。
5. 任意のリボンから**「データの送信」**を選択します。

   ワークシート上のすべてのダーティ・セルが送信されます。

> **ノート:**
>
> ワークシートの複数のグリッドを使用する場合、データの送信オプションの使用に関するベスト・プラクティスを参照してください。

リフレッシュなしのデータの送信

「リフレッシュせずにデータを送信」では、ユーザーはワークシートからすべてのデータを 送信できます。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Planning アド・ホック、Planning モジュール・アド・ホック、Enterprise Profitability and Cost Management アド・ホック、Financial Consolidation and Close アド・ホック、フリーフォーム、Tax Reporting アド・ホック

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Oracle Hyperion Planning アド・ホック、Oracle Hyperion Financial Management アド・ホック

「リフレッシュせずにデータを送信」には、明示的に変更した(ダーティになった)すべてのデータ・セル、および変更されていないデータ・セルも含まれます。すべてのデータ・セルがダーティとマークされ、送信されます。送信操作が完了すると、グリッド全体がリフレッシュされます。

最初にリフレッシュせずにデータを送信するには:

1. データ・ソースに接続します。
2. **オプション:** 変更されたセルを識別するには、セルのスタイルの説明に従い、ダーティ・セルにセル・スタイルを設定します。
3. 必要に応じてデータを変更します。
4. プロバイダ・リボンから、**「データの送信」**、**「リフレッシュせずにデータを送信」**の順に選択します。

   セルがダーティであるか否かにかかわらず、シート上のすべてのセルのデータが送信されます。

> **ノート:**
>
> - フリーフォーム・モードでテキスト・データ型の値を更新する場合は、**「リフレッシュせずに送信」**アクションを使用してください。これは、標準のアド・ホック・モードにのみ適用されます(アプリケーション設定**「Smart View アド・ホック動作」**=`Standard`)。
> - ワークシートの複数のグリッドを使用する場合、データの送信オプションの使用に関するベスト・プラクティスを参照してください。

データ範囲の送信

クラウド・データ・ソース・タイプ: Planning アド・ホック、Planning モジュール・アド・ホック、Enterprise Profitability and Cost Management アド・ホック、Financial Consolidation and Close アド・ホック、フリーフォーム、Tax Reporting アド・ホック

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Oracle Hyperion Planning アド・ホック、Oracle Hyperion Financial Management アド・ホック

連続または非連続の単一セルまたはセル範囲を送信できます。

データを送信するには:

1. データ・ソースに接続します。
2. 必要に応じてデータを変更します。

   または、Oracle Smart View for Office を所有しておらず、ワークシートを変更したユーザーから受領したワークブックを開く場合もあります。Smart View は、このようなセルをダーティであると検出できないため、どのセルが変更または追加されたかをそのユーザーによって通知してもらう必要があります。
3. **オプション:** 変更されたセルを識別するには、セルのスタイルの説明に従い、ダーティ・セルにセル・スタイルを設定します。
4. 送信するデータ範囲を選択します。

   連続または非連続の単一セルまたはセル範囲を選択できます。
5. プロバイダ・コンテキスト・リボン(例: **「Planning アド・ホック」**リボン)から、**「送信」**、**「データ範囲の送信」**の順に選択します。

   選択したセルのセル・データのみが送信されます。選択したセルの範囲外でシートにダーティ・セルがある場合、変更された値は送信されず、これらのセルはプロバイダで最後に格納されたときの値に戻されます。

> **ノート:**
>
> ワークシートの複数のグリッドを使用する場合、データの送信オプションの使用に関するベスト・プラクティスを参照してください。

データの計算

新しいまたは変更されたデータを送信した後、データベース内のデータを計算して、その変更を反映する必要があります。

次も参照:

- データの計算について
- Financial Management でのデータの計算
- Essbase でのデータの計算
- 選択された POV の解決順の変更

データの計算について

新しいまたは変更されたデータを送信した後、データベースでデータを計算してその変更を反映する必要があります。データの計算のオプションはデータ・ソースにより異なります。データを計算するには、データへのセキュリティ・アクセス権が必要です。

Oracle Hyperion Planning の Planning フォームのビジネス・ルールの計算の詳細は、「フォームの計算」および「通貨の計算」ビジネス・ルールの実行を参照してください。

Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management のフォームでのビジネス・ルールの計算の詳細は、「フォームの計算」および「通貨の計算」ビジネス・ルールの実行を参照してください。

関連項目:

Financial Management でのデータの計算

Essbase でのデータの計算

Financial Management でのデータの計算

データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Financial Management

データを計算するには:

1. データを計算するセルまたはセル範囲を選択します。
2. データ・ソースまたはデータ・ソース・アド・ホックのリボンから**「計算」**を選択し、次のいずれかのオプションを選択します:
   - 選択したセルを計算するには、**「計算」**を選択します
   - セル・ステータスにかかわらず選択したすべてのセルに強制的に計算を実行するには、**「計算」**、**「強制計算」の順に選択します**

Essbase でのデータの計算

次も参照:

- Essbase でのデータの計算について
- Essbase 計算の実行
- タプルを使用した非対称グリッドの計算

Essbase でのデータの計算について

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

Oracle Smart View for Office では、計算スクリプトを使用して Essbase オンプレミスまたはクラウドのデータベースを計算できます。計算スクリプト・タイプは、Essbase または MDX にすることができます。

さらに:

- Essbase および MDX 計算スクリプトは、特定のシステムに対して Essbase 管理者によって作成されます。
- Essbase および MDX 計算スクリプトを起動したときに、変数情報を入力するように指示することができます。いわゆる実行時プロンプトです。
- Essbase および MDX 計算スクリプトは、集約ストレージ・データベースとブロック・ストレージ・データベースでサポートされます。
- MDX 計算スクリプトには、複数の MDX 問合せを含めることができます。
- 計算を実行する前にメンバー POV の解決順を変更するには、選択された POV の解決順の変更を参照してください。
- **Essbase クラウドのみ:**
  - Essbase 計算スクリプトの実行時に詳細なトレース情報を提供できます。トレース情報が表示されるのは、Oracle Essbase 管理者が計算スクリプトでトレースを構成した場合のみです。

  - 非対称グリッドで計算を実行できます。これを行うには、管理者はまず計算する選択済タプルを指定する計算スクリプトを用意します。タプルを使用した非対称グリッドの計算を参照してください。

- **管理者:**
  - Smart View の**「問合せの管理と実行」**ダイアログを使用して、一度に複数の MDX 問合せを実行しないでください。かわりに、MDX スクリプトを選択し、**「計算スクリプト」**ダイアログから実行します。
  - Essbase および MDX 計算スクリプトの記述の詳細は、次のガイドを参照してください:
    * *Oracle Essbase の使用*のキューブの計算
    * *Oracle Essbase の使用*の MDX を使用したデータの分析および管理
    * *Oracle Essbase 計算および問合せリファレンス*の MDX

    Essbase 21c および 19c のドキュメントを参照するには、次に示す Oracle Help Center にアクセスします:

    https://docs.oracle.com/en/database/other-databases/essbase/index.html
  - **Essbase クラウド:** Smart View ユーザーが実行時プロンプトを操作できるように Essbase 計算スクリプトを定義するには、*Oracle Essbase データベース管理者ガイド* の Smart View における計算スクリプト実行でのランタイム代替変数の使用 を参照してください。
  - データベース内の非対称領域を計算するためのスクリプトを記述するには、*Oracle Essbase の使用*の選択したタプルの計算を参照してください。

Essbase 計算の実行

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

計算スクリプトを選択して起動するには:

1. データ・ソースに接続し、アド・ホック問合せを作成するか、既存のレポート・ファイルを開きます。
2. 計算スクリプトを実行する対象となるデータ・セルを選択します。
3. Smart View のリボンで、**「計算」**を選択します。

   「計算スクリプト」ダイアログ・ボックスを開きます。
4. ダイアログの上部にある**「キューブ」**の下で、このアプリケーションに属するデータベースのリストからデータベースを選択します。
5. **「計算スクリプト」**で、スクリプトを選択します。

   「キューブ」列には計算が属するキューブが表示され、**「タイプ」**列には計算タイプが表示されます。
   - **「スクリプト」**は Essbase 計算を示します
   - **「MDX 計算」**は MDX 計算を示します。
6. 計算スクリプトに実行時プロンプトが含まれている場合、次の表にまとめられているように、実行時プロンプトで指定する入力タイプを入力または選択します。

> **ノート:**
>
> Essbase 管理者が実行時プロンプトをどのように設定するかによって、一部のプロンプト情報は手動で入力できます。入力する実行時プロンプトの値が有効であることを確認してください。すべての実行時プロンプトの値が有効になるまで、計算スクリプトを起動できません。

表 8-1 実行時プロンプトの入力タイプ

アイコン	予想される入力タイプ
	1 つのメンバーの選択 - ディメンションの 1 つのメンバーを選択できます。をクリックして、**「メンバー選択」**ダイアログ・ボックスでメンバーを 1 つ選択します。 または、編集用フィールドが有効な場合、メンバー名を手動で入力できます。たとえば、引用符で囲みます。 `"California"`
	複数メンバー選択 - ディメンションの 2 つ以上のメンバーを選択できます。をクリックして、**「メンバー選択」**ダイアログ・ボックスで複数のメンバーを選択します。 または、編集用フィールドが有効な場合、メンバー名を手動で入力できます。たとえば、メンバー名を引用符で囲み、カンマで区切ります。 `"New York", "California"; "West", "Market"`

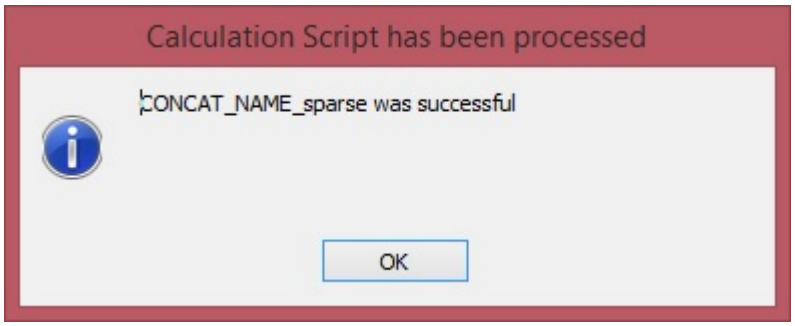
	テキスト値 - テキストの値。たとえば、次のように入力します。
	`MyGrid`
	メンバー名は引用符で囲み、カンマで区切り、最後にセミコロン(;)を付ける必要があります。たとえば、次のように入力します。
	`"New York","California","West","Market";`
	または
	`"Oklahoma";`

表 8-1 (続き) 実行時プロンプトの入力タイプ

アイコン	予想される入力タイプ
	数値 - 数値を入力します。たとえば、次のように入力します。 1000 または -2
	日付値 - システムで必要な形式の日付値です。たとえば、次のとおりです。 mm/dd/yyyy または dd/mm/yyyy

7. **「起動」**をクリックします。

   ステータス・メッセージにより、計算が成功したかどうかが示されます。次に例を示します。



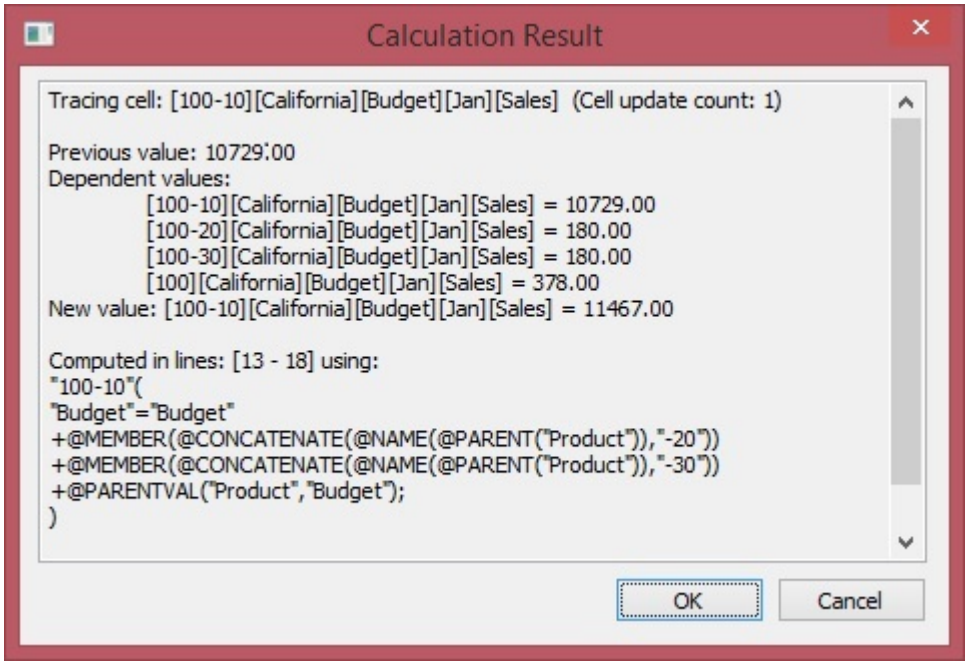
   計算に失敗した場合は、Essbase 管理者に問い合せてください。

8. **「OK」**をクリックして、メッセージ・ボックスを閉じます

9. **Essbase クラウドのみ:** 計算スクリプトでトレースが構成された場合、**「計算結果」**ダイアログ・ボックスの情報を確認し、**「OK」**をクリックしてダイアログを閉じます。

   または、**計算結果**ダイアログの情報をコピーして、任意のテキスト・エディタに貼り付けて保存します。

   計算結果ダイアログ・ボックスには、スクリプトの起動時に実行された計算に関する詳しい情報が含まれます。例:



10. アド・ホック・グリッドまたはレポートの変更されたデータ・セルに注意してください。
11. **「送信」**をクリックして、変更されたデータをデータベースに送信します。

タプルを使用した非対称グリッドの計算

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase
非対称グリッドのタプル計算により、Oracle Smart View for Office ユーザーは、余分に計算することなく、グリッドまたは計算スクリプト内のメンバー選択の特定のスコープに対して計算を実行できます。

計算 *タプル*は、計算 FIX ステートメントで使用される、1 つ以上の疎ディメンションのメンバーのデータ・スライスを表す手段の 1 つです。

デフォルトで、異なるディメンションの複数のメンバーが計算 FIX ステートメントに存在する、または Smart View のグリッド POV の一部である場合、計算スコープは異なるディメンションのすべてのメンバーの組合せのすべての可能な組合せになります(デカルト積)。このため、非対称グリッドを操作しているときに、必要以上の計算が発生する可能性があります。タプル計算では、計算のスコープはより正確で効率的になります。

管理者は、ユーザーが Smart View から実行できるように作成した他の計算を設定するのと同じように、特定のデータ・セットおよびビジネス・ニーズに基づいて Essbase でタプル計算を設定します。

Smart View ユーザーとして、他の計算を実行するのと同様に、非対称グリッドのタプル計算を実行します。タプル計算が管理者によってどのように設定されているかによって、実行時プロンプトを指定するように求められる場合があります。

ノート:

- Smart View リリース 11.1.2.5.800 以降、非対称グリッドでタプル計算を実行できます。Essbase データ・ソースが計算タプルをサポートしていることを確認してください。
- **管理者:** タプル計算機能を使用して、計算スコープを非対称グリッド内の選択済メンバー・タプルとして定義できます。FIX ステートメントの特別な構文を使用すると、計算するタプルを指定できます。タプル計算の詳細は、*Oracle Essbase の使用*の選択したタプルの計算を参照してください。

Smart View で、非対称グリッド上のタプル計算を実行するには、Essbase 計算の実行の計算の実行手順に従ってください。
非対称グリッド上のタプル計算に記述されたスクリプトを選択します。管理者は、実行する必要があるスクリプトをユーザーに指示できます。

例 8-3 非対称グリッドでのタプル計算の実行

このシナリオの例は、タプル計算の例のギャラリ・テンプレートに基づきます。ギャラリ・テンプレートは、計算タプルをサポートする Essbase バージョンで使用可能です。

次に示す非対称グリッドで開始します。行および列ディメンション内に同じメンバー階層が表示されていないため、グリッドは非対称です。

図 8-11 非対称グリッドの開始 - すべてのデータ値 = 1

	A	B	C	D	E
1			Jan	Actual	Marketing
2			Entity_1011	Entity_1012	
3			Pre-Flight	Sprint1	
4			Houston_Site	Chicago_Site	
5	Cola	New York	1	1	
6	Cola	Massachusetts	1	1	
7	Cola	Florida	1	1	
8	Cola	Connecticut	1	1	
9	Cola	New Hampshire	1	1	
10	Diet Cola	New York	1	1	
11	Diet Cola	Florida	1	1	

上の非対称グリッドは、階層メンバーが行および列全体で一様であるこの対称グリッドのスライスです。

図 8-12 対称グリッドの開始 - すべてのデータ値 = 1

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N
1			Jan	Actual	Marketing									
2			Pre-Flight	Pre-Flight	Pre-Flight	Pre-Flight	Pre-Flight	Pre-Flight	Sprint1	Sprint1	Sprint1	Sprint1	Sprint1	Sprint1
3			Entity_1011	Entity_1011	Entity_1011	Entity_1012	Entity_1012	Entity_1012	Entity_1011	Entity_1011	Entity_1011	Entity_1012	Entity_1012	Entity_1012
4			Houston_Site	Chicago_Site	Minneapolis_Site	Houston_Site	Chicago_Site	Minneapolis_Site	Houston_Site	Chicago_Site	Minneapolis_Site	Houston_Site	Chicago_Site	Minneapolis_Site
5	Cola	New York	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
6	Cola	Massachusetts	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
7	Cola	Florida	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
8	Cola	Connecticut	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
9	Cola	New Hampshire	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
10	Diet Cola	New York	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
11	Diet Cola	Massachusetts	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
12	Diet Cola	Florida	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
13	Diet Cola	Connecticut	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
14	Diet Cola	New Hampshire	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

非対称グリッド上の 3 つの異なるタイプの計算の実行結果を示し、次に、その計算が対称グリッドに及ぼす影響を示します。

スクリプトは、実行するごとに 1 ずつデータ・セルを増分し、計算タイプごとに異なる結果を対称グリッド含めるように構成されます。

実行する最初のスクリプトは、次のグリッドに示されたメンバーの組合せだけではなく、グリッド POV 内のすべてを 計算します。非対称グリッドでリフレッシュすると、すべてのデータ・セルは 2 になります。

図 8-13 デフォルト計算の実行後の非対称グリッド

	A	B	C	D	E
1			Jan	Actual	Marketing
2			Entity_1011	Entity_1012	
3			Pre-Flight	Sprint1	
4			Houston_Site	Chicago_Site	
5	Cola	New York	2	2	
6	Cola	Massachusetts	2	2	
7	Cola	Florida	2	2	
8	Cola	Connecticut	2	2	
9	Cola	New Hampshire	2	2	
10	Diet Cola	New York	2	2	
11	Diet Cola	Florida	2	2	
12					

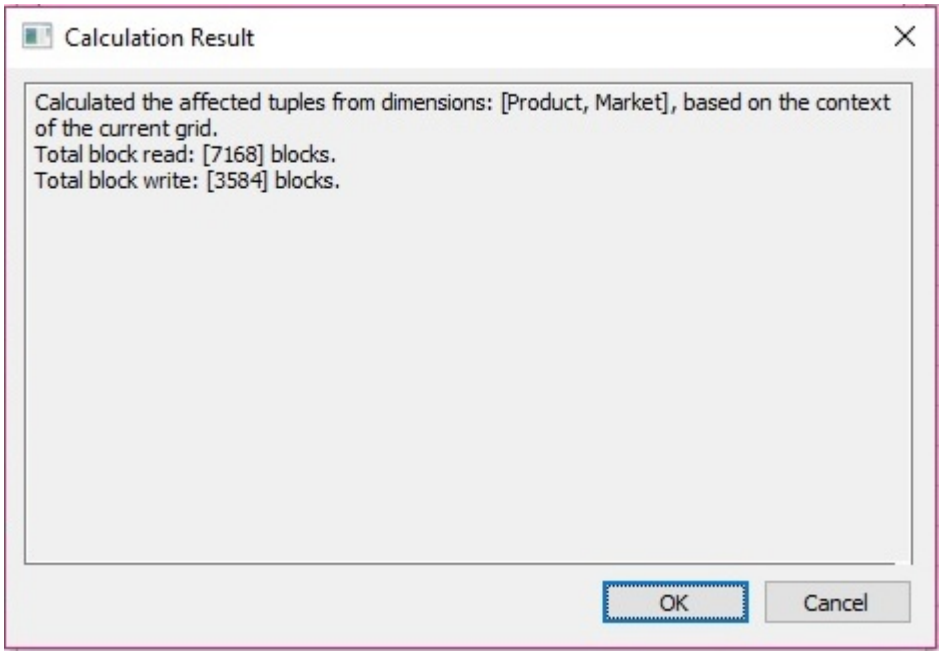
非対称グリッド内のセルを送信し、次に対称グリッドに移動しリフレッシュします。リフレッシュすると、製品/市場の組合せのすべてのエンティティ 、バージョン、シナリオおよびサイトは非対称グリッド上になくても計算されることに注意してください。これは、デフォルトでタプル計算はなく、Essbase はグリッドに表示されている組合せのデカルト積を計算するためです。結果は、POV 内のすべてのセルは 1 で増分されるため、対称グリッド内のすべてのデータ・セル内で 2 の値が表示されます。

図 8-14 非対称グリッドでのデフォルト計算の実行およびリフレッシュ後の対称グリッド

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N
1			Jan	Actual	Marketing									
2			Pre-Flight	Pre-Flight	Pre-Flight	Pre-Flight	Pre-Flight	Pre-Flight	Sprint1	Sprint1	Sprint1	Sprint1	Sprint1	Sprint1
3			Entity_1011	Entity_1011	Entity_1011	Entity_1012	Entity_1012	Entity_1012	Entity_1011	Entity_1011	Entity_1011	Entity_1012	Entity_1012	Entity_1012
4			Houston_Site	Chicago_Site	Minneapolis_Site	Houston_Site	Chicago_Site	Minneapolis_Site	Houston_Site	Chicago_Site	Minneapolis_Site	Houston_Site	Chicago_Site	Minneapolis_Site
5	Cola	New York	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
6	Cola	Massachusetts	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
7	Cola	Florida	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
8	Cola	Connecticut	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
9	Cola	New Hampshire	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
10	Diet Cola	New York	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
11	Diet Cola	Massachusetts	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
12	Diet Cola	Florida	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
13	Diet Cola	Connecticut	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
14	Diet Cola	New Hampshire	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2

次に、より制限された計算を非対称グリッドで実行すると、計算交差数が少なくなるように計算スコープが「製品」および「市場」グリッド・タプルに縮小されます。**「計算結果」**メッセージにより、この計算のスコープが表示されます。

図 8-15 すべての「製品」および「市場」タプルでのタプル計算の実行後の「計算結果」ダイアログ



リフレッシュすると、非対称グリッド内のすべてのデータ・セルは 3 に増分されます。グリッド上のデータを送信します。

図 8-16 すべての「製品」および「市場」タプルでの計算実行後の非対称グリッド

	A	B	C	D	E
1			Jan	Actual	Marketing
2			Entity_1011	Entity_1012	
3			Pre-Flight	Sprint1	
4			Houston_Site	Chicago_Site	
5	Cola	New York	3	3	
6	Cola	Massachusetts	3	3	
7	Cola	Florida	3	3	
8	Cola	Connecticut	3	3	
9	Cola	New Hampshire	3	3	
10	Diet Cola	New York	3	3	
11	Diet Cola	Florida	3	3	
12					

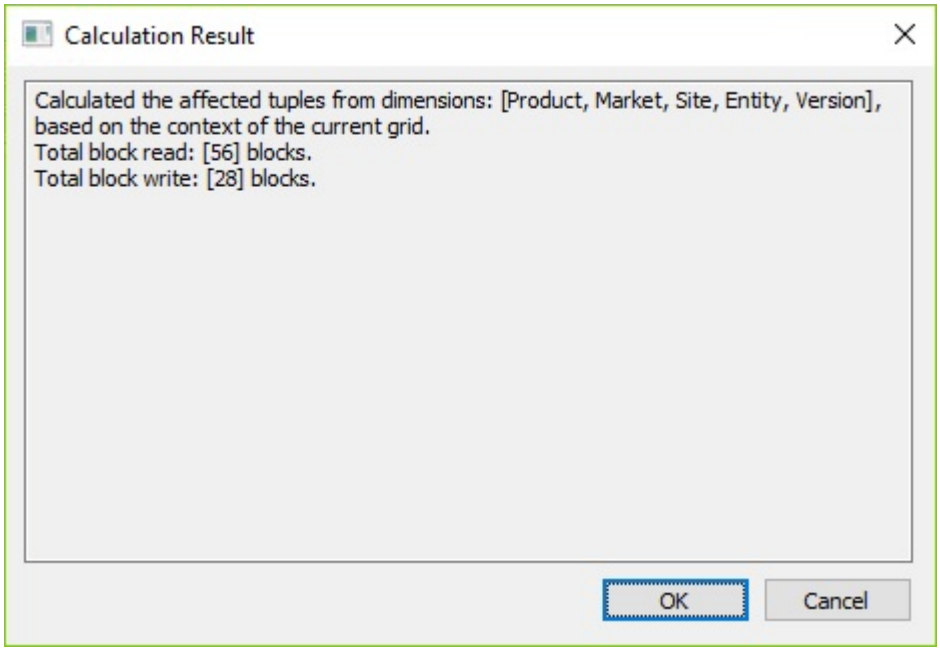
対称グリッドでは、非対称グリッドにすでに含まれている「製品」/「市場」タプルのみがサイト/バージョン/エンティティのすべての 組合せとともに計算されることに注意してください。これらは行 5 から 10 および行 12 のすべての列です。これらのセルには 3 のデータ値が現在表示されています。非対称グリッドに表示されていない「製品」/「市場」タプルは、対称グリッド内で計算されず、そのデータ・セル値は 2 のままです。この計算では、「製品」と「市場」の組合せのみがタプルに指定されていました。指定されていないディメンション(FIX ステートメントで指定されていない)のタプルおよびすべてのメンバーが計算されます。

図 8-17 非対称グリッドのすべての「製品」および「市場」タプルでの計算およびリフレッシュ後の対称グリッド

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N
1			Jan	Actual	Marketing									
2			Pre-Flight	Pre-Flight	Pre-Flight	Pre-Flight	Pre-Flight	Pre-Flight	Sprint1	Sprint1	Sprint1	Sprint1	Sprint1	Sprint1
3			Entity_1011	Entity_1011	Entity_1011	Entity_1012	Entity_1012	Entity_1012	Entity_1011	Entity_1011	Entity_1011	Entity_1012	Entity_1012	Entity_1012
4			Houston_Site	Chicago_Site	Minneapolis_Site	Houston_Site	Chicago_Site	Minneapolis_Site	Houston_Site	Chicago_Site	Minneapolis_Site	Houston_Site	Chicago_Site	Minneapolis_Site
5	Cola	New York	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
6	Cola	Massachusetts	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
7	Cola	Florida	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
8	Cola	Connecticut	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
9	Cola	New Hampshire	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
10	Diet Cola	New York	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
11	Diet Cola	Massachusetts	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
12	Diet Cola	Florida	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
13	Diet Cola	Connecticut	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
14	Diet Cola	New Hampshire	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2

非対称グリッド上に表示されているタプルにのみ機能するように記述されている最後の計算を実行します。タプル計算では、非対称グリッド上で指定されているエンティティ、サイト、市場、製品、バージョンの組合せのみが計算されるように指定されます。計算の実行後、**「計算結果」**ダイアログには、より小さい計算スコープが示されます。

図 8-18 グリッド「製品」および「市場」タプルでの計算実行後の「計算結果」ダイアログ



非対称グリッド内のすべてのセルの値は 4 に増分されます。このグリッド上のデータを送信します。

図 8-19 グリッド「製品」および「市場」タプルでの計算実行後の非対称グリッド

	A	B	C	D	E
1			Jan	Actual	Marketing
2			Entity_1011	Entity_1012	
3			Pre-Flight	Sprint1	
4			Houston_Site	Chicago_Site	
5	Cola	New York	4	4	
6	Cola	Massachusetts	4	4	
7	Cola	Florida	4	4	
8	Cola	Connecticut	4	4	
9	Cola	New Hampshire	4	4	
10	Diet Cola	New York	4	4	
11	Diet Cola	Florida	4	4	

対称グリッドに移動し、リフレッシュします。タプル計算では、非対称グリッド上で指定されているエンティティ、サイト、市場、製品、バージョンの組合せのみが計算されるように指定されていることに注意してください。対称グリッドで、行 5 から 10 および行 12、および列 C および M のみが 4 に増分されます。これらは、非対称グリッドで増分されたデータに対応するタプルであり、次に黄色で強調表示されています。

図 8-20 非対称グリッドのグリッド「製品」および「市場」タプルでの計算およびリフレッシュの実行後の対称グリッド

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N
1			Jan	Actual	Marketing									
2			Pre-Flight	Pre-Flight	Pre-Flight	Pre-Flight	Pre-Flight	Pre-Flight	Sprint1	Sprint1	Sprint1	Sprint1	Sprint1	Sprint1
3			Entity_1011	Entity_1011	Entity_1011	Entity_1012	Entity_1012	Entity_1012	Entity_1011	Entity_1011	Entity_1011	Entity_1012	Entity_1012	Entity_1012
4			Houston_Site	Chicago_Site	Minneapolis_Site	Houston_Site	Chicago_Site	Minneapolis_Site	Houston_Site	Chicago_Site	Minneapolis_Site	Houston_Site	Chicago_Site	Minneapolis_Site
5	Cola	New York	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	3
6	Cola	Massachusetts	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	3
7	Cola	Florida	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	3
8	Cola	Connecticut	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	3
9	Cola	New Hampshire	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	3
10	Diet Cola	New York	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	3
11	Diet Cola	Massachusetts	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
12	Diet Cola	Florida	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	3
13	Diet Cola	Connecticut	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
14	Diet Cola	New Hampshire	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2

この項の例では、非対称グリッドと対称グリッド上の 3 つの計算の影響を示しました。各グリッド・タイプ上の各計算の結果を考察しました。タプルを選択すると、アクティブな Smart View グリッドでの計算に重点を置くことができ、キューブ内の特定のデータ・スライスにそのスコープが制限されることを学びました。

選択された POV の解決順の変更

データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

Essbase のリボンの**「セル情報」**コマンドを使用すると、POV やデータ連結プロパティなどデータ・セルの情報を表示できます。また、選択したメンバー交差または POV におけるデータ・セルの解決順を変更できます。

解決順は、計算が実行される際のメンバーの順序すなわち優先順を表す値です。ユーザーは、**「データ・セル情報」**ダイアログ・ボックスで解決順の値を編集することで、解決順を表示して変更できます。

選択したデータ・セルは、POV の動的メンバーを含む必要があります。

データ・セルの解決順を変更するには:

1. アド・ホック・グリッドまたはレポートでデータ・セルを選択します。
2. Essbase のリボンで、Cell Information をクリックして**「データ・セル情報」**ダイアログ・ボックスを表示します。

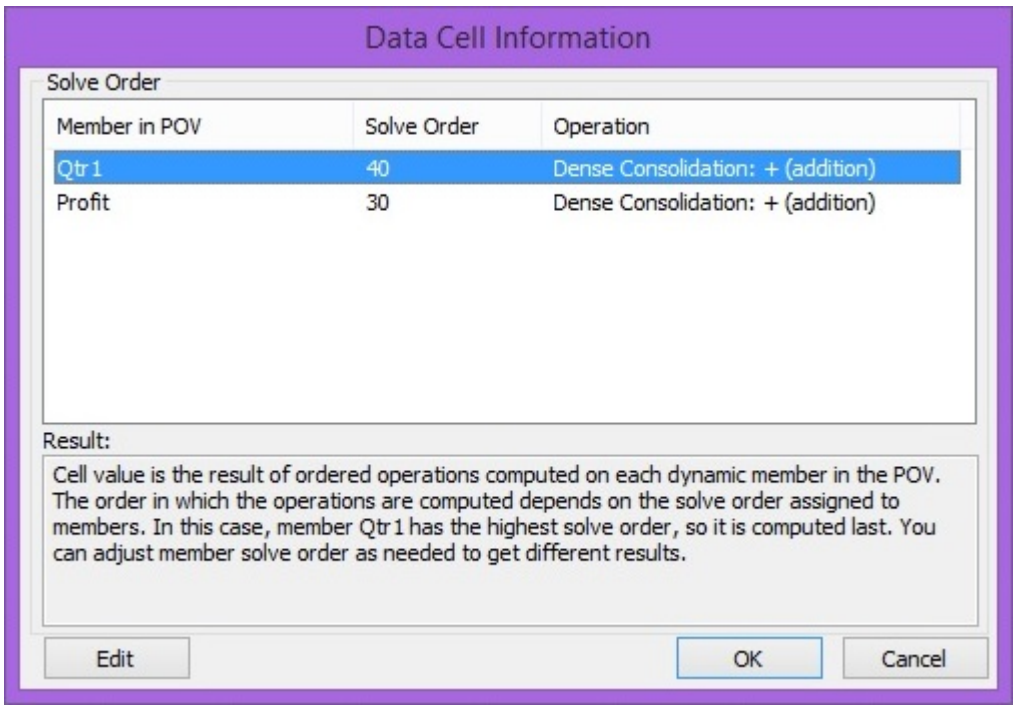
   例として、図 1 に Sample Basic のアプリケーションとデータベースに基づく単純なアド・ホック・クエリを示します。Qtr1 と Profit の交差のセル B3 を選択します。

図 8-21 Sample Basic に基づく単純なアド・ホック・グリッド

	A	B	C	D	E
1		Product	Market	Scenario	
2		Profit	Inventory	Ratios	Measures
3	Qtr1	8201	117405	34.07707342	8201
4	Qtr2	1895	108026	30.01514991	1895
5	Qtr3	1877	130389	30.05844199	1877
6	Qtr4	1425	128079	29.642067	1425
7	Year	13398	117405	30.97552743	13398

「データ・セル情報」ダイアログに、この交差の POV メンバーである Qtr1 と Profit が表示されます。両方の操作の計算タイプが Dense Consolidation: + (addition) に設定されています。**「結果」**の下には、現在の計算結果の詳しい説明が表示されます。

図 8-22 「データ・セル情報」ダイアログ・ボックス



3. **「データ・セル情報」**ダイアログでメンバー行を選択し、**「編集」**をクリックします。

   カーソルが**「解決順」**フィールドに配置され、ここに新しい値を入力できます。

   または、**「解決順」**フィールドの値をダブルクリックして新しい値を入力します。

   有効な解決順は 0 と 127 の間です。

   127 よりも上の値を入力すると、0 から 127 までの値を入力するように求められます。解決順が 0 のメンバーはダイアログに表示されないことに注意してください。

4. **オプション:** POV の他のメンバーの解決順の値を変更するには、ステップ 3 を繰り返します。
5. **「OK」**をクリックして、解決順の変更をすべてコミットします。
6. この手順を繰り返して、他のデータ・セルの解決順を変更します。
7. Essbase でのデータの計算の手順に従い、必要な計算を実行します。

データの集計

集計とは、従属エンティティのデータを、親エンティティに集約することです。

データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Financial Management

開始する前に:

- **「集計」**オプションを使用するには、データへのセキュリティ・アクセス権が必要であり、**「集計」**セキュリティの役割が割り当てられている必要があります。

- **すべて集計**オプションを使用するには、**すべて集計**セキュリティの役割が割り当てられている必要があります。

データを連結するには:

1. 集計を実行するセルまたはセル範囲を選択します。
2. データ・ソース・アド・ホックのリボンから**「集計」**を選択し、次のいずれかのオプションを選択します:
   - **「集計」**は、選択したエンティティのデータを集計します。
   - **「すべて集計」**は、データが含まれているかどうかにかかわらず、すべてのエンティティのデータを集計します。
   - **「データを含むすべてを集計」**は、選択したエンティティを、データが含まれている場合にのみ集計します。
   - **「コントリビューションの計算」**は、すべての従属エンティティのコントリビューション値を計算します。
   - **「コントリビューションの強制計算」**は、選択したすべてのコントリビューション値について、計算を強制実行します。

通貨の操作

通貨換算が使用可能になっているフォームでは、セルの基本通貨以外の通貨でデータを入力できます。

関連トピック:

Financial Management での通貨換算

Planning での通貨の変更

Financial Management での通貨換算

データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Financial Management

通貨の換算は、Financial Management では"データの換算"と呼ばれます。エンティティの入力通貨から、アプリケーションで定義された任意の通貨にデータを換算できます。通貨は、親子エンティティの組合せとは関連付けられないため、連結プロセスとは別個に、必要に応じてデータを換算できます。

アド・ホック・グリッドでは、データへのセキュリティ・アクセス権を持っている場合、ある通貨から別の通貨に値を変換または換算できます。データを換算するには:

1. セルまたはセルの範囲を選択します。
2. データ・ソース・アド・ホックのリボンから**「計算」**を選択し、次のいずれかのオプションを選択します:
   - 選択したセルを換算するには、**「換算」**を選択します。
   - 選択したすべてのセルを強制的に換算するには、**「換算の強制」**を選択します。

Planning での通貨の変更

通貨換算が使用可能になっているフォームでは、セルの基本通貨以外の通貨でデータを入力できます。現地通貨として、ドロップダウン・リストの通貨を指定できます。

> **ノート:**
>
> エンティティの基本通貨をオーバーライドするためには、セルが現地通貨建てで表示されており、そのバージョンがボトムアップである必要があります。また、アプリケーションが複数通貨に対応したアプリケーションであり、フォームが複数通貨をサポートしている必要があります。

基本通貨以外の現地通貨でセルにデータを入力するには:

1. フォームで、セルの現地通貨メンバーを選択します。
2. **オプション**: 通貨コードを参照するには、**「表示」**、**「通貨」**の順に選択します。

   「使用可能な通貨」に、アプリケーションの通貨が表示されます。操作する通貨の通貨コードをメモし、ウィンドウを閉じます。
3. 右の列、HSP_InputCurrency で、データ・セルに新しい通貨コードを入力します。

   データ・セルに通貨コードを入力することで、エンティティの基本通貨がオーバーライドされます。
4. **「送信」**をクリックして、新しい通貨コードを Oracle Hyperion Planning サーバーに送信します。
5. 左の列、HSP_InputValue に、データ・セルの通貨値を入力します。
6. **「フォームに関する規則」**をクリックして、新しい通貨値を計算して保存するための「通貨の計算」ルールを選択します。

   フォームの保存時に「通貨の計算」計算スクリプトが実行されるように設定されており、フォームで複数通貨が使用可能になっている場合は、選択した通貨コードの通貨でデータ値が表示されます。

データ・セルでの値の調整

セルに数値データが含まれている場合は、1 つ以上のデータ・セルの値を、指定した数値またはパーセンテージによって調整できます。

Excel の式を含むセルの値を調整する場合、調整した値により式が上書きされます。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Planning、Planning モジュール、Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Tax Reporting

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、 Oracle Hyperion Financial Management、Oracle Hyperion Planning

データ値を調整するには:

1. 調整する値を含むデータ・セルをクリックします。
2. データ・ソースのリボンから、**「調整」**を選択します。
3. **「データの調整」**で、次のいずれかのオプションを選択し、セルの値を調整する数値またはパーセンテージを入力します。
4. **「データの調整」**をクリックします。

データ検証エラーの解決

管理者は、データが会社のガイドラインを満たすようにデータ検証ルールを設定できます。フォーム内のデータがデータ検証ルールの基準を満たさない場合は、Smart View ユーザーがこのフォームでエラーを直接修正できます。

クラウド・データ・プロバイダ・タイプ: Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Planning、Planning モジュール、Tax Reporting

オンプレミス・データ・プロバイダ・タイプ: Oracle Hyperion Planning

たとえば、管理者は次のものを設定できます:

- 入力データの基準(*データ検証ルール*と呼ばれます)
- データ検証エラーへの注意を喚起する背景色
- 基準の内容を知らせるメッセージ

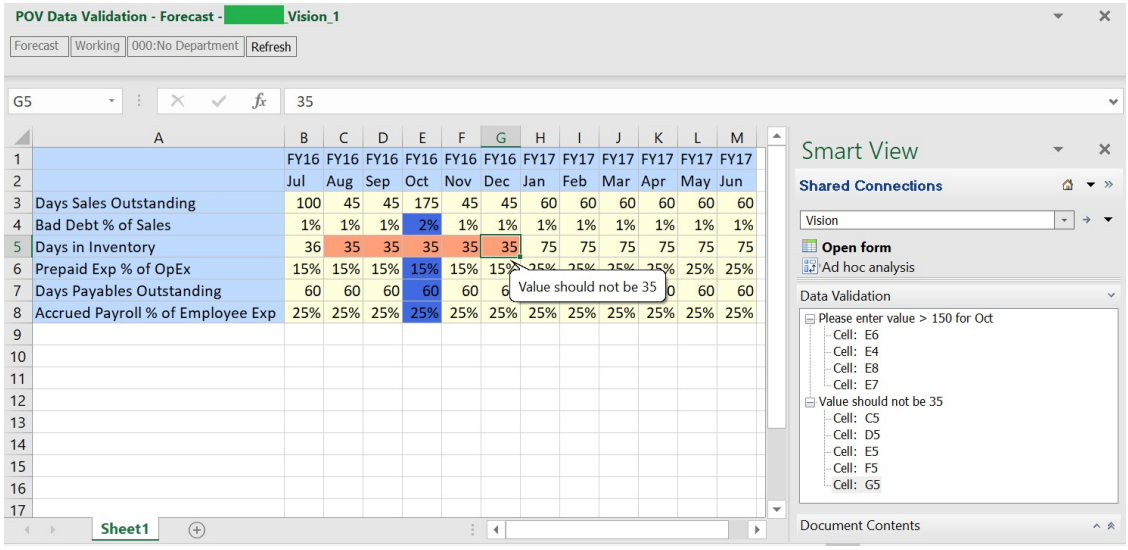
前述のオプションの設定については、ビジネス・プロセスまたはアプリケーション管理ガイドを参照してください。たとえば、Cloud EPM Planning の場合は、『*Planning の管理*』のデータ検証の管理を参照してください。

さらに、管理者は Windows レジストリ・キーを使用して、**「データ検証」**ペインに表示されるセルの数を設定できます。詳細は、「データ検証」ペインに表示される最大セル数の指定を参照してください

「データ検証」ペインが Smart View パネルに表示され、検証エラーを含むセルが検証ルールごとにグループ化されてリストされます。

図 1 は、これらの要素の例です。

図 8-23 無効なデータ・セル、データ検証メッセージおよび Smart View パネル内の「データ検証」ペインを示すフォーム



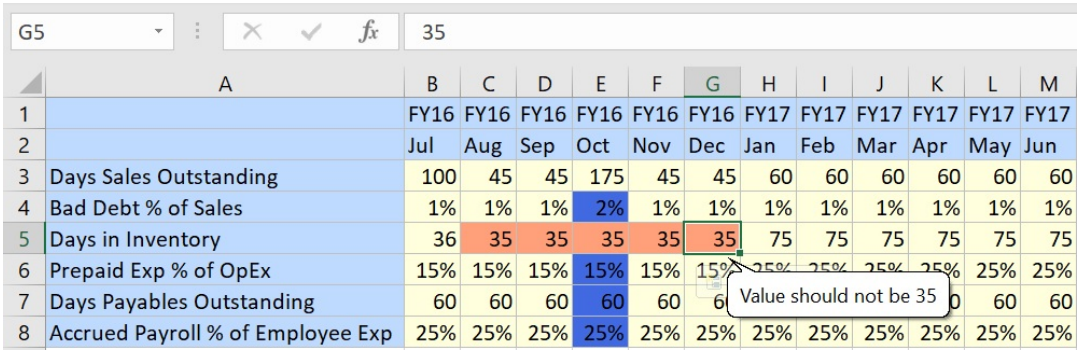
フォーム内のデータがデータ検証ルールの基準を満たさない場合は、データ検証エラーの解決の手順に従ってエラーを修正します。

データ検証エラーの解決

単一のフォームおよび複合フォームでデータ検証エラーを解決するには:

1. エラーがあるフォームで、デフォルト以外の背景色のセルにカーソルを合せて検証メッセージを表示します。

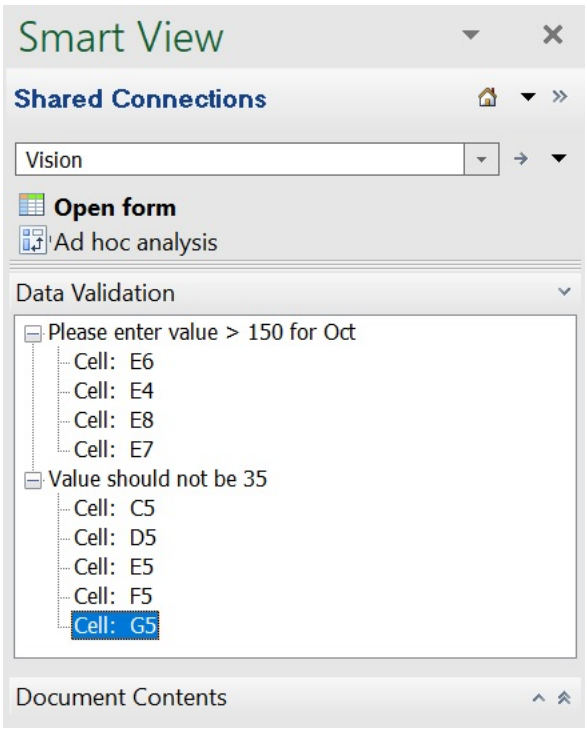
   管理者は、通常、データ検証ルール・エラーがあるセルへの注意を喚起するために、それらに背景色を付けて表示します。ポップアップ・テキストに検証ルールが表示されます。



	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
1		FY16	FY16	FY16	FY16	FY16	FY16	FY17	FY17	FY17	FY17	FY17	FY17
2		Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec	Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun
3	Days Sales Outstanding	100	45	45	175	45	45	60	60	60	60	60	60
4	Bad Debt % of Sales	1%	1%	1%	2%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%
5	Days in Inventory	36	35	35	35	35	35	75	75	75	75	75	75
6	Prepaid Exp % of OpEx	15%	15%	15%	15%	15%	15%	25%	25%	25%	25%	25%	25%
7	Days Payables Outstanding	60	60	60	60	60	6					60	60
8	Accrued Payroll % of Employee Exp	25%	25%	25%	25%	25%	25%	25%	25%	25%	25%	25%	25%

2. 検証エラーがある各データ・セル内をクリックし、データ検証メッセージの指示に基づいて各エラーを解決します。

   Smart View パネルの**「データ検証」**ペインにリストされているセルをレビューすることによって、解決するセルを見つけることもできます。



   エラーを解決していくと、それらのセルはリストから削除されます。

3. 複合フォームでは、これをデータ検証エラーがあるフォームごとに繰り返します。

4. セルに複数のメッセージがある場合は、ポップアップ・メッセージを確認してエラーを解決します。
5. すべてのエラーを解決したら、データを送信します。

   セルの背景色およびデータ検証メッセージはグリッド内に表示されなくなり、**「データ検証」**ペインは Smart View パネル内に表示されなくなります。

> **ヒント:**
>
> POV に有効なメンバーが含まれていない場合、POV 内の編集可能なディメンションをクリックして**「<選択のクリア>」**を選択することによって、現在のメンバーをクリアできます。その後、有効な交差の定義に含まれているディメンションからメンバーを選択できます。

「データ検証」ペインに表示される最大セル数の指定

管理者: レジストリ・フラグ NumberofValidations を使用して、**「データ検証」**ペインに表示される最大セル数を指定します。

> **ノート:**
>
> 表示されるデフォルトの最大セル数は 200 です。フラグを 200 より大きく設定すると、パフォーマンスに影響を与える可能性があることに注意してください。

フラグを HKCU\Software\Hyperion Solutions\HyperionSmartView\Options に追加します。

次の値を使用します:

名前: NumberofValidations

値: 200—**「データ検証」**ペインに返されるデフォルトの最大セル数。必要に応じて数値を大きくしたり小さくしたりできますが、数値が大きいとパフォーマンスに影響を与える可能性があることに注意してください。

タイプ: REG_DWORD

データ・パースペクティブの 指定

データ・パースペクティブにより 、独立した連続および個別ディメンションとの関連で異なるディメンション属性である可変属性のデータの表示に使用する視点を指定できます。

たとえば、コーラ製品が年間を通じて複数の異なる地域の市場で缶と瓶の両方で販売されるとします。パッケージ(缶または瓶)が市場によって異なる場合、または 1 年の間に一方のタイプからもう一方のタイプに変更される場合、パッケージ・タイプは可変属性です。コーラに関連付けられているデータは、1 年のうちの時期と市場によって異なります。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

> **ノート:**
>
> データ・パースペクティブは、Oracle Smart View for Office システムでは使用可能にできません。データ・パースペクティブのオプションは、Smart View 管理者が使用可能にし、構成します。

データ・パースペクティブを 指定するには:

1. **Essbase** のリボンから、**「データ・パースペクティブ」**を選択します。
2. **「パースペクティブ」**から、**「選択」**の下にあるオプション(オプションの例は、データ・パースペクティブの 実例を参照)を選択します。
   - **「現実」**は、パースペクティブのないデータを 表示します。
   - **「最後」**は、連続する独立した各ディメンションの最後のレベル 0 メンバーのデータを表示します。たとえば、Year が連続ディメンションで、December が Year の最後のメンバーの場合は、December のデータが表示されます。
   - **「開始」**は、連続する独立した各ディメンションの最初のレベル 0 メンバーのデータを表示します。たとえば、Year が連続ディメンションで、January が Year の最初のメンバーの場合は、January のデータが表示されます。
   - **「カスタム」**は、連続メンバーと個別メンバーの両方を指定する場合に使用します。このオプションでは、ドロップダウン・リストから**「可変属性」**を選択します。次に、**「独立ディメンション」**にリストされているディメンションについて、**「メンバー」**でメンバーを選択します。**「ディメンションのみ設定」**を選択した場合は、すべての 可変属性のすべての 独立ディメンションが表示され、共通のパースペクティブをすべてに適用できます。
3. **「OK」**をクリックし、グリッドをリフレッシュします。

例 8-4 データ・パースペクティブの 実例

缶と瓶で販売されるコーラの例では、管理者がコーラのパッケージ・タイプに次の属性を指定して、コーラが 1 年間にテキサスとカリフォルニアの市場でどのように販売されたかを反映しました:

- 缶: カリフォルニア、1 月-12 月
- 缶: テキサス、7 月-12 月
- 瓶: テキサス、1 月-6 月

図 1 に、「現実」パースペクティブを 示します。カリフォルニアとテキサスについて示されているデータは、年全体のデータです。瓶はカリフォルニアでは販売されていないため、データは戻されません(ここでは`#Meaningless` で示されています)。

図 8-24 データ・パースペクティブ : 現実

	A	B	C	D
1		California	Texas	Market
2	Bottle	#Meaningless	405	405
3	Can	1587	234	1821
4	Pkg Type	1587	639	2226

図 2 に、「最後」パースペクティブを 示し、カリフォルニアとテキサスの缶のデータを表示します。瓶はテキサスでは 1 月から 6 月にのみ販売されているため、瓶のデータはありません。

図 8-25 データ・パースペクティブ : 最後

	A	B	C	D
1		California	Texas	Market
2	Bottle	#Meaningless	#Meaningless	#Meaningless
3	Can	1587	234	1821
4	Pkg Type	1587	234	1821

図 3 に、「開始」パースペクティブを 示し、1 月のデータを表示します。1 月にテキサスでは瓶が販売されていますが、缶は販売されていないため、瓶のデータのみ表示されています。1 月にカリフォルニアでは缶が販売され、瓶は販売されていないため、瓶のデータのみ表示されています。

図 8-26 データ・パースペクティブ : 開始

	A	B	C	D
1		California	Texas	Market
2	Bottle	#Meaningless	639	639
3	Can	1587	#Meaningless	1587
4	Pkg Type	1587	639	2226

スマート・リストの操作

スマート・リストと呼ばれるカスタム・ドロップダウン選択リストを使用してデータを入力できます。スマート・リストは、フォームおよびアド・ホック・グリッドのデータ・セルからアクセスします。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Planning

スマート・リストは、フォームまたはアド・ホック・グリッドでは英数字のテキストによる説明として表示されるドロップダウン選択リストですが、データベースには数値として保管されます。たとえば、報告間隔用の整数スマート・リストに 1 から 5 の値が含まれ、それぞれ年(1)、四半期(2)、月(3)、日(4)、時間(5)を表すものとします。フォームまたはアド・ホック・グリッドで表示される値は、文字列による年、四半期、月、日、時間です。フォームまたはアド・ホック・グリッドで値を選択し、データを送信すると、関連する数値がデータベースに保管されます。これは、報告間隔の各期間に関連する数値を覚えておく必要がないことを意味します。

Oracle Smart View for Office で、フォームまたはアド・ホック・グリッド・セルのカスタム・ドロップダウン・リストからスマート・リストにアクセスします。メンバーがスマート・リストに関連付けられているセルをクリックし、セルの右側に直接表示される下向き矢印をクリックすると、データを入力するかわりに、ドロップダウン・リストのオプションを選択します。実際に、スマート・リストが表示されるセルへの入力はできません。

たとえば、データ・フォームに「事由」というスマート・リストがあり、研究、顧客の意見、展開という値を選択できるとします。「理由」という名前の顧客セル(メンバーが「事由」スマ

ート・リストに関連付けられている)をクリックすると、下向き矢印が表示されます。下向き矢印をクリックすると、次の選択肢を含むドロップダウン・リストが開きます:

- 研究
- 顧客の意見
- 展開

セルの値として、スマート・リストのオプションを 1 つ選択します。

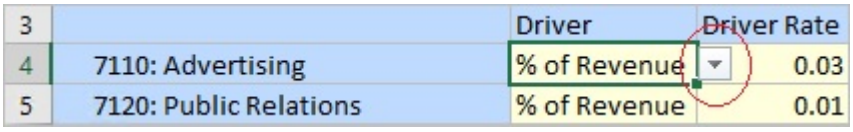
スマート・リストの値をフォームまたはアド・ホック・グリッド・セルに入力するには:

1. Excel でフォームまたはアド・ホック・グリッドを開きます。

   Excel でフォームを開くまたはアド・ホック分析の開始を参照してください。

2. フォームまたはアド・ホック・グリッドで、スマート・リストのオプションを選択するデータ・セル内をクリックします。

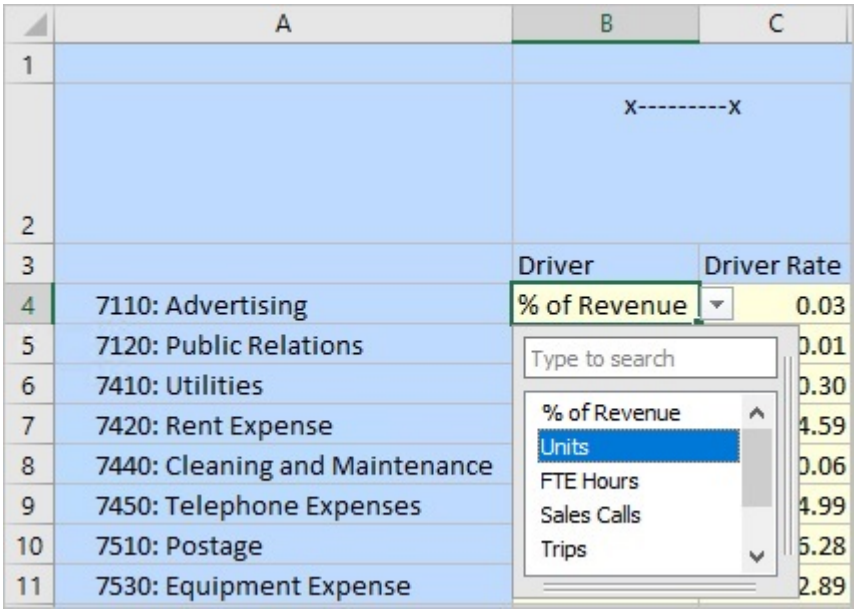
   セルの右側に下向き矢印が表示されます。次に例を示します:



> **Note:**
>
> スマート・リストのドロップダウン・リストが表示されるのは、メンバーがスマート・リストに関連付けられているセルのみです。

3. セルの下矢印をクリックします。

   選択可能なオプションを含むスマート・リスト・ドロップダウン・リストが開きます。次に例を示します:



4. スマート・リストからオプションを選択します。

   選択したオプションがデータ・セルに入力されます。

   値を選択すると、そのセルはダーティになり、データの送信準備が整います。次に例を示します:



3		Driver	Driver Rate
4	7110: Advertising	Units	0.03
5	7120: Public Relations	% of Revenue	0.01

スマート・リストの操作のガイドライン

- スマート・リストを含むセルにスマート・リストの値を手動で入力し、フォームとアド・ホック・グリッドの両方に対して送信を実行できます。ただし、スマート・リストに誤った値を入力すると、入力した値は無効です。というエラー・メッセージが表示されます。
- スマート・リストが表示されるフォームで、新しいデータを入力して送信するために行内のすべての値を削除すると、その行のスマート・リストは空になります。

  回避策: 行の値を削除した後、**「送信」**を実行(つまり、`#Missing` 値を送信)するか、または**「リフレッシュ」**を実行します。スマート・リストのドロップダウン矢印が適切に表示されます。これで、同じ行に新しい値を入力できます。
- スマート・リストは HsGetValue および HsSetValue 関数でサポートされています。ただし、関数を使用する場合、スマート・リスト・ドロップダウン・オプションは表示されません。かわりに、次のようになります:
  - HsGetValue - スマート・リスト値を文字列値として取得します。
  - HsSetValue - 値を文字列値として送信します。
- フォームおよびアド・ホック・グリッドでスマート・リストを操作しているときに、スマート・リストのセルで**[Delete]**キーを押すと、セルの値はクリアされますが、スマート・リストはセルに保持されます。

> **Note:**
>
> フリーフォーム状態のアド・ホック・シートを操作している場合は、**[Delete]**キーを押すと、スマート・リストの値は保持されません。回避策として、シートをリフレッシュして、スマート・リストの値をドロップダウン・リストに戻す必要があります。

- Smart View でスマート・リストを使用するには、管理者がスマート・リストを事前に設定して有効化しておく必要があります。フォームおよびアド・ホック・グリッドに対するスマート・リストの有効化については、該当する管理ガイドでスマート・リストの情報を参照してください。次に例を示します:

  Planning の管理、その他の管理タスクへのアクセスに関する章、スマート・リストの管理

  Oracle Hyperion Planning 管理者ガイド、Planning アプリケーション管理の操作に関する章、スマート・リスト、UDA およびメンバー式の使用を参照

ドリルスルー・レポートの操作

管理者により事前定義されたドリルスルー・レポートを、ユーザーは指定された個々のデータ・セルから使用できます。

次も参照:

- ドリルスルー・レポート・ガイドライン
  このトピックでは、Oracle Smart View for Office でドリルスルー・レポートを使用するためのガイドラインについて説明します。
- ドリルスルー起動オプションの設定
  ドリルスルー起動プリファレンス(Web ページへのドリルスルーまたは Excel シートへのドリルスルー)を指定します。
- ドリルスルー・レポートの起動方法のデフォルト設定および無効化
  Smart View からドリルスルー・レポートを起動する方法をデフォルトとして設定したり、ユーザーに対して無効化できます。
- ドリルスルー・レポートへのアクセス
  データ・ソースの接続に応じて、Web ページまたは Excel シートにドリルスルーできます。
- ソース・データへのドリルスルー
  Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management のデータ・プロバイダでは、Web ページまたは Excel シートにドリル・スルーできます。
- ドリルスルー・レポートのソース POV の表示
  「シート情報」ダイアログにアクセスして、ドリルスルー・レポートのソース POV に関する情報を表示します。

ドリルスルー・レポート・ガイドライン

このトピックでは、Oracle Smart View for Office でドリルスルー・レポートを使用するためのガイドラインについて説明します。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Planning、Planning モジュール、Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Tax Reporting

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、 Oracle Hyperion Financial Management、Oracle Hyperion Planning

Smart View から、次のようにデータベースの詳細データにドリルスルーできます:

- Web ページへのドリルスルーを開始する前に、デフォルトのブラウザを開いてターゲット Web アプリケーションにログインします。たとえば、Planning を起動し、ログインします。Smart View にログインする前に、ブラウザでアプリケーションが実行されている必要があります。
- Oracle Hyperion Planning、Financial Management、またはサポートされている Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management データ・ソース: アプリケーションから Oracle Hyperion Financial Data Quality Management, Enterprise Edition または Oracle Hyperion Financial Data Quality Management データ・ソースの詳細データにドリル・スルーできます。
- サポートされている Cloud EPM データ・ソース: Smart View で、**「ドリルスルー起動」**オプションを使用して、ドリルスルー・レポートをブラウザまたは新しい Excel シートで起

動することを選択できます。または実行時にその選択を求められます。**ドリルスルー起動**オプションは、**「オプション」**ダイアログの**「詳細」**タブにあります。詳細は、ドリルスルー起動オプションの設定を参照してください。

管理者: ドリルスルーの構成の詳細は、これらのトピックを *データ統合データ統合の管理*で参照してください:

- 直接ドリルの使用
- データをエクスポートするためのクイック・モード

- Oracle Hyperion Planning データ・ソース: ドリルスルー・レポートは Web ブラウザでのみ起動でき、新しい Excel シートでは起動できません。**「オプション」**ダイアログの**「詳細」**タブの**ドリルスルー起動**で、**Web ブラウザ内**オプションを必ず選択してください。詳細は、ドリルスルー起動オプションの設定を参照してください。

  サービス管理者または `properties.xml` ファイルの編集を詳しく把握しているユーザーは、Smart View の `properties.xml` ファイルにある `disableDTLaunchType` プロパティを使用して、ドリルスルー・レポートの起動を Web ブラウザにデフォルト設定できます。詳細は、ドリルスルー・レポートの起動方法のデフォルト設定および無効化を参照してください。

- Essbase クラウド:
  - リレーショナル・データベースまたは URL にドリルスルーできます。
  - Excel シートでリレーショナル・データにドリルスルーために複数のセルを選択できます。
- Essbase オンプレミス: Oracle General Ledger、リレーショナル・データベースまたは URL にドリルスルーできます。

  Essbase オンプレミス管理者:
  - Oracle Essbase Administration Services で作成したアプリケーションの場合、ユーザーは Oracle General Ledger にドリルスルーできます。
  - Oracle Essbase Studio で作成したアプリケーションの場合、ユーザーはリレーショナル・データベースにドリルスルーできます。ドリルスルー・レポートにアクセスするためのユーザー名およびパスワードを要求できます。URL へのドリルスルーも構成できます。

ドリルスルー・レポートを操作する際は次のガイドラインを考慮してください。

- 1 つのセルを複数のドリルスルー・レポートに関連付けることができます。
- ドリルスルー・レポートを含むセルは、グリッドでセル・スタイルごとに示すことができます(セルのスタイルを参照してください)。
- ドリルスルー・レポートに表示されるデータは動的です。
- ドリルスルーには別名を使用できません。メンバー名を使用する必要があります。

> **ノート:**
>
> - Mozilla Firefox、Google Chrome および Microsoft Edge では、ドリルスルーのためのブラウザ固有のアドオンが必要です。これらのブラウザ・アドオンをインストールするには、*Oracle Smart View for Office インストレーションおよび構成ガイド*の「Smart View のインストール」の章の「ブラウザ・アドオンのインストール」トピックの手順に従ってください。
> - Google Chrome でドリルスルーが失敗した場合、サービス管理者は Smart View を許可リストに追加することができます。Chrome を使用したドリルスルー: ネイティブ・メッセージングのブロックリストと許可リストを参照してください。

ドリルスルー起動オプションの設定

ドリルスルー起動プリファレンス(Web ページへのドリルスルーまたは Excel シートへのドリルスルー)を指定します。

データ・ソース・タイプ: Planning、Planning モジュール、Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Tax Reporting

サポートされている Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management サービスに接続されており、データ統合を使用して、ドリルスルー・レポートのデータをロードしている場合、レポートをブラウザまたは新しい Excel シートで起動できます。

「オプション」ダイアログにある**ドリルスルー起動**オプションを使用して、起動プリファレンスを指定します。**「詳細」**タブ

ドリルスルー起動プリファレンスを指定するには:

1. Smart View のリボンで、**「オプション」**、**「詳細」**の順に選択します。
2. **ドリルスルー起動**の場合、優先起動方法を選択します。
   - **Web ブラウザ内** - 常にブラウザで起動します

     > **ノート:**
     >
     > Oracle Hyperion Planning のドリルスルー・レポートは Web ブラウザでのみ起動でき、新しい Excel シートでは起動できないため、Oracle Hyperion Planning データ・ソースに対しては必ずこのオプションを選択してください。このオプションは、管理者が設定した構成に基づいて、デフォルトで選択された状態で表示され、編集できない場合があります。

   - **新規シート内** - 常に新しい Excel シートで起動します
   - **ターゲットを選択するプロンプトを表示** - ブラウザ起動または Excel シート起動を選択するプロンプトを実行時に表示します
3. **「OK」**をクリックします。

> **ノート:**
>
> **「詳細」**オプションはグローバル・オプションです。グローバル・オプションの変更は、すべての既存および新規のワークシートやワークブックのデフォルト設定となるため、これらのグローバル・オプションで、**「デフォルト・オプションとして保存」**または**すべてのワークシートに適用**を使用する必要はありません。

4. ドリルスルー・レポートへのアクセスに記載されている説明に従い、ドリルスルー・レポートを起動します

ドリルスルー・レポートの起動方法のデフォルト設定および無効化

Smart View からドリルスルー・レポートを起動する方法をデフォルトとして設定したり、ユーザーに対して無効化できます。

データ・ソース・タイプ: Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Planning、Planning モジュール、Tax Reporting

> **Note:**
>
> このトピックのタスクは、`<Smart View Install>/cfg` フォルダ (`C:\Oracle\SmartView\cfg` など)にある `properties.xml` ファイルの編集を詳しく把握しているサービス管理者またはユーザーを対象としています。

ドリルスルー・レポートは、Web ブラウザまたは新しい Excel シートのいずれかで起動できます。Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management ユーザーは、**「オプション」**ダイアログの**「詳細」**タブの**「ドリルスルー起動」**オプションで優先方法を選択できます。

ただし、オンプレミスの Oracle Hyperion Planning データ・ソースの場合、ドリルスルー・レポートは Web ブラウザでのみ起動できます。

Smart View の `properties.xml` ファイルにある `disableDTLaunchType` プロパティを使用して、**「詳細」**タブでユーザーの**「ドリルスルー起動」**オプションの選択を無効化し、サポートされている Cloud EPM データ・ソースの Web ブラウザにデフォルト設定できます。

ドリルスルー起動オプションをデフォルト設定または無効化するには:

1. Smart View インストールの `SmartView\cfg` フォルダに移動します。
2. 元の `properties.xml` ファイルのバックアップ・コピーを作成します。
3. 編集のために `properties.xml` を開きます。
4. 次のエントリを探します:

```
<disableDTLaunchType>0</disableDTLaunchType>
```

5. `disableDTLaunchType` の値を `1` に変更して、Web ブラウザをドリルスルー・レポートを起動するデフォルト方法として設定します

   ```
   <disableDTLaunchType>1</disableDTLaunchType>
   ```

6. 更新されたファイルを保存します。
7. Excel アプリケーションを再起動します。

ドリルスルー・レポートへのアクセス

データ・ソースの接続に応じて、Web ページまたは Excel シートにドリルスルーできます。

ドリルスルー・レポートにアクセスするには:

1. 開始する前に: Web ページへのドリルスルーを実行する場合は、最初にデフォルトのブラウザを開いてターゲット Web アプリケーションにログインします。

   たとえば、Planning を起動し、ログインします。Smart View にログインする前に、ブラウザでアプリケーションが実行されている必要があります。

2. ドリルスルー・レポートに関連付けられているデータ・セルを選択します。

   Oracle Essbase クラウド: Excel シートでリレーショナル・データにドリルスルーするために複数のセルを選択できます。

   > **ヒント:**
   >
   > セルの上にマウスを置いたときに使用可能なドリルスルー・レポートのリストを表示する場合は、**「オプション」**ダイアログ・ボックスの**「詳細」**ページで**「ドリル・スルー・レポートのツールチップの表示」**を選択します。

3. データ・ソースのリボンから、**「ドリルスルー」**を選択します。
4. セルに関連付けられているドリルスルー・レポートが複数ある場合は、リストからレポートを選択し、**「起動」**をクリックします。

   1 つのドリルスルー・レポートのみがセルに関連付けられている場合は、ドリルスルー・レポートが直接起動します。

   > **ノート:**
   >
   > **Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management:**
   >
   > - サポートされている Cloud EPM サービスに接続されており、データ統合を使用してドリルスルー・レポートのデータをロードしている場合、レポートはドリルスルー起動オプションの設定での選択に従って起動されます。
   > - ドリルスルー・セルを初めてクリックしてブラウザが起動されたとき、クラウド・サービスにログインすることを要求され、ドリルスルー・レポートが予期したとおりに表示されないことがあります。Oracle Smart View for Office のシートに戻り、もう一度ドリルスルー・セルをクリックしてドリルスルー・レポートを起動できます。または、このエラーを回避するには、Smart View からドリルスルーを起動する前に、最初にブラウザでビジネス・プロセスにサインインします。

> **ノート:**
>
> **Oracle Essbase オンプレミスのみ:**
>
> 必要に応じて、ユーザー名とパスワードを入力します。「ユーザー名」および「パスワード」フィールドは、ドリルスルー・レポートへのアクセスに必要な場合のみ表示されます。ユーザー名およびパスワードが不要な場合、これらのフィールドは表示されません。

ソース・データへのドリルスルー

Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management のデータ・プロバイダでは、Web ページまたは Excel シートにドリル・スルーできます。

Cloud EPM データ・プロバイダを使用しているときに、Oracle Smart View for Office からドリル・スルーを実行してドリル・データを表示する場合、ソース・データを表示する 2 つの方法がサポートされるようになりました:

- ハイパーリンクを使用してソース・ランディング Web ページにドリルスルーします。この場合、ソース・ドリルを開始すると、デフォルトのブラウザにソース・ランディング・ページが起動します。
- EPM 統合エージェント問合せを使用してソース・データにドリルスルーします。この場合、ソース・データの問合せが実行されてデータが Smart View の新しい Excel シートに表示されます。

このトピックでは、ソース・データへのドリルスルーおよび Excel での表示に焦点を当てます。

このドリルスルー・オプションが有効になっている場合は、最初のドリルスルー操作でメイン・ワークシートからステージング・シートに移動します。ステージング・シートから、選択したセルのソース・データにデータ・セルをさらにドリルダウンできます。ソースへのドリルスルーは、ステージング・シートの任意のディメンション/メンバーの組合せのデータ・セルで使用できます。ソース・シートから、ステージング・シートに戻り、次にメイン・シートに戻ることができます。

> **ノート:**
>
> サービス管理者: この機能を使用するには、最初にソース・データベースで SQL 問合せを実行し、データ統合内のポップウィンドウに結果を表示する必要があります。詳細は、*データ統合データ統合の管理*のランディング・ページなしでのソース・システムへのドリルダウンの作成を参照してください。

ソース・データにドリルスルーするには:

1. 開始する前に、次のタスクを実行します:
   - **「オプション」**ダイアログの**「詳細」**タブで、**「ドリルスルー起動」**オプションを**「新規シート内」**または**「ターゲットを選択するプロンプトを表示」**に設定します。

     このオプションの詳細は、ドリルスルー起動オプションの設定を参照してください。
   - デフォルトのブラウザを開いてターゲット Web アプリケーションにログインします。

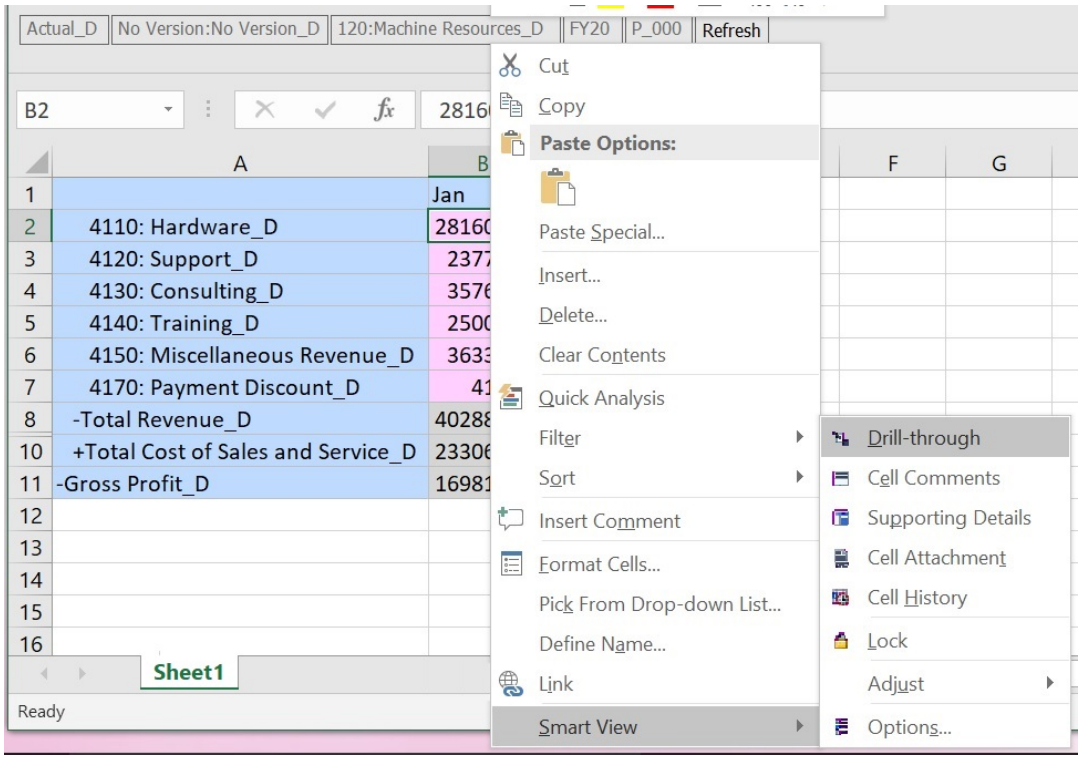
たとえば、Planning を起動し、ログインします。Smart View にログインする前に、ブラウザでアプリケーションが実行されている必要があります。

2. ドリルスルー・セルを右クリックし、コンテキスト・メニューから**「Smart View」**、**「ドリルスルー」**の順に選択します。

   プロバイダ・リボンの**「ドリルスルー」**オプションをクリックすることもできます。

   ドリルスルー・オプションの入力を求められた場合は、**「新規シートとして開く」**を選択します。

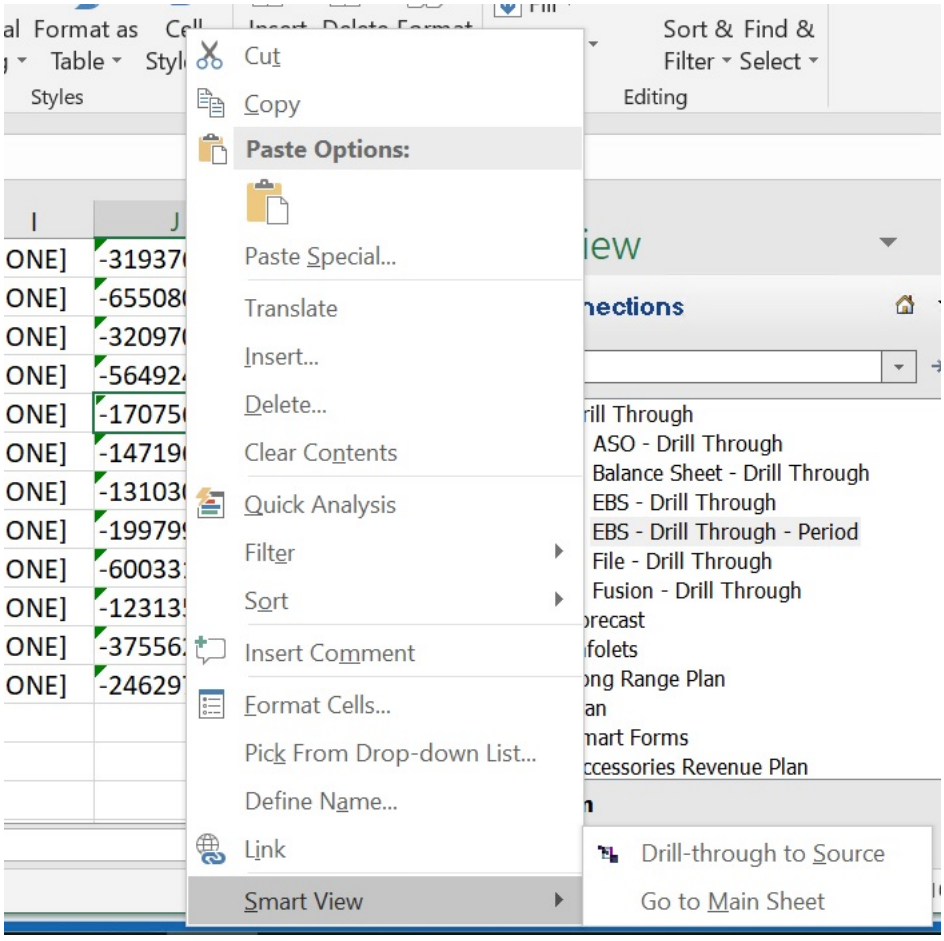
   次の例では、セル・スタイルを使用して、フォーム内のドリルスルー・セルをコールアウトします。ドリルスルー・セルはピンク色です。ドリルスルー・セルを右クリックし、コンテキスト・メニューから**「Smart View」**を選択してサブメニューを表示します。このサブメニューで**「ドリルスルー」**を選択します。



   このアクションによりステージング・シートが起動します。

3. ステージング・シートで、ソース・データにドリルスルーするには、セルを右クリックして**「Smart View」**、**「ソースへのドリルスルー」**の順に選択します。

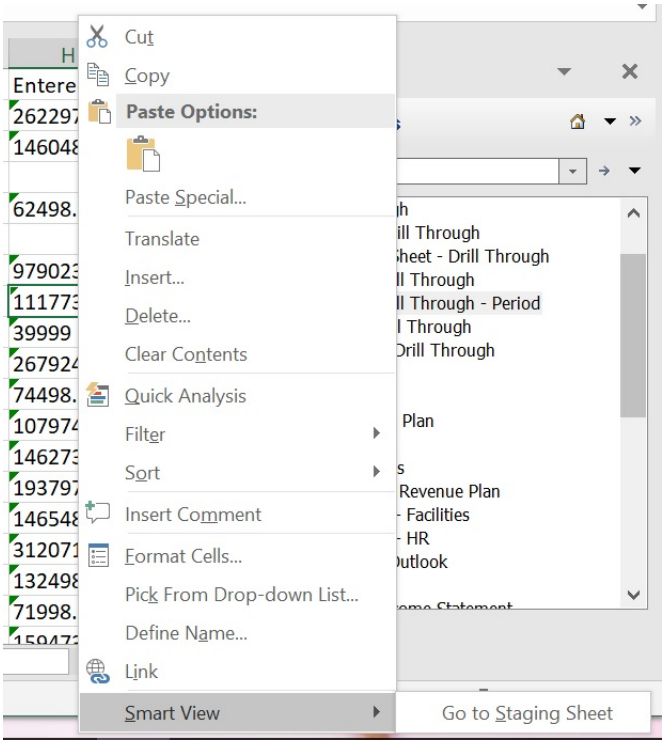
   「ソースへのドリルスルー」は、ステージング・シートの任意のディメンション/メンバーの組合せのデータ・セルで使用できます。



必要に応じて、ステージング・シートの**「Smart View」**コンテキスト・メニューから**「メイン・シートに移動」**を選択して、開始した元のシートに戻ることができます。

4. **オプション:** ソース・シートで、ステージング・シートに戻るには、セルを右クリックして**「Smart View」**、**「ステージング・シートに移動」**の順に選択します。

> **ノート:**
>
> - このナビゲーションは、ステージング・シートまたはメイン・シートの名前を変更した場合も機能します。
> - メイン・シートまたはステージング・シートを再利用して「Smart View」アクション(フォームを開く、新しいアド・ホック・グリッドを開始するなど)を実行する場合は、**「メイン・シートに移動」**および**「ステージング・シートに移動」**コマンドのリンクが引き続き維持されることに注意してください。これらのリンクに依存していて、メイン・シートまたはステージング・シートのコンテンツが変更された場合は、ドリルスルー情報がないセルまたはドリルスルー情報が該当しないセルに移動する可能性があります。



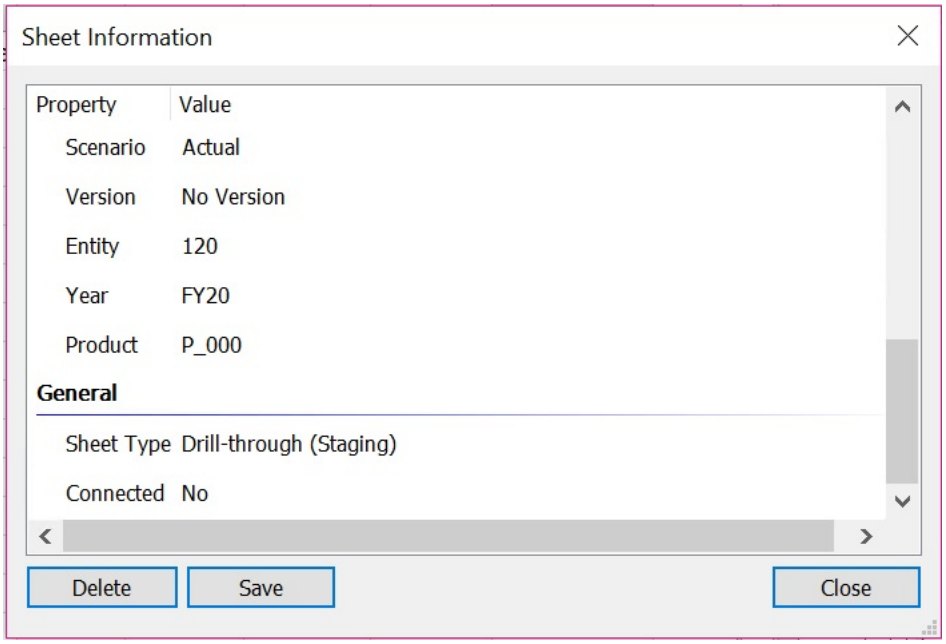
5. **オプション:** ステージング・シートで、メイン・シートに戻るには、セルを右クリックして**「Smart View」**、**「メイン・シートに移動」**の順に選択します。

   ステップ 3 の図のコンテキスト・メニュー・オプションを参照してください

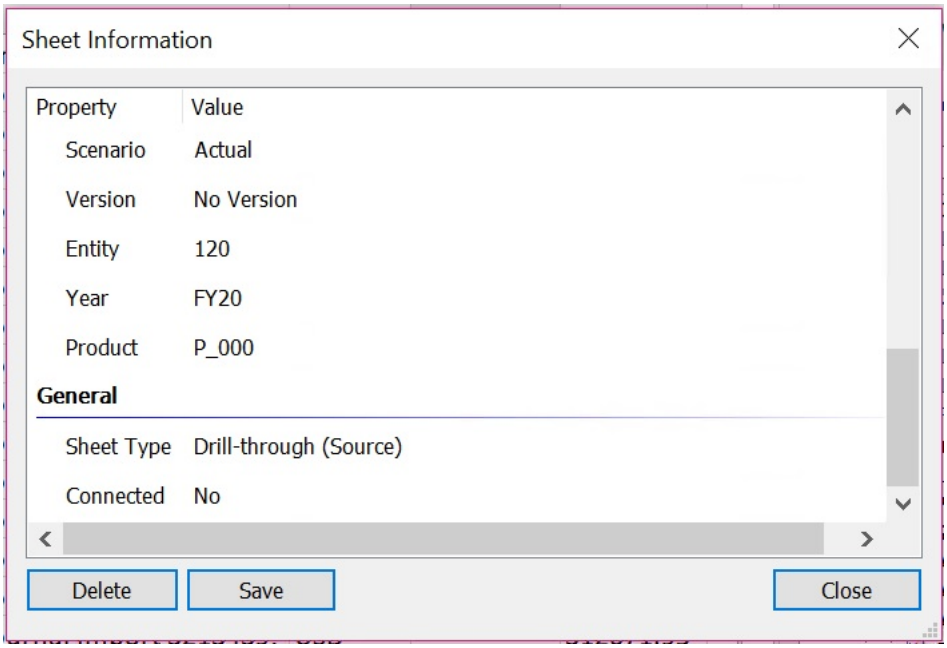
6. **オプション:** ワークシート、ステージングまたはソースの**「シート・タイプ」**を表示するには、「Smart View」リボンを選択し、**「シート情報」**を選択して**「シート情報」**ダイアログを表示します。

   例:

   ステージング・シート:



ソース・シート:



ドリルスルー・レポートのソース POV の表示

「シート情報」ダイアログにアクセスして、ドリルスルー・レポートのソース POV に関する情報を表示します。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Planning、Planning モジュール、Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Tax Reporting

「Smart View」リボンの**「シート情報」**コマンドを使用して、ドリルスルー・レポートの起動元のセル交差とセルの POV の詳細を表示します。

ドリルスルー・レポートの起動セルのソース POV を表示するには:

1. シートへのドリルスルー起動を有効にしたことを確認します。

   「オプション」ダイアログの**「詳細」**タブで、**「新規シート内」**または**「ターゲットを選択するよう求める」**を選択します。詳細は、ドリルスルー起動オプションの設定を参照してください。

2. ドリルスルー・レポートへのアクセスの説明のように、新規シートへのドリルスルー・レポートを起動します。

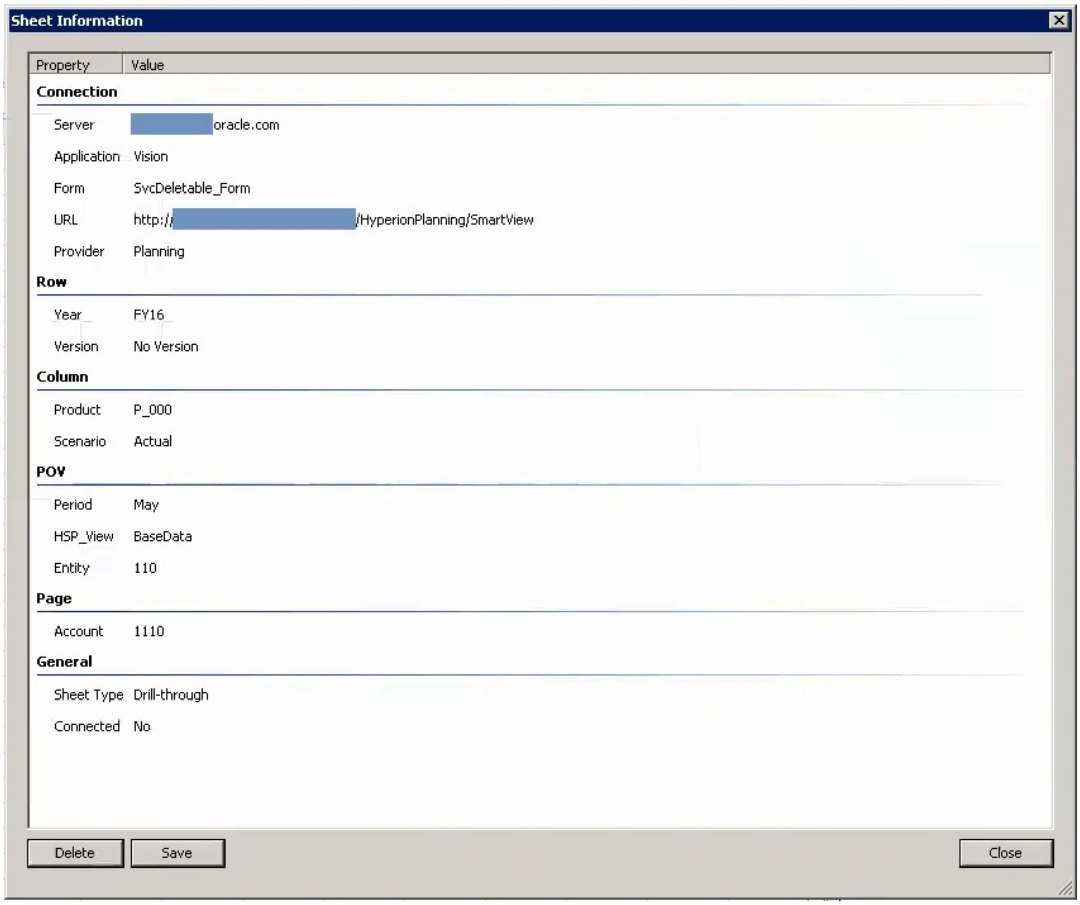
3. 「Smart View」リボンを選択し、**「シート情報」**を選択します。

   ドリルスルー起動セルの交差の POV が**「シート情報」**ダイアログ・ボックスに表示されます。図 1 に示す POV の例では、セル交差に関連する次の情報カテゴリが表示されます。

   - 行メンバー
   - 列メンバー
   - POV メンバー
   - ページ・メンバー

   ドリルスルー・シートで作業していることを示す**「全般」**セクションも表示されます。

図 8-27 ドリルスルー起動セルの POV を表示した「シート情報」ダイアログ



> **ノート:**
>
> Oracle Smart View for Office のアド・ホック・モードでドリルスルーが起動されると、**「シート情報」**ダイアログの「POV」セクションに、アド・ホック・シートで選択した別名表に対応するメンバー名が表示されます。

4. **オプション: 「保存」**をクリックして、ワークブックの別のシートに POV 情報を保存します。

> **ヒント:**
>
> ベスト・プラクティスとして、新しいシートから POV 情報をコピーして、独自の参照用に永続ファイルに貼り付けます。

リンク・レポート・オブジェクトの操作

*リンク・レポート・オブジェクト*とは、Oracle Essbase データベース内のデータ・セルにリンクされるセル・ノート、外部ファイルまたは URL のことであり、Oracle Smart View for Office ユーザーが Excel で取得できます。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Essbase

セルのスタイルを設定して、リンク・レポート・オブジェクトに関連付けられているセルを識別できます。セルのスタイルを参照してください。

関連項目:

- データ・セルへのリンク・レポート・オブジェクトの添付
- データ・セルからのリンク・レポート・オブジェクトの起動
- リンク・パーティションの起動

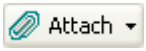
データ・セルへのリンク・レポート・オブジェクトの添付

1 つまたは複数のリンク・レポート・オブジェクトをデータ・セルに添付できます。

リンク・レポート・オブジェクトをデータ・セルに添付するには:

1. 接続済のワークシートで作業していることを確認します。

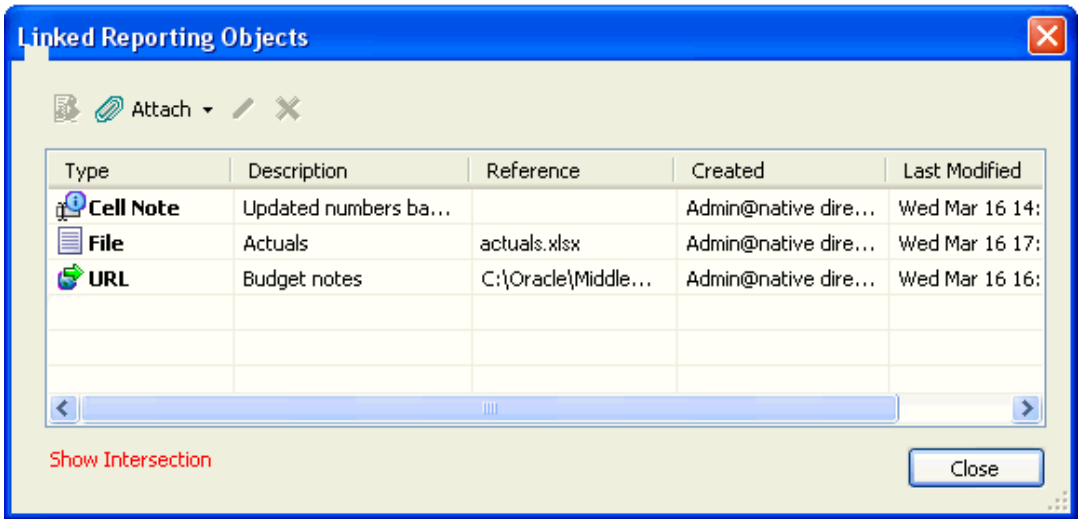
> **ノート:**
>
> 保存済のアド・ホック・シートまたはデータがまだ含まれていないグリッド・レイアウト(フリーフォーム・グリッドなど)で作業している場合、最初にシートをリフレッシュする必要はありません。データ・プロバイダに接続していることを確認し、Smart View パネルで正しいデータベースを右クリックして**「このワークシートのアクティブ接続の設定」**を選択します。

2. データ・セルを選択します。
3. 「Essbase」リボンで、**「リンク・オブジェクト」**を選択します。
4. **「リンク・レポート・オブジェクト」**から

をクリックして、次のいずれかを選択します:
   - **「セル・ノート」**を選択すると、データ・セルに注釈を添付できます
   - **「ファイル」**を選択すると、データ・セルに外部ファイルを添付できます
   - **「URL」**を選択すると、データ・セルに URL を添付できます

   選択内容に対応するダイアログ・ボックスが表示されます。
5. 次の情報を入力します:
   - **セル・ノート**: ノートのテキストを入力します。**「閉じる」**をクリックします。ノートの最初のいくつかの単語が**「リンク・レポート・オブジェクト」**リストの**「説明」**列に表示されます。
   - **ファイル**: **「参照」**ボタンを使用して、データ・セルに添付するファイルに移動します。ファイルの簡単な説明を追加できます。**「閉じる」**をクリックします。
   - **URL**: **「URL」**に、Web サイト、ネットワークまたはローカル・ディレクトリ、ネットワークまたはローカル・ディレクトリ内のドキュメントの URL を入力します。URL の簡単な説明を追加できます。**「閉じる」**をクリックします。
6. 必要に応じて手順を繰り返して、他のリンク・レポート・オブジェクトを添付します。

   作成したオブジェクトが、次に示すように**「リンク・レポート・オブジェクト」**リストに表示されます:



7. グリッドをリフレッシュして、セル・スタイル(指定されている場合)をセルに適用します。

リンク・レポート・オブジェクトを編集または削除するには、**「編集」**ボタンまたは**「削除」**ボタンを使用します。オブジェクトを除去すると、データベースから除去されます。

関連トピック:

- リンク・レポート・オブジェクトの操作

- データ・セルからのリンク・レポート・オブジェクトの起動

データ・セルからのリンク・レポート・オブジェクトの起動

リンク・レポート・オブジェクトをデータ・セルから起動するには:

1. 接続済のワークシートで作業していることを確認します。

> **ノート:**
>
> 保存済のアド・ホック・シートまたはデータがまだ含まれていないグリッド・レイアウト(フリーフォーム・グリッドなど)で作業している場合、最初にシートをリフレッシュする必要はありません。データ・プロバイダに接続していることを確認し、Smart View パネルで正しいデータベースを右クリックして**「このワークシートのアクティブ接続の設定」**を選択します。

2. 起動するリンク・オブジェクトに関連付けられているデータ・セルを選択します。
3. 「Essbase」リボンで、**「リンク・オブジェクト」**を選択し、**「リンク・レポート・オブジェクト」**を表示します。
4. **「リンク・レポート・オブジェクト」**から、起動するリンク・オブジェクトを選択します。
5. をクリックします。リンク・レポート・オブジェクトが次のように起動します:
   - セル・ノートが**「セル・ノート」**ダイアログ・ボックスに表示されます。
   - ファイルが開かれます。
   - URL オブジェクトがデフォルトの Web ブラウザに開かれます。
   - リンク・パーティション - リンク・パーティションの起動を参照してください。

関連トピック:

- リンク・レポート・オブジェクトの操作
- データ・セルへのリンク・レポート・オブジェクトの添付

リンク・パーティションの起動

*リンク・パーティション*は、データ・セルによって 2 つのデータベースに接続します。

リンク・パーティションに関連付けられているデータ・セルを使用して、現在のグリッドに接続されているデータベースから 2 つめのデータベースに移動できます。2 つのデータベースはディメンションが異なる可能性があるため、データが異なるコンテキストで表示されることがあります。リンク・パーティションを起動すると、リンクされたデータベースのディメンションを表示する新しいスプレッドシートが開きます。ここから、リンクされたデータベースのディメンションにドリル・ダウンできます。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

リンク・パーティションを起動するには:

1. リンク・パーティションに関連付けられているデータ・セルを選択します。

2. Essbase のリボンから、**「リンク・オブジェクト」**を選択します。
3. **「リンク・レポート・オブジェクト」**から、リンク・パーティションを選択します(リストに**「リンク」**と表示されています)。
4. をクリックします。

   リンク・パーティションが新しいスプレッドシートで起動します。このスプレッドシートから、リンクされたデータベースのデータにドリル・ダウンできます。

セル・コメント

データ・セルにコメントを追加できます。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Planning、Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Tax Reporting

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Financial Management、Oracle Hyperion Planning

関連トピック:

Cloud EPM および Oracle Hyperion Planning でのセル・コメントの追加(Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management または Oracle Hyperion Planning)

Financial Management でのセル・コメントの追加

Oracle Essbase の場合、Essbase シートのコメントおよび不明メンバーの検出を参照してください。

Cloud EPM および Oracle Hyperion Planning でのセル・コメントの追加

1 つのデータ・セルに 1 つ以上のコメントを追加できます。各データ・セルに、複数のユーザーからのコメントを含めることができます。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Planning、Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Tax Reporting

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Planning

リリース 11.1.2.5.620 以降、Oracle Smart View for Office は Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management および Oracle Hyperion Planning に設定された文字制限に従います。管理者から割り当てられた権限レベルに応じて、データ・セルで次のいずれかの操作を実行できます:

- コメントを追加します。
- 自分や他のユーザーが追加したコメントを表示します。
- 入力したコメントを削除します。他のユーザーによって追加されたコメントは削除できません。

数値コメントを追加することもできます。つまり、コメントとして数字を入力できます。リリース 24.200 以降、標準モードのアド・ホック・グリッドを含むワークシートに入力された数値コメントは、Smart View でワークシートを更新する際に保持されます。これは、複数のアド・ホック・グリッドを持つワークシートにも適用されます。数値コメントは、Smart View の通常

のテキスト・コメントとまったく同じに保存され、処理されます。コメント内の数字の前に等号(=)または一重引用符(')を追加する回避策は不要になりました。

> **ノート:**
>
> - コメントを含むセルは、セル・スタイルに関連付けることができます。セルのスタイルを参照してください。
> - フォーム 2.0 では、式セルへのコメントの追加はサポートされていません。

ビデオ

目的	このビデオを見る
セル・コメントなど、Smart View の基本的な機能について学習します。	Oracle Planning and Budgeting Cloud による Smart View でのプラン・データの入力および保存

データ・セルにコメントを追加するには:

1. アド・ホック・グリッドで、1 つのデータ・セルまたはデータ・セルの範囲を選択します。

   データ・セルの範囲を選択するには、**[Shift]**キーを使用します。セル範囲の選択に、**[Ctrl]**キーを使用しないでください。

2. プロバイダ・リボンまたはプロバイダ・アドホック・リボンから、**「セルのアクション」**、**「コメント」**の順に選択します。

3. **「コメント」**で、をクリックします。

4. ステップ 1 でセルの範囲を選択した場合は、一度に 1 つのセルに対するコメントを入力するか、選択したすべてのセルにコメントを適用できます。
   - 1 つのセルのコメントを入力するには、ドロップダウン・メニューからセルを選択します。
   - 選択したすべてのセルに対するコメントを入力するには、**「選択したセルすべてに適用」**を選択します。

5. 右側のフィールドにコメントを入力します。コメントを書式設定する場合は、HTML タグを使用します。

6. をクリックしてコメントを保存します。

   コメントはコメント・フィールドの左側にあるコメントのリストに表示されます。このリストには、すべてのユーザーが入力したコメントがあります。

7. **「OK」**をクリックします。

8. **オプション:** コメントを削除するには、をクリックします。自分が入力したコメントのみを削除できます。

Financial Management でのセル・コメントの追加

アド・ホック・グリッド、フォーム、スマート・スライスおよびクエリー・デザイナのセルには、複数のコメントを含めることができます。セル内のコメントは、Oracle Hyperion Financial Management で定義されたラベルによって区別されます。Oracle Smart View for Office でラベルを作成できません。

これらの定義済みラベルから選択し、Smart View に追加して表示します。ラベルを編集または削除することはできませんが、コメントは編集および削除できます。

セル・コメントの表示および追加

Financial Management でセル・コメントの表示または追加を行うには:

1. グリッドのセルを選択します。
2. リボンから、**「セル・コメント」**を選択します。

   セルに現在関連付けられているコメントが、「セル・コメント」リストに表示されます。
3. コメントを追加するには、**「セル・コメント」**でドロップダウン・メニューからラベルを選択します。
4. をクリックします。

   選択したセル・テキスト・ラベルがラベルのリストに追加されます。
5. **「セル・テキスト」**の下にあるフィールドをクリックし、コメントを追加します。
6. 必要に応じて繰り返して、他のラベルを追加します。
7. **「OK」**をクリックします。

   リストのラベルが、新たにセルに関連付けられます。

> **ノート:**
>
> パイプ文字(|)およびカレット(^)を含むセルを送信すると、送信によってすべてのパイプ文字が削除され、カレットの後に"c"が追加されます。

セル・コメントの編集および削除

Financial Management でセル・コメントを編集または削除するには:

1. グリッドのセルを選択します。
2. HFM のリボンから、**「セル・コメント」**を選択します。
3. **「セル・コメント」**からリスト内のコメントを選択して、次のいずれかを実行します:
   - コメントを編集するには、を選択します。編集後に、をクリックします。
   - セルからコメントを削除するには、**「削除」**ボタンを選択します。コメントがリストから除去されます。コメントを除去しても、選択したセルから除去されるだけで、ドロップダウン・メニューの選択肢としては残ります。
4. **「OK」**をクリックします。

> **ノート:**
>
> Financial Management では、関数 HsSetText および HsGetText を使用してデータ・ソースとの間でセル・テキストを送受信できます。関数を参照してください。

添付の追加

ドキュメントは、URL (Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management および Oracle Hyperion Planning)またはファイル(Cloud EPM のみ)を使用して個々のデータ・セルに添付できます。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Planning、Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Tax Reporting

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Planning

各データ・セルには、1 人以上のユーザーによって添付された複数のドキュメントを含めることができます。このトピックでは、「ドキュメント」は URL またはファイルを意味します。

管理者から割り当てられた権限レベルに応じて、データ・セルで次のいずれかの操作を実行できます:

- URL を使用してドキュメントを添付します。
- Cloud EPM のみ: ドキュメントをファイルとして添付します。

  オンプレミスの Oracle Hyperion Planning ではファイル添付はサポートされていません。
- 自分や他のユーザーが添付したドキュメントを表示します。
- 添付したドキュメントを編集および削除します。他のユーザーが添付したドキュメントは編集または削除できません。

> **ノート:**
>
> - 添付を含むセルは、セル・スタイルに関連付けることができます。セルのスタイルを参照してください。
> - オンプレミス環境から Cloud EPM に移行し、EPM Workspace でアップロードされたドキュメントを参照する Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace URL 添付がフォームにある場合、これらのドキュメントに Oracle Smart View for Office でアクセスできません。かわりに、ドキュメントをフォームに直接添付できます。
> - フォーム 2.0 では、式セルへの添付の追加はサポートされていません。

ビデオ

目的	このビデオを見る
添付の操作など、Planning に関連する基本的な Smart View 機能の使用について学習します。	Oracle Planning and Budgeting Cloud による Smart View でのプラン・データの入力および保存

データ・セルにドキュメントを添付するには:

1. アド・ホック・グリッドまたはフォームで、1 つのデータ・セルまたはデータ・セルの範囲を選択します。
2. プロバイダ・リボンまたはプロバイダ・アドホック・リボンから、**「セルのアクション」**、**「添付」**の順に選択します。

   たとえば、Planning のリボンまたは Planning アド・ホックのリボンから、**「セルのアクション」**、**「添付」**の順に選択します。
3. **「添付」**ダイアログで、**「添付」**ボタン Attach をクリックし、**「ファイル」**または**「URL」**を選択します。
   - **ファイル**—Cloud EPM データ・ソースのみ。ステップ 4 に進みます。
   - **URL**—Cloud EPM および Oracle Hyperion Planning データ・ソース。ステップ 5 に進みます。
4. **Cloud EPM のみ:** ステップ 3 で**「ファイル」**を選択した場合は、**「セルに添付するファイルの選択」**ダイアログで、添付するファイルに移動して選択し、**「開く」**をクリックします。

   ファイルは、選択したセルにアップロードされます。

   > **ノート:**
   >
   > ファイルを添付する際のベスト・プラクティスを次に示します。
   >
   > - ファイルを同じセルまたは範囲内の異なるセルのいずれに添付している場合でも、添付する各ファイルには、一意のファイル名が必要です。
   > - 添付したファイルを他のユーザーに表示するには、共有ネットワークの場所など、他のユーザーがアクセスできる場所からファイルを選択する必要があります。
   > - 範囲内のセルにファイルを添付するには、**「添付」**ダイアログ内のドロップダウン・リストからセルを選択し、ファイルに移動してそれを選択し、**「開く」**をクリックして選択したセルにファイルをアップロードします。範囲内の異なるセルに添付する各ファイルについてそれぞれ繰り返します。
   > - セルの添付に強制されるサイズ制限はありませんが、大きいファイルはパフォーマンスに影響を与えます。
5. ステップ 3 で**「URL」**を選択した場合、次の情報を入力する場所に新しい行が追加されます。
   - **「説明」**の下のセルをクリックして、簡単な説明を追加します。
   - **「参照」**の下のセルをクリックして、添付するドキュメントまたは Web ページの URL の場所を入力します。

次のステップで URL 添付を保存すると、**「ユーザー」**フィールドと**「入力日付」**フィールドに値が自動的に移入されます。

> **ノート:**
>
> セルの範囲に URL を添付できます。セルの範囲を選択した場合は、一度に 1 つのセルに URL を添付するか、選択したすべてのセルに同じ URL を添付できます。
>
> - 範囲内の 1 つのセルに URL を添付するには、ドロップダウン・メニューからセルを選択し、**「添付」**、**「URL」**の順に選択し、**「説明」**および**「参照」**に入力します。
> - 範囲内のすべてのセルに 1 つの URL を添付するには、**「選択したセルすべてに適用」**を選択します。

6. URL のみを添付した場合、または URL とファイルの組合せを添付した場合、添付の選択を保存するには、をクリックします。

   ファイルのみを添付した場合は保存が不要であるため、**「保存」**ボタンは有効になりません。
7. 必要に応じてこの手順を繰り返し、添付を追加します。
8. **オプション:** URL 添付の場合、**参照**エントリを編集するには、編集する添付行を選択し、をクリックして参照を編集した後、をクリックします。

   ファイル添付の**参照**エントリの編集はサポートされていません。かわりに、エントリを削除し(次のステップを参照)、上記の手順の説明に従ってファイルを再添付します。
9. **オプション:** 添付を削除するには、リスト内の添付を選択し、「削除」、「保存」の順にクリックします。
10. **「閉じる」**をクリックします。

添付の起動

添付ドキュメントを起動するには:

1. 添付が含まれるセルを選択します。
2. プロバイダ・リボンまたはプロバイダ・アドホック・リボンから、**「セルのアクション」**、**「添付」**の順に選択します。

   たとえば、Planning のリボンまたは Planning アド・ホック・リボンから、**「セルのアクション」**、**「添付」**の順に選択します。
3. 添付の行を選択し、左側の列でダウンロード・リンクをクリックします:

   をクリックしてファイルを起動します。

   をクリックして URL を起動します。

セルの履歴の表示

データ・セルまたはデータ・セルの範囲に加えられた変更の履歴を表示できます。

リストされた変更ごとに、変更を行ったユーザー、変更日、古い値および新しい値が表示されます。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Planning

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Planning

> **ノート:**
>
> セル履歴は、*Oracle Hyperion Planning 管理者ガイド*で説明されているように Planning 管理者によってデータ監査が有効化されている場合にのみ使用できます。

セルの履歴を表示するには:

1. Planning アド・ホック・グリッドで 1 つのデータ・セルまたはセル範囲を選択します。
2. **Planning アド・ホック**のリボンから、**「セルのアクション」**、**「セルの履歴」**の順に選択して**「変更履歴」**画面を表示します。
3. ステップ 1 で複数のセルを選択した場合は、**「変更履歴」**のドロップダウン・メニューから一度に 1 つのセルを選択して、その履歴を表示します。

9

データ・フォーム

次も参照:

- Excel でのフォームの操作
  フォームは、Excel からデータベースにデータを入力でき、データまたは関連テキストを表示して分析できるグリッド表示です。
- Excel でフォームを開く
  フォームは Excel で開くことができます。
- フォームでの Excel 式の使用
  セルが読取り専用ではない、またはロックされていない場合、Excel 式を、グリッドの内部または外部のフォームのセルに作成できます。
- POV 変更後に式を保存
- ユーザー変数の操作
  Oracle Smart View for Office の POV ツールバーのボタンからユーザー変数の選択を行うことができます。
- Cloud EPM および Oracle Hyperion Planning のフォーム
  フォームとは、更新、分析およびレポートの作成に使用できるデータを入力するためのグリッドです。
- Financial Management データ・フォーム
  Oracle Hyperion Financial Management について詳しくない場合は、Oracle Help Center で入手可能な Financial Management のドキュメントを参照してください。

Excel でのフォームの操作

フォームは、Excel からデータベースにデータを入力でき、データまたは関連テキストを表示して分析できるグリッド表示です。

一部のディメンション・メンバー値は固定され、データが特定の視点から表示されます。

Oracle Smart View for Office を使用して、Excel で次の Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management データ・ソースを使用してフォームを操作できます:

- Enterprise Profitability and Cost Management
- Financial Consolidation and Close
- フリーフォーム
- Planning
- Tax Reporting

また、次の Oracle Enterprise Performance Management System データ・ソースを使用します:

- Oracle Hyperion Financial Management
- Oracle Hyperion Planning

Smart View で開いたフォームのガイドライン

Smart View で開いたフォームを操作する際は、次のガイドラインを考慮してください:

- フォームのデータ値は変更できますが、フォーム構造は変更できません。
- Excel からデータベースに送信する値は、フォーマットされていないデータにする必要があります。
- Excel でフォームを操作している間に管理者がフォーム定義を変更した場合は、フォームを閉じて再度開くことをお薦めします。このアクションによってフォームの 最新の定義が表示されます。
- フォームに対して行われたカスタマイズが保存時またはリフレッシュ時に維持されるのは、グリッドの外部に対して、または 3 桁ごとのセパレータと小数点に対して行われた場合のみです。
- 読取り専用セルにデータを入力できないように、Excel ワークシートは常に保護されます。そのため、オート SUM や[F9]などの一部の Excel 機能は使用不可にされています。
- 名前にスラッシュ(/)があるフォームは、Smart View ではサポートされません。名前にスラッシュがあるフォーム(Cash In/Out など)を開こうとすると、Smart View では無効と見なされ、フォームが開かれません。したがって、ベスト・プラクティスとして、Smart View でフォームを操作する場合は、そのフォーム名にスラッシュを使用しないようにしてください。
- Smart View リリース 21.110 以降では、フォームにデータを入力し、変更したセルの外側をクリックした後、Excel が断続的に終了しなくなりました。

Cloud EPM ユーザー: ネイティブ Excel フォーマットおよび Cloud EPM フォームの操作のガイドラインも参照してください。

Oracle Hyperion Planning ユーザー: ネイティブ Excel フォーマットおよび Oracle Hyperion Planning フォームの操作のガイドラインも参照してください。

ビデオ

目的	このビデオを見る
フォームを開く方法など、Smart View でのナビゲートについて学習します。	 Smart View のナビゲート

Excel でフォームを開く

フォームは Excel で開くことができます。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Planning、Planning モジュール、Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Narrative Reporting、Tax Reporting

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Financial Management、Oracle Hyperion Planning

フォームを開くには:

1. データ・ソースに接続します。
2. Smart View パネルで、アクションを実行します:

- 1 つのフォームを開くには、ツリー・リストを展開し、開くフォームを選択します。その後、アクション・パネルで**「フォームを開く」**をクリックします。
- 複数のフォームを開くには、ツリー・リストを展開し、フォーム・フォルダを選択します。その後、アクション・パネルで**「フォームを開く」**をクリックします。**「フォームの選択」**で、1 つ以上のフォームを開く手順に従います。
- 特定のフォームを検索するには、ツリー・リストの上部にある検索ボックスを使用します。詳細は、フォームおよび他のアーティファクトの検索を参照してください。

Smart View パネルで、単純なフォームはアイコンで示されます。

データ・ソース・プロバイダに応じて、Smart View パネルから開くことができる他のフォーム・タイプは次のとおりです:

- - スマート・フォーム(スマート・フォームを参照)
- - フレックス・フォーム(フレックス・フォームを参照)
- - 保存済のアド・ホック・グリッド(アド・ホック・グリッドの保存を参照)
- — ダッシュボード(ダッシュボードを参照)

各フォーム・タイプに対するプロバイダ・サポートは、前述のドキュメント・リンクを確認してください。

3. Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management および Oracle Hyperion Planning のみ: フォームに関連付けられている説明を表示するには、プロバイダ・リボン(Planning リボンなど)から**「詳細」**、**「指示」**の順に選択します。

フォームでの Excel 式の使用

セルが読取り専用ではない、またはロックされていない場合、Excel 式を、グリッドの内部または外部のフォームのセルに作成できます。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Planning、Tax Reporting

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Financial Management、Oracle Hyperion Planning

フォームで Excel 式を使用するときは、次のガイドラインを考慮してください:

- セル・テキストを含むセルには、Excel 式を含めることができますが、サポート詳細(Planning セルなど)またはライン・アイテム詳細(Financial Management セルなど)を含むセルには含めることはできません。
- データを保存(送信)せずにフォームをリフレッシュし、後で保存されたワークシートを開いた場合、および行や列を展開または縮小した場合、式はフォーム内に保持されます。
- **「POV 変更時に式を保存」**オプションを選択すると、POV を変更した後に式が保存されます。リフレッシュ時には、データ・フォームに入力された式は保持され、式の視点のみが変更されます。詳細は、POV 変更後に式を保存を参照してください。
- 参照式を移動した場合、そのセル参照は、新しい位置を反映するように更新されます。
- フォームでは、次のいずれかを行うとワークブックを Excel ファイルとして保存するよう求めるメッセージが表示されます(ただし、一時的にアクセス権を失います):
  - 現在のページを変更

  - 別のフォームを選択
  - 別のデータ・ソースに接続
- フォーム 2.0 では、式セルへのコメント、添付ファイル、補足詳細の追加はサポートされていません。

ビデオ

目的	このビデオを見る
Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management での Excel 式の操作方法について学習します。	 Cloud EPM での Excel 式の追加

POV 変更後に式を保存

クラウド・データ・ソース・タイプ: Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Planning、Tax Reporting

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Financial Management、Oracle Hyperion Planning

「POV 変更時に式を保存」オプションを選択すると、POV を変更した後に式が保存されます。リフレッシュ時には、データ・フォームに入力された式は保持され、式の視点のみが変更されます。

> **Note:**
>
> **「POV 変更時に式を保持」**オプションは、Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management および Oracle Enterprise Performance Management System のデータ・フォームにのみ適用されます。
>
> フォーム内の Excel 式に関する一般的なガイドラインについては、フォームでの Excel 式の使用を参照してください。

たとえば、ブックのシート 2 のセル B4 を参照する式をデータ・フォーム・グリッドに挿入したとします。エンティティ・ディメンションは現在、ページ POV 内で"Fairfield"に設定されています:

```
=Sheet2!B4
```

ここで、同じ式を"Hartford"エンティティにも適用するとします。ページ POV 内のエンティティディメンションを Fairfield から Hartford に変更し、データ・フォームをリフレッシュします。すると既存の次の式は保持されます:

```
=Sheet2!B4
```

Hartford 用のデータがデータ・フォームに取得されます。

「POV 変更時に式を保存」オプションを使用しても、データ・フォームの式は影響を受けません。データ・グリッド内の既存の式が保持されます。

ただし、次のような場合には式が失われます:

- データ・ソース・レベルで設定された抑制オプションによって無効になった交差に式が存在する場合。
- セルが入力レベルから読取り専用や無効などに変わった場合。

  たとえば、あるデータ・フォーム上の有効なセル参照が別のデータ・フォーム上の読取り専用セルを参照している場合などです。

式が失われた場合、データ・フォームに再び表示されることはありません。入力しなおす必要があります。

POV を変更した後に式を保存するには:

1. 「Smart View」リボンから、**「オプション」**を選択し、次に**「メンバー・オプション」**タブを選択します。
2. **「POV 変更時に式を保存」**を選択します。
3. **「OK」**をクリックします。

   この設定は、リフレッシュを行うか、ドリル操作を実行すると有効になります。

ユーザー変数の操作

Oracle Smart View for Office の POV ツールバーのボタンからユーザー変数の選択を行うことができます。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Planning、Planning モジュール、Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Tax Reporting

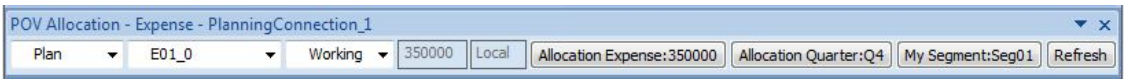
オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Financial Management、Oracle Hyperion Planning

Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management または Oracle Hyperion Planning フォームにユーザー変数が含まれる場合、または Financial Management データ・フォームに選択可能なディメンション、行または列が含まれる場合、それらは Smart View で変更できます。

ユーザー変数ボタンをクリックすると、**「メンバー選択」**ダイアログ・ボックスが表示されます。次に、ユーザー変数に該当するメンバーを選択します。選択したユーザー変数に適用されるフィルタがロードされて、フィルタ・ドロップダウン・リストに表示されます。選択が完了すると、1 つ以上のユーザー変数ボタンを簡単に変更して、Smart View のフォームの POV を変更できるようになります。

図 1 では、Planning のフォームにおけるユーザー変数の例を示していますが、この例では、配賦費用、配賦四半期、マイ・セグメントが、フォームの POV を変えるために変更可能なユーザー変数です。

図 9-1 Planning のフォームにおけるユーザー変数の例



例のシナリオでは、Financial Management のデータ・フォーム・デザイン・モードで、ディメンションに対して 1 つのメンバー・リストまたは複数のメンバー(期間など)を選択し、@CUR

関数を使用して行または列でその期間ディメンションを使用できます。その結果、「期間」ディメンションは、Smart View にユーザー変数で表されるようになります。

また、Financial Management のデータ・フォームで相対期間機能を使用すると、同じディメンションのメンバーを行、列、および POV に表示できます。Smart View では、相対期間メンバーは POV ツールバーにユーザー変数として表示されます。相対期間機能の使用方法と、選択可能なディメンション、行および列を Financial Management で設定する方法の詳細は、*Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイド*を参照してください。

フォームのユーザー変数を使用するには:

1. Smart View パネルで、データ・ソースに接続し、フォームを開きます。

   使用可能なユーザー変数がシート上部の POV ツールバーに表示されます。選択できるボタンは有効になり、選択できないボタンはグレー表示されます。
2. ユーザー変数ボタンをクリックして、**「メンバー選択」**ダイアログ・ボックスを表示します。
3. **「メンバー選択」**で、メンバーを 1 つ以上選択して、選択したユーザー変数ボタンに追加します。

   Cloud EPM および Oracle Hyperion Planning: あるいは、の矢印をクリックして**「代替変数」**を選択し、メンバーを代替変数として選択します。
4. **「フィルタ」**ドロップダウン・リストで、該当するフィルタを選択します(フィルタが使用可能な場合)。
5. **「OK」**をクリックします。
6. メンバーを選択してフィルタを適用するすべてのユーザー変数ボタンに対して、ステップ 3 からステップ 5 を繰り返します。
7. ユーザー変数ボタンを使用するには、選択したメンバーを適用する各ボタンをクリックして、ドロップダウン・リストから選択します。
8. **「リフレッシュ」**をクリックして、更新されたフォームを表示します。

Cloud EPM および Oracle Hyperion Planning のフォーム

フォームとは、更新、分析およびレポートの作成に使用できるデータを入力するためのグリッドです。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Planning、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Planning

特に記載がないかぎり、この章では:

- フォームおよび Planning フォームは、オンプレミス Oracle Hyperion Planning のフォームおよび Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management (Cloud EPM)のフォームを指します。
- Cloud EPM はこれらのサービスを指します:
  - Planning
  - Financial Consolidation and Close
  - Tax Reporting

> **ノート:**
>
> Cloud EPM に詳しくない場合は、Oracle Help Center で入手可能なクラウド・サービスの"*操作*"ガイドを参照してください。
>
> Oracle Hyperion Planning に詳しくない場合は、Oracle Help Center で入手可能な *Oracle Hyperion Planning ユーザー・ガイド*を参照してください。このライブラリを開くには、Smart View のリボンから、**「ヘルプ」**の横にある矢印、**「ドキュメンテーション」**の順に選択します。

関連トピック:

Smart View での Cloud EPM および Oracle Hyperion Planning のフォーム動作

Planning フォームでのフローティング・ツールバーの表示

アド・ホック・グリッドの保存

フォームでのアド・ホック分析の実行

フォームの行ディメンションでのドロップダウン・メンバー・セレクタの使用

チャートの挿入

有効な交差の使用

フレックス・フォーム

Smart View での Cloud EPM および Oracle Hyperion Planning のフォーム動作

Oracle Smart View for Office のフォームの動作は、Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management および Oracle Hyperion Planning アプリケーションとは異なります。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Planning、Planning モジュール、Enterprise Profitability and Cost Management、フリーフォーム、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Planning

- Cloud EPM および Oracle Hyperion Planning フォームの属性は、Smart View には表示されません。
- アド・ホック・グリッドのフォームとしての保存は、属性を含むグリッドではサポートされていません。
- カスタム属性を含むフォームでは:
  - Smart View では、基本(標準)ディメンション・メンバーのフィルタとしてのカスタム属性の使用はサポートされません。Web インタフェースではこれがサポートされ、実行時にカスタム属性が次のフォーマットで表示されます:

    ```
    base/regular dimension member name(small rectangle symbol).associated
    attribute dimension member name
    ```

  - Web インタフェースと Smart View の両方で、独立ディメンションとしてのカスタム属性ディメンションの使用がサポートされます。たとえば、標準のディメンションと同様に、それらを行、列またはページ POV に配置します。

- アウトラインの複数のレベルを Smart View で表示する場合と、Web アプリケーションでページとして表示する場合とでは、表示が異なります。Smart View では最大で 4 レベルが表示されるのに対し、Web アプリケーションでは最大 2 レベルの表示となります。
- メンバーを除外しても、フォームの合計には影響しません。メンバーがフォーム定義(レイアウト)で除外された場合、そのメンバーはフォーム上での表示から除外されるのみで、計算からは除外されません。
- 管理者がフォームの行の軸でディメンションを非表示にしている場合、Smart View で、そのディメンションはフォームの行ヘッダーに表示されません。
- 管理者が Smart View ではなく Web アプリケーションのフォーマットを使用するようにフォームを設定している場合、Smart View フォーマット・オプション(**「オプション」**ダイアログの**「フォーマット」**タブ)は適用されません。これは、**「セル・スタイルの使用」**または**「Excel フォーマットの使用」**オプションが Smart View で選択されている場合に当てはまります。
- 複合フォームでは、Web アプリケーションのチャートとして表示されるセクションは、Smart View ではグリッドとして表示されます。
- フォームで、Excel、Smart View および Oracle Hyperion Planning 間の小数点以下の桁数の設定を処理すると、送信済データの丸め処理で問題が発生する場合があります。Excel と Oracle Hyperion Planning の両方で、小数点以下の桁数が 2 に設定されていても発生する場合があります。たとえば、フォームで `68.68` と入力しても、Smart View はデータを Oracle Hyperion Planning に、`68.68` ではなく `68.67999999999` として送信します。
- 行のドロップダウン・メニューがフォームで有効になっている場合、スマート・プッシュ(様々なキューブから 1 つのフォームにデータをプッシュする)は使用できません。
- Cloud EPM プロバイダに接続しているとき、ビジネス・ルールを使用して動的メンバー("オンザフライ・メンバー")をフォーム(およびアド・ホック・グリッド)に追加できます。Excel でのビジネス・ルールの起動を参照してください。

  Oracle Hyperion Planning では、動的メンバーの使用はサポートされません。
- メンバーにサマリー期間の値を計算する式を作成し、サマリー期間メンバーのデータを変更すると、Smart View がそのセルをダーティ・セルと見なすことがあります。
- Smart View で、フォームに添付されているビジネス・ルールの表示順序は、Oracle Hyperion Planning での表示順序と異なります。
- 2 つの異なるワークシートに 2 つのフォームがある場合、最初のフォームのルール変数は、2 番目のフォームのページ・ディメンションをリフレッシュした後でデフォルト値に変わります。これにより、ビジネス・ルールはランタイム・プロンプト変数に対して間違った値を呼び出すことがあります。この状況が発生した場合は、実行するルールを送信する前に、ランタイム・プロンプトを表示してその値を確認します。
- Smart View では、Oracle Hyperion Planning のオプション「1 つのエンティティに複数通貨を許可」が TRUE に設定されている場合、セル内の通貨記号の表示は Oracle Hyperion Planning Web インタフェースと異なります。
- アプリケーションのページ・プリファレンス「メンバーのインデント」が「レベル 0 のメンバーのみインデント」に設定されているとき、フォームのディメンションのインデントが正しく表示されない場合があります。
- Excel のグループ化は、**「列の幅と行の高さの調整」**(**「オプション」**ダイアログの**「フォーマット」**タブ)が選択されている場合に展開されます。Excel のグループ化を維持する場合

は、**「列の幅と行の高さの調整」**オプションを使用しないでください。Excel のグループ化の展開/縮小状態は、プログラムでは復元できません。行の高さ/列の幅が自動的に調整されている場合は、Excel によってすべてが 自動的に展開されます。

関連項目: ネイティブ Excel フォーマットおよび Cloud EPM フォームの操作のガイドライン。

Planning フォームでのフローティング・ツールバーの表示

Planning フォーム内のデータ・セルをクリックすると、フローティング・ツールバーが表示されます。

フローティング・ツールバーを使用すると、次のコマンドに迅速にアクセスできます:

- サポート詳細
- セル・コメント
- ドリルスルー
- 添付

Planning フォームでフローティング・ツールバーを表示または抑制するには:

1. Smart View リボンで、**「オプション」**をクリックして、**「詳細」**タブを選択します。

   このオプションを設定するためにログインする必要はありません。
2. 次のいずれかのアクションを行います:
   - フローティング・ツールバーを表示するには、**「フォームにフローティング・ツールバーを表示します」**チェック・ボックスを選択します。

     このチェック・ボックスはデフォルトで選択されています。
   - フローティング・ツールバーの表示を抑制するには、**「フォームにフローティング・ツールバーを表示します」**チェック・ボックスをクリアします。
3. **「OK」**をクリックすると、選択内容が保存されます。

アド・ホック・グリッドの保存

クラウド・データ・ソース・タイプ: Planning、Planning モジュール、Enterprise Profitability and Cost Management、フリーフォーム、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Planning

アド・ホック・グリッド作成者の役割が割り当てられている場合は、アド・ホック・グリッドを保存できます。

> **ノート:**
>
> このトピックでは、フォームの説明は、Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management の Planning、Planning モジュール、Enterprise Profitability and Cost Management、フリーフォーム、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting、およびオンプレミスの Oracle Hyperion Planning に適用されます。

アドホック・グリッドを保存するには:

1. アドホック・グリッドをアクティブにした状態で、プロバイダ・アド・ホックのリボンから**「アド・ホック・グリッドの保存」**をクリックします。

   アド・ホック・グリッドの保存は、属性を含むグリッドではサポートされていません。

2. **「グリッドに名前を付けて保存」**で、名前、グリッドを保存する場所のパス、およびグリッドの説明を入力します。

3. **オプション:** グリッドに適用された Excel フォーマットまたはセル・スタイルの変更を保存するには、**「フォーマットの送信」**を選択します。

   アド・ホック・グリッドおよびフォームへのフォーマットの保存についてのその他のノートおよびガイドラインは、Cloud EPM フォームでのネイティブ Excel フォーマットの使用についてを参照してください。

   > **ノート:**
   >
   > Cloud EPM アプリケーション: サービス管理者がアプリケーションの**「Smart View アド・ホック動作」**オプションを**「標準」**に設定している場合、**「フォーマットの送信」**オプションは使用できません。

4. **「OK」**をクリックします。

   保存されたグリッドが、ステップ 2 で選択した場所の「Smart View パネル」ツリー・リストに表示されます。

5. 保存されているグリッドをアド・ホック・グリッド(で示されています)として開くには:

   - Oracle Smart View for Office 21.100 以上では、ツリー・リストでグリッドをダブルクリックします。保存されたアド・ホック・グリッドをツリー内でダブルクリックすると、デフォルトではアド・ホック・グリッドとして開きます。
   - Smart View 20.200 以前では、ツリー・リストでグリッドを右クリックして**「アド・ホック分析」**を選択します。

   または、ツリー内でアド・ホック・グリッドを右クリックし、フォームとして開くように選択できます。

フォームでのアド・ホック分析の実行

クラウド・データ・ソース・タイプ: Planning、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Planning

管理者によってアド・ホック・ユーザーの役割を割り当てられているユーザーであれば、管理者によってアド・ホックが使用可能に設定されているフォームで、アド・ホック分析を実行できます。

フォームでアド・ホック分析を実行するには:

1. 次のいずれかを行います:

   - フォームを開き、Smart View のリボンから、**「分析」**をクリックします。このボタンは、現在のフォームでアド・ホック分析が使用可能な場合に使用可能になります。
   - Smart View パネルでフォームを選択し、アクション・パネルで**「アド・ホック分析」**をクリックします。

> **ノート:**
>
> アド・ホックの起動に使用した方法に応じて、グリッド POV に違いがある場合があります。

2. アド・ホック分析の実行については、アド・ホック分析を参照してください。

フォームの行ディメンションでのドロップダウン・メンバー・セレクタの使用

データ・ソース・タイプ: Planning、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting

フォームで、サービス管理者およびフォーム設計者は、行ディメンションに、簡単に使用できるドロップダウン・メンバー・セレクタを設定できます。これらのドロップダウン・セレクタが有効な場合、フォーム・ユーザーは、フォーム内の行ディメンションのドロップダウン・リストからメンバーを直接選択できます。

ドロップダウン・メンバー・セレクタでは、抑制されていたメンバー行にデータを追加することもできます。

メンバーが除外されているフォームでは、除外メンバーを表示または非表示にするようにドロップダウン・メンバー・セレクタを構成できます。

ドロップダウン・メンバー・セレクタを使用する際は、次のことに注意してください:

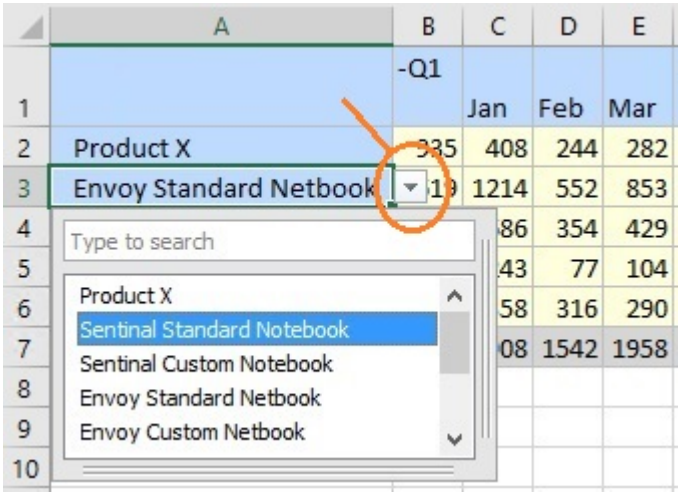
- どのメンバーでドロップダウンが有効であるかについては視覚的に示されません。ディメンション・セルをクリックして、下向き矢印がセルの隣に表示されたら、ドロップダウン・リストは有効化されています。
- ドロップダウン・コンテンツ(メンバーのリスト)は、対応するセグメントのフォーム定義によって制御されます。
- 選択は保持されません。ドロップダウンの選択はリフレッシュ時に失われます。ドロップダウンからメンバーを選択した後、「リフレッシュ」を実行すると、選択は失われ、フォームは元の状態に戻ります。
- ドロップダウンの選択はデータの保存時に失われます。データ・セルを変更し、Excel ワークシートを保存した場合、変更されたドロップダウンの選択は保持されません。
- 共有メンバーまたは重複する別名に関連付けられたメンバーを選択して操作する場合、ドロップダウン・メンバー・セレクタには、修飾名や個々の別名ではなく、共有メンバーおよび重複する別名のメンバー名が表示されます。メンバーが正しい位置にないことを示すエラーが発生することなく、データを入力して送信できます。
- 複合フォーム: 行ディメンションでのドロップダウン・メンバー・セレクタの使用はサポートされていません。
- Oracle Smart View for Office または Web 上のフォーム 2.0 でフォームを操作する場合、フォームの最初のデータ行にメンバー式が含まれており、他の 1 つ以上の行でドロップダウン・メンバー・セレクタが有効になっていると、データを送信できません。メンバー式行とドロップダウン・メンバー・セレクタの両方を含むフォームを操作するには、メンバー式行を最初のデータ行以外の任意の位置に移動する必要があります。

Smart View でこの機能を使用するには、Web インタフェースのフォーム・デザイナでの構成が必要です。サービス管理者またはフォーム設計者は、特定のディメンションのセグメント・プロパティとしてドロップダウン・セレクタを指定します。たとえば、行の軸にエンティティとライン・アイテムの 2 つのディメンションが配置されているとします。メンバー・セレクタ・

ドロップダウンは、エンティティ・ディメンション・メンバー、ライン・アイテム・ディメンション・メンバーまたは両方に対して有効化されている場合があります。構成については *Planning の管理*で説明しています。

Smart View で、フォームでドロップダウン・セレクタを使用するには、フォーム内の行ディメンションまたはメンバー名をクリックします。ドロップダウン矢印が表示された場合、図 1 に示すように、それをクリックして、ドロップダウン・リストからメンバーを選択します。

図 9-2 行ディメンション・セルでのドロップダウン・メンバー・セレクタ

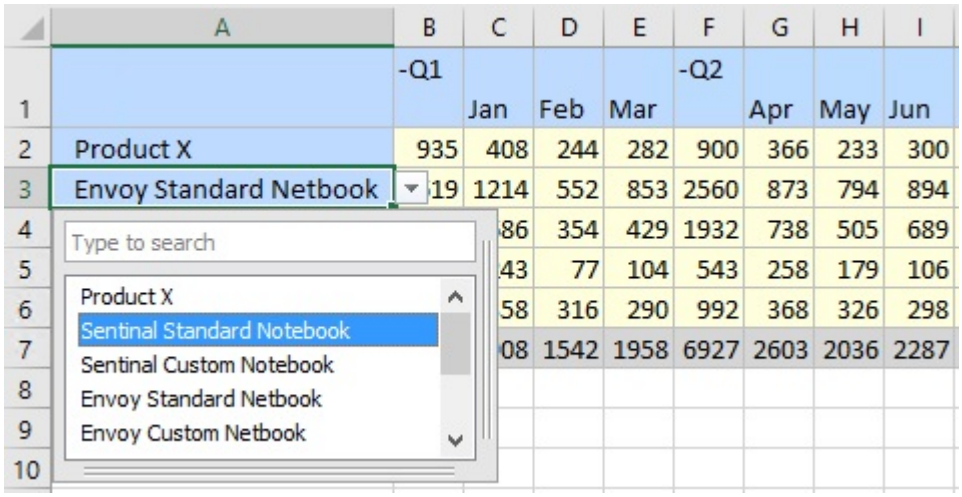


例

Planning のこの例では、#Missing 値を含む行は抑制されており、Sentinal Standard Notebook の値を入力する必要がありました。データベースでは、1 月から 6 月までの Sentinal Standard Notebook の値がすべて #Missing です。フォームを開いたときは、Sentinel Standard Notebook の行はありません。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1		-Q1	Jan	Feb	Mar	-Q2	Apr	May	Jun
2	Product X	935	408	244	282	900	366	233	300
3	Envoy Standard Netbook	2619	1214	552	853	2560	873	794	894
4	Envoy Custom Netbook	1469	686	354	429	1932	738	505	689
5	Other Computer	423	243	77	104	543	258	179	106
6	Tablet Computer	964	358	316	290	992	368	326	298
7	-Computer Equipment	6409	2908	1542	1958	6927	2603	2036	2287

行のドロップダウン・メンバー・セレクタを使用して、リストから Sentinal Standard Notebook を選択します。



Sentinal Standard Notebook が、Envoy Standard Netbook の場所に現在表示されています。行内のデータ値は変更されていないことに注意してください。既存の値を上書きして、必要な値を入力できます。この例では、1 月から 6 月まで各月に 500 と入力します。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1		-Q1	Jan	Feb	Mar	-Q2	Apr	May	Jun
2	Product X	935	408	244	282	900	366	233	300
3	Sentinal Standard Notebo	2619	500	500	500	2560	500	500	500
4	Envoy Custom Netbook	1469	686	354	429	1932	738	505	689
5	Other Computer	423	243	77	104	543	258	179	106
6	Tablet Computer	964	358	316	290	992	368	326	298
7	-Computer Equipment	6409	2908	1542	1958	6927	2603	2036	2287

Planning リボンで、**「送信」**をクリックします。この行には値が含まれているため、Sentinal Standard Notebook の行がフォームに追加されていることに注意してください。また、Computer Equipment 内の値は再計算されています。変更された値のみが、変更されたドロップダウン・メンバーに保存されます。他のメンバーから継承された値は変更されません。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1		-Q1	Jan	Feb	Mar	-Q2	Apr	May	Jun
2	Product X	935	408	244	282	900	366	233	300
3	Sentinal Standard Notebook	1500	500	500	500	1500	500	500	500
4	Envoy Standard Netbook	2619	1214	552	853	2560	873	794	894
5	Envoy Custom Netbook	1469	686	354	429	1932	738	505	689
6	Other Computer	423	243	77	104	543	258	179	106
7	Tablet Computer	964	358	316	290	992	368	326	298
8	-Computer Equipment	7909	3408	2042	2458	8427	3103	2536	2787

チャートの挿入

リリース 11.1.2.5.700 からは、Microsoft PowerPoint にフォームをチャートとして挿入し、フォームに情報をグラフィカルに表示できます。

データ・ソース・タイプ: Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting

Oracle Smart View for Office は、フォーム情報をチャートとして PowerPoint にレンダリングします。PowerPoint のチャート・ツールを使用して、チャートのデザインと形式を変更できます。Smart View POV レポート・オブジェクトを挿入して、チャートの POV を変更できます。

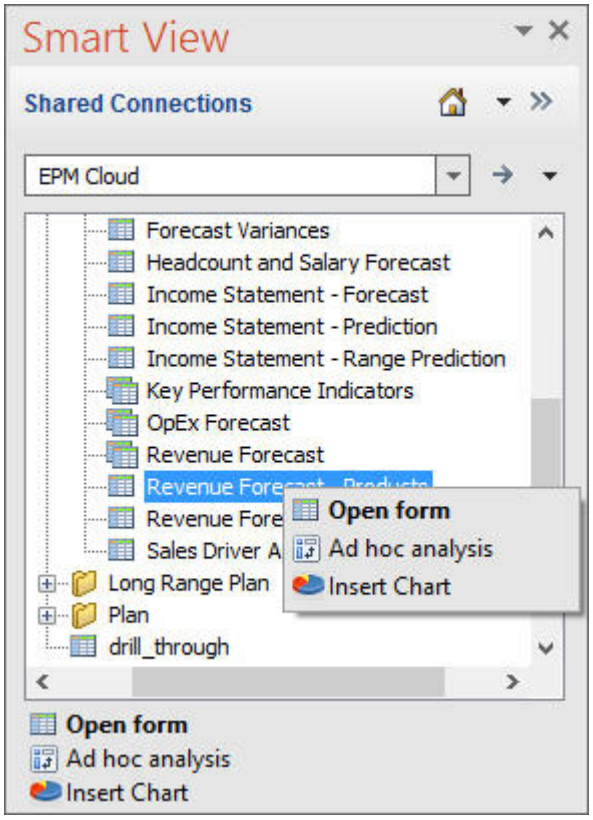
フォームの中には、チャートに向くものと向かないものがあります。チャート形式ではうまく表示できないフォーム・データもあります。たとえば、貸借対照表フォームは、チャートにしても役立たない可能性があります。一方、月次収益フォームはチャート形式に適しています。希望に沿ったチャートを作成するために、使用可能なフォームの調査とフォーム・デザイナの使用をお薦めします。

> **ノート:**
>
> - チャートの挿入機能は、Word または Excel では使用できません。
> - Smart View では、階段状および曲線のチャートを直接挿入することはできません。階段状または曲線のチャートを挿入すると、Smart View によって、形状が最も似ているデフォルトの折れ線チャートに置き換えられます。

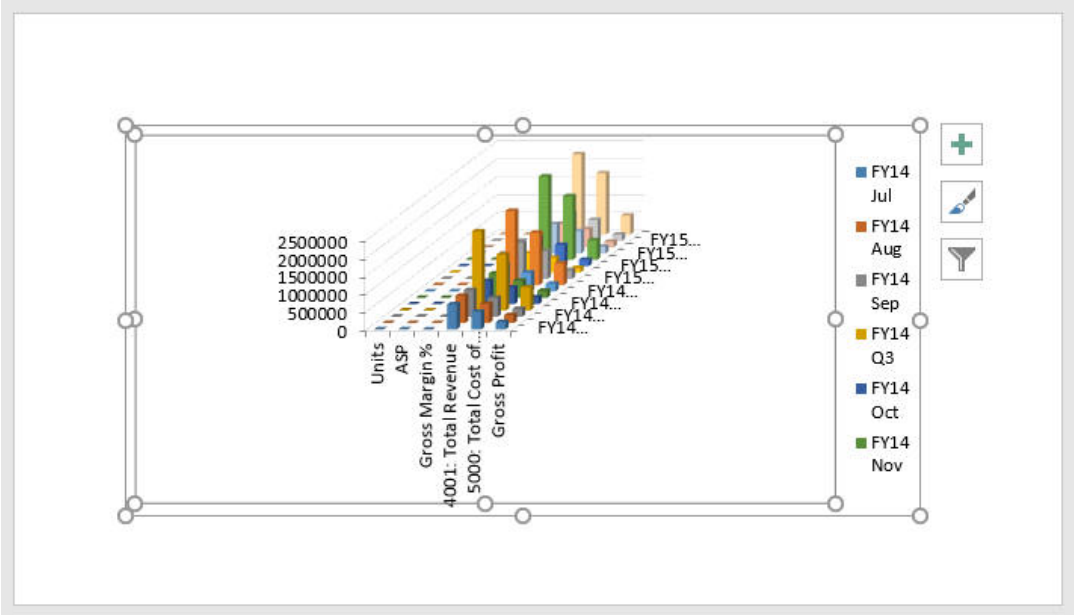
PowerPoint にチャートを挿入して編集するには:

1. PowerPoint を起動し、データ・ソースに接続します。
2. フォームに移動して、選択します。
3. アクション・パネルで**「チャートの挿入」**を選択します。

   または、フォーム名を右クリックし、**「チャートの挿入」**を選択します。次に例を示します。

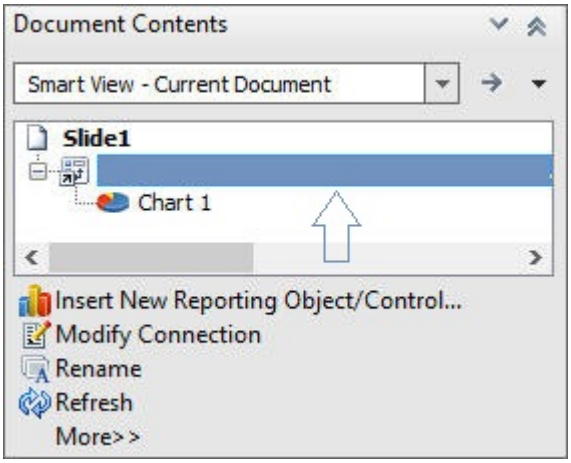


チャートがスライドに挿入され、そこで選択および編集できます。次の例では、スライドの幅が最初の状態から伸ばされています。

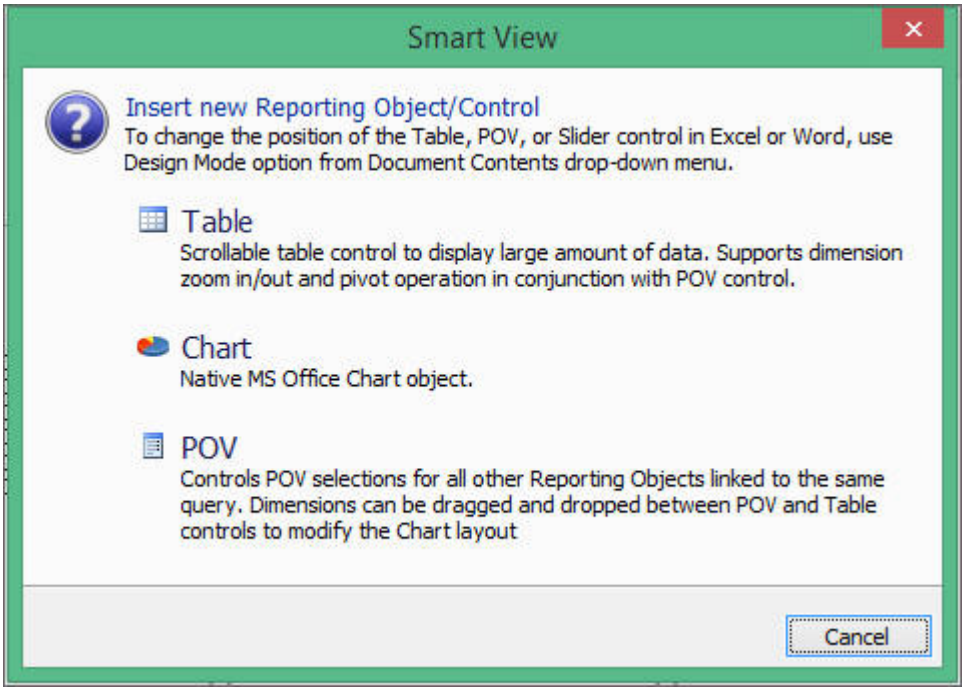


4. **オプション:** チャートの POV を変更するには、POV コントロールを挿入し、POV を変更します。
   a. 「ドキュメント・コンテンツ」ペインで、チャートのデータ・ソースを選択し、**「新規レポート・オブジェクト/コントロールの挿入」**を選択します。

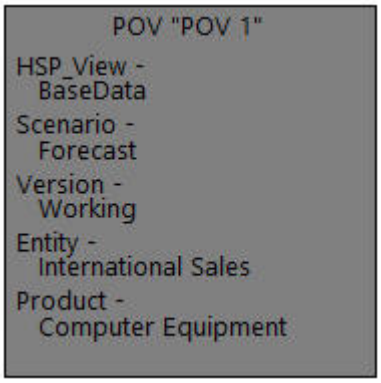
      次の例では、データ・ソースは青いバーで示されています。



b. **「新規レポート・オブジェクト/コントロールの挿入」**ダイアログ・ボックスで、**「POV」**をクリックします。



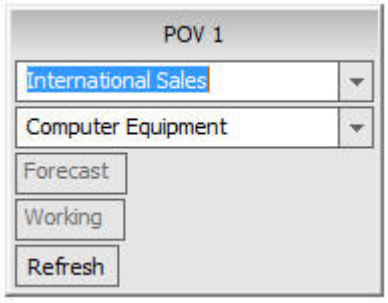
読取り専用 POV がスライドに配置されます。次に例を示します。



c. PowerPoint ウィンドウの右下にあるタスク・バーで、**「スライド ショー」**アイコンをクリックして、POV を変更できるスライド・ショー・モードに切り替えます。



d. スライド・ショー・モードで、POV ツールバーのドロップダウン・リストを使用して、必要な変更を加えます。



e. POV ツールバーで、**「リフレッシュ」**をクリックします。

f. 必要に応じてステップを繰り返して POV を変更し、終了したらスライド・ショー・モードを終了します。

スライド・ショー・モードを終了するには、**[Esc]**キーを押します。

5. さらにチャートのデザインとフォーマットの編集を続行し、必要に応じて PowerPoint プレゼンテーションを保存します。

Smart View のセル・レベル・セキュリティ

フォームのセルは、セル・レベル・セキュリティ定義に従って保護されます。

適用対象: Planning、Planning モジュール、Tax Reporting

セル・レベル・セキュリティにより、サービス管理者は、標準的なセキュリティによってユーザーが通常アクセスできるセルに対する読取りまたは書込みアクセスを削除するルールを定義することで、アプリケーションのデータを表示できるユーザーを制限できます。

セル・レベル・セキュリティは、既存のメンバー・セキュリティの例外として定義されます。たとえば、部門マネージャは、自分の部門のすべての勘定科目にアクセスする必要があり、他のすべての部門については特定の勘定科目にのみアクセスする必要があります。通常のメタデータ・セキュリティでは、マネージャはすべての 部門のすべての勘定科目にアクセスできます。セル・レベル・セキュリティを使用すると、サービス管理者は、マネージャの部門のすべての勘定科目と、その他すべての部門の特定の勘定科目のみの交差を制御できます。

セル・レベル・セキュリティは、有効な交差ルールと同様のルールを使用して、セルが表示されている場所(たとえば、フォーム、実行時プロンプト、アド・ホック・レポート、ダッシュボードなど)で特定のセル交差を表示しているユーザーに対する読取りまたは書込みアクセスを拒否します。セル・レベル・セキュリティ・ルールが適用されている場合、読取りアクセス権を持つユーザーは、セルのデータ値を表示できますが、セルを編集することはできません。ユーザーがセルへの読取りアクセスを拒否されている場合、セルに表示される値は#noaccess です。

セル・レベル・セキュリティは、最小レベルのディメンション粒度でユーザー・セキュリティを制限または削除する機能を提供します。これにより、メタデータ・セキュリティのみを使用するよりも柔軟性およびアクセス制御が向上します。この機能により、ディメンション間のセ

キュリティが考慮されます。つまり、1 つのディメンションの同じディメンション・メンバーが、他のディメンション・メンバーの組合せに基づいて異なるアクセス権を持つ可能性があります。

Oracle Smart View for Office でセル・レベル・セキュリティを使用する場合は、次の点に注意してください:

- セルに対するアクセス権がユーザーにない場合、セルのスタイルは、コメントと添付のセルには適用されません。一方、これらのスタイルは Web で同じフォームまたはグリッドを使用する場合に適用されます。
- セル・レベル・セキュリティでセルに#NoAccess が含まれることになった場合でも、Smart View のリボンのコマンド、右クリック・メニューのコマンドおよびフローティング・ツールバーのコマンドは引き続き有効です。たとえば、セルに#NoAccess が含まれている場合、ユーザーは、サポート詳細、添付、セル履歴、セル・コメントなど、セル・レベルのコマンドを実行できますが、これらのコマンドは#NoAccess には有効ではありません。

サービス管理者は、Web アプリケーションでセル・レベル・セキュリティを定義します。詳細は、*Planning の管理*のセル・レベル・セキュリティの定義に関する項を参照してください。

有効な交差の使用

次も参照:

- 有効な交差について
- ページ・ドロップダウン・リストでの有効な交差の使用
- フォームでの有効な交差の使用

有効な交差について

データ・ソース・タイプ: Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting、Enterprise Profitability and Cost Management

Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management 管理者は、有効な交差に対してアプリケーションを使用可能にできます。フォームで、有効な交差を使用すると、事前に定義した"有効な"交差のみでデータの表示または入力を行うことができます。

たとえば、有効な交差を、限定された部署のリストのみで有効な Segment メンバーのサブセットや、特定の期間のみ有効な特定のプログラムで構成することができます。

有効な交差に対応するフォームでは、データの入力速度が上がり、プランの検証が単純化されるため、データの品質が向上します。データ入力フォームの管理も容易になります。データの整合性も"無効な"交差で管理されます。

有効な交差をアプリケーションで定義すると、"無効な"セル交差は読取り専用になります。

> **ヒント:**
>
> Oracle Smart View for Office で、POV に無効な交差が確認または選択されると、このメッセージが表示されます:
>
> "ページおよび POV 内の無効な交差のため、データ・フォームを表示できません。別の交差を選択してください。"
>
> POV 内の有効な交差メンバーを選択し、メッセージをクリアします。

> **ノート:**
>
> **管理者:** このガイドでは、有効な交差に関するトピックは Smart View のエンド・ユーザーを主な対象としています。フォームでの有効な交差の設定の詳細は、管理ガイドで有効な交差の詳細を参照してください。たとえば、Planning の場合は *Planning の管理*の有効な交差の定義です。

ページ・ドロップダウン・リストでの有効な交差の使用

データ・ソース・タイプ: Planning

関連項目:

- ページ・ドロップダウン・リストでの有効な交差の使用
- ページ・ドロップダウン・リストにメンバーがない場合の操作

フォームが有効な交差に対応している場合にメンバーを選択するには:

1. フォームを開きます。

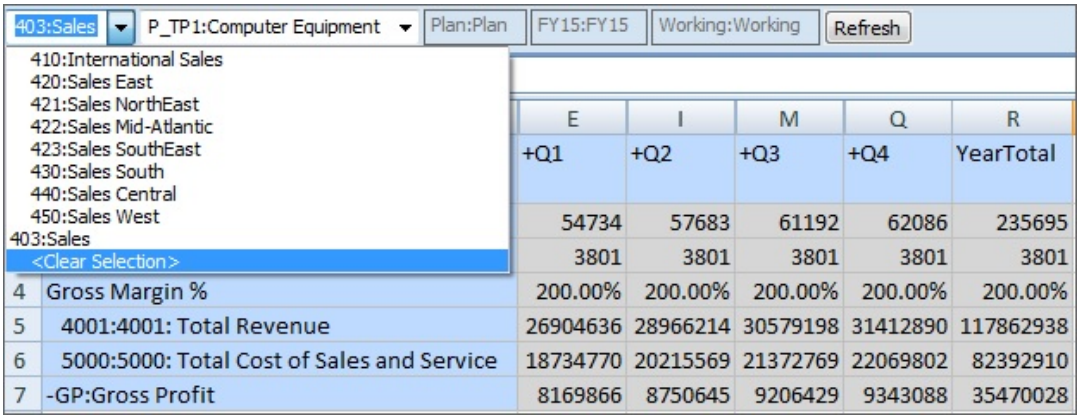
   フォームは、ディメンションに対するユーザーのアクセス権に基づき、フォーム定義の指定に従ってメンバーが選択された状態でレンダリングされ、有効な交差グループが適用されます。また、最近使用された有効な交差が現在の選択肢として示されます。

2. ページ・ドロップダウン・メンバー・セレクタの一番下の**「<選択のクリア>」**オプションで、フォームが有効な交差に対応していることを確認します。

   アプリケーションが有効な交差に対応している場合は、ページ・ドロップダウン・メンバー・セレクタの一番下に**「<選択のクリア>」**オプションが表示されています。

   たとえば、POV ドロップダウン・メンバー・セレクタのオプションでは、**「<選択のクリア>」**オプションが Entity ディメンションのページ・ドロップダウン・リストで強調表示されています。

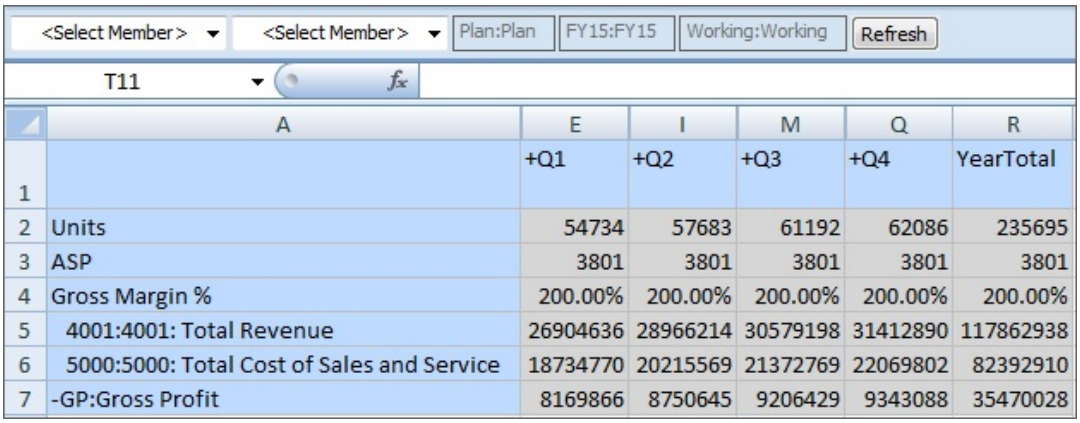
図 9-3 ページ・ドロップダウン・メンバー・セレクタの「<選択のクリア>」オプション



3. **オプション:** すべてが選択可能なページ・ドロップダウン・リストで**「<選択のクリア>」**を選択すると、ページ・メンバー・セレクタに**「<メンバーの選択>」**が表示されることに注意してください。

   たとえば、POV ドロップダウン・メンバー・セレクタのオプションでは、**「<メンバーの選択>」**オプションが Entity ディメンションと Product ディメンション両方のページ・セレクタに表示されています。

図 9-4 ページ・ドロップダウン・メンバー・セレクタの「<メンバーの選択>」オプション



4. 各ページ・ドロップダウン・リストで選択を行ってから、**「リフレッシュ」**をクリックします。

   通常、フォームの動作は単純な Planning フォームと同じですが、有効な交差を使用する場合に、あるディメンションのページ・セレクタで選択できる項目が、別のディメンションのページ・セレクタで選択したメンバーによって変わることがあります。

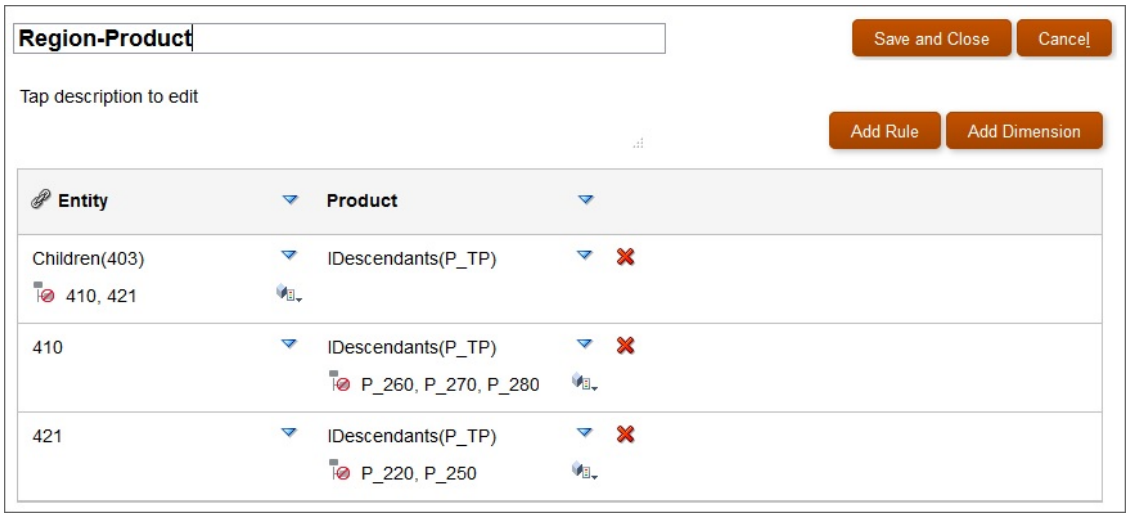
例 9-1 ページ・ドロップダウン・リストでの有効な交差の使用

有効な交差のルールは、Planning の管理者によって Planning Web アプリケーションで設定されます。図 3 では、有効な交差のルールは次のように設定されています。

- Entity ディメンションで 403:Sales メンバーが選択されたとき、Product ディメンションのすべての製品が選択できます。
- Entity ディメンションで 410:International Sales メンバーが選択されたとき、P_260:Game、P_270:Camera、P_280:Television の各メンバーは選択できません。これら以外のすべてのメンバーは選択できます。

- Entity ディメンションで 421:Sales NorthEast メンバーが選択されたとき、P_220:Software Suite および P_250:Network Card の各メンバーは選択できません。これら以外のすべてのメンバーは選択できます。

図 9-5 Planning Web アプリケーションで設定された有効な交差のルール

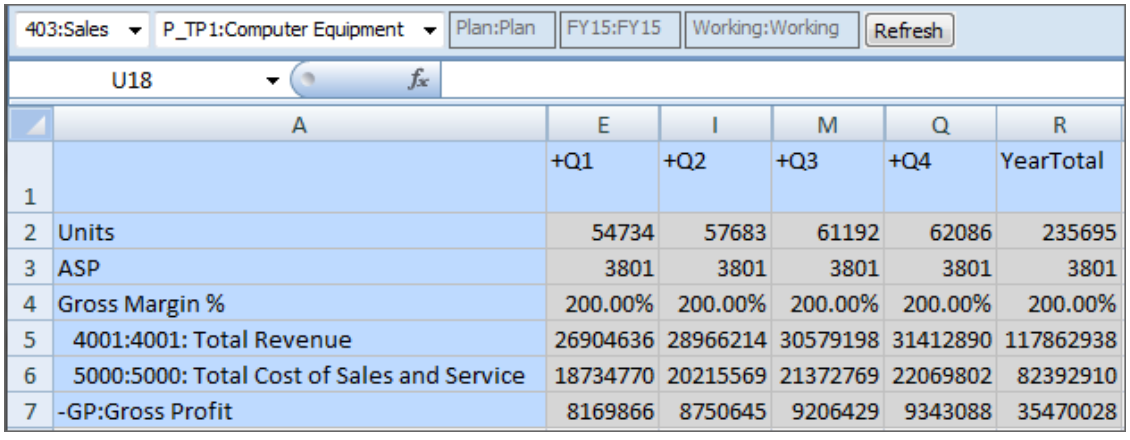


次に、図 3 で設定されたルールが Oracle Smart View for Office にどのように現れるかを説明します。

次の例では、前述の有効な交差のルールについて説明します。有効な交差のルールの範囲内で、Entity と Product でメンバーを選択し、フォームの視点を変更します。

0 は新しく開いたフォームを示しています。このフォームには 5 つのディメンションがあります。このうち 2 つのディメンションのページ・メンバーを変更できます。

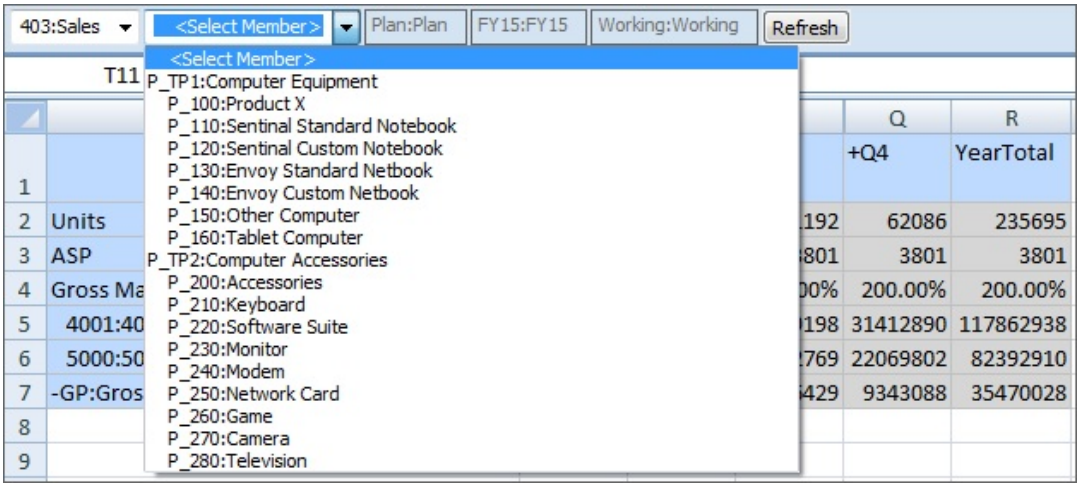
図 9-6 2 つのディメンションのメンバー選択を行うことができる Planning フォーム



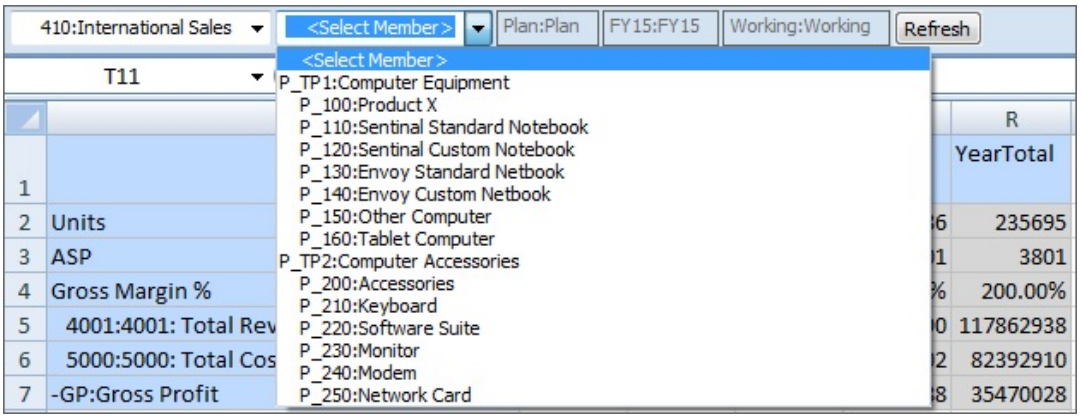
	A	E	I	M	Q	R
1		+Q1	+Q2	+Q3	+Q4	YearTotal
2	Units	54734	57683	61192	62086	235695
3	ASP	3801	3801	3801	3801	3801
4	Gross Margin %	200.00%	200.00%	200.00%	200.00%	200.00%
5	4001:4001: Total Revenue	26904636	28966214	30579198	31412890	117862938
6	5000:5000: Total Cost of Sales and Service	18734770	20215569	21372769	22069802	82392910
7	-GP:Gross Profit	8169866	8750645	9206429	9343088	35470028

有効な交差のルールに基づいて次のように操作します。

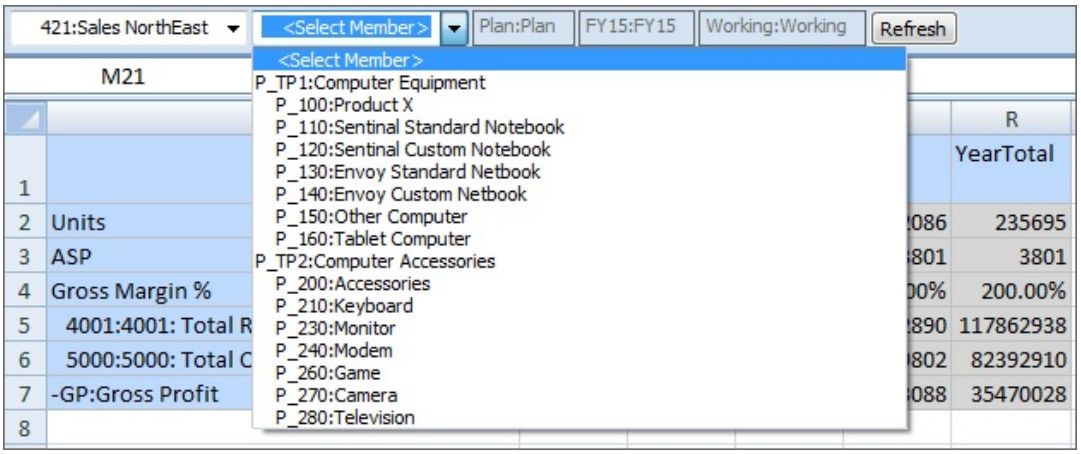
- Entity ディメンションで 403:Sales メンバーが選択されたとき、Product ディメンションのすべての製品が選択できます。例:



- Entity ディメンションで 410:International Sales メンバーが選択されたとき、P_260:Game、P_270:Camera、P_280:Television の各メンバーは選択できません。これら以外のすべてのメンバーは選択できます。例:



- Entity ディメンションで 421:Sales NorthEast メンバーが選択されたとき、P_220:Software Suite および P_250:Network Card の各メンバーは選択できません。これら以外のすべてのメンバーは選択できます。例:



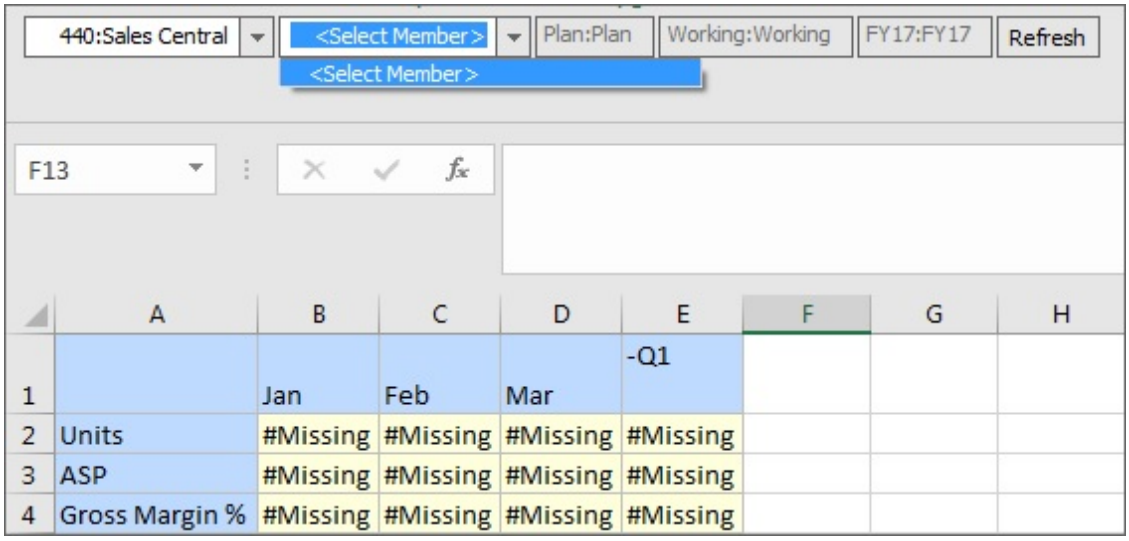
例 9-2 ページ・ドロップダウン・リストにメンバーがない場合の操作

図 5 に示すシナリオ(Product ディメンションのページ・ドロップダウン・リストから選択するメンバーがない状態)が発生するのにはいくつかのケースが考えられます。たとえば、Planning 管理者が次のように構成した場合です。

- 定義した有効な交差のルールで、440:Sales Central を Entity ディメンションで選択すると、Product ディメンションのメンバーが除外されます。
- 定義した有効な交差のルールで、440:Sales Central を Entity ディメンションで選択すると、P_260:Game、P_270:Camera および P_280:Television が除外されますが、フォームがそれら 3 メンバーのみに対して設計されています。

いずれのケースも、440:Sales Central が Entity で選択されると、ページ・ドロップダウン・リストで選択できる Product メンバーがなく、**<メンバーの選択>**のみが表示されます。

図 9-7 選択できるメンバーが含まれないページ・ドロップダウン・リスト



フォームでの有効な交差の使用

データ・ソース・タイプ: Planning

関連項目:

フォームでの有効な交差の使用

1. フォームを開きます。

   フォームは、ディメンションに対するユーザーのアクセス権に基づき、フォーム定義の指定に従ってメンバーが選択された状態でレンダリングされ、有効な交差グループが適用されます。また、最近使用された有効な交差が現在の選択肢として示されます。

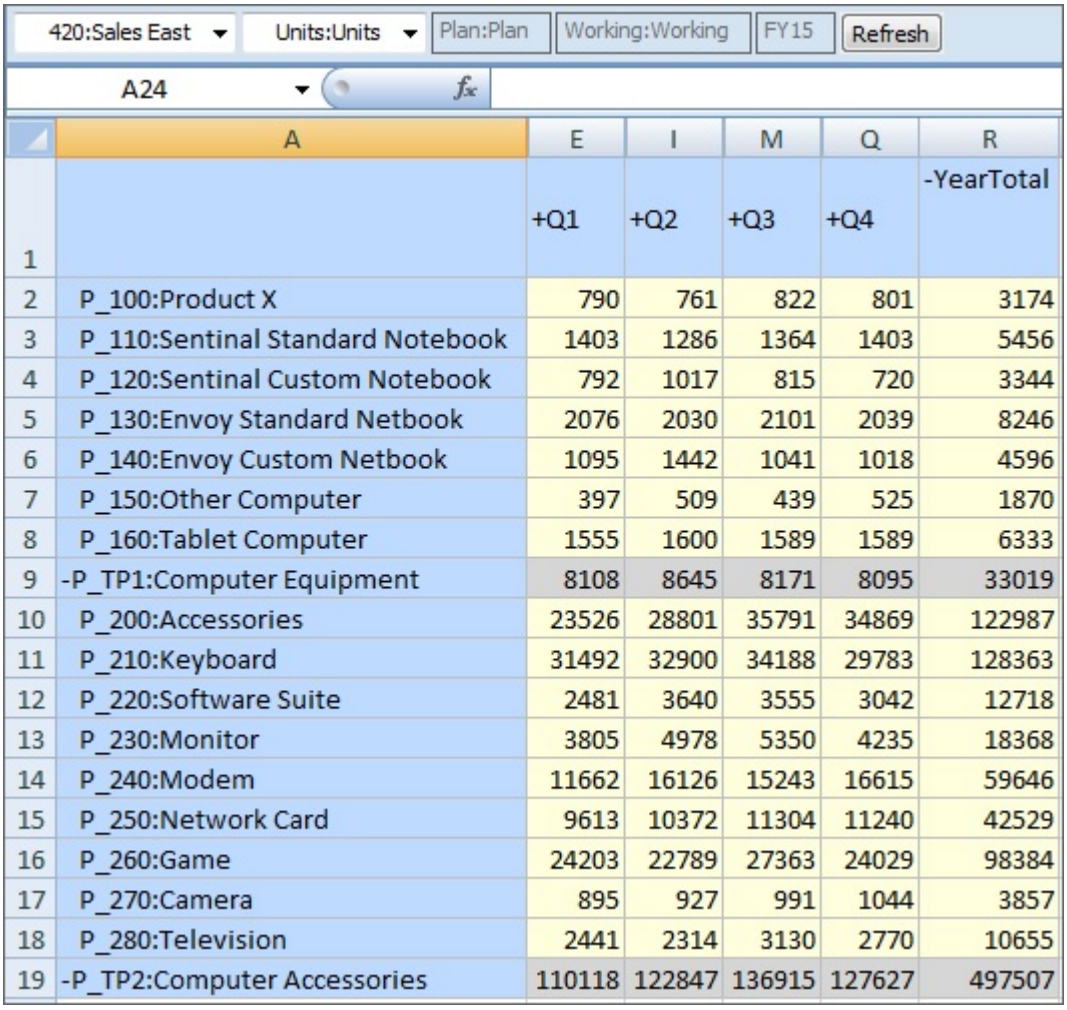
2. ページ・ドロップダウン・リストの一番下の**「<選択のクリア>」**オプションで、フォームが有効な交差に対応していることを確認します。

   ページ・ドロップダウン・リストでの有効な交差の使用を参照してください。

3. 有効な交差にある書込み可能セルにデータを入力して送信します。

   図 1 では、Entity ディメンションのメンバー 420:Sales East が選択されており、各製品のセルが書込み可能です。P_TP1:Computer Equipment および P_TP2:Computer Accessories のセルには書き込みできません。これらのセルでは製品セルのデータの合計がロールアップされるためです。

図 9-8 書込み可能なセルを含むフォーム(無効な交差なし)



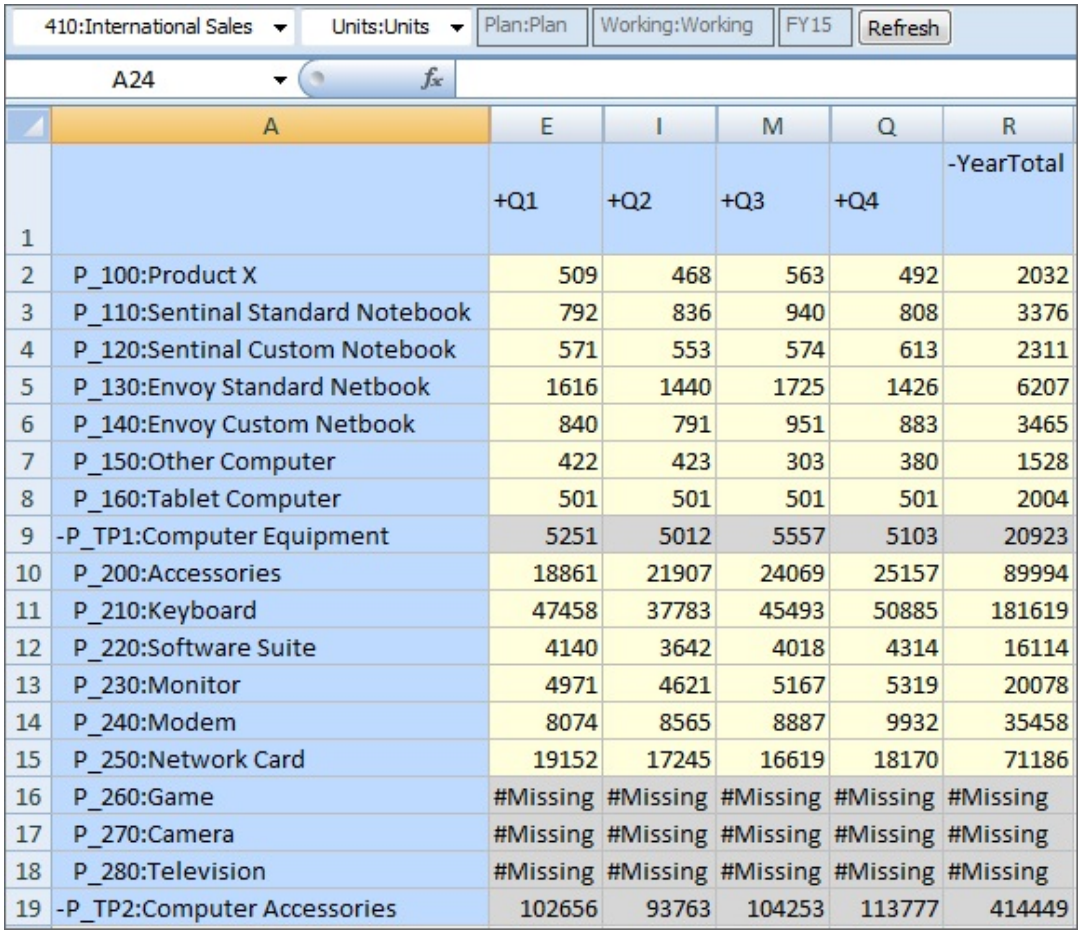
	A	E	I	M	Q	R
1		+Q1	+Q2	+Q3	+Q4	-YearTotal
2	P_100:Product X	790	761	822	801	3174
3	P_110:Sentinal Standard Notebook	1403	1286	1364	1403	5456
4	P_120:Sentinal Custom Notebook	792	1017	815	720	3344
5	P_130:Envoy Standard Netbook	2076	2030	2101	2039	8246
6	P_140:Envoy Custom Netbook	1095	1442	1041	1018	4596
7	P_150:Other Computer	397	509	439	525	1870
8	P_160:Tablet Computer	1555	1600	1589	1589	6333
9	-P_TP1:Computer Equipment	8108	8645	8171	8095	33019
10	P_200:Accessories	23526	28801	35791	34869	122987
11	P_210:Keyboard	31492	32900	34188	29783	128363
12	P_220:Software Suite	2481	3640	3555	3042	12718
13	P_230:Monitor	3805	4978	5350	4235	18368
14	P_240:Modem	11662	16126	15243	16615	59646
15	P_250:Network Card	9613	10372	11304	11240	42529
16	P_260:Game	24203	22789	27363	24029	98384
17	P_270:Camera	895	927	991	1044	3857
18	P_280:Television	2441	2314	3130	2770	10655
19	-P_TP2:Computer Accessories	110118	122847	136915	127627	497507

例 9-3 フォームでの有効な交差の使用

- ページ・ドロップダウン・リストでの有効な交差の使用の例と同様に、Entity ディメンションで 410:International Sales メンバーが選択されたとき、Product ディメンションのメンバー P_260:Game、P_270:Camera および P_280:Television は編集できません。図 2 では、それらの交差にあるセルに`#Missing`と表示され、編集できないことが示されます。

  フォームのその他のセルは編集可能で、有効な交差とみなされます。

図 9-9 3 つの製品の編集不可のセルを示すフォーム



410:International Sales | Units:Units | Plan:Plan | Working:Working | FY15 | Refresh

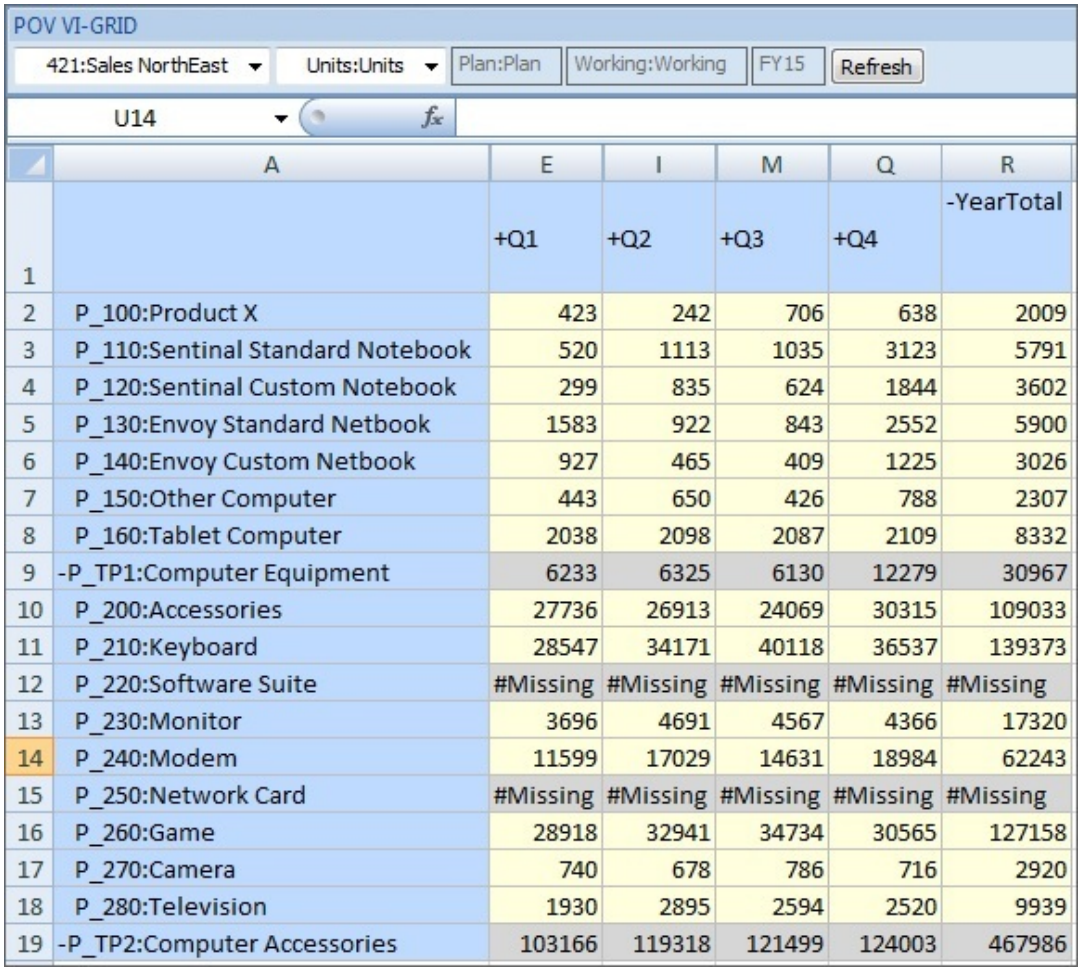
A24

	A	E	I	M	Q	R
1		+Q1	+Q2	+Q3	+Q4	-YearTotal
2	P_100:Product X	509	468	563	492	2032
3	P_110:Sentinal Standard Notebook	792	836	940	808	3376
4	P_120:Sentinal Custom Notebook	571	553	574	613	2311
5	P_130:Envoy Standard Netbook	1616	1440	1725	1426	6207
6	P_140:Envoy Custom Netbook	840	791	951	883	3465
7	P_150:Other Computer	422	423	303	380	1528
8	P_160:Tablet Computer	501	501	501	501	2004
9	-P_TP1:Computer Equipment	5251	5012	5557	5103	20923
10	P_200:Accessories	18861	21907	24069	25157	89994
11	P_210:Keyboard	47458	37783	45493	50885	181619
12	P_220:Software Suite	4140	3642	4018	4314	16114
13	P_230:Monitor	4971	4621	5167	5319	20078
14	P_240:Modem	8074	8565	8887	9932	35458
15	P_250:Network Card	19152	17245	16619	18170	71186
16	P_260:Game	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
17	P_270:Camera	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
18	P_280:Television	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
19	-P_TP2:Computer Accessories	102656	93763	104253	113777	414449

- ここでも、ページ・ドロップダウン・リストでの有効な交差の使用の例と同様に、Entity ディメンションで 421:Sales NorthEast メンバーが選択されたとき、Product ディメンションのメンバー P_220:Software Suite および P_250:Network Card は編集できません。図 2 では、それらの交差にあるセルに`#Missing` と表示され、編集できないことが示されます。

  フォームのその他のセルは編集可能で、有効な交差とみなされます。

図 9-10 2 つの製品の編集不可のセルを示すフォーム



POV VI-GRID

421:Sales NorthEast | Units:Units | Plan:Plan | Working:Working | FY15 | Refresh

U14

	A	E	I	M	Q	R
1		+Q1	+Q2	+Q3	+Q4	-YearTotal
2	P_100:Product X	423	242	706	638	2009
3	P_110:Sentinal Standard Notebook	520	1113	1035	3123	5791
4	P_120:Sentinal Custom Notebook	299	835	624	1844	3602
5	P_130:Envoy Standard Netbook	1583	922	843	2552	5900
6	P_140:Envoy Custom Netbook	927	465	409	1225	3026
7	P_150:Other Computer	443	650	426	788	2307
8	P_160:Tablet Computer	2038	2098	2087	2109	8332
9	-P_TP1:Computer Equipment	6233	6325	6130	12279	30967
10	P_200:Accessories	27736	26913	24069	30315	109033
11	P_210:Keyboard	28547	34171	40118	36537	139373
12	P_220:Software Suite	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
13	P_230:Monitor	3696	4691	4567	4366	17320
14	P_240:Modem	11599	17029	14631	18984	62243
15	P_250:Network Card	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
16	P_260:Game	28918	32941	34734	30565	127158
17	P_270:Camera	740	678	786	716	2920
18	P_280:Television	1930	2895	2594	2520	9939
19	-P_TP2:Computer Accessories	103166	119318	121499	124003	467986

フレックス・フォーム

次も参照:

- フレックス・フォームについて
  フレックス・フォームというフォーム・タイプを使用すると、Oracle Smart View for Office で柔軟に行および列を管理できます。
- フレックス・フォームの操作に関するベスト・プラクティス
  フレックス・フォームの操作に関するベスト・プラクティスおよびガイドラインが含まれています。
- Smart View でのフレックス・フォームの操作
  フレックス・フォームでは、行および列ディメンションを再配置し、ソートし、有効なメンバーまたは別名を対応するディメンションから挿入できます。
- アド・ホック・モードでフレックス・フォームを開いてデータを送信
  通常のフォームと同様に、アド・ホック・モードでフレックス・フォームを開き、アド・ホック分析を使用してグリッド・レイアウトを変更して、データを送信できます。

フレックス・フォームについて

フレックス・フォームというフォーム・タイプを使用すると、Oracle Smart View for Office で柔軟に行および列を管理できます。

データ・ソース・タイプ: Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting

フレックス・フォームには、フレックス・フォームに添付されたビジネス・ルールの実行など、通常のフォームのプロパティおよび機能がすべて保持されます。ただし、フレックス・フォームを使用すると、行および列メンバーの再配置、行や列のソートまたは移動を行うことができます。変更した行または列の順序は、リフレッシュしたとき、および送信中に維持されます。Excel のフィルタ処理機能を使用して、データをフィルタ処理することもできます。フレックス・フォーム内のディメンションおよびメンバーの行のセルおよびすべてのデータ・セルは保護されていません。フレックス・フォームの左上にある空白のセルのみが保護されています。

Web インタフェースで、フォーム定義中に管理者は、**「レイアウト」**タブの**「Smart View のオプション」**で、**行でのフレックス・フォームの有効化**、**列でのフレックス・フォームの有効化**またはその両方を選択して、フレックス・フォーム固有の機能を有効にします。

Smart View の**「シート情報」**ダイアログでは、フレックス・フォームの**「シート・タイプ」**は「フレックス・フォーム」として表示されます。フレックス・フォームはタスク・リストに含めることができ、タスク・リストからフレックス・フォームとして開くことができます。

> **ノート:**
>
> フレックス・フォームは Smart View でのみ使用され、Web インタフェースでは使用されません。

関連トピック:

- 要件
- ビデオ
- フレックス・フォームの操作に関するベスト・プラクティス

要件

- Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management 20.04 以上
- Smart View 11.1.2.5.910 以上
- 行および列の両方のメンバーを変更するには:
  - Cloud EPM 21.12 以上
  - Smart View 21.200 以上

ビデオ

目的	このビデオを見る
Cloud EPM でフレックス・フォームを有効にして操作する方法について学習	Fusion Cloud EPM でのフレックス・フォームの操作

フレックス・フォームの操作に関するベスト・プラクティス

フレックス・フォームの操作に関するベスト・プラクティスおよびガイドラインが含まれています。

Related Topics

- フレックス・フォームに関する一般的なガイドライン
- フレックス・フォームでのメンバーの選択
- フレックス・フォームでのフィルタおよびソート
- フレックス・フォームでの抑制オプションの使用
- フレックス・フォームでの共有メンバーと抑制オプションの操作
- フォーム定義を超えるフレックス操作
- フレックス・フォームでの無効なメンバーの保持
- フレックス・フォームに無効なメンバーが含まれているときのデータ送信
- フレックス・フォームでの式、ラベルおよびコメントの行および列の保持
- POV またはユーザー変数の変更後のフレックス・フォームでの変更されたメンバーの保持
- フレックス・フォームでのスマート・プッシュ
- フレックス・フォームでサポートされていない機能

フレックス・フォームに関する一般的なガイドライン

- フレックス・フォームの行および列の両方のメンバーを変更できます。
- フレックス・フォームに対する変更は、セッションをまたいで保持されません。
  ユーザーがフレックス・フォームを変更すると、変更されたグリッド・レイアウトは現在のセッションのコンテキストでのみ維持されます。フレックス・フォームを再度開くと、フレックス・フォームのレイアウトは元の状態に戻ります。
- Excel の右クリック・メニューにある**「挿入」**および**「削除」**オプションを使用して、フレックス・フォームで行および列を挿入および削除できます。
- アクセス権限の設定はフレックス・フォームにも適用されます。
- 有効な交差はフレックス・フォームにも適用されます。
- フレックス・フォームではビジネス・ルールを実行できます。
- 新しいディメンション・メンバー(オンザフライ・メンバー)を追加するためのビジネス・ルールまたは Groovy ルールがあるフレックス・フォームがフォームから実行された場合、リフレッシュ後に新しいメンバーはフレックス・フォームに表示されません。新しいメンバーをフレックス・フォームに表示するには、Smart View パネルからフレックス・フォームを再起動する必要があります。
- フレックス・フォームは、タスク・リストからフレックス・フォームとして開くことができます。
- フレックス・フォームでの分散のサポートは限定的です。
  分散がサポートされるのは、行に勘定科目ディメンションがあり、期間が列ディメンションで、期間列がフレックス・ディメンションでない場合のみです。

> **Note:**
>
> フォーム設計中は、Smart View オプション**「フレックス・フォームの無効なメンバーの表示」**を無効にする必要があります。

- **[Delete]**キーを使用して行および列を削除できます。ただし、複数のディメンションを含む行または列を削除する場合は、**[Delete]**を押す前に、行または列内のすべてのディメンション・メンバーを選択していることを確認してください。
  次の例では、フレックス・フォームに、アカウント、マーケットおよび年の 3 つの行ディメンションがあります:

  ```
  D-Acc US Market FY18

  D-Acc US Market FY19

  D-Acc US Market FY20
  ```

  [Delete]キーを使用して FY18 の行を削除するには、[Ctrl]キーまたは[Shift]キーを使用して D-Acc、US Market および FY18 の 3 つのディメンションをすべて 選択してから、[Delete]を押します。
- コピーおよび貼付けは、フォーム定義のスコープに制限されます。フレックス・フォームは、フォームで定義されているように階層に従う必要があります。したがって、フォームの定義された行または列メンバーに含まれないフレックス・フォーム・メンバーを持つことはできません。
- 小計計算スクリプトおよび通貨換算計算スクリプトは、元のフォーム定義に基づいて生成および実行されます。
- フォーム定義で、**「行のフレックス・フォームの有効化」**、**「列のフレックス・フォームの有効化」**またはその両方が選択されている場合、単純なフォームとして開いたフレックス・フォームは、リフレッシュ後にフォーム以外のセルにコメントを保持できます。
  ただし、フレックス・フォームとして開いた場合:
  - **「行のフレックス・フォームの有効化」**と**「列のフレックス・フォームの有効化」**の両方のオプションが選択されている場合、コメントは保持されません。
  - **「行のフレックス・フォームの有効化」**オプションのみが選択されている場合、フォームの右側に入力したコメントはリフレッシュ後に保持されます。コメントは、フォームの下に直接入力した場合は保持されません。
  - **「列のフレックス・フォームの有効化」**オプションのみが選択されている場合、フォームの下に入力したコメントはリフレッシュ後に保持されます。フォームの右側に入力したコメントは保持されません。
- フレックス・フォームでは、メンバーと別名の表示はサポートされていません:
  - ビジネス・プロセスのアプリケーション設定の**「メンバーのラベルの表示形式」**では、**「メンバー名:別名」**オプションと**「別名:メンバー名」**オプションはサポートされていません。
  - フォーム定義中に、**「ディメンション・プロパティ」**で、**「メンバー名」**と**「別名」**の両方のオプションを選択することは、フレックス・フォームではサポートされていません。**「メンバー名」**か**「別名」**のいずれかを選択します。
- 行または列に複数のディメンションがあるフレックス・フォームを操作する場合(複数のメンバーを含む 2 つ以上のディメンションが行または列に配置される場合):
  - 設計により、展開/縮小の**+**および**-**はフレックス・フォームではサポートされません。かわりに、右クリックして表示される「Smart View」コンテキスト・メニューの「展開/縮小」コマンドを使用します。

  - フォーム定義時にディメンション・メンバーを別々の行または列に配置するには、フレックス・フォームの**「メンバー選択」**で、**「選択内容を別々の行に配置」**または**「選択内容を別々の列に配置」**を選択します。*Planning の管理*のフォームのメンバーの選択に関する項を参照してください。

- ユーザーが、フレックス・フォームにすでに存在するメンバーの親または子であるメンバーを追加してリフレッシュすると、フォーム設計中にディメンション・プロパティ**「展開開始」**を選択した場合でも、子メンバーは縮小されます。ユーザーには、子メンバーが削除されたように見える場合がありますが、Smart View のコンテキスト・メニューで「展開/縮小」コマンドを使用して親を展開することによって、子メンバーを表示できます。
- フレックス・フォームで数値メンバー名または共有メンバーを入力する場合は、メンバー名の前に一重引用符(')を入力します。

  たとえば、4077 などの数値メンバー名の場合、次のように入力します:

  ```
  '4077
  ```

  共有メンバーの場合、メンバー名を次のフォーマットで入力します:

  ```
  '[Parent].[Shared Member]
  ```

  例:

  ```
  '[Sales Director 2].[410]
  ```

  ```
  '[Default_Sales Director 2].[Default_International Sales]
  ```

- フレックス対応のフォームをアド・ホック・モードで開くと、行ディメンションのインデントはデータの送信時に失われます。データをリフレッシュすると、インデントは通常に戻ります。
- フレックス・フォームの行および列では、ユーザー変数、動的ユーザー変数、属性がある動的ユーザー変数および代替変数がサポートされます。ユーザーは、POV で変数を変更し、行および列のリフレッシュを実行して、それらの行および列を新しいメンバーに更新する必要があります。
- 除外メンバーをフレックス・フォームの行または列で入力できます。フォーム定義で除外されるメンバーをフレックス・フォームの行で入力でき、ユーザーは値を入力して送信できます。
- フォーム定義で、**「行のフレックス・フォームの有効化」**、**「列のフレックス・フォームの有効化」**またはその両方が有効になっている場合、セグメント・プロパティの**「非表示」**および**「読取り専用」**は行または列のいずれに対してもサポートされません。**「非表示」**および**「読取り専用」**は単純なフォームでのみサポートされます。
- 管理者は、ビジネス・ルールを実行したり、フレックス・フォーム(または単純なフォーム)からフレックス・フォームまたは単純なフォームを開くようにアクション・メニューを構成できます。アクション・メニュー項目には、右クリックして表示される「Smart View」コンテキスト・メニューからアクセスします。アクション・メニュー項目は、フレックス・フォームのどこを右クリックしても表示されるように定義したり、特定のディメンション、メンバー、行、列、セルなどを右クリックすると表示されるように定義できます。

  POV ディメンションおよびページ・ディメンションについて Web アプリケーションで使用できる右クリック・メニューは、Oracle Smart View for Office のフレックス・フォームでは使用できません。

  *Planning の管理*で、フレックス・フォームのアクション・メニュー項目の設定については アクション・メニューの管理に関する項を参照してください。フレックス・フォームの追加情報は、フレックス・フォームの設計に関する項を参照してください。

フレックス・フォームでのメンバーの選択

ユーザーは、プロバイダのリボン(たとえば、Planning のリボン)から使用可能な**「メンバー選択」**ダイアログ・ボックスを使用して、行または列メンバーを選択してフレックス・フォームに追加できます。**「メンバー選択」**オプションはフレックス・フォームでのみ使用可能で、単純なフォームでは使用できません。

> **Note:**
>
> **「メンバー選択」**オプションは、Oracle Smart View for Office 21.100 以上で使用可能です。

アド・ホック・グリッドにメンバーを追加するのと同様に、**「メンバー選択」**ダイアログを使用してフレックス・フォームに行または列メンバーを追加します。追加できるメンバーは、行または列ディメンションの基礎となるフォーム定義によって異なります:

- **「ディメンション・プロパティ」**設定で**フォーム定義を超えてフレックス**が選択されている場合、ユーザーはフォーム定義で指定されているメンバー以外のメンバーを選択できます。たとえば、フォームに製品ディメンションから「コンピュータ・アクセサリ」メンバーのみ含まれているとします。製品ディメンションに対して**フォーム定義を超えてフレックス**が選択されている場合、ユーザーは「製品」の他のメンバー(ノートブック、タブレットなど)をフレックス・フォームに追加できます。これらのメンバーは、リフレッシュ時に保持されます。詳細は、フォーム定義を超えるフレックス操作を参照してください。
- フレックス・フォームのフォーム定義で、特定のメンバーがディメンションに含まれていない場合は、**「メンバー選択」**ダイアログでそれらのメンバーを選択して追加できても、リフレッシュ時にそれらのメンバーは削除されます。

> **Note:**
>
> フォーム定義以外のメンバーを追加するには、該当するディメンションで**フォーム定義を超えてフレックス**を有効にします。

「メンバー選択」では、アプリケーション・レベルで定義されたデフォルトの別名表が使用されます。メンバーがグリッドに挿入されると、リフレッシュが実行されるまでそのメンバーはメンバー名で表示され、その後、アプリケーション設定に応じて別名が表示されます。

フレックス・フォームでのフィルタおよびソート

- フィルタ処理では、特定の行が非表示になるのみであるため、**「データの送信」**は無効になりません。
- ソートでは、列内のメンバー順序が変わるため、**「データの送信」**は無効になります。ソート後にデータを送信するにはリフレッシュする必要があります。
- 望ましくないソート結果を避けるために、列全体にソートを適用しないでください。かわりに、ソートするグリッド・メンバーを選択し、Excel の「並べ替え」コマンド(「昇順」または「降順」)を使用するか、カスタム・ソートを実行します。
- 行または列ディメンションにフィルタを適用し、フィルタのドロップダウン・ダイアログ内でソートを適用した後は、ソート・インジケータ矢印がグリッド内のフィルタ・ボタン

上に表示されます。ただし、リフレッシュ後は、フィルタ・ボタン上のソート・インジケータ矢印は表示されなくなります。

- Excel のグループ化は、次の 2 つの場合に展開されます:
  - フィルタが使用されている場合。この場合、グループ化は行で展開されます。
  - **「列の幅と行の高さの調整」**が選択されている場合(**「オプション」**ダイアログの**「フォーマット」**タブ)

  Excel のグループ化を維持する場合は、フィルタや**「列の幅と行の高さの調整」**オプションを使用しないでください。Excel のグループ化の展開/縮小状態は、プログラムでは復元できません。フィルタが適用されている場合、または行の高さ/列の幅が自動的に調整されている場合は、Excel によってすべてが 自動的に展開されます。
- **列でのフレックス・フォームの有効化**オプションのみが有効になっているフレックス・フォームでは、Excel のソートとフィルタ操作が有効になります。ただし、行では Flex が有効になっていないため、ソートを行うと「無効な選択」というエラーが発生します。

フレックス・フォームでの抑制オプションの使用

- フォーム・デザイナでは、**「データベース抑制の使用」**オプションはサポートされていませんが、**「欠落ブロックの抑制」**、**「欠落データの抑制 - 行」**および**「欠落データの抑制 - 列」**オプションはサポートされています。

> **Note:**
>
> Groovy ルールは、抑制オプションが有効になっている場合、フレックス・フォームではサポートされません。

- フレックス・フォームについて Web で定義された**「欠落ブロックの抑制」**、**「欠落データの抑制 - 行」**および**「欠落データの抑制 - 列」**オプションは、Oracle Smart View for Office で最初にフレックス・フォームを開いたときにのみ適用されます。フォーム定義に応じて、フレックス・フォームのユーザーは、Web フォームで抑制オプションが有効になっている場合でも、列または行にメンバーを入力できます。抑制されたメンバーに対するデータ入力とデータ送信も実行できます。
  Smart View の**「オプション」**ダイアログの**「データ・オプション」**タブにある抑制オプション**「欠落ブロックの抑制」**、**「欠落した行の非表示」**および**「欠落した列の抑制」**が選択されている場合、それらのオプションはフレックス・フォームに適用されます。ユーザーは Smart View でこれらのオプションの選択を解除した後、メンバーの追加(シートに入力するか、**「メンバー選択」**を使用)、データの入力、データの送信、およびフレックス・フォームのリフレッシュを実行できます。

フレックス・フォームでの共有メンバーと抑制オプションの操作

フォームの設計時は、次のシナリオを検討してください:

1. 共有メンバーが行、列または両方にある
2. **「共有メンバーのドリル」**が有効
3. **「欠落ブロックの抑制」**および**「欠落データの抑制」**が有効

フォームを開くと、共有メンバーが基本メンバーに変換され、問合せは基本メンバーに基づいて行われます。

フレックス・フォーム(**「行のフレックス・フォームの有効化」**、**「列のフレックス・フォームの有効化」**、またはその両方が選択されている)として開くと、基本メンバーはフォーム定義を超えるため、それがフレックス・フォームの行または列の唯一のメンバーである場合は、次のエラーが表示されます:

FlexForm を勘定科目ディメンションの有効なメンバーなしでリフレッシュまたは保存することはできません。

行または列に他の有効なメンバーがあり、**「フレックス・フォームの無効なメンバーの表示」**オプションが有効になっている場合、基本メンバーはコメントになります。

回避策: このエラーを回避するには、次の回避策のいずれかまたは両方を使用します:

- **「フォーム定義を超えるフレックス」**オプションを有効にします。
- **「共有メンバーのドリル」**オプションの選択を解除します。

フォーム定義を超えるフレックス操作

フォーム定義時に、**「フォーム定義を超えるフレックス」**プロパティをフレックス・フォームの行または列のディメンションに適用すると、Oracle Smart View for Office ユーザーは、フォームの行または列軸内のディメンションに対するフォーム定義以外のメンバーを入力できます。これにより、フレックス・フォーム・ユーザーは、フレックス・フォームに表示されていないメンバーのデータを入力できます。ユーザーには、入力する有効なメンバーへのアクセス権が必要です。

たとえば、Vision アプリケーションを使用して、製品ディメンションが行ディメンションとしてフレックス・フォームに配置されているとします。フォーム定義時に、フォームに表示する対象として製品ディメンションの Sentinal Standard Notebook および Sentinal Custom Notebook メンバーのみ選択されました。製品ディメンションに対して**フォーム定義を超えてフレックス**・オプションを有効にすると、Smart View ユーザーは、フレックス・フォームの行に製品ディメンションの他の製品(マウス、キーボードなど)を入力できます。メンバーへのアクセス権があるかぎり、ユーザーは追加メンバー用の行を既存のフレックス・フォームに追加するか、または既存の製品メンバーを必要な製品メンバーに置換できます。説明のために、次の階層に注目してください:

```
Product
   Notebooks  <<this hierarchy is displayed in flex form)
      Sentinal Standard Notebook
      Sentinal Custom Notebook
   Computer Accessories  <<this hierarchy is not displayed in flex form)
      Keyboard
      Mouse
```

フォーム定義を超えてフレックスが無効(未選択)になっているフレックス・フォームでは、ユーザーはコンピュータ・アクセサリまたはその子孫を追加できません。ユーザーはノート・ブックとその子孫を追加できます。

フォーム定義を超えてフレックスが有効(選択済)になっているフレックス・フォームでは、ユーザーはノートブックとその子孫に加えて、コンピュータ・アクセサリとその子孫を追加できます。

フォーム定義時に、**フォーム定義を超えてフレックス**・プロパティを有効にする場合は、次の点に注意してください:

- **「ディメンション・プロパティ」**で、**フォーム定義を超えてフレックス**・オプションが表示されるのは、**「行のフレックス・フォームの有効化」**、**「列のフレックス・フォームの有効**

化」オプションのいずれか、または両方が**「Smart View のオプション」**で選択されている場合のみです。

- フォーム行に複数のディメンションがある場合は、適用可能な行または列ディメンションごとに**フォーム定義を超えてフレックス**・プロパティを個別に選択することをお薦めします。**「ディメンション・プロパティ」**オプションの**「すべての行ディメンションに適用」**、**「すべての列ディメンションに適用」**、**「すべてのページ・ディメンションに適用」**を使用して、**フォーム定義を超えてフレックス**・プロパティをすべてのディメンションに 適用できます。ただし、他のすべてのディメンション・プロパティ選択内容は、他のすべてのディメンションにも適用されることに注意してください。

*Planning の管理*のフレックス・フォームの設計に関する項を参照してください。

フレックス・フォームでの無効なメンバーの保持

フレックス・フォームでは、リフレッシュ後にシートの無効なメンバーを保持できます。

フレックス・フォームにメンバー名を入力する際は、たとえば、次のようにエラーが発生することがあります:

- 名前の入力ミスまたはスペルミスによって、セルに無効なメンバーが作成されます
  メンバー名のスペスミスの例を参照してください。
- 特定のシートから別のシートに、または同じシート内で、メンバー名をコピーして貼り付けるときにエラーが発生すると、無効なメンバーが作成されます
  複数ディメンション行でのメンバー名の欠落の例を参照してください
- フォーム定義を超えるメンバー名を入力すると、無効なメンバーが作成されます
  フォーム定義外で入力されたメンバー名の例を参照してください

このような状況が発生した場合、23.07 より前は、無効なメンバーを含む行または列がリフレッシュ時にシートから削除されたため、何が問題かを把握するのが困難であり、メンバー名を再入力する必要がありました。

23.07 更新以降、フレックス・フォームでは、リフレッシュ後にフォームの無効なメンバーを保持できるようになりました。そのためには、無効なメンバー・オプションの有効化で説明しているように、Cloud EPM サービス管理者がフォーム定義の**「レイアウト」**タブの**「Smart View のオプション」**にある**「フレックス・フォームの無効なメンバーの表示」**チェック・ボックスを選択します。

Note:

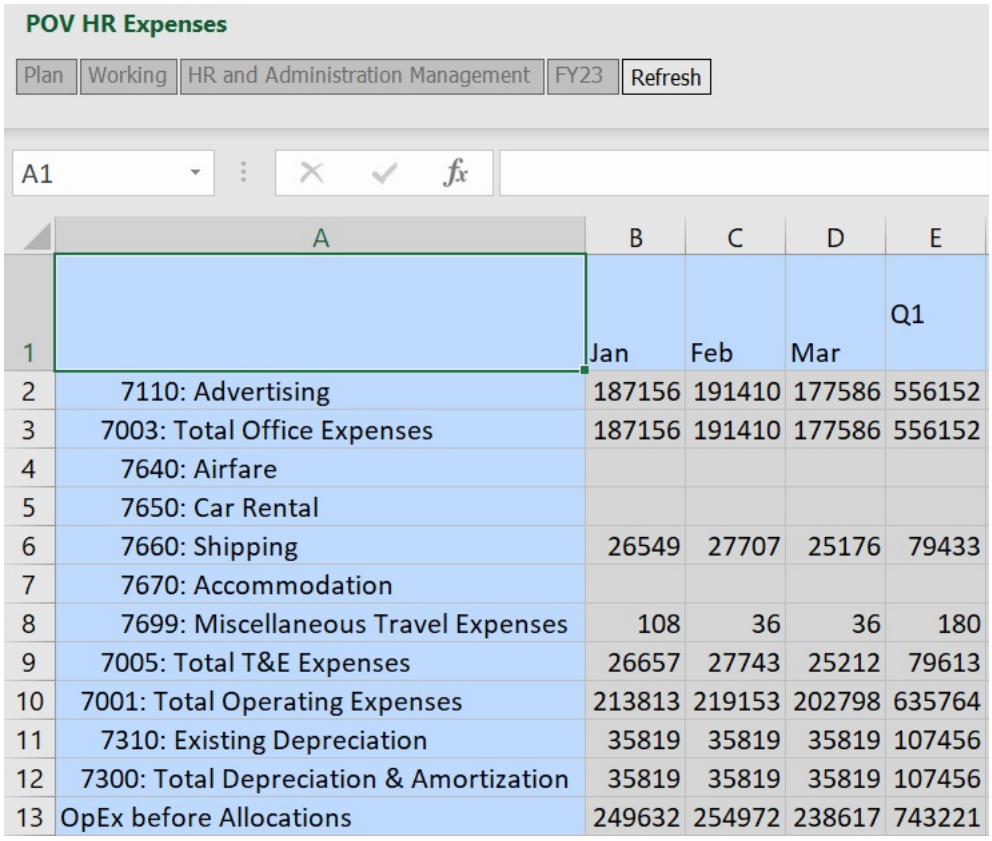
- **「フレックス・フォームの無効なメンバーの表示」**チェック・ボックスは、**「行のフレックス・フォームの有効化」**または**「列のフレックス・フォームの有効化」**、あるいはその両方が有効な場合にのみ有効になります。
- 複数のディメンションを含む行と列では、1 つのメンバーのみが無効な場合も、その行または列のすべてのメンバーが無効として強調表示されます。たとえば、行に *Tablet* メンバーと *Current* メンバーが含まれる場合に、*Tablet* と正しく入力した一方で、誤って *Currnt* と入力すると、Tablet メンバーと Currnt メンバーの両方が無効として強調表示されます。強調表示されているすべてのメンバー名を調べて、正しく入力されていないメンバー名を修正する必要があります。
- フレックス・フォームに空白の行または列を挿入し、**「リフレッシュ」**をクリックした後、メンバー名が入力されていない場合、挿入した行または列は、無効なメンバー行またはメンバー列として強調表示され、フレックス・フォームに空白の行または列として残ります。
- 行または列の無効なメンバー・セルを選択して**[Delete]**キーを押すことで、行または列全体を削除しようとすると、リフレッシュ時にメンバー・セルに無効なメンバーが表示されます。フレックス・フォームの行全体または列全体を削除するには、Excel で**行全体を削除**または**列全体を削除**する操作を使用します。

次に、シートの無効なメンバーを操作する方法を示すいくつかのシナリオ例を示します。

メンバー名のスペスミスの例

たとえば、HR Expenses という Vision アプリケーション・フォームに基づいて、フォームをフレックス・フォームとして開きます。サービス管理者が、Smart View のオプション「行のフレックス・フォームの有効化」と「フレックス・フォームの無効なメンバーの表示」を有効にしました。

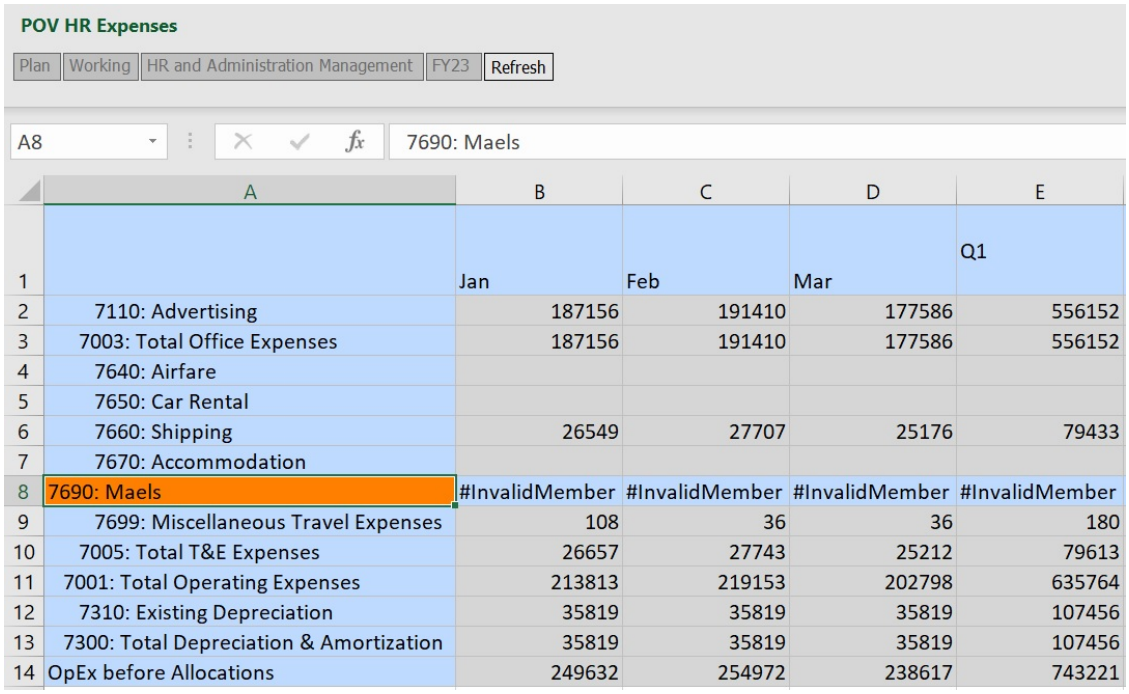
Figure 9-11　"7690: Meals"メンバーが含まれていないフレックス・フォーム



	A	B	C	D	E
1		Jan	Feb	Mar	Q1
2	7110: Advertising	187156	191410	177586	556152
3	7003: Total Office Expenses	187156	191410	177586	556152
4	7640: Airfare				
5	7650: Car Rental				
6	7660: Shipping	26549	27707	25176	79433
7	7670: Accommodation				
8	7699: Miscellaneous Travel Expenses	108	36	36	180
9	7005: Total T&E Expenses	26657	27743	25212	79613
10	7001: Total Operating Expenses	213813	219153	202798	635764
11	7310: Existing Depreciation	35819	35819	35819	107456
12	7300: Total Depreciation & Amortization	35819	35819	35819	107456
13	OpEx before Allocations	249632	254972	238617	743221

フォームに"7690: Meals"メンバーがないことに気付き、それを追加することにしました。グリッドに行を挿入して入力を開始しましたが、スペルを間違えました。「リフレッシュ」をクリックすると、Smart View で行がコールアウトされ、メンバー・セルが強調表示されてデータ・セルに#InvalidMember が表示されます。

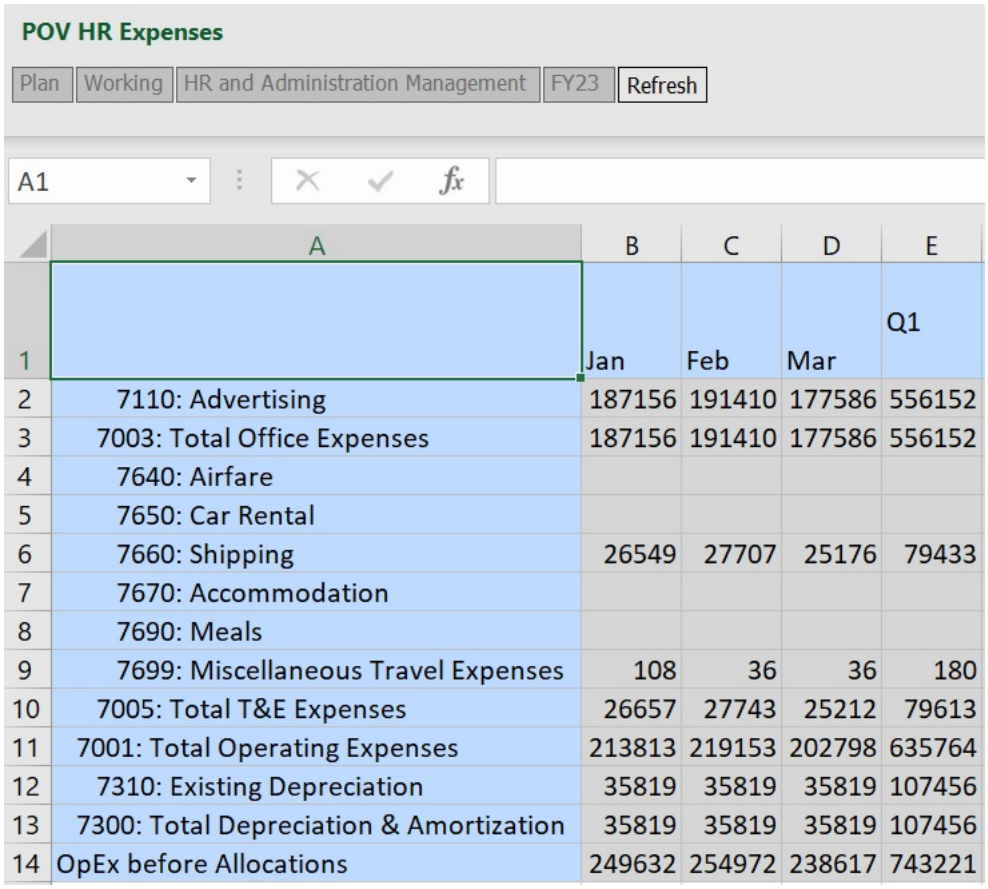
Figure 9-12　無効なメンバー行が強調表示されているフレックス・フォーム



	A	B	C	D	E
1		Jan	Feb	Mar	Q1
2	7110: Advertising	187156	191410	177586	556152
3	7003: Total Office Expenses	187156	191410	177586	556152
4	7640: Airfare				
5	7650: Car Rental				
6	7660: Shipping	26549	27707	25176	79433
7	7670: Accommodation				
8	7690: Maels	#InvalidMember	#InvalidMember	#InvalidMember	#InvalidMember
9	7699: Miscellaneous Travel Expenses	108	36	36	180
10	7005: Total T&E Expenses	26657	27743	25212	79613
11	7001: Total Operating Expenses	213813	219153	202798	635764
12	7310: Existing Depreciation	35819	35819	35819	107456
13	7300: Total Depreciation & Amortization	35819	35819	35819	107456
14	OpEx before Allocations	249632	254972	238617	743221

スペルミスを修正した後、「リフレッシュ」をクリックすると、フレックス・フォームが有効なメンバー名とデータで正しく表示されます。

Figure 9-13　エラーが修正され、有効なメンバーが表示されているフレックス・フォーム

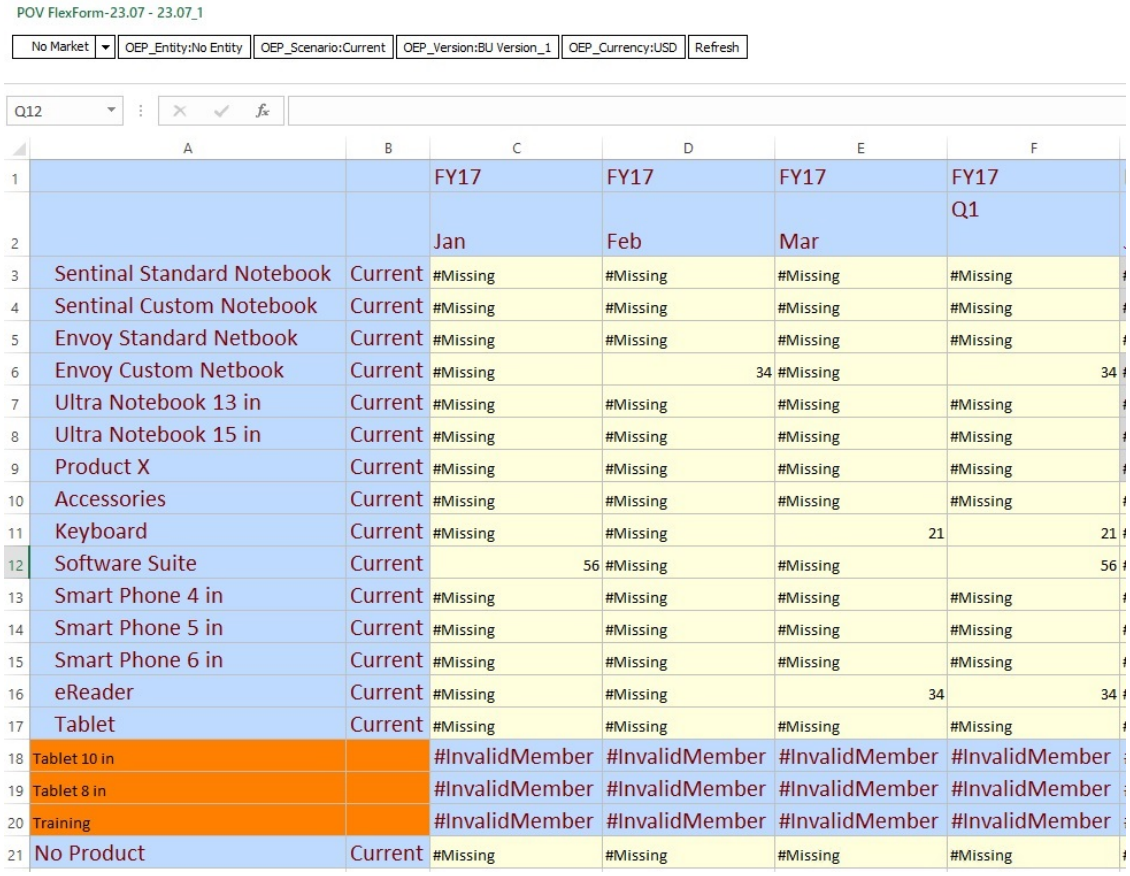


	A	B	C	D	E
1		Jan	Feb	Mar	Q1
2	7110: Advertising	187156	191410	177586	556152
3	7003: Total Office Expenses	187156	191410	177586	556152
4	7640: Airfare				
5	7650: Car Rental				
6	7660: Shipping	26549	27707	25176	79433
7	7670: Accommodation				
8	7690: Meals				
9	7699: Miscellaneous Travel Expenses	108	36	36	180
10	7005: Total T&E Expenses	26657	27743	25212	79613
11	7001: Total Operating Expenses	213813	219153	202798	635764
12	7310: Existing Depreciation	35819	35819	35819	107456
13	7300: Total Depreciation & Amortization	35819	35819	35819	107456
14	OpEx before Allocations	249632	254972	238617	743221

複数ディメンション行でのメンバー名の欠落の例

行または列に複数のメンバーがあり、その行または列のメンバー・セルにメンバーを入力し忘れると、Smart View のフレックス・フォームに#InvalidMember が表示されます。次の例では、行に 2 つのディメンションがあります。行 17 の後に 3 つの行を追加しました。列 A の行 18、19 および 20 の Product ディメンションのメンバーは正しく入力されました。しかし、列 B の同じ行には何も入力しませんでした。これらのセルには、Scenario ディメンションのメンバー名がありません。**「リフレッシュ」**をクリックした後の結果は、次のようになります。

Figure 9-14　列 B の行 18、19 および 20 のメンバー名が欠落しているフレックス・フォーム



	A	B	C	D	E	F
1			FY17	FY17	FY17	FY17
2			Jan	Feb	Mar	Q1
3	Sentinal Standard Notebook	Current	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
4	Sentinal Custom Notebook	Current	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
5	Envoy Standard Netbook	Current	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
6	Envoy Custom Netbook	Current	#Missing	34	#Missing	34
7	Ultra Notebook 13 in	Current	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
8	Ultra Notebook 15 in	Current	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
9	Product X	Current	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
10	Accessories	Current	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
11	Keyboard	Current	#Missing	#Missing	21	21
12	Software Suite	Current	56	#Missing	#Missing	56
13	Smart Phone 4 in	Current	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
14	Smart Phone 5 in	Current	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
15	Smart Phone 6 in	Current	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
16	eReader	Current	#Missing	#Missing	34	34
17	Tablet	Current	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
18	Tablet 10 in		#InvalidMember	#InvalidMember	#InvalidMember	#InvalidMember
19	Tablet 8 in		#InvalidMember	#InvalidMember	#InvalidMember	#InvalidMember
20	Training		#InvalidMember	#InvalidMember	#InvalidMember	#InvalidMember
21	No Product	Current	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing

この問題を修正するには、列 B の行 18、19 および 20 に"Current"メンバーを追加し、**「リフレッシュ」**をクリックします。

フォーム定義外で入力されたメンバー名の例

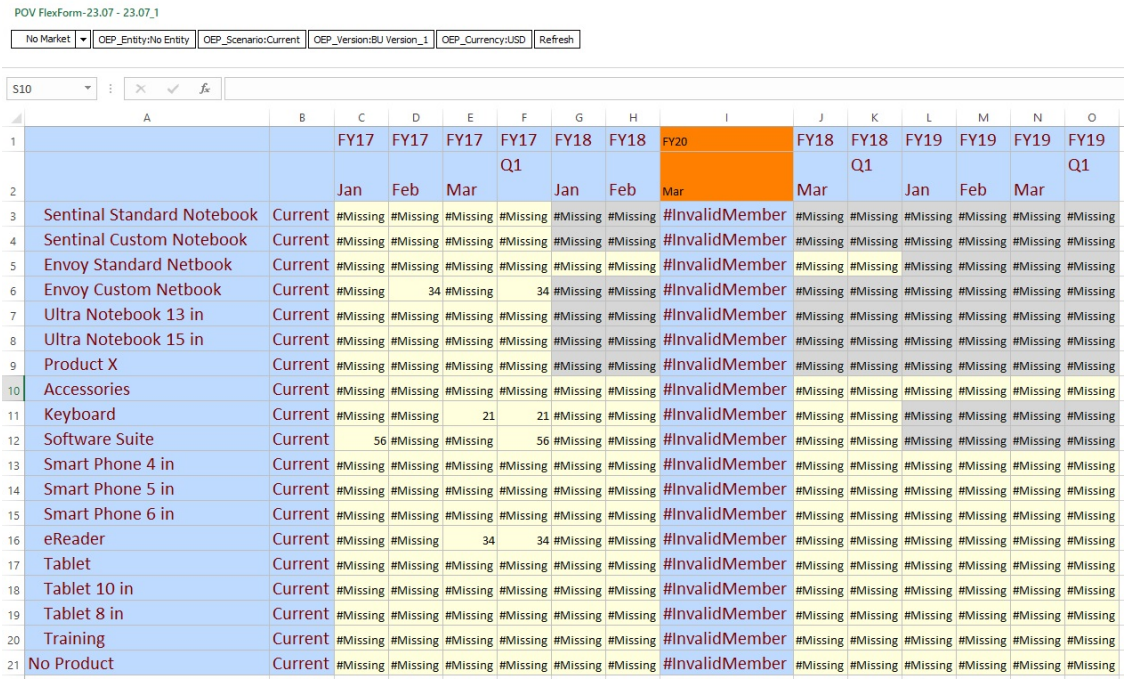
フォーム定義を超えるメンバーを入力すると、Smart View のフレックス・フォームに #Invalidmember が表示されます。

たとえば、フォームで年ディメンションが FY17、FY18 および FY19 に制限されているとします。しかし、アプリケーションのアウトラインには、ディメンションに FY20、FY21、FY22、FY23 など、さらに多くのメンバーが含まれています。

フレックス・フォームを設計する際に、サービス管理者が年ディメンションに対して「フォーム定義を超えるフレックス」オプションを選択した場合は、FY20 など、フォーム定義外のメンバーを追加できます。「フォーム定義を超えるフレックス」オプションが選択されていない場合は、フォーム定義外のメンバーを追加すると、メンバーがアウトラインに存在する場合でも、無効なメンバーが作成されます。

次のケースでは、列の年ディメンションに対して「フォーム定義を超えるフレックス」オプションは選択されていません。列を追加して、FY20 と入力し、「リフレッシュ」をクリックします。列 I の下に無効なメンバーが表示されます。

Figure 9-15　「フォーム定義を超えるフレックス」が未選択で、メンバーがフォーム定義外の場合



POV FlexForm-23.07 - 23.07_1

No Market | OEP_Entity:No Entity | OEP_Scenario:Current | OEP_Version:BU Version_1 | OEP_Currency:USD | Refresh

S10

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
1			FY17	FY17	FY17	FY17	FY18	FY18	FY20	FY18	FY18	FY19	FY19	FY19	FY19
2			Jan	Feb	Mar	Q1	Jan	Feb	Mar	Mar	Q1	Jan	Feb	Mar	Q1
3	Sentinal Standard Notebook	Current	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#InvalidMember	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
4	Sentinal Custom Notebook	Current	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#InvalidMember	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
5	Envoy Standard Netbook	Current	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#InvalidMember	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
6	Envoy Custom Netbook	Current	#Missing	34	#Missing	34	#Missing	#Missing	#InvalidMember	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
7	Ultra Notebook 13 in	Current	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#InvalidMember	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
8	Ultra Notebook 15 in	Current	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#InvalidMember	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
9	Product X	Current	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#InvalidMember	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
10	Accessories	Current	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#InvalidMember	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
11	Keyboard	Current	#Missing	#Missing	21	21	#Missing	#Missing	#InvalidMember	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
12	Software Suite	Current	56	#Missing	#Missing	56	#Missing	#Missing	#InvalidMember	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
13	Smart Phone 4 in	Current	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#InvalidMember	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
14	Smart Phone 5 in	Current	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#InvalidMember	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
15	Smart Phone 6 in	Current	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#InvalidMember	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
16	eReader	Current	#Missing	#Missing	34	34	#Missing	#Missing	#InvalidMember	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
17	Tablet	Current	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#InvalidMember	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
18	Tablet 10 in	Current	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#InvalidMember	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
19	Tablet 8 in	Current	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#InvalidMember	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
20	Training	Current	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#InvalidMember	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
21	No Product	Current	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#InvalidMember	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing

これを修正するには、サービス管理者が年ディメンションに対して**「フォーム定義を超えるフレックス」**オプションを選択する必要があります。このオプションが選択されていると、フォーム定義外のメンバーを入力して**「リフレッシュ」**をクリックしても、フレックス・フォームのメンバーが保持されます。

無効なメンバー・オプションの有効化

「フレックス・フォームの無効なメンバーの表示」チェック・ボックスを選択すると、ユーザーは、フレックス・フォームにメンバー名を入力する際に発生した可能性のあるエラーを簡単に確認、理解および修正できるようになります。

フレックス・フォームに無効なメンバーを保持するには、サービス管理者が Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management Web インタフェースで次のステップを実行します:

1. ナビゲータの**「作成および管理」**で、**「フォーム」**をクリックします。
2. 編集する既存のフォームを選択するか、**フォームとアド・ホック・グリッドの管理**ページで、**「アクション」**ドロップダウン・メニューをクリックして**「単一のフォームの作成」**をクリックします。
3. フォーム定義ページの**「レイアウト」**タブの**「Smart View のオプション」**で、必要に応じて**「行のフレックス・フォームの有効化」**および**「列のフレックス・フォームの有効化」**チェック・ボックスを選択します。これらのオプションの一方または両方を選択できます。
4. **「フレックス・フォームの無効なメンバーの表示」**チェック・ボックスを選択します。このオプションは、前述のステップの説明に従って行または列のフレックス・オプションが選択されている場合にのみ表示されます。
5. オプションで、個々の行または列に対して、**「ディメンション・プロパティ」**の**「フォーム定義を超えるフレックス」**オプションを必要に応じて有効にします。

6. フォームを保存します。

このオプションの設定の詳細は、次を参照してください:

- *フリーフォームの管理*
  - フレックス・フォームの設計
  - Smart View のフォーム・オプションの設定
  - ディメンション・プロパティの設定
- *Planning の管理*
  - フレックス・フォームの設計
  - Smart View のフォーム・オプションの設定
  - ディメンション・プロパティの設定

フレックス・フォームに無効なメンバーが含まれているときのデータ送信

フレックス・フォームでは、プロバイダ・リボン(Planning リボンなど)の**「リフレッシュせずにデータを送信」**アクションを使用することで、シートに無効なメンバーがあっても、データを送信できます。

> **Note:**
>
> 無効なメンバーを含むフレックス・フォームで**「リフレッシュせずにデータを送信」**オプションを使用するには、サービス管理者またはフォーム設計者は、フォームの設計時に**「フレックス・フォームの無効なメンバーの表示」**オプションを選択する必要があります。これについては、無効なメンバー・オプションの有効化に記載されています。
>
> **「リフレッシュせずにデータを送信」**を使用した無効なメンバーを含むフレックス・フォームでのデータ送信のサポートには、Oracle Smart View for Office 24.200 と Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management 24.10 が必要です。

無効なメンバーを含むフレックス・フォームでデータを送信するには:

1. フレックス・フォームに対し、**「フレックス・フォームの無効なメンバーの表示」**が有効であることを確認します。
2. プロバイダ・リボンから、**「データの送信」**、**「リフレッシュせずにデータを送信」**の順に選択します。

> **Note:**
>
> **「データの送信」**アクションは、グレー表示されるか無効になって表示されます。しかし、**「データの送信」**の横の下向き矢印を選択し、ドロップダウン・メニューを表示して、**「リフレッシュせずにデータを送信」**オプションが有効であることを確認できます

「リフレッシュせずにデータを送信」の使用に関する詳細は、次を参照してください:

- フレックス・フォームの無効なメンバーの表示を有効にした例

- フレックス・フォームの無効なメンバーの表示が選択解除された例

無効なメンバーの操作に関する詳細は、フレックス・フォームでの無効なメンバーの保持を参照してください。

フレックス・フォームの無効なメンバーの表示を有効にした例

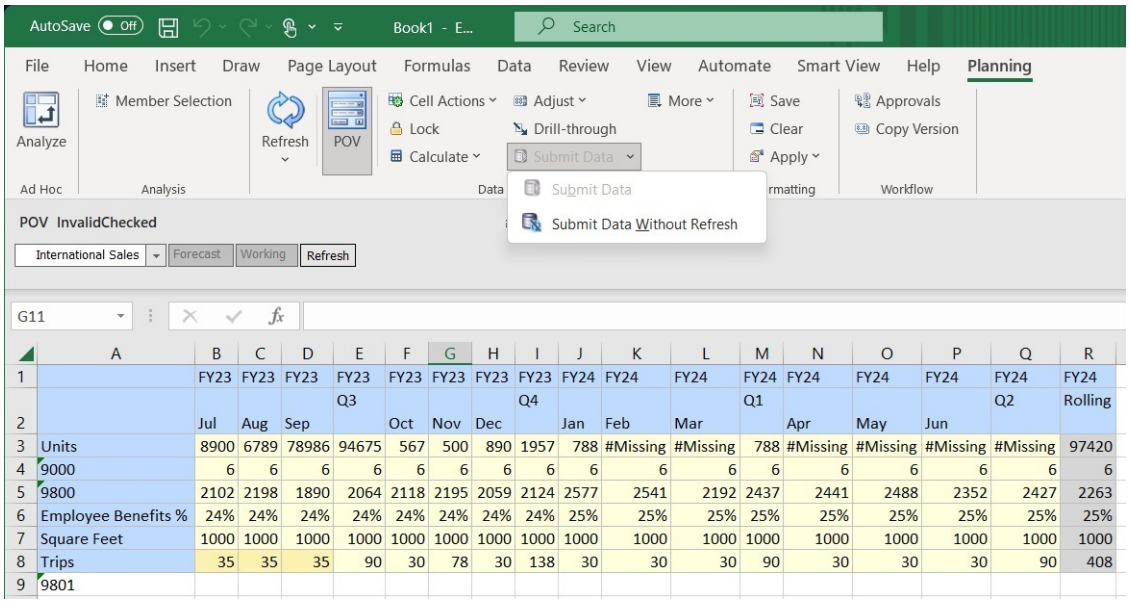
この例では、**「フレックス・フォームの無効なメンバーの表示」**オプションが、フォームに対して有効になっています。

図 1 の行 8 のメンバー"Trips"に、7 月、8 月、9 月のデータを B8、C8、D8 の各セルに入力しました。セルは使用済で、送信する準備ができています。

行 9 にメンバーを入力しましたが、メンバー名がわからないため、「9801」と入力しました。

「データの送信」オプションはグレー表示されますが、下向き矢印をクリックすると、**「リフレッシュせずにデータを送信」**オプションが有効になっていることがわかります。

Figure 9-16　使用済のセルが表示されメンバーが追加されたフレックス・フォーム

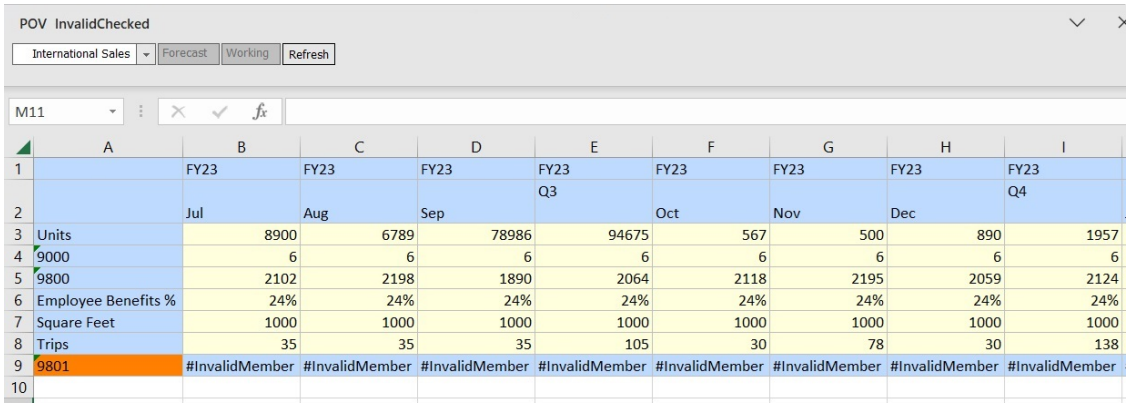


	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R
1		FY23	FY23	FY23	FY23	FY23	FY23	FY23	FY23	FY24	FY24	FY24	FY24	FY24	FY24	FY24	FY24	FY24
2		Jul	Aug	Sep	Q3	Oct	Nov	Dec	Q4	Jan	Feb	Mar	Q1	Apr	May	Jun	Q2	Rolling
3	Units	8900	6789	78986	94675	567	500	890	1957	788	#Missing	#Missing	788	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	97420
4	9000	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
5	9800	2102	2198	1890	2064	2118	2195	2059	2124	2577	2541	2192	2437	2441	2488	2352	2427	2263
6	Employee Benefits %	24%	24%	24%	24%	24%	24%	24%	24%	25%	25%	25%	25%	25%	25%	25%	25%	25%
7	Square Feet	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
8	Trips	35	35	35	90	30	78	30	138	30	30	30	90	30	30	30	90	408
9	9801																	

「リフレッシュせずにデータを送信」オプションを選択することで、使用済セルを送信し、メンバー 9801 が正しいかどうかを検証できます。図 2 に結果が示されています。行 8 の"Trips"メンバーのデータ値に、変更された値が表示されています。行 9 のメンバー"9801"が、オレンジに強調表示されており、その行のデータ・セルに#InvalidMember 記述が含まれています。

無効なメンバーを修正するには、セル A9 にメンバー名を再入力するか、**「メンバー選択」**ダイアログを使用して正しいメンバーを見つけます。

Figure 9-17　リフレッシュせずにデータを送信した後のフレックス・フォームに表示された、更新済データ値、無効なメンバーおよびデータ・セル



	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1		FY23	FY23	FY23	FY23	FY23	FY23	FY23	FY23
2		Jul	Aug	Sep	Q3	Oct	Nov	Dec	Q4
3	Units	8900	6789	78986	94675	567	500	890	1957
4	9000	6	6	6	6	6	6	6	6
5	9800	2102	2198	1890	2064	2118	2195	2059	2124
6	Employee Benefits %	24%	24%	24%	24%	24%	24%	24%	24%
7	Square Feet	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
8	Trips	35	35	35	105	30	78	30	138
9	9801	#InvalidMember	#InvalidMember	#InvalidMember	#InvalidMember	#InvalidMember	#InvalidMember	#InvalidMember	#InvalidMember
10									

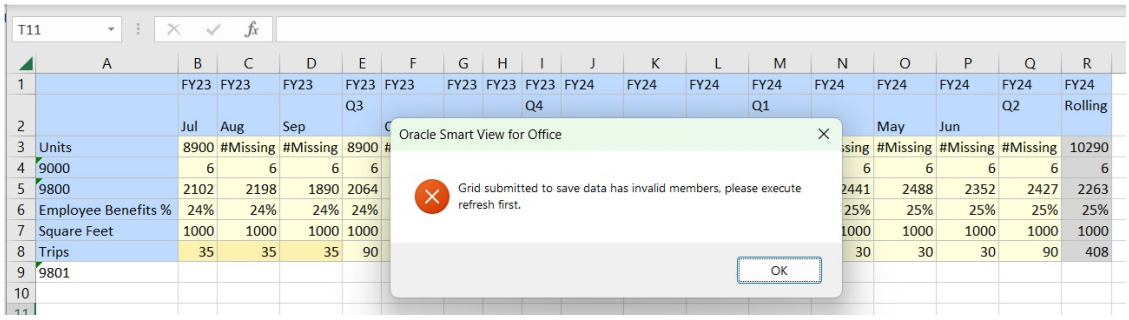
フレックス・フォームの無効なメンバーの表示が選択解除された例

この例では、フォームの**「フレックス・フォームの無効なメンバーの表示」**オプションが、フォームに対して選択解除されています。

図 3 に、図 1 で作成されたシートと同じ変更を加えました。

ここで、**「リフレッシュせずにデータを送信」**アクションを使用しようとすると、シートに無効なメンバーが含まれているため、シートをリフレッシュする必要があることを通知するメッセージが表示されます。

Figure 9-18　フォームの「フレックス・フォームの無効なメンバーの表示」オプションが有効になっていないときに表示されるメッセージ



	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R
1		FY23	FY23	FY23	FY23	FY23	FY23	FY23	FY23	FY24	FY24	FY24	FY24	FY24	FY24	FY24	FY24	FY24
2		Jul	Aug	Sep	Q3				Q4				Q1		May	Jun	Q2	Rolling
3	Units	8900	#Missing	#Missing	8900									sing	#Missing	#Missing	#Missing	10290
4	9000	6	6	6	6									6	6	6	6	6
5	9800	2102	2198	1890	2064									2441	2488	2352	2427	2263
6	Employee Benefits %	24%	24%	24%	24%									25%	25%	25%	25%	25%
7	Square Feet	1000	1000	1000	1000									1000	1000	1000	1000	1000
8	Trips	35	35	35	90									30	30	30	90	408
9	9801																	
10																		

ただし、シートをリフレッシュすると、セル B8、C8、D8 で行われたデータの変更と、セル A9 に追加したメンバーが失われます。これは、図 4 に示すとおりです。

Figure 9-19　シートを更新するとフレックス・フォームのすべての 更新がクリアされる

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R
1		FY23	FY23	FY23	FY23	FY23	FY23	FY23	FY23	FY24	FY24	FY24	FY24	FY24	FY24	FY24	FY24	FY24
2		Jul	Aug	Sep	Q3	Oct	Nov	Dec	Q4	Jan	Feb	Mar	Q1	Apr	May	Jun	Q2	Rolling
3	Units	8900	#Missing	#Missing	8900	#Missing	500	890	1390	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	10290
4	9000	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
5	9800	2102	2198	1890	2064	2118	2195	2059	2124	2577	2541	2192	2437	2441	2488	2352	2427	2263
6	Employee Benefits %	24%	24%	24%	24%	24%	24%	24%	24%	25%	25%	25%	25%	25%	25%	25%	25%	25%
7	Square Feet	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
8	Trips	30	30	30	90	30	78	30	138	30	30	30	90	30	30	30	90	408
9																		
10																		

データを手動で入力せずに、**「メンバー選択」**ダイアログを使用して正しいメンバーを選択し、データを再入力できます。ただし、**「フレックス・フォームの無効なメンバーの表示」**を有効にすると手順が省略され、シートに入力した可能性のある無効なメンバーのアラートが表示されます。

フレックス・フォームでの式、ラベルおよびコメントの行および列の保持

Oracle Smart View for Office 23.200 以降は、フォームを定義する際に「フレックス・フォームの無効なメンバーの表示」オプションを有効にすることで、フレックス・フォームで式の行および列を保持できます。サービス管理者がこのオプションを有効にすると、リフレッシュまたは送信した後に式の行および列がフレックス・フォームに保持されます。

> **Note:**
>
> 式の行および列は、*ラベル*行および列または*コメント*行および列とも呼ばれます。

リフレッシュまたは送信操作の後、式の行または列のすべてのメンバーおよびデータは、フレックス・フォームでの無効なメンバーの保持で説明されているように、無効なメンバーに対して使用されるのと同じセル・スタイルを使用して強調表示されます。

以前の Smart View リリースでは、式の行および列はフレックス・フォームではサポートされていませんでした。送信時には、最初にリフレッシュを実行する必要があることを示すメッセージが表示され、リフレッシュ時には、式の行および列がフレックス・フォームから削除されていました。

> **Note:**
>
> **[Delete]**キーを使用して行または列のメンバー・セルのみを削除することで行または列全体を削除しようとすると、リフレッシュ時にメンバー・セルに無効なメンバーが格納されます。フレックス・フォームの行全体または列全体を削除するには、行全体または列全体を選択して右クリックし、Excel のコンテキスト・メニューから**「削除」**を選択します。

「フレックス・フォームの無効なメンバーの表示」オプションを有効にすると、ユーザーが式の行および列が含まれているフォームを操作する際にフレックス・フォームの汎用性が提供されます。

POV またはユーザー変数の変更後のフレックス・フォームでの変更されたメンバーの保持

POV またはユーザー変数の変更後に、変更したメンバーをフレックス・フォームに保持するには、**「フレックス・フォーム: POV およびユーザー変数の変更時にグリッドを保持」**オプションを有効にします。

Smart View のリボンで、**「オプション」**をクリックし、**「メンバー・オプション」**タブを選択して、**「フレックス・フォーム: POV およびユーザー変数の変更時にグリッドを保持」**オプションを選択します。

このオプションが選択されていないと、フレックス・フォームに追加した行または列は POV またはユーザー変数の変更時に削除されます。

「フレックス・フォーム: POV およびユーザー変数の変更時にグリッドを保持」オプションを選択した後に、フレックス・フォーム・グリッドでメンバーを追加または削除して**「リフレッシュ」**をクリックします。次に、POV メンバーを変更して**「リフレッシュ」**をクリックします。または、ユーザー変数およびフレックス・フォームを変更すると、自動的にリフレッシュされます。変更したメンバーは保持されます。これで、フレックス・フォームの任意のメンバー(新規に追加したメンバーを含む)の変更した POV およびユーザー変数に対して、データを入力して送信できます。オプションで、POV または任意のユーザー変数を再度変更してリフレッシュし、更新した POV およびユーザー変数に対してデータの入力を続行します。

関連項目:

- Smart View でのフレックス・フォームの操作のステップ 4
- メンバー・オプション

フレックス・フォームでのスマート・プッシュ

- スマート・プッシュは、フレックス・フォームでサポートされます。
- フィルタ処理されたフレックス・フォームでは、選択したフォームのコンテキストはスマート・プッシュに反映されません。

フレックス・フォームでサポートされていない機能

- 次のフォーム機能は、フレックス・フォームではサポートされていません:
  - セグメントのプロパティ:
    - 非表示
    - 読取り専用
    - ディメンションのドロップダウンの有効化(行ディメンション・ドロップダウン・メンバー・セレクタ)
    - 階層の抑制

    > **Note:**
    >
    > 行が再配置またはソートされた後、セグメント・プロパティは維持されません。

  - 検証ルール
  - 行または列の式
  - **メンバー名と別名**オプション
  - 複合フォーム内でのフレックス・フォームの使用
  - エンティティ・ディメンションの**「通貨の表示」**の有効化。
  - フォーム内のデータ検証ルールは、フレックス・フォームの使用時にはサポートされません。かわりに、データ検証ルールを Groovy ルールに変換します。
- フレックス・フォームは次の場合はサポートされていません:
  - ダッシュボード
  - スマート・フォーム

- タスク・マネージャ拡張機能とともに使用

Smart View でのフレックス・フォームの操作

フレックス・フォームでは、行および列ディメンションを再配置し、ソートし、有効なメンバーまたは別名を対応するディメンションから挿入できます。

Smart View で変更したフォームのデータを送信する前に、リフレッシュを実行します。リフレッシュ時に、無効なメンバー、コメントおよび空の行または列が削除され、「データの送信」ボタンが有効になります。

フレックス・フォームを操作するには:

1. データ・ソースに接続します。
2. Smart View パネルで、フレックス・フォーム(で示されています)をダブルクリックします。

   開くフレックス・フォームを右クリックして、**「フレックス・フォームを開く」**を選択することもできます。
3. 要件に従ってデータを変更します。

   たとえば、実行できるアクションの一部は次のとおりです:

   - 行および列メンバーの再配置または移動
   - 行および列の挿入
   - メンバーの追加。**「メンバー選択」**(プロバイダのリボンにあります)を使用するか、メンバー名を手入力して、メンバーを追加できます。
   - Excel の**「データ」**リボンの**「並べ替え」**ボタンを使用した行および列のソート
   - Excel の「ホーム」リボンの**「並べ替えとフィルター」**または Excel の**「データ」**リボンの**「フィルター」**ボタンを使用した行および列メンバーまたはデータのフィルタ処理
   - Excel の**「ホーム」**リボンの**「並べ替えとフィルター」**ボタン、Excel の**「データ」**リボンの**「並べ替え」**ボタンまたはフォームのフィルタを使用した行および列メンバーのソート
   - プロバイダのリボンまたはアクション・メニューからのビジネス・ルールの実行
   - メンバーまたはデータ・セルを右クリックして**「Smart View」**コンテキスト・メニューにアクセス(セルに対して適用可能なコマンドがメニューで使用可能になります)
   - 行および列の削除

> **ノート:**
>
> - 行メンバーの編集時は**「データの送信」**ボタンは無効です。フィルタ処理は編集とはみなされません。フィルタの追加のみを行う場合は、データを送信できます。
> - Smart View の**「オプション」**ダイアログの**「フォーマット」**タブで、フレックス・フォームに対して**「繰返しメンバー・ラベル」**を有効にする必要があります。このチェック・ボックスの選択を解除しようとしても、リフレッシュするとチェック・ボックスは再度選択され、**「繰返しメンバー・ラベル」**オプションは有効になります。
> - 行および列で実行できる操作は、フォーム定義中に行った選択によって異なります。行に対して操作を実行するには、**行でのフレックス・フォームの有効化**オプションを選択する必要があります。列に対してアクションを実行するには、**列でのフレックス・フォームの有効化**オプションを選択する必要があります。これらのオプションについては、*Planning の管理*の Smart View のフォーム・オプションの設定 で説明しています。

4. **オプション:** POV またはユーザー変数の変更後に追加メンバーをフレックス・フォームに保持するには:
   a. Smart View のリボンで、**「オプション」**をクリックします。
   b. **「オプション」**ダイアログで、**「メンバー・オプション」**タブを選択します。
   c. **「フレックス・フォーム: POV およびユーザー変数の変更時にグリッドを保持」**を選択します。

      > **ノート:**
      >
      > このオプションが選択されていないと、フレックス・フォームに追加した行または列は POV またはユーザー変数の変更時に削除されます。

   d. **オプション:** フレックス・フォーム内のメンバーを追加または削除し、**「リフレッシュ」**をクリックします。
   e. 必要に応じて、次のタスクを実行します:
      - POV メンバーを変更して**「リフレッシュ」**をクリックします
      - ユーザー変数を変更します(フレックス・フォームは自動的にリフレッシュされます)。

      変更したメンバーは保持されます。これで、フレックス・フォームの任意のメンバー(新規に追加したメンバーを含む)の変更した POV およびユーザー変数に対して、データを入力して送信できます。
   f. **オプション:** POV または任意のユーザー変数を再度変更してリフレッシュし、更新した POV およびユーザー変数に対してデータの入力を続行します。

   追加情報は、POV またはユーザー変数の変更後のフレックス・フォームでの変更されたメンバーの保持を参照してください。
5. **オプション:** サービス管理者がフォームの設計時に**「フレックス・フォームの無効なメンバーの表示」**オプションを有効にした場合は、次のようにします:

a. 必要に応じて、行、列または両方を追加します。

b. 新しい行、列または両方に、メンバー名を入力またはコピーします。

c. **「リフレッシュ」**をクリックします。
無効なメンバー・セルが強調表示され、対応するデータ・セルに#InvalidMember が表示されます。

d. 無効なメンバー・セルをレビューし、メンバーのタイプミスや欠落を修正して、**「リフレッシュ」**をクリックします。

e. 無効なメンバーがすべて修正されるまで、前のステップを繰り返します。

詳細は、フレックス・フォームでの無効なメンバーの保持を参照してください。

6. **オプション:** フォーム内のセルを右クリックし、コンテキスト・メニューから**「Smart View」**を選択して、プロバイダのアクション・メニュー項目を選択します:

   - ビジネス・ルールを実行するには、ビジネス・ルールの名前を選択します。
   - フレックス・フォームまたは単純なフォームを開くには、開くフォームを選択します。

   フレックス・フォームでは、前述のアクションのみアクション・メニューでサポートされています。

> **ノート:**
>
> アクション・メニューのオプションは、選択したメンバーまたはデータ・セルによって異なる場合があります。使用可能な選択肢は、フォーム定義によって異なります。

7. **「リフレッシュ」**をクリックします。

   リフレッシュ時に、Oracle Smart View for Office では変更が維持され、無効なメンバーはフォームから削除されます。

> **ノート:**
>
> **「データの送信」**ボタンは、リフレッシュ後にのみ有効になります。ただし、変更したフォーム・レイアウトはサーバーに格納されず、現在のセッションのコンテキストでのみ維持されます。

8. 変更したデータを送信するには、プロバイダのリボンで**「データの送信」**をクリックします。

> **ノート:**
>
> **「データの送信」**ボタンは、リフレッシュ後にのみ有効になります。

9. 元のフレックス・フォームのレイアウトに戻すには、フレックス・フォームを再度開きます。

   変更したフォームはサーバーに格納されず、現在のセッションのコンテキストでのみ維持されます。フレックス・フォームを再度開くと、フレックス・フォームのレイアウトは元の状態に戻ります。

アド・ホック・モードでフレックス・フォームを開いてデータを送信

通常のフォームと同様に、アド・ホック・モードでフレックス・フォームを開き、アド・ホック分析を使用してグリッド・レイアウトを変更して、データを送信できます。

アド・ホック・モードでフレックス・フォームを開いてデータを送信するには:

1. データ・ソースに接続します。
2. Smart View パネルで、ツリー・リストを展開し、アド・ホック・モードで開くフレックス・フォームを選択します。
3. **「分析」**をクリックします。

   フォームは新しいシートでアド・ホック・モードで開きます。
4. 要件に従ってデータおよびグリッド・レイアウトを変更します。
5. **「データの送信」**をクリックします。
6. フレックス・フォームがあるシートに戻ります。
7. **「リフレッシュ」**をクリックします。

   元のレイアウトおよび変更されたデータがフレックス・フォームに表示されます。

Financial Management データ・フォーム

Oracle Hyperion Financial Management について詳しくない場合は、Oracle Help Center で入手可能な Financial Management のドキュメントを参照してください。

このライブラリを開くには、Smart View のリボンから、**「ヘルプ」**の隣の矢印をクリックし、**「ドキュメンテーション」**をクリックします。

関連トピック:

Financial Management メンバーについて

Financial Management メンバーの追加

Financial Management のリンク・フォームの使用方法

Financial Management メンバーについて

Oracle Hyperion Financial Management について詳しくない場合は、Oracle Help Center で入手可能な Financial Management のドキュメントを参照してください。このライブラリを開くには、Smart View のリボンから、**「ヘルプ」**の隣の矢印をクリックし、**「ドキュメンテーション」**をクリックします。

Financial Management 11.1.2.2.300 以降を使用している場合、Financial Management のデータ・フォームで@CUR などの相対期間機能を使用すると、同じディメンションのメンバーを行、列、および POV に表示できます。Oracle Smart View for Office では、相対期間メンバーは POV ツールバーにユーザー変数として表示されます。詳細は、ユーザー変数の操作を参照してください。リリース 11.1.2.2.300 より前の Financial Management を使用している場合、データ・フォームで@CUR 機能を使用し、そのフォームを Smart View にインポートすると、@CUR のメンバーは、選択したアプリケーションのバックグラウンド POV から取得されます。

「アクティブ・メンバー」オプションは、アプリケーションで期間別組織が設定されている場合にのみ使用できます。期間別組織の詳細は、Financial Management のドキュメントを参照してください。

Financial Management メンバーの追加

Oracle Hyperion Financial Management について詳しくない場合は、Oracle Help Center で入手可能な Financial Management のドキュメントを参照してください。このライブラリを開くには、Smart View のリボンから、**「ヘルプ」**の隣の矢印をクリックし、**「ドキュメンテーション」**をクリックします。

管理者によって使用可能に設定されている場合、メンバーとデータの追加行を挿入して保存できます。新しいデータを反映して合計が更新されます。

たとえば、IC1、IC2、および IC4 に取引を設定した勘定科目のデータ・フォームを定義したとします。IC3 および IC5 のメンバーをフォームに挿入するよう選択できます。フォームが新しいデータでリフレッシュされ、新規の行が適切な階層順で表示されます。

データ・フォームにメンバーを追加するには:

1. データ・フォームを開きます。
2. **HFM** のリボンから、**「メンバーの追加」**をクリックします。

   「メンバーの追加」で、セルのスタイルを指定できます。

   セルのスタイルを参照してください。
3. メンバー・セレクタで、データを入力するメンバーを選択します。

   「ビュー」および**「フィルタ」**オプションで選択可能な項目は、Financial Management Web アプリケーションの同じフォームで選択可能な項目と一致しない場合があることに注意してください。
4. **「OK」**をクリックします。

   新しいメンバーがメンバー・リストに表示されます。

> **ノート:**
>
> **「メンバーの追加」**ボタンを含むフォームでは、メンバー検索が機能しません。

Financial Management のリンク・フォームの使用

管理者は、あるフォームからさらに詳細なデータ入力ビューにドリルスルーできる別のフォームへのリンクを定義できます。たとえば、要約勘定科目残高が含まれているフォームは、勘定の詳細を持つ該当フォームへリンクできます。あるフォームから別のフォームへのリンクは、行全体に適用されます。1 つのフォームに最大 64 個のリンク・フォームを含めることができます。

リンク・フォームを使用するには:

1. データ・フォームで、リンクされたフォームが含まれている行を選択します。リンクされたフォームはアイコン で示されます。 
2. 右クリックして**「HFM リンク・フォーム」**を選択し、フォーム名を選択します。

ブラウザで別のウィンドウが開き、リンク先のフォームが表示されます。

3. リンク・フォームの使用が終わったら、**「閉じる」**をクリックします。

10

アド・ホック分析

次も参照:

- アド・ホック分析について
  アド・ホック分析では、Excel スプレッドシートで Oracle Smart View for Office の機能を使用して、データを取得および分析します。
- アド・ホック分析の開始
  プロバイダに接続し、「アド・ホック分析」を選択して、そのプロバイダのアド・ホックのリボンを表示し、アド・ホック機能を有効にします。
- シートでの属性ディメンションの挿入
  アド・ホック分析を実行する場合、「属性の挿入」コマンドを使用して、属性ディメンションまたはメンバーをワークシートに挿入できます。
- アド・ホック・グリッドでの Excel 式の保持
  Excel 式をアド・ホック・グリッドのメンバー・セルやデータ・セルに関連付け、そのようなセルを識別できるようにセルのスタイルを設定できます。
- アド・ホック・グリッドのフォーマット
  Oracle Smart View for Office または Excel を使用して、グリッド・フォーマットを制御できます。
- アド・ホック・グリッドの属性関連付け処理の有効化
  属性関連付け処理を使用すると、属性に関連付けられた交差にある Essbase のセルに、**#Invalid/Meaningless** オプションに指定された値を表示できます。
- ズーム・インおよびズーム・アウト
  グリッドのメンバーをズーム・インして、その子および子孫のデータを表示します。
- アド・ホック・グリッドでの祖先の位置の指定
  階層の祖先の位置として**「上位」**または**「下位」**を指定するには、**「祖先の位置」**オプションを使用します。**「祖先の位置」**オプションは、**「オプション」**ダイアログの**「メンバー・オプション」**タブにあります。
- アド・ホック・シートでの Excel フィルタの操作
  アド・ホックを実行した際にアド・ホック操作の結果が同じ列ディメンション・セットの場合、Excel フィルタは保持されます。
- ピボット
  ピボットは、ワークシート上のデータの方向を変更します。行と列の間、およびグリッドと POV の間でディメンションを移動できます。
- 選択したメンバーのグリッドからの除去
  メンバーおよびそれに関連付けられたデータは、グリッドから除去できます。
- 保存されたワークシートのアド・ホック・グリッドの更新
  Oracle Smart View for Office 外部、または Smart View 管理拡張機能バージョン 23.210 以前を使用して、アド・ホック・グリッドに対して行われた更新を保持しながら、保存されたワークシートまたはワークブックをリフレッシュできます。
- 行と列の挿入
  アド・ホック・グリッドでは、計算列と非計算列および計算行と非計算行をグリッドの中または外に挿入できます。

- 繰返しメンバーの表示および抑制
  アド・ホック・グリッドでディメンションをスタックした場合、繰返しメンバーを表示または抑制できます。
- ワークシート上の複数のグリッドの操作
  Oracle Essbase では、1 つのワークシートに複数のアド・ホック・グリッドを作成できます。
- レポートおよびアド・ホック・グリッドのカスケード
  アド・ホック・グリッドまたはスマート・スライス問合せに基づくレポートで、1 つ以上のディメンションの任意のメンバーまたはすべてのメンバーについて個別のレポートを作成できます。
- 代替変数の使用
  代替変数は、変数値を表すグローバルな、またはアプリケーションごとのプレースホルダです。
- リフレッシュ後の無効なメンバーとコメントの保持
  サービス管理者がビジネス・プロセスのアプリケーション設定で**「無効なメンバー/コメントの保持」**オプションを有効にすると、リフレッシュ後にアド・ホック・グリッドに無効なメンバーを保持できます。
- Essbase シートのコメントおよび不明メンバーの検出
  Oracle Smart View for Office でオプションを設定して、Oracle Essbase のシートのコメントおよび不明メンバーを検出できます。

アド・ホック分析について

アド・ホック分析では、Excel スプレッドシートで Oracle Smart View for Office の機能を使用して、データを取得および分析します。

これを行うには、メンバーを選択し、関数を使用し、フォーマットなどの様々な操作を実行して、レポートを設計し、作成します。

> **ノート:**
>
> アド・ホック操作は、保護されたワークシートではサポートされていません。

チュートリアル

目的	方法の学習
概要: • Planning への接続 • アド・ホック分析の開始 • アド・ホック・グリッドのフォーマット • アド・ホック分析の実行 このチュートリアルは Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management の Planning ユーザー向けに設計されていますが、示されている概念の多くは他のデータ・プロバイダにも該当します。	Smart View を使用したプラン・データの分析

アド・ホック分析の開始

プロバイダに接続し、「アド・ホック分析」を選択して、そのプロバイダのアド・ホックのリボンを表示し、アド・ホック機能を有効にします。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Planning、Planning モジュール、Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Tax Reporting、Narrative Reporting、Oracle Hyperion Profitability and Cost Management

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、 Oracle Hyperion Financial Management、Oracle Hyperion Planning

> **ノート:**
>
> アド・ホック分析を Essbase、Profitability and Cost Management または Narrative Reporting で開始すると、「デフォルト」という名前の別名表がデフォルトで選択されます。

ビデオ

目的	このビデオを見る
アド・ホック分析を使用したデータ分析について学習します。	Smart View での基本的なアド・ホック・レポートの作成
アド・ホック分析を使用したデータ分析について学習します。	Smart View での拡張アド・ホック・レポートの作成

アド・ホック分析を開始するには:

1. Smart View パネルの**「最近使用」**、**「共有接続」**または**「プライベート接続」**から、次のいずれかを選択します:
   - スマート・スライス
   - フォーム
   - プラン・タイプ
   - キューブまたはモデル

   > **ノート:**
   >
   > また、サポート対象の Web アプリケーションまたはビジネス・プロセスからアド・ホック分析を開始することもできます。手順については、Web アプリケーション(Web 起動)からフォームおよびアド・ホック・グリッドを開くを参照してください。

2. アクション・パネルで、**「アド・ホック分析」**を選択します。

または、Smart View パネルでオブジェクトを右クリックして、**「アド・ホック分析」**を選択します。

アド・ホック・グリッドがシート上に配置され、データ・プロバイダのリボンが表示されます。

> **ヒント:**
>
> 「有効なデータ行がないため、アド・ホック・グリッドを開けません。」というようなエラーが表示される場合は、ベスト・プラクティスとして、Smart View の**「オプション」**ダイアログ・ボックスの**「データ・オプション」**タブにある抑制オプションをクリアする必要があります。すべての**「行の抑制」**および**「列の抑制」**オプションがクリアされていることを確認します。
>
> - **Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management と Oracle Hyperion Planning:** **「欠落ブロックの抑制」**オプションが選択解除されていることを確認します。
> - **Cloud EPM 管理者:** フォーム定義で行と列の抑制オプションが選択されたフォームで Oracle Smart View for Office ユーザーがアド・ホックを実行できる、フォーム・オプション**「アド・ホックでのフォーム抑制の削除」**を有効にできます。詳細は、Cloud EPM ビジネス・プロセスの管理ドキュメントを参照してください。

3. リボン・ボタンを使用して、現在のワークシートでアド・ホック分析を実行します。

   メンバーまたはデータ・セルを右クリックしてコンテキスト・メニューを開き、セル固有の操作や定義済のビジネス・ルールにすばやくアクセスすることもできます。

データベースのディメンションとメンバーを詳しく把握している場合には、ディメンション名とメンバー名を直接セルに入力して *フリーフォーム・モード*を使用し、アド・ホック・グリッドの設計と作成を行うことができます。フリー・フォーム・モードを参照してください。

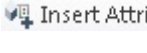
シートでの属性ディメンションの挿入

アド・ホック分析を実行する場合、「属性の挿入」コマンドを使用して、属性ディメンションまたはメンバーをワークシートに挿入できます。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Planning アド・ホック、Planning モジュール・アド・ホック、フリーフォーム・アド・ホック、Enterprise Profitability and Cost Management アド・ホック、Financial Consolidation and Close アド・ホック、Tax Reporting アド・ホック

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

属性ディメンションまたはメンバーをワークシートに挿入するには:

1. データ・プロバイダに接続し、アクション・パネルの**「アド・ホック分析」**オプションを選択するか、ワークシートにフリーフォーム・フォーマットでメンバーを入力して、アド・ホック分析を実行します。
2. プロバイダ・アド・ホックのリボンで、**「属性の挿入」**ボタン、

をクリックします。
3. **「属性の挿入」**ダイアログ・ボックスで、シートに追加する属性ディメンションを選択し、**「OK」**をクリックします。

オプション: すべての属性ディメンションがデフォルトで選択されます。属性ディメンションのサブセットのみを追加するには、次のタスクのいずれかを実行します:

- 属性ディメンションの隣のチェック・ボックスをクリアして、シートから省略します。
- **「すべて選択解除」**をクリックして、属性ディメンションの隣のチェック・ボックスを選択して、シートに追加します。

4. **オプション:** 単一の属性メンバーを選択してシートに追加するには(属性ディメンション全体ではありません):
   a. 属性ディメンション・テキスト・ボックスの隣のをクリックします。
   b. **「メンバー選択」**ダイアログ・ボックスで、追加する属性メンバーの隣のチェック・ボックスを選択して、をクリックします。

      ディメンションごとに 1 つの属性メンバーのみを選択できます。
   c. **「OK」**をクリックします。
   d. シートに追加する各属性メンバーに対して、これらのサブステップを繰り返します。

      属性ディメンション・テキスト・ボックスの属性メンバー名を手動で入力することもできますが、Oracle Smart View for Office で認識するために属性メンバー名を正しく大文字で綴る必要があります。メンバー名を正しく大文字にしなかったり、綴りを間違えると、エラーが発生します。

「メンバー選択」ダイアログ・ボックスまたはフリーフォームを使用してシートに属性を配置した場合と同様に、属性ディメンションを操作できるようになりました。他のディメンションとともに、属性ディメンションを行と列の間でピボットしたり、POV とグリッドの間でピボットしたりできます。

関連トピック:

- シートでの属性ディメンションの挿入 -- 例
- 属性の挿入に関するガイドライン

シートでの属性ディメンションの挿入 -- 例

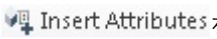
クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Planning アド・ホック

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

Essbase Sample Basic を使用して、アクション・パネルから**「アド・ホック分析」**を選択して、図 1 に示されているようにページ・ディメンションを含むディメンションをワークシートに配置します。

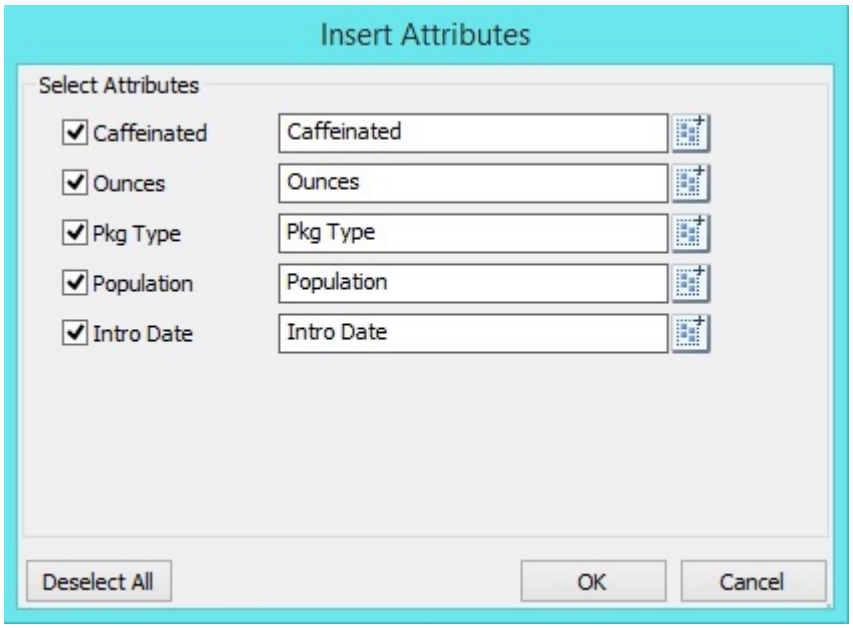
図 10-1 初期アド・ホック・グリッド

	A	B	C	D
1		Product	Market	Scenario
2		Measures		
3	Year	105522		

ここで、**「属性の挿入」**、

をクリックします。

「属性の挿入」ダイアログ・ボックスで、すべての属性ディメンションがデフォルトで選択されていることに注意してください。



「OK」をクリックすると、図 2 で示されているように、ページ・ディメンションとして属性ディメンション Caffeinated、Ounces、Pkg Type、Population および Intro Date がワークシートに追加されたことがわかります。

図 10-2 属性ディメンションを追加した後のアド・ホック・グリッド

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1		Product	Market	Scenario	Caffeinated	Ounces	Pkg Type	Population	Intro Date
2		Measures							
3	Year	104745							

属性ディメンションのかわりに属性メンバーをシートに追加することも選択できます。**「属性の挿入」**ダイアログ・ボックスで、属性ディメンションのをクリックして、使用する属性メンバーを選択します。

「属性の挿入」ダイアログ・ボックスで、属性ディメンション Caffeinated、Pkg Type および Populations、属性メンバー Caffeinated_True、Bottle および Medium が選択されています。

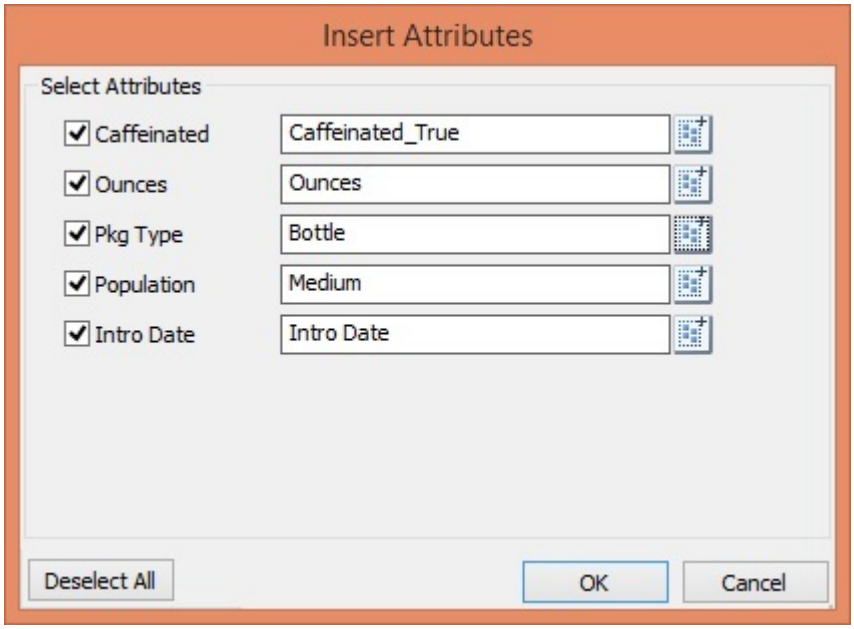


図 3 で、Ounces および Intro Date 属性ディメンションとともに属性メンバー Caffeinated_True、Bottle および Medium がページ・ディメンションとしてワークシートに追加されています。

図 10-3 属性メンバーおよびディメンションを追加した後のアド・ホック・グリッド

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1		Product	Market	Scenario	Caffeinated_True	Ounces	Bottle	Medium	Intro Date
2		Measures							
3	Year	9758							

属性の挿入に関するガイドラインも参照してください。

属性の挿入に関するガイドライン

属性を挿入する場合、次のガイドラインに注意してください。

- 属性がグリッドにすでに存在する場合、**「属性の挿入」**ダイアログ・ボックスで選択できません。
- グリッドはリフレッシュされた状態である必要があります。グリッドがリフレッシュする前にフリーフォーム状態である場合、Oracle Smart View for Office により手動でリフレッシュするよう指示されます。
- 属性がグリッドに挿入されると、グリッドが自動的にリフレッシュされます。
- **Oracle Essbase のみ:** POV ツールバーがオフであり、ページ・ディメンションの行がシートに存在しない場合、属性ディメンションを挿入するときにページ・ディメンションの行がシートの上部に追加されます。
- **「属性の挿入」**ダイアログ・ボックス:
  - 属性ディメンション全体またはディメンションから 1 つの属性メンバーを挿入することもできます。

  - メンバー名が属性テキスト・ボックスで空のままである場合、そのディメンションは選択解除済の状態で挿入されません。
- **「属性の挿入」**コマンドおよびダイアログ・ボックスを使用して単一の属性メンバーを挿入した場合、**「メンバー選択」**を使用して同じ属性ディメンションからグリッドに他のメンバーを追加できます。
- **「属性の挿入」**操作は、クエリー・デザイナまたはスマート・スライスの設計シートではサポートされていません。
- **「属性の挿入」**は、複数のグリッド・シートではサポートされていません。
- 属性ディメンションの世代 3 レベルで属性をフィルタ処理した場合、Smart View では世代 2 レベルまでのメンバーのみが表示されます。

シートでの属性ディメンションの挿入 -- 例も参照してください。

アド・ホック・グリッドでの Excel 式の保持

Excel 式をアド・ホック・グリッドのメンバー・セルやデータ・セルに関連付け、そのようなセルを識別できるようにセルのスタイルを設定できます。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Planning、Planning モジュール、Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Tax Reporting、Narrative Reporting

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、 Oracle Hyperion Financial Management、Oracle Hyperion Planning

デフォルトでは、アド・ホック操作の実行時に式は保持されます(**「ピボット」**または**「元に戻す」**は除く)。

> **ノート:**
>
> - 問合せを高速に実行するために、式およびコメントの保持を使用不可にすることができます。ただし、このオプションを無効にすると、アド・ホック操作の実行時に式は上書きされます。
> - **Narrative Reporting: 「アドホック操作の式とコメントを保持(ピボットを除く)」**が選択されている場合にのみ**「リフレッシュ」**操作はサポートされます。**「ズーム・イン」**または**「選択項目のみ保持」**などの他のアド・ホック操作にはサポートされていません。
> - Financial Management 11.1.2.2.xxx 以降、Financial Management アプリケーション内のカスタム・ディメンションは、Oracle Smart View for Office 式内の別名によって示されます。Smart View は式を解釈できなくなりました。保存されたワークブック内の古い形式の式は機能しません。したがって、各式のディメンション識別子を更新して、カスタム・ディメンションの新しい別名を反映する必要があります。

関連項目:

- 式を含むセルのセル・スタイルの詳細はセルのスタイル
- Essbase: Essbase アド・ホック・グリッドの内側および外側にある Excel 式の保持

アド・ホック・グリッドで式の保持を指定するには:

1. Smart View のリボンから、**「オプション」**を選択し、左側のパネルで**「メンバー・オプション」**を選択します。
2. 次のいずれかを行います:
   - アド・ホック・グリッドで式を保持するには、**「アドホック操作の式とコメントを保持(ピボットと元に戻すを除く)」**を選択します。
   - 式の保持を使用不可にするには、**「アドホック操作の式とコメントを保持(ピボットと元に戻すを除く)」**をクリアします。この操作は、式を保存する必要がなく、問合せを高速に実行したい場合にのみ行います。

> **ノート:**
>
> **「アドホック操作の式とコメントを保持(ピボットと元に戻すを除く)」**は**「メンバー・オプション」**に表示されますが、選択内容はメンバーとデータ・セルの両方の式に適用されます。

3. **「OK」**をクリックします。

Essbase アド・ホック・グリッドの内側および外側にある Excel 式の保持

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

グリッド内の式

Oracle Smart View for Office 11.1.2.5.810 以降、式は、**「元に戻す」**または**「やり直し」**を実行した後 Essbase グリッド内で保持されます。

> **ノート:**
>
> **「オプション」**ダイアログの**「メンバー・オプション」**タブで**「アドホック操作の式とコメントを保持(ピボットを除く)」**オプションを選択していることを確認してください。

式を保持するには、式を含むグリッドで**「リフレッシュ」**操作を実行する必要があります。**「リフレッシュ」**アクションにより、「元に戻す」のバッファに式が追加されます。

式がグリッドの外側にある場合、ズームの後**「元に戻す」**が予期したとおりに機能しない場合があります。この場合、ズーム操作の後に**「元に戻す」**または**「やり直し」**を実行したときの式の保持の信頼度を高めるには、グリッドの外側の式に示すようにグリッドを設定します。

グリッドの外側の式

式がグリッドの外側に存在する場合に、Essbase アド・ホック分析をより円滑に機能させるには、ベスト・プラクティスとして、最後の列の任意の空白セルに簡単なコメントを追加するこ

とをお薦めします。グリッドをリフレッシュしたとき式は保持されます。ピボットおよび元に戻す操作を実行すると式は失われます。

> **ノート:**
>
> **「オプション」**ダイアログの**「メンバー・オプション」**タブで**「アドホック操作の式とコメントを保持(ピボットを除く)」**オプションを選択していることを確認してください。

次の例では、式はグリッドの外側のセル E4 に追加されます。リフレッシュ時に式を保持するには、コメントを列 E の空白セルに追加する必要があります。例では、"comment"という語がセル E1 に追加されています。

-	A	B	C	D	E	F
1			East		コメント	
2			シナリオ			
3			Profit			
4	Cola	Qtr1	5789		=C4	
5						

特にアクティブ・アド・ホック分析を実行している場合、コメントが必要です。これにより、Essbase および Smart View において、リフレッシュ時およびその他のアド・ホック操作時(**「ズーム・イン」**および**「ズーム・アウト」**または**「選択項目のみ保持」**および**「選択項目のみ削除」**)に、グリッドの外側にあるコンテンツをそのままの状態にできます。コメントがない場合、これらのアド・ホック操作時、グリッドの外側にある式が失われます。

アド・ホック・グリッドのフォーマット

Oracle Smart View for Office または Excel を使用して、グリッド・フォーマットを制御できます。

次も参照:

- Smart View フォーマットの使用
  Oracle Smart View for Office フォーマットは、**「オプション」**ダイアログ・ボックスの**「セルのスタイル」**および**「フォーマット」**タブで行われたフォーマットの選択で構成されます。
- Excel フォーマットの使用

Smart View フォーマットの使用

Oracle Smart View for Office フォーマットは、**「オプション」**ダイアログ・ボックスの**「セルのスタイル」**および**「フォーマット」**タブで行われたフォーマットの選択で構成されます。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Planning、Planning モジュール、Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Tax Reporting、Profitability and Cost Management

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、 Oracle Hyperion Financial Management、Oracle Hyperion Planning

Smart View フォーマット・オプションを設定するには:

1. Smart View のリボンから、**「オプション」**をクリックします。
2. セルのスタイルを設定するには、**「オプション」**から、左側のパネルで**「セルのスタイル」**を選択します。

   セルのスタイルは、メンバーおよびデータ・セルの特定のタイプを示します。

   詳細は、セルのスタイルを参照してください。
3. 他の Smart View フォーマット・オプションを設定するには、左側のペインから**「フォーマット」**を選択します(このページの**「Excel フォーマットの使用」**は Smart View フォーマット・オプションではありません)。

   オプションの説明は、Smart View のオプションを参照してください。
4. **「OK」**をクリックします。

Smart View フォーマットの選択を、ズームで作成されたデータ・セルに適用するには:

1. グリッドから、フォーマットされたデータ・セルを選択します。
2. 「Essbase」または「Planning アド・ホック」リボンから、**「フォーマットの保持」**を選択します。

Excel フォーマットの使用

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Planning、Planning モジュール、Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Narrative Reporting、Tax Reporting

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、 Oracle Hyperion Financial Management、Oracle Hyperion Planning

Excel フォーマットを使用する場合、条件付きフォーマットを含むフォーマット選択は、リフレッシュするか、アドホック操作を実行すると、グリッドに適用し、保持することができます。

Excel のフォーマットを使用する場合は、Oracle Smart View for Office は、ユーザーのグリッド操作に基づいたセルの再フォーマットを行わず、また、ユーザーがデータ値を変更したときにセルをダーティ・セルとしてマークしません。Smart View は、操作と操作の間はワークシートのフォーマットを保持します。

高度にフォーマットされたレポートについては、一般に Excel フォーマットの使用が推奨されます。また、データ・ソースのアプリケーション固有の色が Excel の色パレットでサポートされていない場合は、Excel フォーマットを使用する必要があります。

アド・ホック・グリッドで Excel フォーマットを使用するには:

1. Smart View のリボンから、**「オプション」**を選択します。
2. **「オプション」**から、左側のペインで**「フォーマット」**を選択します。
3. **「Excel フォーマットの使用」**を選択します。
4. **オプション:** ズームインしたセルに親セル・フォーマットをコピーするには、**「操作時にフォーマットを移動」**を選択します。

   このオプションが選択されている場合、ピボットしたときにフォーマットもメンバーとともに残ります。

> **ノート:**
>
> **「操作時にフォーマットを移動」**が有効になっている場合、特にアド・ホック操作中に、フォーマットがパフォーマンスに影響します。このため、このオプションの選択は、ワークブックのシート間またはセッション間で移動したときに維持されず、その選択は保存できません。このオプションの使用の詳細は、フォーマット・オプションの**「操作時にフォーマットを移動」**の説明を参照してください。

5. **「OK」**をクリックします。

例 10-1 Excel フォーマットとマージされたセル

アド・ホック操作(「ピボット」と「元に戻す」を除く)中にマージされたセルのフォーマットを*保存*するには、**「Excel フォーマットの使用」**と**アド・ホック操作の式とコメントを保持**の両方のオプションを選択する必要があります。

アド・ホック操作(ピボットを除く)中にマージされたセルのフォーマットを*レプリケート*するには、**「Excel フォーマットの使用」**、**アド・ホック操作の式とコメントを保持**、および**「式の充てん」**のすべてのオプションを選択する必要があります。

例 10-2 Excel フォーマットおよびメンバーのインデント

「Excel フォーマットの使用」オプションが選択されていて、**メンバーのインデント**・オプションが**「なし」**に設定されている場合、行メンバーのインデントは保持されます。インデントの消失は、列メンバーにのみ適用されます。

「インデント」オプションはアド・ホック・シートにのみ適用され、フォームには適用されないことに注意してください。メンバー・オプションの表で「インデント」を参照してください。

アド・ホック・グリッドの属性関連付け処理の有効化

属性関連付け処理を使用すると、属性に関連付けられた交差にある Essbase のセルに、**#Invalid/Meaningless** オプションに指定された値を表示できます。

「属性関連付け処理の有効化」を選択すると、呼び出される属性交差セルは、基本ディメンションに関連付けされません。場合によっては、これらのセルは可変属性であることがあります。

デフォルトでは、**「属性関連付け処理の有効化」**オプションはクリアされています。クリアすると、**#Invalid/Meaningless** で指定された値を表示するかわりに、基本ディメンションに関連付けられていない属性セルのデータ値が`#Missing`として表示されます。

> **ノート:**
>
> **「属性関連付け処理の有効化」**オプションを選択すると、アド・ホック問合せのパフォーマンスが低下することがあります。

たとえば、Product ディメンションのすべての 製品で瓶の売上を示すアド・ホック・グリッドを作成するとします。コーラおよびダイエット・コーラの場合、瓶は使用できませんが、瓶は Product ディメンションの他のすべての製品で使用できます。この場合、瓶の属性はコーラまたはダイエット・コーラに関連付けられません。

図 1 に示すように、**「属性関連付け処理の有効化」**オプションを選択すると、瓶のコーラおよびダイエット・コーラの売上のセルには、デフォルトで`#Invalid`と表示されます。これらのセルには独自のラベルを定義できます。

図 10-4 「属性関連付け処理の有効化」が選択されているアド・ホック・グリッド

	A	B	C	D	E
1			Jan	New York	Actual
2			Sales		
3	Cola	Bottle	#Invalid		
4	Diet Cola	Bottle	#Invalid		
5	Caffeine Free Cola	Bottle	1		
6	Old Fashioned	Bottle	1		
7	Diet Root Beer	Bottle	#Missing		
8	Sasparilla	Bottle	#Missing		
9	Birch Beer	Bottle	1		
10					

「属性関連付け処理の有効化」オプションをクリアすると、属性が基本ディメンションと関連付けられていない同じ交差にあるセルは、図 2 に示すように`#Missing`と表示されます。この場合、実際にデータが欠落している属性セルと、基本ディメンションに関連付けられていない属性セルが不明であるため、データは含まれません。

図 10-5 「属性関連付け処理の有効化」オプションがクリアされているアド・ホック・グリッド

	A	B	C	D	E
1			Jan	New York	Actual
2			Sales		
3	Cola	Bottle	#Missing		
4	Diet Cola	Bottle	#Missing		
5	Caffeine Free Cola	Bottle	1		
6	Old Fashioned	Bottle	1		
7	Diet Root Beer	Bottle	#Missing		
8	Sasparilla	Bottle	#Missing		
9	Birch Beer	Bottle	1		

#Invalid/Meaningless で定義されたラベルを表示するために、基本ディメンションに関連付けられていない属性データ・セルを有効にするには:

1. Smart View のリボンから、**「オプション」**を選択し、**「データ・オプション」**を選択します。
2. **「置換」**セクションで、次の操作を実行します。
   - **「属性関連付け処理の有効化」**を選択します。

- **#Invalid/Meaningless** オプションの場合、**#Invalid** を選択するか、基本ディメンションに関連付けられていない属性セルに表示するラベルを指定します。

3. アド・ホック問合せを実行し、**#Invalid/Meaningless** に指定した値を含むセルをメモします。これらは、基本ディメンションに関連付けられていない属性セルです。

ズーム・インおよびズーム・アウト

グリッドのメンバーをズーム・インして、その子および子孫のデータを表示します。

次も参照:

- ズーム・インおよびズーム・アウトについて
- ズーム・イン
- ズーム・アウト
- デフォルト・ズーム・レベルの設定
- ズーム時に表示するメンバーの選択
- ダブルクリックでのズームの使用可能
- ズームおよびフォーマット
- 式を含むセルでのズーム操作

ズーム・インおよびズーム・アウトについて

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Planning、Planning モジュール、Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Narrative Reporting、Oracle Hyperion Profitability and Cost Management、Tax Reporting

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、 Oracle Hyperion Financial Management、Oracle Hyperion Planning

グリッドのメンバーをズーム・インして、その子および子孫のデータを表示できます。

> **ノート:**
>
> ズーム・インおよびズーム・アウト操作は、次のケースではサポートされていません。
>
> - 集約ストレージ・データベースに接続されている場合のメンバー式のセル。
>
> メンバー式のセルでのズーム操作は、ブロック・ストレージ・データベースに接続されている場合のみサポートされます。
> - Oracle Business Intelligence Enterprise Edition または Oracle Analytics Cloud データ・ソースから挿入されたビュー。

Essbase および Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management 標準モード・アプリケーション(Planning など): ズーム・インして、選択したメンバーと同一レベル、同一世代または兄弟レベルのメンバーのデータを表示できます。

Essbase: ブロック・ストレージ・データベースに接続した場合は、ズーム・インして、選択したメンバーの式で定義されたメンバーのデータを表示できます。

> **ノート:**
>
> ズーム・インおよびズーム・アウトのトピックでは、Cloud EPM 標準モード・アプリケーションの説明は、次のビジネス・プロセスに適用されます: Planning、Planning モジュール、Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close および Tax Reporting。Cloud EPM 標準モード・アプリケーションでは、ビジネス・プロセス・アプリケーション設定である**「Smart View アド・ホック動作」**が**「標準」**に設定されています。

関連トピック:

ズーム・イン

ズーム・アウト

デフォルト・ズーム・レベルの設定

ズーム時に表示するメンバーの選択

ズームおよびフォーマット

ダブルクリックでのズームの使用可能

式を含むセルでのズーム操作

ズーム・イン

一度に 1 つのセルにズーム・インできます。

Oracle Essbase、Narrative Reporting、および Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management 標準モード・アプリケーションなどのデータ・ソースに接続している場合は、セルの範囲にズーム・インすることもできます。

複数のセル(特にすべてのレベル)にズーム・インすると、多数のセルが選択されます。データ抑制オプション(データなしの行の抑制、欠落値の行を抑制など)が有効でない場合は、ズーム・イン中にメモリー不足やワークシートのロードの失敗が発生する可能性があります。この問題を防ぐために、選択されるセルの数にガバナー制限が設定されます。これは次のように機能します:

- 選択されるセルの数がしきい値内の場合、ズーム・イン操作は正常に実行され、メモリー不足やワークシートのロードの失敗などのパフォーマンスの問題は発生しません。
- 選択されるセルの数がしきい値を超える場合は、抑制前のセルの数がしきい値を超えたためデータをロードできないことを示す警告メッセージがユーザーに対して表示されます。セルの選択範囲を縮小すると、ズーム・イン操作を続行できます。

関連トピック

- 選択したレベルへのズーム・イン
- デフォルト・レベルへのズーム・イン
- Cloud EPM での共有メンバーへのズーム・イン

選択したレベルへのズーム・イン

選択したレベルにズーム・インするには:

1. メンバーを選択します。

   次のデータ・ソースに接続している場合、メンバーの範囲を選択できます: Oracle Essbase、Narrative Reporting、Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management の標準モード・アプリケーション(Planning など)。

2. データ・ソースのリボンから、**「ズーム・イン」**の横にある下矢印をクリックして、次のいずれかのオプションを選択します。

   - **次のレベル** - 選択したメンバーの子のデータを取得します
   - **すべてのレベル** - 選択したメンバーのすべての子孫のデータを取得します
   - **最下位レベル** - ディメンション内の最下位レベルのメンバーのデータを取得します

   次のズーム・イン・オプションは、Essbase および Cloud EPM 標準モード・アプリケーション(Planning など)のみで使用可能です:

   - **同一レベル** - 選択したメンバーと同一レベルのすべてのメンバーのデータを取得します
   - **兄弟レベル** - 選択したメンバーの兄弟のデータを取得します
   - **同一世代** - 選択したメンバーと同じ世代のすべてのメンバーのデータを取得します
   - **式** - 選択したメンバーの式で定義されたすべてのメンバーのデータを取得します。式は、親へのメンバー式あるいは集計でも可能です

     「式」は Essbase にのみ適用されます。

> **Note:**
>
> ページ・ディメンションにズーム・インすると、ページ・ディメンションは行ディメンションにピボットされます。

関連トピック:

- ズーム・アウト
- デフォルト・ズーム・レベルの設定
- ダブルクリックでのズームの使用可能
- 式を含むセルでのズーム操作

デフォルト・レベルへのズーム・イン

デフォルト・ズーム・レベルにズーム・インするには、次のいずれかを実行します:

- メンバーを選択して、データ・ソースのリボンで**「ズーム・イン」**をクリックします。

  次のデータ・ソースに接続している場合、メンバーの範囲を選択できます: Oracle Essbase、Narrative Reporting、Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management の標準モード・アプリケーション(Planning など)。

  デフォルトのズーム・レベルを指定するには、デフォルト・ズーム・レベルの設定を参照してください。

- メンバーをダブルクリックします。

ダブルクリックによるズームを有効にする必要があります。ダブルクリックでのズームの使用可能を参照してください。

Cloud EPM での共有メンバーへのズーム・イン

データ・ソース・タイプ: Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Planning、Tax Reporting

16.12 以前の Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management は、共有メンバーをサポートしませんでした。メンバーがアド・ホック・グリッドに配置されていた場合、共有メンバーと想定される場合でも、常に基本メンバーとみなされていました。

Cloud EPM 17.01 以降は、アド・ホック・グリッドで共有メンバーをサポートしており、メンバーが基本メンバーか共有メンバーかを認識します。管理者がアプリケーション設定**「アド・ホックでの共有メンバーに対するドリルダウンを許可」**を有効にした場合は、共有メンバーへのズーム・インが Oracle Smart View for Office (17.04 以降)でサポートされます。この場合、共有メンバーへのズーム・インは、対応する基本メンバーへのズーム・インと実質的に同じです。一度に 1 レベルの共有メンバーにズーム・インできます。

管理者がアプリケーション設定**「ベースのすべてのレベルにドリル」**(21.09 以降)を有効にし、標準モード・アプリケーションを使用している場合は、ズーム・イン・オプションの**「すべてのレベル」**および**「最下位レベル」**を使用して、共有メンバーを超えて基本階層内のすべてのレベルまたは最下位レベルにズーム・インできます。

> **Note:**
>
> アプリケーションで**「ベースのすべてのレベルにドリル」**チェック・ボックスが有効な場合、複数メンバーのズーム機能はサポートされていません。

共有メンバーのズームの例のシナリオについては、次のトピックを参照してください:

- 例: 共有メンバーのズーム・インおよび抑制
- 例: 共有メンバーのすべてのレベルまたは最下位レベルへのズーム・イン

例: 共有メンバーのズーム・インおよび抑制

この例では、アプリケーションで標準モード**「アド・ホックでの共有メンバーに対するドリルダウンを許可」**が**「はい」**に設定され、**「ベースのすべてのレベルにドリル」**が有効な場合に表示される結果を示し、次に、Smart View で抑制オプションを有効または無効にすると何が起こるかを示し、

Smart View では、**「データなし / 欠落」**オプションが**「行の抑制」**と**「列の抑制」**で選択されており、共有メンバーのレベル 0 メンバーの組合せにデータが存在する場合、ユーザーは階層の最下位メンバーをズーム・インできません。

例:

```
Entity 10 (base member)
   Entity_10.1

Entity 14
   [entity_14].[entity_10] (shared member)
```

Smart View で抑制オプションが無効になっている場合、ズーム・インは期待どおりに機能します。

Smart View で抑制オプションが有効になっている場合、データベースの再帰的問合せがサポートされていないため、ズーム・インはサポートされません。Entity_10.1 がありません。結果は次のとおりです:

```
Entity_14
   [entity_14].[entity_10]
```

Cloud EPM ビジネス・プロセスでは、階層のレベル 0 の共有メンバーへのズーム・イン時の動作が正しく機能するには、Smart View の抑制オプションを無効にする必要があります。

例: 共有メンバーのすべてのレベルまたは最下位レベルへのズーム・イン

この例では、アプリケーションで標準モード**「アド・ホックでの共有メンバーに対するドリルダウンを許可」**が**「はい」**に設定され、**「ベースのすべてのレベルにドリル」**が有効な場合に表示される結果を示します。

図 1 は、「エンティティ」ディメンション下にある 3 つの階層を示しています。entity_10 階層には、entity_10 からすべてのメンバーが降順に並んでいます。entity_12 階層には、entity_12 からすべてのメンバーが降順に並んでいます。entity_14 階層には、entity_14 の子孫メンバー、および共有メンバーの entity_10 と entity_12 があります。共有メンバーにはその子孫が含まれます。

Figure 10-6　階層を示すエンティティ・ディメンション

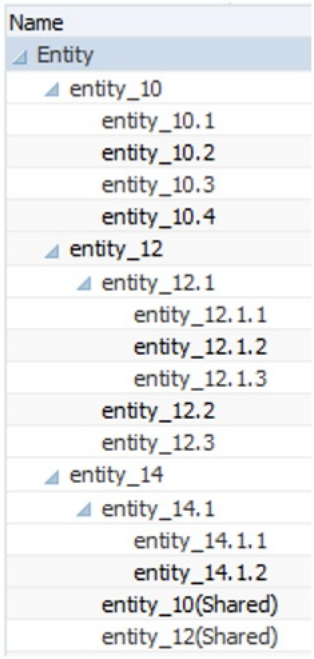


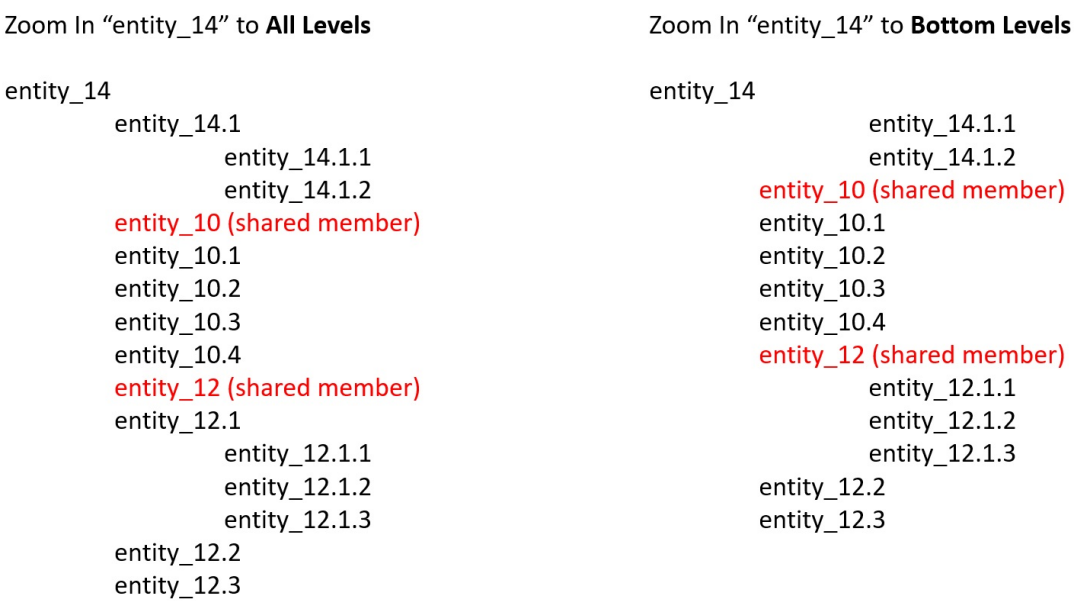
図 2 は、entity_14 へのズーム・インの違いを示しています:

- **「すべてのレベル」へのズーム・イン**・コマンドを使用

- **「最下位レベル」へのズーム・イン**・コマンドを使用

いずれの場合も、Smart View で、**「メンバー・オプション」**の**「祖先の位置」**が**「上位」**に設定されます。

Figure 10-7　「祖先の位置」=「上位」に設定した entity_14 へのズーム・インの結果



> **Note:**
>
> ネイティブ・モード・アプリケーションでは、**「アド・ホックでの共有メンバーに対するドリルダウンを許可」**が**「はい」**に設定され、**「ベースのすべてのレベルにドリル」**が無効な場合に、**すべてのレベルへのズーム・イン**の例に示す結果が実現できますが、各階層の最下位レベルに達するまで共有メンバーには一度に 1 レベルのみズーム・インする必要があります。共有メンバーの最下位レベルに直接ズーム・インすることはできません。

ズーム・アウト

ズーム・アウトすると、ビューが次の上位レベルまで縮小されます。

ズーム・アウトするには:

1. メンバーを選択します。

   次のデータ・ソースに接続している場合、メンバーの範囲を選択できます: Oracle Essbase、Narrative Reporting、Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management の標準モード・アプリケーション(Planning など)。

2. データ・ソースのリボンから、**「ズーム・アウト」**をクリックします。

関連トピック:

- ズーム・イン
- デフォルト・ズーム・レベルの設定
- ダブルクリックでのズームの使用可能
- 式を含むセルでのズーム操作

デフォルト・ズーム・レベルの設定

ズーム操作のデフォルト・レベルを指定できます。この設定は、**「ズーム・イン」**ボタンおよびダブルクリックによるズーム(使用可能な場合)に適用されます(ダブルクリックでのズームの使用可能を参照)。

「ズーム・イン」のデフォルト・レベルを設定するには:

1. Smart View のリボンから、**「オプション」**を選択し、左側のパネルで**「メンバー・オプション」**を選択します。
2. **「ズーム・イン・レベル」**ドロップダウン・メニューから、次のいずれかのレベルを選択します:
   - **「次のレベル」**を選択すると、選択したメンバーの子のデータが取得されます
   - **「すべてのレベル」**を選択すると、選択したメンバーのすべての 子孫のデータが取得されます。
   - **「最下位レベル」**を選択すると、ディメンション内の最下位レベルのメンバーのデータが取得されます。

   次のズーム・イン・オプションは、Oracle Essbase および Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management 標準モード・アプリケーション(Planning など)で使用可能です:

   - **「同一レベル」**を選択すると、選択したメンバーと同一レベルのすべてのメンバーのデータを取得できます
   - **「兄弟レベル」**を選択すると、選択したメンバーの兄弟のデータを取得できます
   - **「同世代」**を選択すると、選択したメンバーと同じ世代のすべてのメンバーのデータが取得されます

   次のズーム・イン・オプションは、Essbase で使用可能です:

   「式」を選択すると、選択したメンバーの式で定義されたすべてのメンバーのデータを 取得できます。式は、親へのメンバー式あるいは集計でも可能です
3. **「OK」**をクリックします。

関連トピック:

- ズーム・イン
- ズーム・アウト
- ダブルクリックでのズームの使用可能
- 式を含むセルでのズーム操作

ズーム時に表示するメンバーの選択

オプションを設定して、ズーム・インおよびズーム・アウト時に保持および表示するメンバーを指定できます。

ズームのメンバー表示オプションを設定するには:

1. Smart View のリボンから、**「オプション」**を選択し、左側のパネルで**「メンバー・オプション」**を選択します。
2. **「メンバーの保持」**で、次を選択します:
   - **「選択を含める」**選択すると、選択したメンバーと、ズームの結果として取得されたメンバーの両方が表示されます。たとえば、選択したメンバー `Qtr1` にズーム・インすると、`Jan`、`Feb`、`Mar` および `Qtr1` のデータが取得されます。選択されていない場合、ズームの結果として取得されたメンバー、`Jan`、`Feb` および `Mar` のみが表示されます。
   - **「選択したグループ内」**を選択すると、選択したセル・グループのみにズーム・インし、選択していないセルはそのままになります。この設定は、グリッドの下に行として、またはグリッドを超えて列として、複数のディメンションがある場合にのみ有用です。(この設定は、**「選択項目のみ保持」**および**「選択項目のみ除去」**にも適用されます。)
   - **「選択されていないグループの除去」**を選択すると、選択したメンバー、およびズームの結果として取得されたメンバーを*除く*すべてのディメンションとメンバーが除去されます。
3. **「OK」**をクリックします。

ダブルクリックでのズームの使用可能

Oracle Smart View for Office で、アドホック操作に対するダブルクリックが使用可能になっている場合、メンバー・セルをダブルクリックして、デフォルトのズーム・レベルへのズーム・インおよびズーム・アウトを行うことができます。

ダブルクリックでズームできるようにするには:

1. Smart View のリボンから、**「オプション」**を選択し、左側のパネルで**「詳細」**を選択します。
2. **「モード」**の下にある**ダブルクリックして操作**を選択します。

   ダブルクリックして操作を選択しない場合、ダブルクリックは Excel の機能のままで、セルが編集モードになります。
3. **「OK」**をクリックします。

> **ノート:**
>
> 空のワークシートで初めてダブルクリックするとデフォルトのグリッドが取得され、以後、ズーム・インまたはズーム・アウトできます。

関連トピック:

- ズーム・イン
- ズーム・アウト
- デフォルト・ズーム・レベルの設定
- 式を含むセルでのズーム操作

ズームおよびフォーマット

ズーム・インするセルのフォーマットを、ズームで作成したセルに適用できます。Oracle Smart View for Office フォーマットでは、この機能はデータ・セルに適用されます。Excel フォーマットでは、この機能はメンバー・セルに適用されます。

Excel フォーマット

Excel フォーマットをズームで作成されたメンバー・セルに適用するには、Smart View のリボンから**「オプション」**を選択します。その後、次のすべてのオプションを選択します。

- **「フォーマット」**ページでは、次のオプションを選択できます:
  - **Excel フォーマットの使用**
  - **操作時にフォーマットを移動**
- **「メンバー・オプション」**ページから、**「アドホック操作の式とコメントを保持(ピボットを除く)」**を選択します
- **Oracle Essbase のみ:** **「メンバー・オプション」**ページから、**「式の充てん」**を選択します

式を含むセルでのズーム操作

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

メンバーまたはデータ・セルが式に関連付けられている場合、これらの式をズーム・インの結果として取得されたセルに伝播できます。たとえば、メンバー `Qtr1` が式に関連付けられている場合、`Qtr1` にズーム・インするときに、式を `Jan`、`Feb` および `Mar` に伝播できます。

式を伝播するには:

1. Smart View のリボンから、 **「オプション」**を選択し、次に左側のパネルの**「メンバー・オプション」**を選択します。
2. **「コメントと式」**で、**「アドホック操作の式とコメントを保持(ピボットを除く)」**が選択されていることを確認します。
3. **「式の充てん」**を選択します。

> **ノート:**
>
> - **「式の充てん」**オプションが有効な場合、一部のズーム操作に時間がかかる場合があります。たとえば、大規模階層の下位レベルにズーム・インすると(選択したレベルへのズーム・インで説明)、完了に長い時間がかかる場合があります。
> - これらの操作(**「アドホック操作の式とコメントを保持(ピボットを除く)」**および**「式の充てん」**)は**「メンバー・オプション」**に表示されますが、これらはメンバーとデータ・セルの両方の式に適用されます。

4. **「OK」**をクリックします。

関連トピック:

- ズーム・イン
- ズーム・アウト
- デフォルト・ズーム・レベルの設定
- ダブルクリックでのズームの使用可能

アド・ホック・グリッドでの祖先の位置の指定

階層の祖先の位置として**「上位」**または**「下位」**を指定するには、**「祖先の位置」**オプションを使用します。**「祖先の位置」**オプションは、**「オプション」**ダイアログの**「メンバー・オプション」**タブにあります。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Planning アド・ホック、Planning モジュール・アド・ホック、Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close アド・ホック、フリーフォーム、Tax Reporting アド・ホック

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Financial Management アド・ホック、Oracle Hyperion Planning アド・ホック

> **ノート:**
>
> Essbase のみ: 祖先の位置は、Essbase 管理者によってアプリケーションに設定されます。デフォルトでは、祖先の位置は**「下位」**に設定されます。祖先の位置を**「上位」**に設定するには、管理者がアプリケーション構成設定 SSANCESTORONTOP を True に設定する必要があります。
>
> - ユーザー: 「祖先の位置」に「上位」を選択した場合のズーム・イン結果および「祖先の位置」に「下位」を選択した場合のズーム・イン結果のグリッド例を参照してください。
> - 管理者: このオプションを設定するには、SSANCESTORONTOP を参照してください。

アド・ホック・グリッドの階層で祖先の位置を設定するには:

1. データベースに接続します。

   たとえば、Planning では、アド・ホックに対して有効なキューブまたはフォームに接続できます。Essbase では、アプリケーションおよびデータベースに接続します。

2. Smart View のリボンで、**「オプション」**を選択し、次に**「メンバー・オプション」**を選択します。
3. **「祖先の位置」**で、**「上位」**または**「下位」**を選択します。

   デフォルトは**「下位」**です。
4. **「OK」**をクリックして、**「オプション」**ダイアログを閉じます。
5. 「アクション」パネルで**「アド・ホック分析」**オプションを選択して、アド・ホック分析を実行します。
6. ディメンションまたはメンバー上でズームインを実行して、結果を確認します。

   例:

- **「上位」**を選択した場合、結果の階層レイアウトは、図 1 に示されたレイアウトのようになります。
- **「下位」**を選択した場合、結果の階層レイアウトは、図 2 に示されたレイアウトのようになります。

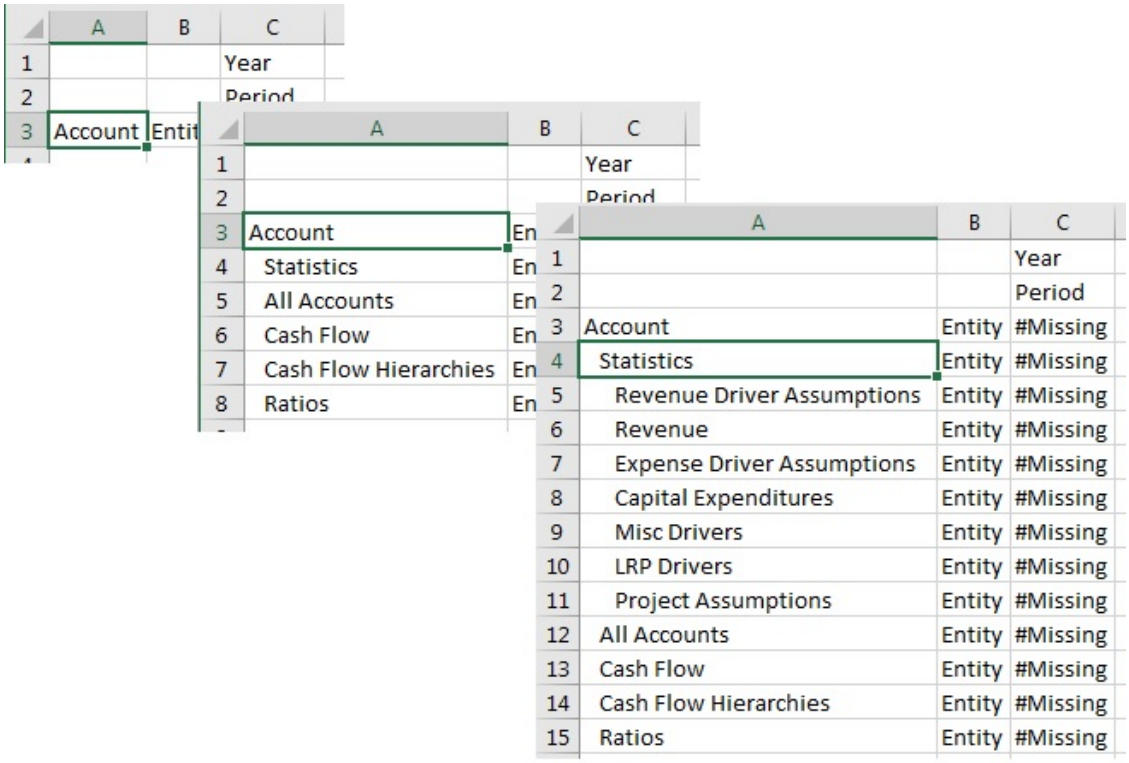
7. ズームインおよびピボットのようなアド・ホック操作を続行します。

> **ノート:**
>
> - **「祖先の位置」**の設定を変更しても、既存のグリッドのディメンションおよびメンバーには影響がありません。ズームイン操作を実行したときのみ変更を確認できます。
> - 既存のグリッドまたは一連のアド・ホック分析操作の途中で、**「祖先の位置」**オプションを変更すると(**「下位」**から**「上位」**へ、または**「上位」**から**「下位」**へ)、グリッドに非一様な階層が表示されます。

例 10-3 「祖先の位置」に「上位」を選択した場合のズーム・イン結果

この例では、「勘定科目」ディメンションにズーム・インします。ズーム・インの実行後、「勘定科目」の祖先は子メンバーの上部に表示されます。次に、「統計」にズーム・インします。ズーム・インの実行後、「統計」の祖先は子メンバーの上部に表示されます。

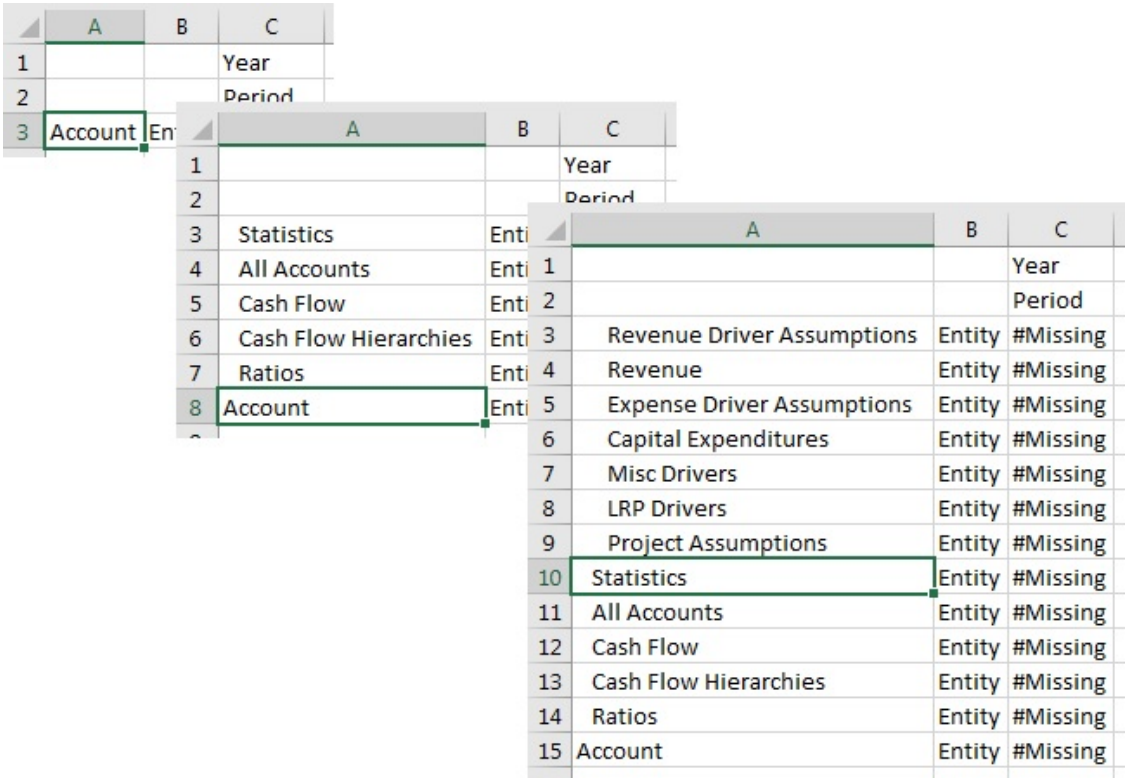
図 10-8 「祖先の位置」を「上位」に設定した場合のズーム・イン



例 10-4 「祖先の位置」に「下位」を選択した場合のズーム・イン結果

この例では、「勘定科目」ディメンションにズーム・インします。ズーム・インの実行後、「勘定科目」の祖先は子メンバーの下部に表示されます。次に、「統計」にズーム・インします。ズーム・インの実行後、「統計」の祖先は子メンバーの下部に表示されます。

図 10-9 「祖先の位置」を「下位」に設定した場合のズーム・イン



アド・ホック・シートでの Excel フィルタの操作

アド・ホックを実行した際にアド・ホック操作の結果が同じ列ディメンション・セットの場合、Excel フィルタは保持されます。

データ・ソース・タイプ: サポートされているすべての Oracle Smart View for Office プロバイダ、クラウドおよびオンプレミス、アド・ホックのみ

たとえば、メジャー・ディメンションのメンバーで次のようにフィルタを設定します:

	A	B	C	D	E	F
1		Product	Market	Scenario		
2		Profit | Lo	Profi	Invento	Ratios	Measur
3	Year	8002	69896	115304	54.41338754	8002

行ディメンションの Year にズーム・インした場合、列ディメンションおよびメンバーは変更されていないため、結果セットでは、列ディメンションに設定されていた Excel フィルタが保持されます。

	A	B	C	D	E	F
1		Product	Market	Scenario		
2		Profit|Lo	Profi	Invento	Ratios	Measur
3	Qtr1	8002	16549	115304	54.53095513	8002
4	Qtr2	0	17945	130727	54.4949209	0
5	Qtr3	0	17927	170190	53.91647995	0
6	Qtr4	#Missing	17475	184980	54.73926891	#Missing
7	Year	8002	69896	115304	54.41338754	8002

ただし、Inventory などの列ディメンション・メンバーにズーム・インすると、結果セットの列のセットが変更され、Excel フィルタは失われます。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1		Product	Market	Scenario					
2		Profit|Loss	Profit	Opening Inventory	Additions	Ending Inventory	Inventory	Ratios	Measures
3	Year	8002	69896	115304	429774	203447	115304	54.41338754	8002

ガイドライン

- 同じ列ディメンション・セットが結果セットに表示されるかぎり、Excel フィルタは、「ズーム・イン」、「ズーム・アウト」、「選択項目のみ保持」、「元に戻す」および「やり直し」などのほとんどのアド・ホック操作で保持されます。
- Excel フィルタは、「送信」または「リフレッシュ」の後も保持されます。
- Excel フィルタは、「ピボット」または「POV にピボット」操作では保持されません。
- Excel フィルタの保持は、複数グリッド・シートではサポートされません。たとえば、あるグリッドでフィルタを作成した後、2 番目のグリッドに移動し、そこでフィルタを作成すると、最初のグリッドのフィルタは失われます。

  ただし、フィルタが保持される場合もあります。たとえば、隣接した 2 つのグリッドの両方が同じ行で開始されている場合、フィルタが保持される場合があります。このような様々なケースがあるため、Excel フィルタが複数グリッド・シートで保持されることを保証できません。
- Excel のグループ化は、次の 2 つの場合に展開されます:
  - フィルタが使用されている場合。この場合、グループ化は行で展開されます。
  - **「列の幅と行の高さの調整」**が選択されている場合(**「オプション」**ダイアログの**「フォーマット」**タブ)

  Excel のグループ化を維持するには、フィルタや**「列の幅と行の高さの調整」**オプションを使用しないでください。Excel のグループ化の展開/縮小状態は、プログラムでは復元できません。フィルタが適用されている場合、または行の高さ/列の幅が自動的に調整されている場合は、Excel によってすべてが 自動的に展開されます。

ピボット

ピボットは、ワークシート上のデータの方向を変更します。行と列の間、およびグリッドと POV の間でディメンションを移動できます。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Planning、Planning モジュール、Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Narrative Reporting、Tax Reporting

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、 Oracle Hyperion Financial Management、Oracle Hyperion Planning

さらに:

- グリッドから POV ツールバーに 1 つ以上のディメンションをピボットできます。
- 一度に 1 つのディメンションを POV ツールバーからグリッドにピボットできます。
- 単一ディメンション、およびゼロ・ディメンションでも、POV ツールバーに残ります。
- シートの行と列の間でピボットするディメンションまたはメンバーは、一度に 1 つのみ選択できます。同じディメンションの複数のメンバーがグリッドに存在する場合、そのディメンションのすべてのメンバーがピボットされます。
- グリッドから POV にメンバーをピボットする場合、グリッドで選択されたメンバーがそのディメンションの POV になります。たとえば、Year ディメンションの Qtr2 をグリッドから POV にピボットすると、Qtr2 は Year ディメンションの POV になります。

行と列の間のディメンションのピボット

行と列の間でディメンションまたはメンバーをピボットできます。ピボットするディメンションを含む行または列に、2 つ以上のディメンション、または 2 つ以上のディメンションのメンバーが存在する必要があります。つまり、グリッド上の最後の行ディメンションまたは最後の列ディメンションはピボットできません。

メンバーをピボットすると、そのディメンション内の他のメンバーもピボットされます。

行と列の間でピボットすると、Oracle Smart View for Office では、選択したディメンションが反対側の軸の最も外側の行または列に移動します。たとえば、ディメンションを行にピボットするように選択すると、ディメンションはグリッドの上部に移動します。

> **ノート:**
>
> **「Excel フォーマットの使用」**オプションを選択していると(Excel フォーマットの使用を参照)、ピボット操作後にメンバーと数値のフォーマットが予期せずに変更されることがあります。たとえば、メンバー名が中央揃えになったり、数値が左揃えになったりします。Excel フォーマット・オプションを使用して、適切なフォーマットに戻すことができます。

ディメンションまたはメンバーをピボットするには:

1. ディメンションまたはメンバーを選択します。
2. データ・ソースのリボンから、**「ピボット」**をクリックします。

   または、ディメンションを行または列からドラッグして、ターゲットの行または列にドロップできます。

   行ディメンションが一番上の列ディメンションにピボットされます。

   列ディメンションが一番左の行ディメンションにピボットされます。

> **ノート:**
>
> POV ツールバーからのメンバーの選択の説明に従って、POV からメンバーを選択してピボットします。

グリッドと POV ツールバーの間のディメンションのピボット

ディメンションを、アド・ホック・グリッドから視点(POV)に、または POV からグリッドにピボットすることができます。メンバーをピボットすることもできます。その場合、そのディメンション内の他のメンバーもピボットされます。

POV ツールバーとグリッド間でディメンションまたはメンバーをピボットするには、次のいずれかのタスクを実行します:

- ディメンションを POV にピボットするには、グリッド内のディメンションを選択します。

  プロバイダ・リボンで、**「ピボット」**ボタン 

  の矢印をクリックし、**「POV にピボット」**を選択します。

  または、ディメンションを右クリックし、グリッドからドラッグして POV ツールバーにドロップします。

  メンバーをピボットすることもできます。1 つのメンバーのみを選択します。複数のメンバーを選択する必要はありません。1 つのメンバーを選択すると、ディメンション内のすべてのメンバーがピボットされます。

- ディメンションを POV からグリッドにピボットするには、POV ツールバーのディメンション名の隣にある矢印を右クリックし、ディメンションをドラッグしてグリッドにドロップします。

例 10-5 ピボット・ノート

- POV に任意の数のディメンションを残すことができます。たとえば、0 個、1 個またはそれ以上のディメンションを POV に残すことができます。
- 最後のディメンションを POV ツールバーからグリッドにピボットすると、POV ツールバーは非表示になります。プロバイダ・リボンの「POV」ボタンをクリックすると、いつでも元に戻すことができます。
- グリッドには、少なくとも 2 つのディメンション(行ディメンションと列ディメンション)が常に含まれている必要があります。グリッドに 1 つの行ディメンションと 1 つの列ディメンションのみがある場合、グリッドからディメンションをピボットする前に、まずグリッドに代替のディメンションをピボットする必要があります。

  たとえば、グリッドから行ディメンションをピボットする場合、まずグリッドに代替の行ディメンションをピボットしてから、グリッドから不要な行ディメンションをピボットする必要があります。

- ディメンション名またはメンバー名を手動で入力して、グリッドまたは POV ツールバーでディメンション名またはメンバー名を置き換えることができます。

  同様に、グリッドからディメンションまたはメンバーを削除して、グリッドをリフレッシュすることができ、削除されたディメンションまたはメンバーは、グリッドから移動され、POV ツールバーに表示されます。

- POV ツールバーからのメンバーの選択の説明に従って、POV からメンバーを選択してピボットできます。

選択したメンバーのグリッドからの除去

メンバーおよびそれに関連付けられたデータは、グリッドから除去できます。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Planning、Planning モジュール、Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Narrative Reporting、Tax Reporting

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、 Oracle Hyperion Financial Management、Oracle Hyperion Planning

「選択項目のみ保持」および**「選択項目のみ除去」**は、選択したグループ内のグリッドの選択したメンバーのすべてのインスタンスで 操作できます。

グリッドからメンバーを削除するには、**「選択項目のみ削除」**または**「選択項目のみ保持」**コマンドを使用します。

- 削除するメンバーのセルを選択します。その後、データ・ソースのリボンから、**「選択項目のみ除去」**をクリックします。ディメンションの選択したメンバーがすべて削除されます。
- 保持するメンバーのセルを選択します。その後、データ・ソースのリボンから**「選択項目のみ保持」**をクリックします。ディメンションのその他のメンバーは除去されます。

「選択項目のみ保持」および「選択項目のみ削除」の例

「選択項目のみ保持」および**「選択項目のみ削除」**の結果は、選択したグループがグリッド内で評価される方法によって異なります。グループは、グリッドの下に行として、またはグリッドを超えて列として、複数のディメンションで構成されます。

「選択項目のみ保持」または**「選択項目のみ除去」**コマンドを使用するには、選択されたメンバーがメンバーのグループに属し、関連付けられている必要があります。メンバーは、グループを考慮するのに同じディメンションである必要はありません。選択したメンバーは、グループの最小または最後のメンバーにしないでください。

たとえば、図 1 では、New York、Florida、Connecticut および New Hampshire を January メンバーを含む個々のグループとして考慮できます。それらの 4 つの州の January のデータを保持します。ただし、「Jan」を選択して**「選択項目のみ保持」**をクリックすると、グリッドは変更されません。これは Jan が自身のグループではないためで、実際は「Market」ディメンションからのグループのメンバーであり 、New York、Florida、Connecticut および New Hampshire グループにも属します。

図 10-10 列 A に Market メンバー、列 B に Year メンバーを使用したグリッド

	A	B	C	D
1			Product	Scenario
2			Measures	
3	New York	Jan	8722	
4	Florida	Jan	336	
5	Connecticut	Jan	321	
6	New Hampshire	Jan	44	
7	West	Feb	2394	
8	South	Year	13238	
9	Central	Year	38262	
10	Market	Year	213522	
11				

Jan をグループ化し、図 2 に示すようにメンバー New York、Florida、Connecticut および New Hampshire が Jan グループに属するように、Jan を再配置してください

図 10-11 列 A に Year メンバー、列 B に Market メンバーを使用したグリッド

	A	B	C	D
1			Product	Scenario
2			Measures	
3	Jan	New York	8722	
4	Jan	Florida	336	
5	Jan	Connecticut	321	
6	Jan	New Hampshire	44	
7	Jan	West	2339	
8	Jan	South	997	
9	Jan	Central	2956	
10	Jan	Market	16234	
11	Feb	New York	99955	
12	Feb	Florida	361	
13	Feb	Connecticut	309	
14	Feb	New Hampshire	74	
15	Feb	West	2394	
16	Feb	South	1046	
17	Feb	Central	3063	
18	Feb	Market	107700	
19	Year	New York	116202	
20	Year	Florida	5029	
21	Year	Connecticut	3093	
22	Year	New Hampshire	1125	
23	Year	West	29861	
24	Year	South	13238	
25	Year	Central	38262	
26	Year	Market	213522	

ここで、Jan セルを選択して、**「選択項目のみ保持」**をクリックします。結果のレイアウトには、Jan でグループ化されている Market ディメンション・メンバーのみが表示されます。

図 10-12 Jan グループ・メンバーのみを使用したグリッド

	A	B	C	D
1			Product	Scenario
2			Measures	
3	Jan	New York	8722	
4	Jan	Florida	336	
5	Jan	Connecticut	321	
6	Jan	New Hampshire	44	
7	Jan	West	2339	
8	Jan	South	997	
9	Jan	Central	2956	
10	Jan	Market	16234	

レポートをさらに絞り込み、New York、Florida、Connecticut および New Hampshire メンバーのみを表示できます。グリッドでそれらのメンバーを選択します(図 4 を参照)。

図 10-13 「選択項目のみ保持」に選択したメンバー

	A	B	C	D
1			Product	Scenario
2			Measures	
3	Jan	New York	8722	
4	Jan	Florida	336	
5	Jan	Connecticut	321	
6	Jan	New Hampshire	44	
7	Jan	West	2339	
8	Jan	South	997	
9	Jan	Central	2956	
10	Jan	Market	16234	

次に、**「選択項目のみ保持」**をクリックします。結果を図 5 に示します。

図 10-14 Jan グループ・メンバー New York、Florida、Connecticut および New Hampshire のみを使用したグリッド

	A	B	C	D
1			Product	Scenario
2			Measures	
3	Jan	New York	8722	
4	Jan	Florida	336	
5	Jan	Connecticut	321	
6	Jan	New Hampshire	44	

別の方法で図 5 の結果を実現することもできます。図 6 に示すように、West、South および Central メンバーと Market ディメンションを選択します。

図 10-15 「選択項目のみ削除」に選択されたメンバー

	A	B	C	D
1			Product	Scenario
2			Measures	
3	Jan	New York	8722	
4	Jan	Florida	336	
5	Jan	Connecticut	321	
6	Jan	New Hampshire	44	
7	Jan	West	2339	
8	Jan	South	997	
9	Jan	Central	2956	
10	Jan	Market	16234	

次に、**「選択項目のみ削除」**をクリックします。

図 10-16 Jan グループ・メンバー New York、Florida、Connecticut および New Hampshire のみを使用したグリッド

	A	B	C	D
1			Product	Scenario
2			Measures	
3	Jan	New York	8722	
4	Jan	Florida	336	
5	Jan	Connecticut	321	
6	Jan	New Hampshire	44	

「選択項目のみ保持」および**「選択項目のみ削除」**コマンドは選択されたグループで常に実行され、グリッド内で評価されることに注意してください。

保存されたワークシートのアド・ホック・グリッドの更新

Oracle Smart View for Office 外部、または Smart View 管理拡張機能バージョン 23.210 以前を使用して、アド・ホック・グリッドに対して行われた更新を保持しながら、保存されたワークシートまたはワークブックをリフレッシュできます。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Planning、Planning モジュール、Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Tax Reporting

Smart View オプションの**「保存済シートを現状のままリフレッシュ(アド・ホック標準モード)」**チェック・ボックスが選択された場合、保存されたワークシート内のアド・ホック・グリッド

(Cloud EPM Standard モードまたは Essbase)が、Smart View でリフレッシュされたときに、データが保持されます。

このオプションは、次のシナリオで役立ちます:

- **Smart View の外部で変更されたデータ:**

  Office アプリケーションに Smart View がインストールされていないユーザーは、保存したシートのデータを更新し、それを Smart View を持つユーザーに送信することがよくあります。その後、そのユーザーは、更新されたデータをリフレッシュし、自分のデータ・ソースに送信します。アド・ホック・グリッド(Cloud EPM 標準モードまたは Essbase)を含むシートが Smart View の外部で変更され、Smart View をインストールせずに Microsoft Excel で更新および保存され、その後 Smart View でリフレッシュされた場合、Smart View オプションで**「保存済シートを現状のままリフレッシュ(アド・ホック標準モード)」**チェック・ボックスが選択されていると、更新内容はそのまま保持されます。

  たとえば、Smart View 以外のユーザーが、保存したシートで年を 2020 年から 2023 年に変更します。Smart View ユーザーとして、保存したシートを Smart View で開いてリフレッシュすると、シートは 2020 年に戻らずに、2023 年のデータ値でリフレッシュされます。

- **Smart View 管理拡張機能バージョン 23.210 以前を使用して更新されたディメンション・シート:**

  Smart View 管理拡張機能バージョン 23.210 以前の古いバージョンを使用して更新されたディメンション・シートまたはワークブックを、それ以降のバージョンでリフレッシュすると、更新内容が失われ、特定の表示上の問題が発生することがありました。そのような保存されたディメンション・ワークブックのリフレッシュ前に**「保存済シートを現状のままリフレッシュ(アド・ホック標準モード)」**チェック・ボックスを選択すると、更新されたデータが問題なく保持されます。

- **各種言語にローカライズされた式:**

  Excel は、Excel シートが開かれている Office のロケールに応じて、ローカライズされた式を自動的に翻訳します。たとえば、英語の VLOOKUP は、スペイン語の BUSCARV に翻訳されます。異なる言語の式を含む保存済アド・ホック・シートを Smart View でリフレッシュすると、翻訳された式が適切に解決されない場合があります。そのようなシートのリフレッシュ前に**「保存済シートを現状のままリフレッシュ(アド・ホック標準モード)」**チェック・ボックスを選択すると、ローカライズされた式が正しく解決されやすくなります。

「保存済シートを現状のままリフレッシュ(アド・ホック標準モード)」チェック・ボックスは、**「詳細」**タブの Smart View オプション・ダイアログの**「互換性」**セクションにあります。デフォルトで選択されます。そうすると、保存したシートの更新内容はリフレッシュ時に保持されます。

> **Note:**
>
> **「保存済シートを現状のままリフレッシュ(アド・ホック標準モード)」**チェック・ボックスを選択すると、シートに非常に大きなアド・ホック・グリッドが含まれるためにパフォーマンスの問題が発生し、リフレッシュ時に速度が低下することがあります。このような大きなグリッドのパフォーマンスを改善するには、**「保存済シートを現状のままリフレッシュ(アド・ホック標準モード)」**チェック・ボックスをオフにします。

行と列の挿入

アド・ホック・グリッドでは、計算列と非計算列および計算行と非計算行をグリッドの中または外に挿入できます。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Oracle Hyperion Financial Management

挿入された行と列には、式、テキストまたは Excel コメントが含まれる場合があり、リフレッシュまたはズーム・インしたときに保持されます。

グリッドは、行または列を挿入する前に必ずリフレッシュしてください。

繰返しメンバーの表示および抑制

アド・ホック・グリッドでディメンションをスタックした場合、繰返しメンバーを表示または抑制できます。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

このトピックでは、**「オプション」**ダイアログ・ボックスの**「データ・オプション」**タブの**「行の抑制」**グループにある**「繰返しメンバー」**オプションの使用について説明します。このオプションは、Essbase データ・ソースにのみ適用されます。**「行の抑制」**および**「列の抑制」**グループのその他のデータ抑制オプションを使用するには、データ・オプションを参照してください。

アド・ホック・グリッドでスタック・ディメンションを操作していて、**繰返しメンバーの抑制**オプションが選択されると、Essbase では、"近接ルール"を使用して、最初の列ディメンションまで、ラベルの上の抑制されたメンバー・ラベルを次の行に配置します。近接ルールを使用して、繰返しメンバーが抑制されると、Essbase では、スタック・ディメンションを 1 行ずつ比較します。前の行の最も近い抑制されたメンバーの下の、非繰返しで抑制されていないメンバーをグループ化します。Essbase では、問合せされているメンバーを判別でき、それに応じてデータを取得します。

後に続くシナリオでは、実行中の近接ルールを示しています。

Sample Basic データベースを使用し、**「アド・ホック分析」**オプションを選択します。Measures、Product、Market、Scenario および Year ディメンションは、図 1 に示されているようにワークシートで取得されます。

図 10-17 Sample Basic のアド・ホック分析グリッドの初期状態

	A	B	C	D
1		Product	Market	Scenario
2		Measures		
3	Year	105522		

図 2 に従って、3 つの"スタック"ディメンションおよび横に並べた 2 つのディメンションになるように、ディメンションを配置します。

図 10-18 ディメンションが積上げ構成で配置された Sample Basic のグリッド



	A	B	C
1			Measures
2			Market
3			Scenario
4	Product	Year	105522

デフォルトでは、**「オプション」**ダイアログ・ボックスの**「データ」**タブにある**「行の抑制」**グループの**「繰返しメンバー」**オプションは、選択がクリアされています。Product と Year メンバーにズーム・インしてから、Market および Scenario ディメンションにズーム・インします。結果のグリッドは図 3 のようになります。

図 10-19 「繰返しメンバー」オプションを選択する前のグリッドでディメンションにズーム・インした場合

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
1			Measures	Measures	Measures	Measures	Measures	Measures	Measures	Measures	Measures	Measures
2			East	East	East	East	East	West	West	West	West	West
3			Actual	Budget	Variance	Variance %	Scenario	Actual	Budget	Variance	Variance %	Scenario
4	Colas	Year	12656	13150	-494	-3.756653992	12656	3549	8890	-5341	-60.07874016	3549
5	Root Beer	Year	2534	4360	-1826	-41.88073394	2534	9727	10950	-1223	-11.16894977	9727
6	Cream Soda	Year	2627	2970	-343	-11.54882155	2627	10731	11670	-939	-8.046272494	10731
7	Fruit Soda	Year	6344	7910	-1566	-19.7977244	6344	5854	5670	184	3.245149912	5854
8	Diet Drinks	Year	2408	2730	-322	-11.79487179	2408	8087	10570	-2483	-23.4910123	8087
9	Product	Year	24161	28390	-4229	-14.89609017	24161	29861	37180	-7319	-19.68531469	29861

> **ノート:**
>
> 読みやすくするため、South および Central メンバーが図 3 および図 4 のグリッドから削除されました。

Smart View のリボンから、**「オプション」**、**「データ」**タブの順に選択します。**「行の抑制」**グループで、**「繰返しメンバー」**オプションを選択します。次に、シートをリフレッシュします。結果のグリッドは図 4 のようになります。抑制された繰返しメンバーが存在した行 1 および 2 のそれぞれの列ディメンションで、メンバー・ラベルは、次の行のラベルの上で中央揃えになります。

列 C、D、E、F および G のデータは East メンバーに属し、列 H、I、J、K および L のデータは West に属します。近接ルールを使用すると、列 G の Scenario は East に属します。これは、East メンバーからは 2 つの列のみですが、West メンバーからは 3 つの列となっているためです。

Measures ディメンション・ラベルはグリッド全体に適用されます。

図 10-20 「繰返しメンバー」オプションの選択後にグリッドをリフレッシュした場合

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
1							Measures					
2					East					West		
3			Actual	Budget	Variance	Variance %	Scenario	Actual	Budget	Variance	Variance %	Scenario
4	Colas	Year	12656	13150	-494	-3.756653992	12656	3549	8890	-5341	-60.07874016	3549
5	Root Beer	Year	2534	4360	-1826	-41.88073394	2534	9727	10950	-1223	-11.16894977	9727
6	Cream Soda	Year	2627	2970	-343	-11.54882155	2627	10731	11670	-939	-8.046272494	10731
7	Fruit Soda	Year	6344	7910	-1566	-19.7977244	6344	5854	5670	184	3.245149912	5854
8	Diet Drinks	Year	2408	2730	-322	-11.79487179	2408	8087	10570	-2483	-23.4910123	8087
9	Product	Year	24161	28390	-4229	-14.89609017	24161	29861	37180	-7319	-19.68531469	29861

11.1.2.2.102 以前のワークブックでの繰返しメンバーの抑制オプションの使用

Oracle Smart View for Office 11.1.2.5.200 以降でワークブックを使用し始める前に、このトピックのステップを実行する必要があります。

11.1.2.2.102 以前のバージョンの Smart View、Oracle Essbase および Oracle Hyperion Provider Services で作成および使用されたスプレッドシートを使用する場合、行および列データが親メンバーに対して正しく整列されるようにするために、次のステップを実行する必要があります:

1. ワークブックのバックアップ・コピーを作成します。
2. **「オプション」**ダイアログ・ボックスの**「データ」**タブで、**繰返しメンバー**・オプションをクリアします。
3. ワークブックをリフレッシュします。ワークブック全体をリフレッシュするか、各シートを個別にリフレッシュします。
4. **「オプション」**ダイアログ・ボックスの**「データ」**タブに戻り、**繰返しメンバー**・オプションを選択します。
5. リフレッシュ操作を再度実行します。

   ワークブックは、Smart View バージョン 11.1.2.5.200 以降で使用できます。

ワークシート上の複数のグリッドの操作

Oracle Essbase では、1 つのワークシートに複数のアド・ホック・グリッドを作成できます。

次も参照:

- ワークシート上の複数のグリッドについて
- 複数グリッド・ワークシートの作成
- アド・ホック・ワークシートの複数グリッド・ワークシートへの変換
- 複数グリッド・ワークシートの範囲の名前変更
- 複数グリッド・ワークシートでの接続の変更
- Essbase の複数グリッド・ワークシート上の POV
- 複数のグリッドの例: バタフライ・レポート

ワークシート上の複数のグリッドについて

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

Essbase では、1 つのワークシートに複数のグリッドを作成できます。これらのグリッドは、同じデータ・ソースまたは別の Essbase データ・ソースに接続できます。これらのグリッド内のデータを取得して、ワークシート上でシフトできます。

> **ノート:**
>
> Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management データ・ソースを使用してシートに複数のアド・ホック・グリッドを作成する場合は、Cloud EPM での複数グリッド・ワークシートの操作を参照してください。

ガイドラインおよびベスト・プラクティス

複数のグリッドをサポートするワークシートで作業する際は、次のガイドライン、ベスト・プラクティスおよび制限事項に注意してください:

- データを送信できるのは、一度に 1 つのグリッドのみです。

  一度に複数のグリッドでデータを送信しようとした場合、つまり、複数のグリッドでセル範囲を選択した場合、Excel によって戻された最初の範囲が、選択されたグリッドの判断に使用され、そのグリッドでのみ送信が実行されます。

- **「アドホック操作の式とコメントを保持(ピボットと元に戻すを除く)」**が選択されている場合、グリッド内から**「Smart View」**コンテキスト・メニューを右クリックして表示される**「元に戻す」**オプションの使用で、シート上の式が保持されます。このオプションは、式がシートに追加されてリフレッシュを実行した後のみ、1 回の「元に戻す」アクションにのみサポートされます。このオプションは、1 回の「元に戻す」アクションにのみサポートされます。Smart View のリボンの**「元に戻す」**オプションは、複数のグリッド・シートに対して有効になりません。Essbase アド・ホック・グリッドの内側および外側にある Excel 式の保持を参照してください。
- 複数グリッド・ワークシートは、スマート・スライスでサポートされていません。
- ベスト・プラクティスとして、Microsoft Excel の「名前の管理」または「名前ボックス」を使用して、名前付き範囲の名前を変更しないでください。かわりに、次の方法のいずれかを使用して、名前付き範囲の名前を変更してください:
  - Smart View パネルの「ドキュメント・コンテンツ」ペイン内の**「名前変更の範囲」**コマンドを使用します。複数グリッド・ワークシートの範囲の名前変更を参照してください
  - *Oracle Smart View for Office 開発者ガイド*に示された VBA 関数の HypModifyRangeGridName を使用します。
- ベスト・プラクティスとして、複数接続の複数グリッド・ワークシートで、個別のグリッド上のピボットおよびズーム操作に対応できるスペースがグリッド間に十分あることを確認してください。3 つ以上のデータベース接続がある場合、およびグリッドが非常に密接に配置されている場合、メタデータが失われることがあります。

- ベスト・プラクティスとして、目的の範囲を確実にリフレッシュするには、**「ドキュメント・コンテンツ」**ペインを使用して最初に範囲を選択し、次にペインで**「リフレッシュ」**リンクをクリックします。リフレッシュ後、**「ドキュメント・コンテンツ」**から範囲を再度選択して、更新された範囲を強調表示します。
- Smart View リボンの次のアイテムは無効になっています。
  - **元に戻す**
  - **やり直し**

  かわりに、複数グリッド・シートでの作業時に**「元に戻す」**および**「やり直し」**コマンドにアクセスするには、影響を受けるグリッドにカーソルがあることを確認してください。ベスト・プラクティスとして、**「ドキュメント・コンテンツ」**ペインを使用して、正しいグリッドが選択されていることを確認します。次に、右クリックしてコンテキスト・メニューから**「Smart View」**を選択し、**「元に戻す」**または**「やり直し」**を必要に応じて選択します。
- Essbase リボンの次のアイテムは無効になっています。
  - **POV にピボット**
  - **POV**
  - **フォーマットの保持**
  - **データ・パースペクティブ**
  - **コメントの表示**

複数グリッド・ワークシートの作成

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

複数グリッド・ワークシートを作成するには:

1. Excel で、Essbase データ・ソースに接続します。
2. ワークシート内の任意の場所で、セルの範囲を選択します。

   1 つのセルではなく、範囲を選択する必要があります。
3. Smart View パネルから、アプリケーションを右クリックして**「アド・ホック分析」**を選択します。

   > **ノート:**
   >
   > 複数グリッド・ワークシートは、スマート・スライスでサポートされていません。

4. ワークシートを変更して複数のグリッドをサポートするよう求められたら、**「はい」**を選択します。

> **ノート:**
>
> 通常の単一グリッド・ワークシートから始めて、シートに別のグリッドを追加する場合、アド・ホック・ワークシートの複数グリッド・ワークシートへの変換を参照してください。

5. ワークシートに別のグリッドを作成するには:
   a. 別のセル範囲を選択します。
   b. Smart View パネルから、アプリケーションを右クリックして**「アドホック分析」**を選択します。
6. 必要に応じてステップステップ 5 を繰り返して、ワークシートにグリッドを追加します。

> **ノート:**
>
> Oracle Smart View for Office 11.1.2.5.400 以降、リフレッシュを使用した複数グリッド・ワークシートの作成はサポートされていません。

アド・ホック・ワークシートの複数グリッド・ワークシートへの変換

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

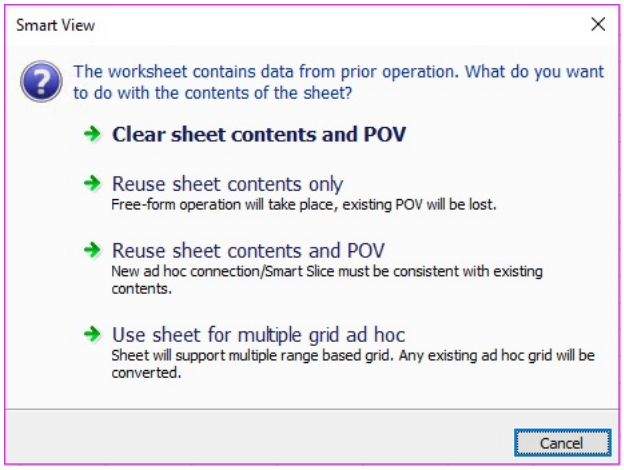
オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

既存のアド・ホック・ワークシートを複数のグリッドをサポートするワークシートに変換するには:

1. ワークシート内の任意の場所で、セルの範囲を選択します。

   1 つのセルではなく、範囲を選択する必要があります。
2. Smart View パネルでアプリケーションを右クリックして**「アド・ホック分析」**を選択します。

   シートにはすでにグリッドが含まれているため、次のダイアログが表示されます。



使用可能なオプションは次のとおりです。

- **シートのコンテンツと POV をクリア**
- **「シートのコンテンツのみを再利用」**は、シートのコンテンツのみを再利用します。この場合、シートのコンテンツはフリー・フォームに変換され、既存の POV は失われます。
- **シートのコンテンツおよび POV を再利用**。このオプションは、新しいアドホック接続またはスマート・スライスの POV が既存のコンテンツと一致する場合に使用します。
- **「シートを複数グリッド・アドホックに使用」**は、シートを複数の範囲ベースのグリッドをサポートするシートに変換して、シートの既存のアドホック・グリッドを保持します。

3. ダイアログで**「シートを複数グリッド・アドホックに使用」**を選択します。

   2 つ目のグリッドがワークシートに追加されます。これで、シートは複数グリッドをサポートするようになりました。

4. **オプション:** シートにさらにグリッドを追加するには、ステップ 1 とステップ 2 を繰り返します。

複数グリッド・ワークシートの範囲の名前変更

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

複数グリッド・ワークシートに範囲を設定する場合、Excel ではデフォルトで各範囲に名前を割り当てます。名前の範囲に使用される文字列は、特にわかりやすくない可能性があります。たとえば、Essbase Demo Basic データベースに基づく範囲は次のようになる場合があります。

```
Demo_Basic_C2034305_D2AC_449B_B4AE_56EA047EDF05_1
```

よりわかりやすい名前がワークブックのすべてのユーザーにとって 便利ですが、Excel の「名前の管理」を使用して名前を変更すると Oracle Smart View for Office のメタデータが失われる可能性があります。

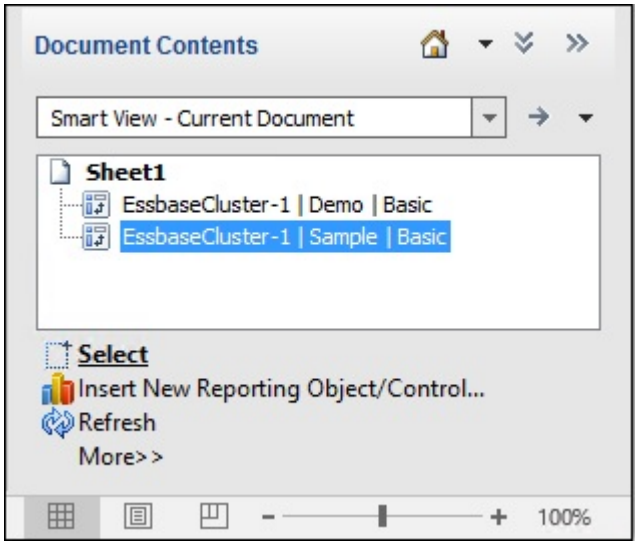
Smart View の「ドキュメント・コンテンツ」ペインの**「名前変更の範囲」**コマンドを使用して、名前をよりわかりやすい名前に変更します。

> **ノート:**
>
> 複数グリッド・ワークシートの範囲名を変更するには、「ドキュメント・コンテンツ」ペインの**「名前変更の範囲」**コマンドを使用する*必要があります*。

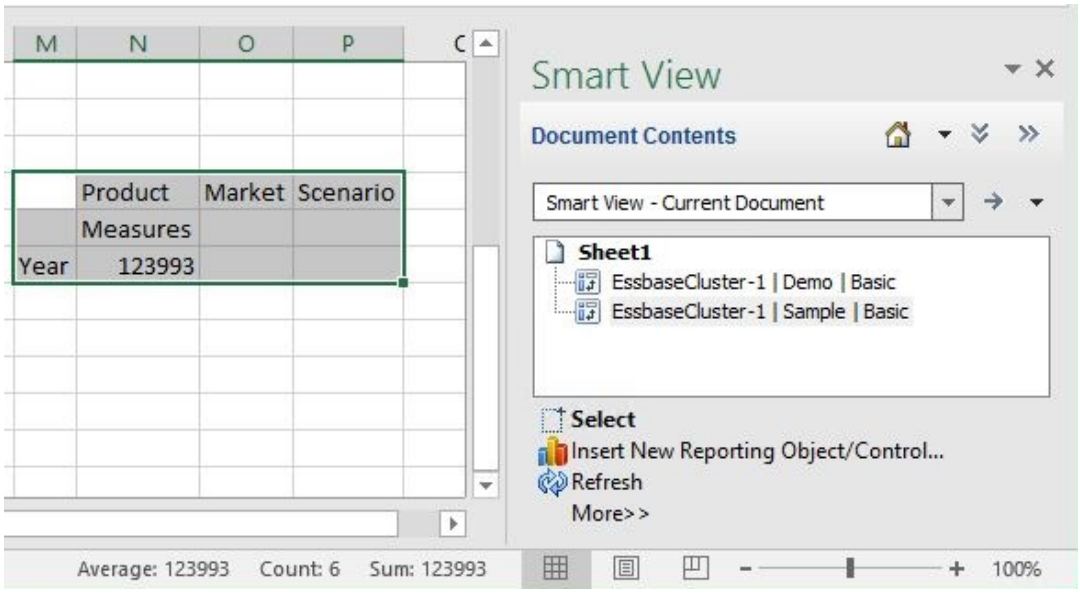
複数グリッド・ワークシートの範囲名を変更するには:

1. 「ドキュメント・コンテンツ」ペインで、ツリーで名前変更する範囲を強調表示して、**「選択」**をクリックします。

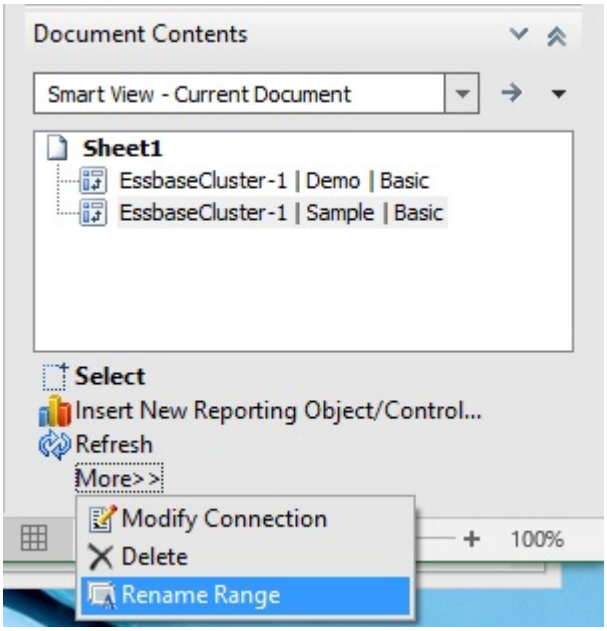
   次の例では、`EssbaseCluster-1 | Sample | Basic` がツリーで強調表示されています。



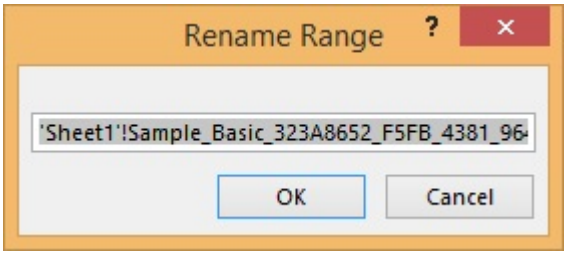
「選択」コマンドを使用して、シートの正しいグリッドを操作していることを確認します。たとえば、`EssbaseCluster-1 | Sample | Basic` を強調表示して**「選択」**をクリックした後、ワークシートの Sample Basic のグリッドが強調表示されます。



2. アクション・パネルで、**「詳細」**、**「名前変更の範囲」**の順に選択します。

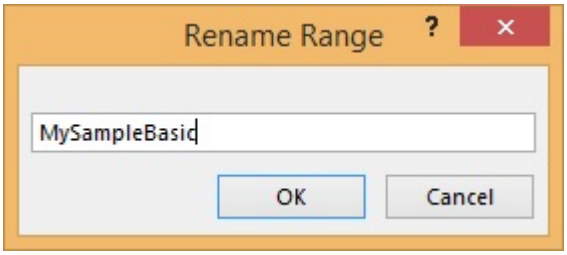


「名前変更の範囲」ダイアログ・ボックスが表示され、Excel で範囲に割り当てられたデフォルト名が示されます。



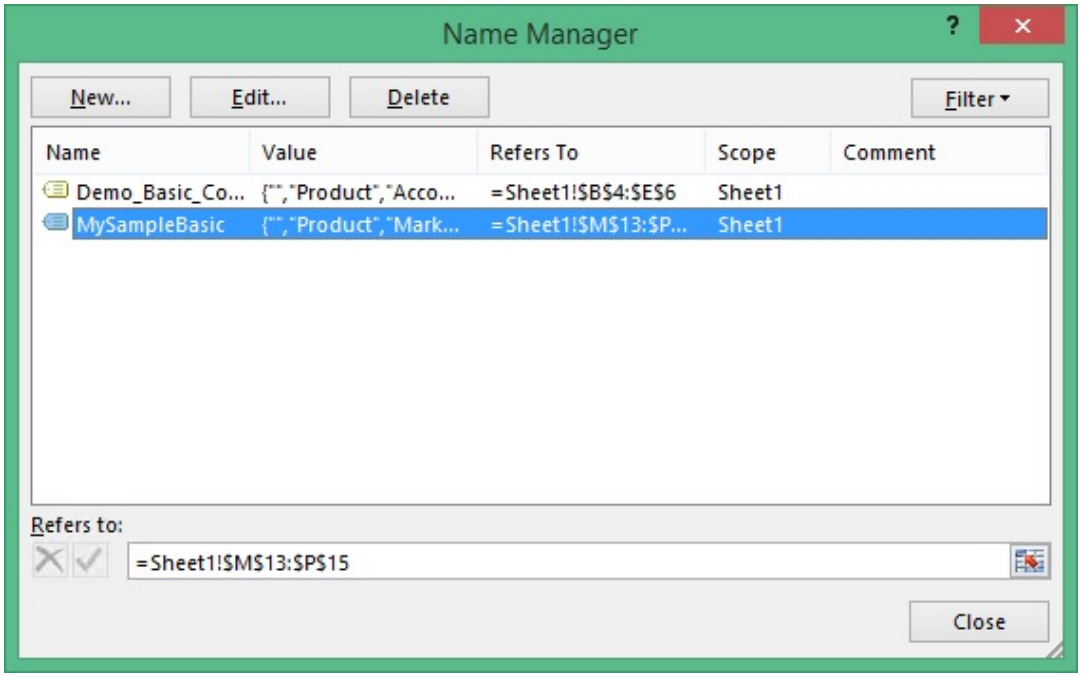
3. **「名前変更の範囲」**で、新しい範囲名を入力して、**「OK」**をクリックします。

   範囲名を `MySampleBasic` に変更します。

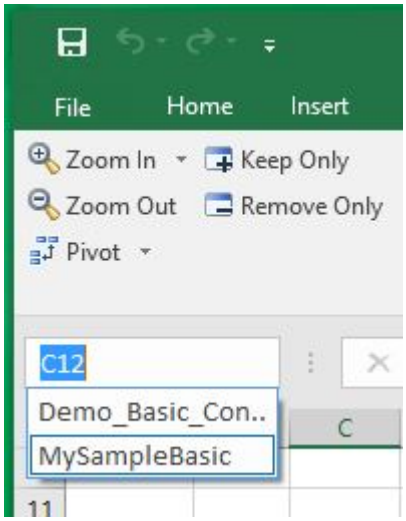


4. 範囲名が Excel の**「名前の管理」**で変更されていることを確認します。

   Excel の「数式」リボンからアクセスする**「名前の管理」**の例を示します。



Excel の**「名前ボックス」**ドロップダウン・リストで変更された範囲名を表示することもできます。



複数グリッド・ワークシートでの接続の変更

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

複数グリッド・ワークシートでグリッドの接続を変更するには:

1. 接続を変更するグリッドで、セルの範囲を選択します。

   1 つのセルではなく、範囲を選択する必要があります。
2. **Excel の名前の管理**を使用して、関連付けられた名前付き範囲を削除します。
3. Smart View パネルから、接続するアプリケーションを右クリックして**「アドホック分析」**を選択します。

Essbase の複数グリッド・ワークシート上の POV

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

Essbase の 1 つのグリッドのみを含む複数グリッド・ワークシートでは**「Pov」**ボタンが有効になっており、このボタンで POV ツールバーの表示/非表示を切り換えることができます。複数のグリッドを含む複数グリッド・ワークシートでは、**「POV」**ボタンは使用できません。

1 つのグリッドを含む複数グリッド・ワークシートでは、POV ディメンションがグリッドとツールバーの両方に表示されます。通常のアド・ホック・ワークシートでは、POV ツールバーが非表示の場合のみ、POV ディメンションがグリッドに表示されます。

複数のグリッドの例: バタフライ・レポート

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

通常、Oracle Smart View for Office のグリッドでは、メンバー名がデータ・グリッドの左上の行列にあります。複数のグリッドに対して使用可能になっているワークシートの範囲取得機能を使用すると、別のレイアウトのグリッドを作成できます。

たとえば、2 列のデータ・セルの間にメンバー列を入れた、"バタフライ"レポートを作成できます。

図 10-21 バタフライ・レポート

Diet Cola	East	Jan
Budget		Actual
$190.00	Sales	$200.00
$80.00	COGS	$84.00
$110.00	Margin	$116.00
$20.00	Marketing	$26.00
$20.00	Payroll	$23.00
	Misc	
$40.00	Total Expenses	$49.00
$70.00	Profit	$67.00
$480.00	Opening Inventory	$500.00
$100.00	Additions	$190.00
$390.00	Ending Inventory	$490.00
57.89	Margin %	58
36.84	Profit %	33.5
$5.83	Profit per Ounce	$5.58

レポートおよびアド・ホック・グリッドのカスケード

アド・ホック・グリッドまたはスマート・スライス問合せに基づくレポートで、1 つ以上のディメンションの任意のメンバーまたはすべてのメンバーについて個別のレポートを作成できます。

これらのレポートは、Excel ワークブックのワークシートにわたってそれぞれ重ねて表示できます。レポート・デザイナで作成されたレポートの場合、PowerPoint プレゼンテーションの複数のスライドに渡ってレポートをカスケードすることもできます。必要に応じて、すべてのレポートを収容するワークシートまたはスライドが作成されます。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Planning、Planning モジュール、Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Tax Reporting

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Oracle Hyperion Financial Management

式、コメントなどのテキスト、スマート・スライス関数グリッド、チャート、表、およびスライドは、カスケードされるレポートに含まれます。

Essbase および Cloud EPM 標準モード・アプリケーションのみ: カスケードは、複数のグリッド・ワークシートでサポートされています。

その他のガイドラインについては、カスケードのガイドラインを参照してください。

ビデオ

目的	このビデオを見る
Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management に接続中にカスケードする方法について説明します。	式の追加とデータ分析のカスケード

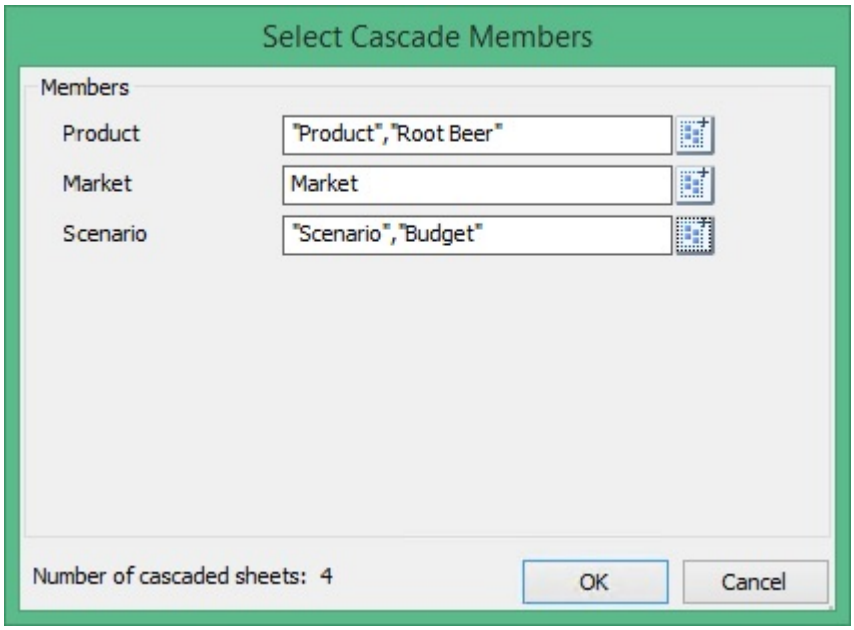
アド・ホック・グリッドまたはスマート・スライス・レポートをカスケードするには:

1. ワークシートで、アド・ホック・グリッドまたはスマート・スライス・レポートを開きます。
2. **Essbase** リボンから、またはデータ・プロバイダ・アド・ホックのリボン(**「Planning アド・ホック」**など)から、**「カスケード」**を選択し、次のいずれかを選択します:
   - 現在のワークブックを使用する場合は、**「同一ワークブック」**を選択します
   - 新しいワークブックを使用する場合は、**「新規ワークブック」**を選択します
   - 各レポートを別々のワークブックにカスケードする場合は、**「別のワークブック」**を選択します
3. **「カスケード・メンバーの選択」**で、各ディメンションの横にあるをクリックして、**「メンバー選択」**を起動し、ここでレポートを作成するメンバーを各ディメンションから選択します。

   選択したメンバーごとに 1 つのレポートが作成されます。生成されるレポート数を示すメッセージが、ダイアログの左下に表示されます。

   次のダイアログの例では、Product および Scenario ディメンションに対してメンバーが選択されています。Product および Scenario については、**「メンバー選択」**でメンバーを選択

すると、メンバー名に引用符が付けられます。Market ディメンションについては、**「メンバー選択」**が起動されておらず、メンバーが選択されていないため、引用符が付いていません。ダイアログの最下部のメッセージは、4 つのカスケードされたシートが生成されることを示しています。



ヒント:

「カスケード・メンバーの選択」ダイアログでメンバー名を手動で入力するには、ベスト・プラクティスとして、メンバー名を引用符で囲む必要があります。これは、1 つの名前のメンバー名にもカンマ(,)を含むメンバー名にも適用されます。たとえば、"Laptops"という名前のメンバーと"Tablets, Smartphones"という名前のメンバーを選択するには、次のように入力します。

```
"Laptops","Tablets, Smartphones"
```

また、例に示すように、各メンバー名をカンマで区切ります。

ノート:

「カスケード・メンバーの選択」ダイアログ・ボックスで、JAWS はダイアログのコンテンツを読み上げるときに「カスケード・シートの数」ラベルと数値を読み取りません。JAWS で、**「Utilities」**、**「Settings」**、**「User」**、**「Screen echo」**の順に移動し、**「Echo all text」**を選択します。

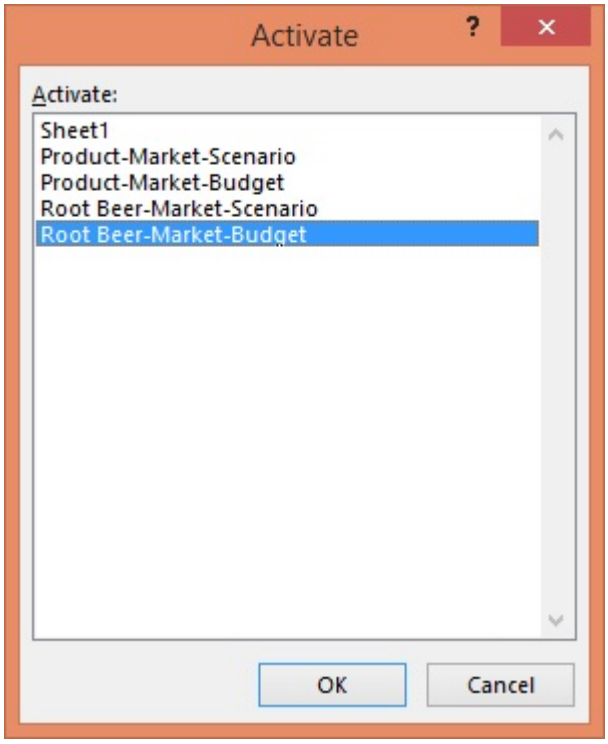
4. **「OK」**をクリックすると、カスケードが開始されます。

前のカスケード選択内容に応じて、レポートは現在のワークブックまたは新しいワークブックで独立したワークシートとして作成されます。各ワークシート・タブの名前として、そのワークシートに含まれるレポートのディメンションとメンバーが使用されます。レポートを表示するには、ワークシート・タブをクリックします。

すべてのワークシートのリストを表示するには、Excel の左下の左矢印または右矢印を右クリックします:



この例では、「Product」、「Market」および「Scenario」ディメンションを使用して、次のレポートが作成されています:



特定のレポートを表示するには、リストでレポートを選択し、**「OK」**をクリックします。

カスケードのガイドライン

- ワークシート・タブの名前指定は、カスケード選択とその結果生成されるシートの数によって異なります。Excel では、ディメンション名の長さに関係なく、選択したディメンション名の最初の 30 文字を使用して各シート名が作成されます。この結果、30 文字を超えた場合は、最初の 28 文字が使用され、その後に~n が付加されます。ここで、n は一意の番号(1、2、3、...)です。
- ベスト・プラクティスとして、ディメンション名、メンバー名または別名に次の特殊文字を使用しないでください:

  { } ( ) [ ] @ \ . - = < + ' " _ |

- Oracle Smart View for Office と Excel はどちらもメモリー制限があるため、大規模なグリッドや多数の結果シートがある場合、カスケードは非常に遅くなる可能性があります。カスケードを行う際は、次の点に注意してください:
  - 多数のメンバーでレポートをカスケードすると、Excel が中断するか終了する可能性があります。
  - カスケード結果は約 200 シートまでに制限されています。200 を超える結果を表示すると、Excel が一時停止または終了する可能性があります。カスケードするシート数は 200 シート未満にすることをお薦めします。
- Smart View で拡張機能が有効化されている場合に、多数のメンバーでレポートをカスケードすると、Excel が応答しなくなります。インストールされている拡張機能は、**「Smart**

View オプション」ダイアログ・ボックスの**「拡張機能」**タブから無効化できます。無効化した後、Excel を再起動して、カスケード操作を繰り返します。

代替変数の使用

代替変数は、変数値を表すグローバルな、またはアプリケーションごとのプレースホルダです。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Planning

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Oracle Hyperion Planning

アプリケーション・デザイナまたは管理者は、代替変数とそれに対応する値を定義および管理します。Oracle Smart View for Office ユーザーは、代替変数をグリッドに入力し、リフレッシュしてその値を取得できます。

たとえば、"&CurMnth"という指定は現在の月を表す代替変数です。代替変数"&CurMnth"の値が「August」であるとします。グリッドに&CurMnth と入力すると、リフレッシュ後、Smart View に August と表示されます。その後、値を「September」に変更した場合、&CurMnth と入力してリフレッシュすると、「September」と表示されます。

Planning に接続している場合、入力した一部の代替変数は範囲を表す場合があります。たとえば、"&NewMnthPeriod"は、10 月から 12 月までの月範囲を表す場合があります。または、"&NewQtrPeriod"は、四半期 1 と四半期 2 の四半期階層を表す場合があります。

代替変数の詳細は、Oracle Help Center で入手可能なそれぞれのデータ・ソース・タイプのドキュメントを参照してください。

代替変数の値を取得するには:

1. グリッドのセルに代替変数を入力します。

   > **ノート:**
   >
   > 代替変数の名前はアンパサンド(&)で始まる必要があります。

2. 任意のリボンから、**「リフレッシュ」**を選択します。

   代替変数に定義されている現在の値によって、セルの代替変数が置き換えられます(また、代替変数を含む現在のワークシート内のすべてのセル、たとえば、&CurMnth のすべてのインスタンスが変更されます)。

> **ノート:**
>
> 代替変数がフォームで使用される場合、フォームの最後の列(一番右の列)は、フォームが Smart View で開かれるときに削除されるか非表示になります。

リフレッシュ後の無効なメンバーとコメントの保持

サービス管理者がビジネス・プロセスのアプリケーション設定で**「無効なメンバー/コメントの保持」**オプションを有効にすると、リフレッシュ後にアド・ホック・グリッドに無効なメンバーを保持できます。

データ・ソース・タイプ: Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Planning、Planning モジュール、Tax Reporting

「無効なメンバー/コメントの保持」オプションを有効にすると、次の項目を検出できます:

- グリッド上の不明または無効なメンバー
- グリッドの外で入力されたテキスト、たとえば、ユーザー自身のノート

さらに、コメントのセル・スタイルを設定することで、グリッド内の無効または不明なメンバー、またはグリッドの外のシートで作成した関連ノートなどのコメント・セルを迅速かつ簡単に特定できます。

次の例では、コメントのセル・スタイルがピンクの背景に太字斜体のテキストに設定されています。メンバー名の入力時に 2 つのエラーが発生しています。グリッドをリフレッシュすると、セル C2 と A4 に無効なメンバーが表示されます。また、入力したデータはグリッド上に残り、無効なメンバーに関連付けられたデータ・セルにはフォーマットが適用されていないことにも注意してください。

Figure 10-22　無効なメンバーが表示されているアド・ホック・グリッドの一部

	A	B	C	D	E	F	G
1		CEO Office	BaseData	FY23	Plan	No Product	Working
2		Jan	***Febb***	Mar	Q1		
3	7410: Utilities	36231	34628.85	26513	97373		
4	***7420: Rent Expenses***	34285.97	32773.55	25133.42	92192.94		
5	7450: Telephone Expenses	21113	20184.01	15449	56746		
6	7510: Postage	6646	6366	4860	17872		
7	Total Office Expenses	98276	93952.41	71956	264184		

ユーザーは、**「メンバー選択」**ダイアログを使用するか、正しいメンバー名を手動で入力することで、無効なメンバーを正しいメンバー名に置き換えることができます。グリッドを再度リフレッシュすると、行メンバーが階層内に正しく配置され、データが残っていることがわかります。

Figure 10-23　無効なメンバーを修正してリフレッシュした後のアド・ホック・グリッドの一部

	A	B	C	D	E	F	G
1		CEO Office	BaseData	FY23	Plan	No Product	Working
2		Jan	Feb	Mar	Q1		
3	7410: Utilities	36231	34629	26513	97373		
4	7420: Rent Expense	34286	32774	25133	92193		
5	7450: Telephone Expenses	21113	20184	15449	56746		
6	7510: Postage	6646	6366	4860	17872		
7	Total Office Expenses	98276	93952	71956	264184		

ガイドラインおよび考慮事項

- Oracle Smart View for Office では、無効なメンバーはコメントとみなされます。セル・スタイルを使用してコメントに独自のスタイルを設定すると、アド・ホック・シート上の無効なメンバーやコメントをすぐに確認できます。詳細は、セルのスタイルを参照してください。
- 複数ディメンションの行と列では、最初の行ディメンションの最初の列のメンバー、またはグリッドの最初のメンバー列のいずれかの行を変更するとエラーが発生します。その他のメンバー・セルへの変更は、正常に機能します。
- 複数ディメンションの行ヘッダーまたは列ヘッダーが有効なメンバーと無効なメンバーで構成されている場合、これらのヘッダーの以前は修飾されていない有効なメンバー名または別名は、リフレッシュ時に修飾されたメンバー名に置き換えられます。たとえば、行 90 に「Account」と「Sales South」を入力するつもりが、「Account」を「Accoun」と誤って入力したとします。リフレッシュすると、列 A に誤って入力されたメンバー名、列 B に修飾されたメンバー名を含む無効なメンバー行が表示されます:

87	Account	Sales NorthEast	#Missing
88	Account	Sales Mid-Atlantic	#Missing
89	Account	Sales SouthEast	#Missing
90	***Accoun***	***[Sales Director 2].[430]***	
91	Account	Sales Central	#Missing
92	Account	Sales West	#Missing

列 A のスペルミスを修正してリフレッシュします。行 90 のメンバーは正しく表示されます:

87	Account	Sales NorthEast	#Missing
88	Account	Sales Mid-Atlantic	#Missing
89	Account	Sales SouthEast	#Missing
90	Account	Sales South	#Missing
91	Account	Sales Central	#Missing
92	Account	Sales West	#Missing

- **「無効なメンバー/コメントの保持」**オプションが選択されていない場合、無効なメンバーはグリッド内の最も近い前のメンバーに戻ります。ただし、グリッドの最初の行または最初の列はコメントとして保持されます。グリッドに挿入された空白の行または列は空白のままです。
- **サービス管理者:** リフレッシュ後にユーザーがアド・ホック・グリッド内の無効なメンバーを保持できるようにするには、**「アプリケーション設定」**の **Smart View アドオン**で、**「無効なメンバー/コメントの保持」**チェック・ボックスを選択します。このチェック・ボックスはデフォルトでは無効になっています。

  詳細は、ビジネス・プロセス管理ガイドのアプリケーション設定に関するトピックを参照してください。たとえば、Planning の場合は、*Planning の管理*の指定できるアプリケーションおよびシステムの設定を参照してください。

Essbase シートのコメントおよび不明メンバーの検出

Oracle Smart View for Office でオプションを設定して、Oracle Essbase のシートのコメントおよび不明メンバーを検出できます。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Essbase

Essbase プロバイダに接続されている場合、Smart View のオプションを有効化し、次を迅速に検出できます。

- グリッドの不明メンバー
- グリッドの外で入力されたテキスト、たとえば、シート上のユーザー自身のノート

Smart View で、これらのデータ・タイプを含むセルは*コメント*と呼ばれます。

Smart View でオプションを設定し、グリッド内の無効または不明なメンバー、またはグリッドの外のシートで作成した関連ノートなどのコメント・セルを迅速かつ簡単に特定できます。

たとえば、サーバー上の Essbase データベースで、"Oregon Coast"という名前のメンバーが"Oregon"に名前変更されました。Smart View はこの変更を追跡し、コメントをコールアウトするセル・スタイルが定義されている場合、この変更を表示します。このため、変更にすぐに気づき、グリッドで修正できます。

Essbase シートでコメントをコールアウトするには、Smart View で次のオプションを設定します

- **コメントと不明メンバーの保持**
- **拡張コメント処理**
- **セル・スタイルの使用**

オプションで、コメントに独自のセル・スタイルを定義します。

その後、シート上のコメント・セルを簡単に識別し、選択して**「コメントの編集」**ダイアログ・ボックスで操作できます。

Essbase シートでのコメントの使用方法の詳細は、次のトピックを参照してください:

- シート内のコメント表示の有効化
- シート内のコメントの表示
- コメントの編集
- コメントの削除

シート内のコメント表示の有効化

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

Essbase シート内のコメント表示を有効化するには:

1. **「オプション」**ダイアログ・ボックスで、次のタスクを実行します:
   a. **「メンバー・オプション」**で、次のオプションを選択します:

- **コメントと不明メンバーの保持**
- **拡張コメント処理を有効にする**

> **ノート:**
>
> これらのオプションを有効化するには、**「アドホック操作の式とコメントを保持(ピボットを除く)」**オプションを選択する必要があります。

b. **「フォーマット」**で、**「セル・スタイルの使用」**を選択します。

c. **「セルのスタイル」**で、**「共通」**を展開し、**「コメント・セル」**の隣にあるチェック・ボックスを選択します。オプションで、**「コメント・セル」**を右クリックして、コメントを含むセルの**「フォント」**、**「背景」**または**「枠線」**を定義します。

2. **「OK」**をクリックします。

   オプションで、**「OK」**ボタン内の矢印をクリックして、**「デフォルト・オプションとして保存」**または**「すべてのシートに適用」**のいずれかを選択します。これらのオプションは、Smart View のオプションの「シート・オプション」で説明します。

   シート内のコメントの表示のステップに進みます

シート内のコメントの表示

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

Essbase シート内のコメント・セルを表示するには:

1. シート内のコメント表示の有効化のステップを必ず実行します
2. グリッドを含むワークブックを開き、Essbase プロバイダに接続し、**「リフレッシュ」**をクリックします。
3. シートで、コメントおよび不明メンバーを含むセルに注目してください。

   図 1 の例では、セル C4 は不明のメンバーであり、Oracle Smart View for Office によって、このセルはコメントとしてマークされています。メンバー名が、基礎となる Essbase データベースで変更されている可能性があります。コメント・スタイルは、このメンバーに注意する必要があることを示しています。

   また、シート内の 2 つ目のコメントは、Oregon Coast メンバー名を Oregon に変更する必要があることを示しています。このコメントは、グリッドの外で誰かによって作成されたノートであり、メンバー名がサーバーで変更されており、グリッドでメンバーを手動で更新する必要があることを示します。

図 10-24 コメント・スタイルでマークされたセルが表示されたグリッド

	A	B	C	D	E	F
1				Scenario		
2				Measures		
3	Qtr1	Colas	California	341		
4			Oregon Coast			Change to Oregon
5			Washington	170		
6			Utah	342		
7			Nevada	4		
8			West	1042		

4. コメントの編集またはコメントの削除に進みます。

コメントの編集

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

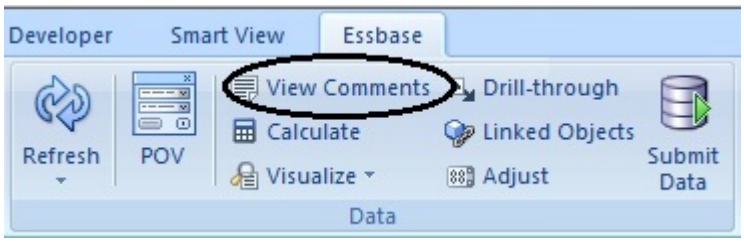
シート内のコメント表示の有効化のステップを必ず実行します。

> **ノート:**
>
> このトピックの手順では、Oracle Smart View for Office の**「コメントの表示」**コマンドおよび**「コメントの編集」**ダイアログ・ボックスを使用して Essbase シートのコメントを編集する方法を説明します。このトピックの Smart View インタフェース要素を使用しないで、グリッドに直接コメントを編集することもできます。

Essbase シートのコメントを編集するには:

1. グリッドを含むワークブックを開いていない場合は開き、Essbase プロバイダに接続し、**「リフレッシュ」**をクリックします。
2. Essbase のリボンで**「コメントの表示」**をクリックします。

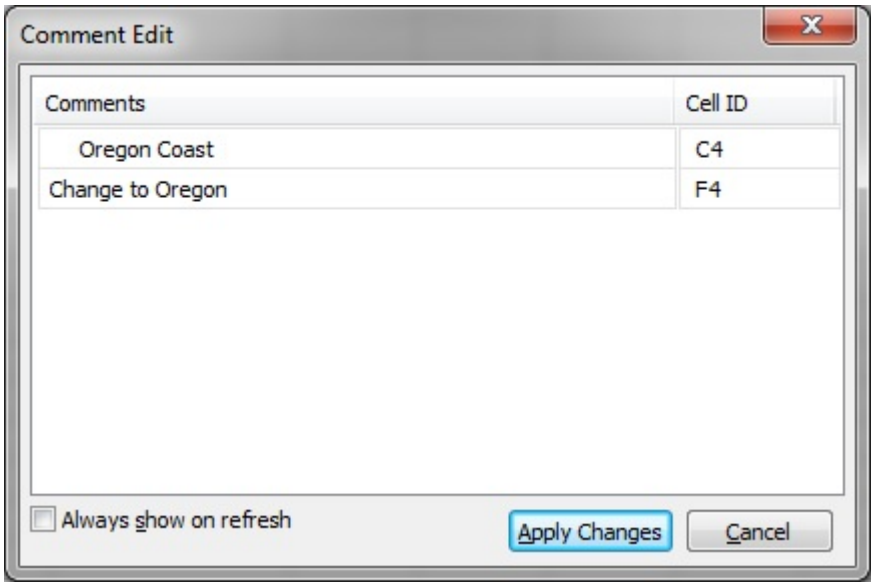
図 10-25 Essbase リボンの「コメントの表示」コマンド



> **ヒント:**
>
> **「コメントの表示」**コマンドは、コメントがシートにある場合のみ有効化されます。

「コメントの編集」ダイアログ・ボックスが起動されます。図 2 の例では、編集できるシートの 2 つのコメントを示します。

図 10-26 「コメントの編集」ダイアログ・ボックス



3. 行内のテキストを編集するには、まず、行内をクリックして編集可能なテキストを強調表示します。たとえば、図 3 に示すように"Oregon Coast"行内をクリックして強調表示します

図 10-27 「コメントの編集」ダイアログ・ボックス内の強調表示された編集可能な行



4. 必要に応じてテキストを編集します。この例では、"Oregon Coast"を"Oregon"に変更します。

図 10-28 「コメントの編集」ダイアログ・ボックス内の変更後のテキスト



5. **「変更の適用」**をクリックして、グリッド内の変更を確認してください。

   図 5 で、セル C4 は、シートがリフレッシュされるまでコメント付きセルとして引き続き表示されます。

図 10-29 「変更の適用」をクリックした後のグリッド、コメント付きのままのセル C4

	A	B	C	D	E	F
1				Scenario		
2				Measures		
3	Qtr1	Colas	California	341		
4			Oregon			Change to Oregon
5			Washington	170		
6			Utah	342		
7			Nevada	4		
8			West	1042		

6. **「リフレッシュ」**をクリックすると、コメント・スタイルがクリアされます。

図 10-30 リフレッシュ後のグリッド。セル C4 内のセル・スタイルがクリアされました。メンバーはサーバーと同期しています

	A	B	C	D	E	F
1				Scenario		
2				Measures		
3	Qtr1	Colas	California	341		
4			Oregon	185		Change to Oregon
5			Washington	170		
6			Utah	342		
7			Nevada	4		
8			West	1042		

コメントの削除

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

シート内のコメント表示の有効化のステップを必ず実行します。

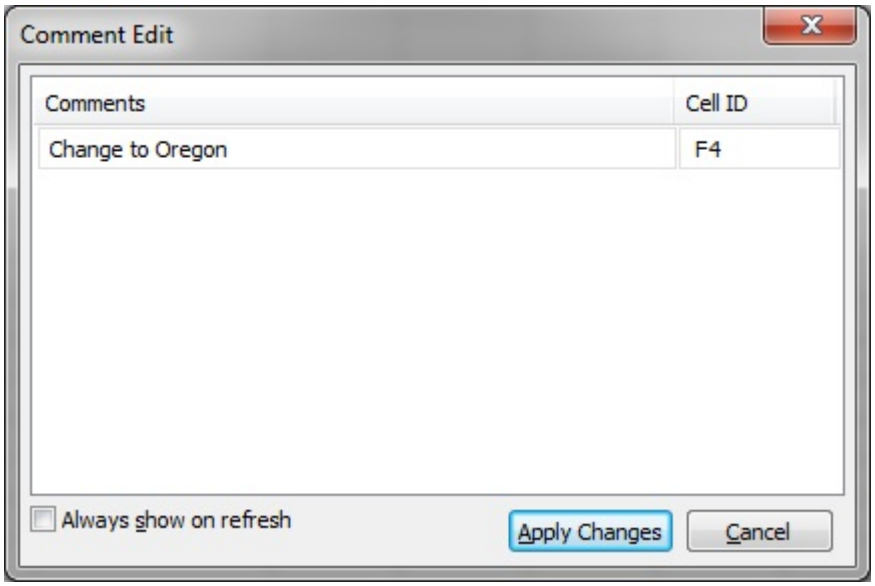
> **ノート:**
>
> このトピックの手順では、Oracle Smart View for Office の**「コメントの表示」**コマンドおよび**「コメントの編集」**ダイアログ・ボックスを使用してコメントを削除する方法を説明します。このトピックの Smart View インタフェース要素を使用しないで、グリッドで直接コメントを削除することもできます。

コメントを削除するには:

1. グリッドを含むワークブックを開いていない場合は開き、Essbase プロバイダに接続し、**「リフレッシュ」**をクリックします。
2. Essbase のリボンで**「コメントの表示」**をクリックします(図 1 を参照)。

   「コメントの編集」ダイアログ・ボックスが起動されます。図 1 の例に、削除できるシートに残された 1 つのコメントを示します。

図 10-31 「コメントの編集」ダイアログ・ボックス



3. コメント全体を削除するには、まず、行内をクリックして編集可能なテキストを強調表示します。たとえば、図 2 に示すように"Oregon Coast"行内をクリックして強調表示し「削除」キーを押します。

図 10-32 強調表示された削除可能なコメント



削除後、**「コメント」**列のテキストが削除されますが、**セル ID** が引き続き表示されます(図 3 を参照)。

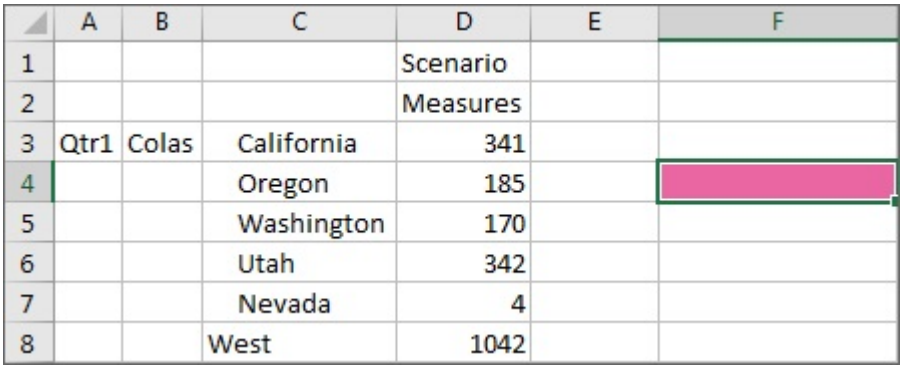
図 10-33 削除されたコメント、セル ID の表示残り



4. **「変更の適用」**をクリックして、シート内の変更を表示してください。

   図 4 で、セル F4 は、シートがリフレッシュされるまでコメント付きセルとして引き続き表示されます。

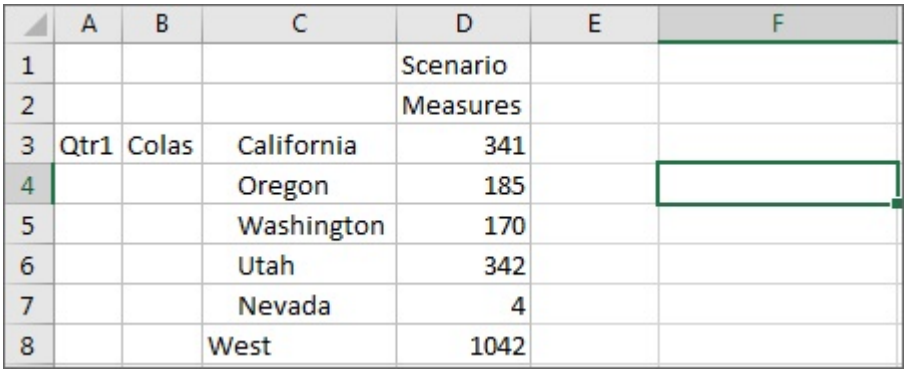
図 10-34 「変更の適用」をクリックした後のシート、コメント付きのままのセル F4



	A	B	C	D	E	F
1				Scenario		
2				Measures		
3	Qtr1	Colas	California	341		
4			Oregon	185		
5			Washington	170		
6			Utah	342		
7			Nevada	4		
8			West	1042		

5. **「リフレッシュ」**をクリックすると、コメント・スタイルがクリアされます。

図 10-35 リフレッシュ後のグリッド。セル F4 内のセル・スタイルがクリアされました



	A	B	C	D	E	F
1				Scenario		
2				Measures		
3	Qtr1	Colas	California	341		
4			Oregon	185		
5			Washington	170		
6			Utah	342		
7			Nevada	4		
8			West	1042		

11

ブック

Oracle Smart View for Office の EPM ブック拡張機能を使用すると、ブックを Microsoft Excel にインポートし、POV 値を変更してリフレッシュすることでブックを操作できます。

Related Topics

- EPM ブック拡張機能について
  Smart View の EPM ブック拡張機能を使用すると、Cloud EPM ブックをリフレッシュ可能な形式で Excel にインポートできます。
- Smart View でのブック拡張機能の設定
  Oracle Smart View for Office で EPM ブックを操作できるように、EPM ブック拡張機能をインストールします。
- Smart View での「EPM ブック」パネルの起動
  Office から、ブックを格納している Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management ビジネス・プロセスに接続するたびに、「EPM ブック」パネルを起動できます。
- ブックの操作
  「EPM ブック」パネルで、ブックのプロパティを表示し、ブックを Oracle Smart View for Office にインポートしてダウンロードし、「ジョブ・コンソール」でインポート・ジョブを管理します。
- 「EPM ブック」の「ジョブ・コンソール」でのジョブの管理
  「EPM ブック」パネルの「ジョブ・コンソール」からブックをダウンロードする他に、現在の接続またはブックをインポートしたすべての接続からのジョブのステータスのリフレッシュ、ジョブの削除およびジョブの表示ができます。

EPM ブック拡張機能について

Smart View の EPM ブック拡張機能を使用すると、Cloud EPM ブックをリフレッシュ可能な形式で Excel にインポートできます。

データ・ソース・タイプ: Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting、Narrative Reporting

Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management では、ブックは単一の PDF または Excel 出力として生成する 1 つ以上のレポート、ブックおよびその他のドキュメントのコレクションです(Excel 出力に関する注意事項については、次のノートを参照)。

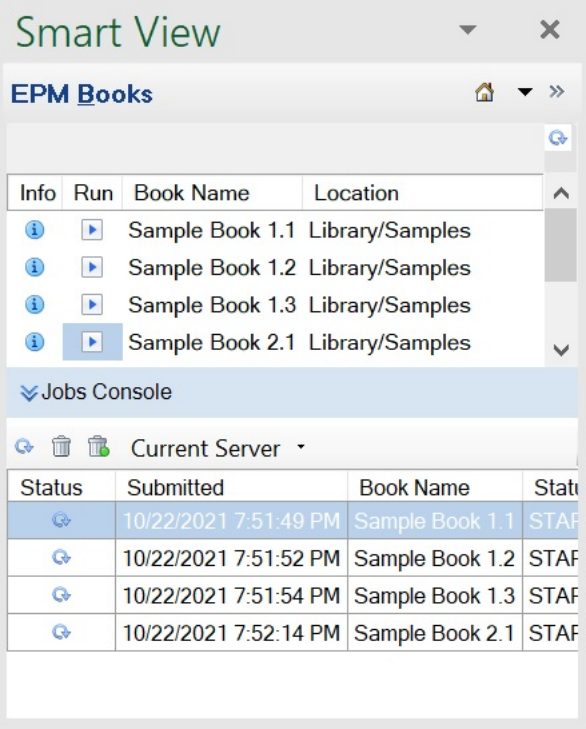
Oracle Smart View for Office の EPM ブック拡張機能を使用すると、ブックを Microsoft Excel にインポートし、プロンプトに応答し、POV 値を変更してリフレッシュすることでブックを操作できます。Web アプリケーションから Excel 形式でダウンロードされたブックを開いて操作することもできます。

> **Note:**
>
> Smart View で開かれた、またはインポートされた Excel ブックにはレポートのみが含まれます。他のドキュメント(Word ファイル、PDF ファイル、挿入されたブックなど)は、Smart View へのインポート時に省かれます。

Smart View のブック・パネルから、ブックのプロパティを表示したり、ブックを Excel にインポートできます。

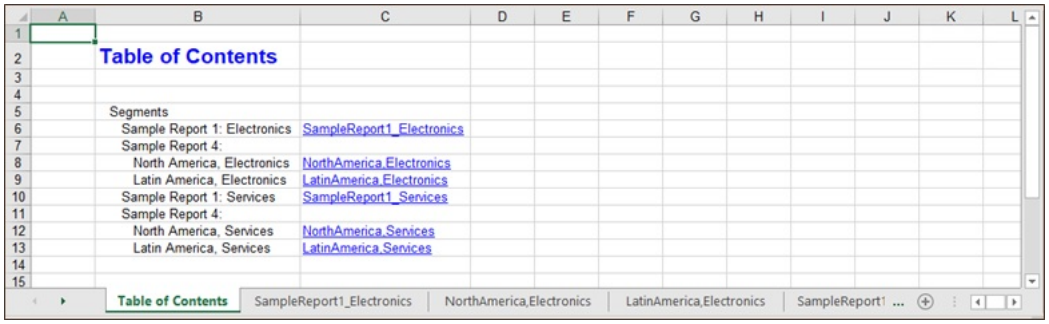
インポートする各ブックは「ジョブ」です。ジョブのステータスは、ブック・パネルの**「ジョブ・コンソール」**で確認します。Smart View のパネルまたは他の場所で別のジョブを呼び出したり、他の操作を実行するために、ジョブの完了を待機する必要はありません。「ジョブ・コンソール」で、ジョブ・ステータスのリフレッシュ、選択したジョブの削除、すべての完了ジョブの削除を実行できます。Cloud EPM 環境内のブックを格納している他のサーバーで実行されているジョブのステータスを表示することもできます。

Figure 11-1　「EPM ブック」パネルの例



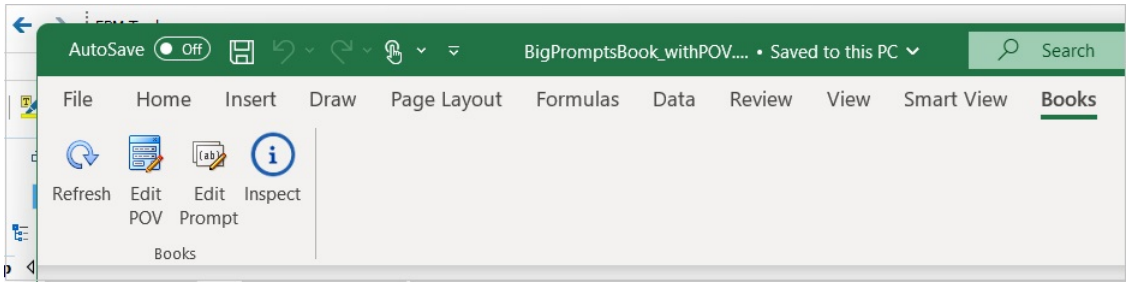
「ジョブ・コンソール」から、ブックを Excel にダウンロードします。ダウンロードされたブックでは、各レポートが個別のワークシートに配置されます。ワークブック内の個々のレポート・シートへのリンクを含む目次シートが生成されます。ワークシート名は、Web アプリケーションのブックデザイナの「プロパティ」パネルで定義された目次見出しに基づいています。

Figure 11-2　Excel にインポートされたブックの目次シートとワークシート・タブの例



ブックを Smart View にインポートすると、「ブック」リボンが Excel に表示されます:

Figure 11-3　Smart View の「ブック」リボン



「ブック」リボンを使用すると、プロンプトやブック内のレポートの POV を変更し、ブックのコンテンツをリフレッシュできます。また、**「検査」**ボタンを使用して、プロンプトや POV に関する情報など、ブックのプロパティを表示することもできます。

Smart View でのブックの操作のガイドライン

- POV の変更: 23.08 以降、ディメンションのブック POV オプションがすべてのメンバーを許可するように設定されている場合は、Excel の**「POV の選択」**ダイアログでのメンバー選択がサポートされます。ドロップダウン・リストの下部に**「選択」**オプションが表示され、**「メンバー選択」**ダイアログが起動します。

  ディメンションのブック POV オプションが選択した値の表示に設定されている場合、ユーザーは定義済の選択リストから選択します。選択可能なメンバーのリストは各ディメンションのドロップダウン・リストに表示され、POV の変更は Excel でリフレッシュすると適切に反映されます。

- 実行時プロンプトへの応答: 24.11 以降では、実行時プロンプトを使用してブックを設計できます。ユーザーはブックのインポート時にプロンプトに応答し、ダウンロードしたブックでプロンプトを編集できます。Excel は、ブック・デザイナがプロンプトをどのように指定したかに応じて、定義済の選択リストまたは**「メンバー選択」**ダイアログを使用したメンバー選択をサポートしています。

  ブックに実行時プロンプトを含めるには、レポート・デザイナがブックの**プレビュー時に値を要求**オプションを有効にします。

- ネストされたブックは Excel ではサポートされていません。たとえば、ブック内にブックが格納されている場合、内部のブックは抑制されます。結果の Excel ワークブックには、ネストされた内部のブックに関連するコンテンツは格納されません。

- ブックの一部として挿入された PDF および Word ドキュメントはサポートされていません。ブックに PDF まや Word タイプの他のドキュメントが含まれている場合、それらは Excel ワークブックから省略されます。

Smart View でのブック拡張機能の設定

Oracle Smart View for Office で EPM ブックを操作できるように、EPM ブック拡張機能をインストールします。

Related Topics

- Smart View インストーラのダウンロードと実行
- Cloud EPM ビジネス・プロセスへの接続の作成
- EPM ブック拡張機能のインストール

Smart View インストーラのダウンロードと実行

クラウド・データ・ソース・タイプ: Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting、Narrative Reporting

Oracle Smart View for Office インストーラをダウンロードおよび実行するには:

1. Web ブラウザで Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management ビジネス・プロセスを起動し、ユーザー名とパスワードを使用してログインします。
2. Web インタフェースの右上隅で、ユーザー名の横にある矢印を選択してユーザー・メニューを表示し、**「ダウンロード」**を選択します。
3. **「ダウンロード」**で、「Smart View」の下の**「Oracle Technology Network からダウンロード」**をクリックします。
4. **Oracle Smart View for Office** ページで、**「Download Now」**をクリックします。

   このアクションを実行すると、**Oracle Software Delivery Cloud** ページが表示されます。

   プロンプトが表示されたら、Oracle のログイン資格情報を入力します。
5. **Oracle Software Delivery Cloud** ページでの操作:
   a. Oracle Gadgets ライセンス契約を確認し、**次のライセンス契約を確認し、同意します**チェック・ボックスを選択します。
   b. **「Oracle Smart View for Office <version>」**チェック・ボックスを選択します。
   c. **プラットフォーム**で、オプションを選択することが求められます。ただし、すべてのプラットフォーム用に 1 つの Smart View 実行可能ファイルしかないため、**「すべて」**オプションを選択することをお薦めします。
6. **「ダウンロード」**をクリックし、ブラウザの手順に従ってファイルをダウンロードし、コンピュータ上のフォルダに保存します。たとえば、ファイルを **Downloads** フォルダに保存します。

   Oracle Software Download Manager EXE ファイルが、コンピュータにダウンロードされます。
7. その EXE ファイルをダブルクリックし、**Oracle Download Manager** を起動し、これらのステップを実行します:
   a. **「宛先」**で、**「参照」**をクリックし、Smart View ダウンロード ZIP ファイルのフォルダに移動してから、**「次」**をクリックします。

b. **「ステータス」**ウィンドウで、ZIP ファイルのダウンロードを許可し、**宛先を開く**をクリックして、ファイル・エクスプローラで ZIP のダウンロード場所を開きます。

8. ファイル・エクスプローラで ZIP ファイルの中身を解凍し、`SmartView.exe` をダブルクリックするか、`SmartView.exe` を右クリックして**「管理者として実行」**を選択し、インストール・ウィザードを開始します。

> **Note:**
>
> ベスト・プラクティスとして、Smart View をインストールする際は、可能なかぎり**「管理者として実行」**コマンドを使用することをお薦めします。

9. Smart View の宛先フォルダを選択し、**「OK」**をクリックします。新しいインストール環境では、Smart View はデフォルトで次の場所にインストールされます:

   `C:/Oracle/SmartView`

> **Note:**
>
> Smart View のインストールをアップグレードする場合、インストーラでは、Smart View がインストールされていたフォルダにデフォルト設定されます。

10. インストールが完了したら**「OK」**をクリックします。

    Microsoft Excel、PowerPoint または Word を次に開いたときに、Smart View のリボンのタブが表示されます。

11. Cloud EPM ビジネス・プロセスへの接続の作成に進み、設定プロセスを続行します。

Cloud EPM ビジネス・プロセスへの接続の作成

クラウド・データ・ソース・タイプ: Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting、Narrative Reporting

Oracle Smart View for Office をインストールした後は、Smart View インストーラのダウンロードと実行の説明に従って、ブックで使用する Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management ビジネス・プロセスへの接続を作成できます。

接続には、サービス URL に関する情報が必要です。Smart View の管理者は、接続の作成に必要な情報を提供する必要があります。

ほとんどのビジネス・プロセスには、共有接続またはプライベート接続を使用できます。Narrative Reporting に接続するには、Smart View のクイック接続方法を使用します。

ブックで使用するビジネス・プロセスへの接続を作成するには:

1. Microsoft Excel を起動します。
2. Smart View のリボンで、**「パネル」**をクリックします。
3. サポートされているほとんどのビジネス・プロセスへの共有接続を作成するには、共有接続の作成の手順に従います。

   共有接続は次のビジネス・プロセスで使用できます:

   - Planning

- Planning モジュール
- Financial Consolidation and Close
- Tax Reporting
- Narrative Reporting

> **Note:**
>
> Narrative Reporting には、次のステップで説明するように、プライベート接続が必要です。

4. サポートされている任意のビジネス・プロセスへのプライベート接続を作成するには、プライベート接続の作成を参照してください。

   ベスト・プラクティスとして、クイック接続方法の使用で説明されているように、ブックのプライベート接続を作成する場合は、クイック接続方法の使用をお薦めします。サポートされているビジネス・プロセスに適したプライベート接続の構文については、プライベート接続の URL 構文を参照してください。

5. 接続を作成した後は、Smart View パネルのツリーを展開し、操作するアプリケーションおよびデータベースに移動します。

   ログインするよう求められたら、ログイン資格証明を入力します。

6. 「ブック拡張機能のインストール」の設定プロセスに進みます。

EPM ブック拡張機能のインストール

クラウド・データ・ソース・タイプ: Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting、Narrative Reporting

このトピックでは、Oracle Smart View for Office 内での EPM ブック拡張機能のインストールについて説明します。

この手順を開始する前に、「Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management ビジネス・プロセスへの接続の作成」にあるステップを実行してください。

> **Note:**
>
> ビジネス・プロセスの Web インタフェース、たとえば PlanningWeb インタフェースから、拡張機能をインストールすることもできます。Web から拡張機能をインストールするには、次を参照してください:
>
> - *管理者用スタート・ガイド*のクライアントのダウンロードおよびインストール
> - *ユーザー用スタート・ガイド*のクライアントのダウンロードおよびインストール

Smart View からブック拡張機能をインストールするには:

1. Smart View リボンで、**「オプション」**、**「拡張機能」**の順に選択します。

> **Note:**
>
> 「Cloud EPM ビジネス・プロセスへの接続の作成」のステップを完了したときに**「拡張機能アラート」**ダイアログが表示された場合は、すでに**「オプション」**ダイアログの**「拡張機能」**タブが表示されています。

2. **「更新、新規インストールおよびアンインストールのチェック」**リンクをクリックします。
3. **「拡張機能の更新の場所の選択」**で、ブック接続に対応するチェック・ボックスを選択し、**「更新の取得」**をクリックします。

   ダイアログ・ボックスが拡大され、拡張機能の問合せの進行状況およびステータスが提供されるメッセージ・ウィンドウが表示されます。
4. **「拡張機能の更新の場所の選択」**ダイアログで**「閉じる」**をクリックして、**「オプション」**ダイアログの**「拡張機能」**タブに戻ります。
5. **「拡張機能」**タブの拡張機能のリストで、**EPM ブック**を探し、インストール・リンク Install をクリックしてインストーラを起動します。

> **Note:**
>
> リリース 25.100 以降では、Smart View の最小バージョンが必要でも、現在の Smart View インストールが最小バージョンでない場合は、メッセージ・アラートが表示されます。
>
> インストールを続行できますが、インストールする拡張機能の一部の機能は利用できない場合があります。

6. 「この拡張機能の更新を適用しますか?」と尋ねるポップアップ・ダイアログで、**「はい」**、**「OK」**の順にクリックして、**「オプション」**ダイアログの**「拡張機能」**タブを閉じます。

   拡張機能のインストールの進捗状況がダイアログに表示されます。
7. インストールが正常に終了したことを通知して Office の再起動を指示するメッセージ・ダイアログで、**「OK」**をクリックした後、Office を閉じて再起動します。

Smart View での拡張機能のインストールの詳細は、次のトピックを参照してください:

- 使用可能な拡張機能の最初のチェック
- 拡張機能のインストール

このトピックの手順を完了すると、Smart View でブック拡張機能の使用を開始する手順が整います。

> **Note:**
>
> ブック拡張機能をアンインストールする必要がある場合は、Smart View の**「オプション」**ダイアログの**「拡張機能」**タブにある**「更新、新規インストールおよびアンインストールのチェック」**リンクを使用します。拡張機能に削除のフラグが付けられます。**「拡張機能」**タブで**「削除」**リンクを選択し、プロンプトが表示されたら Office を再起動します。プロセスについては、拡張機能のアンインストールで説明しています。

Smart View での「EPM ブック」パネルの起動

Office から、ブックを格納している Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management ビジネス・プロセスに接続するたびに、「EPM ブック」パネルを起動できます。

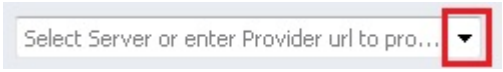
このトピックの手順を開始する前に、Smart View でのブック拡張機能の設定の手順を完了します。

Cloud EPM ビジネス・プロセスにログインして Oracle Smart View for Office のブック・パネルを起動するには:

1. Microsoft Office (Excel、Word または PowerPoint)を起動します。
2. Smart View のリボンを選択し、**「パネル」**をクリックします。
3. Smart View パネルで、**「プライベート接続」**を選択します。

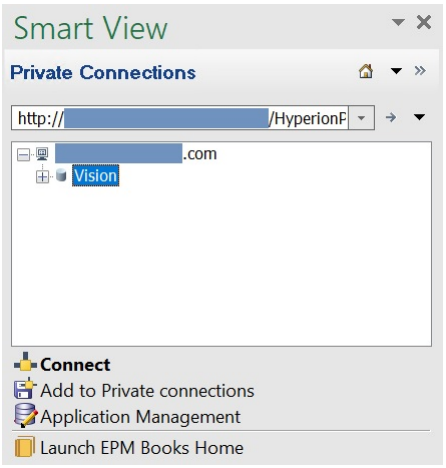
   または、Smart View パネルから、**「切替え先」**ボタンの横にある矢印、をクリックし、ドロップダウン・リストから**「プライベート接続」**を選択します。
4. 図 1 に示されているテキスト・ボックスで、ドロップダウン・メニューを表示する矢印をクリックして、接続を選択します。

Figure 11-4　クイック接続のドロップダウン・リストの矢印

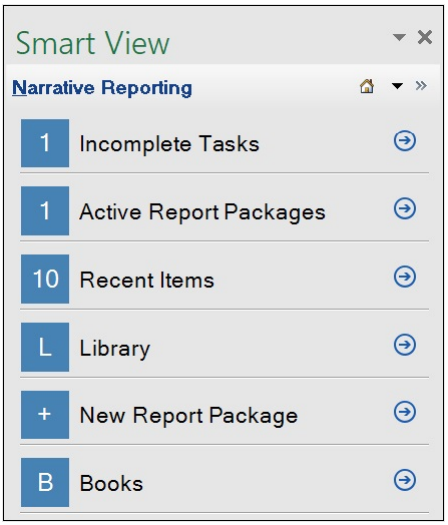


Cloud EPM ビジネス・プロセスへの接続の作成の手順を使用してデータ・ソース接続を作成した場合、ドロップダウン・リストの**「クイック接続 URL」**の下にリストされます。

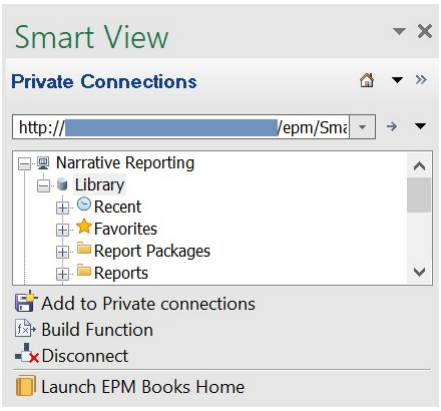
5. **「ログイン」**ウィンドウで、**「ユーザー名」**と**「パスワード」**に入力し、「サインイン」をクリックします。
6. ブック・パネルを起動するには、接続先のデータ・ソースに応じて次のアクションを実行します:
   - Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting:
     a. Smart View パネルから、アプリケーション・ノードを選択します。
     b. アクション・パネルで**「EPM ブック・ホームの起動」**を選択します:



- 「Narrative Reporting ホーム」：**「ブック」**ショートカットをクリックします:

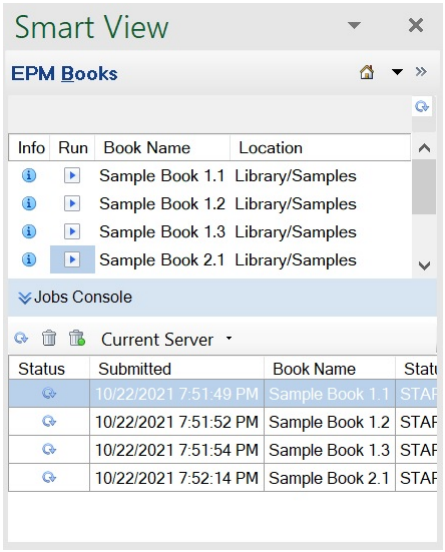


- Narrative Reporting の「ライブラリ」パネル:
  a. Narrative Reporting ホームで、**「ライブラリ」**をクリックします。
  b. Smart View パネルで**「ライブラリ」**ノードを展開し、アクション・パネルで**「接続」**をクリックします。
  c. アクション・パネルで**「EPM ブック・ホームの起動」**を選択します:



「EPM ブック」パネルが表示されます。図 2 は、ブック・パネルの例を示しています。

Figure 11-5　「EPM ブック」パネルの例



これで、Smart View で利用可能なブック機能の使用を開始する準備が整いました。ブックの操作のトピックに進みます。

ブックの操作

「EPM ブック」パネルで、ブックのプロパティを表示し、ブックを Oracle Smart View for Office にインポートしてダウンロードし、「ジョブ・コンソール」でインポート・ジョブを管理します。

Related Topics

- Smart View へのブックのインポート
  EPM Books 拡張機能を使用して、Oracle Smart View for Office にブックをインポートできます。
- Smart View でのダウンロードされたブックの操作

Smart View へのブックのインポート

EPM Books 拡張機能を使用して、Oracle Smart View for Office にブックをインポートできます。

Smart View にブックをインポートするには:

> **Note:**
>
> - ブックのインポートを開始するには、その前に、Smart View での「EPM ブック」パネルの起動で説明されているように、データ・ソースに接続して、「EPM ブック」パネルを起動しておく必要があります。
> - リレーショナル表を含むレポートを含むブックは、EPM ブック拡張機能 24.11 以降を使用して、Smart View 24.200 以降にインポートできます。ただし、このようなブックでは、Smart View リボンの**「POV の編集」**アクションは無効になっています。

Smart View にブックをインポートするには:

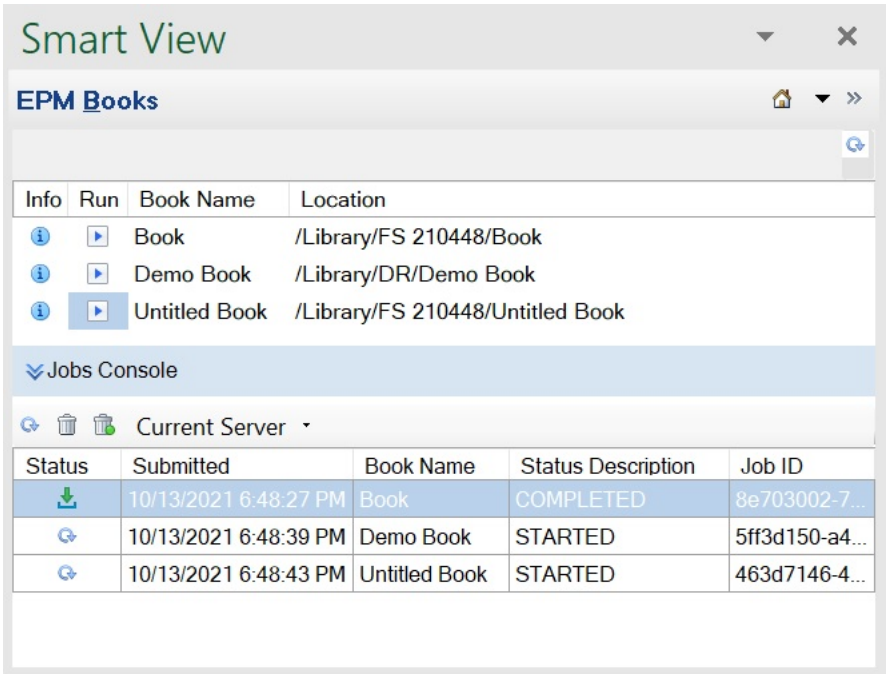
1. 「EPM ブック」パネルのブックのリストで、インポートするブックの横にあるをクリックします。

   をクリックすると、インポート・プロセスが開始されます。

   インポートするブックごとに、ブック・パネルの「ジョブ・コンソール」ペインに行が追加されます。

   図 1 は、「ジョブ・コンソール」に 3 つのジョブがあるブック・パネルを示しています。1 つは「完了」ステータスで、2 つは「開始済」ステータスで進行中です。パネルは「ジョブ・コンソール」のすべての列が表示されるように拡張されています。

Figure 11-6　「ジョブ・コンソール」にジョブが表示された「EPM ブック」パネル



> **Note:**
>
> Web アプリケーションで、レポート(Narrative Reporting のレポート)のユーザー・プリファレンス**「POV のプレビュー」**が選択されていて、ブック定義に実行時プロンプト、POV、またはその両方が含まれている場合は、インポート・プロセスを開始する前にプロンプトと POV に応答できます。プロンプトと POV への応答方法については、次の手順を参照してください。

2. ブック定義に実行時プロンプトが含まれている場合は、フル・モードまたはコンパクト・モードで選択を行い、必要に応じて**「メンバー選択」**ダイアログまたは定義済の選択リストからメンバーを選択して、プロンプトに応答します。

   詳細は、プロンプトへの応答と編集を参照してください。

3. POV のメンバーを選択するように求められた場合は、**「POV 選択」**ダイアログで、各ディメンションのドロップダウン・リストで選択を行い、**「OK」**をクリックします。

   詳細は、POV の選択と編集を参照してください

4. **「ジョブ・コンソール」**で、ジョブ・ステータスをリフレッシュする個々のジョブについて**「リフレッシュ」**ボタンをクリックします。

   個々のジョブのジョブ・ステータス・アイコンは次のとおりです:

   - —ジョブは進行中です。クリックしてジョブのステータスを更新します。
   - —ジョブは完了しました。クリックしてジョブをダウンロードします。
   - !—エラーが発生しました。クリックしてエラー・メッセージを表示します。

   「ジョブ・コンソール」に表示されているすべてのジョブのステータスを確認する場合は、「ジョブ・コンソール」の**「リフレッシュ」**ボタンをクリックして、すべてのジョブのス

テータスを取得することもできます。次に、を含む「ジョブ・コンソール」ツールバーのボタンを示します:

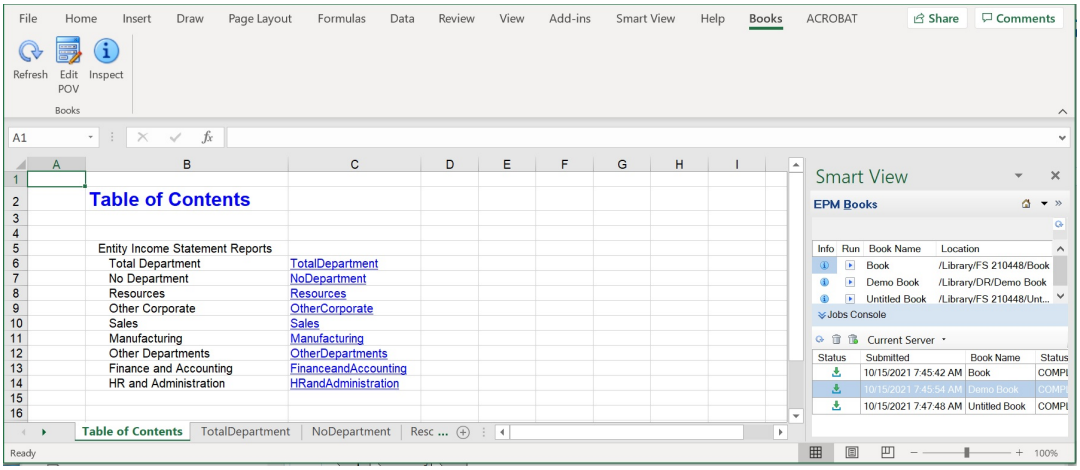


5. 「ジョブ・コンソール」のジョブのリストで、完了したジョブの横にあるをクリックして、Smart View にダウンロードします。プロンプトで**「はい」**をクリックして、ダウンロードを確認します。

> **Note:**
>
> Excel にインポートおよびダウンロードされたブックにはレポートのみが含まれます。挿入されたブックまたは PDF や Microsoft Word ドキュメントなどのサードパーティのドキュメントは、Excel ブックのインポートには含まれません。

ブックおよび「ブック」リボンが Excel に表示され(Excel が事前に実行されていなかった場合でも)、図 2 に示すように、ワークブック内の個々のレポート・シートへのリンクを含む目次シートが生成されます。

Figure 11-7 「ブック」リボンおよび Excel にダウンロードされたブックの目次シートとワークシート・タブの例



6. ワークブック・タブをクリックして、ダウンロードされたブック内に格納されたレポートを表示します。
7. Smart View でのダウンロードされたブックの操作に進みます。

プロンプトへの応答と編集

ブック内のレポートに実行時プロンプトが含まれている場合、ブックの実行時にメンバーの選択を入力するように求められます。

関連トピック:

- プロンプトについて

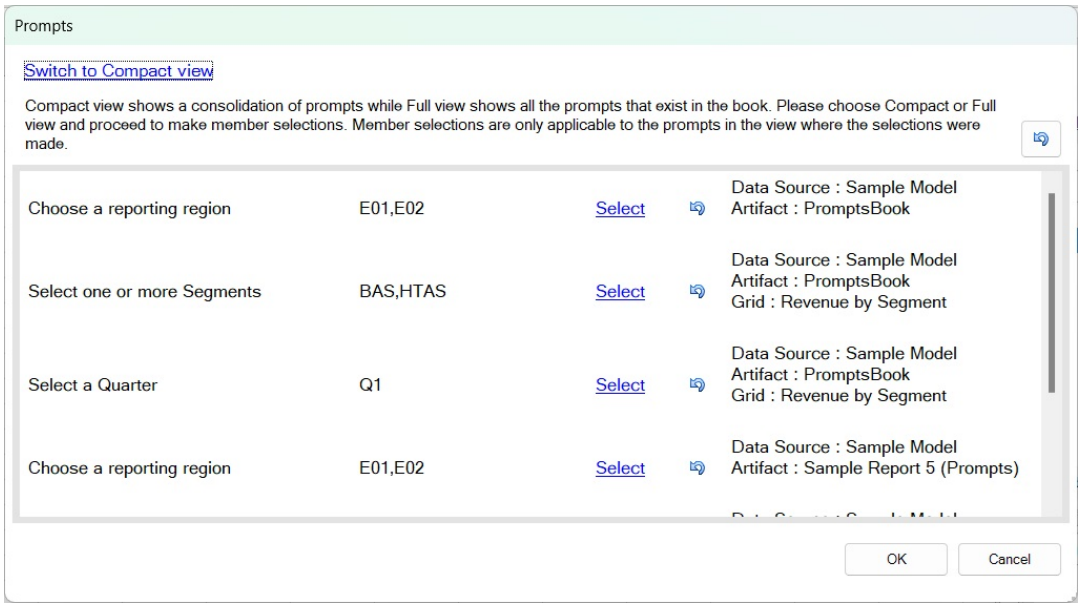
- プロンプトへの応答
- プロンプト編集に関する注意事項

プロンプトについて

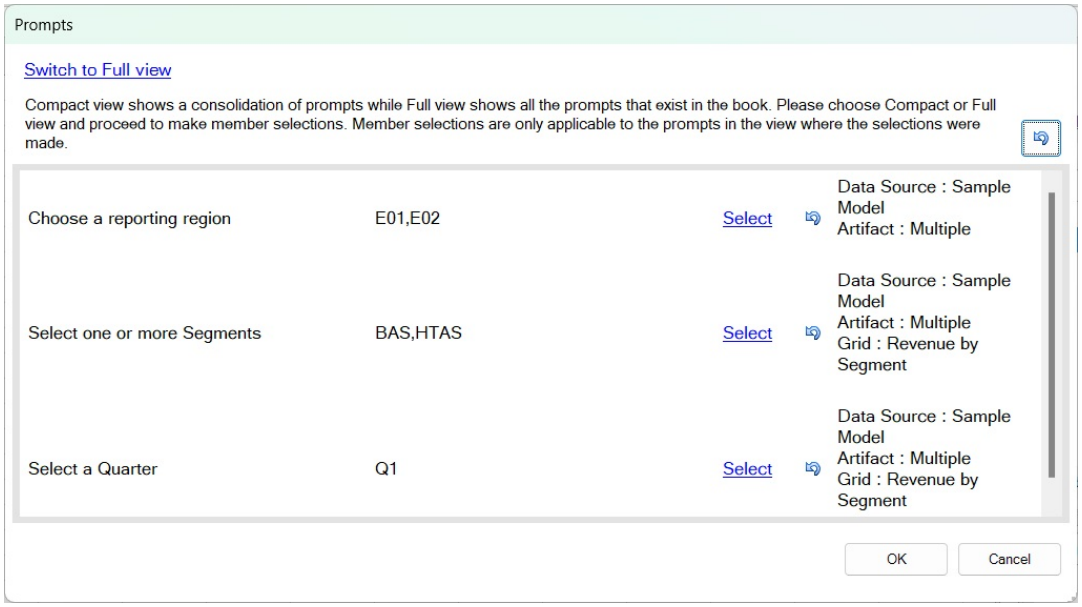
実行時プロンプトが有効になっている場合、ブックをインポートするか、既存のワークブックで**「プロンプトの編集」**ボタンをクリックすると、**「プロンプト」**ダイアログが起動します。

起動したら、**「プロンプト」**ダイアログをフル・モードとコンパクト・モードの 2 つの方法のいずれかで表示できます。例:

- **フル・モード**: すべてのレポートと挿入されたブックのすべてのプロンプトを個別に表示します。



- **コンパクト・モード**: 同じディメンション、プロンプト・ラベル、選択リスト、デフォルトの選択、「複数選択を可能にする」設定、または同じデータ・ソースを含む、レポート間で重複するプロンプトを統合します。



「プロンプト」ダイアログでは、次の操作を実行できます:

- ダイアログの左上にあるリンクを使用して、コンパクト・モードとフル・モードを切り替えます。
- プロンプトの横にある**「選択」**リンクをクリックすると、**「メンバー選択」**ダイアログまたは選択リストが起動し、プロンプトを選択できます。
- 個々のプロンプトのデフォルトのプロンプト選択に加えた変更をリセットするには、**「リセット」**ボタン()をクリックします。
- ダイアログの右上にある**「すべてリセット」**ボタン()をクリックすると、すべてのプロンプト選択がデフォルトの選択に戻ります。

> **Note:**
>
> この動作は、プロンプト編集に関する注意事項で説明されているように、既存のワークブックでプロンプトを編集する場合とは少し異なります。

- プロンプトに事前選択された選択リストが定義されている場合は、そこからプロンプトの値を選択します。
- 選択リストが定義されていない場合は、**「メンバー選択」**ダイアログを使用してプロンプトの値を選択します。
- プロンプトに複数の値が定義されている場合は、プロンプトに複数の値を選択します。

「プロンプト」ダイアログを使用する場合、選択は選択が行われたモード(コンパクト・モードとフル・モード)にのみ適用されます。

たとえば、コンパクト・モードでプロンプトを選択してからフル・モードに切り替えた場合、選択内容はコピーされません。逆の場合も同様です。

すべてのプロンプトを 選択したら、**「OK」**をクリックしてブック実行ジョブを送信します。ジョブ・コンソールに、新しく送信されたジョブが表示されます。

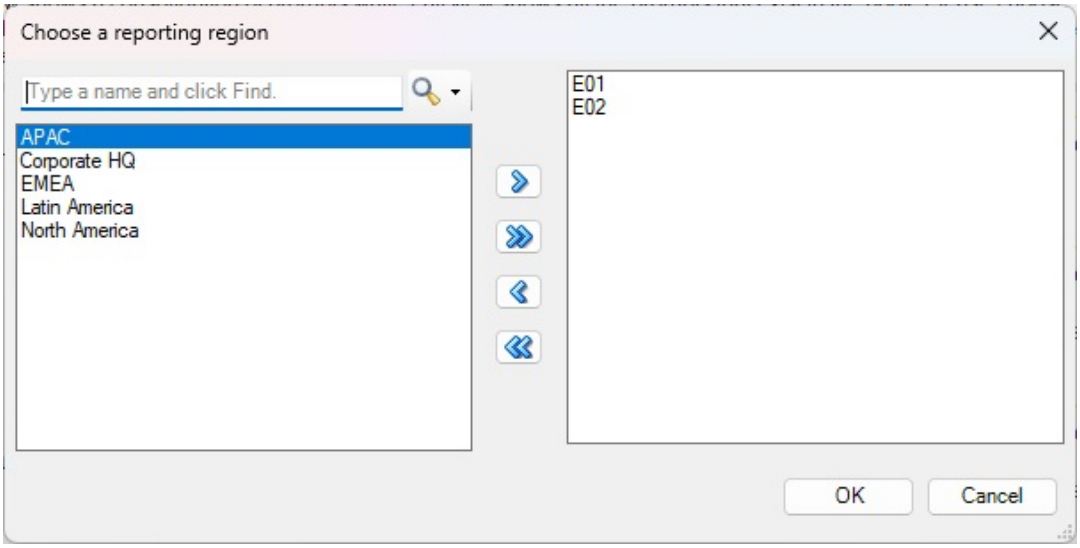
プロンプトへの応答

Oracle Smart View for Office にブックをインポートする際のプロンプトに応答するには:

1. **「プロンプト」**ダイアログで、表示モード(**「コンパクト」**または**「完全」**)を選択します。
2. ディメンションの**「選択」**リンクをクリックします。

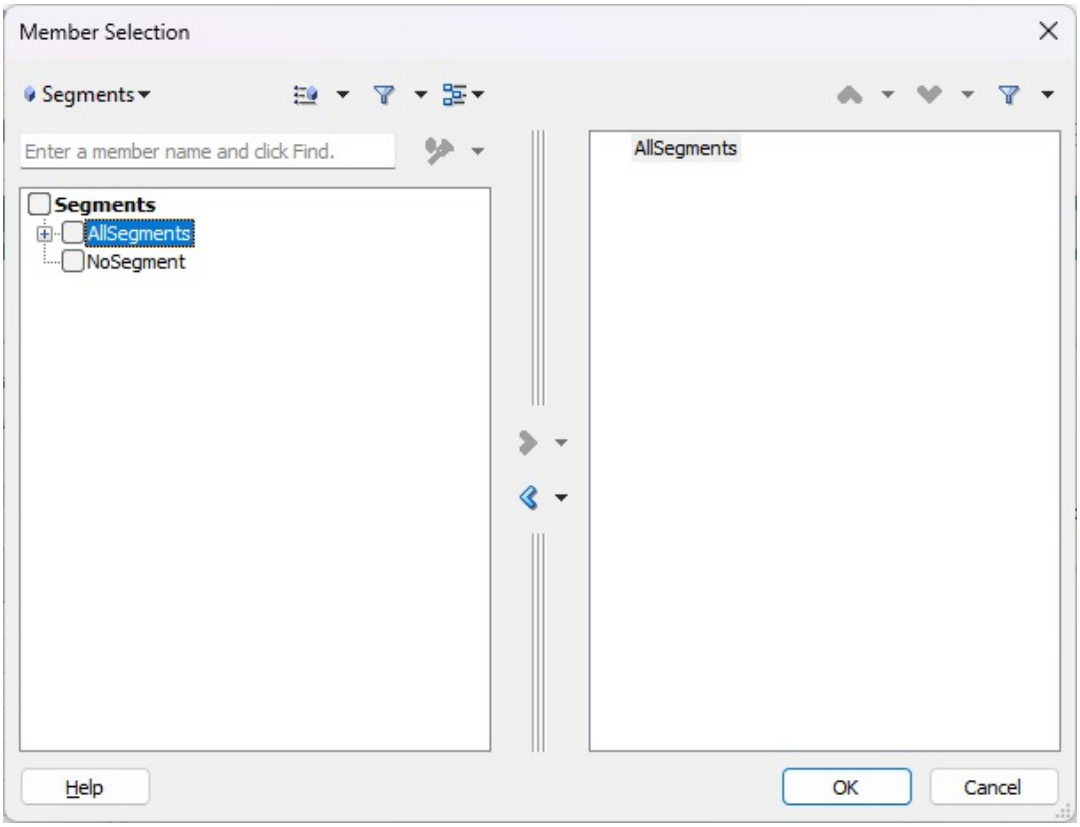
   定義済の選択リストが表示されている場合は、図 1 に示すように、左ペインからメンバーを選択し、矢印を使用して右ペインに移動します。

Figure 11-8　プロンプト用の定義済の選択リスト



定義済の選択リストが定義されていない場合は、図 2 に示すように、**「メンバー選択」**ダイアログが表示されます。プロンプトのメンバーを選択するには、**「メンバー選択」**ダイアログ(メンバー・セレクタからのメンバーの選択で説明)のすべての機能を使用できます。

Figure 11-9　プロンプトの「メンバー選択」ダイアログ



3. プロンプトへの回答が完了したら、**「OK」**をクリックします。

   POV のメンバーを選択するように求められた場合は、POV の選択と編集に進みます。

   それ以外の場合は、Smart View へのブックのインポートのステップ 4 に進みます。

プロンプト編集に関する注意事項

現在のブックのプロンプト値を変更するには、「ブック」リボンの**「プロンプトの編集」**ボタンをクリックして、**「プロンプト」**ダイアログを起動します。

「プロンプト」ダイアログに、ブックのインポートおよびダウンロード時に行われた選択が表示されます。

コンパクト・モードとフル・モードを切り替えられます。

プロンプトの横にある**「選択」**リンクをクリックして**「メンバー選択」**ダイアログまたは選択リストを表示し、プロンプトの選択を行うことで、新しい選択を行うことができます。

の「リセット」またはの「すべてリセット」をクリックすると、プロンプトの選択は、プロンプト定義のデフォルトの選択ではなく、ブックのインポートおよびダウンロード時の元の選択にリセットされます。

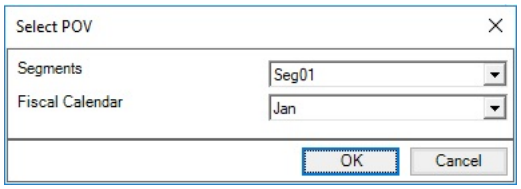
POV の選択と編集

ブックを Oracle Smart View for Office にインポートする際に、POV のメンバーを選択するように求められる場合があります。

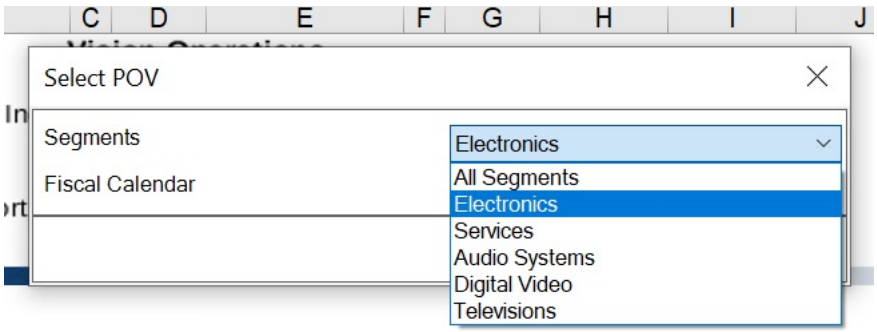
POV のメンバーを選択するように求められた場合:

1. **「POV の選択」**ダイアログで、各ディメンションのドロップダウン・リストから選択します。

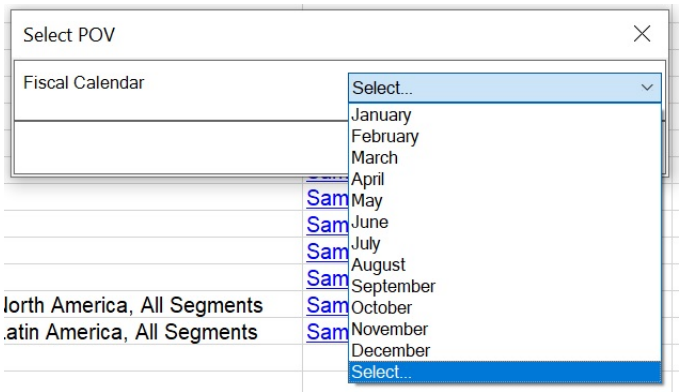
   次の例では、**「POV の選択」**ダイアログで、「セグメント」および会計カレンダの各ディメンションについて選択が行われています。



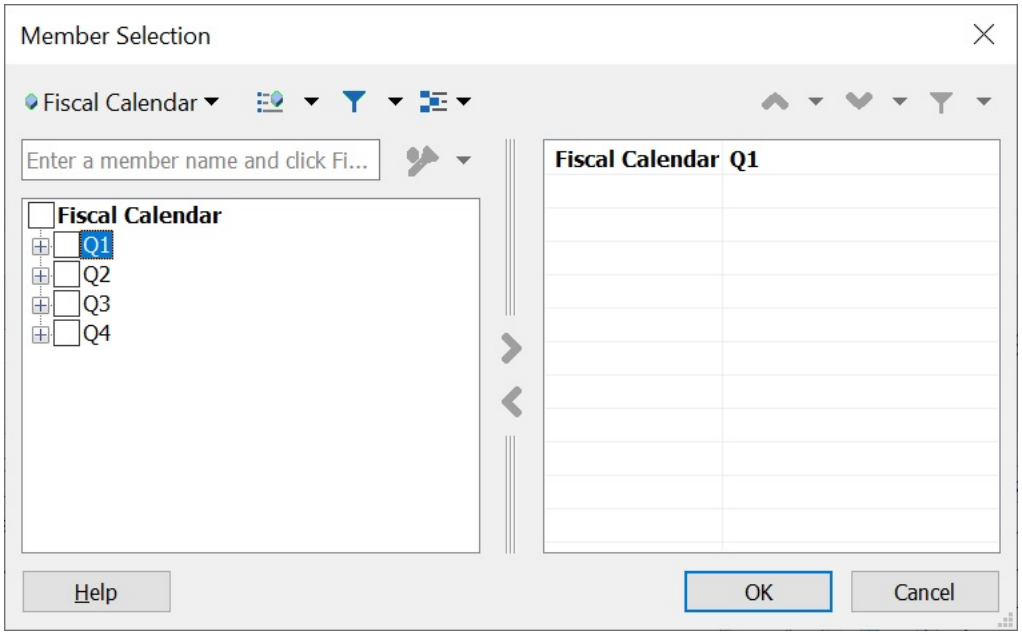
   レポートのディメンションに対して別名が指定されている場合は、**「POV の選択」**ダイアログのドロップダウン選択リストに、メンバーの別名が表示されます。次の例では、「セグメント」ディメンションの POV を変更すると、製品コードではなく「セグメント」のメンバーの別名が表示されます:



   ブック・デザイナがメンバー選択を有効にした場合は、ドロップダウン・リストで**「選択」**オプションを選択して**「メンバー選択」**ダイアログを起動します。次に例を示します:



   前述の**「選択」**オプションを選択すると、**「メンバー選択」**ダイアログが表示されます。この例では、ブック・デザイナが「会計カレンダ」ディメンションのすべてのメンバーにアクセスを提供することを選択しており、「Q1」が選択されています:



メンバーを選択した後、**「OK」**をクリックして**「メンバー選択」**ダイアログを閉じ、次に**「POV の選択」**ダイアログで**「OK」**をクリックします。

2. POV の選択が完了したら、**「OK」**をクリックします。

   ブックを Smart View にインポートするプロセスが開始されます。

   Smart View へのブックのインポートのステップ 4 に進みます。

3. 現在のブックの POV を変更するには:

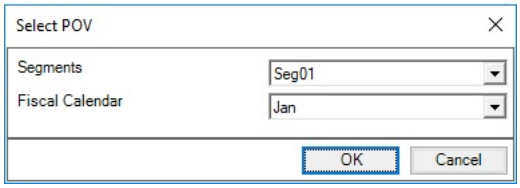
   a. 「ブック」リボンの**「POV の編集」**ボタンをクリックします。



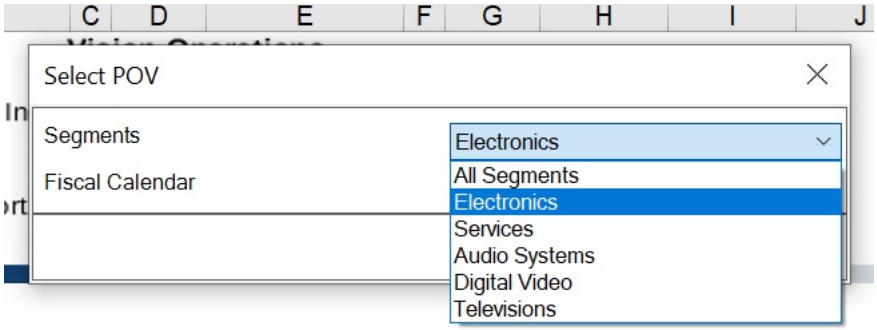
> **Note:**
>
> ブックにリレーショナル表を含むレポートが含まれている場合、そのようなブックでは Smart View リボンの**「POV の編集」**操作が無効になります。

   b. **「POV の選択」**ダイアログで、各ディメンションについてドロップダウン・リストから選択を行い、**「OK」**をクリックします。

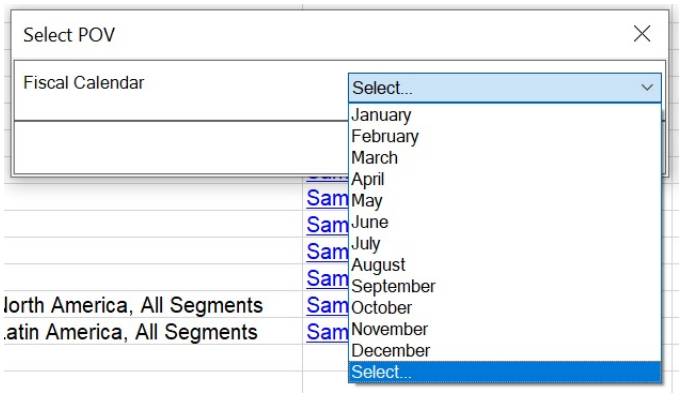
次の例では、**「POV の選択」**ダイアログで、「セグメント」および会計カレンダの各ディメンションについて選択が行われています。



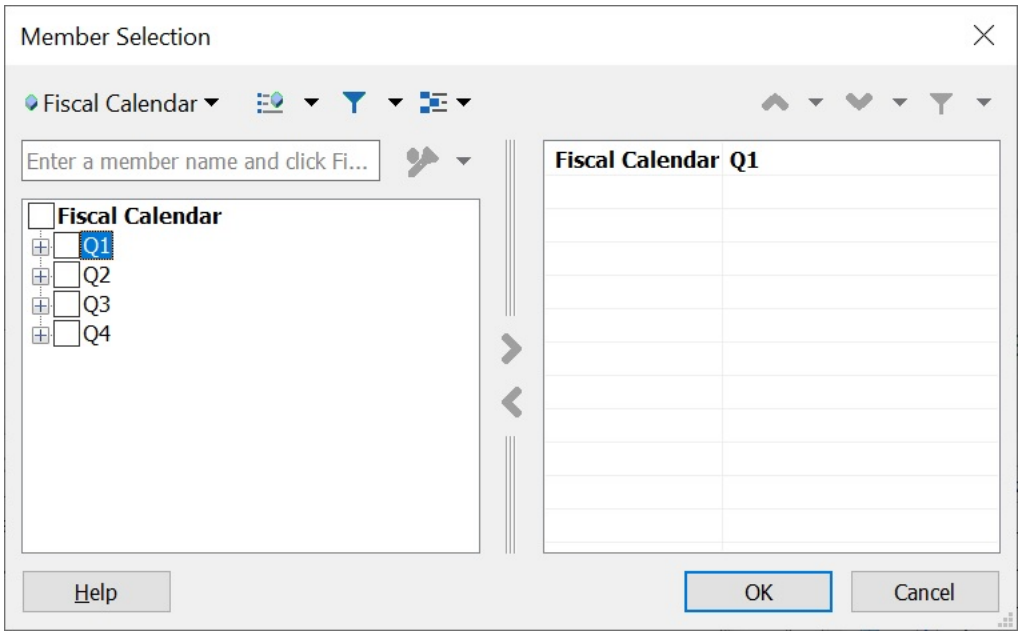
レポートのディメンションに対して別名が指定されている場合は、**「POV の選択」**ダイアログのドロップダウン選択リストに、メンバーの別名が表示されます。次の例では、「セグメント」ディメンションの POV を変更すると、製品コードではなく「セグメント」のメンバーの別名が表示されます:



ブック・デザイナがメンバー選択を有効にした場合は、ドロップダウン・リストで**「選択」**オプションを選択して**「メンバー選択」**ダイアログを起動します。次に例を示します:



前述の**「選択」**オプションを選択すると、**「メンバー選択」**ダイアログが表示されます。この例では、ブック・デザイナが「会計カレンダ」ディメンションのすべてのメンバーにアクセスを提供することを選択しており、「Q1」が選択されています:



メンバーを選択した後、**「OK」**をクリックして**「メンバー選択」**ダイアログを閉じ、次に**「POV の選択」**ダイアログで**「OK」**をクリックします。

新しく選択した POV 値を使用したリフレッシュ操作が進行中であることを通知するメッセージが表示されます。メッセージの**「OK」**をクリックします。「ジョブ・コンソール」に新しいジョブ行が表示されます。ジョブのステータスを確認し、ジョブの完了後にブックをダウンロードできます。新しくダウンロードされたブックには、新しい POV 値を反映した更新済の結果が表示されます。

Smart View でのダウンロードされたブックの操作

Oracle Smart View for Office でダウンロードされたブックを操作するには:

1. Smart View へのブックのインポートのステップを実行します。

   ブックが Smart View にインポートされると、図 2 に示すように「ブック」リボンが表示されます。

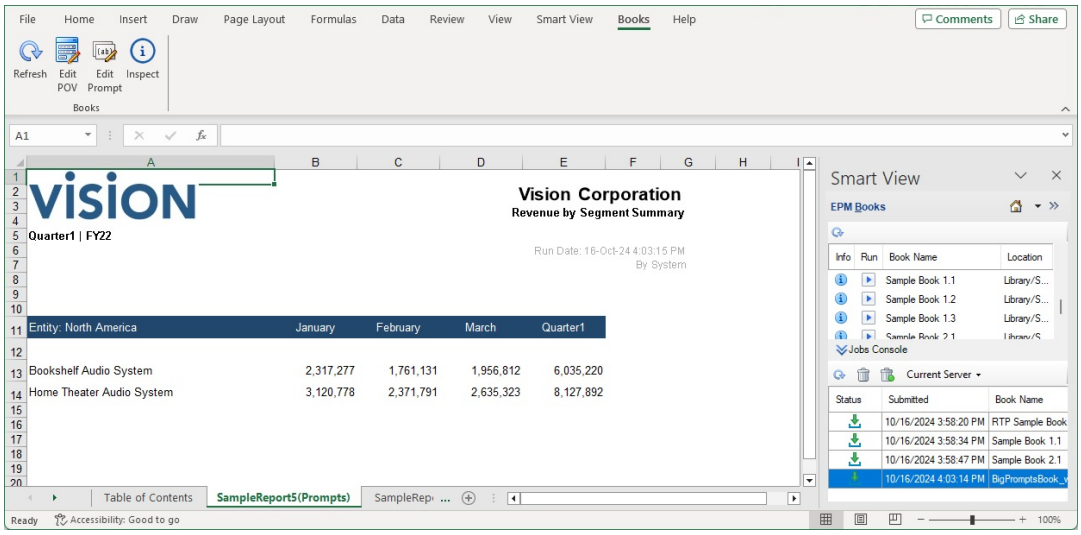
2. **「目次」**ワークシート・タブ(図 2)にあるリンクをクリックして、ブックに格納されたレポートを表示します。

   各ワークシート・タブは、Smart View にインポートおよびダウンロードされたブックの一部であるレポートです。

   「目次」タブの後にあるワークシート・タブをクリックして、ブック内の様々なレポートを表示することもできます。

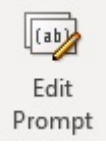
   図 1 は、レポートが格納されたワークシートの例を示しています。

Figure 11-10　「ブック」リボンおよび Excel にダウンロードされたブックに格納されたレポートの例



3. 現在のブックのプロンプトを編集するには:

   a. ブックのリボンにある**「プロンプトの編集」**ボタンをクリックします。



b. プロンプトへの応答と編集の手順に従ってください。

新しく選択した POV 値によるリフレッシュ操作が進行中であることを通知するメッセージが表示されます。メッセージの**「OK」**をクリックします。「ジョブ・コンソール」に新しいジョブ行が表示されます。ジョブのステータスを確認できます。ジョブが完了すると、ブックが自動的にダウンロードされ、現在開いているブックが置き換えられます。新しくダウンロードされたブックには、新しい POV 値を反映した更新済の結果が表示されます。

4. 現在のブックの POV を変更するには:

a. 「ブック」リボンの**「POV の編集」**ボタンをクリックします。



> **Note:**
>
> ブックにリレーショナル表を含むレポートが含まれている場合、**「POV の編集」**オプションは無効になっています。このオプションは将来のリリースで使用可能になります。

b. POV の選択と編集の手順に従ってください。

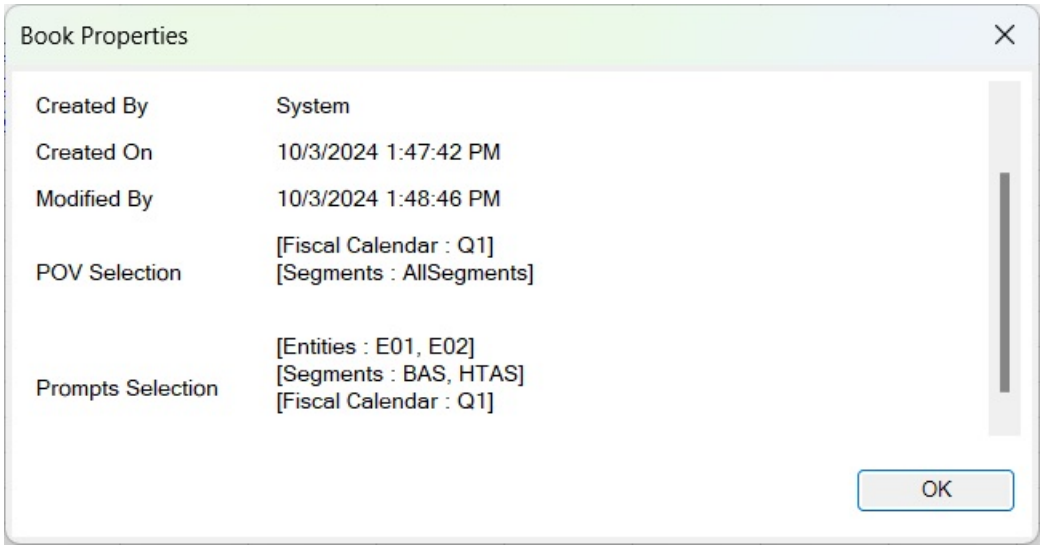
新しく選択した POV 値によるリフレッシュ操作が進行中であることを通知するメッセージが表示されます。メッセージの**「OK」**をクリックします。「ジョブ・コンソール」に新しいジョブ行が表示されます。ジョブのステータスを確認できます。ジョブが完了すると、ブックが自動的にダウンロードされ、現在開いているブックが置き換えられます。新しくダウンロードされたブックには、新しい POV 値を反映した更新済の結果が表示されます。

5. ブックのプロパティを表示するには、「ブック」リボンで**「検査」**をクリックします。



「ブック・プロパティ」ダイアログがブックのプロパティと、ブックの**「POV 選択」**と**「プロンプト選択」**とともに表示されます。

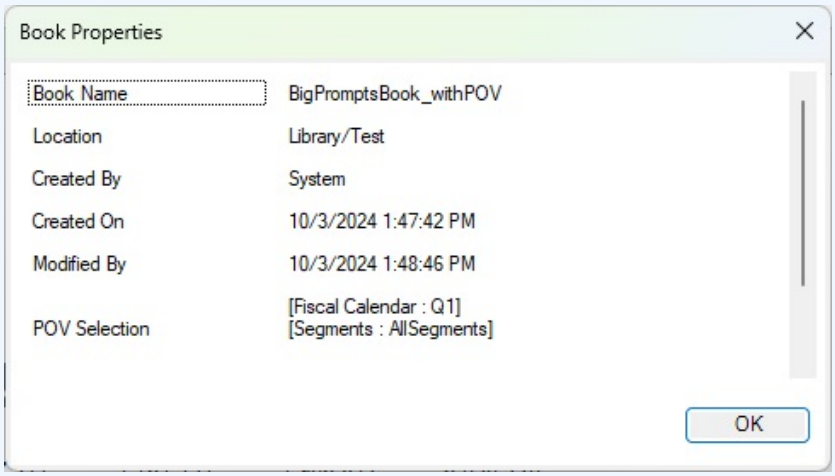
次の例では、**「ブック名」**プロパティと**「場所」**プロパティは表示されていません。



「OK」をクリックして**「ブック・プロパティ」**ダイアログを閉じます。

Note:

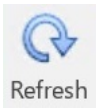
Smart View では、**「場所」**のパス情報には、Smart View が異なる言語に設定されている場合でも、常に Web アプリケーションで設定された言語が表示されます。次の例では、**「ブック・プロパティ」**ダイアログに、**「場所」**プロパティが表示されています:



たとえば、Web アプリケーションにおいて、**「ユーザー・プリファレンス」**、**「全般」**タブの**「言語」**オプションが日本語に設定され、かつ Smart View の**「オプション」**ダイアログの**「詳細」**タブの**「言語」**オプションがフランス語に設定されている場合、**「ブック・プロパティ」**ダイアログの**「場所」**フィールドのパス情報は日本語として表示されます。

ベスト・プラクティスとして、Oracle では、Smart View の**「オプション」**の**「言語」**設定を、Web インタフェースの**「ユーザー・プリファレンス」**の**「言語」**設定と一致させることをお薦めします。

6. 現在選択されているレポートをリフレッシュするには、「ブック」リボンで**「リフレッシュ」**をクリックします。



「リフレッシュ」コマンドは、ビジネス・プロセスでデータが変更された場合に使用します。たとえば、Planning データに変更が加えられた場合です。

「EPM ブック」の「ジョブ・コンソール」でのジョブの管理

「EPM ブック」パネルの「ジョブ・コンソール」からブックをダウンロードする他に、現在の接続またはブックをインポートしたすべての 接続からのジョブのステータスのリフレッシュ、ジョブの削除およびジョブの表示ができます。

Related Topics

- 「ジョブ・コンソール」について
- 「ジョブ・コンソール」でのジョブの操作

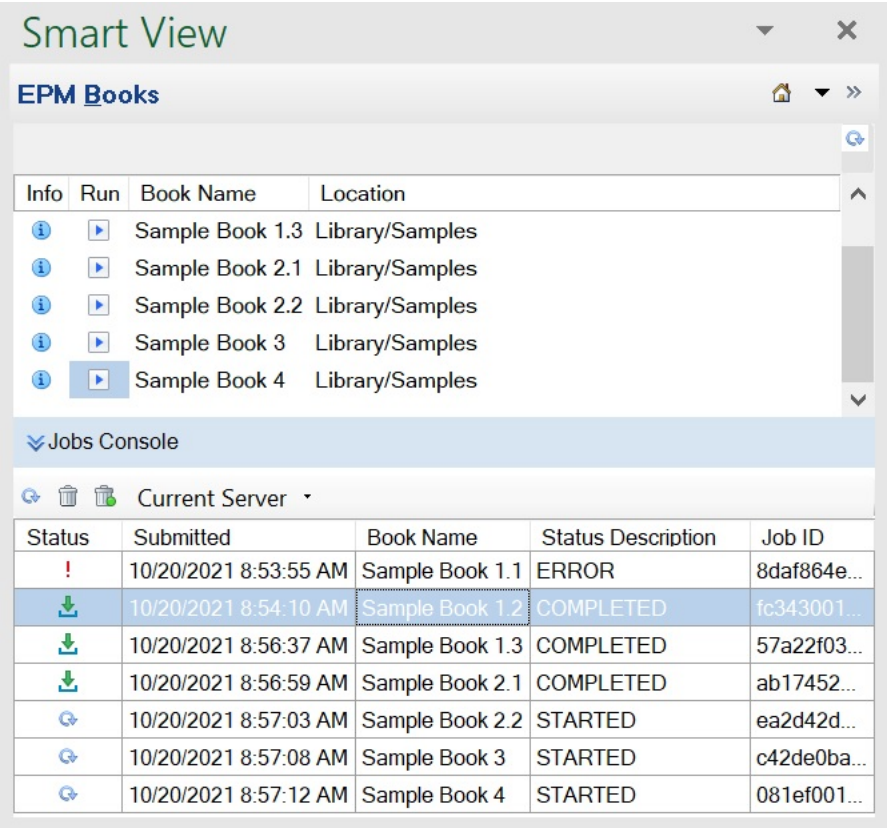
「ジョブ・コンソール」について

「EPM ブック」パネルの「ジョブ・コンソール」には、*ジョブ*のリストが表示されます。ジョブは、Oracle Smart View for Office へのブックのインポート・プロセスを表します。「ジョブ・コンソール」では、ジョブのステータスのリフレッシュ、インポート済ブックの Smart View へのダウンロード、ジョブの削除、および現在の接続またはブックをインポートしたすべての接続からのジョブの一覧表示ができます。

ブック・パネルの上部には、現在のデータ・ソース接続からインポートできるすべてのブックが一覧表示されます。ジョブをインポートすると、ジョブが「ジョブ・コンソール」に追加されます。「ジョブ・コンソール」の各行には、現在の接続でインポートしたジョブが一覧表示されます。ブックをインポートしたすべての 接続のジョブを表示するように表示を切り替えることもできます。

図 1 は、ブック・リストにブックが一覧表示されたブック・パネルの例を示しています。現在の接続のすべてのブックがインポートされ、様々な状態のジョブが「ジョブ・コンソール」に表示されています。

Figure 11-11　「ジョブ・コンソール」にジョブが一覧表示されたブック・パネルの例

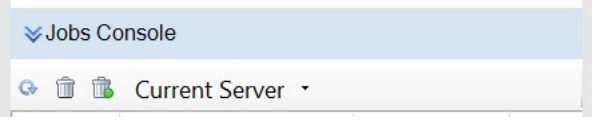


各ジョブについて、「ジョブ・コンソール」には次の情報が表示されます:

- **ステータス**—アイコンで示されるジョブのステータス:
  - —ジョブは進行中です。クリックしてジョブのステータスを更新します。
  - —ジョブは完了しました。クリックしてジョブをダウンロードします。
  - —エラーが発生しました。クリックしてエラー・メッセージを表示します。
- **送信済**—インポートのためにジョブが送信された日時。
- **ブック**—インポートのために送信されたブックの名前。
- **ステータスの説明**—有効なステータスの説明は、**「開始済」**、**「完了」**および**「エラー」**です。
- **ジョブ ID**—ビジネス・プロセスによってジョブごとに発行される内部 ID。

ジョブのリストの上にある「ジョブ・コンソール」ツールバーには、リフレッシュ・オプション、削除オプション、現在の接続またはブックをインポートしたすべての接続からのジョブの表示を選択するオプションなど、ジョブを管理するためのオプションがあります。図 2 に、「ジョブ・コンソール」ツールバーを示します。

Figure 11-12　「ジョブ・コンソール」ツールバー



「ジョブ・コンソール」のオプションの使用については、「ジョブ・コンソール」でのジョブの操作に進んでください。

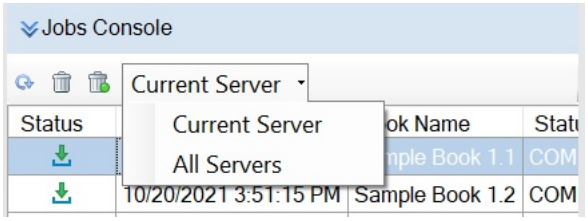
「ジョブ・コンソール」でのジョブの操作

このトピックでは、「EPM ブック」パネルの「ジョブ・コンソール」で実行できるタスクについて説明します。

「ジョブ・コンソール」でのジョブの操作を開始するには、その前に、Smart View での「EPM ブック」パネルの起動で説明されているように、ブックをホストするデータ・ソースに接続して、「EPM ブック」パネルを起動しておく必要があります。

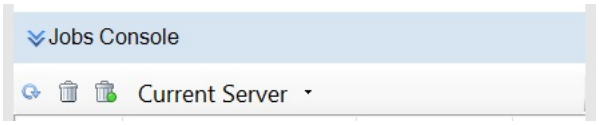
「EPM ブック」パネルの「ジョブ・コンソール」でジョブを管理するには、次のいずれかのオプション・タスクを実行します:

1. ジョブを表示するには、次のタスクを実行します:
   - ブックをホストするビジネス・プロセスからインポートしたがまだ削除していないブックに対応するジョブを表示するには、**「現在のサーバー」と「すべてのサーバー」**の切替えボタンから**「すべてのサーバー」**を選択します。次に例を示します:



     「すべてのサーバー」を選択すると、**「ジョブ・コンソール」**には、現在の接続およびその他のビジネス・プロセス(現在接続していない場合でも)からの、インポートしたがまだ削除していないすべてのジョブが表示されます。
   - 現在の接続からの、インポートしたがまだ削除していないブックのジョブを表示するには、**「現在のサーバー」と「すべてのサーバー」**の切替えボタンから**「現在のサーバー」**を選択します。

   「ジョブ・コンソール」には、インポートされたすべてのステータス・タイプのブックのジョブ(進行中のジョブ、完了ジョブ、エラーが発生したジョブ)が表示されます。
2. **「ジョブ・コンソール」**でジョブのステータスをリフレッシュするには、次のタスクを実行します:
   - 現在の接続のすべてのジョブをリフレッシュするには、「ジョブ・コンソール」ツールバーの**「すべてのジョブのリフレッシュ」**ボタンをクリックします:



送信した現在の接続からのすべてのジョブのステータスがリフレッシュされます。

- **「ジョブ・コンソール」**リストの特定のジョブをリフレッシュするには、そのジョブの行にある**「ステータス」**列のをクリックします。たとえば、



選択したジョブのステータスがリフレッシュされます。

3. **「ジョブ・コンソール」**で完了ジョブを削除するには、次のタスクを実行します:
   - ジョブをインポートしたすべてのビジネス・プロセスからのすべての完了ジョブを削除するには、「ジョブ・コンソール」ツールバーの切替えボタンから**「すべてのサーバー」**を選択し、次にをクリックします。

     ジョブをインポートしたすべてのビジネス・プロセス(現在接続していないビジネス・プロセスも含む)からの完了ジョブが削除されます。
   - 現在接続しているビジネス・プロセスからのすべての完了ジョブを削除するには、「ジョブ・コンソール」ツールバーの切替えボタンから**「現在のサーバー」**を選択し、次にをクリックします。

     現在の接続からの完了ジョブが削除されます。
   - ブック・パネルで現在の接続からの特定の完了ジョブを削除するには、**「ジョブ・コンソール」**でそのジョブの行を選択し、をクリックします。

     [Ctrl]キーを使用して、リストから複数の連続または非連続ジョブを選択し、をクリックできます。

     必要に応じて、**「現在のサーバー」**と**「すべてのサーバー」**を切り替えます。現在の接続またはブックをインポートしたすべての 接続からの選択したジョブを削除できます。

     選択したジョブは**「ジョブ・コンソール」**のジョブ・リストから削除されます。

12

レポート

レポートは、Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management の財務および管理のレポートを作成するためのクラウドベースのレポート・ソリューションです。これにより、ユーザーは Planning や Narrative Reporting などの Cloud EPM プラットフォーム・ソースを利用してチャートおよびグリッドをレポートに挿入できます。

Related Topics

- レポートについて
  レポートは、アド・ホック問合せとして、および完全にフォーマットされたレポートとして Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management データ・ソースから Oracle Smart View for Office にインポートまたは挿入して、それらに対してさらに操作を実行できます。
- アド・ホック問合せとしてのレポートのインポート
  レポートをアド・ホック問合せとして Oracle Smart View for Office にインポートして、使用可能なアド・ホック操作を実行できます。
- 完全にフォーマットされたレポートのインポート/挿入および操作
  レポートは、完全にフォーマットされたレポートとして Oracle Smart View for Office にインポートまたは挿入できます。

レポートについて

レポートは、アド・ホック問合せとして、および完全にフォーマットされたレポートとして Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management データ・ソースから Oracle Smart View for Office にインポートまたは挿入して、それらに対してさらに操作を実行できます。

サポートされるデータ・ソースは、次のとおりです。

- Cloud EPM: Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Narrative Reporting、Planning、Planning モジュール、Tax Reporting
- Oracle Essbase クラウド
- Oracle Profitability and Cost Management Cloud Essbase Provider
- Oracle Fusion Applications Essbase プロバイダ
- Oracle Essbase Analytic Provider Services (APS)

レポートは、Cloud EPM の財務および管理のレポートを作成するためのクラウドベースのレポート・ソリューションです。これにより、ユーザーは Planning やフリーフォームなどの Cloud EPM ソースを利用してチャートやグリッドをレポートに挿入できます。

レポートのグリッドは、外部データ・ソース接続からのデータを格納する表です。サービス管理者は、ディメンション・レイアウトの定義、メンバーの選択、グリッドのフォーマットを行うことで、「レポート」にグリッドを追加します。管理者は、テキスト、ディメンション、メンバーおよび式を使用して、グリッドのコンテンツを定義します。

> **Note:**
>
> レポート機能およびレポート・フォルダは Excel でのみ使用可能です。

Excel 用 Smart View を使用すると、レポートをアド・ホック・グリッドとしてインポートし、完全にフォーマットされたレポートとしてインポートし、完全にフォーマットされたレポートとして挿入できます。

アド・ホック・グリッドとしてのレポートのインポート

ピボットやメンバー選択など、グリッドでサポートされているアドホック操作をデータ・ソースに対して直接実行できます。グリッドを保存して、レポート・パッケージ・ドックレットの埋込みコンテンツ用のソースとして使用できます。

アド・ホック問合せとしてのレポートのインポートを参照してください。

レポートの完全にフォーマットされたレポートとしての Excel ワークブックへのインポートまたは挿入

ワークブックには、単一のレポートをインポートすることも、複数のレポートを挿入することもできます。レポートで「POV のプレビュー」が使用可能な場合は、レポートのインポートまたは挿入時に POV を選択できます。レポートにプロンプトが含まれている場合は、インポートまたは挿入中にプロンプトを指定します。

また、Smart View でリレーショナル表を含むレポートをインポートすることもできます。

インポートおよび挿入されたレポートでできること:

- POV を変更し、必要に応じてレポート・データをリフレッシュします。
- プロンプトを編集します(インポートされたレポートのみ)。
- 最新のレポート・データでワークブックを保存してリフレッシュします。
- レポートを Excel ファイルとして配布します。
- レポートからアド・ホック・グリッドを生成し、データ分析のためにさらにアド・ホック操作を実行します。

完全にフォーマットされたレポートのインポート/挿入および操作を参照してください。

インポートおよび挿入されたレポートに関するガイドライン

- Web にインポートまたは挿入されたレポートと、Excel にインポートされたレポートでは、いくつかの相違が生じます。詳細は、Oracle Help Center にある Cloud EPM ビジネス・プロセスの**「ブック」**タブで入手できる *レポートの設計*のレポートと Excel にインポートされたレポートの相違で説明されています。
- **サービス管理者:** レポート設計時に、次のタスクを実行して、プロンプトまたは POV で**「メンバー選択」**ダイアログを使用するようにレポートを構成できます:
  - POV ディメンションの定義時に**提案のみ表示**オプションをクリアします
  - プロンプトの定義時に**選択リスト**を指定しないでください

  いずれの場合も、ユーザーは**「メンバー選択」**ダイアログを起動して、POV およびプロンプトへのアクセス権があるメンバーを選択できます。
- **サービス管理者:** 複数のデータ・ソースを含むレポートの場合:

  - データ・ソース間でディメンション名が一意の場合は、POV (**提案のみ表示**をクリア)およびプロンプト(**選択リスト**を指定しない)で**「メンバー選択」**ダイアログを使用可能にできます。
  - 複数のデータ・ソースで同じディメンション名が複数回発生する場合は、POV およびプロンプトに対して提案または選択リストを定義する必要があります。
- レポート設計中に**「すべての選択の印刷」**を有効にした場合、Excel ワークブックへのレポートのインポートおよび挿入後、ワークシート名は、レポート名の後に**「すべての選択の印刷」**に対して有効にした最初の POV ディメンションを付け加えたものになり、必要に応じて Excel の 31 文字の制限を満たすようにシート名が切り捨てられます。
- レポートには、1 つ以上のページに配置された多数のグリッド、グラフ、テキスト・オブジェクトおよび画像が含まれる場合があることに注意してください。このようなオブジェクトはすべて、インポート時に Excel ワークブックに取得されます。レポートのテキスト・ボックスは、インポートされた Excel シートの画像に変換されます。場合によっては、レポートの表示にあわせて Excel の画像ボックスのサイズを手動で変更する必要があります。画像のサイズを変更するには、Excel の図の書式ツールを使用します。画像を右クリックして**「サイズとプロパティ」**を選択します。**「図の書式設定」**で、**「高さの倍率」**と**「幅の倍率」**を 100%に設定します。

レポートをインポートするその他の方法:「Download as Excel」と「Download as Excel Ad Hoc」

Web アプリケーションで「Download as Excel」コマンドと「Download as Excel Ad Hoc」コマンドを使用して、レポートを Excel 用 Smart View にインポートすることもできます。詳細は*レポートの使用の* Smart View でのレポートの操作を参照してください。

Excel アド・ホックとしてダウンロード・コマンドを使用してダウンロードしたレポートを操作する際は、次の考慮事項に注意してください:

- レポートのアド・ホック・グリッド内のすべての非抑制および表示データ行および列も Smart View にインポートされます。グリッド内の非表示の行と列は、結果の Smart View アド・ホック・グリッドには含まれません。Web アプリケーション・ビューで非表示だった行または列見出しもそれぞれのディメンションに表示され、POV に移動されません。
- データ行および列のみが Smart View にインポートされます。データ以外の詳細は静的であり、グリッドがリフレッシュされた後も変更されません。したがって、混乱を避けるために、データ以外のすべての詳細(テキスト、式、セパレータ、ノートの行および列など)は、レポートに存在するアド・ホック・グリッドのインポート時に省かれます。

アド・ホック問合せとしてのレポートのインポート

レポートをアド・ホック問合せとして Oracle Smart View for Office にインポートして、使用可能なアド・ホック操作を実行できます。

このトピックの手順では、Excel 用 Smart View で開始するアド・ホック・グリッドとしてのレポートのインポートについて説明します。

Web アプリケーションで「Download as Excel Ad Hoc」コマンドを使用して、レポートをアド・ホック・グリッドとして Excel 用 Smart View にインポートすることもできます。詳細は*レポートの使用の* Smart View でのレポートの操作を参照してください。

> **Note:**
>
> 開始する前に、Excel で Smart View を起動し、データ・ソースへの接続の説明に従って、サポートされている Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management データ・ソースに接続します。

レポートをアド・ホック問合せとして Smart View にインポートするには:

1. Smart View パネルで、**「レポート」**フォルダに移動します。

   ビジネス・プロセスで使用できるすべてのレポートは、**「レポート」**フォルダからアクセスできます。

   > **Note:**
   >
   > - ほとんどの Cloud EPM ビジネス・プロセスの場合、**「レポート」**フォルダはアプリケーション・フォルダの下にあります。
   > - Narrative Reporting の場合、**「レポート」**フォルダは**「ライブラリ」**フォルダの下にあります。

2. レポートを展開して、使用可能なグリッドを表示し、グリッドを選択します。
3. アクション・パネルで、**「アド・ホック問合せとしてインポート」**をクリックします。

   または、グリッドを右クリックして**「アド・ホック問合せとしてインポート」**を選択します。

   レポートのグリッドは、Smart View でアド・ホック問合せとして表示されます。プロバイダ・アド・ホックのリボンと POV ツールバーが表示されます。

   > **Note:**
   >
   > - Web アプリケーションでレポートを参照したときに表示されるフォーマットは、Smart View にグリッドがインポートされると使用できません。
   > - レポート・グリッドのテキストおよび式の行と列は、Excel にインポートされません(データのみインポートされます)。
   > - ネイティブ・モード(Smart View の「アド・ホック動作」オプション=「ネイティブ」)に設定されている Cloud EPM アプリケーションを操作している場合、POV ディメンションは、POV ツールバーとグリッドのページ・ディメンションの両方で表示されます。
   >
   >   さらに、**「別名の変更」**操作を実行すると、メンバーが正しい位置にないことを示すエラーが発生する可能性があります。

4. 必要に応じてアド・ホック操作を実行します。

   たとえば、次のようなことができます。

   - メンバーにズーム・イン

- 使用可能であれば、データ・プロバイダ・アド・ホックのリボンの**「POV」**ボタンをクリックし、POV ツールバーの表示と非表示を切り替えます
- POV ディメンションまたはメンバーをグリッドにピボット
- **「メンバー選択」**を使用してグリッドの視点を変更します

完全にフォーマットされたレポートのインポート/挿入および操作

レポートは、完全にフォーマットされたレポートとして Oracle Smart View for Office にインポートまたは挿入できます。

このトピックの手順では、Excel 用 Smart View でのレポートのインポートまたは挿入について説明します。また、Web アプリケーションの「Download as Excel」コマンドを使用して、レポートを Excel 用 Smart View にインポートすることもできます。詳細は*レポートの使用の* Smart View でのレポートの操作を参照してください。

> **Note:**
>
> - 完全にフォーマットされたレポートの操作を Smart View で開始する前に、Excel で Smart View を起動し、サポートされている Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management データ・ソースに接続します。
> - リレーショナル表を含むレポートは、Narrative Reporting 拡張機能 24.10 以降を使用して、Smart View 24.200 以降にインポートできます。

完全にフォーマットされたレポートをインポート/挿入および操作するには:

1. Smart View パネルで、**「レポート」**フォルダに移動します。

   インスタンスで使用できるすべてのレポートは、**「レポート」**フォルダからアクセスできます。

   > **Note:**
   >
   > - ほとんどの Cloud EPM ビジネス・プロセスの場合、**「レポート」**フォルダはアプリケーション・フォルダの下にあります。
   > - Narrative Reporting の場合、**「レポート」**フォルダは**「ライブラリ」**フォルダの下にあります。

2. レポートを選択し、アクション・パネルでオプションを選択します:
   - **フォーマットされたレポートのインポート** - 単一レポートを 1 つのワークブックにインポートする場合は、このオプションを選択します。このオプションでは、ワークブックごとに 1 つのレポートが許可されます。

     インポート対象として選択した後続の各レポートは、新しいワークブックにインポートされます。

- **フォーマットされたレポートの挿入** - 複数のレポートを 1 つのワークブックに挿入する場合は、このオプションを選択します。このオプションでは、ワークブックごとに複数のレポートが許可されます。

  挿入対象として選択した後続の各レポートは、同じワークブックに追加されます。

  レポートのプロンプトと POV の組合せを変更することで、同じワークブックに同じレポートを複数回挿入することもできます。これは、期間、シナリオ、エンティティ、製品など、同じワークブック内で異なる POV 選択に対して同じレポートを表示する場合に便利です。各レポートは、ワークブック内の別々のシートに挿入されます。

  たとえば、FY24 の「Manufacturing」、「Marketing」、「Sales Departments」のレポートから経費情報を提示するとします。経費レポートを挿入する際に、**「POV 選択」**ダイアログでエンティティとして *Manufacturing* を選択します。レポートが挿入されたら、「Smart View ホーム」パネルから同じレポートを再度選択し、**「フォーマットされたレポートの挿入」**をクリックします。今度は、**「POV 選択」**ダイアログで、エンティティとして *Marketing* を選択します。この 2 つ目のレポートは、同じワークブック内の新しいシートに挿入されます。同様に、**「POV 選択」**ダイアログでエンティティとして *Sales* を選択し、同じプロセスを繰り返して同じレポートを 3 回目に挿入します。この方法で、同じワークブック内の異なるシートに 3 つの部門の情報が記載された同じ経費レポートを作成できます。

または、レポートを右クリックして、必要に応じて**「フォーマットされたレポートのインポート」**または**「フォーマットされたレポートの挿入」**を選択します。

レポートにプロンプトが含まれている場合は、ステップ 3 を実行します。POV のプレビューが有効になっている場合は、ステップ 4 を実行してください。プロンプトや POV のプレビューがない場合、インポートされたレポートの場合は新しい Excel ワークブックに、挿入されたレポートの場合は現在の Excel ワークブックに、完全にフォーマットされたレポートが表示されます。

> **Note:**
>
> - レポート設計中に**「すべての選択の印刷」**を有効にした場合、ワークシート名は、レポート名の後に**「すべての選択の印刷」**に対して有効にした最初の POV ディメンションを付け加えたものになり、必要に応じて Excel の 31 文字の制限を満たすようにシート名が切り捨てられます。
> - レポートには、1 つ以上のページに配置された多数のグリッド、グラフ、テキスト・オブジェクトおよび画像が含まれる場合があることに注意してください。このようなオブジェクトはすべて、インポート時に Excel ワークブックに取得されます。レポートのテキスト・ボックスは、インポートされた Excel シートの画像に変換されます。場合によっては、レポートの表示にあわせて Excel の画像ボックスのサイズを手動で変更する必要があります。画像のサイズを変更するには、Excel の図の書式ツールを使用します。画像を右クリックして**「サイズとプロパティ」**を選択します。**「図の書式設定」**で、**「高さの倍率」**と**「幅の倍率」**を 100%に設定します。

3. レポートにプロンプトが含まれている場合は、**「プロンプトの選択」**ダイアログで、明確に区別できるようにプロンプト・ラベルの下に分類されたプロンプトを表示できます。**「プロンプトの選択」**ダイアログで、**「OK」**をクリックしてデフォルトのプロンプトを使用するように選択するか、レポートのプロンプトの編集の説明に従ってプロンプトを変更して**「OK」**をクリックできます。

完全にフォーマットされたレポートは、選択したプロンプトとともにインポートまたは挿入されます。

4. レポートに対して**「POV のプレビュー」**が有効な場合は、**「POV の選択」**ダイアログで**「OK」**をクリックしてデフォルトの POV を使用するように選択するか、レポートの POV のプレビューの説明に従って POV を変更して**「OK」**をクリックできます。

   完全にフォーマットされたレポートは、選択した POV とともにインポートまたは挿入されます。

5. **オプション:** レポートをインポートまたは挿入した後、次の操作を実行できます:

   - POV を編集するには、Smart View リボンの**「レポート」**グループで**「POV の編集」**をクリックし、レポートの POV の変更の手順に従います。
   - プロンプトが編集可能な場合は、Smart View リボンの**「レポート」**グループにある**「プロンプトの編集」**をクリックし、レポートのプロンプトの編集の手順に従います。

     > **Note:**
     >
     > **「フォーマットされたレポートの挿入」**コマンドを使用する場合、挿入されたレポートのプロンプトは編集できません。Smart View リボンの**「プロンプトの編集」**アクションは無効になっています。かわりに、レポートの挿入時に**「フォーマットされたレポートの挿入」**コマンドを繰り返し実行し、**「プロンプトの選択」**ダイアログから必要なプロンプトを選択してください。

   - レポートをリフレッシュするには、Smart View リボンの**「レポート」**グループで、インポートまたは挿入されたレポートの場合は**「レポートのリフレッシュ」**をクリックし、複数の挿入されたレポートをリフレッシュする場合は**「すべてのレポートのリフレッシュ」**をクリックして、レポートのリフレッシュの手順に従います。
   - リレーショナル表を含むレポートの場合、Smart View リボンの**「レポートのリフレッシュ」**オプションを使用してのみレポートをリフレッシュできます。その他のオプションである**「POV の編集」**、**「プロンプトの編集」**および**「分析」**は無効のままであり、将来のリリースで使用可能になる予定です。

6. **オプション:** インポートしたグリッドまたはグラフからアド・ホック・グリッドを作成するには、グリッド内のセルを選択するかチャート・イメージを選択し、Smart View のリボンで**「分析」**をクリックします。

   複数のレポートが含まれているシートで、1 つのレポートを選択して**「分析」**をクリックします。

   アド・ホック・グリッドが別のワークシートで起動します。

> **Note:**
>
> - レポートにパーセンテージが含まれている場合、パーセンテージの書式は、値に適用される数値書式設定の一部であることに注意してください。フォーマットされたレポートをインポートすると、適用された数値書式が表示されます。アド・ホック・グリッドでは、裸の数値は書式なしで表示されます。
> - プロンプトと POV の変更は、**分析**の実行時には考慮されません。新規に挿入されたアド・ホック・グリッド(または分析されたグリッド)には、常にデフォルトのグリッドが表示されます。
> - **「分析」**コマンドは、グループ化されたフォーマット済レポートおよびすでに分析済のグリッドではサポートされません。

アド・ホック・グリッドの操作の詳細は、アド・ホック問合せとしてのレポートのインポートを参照してください。

7. **オプション:** レポートのプロパティを表示するには、Smart View パネルのツリーで、レポートを選択して**「プロパティ」**をクリックします。

   または、レポート名を右クリックし、**「プロパティ」**を選択して**「レポート・プロパティ」**にアクセスします。

   「レポート・プロパティ」ダイアログに、次のレポート・プロパティが表示されます: **「名前」**、**「説明」**、**「パス」**(デフォルト以外のフォルダにある場合)、**「作成者」**(ユーザー名)、**「作成日」**(日付)および**「変更日」**(日付)。

8. **オプション:** ワークブックを保存するには、Excel の**「保存」**または**「名前を付けて保存」**コマンドを使用します。

レポートの POV のプレビュー

POV のプレビューでは、レポートをインポートまたは挿入する前に、POV を制御および編集できます。

Oracle Smart View for Office 23.100 以降では、Cloud EPM ビジネス・プロセスまたは Narrative Reporting からレポートをインポートまたは挿入するとき、POV をプレビューおよび設定できます。

開始する前に、次のように、Web アプリケーションで「レポート」の**「POV のプレビュー」**のユーザー・プリファレンス・オプションを使用可能にする必要があります:

- Narrative Reporting で、**「ツール」**に移動し、**「ユーザー・プリファレンス」**を選択して、**「レポート」**タブの**「POV のプレビュー」**チェック・ボックスを選択します。
- Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management ビジネス・プロセスから、**「ツール」**に移動し、**「ユーザー・プリファレンス」**を選択して、**「レポート」**タブの**「POV のプレビュー」**チェック・ボックスを選択します。

ユーザー・プリファレンスの保存後、Microsoft Excel がすでに開いている場合は再起動し、Smart View のビジネス・プロセスに接続します。

レポートをインポートまたは挿入するときに POV をプレビューおよび選択するには:

1. **「POV の選択」**ダイアログで、レポートに指定されたデフォルトの POV を表示し、POV を変更せずにレポートのインポートを続行する場合は**「OK」**をクリックします。POV を編集する場合は、次のステップに進みます。

> **Note:**
>
> **「POV の選択」**ダイアログ・ボックスで**「取消」**をクリックすると、インポートまたは挿入プロセスが取り消されてレポートが Smart View にインポートされません。

2. レポートの POV を編集するには、必要に応じて次のいずれかのタスクを実行します:
   - 各ディメンション・ドロップダウン・リストで値を選択し、**「OK」**をクリックします。
   - POV ディメンションのドロップダウン・メニューを選択して、「選択...」をクリックし、**「メンバー選択」**ダイアログで POV のメンバーを選択して**「OK」**をクリックします。

     > **Note:**
     >
     > **「メンバー選択」**ダイアログでは、1 つのメンバーのみを選択してください。

レポートのインポートまたは挿入後に、レポートの POV の変更の手順に従って POV を編集することもできます。

レポートのプロンプトの編集

レポートにプロンプトが含まれている場合は、プロンプトをインポート/挿入または変更するときにデフォルトのプロンプトを使用するように選択できます。

プロンプトのラベルは、レポート設計時に定義されます。レポート設計者は、ユーザーがプロンプトを理解して正しく選択できるように、「レポート地域の選択」や「四半期の選択」など、意味のあるラベルを付けます。Oracle Smart View for Office にレポートをインポートまたは挿入する際、レポートにプロンプトが含まれている場合は、**「プロンプトの選択」**ダイアログに使用可能なプロンプトがリストされ、ユーザーは、レポートをインポートまたは挿入する前に必要なプロンプトを選択できます。

「プロンプトの選択」ダイアログでは、プロンプトは、分類されてプロンプト・ラベルの下に(ディメンション名ではなく)表示されます。これは、プロンプトが同じディメンションに属している場合に特に役立ちます。このような場合は、プロンプト・ラベルにより、プロンプトを簡単に区別できます。

デフォルトのプロンプトを選択するには、**「プロンプトの選択」**ダイアログで**「OK」**をクリックします

プロンプトを編集するには、このトピックの手順を使用します。

> **Note:**
>
> - 始める前に:
>   - 完全にフォーマットされたレポートのインポート/挿入および操作の説明に従い、レポートをインポートしておく必要があります。
>   - 保持する変更がある場合は、ワークブックを保存します。プロンプトを編集すると、ワークブックが閉じて再生成されます。
> - **「フォーマットされたレポートの挿入」**コマンドを使用する場合、挿入されたレポートのプロンプトは編集できません。Smart View リボンの**「プロンプトの編集」**アクションは無効になっています。かわりに、**「フォーマットされたレポートの挿入」**コマンドを繰り返し実行し、必要なプロンプトを選択してください。
> - リレーショナル表を含むレポートは、静的レポートとしてインポートされます。そのため、このようなレポートでは、Smart View リボンの**「プロンプトの編集」**アクションは無効になっています。

レポートのプロンプトを編集するには:

1. レポートのインポートまたは挿入時にプロンプトを編集するには、**「プロンプトの選択」**ダイアログで可能なアクションを実行します:
   - チェック・ボックスを使用して、各プロンプトのメンバーを選択します。
   - 省略記号ボタン、をクリックして、**「メンバー選択」**ダイアログを起動します。**「メンバー選択」**ダイアログの左側のペインで、必要なメンバーを展開してメンバーを 1 つ選択し、をクリックして右側のペインに移動し、**「OK」**をクリックして**「POV の選択」**ダイアログに戻ります。

     > **Note:**
     >
     > **「メンバー選択」**ダイアログでは、1 つのメンバーのみを選択してください。

   結果のワークブックのシートは、ダイアログにリストされていた順序と同様にアルファベット順に表示されます。必要に応じて、Excel ワークシートを手動で再配置できます。
2. レポートのインポートまたは挿入後にプロンプトを編集するには:
   a. Smart View のリボンで、**「プロンプトの編集」**、をクリックします。
   b. 編集する各プロンプトに対して、ステップ 1 のアクションを繰り返し、**「OK」**をクリックしてレポートをインポートします。

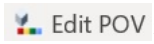
> **Note:**
>
> プロンプトを編集すると、フォーマットされたレポートが再ロードされます。

レポートの POV の変更

完全にフォーマットされたレポートで POV を変更できます。

> **Note:**
>
> - 始める前に:
>   - 完全にフォーマットされたレポートのインポート/挿入および操作の説明に従い、レポートをインポートしておく必要があります。
>   - 保持する変更がある場合は、ワークブックを保存します。POV を編集すると、ワークブックが閉じて再生成されます。
> - リレーショナル表を含むレポートは、静的レポートとしてインポートされます。そのため、このようなレポートでは、Smart View リボンの**「POV の編集」**アクションは無効になります。

インポートまたは挿入されたレポートの POV を変更するには:

1. Smart View のリボンの**「POV の編集」**、をクリックして、**「POV の選択」**ダイアログを起動します。

   各フィールドのドロップダウン矢印を使用して、ディメンション POV を変更できることを示すドロップダウン・リストを探します。

   > **Note:**
   >
   > POV を編集すると、フォーマットされたレポートが再ロードされます。

2. ドロップダウン・リストにオプションの固定リストが含まれている場合は、リストからオプションを選択します。
3. ドロップダウン・リストに**「選択...」**オプションが含まれている場合:
   a. **「選択...」**をクリックして**「メンバー選択」**ダイアログを開きます。
   b. **「メンバー選択」**ダイアログの左側のペインで、必要なメンバーを展開してメンバーを 1 つ選択し、をクリックして右側のペインに移動し、**「OK」**をクリックして**「POV の選択」**ダイアログに戻ります。

> **Note:**
>
> - **「メンバー選択」**ダイアログでは、1 つのメンバーのみを選択してください。
> - 現在のディメンションから選択できるメンバーは一度に 1 つのみです。別のディメンションからメンバーを選択するには、**「メンバー選択」**を終了してから、**「POV の選択」**ダイアログで別のディメンションのドロップダウン・リストから**「選択...」**を選択する必要があります。
> - レポートのデザイナは、POV (*レポートを使用した設計*のグリッド視点の定義で説明)を定義する際にドロップダウン・リストが静的であるか、POV のメンバー選択が許可されていることを示す**「選択」**オプションがあるのかを指定します。

4. **「POV の選択」**ダイアログで必要なディメンションを選択した後に、**「OK」**をクリックすると、新たに選択したメンバーを POV 選択として使用できます。

   更新された POV を使用して、フォーマットされたレポートが再生成されます。

レポートのリフレッシュ

セッション中にレポートの基礎データが変更された場合、インポートされたレポートと挿入されたレポートをリフレッシュして、データの最新の更新情報を取得できます。

レポートのリフレッシュ

「レポートのリフレッシュ」メニューを使用すると、ワークブックで現在開いているレポートをリフレッシュできます。このメニューは、インポートされたレポートと挿入されたレポートの両方をリフレッシュするために使用します。

一度に 1 つのレポートをリフレッシュするには:

1. リフレッシュするレポートを開きます。
2. Smart View リボンの**「レポート」**グループで、**「レポートのリフレッシュ」**をクリックします。
   レポートが最新のデータでリフレッシュされます。

> **Note:**
>
> - **「レポート」**グループは、レポートが開かれているときにのみ Smart View のリボンに表示されます。**「レポートのリフレッシュ」**では、開いているワークブックは維持され、ユーザー式も維持されます。
> - エクスポート、インポートまたは挿入された既存のレポートを Excel でリフレッシュすると、既存のレポートは同じ Excel ワークブックでリフレッシュされます。
> - Excel でリフレッシュできるレポートは、元のワークブックにあるレポートのみです。レポート・シートを別のワークブックに移動またはコピーした場合、それらはリフレッシュされません。

すべてのレポートのリフレッシュ

Oracle Smart View for Office 25.100 以降では、**「すべてのレポートのリフレッシュ」**メニューを使用して、ワークブック内のすべての挿入レポートを 1 回のクリックでリフレッシュできます。このメニューは挿入レポートにのみ使用できます。インポートされたレポートはスタンドアロン・レポートであり、常に新しいワークブックにインポートされるため、Smart View リボンでは無効になっています。

ワークブック内のすべての挿入レポートを一度にリフレッシュするには:

1. リフレッシュする挿入レポートを含むワークブックを開きます。
2. Smart View リボンの**「レポート」**グループで、**「すべてのレポートのリフレッシュ」**をクリックします。
   ワークブック内のすべてのレポートが最新のデータでリフレッシュされます。

> **Note:**
>
> プロンプトと POV を変更せずに、同じプロンプトと POV の組合せでレポートを再度挿入すると、Smart View でレポートを挿入できます。ただし、リフレッシュしようとすると、最後に挿入したレポートのみがリフレッシュされます。同じプロンプトと POV の組合せで最初に挿入したレポートはリフレッシュされません。

13

スマート・フォーム

次も参照:

- スマート・フォームについて
  Oracle Smart View for Office のスマート・フォームを作成および管理します。
- スマート・フォームの作成
  Oracle Smart View for Office で、グリッド・ラベルおよびビジネス計算を含むアド・ホック・グリッドを保存することにより、スマート・フォームを作成します。
- スマート・フォームのシナリオ例
  スマート・フォームはアド・ホック・グリッドで開始します。
- スマート・フォームでサポートされている Excel 関数
  いくつかの Excel 関数がスマート・フォームでサポートされています。

スマート・フォームについて

Oracle Smart View for Office のスマート・フォームを作成および管理します。

データ・ソース・タイプ: Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting

> **ノート:**
>
> **管理者:** スマート・フォームは、ネイティブ・モード・アプリケーションでのみサポートされています。ネイティブ・モード・アプリケーションでは、**「Smart View アド・ホック動作」**オプションが**「ネイティブ」**に設定されています。詳細は、クラウド・ビジネス・プロセスの*管理*ガイドでアプリケーション設定のトピックを参照してください。

アド・ホック分析グリッドを開始すると、ビジネス計算(Excel の関数と式の形式)を追加して、グリッドをカスタマイズできます。これらの計算は、その他のソース・アプリケーション内のメタデータには影響しません。スマート・フォームで作成し、保存したビジネス計算は、Smart View とプロバイダ Web インタフェース(Planning など)の両方で実行できます。Smart View では式が Excel によって評価され、Web インタフェースでは式がプロバイダによって評価されます。

たとえば、Smart View で Planning データを分析する場合を考えます。製品の平均利益マージンを計算すると仮定します。「平均利益マージン」というグリッド・ラベルを付けて、グリッドに行を追加します。4 つの製品の利益マージン・データのセルを選択して、新しい行で平均利益マージンを算出する Excel の関数を追加します。各製品の利益マージンがグリッドの列 D に表示される場合、関数は`=AVERAGE(D5:D8)`になります。スマート・フォームでは、追加した Excel の式と関数は、*ビジネス計算*と呼ばれます。ビジネス計算の追加後、平均利益マージンはすぐに新しい行に表示されますが、新しい行はスマート・フォームにのみ保存され、他のアプリケーションには保存されません。

このアド・ホック・グリッド、およびそのグリッド・ラベルと計算を Planning でフォームとして使用可能にするには、Smart View の Planning のリボンにある**「スマート・フォームとして保存」**オプションを選択します。その後、Planning または Smart View では、追加した行、列およびビジネス計算を含め、フォームとしてこのスマート・フォームを開いて使用できます。Smart View では、このスマート・フォームに対してアド・ホックを実行できます。スマート・フォームからサンドボックスを作成できます。

次の項では、スマート・フォームの使用についての説明およびガイドラインを示します。

スマート・フォーム

スマート・フォームは、Smart View で作成され、アド・ホック・グリッドに基づくデータ・フォームの 1 つのタイプであり、通常のデータ・フォームでサポートされていない機能を持ちます。スマート・フォームでは、Excel の式と関数の形式でビジネス計算とともにグリッド・ラベルをサポートします。Smart View で、Planning などの適切なプロバイダにこれらのアド・ホック・グリッドをスマート・フォームとして保存できます。ビジネス計算とグリッド・ラベルは、任意の空白の行と列とともにスマート・フォーム定義の一部として保存されます。さらに:

- 計算されるセルおよび空白の行と列機能に加えて、スマート・フォームでは、セルの結合などの拡張 Excel フォーマット機能をサポートしています。
- スマート・フォームは、適切な Web インタフェースまたは Smart View の通常のフォームと同様に、エンド・ユーザーが使用できます。
- スマート・フォーム設計は、アプリケーション Web インタフェース内のフォーム設計と同様に、エンド・ユーザーに対して使用可能ではありません。アド・ホック・グリッドをスマート・フォームとして保存するには、管理者または対話型ユーザーの役割が必要です。

  通常のフォームと同様に、管理者は、エンド・ユーザー用に読取り/書込みアクセス権をスマート・フォームに割り当てる必要があります。
- Smart View では、スマート・フォームを Excel ワークシートで設計できるため、スマート・フォーム・レイアウトの他に、非対称レイアウトでも表示することができます。プロバイダ Web インタフェースでこれを実行するには、個々の行と列を作成する必要があります。
- 共有接続を使用して接続している場合、次の Smart View 関数がスマート・フォームでサポートされます: HsGetValue、HsSetValue および HsActive。

  プライベート接続を使用して接続している場合、Smart View 関数はサポートされません。

  ノート: Smart View 関数を含むスマート・フォームを開く場合は、**「リフレッシュ」**をクリックして、適切な値で関数セルを更新します。
- プロバイダ Web インタフェースの設計モードでは、次のようになります:
  - ビジネス・ルールをスマート・フォームに割り当てることができます。
  - スマート・フォームのグリッド・レイアウト、Excel フォーマットまたはビジネス計算は変更できません。
- スマート・フォーム機能は、Planning、Financial Consolidation and Close および Tax Reporting で作成されたアド・ホック・グリッドに使用できます。ご使用のサービスでスマート・フォームが使用できるかどうかについては、サービス管理者に確認してください。

ビジネス計算

スマート・フォームでは、アド・ホック・グリッドに追加した Excel の式と関数は、*ビジネス計算*と呼ばれます。グリッドをスマート・フォームとして追加すると、エンド・ユーザーは、アプリケーション・メタデータにメンバーを追加しないで、Smart View クライアントから、ビジネス計算を実行できます。

ビジネス計算は、Excel の計算エンジンを使用する Smart View で実行されるので、プロバイダへの問合せが不要です。この実行時ビジネス計算は、Smart View とデータ・プロバイダの両方でサポートされています。また、次についても注意してください。

- 多数の Excel 関数がスマート・フォームでサポートされています。Excel 関数がサポートされていない場合、スマート・フォームを保存しようとするとメッセージが通知されます。
- Excel フォーマットをビジネス計算のセルに適用できるので、ドル記号や小数点など、プリファレンスに従って数字が表示されます。
- グリッド・ラベルの行または列では、ビジネス計算セルの定数のみを入力できません。たとえば、`1000` や `0.10` の入力はサポートされていません。計算されたセルに定数を使用する場合は、`=1000` や`=0.10` など、等号(=)を接頭辞として使用してください。

グリッド・ラベル

グリッド・ラベルを使用して、グリッドにプレースホルダを指定し、対応するデータ・セル交差部にビジネス計算を入力します。これらは、ビジネス計算を含むアド・ホック・グリッドを保存するために必要です。さらに:

- アド・ホック・グリッド内の実際のメンバーのかわりに Excel に手動でグリッド・ラベルを入力します。
- グリッド・ラベル名は、データ・ソース・アプリケーションの実際のメンバー名とも、どの別名表のメンバーの別名とも同じにならないようにします。同じになる場合は、実際のメンバー名または別名がグリッド・ラベル名より優先されます。
- グリッド・ラベルに空白を入力しないでください。
- グリッド・ラベルにはディメンション・プロパティはありません。
- グリッド・ラベルは、Planning のディメンション・エディタには表示できず、Oracle Essbase に送信されません。
- グリッド・ラベルを含む実際のメンバーの交差部によって作成されたデータ・セルは、*計算されるセル*と呼ばれます。

スマート・フォームの作成

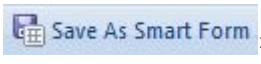
Oracle Smart View for Office で、グリッド・ラベルおよびビジネス計算を含むアド・ホック・グリッドを保存することにより、スマート・フォームを作成します。

スマート・フォームは、それぞれ対応する Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close または Tax Reporting に保存されます。

スマート・フォームを作成するには:

1. アド・ホック分析の開始のステップに従って、アド・ホック・グリッドを作成します。

   または、フォームを開き、プロバイダのリボンから**「分析」**をクリックして、フォームをアド・ホック・グリッドに変換します。
2. グリッド・ラベルとビジネス計算を Excel の式と関数として、アド・ホック・グリッドに追加します。

   スマート・フォームのシナリオ例を参照してください
3. グリッド・ラベルとビジネス計算をアド・ホック・グリッドに追加した後、プロバイダ・アド・ホックのリボンで、

をクリックします。
4. **スマート・フォームとしてグリッドを保存**ダイアログ・ボックスで、次のようにします。

- **「グリッド名」**で、スマート・フォームの名前を指定します。
- **「グリッド・パス」**で、スマート・フォームを格納する場所を参照します。

  新しいフォルダ名を入力することもできます。フォルダが Smart View パネルのアプリケーションに表示されます。
- **オプション:** グリッドに適用されたカスタム Excel フォーマットの変更を保存するには、**「フォーマットの送信」**を選択します。

  アド・ホック・グリッドおよびフォームへのフォーマットの保存についてのその他のノートおよびガイドラインは、Cloud EPM フォームでのネイティブ Excel フォーマットの使用についてを参照してください。

Smart View パネルで、スマート・フォームはアイコンで指定されます。

スマート・フォームのシナリオ例

スマート・フォームはアド・ホック・グリッドで開始します。

アド・ホック・グリッドは、アド・ホック分析の Planning、Financial Consolidation and Close または Tax Reporting フォームを開くか、キューブ・レベルでアド・ホック分析を起動することにより作成されます(図 1 を参照)。

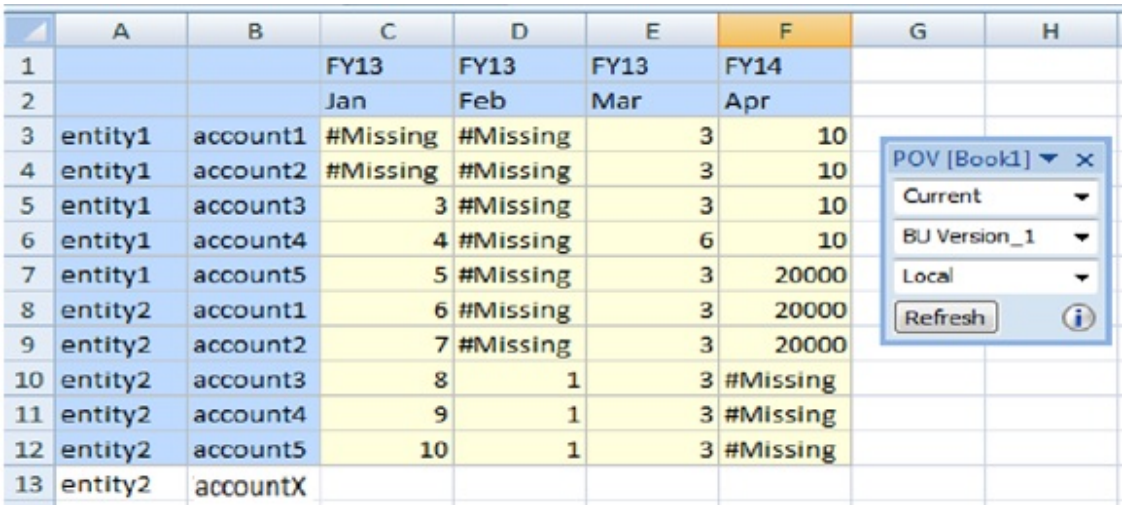
図 13-1 アド・ホック分析用に開かれたフォーム

	A	B	C	D	E	F	G	H
1			FY13	FY13	FY13	FY14		
2			Jan	Feb	Mar	Apr		
3	entity1	account1	#Missing	#Missing	3	10		
4	entity1	account2	#Missing	#Missing	3	10		
5	entity1	account3	3	#Missing	3	10		
6	entity1	account4	4	#Missing	6	10		
7	entity1	account5	5	#Missing	3	20000		
8	entity2	account1	6	#Missing	3	20000		
9	entity2	account2	7	#Missing	3	20000		
10	entity2	account3	8	1	3	#Missing		
11	entity2	account4	9	1	3	#Missing		
12	entity2	account5	10	1	3	#Missing		

POV [Book1]
Current
BU Version_1
Local
Refresh

行 13、セル A13 と B13 に、「エンティティ」ディメンションに対して「entity2」、「勘定科目」ディメンションに対してラベル「accountX」と入力し、行に 2 つのグリッド・ラベルを作成して行を追加します。セル C13:F13 は計算されるセルです。グリッド・ラベルとして使用されるメンバー名「entity2」と「accountX」は、どのディメンションにも存在しません。また、どの別名表にも同じ名前を持つ別名は存在しません。ただし、前述の基本のアド・ホックでは「entity2」がメンバー名であるため、「entity2」はメンバーとして扱われることに注意してください。

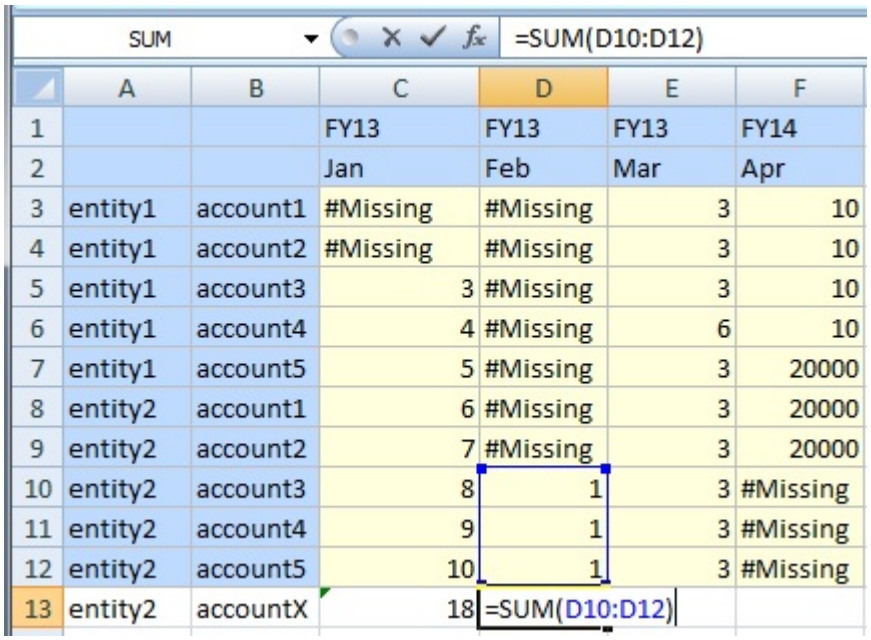
図 13-2 セル A13 と B13 に追加されたグリッド・ラベル



	A	B	C	D	E	F	G	H
1			FY13	FY13	FY13	FY14		
2			Jan	Feb	Mar	Apr		
3	entity1	account1	#Missing	#Missing	3	10		
4	entity1	account2	#Missing	#Missing	3	10		
5	entity1	account3	3	#Missing	3	10		
6	entity1	account4	4	#Missing	6	10		
7	entity1	account5	5	#Missing	3	20000		
8	entity2	account1	6	#Missing	3	20000		
9	entity2	account2	7	#Missing	3	20000		
10	entity2	account3	8	1	3	#Missing		
11	entity2	account4	9	1	3	#Missing		
12	entity2	account5	10	1	3	#Missing		
13	entity2	accountX						

グリッドのラベルの行 13 で実際の列ディメンション・メンバーの交差部で作成されたセル C13:F13 に、ビジネス計算を Excel 式の形式で追加します。図 3 に、セル C13 で計算が入力され、実行されており、同じ計算がセル D13 にコピーされることを示します。

図 13-3 セル C13 と D13 からセル F13 に追加されたビジネス計算

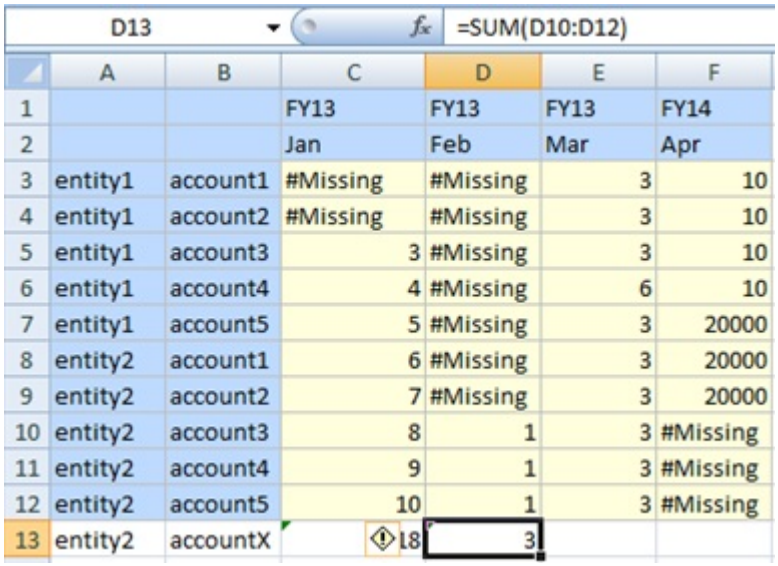


SUM =SUM(D10:D12)

	A	B	C	D	E	F
1			FY13	FY13	FY13	FY14
2			Jan	Feb	Mar	Apr
3	entity1	account1	#Missing	#Missing	3	10
4	entity1	account2	#Missing	#Missing	3	10
5	entity1	account3	3	#Missing	3	10
6	entity1	account4	4	#Missing	6	10
7	entity1	account5	5	#Missing	3	20000
8	entity2	account1	6	#Missing	3	20000
9	entity2	account2	7	#Missing	3	20000
10	entity2	account3	8	1	3	#Missing
11	entity2	account4	9	1	3	#Missing
12	entity2	account5	10	1	3	#Missing
13	entity2	accountX	18	=SUM(D10:D12)		

図 4 に、Excel の式バーでのビジネス計算を示します。

図 13-4 Excel の式バーでのビジネス計算



	A	B	C	D	E	F
1			FY13	FY13	FY13	FY14
2			Jan	Feb	Mar	Apr
3	entity1	account1	#Missing	#Missing	3	10
4	entity1	account2	#Missing	#Missing	3	10
5	entity1	account3	3	#Missing	3	10
6	entity1	account4	4	#Missing	6	10
7	entity1	account5	5	#Missing	3	20000
8	entity2	account1	6	#Missing	3	20000
9	entity2	account2	7	#Missing	3	20000
10	entity2	account3	8	1	3	#Missing
11	entity2	account4	9	1	3	#Missing
12	entity2	account5	10	1	3	#Missing
13	entity2	accountX	18	3		

リフレッシュすると、セル A13 の「entity2」がメンバーのプロパティを取り、セル B13 の「accountX」がグリッド・ラベルのプロパティ、セル C13 と D13 がビジネス計算セルのプロパティを取ります。

ノート

- アド・ホック・グリッドに Excel の式と関数の形式でビジネス計算を保存するには、グリッド・ラベルを入力する必要があります。
- 空白がグリッド・ラベルのかわりに入力された場合、空のメンバーをこのディメンションの同じメンバーに置き換えるか、グリッドのフォームが不正な場合にエラーを表示するなど、グリッドの動作は一般的なアド・ホック・ルールによって決定されます。
- 軸に対してどのディメンションの場所(最も内側、最も外側または中央の任意の場所)にもグリッド・ラベルを入力できます。
- ビジネス計算は、グリッド・ラベルで作成した行と列にのみ入力できます。
- メンバー名はグリッド・ラベルの行に入力できますが、正しいディメンションにのみ配置されます。メンバー名が正しくない場所に入力されており、別のディメンションですでにアプリケーション・データ・プロバイダによって使用されている場合、リフレッシュすると、ラベル名を変更するようメッセージが表示されます。

これで、スマート・フォームの作成に示されているように、スマート・フォームとしてアド・ホック・グリッドを保存できます。これを行うことで、グリッド・ラベルおよびビジネス計算も、アプリケーション・データ・プロバイダに保存されます。

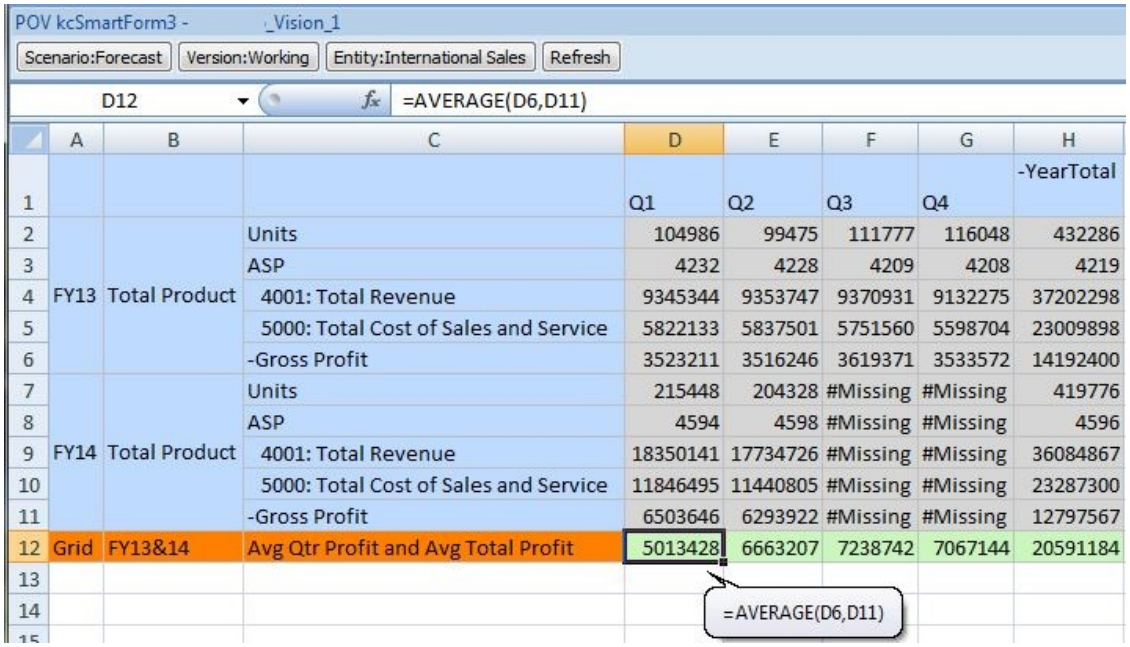
プロバイダでは、リフレッシュ時に「accountX」をグリッド・ラベルとして識別し、これをアド・ホックのコメント行または列(背景が空白のセル)として表示します。「entity2」ラベルは、メンバー名がプロバイダ・データベースにすでに存在しているため、グリッド内のその他の entity2 メンバーと同じプロパティを取ります。

その他の例

ここに Vision サンプル・アプリケーションを使用したスマート・フォームの例を示します。アド・ホック・グリッドから保存されてから、Oracle Smart View for Office のフォームとして開かれています。

図 5 では、FY13 および FY14 の 2 年間の平均の四半期ごとの総利益および平均の総利益を示すためにビジネス計算が行われました。また、セル・スタイルがグリッド・ラベルとビジネス計算のセルに適用されていることを示しています。

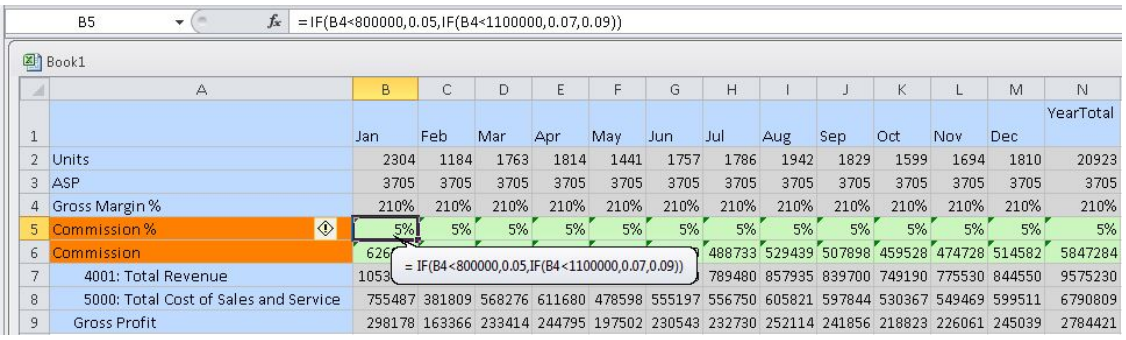
図 13-5 スマート・フォームとして保存し、Smart View でフォームとして開かれた当初のアド・ホック・グリッド



	A	B	C	D	E	F	G	H
1				Q1	Q2	Q3	Q4	-YearTotal
2			Units	104986	99475	111777	116048	432286
3			ASP	4232	4228	4209	4208	4219
4	FY13	Total Product	4001: Total Revenue	9345344	9353747	9370931	9132275	37202298
5			5000: Total Cost of Sales and Service	5822133	5837501	5751560	5598704	23009898
6			-Gross Profit	3523211	3516246	3619371	3533572	14192400
7			Units	215448	204328	#Missing	#Missing	419776
8			ASP	4594	4598	#Missing	#Missing	4596
9	FY14	Total Product	4001: Total Revenue	18350141	17734726	#Missing	#Missing	36084867
10			5000: Total Cost of Sales and Service	11846495	11440805	#Missing	#Missing	23287300
11			-Gross Profit	6503646	6293922	#Missing	#Missing	12797567
12	Grid	FY13&14	Avg Qtr Profit and Avg Total Profit	5013428	6663207	7238742	7067144	20591184
13								
14								

図 6 に、アド・ホック・グリッドとして開いたスマート・フォームを示します。グリッド・ラベルとビジネス計算はグリッドの中央に追加されており、セル・スタイルが適用されています。

図 13-6 Smart View でアド・ホック・グリッドとして開かれたスマート・フォーム



	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N
1		Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec	YearTotal
2	Units	2304	1184	1763	1814	1441	1757	1786	1942	1829	1599	1694	1810	20923
3	ASP	3705	3705	3705	3705	3705	3705	3705	3705	3705	3705	3705	3705	3705
4	Gross Margin %	210%	210%	210%	210%	210%	210%	210%	210%	210%	210%	210%	210%	210%
5	Commission %	5%	5%	5%	5%	5%	5%	5%	5%	5%	5%	5%	5%	5%
6	Commission	626						488733	529439	507898	459528	474728	514582	5847284
7	4001: Total Revenue	1053						789480	857935	839700	749190	775530	844550	9575230
8	5000: Total Cost of Sales and Service	755487	381809	568276	611680	478598	555197	556750	605821	597844	530367	549469	599511	6790809
9	Gross Profit	298178	163366	233414	244795	197502	230543	232730	252114	241856	218823	226061	245039	2784421

図 7 は、スマート・フォームとして保存し、フォームとして開いた同じアド・ホック・グリッドです。

図 13-7 Smart View でフォームとして開かれたスマート・フォーム

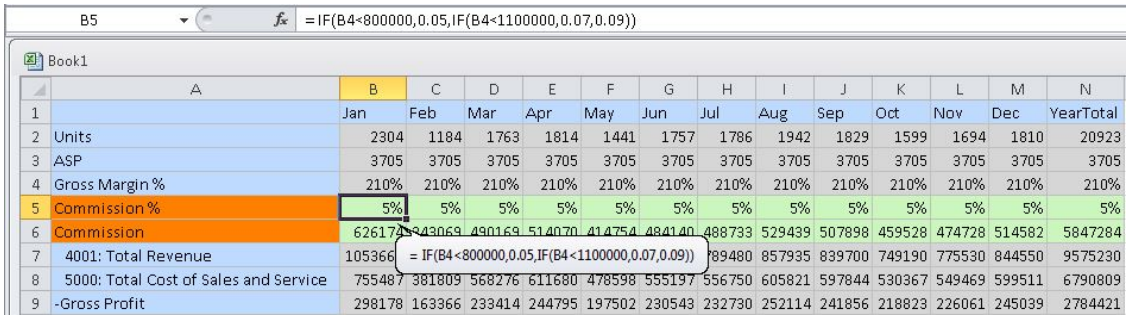


図 8 に、グリッド・ラベル行に入力されたメンバー名とともに、2 つのグリッド・ラベルおよびビジネス計算のセルの式を示します。フォームでは、手動入力のメンバー名がメンバーを示します。

図 13-8 グリッド・ラベル行にメンバー名が入力されているスマート・フォーム

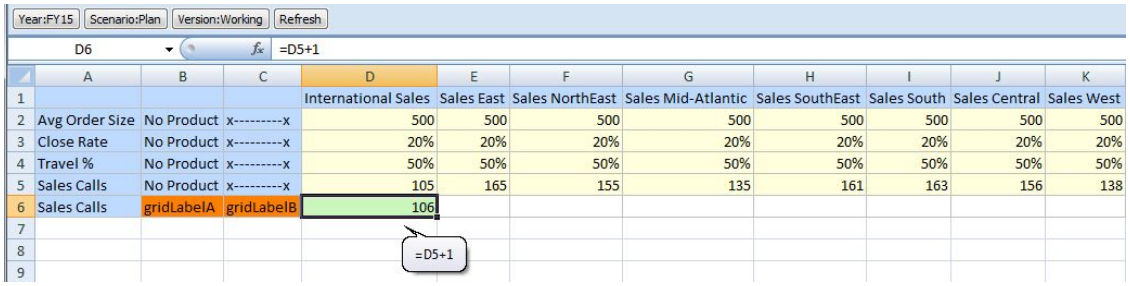


図 9 では、新しい列にセル F1 および F2 のグリッド・ラベルが含まれます。列 G には、セル G1 に繰返し手動入力したメンバー名、セル G2 にはセル G3 のメンバーとビジネス計算の間のグリッド・ラベルが含まれています。

図 13-9 メンバー間のグリッド・ラベル

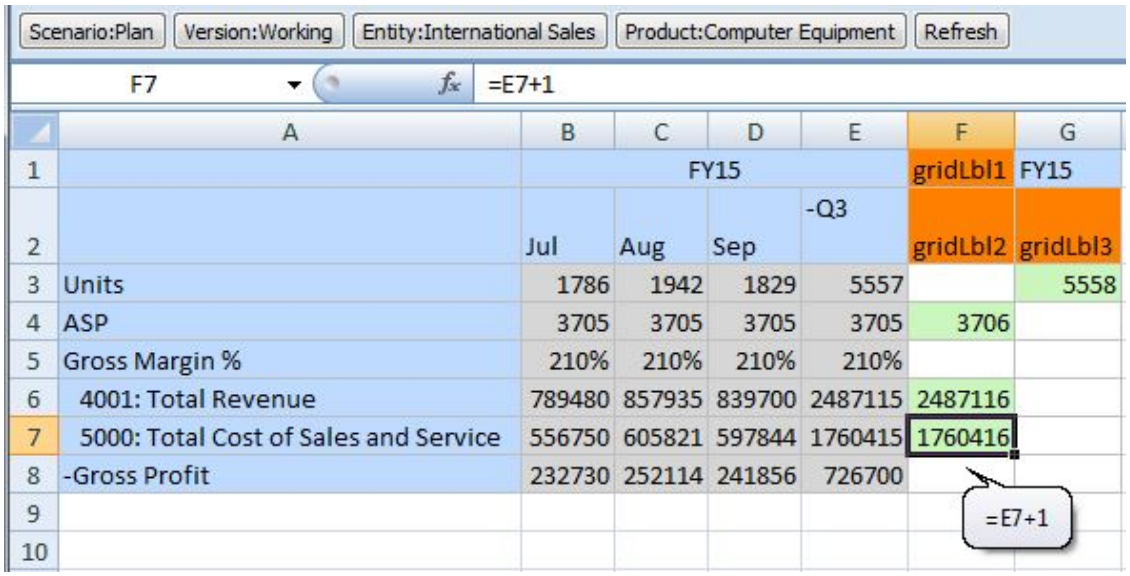
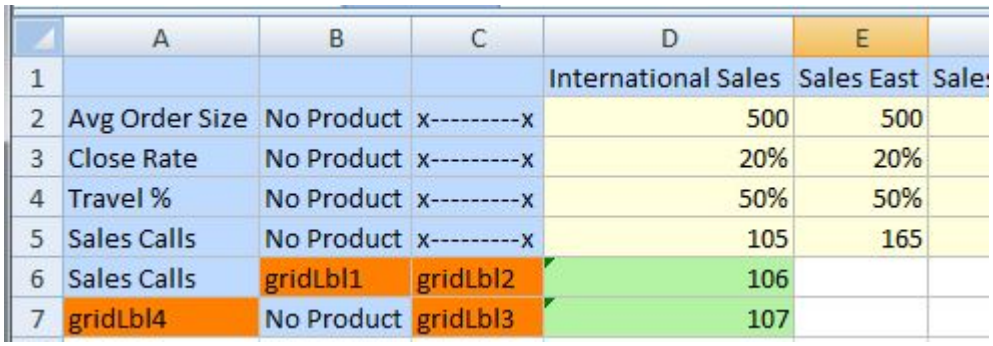


図 10 に、グリッド・ラベルで有効なメンバーを囲む方法を示します。

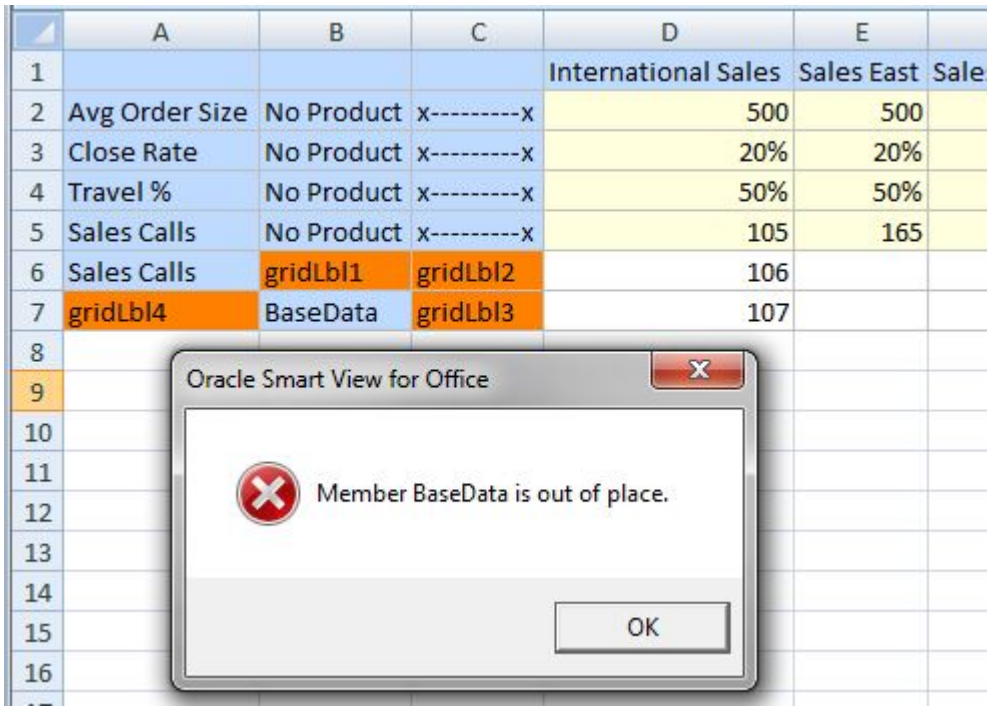
図 13-10 グリッド・ラベル間またはグリッド・ラベルの下にあるメンバー



	A	B	C	D	E	
1				International Sales	Sales East	Sale
2	Avg Order Size	No Product	x---------x	500	500	
3	Close Rate	No Product	x---------x	20%	20%	
4	Travel %	No Product	x---------x	50%	50%	
5	Sales Calls	No Product	x---------x	105	165	
6	Sales Calls	gridLbl1	gridLbl2	106		
7	gridLbl4	No Product	gridLbl3	107		

図 11 に、グリッド・ラベル間にある、グリッド・ラベルで囲まれたメンバーが正しい位置にないことを示します。メンバーが正しい位置にないことを示すメッセージが表示されます。

図 13-11 グリッド・ラベル行の正しい位置にないメンバー



	A	B	C	D	E	
1				International Sales	Sales East	Sale
2	Avg Order Size	No Product	x---------x	500	500	
3	Close Rate	No Product	x---------x	20%	20%	
4	Travel %	No Product	x---------x	50%	50%	
5	Sales Calls	No Product	x---------x	105	165	
6	Sales Calls	gridLbl1	gridLbl2	106		
7	gridLbl4	BaseData	gridLbl3	107		

スマート・フォームでサポートされている Excel 関数

いくつかの Excel 関数がスマート・フォームでサポートされています。

サブトピック:

- アルファベット順のスマート・フォームでサポートされている Excel 関数

- カテゴリ別のスマート・フォームでサポートされている Excel 関数

アルファベット順のスマート・フォームでサポートされている Excel 関数

表 13-1 スマート・フォームでサポートされている Excel 関数のアルファベット順のリスト

関数	カテゴリ
ABS	数学および三角法
ACCRINT	財務
ACCRINTM	財務
ACOS	数学および三角法
ACOSH	数学および三角法
AMORDEGRC	財務
AMORLINC	財務
AND	論理
ASIN	数学および三角法
ASINH	数学および三角法
ATAN	数学および三角法
ATAN2	数学および三角法
ATANH	数学および三角法
AVERAGE	統計
AVERAGEA	統計
CEILING	数学および三角法
COMBIN	数学および三角法
COS	数学および三角法
COSH	数学および三角法
COUNT	統計
COUNTA	統計
COUPDAYBS	財務
COUPDAYS	財務
COUPDAYSNC	財務
COUPNCD	財務
COUPNUM	財務
COUPPCD	財務
CUMIPMT	財務
CUMPRINC	財務
DATE	日付と時間
DAY	日付と時間
DAYS360	日付と時間
DB	財務
DDB	財務
DEGREES	数学および三角法
DISC	財務
DOLLARDE	財務
DOLLARFR	財務
DURATION	財務
EDATE	日付と時間
EFFECT	財務
EOMONTH	日付と時間

表 13-1 (続き) スマート・フォームでサポートされている Excel 関数のアルファベット順のリスト

関数	カテゴリ
EVEN	数学および三角法
EXP	数学および三角法
FACT	数学および三角法
FACTDOUBLE	数学および三角法
FLOOR	数学および三角法
FV	財務
FVSCHEDULE ***	財務
GCD	数学および三角法
HOUR	日付と時間
IF	論理
IFERROR	論理
- TRUE	論理
- FALSE	論理
INT	数学および三角法
INTRATE	財務
IPMT	財務
IRR	財務
ISERR	情報
ISERROR	情報
ISPMT	財務
LCM	数学および三角法
LEFT	テキスト
LN	数学および三角法
LOG	数学および三角法
LOG10	数学および三角法
MAX	統計
MDURATION	財務
MID	テキスト
MIN	統計
MINUTE	日付と時間
MIRR	財務
MOD	数学および三角法
MONTH	日付と時間
MROUND	数学および三角法
MULTINOMIAL	数学および三角法
NETWORKDAYS	日付と時間
NOMINAL	財務
NOT	論理
NOW	日付と時間
NPER	財務
NPV	財務
ODD	数学および三角法
OR	論理

表 13-1 (続き) スマート・フォームでサポートされている Excel 関数のアルファベット順のリスト

関数	カテゴリ
PI	数学および三角法
PMT	財務
POWER	数学および三角法
PPMT	財務
PRICE	財務
PRICEDISC	財務
PRICEMAT	財務
PRODUCT	数学および三角法
PV	財務
QUOTIENT	数学および三角法
RADIANS	数学および三角法
RAND	数学および三角法
RANDBETWEEN	数学および三角法
RATE	財務
RECEIVED	財務
RIGHT	テキスト
ROUND	数学および三角法
ROUNDDOWN	数学および三角法
ROUNDUP	数学および三角法
SECOND	日付と時間
SIGN	数学および三角法
SIN	数学および三角法
SINH	数学および三角法
SLN	財務
SQRT	数学および三角法
SQRTPI	数学および三角法
SUM	数学および三角法
SUMSQ	数学および三角法
SYD	財務
TAN	数学および三角法
TANH	数学および三角法
TBILLEQ	財務
TBILLPRICE	財務
TBILLYIELD	財務
TIME	日付と時間
TODAY	日付と時間
TRUNC	数学および三角法
WEEKDAY	日付と時間
WEEKNUM	日付と時間
WORKDAY	日付と時間
XIRR	財務
XNPV	財務
YEAR	日付と時間

表 13-1 (続き) スマート・フォームでサポートされている Excel 関数のアルファベット順のリスト

関数	カテゴリ
YEARFRAC	日付と時間
YIELD	財務
YIELDDISC	財務
YIELDMAT	財務

*** スマート・フォームで FVSCHEDULE 関数を使用する場合、既存のデータには、データ配列ではなくセル参照を使用します。たとえば、=FVSCHEDULE(C10,B15:B17)を使用します。=FVSCHEDULE(C10,{0.09,0.11,0.1})は使用しないでください。

カテゴリ別のスマート・フォームでサポートされている Excel 関数

財務関数

ACCRINT

ACCRINTM

AMORDEGRC

AMORLINC

COUPDAYBS

COUPDAYS

COUPDAYSNC

COUPNCD

COUPNUM

COUPPCD

CUMIPMT

CUMPRINC

DB

DDB

DISC

DOLLARDE

DOLLARFR

DURATION

EFFECT

FV

FVSCHEDULE ***

INTRATE

IPMT

IRR

ISPMT

MDURATION

MIRR

NOMINAL

NPER

NPV

PMT

PPMT

PRICE

PRICEDISC

PRICEMAT

PV

RATE

RECEIVED

SLN

SYD

TBILLEQ

TBILLPRICE

TBILLYIELD

XIRR

XNPV

YIELD

YIELDDISC

YIELDMAT

*** スマート・フォームで FVSCHEDULE 関数を使用する場合、既存のデータには、データ配列ではなくセル参照を使用します。たとえば、=FVSCHEDULE(C10,B15:B17) を使用します。=FVSCHEDULE(C10,{0.09,0.11,0.1}) は使用しないでください。

情報関数

ISERR

ISERROR

論理関数

AND

IF

NOT

OR

IFERROR

- TRUE
- FALSE

統計関数

AVERAG

AVERAGEA

COUNT

COUNTA

MAX

MIN

テキスト関数

LEFT

RIGHT

MID

日付と時間関数

DATE

DAY

DAYS360

EDATE

EOMONTH

HOUR

MINUTE

MONTH

NETWORKDAYS

NOW

SECOND

TIME

TODAY

WEEKDAY

WEEKNUM

WORKDAY

YEAR

YEARFRAC

数学および三角関数

ABS

ACOS

ACOSH

ASIN

ASINH

ATAN

ATAN2

ATANH

CEILING

COMBIN

COS

COSH

DEGREES

EVEN

EXP

FACT

FACTDOUBLE

FLOOR

GCD

INT

LCM

LN

LOG

LOG10

MOD

MROUND

MULTINOMIAL

ODD

PI

POWER

PRODUCT

QUOTIENT

RADIANS

RAND

RANDBETWEEN

ROUND

ROUNDDOWN

ROUNDUP

SIGN

SIN

SINH

SQRT

SQRTPI

SUM

TAN

TANH

TRUNC

14

タスク・マネージャ

クラウド・データ・ソース・タイプ: Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting

タスク・マネージャは、ビジネス・プロセスの相互依存アクティビティを 定義、実行およびレポートするのに役立ちます。すべてのタスクを 集中モニタリングし、ビジネス・プロセスの実行を記録するための目に見える自動化された繰返し可能なシステムを提供します。

Oracle Smart View for Office では、ワークリストに接続し、自分に割り当てられたタスク・マネージャ・タスクで作業し、タスク・マネージャ拡張機能を使用して Excel 内で様々なアクションを実行できます。

使用可能なアクションは、ユーザーの役割に応じて、次のとおりです:

- **担当者**: タスクの送信
- **承認者**: タスクの承認および却下
- **担当者または承認者**: タスクの請求およびリリース

ビデオ

目的	このビデオを見る
Smart View を使用したタスク管理について学習します。	 Smart View を使用したタスク管理

タスク・マネージャ拡張機能のインストールおよび接続

Oracle Smart View for Office、およびタスク・マネージャ、エンタープライズ仕訳、補足データ・マネージャ用の Smart View 拡張機能をダウンロードしてインストールする必要があります。

ビジネス・プロセスの Web インタフェースから拡張機能をインストールするには、次を参照してください:

- *管理者用スタート・ガイド*のクライアントのダウンロードおよびインストール
- *ユーザー用スタート・ガイド*のクライアントのダウンロードおよびインストール

拡張機能のインストールが可能である場合は、Smart View の「オプション」ダイアログ・ボックスの「拡張機能」タブからインストールできます。拡張機能のインストールを参照してください。

タスク・マネージャ、エンタープライズ仕訳および補足データ・マネージャの拡張機能で使用するプライベート接続を作成する必要があります。詳細は、プライベート接続ウィザードの使用を参照してください。

3 つの拡張機能のプライベート接続の URL 構文は次のとおりです:

- タスク・マネージャの場合:
  `http(s)://serviceURL/HyperionPlanning/cm/svp`
- 補足データ・マネージャの場合:

  `http(s)://serviceURL/HyperionPlanning/sdm/svp`
- エンタープライズ仕訳の場合:

  `http(s)://serviceURL/HyperionPlanning/ej/svp`

接続を作成すると、**「プライベート接続」**パネルのドロップダウン・メニューにタスク・マネージャ接続がリストされます。この接続を使用してワークリストに接続できます。接続すると、**「タスク・マネージャ」**リボンが表示され、Smart View からタスク・マネージャのタスクを操作するための様々なアクションが提供されます。

スケジュールおよびタスクの表示

Oracle Smart View for Office を使用すると、タスク・マネージャのタスクおよびスケジュールを表示して、Smart View で直接作業できます。

表示できるのは、自分に権限があるタスクとスケジュールのみです。これは、Web アプリケーションに表示するワークリストの**個人用タスクの表示**ビューであり、表示可能なすべてのタスクが表示されるわけではありません。**「すべてのスケジュール」**シートに、現在作業中のタスクのリストが表示されます。タスクまたは行をダブルクリックすると、そのタスクが開き、アクションを実行できます。タスクが送信または承認されると、そのタスクはリストに表示されなくなります。

現在の役割(担当者、策定者、承認者など)に応じて、**「承認」**や**「却下」**などのオプションが、関連付けられている役割にあわせて変更されます。複数の役割を持っており、それぞれ異なる操作を実行するには、特定の役割でログインすることが必要になる場合があります。

1. Smart View のリボンで、**「パネル」**をクリックします。
2. Smart View パネルで、**「プライベート接続」**を選択します。
3. **「プライベート接続」**パネルで、ドロップダウン・メニューから「タスク・マネージャ」接続を選択します。
4. ノードを選択し、アクション・パネルで**「接続」**をクリックします。
5. **「ログイン」**ウィンドウで、**「ユーザー名」**と**「パスワード」**に入力し、**「サインイン」**をクリックします。
6. **「プライベート接続」**パネルで、使用可能なスケジュールのリストからスケジュールをダブルクリックします。

   または、スケジュールを右クリックして**「開く」**を選択するか、スケジュールを選択してアクション・パネルで**「開く」**をクリックすることもできます。
7. スケジュール・シートで、自分に権限があるタスクのリストを表示します。次の詳細を表示できます:
   - **名前:** タスクの名前を表示します。
   - **担当者:** タスクが割り当てられている個人の名前を表示します。
   - **ステータス:** 「保留中」、「成功」、「担当者」など、タスクのステータスを表示します。
   - **優先度:** 「低」、「中」、「高」など、タスクの優先度を表示します
   - **要注意:** タスクに注意が必要かどうかを表示します。

- **ワークフロー:** タスクに必要な次のステップまたはアクションを表示します。たとえば、「タスクの送信」やタスクのリリースです。
- **クイック・アクション:** 次のオプションを表示して、Excel シート内または Web ブラウザでタスクをすばやく開きます。

8. 表示または作業するタスクを開きます。タスクをダブルクリックするか、**「タスク・マネージャ」**リボンまたは**「クイック・アクション」**列から次のオプションを使用してタスクを開くことができます。
   - **開く**: このオプションを使用して、**タスク・マネージャ・タスク**・ダイアログでタスクの詳細を開きます。スケジュール・シートでタスク行をダブルクリックするかわりに、これを使用して開き、**タスク・マネージャ・タスク**・ダイアログを起動できます。
   - **ブラウザで開く**: このオプションを使用して、ブラウザ内の Web アプリケーションで統合タスクを開きます。現在のセッションで Web アプリケーションにログインしていない場合は、接続を確立して 1 回かぎりの要件としてログインするように求められます。その後、統合タスクをブラウザで直接開き、タスクの詳細を表示し、必要なアクションを実行できます。
   - **Excel で開く**: このオプションを使用して、Excel でフォームやダッシュボードなどの埋込みアーティファクトを開きます。同じワークブック内の新しいワークシートでフォームが開き、新しいワークブックでダッシュボードが開きます。

   タスク・マネージャ・タスク・ダイアログが開き、タスクの詳細が表示されます。
9. 統合タスクの場合は、**タスク・マネージャ・タスク**ダイアログ内のタスクの詳細で使用可能な埋込みタスク・リンクを使用して、関連するタスクに移動します。

   たとえば、Financial Reports の確認に関するタスクで、**ブラウザで開く**をクリックすると、**タスク・マネージャ・タスク**・ダイアログに**「財務レポートの表示」**リンクが表示されます。これにより、コンテキスト情報(この例の財務レポート)は、Web アプリケーションから個別に移動するのではなく、タスク・ダイアログ内で直接表示できます。
10. 選択したタスクに対して適切なアクションを実行します:
    - **タスクの送信**
    - **タスクの承認またはリリース**
    - **タスクの請求またはリリース**

    これらのアクションは、**「タスク・マネージャ」**リボンまたは**タスク・マネージャ・タスク**・ダイアログのいずれかで実行できます。

タスクの請求またはリリース

タスクは、チームまたはユーザーのグループに割り当てることができます。チームまたはグループのメンバーである場合は、タスクを実行する前にタスクを請求する必要があります。タスクを請求した場合は、そのタスクをチームまたはグループにリリースし、別のメンバーがタスクを実行できるようにします。

タスクが請求された後でも、チームの他のメンバーはそのタスクを請求できます。ただし、これを行うと、最初のユーザーの請求が終了するため、そのユーザーが役割機能を実行する権限は取り消され、最新の請求を行ったユーザーに権限が付与されます。このようにタスクの請求を別のユーザーから行えることは、請求が行われたが、その請求を行ったユーザーが(不在などのために)役割機能を完了できない場合に対応するために必要です。

チームのメンバーがタスクを請求する前は、チーム全体に電子メール通知が送信されます。チーム・メンバーがタスクを請求すると、チーム・メンバー全員ではなく、そのアクティブなユーザーに電子メールが送信されます。

タスクを請求またはリリースするには:

1. スケジュールを開き、必要なタスクを選択します。
2. **「タスク・マネージャ」**リボンから、次の手順を実行します:
   - チームまたはグループに割り当てられたタスクについては、**「請求」**をクリックして請求し、作業を行います。
   - 請求したタスクについては、**「リリース」**をクリックしてチームまたはグループにリリースします。

   または、タスク行をダブルクリックして**タスク・マネージャ・タスク・ダイアログ**を開き、タスクを請求またはリリースすることもできます。
3. タスクが正常に請求またはリリースされると、確認メッセージが表示されます。**「OK」**をクリックします。
   - タスクが請求されると、担当者はチームまたはグループからタスクを請求したメンバーに変更されます。
   - タスクがリリースされると、担当者はリリースしたメンバーからチームまたはグループに変更されます。

タスクの承認または却下

承認者は、タスクを承認または却下できます。

タスクを承認または却下するには:

1. スケジュールを開き、必要なタスクを選択します。
2. **「タスク・マネージャ」**リボンから、**「承認」**または**「却下」**をクリックします。

   または、タスク行をダブルクリックして**タスク・マネージャ・タスク・ダイアログ**を開き、**「承認」**または**「却下」**をクリックすることもできます。
3. タスクが正常に承認または却下されると、確認メッセージが表示されます。**「OK」**をクリックします。

タスクの送信

タスクに必要なアクションを完了したら、ワークフローを通じてタスクを次の担当者に送信します。

タスクを送信するには:

1. スケジュールを開き、送信する必要があるタスクを選択します。
2. **「タスク・マネージャ」**リボンから、**「タスクの送信」**をクリックします。

   または、タスク行をダブルクリックして**タスク・マネージャ・タスク・ダイアログ**を開き、**「タスクの送信」**をクリックすることもできます。

> **Note:**
>
> 未完了のタスクを送信すると(たとえば、質問が未回答のままになっている場合)、タスクの送信時に検証エラーが表示されます。タスク行をダブルクリックして**タスク・マネージャ・タスク・ダイアログ**でタスクを開き、エラーを確認できます。

3. タスクが正常に送信されると、確認メッセージが表示されます。**「OK」**をクリックします。

15

タスク・リスト

次も参照:

- タスク・リストについて
  データ・ソースに応じて、Excel または Outlook の Smart View パネルからタスクを開いて管理したり、データ・ソースのタスク・リストを Outlook に統合し、Outlook の機能を使用してタスクを管理します。
- タスク・リストからレポートを開く構成
  タスク・リストからのレポートは、Web アプリケーションまたは Office アプリケーションで開くように構成できます。
- Smart View パネルからのタスクの操作
  Smart View パネルからは、タスク・リストのオープンと表示、タスクの実行と完了、およびタスク・リスト・レポートの作成を実行できます。
- タスク・リストと Microsoft Outlook の統合
  タスク・リストを Microsoft Outlook にインポートし、Outlook の機能を使用してタスクを管理できます。

タスク・リストについて

データ・ソースに応じて、Excel または Outlook の Smart View パネルからタスクを開いて管理したり、データ・ソースのタスク・リストを Outlook に統合し、Outlook の機能を使用してタスクを管理します。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Planning、Oracle Hyperion Financial Management、Oracle Hyperion Financial Close Management

タスク・リストは、作業負荷の整理、追跡および優先度設定に役立ちます。たとえば、タスクは、フォームの完成、ビジネス・ルールの起動、承認ユニットの上位への移動に役立ちます。Web サイトや社内ページを起動することもできます。

- Planning および Financial Management では、Excel および Outlook 両方の Smart View パネルからタスクを管理し、Smart View パネルからのタスクの操作の説明に従ってタスク・リストを Outlook に統合できます。
- Financial Close Management では、タスク・リストと Microsoft Outlook の統合の説明に従ってタスク・リストを Outlook に統合できます。

管理者は、タスク・リストのアクセス権限を管理および割り当てます。詳細は、データ・ソースの管理ドキュメントを参照してください。

ビデオ

目的	このビデオを見る
タスク・リストについて学習します。	Oracle Planning and Budgeting Cloud による Smart View でのタスク・リストの管理

タスク・リストからレポートを開く構成

タスク・リストからのレポートは、Web アプリケーションまたは Office アプリケーションで開くように構成できます。

> **Note:**
>
> このトピックのタスクは、`<Smart View Install>/cfg` フォルダ (`C:\Oracle\SmartView\cfg` など)にある `properties.xml` ファイルの編集を詳しく把握しているサービス管理者またはユーザーを対象としています。

タスク・リストのレポートは、タスク・リストにアクセスしている Web アプリケーションまたは Office アプリケーションのいずれかで開くことができます。デフォルトでは、レポートは Office アプリケーションで開くように構成されています。この動作をデフォルト設定するために、`GET` コールが使用され、Smart View の `properties.xml` ファイルにある `tasklistURLLaunch` プロパティに設定されます。

デフォルトの動作を継続する場合は、プロパティ・ファイルに次の構成があることを確認します: `<tasklistURLLaunch>GET</tasklistURLLaunch>`。

ただし、レポートのオープンを Web アプリケーションにリダイレクトする場合は、このプロパティを非表示にすると、`GET` コールのかわりに `POST` コールが実行されます。

デフォルトの動作を変更して、Web アプリケーションでレポートを開くには:

1. Smart View インストールの `SmartView\cfg` フォルダに移動します。
2. 元の `properties.xml` ファイルのバックアップ・コピーを作成します。
3. 編集のために `properties.xml` を開きます。
4. 次のエントリを探します:

   ```
   <tasklistURLLaunch>GET</tasklistURLLaunch>
   ```

5. 次のように、コメントを追加してこのプロパティを非表示にします。コメントを追加すると、今後必要になった場合に、このプロパティを簡単に有効にできます。例:

   ```
   <! --
   <tasklistURLLaunch>GET</tasklistURLLaunch>
   -->
   ```

6. 更新されたファイルを保存します。
7. Office アプリケーションを再起動します。

Smart View パネルからのタスクの操作

Smart View パネルからは、タスク・リストのオープンと表示、タスクの実行と完了、およびタスク・リスト・レポートの作成を実行できます。

タスク・リストを開く

タスク・リストの表示

タスクの実行

タスクの完了

タスク・リスト・レポートの作成

タスク・リストを開く

クラウド・データ・ソース・タイプ: Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Planning、Oracle Hyperion Financial Management

Excel からタスク・リストを開くには:

1. Smart View のリボンで、**「パネル」**をクリックします。
2. プロンプトされたら、ユーザー名とパスワードを入力します。
3. Smart View パネルから、次のいずれかを実行します:
   - 「Smart View ホーム」の**「最近使用」**で、タスク・リストの名前をクリックします。
   - 「共有接続」または「プライベート接続」から、開くタスク・リストに移動して、アクション・パネルで**「タスク・リストを開く」**をクリックします。

Outlook からタスク・リストを開くには:

1. Outlook に Smart View リボンタブが表示されていることを確認します。そうでない場合は、次を実行します:
   a. Outlook を閉じます。
   b. Excel の Smart View リボンから**「オプション」**をクリックし、左側のペインで**「詳細」**をクリックします。
   c. **「Outlook で Smart View アドインを無効にする」**をクリアします。
   d. **「OK」**をクリックします。
   e. Outlook を再度開きます。
2. データ・ソース接続の説明に従って、データ・ソースに接続されていることを確認します。
3. Outlook ツールバーで Smart View リボンタブを選択し、**「パネル」**を選択して「Smart View パネル」を表示します。
4. Smart View パネルから、次のいずれかを実行します:
   - 「Smart View ホーム」の**「最近使用」**で、タスク・リストの名前をクリックします。

- 「共有接続」または「プライベート接続」から、開くタスク・リストに移動して、アクション・パネルで**「タスク・リストを開く」**をクリックします。

タスク・リストの表示

クラウド・データ・ソース・タイプ: Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Planning、Oracle Hyperion Financial Management

Smart View パネルの「タスク・リスト」ペイン内に開かれるタスク・リストには、次のものが表示されます:

- タスク・リスト内の個々のタスク。個々のタスクには、下位タスクが含まれる場合もあります。タスクの完了、未完または期限切れのステータスは、色分けされて示されます。

> **ノート:**
>
> 「バージョンのコピー」タイプのタスクは Oracle Smart View for Office に表示されません。「バージョンのコピー」タイプのタスクを表示するには、Web アプリケーションを使用する必要があります。

- 現在のアプリケーションに関連付けられている他のタスク・リストを選択できるドロップダウン・メニュー
- 選択されたタスクに対して実行可能なアクションを表示するアクション・パネル
- 二重矢印をクリックすると表示される「タスクの詳細」
- 色分けされたタスク・リストのステータス・バー

タスクの実行

クラウド・データ・ソース・タイプ: Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Planning、Oracle Hyperion Financial Management

タスクを実行するには:

1. 実行するタスクが含まれているタスク・リストを開きます。
2. アクション・パネルで**「タスクの実行」**をクリックします。

   タスクの実行は、タスクとデータ・ソースによって異なります。

タスクの完了

クラウド・データ・ソース・タイプ: Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Planning、Oracle Hyperion Financial Management

タスクの要件を完了した後、タスクを完了済としてマークします。タスクを完了するには:

1. タスクの要件を完了します。
2. 完了するタスクが含まれているタスク・リストを開きます。
3. すべての従属タスクが完了していることを確認します。
4. 完了済としてマークするタスクを選択します。
5. アクション・パネルで**「完了をマーク」**をクリックします。

タスク・リスト・レポートの作成

クラウド・データ・ソース・タイプ: Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Planning、Oracle Hyperion Financial Management

プロセスのステータスをレビューするために、アプリケーションの 1 つ以上のタスク・リストの詳細レポートを PDF または Excel ワークシートのフォーマットで作成できます。

タスク・リスト・レポートを作成するには:

1. Smart View パネルから、タスク・リストを開きます。
2. タスクを右クリックして**「レポートの作成」**を選択します。
3. レポート・ウィザードで、矢印キーを使用して、レポートに含める必要があるすべてのタスク・リストを、**「使用可能なタスク・リスト」**から**「選択したタスク・リスト」**に移動し、**「次」**をクリックします。
4. 矢印キーを使用して、ステータスを表示するユーザーおよびグループを**「使用可能なユーザー」**から**「選択したユーザー」**に移動し、**「次」**をクリックします。

> **ノート:**
>
> グループを選択するときは、タスクに割り当てられたグループ内のすべてのユーザーがレポートにリストされることに注意してください。これにより、グループ内のユーザーごとに同じタスクがリストされることになります。たとえば、タスクが 10 人のメンバーで構成されるグループに割り当てられている場合、そのタスクはレポートに 10 回(グループ・メンバーごとに 1 回)リストされます。

5. レポートを作成するためのオプションを選択し、**「終了」**をクリックします。

   選択内容に応じて、レポートが PDF または Excel で作成されます。

タスク・リストと Microsoft Outlook の統合

タスク・リストを Microsoft Outlook にインポートし、Outlook の機能を使用してタスクを管理できます。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Planning、Oracle Hyperion Financial Management、Oracle Hyperion Financial Close Management

タスクのステータスが変わるとデータ・ソースに送信されますが、Outlook のタスクは削除できません。

タスク・リストを Microsoft Outlook にインポートするには:

1. Outlook に「Smart View」リボンのタブが表示されていることを確認します。そうでない場合:
   a. Outlook を閉じます。
   b. Excel の Smart View リボンから**「オプション」**をクリックし、左側のペインで**「詳細」**をクリックします。
   c. **「Outlook で Smart View アドインを無効にする」**をクリアします。
   d. **「OK」**をクリックします。
   e. Outlook を再度開きます。
2. Smart View リボンタブを選択し、**「タスク・リスト」**を選択します。
3. **「共有接続」**または**「プライベート接続」**を選択します。
4. 「タスク・リスト」で、**「アプリケーションの選択」**をクリックします。
5. **「アプリケーションの選択」**で、ドロップダウン・メニューから、インポートするタスク・リストに関連付けられているサーバーとアプリケーションを選択します。
6. **「OK」**をクリックします。

   選択したアプリケーションに関連付けられているすべてのタスク・リストが「タスク・リスト」に表示されます。
7. タスク・リストをダブルクリックすると、タスク・リスト内の個々のタスクが Outlook の仕事リストに表示されます。

   ここから、Outlook の機能をタスクに適用できます。Outlook でのタスク(仕事)の操作方法の詳細は、Outlook の製品ドキュメントを参照してください。

16

フリー・フォーム・モード

次も参照:

- フリーフォーム・モードについて
  アド・ホック分析では、データベースのディメンションとメンバーを詳しく把握している場合に、ディメンション名とメンバー名を直接セルに入力することにより、*フリーフォーム・モード*を使用できます。
- フリーフォームに関するガイドラインおよびベスト・プラクティス
  フリーフォーム・モードで作業する際は、次のガイドラインおよびベスト・プラクティスを考慮してください。
- フリー・フォーム・グリッドの例
  フリーフォーム・モードで作業を行うときは、このセクションの例を確認します。
- フリーフォーム・グリッドのコメント
  フリーフォーム・グリッドのコメントを操作するときは、このセクションのガイドラインを確認します。
- フリー・フォーム・グリッドの式
  フリーフォーム・グリッドの式を操作するときは、このトピックのガイドラインを確認します。
- フリーフォーム・モードでの重複する別名
  フリーフォーム・モードで重複する別名を操作するときは、このトピックのガイドラインおよび例を確認します。
- フリー・フォーム・グリッドの属性ディメンション
  フリーフォーム・モードで属性ディメンションを操作するときは、このトピックのガイドラインおよび例を確認します。
- スケール・オプションが有効になっている状態でのフリーフォーム・グリッドからの送信
- フリー・フォーム・レポートの作成
  フリーフォーム・レポートを作成するには、このトピックの手順に従います。
- フリーフォーム・モードでの属性ディメンションの取得
  フリーフォーム・レポートの属性ディメンションを取得するには、このトピックの手順に従います。
- 非対称レポートの作成
  非対称フリーフォーム・レポートを作成するには、このトピックの手順に従います。
- 予期しない動作の原因となるアクション
  フリーフォーム・レポートで予期しない動作の原因となるアクションについて学習するには、このトピックを確認します。

フリーフォーム・モードについて

アド・ホック分析では、データベースのディメンションとメンバーを詳しく把握している場合に、ディメンション名とメンバー名を直接セルに入力することにより、*フリーフォーム・モード*を使用できます。

POV、メンバー選択およびフリーフォーム・グリッドでのその他のアド・ホック操作も引き続き使用できます。

Oracle Smart View for Office グリッドのコンポーネントは、表 1 で説明します。

表 16-1 Smart View のグリッド・コンポーネント

グリッド・コンポーネント	説明
行ディメンション	ワークシートの行にまたがって 1 列に配置されるディメンションまたはメンバー
列ディメンション	ワークシートの行にまたがって 1 列に配置されるディメンションまたはメンバー
ページ・ディメンション	ページ全体に適用されるディメンション(Oracle Essbase のみ)
コメント	ユーザーが追加したテキスト
データ領域	ディメンションまたはメンバーのデータを含むグリッドの領域
空白領域	ワークシートでエントリを含まない領域

関連トピック:

フリーフォームに関するガイドラインおよびベスト・プラクティス

フリー・フォーム・グリッドの例

フリーフォーム・グリッドのコメント

フリー・フォーム・グリッドの式

フリー・フォーム・グリッドの属性ディメンション

フリー・フォーム・レポートの作成

フリーフォーム・モードでの属性ディメンションの取得

非対称レポートの作成

予期しない動作の原因となるアクション

フリーフォームに関するガイドラインおよびベスト・プラクティス

フリーフォーム・モードで作業する際は、次のガイドラインおよびベスト・プラクティスを考慮してください。

- グリッドは、セル A1 で始まる必要はありません。
- グリッドには少なくとも 1 つの行ディメンションと 1 つの列ディメンションが必要です。
- 各行ディメンションは 1 つのディメンションのみのメンバーを含むことができます。各列ディメンションは 1 つのディメンションのみのメンバーを含むことができます。
- 1 つのディメンションのメンバーは、次の領域のうちの **1 つ**のみに入力できます:
  - 同じ行
  - 同じ列

  - ページ・ディメンション領域の任意の場所(Oracle Essbase および標準の Smart View アド・ホック動作モードの Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management アプリケーションのみ)

- ページ・ディメンション領域には異なるディメンションのメンバーを含めることができますが、ページ・ディメンション領域の 2 つのメンバーが同じディメンションに属することはできません(Essbase および標準の Smart View アド・ホック動作モードの Cloud EPM アプリケーションのみ)。
- ページ・ディメンション領域に入力されたディメンションはページ・ディメンション領域で対応するデフォルトのディメンションまたは既存のディメンションをオーバーライドします。たとえば、ページ・ディメンションに Year ディメンションが含まれている場合、Qtr1 を入力すると、Qtr はページ・ディメンションの Year を置き換えます(Essbase および標準の Smart View アド・ホック動作モードの Cloud EPM アプリケーションのみ)。
- **「オプション」**ダイアログの**「データ・オプション」**ページで指定した置換ラベルはフリーフォーム・モードで適用されます。
- 数字エントリはデータ領域ではデータとして、データ領域外ではコメントとして識別されます。数字をメンバー名として使用する場合は、ベスト・プラクティスとして、メンバー名の前に一重引用符を付けます。たとえば、'100 のようにします。
- ベスト・プラクティスとして、単語間にスペースを 含むメンバー名の前には一重引用符を付けます。
- メンバー名の重複をサポートするデータベースに接続している場合、Oracle Smart View for Office の**「オプション」**ダイアログ・ボックスの**「メンバー・オプション」**ページで**「個別のメンバー名のみ」**を選択すると、ワークシートに完全修飾名が表示されます。重複メンバーを入力するには、修飾メンバー名に次のような構文を使用します:

  ```
  [Income].[Other]
  [Expenses].[Other]
  ```

- 現在の別名表からの別名はフリーフォーム・グリッドに使用できますが、その他の別名表からの別名はコメントとして扱われます。
- 動的時系列メンバー(Oracle Essbase の場合)には、次のいずれかのフォーマットを使用する必要があります:
  - Q-T-D(1 月)
  - Y-T-D(3 月)
  - M-T-D(6 月)
- アド・ホック・グリッドで、列を挿入して新しい列にメンバー名を入力し、シートの別名表を変更する場合は、ベスト・プラクティスとして、最初にシートをリフレッシュしてから別名表を変更する必要があります。
- メンバー名にカンマ(,)が含まれている場合は、ベスト・プラクティスとして、名前全体を引用符(" ")で囲みます。

  次の構文を使用します。

  "*mbr_name*, *mbr_name*"

  例:

  ```
  "Tablets, Smartphones"
  ```

- フリーフォーム・モードでテキスト・データ型の値を更新する場合は、**「リフレッシュせずに送信」**アクションを使用してください。これは、標準のアド・ホック・モードにのみ適用されます(アプリケーション設定**「Smart View アド・ホック動作」=Standard**)。

フリー・フォーム・グリッドの例

フリーフォーム・モードで作業を行うときは、このセクションの例を確認します。

簡易グリッド

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Planning

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、 Oracle Hyperion Financial Management、Oracle Hyperion Planning

Essbase の簡易グリッド

Essbase オンプレミス (11.1.2.1.102 リリース以降)または Essbase クラウドおよび Oracle Smart View for Office の場合、フリーフォームの動作では、POV メンバーが Excel シートの最初の行に配置されます。列および行ディメンション・メンバーは、POV 行の行の後に始まるグリッドに配置されます。これは、すべての POV メンバーがグリッドの一部になることを意味します。

図 1 は、Year は行ディメンション、Measures は列ディメンションで行 1 から始まる、Essbase の有効な簡易グリッドを示しています。

図 16-1 列および行ディメンションのみを持つ Essbase の簡易グリッド

	A	B	C	D	E
1		Profit	Inventory	Ratios	Measures
2	Qtr1				
3	Qtr2				
4	Qtr3				
5	Qtr4				
6	Year				

図 2 に、接続されたシートの**「リフレッシュ」**をクリックした後の結果を示します。前述したように、行 1 には POV ディメンション Product、Market および Scenario が移入されます。行および列ディメンションは行 2 から始まります。

図 16-2 Essbase の簡易グリッドでのアド・ホック分析コマンドの結果

	A	B	C	D	E
1		Product	Market	Scenario	
2		Profit	Inventory	Ratios	Measures
3	Qtr1	-6823	1234	33.31103991	-6823
4	Qtr2	27107	119776	55.38705141	27107
5	Qtr3	27912	#Missing	55.00356413	27912
6	Qtr4	25800	142483	55.41720586	25800
7	Year	73996	1234	51.44275158	73996

図 3 は、Product が行 1 のページ・ディメンションである、Essbase の有効な簡易グリッドを示しています。Year は行ディメンション、Measures は列ディメンションで、行 2 から始まります。

図 16-3 行 1 にディメンションを持つ Essbase の簡易グリッド

	A	B	C	D	E
1				Product	
2		Profit	Inventory	Ratios	Measures
3	Qtr1				
4	Qtr2				
5	Qtr3				
6	Qtr4				
7	Year				

図 4 は、接続されたシートの**「リフレッシュ」**をクリックした後の結果を示しています。この場合、Product ディメンションはすでにシートに配置されていたため、行 2 に移動されます。POV ディメンションは行 1 に配置されます。行および列ディメンションは行 3 から始まります。

図 16-4 行 1 にディメンションを持つ Essbase の簡易グリッドでのアド・ホック分析コマンドの結果

	A	B	C	D	E
1		Market	Scenario		
2		Product	Product	Product	Product
3		Profit	Inventory	Ratios	Measures
4	Qtr1	-6823	1234	33.31103991	-6823
5	Qtr2	27107	119776	55.38705141	27107
6	Qtr3	27912	#Missing	55.00356413	27912
7	Qtr4	25800	142483	55.41720586	25800
8	Year	73996	1234	51.44275158	73996

Planning の簡易グリッド

図 5 では、Year が行ディメンション、Account が列ディメンションである Planning の有効な簡易グリッドを示しています。

図 16-5 Planning の簡易グリッド

	A	B
1		Year
2	Account	3

2 行 2 列レイアウト

図 6 は、基本的な 2 行 2 列レイアウトで、最初の行と列に Product ディメンションと Market ディメンションが、2 番目の行と列に Sales と Year のメンバーが置かれています。

図 16-6 2 行 2 列レイアウト

	A	B	C	D	E	F
1			Product	Product	Product	Product
2			Profit	Inventory	Ratios	Measures
3	Market	Qtr1				
4	Market	Qtr2				
5	Market	Qtr3				
6	Market	Qtr4				
7	Market	Year				

列ディメンション

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

ページ・ディメンションと解釈される列ディメンション

最上位の同じ行に、1 つの行ディメンションと複数のメンバー(すべて異なるディメンション)がある場合、行の一番左のディメンションが列ディメンションとして扱われ、その他はページ・ディメンションとして扱われます。図 1 は、Year が行ディメンション、Measure が列ディメンション、Product と Market がページ・ディメンションである、有効なグリッドを示しています。

図 16-7 1 行目の列ディメンションおよびページ・ディメンション

	A	B	C	D
1		Measures	Product	Market
2	Year			

すべての列ディメンションの最初のメンバーは同じ列に出現する必要があり、すべての行ディメンションの最初のメンバーは同じ行に出現する必要があります。図 2 は、列ディメンションの最初の列にあるセル B2 が Measures ディメンションのメンバーでなくてはならないのにコメントであるため、無効です。

図 16-8 列での無効な配置

	A	B	C	D
1		100-10	100-30	100
2		Comment	Measures	Measure
3	Year			

スタック・ディメンション

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

同じディメンションの複数のメンバーが含まれる最初の行は、列ディメンションです。この行の上に配置されたディメンションは、ページ・ディメンションのルールに従っていれば、すべてページ・ディメンション候補です。ただし、この列ディメンションの上にあるディメンションで、同じ列にあり("スタックされている")、かつ他のメンバーを持たないディメンションは、ページ・ディメンションではなく列ディメンションです。このようなグリッドは有効ではありません。

図 1 の場合、Product は、Profit にスタックされている列ディメンションです。Market は、Profit にスタックされていないため、ページ・ディメンションです。Scenario は、Profit の上にスタックされていますが、その行がページ・ディメンションの上にあるため、ページ・ディメンションになります。

図 16-9 ページ・ディメンションとしてのスタック・ディメンション

	A	B	C	D	E
1		Scenario			
2			Market		
3		Product			
4		Profit	Inventory	Ratios	Measures
5	Year				

図 2 では、Product および Market が列ディメンションの上にスタックされ、他のメンバーを含みません。このため、このグリッドは有効ではありません。

図 16-10 無効なスタック列

	A	B	C	D	E
1		Market			
2		Product			
3		Profit	Inventory	Ratios	Measures
4	Year				

フリーフォーム・グリッドのコメント

フリーフォーム・グリッドのコメントを操作するときは、このセクションのガイドラインを確認します。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Planning、Planning モジュール、Enterprise Profitability and Cost Management、フリーフォーム、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、 Oracle Hyperion Financial Management、Oracle Hyperion Planning

> **ノート:**
>
> **Essbase、Cloud EPM 標準モード・アプリケーション:** 複数のグリッドで使用可能なワークシートに、コメントを追加することはできません。

コメントは次の場所に配置できます:

- 行ディメンションの間
- 列ディメンションの間
- ページ・ディメンションの間
- ディメンションとデータ・セルの間
- ページ・ディメンションのメンバーと交互に
- 行、列、ページの各ディメンションのメンバーと交互に

  さらに、コメント行とコメント列は、行ディメンションおよび列ディメンションと交互に配置できます。
- グリッドの上下左右。

データ・セル、または行ディメンションと列ディメンションが交差する右上のセルには、コメントを配置できません。

コメントを使用する際には:

- Financial Management では、行であるか列であるかに応じて、コメントはズーム・イン操作とズーム・アウト操作でシフトします。
- Oracle Hyperion Planning または Cloud EPM では、コメントはグリッドの境界の内側と外側の両方でサポートされています。

> **ノート:**
>
> コメントは、フリーフォーム・ワークシートのプロバイダ・サーバーには保存されません。たとえば、Planning フリー・フォームまたはアド・ホック・グリッドで「アド・ホック・グリッドの保存」コマンドを使用した場合、式は保存されません。ただし、Excel で「保存」を実行してワークブックを保存すると、コメントをワークシートに保持できます。

発生する可能性がある予期しない動作の詳細は、予期しない動作の原因となるアクションを参照してください。

関連トピック:

空白の行および列のコメント

複雑なコメントを含むグリッド

コメントの無効な配置

グリッドの境界の内側と外側のコメント

空白の行および列のコメント

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Oracle Hyperion Financial Management

図 1 に、セル A5、A6、C1、C2、C10、D1、D2、D10、H5 および H6 にコメントがあるグリッドを示します。このようなコメントは取得操作とズーム操作を実行しても保持されます。

図 16-11 空白の行および列のコメント

	A	B	C	D	E	F	G	H
1			c1	d1				
2			c2	d2				
3				Product	Product	Product	Product	
4				Profit	Inventory	Ratios	Measures	
5	a5	Market	Qtr1					h5
6	a6	Market	Qtr2					h6
7		Market	Qtr3					
8		Market	Qtr4					
9		Market	Year					
10			c10	d10				

複雑なコメントを含むグリッド

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

図 1 は、1 つのグリッドでページ領域、属性、コメントを組み合せて使用した例です。

図 16-12 複雑なコメントを含むグリッド

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	Pkg Type							
2	Budget							
3		B3	C3	D3				
4				Product	Product		Product	Product
5					E5	F5	G5	
6				Profit	Inventory		Ratios	Measures
7	Market		Qtr1					
8	Market		Qtr2					
9		B9			E9	F9	G9	
10	Market		Qtr3					
11	Market		Qtr4					
12	Market		Year					
13								
14				D14	E14	F14		

コメントの無効な配置

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

行ディメンション領域と列ディメンション領域にはコメント行とコメント列を交互に配置できます。図 1 に、セル C2 のコメントがコメント行にもコメント列にも属さないために無効であるグリッドを示します。は、セル C2 のコメントがコメント行にもコメント列にも属さないため、無効です(行 2 と列 C の両方がディメンション・メンバーを持っています。)

図 16-13 コメントの無効な配置

	A	B	C	D
1		100-10	100-30	100
2		Measures	Comment	Measures
3	Year			

グリッドの境界の内側と外側のコメント

クラウド・データ・ソース・タイプ: Planning

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Financial Management

図 1 では、グリッドの境界の内側のセル B5 にコメントのあるグリッドを示しています。これらのコメントは取得操作とズーム操作を実行しても保持されますが、Oracle Hyperion Planning では保存されません。

図 16-14 グリッドの境界の内側にコメントのあるグリッド

	A	B	C	D
1				
2				FY15
3				Period
4		Entity	Account	#Missing
5		Comment Row		
6		Entity	Account	#Missing

図 2 では、グリッドの境界の外側のセル A3 および C1 にコメントのあるグリッドを示しています。これらのコメントは取得操作とズーム操作を実行しても保持されますが、Planning では保存されません。

図 16-15 グリッドの境界の外側にコメントのあるグリッド

	A	B	C
1		Year	Comment Column
2	Account	3	
3	Comment Row		

フリー・フォーム・グリッドの式

フリーフォーム・グリッドの式を操作するときは、このトピックのガイドラインを確認します。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Planning

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Oracle Hyperion Financial Management、Oracle Hyperion Planning

コメントを入力できるセルには、Excel の式を入力できます。

> **ノート:**
>
> Excel の式は、フリー・フォーム・ワークシートのプロバイダ・サーバーには保存されません。たとえば、Planning フリー・フォームまたはアド・ホック・グリッドで「アド・ホック・グリッドの保存」コマンドを使用した場合、式は保存されません。ただし、Excel で「保存」を実行してワークブックを保存すると、式をワークシートに保持できます。

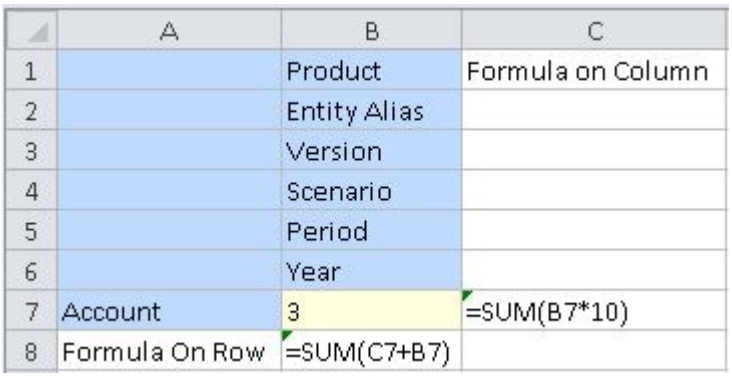
図 1 に、セル C8 および F8 に Excel 式を使用した Essbase データ・ソースのグリッドを示します。

図 16-16 Excel の Essbase フリー・フォーム・グリッドの式

	A	B	C	D	E	F
1			Product	Product	Product	Product
2			Profit	Inventory	Ratios	Measures
3	Market	Qtr1				
4	Market	Qtr2				
5	Market	Qtr3				
6	Market	Qtr4				
7	Market	Year				
8			=SUM(C3:C6)			=SUM(F3:F6)

図 2 に、セル B8 および C7 に Excel 式を使用した Planning データ・ソースのグリッドを示します。

図 16-17 Excel の Planning フリー・フォーム・グリッドの式



	A	B	C
1		Product	Formula on Column
2		Entity Alias	
3		Version	
4		Scenario	
5		Period	
6		Year	
7	Account	3	=SUM(B7*10)
8	Formula On Row	=SUM(C7+B7)	

発生する可能性がある予期しない動作の詳細は、予期しない動作の原因となるアクションを参照してください。

フリーフォーム・モードでの重複する別名

フリーフォーム・モードで重複する別名を操作するときは、このトピックのガイドラインおよび例を確認します。

データ・ソース・タイプ: Planning

Planning では、別のディメンションのメンバーとディメンション内のメンバーの別名を重複させることができます。

重複する別名を使用するには、Oracle Smart View for Office 11.1.2.5.600 以上を使用し、Planning バージョン 16.06 以上に接続している必要があります。

ガイドラインを次に示します:

- 別名の重複は、ディメンション間およびディメンション内でサポートされています。
- 別名には、メンバーと同じ名前を使用してもかまいません。
- メンバー名は、ルールおよびフォーム設計で使用できるように一意にし、名前の競合を避ける必要があります。

フリーフォーム・モードで重複する別名を入力し、リフレッシュすると、重複の解決を求めるメッセージが表示されます。これは、「メンバー・セレクタ」を使用して正しい別名を選択するか、次のフォーマットで修飾名を手入力することで行えます:

```
[parent_member_name].[alias]
```

または

```
[parent_alias].[alias]
```

サポートされているのは別名の重複のみで、メンバー名を重複させることはできないため、親メンバー名を修飾子として使用することをお薦めします。

ただし、[parent_alias]も重複している場合は、最初の一意の祖先まで、次のフォーマットで修飾名を拡張する必要があります:

```
[grand_parent_member_name].[parent_alias].[alias]
```

または

```
[grand_parent_alias].[parent_alias].[alias]
```

たとえば、データベースに次の Market および Geography ディメンション階層があり、地域、州および都市のレベルで重複する別名があるとします。このシナリオでは、East、New York (州)、New York (都市)は、次に示すように重複する別名です:

```
Market                  Geography
    East                    East
       New York                New York
          New York                New York
```

都市である New York を Market ディメンションからフリーフォーム・グリッドに入力するとします。これを行うには、「メンバー・セレクタ」で Market ディメンションから都市である New York を選択します。または、修飾名を次のように入力できます:

```
[Market].[East].[New York].[New York]
```

フリー・フォーム・グリッドの属性ディメンション

フリーフォーム・モードで属性ディメンションを操作するときは、このトピックのガイドラインおよび例を確認します。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

図 1 は、ページ領域と属性の使用例です。この例では、Pkg Type (基本メンバー Product に添付されている属性ディメンション)と Budget がページ・ディメンションです。Pkg Type をドリルダウンすると、特定の Product 属性に関連する、属性を使用した Measures の分析ができます。さらにこれを使用して、属性別の製品在庫保管単位(SKU)のクロス集計分析を行うこともできます。

図 16-18 フリー・フォーム・グリッドの属性ディメンション

	A	B	C	D	E	F
1	Pkg Type					
2	Budget					
3						
4			Product	Product	Product	Product
5			Profit	Inventory	Ratios	Measures
6	Market	Qtr1				
7	Market	Qtr2				
8	Market	Qtr3				
9	Market	Qtr4				
10	Market	Year				

または、フリーフォーム・グリッドに属性ディメンションをすばやく追加するには、シートでの属性ディメンションの挿入の手順に従ってください。次にディメンションとメンバーのメンバー選択手順を使用して、属性ディメンションからメンバーを選択して操作できます。

スケール・オプションが有効になっている状態でのフリーフォーム・グリッドからの送信

適用対象: Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Planning、Planning モジュール、Tax Reporting、Oracle Essbase

Smart View 23.200 以降、スケール・オプションが有効になっている状態でフリーフォームの送信を試行した場合、および「Smart View」リボンまたはプロバイダ・アド・ホックのリボンで**「送信」**ボタンを使用した場合は、次の警告が表示されます:

現在、フリー・フォーム・モードを使用しています。送信する前にリフレッシュを実行してください。

「詳細」ボタンをクリックすると、次のノートが表示されます:

スケーリングが有効になっている場合、フリーフォームの送信は許可されません。

プロバイダ・アド・ホックのリボンの**「送信」**ボタンで**「リフレッシュせずにデータを送信」**または**「データ範囲の送信」**オプションを使用した場合は、次の警告が表示されます:

スケールされたデータを送信するには、グリッドをリフレッシュして送信します。フリー・フォーム送信をしようとしており、データはスケーリング・オプションごとにスケールされず、そのまま送信されます。続行しますか。

このメッセージを確認して送信を決定した場合、データはそのまま送信されます。

さらに、フリーフォームの送信では、送信処理が完了するまで、Excel のステータス・バーにステータスが表示されます(このステータスは処理時間によってはそのまま残ります)。ステータスにより、ダーティ・ステータスや設定されているスケーリング・オプションが考慮されずに、値がそのまま送信されていることがわかります。

> **Note:**
>
> Cloud EPM ソースのみ:
>
> - この機能を利用するには、**「Smart View アド・ホック動作」**オプションを**「標準」**に設定する必要があります。
> - この機能は、フリーフォーム・モードおよびフレックス・フォームのアド・ホック・グリッドに適用されます。

フリー・フォーム・レポートの作成

フリーフォーム・レポートを作成するには、このトピックの手順に従います。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Planning

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、 Oracle Hyperion Financial Management、Oracle Hyperion Planning

フリーフォーム・レポートを作成するには:

1. ワークシートを開き、データ・ソースに接続します。

2. ワークシートで、フリーフォームに関するガイドラインおよびベスト・プラクティスで指定されたルールに従ってメンバー名を入力します。
3. メンバー名は重複している場合があります(たとえば、East と West 両方のマーケットに Portland という名前(Maine と Oregon)が含まれる)。重複するメンバー名を入力するには:
   - Essbase で、**「メンバー選択」**を使用してメンバーを選択します。
   - 入力したメンバーに重複がある場合、Financial Management でメンバー名の解決ウィンドウが表示されます。ドロップダウン・リストから、入力したメンバーのディメンションを選択し、**「OK」**をクリックします。必要に応じて繰り返します。
4. グリッドをリフレッシュするか、または**「アド・ホック分析」**を選択します。
5. 必要に応じてアド・ホックの操作とフォーマットをさらに実行します。

フリーフォーム・モードでの属性ディメンションの取得

フリーフォーム・レポートの属性ディメンションを取得するには、このトピックの手順に従います。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Essbase

構造化グリッドが処理する操作では、属性ディメンションは表示されません。フリーフォームでは、グリッドに属性ディメンションのメンバーを入力して、処理し検証できます。処理と検証にあたっては、追加した属性ディメンションのメンバーのみが表示され使用されます。他の属性ディメンションのメンバーは対象になりません。このフリーフォーム要求の後、構造化グリッド操作を行っても、属性ディメンションのメンバーは保持されます。

ワークシートに基本ディメンションが存在する場合は、ワークシートに名前を直接入力して属性メンバーを取得することもできます。

「メンバー選択」を使用してフリーフォームで属性ディメンションを取得するには:

1. 空のワークシートで、セルを選択します。
2. データ・ソースのリボンから、**「メンバー選択」**を選択します。
3. **「ディメンション名の解決」**ダイアログ・ボックスで、属性ディメンションを選択します。
4. ワークシートでメンバーの向きをステップ 3 で選択したセルから縦方向にするには、**「垂直方向」**チェック・ボックスを選択します。

   このチェック・ボックスはデフォルトでクリアされます。つまり、メンバーの向きはステップ 3 で選択したセルから横方向になります。
5. **「OK」**をクリックして、**「メンバー選択」**ダイアログ・ボックスを開きます。
6. ワークシートに配置するメンバーを選択します。

> **ノート:**
>
> シートに属性ディメンションおよびメンバーを追加することも可能です。

非対称レポートの作成

非対称フリーフォーム・レポートを作成するには、このトピックの手順に従います。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Planning

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Oracle Hyperion Planning

レポートには、対称または非対称の列グループを含めることができます。選択したメンバーに基づいて、列グループの対称性が自動的に決定されます。

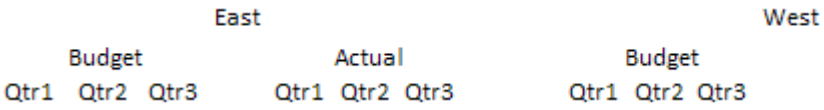
対称レポートは、図 1 に示すように、同じメンバーのグループが繰り返されるのが特徴です。

図 16-19 対称レポート



非対称レポートは、図 2 に示すように、ネストしているグループのメンバーの内容が、少なくとも 1 つ異なることが特徴です。メンバーの数が異なる場合と、メンバーの名前が異なる場合があります。

図 16-20 非対称レポート



非対称レポートは、次のようにして作成できます:

- フリー・フォーム・モードでメンバー名を入力します。
- 「オプション」ダイアログ・ボックスの「メンバー・オプション」ページで、**「選択したグループ内」**を選択した状態でズーム・インします。
- データ取得時に、欠落値、ゼロ値またはアンダースコア文字を含む行を抑制します。

> **ノート:**
>
> データを非対称型レポートに取得する際、レポートが大きい場合には長時間かかることがあります。

予期しない動作の原因となるアクション

フリーフォーム・レポートで予期しない動作の原因となるアクションについて学習するには、このトピックを確認します。

Oracle Smart View for Office では、コメント、式、カスタマイズしたレポート・レイアウトは極力保持されます。例外として、予想外の振る舞いをする可能性があるのは、次のアクションを実行した場合です:

- ページ・ディメンションにズーム・インする
- POV から行または列にディメンションをピボットする
- POV からワークシートにディメンションをドラッグ・アンド・ドロップする
- 行ディメンションを列ディメンションにピボットする
- 行ディメンションの位置を別の行に切り替える
- 列ディメンションの位置を別の列に切り替える
- 「別名表の変更」コマンドを使用してメンバーの別名を変更する
- Oracle Essbase データ・ソースでは、Microsoft Word から Excel ワークシートに切り取って貼り付けると、隠し文字が原因で予期しない動作をすることがあります。そのような場合は、ログから問題を特定できる管理者に連絡してください。

17

一般的な操作

次も参照:

- Smart View の操作
  Oracle Smart View for Office では、すべてのデータ・ソース・タイプに共通の一連の操作を提供します。
- フォームおよび他のアーティファクトの検索
  Oracle Smart View for Office 23.100 以降では、Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management ビジネス・プロセスに存在するフォームおよび他のアーティファクトを検索できます。
- クイック・アクションの使用
  Smart View のリボンの**「クイック・アクション」**メニューを使用すると、設定を変更するためにリボンを頻繁に切り替えたり、「Smart View のオプション」ダイアログを毎回起動しなくても、様々なアクションにすばやくアクセスできます。
- 「ドキュメント・コンテンツ」ペインの使用
  ドキュメント・コンテンツは、現在の Office ドキュメントに存在するコンテンツのビューを提供し、それに対するアクションの実行を可能にする、Smart View パネルのタスク・ペインです。
- 「元に戻す」と「やり直し」の使用
  データ・ソース・プロバイダに接続している場合、Smart View リボン内の「元に戻す」オプションでは、セル内の最後のユーザー・アクションが元に戻されます。
- コピーと貼付け
  Oracle Smart View for Office のアド・ホック、データ・ポイント、関数、および Oracle Business Intelligence Enterprise Edition のコンテンツは、Excel、Word および PowerPoint 間でコピーして貼り付けることができます。
- Office ドキュメントの Cloud EPM への保存
  Oracle Smart View for Office では、Microsoft Office ドキュメントを Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management ライブラリに保存できます。Cloud EPM ライブラリに保存したドキュメントは、他のユーザーに対してアクセス可能にできます。保存したファイルをライブラリからダウンロードすることもできます。
- Office アプリケーションのメタデータのインポート
  メタデータは POV、別名表、接続情報などの Oracle Smart View for Office アーティファクトで構成されます。
- シート情報の表示
  「シート情報」で、現在のワークシートの接続やその他の詳細を確認できます。
- Web アプリケーション(Web 起動)からフォームおよびアド・ホック・グリッドを開く
  Web アプリケーションから、Oracle Smart View for Office 内のフォームおよびアド・ホック・グリッドを開くことができます。このアクションは、*Web 起動*とも呼ばれます。
- Smart View で大きいワークブックを開く
  行と列、グラフィカル・オブジェクトおよび Excel のコメントを多数含むワークブックを開く際、Oracle Smart View for Office が応答しなくなることがあります。

- Smart View と Smart View (Mac およびブラウザ)の間でのフォームおよびアド・ホック・グリッドの互換性を持った操作
  Smart View および Smart View (Mac およびブラウザ)の両方で、互換性がある方法で同じフォームおよびアド・ホック・グリッドを操作できます。
- フォームとアド・ホック・グリッドでのパーセンテージ値の入力
  フォームおよびアド・ホック・グリッドで、パーセンテージとして定義されたセルに値を入力する場合は、このトピックで概説されているベスト・プラクティスに注意してください。
- セルの幅および高さの自動調整の有効化
  メンバー・セルおよびデータ・セルの内容にあわせた、Excel の列の幅および行の高さの自動調整を使用可能にすることができます。
- 共有ワークブックの操作
  Oracle Smart View for Office は Excel の共有ワークブックをサポートしません。
- 保護されたワークシートの操作
  リフレッシュおよびアド・ホックなどの Oracle Smart View for Office 操作は、保護されたシートでサポートされていません。
- ヘッダーおよびフッターへの POV メンバーの印刷
  Excel ドキュメントのヘッダーまたはフッターにアクティブな POV メンバーを印刷できます。
- Smart View の使用可能/使用不可
  Oracle Smart View for Office は、インストール後にデフォルトで有効化されます。

Smart View の操作

Oracle Smart View for Office では、すべてのデータ・ソース・タイプに共通の一連の操作を提供します。

これらには、基本操作、関数およびプリファレンスの設定する機能などが含まれます。

フォームおよび他のアーティファクトの検索

Oracle Smart View for Office 23.100 以降では、Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management ビジネス・プロセスに存在するフォームおよび他のアーティファクトを 検索できます。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Cloud EPM: Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Planning、Planning モジュール、Tax Reporting

検索する機能は、必要なフォームおよびその他のアーティファクトを早く見つけてアクセスするのに役立ちます。フォームに加えて、スマート・フォーム、フレックス・フォーム、複合フォーム、アド・ホック・グリッド、レポート、ドキュメント、タスク・リストおよびダッシュボードも検索できます。

Smart View ホーム・パネルで、「ライブラリ」、「レポート」、「ドキュメント」および「タスク・リスト」フォルダ内を検索できます。

> **Note:**
>
> - ドキュメントを検索するには、サービス管理者は Smart View で「ドキュメント」フォルダを有効にする必要があります。これは、`properties.xml` ファイルで `<enableLibrary>`プロパティの値を `1` に設定して行います。次に、Smart View ホーム・パネルで「ドキュメント」フォルダを表示し、その内容を検索できます。
> - タスク・リストを検索するには、Cloud EPM 23.08 以降が必要です。

検索でサポートされているものは次のとおりです:

- 正規表現
- 英数字用語: Plan2022、Q3-report、expenses5Jul など
- 大/小文字を区別しない検索: たとえば、"plan"、"Plan"または"PLAN"の検索は、大/小文字に関係なく、名前にこの用語が含まれる項目の同じリストをフェッチします。

フォームおよび他のアーティファクトを 検索するには:

1. データ・プロバイダに接続します。
2. Smart View パネルで、ツリー・ビューを展開して項目のリストを表示します。
3. ツリー・ビューの上にある検索ボックスで、検索する用語を入力し、**[Enter]**を押します。一致する項目のリストが検索用語に基づいてフィルタされます。項目は、識別しやすいようにそれぞれのアイコンとともに検索結果に表示されます。

   検索結果から項目を直接開くことができます。また、検索結果の項目を右クリックして、選択した項目に固有のコンテキスト・メニュー・オプションを表示することもできます。

   検索用語と一致する項目がない場合、パネルに空白が表示されます。「閉じる」アイコンをクリックして検索ボックスをクリアできます。

クイック・アクションの使用

Smart View のリボンの**「クイック・アクション」**メニューを使用すると、設定を変更するためにリボンを頻繁に切り替えたり、「Smart View のオプション」ダイアログを毎回起動しなくても、様々なアクションにすばやくアクセスできます。

「クイック・アクション」メニューには、次のようなアクションのリストが含まれています:

- 「データの送信」、「リフレッシュ」、「別名の変更」など、Smart View、プロバイダおよびプロバイダ・アド・ホックのリボンでよく使用されるメニュー項目。
- 「欠落した行の抑制」、「繰返しメンバーの抑制」、「Excel フォーマットの使用」など、「Smart View のオプション」ダイアログの設定。アクションの横には、選択(オン)状態か選択解除(オフ)状態かを示す設定のステータスも表示されます。

アクションのリストは、コンテキストで何を開いているかによって異なります。例:

- フォームまたはアド・ホック・グリッドを開いていない場合は、「Smart View のオプション」の診断や設定などの基本的なアクションが表示されます。
- フォームを開いている場合は、「クイック・アクション」メニューに「データの送信」、「調整」、「ビジネス・ルール」などのフォーム関連のアクションが表示されます。

- アド・ホック・グリッドを開いている場合は、「クイック・アクション」メニューで「ズーム・イン」、「ズーム・アウト」、「選択項目のみ削除」などのアド・ホック操作を実行できます。

「クイック・アクション」メニューの有効化

「クイック・アクション」メニューは、要件に応じて有効または無効にできます。**「ヘルス・チェック」**ダイアログの**「クイック・アクション」**設定は、**「Smart View のオプション」**の下にあり、デフォルトでは無効になっています。

- 有効にするには、**「修正/更新/ヘルプ・リンク」**列をクリックし、**「使用可能」**を選択してから**「設定の更新」**をクリックします。
- 無効にするには、**「修正/更新/ヘルプ・リンク」**列をクリックし、**「使用不可」**を選択してから**「設定の更新」**をクリックします。

詳細は、システムのヘルス・チェックの実行を参照してください。

クイック・アクションのカスタマイズ

「クイック・アクション」メニューに表示されるアクションのリストをカスタマイズするには:

1. Smart View のリボンで**「クイック・アクション」**メニューを展開し、**「その他...」**オプションを選択します。
2. **「クイック・アイテム選択」**ダイアログで、**「使用可能なアクション」**セクションから必要なアクションを選択します。
   「使用可能なアクション」セクションには、**「クイック・アクション」**メニューに追加できるアクションが表示されます。**「選択したアクション」**セクションには、**「クイック・アクション」**メニューに表示するように選択したアクションが表示されます。
3. 次を実行します:
   - アクションを追加するには、**「使用可能なアクション」**からアクションを選択し、そのアクションを**「選択したアクション」**に移動します。
   - アクションを削除するには、**「選択したアクション」**からアクションを選択し、そのアクションを**「使用可能なアクション」**に戻します。
   - 「クイック・アクション」メニューにアクションを表示する順序を調整するには、**「選択したアクション」**で、**上**矢印と**下**矢印のアイコンを使用します。

   設定すると、データ・プロバイダから開くすべてのフォームおよびアド・ホック・グリッドでクイック・アクションを使用できるようになります。

Note:

- アクション・リストを次回カスタマイズする際、**「クイック・アクション」**メニューに**「その他...」**オプションが表示されない場合があります。新しいシート・タブを開き、**「クイック・アクション」**メニューを展開して**「その他...」**を選択し、アクションを追加または削除するための**「クイック・アイテム選択」**ダイアログを開く必要があります。
- **「クイック・アイテム選択」**ダイアログを閉じた後、**「その他...」**オプションを再度選択すると、**「クイック・アイテム選択」**ダイアログは開きません。これは、選択が変更されないかぎり、**「クイック・アクション」**メニューでは同じアクションが再度開始されないためです。回避策として、**「クイック・アクション」**メニューから別のオプションを選択し、**「その他...」**を再度選択して**「クイック・アイテム選択」**ダイアログを開きます。

「ドキュメント・コンテンツ」ペインの使用

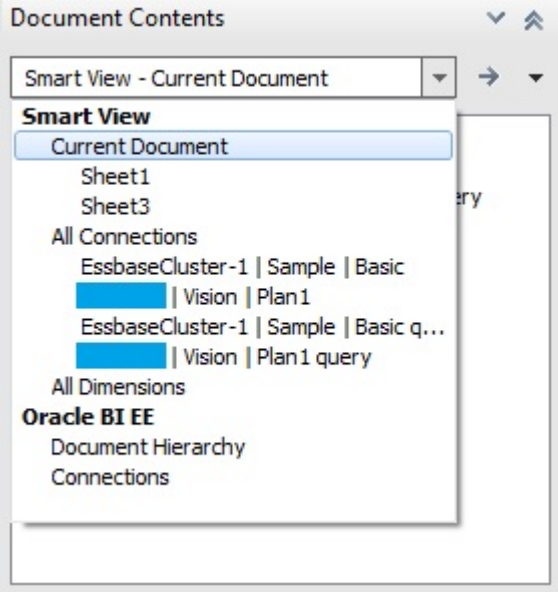
ドキュメント・コンテンツは、現在の Office ドキュメントに存在するコンテンツのビューを提供し、それに対するアクションの実行を可能にする、Smart View パネルのタスク・ペインです。

「ドキュメント・コンテンツ」ペインには Office オブジェクトがツリー形式で表示され、ワークブック、プレゼンテーション、文書のコンテンツを、コンテンツや拡張機能からの内部コンテンツのプロバイダやタイプにかかわらず、簡単に閲覧し操作できます。コンテンツは、プロバイダ接続、またはシート、スライド、ページでのドキュメントのレイアウトに基づいて表示されます。

ドロップダウン選択リストを使用して、ワークブック内のコンテンツから選択します。図 1 内のドロップダウン・リストには、共有接続を使用したオンプレミス Essbase および Planning への接続を含むワークブックが表示されます。3 番目の接続は、プライベート接続を使用したオンプレミス Oracle Business Intelligence Enterprise Edition に対して表示されています。

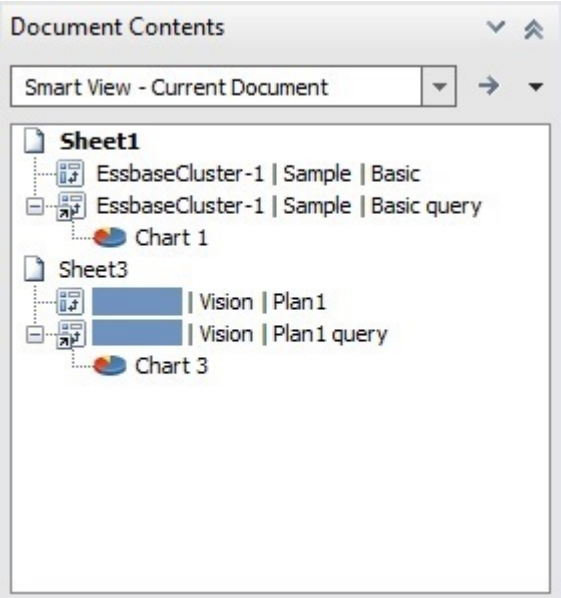
図 1 内のワークブックのドロップダウン・リストには、共有接続シートのコンテンツおよびプライベート Oracle BI EE 接続シートのコンテンツを表示するためのオプションが表示されます。

図 17-1 ドロップダウン・リストが表示されているドキュメント・コンテンツ・ペイン



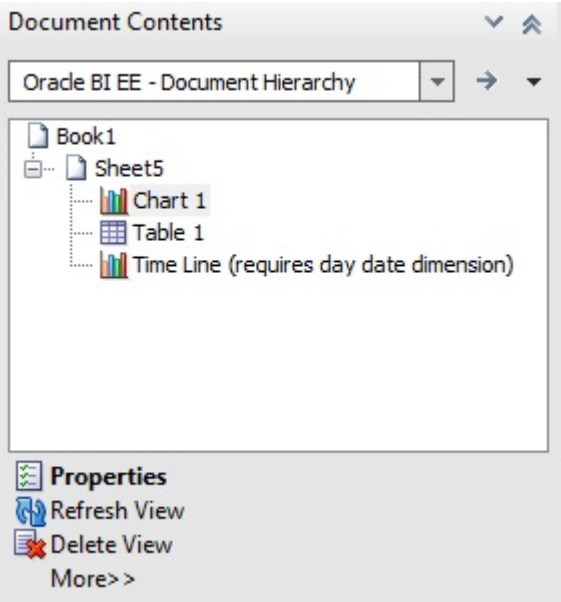
シート 1 が開いていると仮定して、**「ドキュメント・コンテンツ」**リストで**「現在のドキュメント」**を選択します。コンテンツ・リストが変わり、シート 1 に Essbase アド・ホック・グリッド、アド・ホック問合せおよびチャートが含まれ、シート 3 に Planning グリッド、アド・ホック問合せおよびチャートが含まれていることが示されます。

図 17-2 シート 1 およびシート 3 のコンテンツが表示されているドキュメント・コンテンツ・ペイン



表示を Oracle BI EE に切り替えるには、**Oracle BI EE** の下の**「ドキュメント階層」**を選択すると、コンテンツの表示が変わります。図 3 は、**「ドキュメント・コンテンツ」**ペインの Oracle BI EE コンテンツの例を示しています。

図 17-3 Oracle BI EE のコンテンツを表示する「ドキュメント・コンテンツ」ペイン

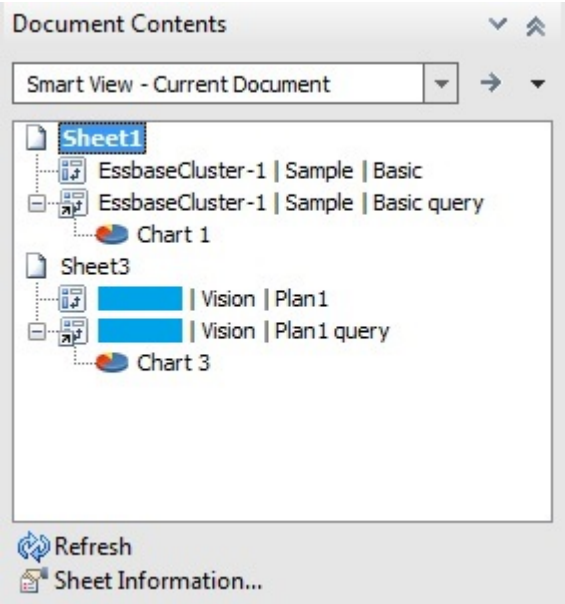


「ドキュメント・コンテンツ」ペインで選択したオブジェクトに対し、プロバイダによって異なるタスクを実行できます。

- ほとんどのプロバイダで、シート、スライド、文書のコンテンツの**「選択」**、**「リフレッシュ」**、**「削除」**が可能です。
- ほとんどのプロバイダで、レポート・オブジェクトを挿入し、他のタスクを実行できます。
- Oracle BI EE プロバイダでは、個々のビューに対して追加のタスクを実行できます。たとえば、ビューを**マスク**したり、ビューのプロパティを表示したりすることができます。

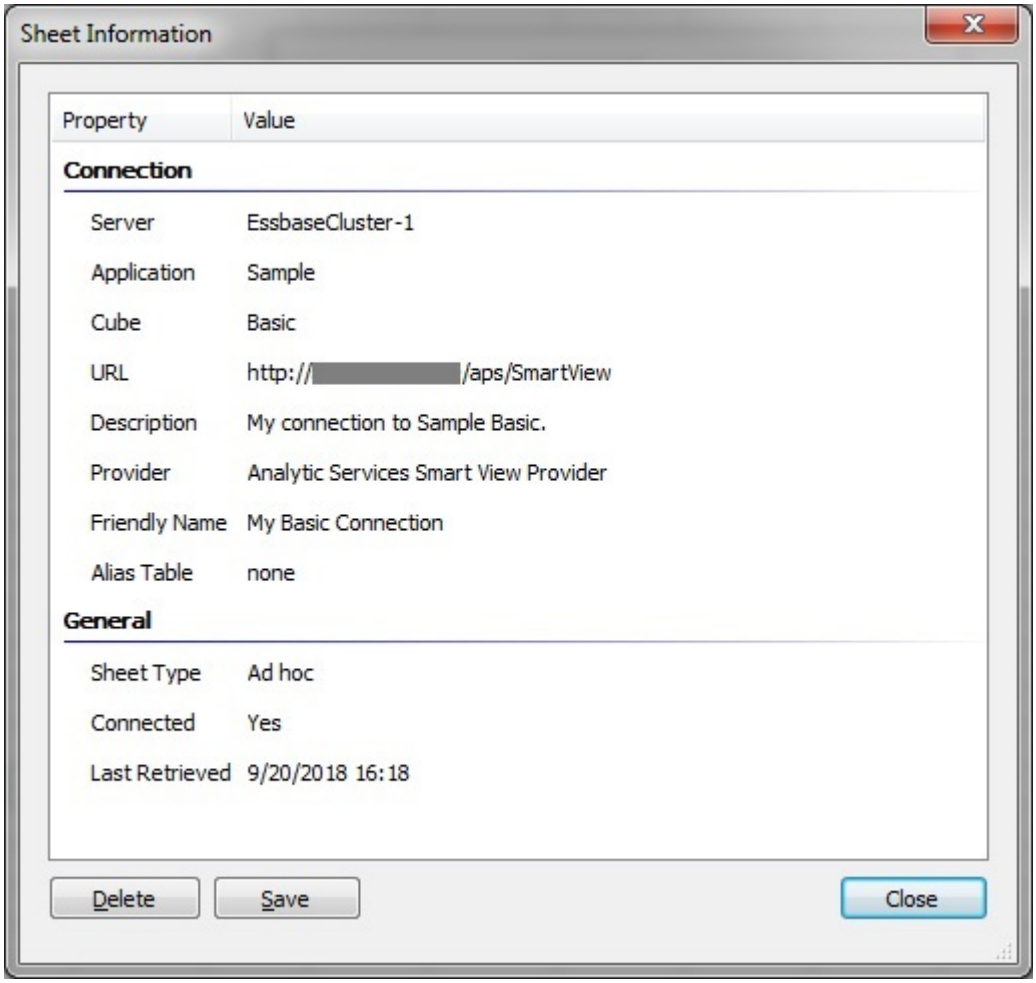
たとえば、図 6 では、シート 1 に Oracle Essbase アド・ホック・グリッド、アド・ホック問合せおよびチャートが表示されます。Planning のシート 3 にも同じアーティファクトが表示されますが、シート 1 に注目します。シート 1 のシート・ノードを選択すると、**「ドキュメント・コンテンツ」**ペインの下部に**「リフレッシュ」**と**「シート情報」**のオプションが表示されます。

図 17-4 ドキュメント・コンテンツでシート・ノードが選択された Essbase アド・ホック・グリッド



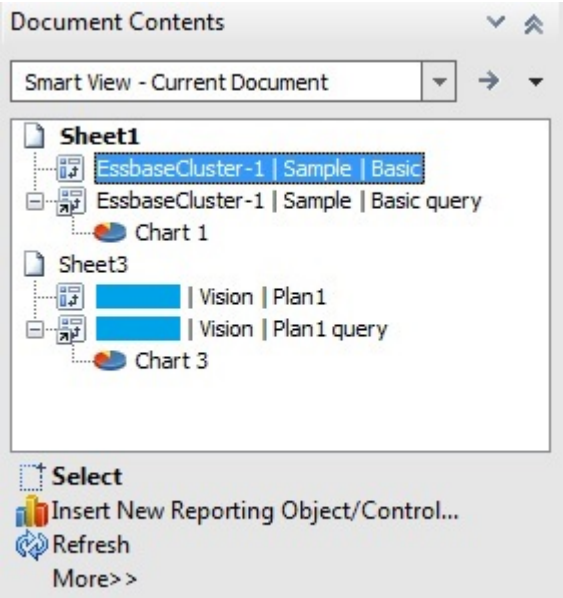
「シート情報」をクリックすると、**「シート情報」**ダイアログ・ボックス(図 5)が表示されます。ここで、シートまたはワークブックのメタデータの**「保存」**または**「削除」**を選択することもできます。

図 17-5 Essbase アド・ホック・グリッドの「シート情報」ダイアログ・ボックス



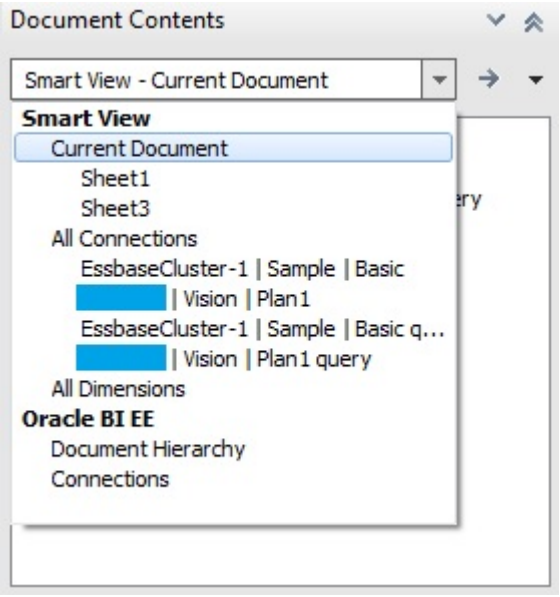
「ドキュメント・コンテンツ」のオブジェクト・ノードを選択すると、コンテキストが変更され、ペイン下部に**「選択」**、**「新規レポート・オブジェクト/コントロールの挿入」**、**「リフレッシュ」**、**「接続の変更」**および**「削除」**オプションが表示されます(図 6)。

図 17-6 ドキュメント・コンテンツで選択された Essbase アド・ホック・グリッド



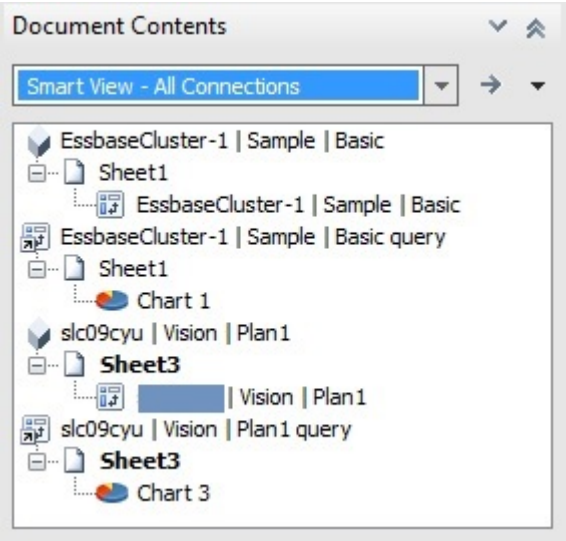
通常、コンテンツは Oracle Smart View for Office プロバイダ(Essbase、Oracle Hyperion Financial Management、Oracle Hyperion Planning および Oracle Hyperion Reporting and Analysis)でグループ化されます。Oracle BI EE のコンテンツは、別のグループに分けられます。異なるデータ・ソースの複数のオブジェクトを含むワークブックで、図 7 に示されている**「ドキュメント・コンテンツ」**ドロップダウン・メニューを使用してビューを切り替えることができます。

図 17-7 「ドキュメント・コンテンツ」ドロップダウン・メニューで使用可能なオプション



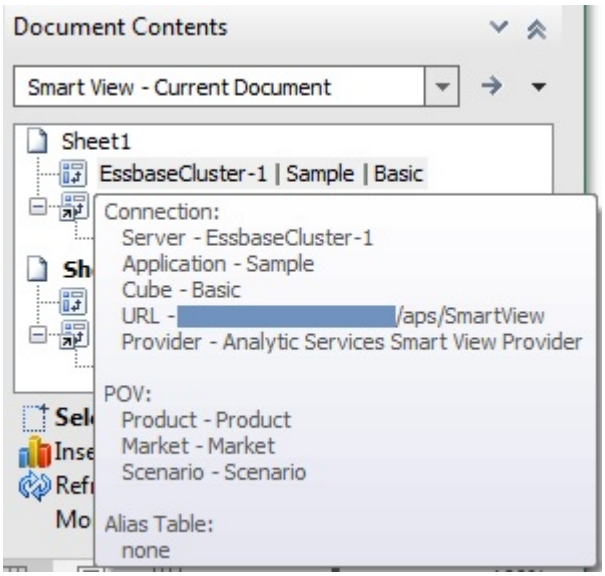
「すべての接続」オプションを選択すると、**「ドキュメント・コンテンツ」**ビューが、プロバイダ別にソートされたオブジェクトを表示するように変更されます(図 8)。

図 17-8 ドキュメント・コンテンツでプロバイダごとにリストされる Smart View のプロバイダ・コンテンツ



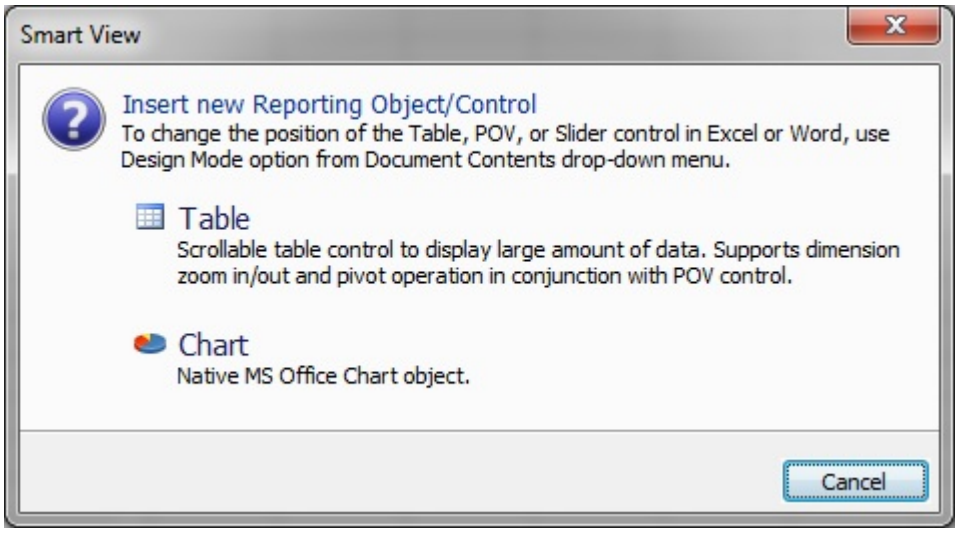
Planning や Essbase オブジェクトなどの Smart View プロバイダ・コンテンツの場合、**「ドキュメント・コンテンツ」**のツリー領域をクリックして、図 9 に示すようにオブジェクト・アイコンの上にカーソルを置いてサーバー、アプリケーション、キューブ、URL、プロバイダ、POV、別名表などの接続プロパティを表示できます。プロパティはプロバイダによって 異なります。

図 17-9 Essbase アド・ホック問合せの接続プロパティ



Oracle BI EE コンテンツの場合、Oracle BI EE オブジェクトを選択し、**「ドキュメント・コンテンツ」**の下部にある**「プロパティ」**リンクを使用して、接続およびその他のプロパティが表示される**「プロパティの表示」**ダイアログを起動します(図 3 を参照)。

Essbase および Planning アド・ホックなどの一部のプロバイダの場合、アド・ホック問合せまたはグリッド・オブジェクトに基づく、表ネイティブ Office チャートなどのレポート・オブジェクトを挿入できます。**「ドキュメント・コンテンツ」**のグリッドまたは問合せオブジェクトを選択し、**レポート・オブジェクト/コントロールの挿入**を選択します。「表」または「チャート」の選択を求められます。



> **ノート:**
>
> **「ドキュメント・コンテンツ」**ペインから大きなデータセット(例: 3,000 セル以上)の 3D チャートを挿入する場合、Microsoft Office は大量のメモリーを消費するため、失敗する場合があります。
>
> この問題を回避するために、Smart View はチャートを 2D としてレンダリングします。

スマート・スライスおよび Oracle Hyperion Financial Reporting の場合、関数グリッドおよびスライダ・コントロールなどのレポート・オブジェクトを挿入できます。**「ドキュメント・コンテンツ」**からのこのタイプのレポート・オブジェクトの挿入の詳細は、次を参照してください。

スマート・スライス

Smart View と Financial Reporting

「元に戻す」と「やり直し」の使用

データ・ソース・プロバイダに接続している場合、Smart View リボン内の「元に戻す」オプションでは、セル内の最後のユーザー・アクションが元に戻されます。

「元に戻す」、Undo、および**「やり直し」**、Redoは、接続しているデータ・ソースによって動作が異なります。

さらに:

- Oracle Hyperion Financial Management、Oracle Essbase または Narrative Reporting のデータ・ソースを使用したアド・ホック分析では、**「元に戻す」**によって**「ズーム・イン」**、**「ズーム・アウト」**、**「選択項目のみ保持」**、**「選択項目のみ削除」**または**「リフレッシュ」**を取り消し、グリッドを以前のデータベース表示に戻します。メンバー・データを変更した後で**「元に戻す」**を実行すると、シートは、データの変更前の状態ではなく、最後のリフレッシュを行う前の状態に戻ります。
- フォームで、**「元に戻す」**を使用すると、セル内の最後のユーザー・アクションが元に戻されます。
- すべてのプロバイダのアド・ホック・グリッドでは、**「元に戻す」**を実行すると Excel フォーマットは保持されません。
- 別名表を変更すると、以前実行したアクションを元に戻すことができなくなります。たとえば、**「元に戻す処理の数」**オプションを 9 に設定します。**「ズーム・イン」**、**「ピボット」**および**「選択項目のみ保持」**などの 3 つのアド・ホック操作を実行し、別名表を変更すると、前に実行したそれらの 3 つのアクションは元に戻せなくなります。ただし、別名表を変更した後に実行したサポートされているアクションは追跡され、**「元に戻す処理の数」**の設定に従って元に戻すことができます。このオプションの設定の手順は、元に戻す処理とやり直し処理の数の指定を参照してください。

プロバイダ別の「元に戻す」のサポートも参照してください。

> **ノート:**
>
> Oracle Smart View for Office で実行された操作のみを元に戻すことができます。プロバイダ・サーバー上で実行された操作(計算ステータスなど)は、元に戻すことができません。

元に戻す処理とやり直し処理の数の指定

元に戻す操作およびやり直し操作について許可される回数を指定するには:

1. Smart View ribbon から、**「オプション」**を選択し、次に左側のパネルの**「詳細」**を選択してください。
2. **「元に戻す処理の数」**に、**「元に戻す」**操作を許可する回数を、0 から 100 の間で指定します。

   これは、**「やり直し」**操作を許可する回数でもあります。
3. **「OK」**をクリックします。この設定は、リフレッシュを行うか、ドリル操作を実行すると有効になります。

プロバイダ別の「元に戻す」のサポート

Essbase の「元に戻す」のサポート

表 17-1 Essbase - 「アド・ホック」でサポートされる「元に戻す」操作

操作	単一グリッド	複数グリッド	VBA	関数
ズーム・イン	サポートされています	N/A	N/A	N/A

表 17-1 (続き) Essbase - 「アド・ホック」でサポートされる「元に戻す」操作

操作	単一グリッド	複数グリッド	VBA	関数
ズーム・アウト	サポートされています	N/A	N/A	N/A
選択項目のみ保持	サポートされています	N/A	N/A	N/A
選択項目のみ除去	サポートされています	N/A	N/A	N/A
ピボット	サポートされています	N/A	N/A	N/A
リフレッシュ	サポートされています	N/A	N/A	N/A

表 17-2 Essbase - 「メンバー・オプション」でサポートされる「元に戻す」操作

操作	単一グリッド	複数グリッド	VBA	関数
全般	**全般**	**全般**	**全般**	**全般**
ズーム・イン・レベル	サポートされています	N/A	N/A	N/A
メンバー名の表示	サポートされています	N/A	N/A	N/A
インデント	サポートされています	N/A	N/A	N/A
祖先の位置	サポートされています	N/A	N/A	N/A
メンバーの保持	**メンバーの保持**	**メンバーの保持**	**メンバーの保持**	**メンバーの保持**
選択を含める	サポートされています	N/A	N/A	N/A
選択したグループ内	サポートされています	N/A	N/A	N/A
選択されていないグループの除去	サポートされています	N/A	N/A	N/A
コメントと式	**コメントと式**	**コメントと式**	**コメントと式**	**コメントと式**
アドホック操作の式とコメントを保持(ピボットを除く)	Excel の式を保持: サポートされていません Smart View 関数を保持: サポートされていません	N/A	N/A	N/A
- 式の充てん	Excel の式を保持: サポートされていません Smart View 関数を保持: サポートされていません			
- 拡張コメント処理を有効にする	コメントを保持: サポートされています			
POV 変更時に式を保持	N/A	N/A	N/A	N/A

表 17-3 Essbase - 「データ・オプション」でサポートされる「元に戻す」操作

データ・オプション	データ・オプション	データ・オプション	データ・オプション	データ・オプション
行	**行**	**行**	**行**	**行**
データなしの抑制/欠落の抑制	サポートされています	N/A	N/A	N/A
ゼロ	サポートされています	N/A	N/A	N/A
アクセス権なし	サポートされています	N/A	N/A	N/A
無効	サポートされています	N/A	N/A	N/A
アンダースコア文字	サポートされています	N/A	N/A	N/A
繰返しメンバー	サポートされています	N/A	N/A	N/A

表 17-3 (続き) Essbase - 「データ・オプション」でサポートされる「元に戻す」操作

データ・オプション	データ・オプション	データ・オプション	データ・オプション	データ・オプション
列	**列**	**列**	**列**	**列**
データなしの抑制/欠落の抑制	サポートされています	N/A	N/A	N/A
ゼロ	サポートされています	N/A	N/A	N/A
アクセス権なし	サポートされています	N/A	N/A	N/A
モード	**モード**	**モード**	**モード**	**モード**
欠落ブロックの抑制	N/A	N/A	N/A	N/A

表 17-4 Essbase - その他のアクションでサポートされる「元に戻す」操作

操作	単一グリッド	複数グリッド	VBA	関数
保存されたオープンの変更	サポートされていません	N/A	N/A	N/A
別名表	サポートされています	N/A	N/A	N/A
メタデータ(メンバー・データ)	サポートされていません	N/A	N/A	N/A
セルのスタイル	N/A	N/A	N/A	N/A

Financial Management の「元に戻す」のサポート

表 17-5 Financial Management - 「アド・ホック・オプション」でサポートされる「元に戻す」操作

操作	フォーム	アド・ホック	データ・グリッド	VBA	関数
ズーム・イン	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A
ズーム・アウト	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A
選択項目のみ保持	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A
選択項目のみ除去	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A
ピボット	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A
リフレッシュ	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A

表 17-6 Financial Management - 「メンバー・オプション」でサポートされる「元に戻す」操作

操作	フォーム	アド・ホック	データ・グリッド	VBA	関数
全般	**全般**	**全般**	**全般**	**全般**	**全般**
ズーム・イン・レベル	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A
メンバー名の表示	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A

表 17-6 (続き) Financial Management - 「メンバー・オプション」でサポートされる「元に戻す」操作

操作	フォーム	アド・ホック	データ・グリッド	VBA	関数
インデント	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A
祖先の位置	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A
メンバーの保持	**メンバーの保持**	**メンバーの保持**	**メンバーの保持**	**メンバーの保持**	**メンバーの保持**
選択を含める	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A
選択したグループ内	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A
選択されていないグループの除去	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A
コメントと式	**コメントと式**	**コメントと式**	**コメントと式**	**コメントと式**	**コメントと式**
式とコメントを保持	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A
- 式の充てん	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A
- 拡張コメント処理を有効にする	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A
POV 変更時に式を保持	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A

表 17-7 Financial Management - 「データ・オプション」でサポートされる「元に戻す」操作

操作	フォーム	アド・ホック	データ・グリッド	VBA	関数
行	**行**	**行**	**行**	**行**	**行**
データなしの抑制/欠落の抑制	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A
ゼロ	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A
アクセス権なし	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A
無効	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A
アンダースコア文字	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A
繰返しメンバー	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A
列	**列**	**列**	**列**	**列**	**列**
データなしの抑制/欠落の抑制	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A
ゼロ	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A
アクセス権なし	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A
モード	**モード**	**モード**	**モード**	**モード**	**モード**
欠落ブロックの抑制	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A

表 17-8 Financial Management - その他のアクションでサポートされる「元に戻す」操作

操作	フォーム	アド・ホック	データ・グリッド	VBA	関数
保存されたオープンの変更	N/A	サポートされていません	N/A	N/A	N/A
別名表	N/A	サポートされています	N/A	N/A	N/A
メタデータ(メンバー・データ)	N/A	サポートされていません	N/A	N/A	N/A
セルのスタイル	N/A	サポートされていません	N/A	N/A	N/A

Planning の「元に戻す」のサポート

表 17-9 Planning - 「アド・ホック・オプション」でサポートされる「元に戻す」操作

操作	フォーム	アド・ホック	VBA	関数
ズーム・イン	N/A	サポートされています	N/A	N/A
ズーム・アウト	N/A	サポートされています	N/A	N/A
選択項目のみ保持	N/A	サポートされています	N/A	N/A
選択項目のみ除去	N/A	サポートされています	N/A	N/A
ピボット	N/A	サポートされています	N/A	N/A
リフレッシュ	N/A	サポートされています	N/A	N/A

表 17-10 Planning - 「メンバー・オプション」でサポートされる「元に戻す」操作

操作	フォーム	アド・ホック	VBA	関数
全般	**全般**	**全般**	**全般**	**全般**
ズーム・イン・レベル	N/A	サポートされています	N/A	N/A
メンバー名の表示	N/A	サポートされています	N/A	N/A
インデント	N/A	サポートされています	N/A	N/A
祖先の位置	N/A	サポートされています	N/A	N/A
メンバーの保持	**メンバーの保持**	**メンバーの保持**	**メンバーの保持**	**メンバーの保持**
選択を含める	N/A	サポートされています	N/A	N/A
選択したグループ内	N/A	サポートされています	N/A	N/A
選択されていないグループの除去	N/A	サポートされています	N/A	N/A
コメントと式	**コメントと式**	**コメントと式**	**コメントと式**	**コメントと式**
式とコメントを保持	N/A	サポートされています	N/A	N/A
- 式の充てん	N/A	サポートされています	N/A	N/A
- 拡張コメント処理を有効にする	N/A	サポートされています	N/A	N/A
POV 変更時に式を保持	N/A	サポートされています	N/A	N/A

表 17-11 Planning - 「データ・オプション」でサポートされる「元に戻す」操作

操作	フォーム	アド・ホック	VBA	関数
データ・オプション	**データ・オプション**	**データ・オプション**	**データ・オプション**	**データ・オプション**
行	**行**	**行**	**行**	**行**
データなしの抑制/欠落の抑制	N/A	サポートされています	N/A	N/A
ゼロ	N/A	サポートされています	N/A	N/A
アクセス権なし	N/A	サポートされています	N/A	N/A
無効	N/A	サポートされています	N/A	N/A
アンダースコア文字	N/A	サポートされています	N/A	N/A
繰返しメンバー	N/A	サポートされています	N/A	N/A
列	**列**	**列**	**列**	**列**
データなしの抑制/欠落の抑制	N/A	サポートされています	N/A	N/A
ゼロ	N/A	サポートされています	N/A	N/A
アクセス権なし	N/A	サポートされています	N/A	N/A
モード	**モード**	**モード**	**モード**	**モード**
欠落ブロックの抑制	N/A	サポートされています	N/A	N/A

表 17-12 Planning - その他のアクションでサポートされる「元に戻す」操作

操作	フォーム	アド・ホック	VBA	関数
保存されたオープンの変更	N/A	サポートされていません	N/A	N/A
別名表	N/A	サポートされています	N/A	N/A
メタデータ(メンバー・データ)	N/A	サポートされていません	N/A	N/A
セルのスタイル	N/A	サポートされていません	N/A	N/A

Narrative Reporting での「元に戻す」のサポート

表 17-13 Narrative Reporting でサポートされる元に戻す操作 - アド・ホック

操作	単一グリッド	複数グリッド	VBA	関数
ズーム・イン	サポートされています	N/A	N/A	N/A
ズーム・アウト	サポートされています	N/A	N/A	N/A
選択項目のみ保持	サポートされています	N/A	N/A	N/A
選択項目のみ除去	サポートされています	N/A	N/A	N/A
ピボット	サポートされています	N/A	N/A	N/A
リフレッシュ	サポートされています	N/A	N/A	N/A

表 17-14 Narrative Reporting でサポートされる元に戻す操作 - メンバー・オプション

操作	単一グリッド	複数グリッド	VBA	関数
全般	**全般**	**全般**	**全般**	**全般**

表 17-14 (続き) Narrative Reporting でサポートされる元に戻す操作 - メンバー・オプション

操作	単一グリッド	複数グリッド	VBA	関数
ズーム・イン・レベル	サポートされています	N/A	N/A	N/A
メンバー名の表示	サポートされています	N/A	N/A	N/A
インデント	サポートされています	N/A	N/A	N/A
祖先の位置	N/A	N/A	N/A	N/A
メンバーの保持	**メンバーの保持**	**メンバーの保持**	**メンバーの保持**	**メンバーの保持**
選択を含める	サポートされています	N/A	N/A	N/A
選択したグループ内	N/A	N/A	N/A	N/A
選択されていないグループの除去	N/A	N/A	N/A	N/A
コメントと式	**コメントと式**	**コメントと式**	**コメントと式**	**コメントと式**
アドホック操作の式とコメントを保持(ピボットを除く)	NA	N/A	N/A	N/A
- 式の充てん	N/A			
- 拡張コメント処理を有効にする	N/A			
POV 変更時に式を保持	N/A	N/A	N/A	N/A

表 17-15 Narrative Reporting でサポートされる元に戻す操作 - データ・オプション

操作	単一グリッド	複数グリッド	VBA	関数
行	**行**	**行**	**行**	**行**
データなしの抑制/欠落の抑制	サポートされています	N/A	N/A	N/A
ゼロ	サポートされています	N/A	N/A	N/A
アクセス権なし	N/A	N/A	N/A	N/A
無効	N/A	N/A	N/A	N/A
アンダースコア文字	N/A	N/A	N/A	N/A
繰返しメンバー	N/A	N/A	N/A	N/A
列	**列**	**列**	**列**	**列**
データなしの抑制/欠落の抑制	サポートされていません	N/A	N/A	N/A
ゼロ	サポートされていません	N/A	N/A	N/A
アクセス権なし	N/A	N/A	N/A	N/A
モード	**モード**	**モード**	**モード**	**モード**
欠落ブロックの抑制	N/A	N/A	N/A	N/A

表 17-16 Narrative Reporting でサポートされる元に戻す操作 - その他のアクション

操作	単一グリッド	複数グリッド	VBA	関数
保存されたオープンの変更	サポートされていません	N/A	N/A	N/A
別名表	サポートされています	N/A	N/A	N/A

表 17-16 (続き) Narrative Reporting でサポートされる元に戻す操作 - その他のアクション

操作	単一グリッド	複数グリッド	VBA	関数
メタデータ(メンバー・データ)	N/A	N/A	N/A	N/A
セルのスタイル	N/A	N/A	N/A	N/A

コピーと貼付け

Oracle Smart View for Office のアド・ホック、データ・ポイント、関数、および Oracle Business Intelligence Enterprise Edition のコンテンツは、Excel、Word および PowerPoint 間でコピーして貼り付けることができます。

次も参照:

- Smart View コンテンツのコピー、貼付けおよびリフレッシュ
- Excel、Word、および PowerPoint 間でのデータのコピー
- 貼付け済データ・ポイントでのセルの POV およびサーバー情報の表示
- Excel のコピーおよび貼付けのガイドラインおよびベスト・プラクティス
  Excel でコピーと貼付けを行うときは、次のガイドラインおよびベスト・プラクティスを考慮してください。

Smart View コンテンツのコピー、貼付けおよびリフレッシュ

次の Oracle Smart View for Office コンテンツは、Smart View のリボンの「コピー」ボタンと「貼付け」ボタンを使用してコピーして貼り付けてから、Smart View の「リフレッシュ」を使用してリフレッシュすることができます。

- アド・ホック - 適用対象のすべてのプロバイダ
- データ・ポイント - すべての該当するプロバイダ
- 関数 - HsGetValue のみ(HsGetValue 関数のコピーと貼付けも参照)
- Oracle Analytics Cloud および Oracle BI EE のコンテンツ

Excel ピボット・テーブルのコンテンツおよび Oracle Hyperion Financial Management フォームや Planning フォームなどのフォームを含め、Smart View の他のコンテンツは、静的テキストとして貼り付けられます。

チャートのコピーおよび貼付けは、Oracle Analytics Cloud および Oracle BI EE のチャートでのみサポートされています。Planning などの他のプロバイダに基づくチャートは、常に正しく貼付けされません。たとえば、チャートを挿入し、フォーマット(棒グラフから円グラフなど)を変更し、それをコピーして貼り付けると、チャートは正しく貼り付けられません。

Excel、Word、および PowerPoint 間でのデータのコピー

Oracle Smart View for Office で Excel からデータをコピーし、Excel、Word または PowerPoint に貼り付けられます。Office アプリケーション間では、コピーして貼り付けるデータは動的です。次のアプリケーション間でコピーと貼付けが可能です。

- Excel から Word および PowerPoint へ

- Excel から Excel へ(アド・ホックのみ)
- Word から Word および PowerPoint へ
- PowerPoint から Word および PowerPoint へ

データ・ポイントは、元の Excel ベースの問合せ情報を保持するため、ユーザーはデータ分析を実行できます。 Word および PowerPoint は、1 つのドキュメント内に Oracle Essbase、Oracle Hyperion Financial Management、Oracle Hyperion Planning など複数のデータ・ソースのデータ・ポイントを含めることができます。

関連トピック:

ノート

ビデオ

コピーと貼付け

データ・ポイントのコピー元スプレッドシートの取得

ノート

- 動的データ・ポイントは、Word と PowerPoint でのみ保持されます。Excel 内でデータ・ポイントをコピーして貼り付けた場合、データ・ポイントは Excel グリッドにリンクされません。
- Word から PowerPoint へ、またはその逆方向にコピーして貼り付けた場合、データは一直線に表示されます。表フォーマットは、Excel から Word または PowerPoint にデータをコピーする場合にのみ保持されます。
- データが Word および PowerPoint に貼り付けられたときに、Excel の数値のフォーマットは保持されます。データをコピーして貼り付ける前に、Excel で数値のフォーマットを適用してください。
- データ・ソースへの接続の名前にセミコロン(;)が含まれている場合は、関数データ・ポイントを貼り付けることができません。
- データ・ポイントのコピーと貼付けができるのは、グリッドおよび関数のみです。フォームまたは Excel ピボット・テーブルからデータ・ポイントをコピーできますが、これは静的テキストとして貼り付けられます。
- Excel でデータのコピーと貼付けを行う場合、貼り付けられたセルが選択されると、Excel 式バーに表示される HsGetValue 関数が Smart View によって生成され、Smart View によって生成される関数には、次のような `SVLink` 構文が含まれます:

  ```
  = HsGetValue("", "Measures#Measures", "Year#Year", "SVLink15131004130EOL",
  "Row0", "Col0")
  ```

  コピーされ貼り付けられると、`SVLink` 構文を含む関数は静的テキストになります。ただし、これらの関数は、その他の HsGetValue 関数を作成するためのテンプレートとして使用でき、これにより、`SVLink` 構文を削除して、必要とする POV ディメンションおよびメンバーで置換できます。
- Smart View がインストールされているコンピュータで、Excel から PowerPoint にコピーしたリンクを PowerPoint で更新すると、エラーが発生します。
- Excel から Word にセルをコピーして貼り付ける際、フォーマットが保持されません。
- Excel から Word または PowerPoint にデータ・ポイントをコピーする際、数値のフォーマットが保持されません。

- Financial Management アド・ホックを操作し、Excel から Word にセルをコピーして貼り付ける場合、**「Excel フォーマットの使用」**オプションが選択されている場合でもフォーマットは保持されません。
- Excel では、POV またはスライダが含まれているシートをワークブック内の別のシートにコピーすると、エラーになります。

ビデオ

目的	このビデオを見る
データ・ポイントのコピーと貼付けなど、Office アプリケーションでのデータの統合について学習します。	 Oracle Planning and Budgeting Cloud でのプラン・データと Microsoft Office との統合

コピーと貼付け

Excel、Word または PowerPoint *から*データをコピーして Excel、Word または PowerPoint *に*貼り付けるには:

1. データ・セルまたは範囲を選択します(メンバーを含めることも、含めないこともできます)。
2. Smart View のリボンから、**「コピー」**を選択します。
3. Word または PowerPoint ドキュメント、または別の Excel ワークシートまたはワークブックを開きます。
4. 接続を作成するかどうかを確認された場合は、**「はい」**をクリックします。
5. Smart View のリボンから、**「貼付け」**を選択します。
6. リフレッシュします。

> **ノート:**
>
> Word ドキュメントにデータを貼り付け、`.htm` または `.mht` などの異なる形式で保存すると、それらの形式のデータはリフレッシュできません。

7. **オプション:** データを貼り付けた後に Word または PowerPoint で POV を変更するには、**「POV の管理」**をクリックし、デフォルトまたはバックグラウンド POV のメンバーの選択の手順に従います。

データ・ポイントのコピー元スプレッドシートの取得

データ・ポイントのコピー元の Excel スプレッドシートを取得するには:

1. Excel データ・ポイントが貼り付けられた Word または PowerPoint ドキュメントで、データ・セルを選択します。
2. データ・ソースのリボンから、**「Excel でのビジュアル化」**を選択します。
3. データ・ソースへのログオンを求められた場合は、ユーザー名とパスワードを入力します。

   Excel に、データ・セルに関連付けられているスプレッドシートが表示されます。データに対してアド・ホック分析を実行できます。

貼付け済データ・ポイントでのセルの POV およびサーバー情報の表示

Microsoft Office アプリケーションからデータ・ポイントをコピーして貼り付けて、Office ドキュメントをリフレッシュしたら、データ・ポイントを選択して、POV とソース・サーバー情報を表示できます。

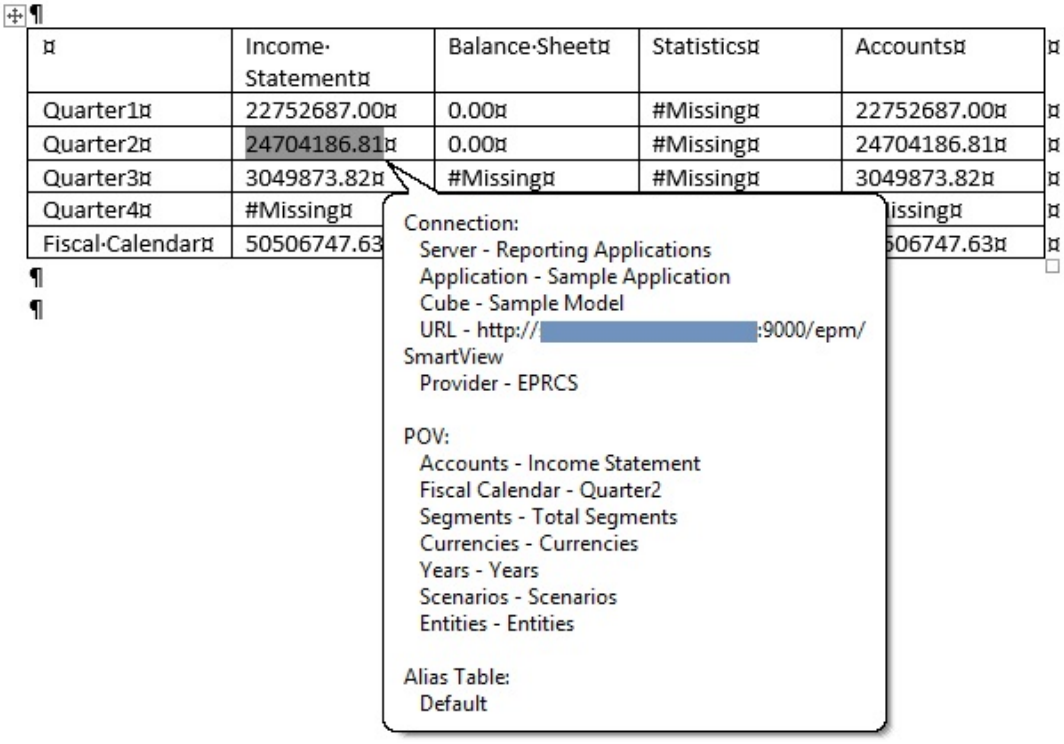
この手順は、Excel からコピーされ、Excel、Word または PowerPoint に貼り付けられたデータ・ポイント、または Word と PowerPoint の間でコピーされて貼り付けられたデータ・ポイントで有効です。

貼り付けられたデータ・ポイントの POV とソース・サーバー情報を表示するには:

1. 貼付け先の Office ドキュメントでデータ・ポイントを選択します。

   たとえば、Excel から Word へアド・ホック・グリッドをコピーして貼り付けた場合は、Word で、貼り付けてからリフレッシュしたグリッド内のデータ・ポイントを選択します。場合によっては、セルをダブルクリックするだけで十分ですが、セルに小数点が含まれる場合は、手動で選択する必要があります。
   セルの POV とサーバー情報は図 1 のようにホバー・テキストとして表示されます。

図 17-10 選択したデータ・セル上にホバー・テキストが表示される貼付け済グリッド



2. ホバー・テキストを閉じるには画面の任意の場所をクリックします。

Excel のコピーおよび貼付けのガイドラインおよびベスト・プラクティス

Excel でコピーと貼付けを行うときは、次のガイドラインおよびベスト・プラクティスを考慮してください。

- データ・フォームでは、セルのコピー後、貼付けは 1 回しか行えません。後続のセルへの貼付けはサポートされていません。

  回避策: 一度セルを貼り付けると、セルを別のセルに貼り付けるには、セルを再度コピーする必要があります。

- 非表示列を含むフォームまたはアド・ホック・グリッドで、表示可能列および非表示列を含む範囲から複数の連続した列をコピーし、表示可能列および非表示列を含む範囲に貼り付けようとすると、予期しない結果になります。コピーされたセルは、表示可能列と非表示列の両方に貼付けられます。これは Excel の動作です。

  たとえば、フォームで次の Year 階層を操作しているとします:

  ```
  Year
     Quarter
        Month
  ```

  フォームでは、Quarter メンバーは縮小されるため、表示可能なメンバーは Year および Month のみです。4 つの Quarter セルの下のいずれかの行から値をコピーして、別のグリッドまたはフォーム内の Quarter の下の別の行(Quarter メンバーも縮小されています)に貼り付けます。

  前のシートと同じ場所に 4 つの Quarter の各値が貼り付けられていると考える可能性がありますが、そのようにはなりません。セルでは最初の表示可能セル、次に 3 つの非表示セル(Jan、Feb、Mar など)に貼り付けられます。

  一部の Planning フォームでも分散が有効化されており、値がセルでどのように更新されるかに影響する場合があることも考慮してください。

- Office のコピーおよび貼付けは、スライド、ページおよびシート間のチャート、表、スライダ、POV などの Oracle Smart View for Office オブジェクトのコピーおよび貼付けではサポートされません。Smart View は、無効なコピーを必ずしも適切に処理しません。たとえば、PowerPoint では、Smart View チャートが Office のコピーおよび貼付けを使用してコピーされた場合、最新の情報に更新したときにエラー・メッセージが表示されます。次のベスト・プラクティスに従います:

  – Office のコピーおよび貼付けを使用して Smart View レポート・オブジェクトをコピーしないでください。かわりに、Smart View のコピーおよび貼付けを使用します。

  – PowerPoint の「グラフの挿入」コマンドを使用して挿入されたチャートのコピーおよび貼付けはしないでください。これは、Office のコピーおよび貼付けと Smart View のコピーおよび貼付けの両方に適用されます。

- Excel のコピーおよび貼付け機能を使用し、その後任意の Smart View 操作(「リフレッシュ」、「ズーム・イン」、「送信」など)を実行すると、次の場合に Smart View が応答を停止します。

  – コピーされた列にスマート・リストが含まれているか、接続先のデータベースで重複するメンバー名がサポートされている場合の複数列への列のコピー

  – 複数のセルへの 1 つのスマート・リスト・セルのコピー

接続先のデータベースで重複するメンバー名がサポートされている場合の複数のセルへの 1 つのメンバー・セルのコピー

これを回避するには、次のことを検討してください:

– アド・ホック・グリッドの設計、および列またはセルのコピーと貼付け時に、**「メンバー名の表示」**オプションが「個別のメンバー名のみ」に設定されていることを確認します。**「メンバー名の表示」**オプションは、**「オプション」**ダイアログ・ボックスの**「メンバー・オプション」**タブにあります。

– 貼付け後に、ワークブックを保存して再度開き、リフレッシュを実行します。

Microsoft Fix for Office 2016:

Microsoft サポート技術情報(KB)の記事「August 9, 2016, update for Excel 2016 (KB3115438)」で説明されている更新プログラムを適用した場合、前述のコピーおよび貼付けのケースは Office 2016 で期待どおりに動作します:

https://support.microsoft.com/en-us/help/3115438/august-9--2016--update-for-excel-2016-kb3115438

Office ドキュメントの Cloud EPM への保存

Oracle Smart View for Office では、Microsoft Office ドキュメントを Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management ライブラリに保存できます。Cloud EPM ライブラリに保存したドキュメントは、他のユーザーに対してアクセス可能にできます。保存したファイルをライブラリからダウンロードすることもできます。

Related Topics

- Smart View から Cloud EPM への Office ドキュメントの保存について
  Oracle Smart View for Office では、Microsoft Office ドキュメント(Word、Excel および PowerPoint ファイル)を Cloud EPM ライブラリに保存できます。保存したファイルをライブラリからダウンロードすることもできます。
- Web インタフェースを使用した Cloud EPM プラットフォーム・ライブラリでのフォルダの作成
  Planning や Financial Consolidation and Close などのビジネス・プロセスの Web インタフェースを使用して、Cloud EPM プラットフォーム・ライブラリにフォルダを作成することにより、ドキュメントを整理できます。
- Smart View を使用した Narrative Reporting ライブラリでのフォルダの作成
  ユーザーは Narrative Reporting ライブラリにフォルダを作成して、ドキュメントを整理できます。**「ドキュメント」**ノードの Smart View パネルにツリー構造のフォルダを作成できます。
- Smart View を使用した Office ドキュメントの Cloud EPM ライブラリへの保存
  ドキュメントは、Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management の**「ドキュメント」**フォルダまたは作成したサブフォルダに保存できます。
- Cloud EPM ライブラリの Office ドキュメントへのアクセスの管理
  サービス管理者またはパワー・ユーザーの役割がある Narrative Reporting ユーザーおよび Cloud EPM プラットフォーム・ユーザーは、Oracle Smart View for Office から Cloud EPM ライブラリの Microsoft Office ドキュメントへのユーザー・アクセスを制限できます。

Smart View から Cloud EPM への Office ドキュメントの保存について

Oracle Smart View for Office では、Microsoft Office ドキュメント(Word、Excel および PowerPoint ファイル)を Cloud EPM ライブラリに保存できます。保存したファイルをライブラリからダウンロードすることもできます。

適用対象: Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Narrative Reporting、Planning、Planning モジュール、Tax Reporting

> **Note:**
>
> Office ドキュメントの保存のトピックでは、Cloud EPM プラットフォームは次のビジネス・プロセスを参照します: Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Planning および Tax Reporting。

ユーザーは、多くの場合、Office ドキュメントを電子メールで送信したり、社内の場所に保存して共有します。Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management ライブラリへのファイルの保管は、ファイルを中央の場所に保存して、他のユーザーとのドキュメントの共有を容易にするもう 1 つの選択肢です。ユーザーは、保存したファイルをライブラリからダウンロードすることもできます。

Smart View パネルの**「ドキュメント」**ノードにフォルダおよびファイルを表示するには、ユーザーが Cloud EPM ビジネス・プロセスに接続している必要があります。接続していないユーザーは、**「保存」**または**「名前を付けて保存」**オプションを使用するときにサインインするように求められます。

Smart View を使用した Office ドキュメントの Cloud EPM ライブラリへの保存を参照してください

ドキュメント、フォルダおよびアクセスに関するガイドライン

- Cloud EPM プラットフォーム:
  - ドキュメントを Cloud EPM に保存するには、サービス管理者またはパワー・ユーザーの役割が必要です。
  - Cloud EPM ライブラリには、サイズが 20 MB までの任意の Word、Excel または PowerPoint ファイルを保存できます。ファイルがなんらかの方法で Cloud EPM ビジネス・プロセスに関連している必要はありません。
- Cloud EPM サービス管理者:
  - Smart View には、実行時に`<Smart View Install>/cfg` フォルダ、`properties.xml` ファイルへの書込みアクセス権が必要です。このフォルダおよびファイルへの書込み権限がない場合は、保存しようとするとアクセス拒否エラーが発生する可能性があります。
  - Cloud EPM ライブラリの Office ドキュメントへのアクセスの管理に説明されている `properties.xml` ファイルの `enableLibrary` プロパティを構成することで、**「保存」**および**「名前を付けて保存」**オプションへのアクセスを制限できます
  - EPM 自動化コマンドまたは REST API を使用して、Smart View から Cloud EPM ライブラリに保存した Office ドキュメントに対してウィルス・スキャンを有効にできます。

ウィルス・スキャンを有効にすると、感染したファイルを環境にアップロードできないようにすることで、OCI (Gen 2)環境のセキュリティを強化できます。次を参照してください。

* *管理者用スタート・ガイド*の OCI (Gen 2)環境にアップロードされたファイルに対するウィルス・スキャン
* *EPM 自動化の操作*:
  * getVirusScanOnFileUploads
  * setVirusScanOnFileUploads
* *Oracle Fusion Cloud EPM の REST API*
  * ファイル・アップロードに対するウィルス・スキャンの取得
  * ファイル・アップロードに対するウィルス・スキャンの設定

- Narrative Reporting:
  - Narrative Reporting 拡張機能を使用可能にしている場合は、**「ライブラリ」**ノードにある一部のフォルダが Smart View パネルの**「ドキュメント」**ノードに重複して表示されます。これはフォルダの仮想ビューであり、**「保存」**または**「名前を付けて保存」**オプションの動作には影響を与えません。保存したコンテンツには、ツリー内のいずれかの場所からアクセスできます。
  - レポート・パッケージからドックレットを保存すると、Narrative Reporting およびレポート・パッケージに関連付けられたメタデータがすべて失われ、標準の Office ドキュメントになります。**「保存」**または**「名前を付けて保存」**を実行すると、Office ドキュメントは閉じられます。保存済のドキュメントを、保存した場所から再度開くには、Smart View パネルのツリーからそのドキュメントを選択します。
  - Narrative Reporting レポートを Cloud EPM ライブラリに保存するサイズ制限はありません。

Web インタフェースを使用した Cloud EPM プラットフォーム・ライブラリでのフォルダの作成

Planning や Financial Consolidation and Close などのビジネス・プロセスの Web インタフェースを使用して、Cloud EPM プラットフォーム・ライブラリにフォルダを作成することにより、ドキュメントを整理できます。

適用対象: Cloud EPM プラットフォーム

このトピックの手順では、Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management ビジネス・プロセスでフォルダを作成する方法について説明します。Cloud EPM ビジネス・プロセスに接続している間は、Oracle Smart View for Office からフォルダを作成できません。

> **Note:**
>
> - Cloud EPM プラットフォーム: Smart View で Smart View パネルの**「ドキュメント」**ノードにフォルダのファイルを表示するには、サポートされているビジネス・プロセスに接続し、システム管理者かパワー・ユーザーの役割が割り当てられている必要があります。
> - Narrative Reporting: Narrative Reporting Web でフォルダを作成する場合は、*Narrative Reporting ドックレットの文書作成および承認*のライブラリへのアーティファクトの作成を参照してください。または、Smart View を使用した Narrative Reporting ライブラリでのフォルダの作成で説明されているように、Smart View からフォルダを作成できます。

Cloud EPM プラットフォーム Web インタフェースでライブラリ・フォルダを作成するには:

1. サポートされている Oracle Fusion Cloud EPM Web ビジネス・プロセス(例: Planning)にログオンします。
2. ホーム・ページで、**「レポート」**をクリックします。
3. 左側にある**「ドキュメント」**をクリックします。
4. 下に新規フォルダを作成するフォルダを選択し、選択したフォルダの**「アクション」**ドロップダウン・メニューをクリックし、次に**「フォルダの作成」**を選択します。
5. **「フォルダの作成」**ダイアログでフォルダ名を入力し、次に**「OK」**をクリックします。

   作成したフォルダは、前に選択した親フォルダの下に表示されます。

   たとえば、**「ライブラリ」**フォルダを選択した場合、新規フォルダは Web では**「ライブラリ」**の下、Smart View では**「ドキュメント」**ノードの下に表示されます。

   これで、このフォルダにファイルを保存できます。
6. **オプション:** これらの手順を繰り返して、新しいフォルダまたはサブフォルダを追加します。
7. 「ライブラリ」フォルダ(Smart View の**「ドキュメント」**ノード)および作成したその他のフォルダにファイルを保存するには、Smart View を使用した Office ドキュメントの Cloud EPM ライブラリへの保存を参照してください。

Smart View を使用した Narrative Reporting ライブラリでのフォルダの作成

ユーザーは Narrative Reporting ライブラリにフォルダを作成して、ドキュメントを整理できます。**「ドキュメント」**ノードの Smart View パネルにツリー構造のフォルダを作成できます。

適用対象: Narrative Reporting

このトピックの手順では、Narrative Reporting への接続中の Oracle Smart View for Office でのフォルダの作成について説明します。Cloud EPM プラットフォーム・ビジネス・プロセスでフォルダを作成するには、Web インタフェースを使用した Cloud EPM プラットフォーム・ライブラリでのフォルダの作成を参照してください。Narrative Reporting Web でフォルダを作成する場合は、*Narrative Reporting ドックレットの文書作成および承認*のライブラリへのアーティファクトの作成を参照してください。

Smart View でフォルダを作成し、Smart View パネルの**「ドキュメント」**ノードの下にフォルダおよびファイルを表示するには、Narrative Reporting ビジネス・プロセスに接続されている必要があります。

Smart View で Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management ライブラリ・フォルダを作成するには:

1. Narrative Reporting に接続します。

   プライベート接続を使用した接続を参照してください。
2. Narrative Reporting ホームで、**「ライブラリ」**を選択します。
3. Smart View パネルで、**「Narrative Reporting」**を展開し、次に**「ライブラリ」**を展開します。
4. ツリー内の**「ドキュメント」**ノードを探します。
5. **「ドキュメント」**ノードを右クリックして、**「新規フォルダ」**を選択します。

   または、アクション・パネルで**「ドキュメント」**を選択し、次に**「新規フォルダ」**を選択します。
6. **「新規フォルダの作成」**ダイアログでフォルダ名を入力し、**「OK」**をクリックします。

   作成したフォルダが**「ドキュメント」**ノードの下に表示されます。

   これで、このフォルダにファイルを保存できます。
7. **オプション:** これらの手順を繰り返して、新しいフォルダまたはサブフォルダを追加します。

   > **Note:**
   >
   > Narrative Reporting 拡張機能を使用可能にしている場合は、**「ライブラリ」**ノードにある一部のフォルダが Smart View パネルの**「ドキュメント」**ノードに重複して表示されます。フォルダおよびサブフォルダを作成するときは必ず、**「ドキュメント」**ノード、または**「ドキュメント」**ノードの下にあるフォルダを選択して**「新規フォルダ」**コマンドにアクセスしてください。
8. 「マイ・ライブラリ」のファイル、および作成したフォルダを保存する場合は、Smart View を使用した Office ドキュメントの Cloud EPM ライブラリへの保存を参照してください。

Smart View を使用した Office ドキュメントの Cloud EPM ライブラリへの保存

ドキュメントは、Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management の**「ドキュメント」**フォルダまたは作成したサブフォルダに保存できます。

Oracle Smart View for Office では、サイズが 20 MB までの Microsoft Office ドキュメント (Word、Excel および PowerPoint ファイル)を Cloud EPM ライブラリに保存できます。ただし、Narrative Reporting レポートを Cloud EPM ライブラリに保存するサイズ制限はありません。Cloud EPM ライブラリに保存したドキュメントには、適切なアクセス権を持つ他のユーザーがアクセスできます。保存したファイルをライブラリからダウンロードすることもできます。

始める前に、必要なフォルダを作成します。Web インタフェースを使用した Cloud EPM プラットフォーム・ライブラリでのフォルダの作成または Smart View を使用した Narrative Reporting ライブラリでのフォルダの作成を参照してください。

Office ドキュメントを Cloud EPM に保存するには:

1. Office アプリケーション(Word、Excel または PowerPoint)を開き、Cloud EPM ビジネス・プロセスに接続します。

   接続していない場合は、**「保存」**または**「名前を付けて保存」**オプションを使用するときにサインインするように求められます。

2. **このステップは、Office ドキュメントを Cloud EPM に初めて保存する前に実行します:** Smart View パネルで、キューブに移動し、アクション・パネルから**「接続」**を選択します。

   または、Smart View パネルでキューブを右クリックし、**「接続」**を選択します。

   > **Note:**
   >
   > このステップは、Office ドキュメントを保存することを予定しているビジネス・プロセスごとに 1 回のみ実行する必要があります。

3. 現在開いている Office ドキュメントを、開いたときと同じフォルダに保存するには、Smart View のリボンの**「保存」**をクリックします。

   ファイルをダウンロードして変更した後、**「保存」**コマンドを使用します。**「保存」**をクリックすると、**「ドキュメント」**ノードの同じ場所にファイルが保存されます。

   > **Note:**
   >
   > 次のベスト・プラクティスを検討してください:
   >
   > - 新しい Office ドキュメントを開始した場合は、最初に Office アプリケーションで保存を実行する必要があります。たとえば、新規の Word ファイルを開始した場合は、Word で「保存」コマンドを使用してファイルを保存し、ファイルがローカルまたはネットワーク上の場所に保存されるようにします。
   >
   >   次に、Smart View のリボンで**「保存」**をクリックすると、Office にファイルを保存した名前で Smart View によってドキュメントが保存されます。
   >
   > - ウィルス・スキャンが有効になっている Cloud EPM OCI (Gen 2)環境に接続しているとき、保存しようとしているファイルにウィルスが含まれている場合、そのファイルは保存されません。
   >
   > - **Narrative Reporting:** デフォルトでは、**「保存」**オプションを使用すると、Office ファイルは個人フォルダである「マイ・ライブラリ」に保存されます。保存が成功または失敗したことを示すメッセージが表示され、このメッセージで**「OK」**をクリックします。
   >
   >   他のユーザーは、「マイ・ライブラリ」フォルダや保存済ファイルにアクセスできません。「マイ・ライブラリ」に保存したファイルをダウンロードして操作できます。ファイルをダウンロードして変更した後に**「保存」**をクリックすると、ファイルは「マイ・ライブラリ」の同じ場所に保存されます。**「名前を付けて保存」**オプションを使用すると、Cloud EPM ライブラリ内の他のユーザーがアクセス可能なフォルダの場所にファイルが保存されます。

4. 現在開いている Office ファイルを Cloud EPM ライブラリの選択したフォルダに保存するには、**「名前を付けて保存」**をクリックし、次の設定を指定して、**「アップロード」**をクリックします。

- **クラウド接続** - ドロップダウン・リストからライブラリ・プロバイダ接続を選択します。
- **ライブラリ・フォルダの場所** - **「参照」**ボタンを使用して、ファイルを保存するフォルダに移動します。
- **ドキュメント名** - ファイルの名前を入力します。名前は実際のファイル名と同じである必要はありません。
- **説明** - 保存されたファイルに必要に応じて説明を入力します。

自分および他のユーザーは、Cloud EPM ライブラリ内のフォルダに保存されたファイルをダウンロードして操作できます。次のベスト・プラクティスを検討してください:

- ファイルをダウンロードして変更した後に**「保存」**をクリックすると、ファイルは Cloud EPM ライブラリの同じ場所に保存されます。
- **「名前を付けて保存」**オプションを使用すると、Cloud EPM ライブラリ内の他のユーザーがアクセス可能な別のフォルダの場所にダウンロード済ファイルが保存されます。
- **「名前を付けて保存」**オプションを使用してドキュメントを保存すると、ドキュメントのデフォルトのファイル拡張子に基づいてファイル拡張子が自動的に追加されます。たとえば、ローカルの Excel シートの拡張子が古い `.xls` 形式である場合、シートは同じ拡張子で Cloud EPM ライブラリに保存されます。
- 古い Microsoft Office フォーマット(`.xls`、`.doc`、`.ppt`)から新しいフォーマット(`.xlsx`、`.docx`、`.pptx`)にドキュメントを変換するには、Office アプリケーションの「名前を付けて保存」コマンドを使用して最初に新しいフォーマットでファイルをローカルに保存してから、Smart View の**「名前を付けて保存」**機能を使用して Cloud EPM ライブラリにアップロードします。

5. **「ドキュメント」**フォルダから Cloud EPM ライブラリの選択したフォルダに保存する他の Office ドキュメントについて、前述の手順を繰り返します。

Cloud EPM ライブラリの Office ドキュメントへのアクセスの管理

サービス管理者またはパワー・ユーザーの役割がある Narrative Reporting ユーザーおよび Cloud EPM プラットフォーム・ユーザーは、Oracle Smart View for Office から Cloud EPM ライブラリの Microsoft Office ドキュメントへのユーザー・アクセスを制限できます。

> **Note:**
>
> - このトピックのタスクは、`<Smart View Install>/cfg` フォルダ(`C:\Oracle\SmartView\cfg` など)にある `properties.xml` ファイルの編集を詳しく把握しているサービス管理者またはユーザーを対象としています。
> - Cloud EPM プラットフォームでは、この機能は、サービス管理者およびパワー・ユーザーの役割があるユーザーに制限されます。
> - Narrative Reporting では、役割によるユーザーの制限はありません。

Smart View では、Office ドキュメントにアクセスして Cloud EPM ライブラリに保存する機能がデフォルトで有効になっています。

このアクセスは、Smart View の properties.xml ファイルで enableLibrary プロパティを 0 に設定することで削除できます。このファイルは、<Smart View Install>/cfg フォルダ (C:\Oracle\SmartView\cfg など)にあります。

表 1 は、サービス管理者またはパワー・ユーザーの役割があるユーザーと役割がないユーザーに対して enableLibrary プロパティを有効および無効にした場合の効果をまとめたものです。

Table 17-17　enableLibrary プロパティとサービス管理者またはパワー・ユーザーの役割設定の効果

enableLibrary プロパティ設定	サービス管理者またはパワー・ユーザーの役割 = あり	サービス管理者またはパワー・ユーザーの役割 = なし
enableLibrary=1	• ツリーに**「ドキュメント」**ノードが表示されます • リボンのボタンが表示されます • ダイアログにプロバイダ URL が表示されます	• ツリーに**「ドキュメント」**ノードが表示されません • リボンのボタンが表示されます(他のプロバイダに保存できます) • ダイアログにプロバイダ URL は表示されません
enableLibrary=0	• ツリーに**「ドキュメント」**ノードが表示されません • リボンのボタンは表示されません(ダイアログにアクセスできません)	• ツリーに**「ドキュメント」**ノードが表示されません • リボンのボタンは表示されません(ダイアログにアクセスできません)

この手順は、properties.xml の enableLibrary プロパティを無効にしてから再度有効にする方法を示しています

enableLibrary プロパティを無効にして、Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management での Office ドキュメントの保存およびダウンロードへのアクセスを制限するには:

1. Smart View の properties.xml ファイルをテキスト・エディタで開きます。

   properties.xml ファイルは、<Smart View Install>/cfg フォルダ (C:\Oracle\SmartView\cfg など)にあります。

2. 次のエントリを探します:

   ```
   <!-- Enable Library on client. -->
       <enableLibrary>1</enableLibrary>
   ```

3. enableLibrary 値を 0 に変更します。次に例を示します:

   ```
   <!-- Enable Library on client. -->
       <enableLibrary>0</enableLibrary>
   ```

4. 更新されたファイルを保存します。

5. 社内プロセスに従ってファイルを配布します。

   properties.xml ファイルがユーザーに配布された後、**「保存」**および**「名前を付けて保存」**オプションにアクセスまたは使用できるかどうか、およびライブラリの**「ドキュメント」**フォルダを表示できるかどうかは、表 1 に説明されている各ユーザーのサービス管理者またはパワー・ユーザーのステータスによって異なります。

6. **オプション:** この手順を繰返してプロパティを 1 に設定することで、enableLibrary プロパティを再度有効にします。次に例を示します:

```
<!-- Enable Library on client. -->
    <enableLibrary>1</enableLibrary>
```

properties.xml ファイルがユーザーに配布されると、サービス管理者またはパワー・ユーザーの役割を持つ Narrative Reporting ユーザーおよび Cloud EPM プラットフォーム・ユーザーは、次回 Smart View を開始すると、Smart View のリボンの**「ライブラリ」**グループに表示される**「保存」**および**「名前を付けて保存」**オプションを使用できます。

Office アプリケーションのメタデータのインポート

メタデータは POV、別名表、接続情報などの Oracle Smart View for Office アーティファクトで構成されます。

関連トピック:

コピーしたワークシートへのメタデータのインポート

コピーされた Word ドキュメントへのメタデータのインポート

コピーしたスライドまたはプレゼンテーションへのメタデータのインポート

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Planning、Narrative Reporting、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting、Oracle Hyperion Reporting and Analysis

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Oracle Hyperion Financial Management、Oracle Hyperion Planning、Reporting and Analysis

新しい Office ドキュメントで、必要なフォーマットとレイアウトだけでなくデータ・ポイントも含む既存のドキュメントの Smart View コンテンツを使用できます。最初から Smart View を作成しなおさなくても、すでに使用可能な作業を再利用できます。

Microsoft Office のコピー・コマンドと貼付けコマンドを使用して、Office ドキュメント内または Office ドキュメント間で Smart View コンテンツをコピーする場合、静的データおよびフォーマットがコピーされますが、Smart View メタデータはコピーされません。そのため、データがコピーされたアド・ホック・シートをリフレッシュすると、メンバーが正しい位置にないことを示すエラーが発生する可能性があります。このエラーを防止するには、**「メタデータのインポート」**コマンドを使用して、追加のデータも新しいシートに確実に引き継がれるようにする必要があります。

データをコピーした後に、**「メタデータのインポート」**コマンドを使用して、元の Office ドキュメントから新しい Office ドキュメントにメタデータをインポートできます。

Office のコピー・コマンドと貼付けコマンドを使用して、次のように個々の Office アプリケーション内のコンテンツをコピーできます。

- Excel ワークシートから現在の Excel ワークブック内の別のワークシートへ、または別のワークブックへ
- Word ドキュメントから現在の Word ドキュメント内の同じまたは別のページへ、または別の Word ドキュメントへ
- PowerPoint スライドまたはプレゼンテーションから現在の PowerPoint プレゼンテーション内のスライドまたは別のプレゼンテーションへ

メタデータのインポートに関するガイドラインおよびベスト・プラクティス

メタデータをコピー、貼付けおよびインポートする際は、次のガイドラインとベスト・プラクティスに注意してください:

- **Excel:**
  - メタデータは次の場合にインポートできます:
    - アドホック・モード(スマート・スライスを含む)
    - フォーム
    - 関数
      - Smart View のコピーと貼付けによって作成された、シート内の問合せにバインドされた関数
      - 関数ビルダーで作成された、問合せにバインドされていない関数
    - Reporting and Analysis のプロバイダからインポートされたレポートを含むワークシート
  - レポート・デザイナ・オブジェクトを含むワークシートのメタデータをインポートできませんが、レポートおよびアド・ホック・グリッドのカスケードの説明に従って重ねて表示し、そのようなワークブックをレプリケートできます。

    > **ノート:**
    >
    > この手順は、上級ユーザーのみが実行するようにしてください。

- **Word:**
  - グラフのコピーと貼付けが可能です
  - データ・ポイントを含む表全体をコピーして貼り付けるか、既存のテキスト内の個々のデータ・ポイントをインラインで貼り付けることができます
  - メタデータをコピーされた同じオブジェクトまたは図形からインポートする必要があります。
  - ソース Word ドキュメントにあるすべてのメタデータがコピーされるのではなく、コピーしたオブジェクトまたは図形のメタデータのみコピーされます。
  - **「メタデータのインポート」**コマンドを使用するには、現在の Word ドキュメントまたは別の Word ドキュメントであるかどうかにかかわらず、宛先ドキュメントに少なくとも 1 つのコピーされた Smart View オブジェクトが必要です。
  - 同じ Word ドキュメント内に POV またはスライダをコピーすると、ドキュメントで正しく動作しなくなります。
- **PowerPoint:**
  - 単一のスライドを選択して、インポート・プロセスを開始する必要があります。スライドが選択されていないか、複数のスライドが選択されている場合に、**「メタデータのインポート」**コマンドを呼び出すと、Smart View にエラー・メッセージが表示されます。
  - **「メタデータのインポート」**コマンドを選択する前にオブジェクトを最初にコピーする必要があります。それ以外の場合、Smart View でメッセージを使用して求めます。

- オブジェクトのコピー元のスライドとメタデータのインポート元のスライドは同じにする必要があります。
- ソース・スライドにあるすべてのメタデータがコピーされるのではなく、コピーしたオブジェクトまたは図形のメタデータのみコピーされます。
- POV またはスライダを含むスライドを複製できますが、メタデータをインポートするとエラーが発生します。
- 同じプレゼンテーション内に POV またはスライダをコピーすると、プレゼンテーションで正しく動作しなくなります。

コピーしたワークシートへのメタデータのインポート

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Planning、Narrative Reporting、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting、Oracle Hyperion Reporting and Analysis

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Oracle Hyperion Financial Management、Oracle Hyperion Planning、Reporting and Analysis

開始する前に、Office アプリケーションのメタデータのインポートでコンテンツを必ずレビューしてください。

> **ノート:**
>
> この操作は元に戻せません。

メタデータをコピーされたワークシートにインポートするには:

1. 作業をバックアップします。
2. Smart View リボンから**「オプション」**、**「詳細」**の順に選択し、**「向上したメタデータ・ストレージ」**が選択されていることを確認します。
3. Excel を使用してワークシートをコピーします。

   この操作では、ソース・ワークシートにある表示可能なコンテンツはコピーされますが、メタデータ(接続情報、POV 選択、別名表などのアイテム)は宛先のワークシートにコピーされません。
4. 宛先のワークシートがアクティブな状態で、Oracle Smart View for Office のメニューから**「詳細」**、**「メタデータのインポート」**の順に選択して、開いているすべてのワークブックと、それらに対応する開いているワークシートのリストを表示します。
5. リストから、宛先のワークシートにインポートするメタデータが含まれているワークシートを選択します。
6. **「OK」**をクリックします。選択内容を確認するメッセージが表示されます。
7. リフレッシュします。
8. **「ドキュメント・コンテンツ」**ペインをリフレッシュするには、をクリックします

コピーされた Word ドキュメントへのメタデータのインポート

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Analytics Cloud、Oracle Essbase、Planning、Planning モジュール、Narrative Reporting、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Oracle Hyperion Financial Management、Oracle Hyperion Planning、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition、Oracle Hyperion Reporting and Analysis

開始する前に、Office アプリケーションのメタデータのインポートでコンテンツを必ずレビューしてください。

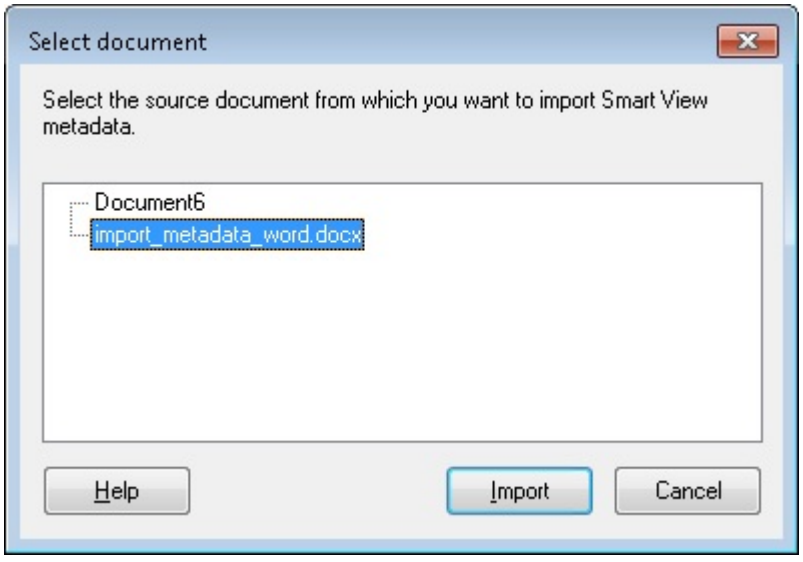
> **ノート:**
>
> この操作は元に戻せません。

メタデータを Word ドキュメントにインポートするには:

1. 作業をバックアップします。
2. Smart View リボンから**「オプション」**、**「詳細」**の順に選択し、**「向上したメタデータ・ストレージ」**が選択されていることを確認します。
3. Word のコピー・コマンドと貼付けコマンドを使用して、グラフや表などの Smart View オブジェクトをコピーします。

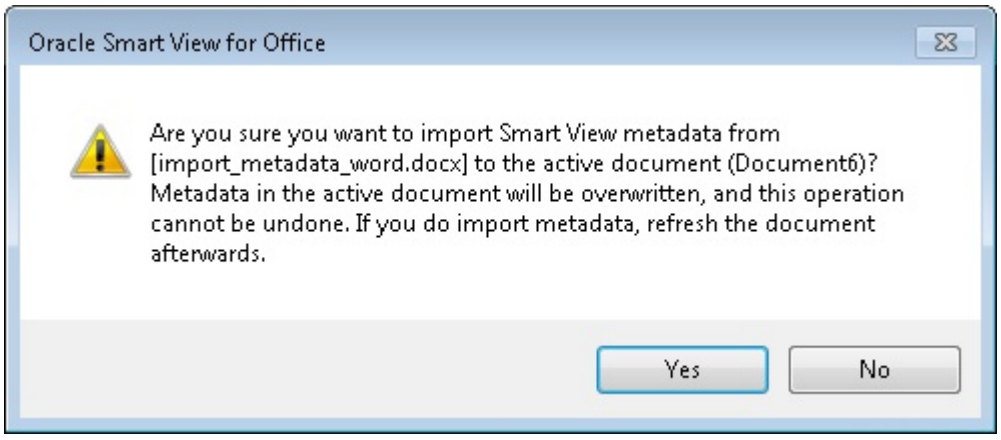
   この操作では、ソース・オブジェクトの表示可能なコンテンツが宛先ドキュメントにコピーされ、メタデータ(接続情報、POV 選択、別名表およびこのようなその他のアイテムなど)はコピーされません。
4. 宛先ドキュメントがアクティブな状態で、Smart View リボンから**「メタデータのインポート」**、Import Metadataをクリックします。
5. **「スライドの選択」**ダイアログ・ボックスで、宛先スライドまたはプレゼンテーションにインポートするメタデータを含むスライドまたはプレゼンテーションを選択し、**「インポート」**をクリックします。

   次の例では、import_metadata_word.docx はメタデータをインポートするドキュメントです。



> **ノート:**
>
> メタデータを Word にインポートする場合、アクティブなターゲット・ドキュメントが**「ドキュメントの選択」**ダイアログ・ボックスのツリーに表示されます。これは、メタデータが Word ドキュメント内にインポートされる場合にアクティブなドキュメントが宛先ドキュメントでもある可能性があるからです。

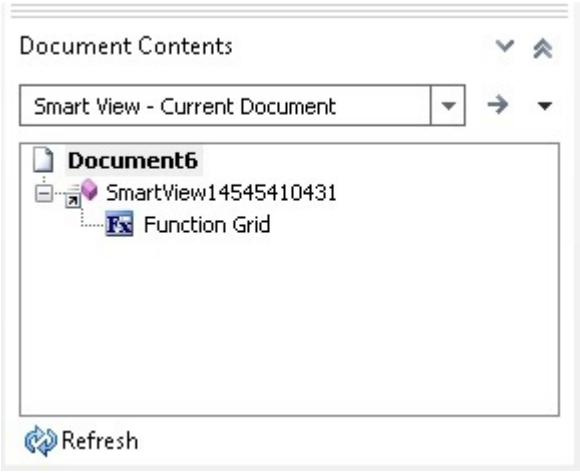
確認メッセージが表示されます。



6. 確認ダイアログ・ボックスで**「はい」**をクリックします。
7. リフレッシュします。

   成功すると、**「ドキュメント・コンテンツ」**ペインがドキュメントのメタデータで更新されます。図 1 に例を示します。

図 17-11 メタデータのインポート後の「ドキュメント・コンテンツ」ペイン



コピーしたスライドまたはプレゼンテーションへのメタデータのインポート

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Analytics Cloud、Oracle Essbase、Planning、Planning モジュール、Narrative Reporting、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting、Oracle Hyperion Reporting and Analysis

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Oracle Hyperion Financial Management、Oracle Hyperion Planning、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition、Reporting and Analysis

開始する前に、Office アプリケーションのメタデータのインポートでコンテンツを必ずレビューしてください。

> **ノート:**
>
> この操作は元に戻せません。

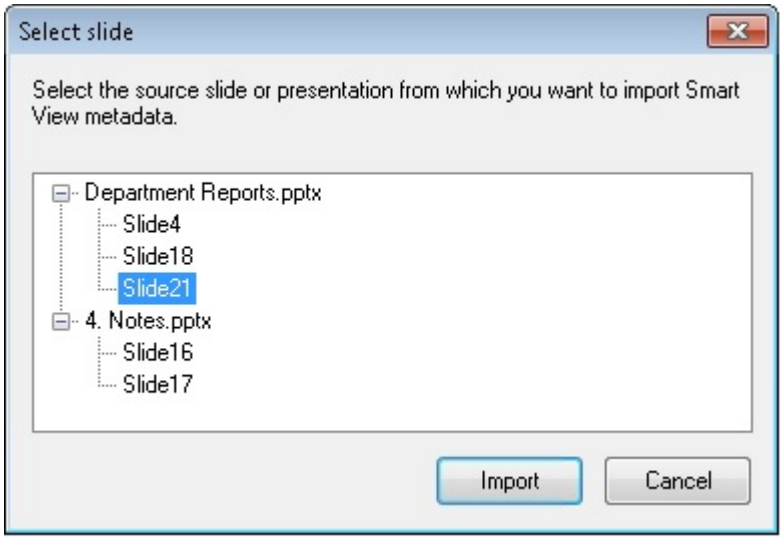
PowerPoint スライドまたはプレゼンテーションにメタデータをインポートするには:

1. 作業をバックアップします。
2. Smart View リボンから**「オプション」**、**「詳細」**の順に選択し、**「向上したメタデータ・ストレージ」**が選択されていることを確認します。
3. PowerPoint のコピー・コマンドを使用して、PowerPoint でサポートされているいずれかの方法で情報をコピーします。次に例を示します:
   - 個々のオブジェクトをコピーして宛先スライドに貼り付けます。宛先スライドはソース・プレゼンテーションの一部である場合も別のプレゼンテーションの一部である場合もあります。
   - スライドを複製します。
   - 完全なスライドをコピーして、同じプレゼンテーションまたは別のプレゼンテーションに貼り付けます。
   - 任意のスライドをドラッグして別のプレゼンテーションにドロップします。
   - プレゼンテーション全体をコピーして貼り付けます。

   この操作では、ソース・スライドの表示可能なコンテンツが宛先スライドまたはプレゼンテーションにコピーされ、メタデータ(接続情報、POV 選択、別名表およびこのようなその他のアイテムなど)はコピーされません。
4. 宛先スライドまたはプレゼンテーションがアクティブな状態で、Smart View リボンから**「メタデータのインポート」**、をクリックします。
5. **「スライドの選択」**ダイアログ・ボックスで、宛先スライドまたはプレゼンテーションにインポートするメタデータを含むスライドまたはプレゼンテーションを選択し、**「インポート」**をクリックします。

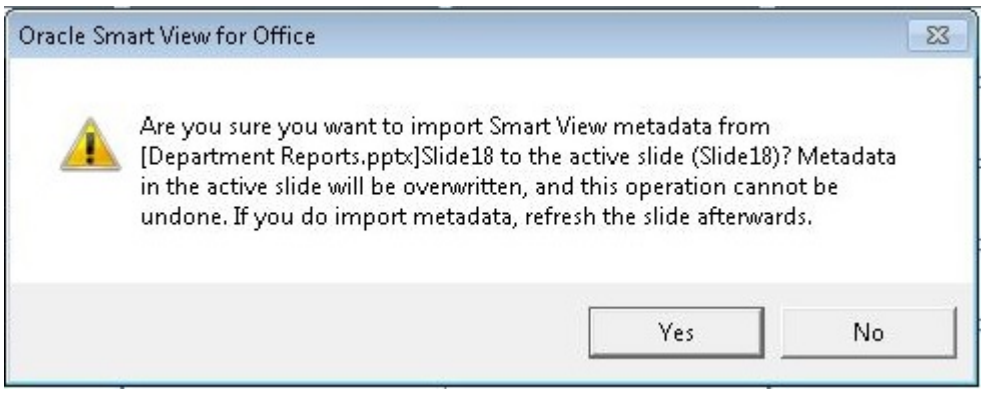
   プレゼンテーションからメタデータをインポートすると、特に大量のスライドと Oracle Smart View for Office メタデータを含むプレゼンテーションの場合、操作に時間がかかることがあります。

次の例では、Department Reports.pptx の Slide21 はメタデータのインポート元のスライドです。



> **ノート:**
>
> スライドからアクティブなスライドにメタデータをインポートする場合に、アクティブなスライドは**「スライドの選択」**ダイアログ・ボックス内のツリーには表示されません。これは、アクティブなスライドはメタデータがインポートされる宛先スライドであるため、選択対象として使用できないからです。同じ理由のため、プレゼンテーションからアクティブなプレゼンテーションにメタデータをインポートする場合、**「スライドの選択」**ダイアログ・ボックスでアクティブなプレゼンテーションを選択すると、**「インポート」**ボタンが使用不可になります。

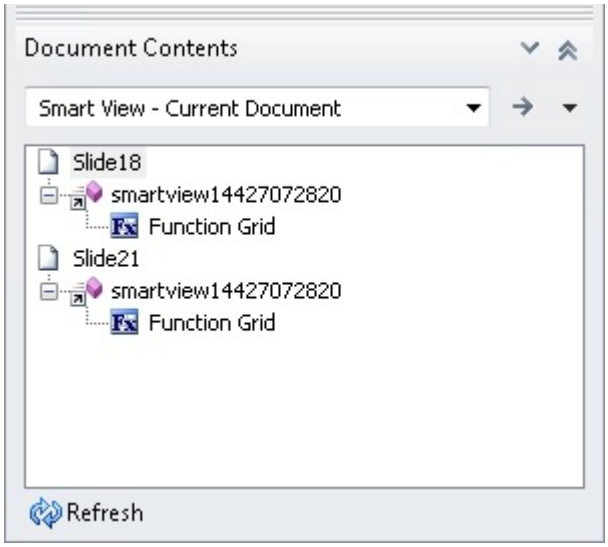
確認メッセージが表示されます。



6. 確認ダイアログ・ボックスで**「はい」**をクリックします。
7. リフレッシュします。

   成功すると、**「ドキュメント・コンテンツ」**ペインが各スライドのメタデータで更新されます。図 1 に例を示します。

図 17-12 メタデータのインポート後の「ドキュメント・コンテンツ」ペイン



シート情報の表示

「シート情報」で、現在のワークシートの接続やその他の詳細を確認できます。

接続の詳細を表示し、シートまたはワークブックから Smart View のメタデータを削除し、メタデータを別のシートに保存し、ダイアログからリストの項目をコピーして別のシートまたはドキュメントにコピーすることもできます。

インサイト・シートのシート情報を表示するには、シート情報でのインサイト・メタデータの表示を参照してください。

1. Smart View のリボンから、**「シート情報」**を選択します。

   シート上の Oracle Smart View for Office データに応じて、**「シート情報」**では、次のプロパティの詳細が表示されます:

   - **接続済 Connected** - 接続ステータス。接続している場合は「はい」、接続していない場合は「いいえ」。
   - **シート・タイプ** - 「アド・ホック」、「複数のグリッド・アド・ホック」、「フォーム」、「関数」。

     > **ノート:**
     >
     > 関数シートの場合、「シート情報」ダイアログに、このフィールドのみが関数として値とともに表示されます。

   - **サーバー** - シートが接続しているサーバーの名前。
   - **アプリケーション** - シートが接続しているアプリケーション。
   - **キューブ** - シートが接続しているキューブ、モデルまたはデータベース。
   - **URL** - シートが接続しているソース・プロバイダの URL 文字列。

- **プロバイダ** - シートの接続先のデータ・ソース・タイプ。たとえば、Oracle Hyperion Planning、Oracle Hyperion Financial Management または Analytic Services(Oracle Essbase)などです。
- **プロバイダ URL** - シートが接続しているデータ・ソース・プロバイダの URL 文字列。このプロパティは、Analytic Oracle Hyperion Provider Services 11.1.1.4.x 以前のリリースに適用できます。
- **わかりやすい名前** - プライベート接続の場合のみ。プライベート接続の作成または編集時、またはプライベート接続への共有接続の追加時にユーザーが指定したデータ・ソース接続名。
- **別名表** - 現在の別名表。
- **関連付けられた範囲** - 複数グリッド・シートの場合。複数グリッド・シートの各グリッドの、シート名、アプリケーション、データベースおよび一意の識別子。複数グリッド・ワークシートは、サポート対象の Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management ビジネス・プロセスおよび Essbase データ・ソースのみに適用されます。複数グリッド・ワークシートで**「シート情報」**を使用するには、シート情報ガイドラインを参照してください。
- **説明** - プライベート接続の場合のみ。プライベート接続を作成または編集するユーザーが入力したオプションの接続の説明。
- **フォーム名** - シートが接続しているフォームの名前。このプロパティは、Planning および Financial Management でフォームに接続した場合のみ、適用されます。
- **最後の取得** - 最後のリフレッシュがシートで実行された日時。

2. **オプション:** 必要に応じて次のオプションから選択します。
   - **削除**—メタデータとして参照される Smart View 情報を削除するためのオプションを提供します:
     - **ワークシート・メタデータの削除** - 現在のシートからメタデータを削除します。

       このオプションを選択すると、**「シート情報」**ダイアログに、次のプロパティのみが表示されます: **「シート・タイプ」**(空)と**「接続済」**(「いいえ」)。
     - **ワークブック・メタデータの削除** - ワークブック・メタデータを削除します。通常、これはユーザーに表示されないキャッシュされたメタデータです。

       シート・メタデータは、**「シート情報」**ダイアログ内で変更されないままです。つまり、前のステップで移入された同じフィールドが、そのまま表示されます。
     - **すべてのメタデータの削除** - ワークブック・メタデータとすべてのワークシートからのメタデータの両方が削除されます。
   - **保存** - **「シート情報」**の内容を Excel スプレッドシートに保存します。
3. **オプション:** 選択したリスト内のアイテムをクリップボードにコピーするには、**[Ctrl]を押しながら[C]**を押します。

   「シート情報」リスト全体をコピーするには、**「シート情報」**で選択されているアイテムがないことを確認し、**[Ctrl]を押しながら[C]**を押します。リストのアイテムをすでに選択している場合、**「シート情報」**を閉じて再度ｵｰﾌﾟﾝし、**[Ctrl]を押しながら[C]**を押します。
4. **「閉じる」**をクリックします。
5. プロバイダによるシート情報サポート、シート・タイプおよび接続ステータスを表示するには、プロバイダによるシート情報サポートを参照してください。

シート情報ガイドライン

- 「わかりやすい名前」は、プライベート接続の場合のみです。「わかりやすい名前」は、プライベート接続の作成または編集時、またはプライベート接続への共有接続の追加時にユーザーが指定したデータ・ソース接続名です。
- 複数グリッド・ワークシートで**「シート情報」**コマンドを使用する場合は、次のベスト・プラクティスを考慮してください:
  - 複数グリッド・ワークシートのすべてのグリッドで情報を表示するには、グリッドの境界の外側の任意の場所をクリックするか、グリッド内の 1 つのセルのみを選択します。
  - 複数グリッド・ワークシートでグリッドの 1 つのみの情報を表示するには、グリッド全体を選択し、グリッドの境界の外側のセルは選択しません。
- Planning に接続している場合、アクティブな結合にシートを関連付けるために**「デフォルト接続として設定」**オプションを使用する必要はありません。関連付けは、接続の直後に自動的に行われます。
- **「アクティブ接続の設定」**を使用してアド・ホック・ワークシートに接続を関連付けると、リフレッシュ時にメンバーがワークシートから消失することがあります。接続を関連付けるかわりに、ベスト・プラクティスとして、ワークシートに対して直接アド・ホック分析を実行します。
- 次のプロバイダでは、**「シート情報」**ダイアログ・ボックスは、サポートされていないか、サポートが非常に制限されています: Oracle Business Intelligence Enterprise Edition、Oracle Hyperion Financial Reporting および Oracle Hyperion Strategic Finance。

プロバイダによるシート情報サポート

関連トピック:
Essbase のシート情報サポート

Financial Management のシート情報サポート

Cloud EPM および Oracle Hyperion Planning のシート情報サポート

Essbase のシート情報サポート

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

表 17-18 Essbase でサポートされているシート情報

接続ステータス	単一グリッド	複数グリッド	VBA (HypExecuteMenu)	式	関数(HsGetVal、HsGetSheetInfo)
共有接続	はい	はい	はい	はい	いいえ
プライベート接続	はい	はい	はい	はい	いいえ
プライベート接続 - デフォルト接続として設定	はい	はい	はい	はい	いいえ

表 17-18 (続き) Essbase でサポートされているシート情報

接続ステータス	単一グリッド	複数グリッド	VBA (HypExecuteMenu)	式	関数(HsGetVal、HsGetSheetInfo)
接続なし(空白の新規ワークシートを開きます)	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
接続なし(保存されたワークシートを開きます)	はい	はい	はい	いいえ	いいえ
このワークシートのアクティブ接続の設定	はい(シート情報ガイドラインを参照)	はい(シート情報ガイドラインを参照)	はい	はい(シート情報ガイドラインを参照)	いいえ
デフォルト接続として設定(アクティブな接続への関連付け前)	いいえ(シート情報ガイドラインを参照)	はい(シート情報ガイドラインを参照)	はい	はい(シート情報ガイドラインを参照)	いいえ
デフォルト接続として設定(アクティブな接続への関連付け後)	はい(シート情報ガイドラインを参照)	はい(シート情報ガイドラインを参照)	はい	はい(シート情報ガイドラインを参照)	いいえ
最後の取得	はい				

Financial Management のシート情報サポート

表 17-19 Financial Management でサポートされているシート情報

接続ステータス	フォーム	アド・ホック	式	VBA	関数
共有接続	はい	はい	はい	はい	いいえ
プライベート接続	はい	はい	はい	はい	いいえ
プライベート接続 - デフォルト接続として設定	はい	はい	はい	はい	いいえ
接続なし(空白の新規ワークシートを開きます)	いいえ	いいえ	いいえ	該当なし	いいえ
接続なし(保存されたワークシートを開きます)	はい	はい	はい	はい	いいえ
このワークシートのアクティブ接続の設定	はい	はい	はい	はい	いいえ
デフォルト接続として設定(アクティブな接続への関連付け前)	はい	はい	はい	はい	いいえ
デフォルト接続として設定(アクティブな接続への関連付け後)	はい	はい	はい	はい	いいえ
最後の取得	はい	はい			

Cloud EPM および Oracle Hyperion Planning のシート情報サポート

クラウド・データ・ソース・タイプ: Planning、Planning モジュール、Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Tax Reporting

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Planning

表 17-20 Planning でサポートされているシート情報

接続ステータス	フォーム	アド・ホック	スマート・フォーム	VBA	ルール	関数
共有接続	はい	はい	はい	はい	はい	いいえ
プライベート接続	はい	はい	はい	はい	はい	いいえ
プライベート接続 - デフォルト接続として設定	はい	はい	はい	はい	はい	いいえ
接続なし(空白の新規ワークシートを開きます)	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
接続なし(保存されたワークシートを開きます)	はい	はい	はい	はい	はい	いいえ
このワークシートのアクティブ接続の設定	はい(シート情報ガイドラインを参照)	はい(シート情報ガイドラインを参照)	はい(シート情報ガイドラインを参照)	はい	はい	いいえ
デフォルト接続として設定(アクティブな接続への関連付け前)	該当なし(シート情報ガイドラインを参照)	該当なし	該当なし	はい	該当なし	該当なし
デフォルト接続として設定(アクティブな接続への関連付け後)	はい(シート情報ガイドラインを参照)	はい	はい	はい	はい	いいえ
最後の取得	はい	はい				

Web アプリケーション(Web 起動)からフォームおよびアド・ホック・グリッドを開く

Web アプリケーションから、Oracle Smart View for Office 内のフォームおよびアド・ホック・グリッドを開くことができます。このアクションは、*Web 起動*とも呼ばれます。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Planning、Planning モジュール、フリーフォーム、Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Financial Management、Oracle Hyperion Planning

> **ノート:**
>
> 始める前に、次のベスト・プラクティスに注意してください:
>
> - Mozilla Firefox、Google Chrome および Microsoft Edge では、Web 起動のためのブラウザ固有のアドオンが必要です。これらのブラウザのアドオンのインストールについては、*Oracle Smart View for Office インストレーションおよび構成ガイド*のブラウザ・アドオンのインストールの手順に従ってください。
> - Smart View のダウンロード・リンク・ファイル(SVLNK)を Excel で直接起動するか、または SVLNK ファイルを保存する(後で、ダウンロード場所からダブルクリックして Excel で起動)には、ブラウザでダウンロード処理オプションを構成します。ダウンロード・オプションの設定に関するガイドラインは、後述するノートを参照するか、ブラウザのヘルプを参照してください。
> - 次の手順を完了する前に Excel を開始することが最善です。

Smart View で Web 起動を使用してフォームまたはアド・ホック・グリッドを開くには:

1. サポートされている Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management または Oracle Enterprise Performance Management System Web アプリケーションで、フォームまたはアド・ホック・グリッドを開きます。
2. Web アプリケーション内のフォームまたはアド・ホック・グリッドから、アクションを実行します。
   - Cloud EPM: **「アクション」**、**「Smart View で開く」**の順に選択します
   - EPM System: **「アクション」**、**「Smart View」**の順に選択します

   選択したダウンロード処理オプションに応じて、ファイルを保存するか、またはファイルを Excel で開くようにブラウザで求められます。

   Excel がすでに開いている場合、フォームまたはアド・ホック・グリッドが、既存の開いているワークブックの新しいシートで適切なリボンとともに起動されます。たとえば、Smart View で Planning フォームを開くことを選択した場合、Planning のリボンが表示されます。まだサインインしていない場合は、ログインするように求められます。

   まだ開いていない場合は、Excel が起動し、ログインするように求められ、フォームまたはアド・ホック・グリッドが適切なリボンとともに Smart View に表示されます。

> **ノート:**
>
> Web 起動で必要な SVLNK ファイルの処理方法を決定するために、Web ブラウザのダウンロード・オプションを設定します。次に、サポート対象のブラウザでのダウンロード・オプションのアクセスと設定について一般的な参照を示します:
>
> - **Mozilla Firefox:** **「Tools」**、**「Settings」**の順に移動します。**「Applications」**セクションの**「Files and Applications」**で、「What should Firefox do with other files?」という質問に対するオプションを選択します。
> - **Google Chrome:** ブラウザ・ウィンドウの左上にある省略記号、⋮をクリックして、**「Settings」**、**「Download」**の順に選択します。**「Ask where to save each file before downloading」**オプションを有効または無効にします。
> - **Microsoft Edge:** ブラウザ・ウィンドウの左上にある省略記号、･･･をクリックして、**「Settings」**、**「Download」**の順に選択します。**「Ask me what to do with each download」**ボタンを有効または無効にします。

Smart View で大きいワークブックを開く

行と列、グラフィカル・オブジェクトおよび Excel のコメントを多数含むワークブックを開く際、Oracle Smart View for Office が応答しなくなることがあります。

この問題を軽減するには、**「オプション」**、**「詳細」**、**「向上したメタデータ・ストレージ」**チェック・ボックスの順に選択して、**「メタデータ・ストレージの向上」**オプションを有効にします。

また、より大きなワークブックを操作する場合や、大きなデータ・セットが生成される操作を実行する場合、"リソースが十分にありません"というエラーが発生することがあります。この問題を軽減するには、ワークブックをより小さなワークブックに分割します。64 ビット版の Office にアップグレードすると、この問題を解決できます。

Smart View と Smart View (Mac およびブラウザ)の間でのフォームおよびアド・ホック・グリッドの互換性を持った操作

Smart View および Smart View (Mac およびブラウザ)の両方で、互換性がある方法で同じフォームおよびアド・ホック・グリッドを操作できます。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Planning、Planning モジュール、Tax Reporting、Oracle Essbase

23.100 以降、フォームおよび通常のアド・ホック・グリッド(標準モード)の互換性が、Smart View for Office と Smart View for Office (Mac およびブラウザ) 23.04 以上の間でサポートされています。Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management フォーム、Cloud EPM アド・ホック・グリッドおよび Essbase アド・ホック・グリッドには互換性があり、Smart View for Office と Smart View for Office (Mac およびブラウザ)の間でフォームやアド・ホック・グリッドを簡単に操作できます。

例:

1. デスクトップ・バージョンの Microsoft Excel 上の Smart View でフォームまたは通常のアド・ホック・グリッドを開き、POV を変更し、リフレッシュまたは送信してシートを閉じます。
2. 次に、Smart View (Mac およびブラウザ)を使用して Mac またはブラウザ上の Excel 365 で同じフォームまたはグリッドを開き、操作を開始する前に最初に「リフレッシュ」をクリックします。
3. POV 選択がシート内で保持されており、作業を続行できることを確認します。
4. Smart View (Mac およびブラウザ)で POV に変更を加えたら、「リフレッシュ」をクリックして変更を保存します。Smart View でフォームを再度開くと、変更を確認できます。

両方の Smart View 製品間の互換性により、Smart View で次のようになります:

- フォームまたはアド・ホックのシートのタイプが識別されます
- 両方の製品で同じシート情報が表示されます
- 同じ POV およびページ選択が保持されます
- 保存、リフレッシュまたは送信されたものと同じデータが表示されます
- 「Smart View のオプション」の「データ・オプション」および「メンバー・オプション」で設定されたプリファレンスが保持されます

> **Note:**
>
> 複合フォーム、フレックス・フォームおよび複数グリッド・アド・ホック・ワークシートは、Smart View 製品間でまだ互換性がありません。

Smart View for Office での互換性の有効化

Smart View for Office (Mac およびブラウザ)では、この互換性は常に有効ですが、Smart View for Office では、サービス管理者が互換性を有効にする必要があります。

Smart View for Office の互換性は、次の方法で有効にできます:

「ヘルス・チェック」ダイアログから:

これは、Smart View ユーザー・インタフェースから互換性を有効にする簡単な方法です。Smart View のリボンで、**「ヘルプ」**の横にある矢印をクリックし、**「ヘルス・チェック」**を選択します。**「ヘルス・チェック」**ダイアログでは、**「互換性」**設定は**「Smart View オプション」**の下にあり、デフォルトでは**「使用不可」**になっています。

- 有効にするには、**「修正/更新/ヘルプ・リンク」**列をクリックし、**「使用可能」**を選択してから**「設定の更新」**をクリックします。
- 無効にするには、**「修正/更新/ヘルプ・リンク」**列をクリックし、**「使用不可」**を選択してから**「設定の更新」**をクリックします。

ヘルス・チェック設定の詳細は、システムのヘルス・チェックの実行を参照してください。

`properties.xml` ファイルから:

サービス管理者は、Smart View の `properties.xml` ファイルにある `JSONMetadata365URL` プロパティに対するコメントを解除するか有効にすることで、互換性を有効にできます。このファイルは、`<Smart View Install>/cfg` フォルダ(`C:\Oracle\SmartView\cfg` など)にあります。また、**「URL マッピングの管理」**オプションを使用して、検出した接続 URL を Smart View for

Office の実際の接続 URL にマップする必要がある場合があります。詳細は、接続 URL マッピングの管理を参照してください。

Smart View 製品間の動作の互換性に関するベスト・プラクティス

Smart View 製品間の互換性に関する次のベスト・プラクティスを考慮してください:

- Smart View for Office (Mac およびブラウザ)で Smart View for Office のフォームまたはアド・ホック・グリッドを開く場合、またはその逆でフォームまたはアド・ホック・グリッドを開くときは常に、シートで操作を開始する前に最初に**「リフレッシュ」**をクリックすることをお薦めします。
- セル・スタイル間で競合が発生する可能性があるため、Smart View for Office および Smart View for Office (Mac およびブラウザ)の両方で同じフォームまたはアド・ホック・グリッドを同時に開いたままにしないことをお薦めします。
- Smart View for Office のフォームまたはアド・ホック・グリッドを含むワークブックを作成し、それらを Smart View for Office (Mac およびブラウザ)で開く場合、Planning のリボンなどの関連プロバイダ・コンテキスト・リボンを起動するために、最初に「Smart View ホーム」パネルを開き、**「リフレッシュ」**をクリックするか、別のシートを開く必要があります。

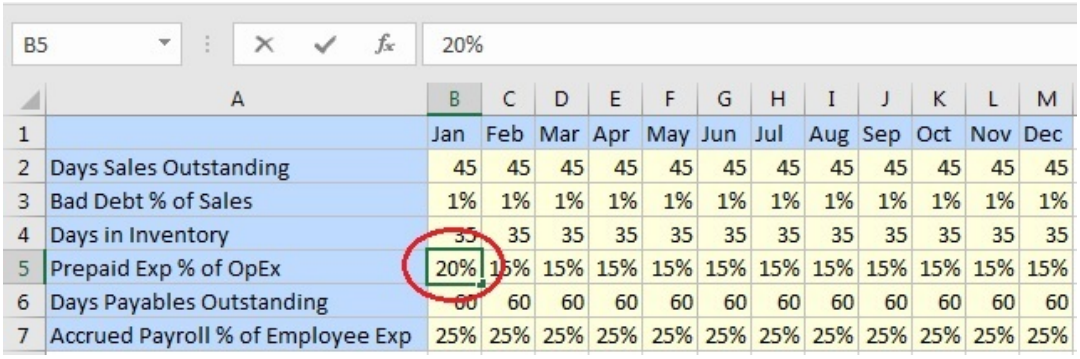
フォームとアド・ホック・グリッドでのパーセンテージ値の入力

フォームおよびアド・ホック・グリッドで、パーセンテージとして定義されたセルに値を入力する場合は、このトピックで概説されているベスト・プラクティスに注意してください。

- パーセンテージ値を直接セルに入力する場合、パーセンテージ値とともにパーセント記号を入力します。たとえば、"20 パーセント"を数値で表すには、フォームまたはグリッドのセルに次のように入力します

  ```
  20%
  ```

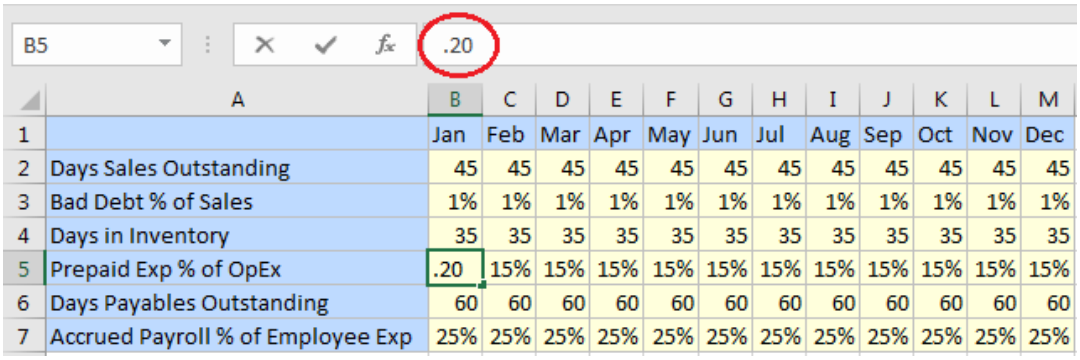
  次のように、必ず%記号を含めます。



	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
1		Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec
2	Days Sales Outstanding	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45
3	Bad Debt % of Sales	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%
4	Days in Inventory	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35
5	Prepaid Exp % of OpEx	20%	15%	15%	15%	15%	15%	15%	15%	15%	15%	15%	15%
6	Days Payables Outstanding	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60
7	Accrued Payroll % of Employee Exp	25%	25%	25%	25%	25%	25%	25%	25%	25%	25%	25%	25%

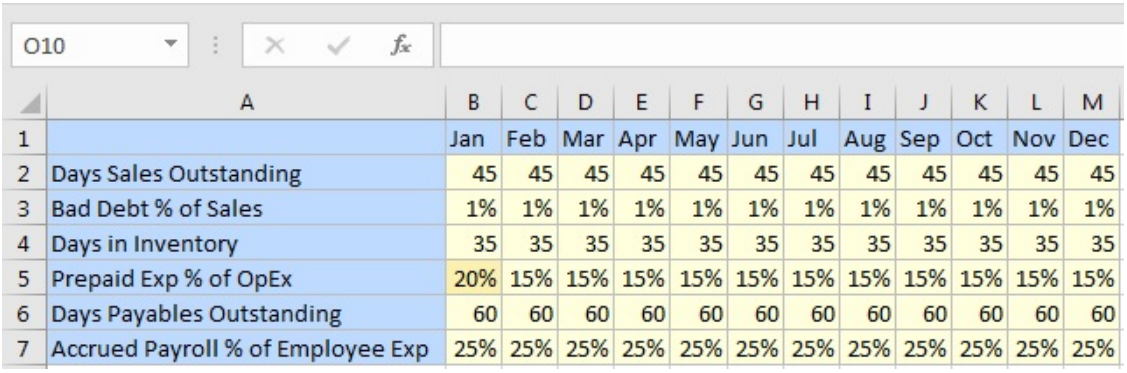
- パーセンテージ値を式バーに入力する場合、パーセント記号なしで小数点と値を入力します。たとえば、"20 パーセント"を数値で表すには、式バーに次のように入力します

  ```
  .20
  ```



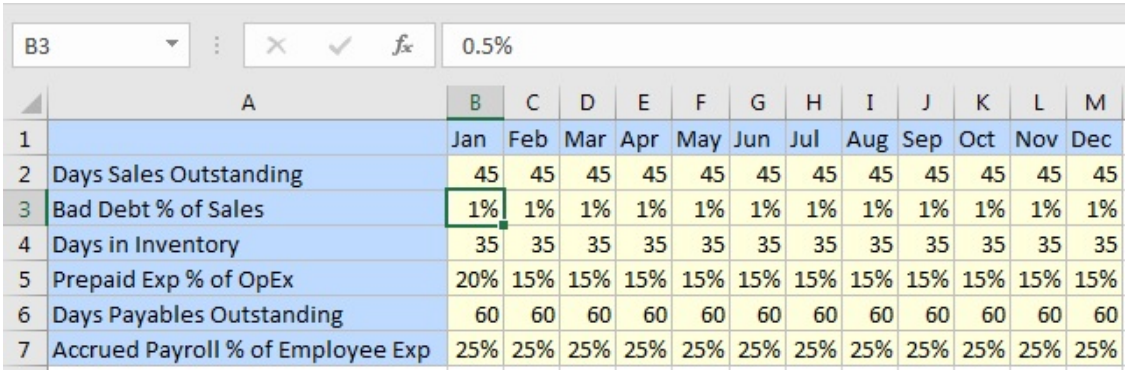
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
1		Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec
2	Days Sales Outstanding	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45
3	Bad Debt % of Sales	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%
4	Days in Inventory	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35
5	Prepaid Exp % of OpEx	.20	15%	15%	15%	15%	15%	15%	15%	15%	15%	15%	15%
6	Days Payables Outstanding	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60
7	Accrued Payroll % of Employee Exp	25%	25%	25%	25%	25%	25%	25%	25%	25%	25%	25%	25%

前述のいずれの場合も、**[Enter]**を押すと、20%がダーティ・セルに表示されます。この変更されたセル値は送信できます。



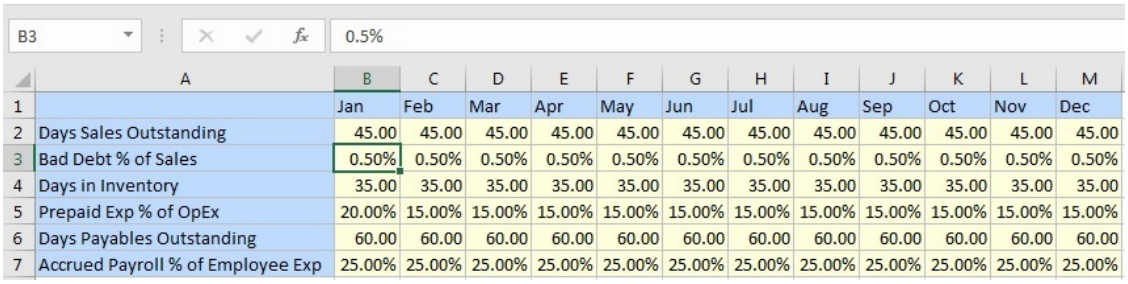
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
1		Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec
2	Days Sales Outstanding	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45
3	Bad Debt % of Sales	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%
4	Days in Inventory	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35
5	Prepaid Exp % of OpEx	20%	15%	15%	15%	15%	15%	15%	15%	15%	15%	15%	15%
6	Days Payables Outstanding	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60
7	Accrued Payroll % of Employee Exp	25%	25%	25%	25%	25%	25%	25%	25%	25%	25%	25%	25%

「オプション」ダイアログの**「フォーマット」**タブの**「小数点以下の桁数」**オプションを使用して、パーセンテージの表示をきめ細かく設定できます。たとえば、次のグリッドで、行 3 には 1%と表示されていますが、式バーには、セル B3 の実際の値が 0.5%であることが示されています。



	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
1		Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec
2	Days Sales Outstanding	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45
3	Bad Debt % of Sales	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%
4	Days in Inventory	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35
5	Prepaid Exp % of OpEx	20%	15%	15%	15%	15%	15%	15%	15%	15%	15%	15%	15%
6	Days Payables Outstanding	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60
7	Accrued Payroll % of Employee Exp	25%	25%	25%	25%	25%	25%	25%	25%	25%	25%	25%	25%

「オプション」ダイアログの**「フォーマット」**タブで、**「小数点以下の桁数」**オプションを 2 に変更して、グリッドをリフレッシュします。これは、グリッド内のすべての値に小数点以下 2 桁を追加する効果があります。この変更は、小数のパーセンテージ値の表示には有用ですが、グリッド全体の確認と解釈には有用でない場合もあります。



	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
1		Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec
2	Days Sales Outstanding	45.00	45.00	45.00	45.00	45.00	45.00	45.00	45.00	45.00	45.00	45.00	45.00
3	Bad Debt % of Sales	0.50%	0.50%	0.50%	0.50%	0.50%	0.50%	0.50%	0.50%	0.50%	0.50%	0.50%	0.50%
4	Days in Inventory	35.00	35.00	35.00	35.00	35.00	35.00	35.00	35.00	35.00	35.00	35.00	35.00
5	Prepaid Exp % of OpEx	20.00%	15.00%	15.00%	15.00%	15.00%	15.00%	15.00%	15.00%	15.00%	15.00%	15.00%	15.00%
6	Days Payables Outstanding	60.00	60.00	60.00	60.00	60.00	60.00	60.00	60.00	60.00	60.00	60.00	60.00
7	Accrued Payroll % of Employee Exp	25.00%	25.00%	25.00%	25.00%	25.00%	25.00%	25.00%	25.00%	25.00%	25.00%	25.00%	25.00%

小数のパーセンテージを入力する場合、次のベスト・プラクティスに従ってください:

- フォームまたはグリッド・セルに 0.5 パーセントを数値で入力するには、`.5%`と入力します
- 式バーに 0.5 パーセントを数値で入力するには、`.005` と入力します

通常、Oracle Smart View for Office は、Excel の標準のパーセンテージの処理の動作に従います。Excel とパーセンテージの詳細は、こちらで Microsoft のドキュメントを参照してください。

セルの幅および高さの自動調整の有効化

メンバー・セルおよびデータ・セルの内容にあわせた、Excel の列の幅および行の高さの自動調整を使用可能にすることができます。

1. Smart View のリボンから、**「オプション」**を選択します。
2. **「オプション」**で、左側のパネルから**「フォーマット」**を選択します。
3. **「列の幅と行の高さの調整」**チェック・ボックスを選択します。
4. **「OK」**をクリックします。
5. 任意のリボンから、**「リフレッシュ」**を選択して、現在のシートの列を調整します。

「列の幅と行の高さの調整」が選択されていない場合、手動で列幅を調整できます。

共有ワークブックの操作

Oracle Smart View for Office は Excel の共有ワークブックをサポートしません。

ワークブックを共有する Excel のオプションが有効化されている場合、Smart View 操作はサポートされません。

Excel で共有ワークブック・オプションをクリアするには、**「校閲」**リボンに移動し、**「ブックの共有」**ボタンをクリックして、**複数のユーザーによる同時編集を許可する**チェック・ボックスをクリアします。

保護されたワークシートの操作

リフレッシュおよびアド・ホックなどの Oracle Smart View for Office 操作は、保護されたシートでサポートされていません。

たとえば、保護されたシートでは、「ズーム・イン」や「選択項目のみ保持」を実行できません。

ヘッダーおよびフッターへの POV メンバーの印刷

Excel ドキュメントのヘッダーまたはフッターにアクティブな POV メンバーを印刷できます。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Planning、Planning モジュール、Narrative Reporting、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Oracle Hyperion Planning

> **ノート:**
>
> Oracle Hyperion Financial Management に接続しているときに、POV メンバーの印刷はサポートされていません。

Excel ドキュメントのヘッダーまたはフッターにアクティブな POV メンバーを印刷するには:

1. Excel で優先方法を使用して、カスタム・ヘッダーまたはフッターを追加します。

   たとえば、「ページ レイアウト」リボンに移動して**「印刷タイトル」**、**「ヘッダー/フッター」**タブの順に選択し、**「カスタム ヘッダー」**または**「カスタム フッター」**をクリックします。
2. ヘッダーまたはフッターのテキスト・ボックスに次の文を追加します:

   ```
   POV:{}
   ```

   ヘッダーまたはフッターに必要な可能性がある他のテキストを含めることもできます。

   Excel ドキュメントを印刷すると、指定したヘッダーまたはフッターに POV メンバーが追加した他のテキストとともに印刷されます。

> **ノート:**
>
> 場合によっては、`POV:{}`文を追加した後初めて印刷プレビューを起動したときに、POV メンバーが「印刷プレビュー」モードで表示されないことがあります。ただし、印刷はされます。シートの印刷後、印刷プレビューに戻ると、POV メンバーは「印刷プレビュー」モードで表示されます。

Smart View の使用可能/使用不可

Oracle Smart View for Office は、インストール後にデフォルトで有効化されます。

コンピュータ上のすべての Microsoft Office アプリケーションに対して、または Outlook のみに対して、Smart View 内の Smart View を無効化できます。

Smart View は Office アプリケーションを介して使用可能にすることもできます。

関連トピック:

Smart View リボンを使用した Smart View の使用可能/使用不可

Microsoft Office での Smart View の使用可能/使用不可

Smart View リボンを使用した Smart View の使用可能/使用不可

コンピュータ上のすべての Microsoft Office アプリケーションに対して、または Outlook のみに対して、Smart View リボンから Oracle Smart View for Office を意図的に使用不可にできます。

Smart View をすべての Microsoft Office アプリケーション(Outlook を含む)に対して使用不可にするには:

1. Smart View リボンから、**「ヘルプ」**を選択します。
2. **「情報」**を選択します。
3. **「アドインの使用可能」**をクリアし、Office アプリケーションを次に開いた際に Smart View を使用不可にします。

   「情報」ボタンのみを含む Smart View リボンが残ります。

Smart View をすべての Microsoft Office アプリケーション(Outlook を含む)に対して有効化するには:

1. Excel、Word または PowerPoint を起動します。
2. Smart View リボンから、**「情報」**を選択します。
3. **「アドインの使用可能」**を選択し、Office アプリケーションを次に開いた際に Smart View を使用可能にします。

Smart View を Outlook に対してのみ使用不可にするには:

1. Excel、Word または PowerPoint の Smart View リボン、あるいは Outlook の Smart View メニューから、**「オプション」**を選択し、左側のパネルで**「詳細」**を選択します。
2. **「表示」**で、**「Outlook で Smart View アドインを無効にする」**を選択します。

Microsoft Office での Smart View の使用可能/使用不可

Excel オプションの**「アドイン」**から Oracle Smart View for Office を有効化または無効化できます。この方法は、Microsoft Smart View エラーを介して Smart View が誤って無効化される場合に便利です。

Smart View をすべての Microsoft Office アプリケーション(Outlook を含む)に対して有効化または無効化するには:

1. Office で、**「ファイル」**、**「オプション」**、**「アドイン」**の順に移動します:
2. **「管理」**に**「COM アドイン」**を選択して、**「設定」**を選択します。
3. **COM アドイン**で、次のいずれかのタスクを実行します。
   - チェック・ボックスを選択して **Oracle Smart View for Office** アドインを有効にし、**「OK」**をクリックします。
   - チェック・ボックスの選択を解除して **Oracle Smart View for Office** アドインを無効にします。
4. **「OK」**をクリックします。

18

関数

次も参照:

- 関数の使用
  データベースの内容を詳しく把握している場合は、Oracle Smart View for Office の関数を使用して、Excel のセルにある特定のデータを操作できます。
- 関数の作成
  Oracle Smart View for Office の関数は、手動で、または関数ビルダーを使用して作成できます。
- 関数の実行
  「リフレッシュ」コマンドを使用して、Oracle Smart View for Office のほとんどの関数を自動的に実行できます。HsGetValue の場合は、**「データの送信」**コマンドを使用します。
- 関数内のリンクの修正
  Smart View 関数内の破損リンクを修正する必要がある場合があります。
- HsGetValue 関数のコピーと貼付け
  Office アプリケーションから HsGetValue 関数を含むセルやセル範囲をコピーし、Excel、Word、PowerPoint に貼り付けることができます。
- 関数の説明
  Oracle Smart View for Office には、次の関数があります。説明、構文および例を参照するには、関数名をクリックしてください。
- 一般的な関数エラー・コード
  関数で表示される一般的なエラー・コードの一部を示します。

関数の使用

データベースの内容を詳しく把握している場合は、Oracle Smart View for Office の関数を使用して、Excel のセルにある特定のデータを操作できます。

> **ノート:**
>
> 表 1 の Smart View 関数を使用する場合は、ベスト・プラクティスとして、メンバー名、ディメンション名または変数名にハッシュ記号(#)やセミコロン(;)を使用しないでください。これらの文字は、この章に記載された関数のデリミタとして予約されています。

表 18-1 Smart View の関数およびサポートされているプロバイダ

関数	説明	サポートされるプロバイダ
HsGetValue	データ・ソースからデータを取得します。	• Oracle Hyperion Financial Management • Oracle Essbase • Oracle Hyperion Planning • Planning • Planning モジュール • Financial Consolidation and Close • Tax Reporting • Narrative Reporting
HsSetValue	データ・ソースに値を送信します。	• Financial Management • Essbase • Oracle Hyperion Planning • Planning • Planning モジュール • Financial Consolidation and Close • Tax Reporting
HsGetSheetInfo	現在のワークシートに関する詳細情報を取得します。	プロバイダ非依存
HsCurrency	選択したメンバーのエンティティ通貨を取得します。	Financial Management
HsAlias	指定されたディメンション・メンバーの別名を表示します。	• Planning • Planning モジュール • Financial Consolidation and Close • Tax Reporting
HsDescription	デフォルトのメンバーの説明を表示します。	• Financial Management • Essbase • Planning • Planning モジュール • Financial Consolidation and Close • Tax Reporting
HsLabel	デフォルトのメンバーのラベルを表示します。	Financial Management
HsGetText	データ・ソースからセル・テキストを取得します。	Financial Management
HsSetText	データ・ソースにセル・テキストを送信します。	Financial Management
HsGetVariable	代替変数の関連する値を取得します。	Essbase

表 18-1 (続き) Smart View の関数およびサポートされているプロバイダ

関数	説明	サポートされるプロバイダ
HsGetSharedConnectionURL	これを使用して、使用される共有接続データ・ソースをすばやく識別します。	• Financial Management • Essbase • Oracle Hyperion Planning • Planning • Planning モジュール • Financial Consolidation and Close • Tax Reporting • Narrative Reporting

関数の作成

Oracle Smart View for Office の関数は、手動で、または関数ビルダーを使用して作成できます。

すべてのプロバイダですべての 関数を使用できるわけではありません。関数およびサポートされているプロバイダのリストは、表 1 を参照してください。

関連トピック:

- 関数ビルダーでの関数の作成
- 関数の手動作成

関数ビルダーでの関数の作成

関数ビルダーで、関数を選択し、関数で使用する接続とメンバーを指定します。これにより、関数ビルダーが適切な構文を使用して関数を作成し、選択したセルにその関数を入力します。これらの関数は編集が可能です。

関数ビルダーの特定のフィールドで使用可能な選択内容は、関数ビルダーの他のフィールドでの選択内容によって限定されてきます。たとえば、選択した関数でサポートされる接続のみが表示され、選択した関数でサポートされるディメンションのみが表示されます。

各関数の引数でセル参照を選択できます。引数の入力値がわかっている場合は、データ・ソースに接続されていないときに、オフライン・モードで関数を作成できます。各引数でタイプ・イン機能を使用できます。詳細は、関数の説明を参照してください。

> **ノート:**
>
> リリース 11.1.2.2.310 より前のリリースの関数ビルダーで作成された関数を使用できます。ただし、リリース 11.1.2.2.310 以降の関数ビルダーでは、セミコロン(;)ではなくカンマ(,)がメンバー・リスト引数の区切りに使用されています。どちらの文字も新しい関数ビルダーでサポートされていますが、前のバージョンで作成された関数を変更しようとすると、新しいカンマ区切り形式に変換するよう求められます。変換しないことを選択すると、関数に加えた変更は一切適用されません。

関数ビルダーを使用して関数を作成するには:

1. 適切なデータ・ソースに接続します。

   関数ビルダーは、共有接続、プライベート接続および URL 接続をサポートします。ベスト・プラクティスとして、キューブ・レベルで接続していることを確認します。アプリケーション・レベルで接続している場合は、HsGetValue や HsSetValue などの Smart View 関数を使用すると、"Cube Not Selected"メッセージが表示される場合があります。ただし、Oracle Hyperion Financial Management の場合は、引き続きアプリケーション・レベルで接続して、Smart View 機能を使用できます。

   Oracle Essbase: プライベート接続を使用していて、関数が別名表を使用する場合、正しい別名表または"デフォルト"の別名表が接続に設定されていることを確認する必要があります。Smart View パネルで、データベース名を右クリックし、**「別名表の設定」**を選択します。正しい別名表が選択されていることを確認したら、シートをリフレッシュします。

2. シートで、関数を入力するセルを選択します。

3. 「Smart View」パネルで関数のベースにするデータベースに移動し、データベース名を右クリックして**「関数の構築」**を選択します。

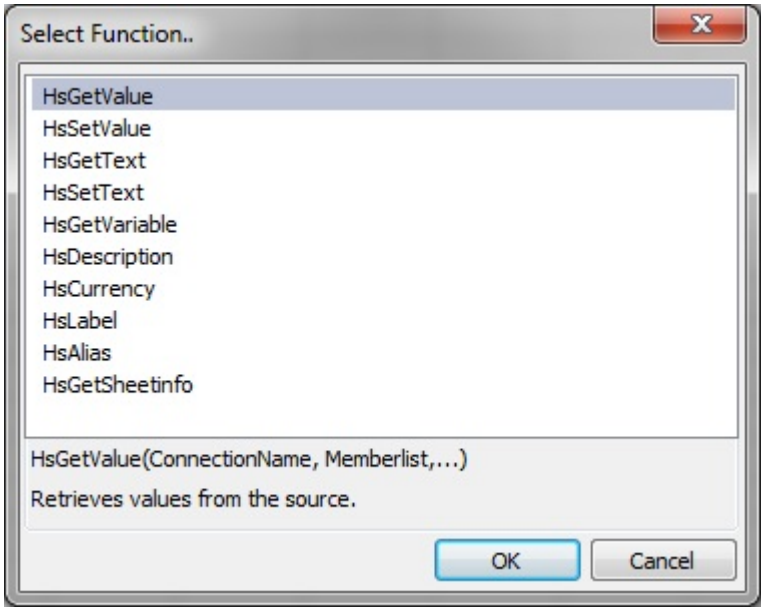
   この方法で関数ビルダーにアクセスすると、ステップ 4 の説明に従って、**「関数の引数」**ダイアログ・ボックスの**「接続」**フィールドに特定の接続情報が事前移入されます。

   または、Smart View のリボンから、**「関数」**、**「関数の構築」**の順に選択します。

   この方法で関数ビルダーにアクセスした場合、**「関数の引数」**ダイアログ・ボックスの**「接続」**フィールドは空白です。ステップ 4 の説明に従って、接続情報を指定できます。または、シートにアクティブな接続がある場合は、ドロップダウン・リストから HSACTIVE を選択します。

4. **「関数の選択」**で、リストから関数を選択し、**「OK」**をクリックします。

図 18-1 関数ビルダー、「関数の選択」ダイアログ・ボックス



> **ノート:**
>
> すべてのプロバイダですべての 関数を使用できるわけではありません。関数およびサポートされているプロバイダのリストは、表 1 を参照してください。

「関数の引数」ダイアログ・ボックスが表示されます。**「接続」**フィールドには、接続情報が次のフォーマットのいずれかで自動的に移入されています。

- 共有接続の場合:

  `WSFN|ProviderType|Server|Application|Database`

  上記の `WSFN` パラメータは、この関数が Workspace 関数であり、共有接続を使用していることを示しています。Workspace 関数は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace または Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management 接続をサポートします。

- プライベート接続の場合:

  `PrivateConnectionName`

- URL 接続の場合:

  `URLFN|URL|Server|Application|Database`

上に記載されているように、接続の確立に必要なすべての情報がトークンの一部になっています。トークンに無効な情報が含まれている場合は、Server トークンの次の例外を除き、通常は`#NoConnection` エラーが表示されます:

- Planning などの Cloud EPM ビジネス・プロセスでは、Server トークンは空白(または無効)にできます
- Essbase の Server トークンは空白にのみできます
- Financial Management には Server トークン・パラメータが必要です

接続情報を手動で入力するには、上記の構文を使用してください。

5. **「関数の引数」**で、選択した関数の各引数に対して、次のいずれかを実行します:

   - 右端のボタンをクリックします。

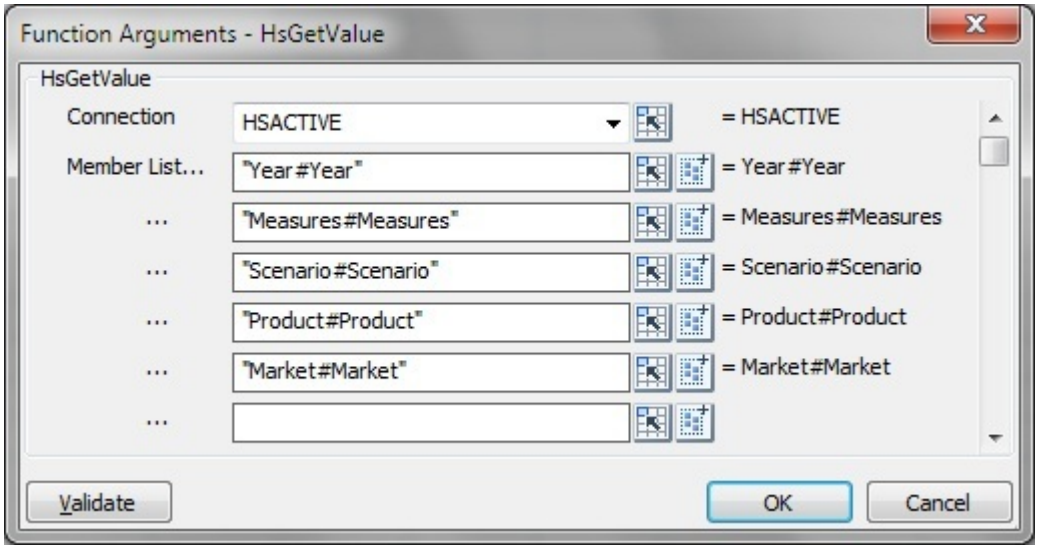
     たとえば、HsGetValue の場合、をクリックし、**「メンバー選択」**からメンバーを選択します; HsLabel および HsGetVariable の場合、ラベルまたは変数をドロップダウン・リストから選択します。

     Essbase: 変数名が重複している場合、その完全修飾名がドロップダウン・リストに表示されることに注意してください。これは、グローバル、アプリケーションおよびデータベース・レベルで定義された変数の識別に役立ちます。

   - 引数を手動で入力するには、テキスト・ボックスに引数を入力します。たとえば、メンバーを入力するには、`Year#Qtr1` や `Year#Jan` のように、dimension#member というフォーマットを使用します。
   - セル参照を使用するには、セル参照の使用の手順に従います。

   図 2 に、HsGetValue 関数の完全な**「関数の引数」**ダイアログ・ボックスを示します。

図 18-2 Essbase Sample Basic データベースに基づく HsGetValue の関数ビルダー「関数の引数」ダイアログ・ボックス



「関数の引数」に表示される引数は、前のステップで選択された関数によって非常に異なります。

> **ノート:**
>
> 次のベスト・プラクティスを検討してください:
>
> - HsGetSheetInfo では、セル参照を使用してください。詳細は、セル参照の使用を参照してください。
> - HsSetValue の場合のみ: **「データ」**または**「セル参照」**を選択し、送信する値を入力します。
> - HsGetText および HsSetText の場合のみ:
>   - **「コメント」**または**「セル参照」**を選択し、送信するセル・テキストを入力します
>   - **「セル・テキスト・ラベル」**を選択して、ドロップダウン・メニューからラベルを選択します
> - アクティブなワークシート接続が使用可能な場合、**「接続」**ドロップダウン・リストから **HSACTIVE** を選択できます。

6. **「検証」**をクリックして、記載されたエラーがあれば修正します。

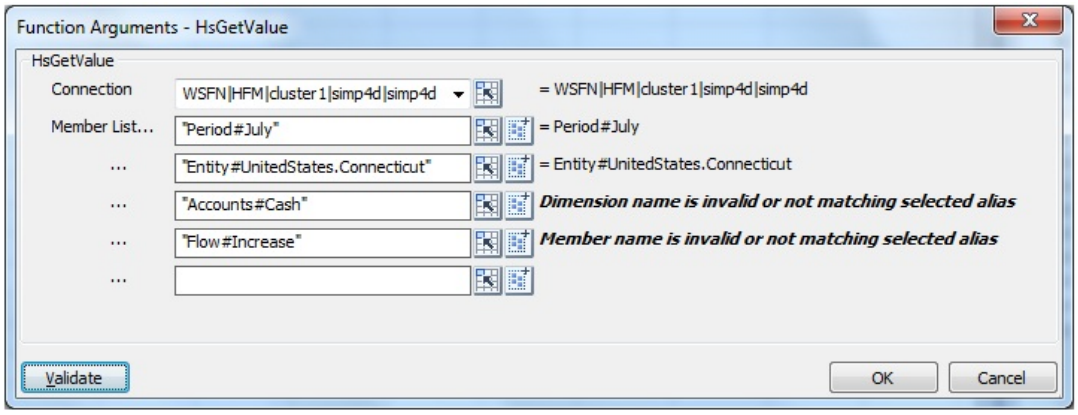
   表示される可能性のあるエラーを次に示します。

   - 接続がオフラインまたは無効です
   - 無効な選択です
   - メンバー名が無効か、選択した別名と一致しません
   - ディメンション名が無効か、選択した別名と一致しません
   - Dimension#Member の組合せが不完全です

- 疑問符の欠落またはその他の微細な構文エラーによる、一般的なエラー

図 3 は、**「検証」**ボタンをクリックした後の「関数の引数」ダイアログ・ボックスのエラーを示しています。Financial Management アプリケーションの次の例では、2 つの Dimension#Member の組合せの構文にエラーがあります。最初のエラーは、ディメンション名が無効か、選択した別名と一致しないことです。2 番目のエラーは、メンバー名が無効か、選択した別名と一致しないことです。

図 18-3 関数ビルダー検証エラー



7. 関数の検証が完了したら、**「OK」**をクリックして、選択したセルに関数を挿入します。
8. 関数を実行するには、関数の実行の手順に従います。

セル参照の使用

接続、ラベル、データ/テキストまたは変数の引数の単一セルへの参照を入力できます。ディメンション/メンバー参照の、2 つの連続するセルまたは連続しないセルへの参照を入力することもできます。参照を 3 つ以上のセルのセル範囲にすることはできません。

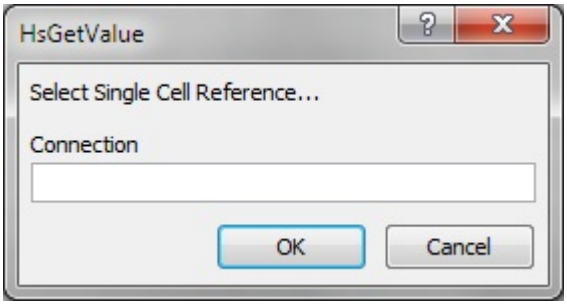
セル参照を使用するには:

1. 関数ビルダーでの関数の作成のステップに従って、**「関数の引数」**ダイアログ・ボックスを開きます。
2. **「関数の引数」**ダイアログ・ボックスで、選択した関数の引数ごとに**「セル参照」**ボタン  をクリックします。

   選択した引数のタイプに応じた「セル参照」ダイアログ・ボックスが表示されます。

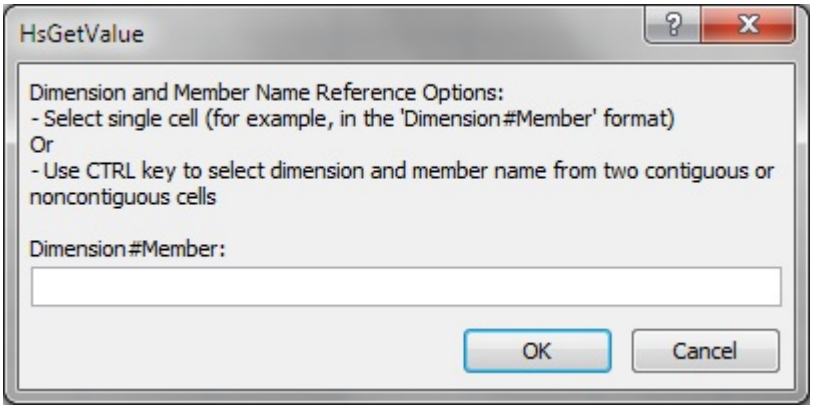
   - 接続、ラベル、データ/テキスト、または変数引数を選択する場合は、**「単一セル参照の選択」**ダイアログ・ボックスを表示します。

図 18-4 単一セル参照の選択ダイアログ・ボックス



- メンバー・リストの引数を選択した場合、ディメンションおよびメンバー名セル参照の**「セル参照」**ダイアログ・ボックスが表示されます。

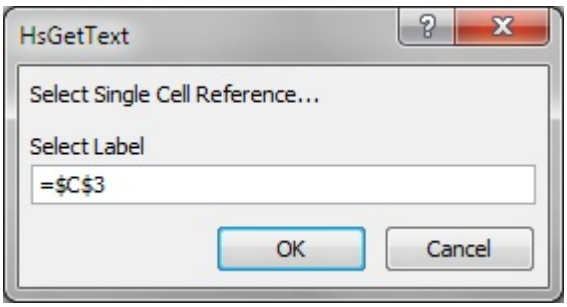
図 18-5 ディメンションおよびメンバー名のセル参照ダイアログ・ボックス



3. グリッドで、次の操作を実行します。
   - **単一セル参照**のダイアログボックスの場合、引数のタイプに応じて、参照する単一セル(変数を含むセルなど)をクリックします。

     図 3 に、ラベルの引数のセルが選択された**単一セル参照**のダイアログ・ボックスを示します。

図 18-6 ラベルの引数の単一セルが選択された「セル参照」ダイアログ・ボックス



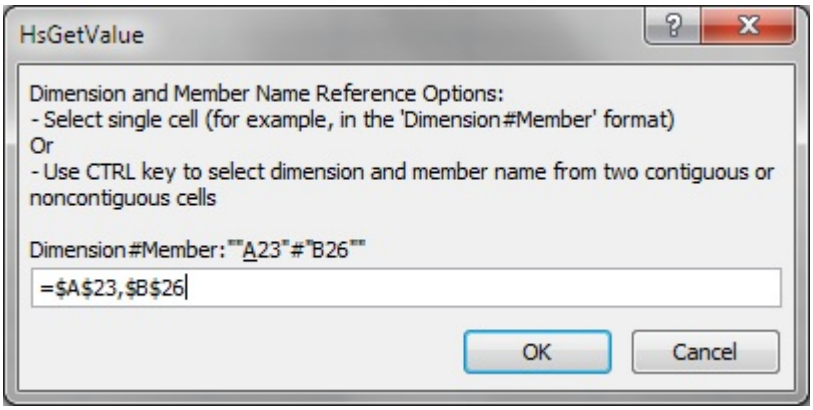
   - **ディメンションおよびメンバー名のセル参照**のダイアログボックスで、次のいずれかの操作を行います。
     - 参照する単一セル(ディメンションとメンバー名の両方を含むセルなど)をクリックします。

– **[Ctrl]**キーを押して、2 つの連続するセルまたは連続しないセル(ディメンションとメンバーのセルなど)を選択します。

  [Ctrl]を押して、ワークシートの異なる領域の 2 つのセルまたは 2 つの隣接するセルをクリックできます。各セルの選択は、**[Ctrl]**キーを押しながら 1 回クリックして行います。

図 4 は、2 つの連続しないセルが選択された**ディメンションおよびメンバー名のセル参照**ダイアログ・ボックスを示しています。

図 18-7 2 つの連続しないセルが選択された「セル参照」ダイアログ・ボックス



4. **「セル参照」**ダイアログ・ボックスで**「OK」**をクリックします。

「関数の引数」の引数のテキスト・フィールドには、参照先のセルが表 1 に示す形式で含まれます。

表 18-2 セル参照の形式

セル参照	関数引数のフォーマット
単一セル	""&A3&"" 詳しい説明は、この表の下にある「ノート」を参照してください。
2 つの連続するセル	""&A3&"#"&B3&""
2 つの連続しないセル	""&A5&"#"&B9&""

ノート: セル参照を使用する際は、次のベスト・プラクティスを考慮してください:

- 単一セル参照の場合、ステップ 3 で選択したメンバー名がグリッド内で dimension#member として表示されていれば、引数の選択は完全です。たとえば、メンバーがグリッド内のセル A3 に `Year#Qtr 2` と表示されている場合、`""&A3&""`は完全です。

  グリッド内にメンバー名のみが表示されている場合、二重引用符の最初の 2 セットの間に、ディメンション名と#を続けて手動入力する必要があります。たとえば、メンバーがセル A3 に Qtr2 として表示されている場合、次のように引用符の間に `Year#`と入力する必要があります: `"Year#"&A3&""`

- 引数テキスト・フィールドにテキストが含まれている状態で参照セルを選択すると、そのテキストに参照セルのテキストが追加されます。そのため、参照セルを選択する前に不要なテキストはフィールドから削除しておきます。

- 日付セルが入力として直接参照される場合は、次のようにテキスト関数を使用して、入力を適切なテキスト・フォーマットに変換します。この例ではセル B3 に適切な日付があります。

  ```
  =HsSetValue(TEXT(B3,"dd/mm/yyyy"),"ConnectionName", "dim#member"…)
  ```

- 接続名を指すセル参照で HsGetValue 関数を使用する場合は、HsGetValue のデータ・ソース接続へのセル参照がある例を参照してください。

5. **「OK」**をクリックして、選択したセルに関数を挿入します。
6. リフレッシュします。

関数の手動作成

Excel の文字およびその他の機能の制限については、Microsoft のドキュメントとサポート・サイトを参照してください。

関数を手動で作成するには:

1. Excel で、関数を入力するセルをクリックします。
2. 等号(=)を入力します。
3. 関数名を入力します。たとえば、`HsSetValue` を入力します
4. 関数の説明の各関数に固有の情報を使用して、関数構文のガイドラインで説明しているルールに従って関数のパラメータを入力します。
5. ワークシートをリフレッシュするには、Smart View リボンから、**「リフレッシュ」**を選択します。

   関数は、リフレッシュしたときに検証されます。

関数構文のガイドライン

個々の関数の構文は、関数の説明を参照してください。

- 共有接続で操作するには、Workspace 関数を指定する WSFN 識別子と接続文字列を関数に追加する必要があります。書式は次のとおりです:

  ```
  "WSFN|ProviderType|Server|Application|Database","POV"
  ```

  たとえば、Oracle Essbase データ・ソースへの共有接続に対する HsGetValue 関数では、次のような WSFN 識別子および接続文字列が関数に追加されます:

  ```
  =HsGetValue("WSFN|Essbase|myserver|Sample|Basic","Market#South")
  ```

  ProviderType では、次の大/小文字を区別する文字列のいずれかを使用します:

  - `Essbase` (Essbase オンプレミスの場合のみ。Oracle Essbase クラウドにはプライベート接続構文が必要です)
  - `HFM`(Oracle Hyperion Financial Management)
  - `HP` (Oracle Hyperion Planning、Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting)

Financial Management の場合、*Database* パラメータは、省略するか、*Application* パラメータと同じにすることができます。一貫性を保つため、*Database* パラメータにアプリケーション名を入力することをお薦めします。

- URL 接続で操作するには、URL 関数を指定する URLFN 識別子と接続文字列を関数に追加する必要があります。書式は次のとおりです:

  `URLFN|URL|Server|Application|Database`

  たとえば、Planning ビジネス・プロセスへの接続に URL を使用する HsGetValue 関数の構文は次のようになります:

  ```
  HsGetValue("URLFN|URL|Server|Application|Database","POV")
  ```

  上に記載されているように、接続の確立に必要なすべての情報がトークンの一部になっています。トークンに無効な情報が含まれている場合は、Server トークンの次の例外を除き、通常は`#NoConnection` エラーが表示されます:

  - Planning などの Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management ビジネス・プロセスでは、Server トークンは空白(または無効)にできます
  - Essbase の Server トークンは空白にのみできます
  - Financial Management には Server トークン・パラメータが必要です
- プライベート接続パラメータには次の値を設定できます:
  - **空**: デフォルト接続
  - **HsActive**: 関連するアクティブな接続
  - プライベート接続のユーザー定義名

  プライベート接続を指定する場合は、POV の前に置く必要があります。
- POV は、*dimension#member* のペアから構成されます。例:

  ```
  Entity#Connecticut
  ```

- 親子関係はピリオド(.)で指定します。例:

  ```
  Entity#UnitedStates.Maine
  ```

- 接続と各 POV *dimension#member* のペアは別々の関数パラメータに分割できます。各パラメータは引用符(")で囲み、カンマ(,)で区切ります。例:

  ```
  "My_connection","Entity#UnitedStates","Account#Sales"
  ```

  または、POV 全体を引用符(")で囲み、各 *dimension#member* ペアをセミコロン(;)で区切って、接続をカンマ(,)で POV から分離できます。例:

  ```
  "My_connection","Entity#UnitedStates;Account#Sales"
  ```

- 関数での別名のサポートは次のようになります:
  - ディメンション名とその別名を混在させないでください。
  - メンバーについては、メンバー名または選択した別名表からの別名を使用できます。
  - すべての別名に同じ別名表を使用する必要があります。

  - 名前付きプライベート接続を使用する場合は、接続に正しい別名表が設定されていることを確認してください。
  - 別名ラベルが別のメンバー名と同じ値の場合、「無効なメンバー」メッセージが表示されます。

関数の実行

「リフレッシュ」コマンドを使用して、Oracle Smart View for Office のほとんどの関数を自動的に実行できます。HsGetValue の場合は、**「データの送信」**コマンドを使用します。

関数を実行して値を取得するには:

1. 実行する関数を含むワークシートを開きます。
2. 次のいずれかを行います:
   - HsSetValue の場合、Smart View のリボンから**「データの送信」**を選択します。
   - 他の関数の場合、いずれかを選択します。
     - 関数を実行し、ワークブックのすべてのワークシートを更新するには、Smart View のリボンから**「すべてのワークシートのリフレッシュ」**を選択します
     - 関数を実行してアクティブなワークシートのみを更新するには、**「リフレッシュ」**を選択します。

ノート:

- Smart View 関数を含むワークブックを開く際に、まだ接続していない場合、ユーザーは接続するよう求められる場合があります。このダイアログを終了して、最後に取得したこれらの関数の古い値を確認できます。
- **Cloud EPM クラシック環境:** 複数のスタンドアロン Cloud EPM ビジネス・プロセスへの複数の関数を含むシートを操作し、URL 接続フォーマットを使用する場合は、シート上の各関数がリフレッシュされるときに各ビジネス・プロセスにログインするように求められます。たとえば、シートに Planning、Financial Consolidation and Close および Tax Reporting 用の関数が含まれ、それぞれ異なるサービス URL に接続している場合は、関数が実行されるときに各ビジネス・プロセスにログインするように求められます。

  Cloud EPM OCI (Gen 2)環境: 異なる Cloud EPM ビジネス・プロセスが同じサービス URL を共有するため、関数が実行されるときに各ビジネス・プロセスへのログインは求められません。
- 保存された関数を含むワークシートが、そのワークシートを作成したコンピュータとは異なるコンピュータで開かれた場合、関数には元のコンピュータへのフルパスが含まれます。次の 3 つの条件をすべて満たしている場合、ワークシートを開いたときに、Smart View によってこれらの関数のパスが自動的に更新されます。
  - ワークシートが保護されていない
  - Excel のオプションで**「リンクの自動更新前にメッセージを表示する」**がクリアされている
  - ワークブックを開いて、リンクを自動的に更新するというプロンプトが表示された場合に、**「続行」**または**「取消」**を選択している。**リンクの編集**は選択しないでください。

  条件を満たしていない場合は、Excel の**「リンク」**オプションを使用して関数を手動で更新する必要があります。
- ワークブックを開いたときに数値ゼロの設定が関数にすぐに適用されるようにするには、次の手順を実行します:
  1. Smart View の**「オプション」**ダイアログの**「データ・オプション」**タブで、**#NoData/Missing Label** オプションを#NumericZero に設定します。
  2. **重要:「OK」**ボタンの **「デフォルト・オプションとして保存」** 設定を選択して、この選択を現在のワークブックおよび後で開くワークブックのデフォルトとして保存してください。

関数内のリンクの修正

Smart View 関数内の破損リンクを修正する必要がある場合があります。

HsGetValue や HsSetValue などの関数を含むワークブックで、あるドライブで Oracle Smart View for Office をアンインストールして、別のドライブにインストールする場合、または別のドライブに Smart View をインストールしているユーザーに Smart View ワークブック・ファイルを送信する場合に、破損リンクが発生することがあります。

> **ヒント:**
>
> Smart View 関数(HsGetValue や HsSetValue など)は、`<SmartViewInstallLocation>/bin/`フォルダにある `HsTbar.xla` ファイルを使用します。Excel は、関数が使用されるすべてのワークブックでこのファイルへのパスをキャッシュします。
>
> ユーザーがワークブックの共有を予定している場合は、ベスト・プラクティスとして、ワークブック内の `HsTbar.xla` ファイルのパスを調整するために**「リンクの修正」**を適用する必要がないように、各ユーザーのマシンの同じ場所に Smart View をインストールすることをお薦めします。

関数内の破損リンクを修正するには:

1. Smart View のリボンから、**「関数」**の隣にある矢印を選択します。
2. ドロップダウン・メニューから、**「リンクの修正」**を選択します。

HsGetValue 関数のコピーと貼付け

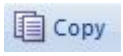
Office アプリケーションから HsGetValue 関数を含むセルやセル範囲をコピーし、Excel、Word、PowerPoint に貼り付けることができます。

コピーと貼付け機能では、次のガイドラインに注意してください。

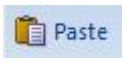
- HsGetValue 関数を含むセルのみをコピーおよび貼り付けできます。その他の関数を含むセルはコピーおよび貼り付けができません。
- 生成されるデータ・ポイントは、接続レベルの別名を使用します。
- 関数のセル参照は、評価された値に置き換えられます。たとえば、関数に dim#member の組合せとして`"Year#""&A2&""`が含まれ、セル A2 に`"Qtr2"`が含まれている場合、生成される関数で抽出される値は`"Year#Qtr2"`になります。
- POV マネージャからデータ・ポイント問合せに POV の変更が適用される場合、データ・ポイントに存在しないディメンションに対してのみ適用されます。
- 関数 XML がレガシー・アプリケーションからエクスポートされる場合があります。
- 次のコピー/貼付けシナリオがサポートされています:
  - セル参照がない、単一の接続からの関数。
  - セル参照がある、単一の接続からの関数。
  - 複数の接続からの関数
  - Excel でのビジュアル化 - この関数 POV を使用すると、単一の交差があるグリッドが生成されます。
  - 接続名で大/小文字を区別しない関数
- 次のコピー/貼付けシナリオはサポート*されていません*:
  - アド・ホック・グリッドからの関数(静的な値として貼り付けられます)。
  - ネストされた式。
  - 除算や乗算などの算術演算を含む式。

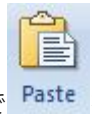
- IF や SUM など、その他の Excel 関数
- SVLink 構文を含む関数。これらは、Smart View のコピーおよび貼付けの結果として Oracle Smart View for Office によって生成された関数です。これらの関数をコピーして貼り付けると、静的テキストとなります。

関数をコピーして貼り付けるには:

1. コピーするセルまたはセル範囲を選択し、次のアクションを実行します:
   - Excel では、

をクリックします。
   - Word および PowerPoint では、

をクリックします
2. コピーした関数セルを貼り付ける Office アプリケーションをまだ開いていない場合は、起動します。
3. 次のいずれかのアクションを行います:
   - Excel では、コピーした関数を貼り付けるセルを選択し、Smart View のリボンで

をクリックします。
   - Word または PowerPoint では、ページまたはスライドで、コピーした関数を貼り付ける位置にカーソルを置き、Smart View のリボンで

をクリックします
4. シート、ページ、またはスライドをリフレッシュします。

関数の説明

Oracle Smart View for Office には、次の関数があります。説明、構文および例を参照するには、関数名をクリックしてください。

HsGetValue: 視点の選択したディメンション・メンバーのデータ・ソースからデータを取得します。

HsSetValue: 視点の選択したディメンション・メンバーのデータ・ソースに値を送信します。

HsGetSheetInfo: 現在のワークシートに関する詳細情報を取得します。

HsCurrency: 選択したメンバーのエンティティ 通貨を取得します。

HsDescription: デフォルトの視点メンバーの説明を表示します。

HsAlias: 指定されたディメンション・メンバーの別名を表示します。

HsLabel: デフォルトの視点メンバーのラベルを表示します。

HsGetText: データ・ソースからセル・テキストを取得します。

HsSetText: データ・ソースにセル・テキストを送信します。

HsGetVariable: 代替変数の値を取得します。

HsGetSharedConnectionURL: 使用される共有接続データ・ソースを識別します。

HsGetValue

Smart View 関数 HsGetValue について説明します。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting、Narrative Reporting

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、 Oracle Hyperion Financial Management、Oracle Hyperion Planning

説明

HsGetValue は、視点(POV)の選択したディメンション・メンバーのデータ・ソースからデータを取得します。

HsGetValue でデータが取得されない場合、#NoData/Missing ラベル置換オプションで指定された値が使用されます(表 1 を参照してください)。

ユーザーが「リフレッシュ」または「すべてリフレッシュ」を選択した場合は、HsGetValue のみ呼び出されます。ユーザーが「送信」を選択した場合は、最初に HsSetValue が呼び出され、HsSetValue が正常に戻った場合にのみ HsGetValue が呼び出されます。

HsGetValue 関数は、Essbase データ・ソースでの 1 つの属性ディメンションおよびメンバーの使用をサポートします。Oracle Smart View for Office 11.1.2.5.710+では、HsGetValue の属性サポートは Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting データ・ソースに拡張されています(属性を使用した例を参照)。

Smart View 11.1.2.5.720+では、HsGetValue を使用して、スマート・リスト、テキストおよび日付などの列挙データ型を戻すことができます(スマート・リストを使用した例を参照)。

Narrative Reporting 24.02 以降は、Excel セル参照を使用して構築された HsGetValue()関数で、サーバー始動リフレッシュがサポートされています。

構文

プライベート接続:

```
HsGetValue("PrivateConnectionName","POV")
```

共有接続:

```
HsGetValue("WSFN|ProviderType|Server|Application|Database","POV")
```

URL 接続:

```
HsGetValue("URLFN|URL|Server|Application|Database","POV")
```

構文情報の詳細は、関数の手動作成を参照してください。

例 18-1 属性を使用しない例

クラウド・データ・ソース・タイプ: Essbase、Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting、Narrative Reporting

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Essbase、Financial Management、Planning

次の例では、HsGetValue でデフォルトの POV に関して HFM01 アプリケーションから値を戻します。

プライベート接続:

```
=HsGetValue("HFM01","Scenario#Actual","Year#2004","Period#July","View#YTD","En
tity#UnitedStates.Connecticut","Value#USD","Account#Sales","ICP#[ICP
None]","Custom1#GolfBalls","Custom2#Customer2","Custom3#[None]","Custom4#Incre
ases")
```

共有接続:

```
=HsGetValue("WSFN|HFM|hfm_svr|HFM01|
HFM01","Scenario#Actual","Year#2004","Period#July","View#YTD","Entity#UnitedSt
ates.Connecticut","Value#USD","Account#Sales","ICP#[ICP
None]","Custom1#GolfBalls","Custom2#Customer2","Custom3#[None]","Custom4#Incre
ases")
```

URL 接続:

```
=HsGetValue("URLFN|http://<servername:port>/hfmadf/../hfmadf/officeprovider|
<servername:port>|HFM01|
HFM01","Scenario#Actual","Year#2004","Period#July","View#YTD","Entity#UnitedSt
ates.Connecticut","Value#USD","Account#Sales","ICP#[ICP
None]","Custom1#GolfBalls","Custom2#Customer2","Custom3#[None]","Custom4#Incre
ases")
```

例 18-2 属性を使用した例

クラウド・データ・ソース・タイプ: Essbase、Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Essbase

この例では、HsGetValue は Vision アプリケーション、Plan1 データベースからの値を戻し、POV には、属性ディメンションおよびメンバー、Entity_Regions#NA_Reg が含まれます。

> **ノート:**
>
> HsGetValue は、関数当たり 1 つの属性ディメンションおよびメンバーのみをサポートします。

プライベート接続:

```
=HsGetValue("Vision","Account#Amount","Period#Jan","Years#2017","Scenario#Annu
al Contract","Version#Final","Entity#AR02-Argentina-
IS_Adjustments","Package#Depreciation","Currency#Local
Currency","Entity_Regions#NA_Reg")
```

共有接続:

```
=HsGetValue("WSFN|HP|serviceURL|Vision|
Plan1","Account#Amount","Period#Jan","Years#2017","Scenario#Annual
Contract","Version#Final","Entity#AR02-Argentina-
IS_Adjustments","Package#Depreciation","Currency#Local
Currency","Entity_Regions#NA_Reg")
```

URL 接続:

```
=HsGetValue("URLFN|https://<servername:port>/HyperionPlanning/SmartView
|<servername:port>|Vision|
Plan1","Account#Amount","Period#Jan","Years#2017","Scenario#Annual
Contract","Version#Final","Entity#AR02-Argentina-
IS_Adjustments","Package#Depreciation","Currency#Local
Currency","Entity_Regions#NA_Reg")
```

例 18-3 スマート・リストを使用した例

クラウド・データ・ソース・タイプ: Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting

この例では、HsGetValue は Vision アプリケーション、Plan1 データベースからのスマート・リスト値を戻します。この場合のスマート・リストは、Cleaning and Maintenance のドライバ値を検索します。戻すことができる値は、"% of Revenue"、"Units"、"FTE Hours"、"Sales Calls"、"Trips"、"Square Feet、"および"None"です。

プライベート接続:

```
=HsGetValue("Vision","Account#7440: Cleaning and
Maintenance","Period#x---------
x","HSP_View#BaseData","Year#FY15","Scenario#Plan","Version#Driver","Entity#No
 Entity","Product#No Product")
```

共有接続:

```
=HsGetValue("WSFN|HP|serviceURL|Vision|Plan1","Account#7440: Cleaning and
Maintenance","Period#x---------
x","HSP_View#BaseData","Year#FY15","Scenario#Plan","Version#Driver","Entity#No
 Entity","Product#No Product")
```

URL 接続:

```
=HsGetValue("URLFN|https://<servername:port>/HyperionPlanning/SmartView|
<servername:port>|Vision|Plan1","Account#7440: Cleaning and
Maintenance","Period#x---------
x","HSP_View#BaseData","Year#FY15","Scenario#Plan","Version#Driver","Entity#No
 Entity","Product#No Product")
```

例 18-4 データ・ソース接続へのセル参照がある例

データ・ソース接続へのセル参照を使用して構築された HsGetValue 関数の場合は、Excel ファイルで、URL 接続フォーマットを使用して関数の接続を定義します:

```
URLFN|URL:Port|Server|Application|Database
```

> **ノート:**
>
> ワークブックにプライベート接続名を指すセル参照を使用する HsGetValue 関数が含まれている場合、プライベート接続はマシン間で移植できないため、サーバー始動リフレッシュではサポートされないことに注意してください。URLFN フォーマットを使用するように、これらの関数を変換することをお薦めします。

次の例では、セル B1 に接続情報が含まれていると仮定します。URLFN の接頭辞を付けて、次のフォーマットで接続情報を入力します:

```
URLFN|http://<serviceURL>:<port>/HyperionPlanning/SmartView|<serverName>|App|
Database
```

その後、次のようにセル B1 を参照する接続パラメータを使用して関数を構築します:

```
=HsGetValue(B1,"Scenario#Actual","Year#2004","Period#July","View#YTD","Entity#
UnitedStates.Utah","Value#USD","Account#Sales","ICP#[ICP
None]","Custom1#GolfBalls","Custom2#Customer2","Custom3#[None]","Custom4#Incre
ases")
```

HsSetValue

Smart View 関数 HsSetValue について説明します。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、 Oracle Hyperion Financial Management、Oracle Hyperion Planning

説明

HsSetValue は、視点(POV)の選択したディメンション・メンバーに対するデータ値をワークシートからデータ・ソースへ送信します。属性ディメンションおよびメンバーは HsSetValue ではサポートされていません。

データ・ソースにデータを送信するには、データ・ソースに対する適切なロード規則と書込みアクセス権が必要です。

Smart View 11.1.2.5.810+では、HsSetValue を使用して、スマート・リスト、テキストおよび日付などの列挙データ型を送信できます。

構文

プライベート接続:

```
HsSetValue (value,"PrivateConnectionName","POV")
```

共有接続:

```
HsSetValue (value,"WSFN|ProviderType|Server|Application|Database","POV")
```

URL 接続:

```
HsSetValue (value,"URLFN|URL|Server|Application|Database","POV")
```

構文情報の詳細は、関数の手動作成を参照してください。

例 18-5 基本的な例

クラウド・データ・ソース・タイプ: Essbase、Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Essbase、Financial Management、Planning

次の例では、HsSetValue でセル H4 から HFM01 アプリケーションに値を送信します。

プライベート接続:

```
HsSetValue(H4,
"HFM01","Scenario#Actual;Year#2004;Period#"&B$2&";View#<Scenario
View>;Entity#UnitedStates.Connecticut;Value#<Entity
Currency>;Account#"&$A4&";ICP#[ICP
None];Custom1#GolfBalls;Custom2#Customer2;Custom3#[None];Custom4#
Increases")
```

共有接続:

```
HsSetValue(H4, "WSFN|HFM|hfm_svr|HFM01|
HFM01","Scenario#Actual;Year#2004;Period#"&B$2&";View#<Scenario
View>;Entity#UnitedStates.Connecticut;Value#<Entity
Currency>;Account#"&$A4&";ICP#[ICP
None];Custom1#GolfBalls;Custom2#Customer2;Custom3#[None];Custom4#
Increases")
```

URL 接続:

```
HsSetValue(H4, "URLFN|http://<servername:port>/hfmadf/../hfmadf/
officeprovider|<servername:port>|HFM01|
HFM01","Scenario#Actual;Year#2004;Period#"&B$2&";View#<Scenario
View>;Entity#UnitedStates.Connecticut;Value#<Entity
Currency>;Account#"&$A4&";ICP#[ICP
None];Custom1#GolfBalls;Custom2#Customer2;Custom3#[None];Custom4#
Increases")
```

例 18-6 スマート・リストを使用した例

クラウド・データ・ソース・タイプ: Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting

この例の構文は、テキストに使用されている内容と似ていますが、テキストはスマート・リスト内のテキスト値の 1 つに一致している必要があります。

プライベート接続:

```
HsSetValue("Trips", "Vision","Account#7110: Advertising","Period#x---------
x","HSP_View#BaseData","Year#FY16","Scenario#Forecast","Version#Driver","Entit
y#International Sales","Product#No Product")
```

共有接続:

```
HsSetValue("Trips", "WSFN|HP|serviceURL|Vision|Plan1","Account#7110:
Advertising","Period#x---------
x","HSP_View#BaseData","Year#FY16","Scenario#Forecast","Version#Driver","Entit
y#International Sales","Product#No Product")
```

URL 接続:

```
HsSetValue("Trips", "URLFN|https://<servername:port>/HyperionPlanning/
SmartView|<servername:port>|Vision|Plan1","Account#7110:
Advertising","Period#x---------
x","HSP_View#BaseData","Year#FY16","Scenario#Forecast","Version#Driver","Entit
y#International Sales","Product#No Product")
```

例 18-7 テキストの例

クラウド・データ・ソース・タイプ: Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting

関数内でテキスト値を使用する場合は、テキスト値を引用符で囲みます。

プライベート接続:

```
HsSetValue("Enter Some Text", "Vision","Account#7110:
Advertising","Period#Jun","HSP_View#BaseData","Year#FY16","Scenario#Plan","Ver
sion#Commentary","Entity#International Sales","Product#No Product")
```

共有接続:

```
HsSetValue("Enter Some Text", "WSFN|HP|serviceURL|Vision|
Plan1","Account#7110:
Advertising","Period#Jun","HSP_View#BaseData","Year#FY16","Scenario#Plan","Ver
sion#Commentary","Entity#International Sales","Product#No Product")
```

URL 接続:

```
HsSetValue("Enter Some Text", "URLFN|https://<servername:port>/
HyperionPlanning/SmartView|<servername:port>|Vision|Plan1","Account#7110:
Advertising","Period#Jun","HSP_View#BaseData","Year#FY16","Scenario#Plan","Ver
sion#Commentary","Entity#International Sales","Product#No Product")
```

例 18-8 日付の例

クラウド・データ・ソース・タイプ: Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting

関数内で日付値を使用する場合は、日付値を引用符で囲みます。

プライベート接続:

```
HsSetValue("01/03/2003","Vision","Account#Request Date","Period#x---------
x","HSP_View#BaseData","Year#FY16","Scenario#Plan","Version#Working","Entity#N
o Department","Product#No Product")
```

共有接続:

```
HsSetValue("01/03/2003","WSFN|HP|serviceURL|Vision|Plan1","Account#Request
Date","Period#x---------
x","HSP_View#BaseData","Year#FY16","Scenario#Plan","Version#Working","Entity#N
o Department","Product#No Product")
```

URL 接続:

```
HsSetValue("01/03/2003","URLFN|https://<servername:port>/HyperionPlanning/
SmartView|<servername:port>|Vision|Plan1","Account#Request
Date","Period#x---------
x","HSP_View#BaseData","Year#FY16","Scenario#Plan","Version#Working","Entity#N
o Department","Product#No Product")
```

例 18-9 今日の日付に TODAY 関数を使用した日付の例

クラウド・データ・ソース・タイプ: Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting

今日の日付に TODAY 関数を使用することもできます。

プライベート接続:

```
HsSetValue(TEXT(TODAY(),"mm/dd/yyyy"),"Vision","Account#Request
Date","Period#x---------
x","HSP_View#BaseData","Year#FY16","Scenario#Plan","Version#Working","Entity#N
o Department","Product#No Product")
```

共有接続:

```
HsSetValue(TEXT(TODAY(),"mm/dd/yyyy"),"WSFN|HP|serviceURL|Vision|
Plan1","Account#Request Date","Period#x---------
x","HSP_View#BaseData","Year#FY16","Scenario#Plan","Version#Working","Entity#N
o Department","Product#No Product")
```

URL 接続:

```
HsSetValue(TEXT(TODAY(),"mm/dd/yyyy"),"URLFN|https://<servername:port>/
HyperionPlanning/SmartView|<servername:port>|Vision|Plan1","Account#Request
Date","Period#x---------
x","HSP_View#BaseData","Year#FY16","Scenario#Plan","Version#Working","Entity#N
o Department","Product#No Product")
```

HsGetSheetInfo

Smart View 関数 HsGetSheetInfo について説明します。

データ・ソース・タイプ: プロバイダ非依存

説明

HsGetSheetInfo は、表 1 に説明されているように、現在のワークシートに関する詳細情報を取得します。

表 18-3 HsGetSheetInfo の詳細

数値等価	文字列等価	シート情報
1	接続済	接続ステータス
2	シート・タイプ	アド・ホックまたはフォーム
3	サーバー	シートの接続先のサーバー
4	アプリケーション	シートの接続先のアプリケーション
5	キューブ	シートの接続先のキューブ
6	URL	シートの接続先の URL
7	プロバイダ	シートの接続先のデータ・ソース・タイプ
8	プロバイダ URL	シートの接続先のプロバイダ; Oracle Hyperion Provider Services 接続に適用されます
9	わかりやすい名前	データ・ソース接続名
10	別名表	現在の別名表
12	説明	接続の説明
13	最後の取得	シートで最後のリフレッシュが実行された日時

構文

```
HsGetSheetInfo("<string equivalent>")


HsGetSheetInfo("<numerical equivalent>")
```

構文情報の詳細は、関数の手動作成を参照してください。

例

この例では、HsGetSheetInfo により、ワークシートにアド・ホック・グリッドまたはフォームが含まれるかどうかが示されます。

```
HsGetSheetInfo("Sheet Type")
```

HsCurrency

Smart View 関数 HsCurrency について説明します。

データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Financial Management

説明

HsCurrency は、指定されたディメンション・メンバーの通貨値を取得します。HsCurrency 関数では、Entity および Value のみが有効なメンバーです。

構文

プライベート接続:

```
HsCurrency("PrivateConnectionName,Entity;Value")
```

共有接続:

```
HsCurrency("WSFN|ProviderType|Server|Application|
Database,EntityMember;ValueMember")
```

URL 接続

```
HsCurrency("URLFN|URL|Server|Application|Database,EntityMember;ValueMember")
```

構文情報の詳細は、関数の手動作成を参照してください。

例

次の例では、EastSales エンティティの通貨が USD で、UKSales エンティティの通貨が GBR である場合に、HsCurrency がエンティティ通貨を取得します。EastSales エンティティは USD を表示し、UKSales は GBR を表示します。

プライベート接続:

```
HsCurrency("Comma","Entity#EastRegion.EastSales;Value#<Entity Currency>.")
HsCurrency("Comma","Entity#EastRegion.UKSales;Value#<Entity Currency>.")
```

共有接続:

```
HsCurrency("WSFN|HFM|hfm_svr|Comma|
Comma","Entity#EastRegion.EastSales;Value#<Entity Currency>.")
HsCurrency("Comma","Entity#EastRegion.UKSales;Value#<Entity Currency>.")
```

URL 接続:

```
HsCurrency("URLFN|https://<servername:port>/hfmadf/../hfmofficeprovider/
OfficeProvider|<servername:port>|Comma|
Comma","Entity#EastRegion.EastSales;Value#<Entity Currency>.")
```

HsDescription

Smart View 関数 HsDescription について説明します。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Oracle Hyperion Financial Management

説明

HsDescription は、指定されたディメンション・メンバーの説明を表示します。

Essbase のみ: HsDescription は、指定されたディメンション・メンバーの別名を返します。

構文

プライベート接続:

```
HsDescription ("PrivateConnectionName","Dimension#Member")
```

共有接続:

```
HsDescription ("WSFN|ProviderType|Server|Application|
Database","Dimension#Member")
```

URL 接続:

```
HsDescription ("URLFN|URL|Server|Application|Database","Dimension#Member")
```

構文情報の詳細は、関数の手動作成を参照してください。

例

次の例では、HsDescription で Custom 4 の説明を表示します。

プライベート接続:

```
HsDescription("HFM01","Custom4#Increases")
```

共有接続:

```
HsDescription("WSFN|HFM|hfm_svr|HFM01|HFM01","Custom4#Increases")
```

URL 接続:

```
HsDescription ("URLFN|https://<servername:port>/hfmadf/../hfmofficeprovider/
OfficeProvider|<servername:port>|HFM01|HFM01","Custom4#Increases")
```

HsAlias

Smart View 関数 HsAlias について説明します。

データ・ソース・タイプ: Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting

説明

HsAlias は、指定されたディメンション・メンバーの別名を表示します。

構文

プライベート接続:

```
HsAlias("PrivateConnectionName","Dimension#Member", "OutputAliasTable",
"MemberNameFromAliasTable", "FlagToReturnDistinctName")
```

共有接続:

```
HsAlias("WSFN|ProviderType|Server|Application|Database","Dimension#Member",
"OutputAliasTable", "MemberNameFromAliasTable", "FlagToReturnDistinctName")
```

URL 接続:

```
HsAlias("URLFN|URL|Server|Application|Database","Dimension#Member",
"OutputAliasTable", "MemberNameFromAliasTable", "FlagToReturnDistinctName")
```

> **ノート:**
>
> 構文情報の詳細は、関数の手動作成を参照してください。

ノート

- 接続パラメータと Dimension#Member パラメータは必須です。
- プライベート接続の場合、OutputAliasTable パラメータはオプションです。OutputAliasTable が空の場合は、接続レベルの別名が OutputAliasTable に使用されます。
- メンバーが属する別名表の指定はオプションです。MemberNameFromAliasTable が空の場合は、アウトラインからの元のメンバー名が使用されます。
- メンバー名が MemberNameFromAliasTable で指定された別名表に見つからない場合は、アウトラインからの元のメンバー名が使用されます。
- HsAlias 関数内の HsActive キーワードはアド・ホック・グリッドを持つシートでのみ使用できます。
- Oracle Smart View for Office または Excel からのコピーと貼付けはサポートされていません。静的テキストのみ貼り付けられます。
- ブール引数 FlagToReturnDistinctName は、別名出力が短縮名か完全修飾名かを決定します。デフォルトの値は False です。

例

プライベート接続:

```
HsAlias("Planvision","Scenario#Actual", "German", "Default", "True")
```

共有接続:

```
HsAlias("WSFN|HP|svr|Vision|Plan1","Scenario#Actual", "German", "Default"
"True")
```

URL 接続:

```
HsAlias("URLFN|URL|svr|Vision|Plan1","Scenario#Actual", "German", "Default"
"True")
```

HsLabel

Smart View 関数 HsLabel について説明します。

データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Financial Management

説明

HsLabel は、指定されたディメンション・メンバーのデフォルトのメンバー・ラベルを表示します。

構文

プライベート接続:

```
HsLabel ("PrivateConnectionName","Dimension#")
```

共有接続:

```
HsLabel ("WSFN|ProviderType|Server|Application|Database","Dimension#")
```

URL 接続:

```
HsLabel ("URLFN|URL|Server|Application|Database","Dimension#")
```

構文情報の詳細は、関数の手動作成を参照してください。

例

次の例では、HsLabel 関数で Comma アプリケーションの Scenario ディメンションのラベルを取得します:

プライベート接続:

```
HsLabel ("Comma","Scenario#")
```

共有接続:

```
HsLabel ("WSFN|HFM|hfm_svr|Comma|Comma","Scenario#")
```

URL 接続:

```
HsLabel ("URLFN|https://<servername:port>/hfmadf/../hfmofficeprovider/
OfficeProvider|<servername:port>|Comma|Comma","Scenario#")
```

HsGetText

Smart View 関数 HsGetText について説明します。

データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Financial Management

説明

HsGetText は、ディメンション・メンバー、セル参照、デフォルトの POV、またはこれら 3 つの組合せのデータ・ソースからセル・テキストを取得します。

> **ノート:**
>
> セル・テキストを取得するには、**「リフレッシュ」**をクリックする必要があります。

構文

プライベート接続:

```
HsGetText ("PrivateConnectionName","POV","CellTextLabel")
```

共有接続:

```
HsGetText ("WSFN|ProviderType|Server|Application|
Database","POV","CellTextLabel")
```

URL 接続:

```
HsGetText ("URLFN|URL|Server|Application|Database","POV","CellTextLabel")
```

構文情報の詳細は、関数の手動作成を参照してください。

例

次の例では、HsGetText 関数でデフォルトの POV に関して HFM01 データ・ソースからセル・テキストを戻します。

プライベート接続:

```
HsGetText("HFM01","Scenario#Actual;Year#2004;Period#"&B$2&";View#
<Scenario View>;Entity#UnitedStates.Connecticut;Value#<Entity
```

```
Currency>;Account#"&$A3&";ICP#[ICP
None];Custom1#GolfBalls;Custom2#Customer2;Custom3#[None],Custom4#
Increases")
```

共有接続:

```
HsGetText("WSFN|HFM|hfm_svr|HFM01|
HFM01","Scenario#Actual;Year#2004;Period#"&B$2&";View#
<Scenario View>;Entity#UnitedStates.Connecticut;Value#<Entity
Currency>;Account#"&$A3&";ICP#[ICP
None];Custom1#GolfBalls;Custom2#Customer2;Custom3#[None],Custom4#
Increases")
```

URL 接続:

```
HsGetText("URLFN|https://<servername:port>/hfmadf/../hfmofficeprovider/
OfficeProvider|<servername:port>|HFM01|
HFM01","Scenario#Actual;Year#2004;Period#"&B$2&";View# <Scenario
View>;Entity#UnitedStates.Connecticut;Value#<Entity
Currency>;Account#"&$A3&";ICP#[ICP
None];Custom1#GolfBalls;Custom2#Customer2;Custom3#[None],Custom4#Increases")
```

HsSetText

Smart View 関数 HsSetText について説明します。

データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Financial Management

説明

HsSetText は、セル・テキストをデータ・ソースに送信します。すべてのディメンション・メンバー、セル参照、デフォルトの POV を使用できます。また、これらすべてを組み合せて使用することもできます。

> **ノート:**
>
> セル・テキストを保存するには、**「データの送信」**をクリックする必要があります。

構文

プライベート接続:

```
HsSetText("CellTextComments","PrivateConnectionName","POV","CellTextLabel")
```

共有接続:

```
HsSetText("CellTextComments","WSFN|ProviderType|Server|Application|
Database","POV","CellTextLabel")
```

URL 接続:

```
HsSetText("CellTextComments","URLFN|URL|Server|Application|
Database","POV","CellTextLabel")
```

構文情報の詳細は、関数の手動作成を参照してください。

例

次の例では、HsSetText でセル H3 から HFM01 アプリケーションにテキストを送信します。

プライベート接続:

```
HsSetText("H3","HFM01","Scenario#Actual;Year#2004;Period#"&B$2&";View#<Scenari
o View>;
Entity#UnitedStates.Connecticut;Value#<Entity
Currency>;Account#"&$A3&";ICP#[ICP None];
Custom1#GolfBalls;Custom2#Customer2;Custom3#[None],Custom4#Increases")
```

共有接続:

```
HsSetText("H3","WSFN|HFM|hfm_svr|HFM01|HFM01","Scenario#Actual;Year#2004;
Period#"&B$2&";View#<Scenario View>;Entity#UnitedStates.Connecticut;
Value#<Entity Currency>;Account#"&$A3&";ICP#[ICP None];Custom1#GolfBalls;
Custom2#Customer2;Custom3#[None],Custom4#Increases")
```

URL 接続:

```
HsSetText("H3","URLFN|https://<servername:port>/hfmadf/../hfmofficeprovider/
OfficeProvider|<servername:port>|<servername:port>
|HFM01|HFM01","Scenario#Actual;Year#2004;Period#"&B$2&";View#<Scenario
View>;Entity#UnitedStates.Connecticut;
Value#<Entity Currency>;Account#"&$A3&";ICP#[ICP
None];Custom1#GolfBalls;Custom2#Customer2;Custom3#[None],Custom4#Increases")
```

HsGetVariable

Smart View 関数 HsGetVariable について説明します。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

説明

HsGetVariable は、代替変数の関連する値を取得します。

HsGetVariable はスマート・スライスで使用できません。

構文

HsGetVariable では、次のように、デフォルト接続名、プライベート接続名、共有接続名、または複数の範囲のグリッドでの Excel 名前付き範囲を使用できます:

- **デフォルト接続:** `HsGetVariable("代替変数名")`

- **プライベート接続:** `HsGetVariable("PrivateConnectionName","代替変数名")`
- **共有接続:** `HsGetVariable("WSFN|ProviderType|Server|Application|Database","代替変数名")`
- **URL 接続:**`HsGetVariable("URLFN|URL|Server|Application|Database","代替変数名")`
- **複数の範囲のグリッドでの名前付き範囲:** `HsGetVariable("範囲名","代替変数名")`

構文情報の詳細は、関数の手動作成を参照してください。

例

- デフォルト接続: `HsGetVariable("CurMonth")`
- プライベート接続: `HsGetVariable("myprivateconnection_Sample_Basic","CurMonth")`
- 共有接続: `HsGetVariable("WSFN|Essbase|esbsvr|Sample|Basic","CurMonth")`
- URL 接続: `HsGetVariable("URLFN|https://<servername:port>/aps/SmartView|<servername:port>|Application|Database","代替変数名")`
- 名前付き範囲: `HsGetVariable("myprivateconnection_Sample_Basic","CurMonth")`

> **ノート:**
>
> アンパサンド(&)は通常、代替変数への参照に使用されますが、この関数ではオプションです。

> **ノート:**
>
> HsGetVariable では ASCII 以外の変数値はサポートされません。

HsGetSharedConnectionURL

Smart View 関数 HsGetSharedConnectionURL について説明します。

データ・ソース・タイプ: すべて

説明

HsGetSharedConnectionURL 関数を使用して、使用される共有接続データ・ソースをすばやく識別します。これは、たとえば本番環境やテスト環境に接続されているかどうか不明な場合に役立ちます。

HsGetSharedConnectionURL 関数を使用するには、任意のセルに関数名を入力して[Enter]キーを押します。共有接続 URL がセル内にすぐに表示されます。

```
=HsGetSharedConnectionURL()
```

関数名をセル内に入力し始めることで、関数を入力することもできます。

```
=hs
```

関数のドロップダウン・リストで、HsGetSharedConnectionURL をダブルクリックします。式バーで、またはグリッド内のセルに直接、閉じカッコ)を追加して[Enter]を押し、共有接続 URL を表示します。

> **Note:**
>
> 関数を使用した後、不要になった場合はセルから URL を削除できます。

構文

```
HsGetSharedConnectionURL()
```

構文情報の詳細は、関数の手動作成を参照してください。

例

次のように入力します:

```
HsGetSharedConnectionURL()
```

結果: この例では、同じドメイン上の複数の Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management ビジネス・プロセスに対するクラウド接続の URL が表示されます。

```
https://<your_serviceURL>/HyperionPlanning/SmartView
```

一般的な関数エラー・コード

関数で表示される一般的なエラー・コードの一部を示します。

#NO CONNECTION - データ・ソースに接続されていないか、またはログオンしていません。

#Cube Not Selected - キューブ・レベルで接続されていません。

#INVALID - メタデータが無効です。値を含む無効なセルで、値がゼロとして表示されます。

#LOCKED - セルがロックされています。

#NO ACCESS - このセルのアクセス権がありません。

#NO DATA - セルに NoData が含まれています。NoData のかわりに 0 と表示することもできます。セルには、「オプション」ダイアログ・ボックスで指定した置換テキストが表示されます。

#INVALID INPUT - テキスト文字列など、HsSetValue データ値が有効ではありません。

#READ ONLY - セルが読み取り専用である場合に HsSetValue 関数に対してのみ表示されます。

#NO ROLE ACCESS - Oracle Hyperion Financial Management LoadExcelData のセキュリティの役割がありません。

#NEEDS REFRESH - データをリフレッシュする必要があります。

#INVALID DIMENSION - 関数で指定されたディメンションが無効です。

#INVALID MEMBER - 関数で指定されたディメンション・メンバー名が無効です。

#NAME - Excel が式中のテキストを認識しません。関数を含むワークシートを、Oracle Smart View for Office がインストールされていないユーザーに転送した場合、ユーザーは同じデータを関数としてワークシート上に表示できます。ユーザーが関数を編集またはリフレッシュすると、関数は#Name に変わります。

19

IPM インサイト

Related Topics

- Smart View での IPM インサイトの使用
  Oracle Smart View for Office を使用して、Excel、Word、PowerPoint などの Microsoft Office アプリケーションにインテリジェント・パフォーマンス管理(IPM)インサイトを挿入して使用できるようになりました。
- Smart View でのインサイトの表示
  「IPM インサイト」ダイアログでは、利用可能なインサイトのリストとその詳細を表示できます。
- インサイトの挿入
  インサイトは、Microsoft Excel シート、Microsoft Word 文書、Microsoft PowerPoint スライドに挿入できます。
- 関数の挿入
  グラフやデータ表を挿入せずに、インサイトに関連するプロパティのみを抽出して表示する関数を挿入できます。
- アド・ホック・グリッドでのインサイトの分析
  インサイトに関連付けられたデータ表のみを挿入し、様々なアド・ホック分析操作を使用して分析できます。
- シート情報でのインサイト・メタデータの表示
  「シート情報」ダイアログで、インサイトのシート情報を表示できます。
- インサイトの保存およびリフレッシュ
  インサイトを挿入した Excel シート、Word 文書、または PowerPoint スライドをグラフまたは関数として保存し、インサイトをリフレッシュして最新のデータを取得できます。

Smart View での IPM インサイトの使用

Oracle Smart View for Office を使用して、Excel、Word、PowerPoint などの Microsoft Office アプリケーションにインテリジェント・パフォーマンス管理(IPM)インサイトを挿入して使用できるようになりました。

データ・ソース・タイプ: Planning、Enterprise Profitability and Cost Management、フリーフォーム、Tax Reporting

IPM インサイトは過去のデータと予測データを分析し、自分では見つけられなかったデータのパターンや洞察を発見するのに役立ちます。IPM インサイトを使用すると、データ分析にかかる時間を短縮し、予測精度を向上させ、トレンドを早期に検知し、バイアスを最小限に抑えることで、情報に基づいた意思決定を促進できます。

サービス管理者は、IPM インサイトを構成およびスケジュール設定して、Web アプリケーションの Insights ダッシュボードに表示される内容を定義します。同じインサイトを Smart View で表示し、Excel、Word、PowerPoint などの Microsoft Office アプリケーションに挿入できます。インサイトの構成と Web アプリケーションからのアクセスの詳細は、『*Planning の管理*』の IPM の構成と『*Planning の操作*』の IPM インサイトを使用した意思決定支援を参照してください。

IPM インサイトは、次のタイプのインサイトを提供します:

- **予測差異とバイアス:** このインサイトは、履歴データを分析することで、プランナが提出した予測に潜むバイアスを明らかにします。たとえば、実際の電子機器売上高が、予測より24.15%高くなっています。
- **プレディクション:** このインサイトは、予測値と比較した予測の大きな偏差を明らかにします。たとえば、予測された光熱費が、予測より 20.06%低くなっています。
- **異常:** このインサイトは、期待される結果から逸脱するデータ内の外れ値や異常なパターンを検出します。たとえば、実際の製造費が、FY23 6 月に 44%高くなっています。

Smart View では、IPM インサイトを次の方法で使用できます:

- **利用可能なインサイトを表示:** 「IPM インサイト」ダイアログで、利用可能なインサイトのリストとその詳細を表示できます。Smart View でのインサイトの表示を参照してください。
- **インサイトの挿入:** Excel シート、Word 文書、PowerPoint スライドにインサイトを挿入できます。インサイトの挿入を参照してください。
- **関数の挿入:** このアクションは Excel でのみ使用できます。グラフやデータ表なしで、インサイトに関連する詳細のみを抽出して表示する関数を挿入できます。関数の挿入を参照してください。
- **インサイトの分析:** このアクションは Excel でのみ使用できます。インサイトに関連付けられたデータ表のみを挿入し、様々なアド・ホック分析操作を使用して分析できます。アド・ホック・グリッドでのインサイトの分析を参照してください。
- **インサイトに関連付けられたメタデータを表示:** このアクションは Excel でのみ使用できます。シートにインサイトまたは関数を挿入すると、「シート情報」ダイアログで、インサイトに関連付けられた詳細情報とメタデータを表示できます。シート情報でのインサイト・メタデータの表示を参照してください。
- **挿入したインサイトの保存とリフレッシュ:** インサイトを挿入した Excel シート、Word 文書、または PowerPoint スライドを保存し、インサイトをリフレッシュして最新のデータを取得できます。インサイトの保存およびリフレッシュを参照してください。

インサイトの構成と Web アプリケーションからのアクセスの詳細は、次のトピックをご覧ください:

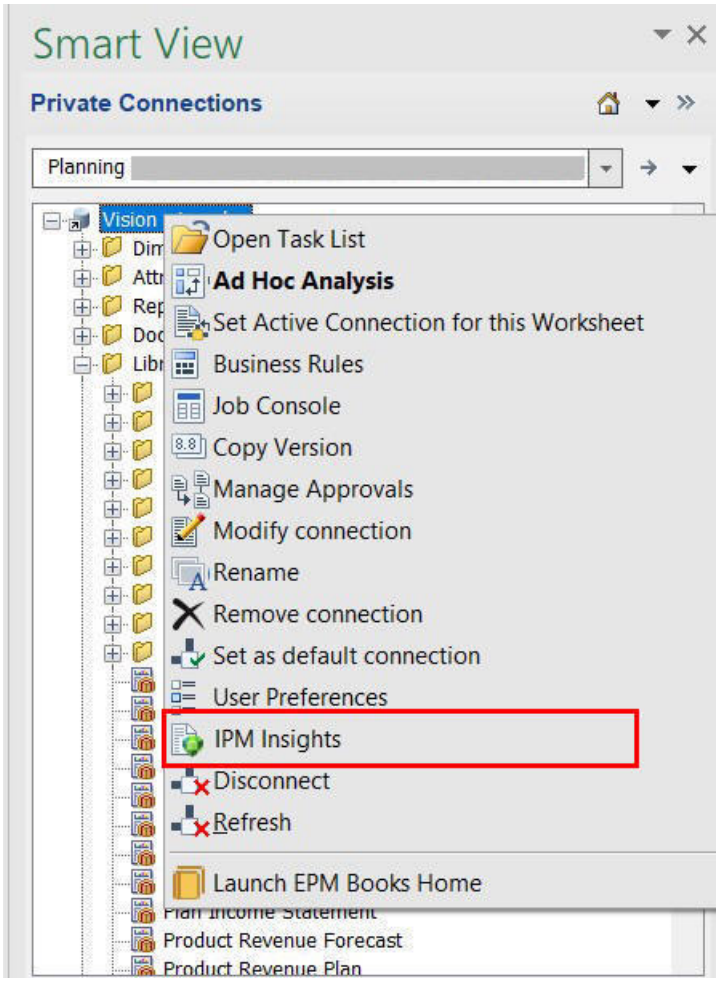
- **Planning**: *Planning の管理の* IPM の構成と *Planning の使用の* IPM インサイトを使用した意思決定支援
- **フリーフォーム**: *フリーフォームの管理の* IPM インサイトの構成と *フリーフォームの操作の* IPM インサイトを使用した意思決定支援
- **Enterprise Profitability and Cost Management**: IPM インサイトの構成と *Enterprise Profitability and Cost Management の管理および操作の* IPM インサイトを使用した意思決定支援
- **Tax Reporting**: *Tax Reporting の管理の* IPM インサイトの構成と *Tax Reporting の操作の* IPM インサイトを使用した意思決定支援

Smart View でのインサイトの表示

「IPM インサイト」ダイアログでは、利用可能なインサイトのリストとその詳細を表示できます。

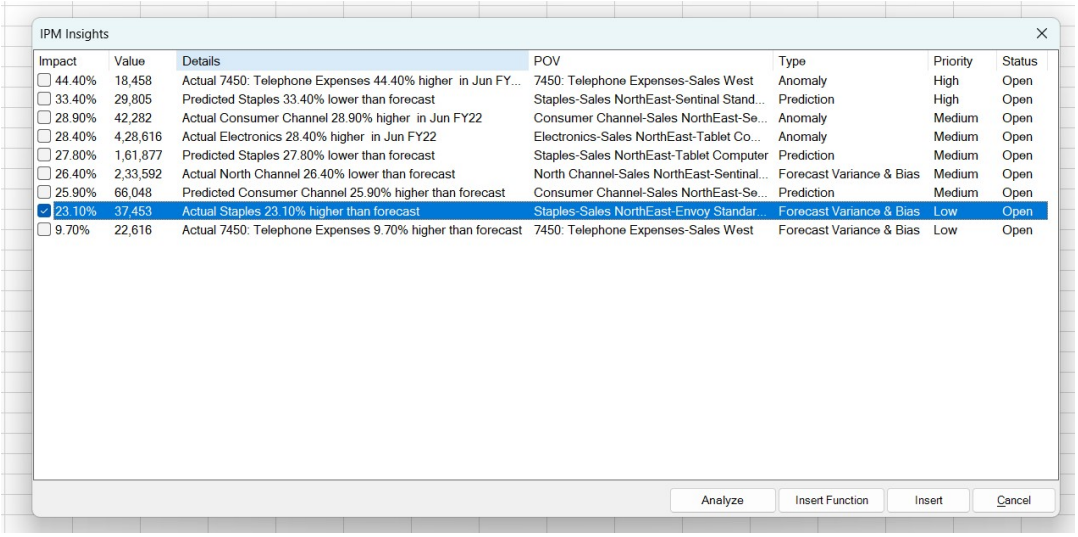
Oracle Smart View for Office で IPM インサイトを表示するには:

1. Microsoft Excel シート、Microsoft Word 文書、Microsoft PowerPoint スライドを開き、IPM インサイトが組み込まれたビジネス・プロセスに接続します。
2. 「Smart View パネル」で、アプリケーション名を右クリックし、**「IPM インサイト」**をクリックします。



または、アクション・パネルで**「詳細」**をクリックし、**「IPM インサイト」**をクリックすることもできます。**「IPM インサイト」**ダイアログには、アプリケーションで生成された利用可能なすべてのインサイトが表示されます。

3. **「IPM インサイト」**ダイアログに、アプリケーションに対して生成された利用可能なインサイトの一覧と、次の詳細が表示されます:
   - **影響:** 通常の値からの相対的な偏差または影響度をパーセンテージで示します。
   - **値:** インサイトの偏差の絶対値を示します。
   - **詳細:** インサイト文の概要を示します。
   - **POV:** インサイトに関連する POV 値を示します。
   - **タイプ:** インサイトのタイプ(異常、予測、または予測の差異とバイアス)を示します。
   - **優先度:** インサイトのカテゴリを示します(優先度は高、中、低)。
   - **ステータス:** インサイトのステータス(「オープン」または「クローズ済」)を示します。



Word と PowerPoint では、行をクリックしてインサイトを選択できます。Excel では、それぞれのチェック・ボックスを選択することで複数のインサイトを選択できます。

4. インサイトと関数の挿入、アド・ホック・グリッドでのインサイト・データの分析に進みます。詳細は次のトピックを参照してください。
   - インサイトの挿入
   - 関数の挿入
   - アド・ホック・グリッドでのインサイトの分析

インサイトの挿入

インサイトは、Microsoft Excel シート、Microsoft Word 文書、Microsoft PowerPoint スライドに挿入できます。

インサイトを挿入するには:

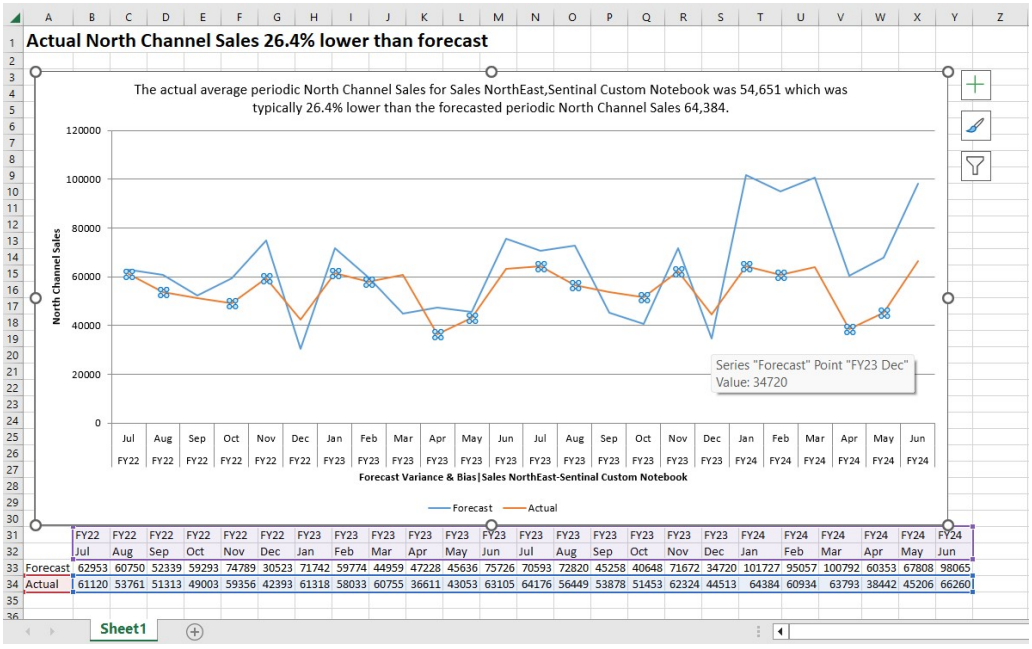
1. Excel シート、Word 文書、PowerPoint スライドを開き、IPM インサイトが組み込まれたビジネス・プロセスに接続します。
2. 「Smart View パネル」で、アプリケーション名を右クリックし、**「IPM インサイト」**をクリックします。
   または、アクション・パネルで**「詳細」**をクリックし、**「IPM インサイト」**をクリックすることもできます。**「IPM インサイト」**ダイアログには、アプリケーションで生成された利用可能なすべてのインサイトが表示されます。
3. **「IPM インサイト」**ダイアログで、インサイトを選択し、**「挿入」**をクリックします。

> **Note:**
>
> Excel では、必要なインサイトの横にあるチェック・ボックスを選択することで、複数のインサイトを同時に挿入できます。

Excel シート、Word 文書、PowerPoint スライドでは、インサイトは次のように挿入されます:

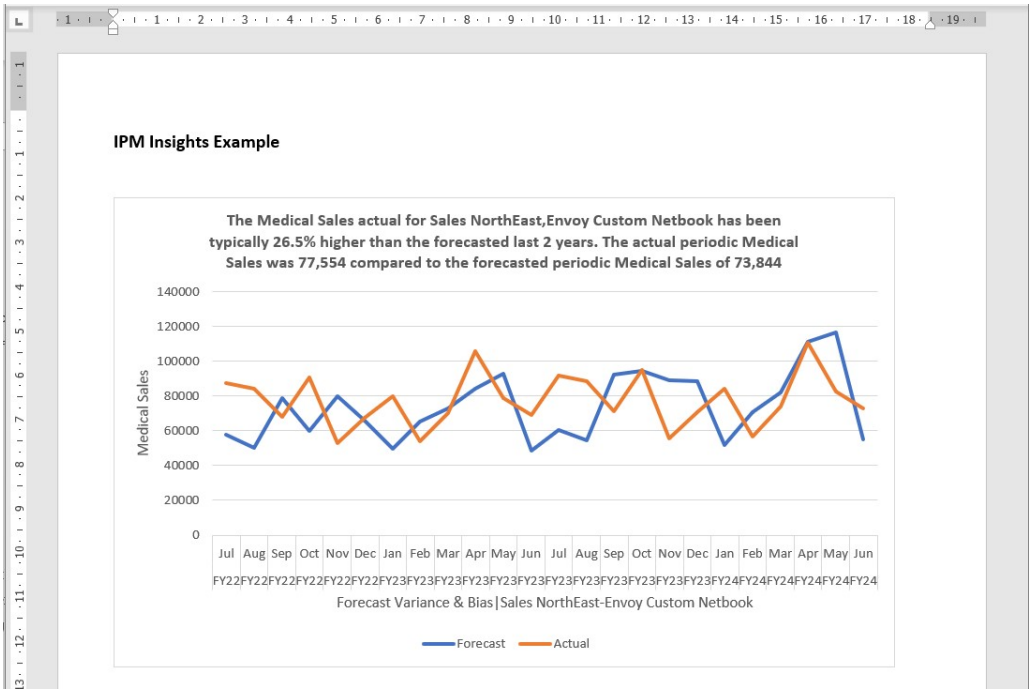
- **Excel:**
  - インサイトは、インサイト文とインサイトに関連付けられたデータ表とともに、グラフとして挿入されます。
  - グラフの上部にはインサイトの簡単な説明、軸にはインサイトのタイプと POV が表示されます。グラフにマウス・ポインタを合わせると、特定のデータ・ポイントが表示されます。折れ線グラフをクリックすると、データ表で強調表示された関連行を表示することもできます。
  - データ表では、表ヘッダーにシナリオ・メンバーが表示されます。これは、Web アプリケーションではヘッダーにシナリオ・メンバーとインサイト・タイプの両方が表示されるのとは異なります。
  - 挿入時に複数のインサイトを選択した場合、各インサイトはワークブック内の別のシートに挿入されます。
  - シートごとに挿入できるインサイトは 1 つのみです。既存のインサイト、フォーム、またはアド・ホック・グリッドがあるシートにインサイトを挿入しようとすると、新しいインサイトを挿入する前に既存のコンテンツとメタデータがクリアされます。
  - **予測**タイプのインサイトの場合、関連するセルの値を変更することで、データ表内の予測値を予測された値に更新できます。グラフも更新され、変更された値が反映されます。セルに関連付けられた POV が書込み可能であれば、変更された値を送信して予測を更新できます。**「データの送信」**アクションは、Web アプリケーションで使用できる**「予測の更新」**アクションと同様に機能します。

    すべてのデータ・セルを更新して送信できるわけではありません。更新されないはずのセルを更新すると、変更された値は一時的に表示されますが、データを送信すると元の値に戻ります。

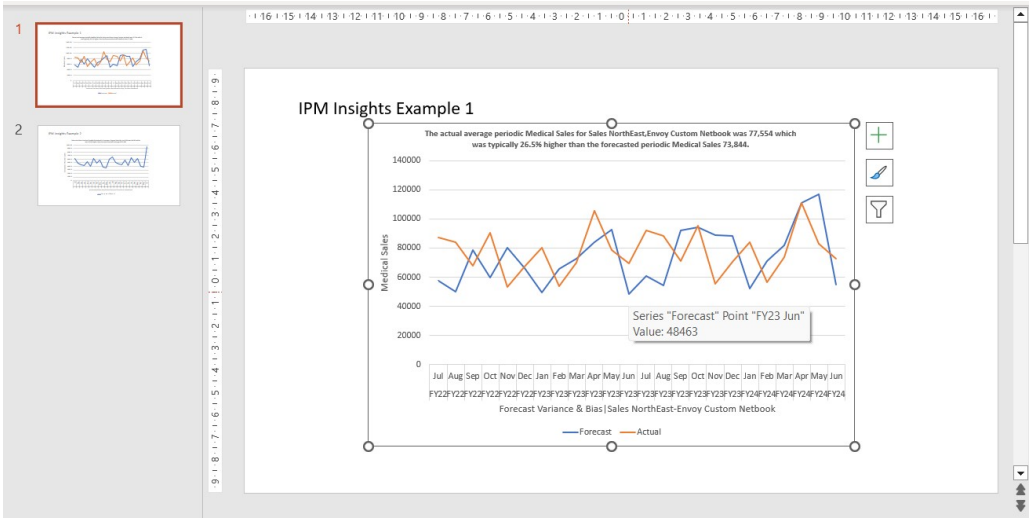


- **Word:**
  - インサイトは、インサイトの説明とともにグラフとして挿入されます。

- グラフの上部にはインサイトの簡単な説明、軸にはインサイトのタイプと POV が表示されます。グラフにマウス・ポインタを合わせると、特定のデータ・ポイントが表示されます。
- Word では、一度に 1 つのインサイトのみを挿入できます。



- **PowerPoint:**
  - インサイトは、インサイトの説明とともにグラフとして挿入されます。
  - グラフの上部にはインサイトの簡単な説明、軸にはインサイトのタイプと POV が表示されます。グラフにマウス・ポインタを合わせると、特定のデータ・ポイントが表示されます。
  - PowerPoint では、一度に 1 つのインサイトのみを挿入できます。情報が乱雑にならないように、スライドごとに 1 つのインサイトのみを挿入することをお薦めします。



4. **オプション:** シートを保存し、挿入したインサイトをリフレッシュして最新の値を表示できます。インサイトの保存およびリフレッシュを参照してください。

関数の挿入

グラフやデータ表を挿入せずに、インサイトに関連するプロパティのみを抽出して表示する関数を挿入できます。

この操作は、Microsoft Excel のみで使用できます。

1. Excel シートを開き、IPM インサイトが組み込まれているビジネス・プロセスに接続します。
2. 「Smart View パネル」で、アプリケーション名を右クリックし、**「IPM インサイト」**をクリックします。
   または、アクション・パネルで**「詳細」**をクリックし、**「IPM インサイト」**をクリックすることもできます。**「IPM インサイト」**ダイアログには、アプリケーションで生成された利用可能なすべてのインサイトが表示されます。
3. **「IPM インサイト」**ダイアログで、インサイトを選択し、**「関数の挿入」**をクリックします。
   セルに#NEED_REFRESH メッセージが表示されます。
4. Smart View リボンで**「リフレッシュ」**をクリックします。
   次のプロパティが表形式で表示されます:
   - **詳細:** インサイト文の概要を示します。
   - **タイプ:** インサイトのタイプ(異常、予測、または予測の差異とバイアス)を示します。
   - **POV:** インサイトに関連する POV 値を示します。
   - **影響パーセンテージ:** 通常の値からの相対的な偏差または影響度をパーセンテージで示します。この値は、パーセンテージ形式ではなく、小数点付きの数値形式で表示されます(例: 44%でなく 0.44)。必要に応じて、値にフォーマットを適用できます。
   - **影響値:** インサイトの偏差の絶対値を示します。
   - **優先度:** インサイトのカテゴリを示します(優先度は高、中、低)。
   - **異常ポイント/バイアス:** 異常/バイアスが特定されたデータ・ポイントを示します。

式バーに、インサイトに関連する詳細を取得するために使用される **HsGetInsight** 関数が表示されていることを確認してください。構文は次のとおりです:

```
=HsGetInsight("URL|Application","2")
```

> **Note:**
>
> Microsoft Excel 2019 を使用している場合、**HsGetInsight** 関数を使用して挿入できるインサイト・プロパティは一度に 1 つのみです。デフォルトでは、前述のプロパティの完全なリストではなく、詳細プロパティが挿入されます。これは、Excel 2019 が、完全なリストを挿入するために必要な動的配列出力をサポートしていないためです。その他のプロパティを挿入する場合は、次の手順で説明するプロセスを使用してください。

5. **オプション:** 前述のリストから特定のプロパティのみを挿入するには、式バーの **HsGetInsight** 関数を変更します。
たとえば、POV のみを挿入する場合は、次のように閉じ括弧の前に 3 番目のパラメータ **"pov"**を追加します:

```
=HsGetInsight("http://<servername:port>|Vision","2","pov")
```

> **Note:**
>
> - パラメータのスペルが正しいことを確認してください。たとえば、**"detail"**でなく**"details"**と入力した場合、誤ったパラメータは無視され、デフォルトの関数出力が表示されます。
> - アド・ホック・シートに **HsGetInsight** 関数を挿入すると、1 つのパラメータのみが挿入されます。アド・ホック・シートに関数を挿入しないことをお薦めします。どうしても挿入する必要がある場合は、式バーで関数を変更し、必要な特定のパラメータを 1 つのみ含めます。複数のパラメータが必要な場合は、関数ごとに特定のパラメータを定義した複数の **HsGetInsight** 関数を挿入することを検討してください。

6. **オプション:** シートを保存し、挿入した関数をリフレッシュして最新の値を表示できます。インサイトの保存およびリフレッシュを参照してください。

アド・ホック・グリッドでのインサイトの分析

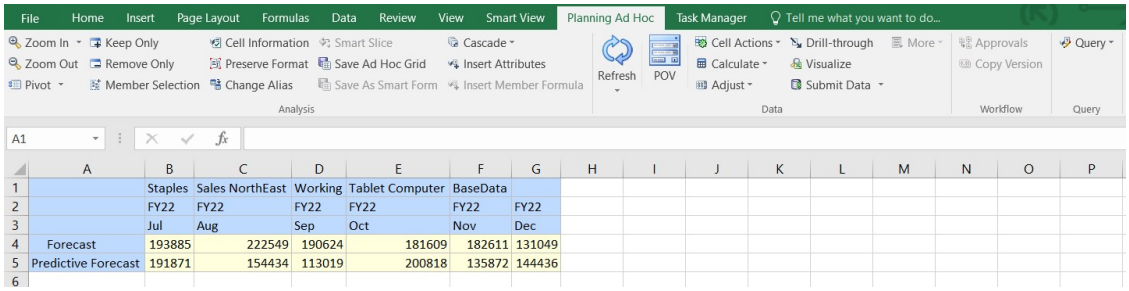
インサイトに関連付けられたデータ表のみを挿入し、様々なアド・ホック分析操作を使用して分析できます。

> **Note:**
>
> - この操作は、Microsoft Excel のみで使用できます。
> - インサイトのアド・ホック分析は、標準モードのアプリケーションでのみサポートされます。

インサイトに関連付けられたデータ表を分析するには:

1. Excel シートを開き、IPM インサイトが組み込まれているビジネス・プロセスに接続します。
2. 「Smart View パネル」で、アプリケーション名を右クリックし、**「IPM インサイト」**をクリックします。
   または、アクション・パネルで**「詳細」**をクリックし、**「IPM インサイト」**をクリックすることもできます。**「IPM インサイト」**ダイアログには、アプリケーションで生成された利用可能なすべてのインサイトが表示されます。
3. **「IPM インサイト」**ダイアログで、インサイトを選択し、**「分析」**をクリックします。
   インサイトに関連付けられたデータ表がアド・ホック分析モードで開きます。現在のシートが空白の場合は、同じシートで開きます。ただし、現在のシートにフォームやアド・ホック・グリッドなどの既存のコンテンツがある場合、データ表は新しいシートでアド・ホック・グリッドとして開きます。

   プロバイダのアド・ホック・リボンで利用可能なオプションを使用して分析できます。



	A	B	C	D	E	F	G
1		Staples	Sales NorthEast	Working	Tablet Computer	BaseData	
2		FY22	FY22	FY22	FY22	FY22	FY22
3		Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec
4	Forecast	193885	222549	190624	181609	182611	131049
5	Predictive Forecast	191871	154434	113019	200818	135872	144436
6							

シート情報でのインサイト・メタデータの表示

「シート情報」ダイアログで、インサイトのシート情報を表示できます。

この操作は、Microsoft Excel のみで使用できます。シートにインサイトまたは関数を挿入すると、**「シート情報」**ダイアログで、インサイトに関連付けられた詳細情報とメタデータを表示できます。

シート情報を表示するには:

1. シートにインサイトを挿入するか、インサイトを含む既存のシートを開きます。
2. Smart View のリボンから、**「シート情報」**を選択します。
3. **「シート情報」**ダイアログでシート情報を確認します:
   インサイトを含むシートの場合、**「IPM インサイト」**セクションに次の詳細が表示されます:

- **ID:** インサイトの ID を示します。
- **URL:** シートが接続しているソース・プロバイダの URL 文字列を示します。
- **アプリケーション:** シートが接続しているアプリケーションを示します。
- **プラン・タイプ:** シートが接続されているプラン・タイプを示します。
- **説明:** インサイト文の簡単な説明を示します。
- **タイプ:** インサイトのタイプ(異常、予測、または予測の差異とバイアス)を示します。
- **POV:** インサイトに関連する POV 値を示します。
- **作成時間:** インサイトが作成または生成された時刻を示します。
- **ステータス:** インサイトのステータス(「オープン」または「クローズ済」)を示します。
- **影響パーセンテージ:** 通常の値からの相対的な偏差または影響度をパーセンテージで示します。
- **影響値:** インサイトの偏差の絶対値を示します。

インサイトが関数として挿入されたシートの場合、**「シート・タイプ」**のみが、**「全般」**セクションに**「関数」**という値で表示されます。

4. **オプション:** 必要に応じて次のオプションを選択します。
   - **削除:** メタデータとして参照される Oracle Smart View for Office 情報を削除するためのオプションを提供します:
     - ワークシート・メタデータの削除
     - ワークブック・メタデータの削除
     - すべてのメタデータの削除(ワークブック・メタデータおよびすべてのワークシートを削除します)
   - **保存:** **「シート情報」**の内容を Excel スプレッドシートに保存します。
5. **オプション:** 選択したリスト内のアイテムをクリップボードにコピーするには、**[Ctrl]を押しながら[C]**を押します。
   「シート情報」リスト全体をコピーするには、**「シート情報」**で選択されているアイテムがないことを確認し、**[Ctrl]を押しながら[C]**を押します。リストのアイテムをすでに選択している場合、**「シート情報」**を閉じて再度ｵｰﾌﾟﾝし、**[Ctrl]を押しながら[C]**を押します。
6. **「閉じる」**をクリックします。

インサイトの保存およびリフレッシュ

インサイトを挿入した Excel シート、Word 文書、または PowerPoint スライドをグラフまたは関数として保存し、インサイトをリフレッシュして最新のデータを取得できます。

たとえば、インサイト文のパーセンテージ値を変更した場合、インサイトをリフレッシュして元の値を取得できます。

> **Note:**
>
> インサイトは存在しなくなる、またはサービス管理者が削除する場合があります。Oracle Smart View for Office では、現在、インサイトをリフレッシュすると、リフレッシュ後も Smart View には削除されたインサイトが表示され続けます。回避策としては、Web アプリケーションの「IPM インサイト」ダッシュボードを確認し、シート、ドキュメント、またはスライドから該当するインサイトを削除します。

インサイトをリフレッシュするには:

1. インサイトまたはインサイト関数を含む、保存済の Excel シート、Word ドキュメント、または PowerPoint スライドを開きます。
2. Smart View からデータ・ソースに接続します。
3. Smart View リボンで、**「リフレッシュ」**をクリックします。
   インサイトは次のようにリフレッシュされます:
   - **Excel:** アクティブなシートがリフレッシュされます。インサイトを含むシートが複数ある場合は、**「すべてのワークシートのリフレッシュ」**をクリックすると、すべてのシートのインサイトが同時にリフレッシュされます。
   - **Word:** ドキュメント内のグラフがリフレッシュされます。
   - **PowerPoint:** アクティブなスライドがリフレッシュされます。他のスライドのインサイトをリフレッシュするには、各スライドを開いて**「リフレッシュ」**をクリックします。

20

スマート・クエリー

次も参照:

- スマート・クエリーについて
  スマート・クエリーは、複数の集合のメンバーおよびフィルタから作成されたマルチディメンショナル分析およびレポート・ツールです。
- スマート・クエリーの作成
  スマート・クエリーは、アプリケーションのディメンションから 1 つ以上のメンバー・セットを定義することで作成します。
- スマート・クエリーを開く
  スマート・クエリーは、新しいワークシートまたは既存のスマート・クエリー・ワークシートから開くことができます。
- コピーと貼付け
  Excel で、あるワークシートから別のワークシートにスマート・クエリー定義全体をコピーし、他のスマート・クエリーに集合とフィルタをコピーできます。
- スマート・クエリー定義の共有
  スマート・クエリー定義は、他のユーザーと共有できます。
- スマート・クエリーの実行
  「問合せの管理と実行」ダイアログ・ボックスで、保存済のスマート・クエリーを実行します。
- スマート・クエリーの削除
  「問合せの管理と実行」ダイアログ・ボックス内のリストからスマート・クエリーを削除できます。

スマート・クエリーについて

スマート・クエリーは、複数の集合のメンバーおよびフィルタから作成されたマルチディメンショナル分析およびレポート・ツールです。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

関連トピック:

スマート・クエリーの作成

スマート・クエリーを開く

コピーと貼付け

スマート・クエリーの作成

スマート・クエリーは、アプリケーションのディメンションから 1 つ以上のメンバー・セットを定義することで作成します。

それぞれのメンバー・セットに対して、複合フィルタを定義および適用して、スマート・クエリーから戻されるデータをさらに絞り込むことができます。これらの集合とそのフィルタを使用して、別の集合のデータの和集合、補集合および交差を定義することで非常に複雑な問合せを作成できます。

スマート・クエリーが作成されたら、それをアド・ホック・レポートおよび分析に使用できます。スマート・クエリーから作成されたアド・ホック・レポートを使用して、データを送信します。スマート・クエリーは保存、再利用、および共有できます。集合およびフィルタを個別に保存して、他のスマート・クエリーで使用できます。

スマート・クエリーから直接データを送信できません。

スマート・クエリーを作成するには、次の手順を実行します:

1. 集合の定義
2. 集合フィルタの定義
3. スマート・クエリーの構築
4. スマート・クエリーの完了

集合の定義

集合を定義するには:

1. Smart View のリボンから、**「パネル」**を選択して Smart View パネルを開きます。
2. Smart View パネルから、Oracle Essbase キューブまたはアプリケーションに接続します。
3. アクション・パネルで、**「新しいスマート・クエリー・シート」**を選択して Smart View パネルのかわりにスマート・クエリー・パネルを表示します。

   の横にある矢印を選択して、Smart View パネルに戻ることができます。

   スマート・クエリー・パネルとワークシートに表示される接続のデフォルト・ディメンション。スマート・クエリーのリボンが表示されます。
4. **オプション:** ディメンションをスマート・クエリー・パネルのある領域から別の領域にドラッグして、そのディメンションをピボットします。
5. **「行」**、**「列」**または**「視点」**の下でディメンションの名前を選択し、集合を定義する**「...の集合」**の下に表示します。

   行、列、視点にディメンションが存在する場合は、ディメンション名を入力して選択することもできます。
6. **「...の集合」**で、ディメンション名の横の矢印をクリックし、**「基本メンバーの選択」**を選択します。

   POV ディメンションの場合、このステップで指定したメンバーは、「視点」セクションのドロップダウン・メニューから選択して使用できます。これらの名前を直接入力することもできます。

7. ポップアップ・メニューから、集合に含めるメンバー・レベルを選択するか、**「その他」**を選択して**「メンバー・セレクタ」**を開き、そこで特定のメンバーを選択します。
8. ディメンション名の横にある矢印をクリックし、**「カスタム・メンバーの追加」**を選択します(視点ディメンションには使用できません)。
9. 集合に対して指定した値から選択します。

> **ノート:**
>
> Essbase で非常に長いメンバー名を扱う場合、Essbase でその名前を使用できることの確認がスマート・クエリーで試行されます。確認の処理中、数値((1)、(2)など)が長いメンバー名に付加され、検証が試行された回数(最大 10 回)を表します。確認を試行するたびに数値が 1 ずつ増えます。10 回の試行が完了すると、スマート・クエリーは最後の試行(9)を処理するため、(9) のメンバー名が表示されることになります。

オプション: **「その他」**を選択して、**「カスタム・メンバー式」**で MDX 式を使用してメンバーを定義します(Essbase のドキュメントを参照)。

最も単純なメンバー式(たとえば、2 つのオペランドと演算子)を収容できるように、MDX 問合せは少なくとも 3 文字にする必要があります。ここに表示される**「OK」**ボタンは、入力した式が検証された後でのみ使用可能になります。

問合せにはデフォルト名が付与されますが、MDX 問合せ名を変更することを選択した場合は、次の文字は使用しないでください。

- 大カッコ([ ])
- 二重引用符(" ")または XML でエンコードされた表現("""、"""、"""、"""、""")
- 一重引用符(')または XML でエンコードされた表現("'"、"'"、"'"、"'"、"'")

10. **オプション:** 集合内で重複メンバーを許可するには、集合名の横にある矢印をクリックし、**「集合内の重複を許可」**を選択します(視点ディメンションでは使用できません)。

    これは、この設定が選択されている集合にのみ適用されます。スマート・クエリーに複数の集合がある場合は、**「集合内の重複を許可」**が*選択されていなくても*、メンバーが選択されているすべてのセットのグリッドにメンバーが表示されます。たとえば、ある集合に 1 月、2 月、3 月がメンバーとして選択されていて、Year のレベル 0 メンバーが同じ問合せの別の集合で選択されている場合、1 月、2 月、3 月は両方の集合のメンバーであるため、グリッドに 2 回表示されます。
11. **オプション:** 集合の名前を変更するには、集合名の横にある矢印をクリックし、**「名前変更」**を選択します。
12. セットを保存するには、集合名の横にある矢印をクリックし、**「リポジトリ」**、**「集合の保存」**の順に選択します。
13. **「リポジトリ・アイテム」**で、メンバー・セットの名前と説明を入力し、**「OK」**をクリックします。
14. **オプション:** このディメンションの追加メンバー・セットを追加するには、セット名の横にある矢印をクリックし、**「新規セットの追加」**を選択して手順を繰り返します。
15. スマート・クエリー・パネルから他のディメンションを選択し、必要に応じて手順を繰り返して他のディメンションのメンバーを追加します。

関連トピック:

集合フィルタの定義

スマート・クエリーの構築

集合フィルタの定義

集合フィルタを定義するには:

1. **「...の集合」**で、集合名の横の矢印をクリックし、**「フィルタの追加」**を選択します。

   新しいフィルタが**「集合...のフィルタ」**の下に表示されます
2. フィルタ名の横にある矢印をクリックし、次のいずれかを選択してフィルタを定義します:
   - 上位/下位の選択
   - 値に基づく選択
   - メンバーによって指定された値に基づく選択
   - 文字列の一致(このオプションでは、修飾メンバー名はサポートされません。)
3. 集合にさらにフィルタを追加するには、必要に応じてこの手順を繰り返します。

スマート・クエリーを構成する集合およびフィルタを作成した場合、スマート・クエリーの構築に進みます。

スマート・クエリーの構築

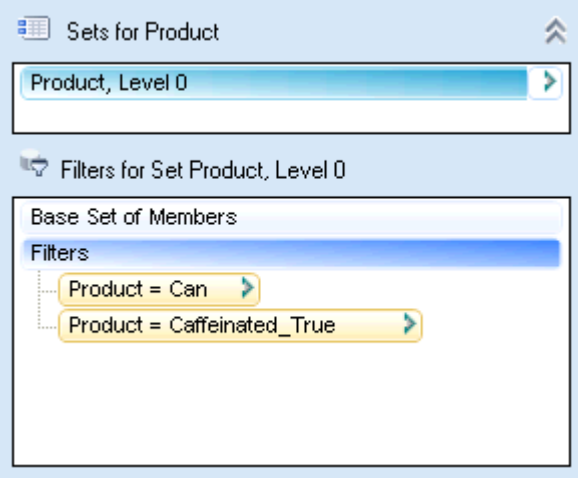
スマート・クエリーを構築するには、複合フィルタを適用して、別の集合のメンバーの和集合、補集合および交差を選択します。和集合は、2 つの集合の両方ではなく一方にのみ属するメンバーの選択です。交差は、指定したすべての集合に属するメンバーの選択です。補集合は、指定した別の集合のメンバーにはなっていない、指定した 1 つの集合のメンバーの選択です。

集合と複合フィルタを任意の組合せで使用して、非常に複雑なスマート・クエリーを作成できます。

和集合

両方の集合ではなく一方の集合に属するメンバーを選択するには、集合フィルタの定義の説明に従って、**「...の集合」**のディメンションから 2 つ以上のフィルタを定義します。たとえば、図 1 では、問合せは缶にパッケージ化された(製品 = Can)*か*カフェイン入り(製品 = Caffeinated_True)の*いずれか*の「製品、レベル 0」メンバーのみ戻します。

図 20-1 和集合



集合の交差

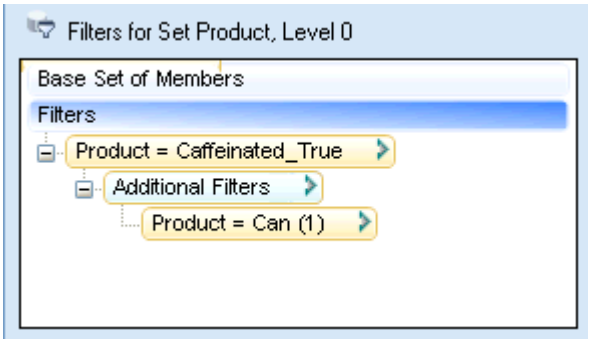
交差には、指定したすべての集合に共通するメンバーのみ含まれます。

指定したすべての集合に共通するメンバーを選択するには:

1. 集合フィルタの定義の説明に従って、集合フィルタを定義します。
2. フィルタ名の横にある矢印をクリックし、**「フィルタの追加」**を選択します。
3. **「追加フィルタ」**とサブ集合フィルタが表示されます。
4. 2 番目のフィルタを定義します。

図 2 では、問合せはカフェイン入りでかつ缶にパッケージ化された「製品、レベル 0」メンバーのみ戻します。

図 20-2 集合の交差



補集合

指定した別の集合のメンバーでは ない集合のメンバーのみ選択するには:

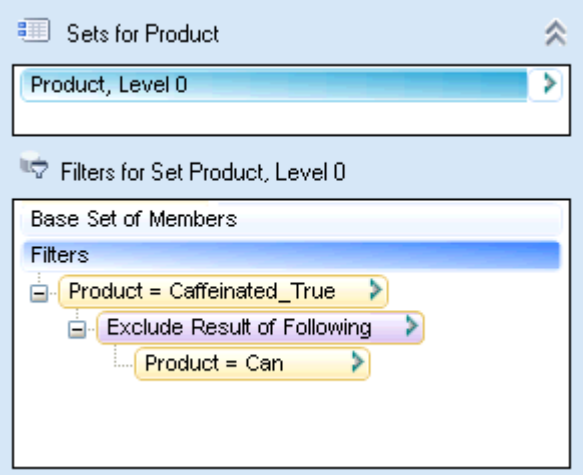
1. **「フィルタ...」**で、フィルタ名の横にある矢印をクリックし、**「フィルタの追加」**を選択します。

   「追加フィルタ」とサブ集合フィルタが表示されます。

2. 2 番目のフィルタを定義します。
3. **「追加フィルタ」**の横にある矢印をクリックし、**「除外」**を選択します。

図 3 では、問合せはカフェイン入りで缶にはパッケージ化されていない「製品、レベル 0」メンバーのみ戻します。

図 20-3 補集合



スマート・クエリーを構築した場合、スマート・クエリーの完了に進みます。

スマート・クエリーの完了

スマート・クエリーを完了するには:

1. スマート・クエリーのリボンから、次のようにスマート・クエリーのオプションを選択します:
   - インデント(メンバー・オプションを参照)
   - 個々のメンバー名を表示する(メンバー・オプションを参照)
   - データなしの行の抑制(データ・オプションを参照)
2. **オプション:** 別名表を選択する場合は、**「別名の変更」**を選択します。

   重複メンバーと共有メンバーのフル・ネームは、選択された別名表(存在する場合)に関係なく表示されます。選択した別名表に応じて、その他すべてのメンバー名が表示されます。
3. スマート・クエリー定義全体を保存するには、スマート・クエリーのリボンから**「保存」**を選択します。
4. **「リポジトリ」**で、スマート・クエリーの名前と説明を入力します。
5. **「OK」**をクリックします。

   スマート・クエリーはワークブックにも保存されるため、ワークブックを保存すると、その中のスマート・クエリーも保存されます。
6. **オプション:** アド・ホック分析を実行するには、スマート・クエリーのリボンから**「分析」**を選択します。

スマート・クエリーを開く

スマート・クエリーは、新しいワークシートまたは既存のスマート・クエリー・ワークシートから開くことができます。

新しいワークシートから開く

新しいワークシートからスマート・クエリーを開くには:

1. Smart View のリボンから、**「パネル」**を選択して Smart View パネルを開きます。
2. Smart View パネルで、の横にある矢印をクリックし、**「スマート・クエリー」**を選択します。
3. スマート・クエリー・パネルで、**定義を開く**を選択して、使用可能なスマート・クエリーの**「リポジトリ」**リストを表示します。
4. リストからスマート・クエリーを選択します。
5. **「OK」**をクリックします。

既存のスマート・クエリー・ワークシートから開く

既存のスマート・クエリーを開くには:

1. スマート・クエリーのリボンで、**「開く」**を選択して、使用可能なスマート・クエリーの**「リポジトリ」**リストを表示します。
2. リストからスマート・クエリーを選択します。
3. **「OK」**をクリックします。
4. ワークシートの既存のスマート・クエリーを破棄するかどうかを尋ねられたら、**「はい」**をクリックします。

   スマート・クエリーが現在のワークシートに開きます。

コピーと貼付け

Excel で、あるワークシートから別のワークシートにスマート・クエリー定義全体をコピーし、他のスマート・クエリーに集合とフィルタをコピーできます。

スマート・クエリー定義のコピーは、ユーザー間でクエリーを共有する方法として使用できます。

関連トピック:

スマート・クエリーの集合およびフィルタのコピー

Word および PowerPoint へのスマート・クエリー・レポートのコピー

スマート・クエリー定義の共有

Excel でのスマート・クエリー定義のコピー

スマート・クエリー定義は、現在のワークブック内の別のワークシートまたは別のワークブック内のワークシートにコピーできます。定義を貼り付けるワークシートにスマート・クエリー定義がすでに含まれている場合は、貼り付けられた定義で置換されます。

スマート・クエリー定義をあるワークシートから別のワークシートにコピーするには:

1. コピーするスマート・クエリー・ワークシートを開きます。
2. スマート・クエリーのリボンから、**「コピー」**を選択します。
3. 新しいワークシートを開きます。
4. 次のいずれかを行います:
   - 定義全体を*空の*ワークシートにコピーするには、スマート・クエリー・パネルから**「貼付け」**を選択します。
   - スマート・クエリー定義を置換するには、置換するワークシートのスマート・クエリーのリボンから、**「貼付け」**を選択します。

スマート・クエリーの集合およびフィルタのコピー

集合をコピーするには、**「...の集合」**で、集合名の横にある矢印をクリックし、**「集合のコピー」**を選択します。同じメニューの**「集合の貼付け」**を使用して、現在のスマート・クエリー内で、または別のスマート・クエリーに集合をコピーできます。

フィルタをコピーするには、**「集合...のフィルタ」**で、フィルタ名の横にある矢印をクリックし、**「フィルタのコピー」**を選択します。同じメニューの**「フィルタの貼付け」**を使用して、現在のスマート・クエリー内で、または別のスマート・クエリーに集合をコピーできます。

Word および PowerPoint へのスマート・クエリー・レポートのコピー

Excel から Word または PowerPoint にスマート・クエリー定義を直接コピーすることはできませんが、スマート・クエリーで定義されたグリッドまたはグリッドの一部を Excel から Word または PowerPoint にコピーすることはできます。そのためには、スマート・クエリーのリボンから**「分析」**を選択します。Excel、Word、および PowerPoint 間でのデータのコピーの説明に従って、データをコピーします。

スマート・クエリー定義の共有

スマート・クエリー定義は、他のユーザーと共有できます。

スマート・クエリー定義には、行、列、POV、ディメンション・セット、フィルタ、ソートおよびカスタム・メンバーの定義が含まれます。

スマート・クエリーの共有方法は次のとおりです:

- 電子メールの共有
- ワークブックの共有

次のトピックで、それぞれの方法について説明します。

電子メールの共有

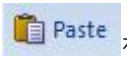
電子メールを介して他のユーザーとスマート・クエリー定義を共有するには:

1. Excel で、コピーする定義が含まれるスマート・クエリー・ワークシートを開きます。
2. スマート・クエリーのリボンから、**「コピー」**を選択します。
3. 空の電子メール・メッセージを開いて、**[Ctrl]を押しながら[V]**を押します。

クエリー定義を電子メール・メッセージに貼り付けると、英数字の長い列のようになります。

4. 共有するユーザーに、その電子メール・メッセージを送信します。
5. スマート・クエリー定義の受信者は次のタスクを実行します:
   a. 電子メールでスマート・クエリー定義の文字列を選択し、**([Ctrl]+[C]**または**「コピー」**コマンドを使用して)Windows のクリップボードにコピーします。
   b. 新規または既存のワークブック内で空のワークシートを開きます。
   c. **オプション:** 適切なデータ・ソースに接続します。

      データ・ソースに接続しない場合は、次のステップで定義を貼り付ける際に、接続するよう求められます。

   d. アクティブなワークシートの Smart View のリボンから、

をクリックします。

      ワークシートに、スマート・クエリーが移入されます。

ワークブックの共有

ワークブックでスマート・クエリーを共有するには:

1. 共有するスマート・クエリーが含まれる Excel ワークブックを保存します。
2. 共有するユーザーに、その Excel ワークブックを送信するか、ワークブック・ファイルを共有ネットワークの場所に置いて、共有するユーザーに通知します。
3. スマート・クエリー定義を含むワークブックの受信者は次のタスクを実行します:
   a. 電子メールから直接、または共有ネットワークの場所からワークブックを開きます。

      ワークシートに、スマート・クエリーが移入されます。
   b. Smart View のリボンで、**「リフレッシュ」**をクリックすると、**「データ・ソースに接続」**ダイアログ・ボックスでログイン資格証明を要求されます。

スマート・クエリーの実行

「問合せの管理と実行」ダイアログ・ボックスで、保存済のスマート・クエリーを実行します。

スマート・クエリーを実行するには:

1. Excel で、Oracle Essbase データ・ソースに接続します。
2. Essbase のリボンから、**「問合せの管理と実行」**を選択し、**「問合せの管理と実行」**ダイアログ・ボックスを表示します。
3. 左フレームのリストからスマート・クエリーを選択し、**「実行」**をクリックします。

   ダイアログ・ボックスは自動的に閉じ、スマート・クエリーの結果がシート上に表示されます。

スマート・クエリーの削除

「問合せの管理と実行」ダイアログ・ボックス内のリストからスマート・クエリーを削除できます。

スマート・クエリーを削除するには:

1. Excel で、Oracle Essbase データ・ソースに接続します。
2. Essbase のリボンから、**「問合せの管理と実行」**を選択します。
3. **「問合せの管理と実行」**ダイアログ・ボックスの左フレームのリストから、削除するスマート・クエリーを選択します。
4. **「問合せの削除」**ボタンをクリックします。
5. リクエストの削除を確認するプロンプトで**「はい」**をクリックします。
6. ダイアログの右上隅の**「X」**または**「取消」**をクリックして閉じます。

21

スマート・スライス

次も参照:

- スマート・スライスについて
  スマート・スライスは、データ・ソースの再利用可能なパースペクティブです。
- スマート・スライスを使用したレポートの作成
  スマート・スライスは一元的に管理され、Smart View パネルから利用できます。
- スマート・スライス、アド・ホック分析、およびフォーム
  Excel でスマート・スライスに対するアド・ホック分析を行えます。
- スマート・スライスの作成
  管理者とデータベース管理者は、スマート・スライスを作成、変更および削除できます。

スマート・スライスについて

スマート・スライスは、データ・ソースの再利用可能なパースペクティブです。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Oracle Hyperion Financial Management

単一のメンバー、単一メンバーの組合せ、フィルタまたは単一メンバーとフィルタの任意の順序での組合せから構成されます。これらのコンポーネントは、ユーザーがスマート・スライスを表示および操作できるデータへの境界となります。Oracle Smart View for Office で実行できる操作は、スマート・スライスの領域内でも実行できます。

1 つの組織が、ユーザーの特定のデータ要件に応じて、異なるスマート・スライスをいくつでも使用できます。たとえば、異なる販売地域、異なる製品ライン、異なるタイム・フレームまたはこれらのディメンションの任意の組合せに対してスマート・スライスを作成できます。

スマート・スライスの境界内では、あらゆるデータに対して表示および操作を行えますが、境界外のデータに対しては行えません。たとえば、販売データを米国西部地域に限定するスマート・スライスでは、カリフォルニアまたはロサンゼルスのデータをドリルダウンできますが、ニューヨークのデータに移動することはできません。

スマート・スライスを使用したレポートの作成

スマート・スライスは一元的に管理され、Smart View パネルから利用できます。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Oracle Hyperion Financial Management

レポート全体は、Excel ワークブック、Word 文書、PowerPoint プレゼンテーションと関連付けられます。1 つのレポートは、1 つの Excel ワークシート、1 つの Word ページ、1 つの PowerPoint スライドに関連付けられます。PowerPoint プレゼンテーションの場合は、スライドごとにレポートのタイプを 1 つのみにすることをお薦めします。

スマート・スライス全体、またはスマート・スライスのデータのサブセットからレポートを作成することができ、作成したレポートは Excel スプレッドシート、Word 文書、PowerPoint スライドで表示できます。シート上のスペースが許すかぎり、いくつのデータ・ソースからでも、いくつのレポートでも表示が可能です。

スマート・スライスからレポートを作成するには:

1. Smart View のリボンで、**「パネル」**を選択します。
2. Smart View パネルからスマート・スライスを選択します。
3. アクション・パネルから次のいずれかを実行します。
   - スマート・スライスをそのまま操作するには、**「スマート・スライスのレポートへの挿入」**をクリックします。Smart View パネル下部のドキュメント・コンテンツにスマート・スライスが表示されます。
   - ローカル・ストレージ用にスマート・スライスのサブセットを作成するには、**「スマート・スライスの変更およびレポートへの挿入」**をクリックし、スマート・スライスの作成の説明に従ってスマート・スライス・デザイナを使用します。

     > **ノート:**
     >
     > **「スマート・スライスの変更」**を使用してスマート・スライスを作成する場合は、アド・ホック分析を実行する前に、新しく作成されたスマート・スライスを「Smart View パネル」ツリー・リストから選択する必要があります。

4. をクリックして、**「ドキュメント・コンテンツ」**ツリーをリフレッシュします。
5. **ドキュメント・コンテンツ**でスマート・スライスを選択し、右クリックして**「新規レポート・オブジェクト/コントロールの挿入」**を選択します。
6. **「新規レポート・オブジェクト/コントロールの挿入」**ダイアログ・ボックスで、グリッドに配置するレポートのタイプを次から選択します:
   - **関数グリッド** - 動的グリッド・フォーマット

     関数グリッドは Word、PowerPoint および Excel で使用できます。関数グリッドをリフレッシュすると、データ・セルはリフレッシュされますが、メンバーはリフレッシュされません。データとメンバーの両方をリフレッシュするためには、関数グリッドをシートに挿入し直す必要があります。このため、関数グリッドは、メンバーが適度に静的であるレポートの場合に最も有用です。メンバーが頻繁に変更される可能性があるレポートの場合は、レポート・タイプとして表およびチャートがより適しています。ワークシートに複数のレポートを含めることはできますが、関数グリッドは 1 つのみです。

     関数グリッドでは、SUM などの Excel の式を使用できます。そのような式を関数グリッドの一部として保持するためには、式を含むセルとグリッドの間に空の行を 1 行開けておき、式の定義で選択するセル範囲にその空の行を含める必要があります。これにより、データをリフレッシュした結果、グリッド内の行数が変わった場合でも、式を保持できるようになります。

     関数グリッドにフォーマットを設定するには、Excel のフォーマット機能を使用します。
   - **Office 表**

Office 表は、Word および PowerPoint で使用できます。Office 表では、結果がネイティブの Microsoft Office 表形式で表示されます。Office 表をリフレッシュすると、メンバーとデータの両方がリフレッシュされます。

Office 表は Word または PowerPoint 文書の一部であるかのように表示され操作できますが、表セルのメンバーとデータは Oracle Smart View for Office プロバイダに接続されています。Office 表では、使い慣れた Word または PowerPoint の表のフォーマットとスタイルを使用できます。レポートに POV オブジェクトを挿入すると、Office 表の POV を変更できます。フォーマットや POV を変更した後に Office 表をリフレッシュすると、結果には新しい POV が反映され、カスタム・フォーマットが保持されます。

Office 表オブジェクトでは、ズーム・インやズーム・アウトはできません。また、その他のアド・ホック操作を実行したり、フリー・フォームも使用できません。

- **表**

  表は、PowerPoint および Excel で使用できます。表レポートは、文書内で位置が固定されておらず移動やサイズ変更が可能なグリッド・フォーマットで、結果を表示します。表をリフレッシュするとメンバーとデータの両方がリフレッシュされます。表は、小さいスペースに大きいグリッドを表示する場合に有用です。スクロール・バーを使用して、行や列にすばやくアクセスできます。

  表レポートでは、ズーム・インおよびズーム・アウトが可能ですが、その他のアド・ホック操作を実行したり、フリー・フォームを使用したりすることはできません。

- **チャート**

  チャートは PowerPoint および Excel で使用できます。PowerPoint では、チャートと表のコンテンツはプレゼンテーション・モードでのみ表示されます。チャート・レポートは、文書内で位置が固定されておらず移動やサイズ変更が可能なチャート・フォーマットで、結果を表示します。チャートをリフレッシュするとメンバーとデータの両方がリフレッシュされます。

7. **オプション:** 表やチャートを移動したりサイズを変更したりするには、**ドキュメント・コンテンツ**で、の隣の下矢印をクリックし、メニューから**「デザイン・モードの切替え」**を選択します。

   シート、スライド、ページ内でオブジェクトを移動できるようになります。

8. レポート・コントロールを挿入するには、**ドキュメント・コンテンツ**でスマート・スライスを選択し、右クリックして**「新規レポート・オブジェクト/コントロールの挿入」**を選択します。

9. **「新規レポート・オブジェクト/コントロールの挿入」**ダイアログ・ボックスで、レポート・コントロールのタイプを次から選択します:

   - **POV** — レポートに POV を 1 つのみ含めることができます
   - **スライダ** — レポートに複数のスライダを含めることができます。スライダを参照してください。

   レポートには 1 つの POV かスライダを含めることができ、両方を含めることはできません。

10. リフレッシュします。

11. **オプション**:レポートにおける 1 つのディメンションの任意のメンバーまたはすべてのメンバーについて個別のレポートを作成し、そのレポートをワークブックのワークシートにわたってそれぞれ重ねて表示する方法については、レポートおよびアド・ホック・グリッドのカスケードを参照してください。

> **ノート:**
>
> チャートおよび表を含むレポートでは、カスケード操作により、次回そのワークブックを開いた際に、チャートと表が重なって表示されることがあります。

レポートまたはレポート・オブジェクトの削除

レポートを削除するには:

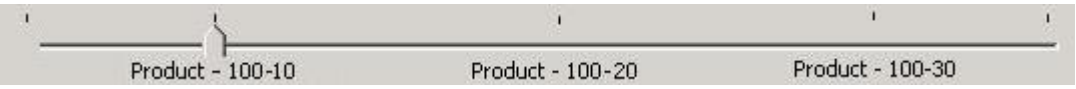
1. **ドキュメント・コンテンツ**で をクリックします。
2. **ドキュメント・コンテンツ**のリンクから、削除するオブジェクトを選択します。たとえば、関数グリッドや POV を選択します。

   レポートを選択すると、そのレポート・オブジェクトもすべて削除されます。
3. **「ドキュメント・コンテンツ」**ペインの下部で、**「詳細」**、**「削除」**の順に選択します。

スライダ

図 1 はスライダを表示します。スライダは問合せのディメンション・メンバーから選択されたセットを表示します。スライダ・マーカーをメンバーまでドラッグすると、シート上で当該問合せに関連付けられているすべてのレポートに、そのメンバーのデータが表示されます。レポート・デザイナの複数の問合せからのディメンションをスライダに含めることが可能です(ディメンションの境界が同じである場合)。

図 21-1 スライダ



関連トピック:

- 1 つの問合せからのスライダの作成
- 結合問合せからのスライダの作成

1 つの問合せからのスライダの作成

スライダを作成するには:

1. スライダを作成する問合せについて、ワークシートに 1 つ以上のレポート・タイプが挿入されていることを確認します。
2. レポート・デザイナから**「クエリー・ビュー」**、**「クエリー・ビュー」**の順に選択します。
3. レポート・デザイナで、スライダの基になる問合せを選択します。
4. Insert をクリックし、**「スライダ」**を選択して**「メンバー選択」**を開きます。
5. スライダのディメンション、メンバー、およびフィルタを選択し、**「OK」**をクリックします。

スライダがシート上に表示されます。

6. **オプション:** スライダを移動またはサイズ変更するには、をクリックしてから、移動またはサイズ変更します。

結合問合せからのスライダの作成

問合せの境界がまったく同じである場合に限り、複数の問合せのディメンションを含むスライダを作成できます。

複数の問合せのディメンションを使用してスライダを作成するには:

1. スライダを作成する問合せについて、ワークシートに 1 つ以上のレポート・タイプが挿入されていることを確認します。
2. **「問合せビュー」**をクリックし、**ディメンション・ビュー**を選択します。レポート・デザイナのツリー・ビューは、問合せごとにではなくディメンションごとにグループ化されていることに注意してください。各ディメンションの下には、そのディメンションを含む問合せが表示されます。ディメンションの境界が同じでない場合は、それぞれに対応する複数のスライダが作成されます。たとえば、ある問合せの「市場」ディメンションに子のフィルタが 1 つ含まれており、別の問合せの「市場」ディメンションには子孫のフィルタが 1 つ含まれている場合は、2 つの「市場」スライダが作成されることになります。
3. レポート・デザイナで、問合せの基になるディメンションを選択します。
4. 

をクリックし、**「スライダ」**を選択して**「メンバー選択」**を開きます。
5. スライダのディメンション、メンバー、およびフィルタを選択し、**「OK」**をクリックします。

   スライダがシート上に表示されます。
6. **オプション:** スライダを移動またはサイズ変更するには、をクリックしてから、移動またはサイズ変更します。

スマート・スライス、アド・ホック分析、およびフォーム

Excel でスマート・スライスに対するアド・ホック分析を行えます。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Oracle Hyperion Financial Management

Smart View パネルでスマート・スライスを選択し、アクション・パネルで**「アド・ホック分析」**をクリックします。そのスマート・スライスのデータおよび POV がワークシートに入力され、アド・ホック分析を実行できます。

> **ノート:**
>
> Essbase の場合、複数グリッド・ワークシートは、スマート・スライスでサポートされていません。

フォームを使用するには、Smart View パネルでスマート・スライスを選択し、アクション・パネルで**「フォームを開く」**をクリックします。アド・ホック分析には、管理者が使用可能にしたフォームのみを使用できます。

アド・ホック・グリッドのデータのソースとなったスマート・スライスを特定する場合は、をクリックし、**「ワークシート接続の検索」**を選択します。該当するスマート・スライスが Smart View パネルで強調表示されます。

スマート・スライスの作成

管理者とデータベース管理者は、スマート・スライスを作成、変更および削除できます。

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Oracle Hyperion Financial Management

Essbase で、管理者が有効にしている場合は、すべてのユーザーがスマート・スライスを作成、変更および削除できます。

スマート・スライスの作成には、スマート・スライスのデータ境界の設定およびスマート・スライスのプリファレンスの設定が含まれます。

スマート・スライスのデータ境界の設定

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Oracle Hyperion Financial Management

スマート・スライスを作成するには:

1. Smart View のリボンで、**「パネル」**を選択します。
2. Smart View パネルを開き、データ・ソースに接続します。
3. 次のいずれかを行います:
   - アクション・パネルで**「新規スマート・スライスを作成」**をクリックし、別名表のリストから別名表を選択します。
   - アド・ホック・グリッドが開いた状態で、データ・ソースのリボンから**「スマート・スライス」**を選択します。

   スマート・スライス・デザイナと**「新規スマート・スライス - 設計」**ワークシートが表示されます。スマート・スライス・デザイナでスマート・スライスを設計すると、結果がワークシートに表示されます。

   スマート・スライス・デザイナには行、列、POV、属性の各ディメンションに対する**「行」**、**「列」**、**「POV」**、**「属性」**のセクションがあります。
4. スマート・スライス・デザイナで、次の操作のいずれかを使用して、スマート・スライスの境界を作成します。
   - 行または列の境界のメンバーを選択するには、スマート・スライス・デザイナで必要に応じて**「POV」**から**「行」**または**「列」**へメンバーをドラッグします。行または列のメンバーを除去するには、**「POV」**へドラッグします。変更はグリッド上でただちに反映されます。

- **「行」**、**「列」**または**「属性」**のセクションでディメンションのメンバーを選択するには、ディメンションの名前をクリックして「メンバー選択」ダイアログ・ボックスを開きます。
- スマート・スライス・デザイナで **POV** のメンバーを選択するには、ディメンション名の隣の矢印をクリックして省略記号を選択し、**「メンバー選択」**ダイアログ・ボックスを開きます。

5. **「オプション」**をクリックして、スマート・スライスのプリファレンスの設定の説明に従ってプリファレンスを設定します。
6. **「完了」**をクリックします。**「メンバー選択」**が表示されます。
7. **「メンバー選択」**で、デフォルトの POV として使用するディメンション・メンバーを選択し、**「OK」**をクリックします。
8. Smart View パネルで、**新規の名前を入力**にスマート・スライスの名前を入力します。
9. **「OK」**をクリックします。Smart View パネルのツリー・ビューで、該当するデータ・ソースの下にスマート・スライスが表示されます。

スマート・スライスのプリファレンスの設定

指定するプリファレンスは、スマート・スライス定義の一部として保管され、「オプション」ダイアログ・ボックスで設定したグローバル・プリファレンスをオーバーライドします。

スマート・スライスのプリファレンスを指定するには:

1. スマート・スライス・デザイナで**「オプション」**をクリックします。
2. 各オプションについて、プリファレンスを入力するか、ドロップダウン・メニューから選択します。

   ユーザーは、ここで使用可能になっているオプションを選択できます。オプションの説明は、Smart View のオプションを参照してください。

> **ノート:**
>
> このステップで、スマート・スライスの**「オプション」**ダイアログ・ボックスに指定した、欠落データの置換ラベルおよびその他のプリファレンスは、そのスマート・スライスに基づく関数グリッドには適用されません(スマート・スライスを使用したレポートの作成に説明されています)。かわりに、Oracle Smart View for Office ユーザーによって**「オプション」**ダイアログ・ボックスで指定されたオプションが関数グリッドに適用されます。

> **ノート:**
>
> Smart View は、スマート・スライスからインポートされた関数グリッドの数値のフォーマットをサポートしていません。

22

クエリー・デザイナおよび MDX 問合せ

次も参照:

- クエリー・デザイナの使用
  Oracle Smart View for Office クエリー・デザイナを使用して、レポートのレイアウトを設計します。
- MDX 問合せの操作
  「問合せの管理と実行」ダイアログ・ボックスを使用して、MDX 問合せコマンドを作成および管理します。

クエリー・デザイナの使用

Oracle Smart View for Office クエリー・デザイナを使用して、レポートのレイアウトを設計します。

次も参照:

- クエリー・デザイナについて
- 問合せの作成
- 問合せの編集およびレポートの再実行
- データのフィルタ処理
- クエリー・デザイナでの時間関連データの分析

クエリー・デザイナについて

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Planning、Financial Consolidation and Close

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、 Oracle Hyperion Financial Management、Oracle Hyperion Planning

クエリー・デザイナは Oracle Smart View for Office のツールで、1 つのインタフェースから行、列および POV のディメンション、メンバー、属性を選択してレポートのレイアウトを設計できます。クエリー・デザイナを使用して、空の接続されたワークシートから問合せを作成できます。このワークシートでは、開始点としてデフォルトのレポートが使用されるか、保存したレポートからクエリーが抽出されます。クエリー・デザイナは、アド・ホック・ワークシートにのみ使用可能です。

問合せの作成

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、Planning、Financial Consolidation and Close

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase、 Oracle Hyperion Financial Management、Oracle Hyperion Planning

問合せレポートを作成するには:

1. Excel でワークシートまたは既存のレポートを開き、データ・ソースに接続します。

   > **ノート:**
   >
   > ワークブックには、複数のデータ・ソースからのクエリー・デザイナ・ワークシートを表示できます。ただし、ワークシートに関連付けることができるのは、1 つのデータ・ソースのみです。

2. データ・ソースのリボンから、**「問合せ」**、**「クエリー・デザイナ」**の順に選択します。

   クエリー・デザイナ、および"*シート名* - 問合せ"という名前のクエリー・ワークシート(シート 1 - 問合せなど)が表示されます。問合せはこのワークシートで設計します。

   問合せシートでは次の操作が使用不可になっていますが、レポートを実行すると再度使用可能になります:

   - 式
   - 非対称型レポート
   - コメント
   - 空白の行または列
   - 別名表に対する変更
   - ズーム・イン、ズーム・アウト、選択項目のみ保持、選択項目のみ除去、およびダブルクリックといったアド・ホック処理

   問合せシートとレポート・シートのどちらでも、次の操作は行えません:

   - 列のメンバーのフィルタ処理
   - データ・ソースの変更

   重複メンバー・データベースを使用する場合、修飾メンバー名が問合せシートに表示されますが、レポートを実行した後にメンバー名のみが表示されます。

3. 問合せを設計するには、次のいずれかの操作を実行します:

   - クエリー・デザイナに表示されている**「行」**および**「列」**ディメンションのメンバーを選択するには、ディメンション名をクリックして「メンバー選択」ダイアログ・ボックスを開きます。
   - クエリー・デザイナに表示されている**「POV」**ディメンションのメンバーを選択するには、ディメンション名の隣にある矢印をクリックして省略記号を選択し、「メンバー選択」ダイアログ・ボックスを開きます。
   - **POV** からグリッドにディメンションを移動するには、クエリー・デザイナで**「POV」**セクションから**「列」**または**「行」**セクションに、ディメンションをドラッグ・アンド・ドロップします。
   - グリッドからディメンションを除去するには、クエリー・デザイナで「列」または「行」セクションから「POV」セクションにディメンションをドラッグ・アンド・ドロップします。
   - 属性ディメンションを追加または除去するには、「属性」ドロップダウン・メニューからディメンションを選択し、クエリー・デザイナの**「行」**または**「列」**セクションにドラッグ・アンド・ドロップします。
   - メンバーを直接グリッドに入力します。

> **ノート:**
>
> 重複メンバー名をサポートするデータベースを操作する場合、ピリオドを含むメンバーの使用を回避する必要があります。Oracle Smart View for Office では、クエリー・デザイナでデリミタとしてピリオド(.)を検出し、不明なメンバー・エラーが発生します。問合せのディメンションまたはメンバー名にピリオドが含まれる場合、メンバーは親と子の 2 つのメンバーとして解釈されます。たとえば、メンバーが次の場合:
>
> ```
> abcd.wxyz
> ```
>
> 次のように解釈されます:
>
> ```
> abcd
>    wxyz
> ```

4. クエリー・デザイナで**「問合せを適用」**をクリックします。結果として生成されたレポートは、"*シート名* - レポート"という名前の新しいレポート・シート(シート 1 - レポートなど)に表示されます。ステップ 2 で一時的に無効化されていた操作が再度有効化されます。

   問合せシートがレポート・シートに置き換えられますが、ステップ 2 を繰り返せば問合せシートは取得可能です。

5. レポートを保存するには、Excel の`.xls` または`.xlsx` ファイルとして保存します。

> **ノート:**
>
> Essbase では、`.xls` または`.xlsx` ファイルをデータ・ロード・データ・ソースとして使用できます。

> **ノート:**
>
> クエリー・デザイナはスマート・スライスと連携できるようには設計されていません。

問合せの編集およびレポートの再実行

問合せを再実行するとレポートが再生成されます; ズーム、コメントおよび式など、元のレポートに対する変更は失われます。フォーマットも失われます。

レポートをリフレッシュできますが、データがリフレッシュされるのみで、レポートは再実行されません。

問合せを編集してレポートを再実行するには:

1. クエリー・デザイナの編集するクエリー・シートを開きます。クエリー・シートが表示されていない場合は、データ・ソースのリボンから、**「問合せ」**、**「クエリー・デザイナ」**の順に選択します。

2. 問合せを編集します。
3. **「問合せ」**、**「レポートの実行」**の順に選択します。

   レポートが更新されます。

データのフィルタ処理

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

データをフィルタ処理すると、戻されるデータ量が指定された上位または下位基準に制限されます。上位または下位ランキングによって、たとえば特定地域の売上の上位 10 製品を表示できます。

データをフィルタ処理するには:

1. クエリー・デザイナのレポート・ワークシートでディメンションを選択します。
2. Essbase のリボンから、**「問合せ」**、**「データ・フィルタ」**の順に選択します。
3. **「データ・フィルタ」**の**「カウント」**で、**「上」**または**「下」**を選択し、数値を指定します。
4. **「設定」**の下のをクリックします。
5. **「メンバー選択」**でランキングの行メンバーを選択し、**「OK」**をクリックして**「データ・フィルタ」**に戻ります。
6. **「値」**でをクリックします
7. **「メンバー選択」**でランキングの実行対象の列メンバーを選択し、**「OK」**をクリックして**「データ・フィルタ」**ダイアログ・ボックスに戻ります。
8. **「OK」**をクリックします。

   データ・フィルタ処理設定を表す TopCount({ [Qtr3] }, 10, [Measures].[Profit])という形式の MDX 問合せが、グリッドに挿入されます。例では、第 3 四半期の利益が最も高かった上位 10 製品が戻されます。
9. **「問合せを適用」**をクリックして、問合せ結果を表示します。

クエリー・デザイナでの時間関連データの分析

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

データをフィルタ処理すると、戻されるデータ量が指定された上位または下位基準に制限されます。上位または下位ランキングによって、たとえば特定地域の売上の上位 10 製品を表示できます。

Oracle Smart View for Office を使用して、時間ベースのメトリックに対して、売上原価に対する売上などのフラッシュ・メトリックを分析できます。これにより、トレンドを参照したり、異なる期間の平均を調べたりできます。この操作を行うには、メンバーの周期性を使用可能にするリンク属性を使用します。周期性は、時間ベースの分析を有意義なものにする時間ディメンション・メンバー間の共有パターンです(たとえば、1 月と 4 月は四半期の最初の月として周期性を共有します)。月単位の日、週単位の日、年単位の週は、リンク属性の例です。リンク属性の範囲を設定し、フィルタを適用することもできます。

クエリー・デザイナで時間関連データを分析するには:

1. 問合せを作成します。
2. クエリー・デザイナ・ツールバーから、**日時**ディメンションを選択し、グリッドまたはツールバー内にドラッグします。
3. クエリー・デザイナ・ツールバーの**日時**をクリックし、**「メンバー選択」**を開きます。ここで、メンバーを選択し、「期間」、「範囲」およびその他のフィルタを適用できます。
4. クエリー・デザイナ・ツールバーの**「属性」**で、ドロップダウン・メニューの属性またはリンク属性を選択し、グリッドまたはツールバー内にドラッグします。必要に応じて、他の属性について繰り返します。
5. メンバーを選択し、属性にフィルタを適用するには、クエリー・デザイナ・ツールバーで属性名をクリックして**「メンバー選択」**を開きます。
6. POV ツールバーのをクリックします。

MDX 問合せの操作

「問合せの管理と実行」ダイアログ・ボックスを使用して、MDX 問合せコマンドを作成および管理します。

次も参照:

- MDX 問合せの操作について
- MDX 問合せの作成および保存
- MDX 問合せの実行
- 問合せ接続情報の変更
- 問合せリスト表示の変更
- MDX 問合せの削除

MDX 問合せの操作について

クラウド・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

オンプレミス・データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase

MDX ユーザーは、クエリー・デザイナ・インタフェースを使用せずに、**「問合せの管理と実行」**ダイアログ・ボックスを使用して、MDX 問合せコマンドを作成し管理できます。

「問合せの管理と実行」で、次のタスクを実行できます:

- 問合せの作成
- 既存問合せの変更
- 問合せの保存
- 問合せ接続情報の変更
- 問合せの削除
- 問合せの実行

  問合せ当たり 1 つの MDX 文を実行できます。

一度に複数の MDX 問合せを実行するには、*Oracle Essbase テクニカル・リファレンス*の説明に従って、Essbase は MDX スクリプトを作成する必要があります。Essbase 計算の実行の説明に従って、Oracle Smart View for Office ユーザーは**「計算スクリプト」**ダイアログからスクリプトを実行します。

MDX 問合せの作成および保存

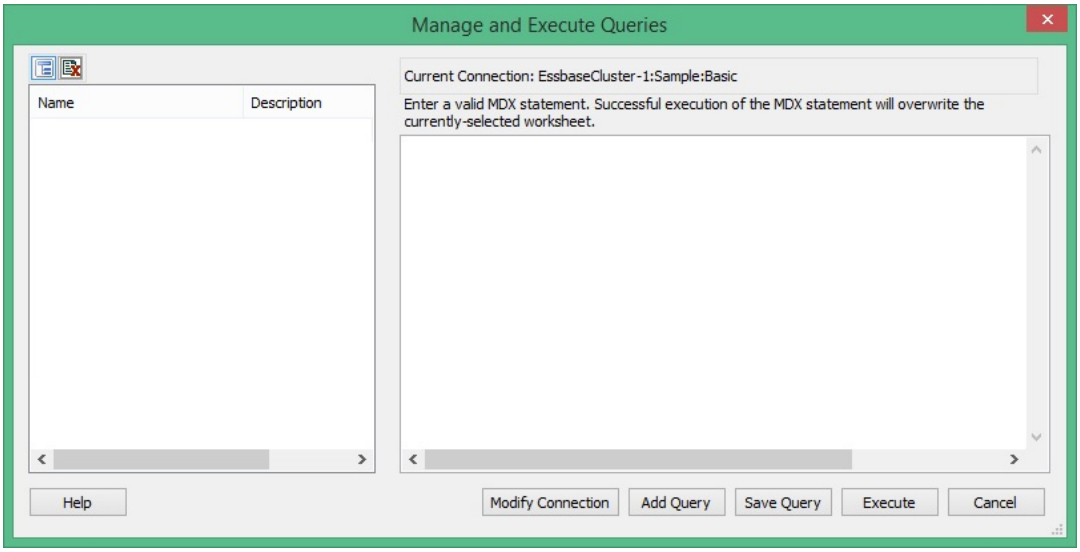
「問合せの管理と実行」ダイアログ・ボックスで、MDX 問合せを作成できます。

MDX 構文の詳細は、Oracle Essbase のドキュメントを参照してください。

MDX 問合せを作成するには:

1. Excel で、Essbase データ・ソースに接続します。
2. Essbase のリボンから、**「問合せの管理と実行」**を選択し、 **「問合せの管理と実行」**ダイアログ・ボックスを表示します。

図 22-1 「問合せの管理と実行」ダイアログ・ボックス

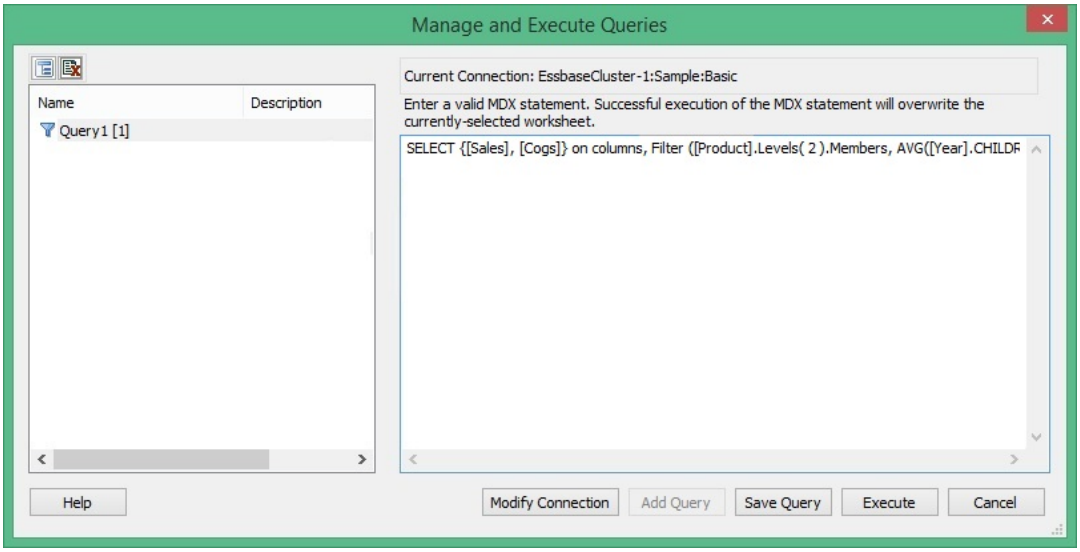


3. **「問合せの追加」**をクリックし、右にあるテキスト・ボックスに有効な MDX 文を入力します。

   例:

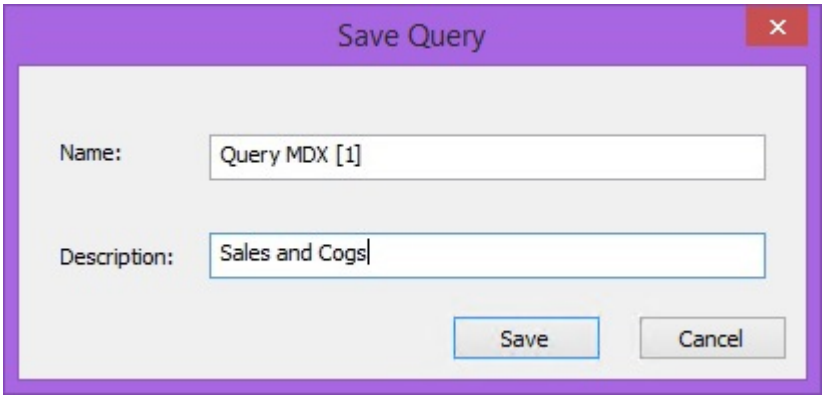
```
SELECT {[Sales], [Cogs]} on columns, Filter
([Product].Levels( 2 ).Members, AVG([Year].CHILDREN, 9001.0) > 9000.00) on
rows
```

図 22-2 「問合せの管理と実行」ダイアログ・ボックスに入力された MDX 問合せ構文



4. **「問合せの保存」**ボタンをクリックし、**「問合せの保存」**ダイアログ・ボックスに、問合せの名前およびオプションの説明を入力します。

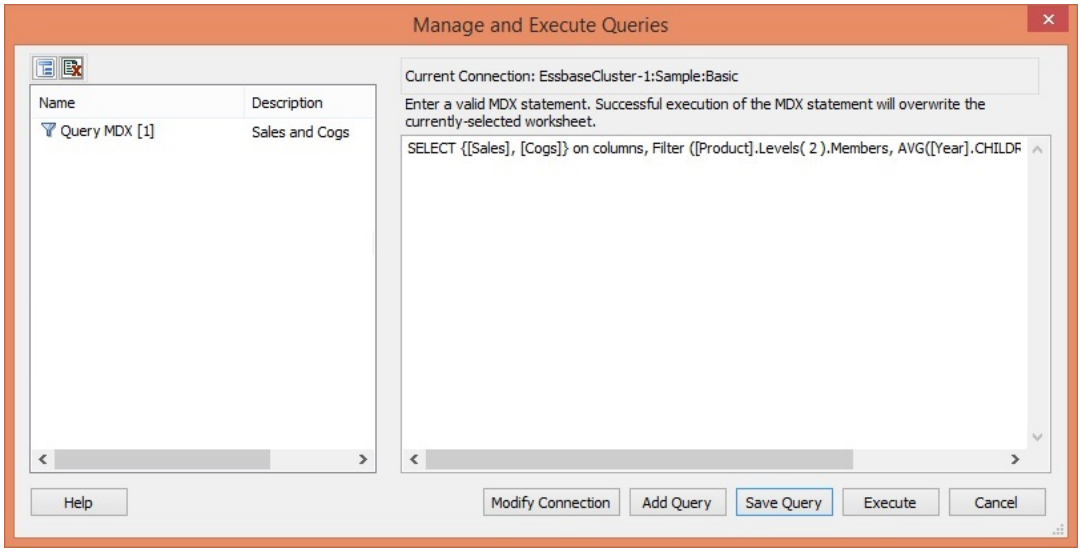
   問合せのデフォルト名は `Query1 [n]` です。この名前は変更可能です。



5. **「保存」**をクリックして問合せを保存します。

   新たに保存された問合せが、**「問合せの管理と実行」**ダイアログ・ボックスの左のテキスト・ボックスにリストされます。

図 22-3 「問合せの管理と実行」ダイアログ・ボックスにリストされた、新たに保存された MDX 問合せ



この問合せを実行して続行する、あるいは構文または接続情報を変更して続行できます。

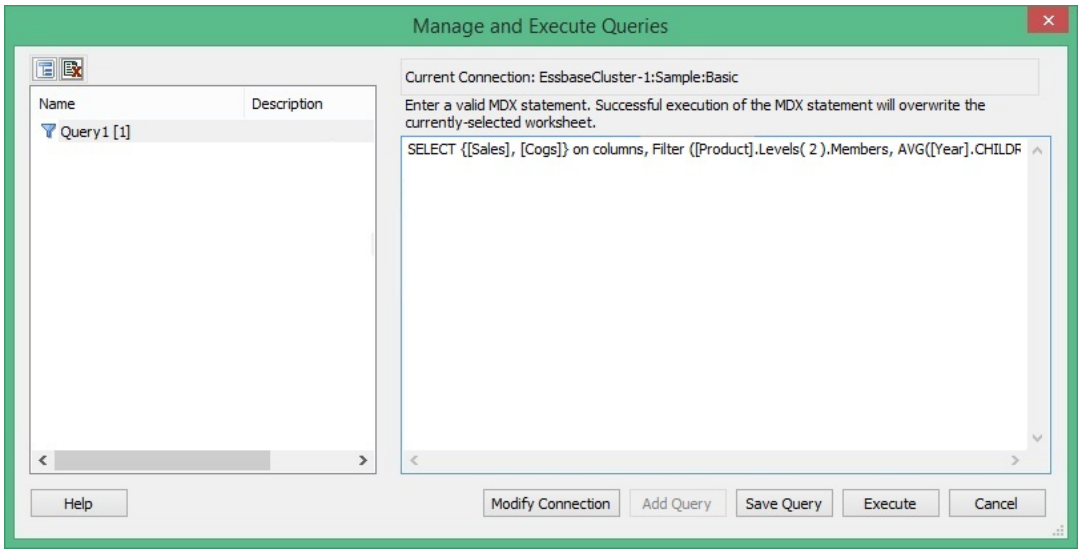
MDX 問合せの実行

保存済の MDX 問合せを実行することも、入力した問合せを即時に実行することもできます。

MDX 問合せを実行するには:

1. Excel で、Oracle Essbase データ・ソースに接続します。
2. Essbase のリボンから、**「問合せの管理と実行」**を選択し、**「問合せの管理と実行」**ダイアログ・ボックスを表示します。

図 22-4 「問合せの管理と実行」ダイアログ・ボックス



3. 次のいずれかのアクションを行います:
   - 保存済 MDX 問合せを実行するには、左フレームのリストから問合せを選択し、**「実行」**をクリックします。
   - MDX 問合せを動的に実行するには、**「問合せの追加」**をクリックし、右のテキスト・ボックスに MDX 問合せを入力し、**「実行」**を実行します。

     動的に入力した問合せは保存されません。

   ダイアログ・ボックスは自動的に閉じ、問合せ結果がシート上に表示されます。

> **ノート:**
>
> 計算済メンバーを指定した(WITH MEMBER...) MDX 問合せを Excel で実行した場合、計算済の値は正常に表示されますが、グリッドをリフレッシュすると、列はコメント列に変換され、計算済の値はすべて失われます。これは、**Essbase** のリボンの**「MDX の実行」**コマンドを使用しているか、VBA 関数 HypMDXExecute を使用しているかにかかわらず発生します。

問合せ接続情報の変更

特定の問合せに関連付けられている接続情報を変更して、異なるアプリケーションおよびデータベースに接続できます。

問合せ接続情報を変更するには:

1. Excel で、Oracle Essbase データ・ソースに接続します。
2. Essbase のリボンから、**「問合せの管理と実行」**を選択します。
3. **「問合せの管理と実行」**ダイアログ・ボックスで、**「接続の変更」**をクリックします。
4. **「接続の編集 - URL」**ページで、必要に応じて URL を編集し、**「次」**をクリックします。

   オプションで、**「デフォルト接続として設定」**チェック・ボックスを選択し、**「次」**をクリックします。
5. **「接続の編集 - アプリケーション/キューブ」**ページで、ツリーの新規アプリケーションとキューブに移動して選択し、**「終了」**をクリックします。

   または、**「拡張設定」**チェック・ボックスを選択して、**「サーバー」**、**「アプリケーション」**および**「キューブ/データベース」**テキスト・ボックスに新規接続情報を手動で入力し、**「終了」**をクリックします。

問合せリスト表示の変更

「ビューの変更」ボタンを使用して、**「問合せの管理と実行」**ダイアログ・ボックスの左ペインでの問合せのリスト方法を変更します。

問合せリストの表示は、接続に関連付けられているすべての問合せのアルファベット順のフラット・リストから、関連付けられたアプリケーションおよびデータベース別に問合せがリストされたツリー・ビューに切り替えることができます。

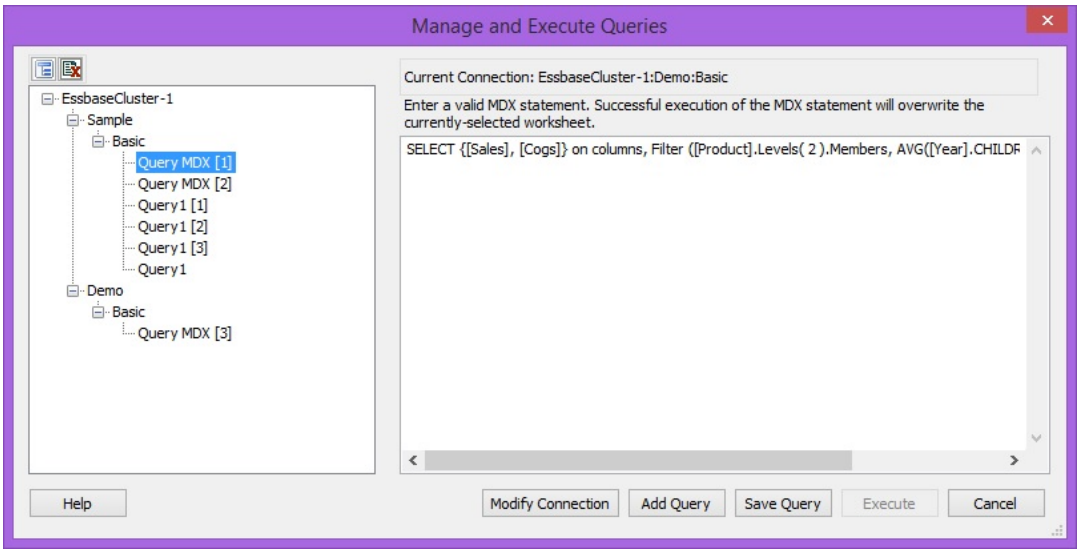
問合せリスト表示を変更するには:

1. Excel で、Oracle Essbase データ・ソースに接続します。

2. Essbase のリボンから、**「問合せの管理と実行」**を選択します。
3. **「問合せの管理と実行」**ダイアログ・ボックスで、**「ビューの変更」**ボタン、をクリックします。

   デフォルトの表示は、アルファベット順のフラット・リストです。をクリックすると、問合せリストがツリー・ビューに変更され、問合せリスト表示の変更に示すように、関連付けられたアプリケーションおよびデータベース別に問合せがリストされます

図 22-5 アプリケーションおよびデータベース別のツリー形式でリストされた問合せ



4. **オプション:** を再度クリックすると、アルファベット順のリストに戻すことができます。

MDX 問合せの削除

「問合せの管理と実行」ダイアログ・ボックス内のリストから MDX 問合せを削除できます。

MDX 問合せを削除するには:

1. Excel で、Oracle Essbase データ・ソースに接続します。
2. Essbase のリボンから、**「問合せの管理と実行」**を選択します。
3. **「問合せの管理と実行」**ダイアログ・ボックスの左フレームのリストから、削除する問合せを選択します。
4. **「問合せの削除」**ボタンをクリックします。
5. リクエストの削除を確認するプロンプトで**「はい」**をクリックします。
6. ダイアログの右上隅の**「X」**または**「取消」**をクリックして閉じます。

23

Smart View と Cloud EPM

次も参照:

- Smart View と Cloud EPM について
  Oracle Smart View for Office では、一部の Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management の機能がサポートされます。
- メンバー式の表示
  式を含むセル内の式を表示できます。
- ローカライズされたアーティファクト・ラベルの表示
  Oracle Smart View for Office では、キューブ、フォーム、フォルダ、タスク・リストなどのアーティファクトに対して、Web アプリケーションに設定されたローカライズされたラベルと説明を表示できます。
- ビジネス・ルールの使用
  フォームおよびアド・ホック・グリッドで、ビジネス・ルールを使用してデータベースのデータを計算できます。
- サポート詳細の操作
  サポート詳細は、メンバー・アウトラインに含まれないデータを作成するための、組込み型の計算機として機能します。
- データの分散
  期間に対するデータの分散、グリッド分散を使用した値の分散、および一括割当てを使用した値の分散が可能です。
- 変更を送信せずに計算を実行する(オンザフライ計算)
  変更を保存したり送信する必要なく、オンザフライで迅速に計算を実行して結果を確認できます。
- アド・ホック・グリッドでの祖先メンバーへのアクセス
  アド・ホック・グリッドおよび**メンバー選択**では、サービス管理者によってアプリケーション設定**「デフォルト祖先アクセス権」**が構成されている場合は、Smart View ユーザーが、他の方法ではアクセスできない祖先メンバー(共有メンバーを含む)にアクセスできます。
- Planning の承認の管理
  Planning の承認は、プランニング・ユニットの送信、確認、承認プロセスです。
- ジョブ・ステータスのモニタリング
  ジョブ・コンソールを使用して Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management のジョブの実行ステータスをモニターし、必要に応じて削除します。
- ダッシュボード
  ダッシュボードを使用すると、主な情報の概要を確認し、データを変更し保存できます。
- 複合フォームを開く
  Oracle Smart View for Office で Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management 複合フォームを開くことができます。
- バージョンのコピー
  サービス管理者は、データを 1 つのボトムアップまたは選択済シナリオのターゲット・バージョンから他のボトムアップまたは同じシナリオ内のターゲット・バージョンへコピーできます。

- Cloud EPM フォームでのページの検索
  管理者が 1 つのフォームに対して複数のページ・ディメンションを設定している場合は、必要なデータが含まれるページを、ページのドロップダウン・メニューから選択します。
- フォームでのフォーマットの表示
  Smart View ユーザーは、ネイティブの Excel フォーマットをフォームの一部として保存し、Cloud EPM ビジネス・プロセスに表示できます。さらに、フォーム設計者はフォーマット・ルールを指定でき、Smart View ユーザーは Forms 2.0 で作業するときにそのルールを表示できます。
- Cloud EPM での複数グリッド・ワークシートの操作
  Oracle Smart View for Office では、1 つのワークシートで複数のアド・ホック・グリッドを取得できます。グリッドはすべて同じデータ・ソースに接続することも、グリッドごとに異なるデータ・ソースに接続することもできます。
- ユーザー・プリファレンスの設定
  アプリケーションのユーザー・プリファレンスを設定できます。
- Cloud EPM での Smart View の動作オプション
  管理者は、Web インタフェースで Oracle Smart View for Office の動作に影響するオプションを設定できます。

Smart View と Cloud EPM について

Oracle Smart View for Office では、一部の Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management の機能がサポートされます。

Cloud EPM には次のデータ・ソースがあります:

- Planning
- Planning モジュール
- Enterprise Profitability and Cost Management
- Financial Consolidation and Close
- フリーフォーム
- Tax Reporting

このガイドでは、Smart View でサポートされる Cloud EPM の機能に関する情報を提供します。上の Cloud EPM データ・ソースに関する詳細は、Oracle Help Center で提供されているドキュメントとビデオを参照してください。

メンバー式の表示

式を含むセル内の式を表示できます。

このようなセルは、Oracle Smart View for Office の**「オプション」**ダイアログ・ボックスの**「セルのスタイル」**タブで指定したセル・スタイルによってグリッドに示すことができます。

データ・ソース・タイプ: Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting

> **ノート:**
>
> Smart View で式を表示するには、Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management Web インタフェースでフォームの**「メンバー式」**プロパティを有効にする必要があります。適切な権限のあるユーザーが Web で編集用にフォームを開き、**「レイアウト」**タブ、**「ディメンション・プロパティ」**の順に進み、**「メンバー式」**を選択します。

メンバー式を表示するには:

1. フォームを開きます。
2. 表示する式を含むメンバーを選択します。
3. プロバイダのリボンから、**「詳細」**、**「メンバー式」**の順に選択します。

   式の詳細が表示されます。

> **ノート:**
>
> 式を使用して別のシートのメンバーが参照されている場合、データは返されません。たとえば、期間が別のシートの列にあり、他のすべてのシートでそのセルを参照している場合、他のシートでデータはリフレッシュされません。別のシートのメンバーを参照するデータを表示するには、メンバー式のセルの Excel セルのフォーマットを「標準」に設定します。

ローカライズされたアーティファクト・ラベルの表示

Oracle Smart View for Office では、キューブ、フォーム、フォルダ、タスク・リストなどのアーティファクトに対して、Web アプリケーションに設定されたローカライズされたラベルと説明を表示できます。

データ・ソース・タイプ: Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Planning、Planning モジュール、Tax Reporting

アーティファクト・ラベルには、名前、説明、指示などの様々なプロパティが含まれており、これらをカスタマイズして、ユーザーが使用する様々な言語で設定し、意味のある情報を提供できます。たとえば、英語で「turnover」という名前のフォームのアーティファクト・ラベルを、フランス語ユーザーのために「chiffre d'affaires」に設定できます。

Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management Web アプリケーションで、アーティファクトごとに様々な言語でアーティファクト・ラベルを追加できます。アーティファクトにアーティファクト・ラベルが定義されていない場合は、デフォルトのラベルが表示されます。詳細は、言語の追加およびローカライズされたアーティファクト・ラベルの定義を参照してください。

> **Note:**
>
> Smart View でアーティファクト・ラベルを表示するには、Cloud EPM 更新 24.04 以降が必要です。

Web アプリケーションでサポートされているアーティファクト・ラベルは、どのアーティファクト・ラベルをローカライズできますか。にリストされています。Smart View では、次のアーティファクトに対してアーティファクト・ラベルがサポートされています:

- ビジネス・ルール
- キューブ
- ダッシュボード
- ドキュメント
- フォルダ
- フォーム
- プロンプト
- レポート
- スマート・リスト
- タスクおよびタスク・リスト
- テンプレート
- ユーザー変数

追加すると、Smart View ホーム・パネルのツリー・ビュー、POV ツールバーと POV マネージャ、「シート情報」ダイアログ、検索結果のリスト、右クリック・メニューとメニュー項目、「最近使用」リストなど、Smart View 内の複数の場所で、ローカライズされたアーティファクト・ラベルを表示できます。

Smart View のローカライズされたアーティファクト・ラベルは、Smart View の**「オプション」**の**「詳細」**タブで設定された言語に基づいて表示されます。

> **Note:**
>
> 保存されたワークブックに対して別の言語で作業するユーザーには、Smart View の言語設定で選択されている言語とは異なる言語でスマート・リスト値のアーティファクト・ラベルが表示される場合があります。たとえば、ユーザーが、スペイン語のスマート・リスト・アーティファクト・ラベルを使用したフォームをワークブックに保存します。Smart View 言語を英語に設定している別のユーザーが、保存されたこのワークブックを開くと、そのユーザーには英語ではなくスペイン語でスマート・リストの値が引き続き表示されます。これは、スマート・リストを備えたフォームまたはアド・ホック・グリッドが含まれているワークブックを保存すると、サーバーで更新または変更されないかぎりリストが更新されないために発生します。このような場合、ユーザーはそれらのフォームまたはアド・ホック・グリッドを新しいワークブックで開き、選択した言語でスマート・リスト・アーティファクト・ラベルを表示する必要があります。

ビジネス・ルールの使用

フォームおよびアド・ホック・グリッドで、ビジネス・ルールを使用してデータベースのデータを計算できます。

データ・ソース・タイプ: Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Tax Reporting

ビジネス・ルールの中には情報の入力を促すものがあります。これは*実行時プロンプト*と呼ばれます。*テンプレートベースのビジネス・ルール*と呼ばれるその他のルールは、ガイド付きウィザードを使用してパラメータ情報を入力するよう求めます。

ビデオ

目的	このビデオを見る
ビジネス・ルールについての説明など、Planning に関連する Oracle Smart View for Office の基本的な機能の使用について学習します。	Oracle Planning and Budgeting Cloud による Smart View でのプラン・データの入力および保存

関連トピック:

Excel でのビジネス・ルールの起動

実行時プロンプトへの入力

「フォームの計算」および「通貨の計算」ビジネス・ルールの実行

Excel でのビジネス・ルールの起動

データ・ソース・タイプ: Planning、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting

Excel でビジネス・ルールを起動するには:

1. アド・ホック・グリッドまたはフォーム(単一または複合)を開きます。
2. 未保存のすべてのデータを保存します。

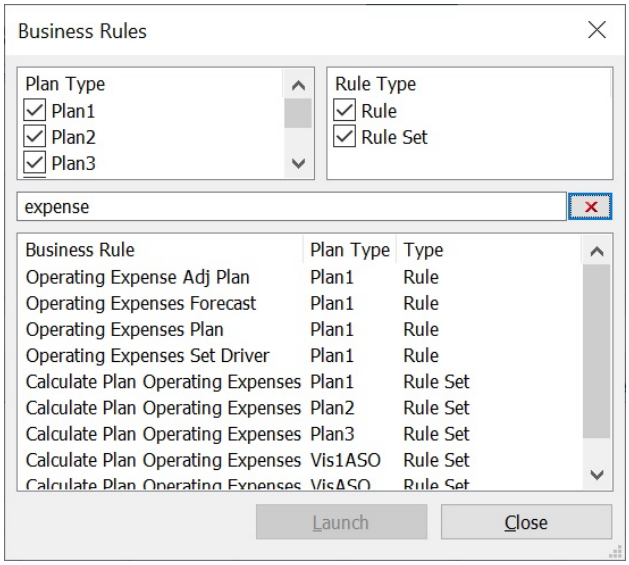
   ビジネス・ルールを起動すると、未保存のデータは失われます。
3. プロバイダのリボンから、**「計算」**、**「ビジネス・ルール」**の順に選択します。
4. **オプション: 「プラン・タイプ」**および**「ルール・タイプ」**にあるチェック・ボックスを使用して、キューブおよびルール・タイプでルールをフィルタします。

   デフォルトでは、すべてのキューブおよびルール・タイプのオプションが選択されています。検索を絞り込むには、表示する必要がないキューブおよびルール・タイプのチェック・ボックスの選択を解除します。選択内容に従ってリストがフィルタ処理されます。たとえば、Plan1 のみとすべてのルール・タイプを選択すると、Plan1 キューブにのみ適用されるすべてのタイプのビジネス・ルールが表示されます。
5. **オプション: 「プラン・タイプ」**および**「ルール・タイプ」**にある「検索」フィールドを使用して、名前または名前の一部でルールを検索します。

   「検索」フィールドに検索基準を入力し、**[Enter]**を押すか、「検索」フィールドの右側にある**「検索」**ボタン、をクリックします。

   たとえば、文字列 `expense` を含むすべてのルールおよびルール・セットを検索できます。

   [Enter]を押すか、をクリックすると、結果リストに、名前のどこか(先頭、中間または末尾)に「Expense」を含むすべてのビジネス・ルールまたはルール・セットが表示されます。



> **ノート:**
>
> 前のステップで説明したチェック・ボックスを使用して、結果をさらにフィルタできます。

検索をクリアして、すべてのビジネス・ルールおよびルール・セットを復元するには、をクリックします。

「検索」フィールドは、Smart View 23.200 以降で使用可能です。

6. **「ビジネス・ルール」**から、**「プラン・タイプ」**で、使用するルールに関連付けられているキューブを選択します。
7. そのキューブについて一覧表示されたルールの中からルールを選択し、**「起動」**をクリックします。

> **ノート:**
>
> - 実行時プロンプトが含まれているビジネス・ルールの場合は、実行時プロンプトへの入力に示されている情報を入力します。
> - テンプレート・ベースのビジネス・ルールの場合は、ガイド付きウィザードを使用してルール・パラメータを定義します。
> - **Planning のみ:** Planning 20.03 以降、ユーザーは Oracle Smart View for Office から動的メンバー(オンザフライ・メンバーとも呼ばれます)を追加できます。動的メンバーを追加するには、**「実行時プロンプト」**テキスト・ボックスに新規メンバー名を手動で入力し、**「起動」**をクリックします。

計算が正常に処理されると、計算結果がデータベースの値に反映されます。

> **ヒント:**
>
> 管理者: Planning のフォーム設計中に**「保存時に実行」**を有効にした複合フォームに直接添付された、実行時プロンプトを含むルールは、Smart View でサポートされません。常にルールを単一のフォームに添付し、**「保存時に実行」**を有効にして、単一のフォームから複合フォームにビジネス・ルールを添付する必要があります。これにより、すべての実行時プロンプト値がフォーム・コンテキストから正しく選択され、ビジネス・ルールが正常に起動します。

8. **「閉じる」**をクリックします。
9. Smart View のリボンから、**「リフレッシュ」**を選択します。

関連トピック:

実行時プロンプトへの入力

「フォームの計算」および「通貨の計算」ビジネス・ルールの実行

実行時プロンプトへの入力

データ・ソース・タイプ: Planning

Planning に詳しくない場合は、Oracle Help Center で入手可能な Planning のドキュメントとビデオを参照してください。

起動時に、ビジネス・ルールが変数情報を入力するように指示することができます。いわゆる*実行時プロンプト*です。ビジネス・ルールのデザイナが実行時プロンプトを設定します。

実行時プロンプトを入力するには:

1. 実行プロンプトがあるビジネス・ルールを起動します。
2. 実行時プロンプトにより指定された入力タイプを入力または選択します。次の表は入力タイプをまとめたものです:

表 23-1 実行時プロンプトおよび予想される入力

アイコン	予想される入力タイプ
	1 つのメンバー選択 動的メンバーを追加するには、**「実行時プロンプト」**テキスト・ボックスに新規メンバー名を手動で入力し、**「起動」**をクリックします。
	複数メンバー選択
	数値(入力するか、セルのドロップダウン・メニューから選択する)
	テキスト値 - 高度な計算スクリプトのみで使用し、グラフィック表示のスクリプトでは使用しません
	データベースからのディメンション - 高度な計算スクリプトのみで使用し、グラフィック表示のスクリプトでは使用しません

表 23-1 (続き) 実行時プロンプトおよび予想される入力

アイコン	予想される入力タイプ
	**Calculation Manager のビジネス・ルールのみ:** デザイナが実行時プロンプトに対して設定した各ディメンションから 1 つのメンバーのみを含むメンバーまたはメンバーの組合せ(たとえば、「売上->実績->1 月」は売り上げ、実績および 1 月のメンバー交差を参照しています)
	**Calculation Manager のビジネス・ルールのみ:** デザイナが実行時プロンプトに対して設定した各ディメンションから選択可能なメンバーの範囲(IDescendants("Marketing"),FY08 など)

実行時プロンプトが有効であることを確認してください。すべての実行時プロンプト値が有効になるまで、ビジネス・ルールを起動できません。

3. **「起動」**をクリックします。

   計算が正常に処理されると、データベースの値に計算結果が反映されます。

関連トピック:

Excel でのビジネス・ルールの起動

「フォームの計算」および「通貨の計算」ビジネス・ルールの実行

「フォームの計算」および「通貨の計算」ビジネス・ルールの実行

データ・ソース・タイプ: Planning

「フォームの計算」ビジネス・ルールは、小計を計算する各フォーム用に作成されています。「通貨の計算」ビジネス・ルールは、行、列またはページに複数の通貨が含まれるフォーム用に作成され、使用可能な通貨間で値を換算できます。

ビジネス・ルールを起動する順序は、データに影響を与える場合もあるので重要です。「フォームの計算」ビジネス・ルールと「通貨の計算」ビジネス・ルールの両方を起動する予定の場合は、フォームの小計を計算する前に、必ず換算を実行します。

「フォームの計算」および「通貨の計算」のビジネス・ルールを Excel で起動するには:

1. フォームを開きます。

   ビジネス・ルールを起動すると、スプレッドシートの未保存のデータは失われます。

2. Planning のリボンから、**「計算」**、**「フォームに関する規則」**の順に選択します。

   フォームに関連付けられたビジネス・ルールが、「ビジネス・ルール」ダイアログ・ボックスに表示されます。

3. 次のいずれかまたは両方を実行します:

   - 通貨を換算するには、**「通貨の計算」**を選択します
   - 小計を計算するには、**「フォームの計算」**を選択します

4. **「起動」**をクリックします。

   計算が正常に処理されると、計算結果がデータベースの値に反映されます。

関連トピック:

Excel でのビジネス・ルールの起動

実行時プロンプトへの入力

フォームでの Groovy ルールの実行

データ・ソース・タイプ: Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Tax Reporting

Groovy ルールが関連付けられたフォームは、さらに調査するために Oracle Smart View for Office で開くことができます。フォームの任意の数の連続または非連続セルを選択し、右クリックして Smart View コンテキスト・メニューにアクセスし、選択したセルで起動する Groovy ルールを選択できます。

> **Note:**
>
> - 前提条件として、Smart View で選択されたセルの情報を受け取るために、フォームに Groovy ルールが添付されている必要があります。Groovy ルールをフォームに関連付けるには、Groovy ルールを作成し、フォーム定義の**「ビジネス・ルール」**タブで、Groovy ビジネス・ルールを**「選択したビジネス・ルール」**に追加します。
> - この機能には Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management 22.10 以上が必要です。

フォームの右クリック・コンテキスト・メニューから Groovy ビジネス・ルールを実行するとき、グリッド・セルで isSelected()メソッドを使用して Groovy ルールで選択したセルを使用できます。選択したセルの情報は、右クリック・メニューの一環として Groovy ルールが起動されたときに含まれます。この拡張機能は、Groovy ルールのデザイナが Groovy ロジックで選択されたセルの情報にアクセスして使用することにも役立ちます。

> **Note:**
>
> - セルを選択してその情報を Groovy ルールの処理に使用する機能は、Smart View で開かれるフォームで使用可能です。
> - この機能は、Smart View のリボンから開かれた「ビジネス・ルール」ダイアログから Groovy ビジネス・ルールが起動および実行された場合は使用できません。
> - フォームに添付された Groovy ルールは、選択したセルから情報を利用できます。

Smart View フォームで Groovy ルールを実行するには:

1. Groovy ルールが関連付けられているフォームを開きます。
2. Groovy ルールを実行するセルを選択します。
3. セルを右クリックし、コンテキスト・メニューで**「Smart View」**を選択し、実行する Groovy ルールを選択します。

ルールが正常に処理されたら、選択したセル内の更新された値に注意してください。

サポート詳細の操作

サポート詳細は、メンバー・アウトラインに含まれないデータを作成するための、組込み型の計算機として機能します。

データの集約方法を定義するテキスト、値、および演算子を含めることができます。

データ・ソース・タイプ: Planning、Enterprise Profitability and Cost Management、フリーフォーム

関連トピック:

サポート詳細の追加

サポート詳細の階層における作業

サポート詳細の表示または変更

サポート詳細とキューブの同期

サポート詳細の追加

データ・ソース・タイプ: Planning、Enterprise Profitability and Cost Management、フリーフォーム

「サポート詳細」ダイアログを使用して、詳細アイテムがフォーム内のセルの値に集約される方法を設定します。

> **ノート:**
>
> フォーム 2.0 では、式セルが含まれている場合、式セルまたは選択したセルの範囲に補足の詳細は追加できません。

ビデオ

目的	このビデオを見る
サポート詳細の追加など、Planning に関連する基本的な Oracle Smart View for Office 機能の使用について学習します。	 Oracle Planning and Budgeting Cloud による Smart View でのプラン・データの入力および保存

値を計算するサポート詳細をフォームまたはアド・ホック・グリッド内に追加するには:

1. フォームを開き、セルを選択します。

   1 つの行また列内で、1 つのセルを選択するかまたは複数のセルを続けて選択できます。この選択に行と列の組合せを含めることはできません。書き込めるように、現地通貨のセルを選択してください。

2. プロバイダのリボンまたはプロバイダ・アド・ホックのリボンから、**「セルのアクション」**、**「サポート詳細」**の順に選択します。

   「サポート詳細」ダイアログに、選択したセルが反映されます。

3. 「無題」テキストに説明を入力します。

   テキストとそれに関連する演算子は、同じ親の下にいる子の間で同じものは使用できません。デフォルトでは、最大 1,500 文字入力できます。

4. ボタンを使用して、インデントされた階層を作成または変更し、目的の構造と計算を反映します。

   たとえば、**「子の追加」**をクリックして、選択したアイテムの直下にライン・アイテムを追加します。

5. アイテムごとに演算子を選択して、ライン・アイテム間の演算関係を設定します。

   次の演算子から選択します。

演算子	関数
+	加算
-	減算
*	乗算
/	除算
~	無視

6. データを入力して設定または計算をします。

   フォームで設定したものと同じ倍率を使用して、数字を入力します。

7. **「送信」**をクリックします。

   値は動的に計算され、データを送信する前に集約されます。フォーム上のデータも送信されます。

サポート詳細の階層における作業

データ・ソース・タイプ: Planning、Enterprise Profitability and Cost Management、フリーフォーム

サポート詳細の階層は、関係を作成するセルの値と算術演算子をサポートする情報のタイプを反映しています。

サポート詳細の階層を作成または変更するには:

1. フォームで、サポート詳細のセルを選択します。
2. プロバイダのリボンまたはプロバイダ・アド・ホックのリボンで、**「サポート詳細」**を選択します。
3. データ値の詳細が含まれる階層内でアイテム上にカーソルを置き、次の表のオプションをクリックして行を作成または変更します:

表 23-2 「サポート詳細」オプションとその結果

オプション	結果
子の追加	選択されたセルの 1 レベル下にアイテムを追加します。子は無制限に追加できますが、パフォーマンスに与える影響を考慮してください。
兄弟の追加	選択されたセルと同じレベルにアイテムを追加します。兄弟は無制限に追加できますが、パフォーマンスに与える影響を考慮してください。

表 23-2 (続き) 「サポート詳細」オプションとその結果

オプション	結果
削除	選択されたアイテムの除去
すべて削除	すべてのサポート詳細を同時に除去
上位へ移動	選択されたアイテムを 1 つ上のレベルに移動
下位へ移動	選択されたアイテムを 1 つ下のレベルに移動
上へ移動	選択したアイテムをその兄弟の先祖より前に移動します
下へ移動	選択したアイテムをその兄弟の子孫より後に移動します
行の重複	選択アイテムの下に行を追加してテキスト、演算子、値などをコピーします。
入力	行内の現在のセルからその右のセルにデータをコピーします。
リフレッシュ	保管されたデータベースの最新の値を取得し、すでに保存された値を復元し、変更内容を上書きします。

4. **「送信」**をクリックします。

   送信操作により、詳細テキスト、値および集約値が保管されます。

サポート詳細の表示または変更

データ・ソース・タイプ: Planning、Enterprise Profitability and Cost Management、フリーフォーム

サポート詳細を含むセルは、「オプション」ダイアログ・ボックスで指定されたセル・スタイルによって、グリッドで示すことができます。

計算またはサポート・データの表示または変更を行うには:

1. フォームを開き、詳細を表示または追加するセルを選択します。

   1 つの行また列内で、1 つのセルを選択するかまたは複数のセルを続けて選択できます。このセクションに行または列の組合せを含められません。書き込めるように、現地通貨のセルを選択してください。

2. プロバイダのリボンまたはプロバイダ・アド・ホックのリボンで、**「サポート詳細」**を選択します。
3. 選択したセル内のデータを集約するライン・アイテムまたは計算を表示または変更します。

サポート詳細とキューブの同期

データ・ソース・タイプ: Planning

Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management アプリケーションでセルのサポート詳細を削除すると、リレーショナル・データベース内の関連する値に影響があります。格納されているデータベースの値をどのように処理するかを指定します。`#Missing` に設定するか、サポート詳細を削除する前の状態のまま残しておくことができます。この機能は、サポート詳細をメモ帳や計算機として使用する場合に有用です。

サポート詳細とデータベースを同期するには:

1. フォームを開きます。
2. フォームで、除去するサポート詳細が含まれるセルをクリックします。
3. プロバイダのリボンまたはプロバイダ・アド・ホックのリボンで、**「サポート詳細」**を選択します。
4. **「サポート詳細」**ウィンドウで、情報を削除して**「OK」**をクリックします。
5. 表示されるメッセージでオプションを選択して、キューブに格納されている削除済のサポート詳細の集約値をどのように処理するかを指定します。
   - 値をキューブから削除するには、**「はい、値を#missing に設定します。」**をクリックします。
   - キューブのデータ値をそのままにするには、**「いいえ、値をそのままにします。」**をクリックします。

データの分散

期間に対するデータの分散、グリッド分散を使用した値の分散、および一括割当てを使用した値の分散が可能です。

データ・ソース・タイプ: Planning

- 期間に対するデータの分散
- グリッド分散を使用した値の分散
- 一括割当てを使用した値の分散

期間に対するデータの分散

データ・ソース・タイプ: Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting

フォームで、期間の分散ルールは、ディメンションのプロパティ 設定の一部としてアプリケーションで設定されます。Excel でフォームを操作している場合、管理者がフォームをどのように設定したかに応じて、データ値を複数の方法で分散または配分できます:

- 要約期間の値を基本期間に戻す分散、または要約期間の値を親期間の最初の親または最初の子に戻す分散
- 親子間の既存の配分に基づく比例分散
- 予算管理者により 4-4-5、5-4-4、4-5-4 または「なし」のいずれかに設定されている、カレンダの四半期ごとの週次配布に基づく値の分散
- 特定のセルの値を一時的にロックした状態での、期間に対するデータの分散(特定セルをロックしたデータの分散を参照)
- 同じ行または列ディメンションで別個の期間それぞれに異なる分散ルールを使用して異なる期間に値を分散します。たとえば、FY2013 では式の充てん、FY2014 ではフローが可能です。

ノート

- 複数の通貨が混在するメンバーが含まれる要約期間のデータは分散できません。
- 子セル内の Excel 式は、分散時には無視されます。

期間に対してデータを分散するには:

1. フォームを開きます。
2. セルを選択し、新しい値を入力します。

   *Oracle Hyperion Planning ユーザー・ガイド*のデータの調整と分散に関する項に示されたルールに従い、値が配分されます
3. 新しい値を保存するには、**「発行」**をクリックします。

関連トピック:

特定セルをロックしたデータの分散

グリッド分散を使用した値の分散

一括割当てを使用した値の分散

特定セルをロックしたデータの分散

データ・ソース・タイプ: Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting

期間に対してデータを分散する場合、他の値の再計算時に、1 つ以上のセルを一時的にロックしてそれらのセルの値を保護できます。様々な計算を基に期間上にデータを分散し、変化を確認してからデータベースに確定できます。セルをロックした分散の例は、*Oracle Hyperion Planning ユーザー・ガイド*を参照してください。

値を一時的にロックするには:

1. フォームを開きます。
2. フォームで、ロックするセルまたはセルのグループを選択します。
3. プロバイダのリボンから、**「ロック」**を選択します。

   色の変化は、セルがロックされたことを示します。これで、ロックされたセルに影響を与えることなく、他のセルのデータを自由に分散または操作できます。
4. セルのロックを解除するには、グリッドをリフレッシュします。

関連トピック:

グリッド分散を使用した値の分散

一括割当てを使用した値の分散

グリッド分散を使用した値の分散

データ・ソース・タイプ: Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting

管理者が「グリッド分散」を使用可能にしている場合、ターゲット・セルの既存の値に基づいて、グリッド上の複数のディメンションにわたって値を増減する量またはパーセンテージを指定することができます。分散データを計算する場合、読取り専用のセルとロックされたセル、およびサポート詳細の付いたセルは無視されます。アクセスできるセルのみに値を分散することで、データの整合性が保証されます。

グリッド分散を使用した値を分散するには:

1. ターゲット・セルに分散したい小計または合計ソース・セル値にカーソルを置きます。

2. プロバイダのリボンまたはプロバイダ・アド・ホックのリボンから、**「調整」**、**「グリッド分散」**の順に選択します。
3. ドロップダウン・メニューから、次のいずれかを選択します:
   - **値**: 指定した量で値を増減します。
   - **パーセンテージ**: パーセンテージで値を増減します。
4. **「指定値ずつ増やす」**または**「指定値ずつ減らす」**を選択して値を入力します。
5. **「分散値」**に実際の分散値を入力します。

   たとえば、**「現在の値」**が 100 で、分散値を 125 にする場合、**「分散値」**に直接 125 と入力し、ステップ 4 の**「指定値ずつ増やす」**/**「指定値ずつ減らす」**オプションまたはテキスト・ボックスでは何もしません。

   または、**「指定値ずつ増やす」**に 25 と入力すると、**「分散値」**に 125 と表示されます。

   > **ノート:**
   >
   > **「分散値」**に値を入力しても、**「指定値ずつ増やす」**/**「指定値ずつ減らす」**テキスト・ボックスには影響はありません。ただし、**「指定値ずつ増やす」**/**「指定値ずつ減らす」**に値を入力すると、**「分散値」**テキスト・ボックスに分散値が反映されます。

6. 分散パターンを選択します。
   - **比例分散**: ターゲット・セルの既存値に基づいて、値を比例分散します(デフォルト)。
   - **均等分割**: ターゲット・セル間で均等に値を分散します。
   - **入力**: すべてのターゲット・セル内の値を置換します。

   管理者は他の分散パターンを追加できます。
7. **「分散」**をクリックします。指定した値またはパーセンテージがターゲット・セル全体に分散され、前の値を新しい値に置換します。
8. 新しい値を保存するには、**「保存」**をクリックします。

関連トピック:

特定セルをロックしたデータの分散

一括割当てを使用した値の分散

一括割当てを使用した値の分散

データ・ソース・タイプ: Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting

一括割当てを使用して、すべてのソース・セルの子孫およびすべてのディメンションでデータを分散できます。一括割当てによる分散は、グリッドに表示されないセルにデータを分散し、ターゲット・セルへのアクセス権を持つ必要はありません。

一括割当てはフォームでのみ可能で、管理者が一括割当てを使用可能にしておく必要があります。一括割当てを使用するには一括割当ての役割でプロビジョニングされる必要があります。

> **ノート:**
>
> 一括割当ては元に戻せません。

一括割当てを使用して値を分散するには:

1. 分散する小計または合計セルにカーソルを置きます。
2. Planning のリボンから、**「調整」**、**「一括割当て」**の順に選択します。
3. **「分散値」**に新しい値を入力して現在の値を置き換えるか、ドロップダウン・メニューから、次のいずれかを選択します。
   - **値**: 指定した量で値を増減します。
   - **パーセンテージ**: パーセンテージで値を増減します。
4. **「指定値ずつ増やす」**または**「指定値ずつ減らす」**を選択して値を入力します。
5. **「分散値」**に実際の分散値を入力します。

   たとえば、**「現在の値」**が 100 で、分散値を 125 にする場合、**「分散値」**に直接 125 と入力し、ステップ 4 の**「指定値ずつ増やす」**/**「指定値ずつ減らす」**オプションまたはテキスト・ボックスでは何もしません。

   または、**「指定値ずつ増やす」**に 25 と入力すると、**「分散値」**に 125 と表示されます。

   > **ノート:**
   >
   > **「分散値」**に値を入力しても、**「指定値ずつ増やす」**/**「指定値ずつ減らす」**テキスト・ボックスには影響はありません。ただし、**「指定値ずつ増やす」**/**「指定値ずつ減らす」**に値を入力すると、**「分散値」**テキスト・ボックスに分散値が反映されます。

6. 指定した値またはパーセンテージをターゲット・セル全体に分散するには、**「分散タイプ」**を選択します。
   - **比例分散**: ターゲット・セルの既存値に基づいて、値を比例分散します(デフォルト)。
   - **均等分割**: ターゲット・セル間で均等に値を分散します。
   - **入力**: すべてのターゲット・セル内の値を置換します。
   - **リレーショナル分散**: 様々なソースの場所に存在する値に基づいて、選択されたセルに分散します。このオプションを選択すると、**「選択済」**列に各ディメンションに対して現在選択されているメンバーが表示されます。
7. **「分散」**をクリックします。新しい値は自動的に保存されます。

変更を送信せずに計算を実行する(オンザフライ計算)

変更を保存したり送信する必要なく、オンザフライで迅速に計算を実行して結果を確認できます。

Related Topics

- オンザフライ計算について
  オンザフライ計算では、更新した値を送信せずに、データ値を変更し、計算された変更を即座に確認できます。
- オンザフライ計算の有効化
  アド・ホックの場合、サービス管理者は Web アプリケーションでオンザフライ計算を有効化し、ユーザーはユーザー・プリファレンスでオンザフライ計算を有効化します。フォーム 2.0 の場合、フォーム設計者は必要なフォームでオンザフライ計算を有効にします。
- オンザフライ計算の実行
  アド・ホック分析中およびフォーム 2.0 での作業中にメンバー式を使用してオンザフライ計算を実行できます。
- オンザフライ計算式の表示
  式を含むデータ・セルをクリックすると、メンバー式を表示できます。
- オンザフライ計算でサポートされている関数およびアウトライン計算
  オンザフライ計算で使用されるメンバー式では、Essbase 計算関数およびアウトライン計算がサポートされています。
- オンザフライ計算でサポートされていない関数および式
  特定の関数およびメンバー式は、オンザフライ計算ではサポートされていません。
- ガイドラインおよび考慮事項
  アド・ホック・グリッドおよびフォーム 2.0 でオンザフライ計算を実行する場合は、次のガイドラインを考慮してください。

オンザフライ計算について

オンザフライ計算では、更新した値を送信せずに、データ値を変更し、計算された変更を即座に確認できます。

データ・ソース・タイプ: Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Planning、Planning モジュール、Tax Reporting

アド・ホック分析中にメンバー式を使用して、およびビジネス・プロセスの Web アプリケーションおよび Oracle Smart View for Office でフォーム 2.0 を操作しながら、オンザフライ計算を実行できます。データ・セルの値を入力するか、既存の値を変更して、変更内容を実際に保存または送信することなく、式を含むセルが即座にリフレッシュすることを確認できます。グリッド内の値をリフレッシュするために、ビジネス・ルールを実行したり、計算関数を実行する必要はありません。

オンザフライ計算を有効にすると、即座に計算を表示して計算時間を短縮でき、フォームやグリッドに対する複数の変更を毎回リロードすることなく実行できます。すべての変更を完了し、計算結果が問題ないことを確認したら、変更された値をデータベースに送信できます。あるいは、更新された値を送信しないで閉じることができます。

メンバー式は Essbase 計算関数に基づいています。アド・ホック・グリッドでは、メンバー式を挿入すると、その式がサーバーからフェッチされて Excel ベースの式に変換され、Smart View のグリッドに挿入されます。フォーム 2.0 では、フォームの**「オンザフライ計算の使用可能」**オプションが有効になっている場合は、式が自動的に挿入されます。式を含むセルをクリックすると、アド・ホック・グリッドとフォーム 2.0 の両方で、Essbase 式とその Excel 変換済書式をツールチップとして参照できます。

ビデオ

目的	このビデオを見る
アド・ホック分析中にメンバー式を使用してオンザフライ計算を実行する方法を学習します。Web アプリケーションまたは Smart View のいずれかで、オンザフライ計算を操作できます。	Cloud EPM でのオンザフライ計算の実行

オンザフライ計算の有効化

アド・ホックの場合、サービス管理者は Web アプリケーションでオンザフライ計算を有効化し、ユーザーはユーザー・プリファレンスでオンザフライ計算を有効化します。フォーム 2.0 の場合、フォーム設計者は必要なフォームでオンザフライ計算を有効にします。

アド・ホック・グリッドでのオンザフライ計算の有効化

サービス管理者は Web アプリケーションでオンザフライ計算用のメンバー式を有効化でき、ユーザーはユーザー・プリファレンスでメンバー式を有効化できます。Web アプリケーション設定では、メンバー式はユーザー式と呼ばれます。これらの式をユーザーがオンザフライ計算の実行に使用できるようにするには、式を次のレベルで有効化する必要があります。

- **アプリケーション・レベルでの有効化:** サービス管理者として、**「設定」**の**「その他オプション」**にある**「アド・ホックのユーザー式の有効化」**リストから**「はい」**オプションを選択します。詳細は、次を参照してください:
  - *Planning の管理*の指定できるアプリケーションおよびシステムの設定
  - *フリーフォームの管理*の指定できるアプリケーションおよびシステムの設定
  - *Financial Consolidation and Close の管理*のアプリケーション設定の指定
  - *Tax Reporting の管理*のアプリケーション設定の指定
  - *Enterprise Profitability and Cost Management の管理および操作*のアプリケーション設定
- **ユーザー・プリファレンス・レベルでの有効化:** ユーザーとして、**「ユーザー・プリファレンス」**の**「表示」**にある**「アド・ホックのユーザー式の有効化」**リストから**「はい」**オプションを選択します。このユーザー・プリファレンス設定は、サービス管理者が設定したアプリケーション設定をオーバーライドする点に注意してください。詳細は、次を参照してください:
  - *Planning の使用*の表示プリファレンスの設定
  - *フリーフォームの操作*の表示プリファレンスの設定
  - *Financial Consolidation and Close の操作*の表示プリファレンスの設定
  - *Tax Reporting の操作*の表示プリファレンスの設定
  - *Enterprise Profitability and Cost Management の管理および操作*の表示プリファレンス

フォーム 2.0 でのオンザフライ計算の有効化

オンザフライ計算はフォーム 2.0 で利用可能であり、フォームのプロパティで有効にする必要があります。

- **フォーム 2.0 の有効化:** フォーム 2.0 で作業するには、**「設定」**の**「フォーム・バージョン」**リストから**「フォーム 2.0」**オプションを選択します。詳細は、次を参照してください:

  - *Planning の使用*のフォーム・バージョンについて
  - *フリーフォームの操作*のフォーム・バージョンについて
  - *Financial Consolidation and Close の操作*のフォーム・バージョンについて
  - *Tax Reporting の操作*のフォーム・バージョンについて
  - *Enterprise Profitability and Cost Management の管理および操作*のフォーム・バージョンについて
- **オンザフライ計算の有効化:** フォームの**「レイアウト」**タブの**「グリッドのプロパティ」**セクションにある**「オンザフライ計算の使用可能」**チェック・ボックスを選択します。この設定は、オンザフライ計算を実行する各フォームに対して有効にする必要があります。詳細は、次を参照してください:
  - *Planning の管理*のフォーム・グリッド・プロパティの設定
  - *フリーフォームの管理*のフォーム・グリッド・プロパティの設定
  - *Financial Consolidation and Close の管理*のフォーム・グリッド・プロパティの設定
  - *Tax Reporting の管理*のフォーム・グリッド・プロパティの設定

オンザフライ計算の実行

アド・ホック分析中およびフォーム 2.0 での作業中にメンバー式を使用してオンザフライ計算を実行できます。

Related Topics

- アド・ホック・グリッドでのオンザフライ計算の実行
  アド・ホック分析の実行中に、メンバー式を挿入して迅速に計算された値を得ることができます。
- フォーム 2.0 でのオンザフライ計算の実行
  フォーム 2.0 での作業中に、データ値を変更して、メンバー式を含むフォームで計算をすばやく表示できます。

アド・ホック・グリッドでのオンザフライ計算の実行

アド・ホック分析の実行中に、メンバー式を挿入して迅速に計算された値を得ることができます。

このトピックでは、Oracle Smart View for Office でオンザフライ計算を実行する手順について説明します。ビジネス・プロセスの Web アプリケーションでのオンザフライ計算の実行については、次のトピックを参照してください:

- *Planning の操作*の変更を送信せずに計算を実行する
- *フリーフォームの操作*の変更を送信せずに計算を実行する
- *Financial Consolidation and Close の操作*の変更を送信せずに計算を実行する
- *Tax Reporting の操作*の変更を送信せずに計算を実行する
- *Enterprise Profitability and Cost Management の管理および操作*の変更を送信せずに計算を実行する

> **Note:**
>
> オンザフライ計算を開始する前に、アプリケーション設定およびユーザー・プリファレンスでアド・ホック・グリッドでのオンザフライ計算が有効になっていることを確認してください。詳細は、オンザフライ計算の有効化の**アド・ホック・グリッドでのオンザフライ計算の有効化**の項を参照してください。

オンザフライ計算を実行するには:

1. データ・プロバイダに接続し、アド・ホック分析を実行します。
2. プロバイダのアド・ホック・リボンで、**「メンバー式の挿入」**をクリックします。

   グリッドがリフレッシュされ、メンバー式を含むセルに緑の三角形のインジケータが表示されます。
3. 式を含むセルをクリックすると、式と、式に関与するメンバーおよび算術演算子がツールチップに表示されます。

   詳細は、オンザフライ計算式の表示を参照してください。
4. 式に関与するデータ・セルに値を入力するか、既存の値を変更します。

   > **Note:**
   >
   > 式を含むセルで値を手動で入力または変更することは、Smart View でサポートされていません。そのようにした場合、入力した値で式が上書きされ、式が失われます。これは、式の分散が Smart View で機能しない理由でもあります。式を含むセルに入力すると式が削除されるため、式に関与するセルの値は更新されません。
5. 変更されたセルの外へタブで移動すると、保存または送信しなくても、式を含むセルの値が即座にリフレッシュされます。計算はメンバーの親ディメンション(ある場合)にもロールアップされ、それらの値も更新されます。

   変更されたセルはダーティになり、そのことが色の変化で示されます。**「リフレッシュ」**をクリックすると、ダーティ・セルを元のデータベースの値に戻すことができます。
6. オンザフライ計算を引き続き実行し、計算された値がセルで瞬時にリフレッシュされることを確認します。
7. 計算に問題がなければ、プロバイダのアド・ホック・リボンの**「データの送信」**をクリックしてデータを送信します。

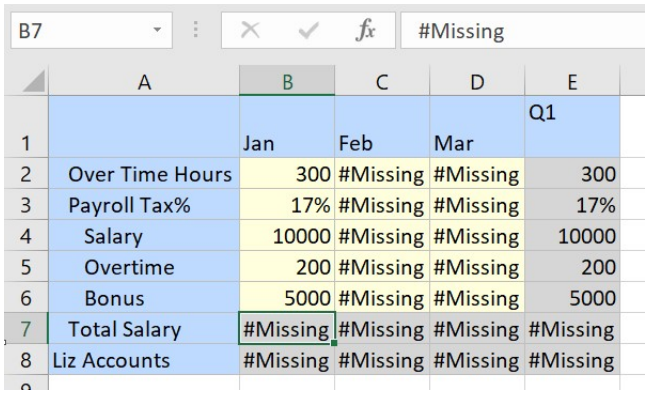
   あるいは、送信せずにグリッドを閉じると変更内容を破棄できます。

オンザフライ計算の実行 - 例

ここでは、アド・ホック・グリッドでメンバー式を使用したオンザフライ計算の実行方法を理解するための例を示します。

この例では、Q1 の 3 か月の給与計算を示す Planning フォームを使用して、アド・ホック分析を実行します。Jan 列にはデータ値が入っており、Q1 の給与合計の計算を確認するために、Feb および Mar も同じように入力する必要があります。

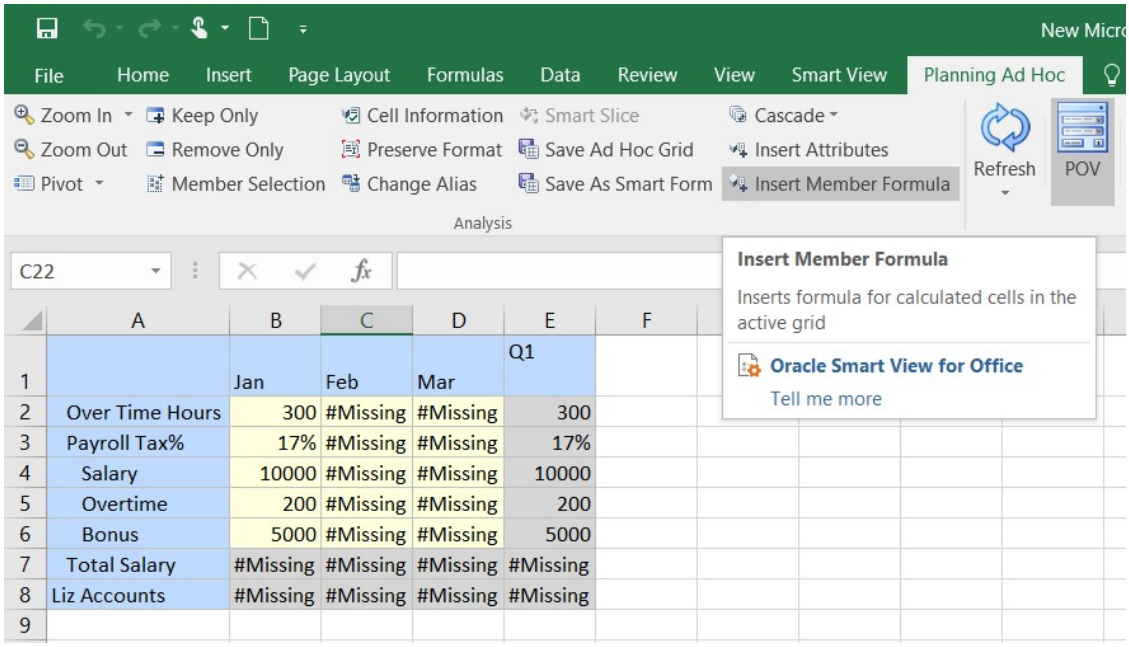
Figure 23-1　メンバー式を挿入する前のアド・ホック・グリッド



	A	B	C	D	E
1		Jan	Feb	Mar	Q1
2	Over Time Hours	300	#Missing	#Missing	300
3	Payroll Tax%	17%	#Missing	#Missing	17%
4	Salary	10000	#Missing	#Missing	10000
5	Overtime	200	#Missing	#Missing	200
6	Bonus	5000	#Missing	#Missing	5000
7	Total Salary	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
8	Liz Accounts	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing

オンザフライ計算を実行するために、Planning アド・ホックのリボンの**「メンバー式の挿入」**をクリックします。

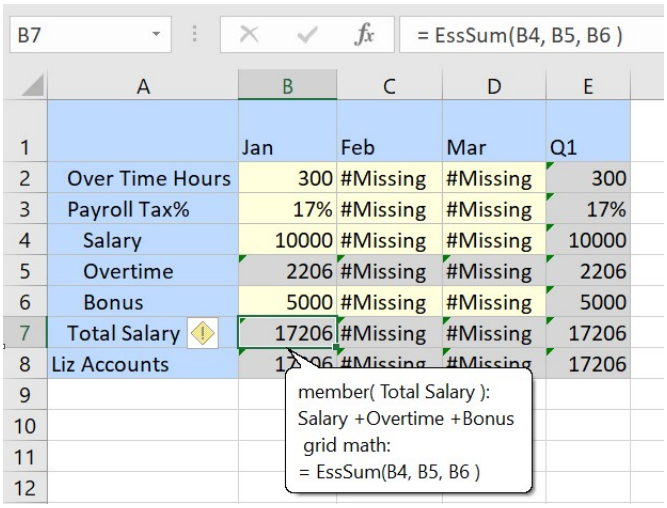
Figure 23-2　Planning アド・ホックのリボンの「メンバー式の挿入」オプション



	A	B	C	D	E	F
1		Jan	Feb	Mar	Q1	
2	Over Time Hours	300	#Missing	#Missing	300	
3	Payroll Tax%	17%	#Missing	#Missing	17%	
4	Salary	10000	#Missing	#Missing	10000	
5	Overtime	200	#Missing	#Missing	200	
6	Bonus	5000	#Missing	#Missing	5000	
7	Total Salary	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	
8	Liz Accounts	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	
9						

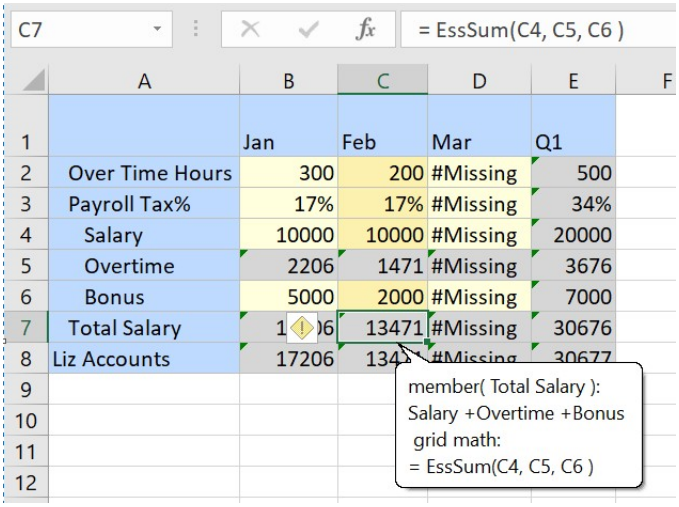
グリッドがリフレッシュされ、計算された値が **Jan** の **Total Salary** セルに表示されます。また、メンバー式を含むセルに、緑の三角形のインジケータも表示されます。式を含むセルをクリックすると、ツールチップおよび式バーに式が表示されます。

Figure 23-3　メンバー式を挿入した後に更新されたアド・ホック・グリッド



ここで、**Feb** 列の **Over Time Hours**、**Payroll Tax%**、**Salary** および **Bonus** の各列に値を入力します。これらのセルの外へタブで移動すると、Feb の **Total Salary** セルに、計算された値が即座に表示されます。また、計算は親ディメンションにもロールアップされ、更新された合計が **Q1** 列に表示されます。

Figure 23-4　メンバー式を挿入した後の値の変更



引き続きグリッドに値を追加および変更し、データを保存または送信するまで待ったり、ビジネス・ルールで計算をフェッチする必要なく、オンザフライ計算を実行できます。

フォーム 2.0 でのオンザフライ計算の実行

フォーム 2.0 での作業中に、データ値を変更して、メンバー式を含むフォームで計算をすばやく表示できます。

このトピックでは、Oracle Smart View for Office でオンザフライ計算を実行する手順について説明します。ビジネス・プロセスの Web アプリケーションでのオンザフライ計算の実行については、次のトピックを参照してください:

- *Planning の操作の*変更を送信せずに計算を実行する
- *フリーフォームの操作の*変更を送信せずに計算を実行する
- *Financial Consolidation and Close の操作の*変更を送信せずに計算を実行する
- *Tax Reporting の操作の*変更を送信せずに計算を実行する
- *Enterprise Profitability and Cost Management の管理および操作の*変更を送信せずに計算を実行する

> **Note:**
>
> オンザフライ計算を開始する前に、作業するフォームに対してオンザフライ計算が有効になっていることを確認してください。詳細は、オンザフライ計算の有効化の**フォーム 2.0 でのオンザフライ計算の有効化**の項を参照してください。

オンザフライ計算を実行するには:

1. データ・プロバイダに接続し、メンバー式を含む必要なフォームを開きます。
2. 式を含むセルをクリックすると、式と、式に関与するメンバーおよび算術演算子がツールチップに表示されます。

   詳細は、オンザフライ計算式の表示を参照してください。
3. データ・セルに値を入力するか、既存の値を変更します。

   > **Note:**
   >
   > 式を含むセルで値を手動で入力または変更することは、Smart View でサポートされていません。そのようにした場合、入力した値で式が上書きされ、式が失われます。これは、式の分散が Smart View で機能しない理由でもあります。式を含むセルに入力すると式が削除されるため、式に関与するセルの値は更新されません。
4. 変更されたセルの外へタブで移動すると、保存または送信しなくても、式を含むセルの値が即座にリフレッシュされます。計算はメンバーの親ディメンション(ある場合)にもロールアップされ、それらの値も更新されます。

   変更されたセルはダーティになり、そのことが色の変化で示されます。**「リフレッシュ」**をクリックすると、ダーティ・セルを元のデータベースの値に戻すことができます。
5. オンザフライ計算を引き続き実行し、計算された値がセルで瞬時にリフレッシュされることを確認します。

6. 計算に問題がなければ、プロバイダのリボンの**「データの送信」**をクリックしてデータを送信します。

   あるいは、送信せずにフォームを閉じると変更内容を破棄できます。

オンザフライ計算式の表示

式を含むデータ・セルをクリックすると、メンバー式を表示できます。

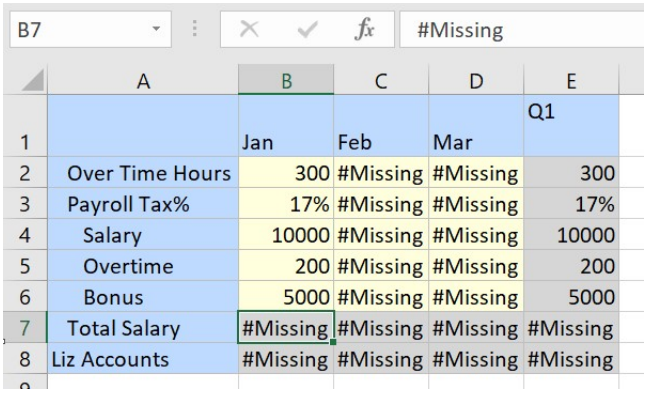
カーソルを置くと、ツールチップに式が表示されます。データ・セルをクリックすることで、シートの上部にある Excel の式バーにも表示されます。

アド・ホック・グリッドでの式の表示

アド・ホック・グリッドでは、最初にメンバー式を挿入してから、その式をグリッドに表示する必要があります。

メンバー式を挿入する前は、Excel の式バーやツールチップの式はグリッド・セルによって表示されません。

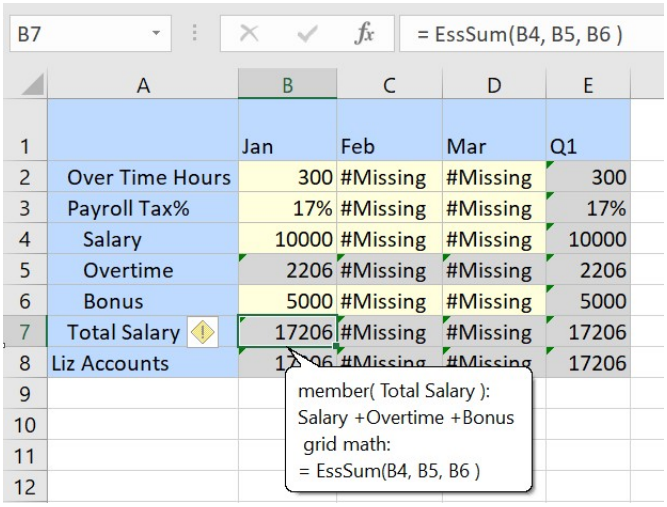
Figure 23-5　メンバー式を挿入する前のアド・ホック・グリッド



	A	B	C	D	E
1		Jan	Feb	Mar	Q1
2	Over Time Hours	300	#Missing	#Missing	300
3	Payroll Tax%	17%	#Missing	#Missing	17%
4	Salary	10000	#Missing	#Missing	10000
5	Overtime	200	#Missing	#Missing	200
6	Bonus	5000	#Missing	#Missing	5000
7	Total Salary	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
8	Liz Accounts	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing

挿入したメンバー式は、メンバー名と算術演算子とともに、式を含むセルのツールチップに表示されます。

Figure 23-6　メンバー式を挿入した後に更新されたアド・ホック・グリッド

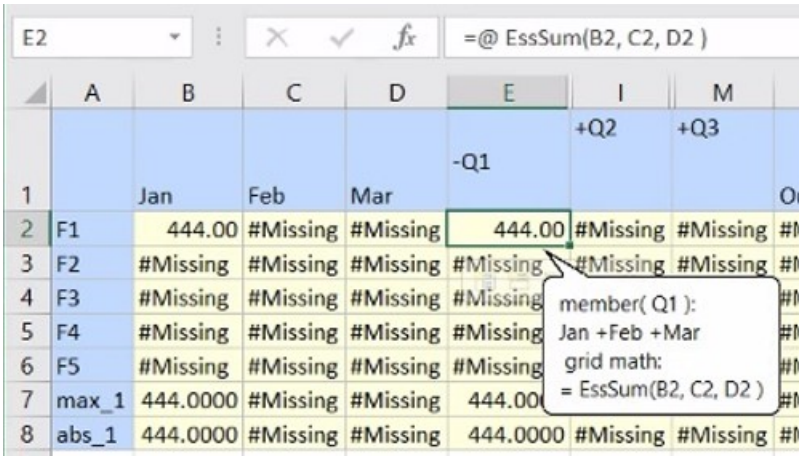


	A	B	C	D	E
1		Jan	Feb	Mar	Q1
2	Over Time Hours	300	#Missing	#Missing	300
3	Payroll Tax%	17%	#Missing	#Missing	17%
4	Salary	10000	#Missing	#Missing	10000
5	Overtime	2206	#Missing	#Missing	2206
6	Bonus	5000	#Missing	#Missing	5000
7	Total Salary	17206	#Missing	#Missing	17206
8	Liz Accounts	17206	#Missing	#Missing	17206
9					
10					
11					
12					

フォーム 2.0 での式の表示

フォーム 2.0 では、フォームを開いて式のセルにカーソルを合せると、式を直接表示できます。

Figure 23-7　フォーム 2.0 での式のツールチップ



式の詳細

ツールチップには、式が 2 つのフォーマットで表示されます:

- **メンバー式のフォーマット:** 式に関与するメンバー名と算術演算子が表示されます。たとえば、

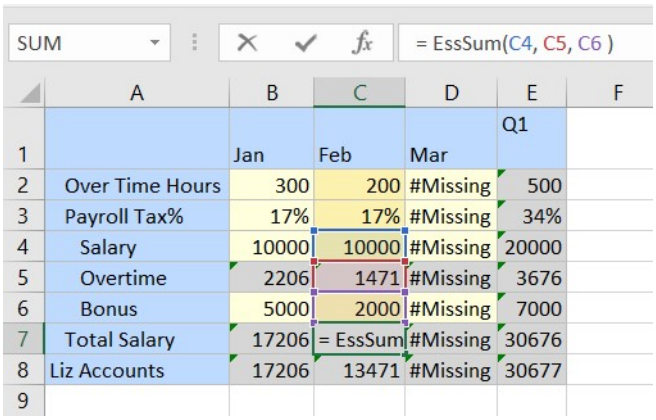
  ```
  member (Total Salary): Salary + Overtime + Bonus
  ```

- **Excel 式のフォーマット:** 式に関与する関数名と Excel のセル名が表示されます。たとえば、

  ```
  =EssSum(C4, C5, C6)
  ```

アド・ホック・グリッドでは、メンバー式を含むすべてのセルが緑色の三角形インジケータで強調表示されますが、フォーム 2.0 にはそのようなインジケータはありません。Excel の式バーで式をクリックすると、識別しやすいように、式に関与するセルがグリッドで強調表示されます。

Figure 23-8　式に関与するセルの表示



オンザフライ計算でサポートされている関数およびアウトライン計算

オンザフライ計算で使用されるメンバー式では、Essbase 計算関数およびアウトライン計算がサポートされています。

サポートされているアウトライン計算

オンザフライ計算では次のものがサポートされています:

- *Essbase テクニカル・リファレンス*に定義されているすべてのアウトライン・メンバー集計演算子: 加算(+)、減算(-)、乗算(*)、除算(/)およびパーセンテージ(%)。
- 集計の単項演算子(+、-、*、/、%、~): 加算、減算、乗算、除算、パーセンタイルおよび無視。
- Subvar
- タイム・バランスの計算: 最初、最後、平均、SKIP NONE および SKIP MISSING。入力はサポートされていません。

サポートされている関数

Web アプリケーションおよび Oracle Smart View for Office でのオンザフライ計算のメンバー式では、次の Essbase 計算関数がサポートされています。

> **Note:**
>
> - オンザフライ計算でサポートされていない関数は、オンザフライ計算でサポートされていない関数および式にリストされています。
> - Essbase の計算関数の詳細は、計算関数リストを参照してください。

次に示すサポートされている関数は、その関数カテゴリに従ってグループ化されています:

IS 関数:

- @ISACCTYPE
- @ISANCEST
- @ISATTRIBUTE
- @ISCHILD
- @ISDESC
- @ISGEN
- @ISIANCEST
- @ISICHILD
- @ISIDESC
- @ISIPARENT
- @ISISIBLING

- @ISLEV
- @ISMBR
- @ISMBRUDA
- @ISMBRWITHATTR
- @ISPARENT
- @ISSAMEGEN
- @ISSAMELEV
- @ISSIBLING
- @ISUDA

数値関数:

- @ABS
- @AVG
- @CONCATENATE
- @COUNT
- @EXP
- @FACTORIAL
- @INT
- @LN
- @LOG
- @LOG10
- @MAX
- @MAXS
- @MEDIAN
- @MIN
- @MINS
- @MOD
- @MODE
- @POWER
- @RANK
- @REMAINDER
- @ROUND
- @SUBSTRING
- @SUM
- @TRUNCATE
- @VAR
- @VARPER

メンバー選択関数:

- @ALLANCESTORS
- @ANCEST
- @ANCESTORS
- @ATTRIBUTE
- @BETWEEN
- @CHILDREN
- @CURRMBR
- @CURRMBRRANGE
- @DESCENDANTS
- @EQUAL
- @EXPAND
- @GENMBRS
- @IALLANCESTORS
- @IANCESTORS
- @ICHILDREN
- @IDESCENDANTS
- @ILANCESTORS
- @ILDESCENDANTS
- @ILSIBLINGS
- @INTERSECT
- @IRDESCENDANTS
- @IRSIBLINGS
- @ISIBLINGS
- @LANCESTORS
- @LDESCENDANTS
- @LEVMBRS
- @LIKE
- @LIST
- @LSIBLINGS
- @MATCH
- @MBRCOMPARE
- @MBRPARENT
- @MEMBER
- @MERGE
- @NAME
- @NEXTSIBLING
- @NOTEQUAL
- @PARENT

- @PREVSIBLING
- @RDESCENDANTS
- @RELATIVE
- @REMOVE
- @RSIBLINGS
- @SHIFTSIBLING
- @SIBLINGS
- @UDA
- @WITHATTR

値関数:

- @ANCESTVAL
- @ATTRIBUTEBVAL
- @ATTRIBUTESVAL
- @ATTRIBUTEVAL
- @CURGEN
- @CURLEV
- @GEN
- @LEV
- @PARENTVAL

範囲関数:

- @XRANGE
- @RANGE
- @ACCUM
- @MAXRANGE
- @MINRANGE
- @NEXT
- @PRIOR
- @SHIFT
- @SUMRANGE
- @MOVSUMX
- @MOVSUM
- @MOVAVG
- @MOVMIN
- @MOVMAX
- @MOVMED
- @AVGRANGE
- @MAXSRANGE

- @MINSRANGE
- @NEXTS
- @PRIORS
- @RANGEFIRSTVAL
- @RANGELASTVAL

オンザフライ計算でサポートされていない関数および式

特定の関数およびメンバー式は、オンザフライ計算ではサポートされていません。

オンザフライ計算では次のものはサポートされていません:

- それ自体または他のメンバーに対する割当てのあるメンバーは、メンバー式では許可されません。単一値の式のみが許可されます。複数の文の式は許可されません。例:
  許可:

```
if(sales > 100) 10;
 units * 1.01;
else
units + 10;
endif;
```

  不許可:

```
sales = 100 + units *rates;
```

```
If (units > 10)
 10;
endif;
units + 10;
```

- 再帰的な式および循環参照(式がそれ自体のセルを直接的または間接的に参照する)は許可されません。
- オンザフライ計算では、次のリストの Essbase 計算関数はサポートされていません:
  - @TODATE
  - @ISRANGENONEMPTY
  - @MDANCESTVAL
  - @MDPARENTVAL
  - @RETURN
  - @SANCESTVAL
  - @SHARE"
  - @SPARENTVAL
  - @XREF
  - @XWRITE
- MDX 式はサポートされています。

- スマート・リスト式を使用するメンバー式はサポートされていません。

ガイドラインおよび考慮事項

アド・ホック・グリッドおよびフォーム 2.0 でオンザフライ計算を実行する場合は、次のガイドラインを考慮してください。

- メンバー式を挿入するときは、式を含むセルは読取り専用として表示され、そのセルのスタイルの色もそれに応じて変化します。さらに、**「リフレッシュ」**をクリックすると、その同じセルがダーティになり、割り当てられたセルのスタイルの色が表示されます。セルのスタイルの色を変化させずにクリーン・リフレッシュするには、Smart View のリボンの**「オプション」**をクリックし、**「メンバー・オプション」**タブで、**アド・ホック操作の式とコメントを保持**チェック・ボックスの選択を解除します。
- ベスト・プラクティスとして、メンバー式の挿入は、アド・ホック・グリッドのレイアウトを設定またはファイナライズするときに 1 回のみ行うことをお薦めします。ズーム・イン、ズーム・アウト、選択項目のみ保持、選択項目のみ除去など、他のアド・ホック操作を実行すると、式のコンテキストが無効になり、グリッドから除去されます。アド・ホック操作を実行した後に式が失われた場合は、必要な場所に手動で再度式を入力できます。
- 式を挿入した後、リフレッシュするか、**「別名の変更」**をクリックして別名を**「デフォルト」**から**「なし」**、またはその逆に変更することによって別名表に変更を加えると、式を含むセルをクリックしても式がツールチップに表示されなくなります。
- セル・レベル・セキュリティとメンバー式の使用を組み合せる場合は、慎重に検討する必要があります。セル・レベル・セキュリティを有効にすると、挿入されたメンバー式の結果が、Web アプリケーションと Oracle Smart View for Office で異なるものになる場合があります。計算を実行するには、すべてのセルに対するアクセス権が必要です。セル・レベル・セキュリティが有効になっている場合、読取り不可ルールによって制限されているセルには、一貫しない結果が表示される可能性があります。制限されたセルには`#No Access`ラベルが表示されます。いずれかの式に、そのようなアクセス制限のあるセルへの参照が含まれている場合は、結果に`#Missing`またはエラーが表示されます。
- メンバー式を挿入する操作は、Smart View のリボンの**「元に戻す」**オプションを使用して元に戻すことはできません。式を挿入した後で**「元に戻す」**をクリックした場合は、メンバー式を含むセルに`#No Access`ラベルが表示され、それらのセルをクリックしても、その式はツールチップに表示されなくなります。かわりに、Smart View のリボンの**「リフレッシュ」**オプションを使用することで、グリッドをリフレッシュし、挿入されたメンバー式を除去できます。また、**アド・ホック操作の式とコメントを保持**チェック・ボックスの選択を解除すると、クリーン・リフレッシュされます。このチェック・ボックスは、**「オプション」**の**「メンバー・オプション」**タブにあります。
- アド・ホック・グリッドからメンバー式を除去した場合は、Smart View のリボンの**「やり直し」**オプションを使用して、それらを再挿入して戻すことはできません。これは、**「元に戻す」**または**「やり直し」**の操作中にメンバー式が保持されないためです。メンバー式を挿入するには、再度アド・ホック・グリッドを開いて**「メンバー式の挿入」**をクリックします。
- 「タイム・バランス」プロパティが「フロー」に設定され、かつ「スキップ」オプションが「ゼロ」または「欠落およびゼロ」に設定されている場合、結果は期待どおりになりません。1 月、2 月、3 月の列のあるグリッドで、1 行目が 0、0、0、2 行目が 0、`#Missing`、`#Missing` のそれぞれの値になっているとします。4 列目の Q1 にメンバー式が挿入され、その 1 行目は「スキップ」が「ゼロ」、2 行目は「スキップ」が「欠落およびゼロ」になっています。期待される結果は両方の行で`#Missing` ですが、実際の結果ではゼロが表示されます。
- 一意でない、または重複する別名がグリッドに存在し、式で参照される場合は、Smart Forms でアド・ホックを実行しているときに、別名が重複しているというエラーが発生す

ることがあります。このことは、重複する別名を持つアド・ホック・グリッドにメンバー式を挿入し、それを Smart Form として保存し、Smart Form をアド・ホック・モードで再度開いた場合に発生します。**「リフレッシュ」**をクリックすると、Smart View に次のようなエラー・メッセージが表示されます。「親アカウントの別名と競合している重複した別名またはメンバー名が見つかりました。あいまいさを解決するために 1 つ以上の別名またはメンバー名を変更する必要があります。」

- `#Missing` やゼロの値が含まれているデータに対する@MAX 関数の結果は、Web アプリケーションと Smart View で一貫しません。これは、Oracle Essbase と Excel で値の処理方法が異なるためです。Essbase では、ゼロと`#Missing` の比較は常に同じとは限らないため、@MAXS 関数を使用することをお薦めします。詳細は、*Oracle Essbase 計算および問合せリファレンス*の@MAX 関数のノートを参照してください。@MAX は@MAXS (SKIPNONE)と同様に動作するため、データに`#Missing` と負数のみが存在する場合、`#Missing` の値は負数よりも大きいとみなされます。空白でない値と比較するとき、`#Missing` はゼロとみなされます。Smart View では、データベースで欠落したデータ値(ゼロのデータ値とは異なります)を示すために`#Missing` ラベルが使用されます。Excel では、空白でないラベルは文字列として扱われ、文字列は空のセルやゼロとは別に扱われます。Excel と Essbase の間のこの違いにより、`#Missing` とゼロのデータ値の比較は不確定になります。
- グリッドを昇順または降順にソートすると、グリッドの構造が変更されます。これにより、グリッドに存在するメンバー式および関数が無効になります。現在は、式または関数で参照されるセルの値を入力または変更した場合、式または関数を含むセルの計算はすぐにはリフレッシュされません。計算値または変更値を表示するには、グリッドを保存する必要があります。
- 式で参照されるセルにテキスト文字列または日付が含まれている場合、オンザフライ計算から取得された結果は、Essbase で計算されたものとは異なる場合があります。この違いは、Planning で計算に Essbase が使用する数値以外のデータ(テキスト、日付、スマート・リストなど)のセル位置に数値索引が格納されているのに対して、オンザフライ計算では、計算にテキスト、日付またはスマート・リストの実際の表示値が使用され、数値以外のデータが欠落として扱われるためです。
- セルに存在するテキスト、日付、スマート・リスト・オプションなどの数値以外の値は、Excel での計算のために欠落として扱われます。したがって、このようなセルが関数および式で参照される場合、結果は#missing として返されます。これは、Essbase がそのようなセルを解釈して結果を正しく計算できる一方で、オンザフライ計算では同じ機能を使用できないためです。
- セルにメンバー式またはアウトライン計算による式がある場合、Web アプリケーションでオンザフライ計算を実行しながら、入力された値を書込み可能なソース・セルに分散できるため、レベル 0 以外のセルは書込み可能になります。式の分散は、Smart View ではサポートされないことに注意してください。
- オンザフライ計算用のセルにメンバー式を表示するには、式に関与するメンバーがグリッド内に存在する必要があります。それ以外の場合、式はツールチップに表示されません。
- 式の評価の結果が常に定数値になる場合(たとえば、ゼロまたは#missing で乗算する場合)、式は生成されません。
- フォーム 2.0 では、オンザフライ計算は BSO キューブおよびハイブリッド BSO キューブでのみサポートされます。Smart View では、アプリケーション設定**「フォーム・バージョン」**をフォーム 2.0 に設定する必要があります。
- 設計上、オンザフライ計算を使用するフォームでは、妥当で関連性の高いメンバーのみがグリッド上で使用され、後続の計算からすばやく応答できるようにします。
- フォーム 2.0 の場合、フォーム作成時にオンザフライ計算とスプレッドの両方が有効になっており、そのようなフォームが Smart View で開かれると、2 つの操作が競合するため、

フォームはデータの入力や送信を許可しません。この競合を防ぎ、式の計算とデータの送信を可能にするために、オンザフライ計算とスプレッドの両方が有効になっているフォームが Smart View で開かれると、スプレッドはデフォルトで自動的に無効になります。Web アプリケーションではこの競合は発生せず、オンザフライ計算とスプレッドの両方が有効になっているフォームは正常に動作します。

アド・ホック・グリッドでの祖先メンバーへのアクセス

アド・ホック・グリッドおよび**メンバー選択**では、サービス管理者によってアプリケーション設定**「デフォルト祖先アクセス権」**が構成されている場合は、Smart View ユーザーが、他の方法ではアクセスできない祖先メンバー(共有メンバーを含む)にアクセスできます。

データ・ソース・タイプ: Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Planning、Planning モジュール、Tax Reporting

24.03 以降、サービス管理者は**「デフォルト祖先アクセス権」**オプションを使用してアクセス権限の割当を自動化します。構成に応じて、Web および Oracle Smart View for Office の Cloud EPM ユーザーは、祖先にズーム・アウトして階層をツリー・ビューで表示できます。以前は、親レベルのメンバーにはアクセスできませんでした。

さらに、**「デフォルト祖先アクセス権」**機能を有効にすると、メンバーに対するアクセス権のレベルが異なるユーザー間での Excel ワークブックの共有が容易になります。アクセス権が構成されている場合、ユーザーが Smart View で**「リフレッシュ」**をクリックすると、アクセス権のあるセルに実際のデータ値(または#NoAccess)が返され、階層構造が維持されます。

「デフォルト祖先アクセス権」の使用可能なオプションは次のとおりです:

- **なし**
- **読取り**
- **書込み**
- **表示**

「デフォルト祖先アクセス権」を前述のオプションに設定した結果については、以降の項で詳細に説明します。アド・ホック・グリッドの例は Web のアド・ホックになっていますが、例示されている基本的な事項は Smart View にも当てはまります

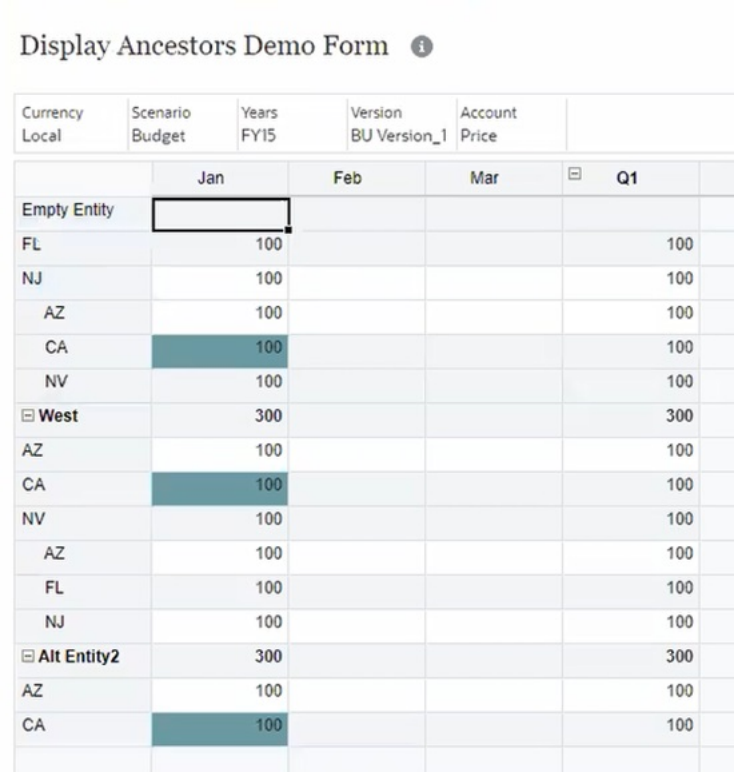
サービス管理者: アプリケーションの「デフォルト祖先アクセス権」オプションの設定を参照してください。

なし

これがデフォルト値です。ユーザーに祖先に対する読取りまたは書込みアクセス権がない場合、すべての共有メンバーは、たとえば、アド・ホック・グリッドまたは**「メンバー・セレクタ」**に、階層ではなく兄弟として表示されます。以前の動作(24.02 以前)から変更はありません。

ここでは、ほとんどに共有メンバーが使用されているエンティティ ・ディメンションの州と、セキュリティが定義されているユーザーの例を示します。

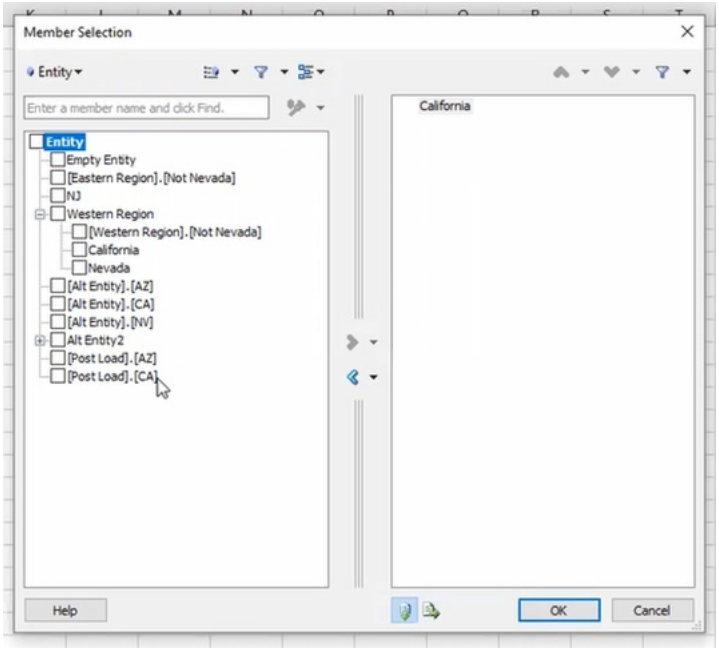
Figure 23-9　共有メンバーを含む階層構造が表示されている Web アド・ホック・グリッド



ユーザーは、ニュージャージー州にはアクセスできますが、ニュージャージー州とフロリダ州の親にはアクセスできないため、ニュージャージー州のメンバーは親メンバーの下位ではなくツリーの一番上位にリストされます。アリゾナ州、カリフォルニア州およびネバダ州も同様の状況で表示されます。親メンバーにアクセスすると、ツリー構造全体が表示されなくなり、データ入力が難しくなる可能性があります。

Smart View の**「メンバー選択」**ダイアログにも同じ構造が表示されます:

Figure 23-10　共有メンバーを含む階層構造が表示されている Smart View のメンバー・セレクタ・ダイアログ

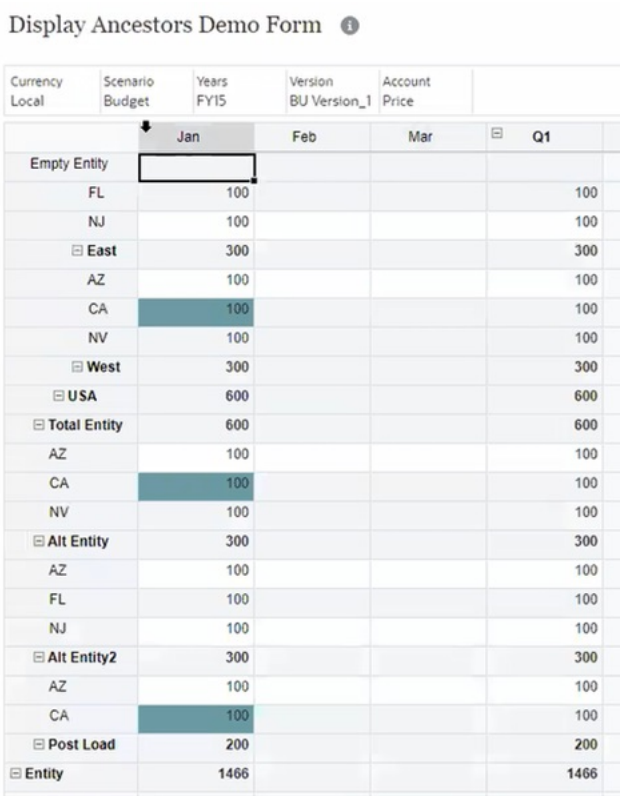


読取り

「デフォルト祖先アクセス権」オプションを**「読取り」**に設定することで、ユーザーは、メンバーや共有メンバーなど、アクセス権のある階層を表示したり、他の方法ではアクセスできない祖先のセルも含めて、グリッドにデータを表示できます。つまり、ユーザーにメンバーへのアクセス権がある場合は、アクセス権のないすべての祖先に対して、かわりに**「読取り」**アクセス権を持つことになります。ユーザーは、アクセス権のないセルのデータを表示できますが、それらのセルにデータを入力することはできません。

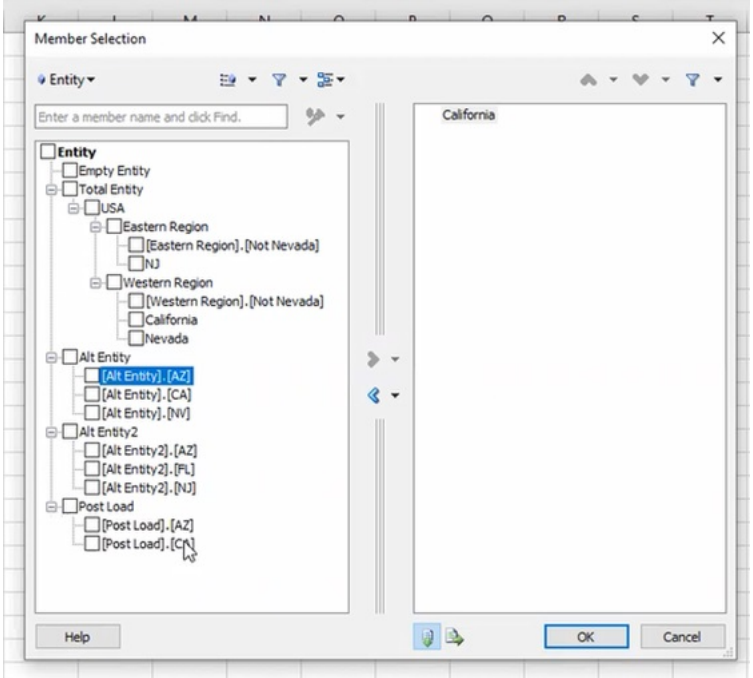
次の例では、アクセス権が**「読取り」**に設定されているため、ユーザーには、ツリー全体およびすべての階層(Entity、Alt Entity、Alt Entity2 など)が表示されます。以前は、アクセス権が**「なし」**に設定されていると、Alt Entity2 のみが表示可能でした。

Figure 23-11　ユーザーがアクセス権を持つ完全な階層構造が表示されている Web アド・ホック・グリッド



Smart View の**「メンバー選択」**ダイアログにも変更が反映されています。例:

Figure 23-12　ユーザーに読取りアクセス権がある完全な階層構造が表示されている Smart View のメンバー・セレクタ



書込み

「デフォルト祖先アクセス権」オプションが**「書込み」**に設定されていると、ユーザーは、メンバー、共有メンバー、データなど、アクセス権のある階層を表示できます。さらに、アクセス権のある祖先のセルにデータを保存できます。つまり、ユーザーにメンバーへのアクセス権がある場合は、アクセス権のないすべての祖先に対して、かわりに**「書込み」**アクセス権を持つことになります。

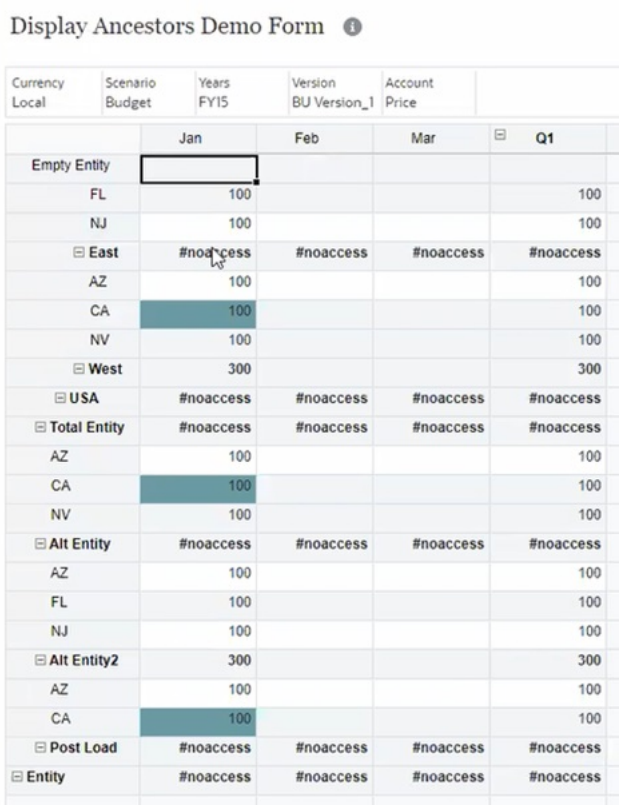
「書込み」アクセス権が付与されていると、ユーザーには、図 3 および図 4 のように、Web と Smart View の両方および**「メンバー選択」**ダイアログに、同じ階層構造が表示されます。さらに、通常はアクセス権のないセルにデータを保存できます。

表示

「デフォルト祖先アクセス権」に**「表示」**が選択されている場合、ユーザーは、メンバーや共有メンバーなど、アクセス権のある階層を表示できます。ユーザーは、アクセス権のあるセルのデータを表示できます。アクセス権のない祖先のセルでは、セルに「#NoAccess」が表示されますが、祖先メンバー名は引き続き表示されます(たとえば、ユーザーに**「なし」**アクセス権が付与された場合のようにグリッドから除外されることはありません)。

「表示」アクセス権が設定されていると、ユーザーには、階層ツリー構造が引き続き表示されますが、アクセス権のないセルには「#NoAccess」が表示されます。例:

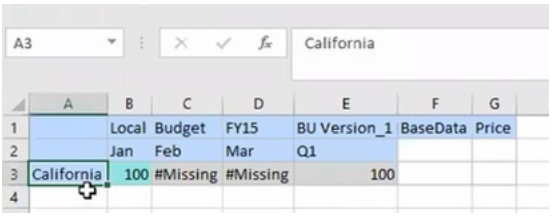
Figure 23-13　完全な階層構造とセルに「#NoAccess」が表示されている、「デフォルト祖先アクセス権」が「表示」に設定されているアド・ホック・グリッド



同じ階層(**「読取り」**または**「書込み」**が選択された場合と同様)が引き続き表示されていることに注意してください。ユーザーのアクセス権に応じた階層(East、West、USA、Total Entity、Alt Entity、Alt Entity 2、Post Load および Entity)が表示されます。これは階層全体ではなく、ユーザーがアクセス権を持っている 1 つ以上のメンバーのすべての祖先であることに注意してください。East などの親メンバーは「#NoAccess」として取得されました。一方、ユーザーにアクセス権があった West は引き続き読取り可能です。同様のことが Alt Entity2 にも当てはまります。以前(**「デフォルト祖先アクセス権」**が**「なし」**に設定されていたとき)も表示されていましたが、現在は 300 の値とともに表示されています。以前はアクセス権がなかった Alt Entity1 が表示されるため、階層が形成されますが、ユーザーにはデータは表示されません(セルには「#NoAccess」が入ります)。

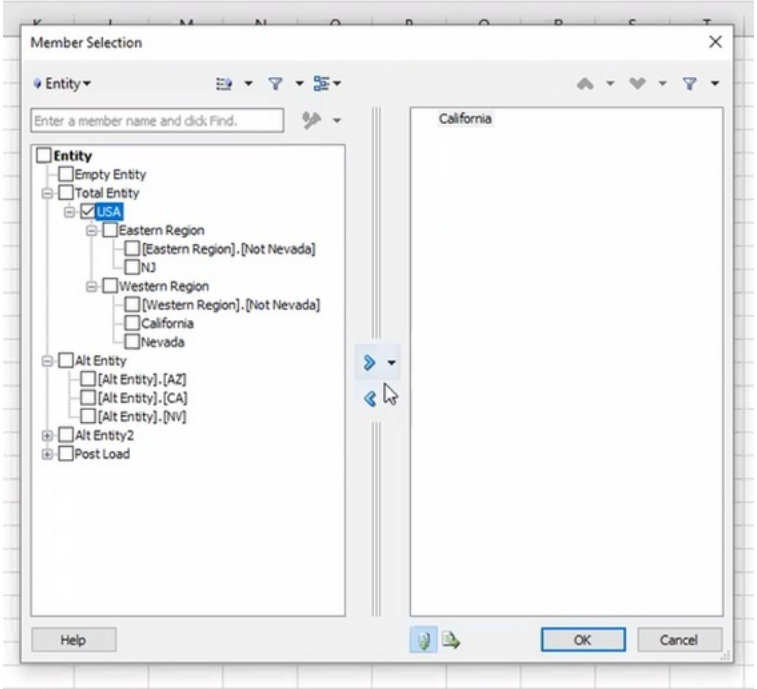
また、Smart View にも同じ表示が適用されます。最初のアド・ホック・グリッドから開始します:

Figure 23-14　カリフォルニア州が唯一の行メンバーである最初の Smart View アド・ホック・グリッド



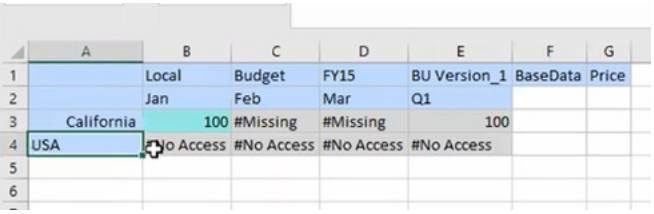
「メンバー選択」ダイアログで、ユーザーにアクセス権のある完全なツリー(Total Entity、USA、West、East が含まれている)に注意してください:

Figure 23-15　ユーザーにアクセス権がある完全な階層構造が表示されている Smart View のメンバー・セレクタ



ユーザーには USA メンバーに対するアクセス権がなかったと考えてください。**「メンバー選択」**ダイアログに、簡単に移動できるツリー・ビューが追加されています。ユーザーがシートで USA を選択すると、セルには、エラーではなく「#NoAccess」が表示されます。例:

Figure 23-16　USA メンバーのセルに「#NoAccess」が表示されている Smart View アド・ホック・グリッド



	A	B	C	D	E	F	G
1		Local	Budget	FY15	BU Version_1	BaseData	Price
2		Jan	Feb	Mar	Q1		
3	California	100	#Missing	#Missing	100		
4	USA	#No Access	#No Access	#No Access	#No Access		
5							
6							

アプリケーションの「デフォルト祖先アクセス権」オプションの設定

サービス管理者: **「デフォルト祖先アクセス権」**オプションを使用して、アクセス権が**「なし」**以外に設定されているメンバー(共有メンバーも含む)の祖先メンバーに対するデフォルトのユーザー・アクセス権を指定します。**「デフォルト祖先アクセス権」**は、サポートされているビジネス・プロセスの**「アプリケーション設定」**の**「システム設定」**にリストされています。

「デフォルト祖先アクセス権」設定に指定されたアクセス・オプションによって、既存のメンバー・セキュリティが拡張され、祖先メンバーへのデフォルト・アクセス権の選択肢が提供されます。

これにより、ユーザーは、アド・ホック・グリッドやメンバー・セレクタなどで、ユーザーにアクセス権があるメンバーが属しているサブ階層のコンテキストでそれらの祖先メンバーを表示できるようになります。

> **Note:**
>
> 1 つ以上の子孫メンバーに対するアクセス権がない場合、ユーザーにはサブ階層は表示されません。

「デフォルト祖先アクセス権」の使用可能なオプションは次のとおりです:

- **なし**—デフォルトでは、ユーザーに祖先メンバーに対するアクセス権が明示的に付与されていないかぎり、ユーザーはアクセス権のあるメンバーの祖先メンバーを表示できません。このオプションが選択されていると、24.03 更新の前と同様に動作します。
- **読取り**—デフォルトでは、ユーザーに祖先メンバーに対する**「書込み」**または**「表示」**アクセス権が明示的に付与されていないかぎり(付与されている場合は、このデフォルトがオーバーライドされる)、アクセス権のあるメンバーの祖先メンバーに対して読取り専用のアクセス権が付与されます。
- **書込み**—デフォルトでは、ユーザーに祖先メンバーに対する**「読取り」**または**「表示」**アクセス権が明示的に付与されていないかぎり(付与されている場合は、このデフォルトがオーバーライドされる)、アクセス権のあるメンバーの祖先メンバーに対して書込みアクセス権が付与されます。
- **表示**—デフォルトでは、ユーザーに祖先メンバーに対する**「読取り」**または**「書込み」**アクセス権が明示的に付与されていないかぎり(付与されている場合は、このデフォルトがオーバーライドされる)、アクセス権のあるメンバーの祖先メンバーに対して表示専用のアクセス権が付与されます。
  ユーザーには、表示専用アクセス権のあるメンバーが表示されますが、それらのメンバーに関連付けられているセルには、データ値のかわりに「#NoAccess」が表示されることに注意してください。

> **Note:**
>
> - **デフォルト祖先アクセス権**は、共有メンバー・セキュリティが評価された後、祖先に適用されます。これにより、**「キューブのリフレッシュに共有メンバーを含める」**オプションが有効か無効かに関係なく正しく動作します。
> - サービス管理者は、アプリケーションで祖先のデフォルト・アクセス権を**「なし」**、**「読取り」**、**「書込み」**または**「表示」**のアクセス権に設定できます。また、ディメンション・エディタなどで、1 つ以上の祖先に**「読取り」**、**「書込み」**または**「表示」**のアクセス権を付与することもできます。このような場合、ディメンション・エディタでアクセス権が**「なし」**に設定されないかぎり、ディメンション・エディタで行われた明示的なセキュリティ割当が優先されます。「なし」に設定された場合は、**「デフォルト祖先アクセス権」**設定が優先されます。

ビジネス・プロセスでの**「デフォルト祖先アクセス権」**オプションの設定については、次のトピックを参照してください:

- Enterprise Profitability and Cost Management: *Enterprise Profitability and Cost Management の管理および操作*のシステム設定
- Financial Consolidation and Close: *Financial Consolidation and Close の管理*のアプリケーション設定の指定
- フリーフォーム: *フリーフォームの管理*の指定できるアプリケーションおよびシステムの設定
- Planning、Planning モジュール: *Planning の管理*の指定できるアプリケーションおよびシステムの設定
- Tax Reporting: *Tax Reporting の管理*のアプリケーション設定の指定

Planning の承認の管理

Planning の承認は、プランニング・ユニットの送信、確認、承認プロセスです。

承認の役割が割り当てられている場合、ここで説明する承認関数を実行できます。役割の詳細は、管理者に問い合せてください。

データ・ソース・タイプ: Planning

> **ノート:**
>
> Planning に詳しくない場合は、Oracle Help Center で入手可能な Planning ドキュメントおよびビデオを参照してください。

関連トピック:

プランニング・ユニットのステータスの変更

プランニング・ユニットの検索

プランニング・ユニットの移動パス

プランニング・ユニットの注釈

不在時のアシスタント

プランニング・ユニットのステータスの変更

データ・ソース・タイプ: Planning

1 つ以上のプランニング・ユニットのステータスを一度に変更できます。

プランニング・ユニットのステータスを表示または変更するには:

1. 適切なフォームを開きます。
2. Planning のリボンから、**「承認」**を選択します。
3. **「承認の管理」**から、**「シナリオ」**および**「バージョン」**を選択します。

4. をクリックして、アクセス権を持つプランニング・ユニットのリストを表示します。
5. **オプション:** 表示モード・ボタンで、次のいずれかを選択します。
   - **フラット・ビュー**: プランニング・ユニットをリストとして表示します。
   - **「ツリー・ビュー」**では、プランニング・ユニットが階層形式で表示されます(管理者のみが使用可能)。

     ツリー・ビューで**「開始」**を選択すると、プランニング・ユニットが開始され、**「除外」**を選択すると、プランニング・ユニットがプロセスから除外されます。
   - **「マイ・プランニング・ユニット」**では、自分が所有するプランニング・ユニットのみが表示されます。
6. ステータスを変更するプランニング・ユニットまたはユニットを選択します。リストが長すぎてプランニング・ユニットを容易に特定できない場合、プランニング・ユニットの検索の説明に従ってフィルタを検索するか、リストに適用できます。
7. 選択したプランニング・ユニットの詳細を表示するには、**「プランニング・ユニットの詳細」**をクリックします。

   「承認ステータス」タブには、プロセスのステータス、所有者、とられたアクション、およびステータスの変更日時の履歴が表示されます。

   「注釈」タブには、プランニング・ユニット用に入力されたすべての注釈が表示されます。プランニング・ユニットの注釈を参照してください。
8. プランニング・ユニットのステータスを変更するには、**「ステータスの変更」**をクリックします。

   > **ノート:**
   >
   > 親エンティティのステータスを変更すると、子が「第 1 パス」状態時に除外されているかまたはすでに承認されている場合を除いて、親エンティティのすべての子もステータスが変更されます。

9. **「承認 - エンティティのステータスの変更」**からアクション、およびプランニング・ユニットの次の所有者を選択します。
10. **オプション**: **「注釈の入力」**の下に注釈を入力します。
11. **「送信」**をクリックします。
12. **オプション:** 変更したプランニング・ユニットを検証するには、をクリックします。一度に検証できるのは 1 つのプランニング・ユニットのみです。

関連トピック:

プランニング・ユニットの検索

プランニング・ユニットの移動パス

プランニング・ユニットの注釈

不在時のアシスタント

プランニング・ユニットの検索

データ・ソース・タイプ: Planning
「承認の管理」で、プランニング・ユニットのリストを検索したり、フィルタを適用することで、プランニング・ユニットを簡単に検索できます。フィルタ条件として、自動フィルタ、メンバーの選択、または世代を使用できます。

プランニング・ユニットのリストをフィルタ処理するには:

1. プランニング・ユニットのステータスの変更の説明に従って、「承認の管理」を開き、シナリオおよびバージョンを選択します。
2. をクリックして、フィルタ処理を使用可能にします。

   フィルタ処理ツールを含むフィルタ・バーが、プランニング・ユニット・リストのすぐ上に表示されます。
3. 次の手順のいずれかを使用します:
   - **検索**

     特定のプランニング・ユニットを検索するには、その名前を**「プランニング・ユニット」**フィールドに入力し、をクリックします。
   - **自動フィルタ処理**
     a. フィルタ・バーで、**「承認ステータス」**、**「サブステータス」**または**「現在の所有者」**の列ヘッダーの矢印をクリックします。
     b. フィルタ条件となる列の値を選択します。これらの列の複数に自動フィルタを適用できます。
   - **メンバー選択によるフィルタ**
     a. フィルタ・バーでをクリックし、**「メンバー・セレクタ」**を選択します。
     b. をクリックして、プランニング・ユニット・リストのメンバーを選択します
     c. をクリックして、リストをフィルタ処理します。
   - **世代によるフィルタ**
     a. フィルタ・バーでをクリックし、**「世代」**を選択します。
     b. をクリックして、プランニング・ユニット・リストに表示する 1 つ以上の世代を選択します。
     c. をクリックして、リストをフィルタ処理します。
     d. **「OK」**をクリックします。
4. **オプション:** フィルタを適用する前にフィルタ選択を元に戻すには、をクリックします。

関連トピック:

プランニング・ユニットのステータスの変更

プランニング・ユニットの移動パス

プランニング・ユニットの注釈

不在時のアシスタント

プランニング・ユニットの移動パス

データ・ソース・タイプ: Planning

プランニング・ユニットは、次に基づいて個人から個人、および部署から部署へ移動します:

- プランニング・ユニットに割り当てられた所有者と確認者
- 階層内のプランニング・ユニットの場所

プランニング・ユニットの移動パスをグラフィカルな形式で表示するには:

1. Planning のリボンから、**「承認」**を選択します。
2. **「承認の管理」**から、**「シナリオ」**および**「バージョン」**を選択します。
3. **「実行」**をクリックして、アクセス権を持つプランニング・ユニットのリストを表示します。
4. プランニング・ユニットを選択します。
5. をクリックします。

関連トピック:

プランニング・ユニットのステータスの変更

プランニング・ユニットの検索

プランニング・ユニットの注釈

不在時のアシスタント

プランニング・ユニットの注釈

データ・ソース・タイプ: Planning

開始したプランニング・ユニットのデータに関するコメントを追加または表示できます。注釈は、シナリオ、バージョンおよびエンティティ・メンバーの組合せなどによって異なります。

プランニング・ユニットの注釈を追加するには:

1. Planning のリボンから、**「承認」**を選択します。
2. **「承認の管理」**から、**「シナリオ」**および**「バージョン」**を選択します。
3. **「実行」**をクリックして、アクセス権を持つプランニング・ユニットのリストを表示します。
4. 注釈を追加するプランニング・ユニットを選択します。リストをフィルタ処理するには、プランニング・ユニットの検索を参照してください。
5. **オプション:** 選択したプランニング・ユニットに対する既存の注釈を表示するには、**「プランニング・ユニットの詳細」**、**「注釈」**タブの順にクリックします。

6. をクリックします。
7. **「承認 - 注釈の追加」**で、タイトルおよび注釈を入力します(1,500 文字以内)。マルチバイト・システムでは、注釈を 750 文字以内することをお薦めします。URL、リンクおよびテキストを入力できます。
8. **「送信」**をクリックします。

関連トピック:

プランニング・ユニットのステータスの変更

プランニング・ユニットの検索

プランニング・ユニットの移動パス

不在時のアシスタント

不在時のアシスタント

データ・ソース・タイプ: Planning

不在時のアシスタントを設定して、不在中に届いたプランニング・ユニットを再割当てできます。

不在時のアシスタントを設定するには:

1. Planning のリボンから、**「承認」**を選択します。
2. **「承認の管理」**から、**「不在時のアシスタント」**を選択します。
3. **「不在時のアシスタント」**から、**「現在不在です」**を選択します。
4. 「アクションの選択」からアクション、および不在中に届くプランニング・ユニットの次の所有者を選択します。
5. **オプション:** 注釈を入力します。
6. **「送信」**をクリックします。

関連トピック:

プランニング・ユニットのステータスの変更

プランニング・ユニットの検索

プランニング・ユニットの移動パス

不在時のアシスタント

ジョブ・ステータスのモニタリング

ジョブ・コンソールを使用して Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management のジョブの実行ステータスをモニターし、必要に応じて削除します。

次も参照:

- 「ジョブ・コンソール」について
  ジョブ・コンソールには、Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management で進行中および完了したジョブのステータスが表示されます。

- ジョブ・ステータスの確認
  ジョブ・コンソールでジョブの実行ステータスを確認します。
- ジョブ・コンソールの自動リフレッシュの構成

「ジョブ・コンソール」について

ジョブ・コンソールには、Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management で進行中および完了したジョブのステータスが表示されます。

データ・ソース・タイプ: Planning、Planning モジュール、Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Tax Reporting

Oracle Smart View for Office では、ジョブ・コンソールで次のことができます:

- **「ジョブ・ステータス」**列で、ジョブのステータスを確認できます。
- ジョブ・タイプ(たとえば、セル詳細のクリア、データのコピー、データベースのリフレッシュ、ルール、データ・マップまたはスマート・プッシュ)、ジョブ名、ステータス(たとえば、完了、エラーで完了、エラー、取消済または処理中)、ジョブを実行しているユーザー、およびジョブの開始日と終了日に従って、ジョブのリストをフィルタできます。
- ジョブの詳細を表示できます。
- 必要に応じて、リストからジョブを削除できます。
- **「ジョブ・コンソール」**でジョブの取消しまたは開始を行うことはできません。

Smart View 23.200 以降は、**「ジョブ・ステータス」**列で進行中のジョブのサブステータスを表示することもできます。サブステータス情報を使用して次のことができます:

- ジョブのリアルタイムの進捗を追跡します。これは、長時間実行されるジョブの情報を常時入手するのに特に役立ちます。
- 進行中のアクティビティをより 深く理解できます。進行中のジョブに関する十分な情報を事前に受け取ることで、個々のジョブの詳細を開くために必要な時間と労力を節約できます。
- ジョブが妨害されている場所または実行が通常より遅くなっている場所を簡単に特定します。これは、ジョブ内の非互換性を理解し、迅速なアクションを実行し、ジョブ・プロセスを改善するのに役立ちます。

子ジョブのないジョブでは、ジョブ・スタータス: [Sub_Status]の形式でステータスが表示されます。例: 処理中: データのマージ中

親子のジョブの関係では、サブステータスは次の形式で表示されます:

- 親ジョブには進行中の子ジョブが表示されます。例:

  処理中: [子ジョブの実行中 1 / 1: %CHILD_JOB_NAME%]
- 各子ジョブには、その実行の一環として実行されている特定の操作が表示されます。例:

  処理中: [ステップ 3/5: ソース・データのフェッチ中]
- キューブが現在のジョブでビジーの場合は、ステータスに待機中インジケータが追加されます。例:

  処理中: [ステップ 5/5: データのクリアおよびターゲットへのプッシュ中[待機中]。]

ジョブが正常に完了すると、サブステータスはクリアされます。ただし、ジョブでエラーが発生した場合、エラーが発生したジョブのステータスとサブステータスは、クリアされずに引き続き表示されます。例: エラー: [ステップ 2/5: ターゲット・データのフェッチ中]。

ビデオ

目的	このビデオを見る
ジョブ・ステータスのモニタリングについての説明など、Planning に関連する Smart View の基本的な機能について学習します。概念は、Financial Consolidation and Close および Tax Reporting にも適用できます。	Oracle Planning and Budgeting Cloud による Smart View でのプラン・データの入力および保存

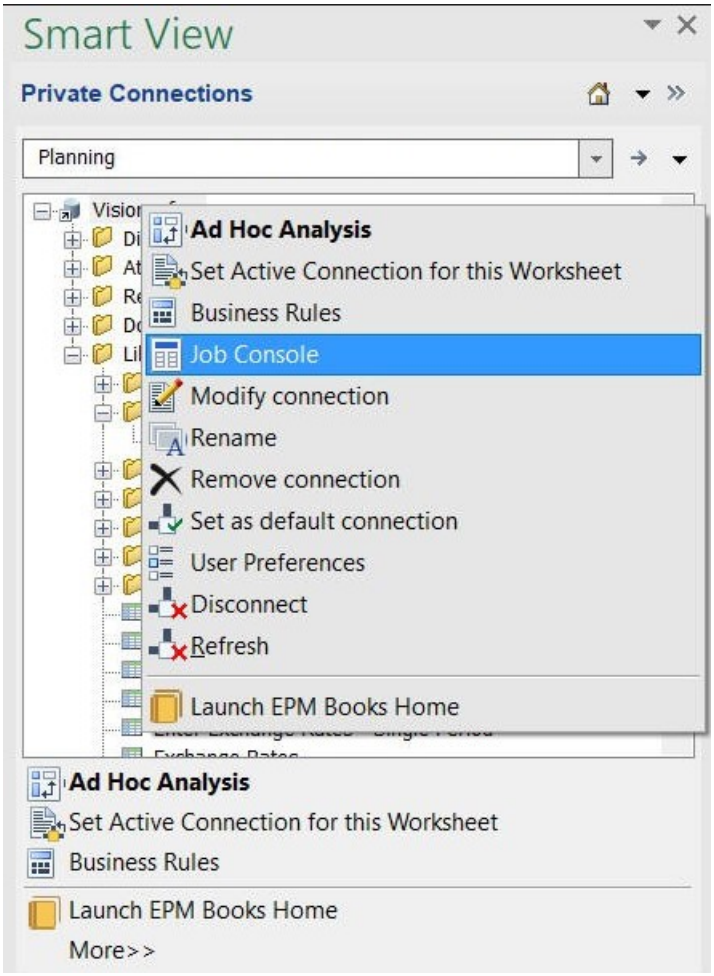
ジョブ・ステータスの確認

ジョブ・コンソールでジョブの実行ステータスを確認します。

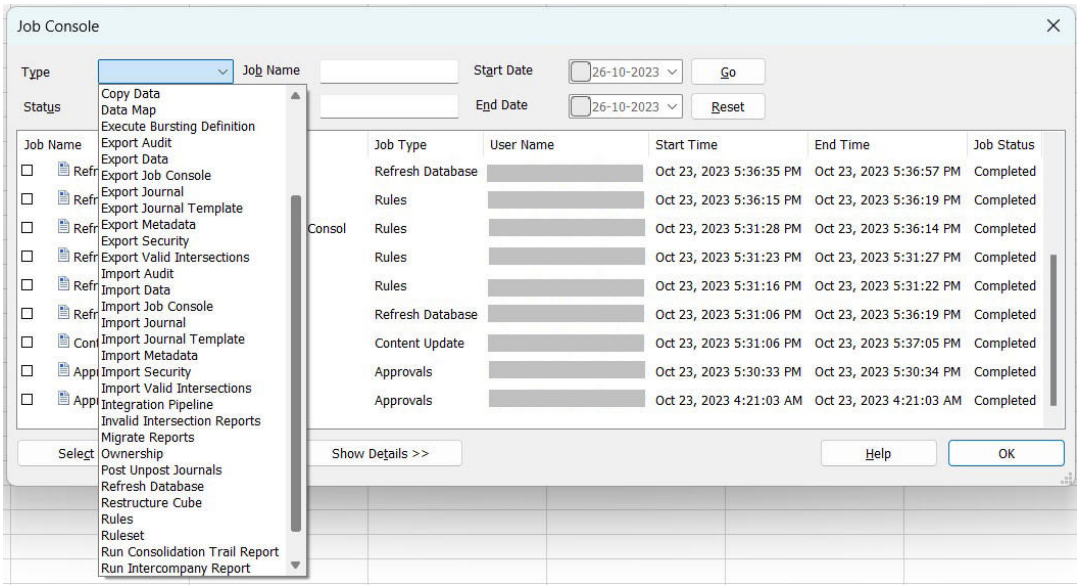
ジョブの実行ステータスをチェックするには:

1. Smart View パネルで、アプリケーション名を右クリックし、コンテキスト・メニューの**「ジョブ・コンソール」**を選択します。

   または、アプリケーション名を選択し、アクション・パネルで**「詳細」**と**「ジョブ・コンソール」**を順に選択します。

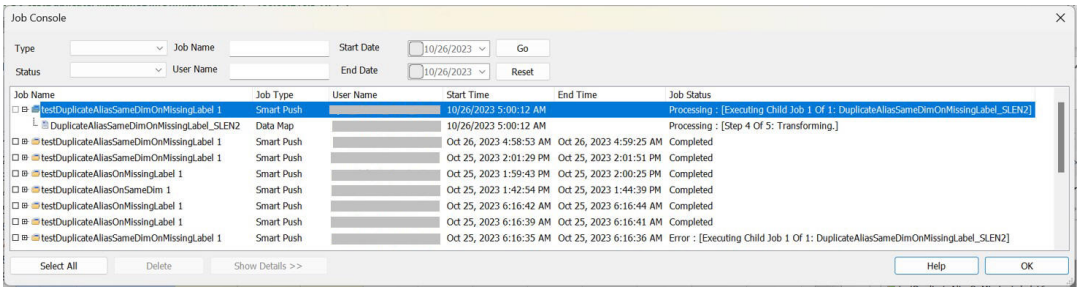


「ジョブ・コンソール」が表示されます。



デフォルトでは、前日のすべてのジョブ・タイプとステータスのレコードが**「ジョブ・コンソール」**に表示されます。

進行中のジョブは、ジョブ・ステータスおよびサブステータスが**「ジョブ・ステータス」**列に表示されます。



2. **「ジョブ・コンソール」**でジョブのリストをフィルタするには、ダイアログ上部のフィルタ条件領域で次のいずれかのジョブ条件を使用します。

   - **タイプ**: ドロップダウン・メニューからジョブ・タイプを選択します。たとえば、次のようなジョブ・タイプがあります。
     - セル詳細のクリア
     - データのコピー
     - データベースのリフレッシュ
     - ルール
     - スマート・プッシュ

     これは一部のジョブ・タイプです。ユーザーが使用できるジョブ・タイプが管理者によって構成されます。管理者はすべてのジョブ・タイプを見ることができます。
   - **ステータス**: ドロップダウン・メニューからジョブ・ステータスを選択します。たとえば、次のようなジョブ・ステータスがあります。
     - 完了
     - エラーで完了
     - エラー

– 処理中

これは一部のジョブ・ステータスです。ユーザーが使用できるジョブ・ステータスが管理者によって構成されます。管理者はすべてのジョブ・ステータスを見ることができます。

- **ジョブ名** - ジョブ名を入力します。
- **ユーザー名** - ユーザー名を入力します。
- **開始日**と**終了日** - 日付はデフォルトで昨日と今日に設定されており、差は 1 日のみです。をクリックし、カレンダを使用して開始日と終了日の範囲を入力します。

3. **「実行」**をクリックします。

   「ジョブ・コンソール」が選択条件に合うジョブを表示します。

> **Note:**
>
> 自動リフレッシュするように**「ジョブ・コンソール」**ウィンドウを構成した場合は、指定した間隔の後に、選択基準に一致するジョブが表示されます。ジョブ・コンソールの自動リフレッシュは、Oracle Smart View for Office 20.200 以降に適用されます。詳細は、ジョブ・コンソールの自動リフレッシュの構成を参照してください。

4. **オプション:** ジョブの実行に関するさらに詳しい情報を取得するには、ジョブを選択して**「詳細の表示」**をクリックします。

   リストのすべてのジョブの詳細を表示するには、**「すべて選択」**をクリックしてから**「詳細の表示」**をクリックします。

5. **オプション:** ジョブを削除するには、ジョブを選択して**「削除」**をクリックします。

   リストのすべてのジョブを削除するには、**「すべて選択」**をクリックしてから**「削除」**をクリックします。

> **Note:**
>
> ジョブを削除すると、**「ジョブ・コンソール」**のリストから削除されるだけです。ジョブは取り消されません。

ジョブ・コンソールの自動リフレッシュの構成

Oracle Smart View for Office 20.200 以降、Windows レジストリ設定 JobConsoleAutoRefreshInterval で指定した間隔で自動リフレッシュするように、「ジョブ・コンソール」ウィンドウを構成できます。

「実行」ボタンを使用して、必要な頻度で「ジョブ・コンソール」ウィンドウをリフレッシュすることもできます。ただし、JobConsoleAutoRefreshInterval 設定をレジストリに追加すると、「実行」ボタンをクリックしなくてもウィンドウが自動的に更新されます。

JobConsoleAutoRefreshInterval 設定は、次の HKEY_CURRENT_USER レジストリ・フォルダに新しい DWORD として追加します。

```
Computer\HKEY_CURRENT_USER\Software\Hyperion
Solutions\HyperionSmartView\Preferences
```

必要な時間間隔を指定します。最小値は 15 秒です(「基本」が「小数」に設定されている場合、値データは 15000 に設定されます)。

設定を追加した後、Smart View で「ジョブ・コンソール」ウィンドウを開いたままにして、指定した間隔でウィンドウがリフレッシュされるのを確認します。

コンピュータのレジストリを変更する権限を持つユーザーは、この設定を構成できます。ジョブ・コンソールの使用方法の詳細は、ジョブ・ステータスのモニタリングを参照してください。

ダッシュボード

ダッシュボードを使用すると、主な情報の概要を確認し、データを変更し保存できます。

データ・ソース・タイプ: Planning、Planning モジュール、Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Tax Reporting

Oracle Smart View for Office で Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management ダッシュボードを開くことができます。

ダッシュボードを開くには:

1. ダッシュボードを含む Cloud EPM データ・ソースに接続します。
2. 「接続」ツリー・リストから、ダッシュボード(で示されています)をダブルクリックします。

   ダッシュボードが新しい Excel ワークブックで開き、各ダッシュボード・オブジェクトは個別のワークシートに表示されます。

> **ノート:**
>
> - Smart View は、グリッドおよびチャート・タイプのダッシュボード・オブジェクトをサポートしています。チャート・オブジェクトはグリッド・フォーマットに表示されます。他のダッシュボード・タイプはすべて無視されます。
>
>   たとえば、ダッシュボードは次のコンポーネントで構成されます: 1 つのグリッド、1 つのチャート、1 つのノートおよび 1 つのイメージ。このダッシュボードを Smart View で開き、ワークブックには、グリッド用と、グリッドとして表示されるチャート用の 2 つのシートしかないことを確認してください。ノートとイメージのコンポーネントは無視されます。
> - Smart View はダッシュボードのマスター・フォームをサポートします。

ダッシュボードの詳細は次の項を参照してください。

- **管理者:** クラウド・ビジネス・プロセスの *管理ガイド*でダッシュボードの設計に関するトピックを参照してください。
- **エンド・ユーザー:** クラウド・ビジネス・プロセスの *使用ガイド*でダッシュボードの使用に関するトピックを参照してください。

複合フォームを開く

Oracle Smart View for Office で Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management 複合フォームを開くことができます。

データ・ソース・タイプ: Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting

> **ノート:**
>
> 21.05 の更新以降、Cloud EPM では複合フォームは公式にサポートされなくなりました。21.05 以降に Cloud EPM に追加された新機能は、複合フォームではサポートされません。21.05 以前の数か月にわたって公表されていたように、かわりに Cloud EPM ダッシュボードを使用する必要があります。既存の複合フォームは、21.04 の更新までのサポートされている機能で引き続き動作します。

複合フォームを開くには:

1. 複合フォームを含む Cloud EPM データ・ソースに接続します。
2. 「接続」ツリー・リストから、複合フォーム(で示されています)をダブルクリックします。

   複合フォームが新規の Excel ワークブックで開き、各サブフォームが個別のワークシートに表示されます。

   > **ノート:**
   >
   > Smart View はマスター複合フォームをサポートします。

バージョンのコピー

サービス管理者は、データを 1 つのボトムアップまたは選択済シナリオのターゲット・バージョンから他のボトムアップまたは同じシナリオ内のターゲット・バージョンへコピーできます。

データ・ソース・タイプ: Planning、Planning モジュール

> **ノート:**
>
> Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management 21.12 から、**「バージョンのコピー」**コマンドを使用できるのはサービス管理者のみです。

たとえば、「ベスト・ケース」バージョンを作成し、そのバージョンの一部またはすべてのデータを「ワースト・ケース」バージョンへコピーし、新規バージョンの開始点をすばやく作成できます。

ボトムアップ・バージョンとターゲット・バージョン間でのコピーは可能ですが、

- ボトムアップ・バージョンにコピーすると、選択したレベル 0 のメンバーのみがコピーされます。
- ターゲット・バージョンにコピーすると、選択したすべてのメンバーがコピーされます。
- 承認済プランニング・ユニット内のデータ保護のため、バージョンのコピーを行っても承認済のプランニング・ユニットにはコピーされません。

> **ノート:**
>
> データをコピーするには、コピーするデータの基準を指定するときに、シナリオ、勘定科目、エンティティ、期間およびバージョン・ディメンションの少なくとも 1 つのメンバーを選択する必要があります。

バージョンをコピーするには:

1. アクションを実行して**「バージョンのコピー」**ダイアログ・ボックスにアクセスします。
   - フォームの Planning リボンで、**「バージョンのコピー」**を選択します。
   - アド・ホック・グリッドから、アプリケーション名を右クリックします
2. **「シナリオ」**から、コピーするシナリオを選択します。
3. **「コピー元」**から、ソース・バージョンを選択します。
4. **「コピー先」**から、宛先のバージョンを選択します。
5. **「実行」**をクリックし、選択したソース・バージョンの使用可能なエンティティ (プランニング・ユニット)を表示します。
6. 矢印キーを使用して、**「使用可能なエンティティ」**から、エンティティを 選択します。「プロセス・ステータス」が、「開始していません」または「第 1 パス」のエンティティをコピーできます。
7. **オプション:** 関連情報をコピーするには、次のいずれかのオプションを選択します:
   - **勘定科目注釈のコピー**。選択されたエンティティの 注釈のみがコピーされます。ボトムアップ・バージョンにコピーする場合は、レベル 0 のエンティティ (およびその注釈)のみがコピーされます。
   - **セル・テキストおよびドキュメント・リンクのコピー**
   - **サポート詳細のコピー**
8. **「データのコピー」**をクリックします。

   > **ノート:**
   >
   > 他の Web ページをロードする前に、「バージョンのコピー」の完了メッセージが表示されるのを待ちます。

9. **「取消」**をクリックして**「バージョンのコピー」**ダイアログ・ボックスを閉じます。

Cloud EPM フォームでのページの検索

管理者が 1 つのフォームに対して複数のページ・ディメンションを設定している場合は、必要なデータが含まれるページを、ページのドロップダウン・メニューから選択します。

データ・ソース・タイプ: Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting

Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management フォームでページを検索するには:

1. 検索したいページ・ディメンションをクリックして強調表示します。
2. ドロップダウン・メニューから、操作したいデータが含まれるページ名を選択します。

フォームでのフォーマットの表示

Smart View ユーザーは、ネイティブの Excel フォーマットをフォームの一部として保存し、Cloud EPM ビジネス・プロセスに表示できます。さらに、フォーム設計者はフォーマット・ルールを指定でき、Smart View ユーザーは Forms 2.0 で作業するときにそのルールを表示できます。

Related Topics

- Cloud EPM フォームでのネイティブ Excel フォーマットの使用
  Oracle Smart View for Office では、ユーザーがネイティブ Excel フォーマットをフォームまたはアド・ホック・グリッドの一部として Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management ビジネス・プロセスに保存できます。
- Forms 2.0 での設計時フォーマットの使用
  フォーム設計者は、設計時にフォームのフォーマットを指定できます。Oracle Smart View for Office では、ユーザーは Forms 2.0 の操作時に設計時フォーマットを表示できます。

Cloud EPM フォームでのネイティブ Excel フォーマットの使用

Oracle Smart View for Office では、ユーザーがネイティブ Excel フォーマットをフォームまたはアド・ホック・グリッドの一部として Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management ビジネス・プロセスに保存できます。

Related Topics

- Cloud EPM フォームでのネイティブ Excel フォーマットの使用について
- フォームでの Excel フォーマットの保存
- Smart View での Excel フォーマットの表示
- フォーマットのクリア
- アド・ホック・グリッドからの Excel フォーマットの保存
- サポートされているネイティブ Excel フォーマット
- ネイティブ Excel フォーマットおよび Cloud EPM フォームの操作のガイドライン

Cloud EPM フォームでのネイティブ Excel フォーマットの使用について

データ・ソース・タイプ: Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Planning、Tax Reporting

Oracle Smart View for Office を使用すると、ネイティブ Excel フォーマットを、フォームまたはアド・ホック・グリッドの一部として、Oracle Hyperion Planning ビジネス・プロセスに保存できます。

保存されたフォーマットは、ビジネス・プロセスのブラウザ・インタフェースに適用され、フォームが Excel に表示される際にも適用されます。その後、Smart View でのフォーマットの表示方法を選択できます。これは、Smart View の既存のセル・スタイル機能の追加機能です(セルのスタイルに説明されています)。

これらのフォーマット・オプションは、図 1 に示された「Planning」リボンなどのプロバイダ・リボンの**「フォーマット」**グループで使用可能です。

図 23-17 フォーマット・オプション



> **ノート:**
>
> Cloud EPM フォームでのネイティブ Excel フォーマットの使用のトピックは、Forms 1.0、またはフォームに設計時のフォーマット・ルール(Groovy ルール、データ検証ルール、またはフォーマットのみのルール)が定義されていない Forms 2.0 に適用されます。

関連トピック:

フォームでの Excel フォーマットの保存
Smart View での Excel フォーマットの表示

フォーマットのクリア

アド・ホック・グリッドからの Excel フォーマットの保存

サポートされているネイティブ Excel フォーマット

ネイティブ Excel フォーマットおよび Cloud EPM フォームの操作のガイドライン

フォームでの Excel フォーマットの保存

フォームに Excel フォーマットを保存するには:

1. Oracle Smart View for Office で編集するフォームを開きます。
2. ネイティブ Excel フォーマット機能を使用して、フォーマットをシートに適用します。
3. プロバイダ・リボン(Planning リボンなど)で、**「フォーマット」**グループから**「保存」**を選択します。
4. Smart View での Excel フォーマットの表示へ移動し、表示オプションを選択します。

関連トピック:

Smart View での Excel フォーマットの表示

フォーマットのクリア

アド・ホック・グリッドからの Excel フォーマットの保存

サポートされているネイティブ Excel フォーマット

ネイティブ Excel フォーマットおよび Cloud EPM フォームの操作のガイドライン

Smart View での Excel フォーマットの表示

Excel にフォームが表示されたら、Oracle Smart View for Office のオプションを使用して、シートにフォーマットを表示できます。これらのオプションには、プロバイダ・リボンの**「フォーマット」**グループの**「適用」**ボタンからアクセスします。

> **ヒント:**
>
> **「適用」**オプションは、*表示*オプションのみで、以前にフォームで保存されたセル・スタイルおよびネイティブ Excel フォーマットを表示できます。

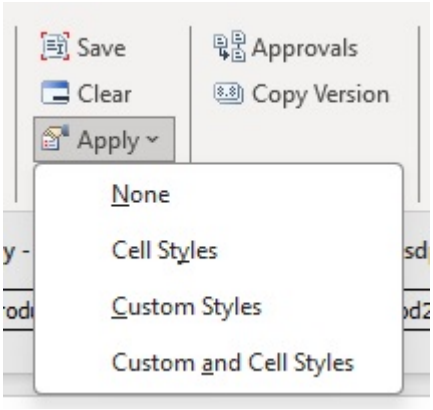
> **ノート:**
>
> この手順では、設計時フォーマットが実装されていない Forms 1.0 で表示されるフォーマットについて説明します。Forms 2.0 で設計時のフォーマットを使用している場合は、Forms 2.0 での設計時フォーマットの使用を参照してください

フォームで、フォーマット表示オプションを切り替えるには:

1. フォームを開き、プロバイダ・リボン(Planning リボンなど)の**「フォーマット」**グループにある**「適用」**ボタンをクリックします。

   「適用」オプション(図 1)が表示されます。このメニューを初めて使用する場合、オプションが選択されていない状態が初期状態です。オプションを選択すると、最後のオプション選択が、次にフォームを開くときまで保持されます。

図 23-18 「適用」オプション



2. オプションを選択します:
   - **なし** - シートにスタイル(Excel フォーマットまたは Smart View のセル・スタイル)は適用されません。シートにセル・スタイルやカスタム・スタイルが存在する場合でも、このオプションを選択するといずれも表示されません。ただし、それらは保持されているため、**「セルのスタイル」**、**「カスタム・スタイル」**または**「カスタム・スタイルとセルのスタイル」**オプションを使用して、後から表示できます。
   - **セルのスタイル** - 「セルのスタイル」のトピックで説明されているように、Smart View のセル・スタイルのみがシートに適用されます。
   - **カスタム・スタイル** - カスタムのユーザー定義ネイティブ Excel フォーマットのみがシートに適用されます。
   - **カスタム・スタイルとセルのスタイル** - Excel フォーマットと Smart View のセル・スタイルの両方がシートに適用されます。**「カスタム・スタイルとセルのスタイル」**を選択すると、カスタムの Excel フォーマットより、セルのスタイルが優先されることに注意してください。

   オプション選択はすぐにフォームに適用されます。
3. 前のステップで選択した項目をクリアするには、**「フォーマット」**グループ内の**「クリア」**ボタンをクリックします。

   「クリア」アクションを使用して、保存したフォーマットをクリアすることもできます。詳細は、フォーマットのクリアを参照してください。

関連トピック:

フォームでの Excel フォーマットの保存

フォーマットのクリア

アド・ホック・グリッドからの Excel フォーマットの保存

サポートされているネイティブ Excel フォーマット

ネイティブ Excel フォーマットおよび Cloud EPM フォームの操作のガイドライン

フォーマットのクリア

フォームまたはフォームとして開いた保存済のアド・ホック・グリッドに関連付けられたフォーマットをクリアするには:

「クリア」オプションを選択すると、Excel 内と Web アプリケーション内の両方のフォームやグリッドに関連付けられているすべての Excel フォーマットが削除されます。セル・スタイル

は、保存されているカスタム・フォーマットに依存しないため、セル・スタイル機能は使用できます。

1. フォームを開きます。

> **ノート:**
>
> 新しく開いたフォームから開始する必要があります。すでにフォーマット・オプションを適用している場合は、**「クリア」**操作を実行すると、最後に適用した表示選択に戻ります。

2. プロバイダ・リボン(Planning リボンなど)の**「フォーマット」**グループから**「クリア」**を選択します。

   「クリア」オプションを選択すると、Excel 内と Web アプリケーション内の両方のフォームやグリッドに関連付けられているすべての Excel フォーマットが削除されます。セル・スタイルは、保存されているカスタム・フォーマットに依存しないため、セル・スタイル機能は使用できます。

関連トピック:

フォームでの Excel フォーマットの保存

Smart View での Excel フォーマットの表示

アド・ホック・グリッドからの Excel フォーマットの保存

サポートされているネイティブ Excel フォーマット

ネイティブ Excel フォーマットおよび Cloud EPM フォームの操作のガイドライン

アド・ホック・グリッドからの Excel フォーマットの保存

アド・ホック・グリッドからフォーマットを保存するには:

1. 保存先のグリッドを作成するためにアド・ホック分析を実行します。
2. Excel のネイティブ・フォーマット機能を使用して、グリッドをフォーマットします。
3. プロバイダのアド・ホック・リボン(例: Planning のアド・ホック・リボン)から、**「アド・ホック・グリッドの保存」**を選択します。
4. **「グリッドに名前を付けて保存」**ダイアログ・ボックスで、アド・ホック・グリッドを保存する際に**「フォーマットの送信」**オプションを選択します。

   フォームとして保存したアド・ホック・グリッドを開き、Smart View での Excel フォーマットの表示の説明に従って表示オプションを選択できます。

関連トピック:

フォームでの Excel フォーマットの保存

Smart View での Excel フォーマットの表示

フォーマットのクリア

サポートされているネイティブ Excel フォーマット

ネイティブ Excel フォーマットおよび Cloud EPM フォームの操作のガイドライン

サポートされているネイティブ Excel フォーマット

表 1 は、Oracle Smart View for Office の Oracle フォームでサポートされるネイティブ Excel フォーマットおよびフォームが Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management Web アプリケーションで表示される場合にフォーマットをサポートするかどうかをまとめています。

表 23-3 サポートされているネイティブ Excel フォーマット

フォーマット	Smart View	Cloud EPM
フォント	**フォント**	**フォント**
フォント・ファミリ	はい	はい
フォント・サイズ	はい	はい
太字	はい	はい
斜体	はい	はい
取消し線	はい	いいえ
下線	1 本の途切れない実線のみ	いいえ
テキストの色	赤、緑、青	赤、緑、青
背景色	プレーン、実線、赤、緑、青	プレーン、赤、緑、青
配置	**配置**	**配置**
垂直	上、中央、下	いいえ
水平	左、中央、右	いいえ
インデント	左側のインデントのみで、レベルは 5 つ	いいえ
折返し	はい	いいえ
枠線	**枠線**	**枠線**
枠線の色	はい、各セルの 4 つの枠線に異なる色を設定できます(赤、緑、青)	はい
枠線の幅	はい、ポイント単位	はい
枠線のスタイル	なし、実線、二重線、点線、破線、鎖線、二点鎖線	なし、実線
数値および日付のフォーマット	**数値および日付のフォーマット**	**数値および日付のフォーマット**
数値のフォーマット	小数点、負数と正数の接尾辞および接頭辞、負数と正数の色、色は 8 色、パーセンテージ、指数のフォーマット、3 桁ごとの区切り文字の有無	いいえ
日付フォーマット	長い日付と短い日付、時間、分、秒、AM と PM	いいえ
その他	**その他**	**その他**
読取り専用	はい	いいえ
列の幅と行の高さ	はい、ポイント単位	いいえ

関連トピック:

フォームでの Excel フォーマットの保存

Smart View での Excel フォーマットの表示

フォーマットのクリア

アド・ホック・グリッドからの Excel フォーマットの保存

ネイティブ Excel フォーマットおよび Cloud EPM フォームの操作のガイドライン

ネイティブ Excel フォーマットおよび Cloud EPM フォームの操作のガイドライン

- グリッドを設計する際は、カスタムの Excel フォーマットと Oracle Smart View for Office のセル・スタイル間に競合が発生しないように注意してください。
- 一部のアド・ホック分析操作では、保持されない Excel フォーマットがあります。特定の操作を実行した後には、フォーマットを再適用する必要があります。
- 保存済のアド・ホック・グリッドを開くと、Smart View では、Planning サーバーに保存されたフォーマットの保持が試行されます。さらにアド・ホック操作を実行すると、既存のフォーマット操作が適用されます; たとえば、**「Excel フォーマットの使用」**や**「セル・スタイルの使用」**です。
- カスタムの Excel フォーマットをアド・ホック操作に保持するには、**「オプション」**ダイアログ・ボックスの**「フォーマット」**ページで、**「Excel フォーマットの使用」**と**「操作時にフォーマットを移動」**オプションを選択します。
- **「操作時にフォーマットを移動」**オプションが有効になっている場合、特にアド・ホック操作中に、フォーマットがパフォーマンスに影響します。
- 規模の大きいフォーム(セルが 20,000 個以上のフォームなど)でフォーマットの保存は推奨されません。
- Smart View に表示されるグリッドと、Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management ビジネス・プロセスでブラウザに表示されるグリッドには違いがあります。保存済のグリッドが Cloud EPM に表示される場合、Smart View に表示される際と同じように表示されないフォーマットがあります。ビジネス・プロセスのフォーマットは、可能なかぎり Smart View と同じように表示されます。
- 管理者が、フォームに特定のフォーマットを定義している場合があります。エンド・ユーザーは、このフォーマットを上書きしてフォームに保存できます。その後、管理者が Cloud EPM ビジネス・プロセスでそのフォームに選択したオプションに基づいて、管理者のフォーマットにマージされます。詳細は、Cloud EPM のドキュメントを参照してください。
- フォーマットの保存機能は、複合フォームでサポートされていません。
- 保存されているグリッドから起動されたアド・ホック分析は、グリッドの一部として保存されたフォーマット・オプションを継承します。

  保存されたグリッドから生成されたアド・ホック・グリッドに Smart View のセル・スタイルまたは Excel フォーマットの使用オプションを使用するには、次のステップを実行します:

  1. 保存されているグリッドをフォームとして開きます。
  2. プロバイダ・リボン(Planning リボンなど)の**「フォーマット」**グループで、**「適用」**を選択し、**「なし」**を選択します。
  3. **「保存」**をクリックして、Cloud EPM ビジネス・プロセスにフォームを保存し直します。
  4. 保存したフォームを使用して、アド・ホック分析を実行します。
- ユーザー変数または代替変数が POV 上(行や列ではなく)にある場合は、ユーザー変数または代替変数のフォーマットを変更してフォームをリフレッシュした後も、フォーマットは保持されます。
- Excel フォーマットおよびカスタム・スタイルは静的グリッドでの使用を意図しています。次の操作からグリッドを変更すると、フォーマットが無効になる可能性があります。

- POV
- 抑制オプション
- マージされたセル
- 繰返しメンバー・ラベルのオプションの有効化またはクリア
- フォーム定義へのメンバーの追加
- 行または列に対してユーザー変数または代替変数を使用している場合のユーザー変数または代替変数の変更。

  フォーマットを保存した後、フォームには最新の行と列の組合せのフォーマットのみが保持されます。

サポートされているネイティブ Excel フォーマットは、Smart View のフォームでサポートされるネイティブ Excel フォーマット、およびフォームが Web アプリケーションで表示される場合にフォーマットがサポートされるかどうかをまとめています。

Forms 2.0 での設計時フォーマットの使用

フォーム設計者は、設計時にフォームのフォーマットを指定できます。Oracle Smart View for Office では、ユーザーは Forms 2.0 の操作時に設計時フォーマットを表示できます。

Related Topics

- Forms 2.0 での設計時フォーマットの使用について
- Forms 2.0 での設計時書式の表示
- Forms 2.0 での書式のクリア

Forms 2.0 での設計時フォーマットの使用について

データ・ソース・タイプ: Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Planning、Tax Reporting

Oracle Smart View for Office では、Forms 2.0 の使用時にフォームで定義されたフォーマットを表示できます。

> **Note:**
>
> この機能を使用するには、Smart View 24.200 以降、Cloud EPM 24.11 以降、Forms 2.0 が必要です。

管理者は、設計時にフォームにフォーマット・ルールを追加できます。これは、設計時フォーマットと呼ばれます。

フォーマット・ルールは、管理者がフォーム・デザイナの**「レイアウト」**タブで定義します。管理者は、Groovy ルール、データ検証ルール、フォーマット(フォーマットのみ)ルールをフォームに追加できます。グリッド、行、行メタデータ・セル、列、列メタデータ・セル、またはセル・レベルでフォーマット・ルールを追加できます。

Smart View ユーザーは、プロバイダ・リボン(Planning リボンなど)の**「適用」**オプションを使用して、実行時にフォームにフォーマット・ルールを適用できます。これらのオプションは、フォーム上でのフォーマット・ルールの表示方法を制御します:

- **「セルのスタイル」**: Smart View で定義されたセル・スタイル、データ検証ルール、および Groovy ルールを適用します。フォーマットのみのルールや Excel のカスタム・フォーマットは適用されません。
- **「カスタム・スタイル」**: 設計時に**「フォーマット/検証ルール・ビルダー」**で定義されたフォーマット・ルールと、Smart View で追加された Excel のカスタム・フォーマットを適用します。セル・スタイル、Groovy ルールのフォーマット、データ検証ルールのフォーマットは適用されません。
- **「カスタム・スタイルとセルのスタイル」**: Groovy ルール、デザイン時のフォーマット・ルール(データ検証とフォーマットのみ)、すべてのセル・スタイル、カスタム Excel フォーマットをフォームに適用します。

フォーム上の同じ場所に複数のルールを指定できる場合があり、フォーマットの表示方法に影響を与える可能性があります。たとえば、Groovy ルール、データ検証ルール、カスタム Excel フォーマットのすべてをフォームの 同じ場所に含めることができます。したがって、フォームにルールを表示する優先順位があります。

優先順位(P=優先度)は次のとおりです:

1. (P1) Groovy ルール
2. (P2)**「フォーマット/検証ルール・ビルダー」**/**「データ検証ルール・ビルダー」**のデータ検証ルール

> **Note:**
>
> 複数の場所(グリッド、行、列、またはセル・レベル)で定義されたデータ検証ルールを継承するセルの場合、ルール定義の場所に最も近いルールが優先されます。したがって、セル・レベルでルールが適用されている場合は、そのルールが優先されます。次に列レベル、行レベル、グリッド・レベルの順になります。

3. (P3) Smart View セル・スタイル(読取り専用セル、ロックされたセル、補足情報、添付ファイルなど)
4. (P4)**「フォーマット/検証ルール・ビルダー」**/**「データ検証ルール・ビルダー」**のフォーマット・ルール

> **Note:**
>
> 前述の注と同じです。複数の場所(グリッド、行、列、またはセル・レベル)で定義されたルールを継承するセルの場合、ルール定義の場所に最も近いルールが優先されます。したがって、セル・レベルでルールが適用されている場合は、そのルールが優先されます。次に列レベル、行レベル、グリッド・レベルの順になります。

5. (P5) Smart View でフォームに保存された Excel カスタム・フォーマット(「ネイティブ Excel フォーマット」と呼ばれることもあります)。フォームでの Excel フォーマットの保存で説明されています。

設計時のフォーマット・ルールの定義方法と、フォーム上の**「適用」**オプションの効果を確認するには、ビジネス・プロセスの管理ガイドの「フォーマット・ルールのシナリオ」トピックを参照してください。たとえば、*Planning の管理*では、フォーマット・ルールのシナリオを参照してください。

> **Note:**
>
> Smart View のダッシュボードでは、設計時のフォーマットはサポートされていません。

管理者およびフォーム設計者: フォームでの設計時フォーマットの設定の詳細:

- *Enterprise Profitability and Cost Management の管理および操作*、フォームでのデータの操作 の章、フォームでのフォーマット・ルールの作成と更新
- *Financial Consolidation and Close の管理*、フォームの管理 の章、フォームでのフォーマット・ルールの作成と更新
- *フリーフォームの管理*、Forms でのデータ検証とフォーマット・ルールの管理 の章、フォームでのフォーマット・ルールの作成と更新
- *Planning の管理*、Forms でのデータ検証とフォーマット・ルールの管理 の章、フォームでのフォーマット・ルールの作成と更新
- *Tax Reporting の管理*、フォームの管理 の章、フォームでのフォーマット・ルールの作成と更新

関連トピック:

Forms 2.0 での設計時書式の表示

Forms 2.0 での書式のクリア

チュートリアル

チュートリアルでは、ビデオによる手順説明と、トピックの学習に役立つドキュメントを提供しています。

目的	方法の学習
Smart View の設計時フォーマット(DTF)オプションの概要を説明します。利用可能なスタイル・オプションを適用した場合の実行時の違いを確認します。Smart View の様々なタイプのルールとセル・スタイルの優先順位を確認します。	Smart View のデータ・フォーム - フォーマット表示オプション

Forms 2.0 での設計時書式の表示

設計時フォーマットを含むフォームが Excel でレンダリングされると、Oracle Smart View for Office で、使用可能なフォーマットを表示するためのオプションが提供されます。

これらのオプションには、プロバイダ・リボンの**「フォーマット」**グループの**「適用」**ボタンからアクセスします。

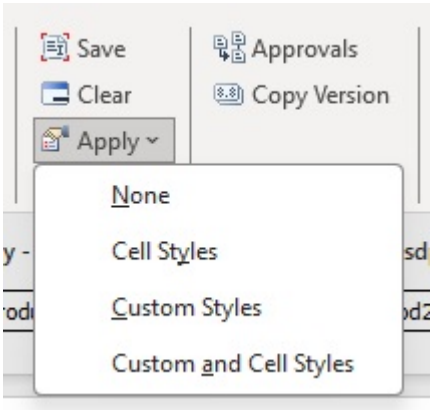
> **Tip:**
>
> **「適用」**オプションは*表示*オプションのみで、フォームに指定されたフォーマット(Groovy ルール、データ検証ルール、フォーマットのみのルールによるフォーマットに加え、Smart View セル・スタイルやユーザーがフォームに保存したカスタム Excel フォーマットなど)を表示できます。

フォームにスタイルを適用するには:

1. Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management Forms 2.0 フォームを開き、プロバイダ・リボンの**「フォーマット」**グループにある**「適用」**ボタンをクリックします。たとえば、Planning リボンなどです。

   図 1 に示すように、**「適用」**オプションが表示されます。オプションが選択される前の初期の状態は、どのオプションも選択されていない状態です。オプションを選択すると、最後のオプション選択が、次にフォームを開くときまで保持されます。

   Figure 23-19　「適用」オプション

2. オプションを選択します:

   - **「なし」**: シートにスタイル(デザイン時のフォーマット、Excel のカスタム・フォーマット、または Smart View のセル・スタイル)を適用しません。シートに設計時のフォーマット、セル・スタイル、Excel のカスタム・スタイルが存在する場合もありますが、このオプションを選択した場合は表示されません。ただし、それらは保持されているため、**「セルのスタイル」**、**「カスタム・スタイル」**または**「カスタム・スタイルとセルのスタイル」**オプションを使用して、後から表示できます。
   - **「セルのスタイル」**: Smart View で定義されたセル・スタイル、データ検証ルール、および Groovy ルールを適用します。フォーマットのルールや Excel のカスタム・フォーマットは適用されません。
   - **「カスタム・スタイル」**: 設計時に**「フォーマット/検証ルール・ビルダー」**で定義されたフォーマット・ルールと、Smart View で追加された Excel のカスタム・フォーマットを適用します。セル・スタイル、Groovy ルールのフォーマット、データ検証ルールのフォーマットは適用されません。
   - **「カスタム・スタイルとセルのスタイル」**: Groovy ルール、デザイン時のフォーマット・ルール(データ検証とフォーマットのみ)、すべてのセル・スタイル、カスタム Excel フォーマットをフォームに適用します。

   オプションの選択はすぐに適用され、フォームに表示されます。

設計時のフォーマット・ルールの定義方法と、フォーム上の**「適用」**オプションの効果を確認するには、ビジネス・プロセスの管理ガイドの「フォーマット・ルールのシナリオ」トピックを参照してください。たとえば、*Planning の管理*では、フォーマット・ルールのシナリオを参照してください。

Forms 2.0 での書式のクリア

フォームとして開いたフォームに関連付けられている Excel フォーマットをクリアするには、プロバイダ・リボン(Planning リボンなど)の**「フォーマット」**グループから**「クリア」**を選択します。

「クリア」オプションを選択すると、フォームに関連付けられているカスタム Excel フォーマットがすべて削除されます。なお、フォームに定義されている設計時フォーマット(Groovy ルール、データ検証ルール、フォーマットのみのルールなど)やセル・スタイル機能は、引き続き使用できます。これは、セル・スタイルが保存されているカスタム Excel フォーマットに依存しないためです。

Cloud EPM での複数グリッド・ワークシートの操作

Oracle Smart View for Office では、1 つのワークシートで複数のアド・ホック・グリッドを取得できます。グリッドはすべて同じデータ・ソースに接続することも、グリッドごとに異なるデータ・ソースに接続することもできます。

次も参照:

- ワークシート上の複数のグリッドについて
- Cloud EPM ソースによる複数グリッド・ワークシートの作成
- Cloud EPM の単一グリッド・ワークシートの複数グリッド・ワークシートへの変換
- Cloud EPM の複数グリッド・ワークシートの範囲の名前変更
- Cloud EPM の複数グリッド・ワークシートでの接続の変更
- Cloud EPM の複数グリッド・ワークシートでの POV 動作

ワークシート上の複数のグリッドについて

データ・ソース・タイプ: Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting

サポートされている Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management データ・ソースに接続している場合、1 つのワークシートで複数のグリッドを作成できます。これらのグリッドは、同じデータ・ソースに接続することも、異なる Cloud EPM データ・ソースに接続することもできます。たとえば、あるグリッドは Planning に接続し、別のグリッドは Tax Reporting に接続することができます。ソースはキューブまたはフォームです。これらのグリッド内のデータを取得して、ワークシート上でシフトできます。

> **ノート:**
>
> **管理者:** サービスのアプリケーション設定で **Smart View の「アド・ホック動作」** オプションを **「標準」** に設定し、Oracle Smart View for Office ユーザーが複数グリッド・アド・ホックを使用できるようにします。詳細は、サービスの管理者ドキュメントを参照してください。

ビデオ

目的	このビデオを見る
Smart View のワークシートでの複数のアド・ホック・グリッドの使用について学習します。	Smart View での複数のアド・ホック・グリッドの設定

このビデオでは、データ・ソースとして Planning を使用していますが、説明する機能は前述のすべての Cloud EPM プロバイダに共通です。

複数グリッド・ワークシートのガイドラインと制限

複数のグリッドをサポートするワークシートには、次のガイドラインおよび制限事項があります:

- フォームからアド・ホック・グリッドを作成するには、最低でも「ユーザー」役割が必要です。各クラウド・サービスの役割要件を確認してください。
- データを送信できるのは、一度に 1 つのグリッドのみです。

  一度に複数のグリッドでデータを送信しようとした場合、つまり、複数のグリッドでセル範囲を選択した場合、Excel によって戻された最初の範囲が、選択されたグリッドの判断に使用され、そのグリッドでのみ送信が実行されます。
- メンバー・オプション **「アドホック操作の式とコメントを保持(ピボットと元に戻すを除く)」** が選択されている場合、グリッド内から **「Smart View」** コンテキスト・メニューの右クリックを使用して表示される **「元に戻す」** オプションの使用で、シート上の式が保持されます。このオプションは、式がシートに追加されてリフレッシュを実行した後、1 回の「元に戻す」アクションについてのみサポートされます。Smart View のリボンの **「元に戻す」** オプションは、複数のグリッド・シートに対して有効になりません。アド・ホック・グリッドでの Excel 式の保持を参照してください。
- Microsoft Excel の **「名前の管理」** または **「名前ボックス」** を使用して、名前付き範囲の名前を変更しないでください。かわりに、次の方法のいずれかを使用して、名前付き範囲の名前を変更してください:
  - Smart View パネルの「ドキュメント・コンテンツ」ペイン内の **「名前変更の範囲」** コマンドを使用します。Cloud EPM の複数グリッド・ワークシートの範囲の名前変更を参照してください
  - *Oracle Smart View for Office 開発者ガイド* に示された VBA 関数の HypModifyRangeGridName を使用します。
- 複数接続の複数グリッド・ワークシートで、各グリッド上のピボットおよびズーム操作に対応できるスペースがグリッド間に十分あることを(特に、グリッドが大きい場合)確認してください。

  3 つ以上のデータベース接続がある場合、およびグリッドが非常に密接に配置されている場合、メタデータが失われることがあります。

- 複数グリッド・ワークシートで作業している場合、メンバー名とその別名が一致しないときは、グリッドのリフレッシュ時に不一致の詳細が存在する行番号を示すエラー・メッセージが表示されます。この行番号が、不一致が発生している Excel の行番号を正確に反映していない場合があります。これは、複数グリッド・ワークシートの任意の場所にグリッドを配置でき、行番号が相対的になっているために発生します。
- 目的の範囲を確実にリフレッシュするには、**「ドキュメント・コンテンツ」**ペインを使用して範囲を選択し、次にペインで**「リフレッシュ」**リンクをクリックします。リフレッシュ後、**「ドキュメント・コンテンツ」**から範囲を再度選択して、更新された範囲を強調表示します。
- Smart View では、管理拡張機能グリッドとアド・ホック分析グリッドが 1 つのシートに混在することはサポートされません。2 つのグリッド・タイプが 1 つのシートに混在する場合、リボン上のメニュー項目では、シート内で選択されているグリッドに関係なく、最後に開いたグリッドが反映されます。
- Smart View リボンの次のアイテムは無効になっています。
  - **元に戻す**
  - **やり直し**

  かわりに、複数グリッド・シートでの作業時に**「元に戻す」**および**「やり直し」**コマンドにアクセスするには、影響を受けるグリッドにカーソルがあることを確認してください。(**「ドキュメント・コンテンツ」**ペインを使用して、正しいグリッドが選択されていることを確認します。)次に、右クリックしてコンテキスト・メニューから**「Smart View」**を選択し、**「元に戻す」**または**「やり直し」**を必要に応じて選択します。
- 該当するプロバイダ・リボンの次の項目は無効になっています。
  - **POV にピボット**
  - **POV**
  - **フォーマットの保持**
  - **スマート・スライス**
  - **アド・ホック・グリッドの保存**
  - **スマート・フォームとして保存**
  - **属性の挿入**
  - **グリッド分散**
  - **一括割当て**
  - **詳細**
  - **承認**
  - **バージョンのコピー**
  - **レポートの実行**
  - **データ・フィルタ**

Cloud EPM ソースによる複数グリッド・ワークシートの作成

データ・ソース・タイプ: Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting

複数グリッド・ワークシートを作成するには:

1. Excel で、Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management データ・ソースに接続します。
2. ワークシート内の任意の場所で、セルの範囲を選択します。

   1 つのセルではなく、範囲を選択する必要があります。
3. Smart View パネルで、アクションを実行します。
   - キューブを右クリックして、**「接続」**を選択します。キューブを再度右クリックして、**「アド・ホック分析」**を選択します。
   - フォームを右クリックして、**「アド・ホック分析」**を選択します。

     複合フォームまたはダッシュボードはアド・ホック・グリッドのソースとして使用できません。
4. ワークシートを変更して複数のグリッドをサポートするよう求められたら、**「はい」**を選択します。

> **ノート:**
>
> 通常の単一グリッド・ワークシートから始めて、シートに別のグリッドを追加する場合、Cloud EPM の単一グリッド・ワークシートの複数グリッド・ワークシートへの変換を参照してください。

5. ワークシートに別のグリッドを作成するには:
   a. 別のセル範囲を選択します。
   b. Smart View パネルでキューブまたはフォームを右クリックし、**「アドホック分析」**を選択します。
6. 必要な分だけステップ 5 を繰り返して、ワークシートにグリッドを追加します。

Cloud EPM の単一グリッド・ワークシートの複数グリッド・ワークシートへの変換

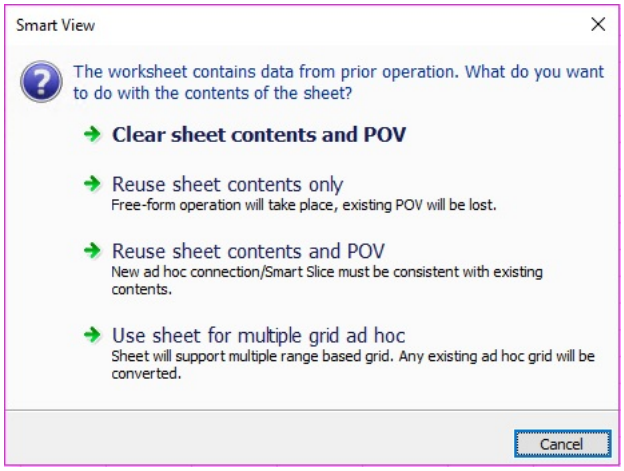
データ・ソース・タイプ: Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting

既存の Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management の単一グリッド・アド・ホック・ワークシートを、複数グリッドをサポートするワークシートに変換するには:

1. 既存のグリッド以外のワークシート内の任意の場所で、セルの範囲を選択します。

   1 つのセルではなく、範囲を選択する必要があります。
2. Smart View パネルでキューブまたはフォームを右クリックし、**「アドホック分析」**を選択します。

   シートにはすでにグリッドが含まれているため、次のダイアログが表示されます。



使用可能なオプションは次のとおりです。

- **シートのコンテンツと POV をクリア**
- **「シートのコンテンツのみを再利用」**は、シートのコンテンツのみを再利用します。この場合、シートのコンテンツはフリー・フォームに変換され、既存の POV は失われます。
- **「シートのコンテンツおよび POV を再利用」**。新しいアド・ホック接続またはスマート・スライスの POV が既存のコンテンツと一貫性がある場合にのみ、シートのコンテンツおよび POV を再利用します。
- **「シートを複数グリッド・アドホックに使用」**は、シートを複数の範囲ベースのグリッドをサポートするシートに変換して、シートの既存のアドホック・グリッドを保持します。

3. ダイアログで**「シートを複数グリッド・アドホックに使用」**を選択します。

   2 つ目のグリッドがワークシートに追加されます。これで、シートは複数グリッドをサポートするようになりました。

4. **オプション:** シートにさらにグリッドを追加するには、ステップ 1 とステップ 2 を繰り返します。

Cloud EPM の複数グリッド・ワークシートの範囲の名前変更

データ・ソース・タイプ: Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting

複数グリッド・ワークシートに範囲を設定する場合、Excel ではデフォルトで各範囲に名前を割り当てます。名前の範囲に使用される文字列は、特にわかりやすくない可能性があります。たとえば、Vision Plan1 キューブに基づいた範囲は次のようになります。

```
Vision_Plan1_88CA3264_EDFE_4E99_86B9_FEEEBF95DB42_1
```

よりわかりやすい名前がワークブックのすべてのユーザーにとって 便利ですが、Excel の「名前の管理」を使用して名前を変更すると Oracle Smart View for Office のメタデータが失われる可能性があります。

Smart View の「ドキュメント・コンテンツ」ペインの**「名前変更の範囲」**コマンドを使用して、名前をよりわかりやすい名前に変更します。

> **ノート:**
>
> 複数グリッド・ワークシートの範囲名を変更するには、「ドキュメント・コンテンツ」ペインの**「名前変更の範囲」**コマンドを使用する*必要があります*。

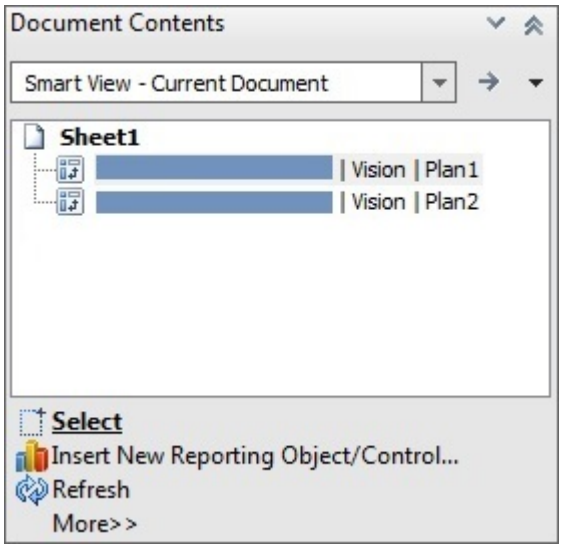
複数グリッド・ワークシートの範囲名を変更するには:

1. 「ドキュメント・コンテンツ」ペインがまだ表示されていない場合は、「ドキュメント・コンテンツ」ペインを開きます。

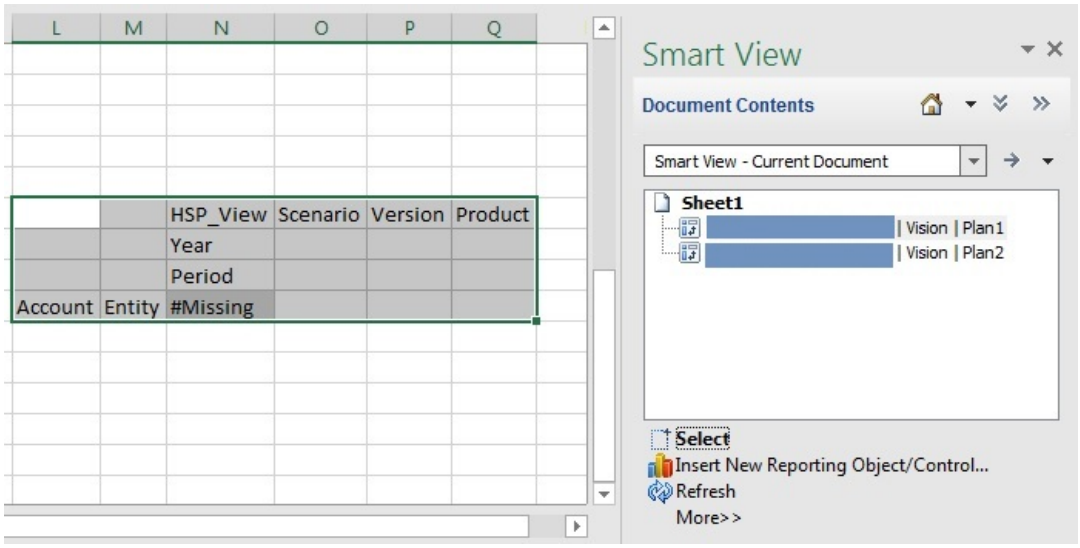
   「ドキュメント・コンテンツ」ペインを表示する手順については、Cloud EPM の複数グリッド・ワークシートでの接続の変更のステップ 1 を参照してください。

2. 「ドキュメント・コンテンツ」ペインで、ツリーで名前変更する範囲を強調表示して、**「選択」**をクリックします。

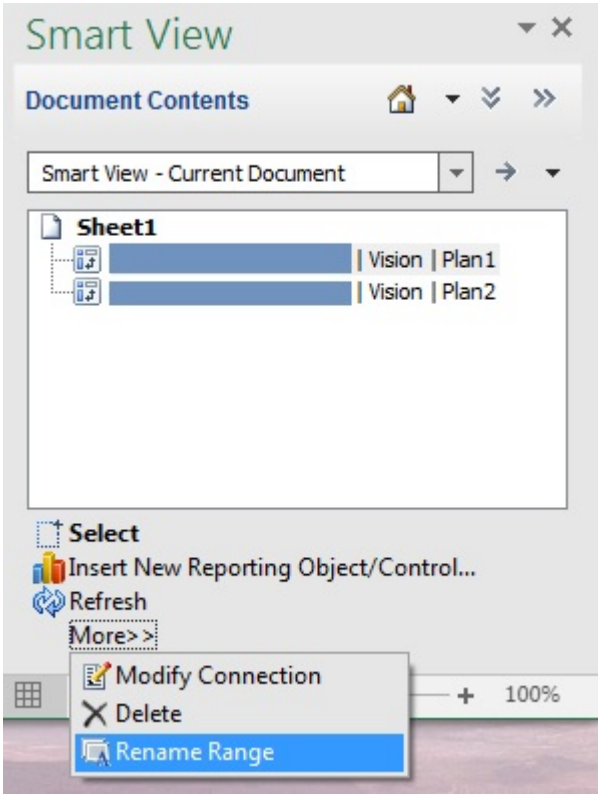
   次の例では、`Vision | Plan 1` がツリーで強調表示されています。



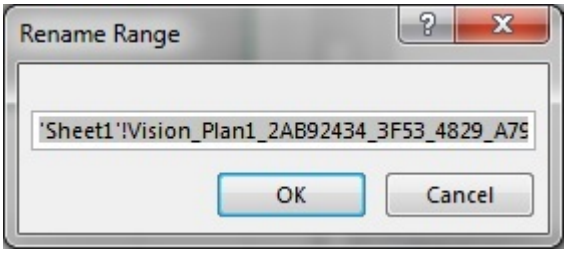
「選択」コマンドを使用して、シートの正しいグリッドを操作していることを確認します。たとえば、「`Vision | Plan1`」を強調表示して**「選択」**をクリックすると、ワークシート上の Vision Plan1 グリッドが強調表示されます。



3. アクション・パネルで、**「詳細」**、**「名前変更の範囲」**の順に選択します。

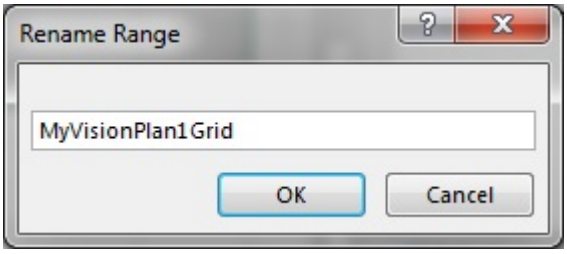


「名前変更の範囲」ダイアログ・ボックスが表示され、Excel で範囲に割り当てられたデフォルト名が示されます。



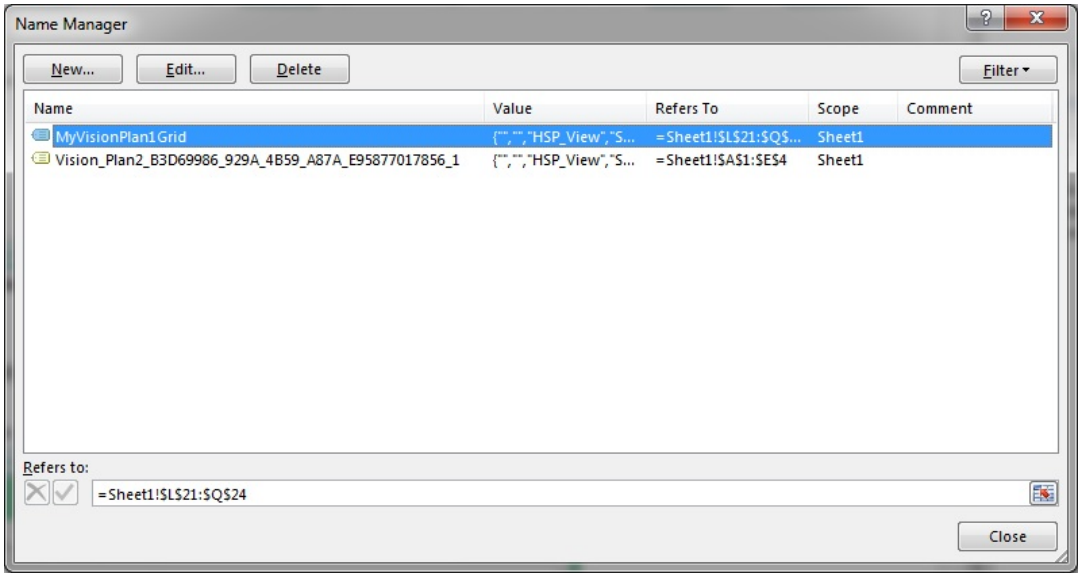
4. **「名前変更の範囲」**で、新しい範囲名を入力して、**「OK」**をクリックします。

   範囲名を `MyVisionPlan1Grid` に変更します。

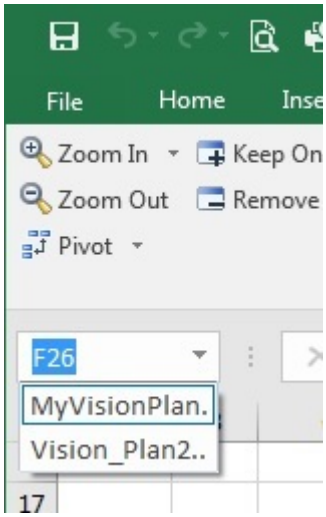


5. 範囲名が Excel の**「名前の管理」**で変更されていることを確認します。

   Excel の「数式」リボンからアクセスする**「名前の管理」**の例を示します。



Excel の**「名前ボックス」**ドロップダウン・リストで変更された範囲名を表示することもできます。



Cloud EPM の複数グリッド・ワークシートでの接続の変更

データ・ソース・タイプ: Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting

「ドキュメント・コンテンツ」ペインから、複数グリッド・ワークシート内の各グリッドの接続を変更できます。これは、サーバーが異なる部門間でワークブックを共有する場合や、テスト環境から本番環境に移行する際に便利です。

同じ接続情報を共有するワークブック内のすべてのエンティティ (特定サービスの同じアプリケーションやキューブを指すすべてのワークシートやグリッドなど)の接続プロパティを変更できます。また、シートごとに接続情報を変更することも可能です。これを行うには、Office ドキュメント内の接続の変更を参照してください。

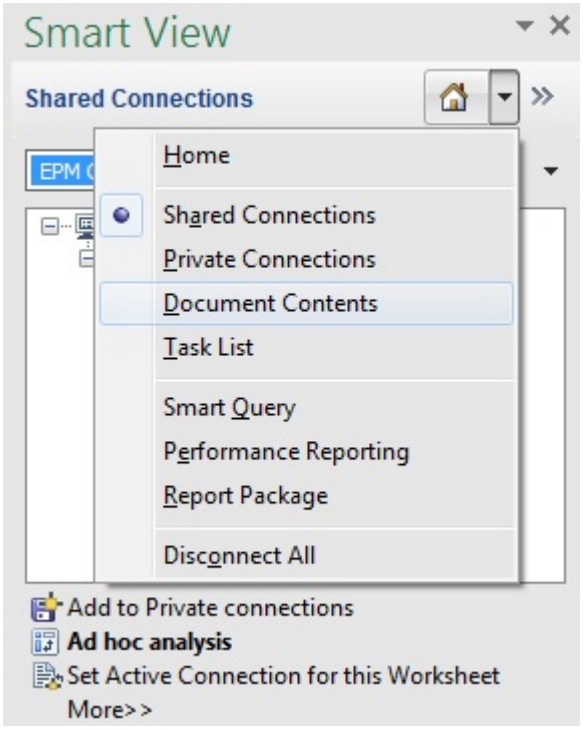
このトピックを使用して、複数グリッド・ワークシートの接続プロパティをグリッドごとに変更します。

複数グリッド・ワークシートでグリッドの接続を変更するには:

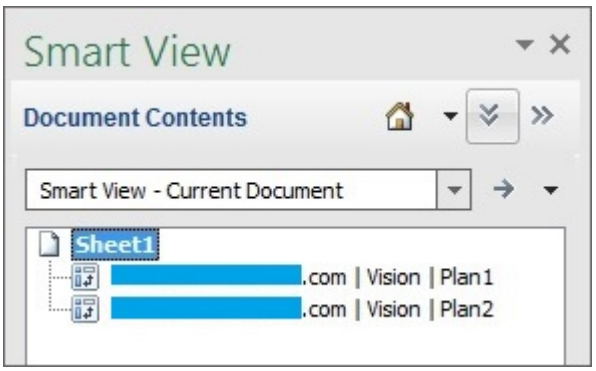
1. 「ドキュメント・コンテンツ」ペインがまだ表示されていない場合は、「ドキュメント・コンテンツ」ペインを開きます。

   「ドキュメント・コンテンツ」ペインを開くには:

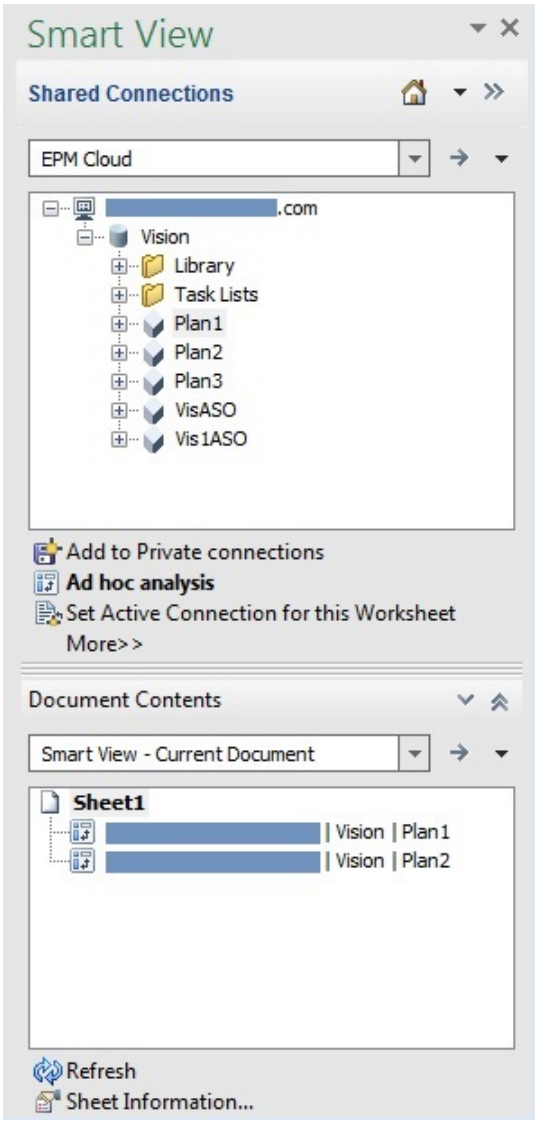
   a. Smart View パネルで  の隣にある矢印をクリックし、**「ドキュメント・コンテンツ」**を選択します。



   Smart View パネルの領域に「ドキュメント・コンテンツ」ペインが表示されます

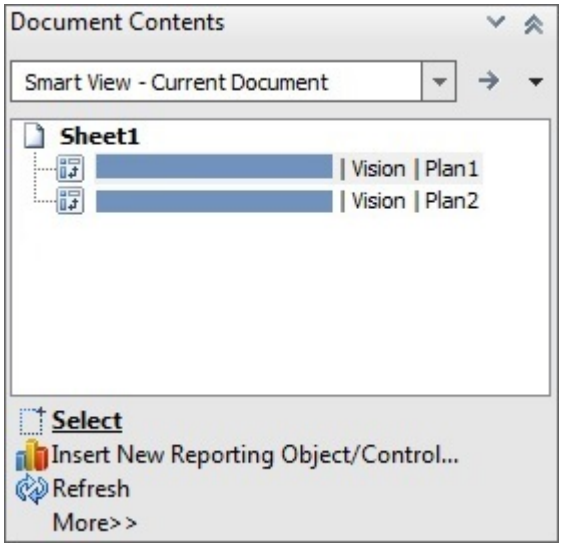


   b. Smart View パネルにライブラリ・ペインと「ドキュメント・コンテンツ」ペインの両方を表示するには、パネルの上部の  の隣にある  をクリックします。

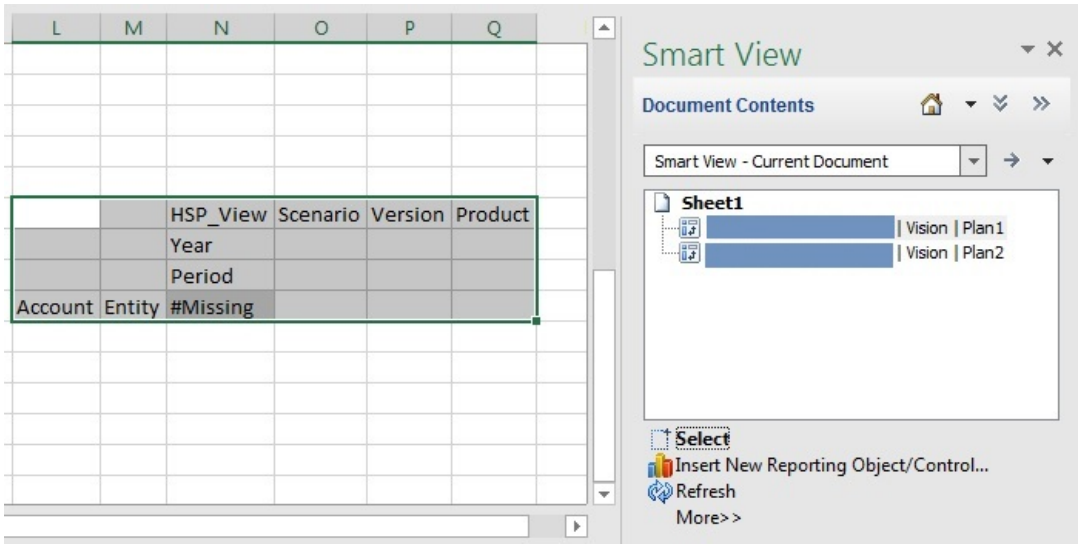


2. 「ドキュメント・コンテンツ」ペインで、作業するグリッドをツリーで強調表示して、**「選択」**をクリックします。

   次の例では、`Vision | Plan 1` がツリーで強調表示されています。



「選択」コマンドを使用して、シートの正しいグリッドを操作していることを確認します。たとえば、「`Vision | Plan1`」を強調表示して**「選択」**をクリックすると、ワークシート上の Vision Plan1 グリッドが強調表示されます。



3. アクション・パネルで**「詳細」**をクリックし、**「接続の変更」**を選択します。

   あるいは、接続名またはシート名を右クリックして、**「接続の変更」**を選択します。

   ウィザードの**「接続の編集 - URL」**ページが表示されます。

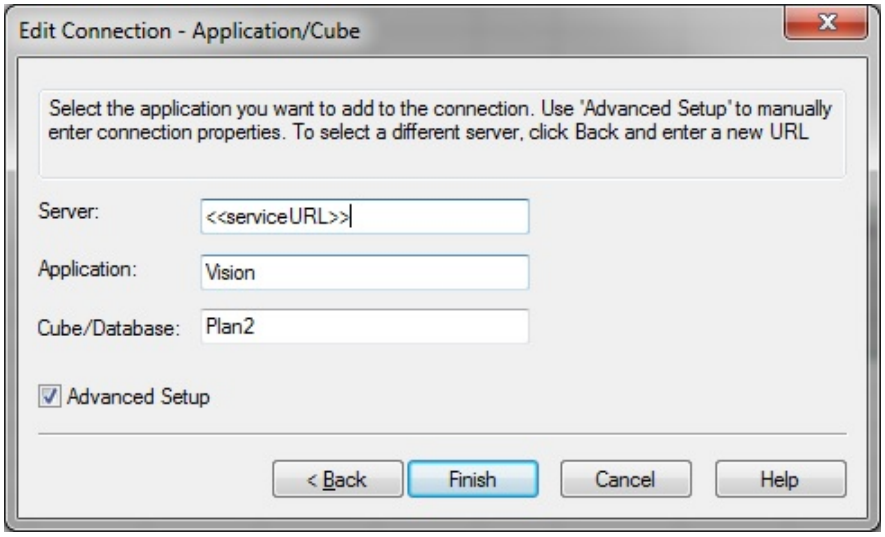
4. **「URL」**ドロップダウン・リストで、既存の接続を選択するか、プライベート接続の構文を使用して新しい接続 URL を入力します。

5. **「次へ」**をクリックして、**「接続の編集 - アプリケーション/キューブ」**で**「サーバー」**を展開し、プロバイダの要求に応じて、接続先のアプリケーションおよびデータベースに移動します。

   または、**「拡張設定」**チェック・ボックスを選択し、プロバイダの要求に応じて、**「サーバー」**(サービスの URL)、**「アプリケーション」**および**「キューブ/データベース」**に手動で情報を入力します。

   たとえば、図 1 に、Oracle Essbase アプリケーションおよびキューブに接続するためのエントリを示します。

図 23-20 接続の編集 - アプリケーション/キューブの拡張設定



6. **「終了」**をクリックします。
7. アクション・パネルで**「リフレッシュ」**をクリックします。
8. この手順を繰り返して、ワークブック内の他のグリッドの接続情報を変更します。
9. 変更された接続情報を保存するには、ワークブックを保存します。

   変更された接続情報は、ワークブックを保存するときに保存されます。

Cloud EPM の複数グリッド・ワークシートでの POV 動作

データ・ソース・タイプ: Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting

1 つのグリッドのみを含む複数グリッド・ワークシートでは**「POV」**ボタンが有効になっており、このボタンで POV ツールバーの表示/非表示を切り換えることができます。複数のグリッドを含む複数グリッド・ワークシートでは、**「POV」**ボタンは使用できません。

1 つのグリッドを含む複数グリッド・ワークシートでは、POV ディメンションがグリッドとツールバーの両方に表示されます。通常のアド・ホック・ワークシートでは、POV ツールバーが非表示の場合のみ、POV ディメンションがグリッドに表示されます。

ユーザー・プリファレンスの設定

アプリケーションのユーザー・プリファレンスを設定できます。

データ・ソース・タイプ: Planning、Planning モジュール、Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Tax Reporting

アプリケーションのユーザー・プリファレンスを設定するには:

1. Smart View パネルのツリー・リストでアプリケーションを選択します。
2. 右クリックして**「ユーザー・プリファレンス」**を選択します。
3. **「プリファレンス」**ダイアログで次のオプションを指定します

- **アプリケーション設定:** 電子メール・オプションを管理し、別名設定を指定し、承認のオプションを設定し、不在設定を指定します。
  - セクション内のすべてのオプションにデフォルトのアプリケーション設定を使用する場合は、**「デフォルトの使用」**チェック・ボックスを選択します。
  - オプションにデフォルトのアプリケーション設定を使用するには、右側のチェック・ボックスを選択します。
  - オプションのデフォルトのアプリケーション設定をオーバーライドするには、左側のチェック・ボックスを選択します。
  - 必要な E メール・アドレスを入力し、アプリケーション所有者をコピーする必要があるかどうかを指定し、ワークフロー、タスク・リストおよびジョブ・コンソールの通知を使用可能にします。
  - **「別名表」**には、左側のドロップダウン・リストから別名表を選択してデフォルトのアプリケーション設定をオーバーライドし、左側のチェック・ボックスを選択します。

    > **ノート:**
    >
    > 別名表の変更を反映するには、Oracle Smart View for Office を再起動して再接続する必要があります。

  - 不在時のアシスタントを設定するには、**「不在時のアシスタント」**をクリックし、**「現在不在です」**チェック・ボックスを選択します。アクションおよび次の所有者を選択し、必要に応じて注釈を入力し、**「送信」**をクリックします。
- **表示設定:** 数値のフォーマット、ページ・オプション、およびその他のオプションを設定します。
  - セクション内のすべてのオプションにデフォルトのアプリケーション設定を使用する場合は、**「デフォルトの使用」**チェック・ボックスを選択します。
  - オプションにデフォルトのアプリケーション設定を使用するには、右側のチェック・ボックスを選択します。
  - オプションのデフォルトのアプリケーション設定をオーバーライドするには、左側のチェック・ボックスを選択します。
  - 数値のフォーマットについては、3 桁ごとのセパレータ、小数点、負数記号、負数の色のフォーマットを設定できます。
  - ページ・オプションで、選択したページ・メンバーを記憶するための設定を定義し、ページ数が指定した数を超えた場合は検索を許可し、メンバーのインデントを設定します。
  - 他のオプションでは、集計演算子の表示、データ・フォームが指定したセルの数より大きい場合の警告の設定、各ディメンション・ページでの指定したメンバー数の表示、各アクセス権の割当ページでの指定した数のレコードの表示、および日付フォーマットの設定を行うことができます。
- **ユーザー変数**: 大きいフォームやグリッドのナビゲートに役立つように管理者によって設定される変数。
  - ユーザー変数に対して選択したメンバーを変更するには、 をクリックして**「メンバー選択」**ダイアログを起動します。
  - Smart View 21.100 以上: **「メンバー選択」**ダイアログで、別名表をメンバーに適用できます。 をクリックし、**「別名表」**を選択して、ポップアップ・ウィン

ドウのリストから別名表を選択します。表を選択して、ウィンドウを閉じます。これで、別名表の選択内容が**「メンバー選択」**ダイアログのメンバーに適用されます。ユーザー変数のメンバーを選択し、**「OK」**をクリックしてダイアログを閉じます。

- **「メンバー選択」**で別名表を変更すると、ユーザー変数を設定したときのダイアログのビューのみ影響を受けます。**「メンバー選択」**の使用の詳細は、メンバー・セレクタからのメンバーの選択を参照してください。
- **「選択したメンバー」**フィールドにメンバー名を直接入力することもできます。正しくないメンバーを入力した場合またはアクセス権がない場合は、メンバーが存在しないか、メンバーへのアクセス権がないことを警告するメッセージが表示されます。**「OK」**をクリックして**「プリファレンス」**に戻り、正しいメンバーを入力または選択します。

4. ユーザー・プリファレンスを設定した後、**「OK」**をクリックします。

> **ノート:**
>
> - Web アプリケーション内のフォームで設定されたロケール、日付フォーマットおよび小数点と数値フォーマットのユーザー・プリファレンスは、Smart View 内のフォームには適用されません。
> - **「オプション」**ダイアログの**「フォーマット」**タブで、**「3 桁ごとのセパレータの使用」**オプションを使用可能にして、**「スケール」**および**「小数点以下の桁数」**オプションを設定することで、Smart View 内のフォームの小数点および数値フォーマットを指定できます。詳細は、フォーマット・オプションを参照してください。

Cloud EPM での Smart View の動作オプション

管理者は、Web インタフェースで Oracle Smart View for Office の動作に影響するオプションを設定できます。

データ・ソース・タイプ: Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Planning、Planning モジュール、Tax Reporting

Smart View の動作に影響を与えるオプションは次のとおりです:

- 抑制モード
- Smart View のアド・ホック動作

これらのオプションの説明は、ビジネス・プロセスの管理ドキュメントを参照してください。たとえば、Planning の場合は、指定できるアプリケーションおよびシステムの設定を参照してください

また、次のトピックで情報を確認してください:

- Smart View のアド・ホック動作の設定および保存済のアド・ホック・グリッド
- Smart View のアド・ホック動作の設定および有効なメンバーへの非管理アクセス
- Smart View のアド・ホック動作の設定およびメンバー選択
- Smart View のアド・ホック動作の設定および行/列抑制オプション
- Smart View のアド・ホック動作の設定および追加の「ズーム・イン」オプション

- Smart View のアド・ホック動作の設定およびアド・ホックの複数セル選択操作
- Smart View のアド・ホック動作の設定および繰返しメンバーの抑制
- Smart View のアド・ホック動作の設定およびメンバー名と別名の表示
- Smart View アド・ホック動作アプリケーション設定におけるネイティブ・モード・オプションのサポートの削除
- ワークブックのネイティブ・モードから標準モードへの変換

抑制モード

Oracle Smart View for Office では、**「抑制モード」**アプリケーション設定は**「データなし / 欠落」**および**「ゼロ」**の抑制オプションと連動します。Web アプリケーションで、管理者は**「抑制モード」**設定を使用して抑制の動作を変更できます。

Smart View の**「オプション」**ダイアログにある**「データ・オプション」**タブで、**「行の抑制」**または**「列の抑制」**(あるいはその両方)に対し、**「データなし / 欠落」**および**「ゼロ」**オプションを選択します。Smart View での設定は、Web アプリケーションでの設定と連動します。

Web アプリケーションの**「抑制モード」**オプションと Smart View におけるその影響は、次のとおりです:

- **欠落した値のみを抑制** - Web アプリケーションでは、管理者は**「データなし / 欠落」**が含まれる行または列(あるいはその両方)を抑制する場合にこのオプションを有効化します。

  たとえば、Smart View において、行に対して**「データなし / 欠落」**オプションが選択されており、ある行に欠落データのみが含まれる場合、その行は抑制されます。表示は*されません*。Smart View で行に対して**「データなし / 欠落」**および**「ゼロ」**の両方の抑制オプションが選択されており、ある行にゼロおよび欠落データがどちらも含まれる場合、その行は表示されます。抑制は*されません*。
- **欠落を抑制したらゼロも抑制** - Web アプリケーションでは、管理者はすべての**「データなし / 欠落」**またはすべての**「ゼロ」**(あるいは両方の組合せ)が含まれる行または列(あるいはその両方)を抑制する場合にこのオプションを有効化します。

  Smart View では、**「行の抑制」**または**「列の抑制」**(あるいはその両方)に対して、**「データなし / 欠落」**および**「ゼロ」**オプションを有効化し、結果をアド・ホック・グリッドで確認する必要があります。

  たとえば、Smart View で、**「データなし / 欠落」**と**「ゼロ」**の両方の抑制オプションが列に対して選択され、列にゼロと「欠落」ラベルの両方が含まれる場合、列は抑制されます。表示は*されません*。ゼロのみを含む列および「欠落」ラベルのみを含む列も抑制され、表示*されません*。

Smart View で使用可能な抑制オプションの一般的な情報については、データ・オプションを参照してください。

Smart View のアド・ホック動作

21.08 以降では、すべての新規アプリケーションおよびすべての再作成済アプリケーションで**「Smart View アド・ホック動作」**オプションに対して**「標準」**設定のみが使用されます。この場合、**「Smart View アド・ホック動作」**オプションは選択できません。

> **Note:**
>
> 既存および移行済アプリケーションは動作の変更はなく、**「ネイティブ」**が**「Smart View アド・ホック動作」**のデフォルト設定のままとなり、**「標準」**はオプションとなります。
>
> **「ネイティブ」**モードの**「Smart View アド・ホック動作」**設定は、いずれ段階的に廃止されます(タイムラインはまだ決定していません)。「ネイティブ」モード・オプションを使用している場合、**「Smart View アド・ホック動作」**アプリケーション設定の**「標準」**モードへの切替えを計画することをお薦めします。

21.08 よりも前のアプリケーションおよび移行済 Web アプリケーションで、管理者はアプリケーション設定**「Smart View アド・ホック動作」**を使用して、アド・ホック機能と動作の拡張を有効にするよう選択できます。次のオプションがあります

- **ネイティブ** - アド・ホック機能の拡張を有効にしません。
- **標準**—アド・ホック機能の拡張を有効にします。

標準モード・アプリケーションは、次のアド・ホック機能および動作を提供します:

- グリッド内 POV - POV メンバーが POV ツールバーではなく、グリッドの POV 行(通常は最初の行)に配置されます。

  セルベースの POV を使用したメンバーの選択を参照してください。
- **データの送信**—Smart View のリボンのデフォルトの**「データの送信」**ボタンを使用すると、スマート・リスト値、テキスト値および明示的に変更した(ダーティになった)すべてのデータ・セルを含むグリッド内のすべてのセルが送信されます。送信操作が完了すると、グリッド全体がリフレッシュされます。

  グリッドがリフレッシュされた状態でない場合、Oracle Smart View for Office はリフレッシュ操作なしでデータの送信を実行しようとします。

  リフレッシュなしのデータの送信を参照してください。
- フリーフォームのサポート - グリッド内の任意の場所での空の列と行、および別名表の変更がサポートされます。また、削除されたメンバーがリフレッシュ時にグリッドに返される、メンバーの自動更新がサポートされます。

  フリー・フォーム・モードを参照してください。
- アド・ホック・グリッドの保存 - **「アド・ホック・グリッドの保存」**コマンドは有効化されており、アド・ホック・グリッドを保存できますが、**「フォーマットの送信」**オプションはまだ使用できません。

  アド・ホック・グリッドの保存および Smart View のアド・ホック動作の設定および保存済のアド・ホック・グリッドを参照してください。
- 複数グリッドのアド・ホック - 同一 Excel ワークシートでの複数アド・ホック・グリッドがサポートされます。複数グリッド・アド・ホックでは、シート上の任意のグリッドからデータを送信できます。集約ストレージ・キューブおよびブロック・ストレージ・キューブに基づくグリッドが同一シートでサポートされます。各グリッドは独立しています。たとえば、必要に応じて、シート上の 1 つのグリッドのみ別名表を変更できます。

  Cloud EPM での複数グリッド・ワークシートの操作を参照してください。
- 追加の「ズーム・イン」オプション - 次の追加の「ズーム・イン」オプションがサポートされます: **「兄弟レベル」**、**「同一レベル」**および「同一世代」。

Smart View のアド・ホック動作の設定および追加の「ズーム・イン」オプションを参照してください。

- アド・ホック操作における複数セルの選択 - 次のアド・ホック操作において複数セルの選択がサポートされます: **「ズーム・イン」**、**「ズーム・アウト」**、**「選択項目のみ保持」**および**「選択項目のみ削除」**。

  Smart View のアド・ホック動作の設定およびアド・ホックの複数セル選択操作を参照してください。

- アド・ホック・グリッドで繰返しメンバーを抑制します。

  Smart View のアド・ホック動作の設定および繰返しメンバーの抑制を参照してください。

- アド・ホック・グリッドでメンバー名とその別名の両方を表示します。

  Smart View のアド・ホック動作の設定およびメンバー名と別名の表示を参照してください。

- Oracle はネイティブ・モードをサポートしなくなったため、**「Smart View アド・ホック動作」**設定を**「ネイティブ」**から**「標準」**に変更してください。次に、ネイティブ・モードで作成されたワークブックを標準モードに変換してください。

  Smart View アド・ホック動作アプリケーション設定におけるネイティブ・モード・オプションのサポートの削除およびワークブックのネイティブ・モードから標準モードへの変換を参照してください。

「アド・ホック動作」オプションが**「標準」**に設定されている場合、次の機能はサポートされません。

- スマート・フォームの作成
- 標準モードでネイティブ・モード・グリッドを開く / ネイティブ・モードで標準モード・グリッドを開く(Smart View のアド・ホック動作の設定および保存済のアド・ホック・グリッドを参照)
- プライベート接続使用時のみ複数グリッド・シートでの HSACTIVE のサポート(共有接続を使用した複数グリッド・シートでの HSACTIVE はサポートされません)
- 式にズーム・イン
- 式の保持は複数グリッド・シートでは無効です

以降のトピックでは、Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management での標準モードの動作についてさらに詳細に説明します。

- Smart View のアド・ホック動作の設定および保存済のアド・ホック・グリッド
- Smart View のアド・ホック動作の設定および有効なメンバーへの非管理アクセス
- Smart View のアド・ホック動作の設定およびメンバー選択
- Smart View のアド・ホック動作の設定および行/列抑制オプション
- Smart View のアド・ホック動作の設定および追加の「ズーム・イン」オプション
- Smart View のアド・ホック動作の設定およびアド・ホックの複数セル選択操作
- Smart View のアド・ホック動作の設定および繰返しメンバーの抑制
- Smart View のアド・ホック動作の設定およびメンバー名と別名の表示
- Smart View アド・ホック動作アプリケーション設定におけるネイティブ・モード・オプションのサポートの削除
- ワークブックのネイティブ・モードから標準モードへの変換

Smart View のアド・ホック動作の設定および保存済のアド・ホック・グリッド

アプリケーションの **Smart View の「アド・ホック動作」**オプション設定は、ユーザーが開いて操作できるアド・ホック・グリッドに影響します。

管理者が **Smart View の「アド・ホック動作」**オプションの**「ネイティブ」**と**「標準」**を切り替えると、一方のモードで作成および保存されたアド・ホック・グリッドは、次の表に示した制限付きで開くことができます。

Smart View のアド・ホック動作 (作成および保存されたモード)	Smart View のアド・ホック動作 (開いてリフレッシュされたモード)	サポート
標準	標準	はい
標準	ネイティブ	いいえ
ネイティブ	標準	はい
ネイティブ	ネイティブ	はい

例:

- **「Smart View アド・ホック動作」**オプションが**「標準」**に設定されている場合、ユーザーは、サービスが**「標準」**または**「ネイティブ」**に設定されている間に作成および保存されたアド・ホック・グリッドを開いてリフレッシュできます。
- **「Smart View アド・ホック動作」**オプションが**「ネイティブ」**に設定されている場合、ユーザーは、サービスが**「ネイティブ」**に設定されている間に作成および保存されたアド・ホック・グリッドのみを開いてリフレッシュできます。

  「Smart View アド・ホック動作」オプションが**「標準」**に設定されている間に作成されたグリッドをユーザーが開いてリフレッシュしようとすると、エラー・メッセージが表示されます。**「Smart View アド・ホック動作」**オプションが**「ネイティブ」**に設定されている間に作成されたアド・ホック・グリッドを開いてリフレッシュするには、**「Smart View アド・ホック動作」**オプションが**「ネイティブ」**に設定されていることを確認してください。

管理者: **Smart View の「アド・ホック動作」**オプションは、サービスのアプリケーション構成オプションのページで設定します。詳細は、サービスの管理者ドキュメントを参照してください。

Smart View のアド・ホック動作の設定および有効なメンバーへの非管理アクセス

標準モードのアド・ホック・グリッドで、非管理ユーザーが有効なメンバーにアクセスできない場合、このメンバーはコメントとして処理され、リフレッシュ時にデータは表示されません。非管理ユーザーは、自分がアクセスできないメンバーとコメントを区別できません。

1 行に複数のディメンションがある次のシナリオについて考えます。ここで、C1 はコメントまたは非管理ユーザーがアクセスできないメンバーです:

1. C1 は、最も内側の行ディメンションの場所に配置されています。M1 および M2 は、非管理ユーザーがアクセスできる実際の有効なメンバーです。M1 および M2 は、C1 と同じ行に配置されています。リフレッシュ後、有効なメンバーは削除され、たとえば次のようになります

   行ディメンション:

   ```
   M1          M2          C1
   ```

   リフレッシュ後

   ```
   空白        空白        C1
   ```

2. C1 は、最も内側のディメンションの場所に配置されて*いません*。かわりに、有効なメンバーである M3 が、この行の最も内側の場所に配置されています。コメントである C1 は、リフレッシュ時に削除され、そのディメンションで以前の上の有効なメンバーに置き換えられ、たとえば、次のようになります:

   行ディメンション:

   ```
   M1          M2          M3

   M1          C1          M4
   ```

   リフレッシュ後

   ```
   M1          M2          M3

   M1          M2          M4
   ```

このアプローチは、同じ行に有効なメンバーとコメントが混在してユーザーが混乱することを避けるために役立ちます。

次の点に注意してください:

- 行が完全に空白のセルとコメントで構成されている場合、その行はリフレッシュ時に変更されません。
- 最初の行または列は、グリッドの境界を制御するため特別なケースとなります。その行または列でのメンバーやコメントの組合せによって、無効なグリッドに関するメッセージが表示される場合があります。これは意図的なものです。

Smart View のアド・ホック動作の設定およびメンバー選択

Smart View では、標準モード・アプリケーション(20.09 以降)に接続されているとき、**「メンバー選択」**を起動すると、ディメンションまたはメンバーが選択されたディメンションとしてダイアログに表示されます。標準モードでは、グリッド上で別のディメンションまたはメンバーを選択して**「メンバー選択」**を起動する前に、グリッドをリフレッシュする必要はありません。選択したディメンションは、デフォルトで**「メンバー選択」**に表示されます。

Smart View のアド・ホック動作の設定および行/列抑制オプション

標準モードでは、特定の行および列抑制オプションは、Smart View の「オプション」ダイアログに選択可能として表示されますが、サポートされていません。

- 標準モードでサポートされていない行抑制オプション:
  - アクセス権なし
  - 無効
  - アンダースコア文字
- 標準モードでサポートされていない列抑制オプション:
  - データなし/欠落
  - ゼロ
  - アクセス権なし

> **Note:**
>
> 行または列の**「アクセス権なし」**抑制オプションを選択すると、リフレッシュ時に次のエラー・メッセージが表示されます。
>
> アクセス権なし抑制オプションはサポートされていません。

Smart View のアド・ホック動作の設定および追加の「ズーム・イン」オプション

標準モードでは、プロバイダ・アド・ホックのリボンにある**「ズーム・イン」**ボタンのドロップダウン・メニューからこれらの追加コマンドを使用できます:

- **兄弟レベル** - 選択したメンバーの兄弟のデータを取得する場合に選択します。たとえば、Vision サンプル・データベースでの 1 月、2 月および 3 月に対するズームイン操作です。
- **同一レベル** - 選択したメンバーと同一レベルのすべてのメンバーのデータを取得する場合に選択します。たとえば、Vision サンプル・データベースでの Q1、Q2、Q3 および Q4 に対するズーム・インです。
- **同一世代** - 選択したメンバーと同じ世代のすべてのメンバーのデータを取得する場合に選択します。たとえば、Vision サンプル・データベースでの Q1、Q2、Q3 および Q4 に対するズーム・インです。

Smart View のアド・ホック動作の設定およびアド・ホックの複数セル選択操作

標準モードでは、複数の行または列メンバーのセルを選択して、次のいずれかのアクションを実行できます:

- **ズーム・イン**。「最下位レベル」や「同一世代」などのズーム・オプションが含まれます。
- **ズーム・アウト**。ズーム・アウトすると、ビューが次の上位レベルまで縮小されます。
- **選択項目のみ保持**および**選択項目のみ削除**。グリッドの整合性および有効性を維持する必要があることに注意してください。選択した内容によってグリッドに問題が発生する場合は、その問題を知らせる警告メッセージが Smart View に表示され、グリッドに対する変更は行われません。

Smart View のアド・ホック動作の設定および繰返しメンバーの抑制

複数の行で繰り返されるメンバーがグリッドに含まれる場合があります。表示を簡素化し、ユーザーにとって見やすくするために、標準モード・アプリケーションに接続しているときに、アド・ホック・グリッドでこれらの繰返しメンバーを抑制できます。

22.08 よりも前は、繰返しメンバーの抑制は、ネイティブ・モード・アプリケーションに接続しているときにのみサポートされていました。

アド・ホック・グリッドで繰返しメンバーを抑制するには、繰返しメンバーを含むアド・ホック・グリッドを開き、**「オプション」**ダイアログの**「データ・オプション」**タブの**「行の抑制」**セクションで、**「繰返しメンバー」**チェック・ボックスを選択します。次に、シートをリフレッシュして、アド・ホック・グリッドに繰返しメンバーが表示されなくなったことを確認します。

> **Note:**
>
> 繰返しメンバーがアド・ホック・グリッドで抑制されると、繰返しメンバーに対応するデータ・セルに対して行われたフォーマット変更は、**「フォーマットの保持」**オプションを使用して保持できず、グリッドのリフレッシュ時に失われます。

Smart View のアド・ホック動作の設定およびメンバー名と別名の表示

22.08 以降、**「メンバー名の表示」**オプション(**「メンバー名と別名」**)を使用して、標準モード・アプリケーションに接続しているときに、メンバー名とその別名の両方がアド・ホック・グリッドの行ディメンションの別々の列に表示されるようにできます。

「メンバー名と別名」を選択すると、データベース・メンバー名(多くの場合、ストック番号や製品コード)とメンバーの別名(メンバー名よりもわかりやすくできる)の両方をワークシートに表示するアド・ホック・グリッドを作成できます。

さらに、メンバー名と別名の横並び表示は Essbase アド・ホックの共通機能であり、これは Essbase で管理されているワークシートを Cloud EPM のフリーフォームのビジネス・プロセスに移行する際に役立ちます。

メンバー名とその別名の両方をアド・ホック・グリッドに表示するには、アド・ホック・グリッドを開き、**「オプション」**ダイアログの**「メンバー・オプション」**タブの**「全般」**セクションで、**「メンバー名の表示」**オプション(**「メンバー名と別名」**)を選択します。次に、シートをリフレッシュして、メンバー名とその別名がシートに表示されることを確認します。

> **Note:**
>
> - **「メンバー名と別名」**オプションが選択されると、重複する別名が行または列の見出しセルに表示される場合、それらが手動入力されているか、「ズーム・イン」や「選択項目のみ保持」などのアド・ホック操作の結果であるかにかかわらず、エラーが表示されます。
> - **「メンバー名と別名」**オプションは、フレックス・フォームにはサポートされていません。

Smart View アド・ホック動作アプリケーション設定におけるネイティブ・モード・オプションのサポートの削除

「Smart View アド・ホック動作」アプリケーション設定における**「ネイティブ」**モード・オプションは、Smart View ではサポートされなくなりました。

お客様はネイティブ・モードを引き続き利用できますが、エスカレーションおよび機能拡張ではこのモードはサポートされなくなりました。

「標準」が、Cloud EPM のすべての機能強化が提供されるアド・ホック・モードです。

Oracle は 2024 年末にネイティブ・モードのサポートを終了しました。ネイティブ・モードをご利用のお客様は、環境の **Smart View アド・ホック動作**アプリケーション設定を標準モードに変換し、ユース・ケースをテストすることをお薦めします。

見つかったギャップはすべて、標準モードの機能強化として記録する必要があります。機能強化は、Oracle によるレビューのため、できるだけ早くカスタマ・コネクト EPM プラットフォーム・アイデア・ラボに記録してください。

ワークブックのネイティブ・モードから標準モードへの変換

テストおよび環境で標準モードの使用を開始するには、次の手順を実行してください:

1. **「アプリケーション設定」**で、**「Smart View アド・ホック動作」**を**「標準」**に変更します。
2. Smart View で、ネイティブ・モードで作成されたシートを含むワークブックを開き、データ・ソースに接続します。
3. シートをリフレッシュします。
4. ワークブックを保存します。

> **Note:**
>
> - 既存のネイティブ・モードのワークシートは、設定を**「標準」**に変更しても「そのまま」動作すると想定されています。新しいアド・ホック・シートは、標準機能を使用して標準モードでのみ作成されます。
> - スマート・フォームは標準モードではサポートされていません。スマート・フォームを標準モードでサポートする予定はありません。

追加情報は、Smart View のアド・ホック動作の設定および保存済のアド・ホック・グリッドを参照してください。

24

Smart View と Narrative Reporting

次も参照:

- Narrative Reporting について
  Oracle Smart View for Office および Narrative Reporting 拡張機能では、使い慣れた Microsoft Office ツールを使用して、Narrative Reporting 内のデータにアクセスして操作できます。
- Smart View での Narrative Reporting の設定
  Oracle Smart View for Office で Narrative Reporting を設定できます。
- Smart View での Narrative Reporting への接続
  Microsoft Excel、Word または PowerPoint を起動するといつでも、Narrative Reporting に接続できます。
- Narrative Reporting ホームの使用
  Narrative Reporting への接続を作成した後、Narrative Reporting ホームを使用できます。
- Smart View でのレポート・パッケージの管理
  Oracle Smart View for Office でレポート・パッケージを管理できます。
- ドックレットの文書作成
  ドックレットの文書作成者は、Oracle Smart View for Office でレポート・コンテンツを提供します。
- レビューの実行
  レビューは、Oracle Smart View for Office でレビュー・インスタンスにコメントを入力し、フィードバックを提供することで実行します。
- 配布の操作
  配布により、レポート・パッケージの所有者は、レポート・パッケージ開発の任意の時点で関係者にレポート・コンテンツを送信できます。
- サインオフの実行
  署名者は、レポートのファイナライズされたコンテンツをレビューします。レポートをサインオフまたは否認できます。
- レポート・パッケージのリフレッシュ
  Smart View パネルの「ライブラリ」ペイン内の「レポート・パッケージのリフレッシュ」コマンドを使用して、レポート・パッケージのコンテンツをリフレッシュできます。
- レポート・パッケージ、セクションおよびドックレットの発行
  レポート・パッケージ、特定のセクションおよび個々のドックレットを、Narrative Reporting Web アプリケーションから発行することに加えて、Smart View から直接発行できます。
- Smart View の Narrative Reporting での Office ドキュメントの Cloud EPM への保存
  Oracle Smart View for Office では、Microsoft Office ドキュメントを Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management ライブラリに保存できます。Cloud EPM ライブラリに保存したドキュメントは、他のユーザーに対してアクセス可能にできます。保存したファイルをライブラリからダウンロードすることもできます。
- Smart View でのレポートの操作
  レポートは、Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management の財務および管理のレポートを作成するためのクラウドベースのレポート・ソリューションです。これによ

り、ユーザーは、Planning などの Cloud EPM ソース、および Oracle Essbase や ERP Cloud Financials などの他のソースを利用して、チャートやグリッドをレポートに挿入できます。

- Smart View での Narrative Reporting データの操作
  Oracle Smart View for Office を使用して、サポートされているオンプレミスおよびクラウドのデータ・ソースからデータをコピーできます。

Narrative Reporting について

Oracle Smart View for Office および Narrative Reporting 拡張機能では、使い慣れた Microsoft Office ツールを使用して、Narrative Reporting 内のデータにアクセスして操作できます。

自分および同僚が、Smart View からコピーしたまたは埋め込まれているリフレッシュ可能なデータを含む静的 PDF ファイル、Word、PowerPoint または Excel ファイルをコラボレーション環境で作業します。明確に定義された割当およびタスクから構成される Narrative Reporting ワークフローは、1 つのドキュメント内の多数のコントリビュータからの入力を整理します。一部のタスクは Narrative Reporting Web インタフェースで実行され、その他のタスクは Smart View で完了します。

Narrative Reporting を使用して次のことを行えます。

- Web インタフェースまたは Smart View を使用して、様々なタイプの *ドックレット*から構成される *レポート・パッケージ*構造を作成します。Smart View では、2 つの方法でレポート・パッケージを作成します
  - 1 つの Word または PDF ドキュメントから、後でドックレットをさらに追加します。
  - Word ドキュメント、PowerPoint プレゼンテーション・スライド、Excel ワークブックおよび PDF ファイルから構成される一連のドキュメントから。
- Web インタフェースまたは Smart View を使用して、*標準ドックレット*を Word、PowerPoint または PDF ベースのレポート・パッケージに追加します。
- Web インタフェースを使用して、*リンクされた標準ドックレット*(Narrative Reporting ライブラリに保管された Office ドキュメントにリンクされているドックレット)を Word、PowerPoint または PDF ベースのレポート・パッケージに追加します。
- Web インタフェースまたは Smart View を使用して、埋込み可能なコンテンツを含む Excel ベースの *リファレンス・ドックレット*を Word、PowerPoint または PDF ベースのレポート・パッケージに追加します。
- Web インタフェースを使用して、Word ドキュメント、PowerPoint スライド、Excel ワークブックおよび他のファイル・タイプ(PDF、HTML および TXT など)などの *サプリメンタル・ドックレット*をレポート・パッケージに追加します。
- Web インタフェースまたは Smart View を使用して、Word の目次を Word または PDF ベースのレポート・パッケージに追加します。
- レポート・パッケージ内の各ドックレット、リファレンス・ドックレットおよびサプリメンタル・ドックレットの文書作成、レビューおよび承認のための Web インタフェースを使用して、ユーザーにタイムラインと期限を含むアクセス権と責任を割り当てます。

  Smart View には、レポート・パッケージ構造の作成時に文書作成者の責任を割り当てるオプションもあります。
- Smart View を使用して、Microsoft Office で Office ベースのドックレットのコンテンツを直接文書作成します。ドックレットのコンテンツは、Word または PowerPoint で文書作成されます。リファレンス・ドックレットの埋込み可能なコンテンツは、Excel で文書作成され

ます。サプリメンタル・ドックレットのコンテンツは、適切な Office アプリケーションで文書作成されます。

Narrative Reporting への接続中に Smart View でドックレット、リファレンス・ドックレットおよびサプリメンタル・ドックレットを操作することも、Office タイプのドックレットをダウンロードしてローカルで操作することもできます。

Office ベースのサプリメンタル・ドックレットおよび Excel ベースのリファレンス・ドックレットは、チェックアウト、アップロードおよびチェックインなどの標準ドックレット・ワークフロー・タスクに従います。

- Web または Smart View から PDF ドックレットをダウンロードします。
- Smart View の機能を活用して、様々なデータ・ソースにアクセスし、個々のデータ・ポイント、フォーマット済レポート、変数または埋込みコンテンツをドックレットに組み込みます。

  Narrative Reporting データ・ソースおよびその他のサポートされているオンプレミスおよびクラウドのデータ・ソースからデータを取得できます。
- Web インタフェースまたは Smart View で、割り当てられたレビュー・インスタンスを共同でレビューし、コメントします。
- Web インタフェースまたは Smart View で、レポート・パッケージ全体に対してサインオフします。
- Web インタフェースでレポート・パッケージをファイナライズします。

Narrative Reporting レポート・パッケージのドックレット、リファレンス・ドックレット、Office ベースのサプリメンタル・ドックレットおよび参照ファイルを操作する場合は、Smart View を使用して、Narrative Reporting データ・ソースおよびオンプレミス・データ・ソースやクラウド・データ・ソースなどの他のサポートされているデータ・ソースからデータをコピーして貼り付けるか、埋め込むことができます。

たとえば、同じドックレット内に Oracle Essbase および Planning のデータを組み込むことができます。Word または PowerPoint のレポート・パッケージのドックレットに、Planning ソースから作成された損益計算書レポートとともに、Essbase ソースから作成された損益計算書が含まれている場合があります。コピーしたまたは埋め込んだ領域のデータ・ポイントは Word または PowerPoint に保持されるため、ドックレットをリフレッシュしてデータを最新に保つことができます。

概要や手順情報など、Narrative Reporting の詳細な説明は、Oracle Help Center の Narrative Reporting のドキュメントを参照してください。

Smart View での Narrative Reporting の設定

Oracle Smart View for Office で Narrative Reporting を設定できます。

この項の各トピックでは、Smart View での Narrative Reporting の設定について説明します。ワークフローは次のとおりです:

- Smart View インストーラのダウンロードと実行
- Narrative Reporting への接続の設定
- Narrative Reporting 拡張機能のインストール

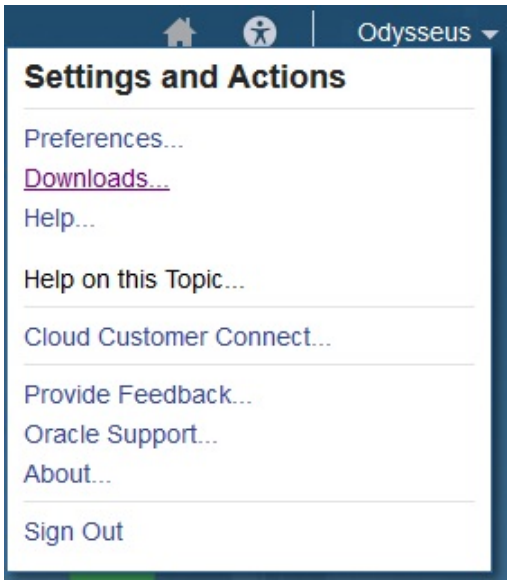
ビデオ

目的	このビデオを見る
Smart View の設定について学習します。	Smart View の設定

Smart View インストーラのダウンロードと実行

Oracle Smart View for Office インストーラをダウンロードおよび実行するには:

1. Web ブラウザで Narrative Reporting を開始し、Cloud EPM ユーザー名とパスワードを使用してログインします。
2. Narrative Reporting Web インタフェースの右上隅で、ユーザー名の横にある矢印を選択してユーザー・メニューを表示し、**「ダウンロード」**を選択します。



3. **「ダウンロード」**ページ(Smart View の下)で、**「Oracle Technology Network からダウンロード」**をクリックします。

   ポップアップ・ブロッカ・メッセージが表示されて続行できない場合は、ブラウザで現在の Web アドレスのポップアップの表示を許可するために必要な手順に従います。

4. Oracle Technology Network の **Oracle Smart View for Office** 情報ページで、**「今すぐダウンロード」**をクリックします。

   このアクションを実行すると、**Oracle Software Delivery Cloud** ページが表示されます。

   プロンプトが表示されたら、Oracle のログイン資格情報を入力します。

5. **Oracle Software Delivery Cloud** ページでの操作:

   a. Oracle Gadgets ライセンス契約を確認し、**次のライセンス契約を確認し、同意します**チェック・ボックスを選択します。

   b. **「Oracle Smart View for Office <version>」**チェック・ボックスを選択します。

c. **プラットフォーム**で、オプションを選択することが求められます。ただし、すべてのプラットフォーム用に 1 つの Smart View 実行可能ファイルしかないため、**「すべて」**オプションを選択することをお薦めします。

6. **「ダウンロード」**をクリックし、ブラウザの手順に従ってファイルをダウンロードし、コンピュータ上のフォルダに保存します。たとえば、ファイルを **Downloads** フォルダに保存します。

   Oracle Software Download Manager EXE ファイルが、コンピュータにダウンロードされます。

7. その EXE ファイルをダブルクリックし、**Oracle Download Manager** を起動し、これらのステップを実行します:

   a. **「宛先」**で、**「参照」**をクリックし、Smart View ダウンロード ZIP ファイルのフォルダに移動してから、**「次」**をクリックします。

   b. **「ステータス」**ウィンドウで、ZIP ファイルのダウンロードを許可し、**宛先を開く**をクリックして、ファイル・エクスプローラで ZIP のダウンロード場所を開きます。

8. ファイル・エクスプローラで ZIP ファイルの中身を解凍し、`SmartView.exe` をダブルクリックするか、`SmartView.exe` を右クリックして**「管理者として実行」**を選択し、インストール・ウィザードを開始します。

   > **ノート:**
   >
   > Smart View をインストールする際は、可能なかぎり**「管理者として実行」**コマンドを使用することをお薦めします。

9. Smart View の宛先フォルダを選択し、**「OK」**をクリックします。新しいインストール環境では、Smart View はデフォルトで次の場所にインストールされます:

   ```
   C:/Oracle/SmartView
   ```

   > **ノート:**
   >
   > Smart View のインストールをアップグレードする場合、インストーラでは、Smart View がインストールされていたフォルダにデフォルト設定されます。

10. インストールが完了したら**「OK」**をクリックします。

    Microsoft Excel、PowerPoint または Word を次に開いたときに、Smart View のリボンのタブが表示されます。

    に進み、設定プロセスを続行します。Narrative Reporting への接続の作成

Microsoft Excel、PowerPoint または Word を次に開いたときに、Smart View のリボンのタブが表示されます。

Narrative Reporting への接続の作成に進み、設定プロセスを続行します。

Narrative Reporting への接続の作成

Oracle Smart View for Office をインストールした後、Smart View インストーラのダウンロードと実行の説明に従って、Narrative Reporting への接続を作成できます。

接続には、サービス URL に関する情報が必要です。Smart View の管理者は、接続の作成に必要な情報を提供する必要があります。

Narrative Reporting への接続には、Smart View のクイック接続方法を使用します。

> **ノート:**
>
> 接続を*作成*するには、このトピックの手順を使用します。
>
> 接続が作成された後は、Smart View での Narrative Reporting への接続の手順を使用して日常的に接続します。

クイック接続方法を使用して Narrative Reporting へのプライベート接続を作成するには:

1. Microsoft Excel、Word または PowerPoint を開き、Smart View のリボンを選択します。
2. Smart View のリボンで、**「パネル」**をクリックします。
3. Smart View パネルから、**「プライベート接続」**を選択します。

   または、Smart View パネルから、**「切替え先」**ボタンの横にある矢印、をクリックし、ドロップダウン・リストから**「プライベート接続」**を選択します。
4. Smart View パネルで、図 1 に示したテキスト・ボックスに、Narrative Reporting のサービス URL を入力します。

   図 24-1 クイック接続 - URL の入力

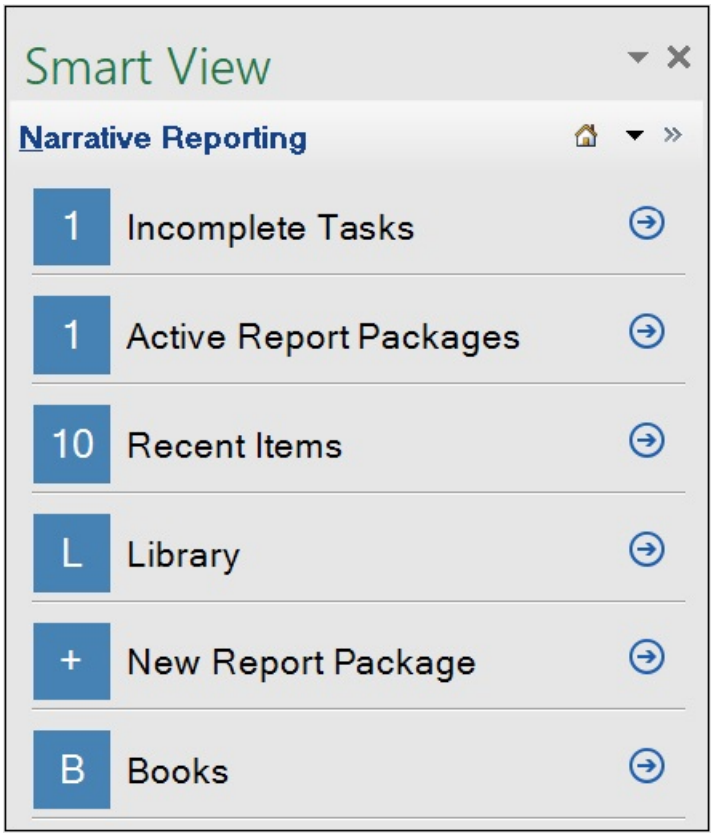
   

   URL 構文:

   ```
   https://serviceURL/epm/SmartView
   ```

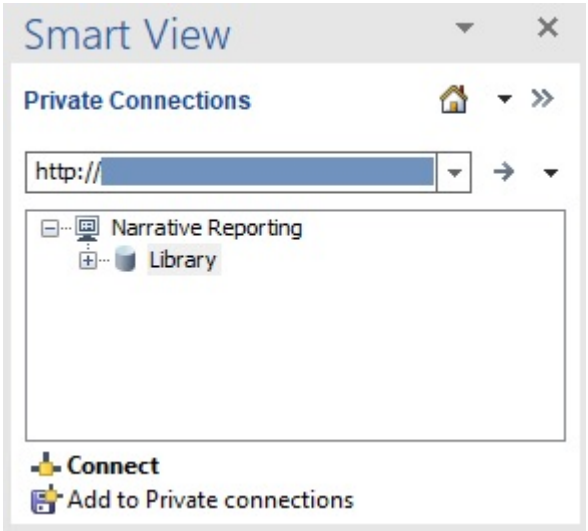
   Smart View 管理者が、Narrative Reporting の URL を提供する必要があります。
5. **[Enter]**を押します。

   または、サービス URL を入力したテキスト・ボックスの横にある**「実行」**ボタン、をクリックします。
6. ログイン・ウィンドウで、Oracle Cloud アイデンティティ ・サービス・ドメインの資格証明を入力し、**「サインイン」**をクリックします。
7. Narrative Reporting ホーム・パネルが表示された場合は、**「ライブラリ」**を選択して Smart View パネルを起動します(ホーム・パネルが表示されない場合は、次のステップに進みます)。



Narrative Reporting ホーム・パネルは、Narrative Reporting 拡張機能をすでにインストール済で、Narrative Reporting へのその他の接続を作成している場合に表示されます。たとえば、管理者がテスト環境または本番環境への接続を作成している場合があります。

8. Smart View パネルで、**「Narrative Reporting」**ノードを展開し、次に**「ライブラリ」**ノードを選択して、**「接続」**をクリックします。



9. 次のいずれかのアクションを行います:

   - **「拡張機能アラート」**ダイアログが表示された場合は、**「拡張機能ダイアログに移動」**ボタンをクリックします。**「拡張機能アラート」**ダイアログに、インストールに使用で

きる最新の Narrative Reporting 拡張機能が表示されます。拡張機能の更新手順を完了するには、拡張機能アラートの使用を参照してください。

- **「拡張機能アラート」**ダイアログが表示されない場合は、Narrative Reporting 拡張機能のインストールを続行します

Narrative Reporting 拡張機能のインストール

このトピックでは、Oracle Smart View for Office 内での Narrative Reporting 拡張機能のインストールについて説明します。

この手順を開始する前に、Narrative Reporting への接続の作成のステップを実行します。

> **ノート:**
>
> Narrative Reporting Web インタフェースから拡張機能をインストールすることもできます。Web から拡張機能をインストールするには、次を参照してください:
>
> - *管理者用スタート・ガイド*のクライアントのダウンロードおよびインストール
> - *ユーザー用スタート・ガイド*のクライアントのダウンロードおよびインストール

Smart View から Narrative Reporting 拡張機能をインストールするには:

1. Smart View リボンから、**「オプション」**、**「拡張機能」**の順に選択します。
2. **「更新、新規インストールおよびアンインストールのチェック」**リンクをクリックします。
3. **「拡張機能の更新の場所の選択」**で、接続を選択して、拡張機能の更新の有無をチェックし、**「更新の取得」**をクリックします。

   Smart View では、管理者が使用可能にしたすべての拡張機能をチェックします。

   すべての接続の使用可能な拡張機能をチェックするには、**「すべて選択」**を選択して、**「更新の取得」**をクリックします。

   ダイアログ・ボックスが拡大され、拡張機能の問合せの進行状況およびステータスが提供されるメッセージ・ウィンドウが表示されます。

   > **ノート:**
   >
   > Oracle Enterprise Performance Management System、Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition、Oracle Analytics Cloud の複数の製品に接続している場合は、Narrative Reporting 接続に対応するチェック・ボックスのみを選択できます。

4. **Narrative Reporting** という名前の拡張機能を検索し、**「インストール」**リンクをクリックし、Install をクリックしてインストーラを起動します。

> **ノート:**
>
> リリース 25.100 以降では、Smart View の最小バージョンが必要でも、現在の Smart View インストールが最小バージョンでない場合は、メッセージ・アラートが表示されます。
>
> インストールを続行できますが、インストールする拡張機能の一部の機能は利用できない場合があります。

5. 「この拡張機能の更新を適用しますか?」と尋ねるポップアップ・ダイアログで、**「はい」**、**「OK」**の順にクリックして、**「オプション」**ダイアログの**「拡張機能」**タブを閉じます。

   拡張機能のインストールの進捗状況がダイアログに表示されます。

6. インストールが正常に終了したことを通知し、Office の再起動を指示するメッセージ・ダイアログが表示されます。このダイアログで**「OK」**をクリックした後、Office を閉じて再起動します。

拡張機能のインストールの詳細は、次のトピックを参照してください:

- 使用可能な拡張機能の最初のチェック
- 拡張機能のインストール

このトピックの手順を完了すると、Smart View で Narrative Reporting の使用を開始する準備ができています。

Smart View での Narrative Reporting への接続

Microsoft Excel、Word または PowerPoint を起動するといつでも、Narrative Reporting に接続できます。

> **ノート:**
>
> Narrative Reporting に接続する前に、Smart View インストーラのダウンロードと実行および Narrative Reporting への接続の作成の手順を完了していることを確認します。

ビデオ

目的	このビデオを見る
Oracle Smart View for Office の設定と Narrative Reporting への接続について学習します。	 Smart View の設定

Narrative Reporting に接続するには:

1. 次のいずれかのアクションを行います:
   - Narrative Reporting レポート・パッケージを操作している場合は、レポート・パッケージのコンテンツに応じて Word または PowerPoint を起動します。

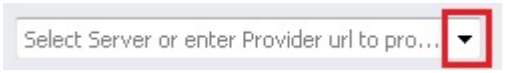
> **ノート:**
>
> レポート・パッケージは Word ドキュメントまたは PowerPoint スライドの(両方ではなく)いずれかで構成できます。

- Narrative Reporting モデルおよびレポートを操作している場合は、Excel を起動します。

2. Smart View のリボンを選択し、**「パネル」**をクリックします。
3. Smart View パネルで、**「プライベート接続」**を選択します。

   または、Smart View パネルから、**「切替え先」**ボタンの横にある矢印、をクリックし、ドロップダウン・リストから**「プライベート接続」**を選択します。
4. 図 1 に示されているテキスト・ボックスで、ドロップダウン・メニューを表示する矢印をクリックして、接続を選択します。

図 24-2 ドロップダウン・リストのクイック接続の矢印



Narrative Reporting への接続の作成の手順を使用してデータ・ソース接続を作成した場合、ドロップダウン・リストの**「クイック接続 URL」**の下にリストされます。

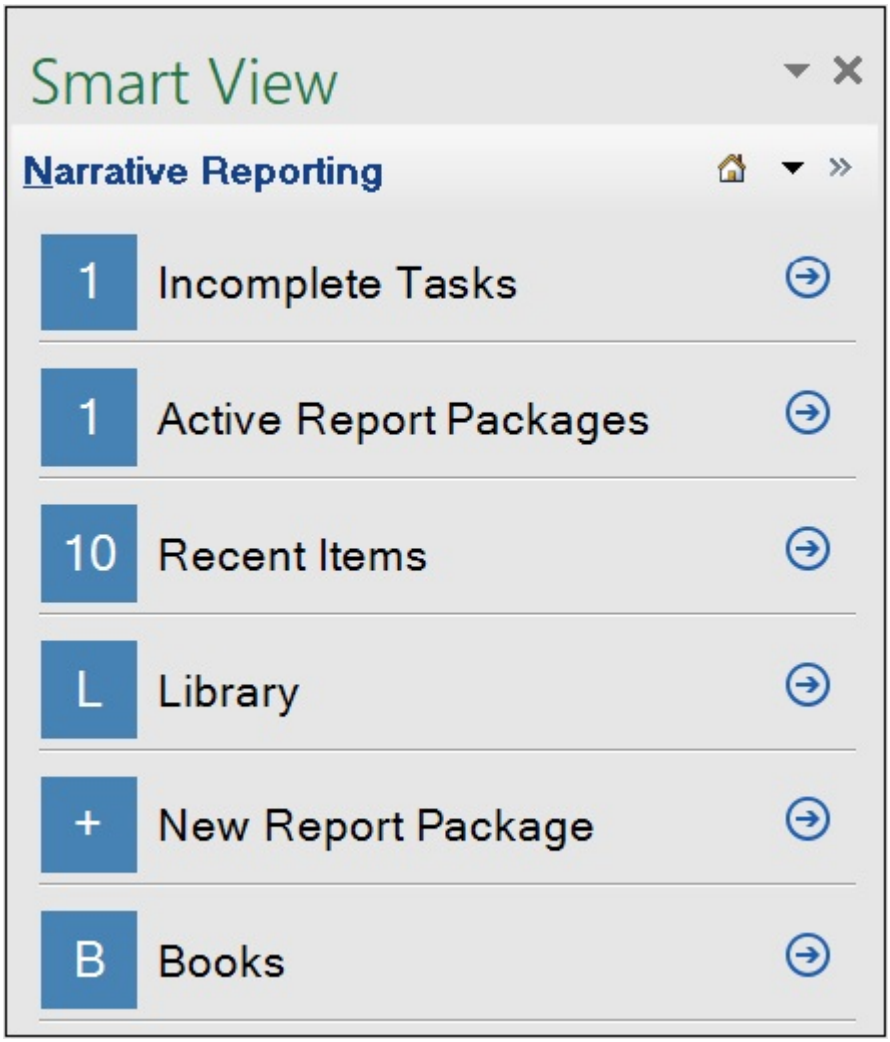
5. **「ログイン」**ウィンドウで、**「ユーザー名」**と**「パスワード」**に入力し、**「サインイン」**をクリックします。

   「Narrative Reporting ホーム」パネルが表示されます。Narrative Reporting ホームにより、関係する保留中のタスクおよびその他の作業に簡単にアクセスできます。Narrative Reporting ホームから、次にアクセスできます:

   - **未完のタスク** — 割り当てられている未完のラスク。
   - **アクティブなレポート・パッケージ** — 未処理のタスクで責任があるアクティブなレポート・パッケージです。
   - **最近のアイテム** — 最近アクセスしたアイテム。
   - **ライブラリ** - レポート・パッケージおよびレポート・アプリケーションを含む Narrative Reporting のアイテムのライブラリ。
   - **新規レポート・パッケージ** - **「新規レポート・パッケージ」**ダイアログへのショートカットで、ここでレポート・パッケージ構造を定義します。

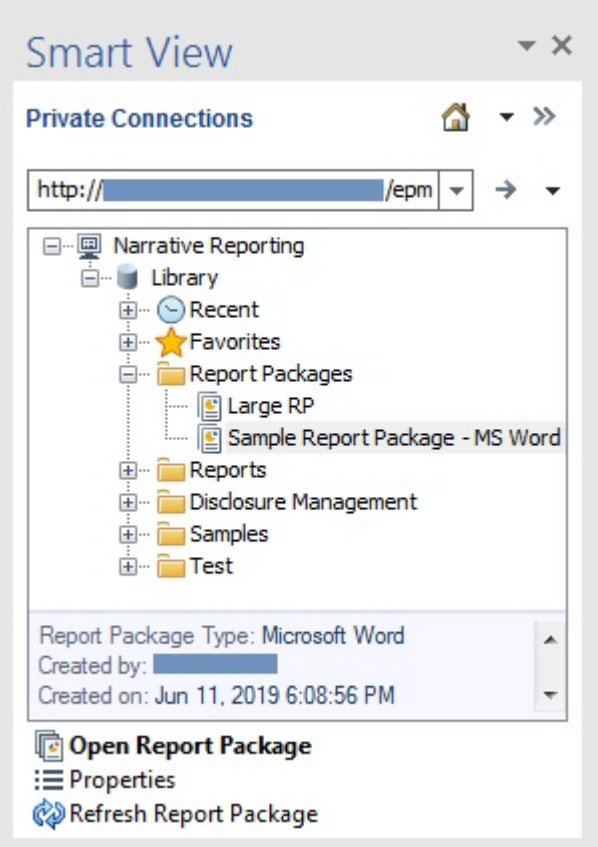
   図 2 は、Narrative Reporting ホームの例を示しています。

図 24-3 Narrative Reporting ホーム



> **ノート:**
>
> 次のステップでは、Narrative Reporting ホームで**「ライブラリ」**をクリックして、Narrative Reporting ライブラリ・ノードからレポート・パッケージまたはレポート・アプリケーションにアクセスする方法について説明します。**「未完のタスク」**s、**「アクティブなレポート・パッケージ」**および**「最近のアイテム」**を使用して、レポート・パッケージおよびタスクにアクセスすることもできます。これらのアクセス方法は、Narrative Reporting ホームの使用で説明します。

6. **「ライブラリ」**をクリックし、次のアクションを実行します:
   - Word または PowerPoint でレポート・パッケージを操作するには:
     a. **「Narrative Reporting」**ノード、**「ライブラリ」**ノード、**「レポート・パッケージ」**フォルダの順に展開し、レポート・パッケージを選択します。



次の場所に移動してレポート・パッケージを特定することもできます。

- Narrative Reporting Web インタフェースのレポート・パッケージに最近アクセスした場合は、**「最近」**フォルダ
- Narrative Reporting Web インタフェースでレポート・パッケージをお気に入りとして指定した場合は、**「お気に入り」**フォルダ。
- Narrative Reporting Web インタフェースで作成したフォルダにレポート・パッケージを保存した場合は、ユーザー定義フォルダ。

b. 「アクション」パネルで、**「レポート・パッケージのオープン」**を選択します。

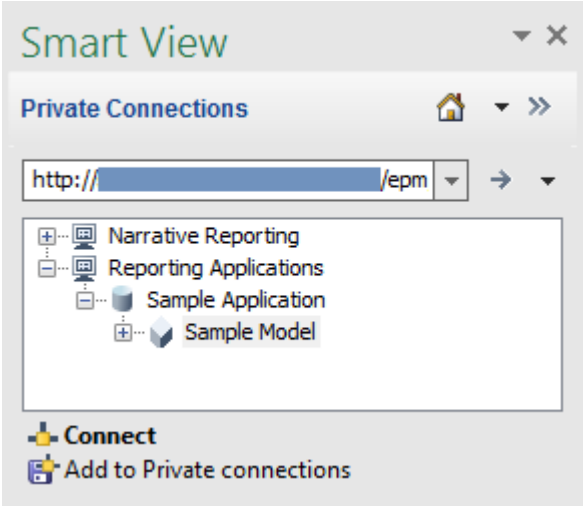
または、レポート・パッケージ名を右クリックし、**「レポート・パッケージのオープン」**を選択するか、レポート・パッケージ名をダブルクリックしてオープンすることもできます。

c. レポート・パッケージを操作するには、この章の次のトピックに進みます。

- ドックレットの文書作成
- レビューの実行
- サインオフの実行

- Narrative Reporting モデルを Excel で操作するには:

a. **「レポート・アプリケーション」**フォルダ、アプリケーションの順に展開し、モデルを選択します。



b. 「アクション」パネルで、**「接続」**をクリックします。

   または、モデル名を右クリックし、**「接続」**を選択するか、モデル名をダブルクリックして接続できます。

c. Narrative Reporting レポート・アプリケーションまたは他の Oracle プロバイダのアプリケーションの操作の詳細は、このガイドのアド・ホック分析の章を参照してください。

> **ノート:**
>
> Excel では、Smart View パネルで**「Narrative Reporting」**、**「ライブラリ」**の順に移動し、レポート・パッケージを選択することもできます。Smart View により、レポート・パッケージが場合に応じて Word または PowerPoint で起動されます。

7. **オプション:** Smart View で Narrative Reporting を使用する簡単な説明は、例: Smart View での Narrative Reporting データの操作を参照してください。

Narrative Reporting ホームの使用

Narrative Reporting への接続を作成した後、Narrative Reporting ホームを使用できます。

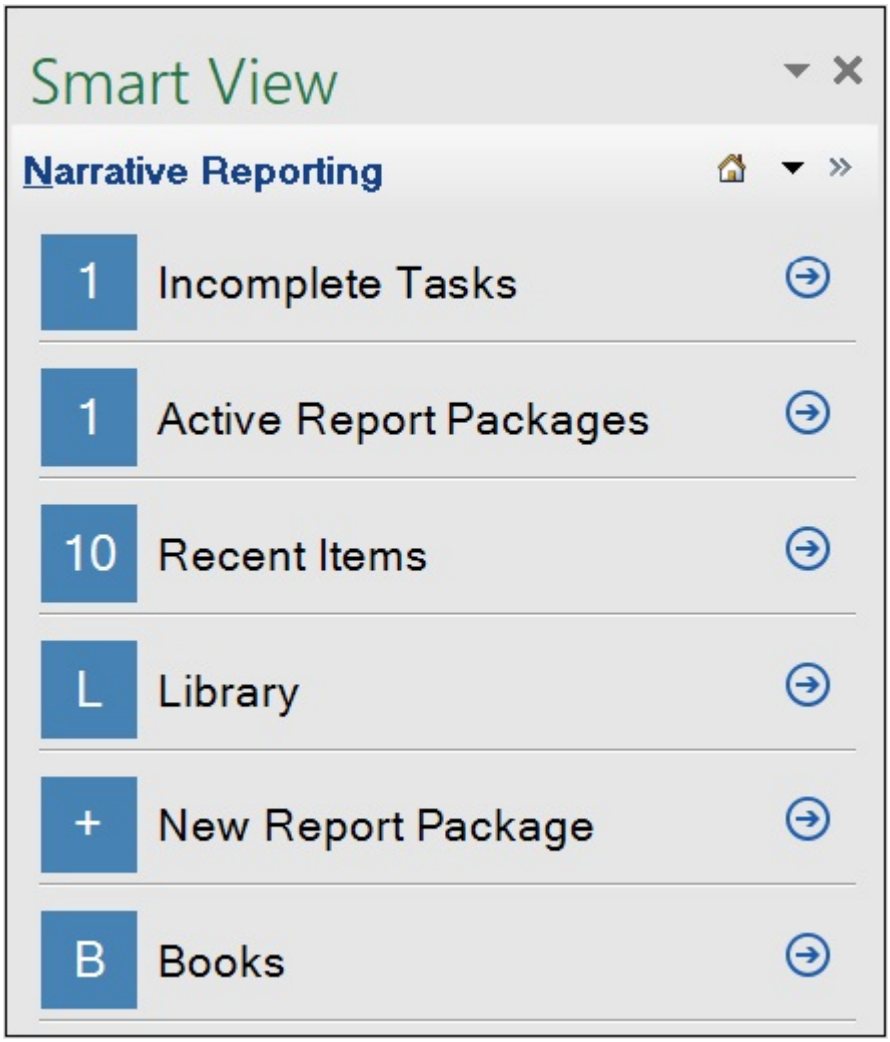
> **ノート:**
>
> このトピックの手順は、Narrative Reporting への接続の作成の説明に従って Narrative Reporting への接続を作成し、Smart View での Narrative Reporting への接続の手順に従って接続していると仮定します

Narrative Reporting ホームを使用するには:

1. Smart View での Narrative Reporting への接続の説明に従って Narrative Reporting に接続して、Narrative Reporting ホームを表示します。

   図 1 は、Narrative Reporting ホームの例を示しています。

図 24-4 Narrative Reporting ホーム



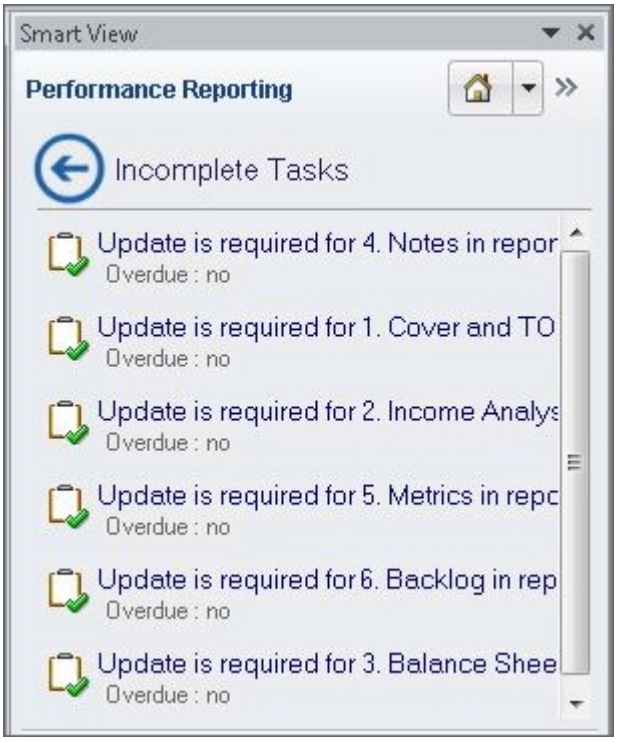
> **ノート:**
>
> 図 1 の例には、**「ブック」**のショートカットが含まれています。このショートカットは、Oracle Smart View for Office の EPM ブック拡張機能をインストールしている場合に表示されます。

2. 確認が必要なタスクにアクセスするには:

   a. Narrative Reporting ホームで、**「未完のタスク」**をクリックするか、対応するをクリックします。

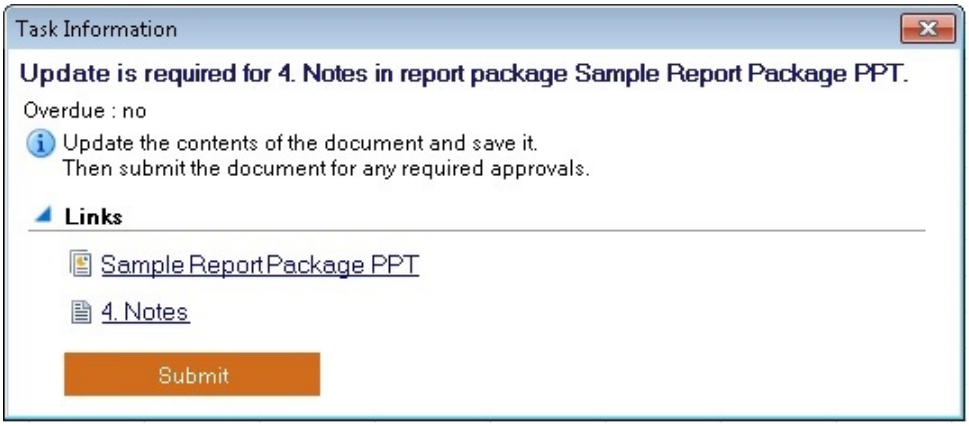
   「未完のタスク」リストの各アイテムは、タスクにアクセスできるリンクで構成されています。

図 24-5 未完のタスクを表示している Narrative Reporting ホーム



b. 図 3 に示すように、**「未完のタスク」**リストのタスク・リンクをクリックすると、**「タスク情報」**ダイアログが開きます

図 24-6 「タスク情報」ダイアログ・ボックス



c. 次のいずれかのアクションを行います:

- **「タスク情報」**のレポート・パッケージ・リンク、特定のドックレット・リンクまたはサプリメンタル・ドックレット・リンクを選択します。

  レポート・パッケージ、特定のドックレットまたは特定の Office ベースのサプリメンタル・ドックレットは、選択したタスクのコンテキストの適切な Office アプリケーションで開きます。たとえば、Word を使用中に PowerPoint のレビュー・タスクへのリンクをクリックすると、レビュー・インスタンスが PowerPoint でオープンされます。

Office ベース以外のサプリメンタル・ドックレットは、手動で開くことができるダウンロード・ディレクトリにダウンロードされます。

- **「タスク情報」**に表示されているドックレットを送信する準備ができている場合は、**「送信」**ボタンをクリックします。

d. 何もアクションを行わずに**「タスク情報」**を終了するには、ダイアログボックスの右上隅にある「X」をクリックします。

e. リスト内のタスクに対して何もアクションを行わずに**「未完のタスク」**リストから

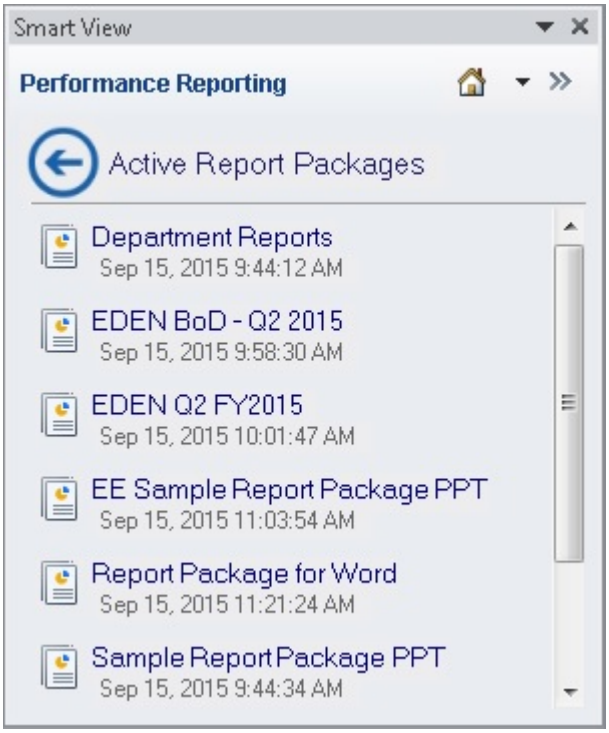
Narrative Reporting ホームに戻るには、をクリックします

3. 責任があるアクティブなレポート・パッケージにアクセスするには:

a. Narrative Reporting ホームで、**「アクティブなレポート・パッケージ」**をクリックするか、対応するをクリックします。

「アクティブなレポート・パッケージ」リストの各アイテムは、責任があるレポート・パッケージへのリンクで構成されています。

図 24-7 アクティブなレポート・パッケージが表示されている Narrative Reporting ホーム



b. **「アクティブなレポート・パッケージ」**リストのリンクをクリックして、レポート・パッケージをオープンします。

レポート・パッケージが、現在の責任に応じて適切な Office アプリケーションで開かれます。たとえば、Word を使用中に PowerPoint のレビュー・タスクへのレポート・パッケージ・リンクをクリックすると、レポート・パッケージが PowerPoint でオープンされ、レポート・インスタンスをレポート・センターで選択できます。

または、リスト内のレポート・パッケージを開かずに**「アクティブなレポート・パッケージ」**リストから Narrative Reporting ホームに戻るには、をクリックします。

4. 最近オープンしたアイテムにアクセスするには:

   a. Narrative Reporting ホームで、**「最近のアイテム」**をクリックするか、対応するをクリックします。

   「最近のアイテム」リストの各アイテムは、最近オープンした、責任があるレポート・パッケージへのリンクで構成されています。

   図 24-8 アクティブなレポート・パッケージが表示されている Narrative Reporting ホーム

   b. **「最近のアイテム」**リストのリンクをクリックして、レポート・パッケージをオープンします。

   レポート・パッケージが、現在の責任に応じて適切な Office アプリケーションで開かれます。たとえば、Word を使用中に PowerPoint のレビュー・タスクへのレポート・パッケージ・リンクをクリックすると、レポート・パッケージが PowerPoint でオープンされ、レポート・インスタンスを操作できます。

   または、リスト内のレポート・パッケージを開かずに**「最近のアイテム」**リストから Narrative Reporting ホームに戻るには、をクリックします。

5. EPM ブック拡張機能をインストールしている場合: **「ブック」**をクリックして「EPM ブック」パネルにアクセスします。

6. Narrative Reporting ライブラリにアクセスするには、Smart View での Narrative Reporting への接続を参照してください。

Smart View でのレポート・パッケージの管理

Oracle Smart View for Office でレポート・パッケージを管理できます。

次も参照:

- Smart View でのレポート・パッケージの管理について

- レポート・パッケージ構造の作成
- レポート・パッケージ構造へのドックレットの追加
- レポート・パッケージ構造へのセクションの追加
- レポート・パッケージ、ドックレットおよびセクションのプロパティの編集

Smart View でのレポート・パッケージの管理について

Narrative Reporting のレポート・パッケージを使用すると、レポートのコンテンツを構造化したり、コンテンツの作成者やレビュー担当者に責任を割り当てたり、コラボレーションやワークフローを管理して統一された文書を作成できます。

レポート・パッケージについては、Oracle Help Center の Narrative Reporting ライブラリで使用可能なレポート・パッケージについて学ぶで詳細に説明されています。

Oracle Smart View for Office で、レポート・パッケージ所有者は、次のレポート・パッケージ管理タスクを実行できます。

- サブフォルダおよびファイルを含むフォルダの構造、または単一ドキュメントの見出し構造に基づいて、レポート・パッケージ構造を作成します。

  フォルダ内のファイルからのレポート・パッケージ構造の作成およびファイルからのレポート・パッケージ構造の作成を参照してください。
- 文書作成者の割当てありまたは文書作成者の割当てなしのドックレットを追加し、レポート・パッケージにセクションを追加します。

  レポート・パッケージ構造へのドックレットの追加およびレポート・パッケージ構造へのセクションの追加を参照してください。
- レポート・パッケージ、ドックレットおよびセクションの名前と説明を編集します。

  レポート・パッケージ、ドックレットおよびセクションのプロパティの編集.

また、レポート・パッケージ所有者およびドックレット作成者は、標準ドックレットとリファレンス・ドックレットのコンテンツを含むレポート・パッケージをリフレッシュできます。レポート・パッケージのリフレッシュを参照してください。

レポート・パッケージ構造の作成

次も参照:

- Smart View でのレポート・パッケージ構造の作成について
- フォルダ内のファイルからのレポート・パッケージ構造の作成
- ファイルからのレポート・パッケージ構造の作成

Smart View でのレポート・パッケージ構造の作成について

Word、PowerPoint または PDF ベースのレポート・パッケージ構造は、Oracle Smart View for Office を使用して簡単に作成できます。

Narrative Reporting ホームで、Narrative Reporting ライブラリのアクション・パネルの「新規レポート・パッケージ」コマンドから、またはライブラリのユーザー・フォルダの右クリック・コンテキスト・メニューから使用可能な**「新規レポート・パッケージ」**コマンドで、フォルダ構造またはファイルを新規レポート・パッケージのソースとして使用できます。

レポート・パッケージ設計および作成アクティビティのサブセットを Smart View で実行できます。たとえば、レポート・パッケージのドックレットの並替え、開発フェーズの定義、これらのフェーズへのユーザーの割当てを行うには Narrative Reporting Web インタフェースを使用します。ただし、Smart View では、ドックレット(標準、サプリメンタルおよびリファレンス)およびセクションを 1 ステップで追加することで、レポート・パッケージの構造の定義タスクをすばやく実行できます。

Smart View には、レポート・パッケージを作成する方法が 2 つ用意されています。

- フォルダから

  ローカルまたはネットワーク・ドライブにフォルダを作成します。このフォルダの下に、レポート・パッケージのサブフォルダとファイルを配置します。フォルダのコンテンツと構造は、サブフォルダおよびサブフォルダのコンテンツも含めて、レポート・パッケージ構造のドックレットとセクションになります。フォルダ内のファイルからのレポート・パッケージ構造の作成を参照してください。

- ファイルから

  .docx または.pdf ファイルをレポート・パッケージ構造の基礎として選択します。ファイル内の見出しは、レポート・パッケージのルート・レベルのドックレットになります。ファイルからのレポート・パッケージ構造の作成を参照してください。

どちらの方法でも、ファイルをインポートしてレポート・パッケージを作成する前に、各ドックレット(標準、サプリメンタルまたはリファレンス)の名前、説明およびタイプを指定し、文書作成者の責任を割り当てることができます。

インポート後に、レポート・パッケージの基本構造とコンテンツが定義されます。レポート・パッケージにドックレットまたはセクションをさらに追加し、オプションで、それに文書作成者の責任を割り当てることで、Smart View の構造を改訂できます。その後、Narrative Reporting Web インタフェースに進み、レポート・パッケージ定義を完了します。

ビデオ

目的	このビデオを見る
Smart View での Narrative Reporting レポート・パッケージ構造の作成について学習します。	概要: Smart View for Office でのレポート・パッケージ・スタート・ガイド

Smart View でのレポート・パッケージ構造の作成のガイドライン

- **「新規レポート・パッケージ」**コマンドを表示するには、レポート管理者ロールが必要です。
- フォルダからレポート・パッケージ構造を作成する場合:
  - Word、PowerPoint および PDF ベースのレポート・パッケージがサポートされます。
  - スタイル・サンプル・ドキュメントを提供する必要があります。これは、レポート・パッケージ構造にドックレットとして追加する予定のファイル、またはスタイル・サンプル・ファイルとして特別に作成したファイルです。ただし、レポート・パッケージ構造の作成時にスタイル・サンプル・ドキュメントを選択する必要があります。
  - フォルダ構造内のファイルを 0 (ゼロ) KB にすることはできません。0KB のファイルは、右クリック・メニューを使用して Word または PowerPoint ファイルを Windows エクスプローラーから作成したときに生成されることがあります。このようなファイルはフォルダ構造から削除します。
- ファイルからレポート・パッケージ構造を作成する場合:

  - Word ベースのレポート・パッケージのみを作成できます。
  - .docx および.pdf ファイルのみがレポート・パッケージのソースとしてサポートされます。
  - 選択されたファイルが.pdf でも、結果のドックレットはすべて Word タイプ(.docx)となります。セクションは結果のレポート・パッケージには作成されず、生成されたすべてのドックレットはルート・レベルで表示されます。
  - スタイル・サンプル・ドキュメントは不要です。Smart View により、Word ドキュメントまたは PDF ファイルのコンテンツに基づくスタイル・サンプル・ドキュメントが生成されます。
- 次の条件では、エラーが発生します。
  - **「新規レポート・パッケージ」**ダイアログのいずれかの必須フィールドに入力がない場合
  - レポート・パッケージ・タイプとドックレット・タイプが一致しない場合。たとえば、Word ベースのレポート・パッケージで PowerPoint ファイルを標準ドックレットとして定義しようとした場合です。
  - フォルダ構造に基づくレポート・パッケージ構造の場合:
    * 構造のいずれかのフォルダが空の場合。空のフォルダはフォルダ構造から削除します。
    * フォルダ構造内のいずれかのファイルが 0 (ゼロ) KB の場合。0KB のファイルは、右クリック・メニューを使用して新しい Word または PowerPoint ファイルを Windows エクスプローラーから作成したときに生成されることがあります。ファイルが、ゼロ以外のファイル・サイズの有効な Office ドキュメントであることを確認してください。
  - ファイルに基づくレポート・パッケージ構造で、ファイルが空であるか、無効なコンテンツを含むか、パスワードで保護されている場合。
  - 指定した名前のレポート・パッケージがシステムにすでに存在している場合。名前は一意である必要があります。
  - レポート・パッケージの作成者に、指定したライブラリ・フォルダに対する権限がない場合。

フォルダ内のファイルからのレポート・パッケージ構造の作成

Smart View を使用して、フォルダに整理されているファイルから Narrative Reporting レポート・パッケージ構造を作成します。

> **ノート:**
>
> はじめに、Oracle Smart View for Office を起動し、Narrative Reporting にログインします。

フォルダ内のファイルからレポート・パッケージ構造を作成するには:

1. Narrative Reporting ホームで、**「新規レポート・パッケージ」**を選択して**「新規レポート・パッケージ」**ダイアログを起動します。

または、Narrative Reporting ホームで、ライブラリをクリックし、レポート・パッケージを保存するフォルダに移動した後、フォルダを右クリックして**「新規レポート・パッケージ」**を選択します。

2. 新規レポート・パッケージ構造をフォルダとそのコンテンツから作成するには、次のアイコンの横のラジオ・ボタンをクリックします。



3. **レポート・パッケージ名**とオプションの**レポート・パッケージの説明**を入力します。
4. **「レポート・パッケージ・タイプ」**で、「Word」、「PowerPoint」または「PDF」を選択します。
5. **「ライブラリに保存する場所」**で、**「選択」**をクリックし、レポート・パッケージを保存するライブラリ・フォルダに移動した後、**「レポート・パッケージの保存場所」**ダイアログで**「選択」**をクリックします。
6. **「レポート・パッケージのスタイル・サンプル」**で、**「ファイルの選択」**をクリックし、Word または PowerPoint スタイル・サンプル・ファイルに移動してファイルを選択した後、**「開く」**をクリックします。
7. **「インポートするフォルダを選択」**で、レポート・パッケージ構造の基礎として使用するファイルが格納されているフォルダに移動し、フォルダを選択して**「OK」**をクリックします。

   図 1 に示すように、ダイアログの下部で、選択したフォルダとそのサブフォルダは左側のペインに表示され、ファイルとサブフォルダから作成されるドックレットとセクションは右側のペインに表示されます。

図 24-9 フォルダからレポート・パッケージ構造を作成するためのオプション

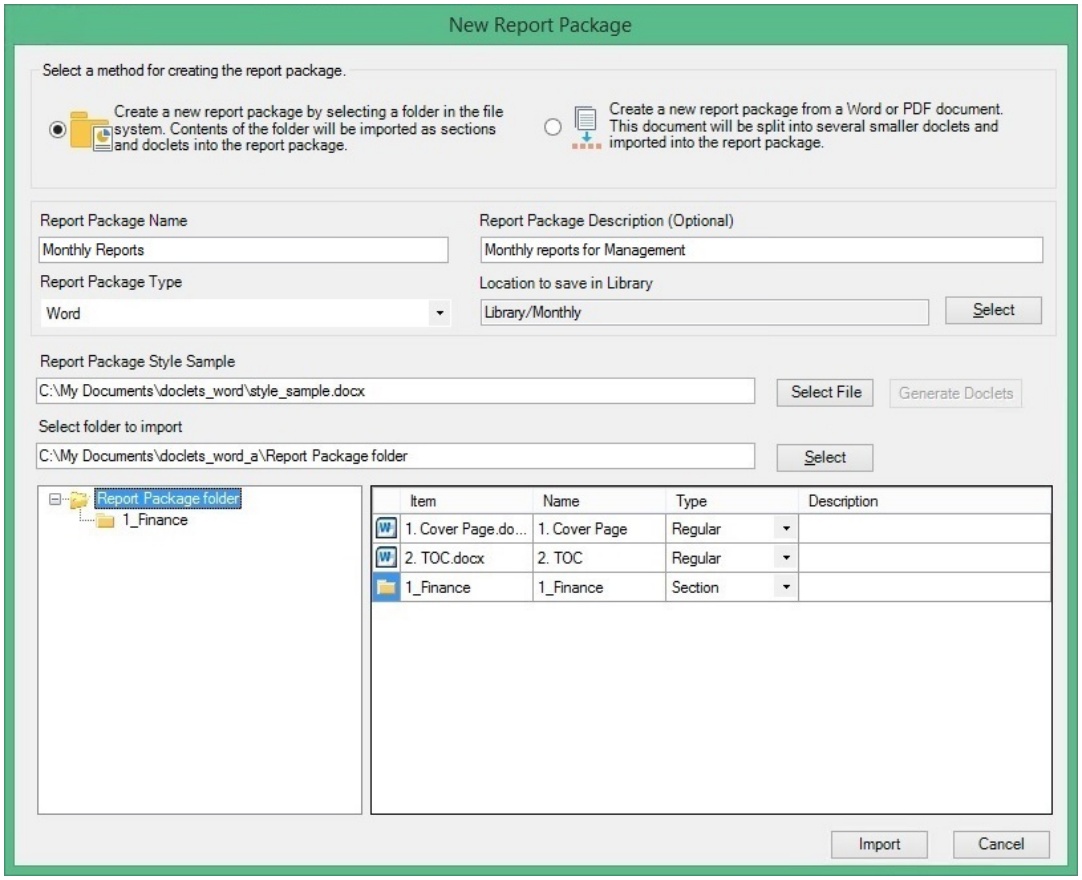


図 1 の例は、**「インポート」**ボタンをクリックする前の**「新規レポート・パッケージ」**ダイアログを示しています。例では、`Report Package files` フォルダ内のファイルを使用して、ライブラリの `Monthly` フォルダに格納されるレポート・パッケージ構造を作成します。

8. ダイアログの下部の右側のペインで、ドックレット・タイプに必要な変更を加えるには、**「タイプ」**の下のセルの矢印をクリックし、ドックレット・タイプを選択します。

   左側のペインのフォルダ構造を使用して、フォルダ(存在する場合)にドリル・ダウンして他のドックレットおよびセクションを表示し、**「タイプ」**列に変更を加えます。

   たとえば、Narrative Reporting による評価の後、Word ドキュメントに標準ドックレットが指定されたが、その指定をサプリメンタルに変更する場合です。

> **ノート:**
>
> この時点でレポート・パッケージ・タイプを変更した場合、Narrative Reporting は新規レポート・パッケージ・タイプに従って各ドックレットのタイプを再評価します。その後、このステップの説明に従って必要な変更を加えることができます。

9. **オプション:** ダイアログの下部の右側のペインで、**「名前」**および**「説明」**の下のセルをクリックして、ドックレット名およびセクション名を変更し、ドックレットおよびセクションに説明を追加します。

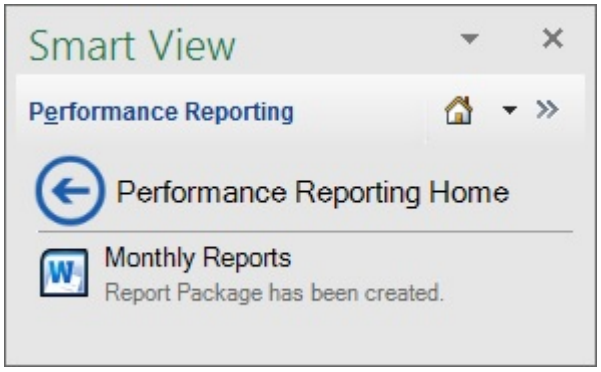
左側のペインのフォルダ構造を使用して、フォルダ(存在する場合)にドリル・ダウンして他のドックレットおよびセクションを表示し、**「名前」**および**「説明」**列に変更を加えます。

または、ドックレット名とセクション名を変更し、後から Smart View でドックレットとセクションに説明を追加できます。レポート・パッケージ、ドックレットおよびセクションのプロパティの編集を参照してください。

10. **「新規レポート・パッケージ」**ダイアログに入力した情報が正しいことを確認し、**「インポート」**をクリックします。

    インポートが完了すると、Narrative Reporting ホームに戻ります。ここで、Smart View でレポート・パッケージを開くために提供されているリンクをクリックできます。

図 24-10 「新規レポート・パッケージ」へのリンクがある「Narrative Reporting」パネル



または、ライブラリ・フォルダを右クリックして**「新規レポート・パッケージ」**コマンドを呼び出した場合は、をクリックしてパネルをリフレッシュし、そのフォルダの新規レポート・パッケージを表示します。

ファイルからのレポート・パッケージ構造の作成

Smart View を使用して、Word または PDF ファイルから Narrative Reporting レポート・パッケージ構造を作成します。

> **ノート:**
>
> はじめに、Oracle Smart View for Office を起動し、Narrative Reporting にログインします。

Word または PDF ファイルからレポート・パッケージ構造を作成するには:

1. Narrative Reporting ホームで、**「新規レポート・パッケージ」**を選択して**「新規レポート・パッケージ」**ダイアログを起動します。
2. 新規レポート・パッケージ構造を PDF ファイルまたは Word ドキュメントから作成するには、次のアイコンの横のラジオ・ボタンをクリックします。

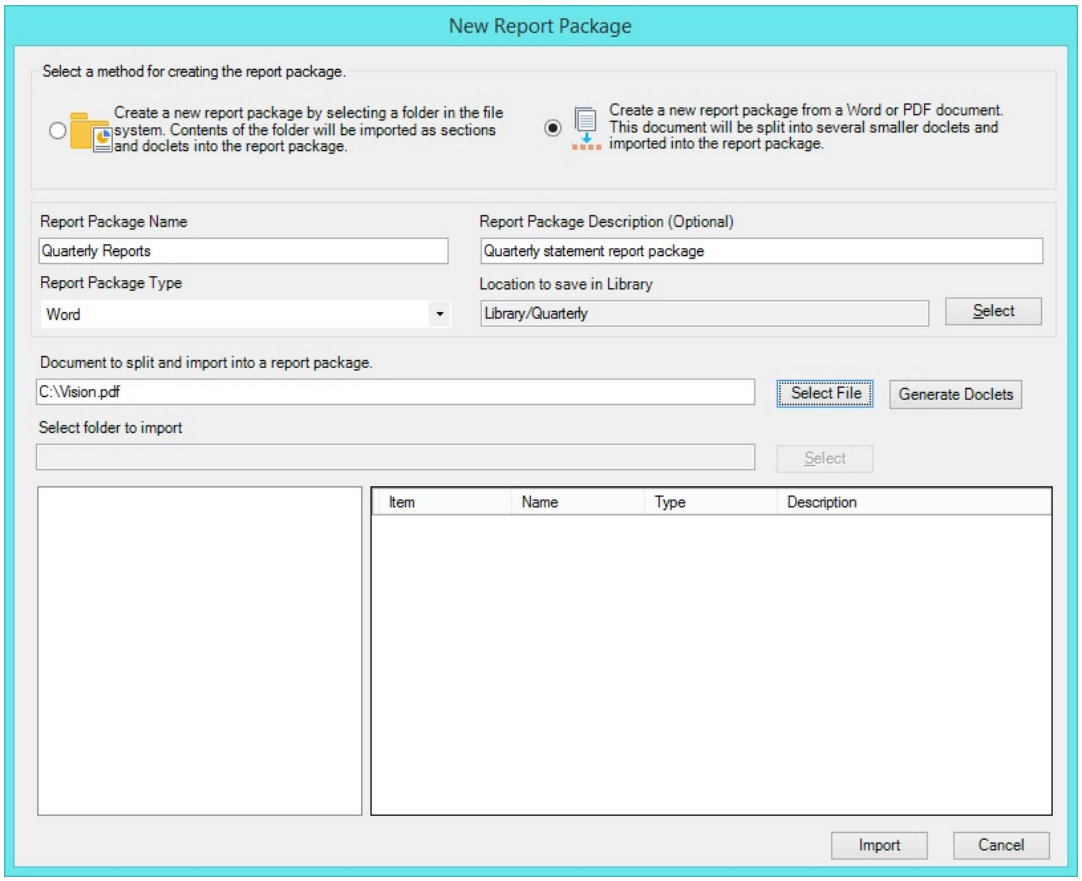


3. **レポート・パッケージ名**とオプションの**レポート・パッケージの説明**を入力します。
4. **「レポート・パッケージ・タイプ」**では、Word がデフォルトで、使用できる唯一のオプションです。
5. **「ライブラリに保存する場所」**で、**「選択」**をクリックし、レポート・パッケージを保存するライブラリ・フォルダに移動して選択した後、**「レポート・パッケージの保存場所」**ダイアログで**「選択」**をクリックします。
6. **「分割してレポート・パッケージにインポートするドキュメント。」**で、**「ファイルの選択」**をクリックし、ファイルに移動して選択した後、**「開く」**をクリックします。

   「開く」ダイアログの右下にあるフィルタ・コントロールを使用して、ドキュメント・タイプ: Word (`.docx`)または PDF (`.pdf`)でフィルタします。

   図 1 の例は、個々の Word ファイルに分割するために `Vision.pdf` ファイルが選択された**「新規レポート・パッケージ」**ダイアログを示しています。例では、作成するレポート・パッケージ構造はライブラリの `Quarterly` フォルダに格納されます。

図 24-11 ドキュメントからレポート・パッケージ構造を作成するためのオプション(ドックレットの生成前)



7. **「ドックレットの生成」**をクリックします。

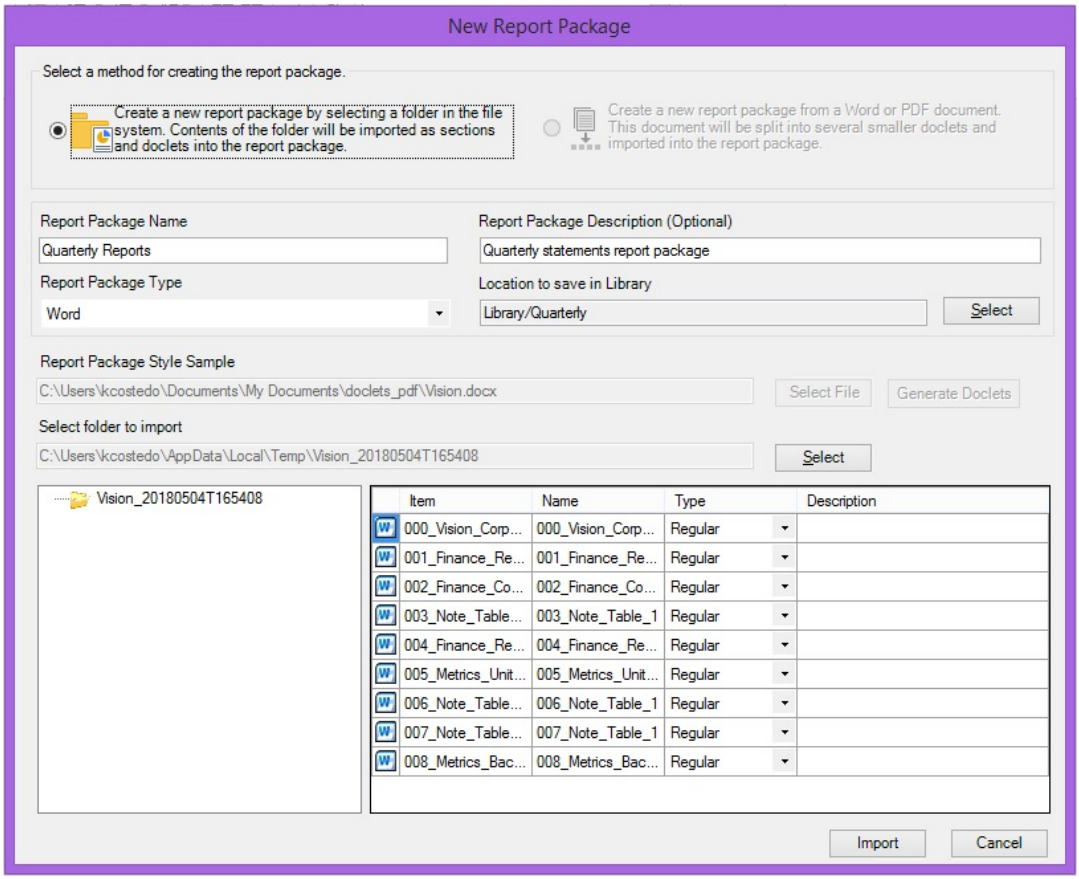
   操作の完了にしばらくかかる可能性があることを通知するメッセージが表示されます。続行するには、メッセージ・ボックスで**「はい」**をクリックします。

ファイルが最適化された編集可能ドキュメントに変換され、ドキュメントが元のファイルと完全に同じ外観にならない可能性があるが後で編集できることを通知する 2 番目のメッセージが表示されます。続行するには、メッセージで**「OK」**をクリックします。

ファイル生成プロセスが完了すると、図 2 に示すように、ダイアログの下部で、ファイルが格納される一時フォルダが左側のペインに表示され、作成されたファイルが右側のペインに表示されます。

また、分割されたファイルに基づくデフォルト・スタイル・サンプルが提供されます。

図 24-12 ドキュメントからレポート・パッケージ構造を作成するためのオプション(ドックレットの生成後)



8. ダイアログの下部の右側のペインで、ドックレット・タイプに必要な変更を加えるには、**「タイプ」**の下のセルの矢印をクリックし、ドックレット・タイプを選択します。

   たとえば、Narrative Reporting による評価の後、Word ドキュメントに標準ドックレットが指定されたが、その指定をサプリメンタルに変更する場合です。

9. **オプション:** ダイアログの下部の右側のペインで、**「名前」**および**「説明」**の下のセルをクリックして、ドックレット名を変更し、ドックレットに説明を追加します。

   必要に応じて、後から Smart View でドックレットに説明を追加できます。レポート・パッケージ、ドックレットおよびセクションのプロパティの編集を参照してください。

10. **「新規レポート・パッケージ」**ダイアログに入力した情報が正しいことを確認し、**「インポート」**をクリックします。

    インポートが完了すると、「Narrative Reporting」パネルに戻ります。ここで、Smart View でレポート・パッケージを開くために提供されているリンクをクリックできます。

図 24-13 「新規レポート・パッケージ」へのリンクがある「Narrative Reporting」パネル



または、ライブラリ・フォルダを右クリックして**「新規レポート・パッケージ」**コマンドを呼び出した場合は、をクリックしてパネルをリフレッシュし、そのフォルダの新規レポート・パッケージを表示します。

レポート・パッケージ構造へのドックレットの追加

Oracle Smart View for Office のレポート・センターでレポート・パッケージ構造にドックレットを追加できます。Word、PowerPoint および PDF ベースのレポート・パッケージで、ドックレット、サプリメンタル・ドックレットおよびリファレンス・ドックレットを追加できます。

Word ドキュメントの場合は、Word ファイル全体を追加できます。または、開いている Word ドキュメントのテキストの選択部分を追加できます。選択部分は新しいドックレットになります。

レポート・パッケージ構造にドックレットを追加するには:

1. 操作する Office ドキュメント・タイプに対応する Office アプリケーションを開きます。

   たとえば、

   - Word ドキュメントをレポート・パッケージの標準ドックレットとして追加するには、Word を開きます。
   - Excel ワークブックを PDF ベースのレポート・パッケージの標準ドックレットとして追加するには、Excel を開きます。
   - 目次または TOC タイプのドックレットを PDF または Word ベースのレポート・パッケージに追加するには、Word を開きます。
   - Excel ワークブックをレポート・パッケージのサプリメンタル・ドックレットとして追加するには、Excel を開きます。

2. Smart View での Narrative Reporting への接続の説明に従って、Narrative Reporting に接続し、レポート・パッケージを開きます。

   レポート・パッケージには、任意のタイプのドックレットがすでに含まれている場合も、空の場合もあります。

3. レポート・パッケージ構造に追加する Office ドキュメントを開きます。

   保存した Office ドキュメントを開くことも、まだ保存していない新しい Office ドキュメントを操作することもできます。

> **ノート:**
>
> Office Open XML フォーマット・タイプである.docx、.pptx および.xlsx のドキュメントのみを追加できます。

4. **Word ドックレットのみのオプション:** Word ドキュメント内のテキストの一部からドックレットを作成するには、そのテキストを選択します。
5. 「レポート・センター」パネルで、アクションを実行します。
   - レポート・パッケージ構造のドックレットを選択して、その前に新規のドックレットを挿入します。

     ドックレットは、選択したドックレットの前に挿入されます。
   - 新しいドックレットが追加されるセクション・フォルダを選択します。

     ドックレットは、セクション・フォルダの最後のファイルとして追加されます。
   - セクション・フォルダに移動し、前に新しいドックレットが挿入されるドックレットを選択します。
   - レポート・パッケージにまだドックレットがない場合は、「レポート・センター」パネルで**「ルート」**をクリックします。

     レポート・パッケージにドックレットがある場合は、**「ルート」**をクリックすると、ドックレットがレポート・パッケージの最後のドックレットとして追加されます。
6. アクション・パネルで、**「ドックレットの追加」**リンクをクリックし、**「ドックレットのレポート・パッケージへの追加」**で次の操作を完了します。
   - **名前** - 必須。ファイル名をドックレット名としてそのまま使用するか、新しい名前を入力できます。これは、レポート・パッケージに表示される名前です。ドックレット名は最大 80 文字です。
   - **タイプ** - 必須。使用可能なオプションからドックレット・タイプを選択します。使用可能なオプションは、レポート・パッケージ・タイプによって異なります。たとえば、Word ベースのレポート・パッケージで、Word ドックレットを追加する場合、使用可能なタイプは「標準」および「サプリメンタル」です。PDF ベースのレポート・パッケージの Excel ドックレットの場合、使用可能なタイプは「標準」、「サプリメンタル」および「リファレンス」です。
   - **目次ドックレット** - オプション。Word および PDF ベースのレポート・パッケージの Word ドキュメントにのみ適用されます。現在開いている Word ドキュメントをレポート・パッケージの目次として使用する場合は、このチェック・ボックスを選択します。
   - **説明** - オプション。ドックレットの説明を入力します。
   - **ドックレットを抑制**—レポート・パッケージ内のドックレットのコンテンツを抑制する場合に選択します。抑制されたドックレットのコンテンツは、レポート・パッケージの出力には含まれません。

     レポート・パッケージ内の特定のドックレットが現在のレポート期間に必要ない場合は、このオプションを有効にします。これにより、そのコンテンツが必要になる可能性があるレポート・パッケージの将来の実行に備えて、ドックレットの定義および構造を維持できます。ドックレットを追加した後は、そのドックレットの**「プロパティ」**ダイアログでオプション・ステータスを表示できます(ドックレットの検査を参照)。オプション・ステータスは後で Web で変更できます。*「Narrative Reporting のレポート・パッケージの作成および管理」*のプロパティの編集を参照してください。

- **文書作成フェーズから除外** - オプションの状態(有効または無効)は、レポート・パッケージに文書作成フェーズが定義されているかどうかによって決まります。

  可能なアクションは次のとおりです。

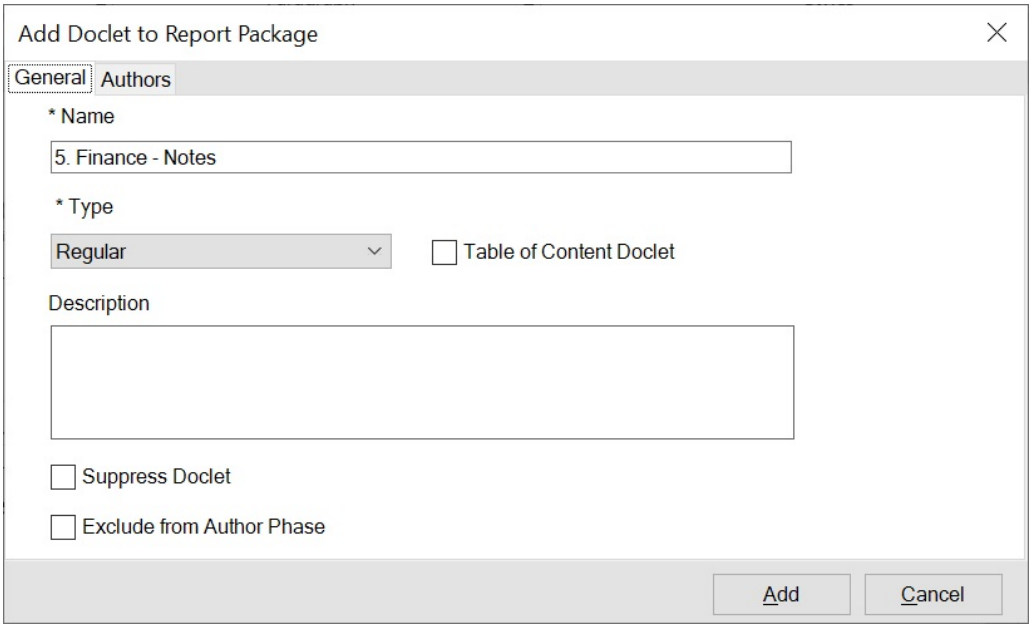
  チェック・ボックスが無効の場合、レポート・パッケージには文書作成フェーズが定義*されていません*。アクションは不要です。

  チェック・ボックスが有効の場合、レポート・パッケージには文書作成フェーズが定義*されています*。次のいずれかのアクションを行います:

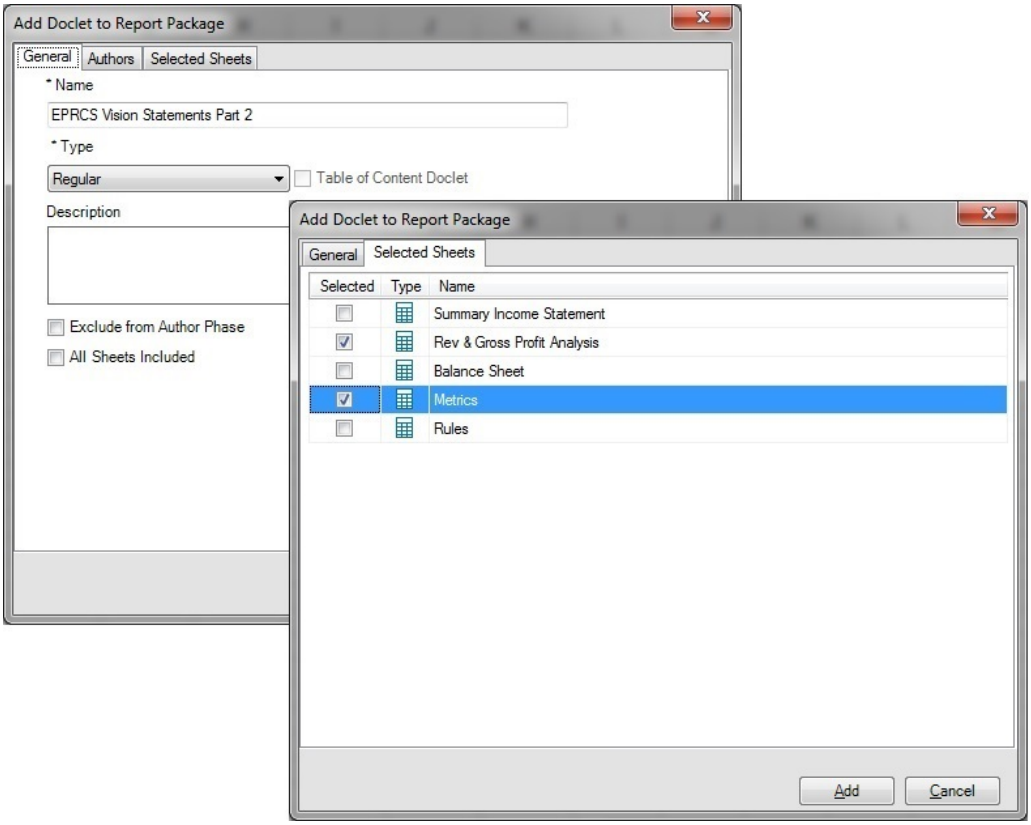
  – このチェック・ボックスを選択して、ドックレットを文書作成フェーズから除外し、ステップ 8 に進みます。

  – チェック・ボックスをクリアして、このドックレットに文書作成者を割り当てます。チェック・ボックスをクリアにすると、ダイアログの**「文書作成者」**タブに自動的に移動します。次のステップに進んで、このドックレットの文書作成者を追加します。

  これはチェック・ボックスを有効にしてクリアしたダイアログです。



- **すべてのシートを含める** - オプション。Excel ワークブックを標準ドックレットとして PDF ベースのレポート・パッケージに追加すると、デフォルトで有効になり、選択されます。チェック・ボックスをクリアすると、ダイアログの**「選択したシート」**タブに自動的に移動し、ワークブック内のすべてのシートがリストされます。レポート・パッケージに含めるシートの横にあるチェック・ボックスを選択します。



このドックレットに文書作成者を追加する場合は、次のステップに進みます。このドックレットに文書作成者を追加しない場合は、ステップ 8 に進みます

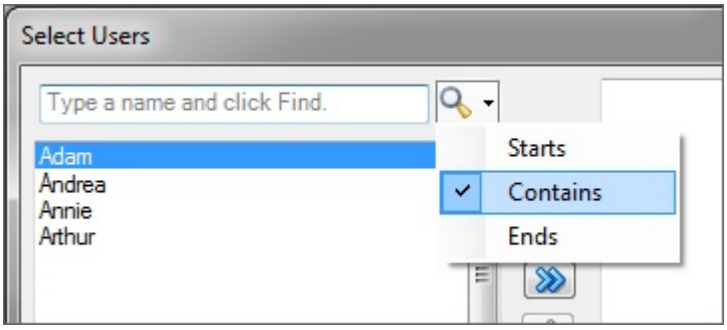
ワークシートおよびチャート・シートのみをレポート・パッケージに含めることができます。非表示シート、マクロ・シートおよびダイアログ・シートは、シート選択に有効な選択肢ではありません。ワークブックにこれらのシートのみが含まれている場合は、メッセージで通知されます。

7. このドックレットに文書作成者を追加するには:

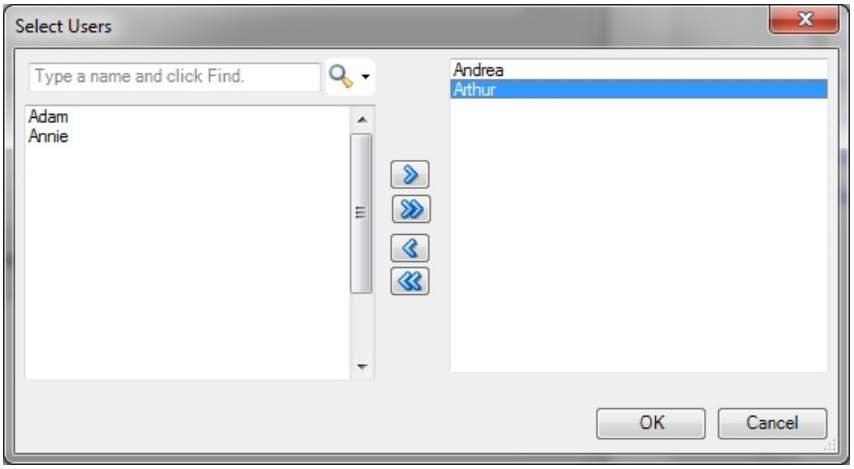
   a. **「文書作成者」**タブで、**「文書作成者の割当て」**をクリックして、**「ユーザーの選択」**ダイアログ・ボックスを起動します。

   b. ダイアログの左側のペインで文書作成者を選択し、右矢印をクリックして右側のペインに移動します。

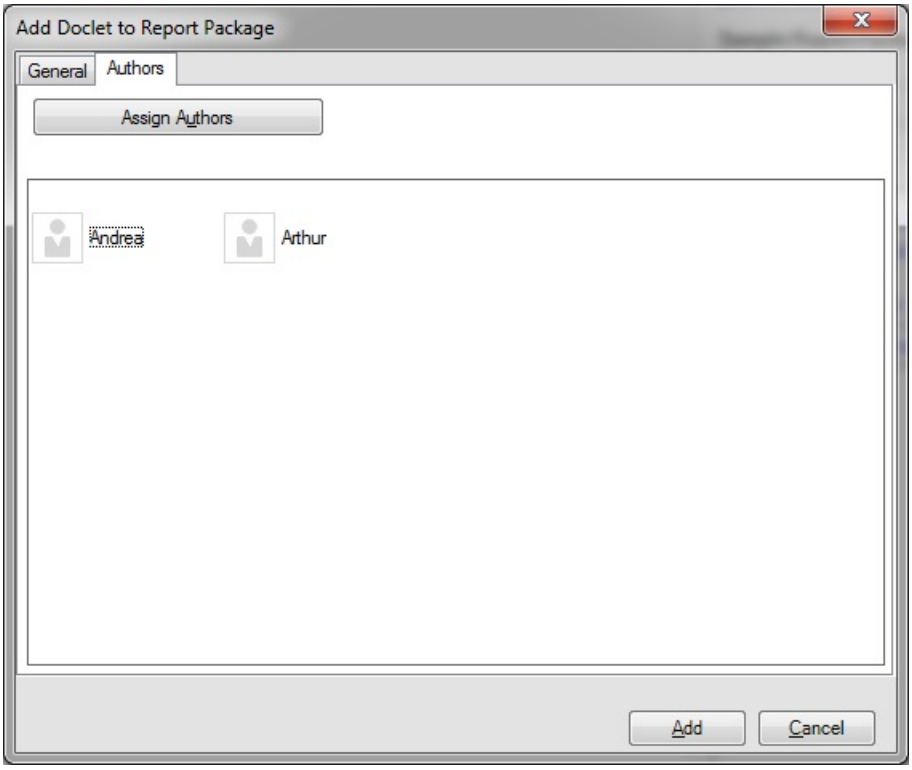
      オプション: ユーザーを検索するには、検索フィールドにユーザー名を入力し、をクリックします。の矢印をクリックし、フィルタ・オプションを使用して検索を絞り込むこともできます。



c. 必要なすべての文書作成者を選択し、右側のペインに移動したら、**「ユーザーの選択」**ダイアログ・ボックスで**「OK」**をクリックします。



選択したユーザーが**「ドックレットのレポート・パッケージへの追加」**ダイアログの**「文書作成者」**タブに表示されます。



「文書作成者の割当て」ボタンを再度クリックして、文書作成者の割当てにさらに変更を加えることができます。

8. **「追加」**をクリックして、ドックレットをレポート・パッケージ構造に追加します。
9. 編集するために新しいドックレットを開くには、プロンプトで**「はい」**をクリックし、それ以外の場合は**「いいえ」**をクリックします。

   「はい」または**「いいえ」**のいずれをクリックしても、ドックレットがレポート・パッケージに追加されます。

> **ノート:**
>
> プロンプトで**「はい」**をクリックした場合、ドックレットを編集するためにチェックアウトします。

レポート・パッケージ構造へのセクションの追加

Oracle Smart View for Office のレポート・センターで Word、PowerPoint および PDF ベースのレポート・パッケージ構造にセクションを追加できます。

レポート・パッケージ構造にセクションを追加するには:

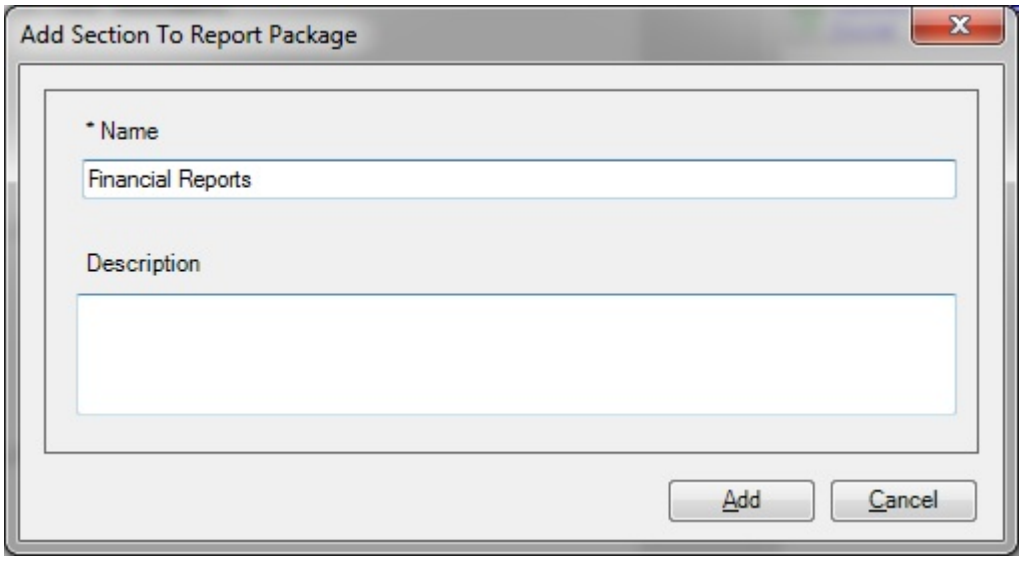
1. Office を開き、Smart View での Narrative Reporting への接続の説明に従って、Narrative Reporting に接続し、レポート・パッケージを開きます。
2. レポート・センターで、アクションを実行します。
   - レポート・パッケージ構造のドックレットまたはセクションを選択して、その前に新規セクションを挿入します。

セクションは、選択したドックレットまたはセクションの前に挿入されます。

- セクション・フォルダに移動し、前に新しいセクションが挿入されるドックレットを選択します。
- レポート・パッケージ構造にまだドックレットまたはセクションがない場合は、「レポート・センター」パネルで**「ルート」**をクリックします。

  レポート・パッケージ構造にドックレットまたはセクションがある場合は、**「ルート」**をクリックすると、セクションがレポート・パッケージの最後のアーティファクトとして追加されます。

3. アクション・パネルで、**「セクションの追加」**リンクをクリックし、**「セクションのレポート・パッケージへの追加」**で次の操作を完了します。
   - **名前** - 必須。セクション名を入力します。これは、レポート・パッケージに表示されるセクション名です。
   - **説明** - オプション。セクションの説明を入力します。



4. **「追加」**をクリックします。

レポート・パッケージ、ドックレットおよびセクションのプロパティの編集

Oracle Smart View for Office でレポート・パッケージ、ドックレットおよびセクションの**「名前」**および**「説明」**プロパティを編集できます。

レポート・パッケージ、ドックレットおよびセクションのプロパティを編集するには:

1. Office を開き、Smart View での Narrative Reporting への接続の説明に従って、Narrative Reporting に接続します。
2. レポート・パッケージ・プロパティを編集するには:
   a. Narrative Reporting ホームから**「ライブラリ」**を選択し、「ライブラリ」パネルのレポート・パッケージに移動して選択しますが、開きません。
   b. アクション・パネルで**「プロパティ」**リンクを選択します。

c. **「レポート・パッケージ・プロパティ」**で、**「レポート・パッケージ名」**および**「説明」**フィールドでダブルクリックするか[F2]を押し、変更を入力します。

3. ドックレットまたはセクションのプロパティを編集するには:

a. Narrative Reporting ホームから**「ライブラリ」**を選択し、「ライブラリ」パネルのレポート・パッケージに移動し、開きます。

b. ドックレットまたはセクションに移動し、選択します。

c. アクション・パネルで**「プロパティ」**リンクを選択します。

d. **「プロパティ」**で、**「名前」**および**「説明」**フィールドでダブルクリックするか[F2]を押し、変更を入力します。

4. **「保存」**をクリックします。

ドックレットの文書作成

ドックレットの文書作成者は、Oracle Smart View for Office でレポート・コンテンツを提供します。

次も参照:

- 文書作成フェーズ・プロセスについて
- Smart View でのドックレットの文書作成
- リンクされた標準ドックレットの操作
- リファレンス・ドックレットからの埋込みコンテンツの操作
- 参照ファイルからの埋込みコンテンツの操作
- 変数の操作
- PDF ベースのレポート・パッケージの Excel ドックレットの操作
- サーバー始動リフレッシュの操作
- ドックレットのページへのリンクおよび相互参照の挿入
- 自動目次の使用
- ドックレットの承認または否認
- ドックレットのリコール
- ドックレットの検査
- 前のバージョンのドックレットに戻す

文書作成フェーズ・プロセスについて

レポート・パッケージは、ドックレットというサブコンポーネントで構成されています。ドックレット、リファレンス・ドックレットおよびサプリメンタル・ドックレットの 3 つのドックレット・タイプがあります。レポート・パッケージの所有者は、レポート・パッケージ内のすべてのタイプのドックレットごとに文書作成者および承認者を割り当てます。文書作成者および承認者は、ドックレットのコンテンツを提供および承認します。

文書作成フェーズは次のプロセスに従います。

1. レポート・パッケージの所有者が、Narrative Reporting Web インタフェースのオーサリング・フェーズを開始します。

2. 作業の開始を促す通知メッセージが文書作成者に送信されます。
3. Oracle Smart View for Office で、文書作成者を開き、任意のタイプの Office ベースのドックレットをチェックアウトします。コンテンツの指定、参照ファイルへのコンテンツの追加、リファレンス・ドックレット、レポートおよび参照ファイルからの使用可能コンテンツの埋込みを行い、ドックレットをチェックインして戻します。

   文書作成者は、Web インタフェースを使用して、Office 以外のタイプの PDF ドックレットおよびサプリメンタル・ドックレットをチェックアウトおよびチェックインします。Smart View から、文書作成者は PDF ドックレットおよび Office 以外のサプリメンタル・ドックレットをダウンロードします。

   詳細は、ドックレットおよび変数についてを参照してください。
4. 文書作成者は、作業を終了したら、必要な場合は承認用にすべてのタイプのドックレットを提出します。
5. ドックレットの承認が指定されている場合は、ドックレットをレビューして承認または否認するよう通知メッセージが承認者に送信されます。
6. レポート・パッケージの所有者が、文書作成フェーズの完了をマークします。

文書作成者は Smart View または Narrative Reporting の Web インタフェースで、次のことを行えます。

- Word、PowerPoint、Excel または PDF フォーマットのドックレット

  Office ドックレットは、標準ドックレットまたはリンクされた標準ドックレットにすることができます。
- Word ドックレットにコンテンツを埋め込む Excel のリファレンス・ドックレット
- レポート Web インタフェースで作成されたチャートおよび表(ここから Word ドックレットにコンテンツを埋め込みます)
- PDF ベースのレポート・パッケージの Excel ドックレット
- Word ドックレットに埋め込むコンテンツを含む、Excel ベースの参照ファイル
- 適切な Office アプリケーションを使用した Office ベースのサプリメンタル・ドックレット
- 適切なアプリケーションでダウンロードして開く PDF や TXT ファイルなどの PDF ドックレットおよび Office ベース以外のサプリメンタル・ドックレット(Web インタフェースを使用して、チェックアウト、アップロードおよびチェックインします)

この項のトピックでは、Smart View でのドックレット、リファレンス・ドックレット、サプリメンタル・ドックレットおよび参照ファイルの文書作成および操作について説明します。

ドックレットおよび変数について

レポート・パッケージは、*ドックレット*、*リファレンス・ドックレット*、*参照ファイル*および*サプリメンタル・ドックレット*というサブコンポーネントで構成されます。また、*変数*をリファレンス・ドックレットおよび参照ファイルから導出できます。

- **ドックレット**

  ドックレット(標準ドックレットと呼ばれることもあります)には、Narrative Reporting レポート・パッケージを使用して作成するレポートに必要なコンテンツが含まれます。レポート・パッケージは、1 つ以上のドックレットで構成できます。Word ベースのレポート・パッケージには Word ベースのドックレット、PowerPoint ベースのレポート・パッケージには PowerPoint ベースのドックレットが含まれます。PDF ベースのレポート・パッケージ

には、Word および Excel ベースのドックレットが PDF ファイルとともに含まれますが、作成できるのは Word および Excel ドックレットのみです。

Narrative Reporting ライブラリのフォルダに格納される Word および PowerPoint のドキュメントを、*リンクされた*標準ドックレットとしてレポート・パッケージに追加できます。リンクされた標準ドックレットによって、ソース・ライブラリ・ドキュメントへの永続的なリンクが保持されます。ライブラリ・ドキュメントが更新されると、ライブラリ・ドキュメントにリンクされているすべてのドックレットが Narrative Reporting によって自動的に更新されます。ドックレット・リンクが非アクティブ化されるまで、ドックレット・ファイルは Narrative Reporting によって継続的に更新されます。

ドックレットは、すべての文書作成フェーズ、レビュー・フェーズ、サインオフおよびレポートの発行を含むレポート・パッケージ・ワークフローに完全に参加します。

- **リファレンス・ドックレット**

  リファレンス・ドックレットは、Excel ファイルの名前付き範囲、またはレポートから作成され、レポート・パッケージ内の 1 つ以上のドックレットによって消費されるチャートまたはグラフなどのコンテンツを格納するためのコンテナとして使用できます。

  Excel ベースのリファレンス・ドックレットは、登録して直接 Word ベースのドックレットに埋め込むことができる Oracle Smart View for Office グリッドまたはフォームなどのコンテンツや静的 Excel コンテンツを使用したサポート・ファイルとして役立つ Excel ファイルです。Excel の「名前の管理」を使用して埋込み可能なコンテンツを指定し、Smart View で名前付き範囲を登録します。

  レポート・ベースのリファレンス・ドックレットは、Narrative Reporting Web インタフェース内で作成され、使用可能コンテンツとして登録された表およびチャートで構成されます。

  次に、いずれかのタイプのリファレンス・ドックレットから Word ベースのドックレットにコンテンツを埋め込むことができます。埋込みプロセスを使用すると、コンテンツのレイアウトおよびフォーマットがソース・リファレンス・ドックレットのようにターゲット・ドックレットで維持されます。

  Excel とレポート・ベースの両方のリファレンス・ドックレットを、Word ベースのレポート・パッケージに含めることができます。埋込みコンテンツは結合されたレポートにマージされ、レビュー・フェーズ中にコメントできます。

  Smart View で、Excel ベースのリファレンス・ドックレットは、次のような文書作成フェーズのコンテンツ管理およびワークフロー機能をサポートします:

  – リファレンス・ドックレットのチェックアウト、変更、アップロード、チェックイン、承認のために送信および承認または拒否を行うことができます。
  – 埋込みコンテンツを含む Word ベースのドックレットのチェックアウト、変更、アップロード、チェックイン、承認のために送信および承認または拒否を行うことができます。
  – 埋込みコンテンツは、リファレンス・ドックレットの名前付き範囲に行われた更新と同期できます。
  – 埋込みコンテンツをリフレッシュできます。

  レポート・ベースのリファレンス・ドックレットのワークフローは、Narrative Reporting Web インタフェースで管理されますが、文書作成フェーズのこれらのコンテンツ管理およびワークフロー機能は、次のように Smart View でサポートされます:

  – 埋込みコンテンツを含む Word ベースのドックレットのチェックアウト、変更、アップロード、チェックイン、承認のために送信および承認または拒否を行うことができます。

- 埋込みコンテンツは、リファレンス・ドックレットの名前付き範囲に行われた更新と同期できます。
- 埋込みコンテンツをリフレッシュできます。

リファレンス・ドックレット自体はレビュー・フェーズまたはサインオフ・フェーズでコメントを使用 *できません*が、ドックレットではリファレンス・ドックレットからの埋込みコンテンツにコメントでき、埋込みコンテンツが最終的な発行されたレポートの一部になることに注意してください。

- **参照ファイル**

参照ファイルとは、Word ドックレットに埋め込むことができるレポート・コンテンツを含む Excel ワークブックです。参照ファイルは、ドックレットやリファレンス・ドックレット、サプリメンタル・ドックレットとは異なり、レポート・パッケージの一部としてリストされません。かわりに、参照ファイルのコンテンツを Word ドックレットに埋め込むと、その参照ファイルは、ドックレットのプロパティの一部になります。ターゲット Word ドックレットをチェックアウトすると、Narrative Reporting では、参照ファイルに行った変更が追跡されます。その後、ターゲット Word ドックレットに埋込み済のコンテンツをリフレッシュできます。

参照ファイル自体はレビュー・フェーズまたはサインオフ・フェーズでコメントを使用 *できない*ことに注意してください。ただし、Word ドックレットでは参照ファイルからの埋込みコンテンツにコメントでき、その埋込みコンテンツは、発行された最終レポートの一部になります。

- **サプリメンタル・ドックレット**

サプリメンタル・ドックレットは、ソースおよびサポート・ファイルなどのレポート全体の開発を支援するドキュメントです。サプリメンタル・ドックレットは、Excel、Word、PowerPoint または PDF、TXT、ZIP などの Office 以外のファイル・タイプを使用できます。サプリメンタル・ドックレットのコンテンツは、結合されたレポートにマージされません。

すべてのファイル・タイプのサプリメンタル・ドックレットを Word ベースおよび PowerPoint ベースのレポート・パッケージに含めることができます。たとえば、Word ベースのサプリメンタル・ドックレットを Word ベースまたは PowerPoint ベースのレポート・パッケージに含めることができます。

Smart View で、サプリメンタル・ドックレットは、次のような文書作成フェーズのコンテンツ管理およびワークフロー機能をサポートします。

- Office ベースのサプリメンタル・ドックレットのチェックアウト、変更、アップロード、チェックイン、承認のために送信および承認または拒否を行うことができます。
- Office 以外のファイル・タイプのサプリメンタル・ドックレットの場合、Smart View により、割り当てられた文書作成者は簡単にファイルをダウンロードして表示できます。ただし、チェックアウト、アップロード、チェックインなどのファイルとの他の対話は、Narrative Reporting Web インタフェースを介して実行する必要があります。

すべてのファイル・タイプのサプリメンタル・ドックレットはレビュー・フェーズまたはサインオフ・フェーズでコメントを使用 *できない*ため、最終的な発行されたレポートの一部に *ならない*ことに注意してください。

- **変数**

レポート・パッケージ変数を使用すると、共通のテキスト、数値、日付およびレポート・パッケージ全体でドックレットに表示されるデータを一元的に管理できます。変数は、Excel データのリファレンス・ドックレットから Word ドックレットへの挿入など、ドックレット間でのコンテンツの参照にも使用できます。

変数には次の 2 つのタイプがあります:

- *静的変数*は、日付ラベルやセット値など、ユーザーによって定義された静的な入力を使用します(これはレポート・パッケージ全体を通して使用可能です)。これらの静的変数は簡単に更新でき、変数値のすべてのドックレット・インスタンスにはその変更が反映されます。静的変数を使用すると、共通の日付、数値およびテキストをレポート・パッケージ・ドキュメント・コンテンツ全体で一元的に管理できます。
- *参照変数*は、レポート・パッケージ内の別のドックレットをソースとして参照し、変数の値(Word の段落または Excel のセルの値の中にあるテキストなど)を選択することで作成されます。その後ソース・ドキュメントが更新された場合、その変更は、レポート・パッケージ内の変数の挿入済インスタンス内で自動的に更新されます。参照変数を使用すると、Excel のセル値を Word ドックレットの段落に挿入したり、Excel 式を作成してクロス計算ルールを実装し、データの正確性を向上させたり、レポート・ナラティブのための指示的な語句("増加"、"減少"など)を作成したりできます。

Smart View でのドックレットの文書作成

ドックレットの文書作成者は、Oracle Smart View for Office でレポート・コンテンツを提供します。文書作成プロセスは、次のワークフローに従います。

1. ドックレット、リファレンス・ドックレットまたはサプリメンタル・ドックレットをチェックアウトします.
2. ドックレットを更新します。

   Smart View コンテンツ開発タスクが提案される場合があります:

   - Excel、Word、および PowerPoint 間でのデータのコピーの説明に従って、Smart View コピーおよび貼付けコマンドを使用して、Office ベースのドキュメントおよびドックレットから Word ベースまたは PowerPoint ベースのドックレットにデータ・ポイントまたはデータ範囲をコピーして貼り付けます。
   - 次のように、Office コピーおよび貼付けコマンドを使用して Smart View データをコピーし、Smart View メタデータをインポートします。
     - PowerPoint コピーおよび貼付けコマンドを使用してスライドまたはプレゼンテーションを PowerPoint ベースのドックレットまたはサプリメンタル・ドックレットにコピーし、コピーしたワークシートへのメタデータのインポートの説明に従って元のスライドまたはプレゼンテーションからドックレットにメタデータをインポートします
     - Word コピーおよび貼付けコマンドを使用して Word ドキュメントから Smart View アーティファクトをコピーし、コピーされた Word ドキュメントへのメタデータのインポートの説明に従って元のドキュメントからドックレットにメタデータをインポートします。
     - Excel コピーおよび貼付けコマンドを使用して Excel ワークシートから Smart View アーティファクトをコピーし、コピーしたワークシートへのメタデータのインポートの説明に従って元のワークシートからリファレンス・ドックレットにメタデータをインポートします
   - PDF ベースのレポート・パッケージの Excel の標準ドックレットで、シート・コンテンツを編集します。さらに、最終レポート・パッケージに含めるシートを指定できます。PDF ベースのレポート・パッケージの Excel ドックレットの操作を参照してください。
   - Excel ベースのリファレンス・ドックレットで、名前付き範囲を指定し、Excel ベースのリファレンス・ドックレットへの使用可能なコンテンツの追加の説明に従って使用可能なコンテンツとして Narrative Reporting に登録して、埋込み可能なコンテンツをドックレットの文書作成者が使用できるようにします。

- ドックレットのコンテンツの埋込みの説明に従って、Excel またはレポート・ベースのリファレンス・ドックレットから Word ベースのレポート・パッケージのドックレットにコンテンツを埋め込みます。
- 変数の操作の説明に従って、静的または参照変数を作成し、ドックレットに挿入します
- リボンからのリフレッシュの説明に従って、Smart View リボンまたはプロバイダ・リボンの**「リフレッシュ」**コマンドを使用して、個々のドックレット、リファレンス・ドックレットおよび Office ベースのサプリメンタル・ドックレットのすべての Smart View データをリフレッシュします。
- ドキュメント・コンテンツからの個々のレポートのリフレッシュの説明に従って、必要に応じてドックレット、リファレンス・ドックレットおよび Office ベースのサプリメンタル・ドックレットの固有のレポートを個別にリフレッシュします。
- POV マネージャの説明に従って、ドックレット、リファレンス・ドックレットまたは Office ベースのサプリメンタル・ドックレットのレポートの POV を変更します。

Word ベースのドックレットの Smart View の操作のデモは、例: Smart View での Narrative Reporting データの操作を参照してください。

3. ドックレット、リファレンス・ドックレットまたは適用可能なサプリメンタル・ドックレットをレポート・パッケージにアップロードします.
4. **オプション:** ドックレット・スタイル・サンプル属性またはスライド・マスターのオーバーライドを選択します。
5. ドックレット、リファレンス・ドックレットまたは適用可能なサプリメンタル・ドックレットのチェックイン.
6. ドックレット、リファレンス・ドックレットまたは適用可能なサプリメンタル・ドックレットの提出.

ビデオ

目的	このビデオを見る
Word ベースのレポート・パッケージでのドックレットの作成について学習します。	Smart View での Microsoft Word ベースのドックレットの作成と承認
PowerPoint ベースのレポート・パッケージでのドックレットの作成について学習します。	Smart View での Microsoft PowerPoint ベースのドックレットの作成と承認

ドックレットのチェックアウト

このトピックは、すべてのタイプ(リファレンスおよびサプリメンタルを含む)の Office ベースのドックレットに適用されます。特に記載がないかぎり、用語の *ドックレット*は、すべての Office ベースのドックレットのタイプを示します。

ドックレット、リファレンス・ドックレットおよび Office ベースのサプリメンタル・ドックレットのみをチェックアウトできます。これらは、レポート・センターで次のアイコンによって示されます。

- はドックレットを示します
- はリファレンス・ドックレットを示します

- はサプリメンタル・ドックレットを示します

ドックレット、リファレンス・ドックレットまたは Office ベースのサプリメンタル・ドックレットをチェックアウトすると、他のユーザーが変更できないようにロックされます。

> **ヒント:**
>
> すべてのレポート・コンテンツを保護するために、ドックレットを開いてコンテンツを変更する前にチェックアウトを実行することを強くお薦めします。これにより、自分や他のユーザーが行った変更が不注意で上書きされることがなくなります。

> **ノート:**
>
> Oracle Smart View for Office では、PDF ドックレットおよび Office ベース以外のサプリメンタル・ドックレットのみダウンロードできます。PDF ドックレットおよび Office 以外のサプリメンタル・ドックレットをチェックアウトするには、Narrative Reporting Web インタフェースを使用します。

この手順を開始する前に、Office アプリケーションをすでに起動し、Smart View での Narrative Reporting への接続の説明に従って Narrative Reporting に接続してレポート・パッケージを開いている必要があります。

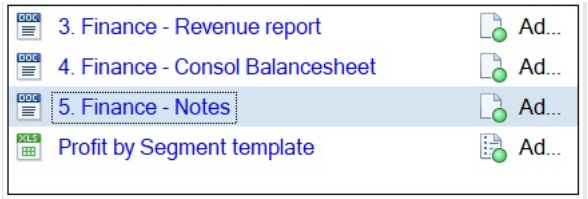
ドックレット、リファレンス・ドックレットまたはサプリメンタル・ドックレットをチェックアウトするには:

1. レポート・センターで、チェックアウトするドックレットを選択します。

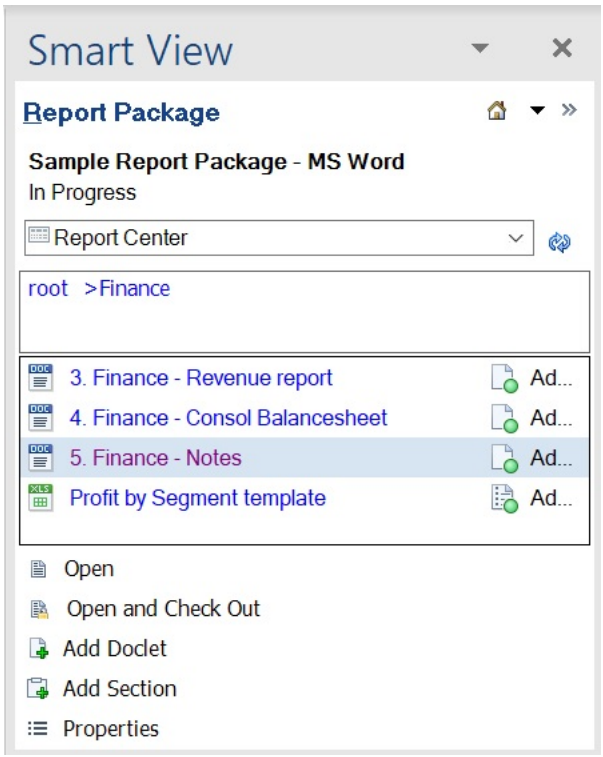
   ドックレットを選択するときは次の点に注意してください:

   - ドックレット名をクリックするとドックレットが開きますが、チェックアウトはされません。
   - ドックレット名の右側をクリックすると、ドックレットを開かずに選択できます。
   - キーボードを使用してレポート・センターをナビゲートする場合は、**[Ctrl]-[Tab]**を使用してレポート・センター・リスト内の最初のドックレット・アイコンに移動し、次に**[Tab]**でドックレット・タイトルに移動し、上下の矢印キーを使用して、選択するドックレットに移動します。**[Ctrl]-[Tab]**を使用してアクション・パネル・メニュー項目に移動し、次に上下の矢印キーを使用してアクション・パネル・オプションに移動して、[Space]キーを押してオプションを選択します。

     キーボード・ナビゲーションを使用してドックレットを選択すると、選択されたドックレット名は点線のボックスで囲まれます:



2. アクション・パネルで**「開いてチェックアウト」**を選択します。



このオプションを選択すると、1 つの操作でドックレットが開いてチェックアウトされます。

または、ドックレットをダブルクリックして開いてから、ステップ 3 に進みます。

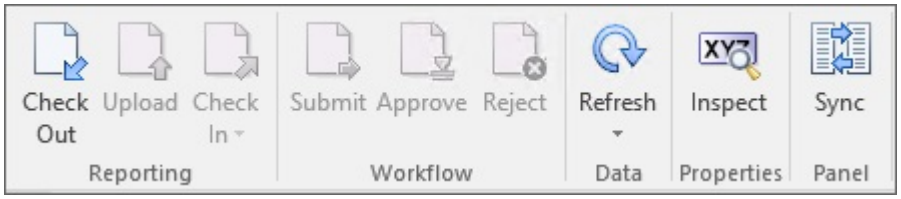
> **ノート:**
>
> ドックレット・パネル内を移動するときに、リストされているアクション・パネル・メニュー項目はパネルにハイライト表示されているアイテムとの相対であり、そのアイテムに応じて変わることがあります。キーボードを使用してドックレット・パネルをナビゲートする場合は、ドックレット・パネル・アイテムにタブ移動できますが、[Space]キーを押すまでハイライト表示や選択はされません。[Space]キーを押すと、アイテムが現在選択されてフォーカスがあることを意味する正方形の枠線付きでアイテムがハイライト表示されます。次に、アクション・パネル・メニュー項目がリフレッシュされ、選択したアイテムとの相対で表示されます。

開くと、「Narrative Reporting」リボンが Office アプリケーションに表示されます。

- ドックレットまたはリンクされた標準ドックレット
- リファレンス・ドックレット
- Office ベースのサプリメンタル・ドックレット

図 1 に、ドックレットがチェックアウトされる前の初期の状態の文書作成フェーズ用の「Narrative Reporting」リボンを示します。

図 24-14 文書作成フェーズでの初期の未チェックアウト状態のドックレットの「Narrative Reporting」リボン



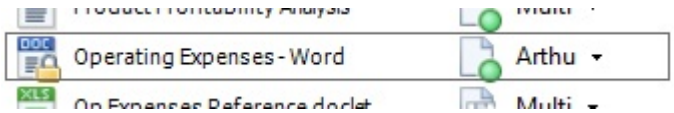
> **ノート:**
>
> 「Narrative Reporting」リボンのボタンの可用性は、割り当てられている権限、現在のフェーズ(文書作成、レビューまたはサインオフ)、および実行中の操作によって異なります。
>
> また、リンクされた標準ドックレットをチェックアウトする場合は、**「アップロード」**ボタンではなく**「ファイルの置換」**ボタンが表示されます。

3. 「Narrative Reporting」リボンで、**「チェックアウト」**をクリックします。

> **ノート:**
>
> - すべてのタイプの Office ベースのドックレットが別のユーザーによってすでにチェックアウトされている場合、**「チェックアウト」**ボタンが無効になっています。
> - ドックレットを開いてしばらく表示し、チェックアウトする前にそのドックレットが別のユーザーによって更新されるか埋込みコンテンツや変数がリフレッシュされた場合、チェックアウトを実行したとき、より新しいバージョンのドックレットが存在することがメッセージによって通知されます。オプションを選択します:
>   - **はい** – デフォルト。**「はい」**をクリックすると、ドックレットの作業中のコピーが閉じられてから、最新バージョンのドックレットが Narrative Reporting からダウンロードされ、チェックアウトされて、開かれます。未保存の変更は失われます。
>   - **いいえ** – 警告を無視し、作業中のローカル・バージョンをチェックアウトします。ただし、別のユーザーの更新を上書きする危険があります。

選択されたドックレットは自分が使用するためにロックされます。Narrative Reporting に接続しているときは、Smart View で直接操作できます。

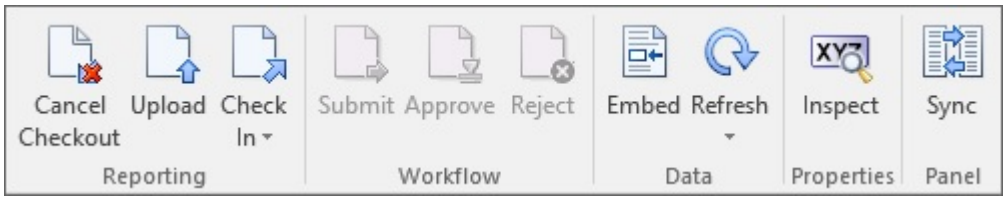
Smart View パネルのドックレットの責任リストに、チェックアウトされているドックレットまたはサプリメンタル・ドックレットに対してロック・アイコンおよびユーザー名が表示されます。



「Narrative Reporting」リボンで、**「チェックアウト」**ボタンが**「チェックアウトの取消し」**ボタンで置換され、**「埋込み」**ボタンが追加されます。

図 2 に、ドックレットをチェックアウトした後の文書作成フェーズ用の「Narrative Reporting」リボンを示します。

図 24-15 文書作成フェーズでのチェックアウト状態のドックレットの「Narrative Reporting」リボン



Narrative Reporting でチェックアウトしたドックレットを操作する次のステップ:

- ドックレットに対するロックを解除する場合は、チェックアウトを元に戻す(取り消す)ことができます。チェックアウトを元に戻すと、他のユーザーがドックレットをチェックアウトおよび更新できるようになります。チェックアウトの取消しを参照してください。
- 文書作成の変更が完了する前に Office を終了する必要がある場合、ドックレットをチェックインする必要はありませんが、進行中の変更を保存するにはアップロードする必要があります。ページ属性とスライド・マスターのアップロードおよび操作を参照してください。
- ヘルス・チェックを実行して、さらに Office タイプのドックレット(Microsoft Office ドキュメントのヘルス・チェックの実行で説明)をリフレッシュする場合は、最初にヘルス・チェックを実行してから、正しいドックレット名で一時ファイルを保存します。次に、保存したドックレットをアップロードしてチェックインします(ドックレットのチェックインを参照)。次に、ドックレットをチェックアウトし、リフレッシュを実行してから、ドックレットをアップロードし、チェックインします。

チェックアウトの取消し

このトピックは、すべてのタイプ(標準、リファレンス、サプリメンタル)の Office ベースのドックレットに適用されます。特に記載がないかぎり、用語の *ドックレット*は、すべての Office ベースのドックレットのタイプを示します。

Narrative Reporting で、チェックアウトを元に戻してロックを解除し、他のユーザーがドックレットをチェックアウトして変更できるようにできます。ドックレットをチェックアウトした後に行った変更は、アップロードした場合でも、チェックアウトを取り消すと破棄されます。変更内容を保持するには、かわりに**「チェックイン」**を選択します。

チェックアウトを元に戻すには:

1. Office ベースのドックレットがまだ開かれていない場合は、Smart View パネルでドックレットに移動してダブルクリックします。

2. 「Narrative Reporting」リボンで、**「チェックアウトの取消し」**をクリックします。



ページ属性とスライド・マスターのアップロードおよび操作

- Word ベースのレポート・パッケージのドックレット
- PowerPoint ベースのレポート・パッケージのドックレット
- レポート・パッケージの Office ベースのサプリメンタル・ドックレット

> **ノート:**
>
> ウィルス・スキャンが有効になっている Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management OCI (Gen 2)環境に接続しているとき、アップロードしようとしているいずれかのタイプのドックレットでウィルスが検出された場合、そのドックレットはアップロードされません。

Word ベースのレポート・パッケージのドックレット

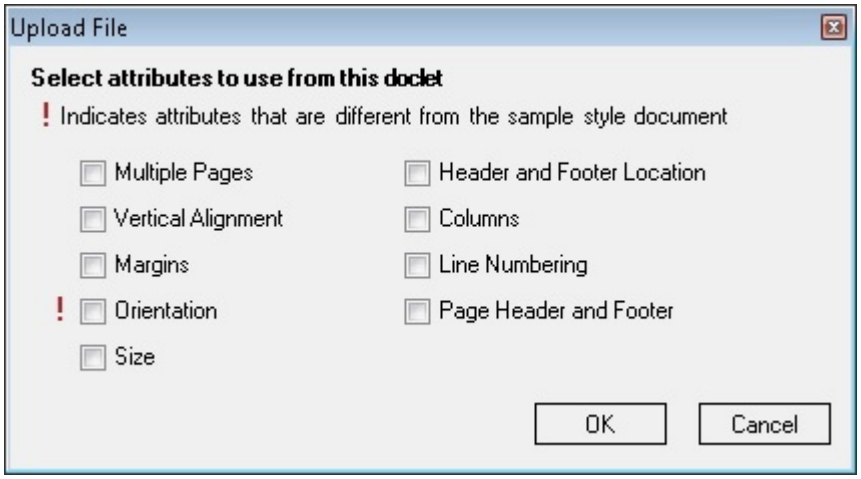
このトピックは、Word ベースのレポート・パッケージ内の Word ドックレットに適用されます。

Microsoft Word ベースのレポート・パッケージの場合、ドックレットのアップロード・プロセス中にオーバーライドするスタイル・サンプル属性を指定するよう求められます。

Word ベースのレポート・パッケージが Narrative Reporting で作成されるときに、スタイル・サンプル・ドキュメントがアップロードされます。これには、レポート・パッケージの所有者が最終レポートに必要なページ属性が含まれます。これらの属性には、ページ・ヘッダーおよびフッター、方向とサイズ、マージン、番号付けおよび位置合せが含まれます。

ドックレットをアップロードする際に、ドックレットがスタイル・サンプル・ドキュメントに照らしてチェックされ、属性が比較されます。スタイル・サンプルと異なる属性の横にアラートが表示されます。

図 24-16 「ファイルのアップロード」ダイアログ・ボックス



デフォルトでは、ドックレットのアップロード時にシステムによってドックレット属性がスタイル・サンプル属性でオーバーライドされます。たとえば、サンプルの方向が縦モードでドックレットが横モードの場合、ドックレットの方向はスタイル・サンプルに合せて縦モードに変更されます。

図 1 は、**「方向」**属性の横にアラートが表示されている**「ファイルのアップロード」**ダイアログ・ボックスを示しています。スタイル・サンプルをオーバーライドしてドックレットを横モードに維持するには、**「方向」**チェック・ボックスを選択します。属性を選択すると、スタイル・サンプルの属性ではなくドックレットの属性が使用されます。

Word ドックレットをアップロードし、オーバーライドするスタイル属性を確認して選択するには:

1. ドックレットがまだ開かれていない場合は、Smart View パネルでドックレットに移動し、ドックレット名をダブルクリックします。

   変更をアップロードするには、ドックレットをチェックアウトする必要があります。

2. 「Narrative Reporting」リボンで、**「アップロード」**をクリックします。



「ファイルのアップロード」ダイアログが表示されます(図 1 を参照)。

レポート・パッケージのスタイル・サンプルと異なるドックレット内のスタイル属性は感嘆符で示されます。

> **ノート:**
>
> スタイル・サンプル属性のアラートを確認して、オーバーライドする属性を選択できる**「ファイルのアップロード」**ダイアログを表示するには、**「アップロード」**ボタンをクリックする必要があります。**「チェックイン」**ボタンの**「アップロードしてチェックイン」**アクションは選択しないでください。

3. **「ファイルのアップロード」**ダイアログ・ボックス(図 1 を参照)で、オーバーライドするスタイル属性の横のチェック・ボックスを選択し、**「OK」**をクリックします。

   レポート・パッケージのスタイル・サンプルと異なるドックレット内のスタイル属性は感嘆符で示されます。

   感嘆符が付いている属性のみを選択できます。

4. ドックレットのチェックインに進みます。

   または、チェックアウトしたドックレットの操作を続行し、このトピックのアップロード手順を必要な回数だけ繰り返してから、ドックレットのチェックインに進むこともできます。

PowerPoint ベースのレポート・パッケージのドックレット

このトピックは、PowerPoint ベースのレポート・パッケージの PowerPoint ドックレットに適用されます。

Microsoft PowerPoint ベースのレポート・パッケージの場合、レポート・パッケージを作成する際に、レポート・パッケージ所有者が最終レポートに必要なスライド・マスターおよびスライド・レイアウトを含むスタイル・サンプルをアップロードします。これらのスライド・マスターにより、プレゼンテーションの外観とフォーマットが決定します。ドックレットをアップロードする際に、ドックレットがスキャンされ、使用中のスライド・マスターが強調表示されます。アラート・アイコンは、スタイル・サンプル・ドキュメントにないスライド・マスターを示します。

> **ノート:**
>
> ドックレットをアップロードするには、ドックレット・スライドをレポート・パッケージのスタイル・サンプル・スライドと同じサイズに設定する必要があります。たとえば、ドックレット・スライドが「画面に合わせる (4:3)」にサイズ設定されていて、レポート・パッケージのスタイル・サンプル・スライドが「画面に合わせる (16:9)」にサイズ設定されている場合、ドックレットをアップロードする前にドックレット・スライドのサイズを変更する必要があります。

PowerPoint ドックレットをアップロードしてスライド・マスターを選択するには:

1. ドックレットがまだ開かれてチェックアウトされていない場合は、Smart View パネルでドックレットに移動し、ドックレット名をダブルクリックして開きます。

   変更をアップロードするには、ドックレットをチェックアウトする必要があります。

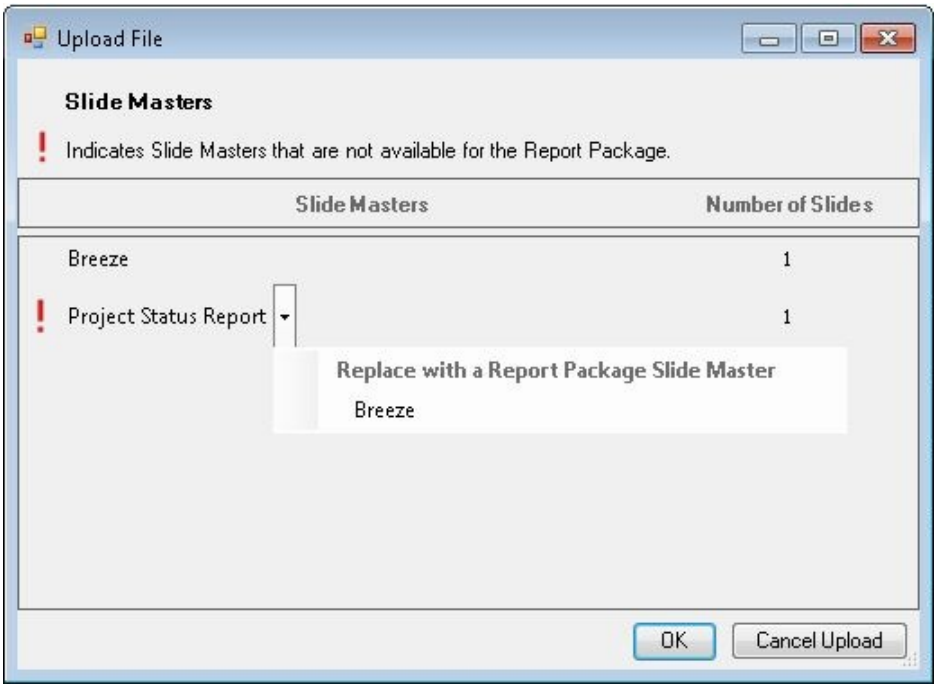
2. 「Narrative Reporting」リボンで、**「アップロード」**をクリックします。



「ファイルのアップロード」ダイアログが表示されます。

> **ノート:**
>
> スタイル・サンプルのスライド・マスターのアラートを確認して、オーバーライドする属性を選択できる**「ファイルのアップロード」**ダイアログを表示するには、**「アップロード」**ボタンをクリックする必要があります。**「チェックイン」**ボタンの**「アップロードしてチェックイン」**アクションは選択しないでください。

3. ドックレットがスタイル・サンプル・ドキュメントと同じスライド・マスターを使用する場合は、**「ファイルのアップロード」**ダイアログ・ボックスで**「OK」**をクリックしてステップ 5 に進みます。それ以外の場合は、ステップ 4 に進みます。
4. ドックレットにスタイル・サンプル・ドキュメントにないスライド・マスターが含まれている場合、次のいずれかのアクションを実行します:
   - ドックレット・スライド・マスターをレポート・パッケージ・スライド・マスターに置き換えるには、ドックレット・スライド・マスターの名前をクリックし、それを置き換えるレポート・パッケージ・スライド・マスターを選択します。



     ドックレット・スライド・レイアウトをレポート・パッケージ・スライド・マスターにマップして、プレゼンテーションの一様な外観を維持します。
   - ドックレット・スライド・マスターを保存するには、**「OK」**をクリックしてドックレットをアップロードします。

     ドックレット・スライド・マスターを保存すると、マージされたプレゼンテーションに追加されてスライドが確実に正しく表示されます。ただし、そのスライド・マスターは現在のドックレットでのみ使用できます。ドックレット・スライド・マスターは、他のドックレットでは使用できません。ドックレット・スライド・マスターを他のドックレットで使用する場合、レポート・パッケージ所有者はこれをレポート・パッケージのスタイル・サンプル・ドキュメントに追加する必要があります。
5. ドックレットのチェックインに進みます。

または、チェックアウトしたドックレットの操作を続行し、このトピックのアップロード手順を必要な回数だけ繰り返してから、ドックレットのチェックインに進むこともできます。

> **ノート:**
>
> ドックレットをレポート・パッケージにアップロードすると、すべてのスライドがデフォルトのレイアウトにリセットされます。スライドをデフォルトのスライド・マスター・レイアウトから変更しても、その変更はデフォルトにリセットされます。たとえば、イメージ用の場所を確保するためにスライド上のテキスト・ボックスのサイズを変更した場合、ドックレットをアップロードする際にテキスト・ボックスは元のサイズにリセットされます。ただし、追加のレイアウトをドックレット・スライド・マスターに追加することが可能で、その新規レイアウトはドックレット内に維持されます。そのため、変更したテキスト・ボックス・サイズを維持する場合は、ドックレット・スライド・マスターにそのレイアウトを追加する必要があります。
>
> たとえば、スライド全体にわたるテキスト・ボックスを含む「タイトルとコンテンツ」というスライド・レイアウトを使用するドックレットを操作するとします。付随するイメージを追加できるように、スライドの半分を占めるテキスト・ボックスのサイズを変更します。テキスト・ボックスのサイズを変更して、イメージを追加し、ドックレットをアップロードしても、スライドは「タイトルとコンテンツ」のデフォルトのレイアウトにリセットされるため、テキストがイメージに重なって表示されます。かわりに、サイズ変更したテキスト・ボックスを含む(たとえば、タイトル、テキストおよびイメージという)新規スライド・レイアウトを追加します。ドックレットをアップロードすると、新規スライド・マスターが上書きコピーされてそのドックレットに維持されます。

レポート・パッケージの Office ベースのサプリメンタル・ドックレット

このトピックは、Office ベースのサプリメンタル・ドックレットに適用されます。

チェックインする Office ベースのサプリメンタル・ドックレットをアップロードします。ただし、アップロード・プロセスで、スタイルまたはスライド・マスターを上書きする必要はありません。単純にアップロードします。

ZIP や PDF などの他のサプリメンタル・ドックレットのファイル・タイプは、Oracle Smart View for Office でチェックアウトされません。開くか、ダウンロードされるだけです。このため、アップロードする必要はありません。

Office ベースのサプリメンタル・ドックレットをアップロードするには:

1. ドックレットがまだ開かれていない場合は、Smart View パネルでドックレットに移動し、ドックレット名をダブルクリックします。

   変更をアップロードするには、ドックレットをチェックアウトする必要があります。
2. 「Narrative Reporting」リボンで、**「アップロード」**をクリックします。



または、ドックレットをアップロードしてチェックインするには、「Narrative Reporting」リボンで**「チェックイン」**を選択してから**「アップロードしてチェックイン」**を選択します。

「アップロード」コマンドと「アップロードしてチェックイン」コマンドのどちらを選択しても「ファイルのアップロード」ダイアログが表示されます。

3. ドックレットのチェックインに進みます。

   または、チェックアウトしたサプリメンタル・ドックレットの操作を続行し、このトピックのアップロード手順を必要な回数だけ繰り返してから、ドックレットのチェックインに進むこともできます。

ドックレットのチェックイン

このトピックは、すべてのタイプ(リファレンスおよびサプリメンタルを含む)の Office ベースのドックレットに適用されます。特に記載がないかぎり、用語の *ドックレット*は、すべての Office ベースのドックレットのタイプを示します。

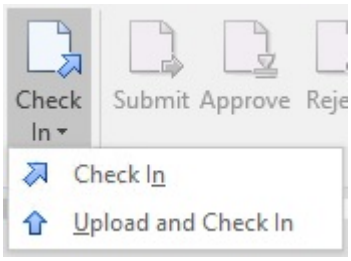
> **ノート:**
>
> - リンクされた標準ドックレットを操作する場合は、リンクされた標準ドックレットのリンクの削除を参照してください。
> - PDF ドックレットおよび Office 以外のサプリメンタル・ドックレットをチェックインするには、Narrative Reporting Web インタフェースを使用します。

Office ベースのドックレットの変更を完了した後、変更がレポート・パッケージに再度組み込まれ、他のユーザーが変更を参照できるように、再度チェックインする必要があります。

> **ノート:**
>
> ドックレットをチェックインする前に、まずアップロードする必要があります。このトピックの手順を使用すると 1 ステップでアップロードを実行してチェックインできます。アップロードのみを行うには、ページ属性とスライド・マスターのアップロードおよび操作を参照してください。

ドックレット、リファレンス・ドックレットまたは Office ベースのサプリメンタル・ドックレットをチェックインするには:

1. まだ開いていない場合は、Smart View パネルで、ドックレットに移動し、ダブルクリックして開き、チェックアウトします。
2. ドックレットに変更を加えた後、Narrative Reporting のリボンで、次のアクションを実行します:
   - **「アップロード」**ボタンをクリックしてアップロードをすでに実行した場合は、ページ属性とスライド・マスターのアップロードおよび操作の説明に従って、**「チェックイン」**ボタンを選択し、**「チェックイン」**を選択します。



- ドックレットをまだアップロードしていない場合は、**「チェックイン」**を選択してから**「アップロードしてチェックイン」**を選択します。

  このオプションを選択すると、既存のページ属性のオーバーライドの選択が維持されます。

いずれかのチェックイン操作を実行すると、Smart View パネルで、ロック・アイコンがドックレット責任リスト内のドックレットから削除され、ドックレットがチェックアウトされていないことが示されます。

> **ノート:**
>
> - 行った変更を破棄し、元のバージョンのドックレットに戻す場合は、かわりに**「チェックアウトの取消し」**をクリックします(チェックアウトの取消しを参照)。
> - ドックレットのバージョン管理は、複数の自動チェックインの影響を最小限にするように最適化されています。変数または埋込みコンテンツの変更のためにドックレットで複数の自動チェックインが実行されるとき、システムによってドックレット・コンテンツが更新されますが、新しいバージョンは生成されません。

ドックレットの提出

このトピックは、すべてのタイプ(リファレンスおよびサプリメンタルを含む)の Office ベースのドックレットに適用されます。特に記載がないかぎり、用語の *ドックレット*は、すべての Office ベースのドックレットのタイプを示します。

作業が終了したら、文書作成者はレポート・パッケージの所有者に Office ベースのドックレットを提出するか、承認が必要な場合はドックレット承認者に提出します。

ドックレット、リファレンス・ドックレットまたは Office ベースのサプリメンタル・ドックレットを提出するには:

1. まだ開いていない場合、Smart View パネルで、ドックレットに移動し、ダブルクリックして開きます。
2. 「Narrative Reporting」リボンで、**「発行」**をクリックします。



> **ヒント:**
>
> 複数の文書作成者がドックレットに割り当てられている場合は、ドックレットを提出する前にすべての文書作成者が作業を完了していることを確認してください。

承認が必要な場合は、ドックレットの現在の責任がドックレット承認者で更新されます。承認が必要ない場合は、現在の責任フィールドが空になります。

> **ノート:**
>
> ドックレットがまだチェックインされていない場合は、**「発行」**操作によってチェックインも行われます。

ドックレットを発行した後は、チェックアウトできなくなりますが、Oracle Smart View for Office または Narrative Reporting Web インタフェースからドックレットを開いて検査することは可能です。

ドックレットが提出されると、レポート・パッケージの所有者が今後の更新用にチェックアウトできます。

リンクされた標準ドックレットの操作

Related Topics

- リンクされた標準ドックレットについて
- リンクされた標準ドックレットのリンクの削除

リンクされた標準ドックレットについて

リンクされた標準ドックレットを使用すると、共通のライブラリ・ドキュメントを複数のレポート・パッケージ間で簡単に共有できます。

Narrative Reporting ライブラリのフォルダに格納されたドキュメントを、*リンクされた*標準ドックレットとしてレポート・パッケージに追加できます。リンクされた標準ドックレットによって、ライブラリ・ドキュメントへの永続的なリンクが保持されます。ライブラリ・ドキュメントが更新されると、ライブラリ・ドキュメントにリンクされているすべてのドックレットが Narrative Reporting によって自動的に更新されます。ドックレット・リンクが非アクティブ化されるまで、ドックレット・ファイルは Narrative Reporting によって継続的に更新されます。

リンクされた標準ドックレットは、レポート・パッケージ間で共通のコンテンツの一貫性を確保する簡単な方法です。

> **Note:**
>
> - リンクされたドックレットは、標準ドックレットにのみ適用できます。
> - リンクされた標準ドックレットは、リファレンス・ドックレットおよびサプリメンタル・ドックレットではサポートされません。
> - 埋込みコンテンツおよび変数は、リンクされたドックレットではサポートされません。
> - 提出、承認、否認、リコールなどのワークフロー・アクティビティは、リンクされた標準ドックレットに適用されます。これらのタスクは、Oracle Smart View for Office で完了できます。
> - ドックレットが完了とマークされると、リンクは非アクティブ化されます。

表 1 に示すように、リンクされた標準ドックレットとして指定できるドキュメントのタイプは、レポート・パッケージ・タイプによって異なります。

Table 24-1　レポート・パッケージ・タイプ別のリンクされたドックレットのサポート

レポート・パッケージ・タイプ	リンクがサポートされるドキュメント・タイプ
Word	Word
PowerPoint	PowerPoint
PDF	PDF、Word、Excel、レポート

Smart View では、次のことができます:

- ドックレットを選択して**「開く」**をクリックすることで、レポート・パッケージのリンクされた標準ドックレットのコンテンツを表示します。
- レポート・センターでリンクされた標準ドックレットを選択し、アクション・パネルで**「プロパティ」**を選択するか、「Narrative Reporting」リボンで**「検査」**ボタンをクリックすることで、そのドックレットのプロパティを表示します。
- リンクされた標準ドックレットに対して、次の文書作成フェーズのワークフロー・タスクを実行します: **「提出」**、**「承認」**、**「リコール」**、**「否認」**。
- リンクされた標準ドックレットをチェックアウトし、「Narrative Reporting」リボンの**「ファイルの置換」**ボタンをクリックすることで、リンクされた標準ドックレットを置換し、したがってリンクを削除します。ファイルを置換するとリンクが解除されることを示す警告が Narrative Reporting によって表示されます。**「ファイルの置換」**操作を確認し、リンクされていないドックレットをチェックインした後は、ドックレットはレポート・パッケージの他の標準ドックレットと同様になり、さらに文書作成、アップロード、チェックイン、提出、承認、リコールおよび否認できます。

  リンクされていないドックレットに対して加えた変更は、現在のレポート・パッケージのドックレットにのみ反映され、以前にリンクされていたライブラリ・ドキュメントには反映されません。

  Narrative Reporting Web では、ドックレット・リンクは、ドックレットが完了とマークされたとき、文書作成フェーズが完了したとき、またはレポート・パッケージが最終とマークされたときに削除または非アクティブ化することもできます。

リンクされた標準ドックレットのリンクを削除するには、リンクされた標準ドックレットのリンクの削除を参照してください。

> **Note:**
>
> ドックレット・リンクの削除後や、破損リンクのために、ライブラリ・ドキュメントへのリンクの再確立(再リンク)が必要な場合、Narrative Reporting Web でリンク手順を実行する必要があります。この手順は Smart View ではサポートされていません。詳細は、*Narrative Reporting ドックレットの文書作成および承認*のリンクされた標準ドックレットの操作に関する項を参照してください。

リンクされた標準ドックレットのリンクの削除

リンクされた標準ドックレットのコンテンツに変更を加えるには、ソース・ライブラリ・ドキュメント・ファイルで更新する必要があります。または、ライブラリ・ファイルへのリンクを削除することで、レポート・パッケージのリンクされたドックレットを標準ドックレットに置き換えることができます。

「Narrative Reporting」リボンの**「ファイルの置換」**ボタンを使用して、リンクされた標準ドックレットのリンクを削除します。

リンクが削除されると、リンクされた標準ドックレットはレポート・パッケージの標準ドックレットになり、標準ドックレットに関連付けられた通常のワークフロー・タスクがすべて備えられます。割り当てられた文書作成者は、ドックレット・コンテンツを変更する、変数を挿入する、埋込みコンテンツを挿入するなど、ドックレットをさらに更新できるようになります。

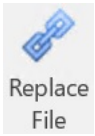
リンクされた標準ドックレットのリンクを削除するには:

1. レポート・パッケージを開き、リンクされた標準ドックレットを選択して、「Narrative Reporting」リボンの**「開く」**をクリックして、**「チェックアウト」**をクリックします。

   または、レポート・パッケージのドックレットを選択して、アクション・パネルで**「オープンしてチェック・アウト」**を選択します。

   Oracle Smart View for Office で、レポート・センターでドックレットを選択して**「開く」**をクリックし、リンクされたドックレット・ファイルを表示できます。ただし、リンクされた標準ドックレットのリンクを削除するには、チェックアウトする必要があります。

   リンクされた標準ドックレットをチェックアウトすると、「Narrative Reporting」リボンの**「ファイルの置換」**ボタンが有効になります。
2. 「Narrative Reporting」リボンで、**「ファイルの置換」**をクリックします。

   ドックレット・ファイルがリンクされていることと、ファイルを置き換えるとリンクが解除されることを通知するメッセージが、Narrative Reporting によって表示されます。

   リンクされた標準ドックレットが置換されると、そのドックレットは標準ドックレットになります。この標準ドックレットの文書作成は、他の標準ドックレットの場合と同様に実行できます。ドックレットに対してコンテンツの埋込みや変数の挿入などの文書作成タスクをさらに実行でき、ドックレットを提出または承認できます。
3. **「チェックイン」**をクリックして、置換したファイルをチェックインします。

または、前のステップで説明したように**「置換」**ボタンをクリックするのではなく、**「チェックイン」**ボタンのドロップダウン矢印をクリックして**「ファイルを置換してチェックイン」**を選択して、置換とチェックインを 1 回の操作で完了します。

4. 割り当てられた文書作成者は、置き換えられたドックレットに対して文書作成タスクを続行できます。

   たとえば、文書作成者はドックレットの変更、コンテンツの埋込み、変数の挿入、ドックレットのアップロードおよびチェックインを実行し、必要に応じてドックレットの提出、承認、リコールまたは否認に進むことができます。

リファレンス・ドックレットからの埋込みコンテンツの操作

リファレンス・ドックレットからの埋込みコンテンツにより、通常使用するレポート・コンテンツを定義して、レポート・パッケージ内の 1 つ以上のドックレットに埋め込むことができます。

関連トピック:

リファレンス・ドックレットからの埋込みコンテンツについて

レポート・パッケージへのリファレンス・ドックレットの追加

リファレンス・ドックレットの「使用可能なコンテンツ」ボタンを使用した使用可能なコンテンツの作成

リファレンス・ドックレットの Excel 名前付き範囲からの使用可能なコンテンツの作成

Excel ベースのリファレンス・ドックレットのコンテンツおよびプロパティの更新

Excel ベースのリファレンス・ドックレットからの使用可能なコンテンツの削除

使用可能なコンテンツのプレビュー

ドックレットのコンテンツの埋込み

ドックレットの埋込みコンテンツのリフレッシュ

ドックレットの使用可能なコンテンツ名の表示

ドックレットからの埋込みコンテンツの削除

リファレンス・ドックレットからの埋込みコンテンツについて

埋込みコンテンツとは埋込みコンテンツは、リファレンス・ドックレットの文書作成者が作成し、リファレンス・ドックレットに含まれる共通のレポート・コンテンツから開始します。この共通のコンテンツは、ドックレット文書作成者の使用可能なコンテンツになります。Oracle Smart View for Office または Web を使用して、ドックレットの文書作成者は、Word または PowerPoint ベースのレポート・パッケージの発行されたレポートの一部であるドックレットにコンテンツを埋め込みます。

リファレンス・ドックレットの文書作成者として、レポート・コンテンツを作成し、使用可能なコンテンツとして定義します。Excel ベースのリファレンス・ドックレットでは、Excel の名前付き範囲機能を使用します。レポート・ベースのリファレンス・ドックレットでは、Web インタフェースを使用します。アップロードおよびチェックイン後、ドックレットの文書作成者はコンテンツを使用できます。

ドックレットの文書作成者として、リファレンス・ドックレットを埋込みコンテンツのデータ・ソースとして考慮できます。レポート・パッケージには、複数のリファレンス・ドックレット

を含むことができます。レポート・パッケージの複数のドックレットの複数のリファレンス・ドックレットから使用可能なコンテンツを埋め込むことができます。

リファレンス・ドックレットの文書作成者が、Smart View または Web インタフェースでリファレンス・ドックレットにチェックインするたびに、システムにより、コンテンツを埋め込んだドックレットが自動的にリフレッシュされます。

ドックレットの文書作成者がコンテンツを埋め込んだドックレットにチェックインするたびに、システムにより、ドックレットの埋込みコンテンツが自動的にリフレッシュされます。

レポートの基礎となるデータ・ソースを更新すると、次にリファレンス・ドックレットおよび埋込みコンテンツを含むドックレットを開くかリフレッシュするときに変更を表示できます。

> **ノート:**
>
> リファレンス・ドックレットの文書作成者用: リファレンス・ドックレットはレポート・パッケージの一部であり、レポート・パッケージ内で維持されます。リファレンス・ドックレットには、ワークフロー、セキュリティおよびバージョン管理などのレポート・パッケージの他のドックレットと同じサポートがあります。

リファレンス・ドックレットおよび埋込みコンテンツを操作する基本プロセス・フローは、次のとおりです。

1. レポート・パッケージ所有者は、Excel およびレポート・ベースのリファレンス・ドックレットをレポート・パッケージに追加します。

   リファレンス・ドックレットには、レポート・コンテンツ、および名前付き範囲(Excel ベースのリファレンス・ドックレットの場合)を事前に含めることができます。リファレンス・ドックレットの文書作成者およびドックレットの文書作成者は、名前付き範囲を後の文書作成プロセス中に追加することもできます。

2. Smart View または Web インタフェースで、Excel ベースのリファレンス・ドックレットの文書作成者は、レポート・コンテンツを作成し、表、グラフ、チャートなどのデータおよび他のコンテンツの名前付き範囲を定義して、レポート・パッケージに含めます。これらは、リファレンス・ドックレットで使用されているフォントを検証して、コンテンツがドックレットに埋め込まれるときにフォーマットが保持されるようにします。

   Web インタフェースでは、レポート・ベースのリファレンス・ドックレットの文書作成者は、使用可能なコンテンツとしてレポートに表、チャート、ノートおよびテキスト・ボックスを追加できます。

   複数の使用可能なコンテンツ・オブジェクトを単一のリファレンス・ドックレット内に作成できます。たとえば、リファレンス・ドックレットに複数の名前付き範囲を作成できます。

3. リファレンス・ドックレットの文書作成者がリファレンス・ドックレットをアップロードおよびチェックインするため、ドックレットの文書作成者がレポート・コンテンツを使用できるようになります。

4. ドックレットの文書作成者は、リファレンス・ドックレットから割り当てられたドックレットにコンテンツを埋め込みます。

Smart View で、Excel ベースのリファレンス・ドックレットの名前付き範囲の定義のプロセスを開始します。

Narrative Reporting Web で完了する手順は、*Narrative Reporting ドックレットの文書作成および承認*の埋込みコンテンツの理解 - ドックレットの文書作成者を参照してください。

表 24-2 ビデオ

目的	このビデオを見る
Smart View での使用可能なコンテンツの作成およびリファレンス・ドックレットからのコンテンツの埋込みについて学習します。 このビデオでは、デモの目的で Word ベースのレポート・パッケージが使用されていますが、説明されている手順は PowerPoint ベースのレポート・パッケージにも適用されます。	 リファレンス・ドックレットおよび参照ファイルからのコンテンツの埋込み

レポート・パッケージへのリファレンス・ドックレットの追加

このタスクは、Narrative Reporting Web インタフェースを使用して、レポート・パッケージ所有者によって完了されます。

埋込みコンテンツの操作を開始するには、レポート・パッケージ所有者が Excel またはレポート・ベースのリファレンス・ドックレットをレポート・パッケージに追加します。リファレンス・ドックレットとは、リファレンス・ドックレットの文書作成者がレポート・コンテンツを追加して、ドックレットの文書作成者が埋め込みできるようにするためのコンテナです。

> **ノート:**
>
> - リファレンス・ドックレットをレポート・パッケージに追加するには、レポート・パッケージ所有者権限が必要です。
> - 追加するリファレンス・ドックレットには、レポート・コンテンツおよび名前付き範囲を事前に含めるか、後の文書作成プロセス中に追加できます。

リファレンス・ドックレットをレポート・パッケージに追加するには:

1. Oracle Smart View for Office で、レポート・パッケージ構造へのドックレットの追加に記載されている手順に従います。

   あるいは、Narrative Reporting Web を使用する場合は、リファレンス・ドックレットへの Excel コンテンツの追加を参照してください。

2. Smart View で、レポート・パッケージを開き、リファレンス・ドックレットが含まれていることを確認してください。

リファレンス・ドックレットの文書作成者は、Excel ベースのリファレンス・ドックレットの名前付き範囲の定義に記載されているとおり、Excel ベースのリファレンス・ドックレットの操作を開始できます。

リファレンス・ドックレットからのコンテンツのドックレットへの埋込みを開始するには、ドックレットのコンテンツの埋込みに進みます。

リファレンス・ドックレットの「使用可能なコンテンツ」ボタンを使用した使用可能なコンテンツの作成

Oracle Smart View for Office の Narrative Reporting のリボンの**「使用可能なコンテンツ」**ボタンを使用して、使用可能なコンテンツを迅速かつ簡単に作成できます。

「使用可能なコンテンツ」ボタンを使用して、Excel で選択した範囲に基づいて、基礎となる名前付き範囲が自動的に作成されます。新しいコンテンツに名前とオプションの説明を適用するのみで済みます。

> **Note:**
>
> - この機能には、Narrative Reporting 拡張機能の 24.02 以降のバージョンが必要です
> - リファレンス・ドックレットの Excel 名前付き範囲からの使用可能なコンテンツの作成の説明に従って、定義した Excel 名前付き範囲を使用して使用可能なコンテンツを作成することもできます。

「使用可能なコンテンツ」ボタンを使用して、使用可能なコンテンツを追加するには:

1. レポート・パッケージを開いてから、リファレンス・ドックレットを開きます。

   リファレンス・ドックレットはチェックアウトしないでください。**「使用可能なコンテンツ」**ボタンはリファレンス・ドックレットがチェックインされている場合にのみ有効になります。

   リファレンス・ドックレットが Excel で開きます。Word または PowerPoint でレポート・パッケージを開いた場合、リファレンス・ドックレットを開くと Excel が起動します。

2. Excel リファレンス・ドックレットで、範囲を選択します。

   範囲は、表またはグラフィック(チャートなど)にできます。チャートを選択する場合は、チャートの上下の空白行を選択するようにします。

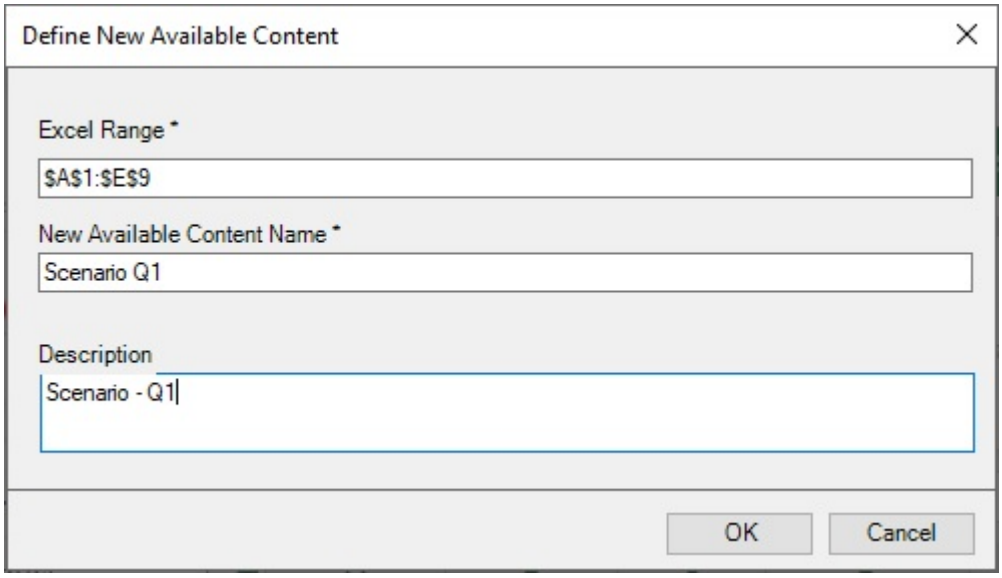
3. **「使用可能なコンテンツ」**ボタンをクリックします:

   「新規の使用可能なコンテンツの定義」ダイアログが起動します。

4. **「新規の使用可能なコンテンツの定義」**ダイアログで、新しい使用可能なコンテンツの名前とオプションの説明を入力します。

   選択した範囲は、デフォルトで **Excel 範囲**テキスト・ボックスに入力されます。有効な範囲を入力することもできます。



5. **「OK」**をクリックします。

   新しいコンテンツは、Word または PowerPoint のドックレットに埋め込むことができます。

6. **オプション:** 新規に作成された使用可能なコンテンツの**「表のコンテンツを自動的にサイズ変更」**オプションを無効にするには、Excel ベースのリファレンス・ドックレットのコンテンツおよびプロパティの更新を参照してください。

   「使用可能なコンテンツ」ボタンを使用して使用可能なコンテンツを作成している場合、**「表のコンテンツを自動的にサイズ変更」**オプションは表示されません。このオプションは、Excel の表またはグリッドから(チャートからではなく)作成されたコンテンツに適用されます。このオプションを無効にするには、使用可能なコンテンツを編集し、オプションを解除する必要があります。

リファレンス・ドックレットの Excel 名前付き範囲からの使用可能なコンテンツの作成

Related Topics

- Excel ベースのリファレンス・ドックレットの名前付き範囲の定義
- Excel ベースのリファレンス・ドックレットへの使用可能なコンテンツの追加

Excel ベースのリファレンス・ドックレットの名前付き範囲の定義

このトピックは、Excel ベースのリファレンス・ドックレットにのみ適用されます。

リファレンス・ドックレットの文書作成者は、レポート・コンテンツを作成し、リファレンス・ドックレットのコンテンツの名前付き範囲を定義します。通常、Excel の「数式」リボンの「名前の定義」または「名前の管理」アイテムからアクセスする「新しい名前」ダイアログ・ボックスを使用して、範囲名を作成できます。範囲名の詳細は、Microsoft ドキュメントを参照してください。

リファレンス・ドックレットをレポート・パッケージに追加する前に、名前付き範囲を定義できます。

または、このトピックの説明に従って、文書作成フェーズ中に名前付き範囲を定義できます。

> **ノート:**
>
> この手順を開始する前に、文書作成フェーズが開始されていることを確認します。

Excel ベースのリファレンス・ドックレットの名前付き範囲を定義するには:

1. レポート・パッケージを開きます。
2. リファレンス・ドックレットを開いてからチェックアウトします。

   リファレンス・ドックレットが Excel で開きます。Word または PowerPoint でレポート・パッケージを開いた場合、リファレンス・ドックレットを開くと Excel が起動します。
3. レポート・コンテンツを作成します。
4. 範囲名を選択したレポート・コンテンツに追加します。

   リファレンス・ドックレットの任意のレポート・コンテンツまたはすべてのレポート・コンテンツに範囲名を追加できます。レポート・パッケージの文書作成者が使用できるコンテンツを決定します。

   名前付き範囲が次に該当する場合、名前付き範囲が有効です:

   - Excel ワークブック内に存在します。
   - 非表示の名前ではありません。
   - 非表示ではないワークシートのセルの範囲を参照します。
   - 式または定数を参照していません。
   - 動的に計算された参照が含まれません。たとえば、参照は、参照式または別の名前付き範囲に依存して範囲を動的に決定するのではなく、セルの絶対範囲を指す必要があります。
   - "#REF!"エラーなどのエラーが含まれません。

   名前付き範囲はレポート・パッケージの使用可能なコンテンツになることに注意してください。
5. **オプション:** 埋め込まれた Microsoft Word 表内の「各ページにタイトル行を表示する」オプションを使用可能にするには、Excel 名前付き範囲を編集して、コメント・フィールドに次の構文を追加します:

   ```
   NR_Headings=#
   ```

   たとえば、表のヘッダー行を表す名前付き範囲内に 3 行ある場合、次のように指定します:

   ```
   NR_Headings=3
   ```

   Word ドックレットに埋め込んだときに名前付き範囲が複数ページにわたる必要がある場合、ドックレット内で表がわたる各ページの列ヘッダーとして、示された数の行が繰り返されます。
6. **オプション:** リファレンス・ドックレットで名前付き範囲を追加し、コンテンツを編集するときに、リファレンス・ドックレットのフォントの検証のステップを完了して、リファレンス・ドックレットで使用しているフォントが Narrative Reporting サービスでも使用可能であることを確認します。
7. レポート・コンテンツおよび名前付き範囲をレポートに追加し、フォントを検証したら、リファレンス・ドックレットをアップロードしてチェックインします。

次のステップに進むため、リファレンス・ドックレットを少なくともアップロードする必要があります。

8. Excel ベースのリファレンス・ドックレットへの使用可能なコンテンツの追加に進みます。

Excel ベースのリファレンス・ドックレットへの使用可能なコンテンツの追加

このトピックは、Excel ベースのリファレンス・ドックレットにのみ適用されます。

リファレンス・ドックレットの文書作成者または承認者は、使用可能なコンテンツをリファレンス・ドックレットに追加できます。使用可能なコンテンツは、リファレンス・ドックレットで指定された名前付き範囲に基づいています(Excel ベースのリファレンス・ドックレットの名前付き範囲の定義を参照)。

Oracle Smart View for Office で、**「プロパティ」**ダイアログ・ボックスを使用して名前付き範囲を検出し、使用可能なコンテンツとして指定します。リファレンス・ドックレットがレポート・パッケージにチェックインされると、リファレンス・ドックレットで行われた変更およびリファレンス・ドックレットを指すコンテンツを埋め込んだドックレットの変更を更新する自動リフレッシュが実行されます。

> **ノート:**
>
> - この手順を開始する前に、文書作成フェーズが開始されていることを確認します。
> - ドックレットの文書作成者は、使用可能なコンテンツの定義を追加できません。

Smart View で使用可能なコンテンツをリファレンス・ドックレットに追加するには:

1. レポート・パッケージを開き、リファレンス・ドックレットを開いてチェックアウトします。

   リファレンス・ドックレットが Excel で開きます。Word または PowerPoint でレポート・パッケージを開いた場合、リファレンス・ドックレットを開くと Excel が起動します。

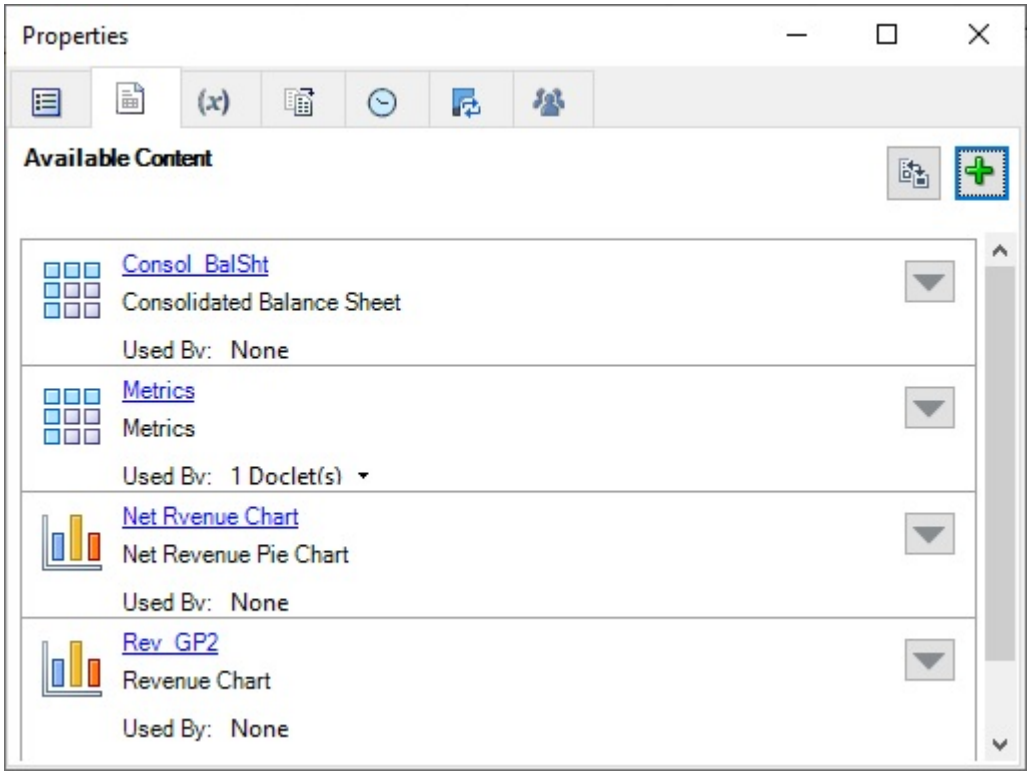
2. 「Narrative Reporting」リボンで**「検査」**をクリックして、**「プロパティ」**ダイアログ・ボックスを起動します。

   または、レポート・パッケージ・リストでリファレンス・ドックレットを選択して、**「プロパティの表示」**リンクをクリックして、**「プロパティ」**ダイアログ・ボックスにアクセスします。

3. **「使用可能なコンテンツ」**タブを選択します。

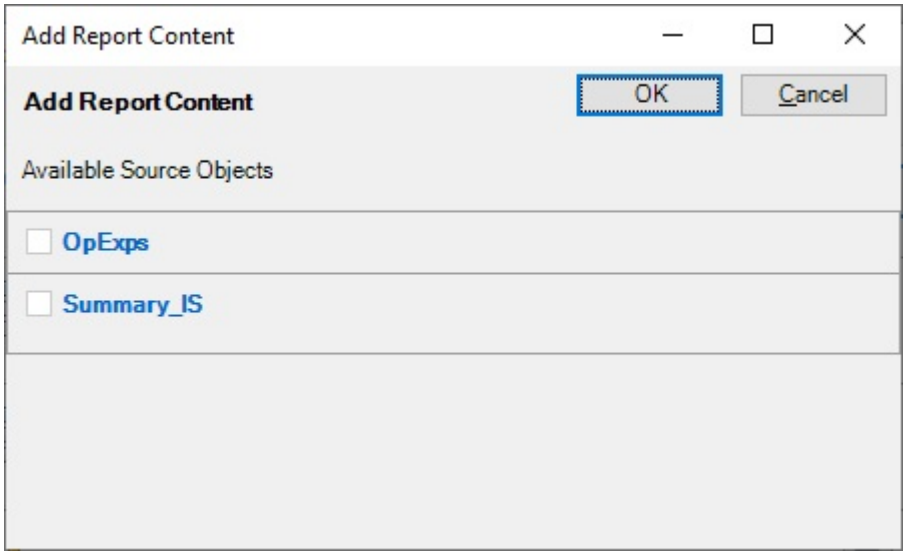
図 24-17 「プロパティ」ダイアログ・ボックス - 「使用可能なコンテンツ」タブ



4. **「追加」**ボタン  をクリックし、**「レポート・コンテンツの追加」**ダイアログ・ボックスを開きます。

   「レポート・コンテンツの追加」には、現在のリファレンス・ドックレットで使用可能なコンテンツとして選択されていないすべての名前付き範囲が**「使用可能なソース・オブジェクト」**の下に表示されます。図 2 には、使用可能な 2 つのソース・オブジェクト(OpExps と Summary_IS)が表示されています。

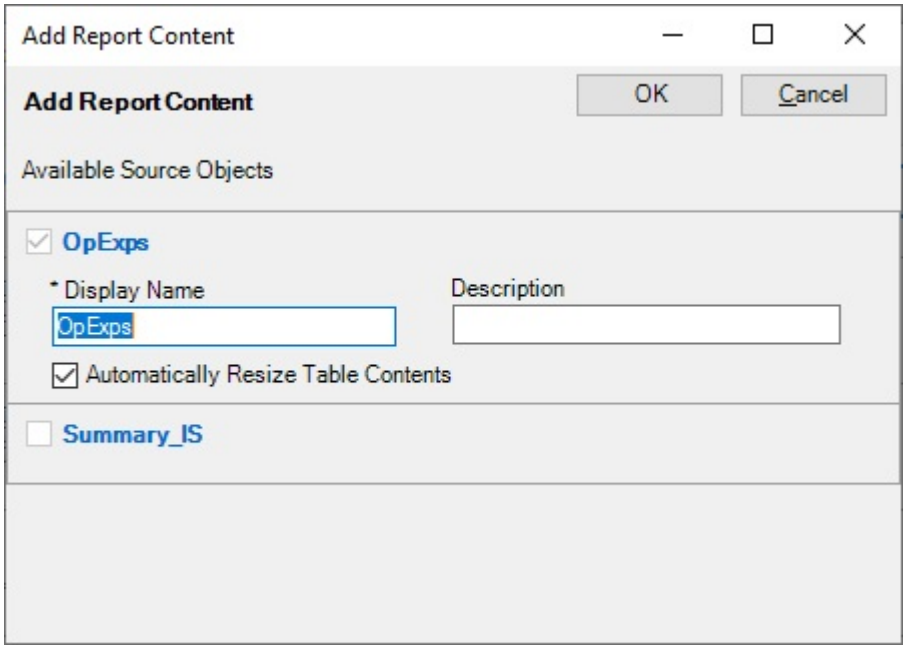
図 24-18 2 つの使用可能なソース・オブジェクトが表示されている「レポート・コンテンツの追加」ダイアログ



5. 後で埋め込むために使用可能にするコンテンツのリンクを選択します。

   たとえば、図 3 では、使用可能な範囲「OpExps」のリンクが選択されています。

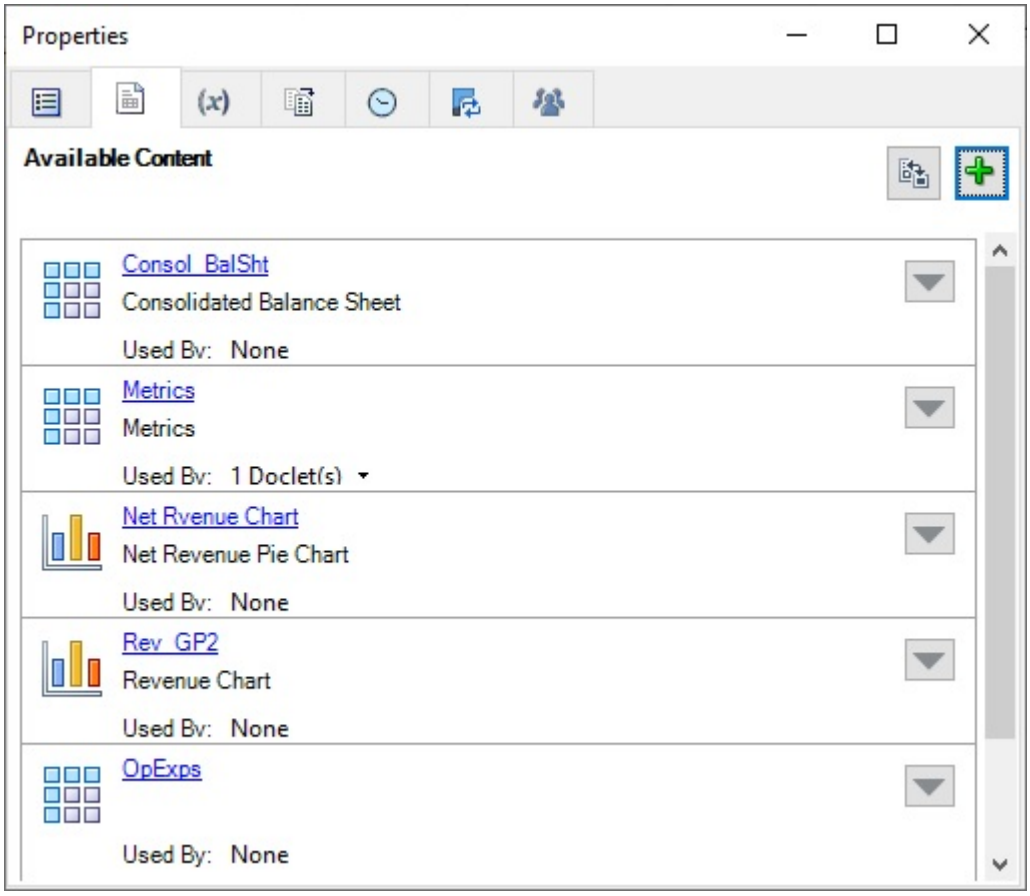
図 24-19 「レポート・コンテンツの追加」ダイアログ・ボックス



6. **オプション:** 必要に応じて編集します:
   - **表示名**
   - **説明**
   - **表のコンテンツを自動的にサイズ変更**—デフォルトで選択されています。Excel の範囲に適用されます。
     Word の表には、最適なレンダリングのために列の幅と行の高さを調整する「表のコンテンツを自動的にサイズ変更」というデフォルト・オプションがあります。このサイズ変更により、Word ドックレット内の埋込み表とソース表またはグリッドとの間に相違が生じる可能性があります。

     埋込みの Word 表とソース参照表またはグリッドとの間の相違を最小限に抑えるには、**「表のコンテンツを自動的にサイズ変更」**チェック・ボックスの選択を解除します。
7. **「OK」**をクリックして、**「プロパティ」**ダイアログ・ボックスの**「使用可能なコンテンツ」**タブに戻ります。

図 24-20 「プロパティ」ダイアログ・ボックス - コンテンツを追加した「使用可能なコンテンツ」タブ



8. ダイアログの右上隅の**「X」**をクリックして閉じます。
9. リファレンス・ドックレットをアップロードしてチェックインします。

   追加したコンテンツをドックレットに埋め込むために使用できるようになりました。
10. ドックレットのコンテンツの埋込みに進みます。

    オプションで、リファレンス・ドックレットのコンテンツを維持または削除するには、Excel ベースのリファレンス・ドックレットのコンテンツおよびプロパティの更新 or Excel ベースのリファレンス・ドックレットからの使用可能なコンテンツの削除に進みます。

リファレンス・ドックレットのフォントの検証

「Narrative Reporting」リボンで使用可能なフォント検証コマンドは、Excel リファレンス・ドックレット内の表が埋込みコンテンツとしてドックレットに挿入されるときに正しくレンダリングされることをすばやく簡単に確認する方法を提供します。

リファレンス・ドックレット内の表で使用されるすべてのフォントが Narrative Reporting サービスにインストールされている必要があります。フォントがサービス内で使用可能でない場合は、代替フォントが使用されます。この代替により、コンテンツがオンラインで表示されるか別のドックレットに挿入されるときに、視覚的な違いが大きくなることがあります。

フォント検証コマンドでは、Excel リファレンス・ドックレットで使用されているいずれかのフォントが Narrative Reporting で使用可能でない場合に通知されます。サービス管理者に、不

足しているフォント・ファイルをインストールするよう通知できます。メッセージでは、すべてのフォント・ファイルが同期しているかどうかも通知されます。

リファレンス・ドックレット内のフォントを検証するには:

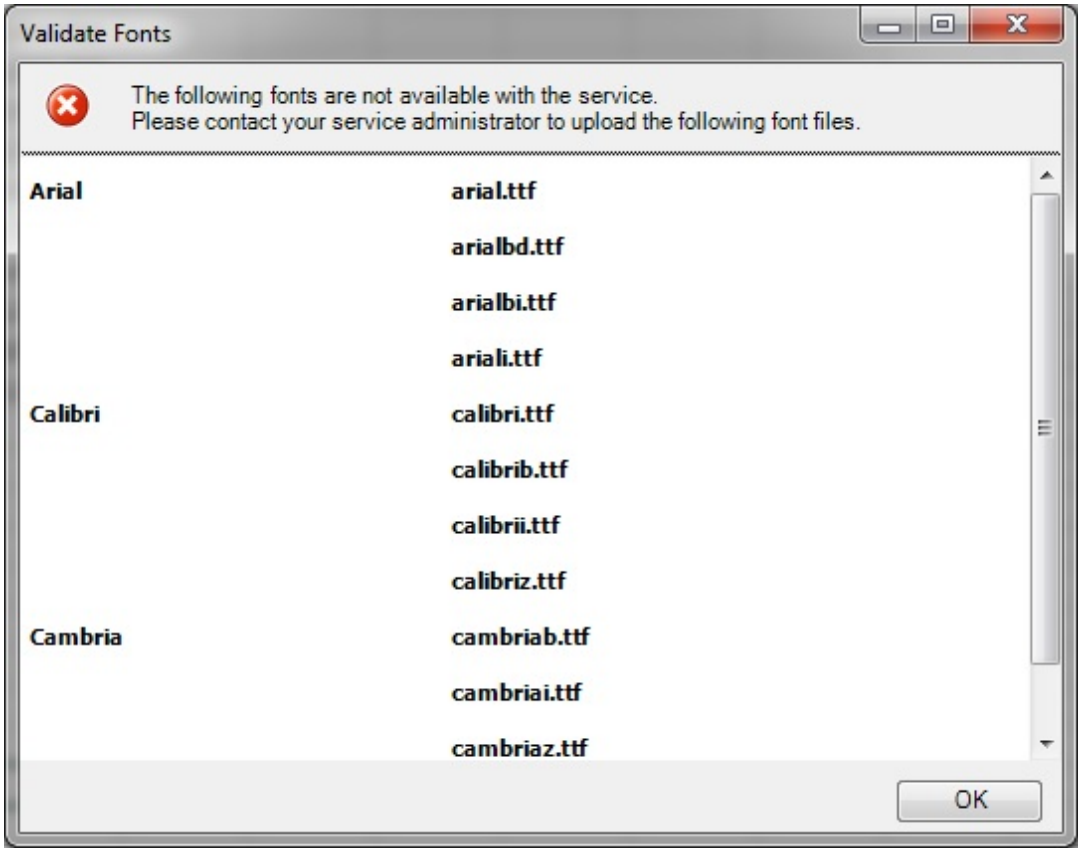
1. レポート・パッケージから、リファレンス・ドックレットを開きます。

   ドックレットをチェックアウトできますが、フォントの検証に必須ではありません。

2. **「フォントの検証」**アイコンをクリックします。



ドックレットで使用されるフォントとサービスで使用可能なフォントに相違がある場合は、不足しているフォントをリストする次のダイアログが表示されます。



3. 不足しているフォントをノートにとり、**「OK」**をクリックします。
4. サービス管理者に、サービスに不足しているフォントをインストールするよう依頼します。

> **ノート:**
>
> 場合によっては、リストされているフォントがリファレンス・ドックレットで使用されていないことがあります。これらは通常、Arial、Calibri、Calibri Light などのデフォルトの Excel フォントです。これらのフォントを使用していないことがわかっている場合は、サービス管理者にそのフォントをインストールするよう通知するかどうかは自分で決定できます。

ドックレットのコンテンツの埋込み

Excel およびレポート・ベースのリファレンス・ドックレットがレポート・パッケージに追加され、レポート・コンテンツが作成され、名前付き範囲が定義され、使用可能なコンテンツが識別されたため、このコンテンツを埋め込むことができます。Word または PowerPoint ドックレットにコンテンツを埋め込むことができます。たとえば、レポート・パッケージの使用可能なコンテンツの中に、文書作成者がドックレットに追加するチャート、グリッド、ノートまたはテキスト・ボックスが存在する可能性があります。

> **ノート:**
>
> 開始する前に、ドックレットの文書作成フェーズが開始されていることを確認してください。

コンテンツをドックレットに埋め込むには:

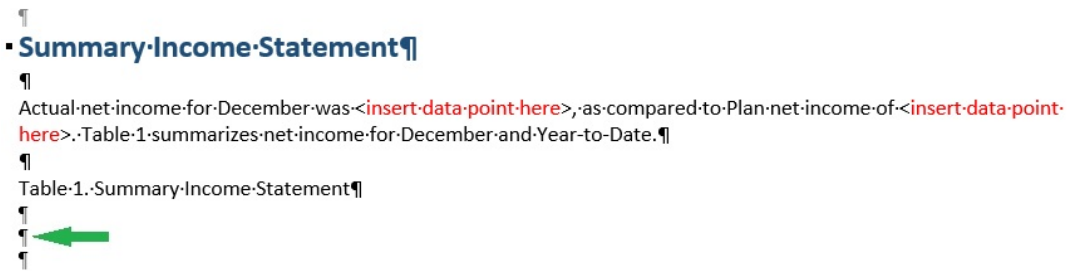
1. ドックレットを開いてチェックアウトします。

   このドックレットを"ターゲット"ドックレットと呼びます。

2. 埋込みコンテンツを挿入するターゲット・ドックレットの位置にカーソルを置きます。

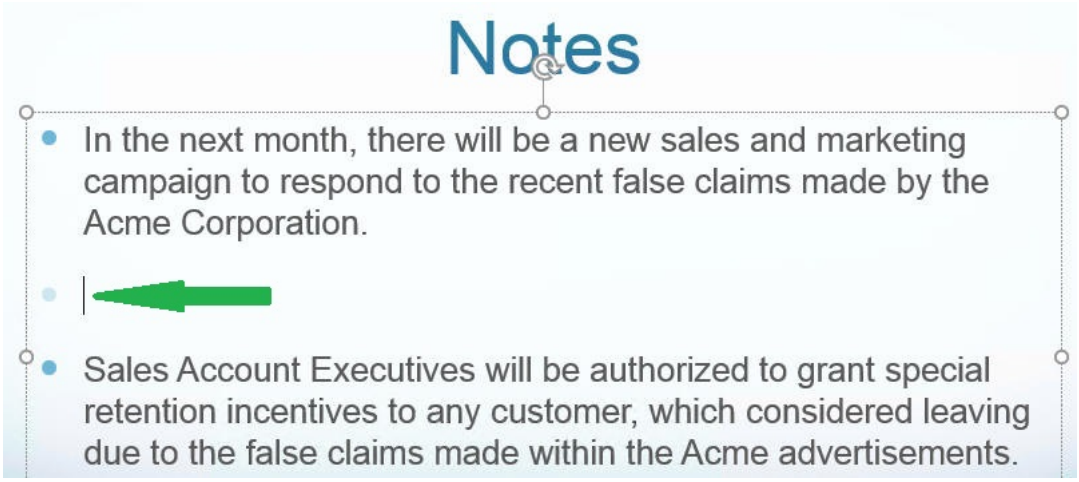
   図 1 で、緑色の矢印は、Word ドックレットの埋込みコンテンツの挿入位置を示します。

図 24-21 挿入位置にカーソルが置かれたターゲット Word ドックレットの例

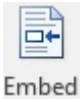


PowerPoint スライドでは、スライド形式に応じて、他のテキストまたはグラフィックを含まないスライドに表またはグラフを埋め込むことができます。その場合、スライドの任意の場所をクリックするだけです。埋込みコンテンツをスライドのテキスト内の特定の位置に挿入する必要がある場合は、図 2 に示すように挿入位置にカーソルを置きます

図 24-22 挿入位置にカーソルが置かれたターゲット PowerPoint ドックレットの例



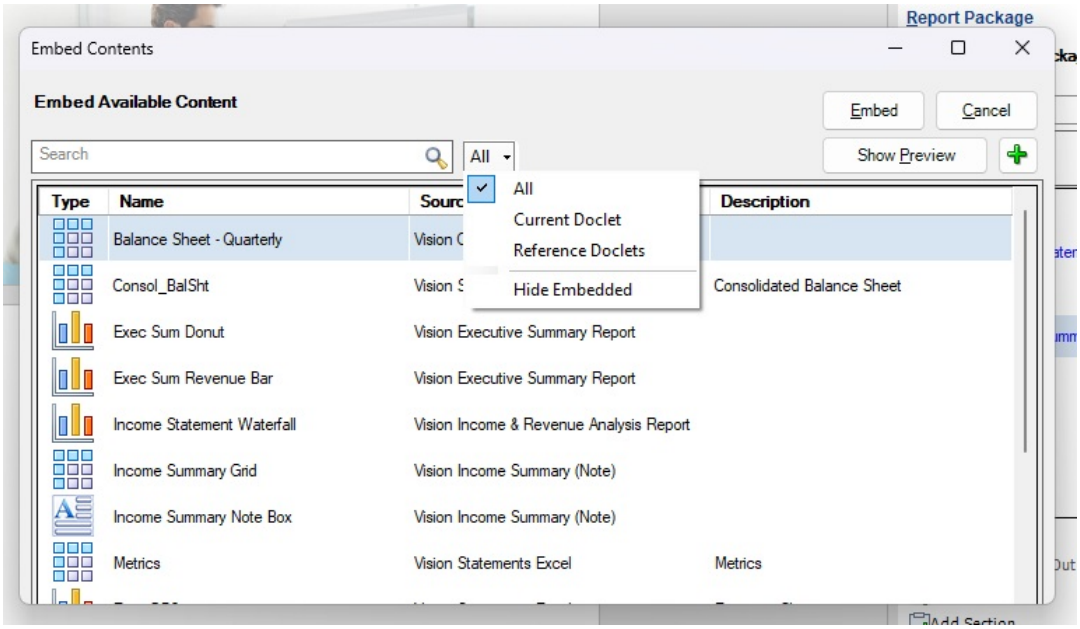
3. ターゲット・ドックレットから、「Narrative Reporting」リボンの**「埋込み」**ボタンをクリックします。



「コンテンツの埋込み」ダイアログ・ボックスが起動します。

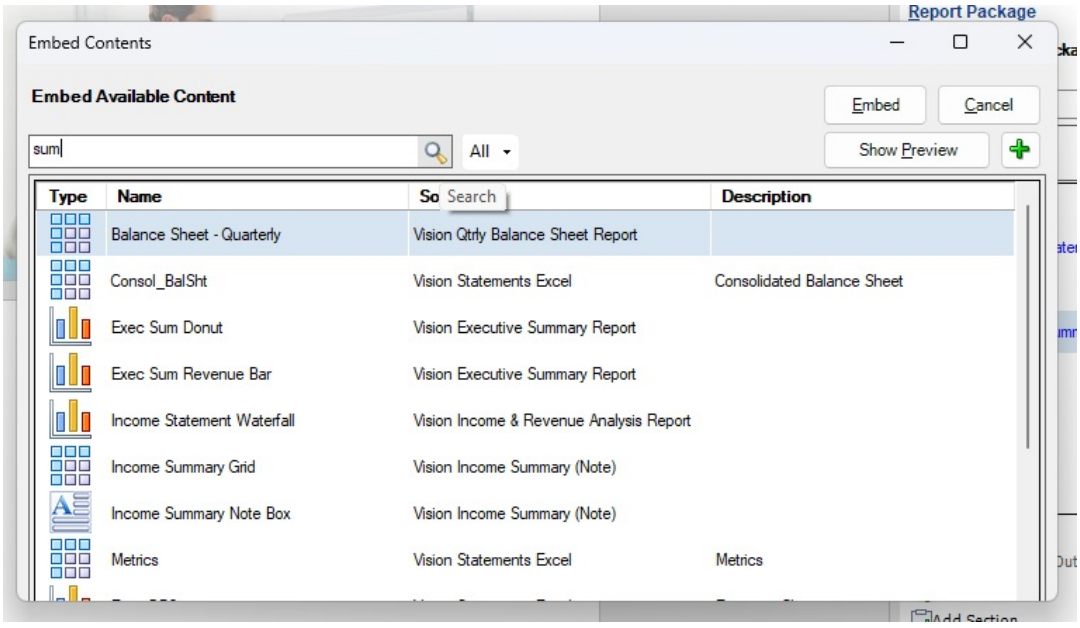
4. **オプション:** 使用可能なコンテンツのリストを絞り込むには、フィルタ・オプションを選択します:

   - **すべて** - デフォルト。使用可能なすべてのコンテンツを表示します。
   - **現在のドックレット** - 現在のドックレットに登録されている参照ファイルから使用可能なコンテンツを表示します。
   - **リファレンス・ドックレット** - レポート・パッケージ内のすべてのリファレンス・ドックレットから使用可能なコンテンツを表示します。
   - **埋込みの非表示** - 現在のドックレットにすでに埋め込まれている使用可能なコンテンツを非表示にします。



5. **オプション:** 検索フィールドに用語を入力し、虫眼鏡アイコンをクリックして、使用可能なコンテンツのリストを絞り込みます。

> **ノート:**
>
> ワイルドカードは必要ありません。Narrative Reporting では、使用可能なコンテンツ名の任意の場所で用語が検索されます。



前述の例では、用語 sum を入力しました。Narrative Reporting は、コンテンツ名のどこかに sum が含まれている利用可能なすべてのコンテンツを検索し、すべての結果を返します。

虫眼鏡アイコンをクリックすると、**X** に変わることに注目してください:



X アイコンを検索フィールドで使用して検索語をクリアし、使用可能なコンテンツのリストを元の状態に戻します。

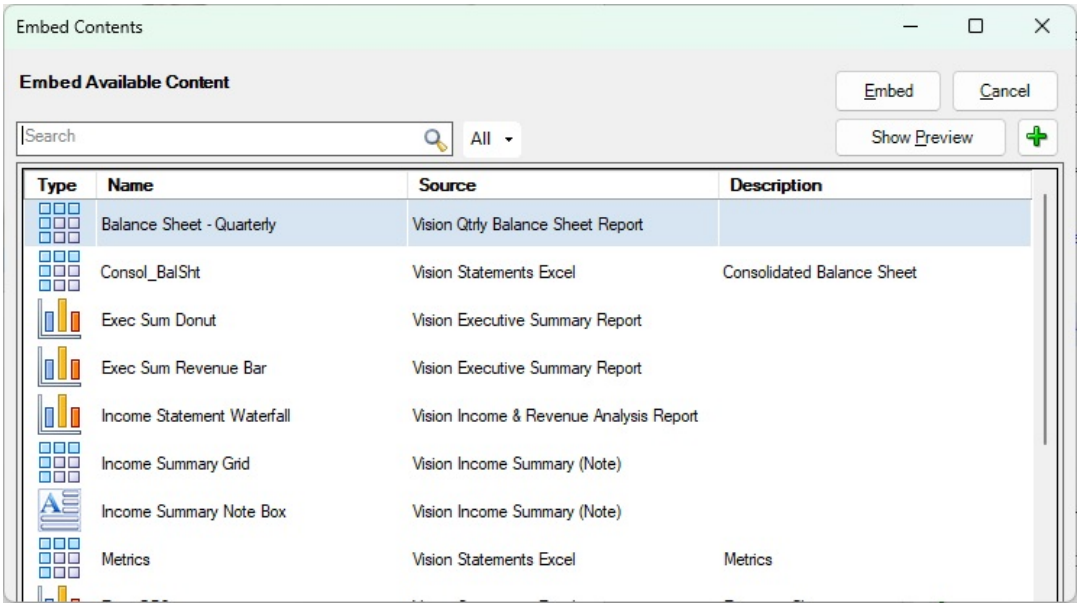
> **ノート:**
>
> 検索結果に対してフィルタ・オプション(前の手順で説明)を使用することもできます。

6. **「コンテンツの埋込み」**で、埋込み可能なコンテンツを選択します。

   必要に応じて、使用可能なコンテンツのプレビューの説明に従って、**「プレビューの表示」**ボタンをクリックして、選択した使用可能なコンテンツのプレビューを表示します

   図 3 の例では、Excel ベースとレポート・ベースの両方のコンテンツがリストに表示されています。**Summary Income Statement** を選択します。これはレポート・ベースのコンテンツです。

図 24-23 「コンテンツの埋込み」ダイアログ・ボックス



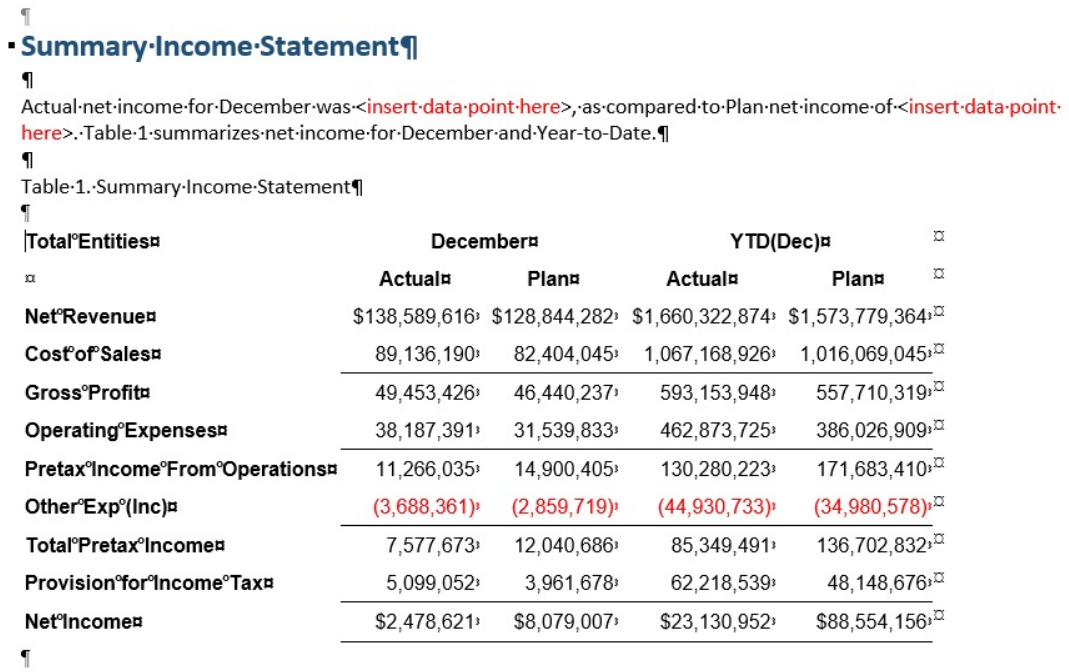
7. **「OK」**をクリックします。

   選択した使用可能なコンテンツがドックレットに挿入されます(埋め込まれます)。

> **ノート:**
>
> PowerPoint で、スライドに埋め込まれたコンテンツを再配置およびサイズ変更できます。サイズ変更すると、スライドのイメージの改訂された高さがリフレッシュ時に保持され、リフレッシュされたイメージはソース・オブジェクトと同じ縦横比になります。

Word ドックレットの埋込みコンテンツの例を図 4 に示します。この図は、Word の「ホーム」リボンで**「段落」**グループの**「編集記号の表示/非表示」**ボタンが有効であると仮定しています。

図 24-24 コンテンツを埋め込んだ後のターゲット・ドックレットの例



Summary Income Statement

Actual net income for December was <insert data point here>, as compared to Plan net income of <insert data point here>. Table 1 summarizes net income for December and Year-to-Date.

Table 1. Summary Income Statement

Total Entities	December		YTD(Dec)	
	Actual	Plan	Actual	Plan
Net Revenue	$138,589,616	$128,844,282	$1,660,322,874	$1,573,779,364
Cost of Sales	89,136,190	82,404,045	1,067,168,926	1,016,069,045
Gross Profit	49,453,426	46,440,237	593,153,948	557,710,319
Operating Expenses	38,187,391	31,539,833	462,873,725	386,026,909
Pretax Income From Operations	11,266,035	14,900,405	130,280,223	171,683,410
Other Exp (Inc)	(3,688,361)	(2,859,719)	(44,930,733)	(34,980,578)
Total Pretax Income	7,577,673	12,040,686	85,349,491	136,702,832
Provision for Income Tax	5,099,052	3,961,678	62,218,539	48,148,676
Net Income	$2,478,621	$8,079,007	$23,130,952	$88,554,156

埋込みコンテンツの前および外側の余分な空の段落マーカーに注意してください。必要に応じて、余分なマーカーを削除してドックレットの表示を簡潔にできます。

8. **オプション:** ドックレットの使用可能なコンテンツ名の表示の説明に従って、ドックレットで埋込みコンテンツを選択すると、その使用可能なコンテンツの名前が表示されます。
9. 現在開いているおよびチェックアウトしているターゲット・ドックレットに埋め込むすべてのコンテンツに対して、前述のステップを繰り返します。

> **ノート:**
>
> 埋込みコンテンツには、埋込みコンテンツの他のインスタンスを重ねないでください。

10. 作業が現在のドックレットで完了したら、アップロードしてチェックインします。
11. 埋込みコンテンツをリフレッシュするには、ドックレットの埋込みコンテンツのリフレッシュを参照してください。

> **ノート:**
>
> **Word:**
>
> - 埋込みコンテンツを Word ドックレットの先頭(Word ドキュメントの最初の行と最初の空白)に配置する場合、すでに埋め込まれているコンテンツの前にコンテンツを埋め込むことはできません。すでに埋め込まれているコンテンツの直後にコンテンツを埋め込むことはできますが、前に埋め込むことはできません。次のように対処します:
>   - 埋込みコンテンツを削除し、正しい順序でコンテンツを再度埋め込みます。埋込みコンテンツを削除するには、埋込みコンテンツの後に空白行を追加し、その空白行を埋込みコンテンツとともに選択し、右クリックしてコンテキスト・メニューから**コンテンツ・コントロールの削除**を選択します。次に、空白行と埋込みコンテンツを再度選択し、**[Delete]**を押します。
>   - Word ドキュメントの先頭に空白行を配置して、必要に応じて埋込みコンテンツの最初のインスタンスの前に埋込みコンテンツを挿入できるようにします。
> - Word ドックレットの先頭(Word ドキュメントの最初の行と最初の空白)に複数行グリッドから構成されるコンテンツを埋め込む場合、埋込みコンテンツのみを削除することはできません。Word ドックレットの先頭に埋め込まれた単一行グリッドは削除できます。
>
>   これを回避するには、埋込みコンテンツの後に空白行を追加し、その空白行を埋込みコンテンツとともに選択し、右クリックしてコンテキスト・メニューから**コンテンツ・コントロールの削除**を選択します。次に、空白行と埋込みコンテンツを再度選択し、**[Delete]**を押します。
>
> **PowerPoint:**
>
> 埋込みコンテンツをサイズ変更すると、スライドのイメージの改訂された高さがリフレッシュ時に保持され、リフレッシュされたイメージはソース・オブジェクトと同じ縦横比になります。

Excel ベースのリファレンス・ドックレットのコンテンツおよびプロパティの更新

このトピックは、Excel ベースのリファレンス・ドックレットにのみ適用されます。

Excel ベースのリファレンス・ドックレットの文書作成者および承認者として、文書作成フェーズ中にリファレンス・ドックレットの使用可能なコンテンツを更新および変更できます。

たとえば、データをリフレッシュしたり、コンテンツを再フォーマットしたりできます。または、定義した使用可能コンテンツを、リファレンス・ドックレット内の別のレポート・コンテンツに再マップする必要がある場合があります。これは、ドックレットのソースが更新された場合、名前付き範囲が名前変更されたか削除された場合、または誤ったコンテンツが前に選択された場合に発生します。

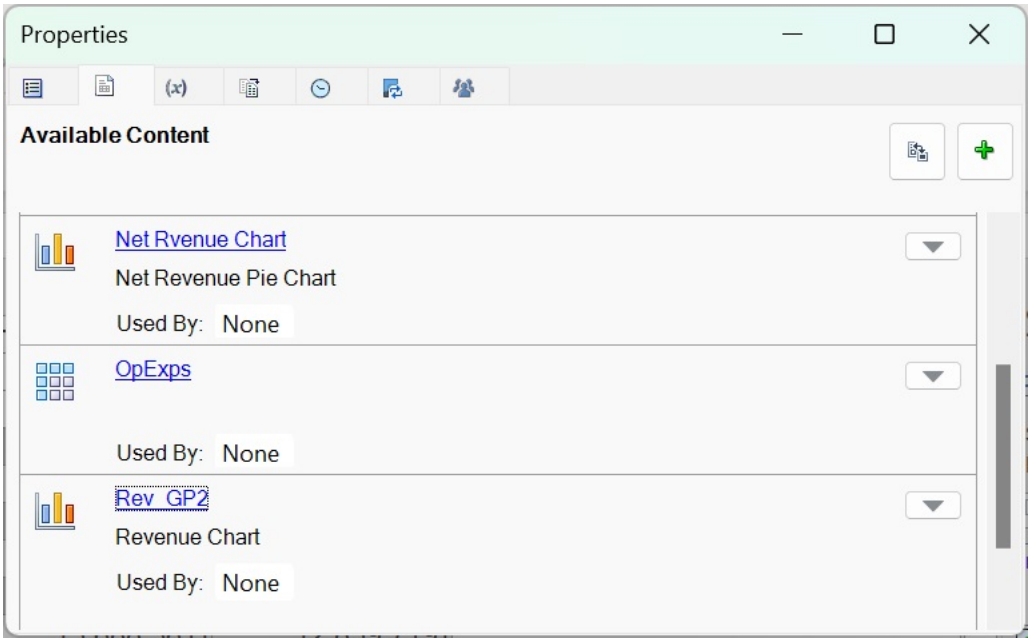
> **ノート:**
>
> - この手順を開始する前に、文書作成フェーズが開始されていることを確認します。
> - レポート・ベースのコンテンツを更新するには、Narrative Reporting Web インタフェースを使用します。

リファレンス・ドックレット・コンテンツを更新するには:

1. レポート・パッケージを開きます。
2. リファレンス・ドックレットを開いてからチェックアウトします。

   リファレンス・ドックレットが Excel で開きます。Word または PowerPoint でレポート・パッケージを開いた場合、リファレンス・ドックレットを開くと Excel が起動します。
3. **オプション:** データ・ポイントのリフレッシュやレポートの POV の変更などの Oracle Smart View for Office タスクを実行します。
4. **オプション:** グリッドまたはチャートなどの Excel タスクを実行します。
5. **オプション:** 使用可能なコンテンツの名前、オプションの説明または表の列のサイズ変更オプションを変更します:
   a. 「Narrative Reporting」リボンで、**「検査」**をクリックします。
   b. **「プロパティ」**ダイアログ・ボックスで、**「埋込みコンテンツ」**タブを選択します。
   c. **「使用可能なコンテンツ」**で、変更するコンテンツ・プロパティのリンクをクリックします。

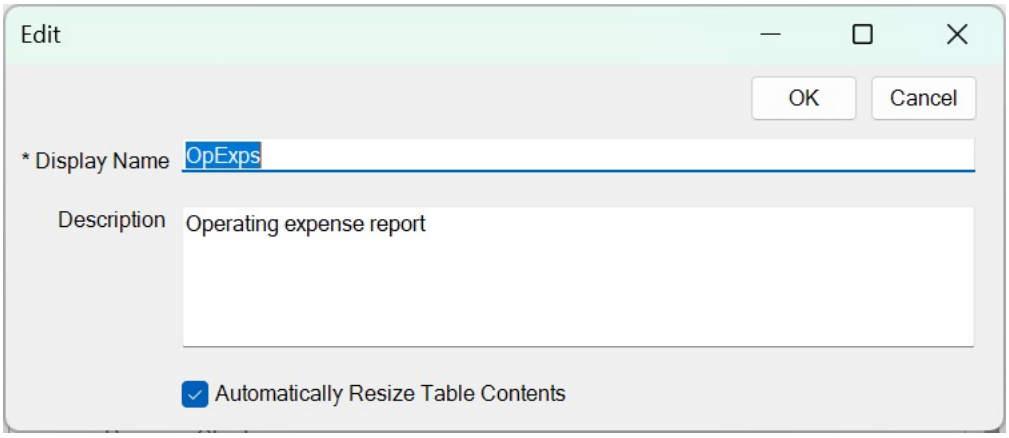
      たとえば、Ops_Exps コンテンツの説明を追加するには、**OpExps** リンクをクリックします:



「編集」ダイアログ・ボックスが表示され、コンテンツ名、オプションの説明および表の列のサイズ変更オプションを変更できます。

d. **オプション:** **「編集」**ダイアログで、**「表示名」**およびオプションの**「説明」**フィールドに必要な変更を加えます。

次の例では、説明が追加されています:



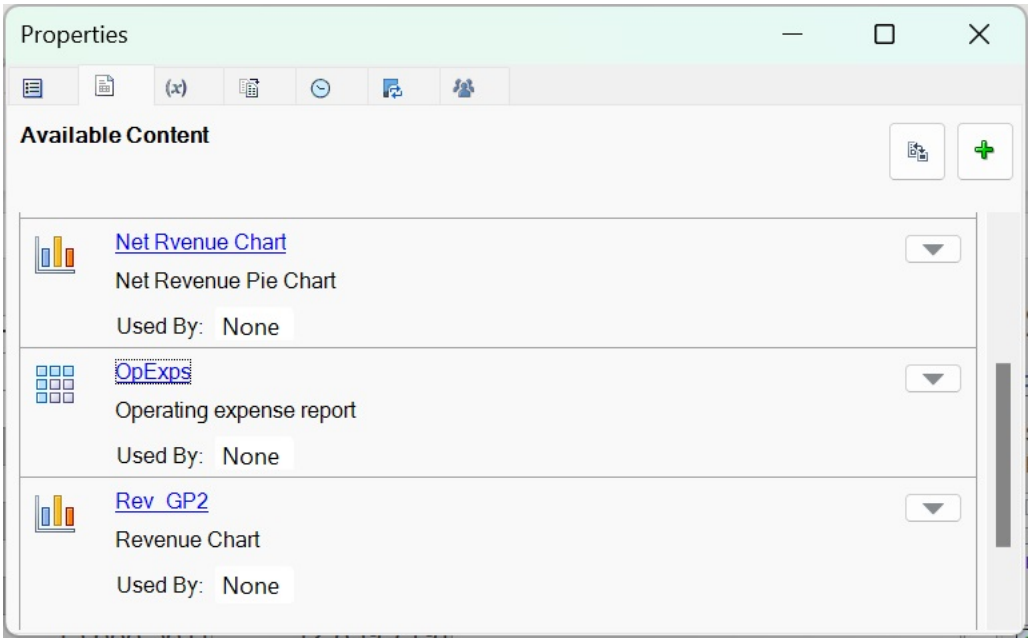
e. **オプション:** 必要に応じて、**「表のコンテンツを自動的にサイズ変更」**チェック・ボックスを選択または選択を解除します。

埋込みの Word 表とソース参照表またはグリッドとの間の相違を最小限に抑えるには、**「表のコンテンツを自動的にサイズ変更」**オプションを無効にします。

「使用可能なコンテンツ」ボタンを使用して、使用可能なコンテンツを作成する場合、このオプションはデフォルトで有効になります。

f. 終了したら、**「OK」**をクリックして、**「編集」**ダイアログを閉じます。

次の例では、**「プロパティ」**ダイアログの**「使用可能なコンテンツ」**のリストに、更新された説明が表示されています:



g. リストの他のコンテンツの変更に対して繰り返します。

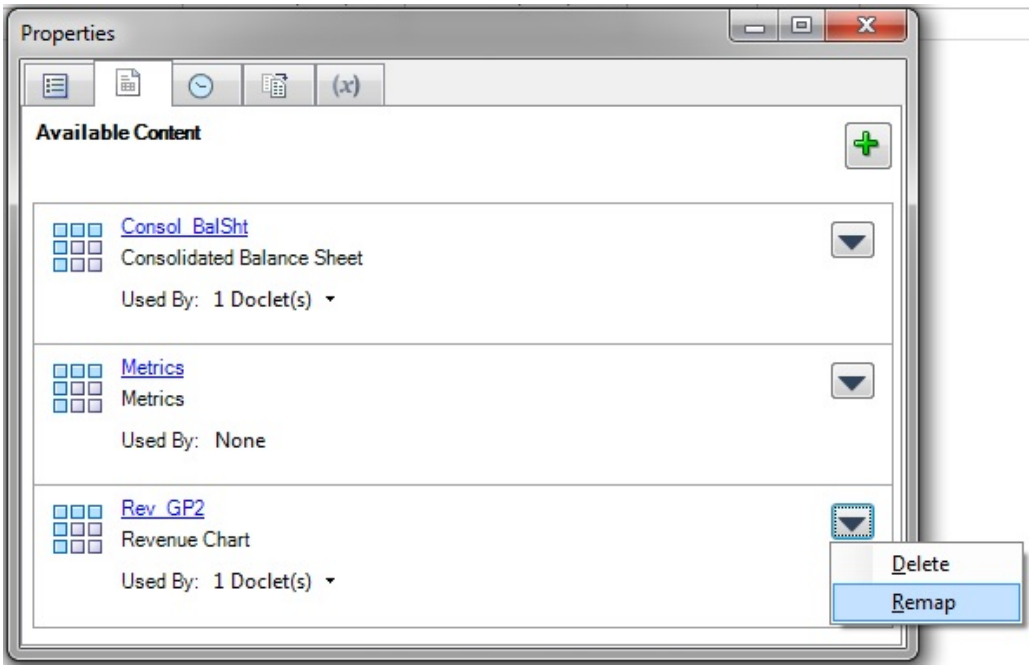
6. **オプション:** リファレンス・ドックレット内の使用可能コンテンツを再マップするには:

a. 「Narrative Reporting」リボンで、**「検査」**をクリックします。

b. **「プロパティ」**ダイアログ・ボックスで、**「使用可能なコンテンツ」**タブを選択します。

c. 再マップするコンテンツの隣のをクリックし、ドロップダウン・メニューから**「再マップ」**を選択します。

たとえば、次では、Rev_GP2 の再マップを選択しています。

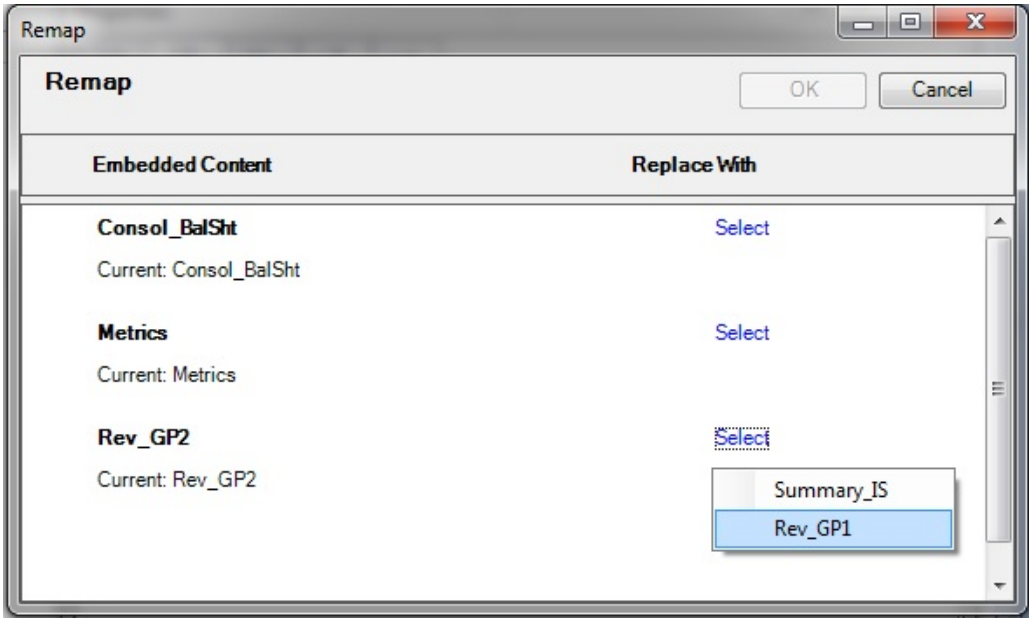


「再マップ」ダイアログが表示されます。

d. **「再マップ」**ダイアログで、再マップするコンテンツの、関連付けられた**「選択」**リンクをクリックします。

まだマップされていない使用可能なコンテンツのリストが表示されます。次の図では、リストに 2 つのアイテム「Summary_IS」と「Rev_GP1」が含まれています。

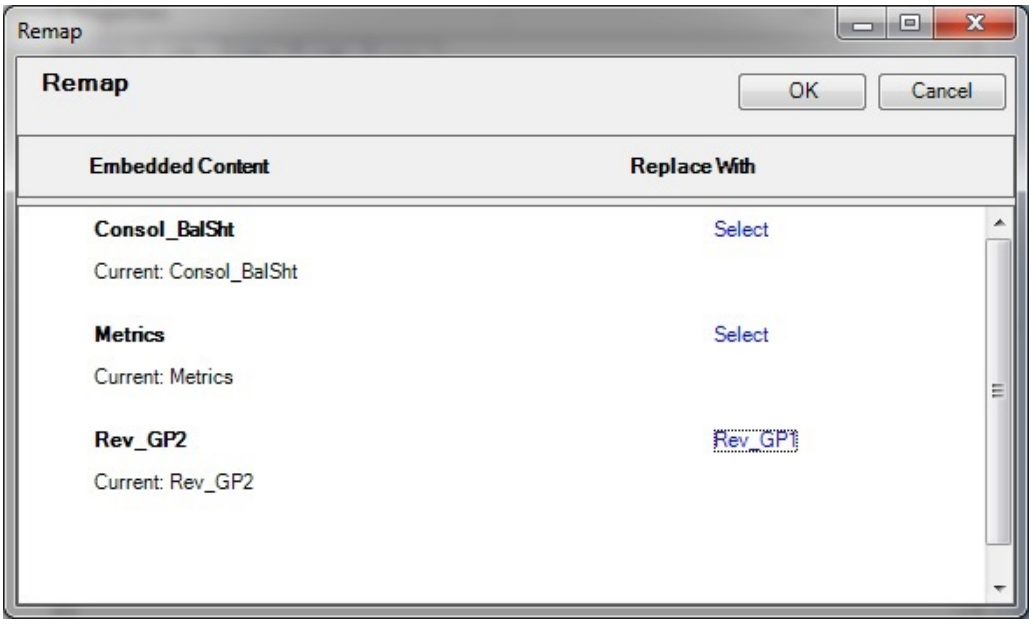
「Rev_GP2」は、現在「Rev_GP2」という使用可能コンテンツにマップされています。「Rev_GP1」というマップされていないコンテンツに再マップします。



e. **「選択」**ドロップダウン・リストから、再マップ先の使用可能コンテンツ・アイテムを選択します。

選択を終えると、選択した範囲が**「置換対象」**列に表示されます。

次の例では、「Rev_GP1」範囲が**「置換対象」**列に表示されています。



f. 再マップする各使用可能コンテンツ・アイテムについて、ステップ 6.c からステップ 6.e を繰り返します。

g. コンテンツの再マップを終了したら、**「OK」**をクリックして、**「再マップ」**ダイアログを閉じます。

7. **「プロパティ」**の左上隅にある**「X」**をクリックして、ダイアログを閉じます。

8. リファレンス・ドックレットのすべての更新を終了したら、アップロードしてチェックインします。

Excel ベースのリファレンス・ドックレットからの使用可能なコンテンツの削除

このトピックは、Excel ベースのリファレンス・ドックレットにのみ適用されます。

リファレンス・ドックレットで、基づいている範囲を削除せずに使用可能なコンテンツのリストからコンテンツを削除できます。これにより、後でコンテンツを追加する必要がある場合に実行できます。

使用可能なコンテンツをレポート・パッケージのドックレットの埋込みコンテンツとして使用中である場合にリファレンス・ドックレットから削除するとそのドックレットで破損リンクが発生することに注意してください。

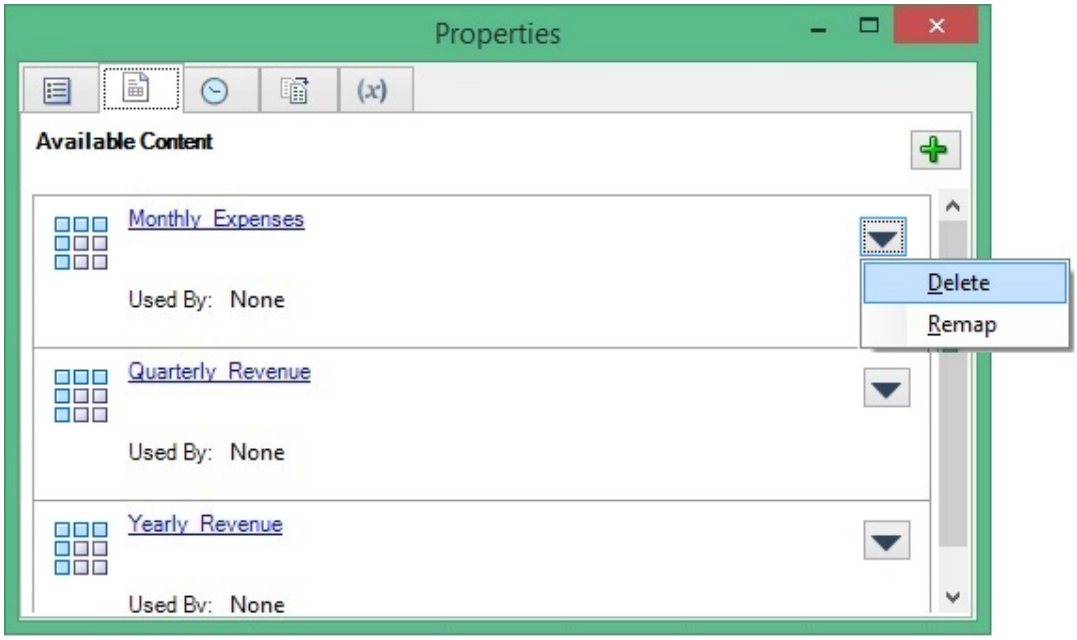
使用可能コンテンツをレポート・ベースのリファレンス・ドックレットから削除するには、Narrative Reporting Web インタフェースを使用します。

> **ノート:**
>
> 開始する前に、ドックレットの文書作成フェーズが開始されていることを確認してください。

リファレンス・ドックレットから使用可能なコンテンツを削除するには:

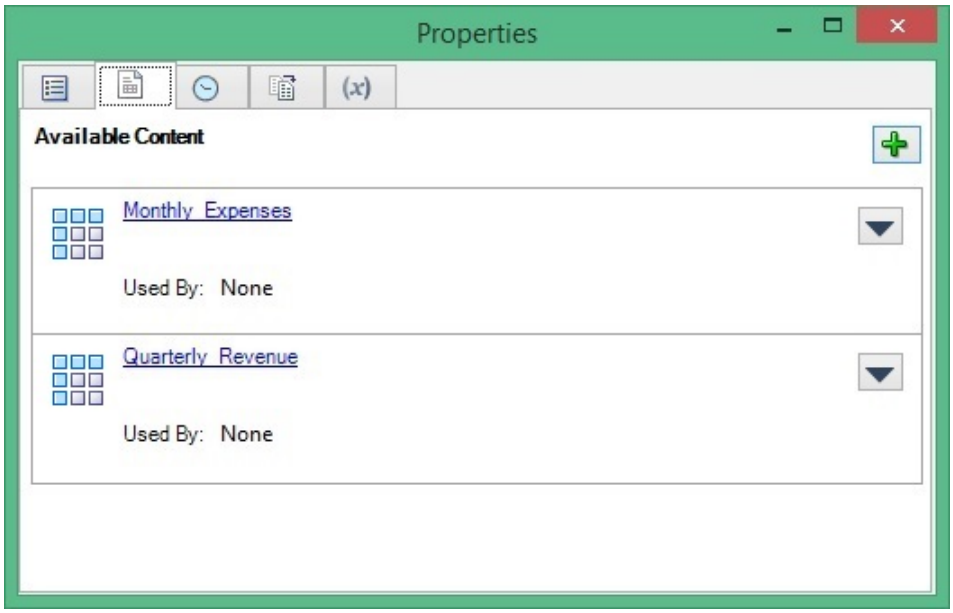
1. リファレンス・ドックレットをチェックアウトします。
2. 「Narrative Reporting」リボンで、**「検査」**をクリックして、**「プロパティ」**ダイアログ・ボックスを起動します。
3. **「プロパティ」**で、**「使用可能なコンテンツ」**タブを選択します。

   次の例では、使用可能なコンテンツとしてリストされている 3 つの範囲があります。その中の Yearly_Revenue を削除します。



4. **「使用可能なコンテンツ」**で、削除するコンテンツの**「削除」**ボタン、をクリックします。

   使用可能なコンテンツのリストからコンテンツが削除されます。



5. 削除する他のコンテンツに対して、前述のステップを繰り返します。
6. **「プロパティ」**の左上隅にある**「X」**をクリックして、ダイアログを閉じます。
7. 終了したら、アップロードしてチェックインします。

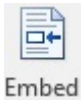
Excel ベースのリファレンス・ドックレットへの使用可能なコンテンツの追加の手順に従って、コンテンツをリファレンス・ドックレットにいつでも追加できます。

使用可能なコンテンツのプレビュー

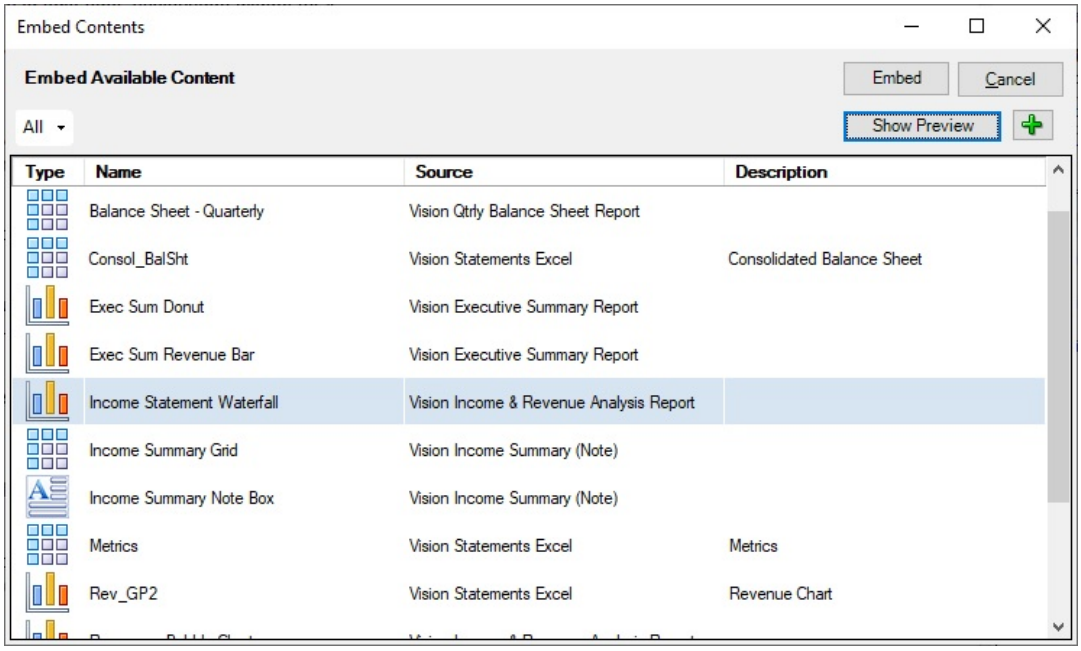
埋込みコンテンツをドックレットに挿入する前に、文書作成者は**「コンテンツの埋込み」**ダイアログの**「プレビューの表示」**ボタンを使用して、Excel ベースおよびレポートベースの参照ドックレットおよび参照ファイルから使用可能なコンテンツをプレビューできます。

使用可能なコンテンツをプレビューするには:

1. ドックレットを開いてチェックアウトします。
2. 「Narrative Reporting」リボンから、**「埋込み」**ボタンをクリックします:

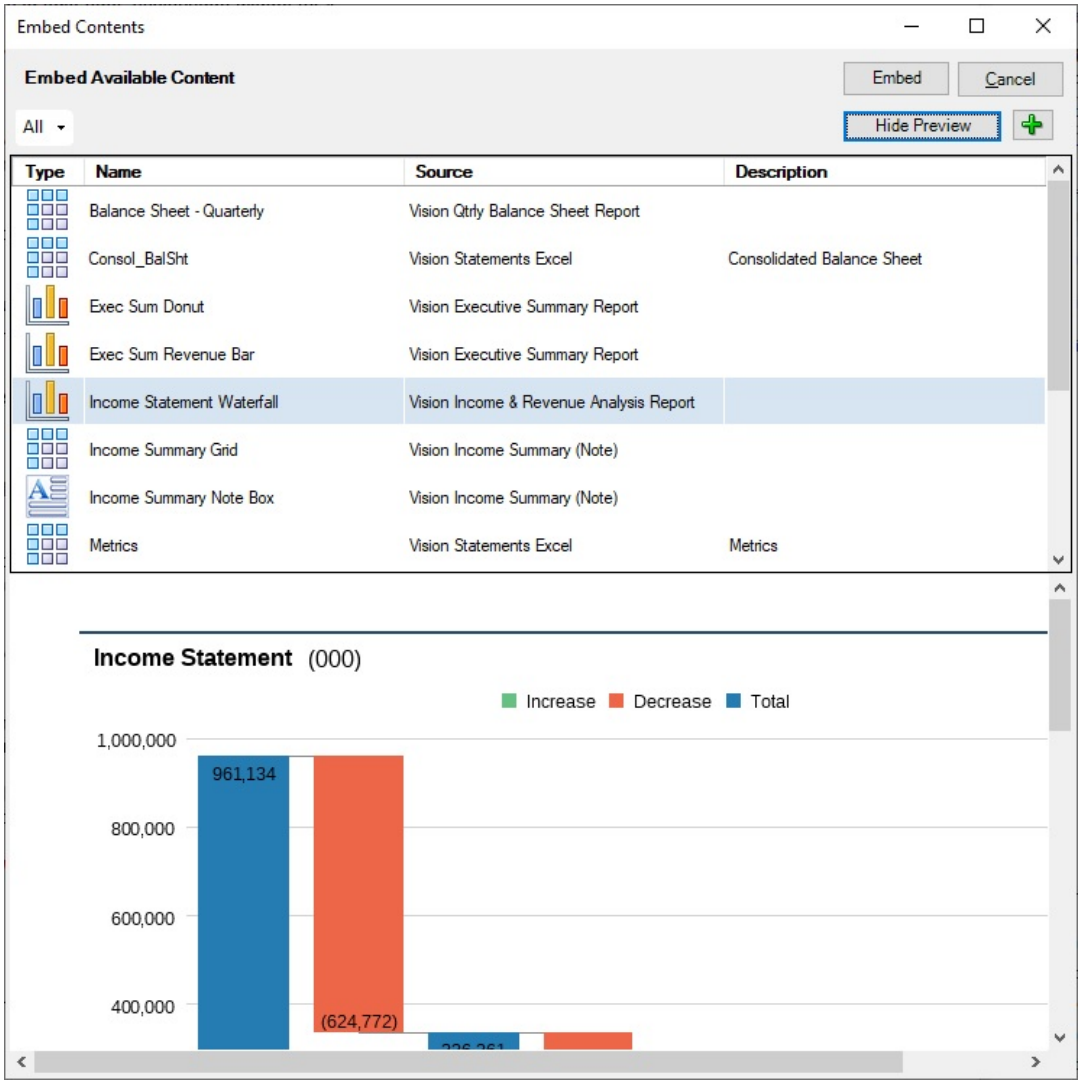


「コンテンツの埋込み」ダイアログ・ボックスが起動します。次の例では、使用可能なコンテンツ"Income Statement Waterfall"が選択されています。



3. **「コンテンツの埋込み」**ダイアログで、使用可能なコンテンツのリストから項目を選択し、**「プレビューの表示」**ボタンをクリックします。

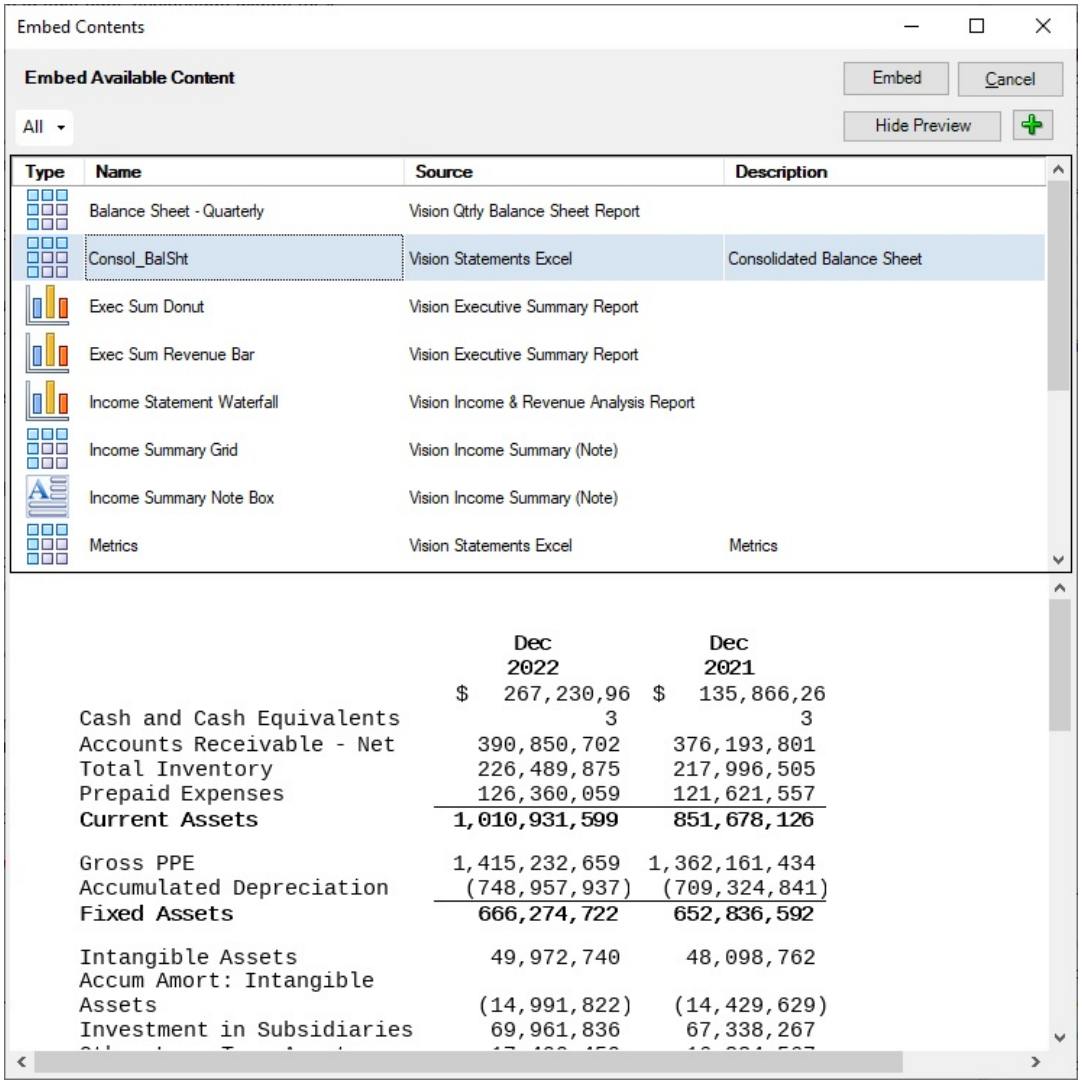
   前のステップで示した例では、Income Statement Waterfall を選択して**「プレビューの表示」**をクリックすると、Income Statement Waterfall のチャートのイメージがダイアログの下半分のプレビュー・ペインに表示されます:



> **Note:**
>
> **「コンテンツの埋込み」**ダイアログのサイズは変更できません。そのままでは表示されないイメージの部分を表示するには、スクロール・バーを使用します。

4. **オプション:** リストの他の使用可能なコンテンツのタイトルを選択すると、プレビューがすぐに表示されます。

   次の例では、Consol_BalSht を選択しました。Consol_BalSht 表のプレビュー・イメージが表示されます:



プレビューする使用可能なコンテンツは、一度に 1 つ選択できます。

5. **オプション:** ダイアログのプレビュー・ペインを閉じるには、**「プレビューの非表示」**ボタンをいつでもクリックできます。
6. ドックレットに埋め込む使用可能なコンテンツを見つけて、ダイアログの上部にある**「埋込み」**ボタンをクリックします。

   このアクションで、選択した使用可能なコンテンツがドキュメントまたはスライドに挿入され、ダイアログが閉じます。

Note:

- 「Narrative Reporting」リボンに**「埋込み」**ボタンを表示するには、最初にドックレットをチェックアウトする必要があります。**「埋込み」**ボタンをクリックして、**「コンテンツの埋込み」**ダイアログを起動します。
- **「コンテンツの埋込み」**ダイアログは、システムの**「ディスプレイ」設定(「拡大縮小とレイアウト」**の下)が 100%に設定されている場合に最適に表示されます。

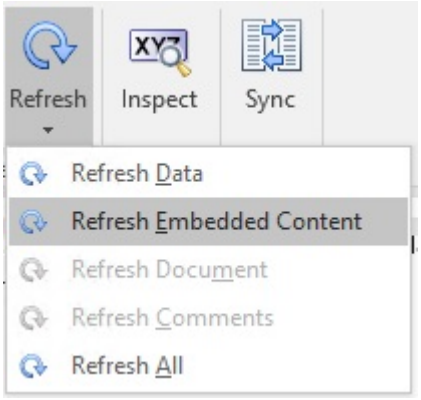
ドックレットの埋込みコンテンツのリフレッシュ

ドックレットの文書作成者として、ドックレットの埋込みコンテンツをリフレッシュして、リファレンス・ドックレットのコンテンツおよび基礎となるデータ・ソースとの同期を維持できます。たとえば、ソース・データを更新したり、コンテンツを再フォーマットできます。

ドックレットの埋込みコンテンツをリフレッシュするには:

1. 埋込みコンテンツを含むドックレットを開いてチェックアウトします。
2. 次のいずれかのアクションを行います:
   - 同じ操作でアップロードせずに埋込みコンテンツのみをリフレッシュするには:

     「Narrative Reporting」リボンで、**「リフレッシュ」**アイコンの矢印、**「埋込みコンテンツのリフレッシュ」**の順に選択します。

     埋込みコンテンツを選択してリフレッシュする必要はありません。**「埋込みコンテンツのリフレッシュ」**コマンドは、チェックアウトしたドックレットのすべての埋込みコンテンツをリフレッシュします。

     リフレッシュを完了し、ドックレットの他の変更を実行したら、**「アップロード」**をクリックします。
   - すぐにドックレットをリフレッシュしてアップロードするには:

     「Narrative Reporting」リボンで、**「アップロード」**をクリックします。

     アップロード・アクションは、ターゲット・ドックレットの埋込みコンテンツを自動的にリフレッシュします。

> **ノート:**
>
> **PowerPoint:** 埋込みコンテンツをサイズ変更すると、スライドのイメージの改訂された高さがリフレッシュ時に保持され、リフレッシュされたイメージはソース・オブジェクトと同じ縦横比になります。

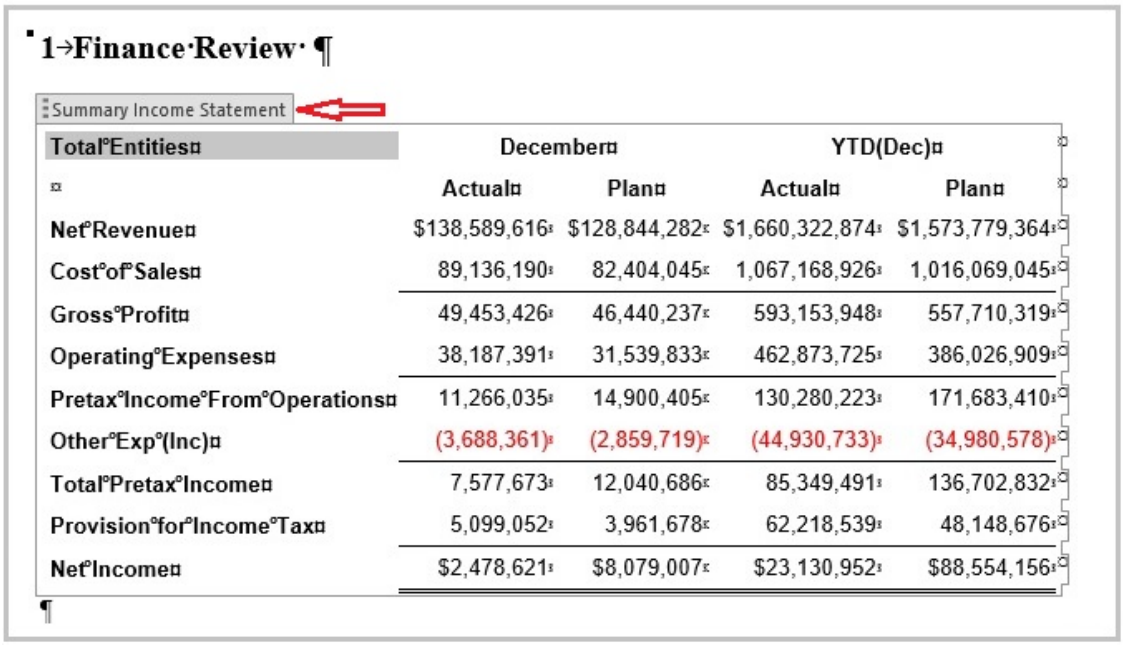
3. ドックレットをチェックインします。

> **ノート:**
>
> ドックレットを閉じると、特に埋込みコンテンツがイメージから構成されている場合、クリップボードに残っているコンテンツがあることを通知するメッセージが表示され、ドックレットを閉じるかどうかを確認されることがあります。このメッセージで「はい」を選択できますが、Office クリップボードのコンテンツを保持する場合は、先に進む前にコンテンツを別の Office ドキュメントに貼り付けたことを確認します。

ドックレットの使用可能なコンテンツ名の表示

Smart View を使用して Word または PowerPoint のドックレットに使用可能なコンテンツを埋め込むと、使用可能なコンテンツの名前またはタイトルを表示できます。これにより、ドックレットでの作業時に、使用可能なコンテンツをすぐに識別できます。

ドックレットで埋込みコンテンツを選択すると、使用可能なコンテンツの名前が表示されます。たとえば、Word では、名前は埋込みコンテンツの上に表示されます:



Total°Entities¤	December¤		YTD(Dec)¤	
¤	Actual¤	Plan¤	Actual¤	Plan¤
Net°Revenue¤	$138,589,616	$128,844,282	$1,660,322,874	$1,573,779,364
Cost°of°Sales¤	89,136,190	82,404,045	1,067,168,926	1,016,069,045
Gross°Profit¤	49,453,426	46,440,237	593,153,948	557,710,319
Operating°Expenses¤	38,187,391	31,539,833	462,873,725	386,026,909
Pretax°Income°From°Operations¤	11,266,035	14,900,405	130,280,223	171,683,410
Other°Exp°(Inc)¤	(3,688,361)	(2,859,719)	(44,930,733)	(34,980,578)
Total°Pretax°Income¤	7,577,673	12,040,686	85,349,491	136,702,832
Provision°for°Income°Tax¤	5,099,052	3,961,678	62,218,539	48,148,676
Net°Income¤	$2,478,621	$8,079,007	$23,130,952	$88,554,156

¶

PowerPoint で埋込みコンテンツ名を表示するには、埋込みコンテンツを選択して右クリックし、Office のバージョンに応じて**「代替テキストの表示」**または**「代替テキストの編集」**を選択します。埋込みコンテンツのタイトルが**「代替テキスト」**パネルに表示されます。

使用可能なコンテンツが Narrative Reporting 拡張機能 23.10 以降を使用して埋め込まれている場合は、ドックレットで埋込みコンテンツを選択するたびに名前が表示されます。

23.10 より前の Narrative Reporting 拡張機能バージョンを使用して Word または PowerPoint ドックレットに埋め込まれたコンテンツがある場合、または Narrative Reporting Web インタフェースを使用して埋め込まれたコンテンツがある場合は、使用可能なコンテンツの名前が含まれていないため、名前はドックレットに表示されません。埋込みコンテンツ名を表示するには、次の手順を完了します。

ドックレットの既存の埋込みコンテンツのタイトルを表示するには:

1. 既存の埋込みコンテンツが含まれているドックレットを開き、チェックアウトします。
2. 「Narrative Reporting」リボンで、**「リフレッシュ」**ボタンのドロップダウン・メニューをクリックし、**「埋込みコンテンツのリフレッシュ」**を選択します。
3. ドックレットをアップロードしてチェックインします。
4. リフレッシュ、アップロードおよびチェックインが完了した後、ドックレットで埋込みコンテンツを選択してその名前を表示します。
5. **オプション:** チェックアウトして、ドックレットでの作業を続行します。

> **Note:**
>
> Smart View でドックレットを開いてチェックアウトし、**「埋込みコンテンツのリフレッシュ」**を実行した後、ドックレットをアップロードしてチェックインし、使用可能なコンテンツの名前が次の状況で正しく表示されることを確認する必要があります:
>
> - コンテンツが Narrative Reporting Web から Word または PowerPoint ドックレットに埋め込まれている場合
> - 使用可能なコンテンツの名前を Narrative Reporting Web または Smart View から変更した後

ドックレットからの埋込みコンテンツの削除

ドックレットの文書作成者として、Word または PowerPoint の「切り取り」コマンドまたはキーボードの[Delete]キーを使用して、ドックレットから埋込みコンテンツを削除できます。

ドックレットから埋込みコンテンツを削除するには:

1. 埋込みコンテンツを含むドックレットを開いてチェックアウトします。

   これは、リファレンス・ドックレットや他のドックレットではなくターゲット・ドックレットです。ターゲット・ドックレットはドックレットのコンテンツの埋込みで説明しました。

2. PowerPoint ドックレットから埋込みコンテンツを削除するには:

   a. ターゲット・ドックレットで、埋込みコンテンツをクリックして強調表示し、**[Delete]**キーを押します。

   b. スライドを編集し、必要に応じて周囲のテキストを調整します。

3. Word ドックレットから埋込みコンテンツを削除するには:

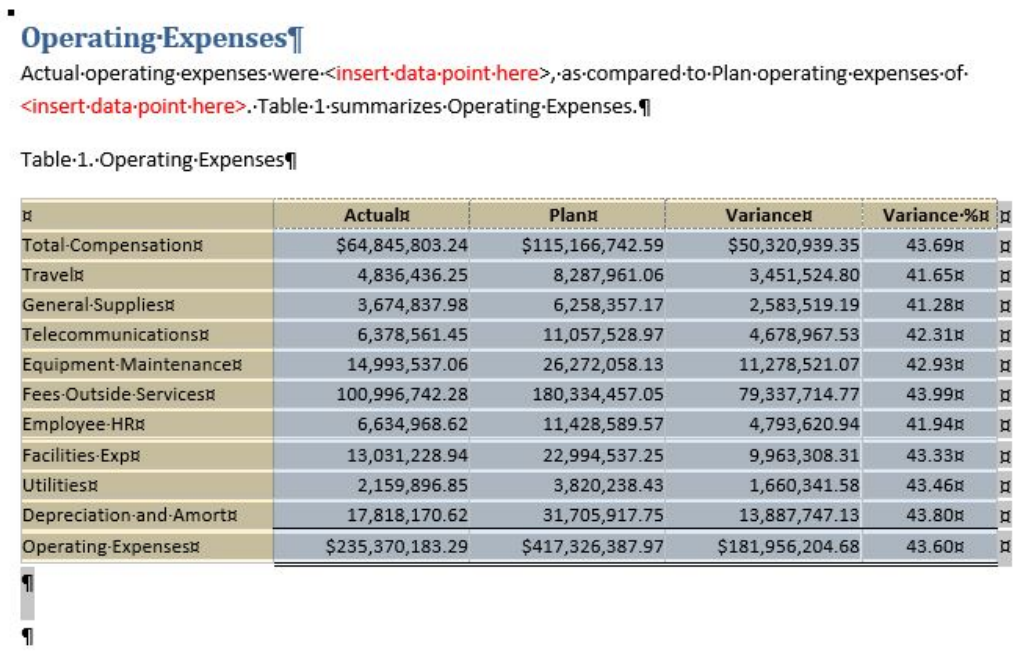
   a. 埋込みコンテンツの前または後に空の改行を追加します。

      削除する埋込みコンテンツを選択する場合、空の段落マーカーなどの余分なプレーン・テキストが必要です。

   b. 前のステップで作成した空の段落マーカーとともに、埋込みコンテンツを選択します。

      Word を使用して上または下にあるテキスト行とともに表を選択するのと同じ方法で、埋込みコンテンツおよび空の段落マーカーを選択します。

      次のイメージでは、埋込みコンテンツおよびその下の段落マーカーが選択されます。イメージの下部にある余分な空の段落マーカーは選択されていません。



Operating·Expenses¶

Actual·operating·expenses·were·<insert·data·point·here>,·as·compared·to·Plan·operating·expenses·of·<insert·data·point·here>.·Table·1·summarizes·Operating·Expenses.¶

Table·1.·Operating·Expenses¶

¤	Actual¤	Plan¤	Variance¤	Variance·%¤	¤
Total·Compensation¤	$64,845,803.24	$115,166,742.59	$50,320,939.35	43.69¤	¤
Travel¤	4,836,436.25	8,287,961.06	3,451,524.80	41.65¤	¤
General·Supplies¤	3,674,837.98	6,258,357.17	2,583,519.19	41.28¤	¤
Telecommunications¤	6,378,561.45	11,057,528.97	4,678,967.53	42.31¤	¤
Equipment·Maintenance¤	14,993,537.06	26,272,058.13	11,278,521.07	42.93¤	¤
Fees·Outside·Services¤	100,996,742.28	180,334,457.05	79,337,714.77	43.99¤	¤
Employee·HR¤	6,634,968.62	11,428,589.57	4,793,620.94	41.94¤	¤
Facilities·Exp¤	13,031,228.94	22,994,537.25	9,963,308.31	43.33¤	¤
Utilities¤	2,159,896.85	3,820,238.43	1,660,341.58	43.46¤	¤
Depreciation·and·Amort¤	17,818,170.62	31,705,917.75	13,887,747.13	43.80¤	¤
Operating·Expenses¤	$235,370,183.29	$417,326,387.97	$181,956,204.68	43.60¤	¤

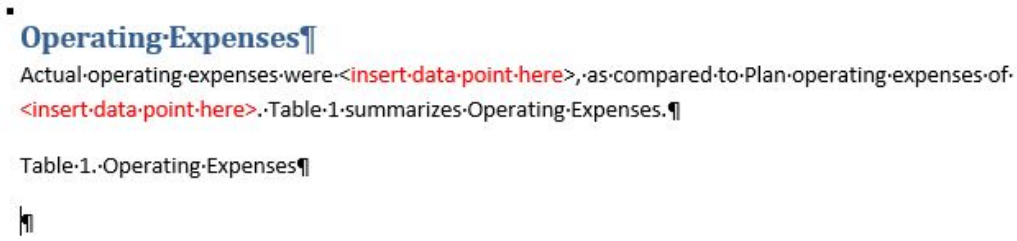
¶

¶

c. キーボードの**[Delete]**キーを押します。

   または、Word または PowerPoint の「ホーム」リボンから**「切り取り」**コマンドを使用できます。

   次のイメージは、選択された埋込みコンテンツおよび段落マーカーが削除されていることを示します。イメージの下部にある空の段落マーカーが 1 つ残ります。



Operating·Expenses¶

Actual·operating·expenses·were·<insert·data·point·here>,·as·compared·to·Plan·operating·expenses·of·<insert·data·point·here>.·Table·1·summarizes·Operating·Expenses.¶

Table·1.·Operating·Expenses¶

¶

4. 現在のターゲット・ドックレットから削除するすべての埋込みコンテンツに対して、前述のステップを繰り返します。
5. 作業が現在のドックレットで完了したら、アップロードしてチェックインします。

参照ファイルからの埋込みコンテンツの操作

参照ファイルからの埋込みコンテンツにより、レポート・パッケージ外にある独自のローカルの Excel ファイルまたはネットワークの Excel ファイルからレポート・コンテンツを導出して定義し、レポート・パッケージ内の 1 つ以上のドックレットに埋め込むことができます。

関連トピック:

参照ファイルからのコンテンツの埋込みについて

参照ファイルの「使用可能なコンテンツ」ボタンを使用した使用可能なコンテンツの作成

ドックレットの参照ファイル・コンテンツの埋込み

参照ファイルからの使用可能なコンテンツの追加および埋込み

参照ファイルの名前付き範囲の管理

参照ファイルでの使用可能なコンテンツの更新

参照ファイル内でのコンテンツの再マッピング

参照ファイルからのコンテンツの埋込みについて

ドックレットの文書作成者は、グリッドやチャートなどの定型化された独自のレポート・コンテンツを Microsoft Office Excel 内で作成し、参照ファイルを使用してそのコンテンツをドックレットに挿入できます。Excel レポート・コンテンツは、Excel ファイルが変更された場合、関連付けられているドックレットで自動的に更新されます。Excel の名前付き範囲機能を使用して、参照ファイル内の埋込み可能コンテンツを識別します。名前付き範囲は、その後ドックレットに埋込み可能です。参照ファイルが添付され、ドックレットに保存されて、そのドックレットのみに関連付けられます。

参照ファイルは、埋込み可能コンテンツをその中に定義できるという点において、リファレンス・ドックレットに似ています。違いは、参照ファイルが 1 つのドックレットに対してのみ使用可能で、関連付けられるのに対し、リファレンス・ドックレットは、リファレンス・ドックレットへのアクセス権を持つすべてのドックレット文書作成者に対して使用可能であることです。1 つのドックレットを、複数の参照ファイルに関連付けることができます。

Narrative Reporting のこの機能を要約すると、ドックレットの文書作成者は次のことを行えます。

- Oracle Smart View for Office またはその他のデータ・アクセス方法を使用した、Microsoft Office Excel ワークブック内での定型化されたレポートの開発
- ワークブック内での名前付き範囲の定義(名前付き範囲は埋込み可能コンテンツの候補になります)
- ドックレット内の名前付き範囲の統合
- Excel 内の参照ファイルの簡単な更新(関連付けられているドックレット内の Microsoft Office Excel レポート・コンテンツが自動的に更新されます)
- ドックレット内の同じまたは異なる参照ファイルからの複数の範囲の組込み

表 24-3 ビデオ

目的	このビデオを見る
Oracle Smart View for Office での使用可能なコンテンツの作成および参照ファイルからのコンテンツの埋込みについて学習します。 このビデオでは、デモの目的で Word ベースのレポート・パッケージが使用されていますが、説明されている手順は PowerPoint ベースのレポート・パッケージにも適用されます。	 リファレンス・ドックレットおよび参照ファイルからのコンテンツの埋込み

参照ファイルの「使用可能なコンテンツ」ボタンを使用した使用可能なコンテンツの作成

Oracle Smart View for Office の Narrative Reporting のリボンの**「使用可能なコンテンツ」**ボタンを使用して、参照ファイルから使用可能なコンテンツを迅速かつ簡単に作成できます。

「使用可能なコンテンツ」ボタンを使用して、Excel で選択した範囲に基づいて、基礎となる名前付き範囲が自動的に作成されます。新しいコンテンツに名前とオプションの説明を適用するのみで済みます。

> **Note:**
>
> - この機能には、Narrative Reporting 拡張機能の 24.02 以降のバージョンが必要です
> - 参照ファイルの Excel 名前付き範囲からの使用可能なコンテンツの作成と埋込みの説明に従って、定義した Excel 名前付き範囲を使用して使用可能なコンテンツを作成することもできます。

「使用可能なコンテンツ」ボタンを使用して、使用可能なコンテンツを追加するには:

1. 始める前に:
   - 参照ファイルとして使用する予定の Excel ファイルには、名前付き範囲が少なくとも 1 つ必要です。範囲は単純なもの(単一のセルなど)にできます。使用可能なコンテンツとして使用する予定の範囲である必要はありません。名前付き範囲の定義については、参照ファイルの名前付き範囲の定義を参照してください。
   - まだ登録していない場合は、参照ファイルのドックレットへの登録の説明に従って Excel ファイルをドックレットに登録し、ステップ 6 を省略します。このトピックの手順を使用して使用可能なコンテンツを作成する場合は、このステップを実行する必要はありません。
2. レポート・パッケージを開き、参照ファイルが登録されているドックレットを開きます。

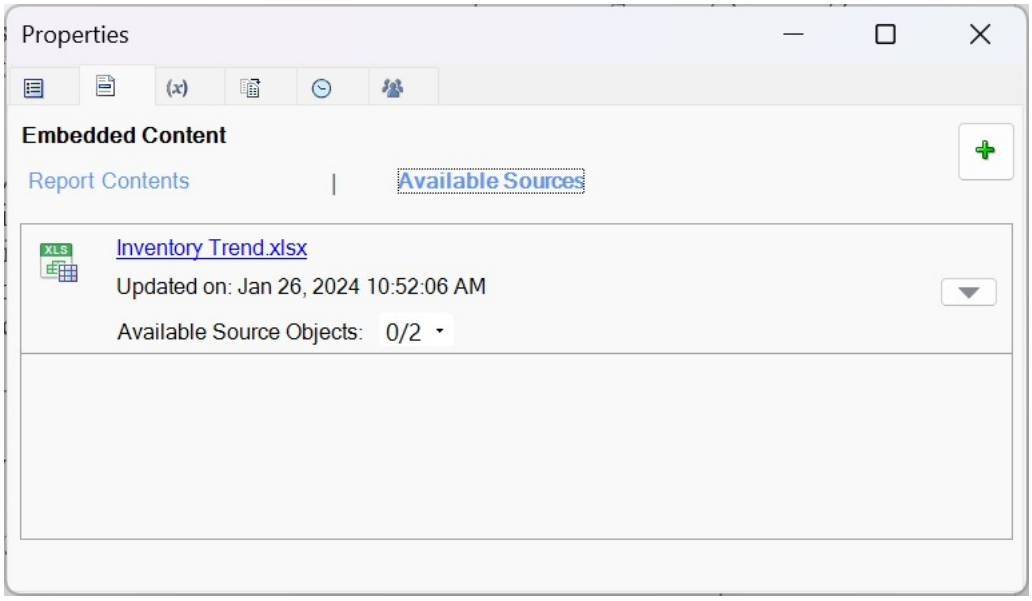
   ドックレットはチェックアウトしないでください。**「使用可能なコンテンツ」**ボタンはドックレットがチェックインされている場合にのみ有効になります。

   リファレンス・ドックレットが Excel で開きます。Word または PowerPoint でレポート・パッケージを開いた場合、リファレンス・ドックレットを開くと Excel が起動します。
3. 「Narrative Reporting」リボンで**「検査」**をクリックして、**「プロパティ」**ダイアログ・ボックスを開きます。

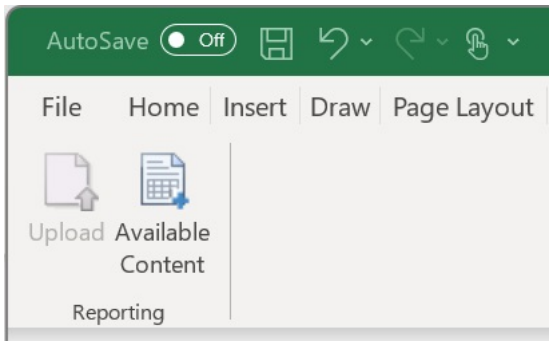
   

   レポート・パッケージ・パネルでドックレットを選択し、**「プロパティ」**をクリックして**「プロパティ」**ダイアログ・ボックスを開くこともできます。
4. **「プロパティ」**で、**「埋込みコンテンツ」**タブを選択し、**「使用可能なソース」**をクリックします。
5. **「使用可能なソース」**で、参照ファイル名をクリックして Excel ファイルを起動します。

   次の例では、**Inventory Trend.xlsx** をクリックすると、`Inventory Trend.xlsx` という名前の Excel ファイルが起動します。



Narrative Reporting のリボンでは、**「アップロード」**ボタン(参照ファイルを起動したドックレットはチェックアウトされないため、無効になります)と**「使用可能なコンテンツ」**ボタン(有効な状態)の 2 つのボタンのみが表示されていることに注意してください。



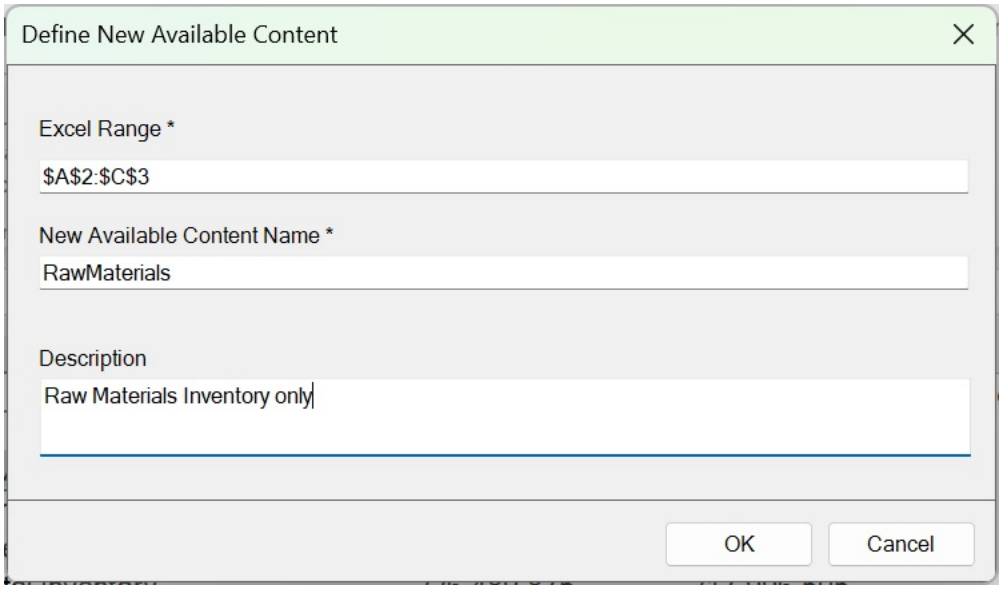
「使用可能なコンテンツ」ボタンが有効になっていない場合は、参照ファイルが登録されているドックレットがチェックインされていることを確認し、Excel を閉じて前のステップを繰り返します。

6. Excel 参照ファイルが起動され、**「使用可能なコンテンツ」**ボタンが有効になったら、Excel 参照ファイルで範囲を選択します。

   範囲は、表またはグラフィック(チャートなど)にできます。チャートを選択する場合は、チャートの上下の空白行を選択するようにします。

7. **「使用可能なコンテンツ」**ボタンをクリックします。

   「新規の使用可能なコンテンツの定義」ダイアログが起動します:



8. **「新規の使用可能なコンテンツの定義」**ダイアログで、新しい使用可能なコンテンツの名前とオプションの説明を入力します。

   選択した範囲は、デフォルトで **Excel 範囲**テキスト・ボックスに入力されます。有効な範囲を入力することもできます。

9. **「OK」**をクリックします。

   新しいコンテンツは、Word または PowerPoint のドックレットに埋め込むことができます。

10. **オプション:** 新規に作成された使用可能なコンテンツの**「表のコンテンツを自動的にサイズ変更」**オプションを無効にするには、Excel ベースのリファレンス・ドックレットのコンテンツおよびプロパティの更新を参照してください。

    「使用可能なコンテンツ」ボタンを使用して使用可能なコンテンツを作成している場合、**「表のコンテンツを自動的にサイズ変更」**オプションは表示されません。このオプションは、Excel の表またはグリッドから(チャートからではなく)作成されたコンテンツに適用されます。このオプションを無効にするには、使用可能なコンテンツを編集し、オプションを解除する必要があります。

参照ファイルの Excel 名前付き範囲からの使用可能なコンテンツの作成と埋込み

Related Topics

- 参照ファイルの名前付き範囲の定義
- 参照ファイルのドックレットへの登録
- ドックレットの参照ファイル・コンテンツの埋込み
- 参照ファイルからの使用可能なコンテンツの追加および埋込み

参照ファイルの名前付き範囲の定義

参照ファイルは、レポート・パッケージ外のローカル・ドライブまたはネットワーク・ドライブ上のフォルダに配置できる Excel ファイルです。

ドックレットの文書作成者は、Excel レポート・コンテンツを作成し、コンテンツの名前付き範囲を定義します。通常、Excel の「数式」リボンの「名前の定義」または「名前の管理」アイテムからアクセスする「新しい名前」ダイアログ・ボックスを使用して、範囲名を作成できます。範囲名の詳細は、Microsoft ドキュメントを参照してください。

この Excel ファイルは、参照ファイルになる可能性があります。

ドックレットで操作を開始する前に、参照ファイルで名前付き範囲を定義します。

参照ファイルの名前付き範囲を定義するには:

1. Excel で、レポート・コンテンツを作成します。
2. 範囲名を選択したレポート・コンテンツに追加します。

   参照ファイルの任意のレポート・コンテンツまたはすべてのレポート・コンテンツに範囲名を追加できます。どのコンテンツを使用可能するかを決定します。

   名前付き範囲が次に該当する場合、名前付き範囲が有効です:

   - Excel ワークブック内に存在します。
   - 非表示の名前ではありません。
   - 非表示ではないワークシートのセルの範囲を参照します。
   - 式または定数を参照していません。
   - 動的に計算された参照が含まれません。たとえば、参照は、参照式または別の名前付き範囲に依存して範囲を動的に決定するのではなく、セルの絶対範囲を指す必要があります。
   - "#REF!"エラーなどのエラーが含まれません。

   参照ファイルからの名前付き範囲は、ドックレットの文書作成者であるユーザーに対して、埋込みコンテンツの候補になることに注意してください。
3. **オプション:** 埋め込まれた Microsoft Word 表内の「各ページにタイトル行を表示する」オプションを使用可能にするには、Excel 名前付き範囲を編集して、コメント・フィールドに次の構文を追加します:

   ```
   NR_Headings=#
   ```

   たとえば、表のヘッダー行を表す名前付き範囲内に 3 行ある場合、次のように指定します:

   ```
   NR_Headings=3
   ```

   Word ドックレットに埋め込んだときに名前付き範囲が複数ページにわたる必要がある場合、ドックレット内で表がわたる各ページの列ヘッダーとして、示された数の行が繰り返されます。
4. Excel ファイルを保存します。

参照ファイルのドックレットへの登録

参照ファイルをチェックアウト済ドックレットに追加し、必要に応じて個別に使用可能コンテンツをドックレット全体に埋め込むには、2 つのパートから成るプロセスを実行します。

このトピックの手順では、参照ファイルからのコンテンツをチェックアウト済ドックレットに登録する方法を説明します。登録された参照ファイルからのコンテンツの埋込み手順は、ドックレットの参照ファイル・コンテンツの埋込みを参照してください。

> **ノート:**
>
> 開始する前に、参照ファイルの名前付き範囲の定義の説明に従い、Excel の名前の管理機能を使用して、ターゲット参照ファイルに範囲を設定しておく必要があります。このトピックの手順を実行するときは、Excel ファイルを閉じる必要があります。

1 つの手順で、使用可能なコンテンツを追加し、コンテンツを埋め込むこともできます。詳細は、参照ファイルからの使用可能なコンテンツの追加および埋込みを参照してください。

参照ファイルをドックレットに登録するには:

1. レポート・パッケージを開いていない場合は開き、参照ファイルを登録するドックレットを開いてチェックアウトします。
2. 「Narrative Reporting」リボンで**「検査」**をクリックして、**「プロパティ」**ダイアログ・ボックスを開きます。

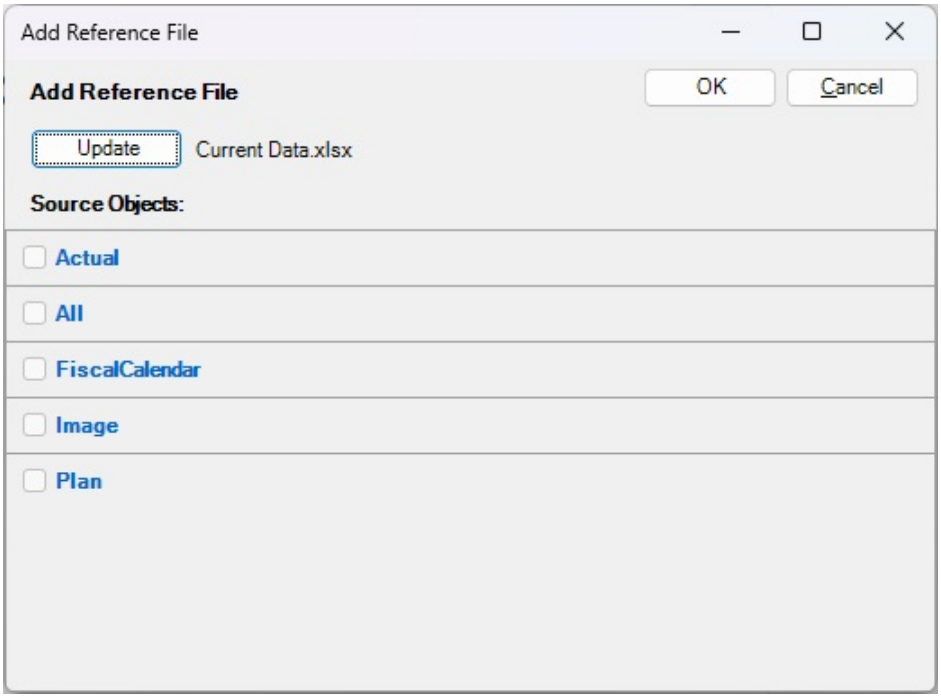
   

   レポート・パッケージ・パネルでドックレットを選択し、**「プロパティ」**をクリックして**「プロパティ」**ダイアログ・ボックスを開くこともできます。
3. **「プロパティ」**で、**「埋込みコンテンツ」**タブ()をクリックし、**「使用可能なソース」**リンクをクリックします。
4. **「埋込みコンテンツ」**ダイアログの**「使用可能なソース」**タブでをクリックし、**「参照ファイルの追加」**ダイアログで

   をクリックします。
5. 参照ファイルとして登録する Excel ファイルに移動してファイルを選択し、**「開く」**をクリックして**「参照ファイルの追加」**ダイアログに戻ります。

   「ソース・オブジェクト」の下に、Excel ファイルの名前付き範囲がリストされます。これらの範囲は使用可能なコンテンツとして選択可能で、後で埋め込むことができます。たとえば、図 1 では、選択された Excel ファイル `Current Data.xlsx` に 5 つの名前付き範囲が含まれています。したがって、これらの名前付き範囲を使用可能なコンテンツとして選択し、後でドックレットに埋め込むことができます。

図 24-25 名前付き範囲ソース・オブジェクトがリストされている「参照ファイルの追加」ダイアログ・ボックス



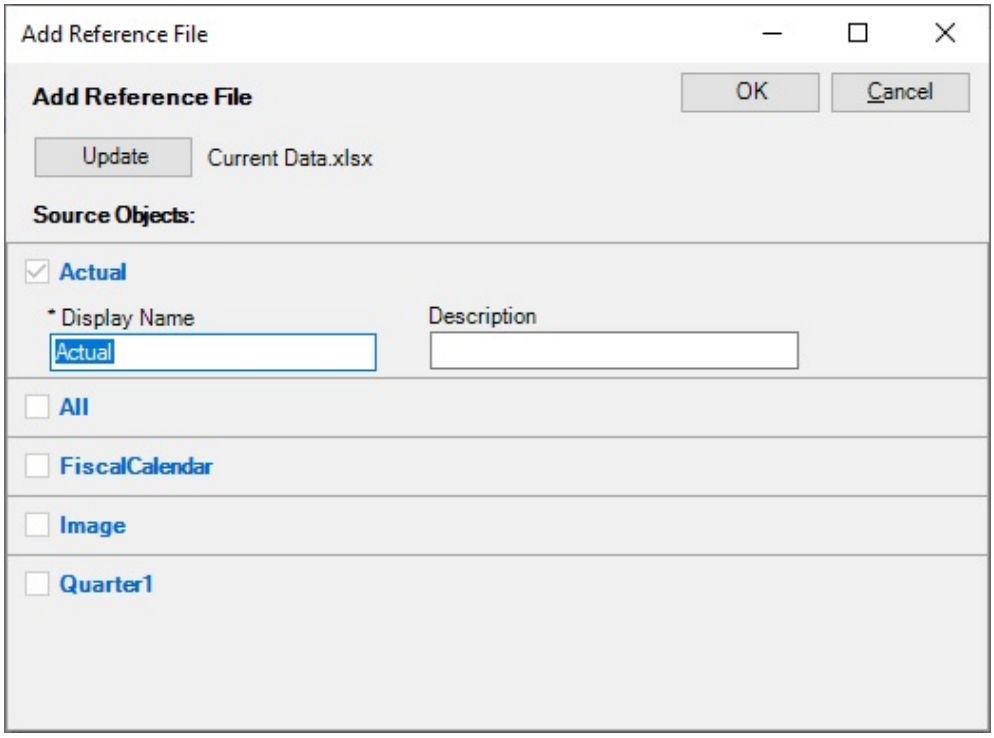
これらの範囲は、前述の参照ファイルの名前付き範囲の定義で名前付き範囲として指定されたものです。

6. ドックレットに埋込み可能にする範囲名(チェック・ボックスではなく)をクリックします。

   クリックする範囲名の横に表示されているチェック・マークは、その範囲がドックレットに登録されていることを示します。たとえば、図 2 では、ドックレットに登録する"Actual"という名前の範囲を選択しました。

   「ソース・オブジェクト」にリストされている範囲はいくつでも選択できますが、このシナリオでは 1 つのみ選択しています。

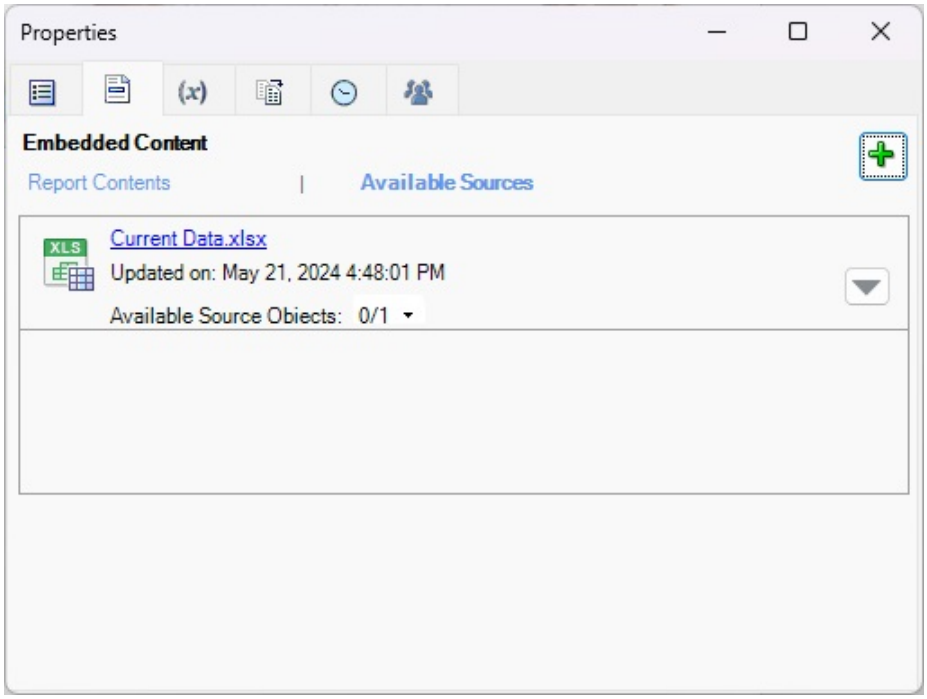
図 24-26 範囲名をクリックした後の「参照ファイルの追加」ダイアログ



7. **「OK」**をクリックして**「参照ファイルの追加」**ダイアログ・ボックスを閉じます。

   「プロパティ」ダイアログの**「埋込みコンテンツ」**タブに戻ります。次に示すように、参照ファイルがドックレットに登録されました 図 3

図 24-27 登録済参照ファイルが表示された「プロパティ」ダイアログの「埋込みコンテンツ」タブ



この時点で、このダイアログ・ボックスから、ドックレットへのコンテンツの埋込みを選択できるようになります。ただし、このトピックの手順では、コンテンツの登録のみを検討します。登録された参照ファイルからの使用可能コンテンツの埋込み手順については、ドックレットの参照ファイル・コンテンツの埋込みを参照してください。

8. **オプション:** 現在のドックレットに登録する他の参照ファイルについて、ステップ 3 から開始するステップを繰り返します。
9. Excel ファイルを参照ファイルとして現在のドックレットに登録し終えた後は、**「プロパティ」**ダイアログの右上隅にある**「X」**をクリックして閉じます。
10. ドックレットをアップロードしてチェックインします。
11. **オプション:** この手順全体を繰り返して、レポート・パッケージの他のドックレットに参照ファイルを登録します。

    ドックレットの参照ファイル・コンテンツの埋込みに進みます。

ドックレットの参照ファイル・コンテンツの埋込み

参照ファイルのドックレットへの登録で、レポート・パッケージ外の Excel ファイルから名前付き範囲を使用可能なコンテンツとして登録し、その Excel ファイルを参照ファイルとしました。参照ファイルは、ネットワーク・ドライブまたはローカル・ドライブに配置できます。

参照ファイルからのコンテンツをドックレットに埋め込みます。プロセスは、コンテンツを Word と PowerPoint ドックレットのどちらに埋め込むかにかかわらず同じです。

参照ファイルからのコンテンツをドックレットに埋め込むには:

1. レポート・パッケージを開いていない場合は開き、以前に参照ファイルを登録したドックレットを開いてチェックアウトします。

   > **ノート:**
   >
   > コンテンツを登録したドックレットに参照ファイル・コンテンツを埋め込む必要があります。他のドックレットにコンテンツを埋め込むことはできません。

2. ドックレットで、使用可能なコンテンツを参照ファイルから埋め込むテキストの位置にカーソルを配置します。
3. 「Narrative Reporting」リボンで、**「埋込み」**ボタンをクリックして、**「コンテンツの埋込み」**ダイアログを起動します。
4. **オプション: 「コンテンツの埋込み」**で、検索フィールドの横にあるフィルタ・ボタンをクリックしてフィルタ・オプションを選択し、使用可能なコンテンツのリストを絞り込みます:
   - **すべて** - デフォルト。使用可能なすべてのコンテンツを表示します。
   - **現在のドックレット** - 現在のドックレットに登録されている参照ファイルから使用可能なコンテンツを表示します。
   - **リファレンス・ドックレット** - レポート・パッケージ内のすべてのリファレンス・ドックレットから使用可能なコンテンツを表示します。
   - **埋込みの非表示** - 現在のドックレットにすでに埋め込まれている使用可能なコンテンツを非表示にします。
5. **オプション:** 検索フィールドに用語を入力し、虫眼鏡アイコンをクリックして、使用可能なコンテンツのリストを絞り込みます。

> **ノート:**
>
> ワイルドカードを入力する必要はありません。Narrative Reporting では、使用可能なコンテンツ名の任意の場所で用語が検索されます。

X アイコンを検索フィールドで使用して検索語をクリアし、使用可能なコンテンツのリストを元の状態に戻します。

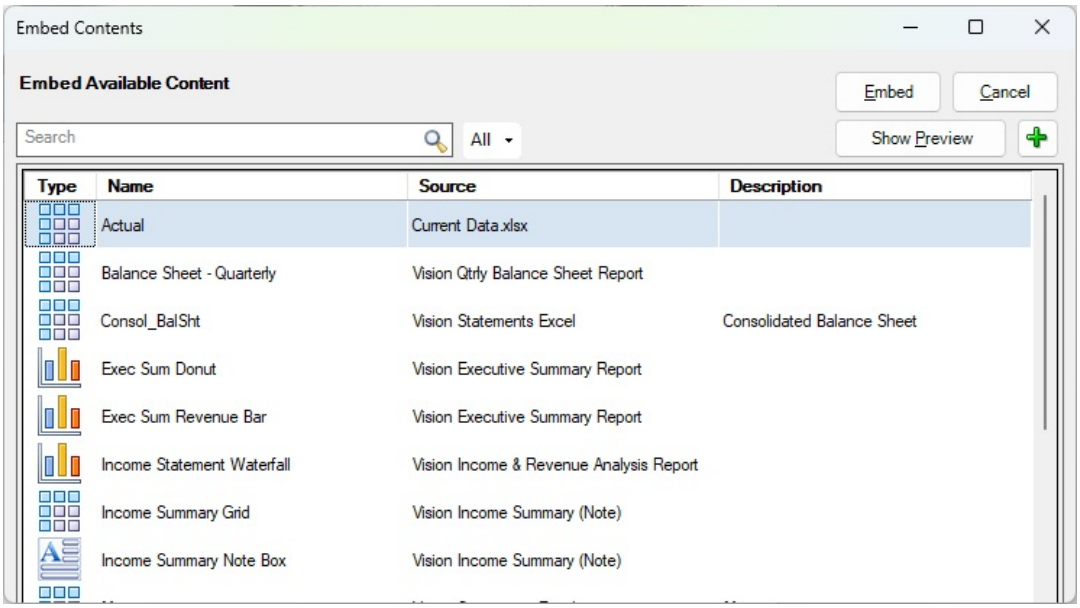
> **ノート:**
>
> 検索結果に対してフィルタ・オプション(前の手順で説明)を使用することもできます。

6. **「コンテンツの埋込み」**で、埋込み可能なコンテンツを選択します。

   必要に応じて、使用可能なコンテンツのプレビューの説明に従って**「プレビューの表示」**ボタンをクリックして、選択した使用可能なコンテンツのプレビューを表示します。

   図 1 では、使用可能なコンテンツ"Actual"が選択されています。

図 24-28 「コンテンツの埋込み」ダイアログ・ボックスで、参照ファイルからの使用可能なコンテンツが選択されています

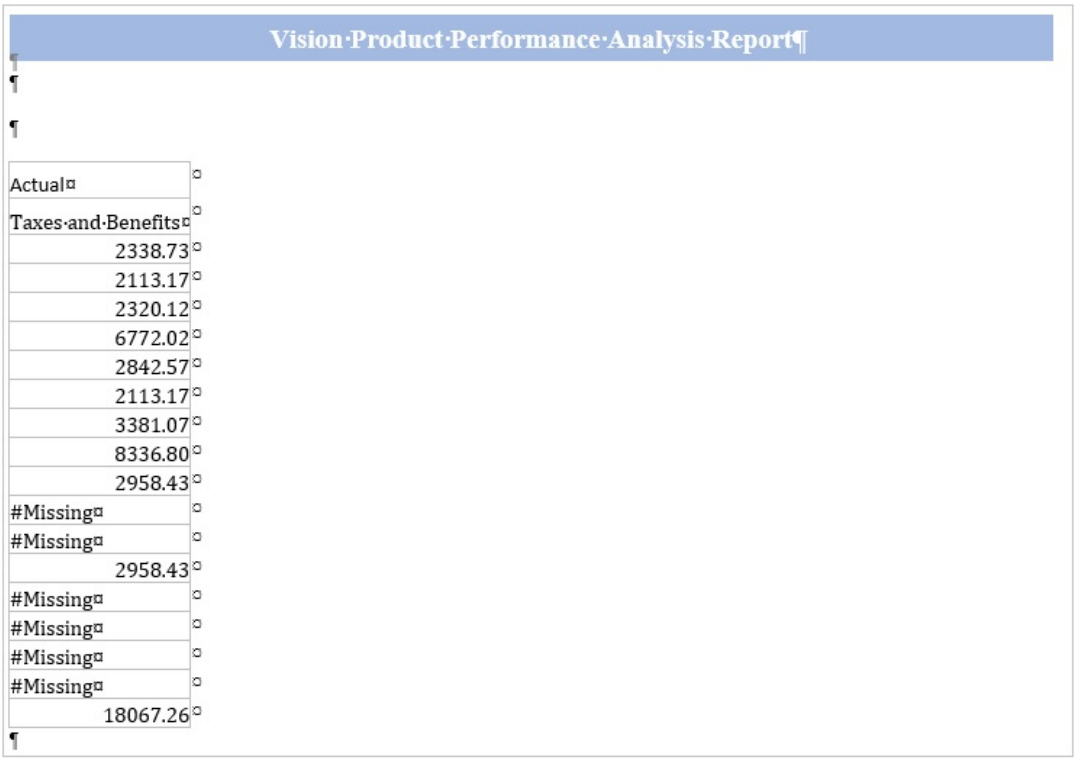


7. **「埋込み」**をクリックして、使用可能なコンテンツをドックレットに埋め込みます。

> **ノート:**
>
> PowerPoint で、スライドに埋め込まれたコンテンツを再配置およびサイズ変更できます。サイズ変更すると、スライドのイメージの改訂された高さがリフレッシュ時に保持され、リフレッシュされたイメージはソース・オブジェクトと同じ縦横比になります。

図 2 は、Word ドックレットに埋め込まれている Excel 表を示しています:

図 24-29 Word ドックレットに埋め込まれている参照ファイルからのコンテンツ



8. **オプション:** ドックレットの使用可能なコンテンツ名の表示の説明に従って、ドックレットで埋込みコンテンツを選択すると、その使用可能なコンテンツの名前が表示されます。
9. **オプション:** ステップ 3 から始まるこの手順を繰り返して、**「コンテンツの埋込み」**ダイアログに表示されている他の使用可能なコンテンツを現在のドックレットに埋め込みます。
10. 終了したら、ドックレットをアップロードしてチェックインします。

参照ファイルからの使用可能なコンテンツの追加および埋込み

Excel 参照ファイルに名前付き範囲を定義した後、範囲を使用可能なコンテンツとして指定し、このトピックの手順を使用して(参照ファイルのドックレットへの登録およびドックレットの参照ファイル・コンテンツの埋込みに説明されている 2 つの部分の手順をバイパスして)、そのコンテンツをドックレットにすぐに埋込みできます。

このトピックでは、参照ファイルのドックレットへの登録で使用した Excel ファイルから使用可能なコンテンツを追加します。そのシナリオでは、1 つの名前付き範囲を使用可能なコンテンツとして追加しました。ただし、その Excel ファイルには、使用可能なコンテンツとして追加できる名前付き範囲が他に 4 つありました。この手順では、その Excel 参照ファイルから名前付き範囲を使用可能なコンテンツとして追加して、そのコンテンツを埋め込みます。

このトピックで説明するプロセスは、コンテンツを Word または PowerPoint のどちらのドックレットに埋め込む場合でも同じです。

参照ファイルからコンテンツをドックレットに追加して埋め込むには:

1. レポート・パッケージを開き、ドックレットを開いてチェックアウトします。

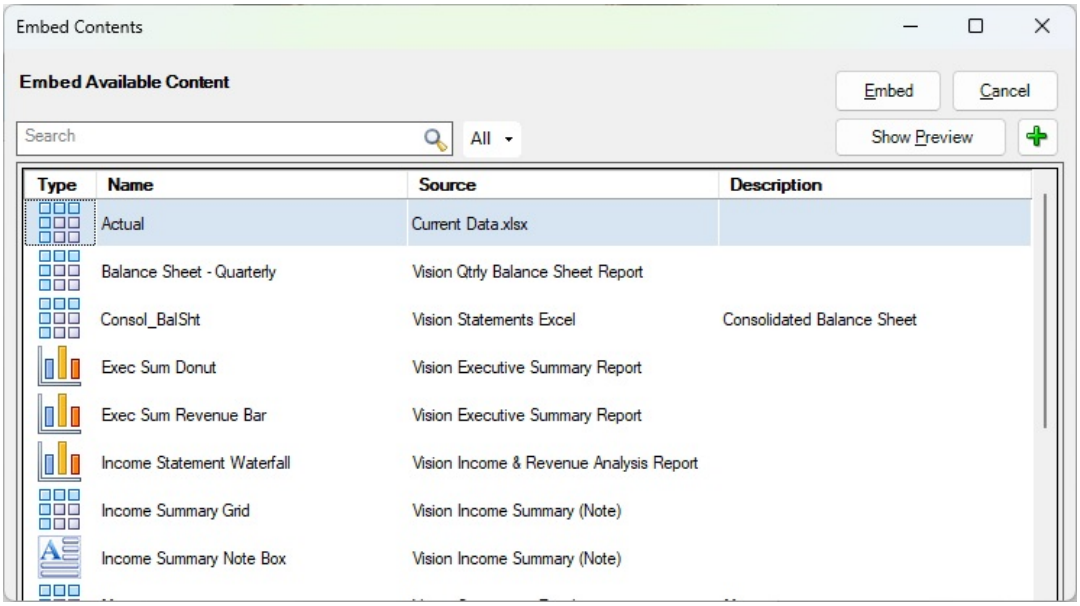
> **ノート:**
>
> この手順で操作する埋込みコンテンツを挿入する位置にカーソルを置きます。

2. 「Narrative Reporting」リボンで、**「埋込み」**ボタンをクリックして、**「コンテンツの埋込み」**ダイアログ・ボックスを起動します。

   図 1 は、参照ファイル `Current Data.xlsx` がソースである使用可能なコンテンツ"Actual"を示しています。

   必要に応じて、使用可能なコンテンツのプレビューの説明に従って**「プレビューの表示」**ボタンをクリックして、選択した使用可能なコンテンツのプレビューを表示します。

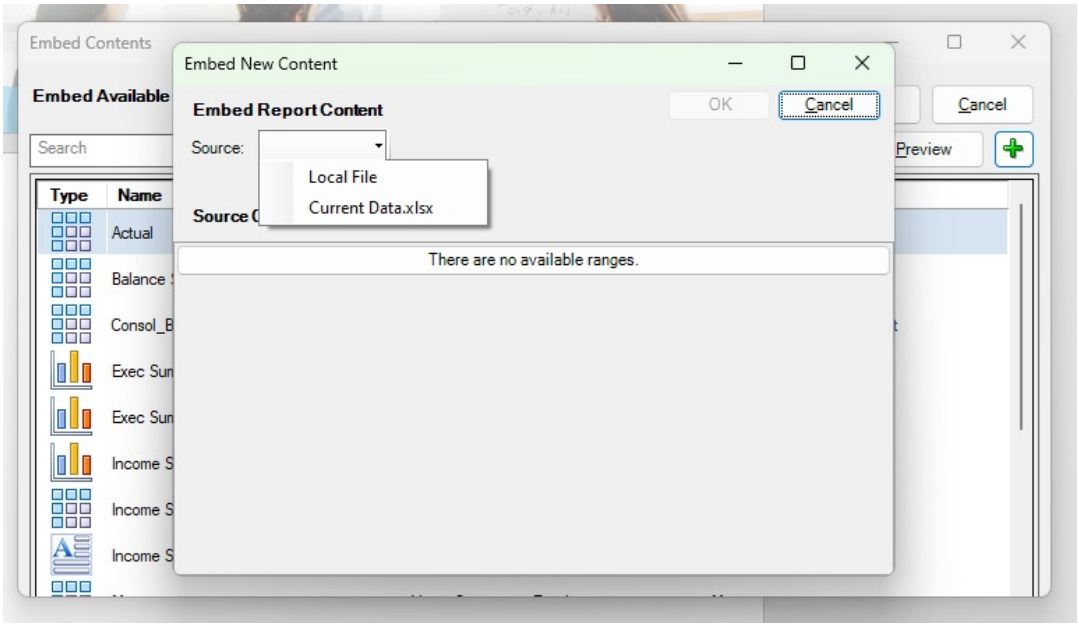
図 24-30 「コンテンツの埋込み」ダイアログ・ボックス



3. をクリックして、**「新規コンテンツの埋込み」**ダイアログを起動します。
4. **「新規コンテンツの埋込み」**で、図 2 に示すように**「ソース」**フィールドのドロップダウン・メニューをクリックし、オプションを選択します。

   - **ローカル・ファイル—「ローカル・ファイル」**を選択した後、をクリックし、参照ファイルとして使用する Excel ファイルの場所を参照し、ファイルを選択します。
   - 参照ファイル—以前に登録した参照ファイルから、使用可能なコンテンツをリストにさらに追加する場合は、**「ソース」**ドロップダウン・メニューからファイルを選択します。

図 24-31 「新規コンテンツの埋込み」ダイアログ・ボックス



どちらを選択しても、使用可能なコンテンツとして選択できる範囲のリストが**「ソース・オブジェクト」**に表示されます。

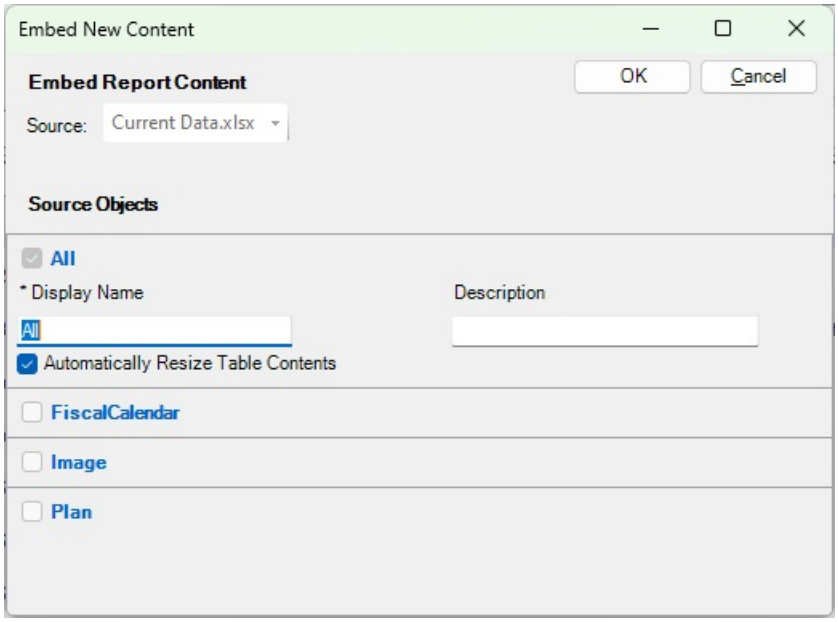
このトピックの例では、前述の参照ファイルのドックレットへの登録およびドックレットの参照ファイル・コンテンツの埋込みで使用した `Current Data.xlsx` ファイルを選択し、次のステップの図 2 に示すように、使用可能なコンテンツとして追加できる 4 つの範囲が**「ソース・オブジェクト」**にリストされます。

5. **「新規コンテンツの埋込み」**ダイアログで、ドックレットに埋め込むソース・オブジェクト名(チェック・ボックスではなく)をクリックします。

> **ヒント:**
>
> 1 つのオブジェクトのみを選択します。

図 3 では、"All"というソース・オブジェクトがクリックされ、チェック・ボックスが選択されています。

図 24-32 名前付き範囲が選択されている「新規コンテンツの埋込み」ダイアログ・ボックス



6. 「**OK**」をクリックして、選択したコンテンツをドックレットに埋め込みます。

図 4 の例は、Word ドックレットに埋め込まれている Excel 表を示しています。

図 24-33 Word ドックレットに埋め込まれている参照ファイルからのコンテンツ

Vision·Product·Performance·Analysis·Report¶

¶

¶

¶

¤	2023¤	Actual¤	North·America·Corporate¤	USD¤	Bookshelf·Audio·System¤
¤	Salaries·and·Wages¤	Taxes·and·Benefits¤	Total·Compensation¤	¤	¤
¤¤¤¤¤¤¤¤January¤	10971.83	2338.73	13310.56¤	¤	¤
¤¤¤¤¤¤¤¤February¤	9913.62	2113.17	12026.79¤	¤	¤
¤¤¤¤¤¤¤¤March¤	10884.52	2320.12	13204.64¤	¤	¤
¤¤¤¤Quarter1¤	31769.97	6772.02	38541.99¤	¤	¤
¤¤¤¤¤¤¤¤April¤	13335.52	2842.57	16178.09¤	¤	¤
¤¤¤¤¤¤¤¤May¤	9913.62	2113.17	12026.79¤	¤	¤
¤¤¤¤¤¤¤¤June¤	15861.80	3381.07	19242.86¤	¤	¤
¤¤¤¤Quarter2¤	39110.93	8336.80	47447.74¤	¤	¤
¤¤¤¤¤¤¤¤July¤	13879.07	2958.43	16837.50¤	¤	¤
¤¤¤¤¤¤¤¤August¤	#Missing¤	#Missing¤	#Missing¤	¤	¤
¤¤¤¤¤¤¤¤September	#Missing¤	#Missing¤	#Missing¤	¤	¤
¤¤¤¤Quarter3¤	13879.07	2958.43	16837.50¤	¤	¤
¤¤¤¤¤¤¤¤October¤	#Missing¤	#Missing¤	#Missing¤	¤	¤
¤¤¤¤¤¤¤¤November	#Missing¤	#Missing¤	#Missing¤	¤	¤
¤¤¤¤¤¤¤¤December	#Missing¤	#Missing¤	#Missing¤	¤	¤
¤¤¤¤Quarter4¤	#Missing¤	#Missing¤	#Missing¤	¤	¤
Fiscal·Calendar¤	84759.97	18067.26	102827.23¤	¤	¤

¶

¶

7. **オプション:** ドックレットの使用可能なコンテンツ名の表示の説明に従って、ドックレットで埋込みコンテンツを選択すると、その使用可能なコンテンツの名前が表示されます。
8. **オプション:** 埋め込む参照ファイルのその他の使用可能なコンテンツに対して、ステップ 2 からこの手順を繰り返します。
9. 終了したら、ドックレットをアップロードしてチェックインします。

参照ファイルの名前付き範囲の管理

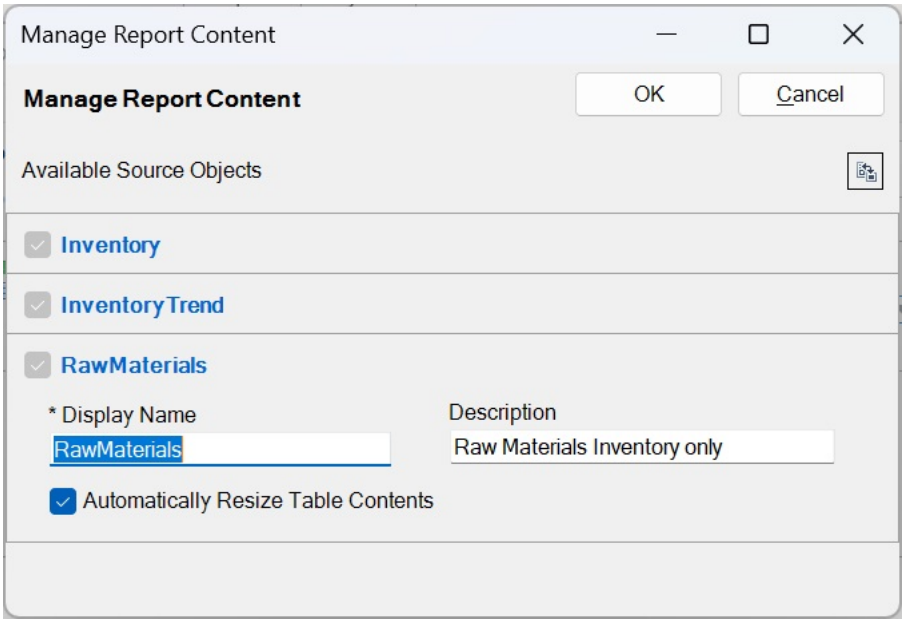
ドックレットの文書作成者は、参照ファイルの名前付き範囲の名前を変更したり、参照ファイルを削除できます。たとえば、ドックレットの文書作成者は、使用されなくなった参照ファイルを削除できます。

参照ファイルの名前付き範囲を管理するには:

1. レポート・パッケージを開いていない場合は開き、変更する参照ファイルが含まれているドックレットを開いてチェックアウトします。
2. 「Narrative Reporting」リボンで**「検査」**をクリックして、**「プロパティ」**ダイアログ・ボックスを開きます。
3. **「プロパティ」**で、**「埋込みコンテンツ」**タブ、、**「使用可能なファイル」**リンクを順にクリックします。
4. 参照ファイルの名前付き範囲の表示名、オプションの説明および表の列のサイズ変更の設定を変更するには:
   a. 操作する名前範囲の参照ファイルの横にある ▼ をクリックし、**「レポート・コンテンツの管理」**を選択します。
   b. **オプション:** **「レポート・コンテンツの管理」**ダイアログで、参照ファイル名のリンクをクリックして展開し、**「表示名」**および**「説明」**フィールドに必要な変更を加え、**「表のコンテンツを自動的にサイズ変更」**チェック・ボックスを必要に応じて選択または選択を解除し、**「OK」**をクリックします。

      埋込みの Word 表とソース参照表またはグリッドとの間の相違を最小限に抑えるには、**「表のコンテンツを自動的にサイズ変更」**オプションでサイズ変更オプションを無効にします。

      次の例では、「Raw Materials」というコンテンツの名前を変更し、オプションの説明を変更し、**「表のコンテンツを自動的にサイズ変更」**チェック・ボックスの選択を解除できます。



5. 参照ファイルを削除するには:
   a. 削除する参照ファイルの横の▼をクリックして、**「削除」**を選択します。
   b. プロンプトで、**「はい」**をクリックして、削除アクションを確定します。

      参照ファイルを削除すると、その参照ファイルの埋込みコンテンツはドックレット内に残りますが、埋込みコンテンツと参照ファイル間のリンクは破損します。その後の参照ファイルへの変更は、ドックレット内の埋込みコンテンツには反映されません。このため、参照ファイルを削除する際は注意してください。
6. 名前付き範囲の管理およびドックレットからの参照ファイルの削除が終了したら、**「プロパティ」**ダイアログ・ボックスの**「埋込みコンテンツ」**タブを閉じます。
7. ドックレットをアップロードしチェックインします。

参照ファイルでの使用可能なコンテンツの更新

参照ファイルの文書作成者は、参照ファイルの既存コンテンツを更新する場合があります。

たとえば、収益性レポート表を新規データでリフレッシュする必要があるとします。参照ファイルで行った更新は、参照ファイルをドックレットにアップロードすると、そのレポート・コンテンツが埋め込まれているドックレットで自動的にリフレッシュされます。

参照ファイルのコンテンツを更新するには:

1. 変更する参照ファイルを含むドックレットを選択し、チェックアウトします。
2. 「Narrative Reporting」リボンで**「検査」**をクリックして、**「プロパティ」**ダイアログ・ボックスを開きます。
3. **「プロパティ」**で、**「埋込みコンテンツ」**タブ()をクリックし、**「使用可能なソース」**リンクをクリックします。
4. 操作するコンテンツの参照ファイルの横にある▼をクリックし、**「ダウンロード」**を選択します。

   ファイルはデフォルトで、ユーザーの**ダウンロード**・フォルダにダウンロードされます。

あるいは、**「使用可能なソース」**タブで、ファイル名のリンクをクリックします。これにより、ファイルが**ダウンロード**・フォルダにダウンロードされ、Excel でファイルが開きます。

ひとまず、ドックレットの**「プロパティ」**ダイアログを閉じます。

5. ファイルが開いていない場合は Excel でファイルを開き、必要な更新および変更を追加してファイルを保存します。

   ファイルを保存した後、「Narrative Reporting」リボンの**「アップロード」**ボタンをクリックできます。ファイルがアップロードされたら、Excel を閉じてステップ 10 に進みます。あるいは、**「プロパティ」**ダイアログを使用してファイルをアップロードする場合は、次のステップに進みます。

6. 最初のステップで開いたレポート・パッケージ・ドックレットに戻り、「Narrative Reporting」リボンで**「検査」**をクリックします。

7. **「プロパティ」**ダイアログの**「埋込みコンテンツ」**タブで、**「使用可能なファイル」**を選択し、変更したコンテンツが含まれている参照ファイルの横の▼をクリックして、**「アップロード」**を選択します。

8. **「アップロード」**ダイアログ・ボックスで、**「ファイルの選択」**をクリックし、変更された Excel 参照ファイルの場所に移動して選択し、**「開く」**をクリックします

9. **「OK」**をクリックして**「アップロード」**ダイアログを閉じた後、**「プロパティ」**ダイアログを閉じます。Excel を閉じてもかまいません。

10. 最近アップロードした参照ファイルからの埋込みコンテンツをリフレッシュするには、「Narrative Reporting」リボンで、**「リフレッシュ」**、**「埋込みコンテンツのリフレッシュ」**を順にクリックします。

11. ドックレットをアップロードしチェックインします。

参照ファイル内でのコンテンツの再マッピング

参照ファイルの文書作成者として、定義した使用可能コンテンツを、ファイル・ソース内の別のレポート・コンテンツに再マップする必要がある場合があります。これは、参照ファイルが更新された場合、または名前付き範囲が名前変更されたか削除された場合に発生します。

使用可能コンテンツを、参照ファイル内の別の使用可能コンテンツに再マップできます。

> **ノート:**
>
> この手順を開始する前に、文書作成フェーズが開始されていることを確認します。

参照ファイル内の使用可能コンテンツを再マップするには:

1. レポート・パッケージを開いていない場合は開き、更新する参照ファイルが含まれているドックレットを開いてチェックアウトします。

   影響を受けるドックレットは、再マップする使用可能コンテンツが含まれる参照ファイルに関連付けられているドックレットです。

   ドックレットが Word または PowerPoint で開きます。Excel でレポート・パッケージを開いた場合、影響を受けるドックレットを開くと Word または PowerPoint が起動します。

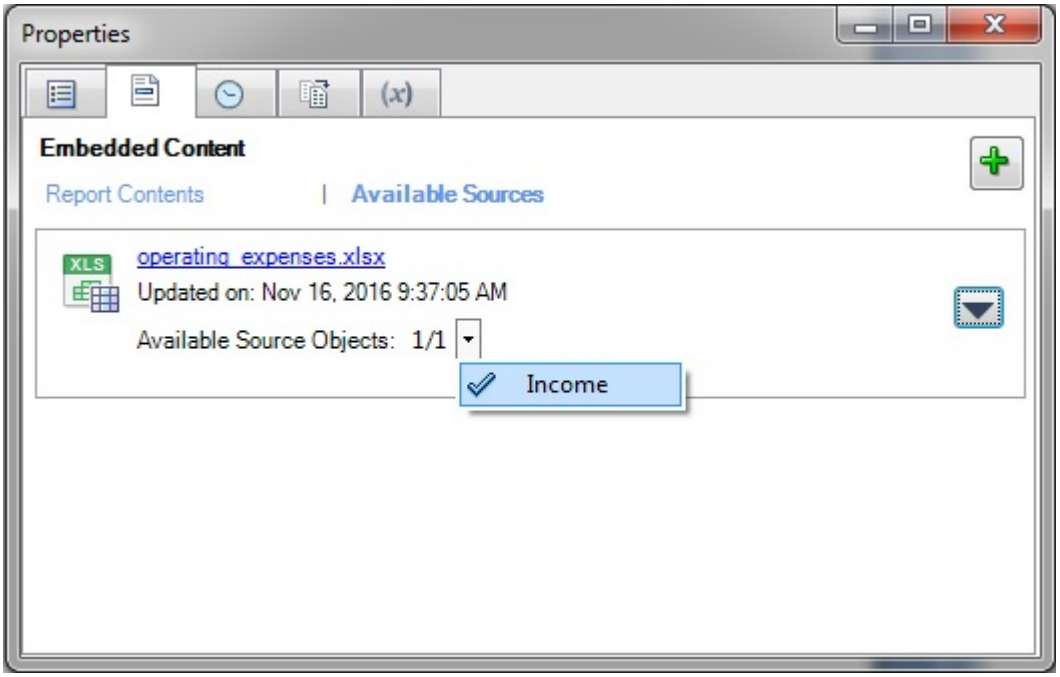
2. 「Narrative Reporting」リボンで**「検査」**をクリックして、**「プロパティ」**ダイアログ・ボックスを起動します。



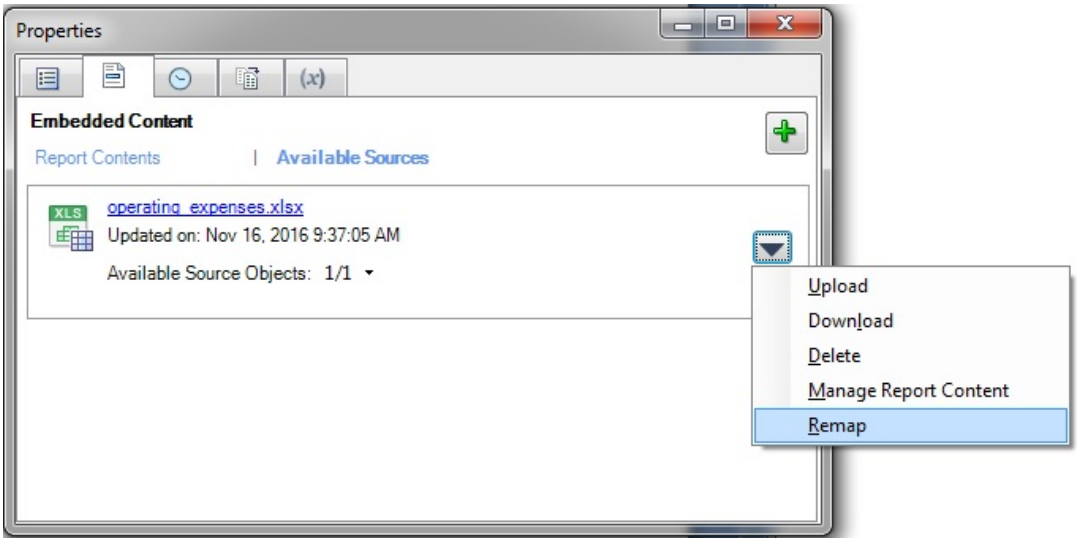
または、レポート・パッケージ・リストでドックレットを選択して、**「プロパティの表示」**リンクをクリックして、**「プロパティ」**ダイアログ・ボックスにアクセスします。

3. を選択して、**「プロパティ」**ダイアログの**「埋込みコンテンツ」**タブを表示します。
4. **「埋込みコンテンツ」**タブで、**「使用可能なソース」**リンクをクリックします。

「使用可能なソース・オブジェクト」の隣の矢印をクリックすると、使用中の使用可能コンテンツを表示できます。



5. 再マップするコンテンツの隣のをクリックし、ドロップダウン・メニューから**「再マップ」**を選択します。

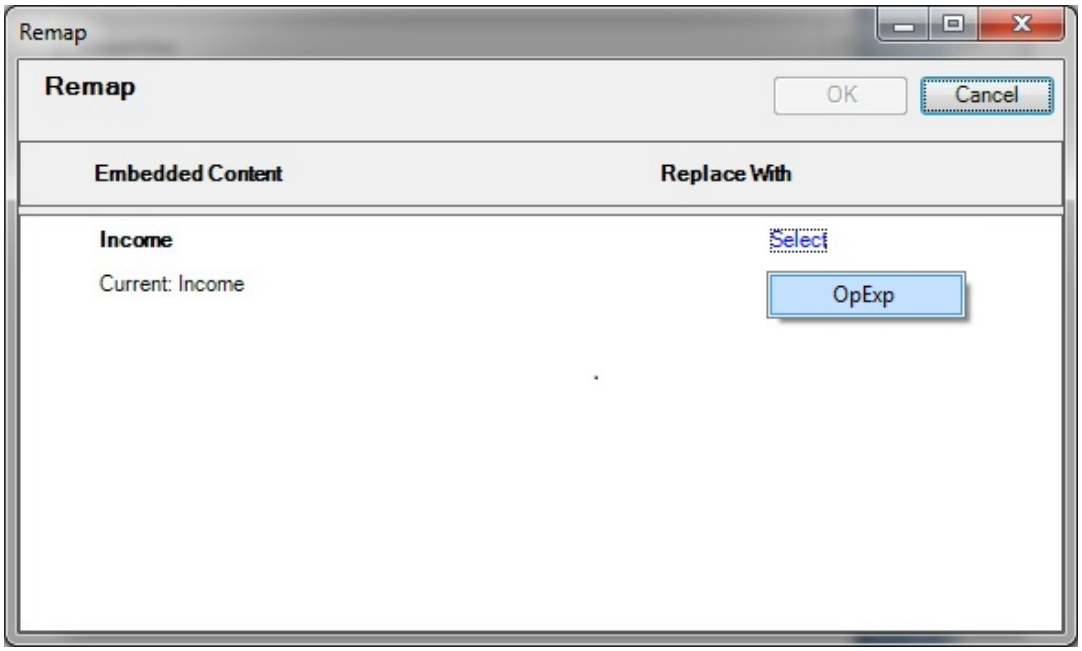


「再マップ」ダイアログが表示されます。

6. **「再マップ」**ダイアログで、再マップするコンテンツを含む参照ファイルの、関連付けられた**「選択」**リンクをクリックします。

   まだマップされていない使用可能なコンテンツのリストが表示されます。次の図では、リストに 1 つのアイテム「OpExp」が含まれています。

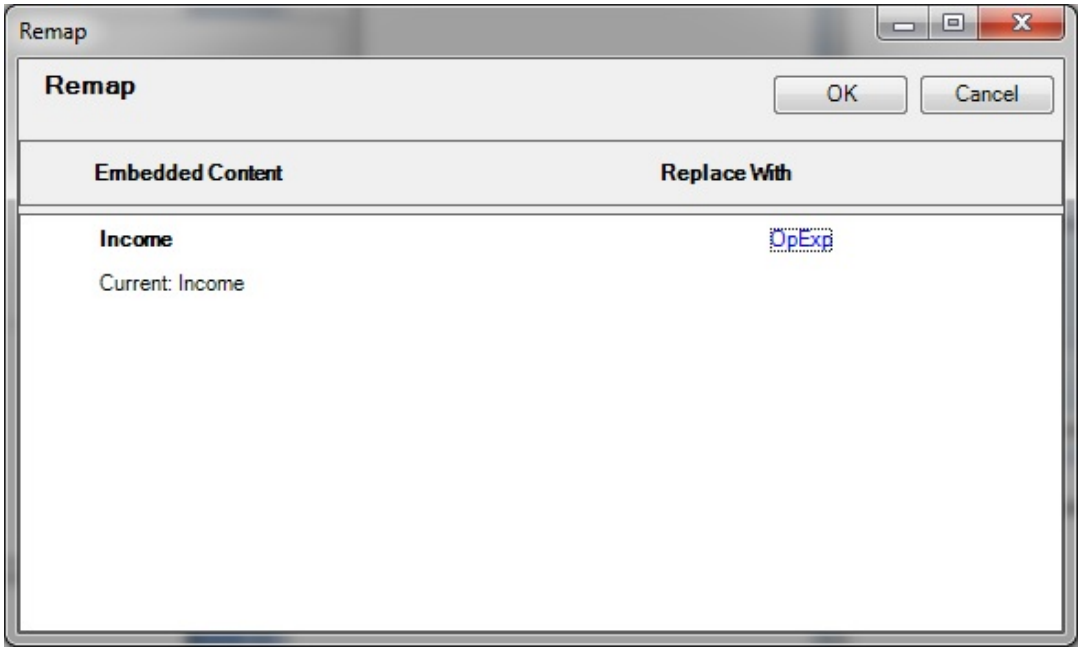
   「現行」のアイテムは、「Income」という使用可能コンテンツにマップされています。「OpExp」というコンテンツに再マップします。



7. **「選択」**ドロップダウン・リストから、再マップ先の使用可能コンテンツ・アイテムを選択します。

   選択を終えると、選択した範囲が**「置換対象」**列に表示されます。

   次の例では、「OpExp」範囲が**「置換対象」**列に表示されています。



8. 再マップする各使用可能コンテンツ・アイテムについて、ステップ 5 からステップ 8 を繰り返します。
9. コンテンツの再マップを終了したら、**「OK」**をクリックして、**「再マップ」**ダイアログを閉じ、**「プロパティ」**ダイアログを終了します。

変数の操作

レポート・パッケージでは、変数を使用することにより、レポート・パッケージ全体でドックレットに表示される共通のテキスト、数値および日付を一元的に管理できます。変数は、リファレンス・ドックレットの Excel データを Word の段落または PowerPoint のテキスト・ボックスへ挿入する場合など、ドックレット間でのコンテンツの参照にも使用できます。

関連トピック:

変数について

静的変数の作成

参照変数の作成

共有変数の追加

ドックレットへの変数の挿入

PowerPoint 用 Smart View での変数の操作

変数の検索

参照変数値のソースの検索

変数の編集

変数のフィルタ

ドックレットでの変数の強調表示

変数の検査

参照変数のリンク解除

変数の削除

ビデオ

目的	このビデオを見る
参照変数の操作について学習します。	 レポート・パッケージ変数を使用した Smart View 問合せでのメンバー選択の変更

変数について

レポート・パッケージの変数は、Web 上の Narrative Reporting または Oracle Smart View for Office 用の Narrative Reporting 拡張機能のいずれかを使用して作成できます。これには、次の例外があります:

- Smart View では参照変数値のみを定義できます。
- 共有変数の作成と値の指定は、Web 上の Narrative Reporting でのみできます。

作成後は、Smart View を使用して、変数をドックレット(ヘッダー、表、セルまたは段落)に挿入します。

次のタイプの変数を使用できます:

- ***静的***変数は、日付ラベルやセット値など、ユーザーによって定義された静的な入力を使用します(これはレポート・パッケージ全体を通して使用可能です)。これらの静的変数は簡単に更新でき、変数値のすべてのドックレット・インスタンスにはその変更が反映されます。静的変数を使用すると、共通の日付、数値およびテキストをレポート・パッケージ・ドキュメント・コンテンツ全体で一元的に管理できます。

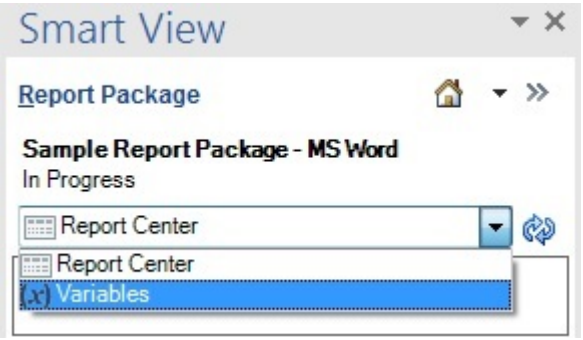
  「変数」パネルの変数リストで、このアイコンは静的変数を表します。
- ***参照***変数は、レポート・パッケージ内の別のドックレットまたは参照ファイルをソースとして参照し、変数の値(Word の段落または Excel セル値内のテキストなど)を選択することで作成されます。参照変数は、PowerPoint コンテンツから導出できません。その後ソース・ドキュメントが更新された場合、その変更は、レポート・パッケージ内の変数の挿入済インスタンス内で自動的に更新されます。参照変数を使用すると、Excel のセル値を Word または PowerPoint の段落に挿入すること、Excel 式を作成してクロス計算ルールを実装し、データの正確性を向上させること、またはレポート・ナラティブのための指示的な語句("増加"、"減少"など)を作成することができます。

  「変数」パネルの変数リストで、このアイコンは参照変数を表します。**「値」**には、参照変数の現在の値が表示されます。**「ソース」**には、参照変数のソースとなるドックレットまたは参照ファイルの名前が表示されます。
- ***「共有」***変数は、パワー・ユーザーによって Narrative Reporting Web (25.03 以降)で作成されます。これらは共通の値で構成される静的変数であり、同じレポート期間内の複数のレポート・パッケージでレポート・コンテンツに組み込むことができます。レポート・パッケージの所有者は、これらの共有変数を Narrative Reporting Web のレポート・パッケージに追加しました。追加すると、他の変数と同様にレポート・パッケージ内で使用できます。

「変数」パネルの変数リストで、このアイコンは共有変数を表します。共有変数が使用されている場合、アイコンはに変わります。**「値」**には、共有変数の現在の値が表示されます。**「ソース」**には、共有変数が属する変数リストの名前が表示されます。

静的変数と参照変数は、レポート・パッケージの所有者またはドックレットの文書作成者が作成できます。共有変数は、レポート・パッケージの所有者が作成および定義します。

レポート・パッケージに定義されているすべての変数のリストを表示するには、まずレポート・パッケージを開きます。「レポート・パッケージ」パネルから、ドロップダウンを**「レポート・センター」**から**「変数」**に変更します:

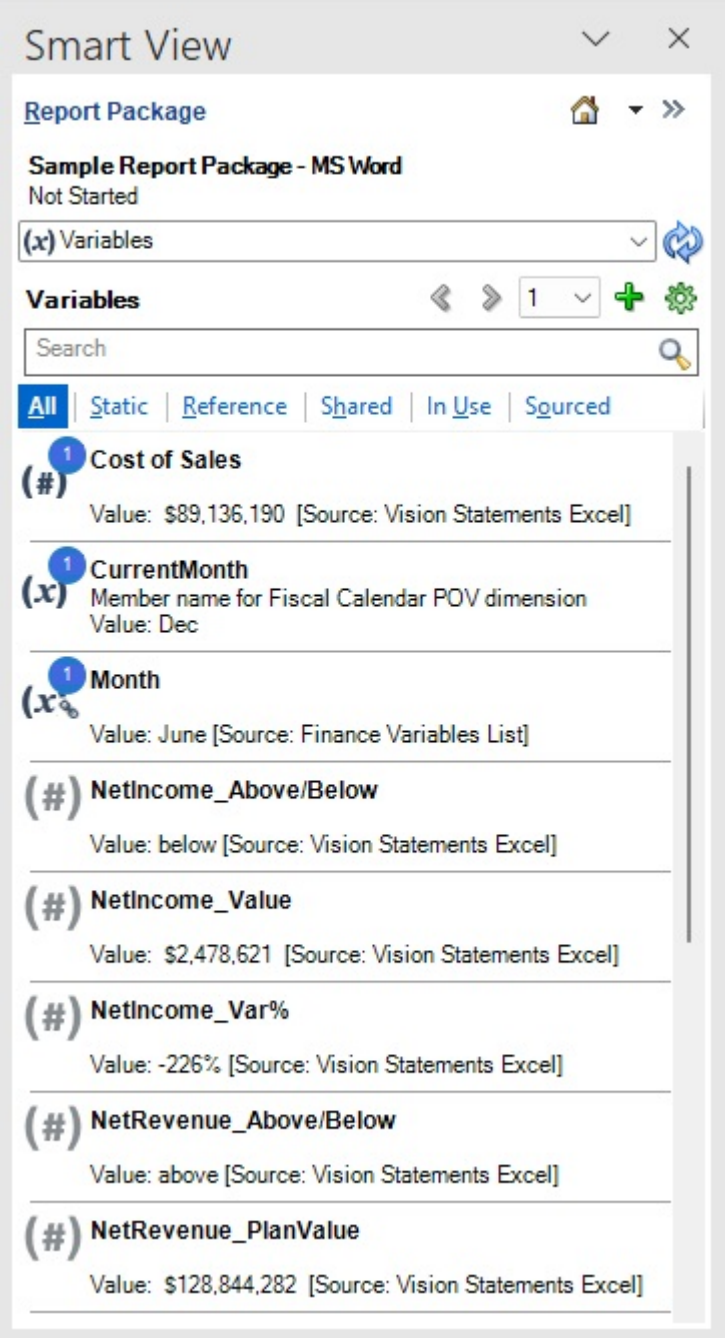


使用可能な変数のリストが表示されます。図 1 に示すように、変数タイプ、レポート・パッケージ内での変数の使用回数(数値を含む青色の円)、参照変数のソースなどの詳細を表示できます。

「変数」パネルから、次のことができます。

- 静的変数と参照変数の作成
- 静的変数と参照変数の編集
- 変数を選択してドックレットに挿入
- 表示フィルタ:
  - 静的変数、参照変数、または共有変数のみ
  - レポート・パッケージですでに使用されている変数のみ
  - 現在のドックレットから導出された変数のみ

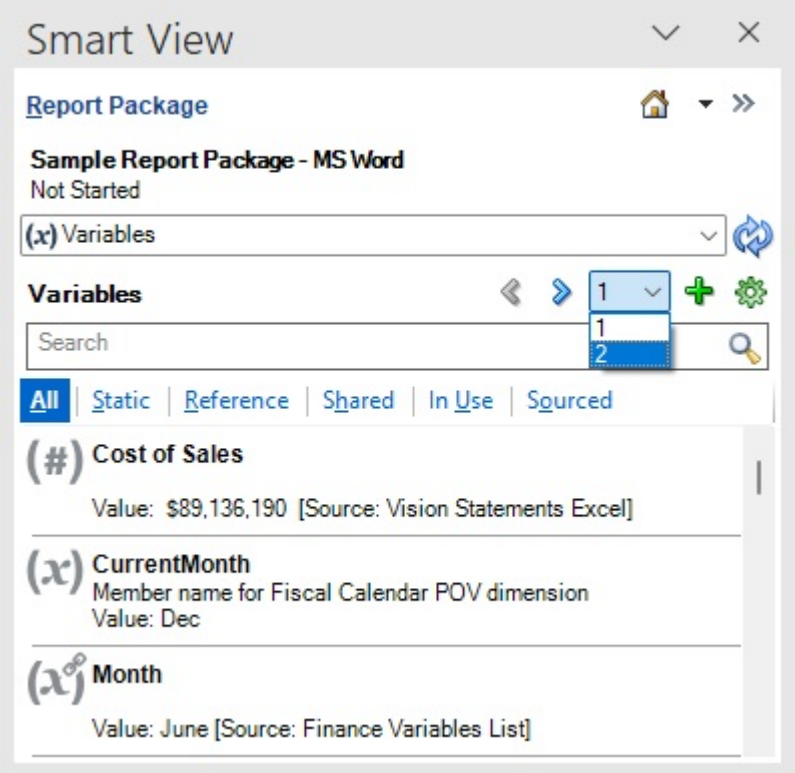
図 24-34 レポート・パッケージに定義された変数のリスト



50 個を超える変数を含むレポート・パッケージ内の変数を見つけるには、パネル上部のコントロールを使用します(図 2 に表示):

- ページをナビゲートするには、左右の矢印を使用します
- 特定のページにジャンプするには、ページ番号のドロップダウン・リストを使用します

図 24-35 ナビゲーション矢印とページ番号ドロップダウン・リストが表示された変数パネルの一部



変数の作成後、変数は次のように管理されます:

- レポート・パッケージの所有者は、レポート・パッケージ内のすべての変数を削除、編集できます。ただし、レポート・パッケージの所有者は、共有変数を削除および編集するには Narrative Reporting Web を使用する必要があります。
- ドックレットの文書作成者は、自分が作成した静的変数と参照変数のみを削除、編集できます。
- 参照変数の場合、変数値のソースの場所への書込みアクセス権を持つユーザーはその変数値を更新できます。
- 文書作成者は、自分が作成していない変数への読取りアクセス権を持つため、すべての変数のリストを参照し、それらを、文書作成者アクセス権を持つドックレットに挿入できます。

静的変数の作成

静的変数とは、ラベルや段落などのテキスト文字列であり、レポート・パッケージ・ドックレットに挿入可能です。

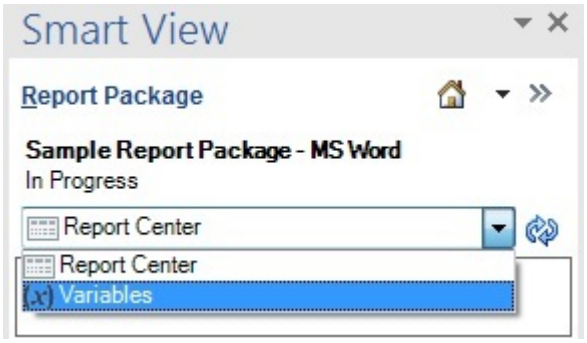
例として、"CurrentMonth"という現在の月の静的変数を作成する場合、"August 2016"というテキストを入力します。次の月のレポートにロールオーバーする場合には、CurrentMonth 変数のテキストを"September 2016"に更新する単純な方法で、レポート・パッケージ全体にわたって、その変数の全インスタンスに変更が伝播されます。

静的変数は、Narrative Reporting Web インタフェースでも作成、定義できますが、Oracle Smart View for Office を使用してドックレットに挿入する必要があります。

> **ノート:**
>
> 開始する前に、レポート・パッケージを開いており、ドックレットも開いてチェックアウトしていることを確認してください。

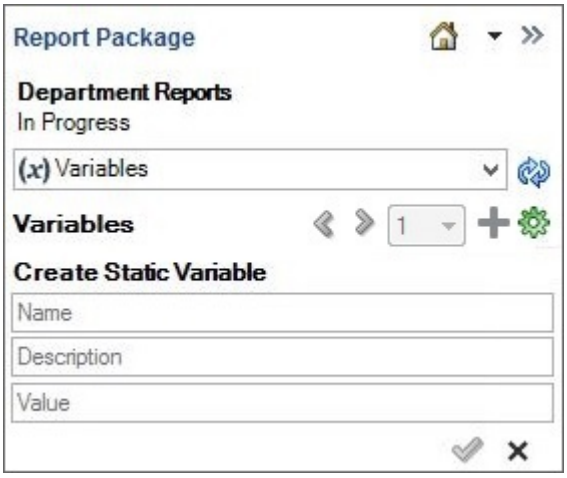
静的変数を作成するには:

1. レポート・パッケージを開き、「レポート・パッケージ」パネルのドロップダウン・リストで、**「変数」**を選択します



2. 「レポート・パッケージ」パネルで、**「新規変数の作成」**をクリックし、次にドロップダウン・リストから**「静的変数」**を選択します。

   レポート・パッケージ・パネルには**「静的変数の作成」**が表示され、ここには、変数の名前と値およびオプションの説明を入力します:



3. 次のように変数を定義します:
   a. 変数の**「名前」**を入力します。

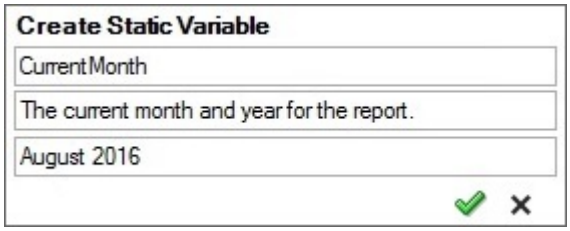
      名前は、レポート・パッケージ内の変数全体で一意であり、簡単に見つけられるよう、変数を説明したものにする必要があります。

   b. **オプション:** 変数の**「説明」**を入力します。

   c. **「値」**フィールドに、静的変数のテキストを入力します。

- 静的変数の最大長は 255 文字です。
- テキスト文字列はラベルまたは段落となり、文字列全体が、レポート・パッケージで入力したとおりに表示されます。

次の例では、名前が"CurrentMonth"、説明が"The current month and year for the report"、値が"August 2016"で静的変数を作成しています。この変数は、次に示すように、様々な用途で現在の月の日付を表示する複数の箇所に挿入できます:



この変数は、たとえば次のように、様々な用途で現在の月の日付を表示する複数の箇所に挿入できます:

- 静的変数を、"For the month of <<CurrentMonth>>"と表示される内部の営業費用ドックレットに表示されるテキストに挿入します。
- 静的変数を、"During <CurrentMonth>>, ... "と表示されるドックレットの脚注内の段落に挿入します。

次の月の場合、レポート・パッケージ内の現在の月の日付のすべてのインスタンスを 更新するには、新しい月(たとえば September 2016)を使用するように変数値を変更します。このオプションにより、変更は一様に実装され、値の日付が誤ることはありません。

4. 「**OK**」ボタンをクリックします。

   変数の作成を取り消すには、「取消」ボタン、✖をクリックします

5. ドックレットへの変数の挿入の手順に従い、変数をドックレットに挿入します。

参照変数の作成

参照変数を使用すると、レポート・パッケージ内の別のドキュメント(ドックレットまたは参照ファイル)にあるソース(単一の Excel セルまたは選択した Word テキストなど)を参照して、レポート・パッケージ・ドックレットで参照変数値のソースとして使用できます。その後、その参照変数を 1 つ以上のドックレットに挿入できます。参照変数のソース値が更新されると、変数のすべての挿入済インスタンスは自動的に更新されます。

ノート:

- イメージおよび図形は、参照変数の値としてサポートされていません。
- 参照変数の値は空白にできません。参照変数を定義または更新する場合は、Excel セルに値が含まれている必要があります。
- 参照変数の値は、他の参照変数から導出できません。
- 参照変数の値は、Excel リファレンス・ドックレットからの範囲が Word または PowerPoint 内に埋め込まれている埋込みコンテンツから導出することはできません。
- 参照変数は、PowerPoint コンテンツから導出できません。
- ソースが Word の参照変数の値は、最大長が 2,000 文字です。ソースが Word である参照変数の値の文字数が 255 を超える場合、その値を Excel に挿入することはできません。
- 参照変数の値は、単一の行のみである必要があります。Excel スプレッドシートで、1 つのセルのみを選択します。Word で、1 行または 1 つの表のセルのみからテキストを選択します。
- ソースが Excel の参照変数の値は、最大長が 255 文字です。
- ソースが Excel の参照変数の値には、セル内の数値フォーマットのすべてのテキストが含まれます(123,456 など)。別の Excel ワークシートに挿入された場合、変数値は数値ではなくテキストとして挿入されます。

たとえば、Oracle Smart View for Office 内の Excel 式を使用して、次のような参照変数の値を生成します:

- データ値が、現在の期間と前の期間で増加または減少した場合、IF 関数を使用して文字列"increase"または"decrease"あるいは"above"または"below"を戻します。Excel ベースの指示的な語句の変数または結果を Word の段落に挿入します。

  ```
  =IF(B8<0,"below","above")
  ```

- IF 関数または単純な減算を使用して、レポート・パッケージ全体で複数回表示されるデータ値("Revenues"または"Summary Income Statement"など)の発生を比較します。

  ```
  ='Summary Income Statement'!B4
  ```

- Excel 式を使用して、期間と期間の間で変化するデータ値の差異または差異パーセントを計算し、その差異を Word の段落に挿入します。

  ```
  ='Summary Income Statement'!B4-'Summary Income Statement'!C4
  ```

値のソースが更新された場合、変数が Smart View で更新されると変数の各インスタンスに現在の情報が反映されます。

参照変数の名前および説明は、Narrative Reporting Web インタフェースでも作成できますが、変数のソースおよび値を Smart View で追加し、Smart View を使用して変数をドックレットに挿入する必要があります。

> **ノート:**
>
> 開始する前に、レポート・パッケージを開いており、ドックレットも開いてチェックアウトしていることを確認してください。

参照変数を作成するには:

1. レポート・パッケージを開き、Word ドックレット、参照ファイルを含む Word ドックレットまたは Excel リファレンス・ドックレットを開いて、チェックアウトします。

   ドックレットをチェックアウトすることなくレポート・パッケージを開くだけで参照変数を作成でき、参照変数の名前および説明を定義できますが、ドックレットのソース値を参照変数の値として定義するには、ドックレットをチェックアウトする必要があります。

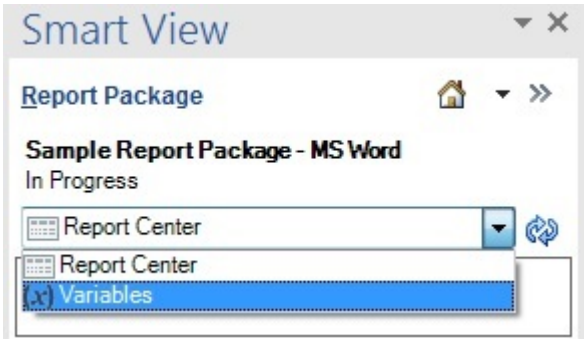
2. 新しい参照変数で参照するには、ドックレットまたは参照ファイルで、Excel セル、Word テキストまたは表のセルを選択します。

   たとえば、次のグリッドではセル **B13** が選択されています。データ・ソース POV を含むセルの値は、新しい参照変数の値です。

	A	B	C	D	E
1		Fiscal Calendar	Entities	Total Segments	Currencies
2		**Actual**	**Plan**	**Variance**	**Variance %**
3	Total Compensation	$ 64,845,803.24	$ 115,166,742.59	$ 50,320,939.35	43.69
4	Travel	4,836,436.25	8,287,961.06	3,451,524.80	41.65
5	General Supplies	3,674,837.98	6,258,357.17	2,583,519.19	41.28
6	Telecommunications	6,378,561.45	11,057,528.97	4,678,967.53	42.31
7	Equipment Maintenance	14,993,537.06	26,272,058.13	11,278,521.07	42.93
8	Fees Outside Services	100,996,742.28	180,334,457.05	79,337,714.77	43.99
9	Employee HR	6,634,968.62	11,428,589.57	4,793,620.94	41.94
10	Facilities Exp	13,031,228.94	22,994,537.25	9,963,308.31	43.33
11	Utilities	2,159,896.85	3,820,238.43	1,660,341.58	43.46
12	Depreciation and Amort	17,818,170.62	31,705,917.75	13,887,747.13	43.80
13	Operating Expenses	$ 235,370,183.29	$ 417,326,387.97	$ 181,956,204.68	43.60

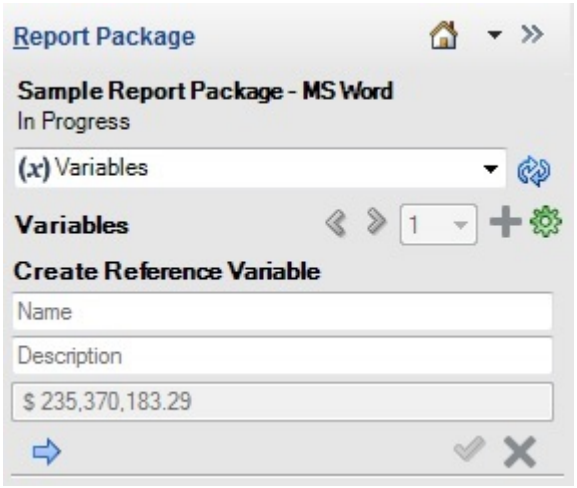
> **ノート:**
>
> 参照変数の値は、後からいつでも変更できます。

3. 「レポート・パッケージ」パネルのドロップダウン・リストで、**「変数」**を選択します。



4. 「レポート・パッケージ」パネルで、**「新規変数の作成」**ボタン➕をクリックし、次にドロップダウン・リストから**「参照変数」**を選択します。

   レポート・パッケージ・パネルには**「参照変数の作成」**が表示され、ここには、変数の名前と値およびオプションの説明を入力します。ご覧のとおり、ステップ 2 で選択した値が事前に移入されています



5. 次のように参照変数を定義します:

   a. 参照変数の**「名前」**を入力します。

      名前は、レポート・パッケージ内のすべての変数にわたって一意であり、簡単に見つけられるよう、変数を説明したものにする必要があります。

   b. **オプション:** 参照変数の**「説明」**を入力します。

   c. 現在選択されているセルの値を参照値として使用するには、➡をクリックします。

      オプションとして、シートで別のセルを選択し、その値が値フィールドで変更されていることを確認して、➡をクリックすることもできます

6. **「OK」**ボタン、✔をクリックして、変数をレポート・パッケージに追加します。
7. システムに追加される変数値のドックレットまたは参照ファイルをアップロードしチェックインします。

> **ノート:**
>
> ドックレットまたは参照ファイルがチェックインされていない場合、Smart View 内の現在のドックレットおよび他のドックレットに対して、変数パネルに「コミットできません」という値が表示され続けます。Narrative Reporting Web インタフェースでは、値は`#Missing`として表示されます。

共有変数の追加

レポート・パッケージの所有者は、Narrative Reporting Web を使用して、レポート・パッケージに共有変数を追加します。

Oracle Smart View for Office では、作成者は静的変数や参照変数と同様に、ドックレットに共有変数を追加します。

Narrative Reporting Web での共有変数の作成については、*レポート・パッケージの作成と管理* の次のトピックをご覧ください:

- 共有変数について
- レポート・パッケージへの共有変数の追加
- 共有変数のリフレッシュ

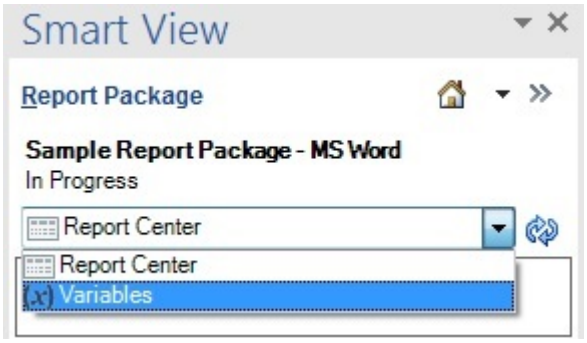
ドックレットへの変数の挿入

静的変数および参照変数を作成し、チェック・インするか、共有変数をレポート・パッケージに関連付けると、文書作成者は、それらを Word または PowerPoint のドックレット内のヘッダー、表、セルまたは段落、あるいは Excel ドックレットのセルで使用できるようになります。

> **ノート:**
>
> - 個々のドックレットに挿入する変数の数は 250 以下に制限することをお薦めします。ドックレットに 250 を超える変数が含まれていると、ドックレットのチェックイン時に処理時間が長くなり、場合によってはドックレットのチェックインに失敗することがあります。
> - 32 ビット版の Office 365 で Oracle Smart View for Office と Narrative Reporting 拡張機能を使用する場合、「変数」パネルから PowerPoint ドックレットに変数を挿入すると、断続的に問題が発生することがあります。この問題を回避するには、PowerPoint 用 Smart View での変数の操作を参照してください。

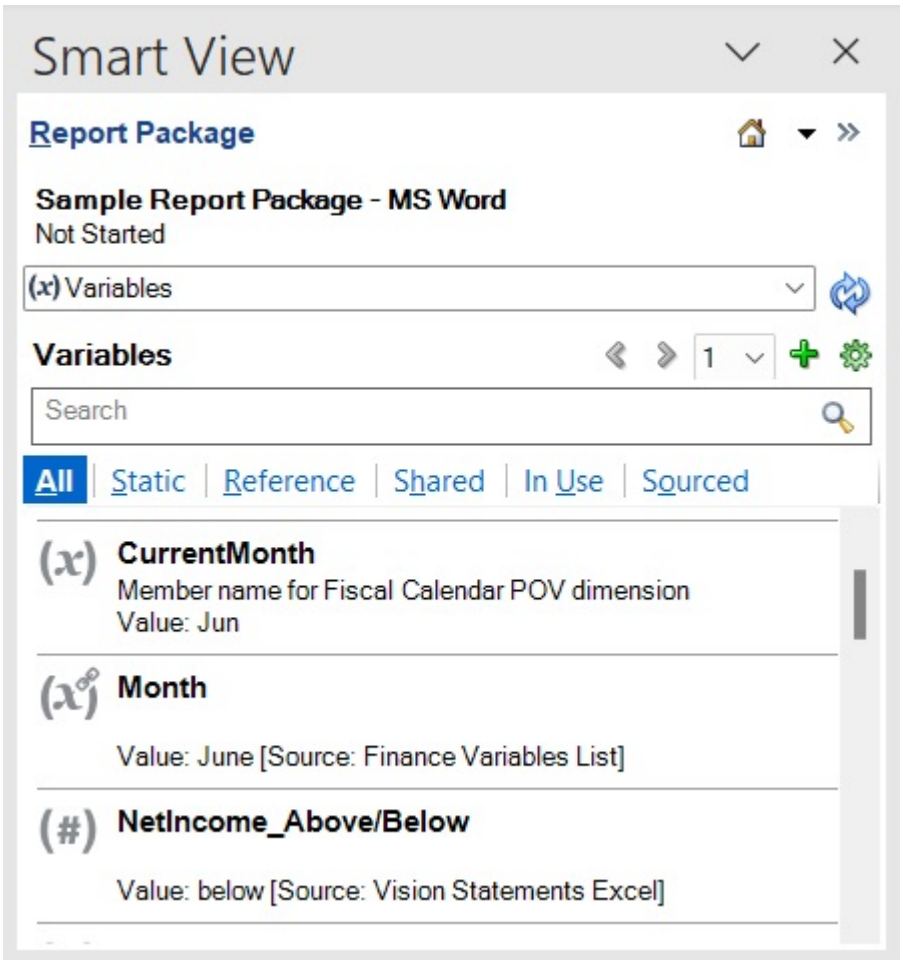
変数をドックレットに挿入するには:

1. レポート・パッケージを開き、ドックレットを開いてチェックアウトします。
2. 「レポート・パッケージ」パネルのドロップダウン・リストで、**「変数」**を選択します。



「変数」を選択すると、使用可能な変数のリストが Smart View パネルに表示されます。図 1 に、変数の一覧を示します。レポート・パッケージの変数リストの別の例は、図 1 を参照してください。

図 24-36 レポート・パッケージで使用可能な変数リストの例



3. ドックレットで、変数を挿入する位置を選択します。
4. 変数リストから、挿入する変数を選択します。

   リスト内の変数を選択すると、図 1 に示すような、変数の 3 つのメニュー・オプションが表示されます。
5. をクリックして、ドックレット内の選択済の位置に変数を挿入します。

図 2 の例では、ドックレット内の変数挿入ポイントを示す矢印が付いた Word ドックレットの一部が表示されています。「変数の挿入」ボタン( )が丸で囲まれています。

図 24-37 「変数の挿入」ポイントが示された Word ドックレット

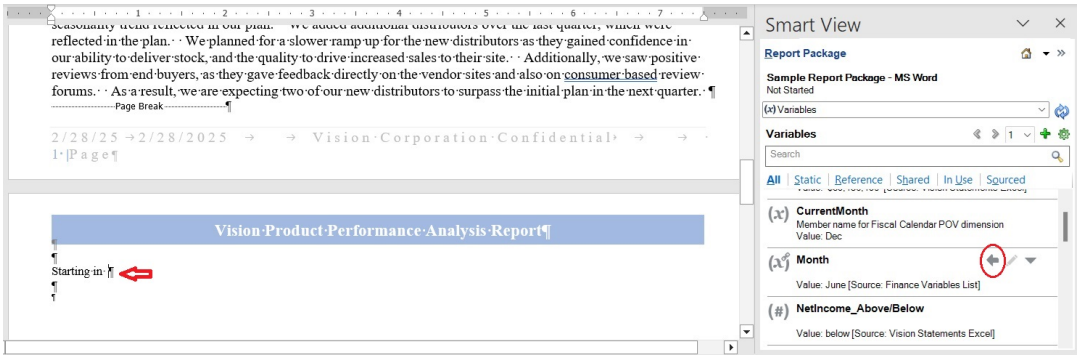
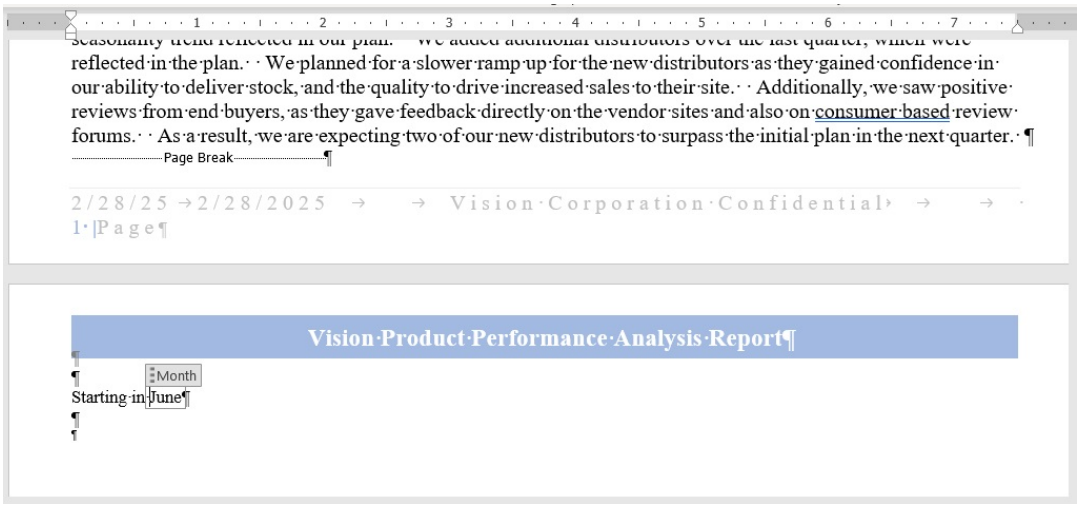


図 3 の例には、June として定義された Month という共有変数を Word ドックレットに挿入した結果が表示されています。

図 24-38 Month の共有変数の挿入結果を示している Word ドックレット



6. 現在のドックレットに変数を挿入したら、ドックレットをアップロードしてチェックインします。
7. 変数の挿入が必要な各ドックレットに、この手順のステップを繰り返します。

PowerPoint 用 Smart View での変数の操作

32 ビット・バージョンの Office 365 で Oracle Smart View for Office および Narrative Reporting 拡張機能を操作する場合、「変数」パネルから PowerPoint ドックレットに変数を挿入するときに断続的に問題が発生します。変数が正しく挿入されず、空白スペースのみが挿入される場合があります。変数が正しく挿入される場合もあります。

回避策: Windows の「クリップボードの履歴」をオフにすると、変数は問題なく挿入されます。「クリップボードの履歴」設定をオフにするには、次のステップに従います。

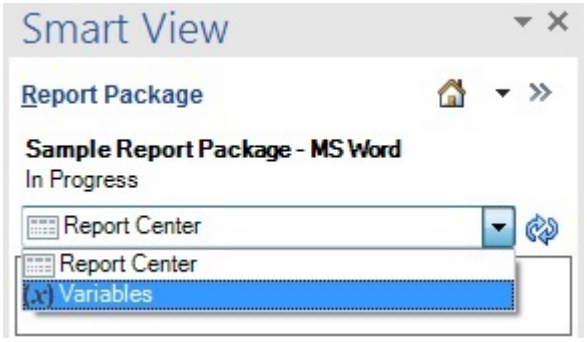
1. Windows の「スタート」ボタンから**「設定」**を選択します。
2. "クリップボード"を検索して**「クリップボード設定」**を選択します。
3. **クリップボードの設定**ページで**「クリップボードの履歴」**オプションを**「オフ」**にします。
4. PowerPoint を起動して Narrative Reporting に接続します。
5. PowerPoint レポート・パッケージを開き、PowerPoint ドックレットを開いてチェックアウトします。
6. PowerPoint ドックレットに変数を挿入します。

変数の検索

「変数」パネルで検索を使用して、挿入、変更、強調表示または削除する変数を見つけます

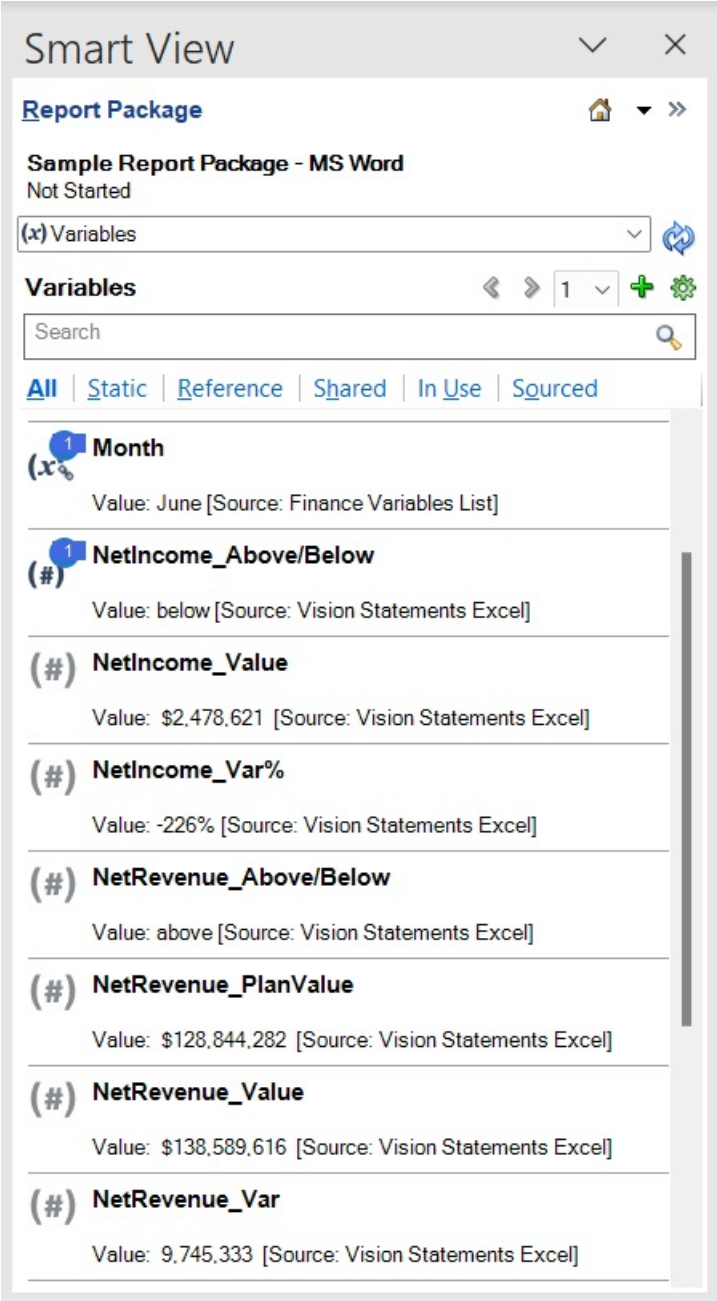
変数を検索するには:

1. レポート・パッケージを開きます。
2. 「レポート・パッケージ」パネルのドロップダウン・リストで、**「変数」**を選択します。



レポート・パッケージで使用可能な値のリストが、パネルに表示されます。

拡大鏡アイコンによって、変数検索テキスト・ボックスが示されます。

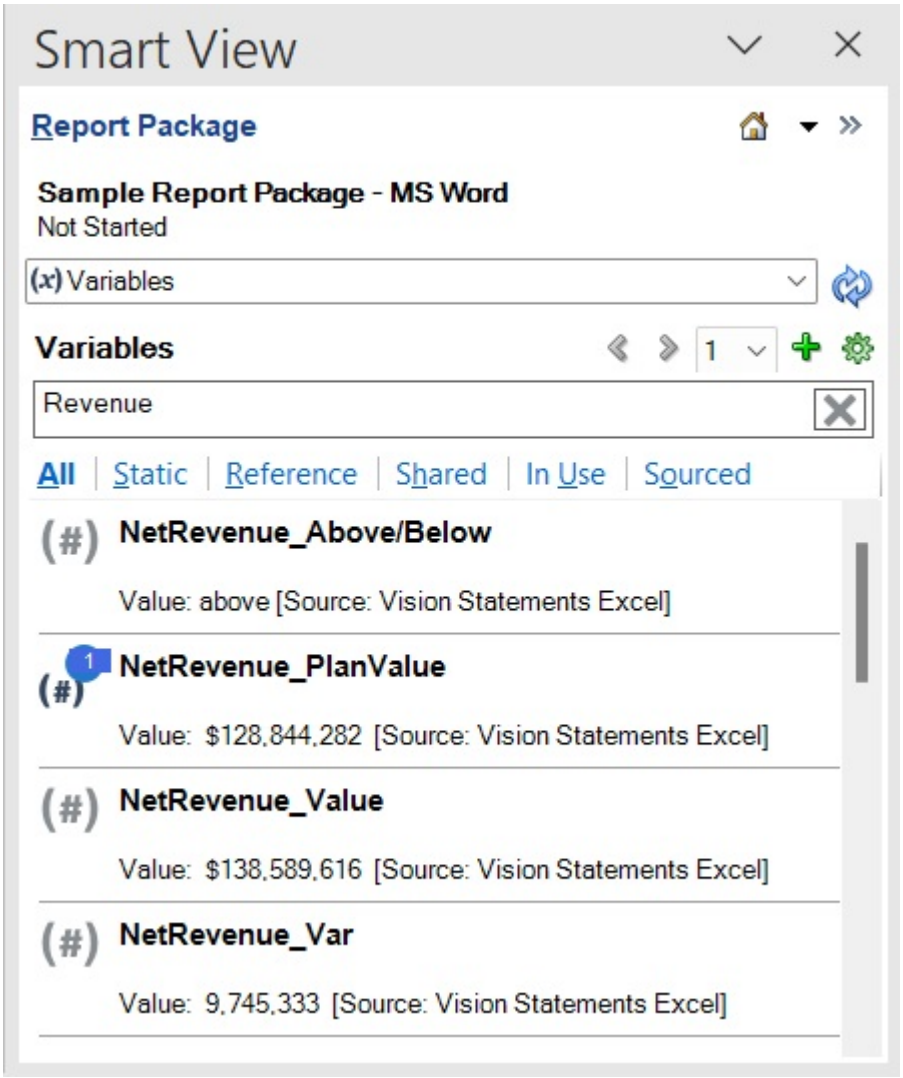


3. **オプション:** フィルタされた変数リストから検索するには、フィルタ・リンクの**「静的」**、**「参照」**、**「共有」**、**「使用中」**、または**「ソース」**(変数のフィルタを参照)のいずれかをクリックします。

4. 変数検索テキスト・ボックスに検索基準を入力し、をクリックします。

   検索結果がリストされます。

   次の例では、名前に `Revenue` が含まれる変数の検索により、次のような結果となりました。



> **ノート:**
>
> ワイルドカード記号(アスタリスクなど)は必要なく、変数名の一部でないかぎり使用しません。

5. 検索結果リストをクリアして、変数の完全なリストに戻るには、変数検索テキスト・ボックス内の✕をクリックするか、**「すべて」**フィルタ・リンクをクリックします。

   または、**「静的」**や**「参照」**などのフィルタ・リンクをクリックすると、フィルタされた変数のリストに戻ります。

参照変数値のソースの検索

Oracle Smart View for Office の「変数」パネルの**「ソース」**タブで使用できる**「ソースの表示」**アクションを使用して、ドックレット内で参照変数値のソースを簡単に見つけることができます。

「変数」パネルの**「ソース」**タブで、現在のドックレットをソースとするすべての 参照変数を表示できます。

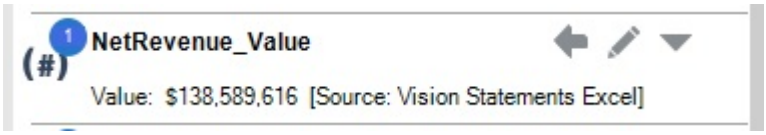
その後、さらに**「ソース」**タブから、選択した変数の▼ドロップダウン・メニューの**「ソースの表示」**アクションを使用して、リファレンス・ドックレットまたは参照ファイル内の参照変数値のソースを見つけます。Word または Excel ベースのドックレットでは、変数のソースがドックレットの場合は、参照変数値のソースを見つけることもできます。

開始する前に、変数ソース値を見つけるためのガイドラインの項目を確認してください。

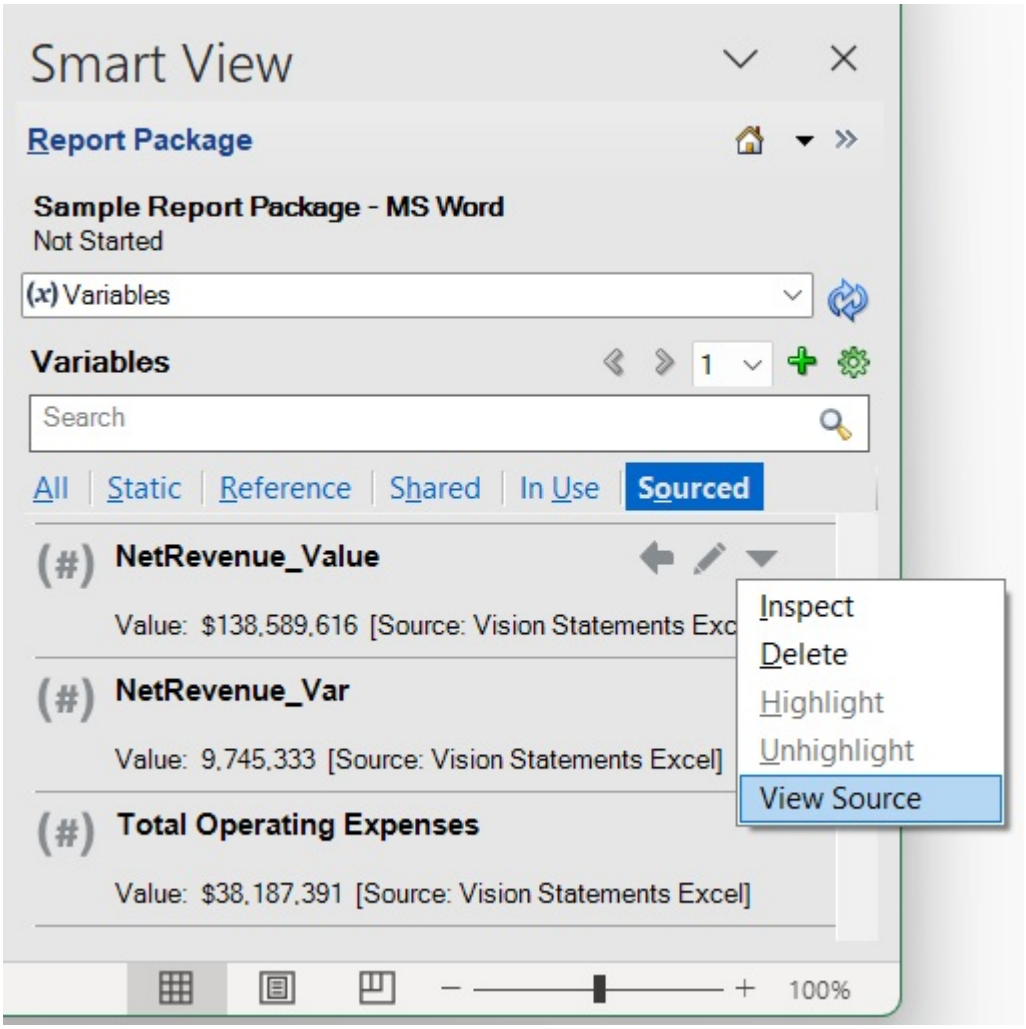
> **Note:**
>
> 次の手順では、ドックレットを開く前に、レポート・パッケージ・レベルで開始すると仮定します。ただし、開いているドックレットからこの手順を開始することもできます。

参照変数値のソースを見つけるには:

1. レポート・パッケージを開き、「レポート・パッケージ」パネルのドロップダウン・リストで、**「変数」**を選択します
2. 「変数」パネルの**「すべて」**タブで、ソースが必要な変数のリストを確認し、ソース・ドックレット名を書き留めます。
   たとえば、Narrative Reporting の Vision サンプル・アプリケーションを使用すると、参照変数 NetRevenue_Value のソース・ドックレットは、リファレンス・ドックレットである Excel ファイル Vision Statements になります。



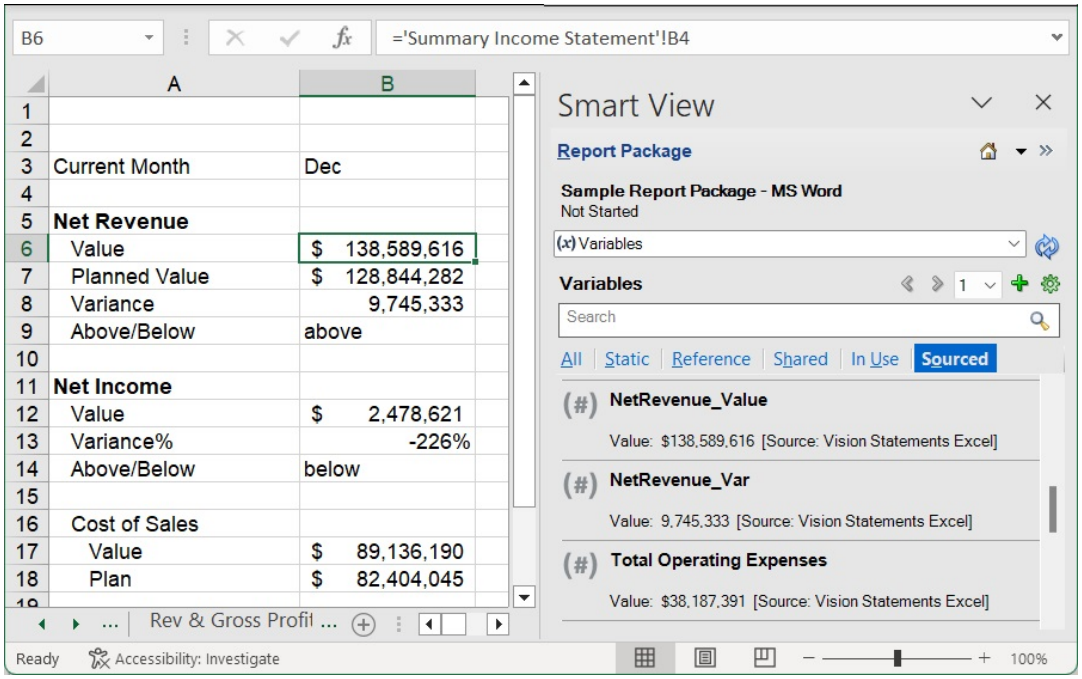
3. 次のいずれかのアクションを行います:
   - リファレンス・ドックレットをソースとする変数の場合は、リファレンス・ドックレットを開きます。
   - 参照ファイルをソースとする変数の場合は、参照ファイルが登録されているドックレットを開き、参照ファイルをダウンロードしてからファイルを開きます。
   - Word または Excel ベースのドックレットをソースとする変数の場合は、ドックレットを開きます。
4. 変更を加える予定がある場合は、開いたドックレットをチェックアウトします。
5. 現在開いているリファレンス・ドックレットまたは参照ファイルをソースとするすべての変数を表示するには、「変数」パネルで**「ソース」**タブを選択します。
   ソースが Word または Excel ベースのドックレットの場合も**「ソース」**タブを選択することになります。
6. **「ソース」**タブで、ソースを表示する変数を見つけて、**「その他のアクション」**ボタン▼をクリックし、ドロップダウン・メニューから**「ソースの表示」**を選択します。



Excel のリファレンス・ドックレットまたは参照ファイルの場合、Smart View では、ワークブックのどのシートが表示されているかに関係なく、変数のソースであるセルの場所が即時に表示されます。

Word または Excel ベースのドックレットでは、Smart View により、参照変数のテキスト・ソース(Word)、または変数のソースであるセルが即時に表示されます。

次の NetRevenue_Value 参照変数の例では、Smart View により、Vision Statements リファレンス・ドックレットの「ルール」タブのセル B6 が表示されます。Excel の数式バーは、この変数が Vision Statements ワークブックの Summary Income Statement タブのセル B4 を参照していることを示しています。



7. 値のソースを表示する各参照変数について、ステップ 2 から始まるこの手順を繰り返します。

変数ソース値を見つけるためのガイドライン

- PowerPoint は変数のソースにできません。したがって、**「ソースの表示」**アクションは、PowerPoint ベースのドックレットでは使用できません。
- 参照ファイル、または Word または Excel ベースのドックレットを操作する場合は、次の点を考慮して前述の同じ手順を使用します:
  - 参照ファイルを操作する場合は、参照ファイルが登録されている Word または Excel ベースのドックレットを最初に開いてから、参照ファイルをダウンロードします。
  - Word または Excel ベースのドックレットをソースとする変数がない場合、**「ソースの表示」**アクションは無効になります。必要に応じて変数の強調表示アクションを使用して、ドックレット内で使用されている(ソースでない)変数を見つけます。
- この機能には、Narrative Reporting Web の 23.12 以降の更新と、Smart View の Narrative Reporting 拡張機能が必要です。

変数の編集

静的変数および参照変数は、作成後、Oracle Smart View for Office で簡単に編集できます。

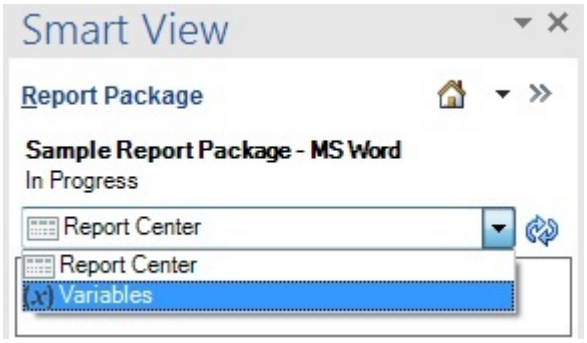
> **ノート:**
>
> 共有変数は Smart View では編集できません。

変数を編集するには:

1. レポート・パッケージを開きます。

- 静的変数の編集を予定している場合、ドックレットをチェックアウトする必要はありません。
- 参照変数の編集を予定している場合、参照変数が導出される Word または Excel リファレンス・ドックレットまたは参照ファイルを開き、チェックアウトします。

2. 「レポート・パッケージ」パネルのドロップダウン・リストで、**「変数」**を選択します。



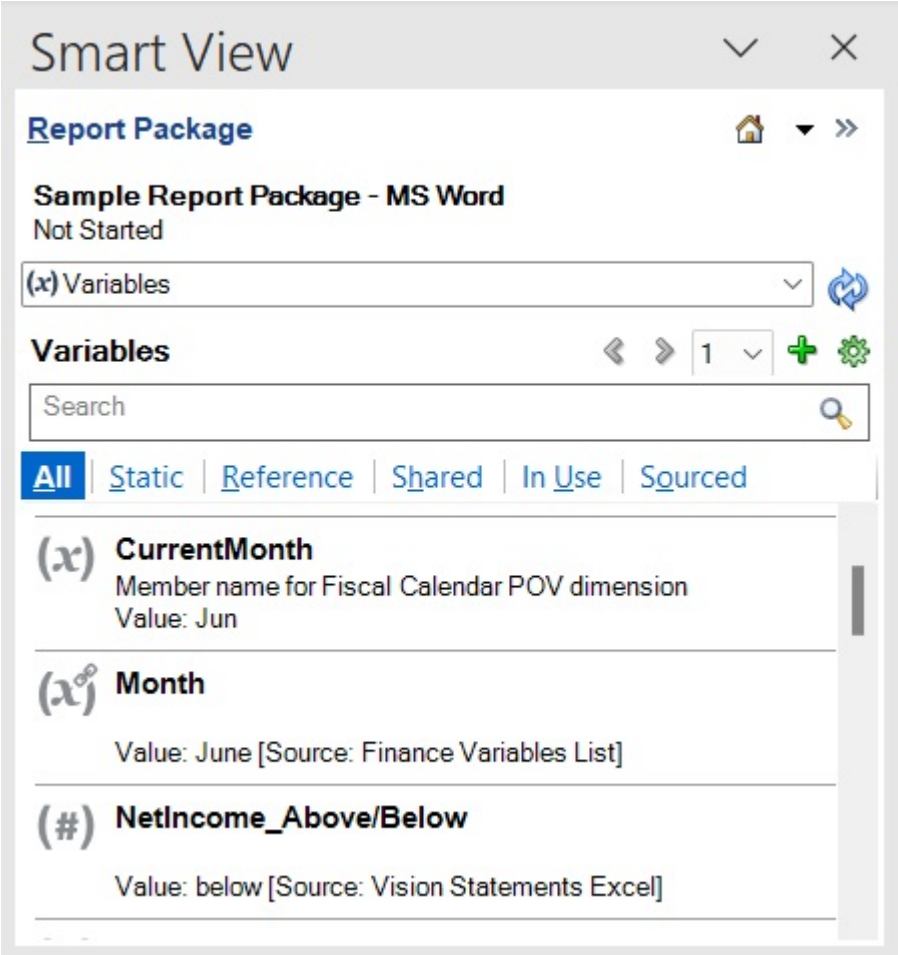
レポート・パッケージで使用可能な値のリストが、パネルに表示されます。

3. 変数を選択し、**「編集」**ボタンをクリックします。

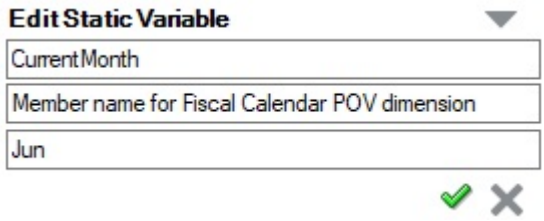
> **ノート:**
>
> 編集する変数を見つけるには、変数の検索の手順に従います

「編集」ボタンは、リストの変数にカーソルを合せると表示されます。

次の図では、静的変数の CurrentMonth 変数が編集用に選択されています。



をクリックすると、**「名前」**、**「説明」**および**「値」**フィールドが表示されます。編集可能な状態の静的変数の例を次に示します:



4. 次のいずれかのアクションを行います:
   - 静的変数を変更するには、**「名前」**、**「説明」**または**「値」**フィールドで既存の入力を必要に応じて上書きし、をクリックします。

     をクリックすると、静的変数がただちに更新されます。
   - 参照変数を変更するには:
     a. 参照変数が導出されるリファレンス・ドックレットまたは参照ファイルを開き、チェックアウトしていることを確認します。
     b. **「名前」**および**「説明」**フィールドで既存の入力を必要に応じて上書きします。

c. **「値」**フィールドを変更するには、Word ドックレットのテキストまたは Excel リファレンス・ドックレット内の適切なセルを選択し、をクリックします。

参照変数を編集する際は、次のガイドラインに注意してください:

- イメージおよび図形は、参照変数の値としてサポートされていません。
- 参照変数の値は、他の参照変数から導出できません。
- 参照変数の値は、Excel リファレンス・ドックレットからの範囲が Word または PowerPoint 内に埋め込まれている埋込みコンテンツから導出することはできません。
- 参照変数の値に含められるのは 255 文字のみです。
- 参照変数の値は、単一の行のみである必要があります。Excel スプレッドシートで、1 つのセルのみを選択します。Word で、1 行または 1 つの表のセルのみからテキストを選択します。
- 参照変数は、PowerPoint コンテンツから導出できません。

d. チェックアウト済ドックレットまたは参照ファイルの参照変数の編集が終了したら、ソース・ドキュメントをアップロードし、チェックインします。

ドックレットまたは参照ファイルをチェックインすると、他のレポート・パッケージの文書作成者が、更新された値を含む変数を使用できるようになります。

5. 編集が必要なすべての変数に対して前のステップを繰り返します。

変数のフィルタ

レポート・パッケージの変数のリストをフィルタすると、参照しやすくなります。デフォルトのフィルタは「すべて」であり、すべての変数(静的、参照、共有)が変数リストに表示されます。

フィルタのカテゴリは次のとおりです:

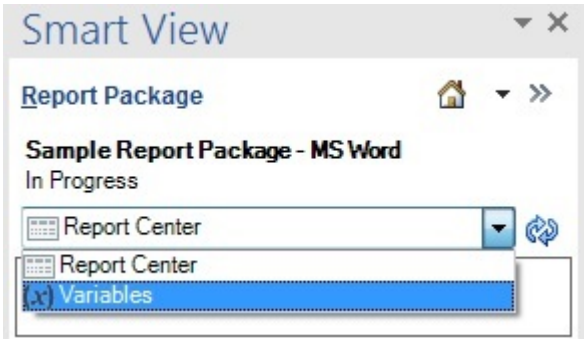
- すべて
- 静的
- 参照
- 共有
- 使用中
- ソース

変数をフィルタするには:

1. レポート・パッケージを開いてから、ドックレットを開きます。

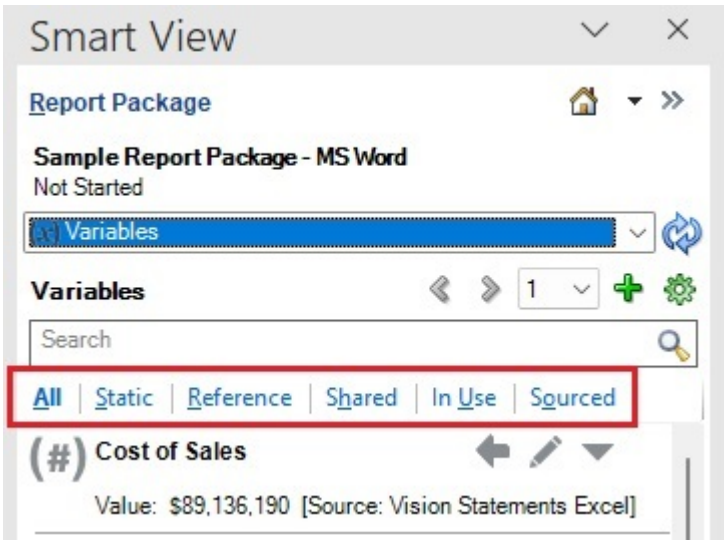
   変数をフィルタするために、ドックレットをチェックアウトする必要はありません。

2. 「レポート・パッケージ」パネルのドロップダウン・リストで、**「変数」**を選択します。



レポート・パッケージで使用可能な値のリストが、パネルに表示されます。

3. 変数リストの上部にあるリンクをクリックして、フィルタ・オプションを選択します:

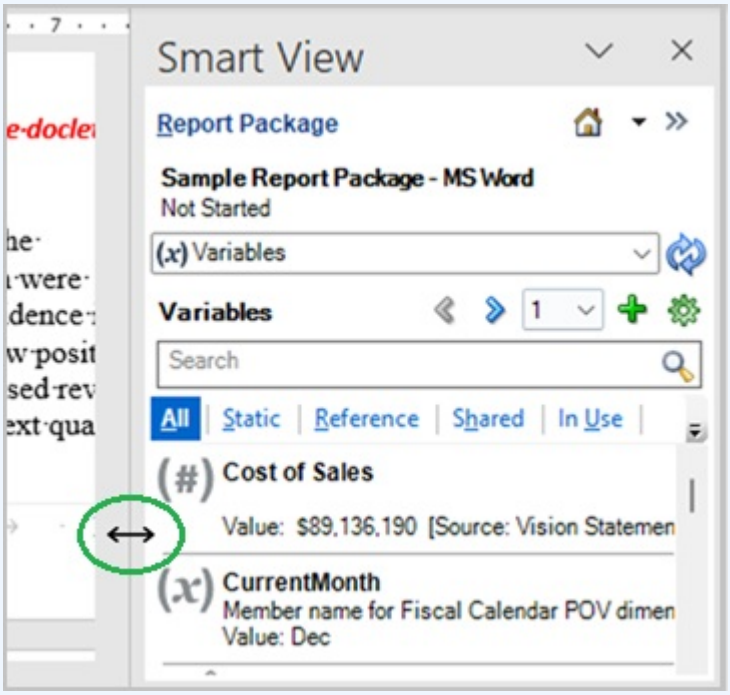


- **「すべて」**：すべての変数タイプを表示します。
- **静的**—静的変数のみが表示されます。
- **参照**—参照変数のみが表示されます
- **「共有」**：共有変数のみを表示します。
- **使用中**—現在開いているドックレットで使用されている変数のみが表示されます。
- **「ソース」**：現在開いているドックレットからソースされている変数のみを表示します。

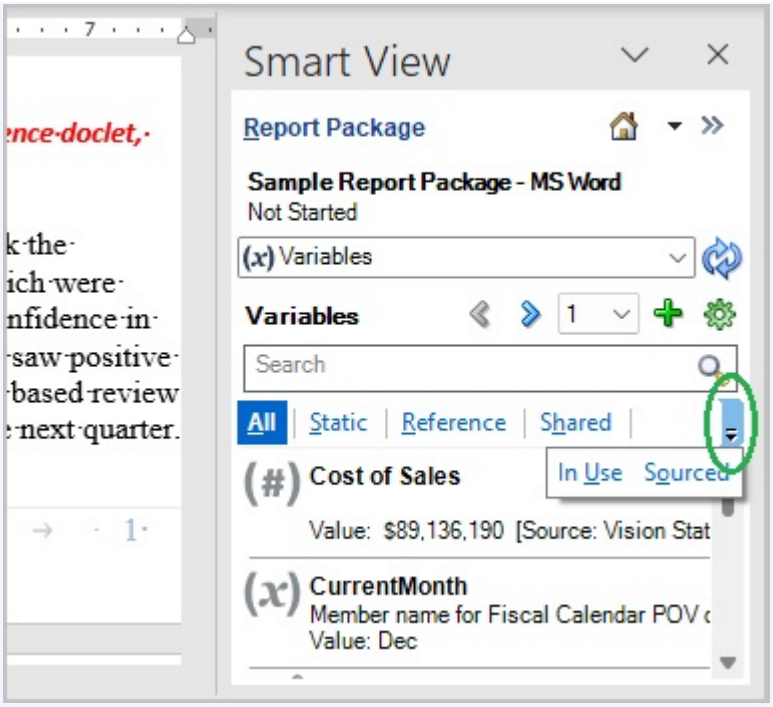
ノート:

「変数」パネルに利用可能なフィルタリング・オプションがすべては表示されない場合は、次のいずれかの方法を試して、すべてのフィルタリング・オプションを表示してください:

- Microsoft Office の双方向矢印(下図の緑色の円で囲んだ部分)を使用して、「変数」パネルの幅を広げます。ドックレット・ペインと「変数」パネルの間の垂直線に双方向矢印が表示されるまでマウス・ポインタを移動し、クリックしてドラッグして必要なサイズにします。



- 「変数」パネルの右側にあるドロップダウン矢印(下図の緑色の円で囲んだ部分)を使用して、残りの利用可能なフィルタを表示し、選択します。



ヒント:

現在ドックレットで使用されている変数を探しやすくするには、ドックレットでの変数の強調表示の説明に従い、個々の変数に強調表示オプションを選択します

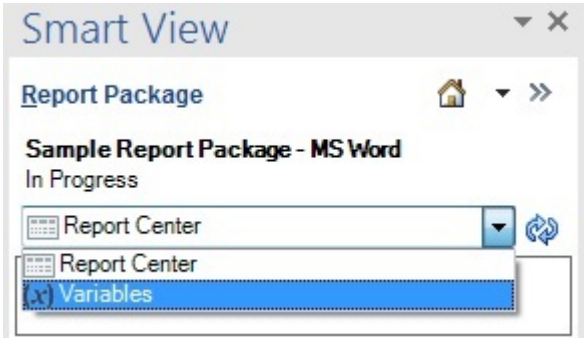
ドックレットでの変数の強調表示

選択した変数に「強調表示」コマンドを使用すると、ドックレット内の変数のインスタンスを簡単に表示できます。

ドックレットの変数を強調表示するには:

1. レポート・パッケージを開いてから、ドックレットを開きます。

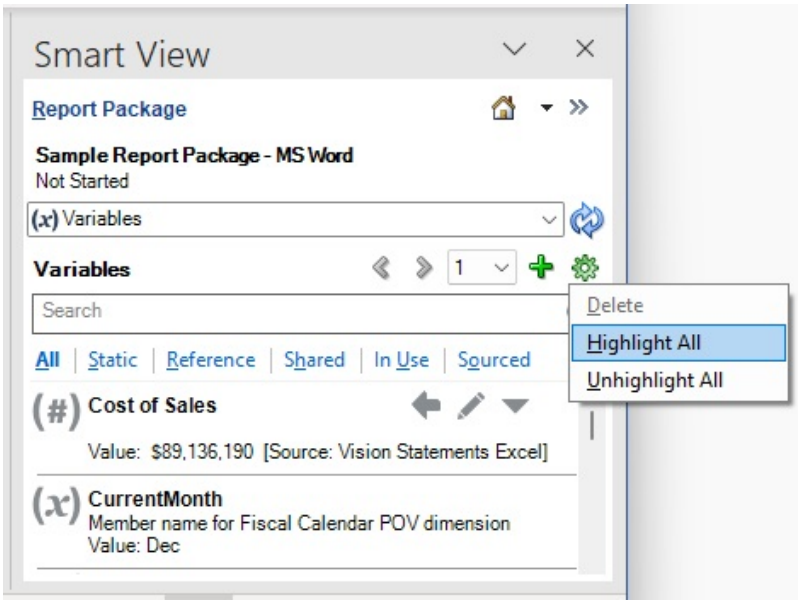
   変数を強調表示するために、ドックレットをチェックアウトする必要はありません。
2. 「レポート・パッケージ」パネルのドロップダウン・リストで、**「変数」**を選択します。



レポート・パッケージで使用可能な値のリストが、パネルに表示されます。

3. ドックレットのすべての変数を強調表示するには:

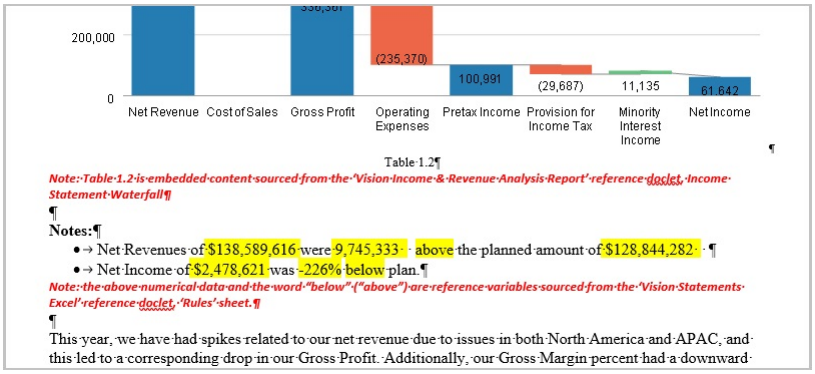
   a. **「オプション」**ボタン(⚙)をクリックし、ドロップダウン・メニューを表示します:



   b. ドロップダウン・リストから**「すべて 強調表示」**を選択します。

   図 1 に、いくつかの変数が強調表示されたドックレットの一部を示します。さらに、NetRevenue_Above/Below 変数が選択され、その上に変数名が表示されます。

図 24-39 「すべて 強調表示」の選択後のドックレット



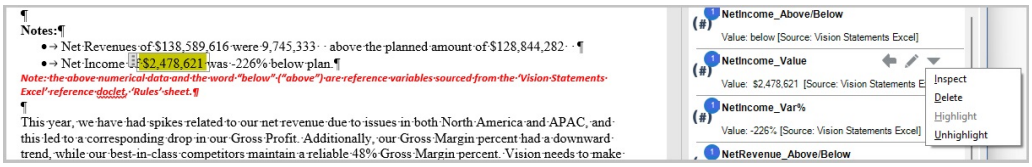
   c. すべての変数の強調表示を解除するには、**「オプション」**ボタン⚙をクリックし、ドロップダウン・メニューから**「すべて 強調表示解除」**を選択します。

> **ノート:**
>
> すべての変数が強調表示されているときに個々の変数の強調表示を解除するには、変数パネルのリストから変数を選択し、個々の変数の**「その他のアクション」**メニューから**「強調表示解除」**を選択します。

4. ドックレット内の個々の変数のすべてのインスタンスを 強調表示するには:
   a. 「変数」パネルのリストから変数を選択します。
   b. 変数の**「その他のアクション」**ボタンをクリックし(▼)、ドロップダウン・メニューから**「強調表示」**を選択します。

      図 2 では、「変数」パネルで静的変数 CurrentMonth が選択されています。ドロップダウン・メニューから**「強調表示」**を選択すると、左側のドックレットで NetIncome_Value 変数がハイライト表示されます。

      図 24-40 選択された変数に対して強調表示が有効化されているドックレット



   c. 選択した変数の強調表示を解除するには、**「その他のアクション」**ボタン(▼)をクリックし、ドロップダウン・メニューから**「強調表示解除」**を選択します。

> **ノート:**
>
> - コンテンツ・コントロールまたはテキスト・ボックス内の変数は、**「すべて 強調表示」**または**「強調表示」**アクションを個別の変数で使用するかどうかに関係なく、強調表示されません。
> - Word ドックレットのヘッダーおよびフッター内に配置された変数には、強調表示はサポートされていません。
> - すべての強調表示は、**「アップロード」**または**「アップロードしてチェックイン」**の実行時にクリアされます。
> - **「すべて 強調表示」**と**「すべて 強調表示解除」**には、Narrative Reporting 拡張機能 24.10 以降が必要です。

変数の検査

ドックレット・レベルで変数を検査するか、「変数」パネルの変数リストから選択した個々の変数を検査できます。

変数を検査するには:

1. ドックレット内の変数を検査するには:
   a. レポート・パッケージを開き、ドックレットを選択してオプションとして開きます。

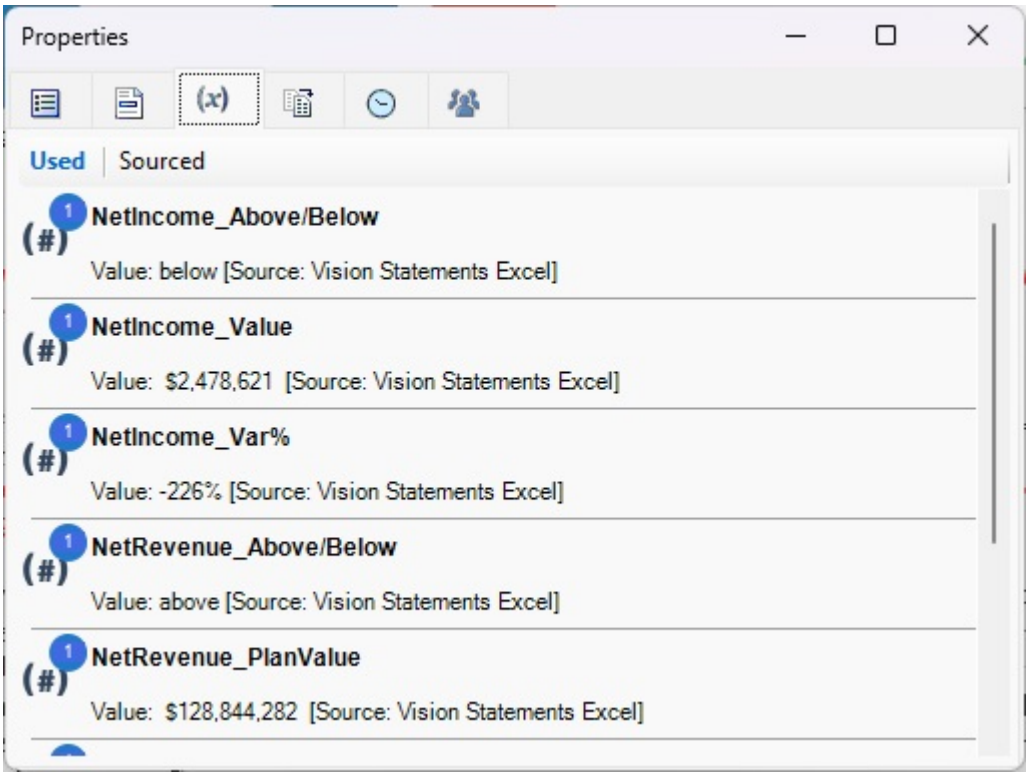
      ドックレットを開かずに変数を検査できます。

b. レポート・パッケージ・パネルで、**「プロパティの表示」**をクリックして**「プロパティ」**ダイアログ・ボックスを開きます。

ドックレットを開いている場合は、「Narrative Reporting」リボンで**「検査」**をクリックして、**「プロパティ」**ダイアログ・ボックスを開くこともできます。

c. **「プロパティ」**ダイアログ・ボックスで、**「変数」**タブ(x)を選択します

「変数」タブ((x))には、ドックレット内で使用可能な変数が表示されます。変数の横の青色の円には、その変数がドックレット内で使用されている回数が表示されています。たとえば、レポート・パッケージ内のドックレットの変数タブは次のようになります:



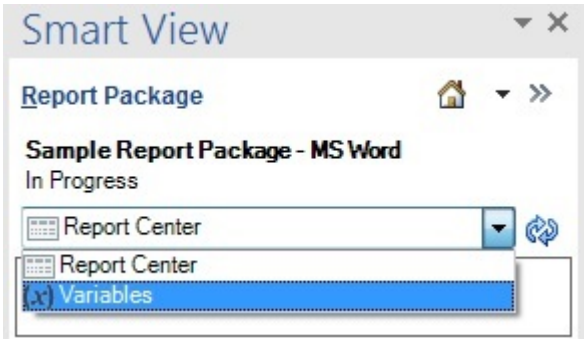
d. 右上隅の**「X」**をクリックして、**「プロパティ」**ダイアログ・ボックスを閉じます。

2. 個別の変数のプロパティを表示するには:

a. レポート・パッケージを開いてから、ドックレットを開きます。

変数を強調表示するために、ドックレットをチェックアウトする必要はありません。

b. 「レポート・パッケージ」パネルのドロップダウン・リストで、**「変数」**を選択します。



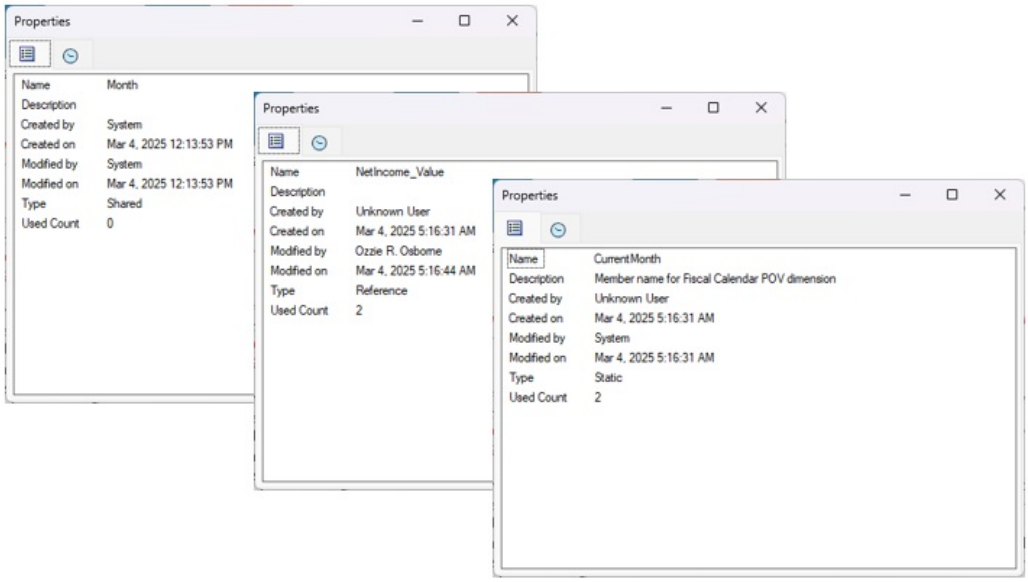
レポート・パッケージで使用可能な値のリストが、パネルに表示されます。

c. 「変数」パネルのリストから変数を選択します。

d. **「オプション」**ボタン▼をクリックし、ドロップダウン・メニューから**「検査」**を選択します。

選択した変数の**「プロパティ」**ダイアログ・ボックスが表示されます。

「プロパティ」タブには、変数が静的変数、参照変数、共有変数のいずれであるかなど、変数に関する基本情報が表示されます。変数がレポート・パッケージで使用されている回数も表示されます。静的、参照、共有の各変数のプロパティの例を次に示します。



e. **オプション: 「履歴」**タブ( )を選択して、変更を行ったユーザーおよび変更内容を表示します。

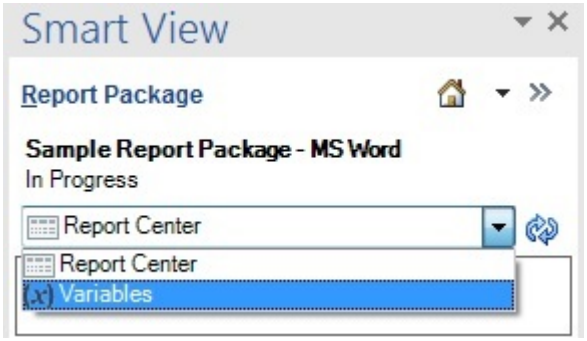
f. 右上隅の**「X」**をクリックして、**「プロパティ」**ダイアログ・ボックスを閉じます。

参照変数のリンク解除

リンクを解除できるのは、参照変数のみです。参照変数のリンクを解除すると、Narrative Reporting によって、参照変数の値とドックレット内のソース値との関連付けが削除され、値が`#Missing` に設定されます。

変数のリンクを解除するには:

1. レポート・パッケージを開き、ドックレットを開いてチェックアウトします。
2. 「レポート・パッケージ」パネルのドロップダウン・リストで、**「変数」**を選択します。



レポート・パッケージで使用可能な値のリストが、パネルに表示されます。

3. Smart View パネルで、リンクを解除する参照変数をリストから選択し、**「変数の編集」**ボタンをクリックします。

   「変数の編集」ボタンは、リストから変数を選択すると必ず表示されます。

4. 変数の編集領域で、**「リンク解除」**ボタンをクリックします。

   選択した変数がドックレットから完全に削除されることが記載された警告メッセージが表示されます。

   選択したドックレット内の変数値は、Narrative Reporting で管理されなくなりますが、#Missing テキストはドックレットに残ります。必要な場合、#Missing テキストをドックレットから手動で削除します。

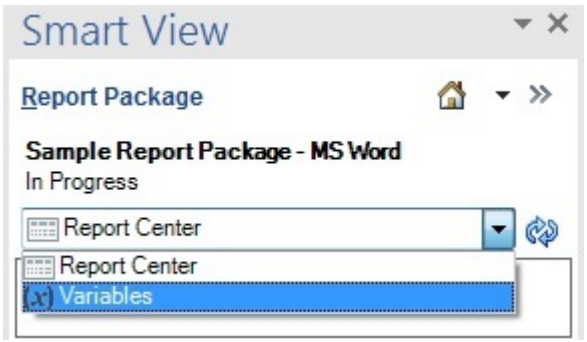
5. リンクを解除する他の変数に対して前のステップを繰り返します。
6. 終了したら、ドックレットをアップロードしてチェックインします。

変数の削除

レポート・パッケージから変数を削除できます。

変数をレポート・パッケージから削除するには:

1. 削除する変数が含まれるレポート・パッケージを開きます。
2. 「レポート・パッケージ」パネルのドロップダウン・リストで、**「変数」**を選択します。



レポート・パッケージで使用可能な値のリストが、パネルに表示されます。

3. 変数がレポート・パッケージ内で使用されていないことを確認します:

   ドックレットで変数が使用されているかどうかを確認するには:

   a. 「レポート・パッケージ」パネルで、ドックレットの横にあるアイコンを選択します。

   b. アクション・パネルで、**「プロパティ」**を選択し、次に**「変数」**タブ(x)を選択します。

      選択したドックレットで使用されている変数と、ドックレット内の各変数のインスタンス数が一覧表示されます。

   c. 削除する予定の変数のインスタンスがドックレット内に表示される場合は、ドックレットを開いてチェック・アウトし、その変数のインスタンスを手動で削除します。

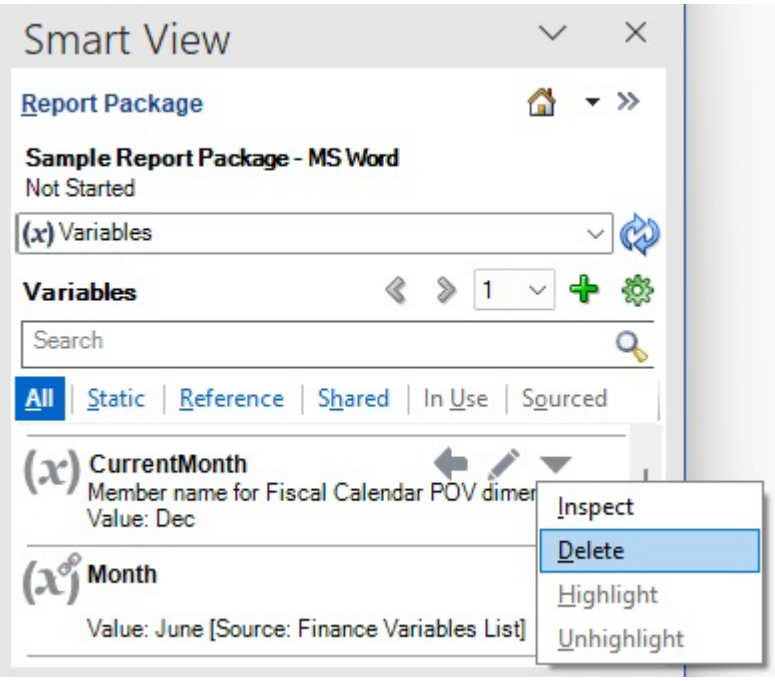
   d. ドックレットでその他の必要な編集を行い、ドックレットのアップロードとチェック・インを実行します。

   e. レポート・パッケージ内の各ドックレットに対して、これらの手順を繰り返します。

> **ノート:**
>
> 各ドックレットで、変数のすべてのインスタンスを 検索する必要があります。

4. レポート・パッケージ内の変数のすべてのインスタンスをクリアしたら、開いているドックレットをすべて閉じます。

5. 「変数」パネルで、削除する変数の**「オプション」**ボタン(▼)をクリックし、**「削除」**を選択します。



削除アクションを確認する警告メッセージが表示されます。

6. 警告メッセージで**「はい」**をクリックして、変数を完全に削除します。

   手順 3 で説明されているように、変数をドックレット・テキストから削除しなかった場合、変数は変数リストから削除されますが、変数テキストはドックレットから自動的に削除されません。ドックレット内の変数テキストの各インスタンスを検索して手動で削除し、ドックレット内で必要な編集を行う必要があります。

> **ノート:**
>
> 変数を復元するには、変数を再作成し、適切なドックレットに必要に応じて追加します。

PDF ベースのレポート・パッケージの Excel ドックレットの操作

PDF ベースのレポート・パッケージでは、Excel ワークブックを標準ドックレットとして指定できます。文書作成者および管理者は、Excel ドックレットのコンテンツを編集し、最終レポート・パッケージに含めるシートを選択できます。

PDF ベースのレポート・パッケージ内の Excel ドックレットを操作するには:

1. PDF ベースのレポート・パッケージで、操作する Excel ドックレットを開いてチェックアウトします。
2. 「Narrative Reporting」リボンで、**「シートの選択」**をクリックします:

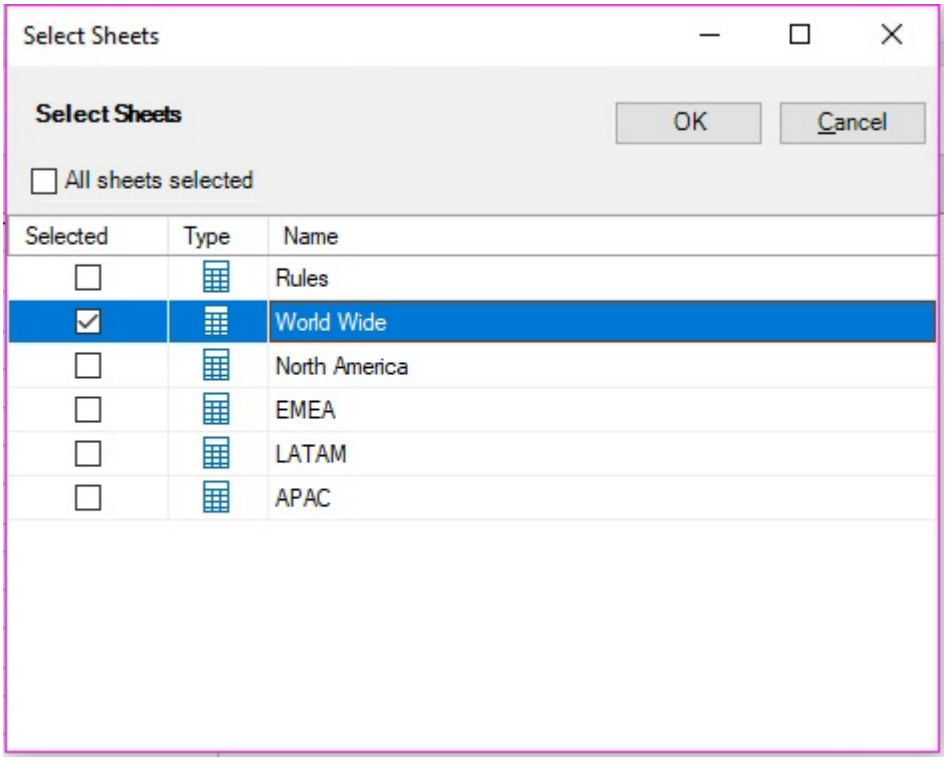


3. **「シートの選択」**ダイアログで、チェック・ボックスを使用して、最終レポート・パッケージに含めるシートを選択します。

   または、**「すべてのシートを選択」**チェック・ボックスを選択できます。

   図 1 では、**「シートの選択」**ダイアログに、Excel ドックレットで使用可能な 6 つのワークシートが表示されていますが、「World Wide」のみがレポート・パッケージに含める対象として選択されています。

図 24-41 レポート・パッケージに含める対象として 1 つのシートが選択されていることを示す「シートの選択」ダイアログ



4. ドックレット内のシートを必要に応じて編集します。

   たとえば、アド・ホック分析の実行や書式設定の適用ができます。

5. Excel ドックレットの編集が終了したら、アップロードしてチェックインします。

サーバー始動リフレッシュの操作

次も参照:

- サーバー始動リフレッシュについて
- データ・ソース接続の作成と編集
- サーバー始動リフレッシュのシートの選択
- Narrative Reporting Web からのリフレッシュの開始
- サーバー始動リフレッシュを使用する場合のガイドライン

サーバー始動リフレッシュについて

サーバー始動リフレッシュを使用すると、Narrative Reporting Web アプリケーションで「リフレッシュ」オプションを使用して、レポート・パッケージ内のすべての Excel ベースのドックレットおよびリファレンス・ドックレットで Oracle Smart View for Office データ問合せを簡単にリフレッシュできます。

Smart View で、リフレッシュする Excel ドックレットおよびリファレンス・ドックレットを指定します。ワークブック内のすべてのシートを選択することも、必要なシートのみを選択することもできます。Narrative Reporting Web アプリケーションから、すべての定義済データ・ソースのデータ、または選択したデータ・ソースのデータをリフレッシュするよう選択します。

レポート・パッケージごとに 1 つの Narrative Reporting データ・ソースのみ使用できます。次の Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management データ・ソースのリフレッシュ可能なデータ問合せをソースとすることもできます:

- Planning
- Planning モジュール
- Financial Consolidation and Close
- Tax Reporting

サービス管理者は、Narrative Reporting の**「データ・ソース」**フォルダにデータ・ソースを設定します。

ガイドラインと要件については、サーバー始動リフレッシュを使用する場合のガイドラインのトピックを参照してください。

- サーバー始動リフレッシュの有効化
- 要件
- データ・ソース
- ワークブックのサイズ制限
- ワークブック・レイアウト
- グリッドの設計に関する考慮事項およびガイドライン
- サポートされるグリッド・タイプとサポートされないグリッド・タイプ
- ワークブック使用例のシナリオ

サーバー始動リフレッシュの使用の詳細は、次を参照してください。

- サーバー始動リフレッシュのシートの選択
- Narrative Reporting Web からのリフレッシュの開始

ビデオ

目的	このビデオを見る
サーバー始動リフレッシュの基礎を学習します。	Smart View および Narrative Reporting を使用したサーバー始動リフレッシュ

データ・ソース接続の作成と編集

Narrative Reporting Web で、管理者は、サーバー始動リフレッシュで使用される Excel ベースのすべてのドックレットおよびリファレンス・ドックレットのすべてのデータ問合せのデータ・ソースを定義します。

Oracle Smart View for Office は、ユーザーがサーバー・リフレッシュ用に選択した各シートの各データ問合せに使用される URL を検出し、Narrative Reporting の**「データ・ソース」**フォルダに定義されている対応するデータ・ソースにマップします。Narrative Reporting Web にデータ・ソースが定義されていない場合、Smart View のコンテンツは無視されます(リフレッシュされません)

Narrative Reporting でデータ・ソース接続を作成するには:

1. ライブラリの**「データ・ソース」**フォルダから、➕をクリックして**「データ・ソース」**を選択します。
2. **「データ・ソース名」**に、ソース製品、サーバーとアプリケーションまたはデータベースの組合せなど、データ・ソースのわかりやすい識別子を入力します。
3. **「タイプ」**で、データ・ソースのタイプを選択します。

   現在は、これらのビジネス・プロセスが付属している Oracle Enterprise Performance Management Cloud ソースのみがサポートされています。

   - Planning
   - Financial Consolidation and Close
   - Tax Reporting
4. **「サーバー名」**に、HTTPS プロトコルを含むデータ・ソース・サーバー名のみを入力します。

   たとえば、Planning で、次のデータ・ソース URL があるとします。

   ```
   https://<servername>/HyperionPlanning
   ```

   次の部分がサーバー名です。

   ```
   <servername>
   ```
5. **「アイデンティティ・ドメイン」**に、データ・ソース環境のアイデンティティ・ドメインを入力します。
6. 管理者のユーザー ID とパスワードを入力します。

   > **ノート:**
   >
   > 接続を作成するデータ・ソースの管理者資格証明を使用して Narrative Reporting にログインする必要があります。たとえば、Planning モジュール管理者が **PlanAdmin** である場合は、Planning モジュール・データ・ソースに対するデータ・ソース接続を作成するために、**PlanAdmin** 資格証明で Narrative Reporting にログインする必要があります。ソースでシステム固有の認証に使用するユーザー ID およびパスワード資格証明を入力します。アイデンティティ・アサーション技術を使用したシングル・サインオンは、サポートされていません。
7. **「接続のテスト」**をクリックします。
8. 接続に成功した後、アプリケーション名およびキューブ名の▼を選択して、アプリケーションおよびキューブを参照して選択できます。

   キューブを選択した後、をクリックして、ディメンション・リストをプレビューします。
9. **オプション:** データ・ソース接続を編集するには、接続を選択して、**「アクション」**メニューから**「編集」**を選択します。接続を編集する場合は、接続名、サーバー、アプリケーションおよびキューブ名を変更できます。

> **ノート:**
>
> - **「サーバー名」**フィールドに、データ・ソース・サーバーのプロトコル(例: `https://`)を指定する必要はありません。
> - 接続名の変更は、その接続を使用しているレポート・オブジェクトに影響を与えません。
> - サーバー、アプリケーション、アプリケーション名またはキューブ名を変更すると、その接続を使用しているレポート・オブジェクトが新しい宛先を指すようになります。
> - セキュリティの目的で、データ・ソースの編集時に管理者資格証明を再入力する必要があります。

サーバー始動リフレッシュのシートの選択

Oracle Smart View for Office で、サーバー始動リフレッシュ時に再計算およびリフレッシュするシートを選択します。Excel ドックレットおよび Excel リファレンス・ドックレットのシートを含めることができます。

サーバー始動リフレッシュに含めるシートを選択するには:

1. レポート・パッケージをまだ開いていない場合は開きます。
2. サーバー始動リフレッシュに含めるシートを含む Excel ドックレットまたは Excel リファレンス・ドックレットを開き、チェック・アウトします。

   > **ヒント:**
   >
   > シートを選択する前にドックレットをチェック・アウトする必要があります。

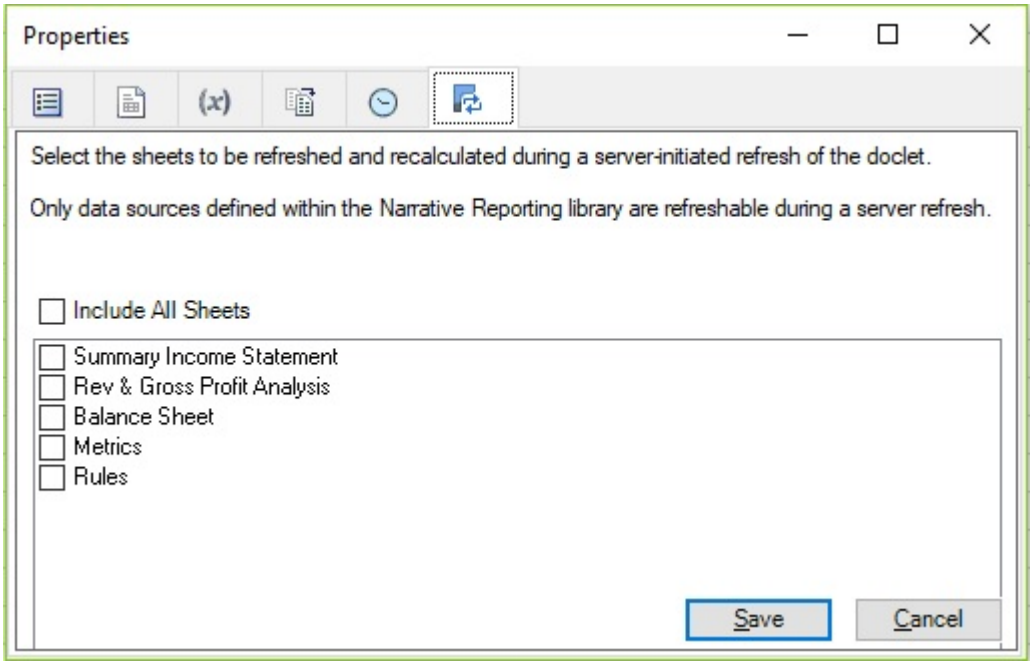
3. 「Narrative Reporting」リボンで**「検査」**をクリックして、**「プロパティ」**ダイアログ・ボックスを起動します。

4. **「プロパティ」**ダイアログで**「オプト・イン」**タブを選択します。

   デフォルトでは、ワークブックのどのシートも選択されていません。

図 24-42 「プロパティ」ダイアログの初回起動 - 「オプト・イン」タブ、シート未選択



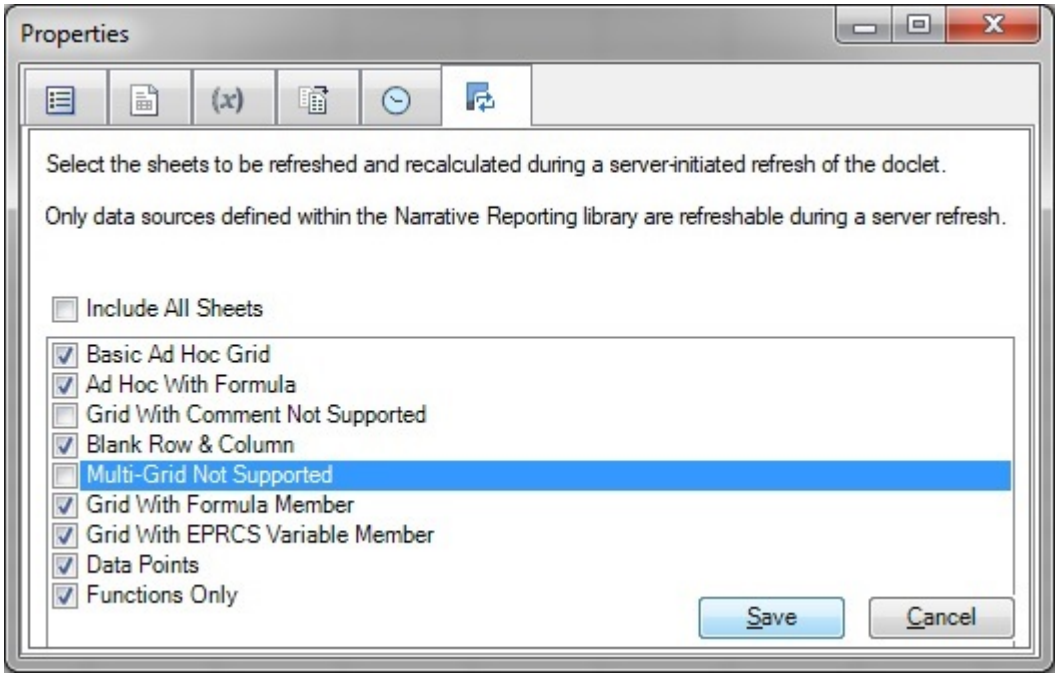
> **ノート:**
>
> **「オプト・イン」**タブは、管理者がサービスでのサーバー始動リフレッシュを有効にしている場合にのみ表示されます。

5. ドックレットのサーバー始動リフレッシュに含めるワークブック内のシートを選択するアクションを実行します。
   - **「すべてのシートを含める」**を選択します
   - 必要な特定のシートのみ選択します

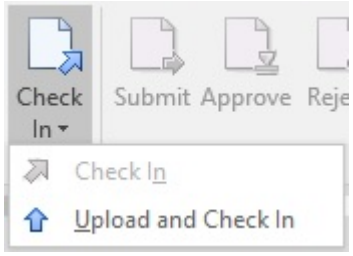
> **ノート:**
>
> Excel ドックレットまたはリファレンス・ドックレット・ワークブックのサイズは、3 MB を超過できません。ワークブックのサイズが 3 MB を超えると、**オプト・イン**・タブにあるすべてのチェック・ボックスが無効になります。

次の例では、サポートされないグリッド・レイアウトを含む 2 つのシートはリフレッシュ対象として選択されていません。

図 24-43 特定のシートがサーバー始動リフレッシュの対象として選択された「オプト・イン」タブの例



6. **「プロパティ」**ダイアログで**「保存」**をクリックします。
7. **「チェックイン」**、**「アップロードしてチェックイン」**の順に選択し、ドックレットをアップロードしてチェック・インします。



これで、選択したシートが、次に Narrative Reporting Web インタフェースでレポート・パッケージにアクセスしたときにリフレッシュに使用できるようになりました。

8. レポート・パッケージ内の他の該当する Excel ドックレットまたは Excel リファレンス・ドックレットについてこの手順を繰り返します。
9. 選択したドックレットおよびシートでサーバー始動リフレッシュを実行するには、Narrative Reporting Web インタフェースにアクセスします。

   「アクション」メニューの**「リフレッシュ」**オプションを使用して、選択したすべてのドックレットをリフレッシュするか、選択したデータ・ソースのドックレットをリフレッシュするかを選択します。詳細は、Narrative Reporting Web からのリフレッシュの開始を参照してください。

Narrative Reporting Web からのリフレッシュの開始

Excel ベースのドックレットおよびリファレンス・ドックレットを Narrative Reporting Web インタフェースからリフレッシュするには:

1. Narrative Reporting Web インタフェースでレポート・パッケージを開きます。

> **ノート:**
>
> ライブラリでレポート・パッケージにアクセスする手順は、ライブラリの使用を参照してください。

2. 右上の

メニューから**「リフレッシュ」**を選択し、**「すべて」**を選択するか、ドロップダウン・リストからデータ・ソースを選択します。

   Narrative Reporting で個々の Excel ベースのドックレットおよびリファレンス・ドックレットをリフレッシュすることもできます。

   Excel ベースのドックレットまたはリファレンス・ドックレットを選択し、ドックレットの矢印をクリックします。**「リフレッシュ」**を選択し、**「すべて」**を選択するか、ドロップダウン・リストからデータ・ソースを選択します。

サーバー始動リフレッシュを使用する場合のガイドライン

関連トピック

- サーバー始動リフレッシュの有効化
- 要件
- データ・ソース
- ワークブックのサイズ制限
- ワークブック・レイアウト
- グリッドの設計に関する考慮事項およびガイドライン
- サポートされるグリッド・タイプとサポートされないグリッド・タイプ
- ワークブック使用例のシナリオ

サーバー始動リフレッシュの有効化

サーバー始動リフレッシュは、Narrative Reporting Web アプリケーションではデフォルトで有効になっています。

要件

サーバー始動リフレッシュ機能を使用するには、次のコンポーネントの現在サポートされているバージョンが必要です:

- Oracle Smart View for Office
- Smart View の Narrative Reporting 拡張機能
- Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management

サーバー始動リフレッシュが有効になると、そのオプションが Narrative Reporting Web インタフェースに表示されます。Smart View で、有効になっているサービスに接続すると、**「プロパティ」**ダイアログで**「オプト・イン」**タブが使用可能になり、リフレッシュするシートを指定できます。

データ・ソース

管理者は、Narrative Reporting の**「データ・ソース」**フォルダにデータ・ソースを設定します。データ・ソース接続の作成と編集を参照してください。

ワークブックのサイズ制限

Excel ドックレットまたはリファレンス・ドックレット・ワークブックのサイズは、3 MB を超過できません。ワークブックのサイズが 3 MB を超えると、**「プロパティ」**ダイアログの**オプト・イン**・タブにあるすべてのチェック・ボックスが無効になります。

ワークブック・レイアウト

ワークブックがリフレッシュされると、サービスによってワークシートが順番に処理されます。最初のパスでは、ワークブック内の選択されたすべてのワークシートで、Sheet1、Sheet2、Sheet3 (左から右へ)のように、データ・リフレッシュが実行されます。2 番目のパスでは、選択されたシートで再計算が実行されます。

グリッドの設計に関する考慮事項およびガイドライン

サーバー側リフレッシュが適切に機能するようにするには、ワークブックの設計で考慮すべき事項があります。これらの事項に合うように再設計または再構築が必要になる場合があります。

グリッドの設計の際は、次の考慮事項およびガイドラインに注意してください。

- ワークシートの要素を次のようにレイアウトします。
  - データ問合せ(アド・ホック・グリッドまたはフォーム)はシートの最上部にします。
  - 式、関数およびコメントのセルは、問合せの一部であるメンバーまたはデータ・セルで式または関数を参照しない場合、データ問合せ領域の下に配置します。
- サーバー始動リフレッシュでは、サポートされる Cloud EPM ソースの Smart View コンテンツを含むシートのみを再計算およびリフレッシュします。

  Smart View でオンプレミスのシートを選択した場合でも、Narrative Reporting Web から、オンプレミス・データ・ソースをリフレッシュ対象として選択できません。オンプレミス・データ・ソース・コンテンツおよび Smart View 以外のコンテンツはスキップされます。
- レポート・パッケージ変数は、問合せの POV に直接挿入するか、同一シートまたはワークブック内の別のシート内のセルの場所を参照する式を介して挿入できます。
- HsGetValue 関数、関数グリッドおよび動的データ・ポイントは Smart View 11.1.2.5.900 以上を使用して作成して一度リフレッシュし、接続情報を保存する必要があります。そうしないと、サーバー始動リフレッシュで関数、関数グリッドまたはデータ・ポイントを評価できず、`#No Connection` メッセージが返されます。

  Smart View バージョン 11.1.2.5.900 以上を使用していない場合、選択したシートに HsGetValue 関数、関数グリッドおよび動的データ・ポイントを含めることはできません。
- 接続名を指すセル参照を使用する HsGetValue 関数をサーバー始動リフレッシュで使用する予定の場合は、HsGetValue のデータ・ソース接続へのセル参照がある例を参照してください。

グリッドの設計の制限

グリッドの設計の際は、次の制限に注意してください。

- リフレッシュ対象として選択したシートに外部式参照を含めないでください。

  たとえば、他のネットワークまたはローカルの場所の式への参照を含めないでください。
- VBA 関数は実行されません。
- ユーザー定義マクロは実行されません。

- リフレッシュが開始されると、ワークブックで定義したセルのスタイルは保持されます。

  サーバー始動リフレッシュ時、最新のデータ値のみがリフレッシュされます。既存の Smart View のセルのスタイルは保持され、サーバー始動リフレッシュ時、セルのスタイルの変更は行われません。

サポートされるグリッド・タイプとサポートされないグリッド・タイプ

この項には、サポートされるグリッド・タイプとサポートされないグリッド・タイプの説明と図が含まれます。リファレンス・ドックレットのグリッドを設計する際、サポートされるグリッド・タイプを検討してください。

基本的なアド・ホック・グリッド

次の例では、シートに基本的なアド・ホック・グリッドのみが含まれます。式、関数、貼り付けられたデータ・ポイント、参照されているセルやその他の Smart View または Excel の要素はシートにありません。

サポートされるアプリケーション: Cloud EPM、Narrative Reporting

	A	B	C	D	E	F
1		Years	Scenarios	Entities	Total Segments	Currencies
2		Income Statement	Balance Sheet	Statistics	Accounts	
3	Quarter1	33834533.78	-0.06	#Missing	33834533.78	
4	Quarter2	24743297.74	-0.03	#Missing	24743297.74	
5	Quarter3	3063752.89	#Missing	#Missing	3063752.89	
6	Quarter4	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	
7	Fiscal Calendar	61641584.41	#Missing	#Missing	61641584.41	

式を持つアド・ホック・グリッド

式のセルをグリッド外に配置できます。次の例では、セル B9 に式が含まれています。

サポートされるアプリケーション: Cloud EPM、Narrative Reporting

B9 =SUM(B3:B7)

	A	B	C	D	E	F
1		Years	Scenarios	Entities	Total Segments	Currencies
2		Income Statement	Balance Sheet	Statistics	Accounts	
3	Quarter1	33834533.78	-0.06	#Missing	33834533.78	
4	Quarter2	24743297.74	-0.03	#Missing	24743297.74	
5	Quarter3	3063752.89	#Missing	#Missing	3063752.89	
6	Quarter4	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	
7	Fiscal Calendar	61641584.41	#Missing	#Missing	61641584.41	
8						
9		123283168.83				

コメントを持つアド・ホック・グリッド

グリッド外のセルにテキスト・コメントを配置できます。次の例では、セル A9 に式が含まれています。

サポートされるアプリケーション: Cloud EPM

	A	B	C	D	E	F
1		Years	Scenarios	Entities	Total Segments	Currencies
2		Income Statement	Balance Sheet	Statistics	Accounts	
3	Quarter1	33834533.78	-0.06	#Missing	33834533.78	
4	Quarter2	24743297.74	-0.03	#Missing	24743297.74	
5	Quarter3	3063752.89	#Missing	#Missing	3063752.89	
6	Quarter4	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	
7	Fiscal Calendar	61641584.41	#Missing	#Missing	61641584.41	
8						
9	Comment					

空白の行と列を持つアド・ホック・グリッド

空白の行と列をグリッドに使用できます。

サポートされるアプリケーション: Cloud EPM、Narrative Reporting

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1					Years	Scenarios			
2					Income Statement	Balance Sheet		Statistics	Accounts
3	Currencies	Total Segments	Entities	Quarter1					
4	Currencies	Total Segments	Entities	Quarter2					
5									
6	Currencies	Total Segments	Entities	Quarter3					
7	Currencies	Total Segments	Entities	Quarter4					
8	Currencies	Total Segments	Entities	Fiscal Calendar					

単一シート上の複数のアド・ホック・グリッド

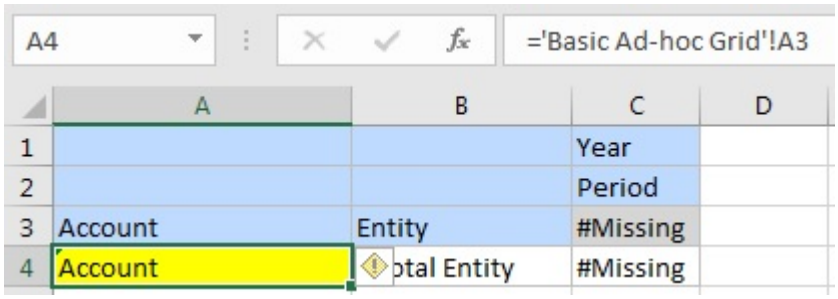
単一シートでの複数アド・ホック・グリッドのシナリオはサポートされません。

	A	B	C	D	E	F	G
1			Year				
2			Period				
3	Account	Entity	#Missing				
4							
5							
6							
7							FY15
8							Period
9					Account	Entity	

参照されているメンバーを持つグリッド

このグリッドには、別のシートの式として参照されるメンバー(セル A4)が含まれています。

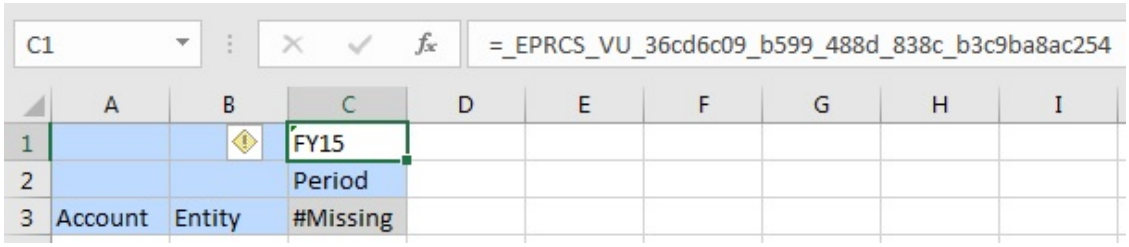
サポートされるアプリケーション: Cloud EPM、Narrative Reporting



Narrative Reporting 変数として参照されるメンバーを持つグリッド

Cloud EPM データ・ソースに基づくこのグリッドには、Narrative Reporting 変数として参照されるメンバー(セル C1)が含まれています。

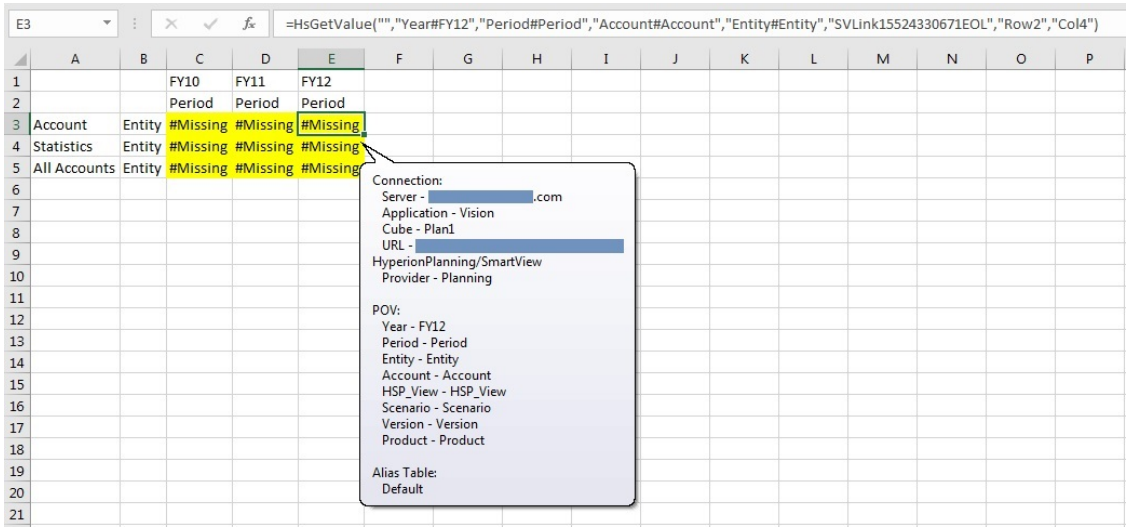
サポートされるアプリケーション: Cloud EPM、Narrative Reporting



貼り付けられたデータ・ポイントを含むグリッド

Cloud EPM データ・ソースに基づくこのグリッドには、貼り付けられたデータ・ポイントで構成されるセル範囲(セル C3 から E5)が含まれています。データ・ポイントは同じワークブック内の別のシートまたは異なるワークブックからコピーできます。データ・ポイントのデータ・ソースは元のシートと同じデータ・ソースに基づくことも、別のデータ・ソースに基づくこともできます。

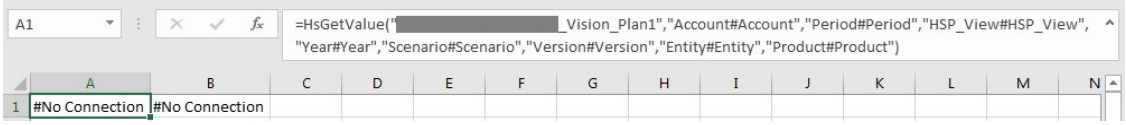
サポートされるアプリケーション: Cloud EPM、Narrative Reporting



関数のみのグリッド

このグリッドには 2 つの関数が含まれ、2 つとも Cloud EPM データ・ソースに基づいています。シートには、異なるサポート・データ・ソースに基づく関数を含めることができます。

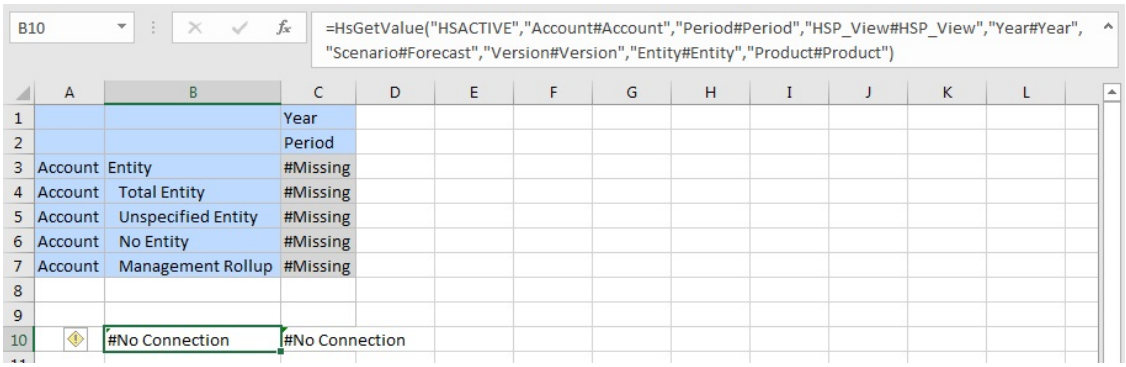
サポートされるアプリケーション: Cloud EPM、Narrative Reporting



関数を持つアド・ホック・グリッド

Cloud EPM データ・ソースに基づくこのグリッドには、現在の Cloud EPM データ・ソースにも基づく 2 つの関数が含まれています。2 つの関数がグリッドの下に配置されていることに注意してください。

サポートされるアプリケーション: Cloud EPM、Narrative Reporting



フォームのみのシート

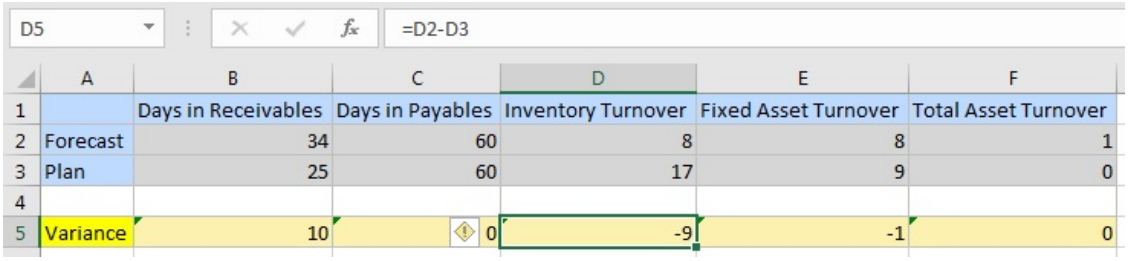
サポートされるアプリケーション: Cloud EPM

	A	B	C	D	E
1		Q1	Q2	Q3	Q4
11	+Current Assets	535037857	557236631	588280659	625485092
30	+Fixed Assets	53928601	49644739	45371662	41234259
34	+Other Assets Total	223088151	223088151	223088151	223088151
35	Total Assets	812054610	829969521	856740473	889807502
41	+Current Liabilities	335095303	336221789	337455964	345206032
43	+Long Term Liabiities	43770	43770	43770	43770
44	Total Owners Equity	476915537	493703962	519240738	544557701
45	Total Liabilities and Owners Equity	812054610	829969521	856740473	889807502

コメントと式のセルを持つフォーム

Cloud EPM データ・ソースに基づくこのグリッドには、コメントのセルと式のセルが行 5 に含まれています。コメントのセルと式のセルがフォームの下に配置されていることに注意してください。フォームを含むシートには、コメントのセルまたは式のセル、あるいはその両方を含めることができます。

サポートされるアプリケーション: Cloud EPM

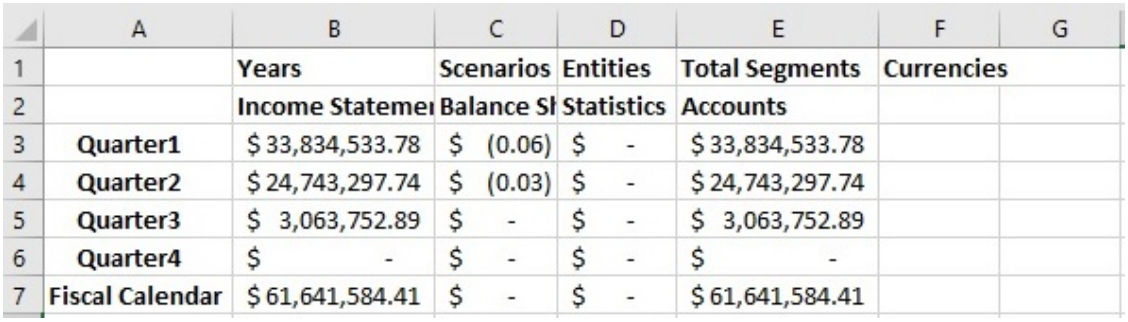


D5 =D2-D3

	A	B	C	D	E	F
1		Days in Receivables	Days in Payables	Inventory Turnover	Fixed Asset Turnover	Total Asset Turnover
2	Forecast	34	60	8	8	1
3	Plan	25	60	17	9	0
4						
5	Variance	10	0	-9	-1	0

フォーマットされたアド・ホック・グリッド

サポートされるアプリケーション: Cloud EPM、Narrative Reporting



	A	B	C	D	E	F	G
1		Years	Scenarios	Entities	Total Segments	Currencies	
2		Income Statemer	Balance Sl	Statistics	Accounts		
3	Quarter1	$ 33,834,533.78	$ (0.06)	$ -	$ 33,834,533.78		
4	Quarter2	$ 24,743,297.74	$ (0.03)	$ -	$ 24,743,297.74		
5	Quarter3	$ 3,063,752.89	$ -	$ -	$ 3,063,752.89		
6	Quarter4	$ -	$ -	$ -	$ -		
7	Fiscal Calendar	$ 61,641,584.41	$ -	$ -	$ 61,641,584.41		

ワークブック使用例のシナリオ

この項では、リファレンス・ドックレット・ワークブックをベースにした使用例のシナリオを示します。ワークブックには 5 つのシートが含まれ、各シートには異なるデータ・ソースのデータ問合せが含まれています。データ・ソースは、クラウドとオンプレミスの両方です。シナリオでは、Narrative Reporting Web アプリケーションからリフレッシュを実行する場合にどのシートを選択すると、どのような結果になるかを示します。

次の使用例シナリオのワークブックの例には、次のシートが含まれています。

- シート 1: Planning データ問合せ
- シート 2: Narrative Reporting データ問合せ
- シート 3: Oracle Hyperion Financial Management データ問合せ(オンプレミス・データ・ソース)
- シート 4: データ問合せなし
- シート 5: Planning データ問合せ

シナリオ 1 - サーバー始動リフレッシュおよび再計算の対象のシートが未選択

ワークブックの検査時、何も選択されていないため、リフレッシュ可能として示されるデータ・ソースはありません。

サーバー側から見ると、これはリフレッシュ不可能なドックレットです。

シナリオ 2 - シート 1 のみ選択

ワークブックの検査時、リフレッシュ可能なデータ・ソースは Planning のみです。

サーバー側からは、Planning のみがリフレッシュ可能なデータ・ソースと認識されます。

リフレッシュ時、シート 1 のみがリフレッシュされ、再計算されます。シート 5 も Planning のシートですが、シート 5 がリフレッシュまたは再計算される可能性はありません。

シナリオ 3 - シート 1 と 2 を選択

ワークブックの検査時、リフレッシュ可能なデータ・ソースは Planning と Narrative Reporting です。

サーバー側からは、Planning と Narrative Reporting がリフレッシュ可能なデータ・ソースと認識されます。

リフレッシュ時、シート 1 と 2 のみがリフレッシュされ、再計算されます。シート 5 も Planning のシートですが、シート 5 はリフレッシュも再計算もされません。

シナリオ 4 - シート 1、2 および 3 を選択

ワークブックの検査時、リフレッシュ可能なデータ・ソースは Planning と Narrative Reporting です。

サーバー側からは、Planning と Narrative Reporting がリフレッシュ可能なデータ・ソースと認識されます。

リフレッシュ時、シート 1 および 2 がリフレッシュされ、再計算されます。シート 3 は再計算されますが、Financial Management 問合せは影響を受けません。シート 5 も Planning のシートですが、シート 5 は選択されなかったため、リフレッシュも再計算もされません。

シナリオ 5 - シート 1、2、3 および 4 を選択

ワークブックの検査時、リフレッシュ可能なデータ・ソースは Planning と Narrative Reporting です。

サーバー側からは、Planning と Narrative Reporting がリフレッシュ可能なデータ・ソースと認識されます。

リフレッシュ時、シート 1 および 2 がリフレッシュされ、再計算されます。シート 3 は再計算されますが、Financial Management 問合せは影響を受けません。シート 4 は再計算されません。シート 5 も Planning のシートですが、シート 5 はリフレッシュも再計算もされません。

シナリオ 6 - すべてのシートを選択

ワークブックの検査時、リフレッシュ可能なデータ・ソースは Planning と Narrative Reporting です。

サーバー側からは、Planning と Narrative Reporting がリフレッシュ可能なデータ・ソースと認識されます。

リフレッシュ時、シート 1、2 および 5 がリフレッシュされ、再計算されます。シート 3 は再計算されますが、Financial Management 問合せは影響を受けません。シート 4 は再計算されません。

シナリオ 7 - シート 3 および/または 4 を選択

ワークブックの検査時、選択されているシートにリフレッシュ可能なデータ・ソースが含まれていないため、サーバーに返されるリフレッシュ可能なデータ・ソースはありません。

サーバー側から見ると、これはリフレッシュ不可能なドックレットです。

ドックレットのページへのリンクおよび相互参照の挿入

Microsoft Word のブックマークを使用してドックレットのページ番号をリンクおよび相互参照します。相互参照を手動で挿入するか、手動の目次を挿入して相互参照を編集すると、目次ドックレットのページ番号としてブックマークを相互参照できます。ブックマークを含むページ番号が変更されると、ページ番号の相互参照も変更されます。

このトピックでは、まずブックマークの挿入について説明し、次に相互参照について説明します。この手順を使用して手動目次を編集することもできます。

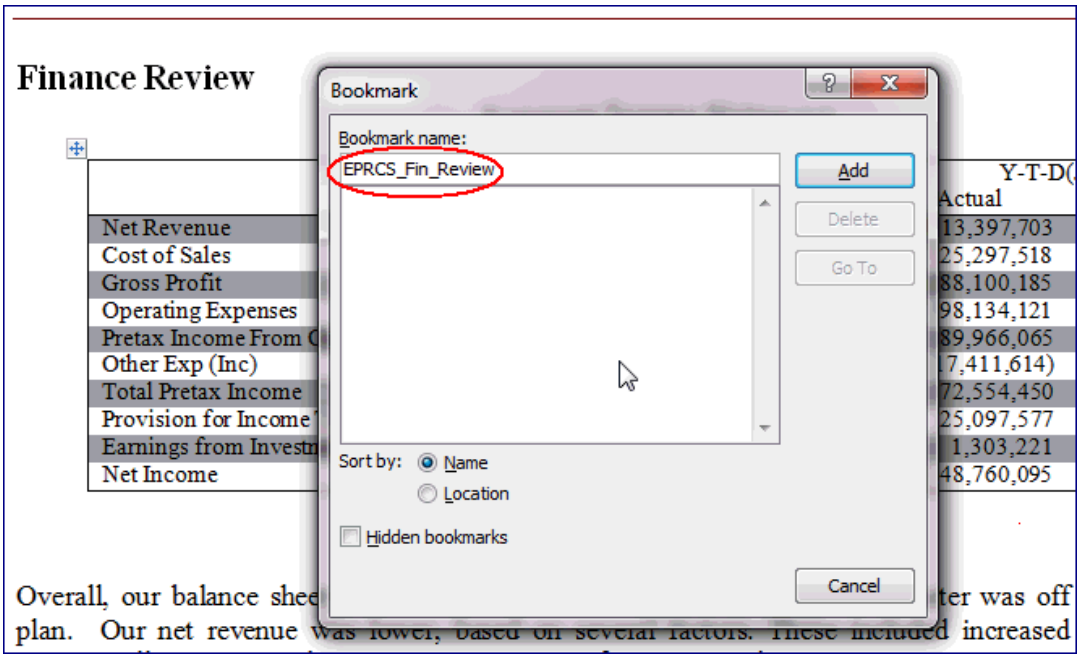
ブックマークの挿入

相互参照またはリンクを追加する前に、リンク先にする場所にブックマークを挿入する必要があります。

ブックマークを挿入するには:

1. Word 文書で、ブックマークの場所にカーソルを合せます。
2. **「挿入」**リボンで 

を選択します。
3. **「ブックマーク名」**に `EPRCS_`およびブックマーク識別子を入力します。たとえば、`EPRCS_Fin_Review` と入力します。



4. **「追加」**をクリックします。

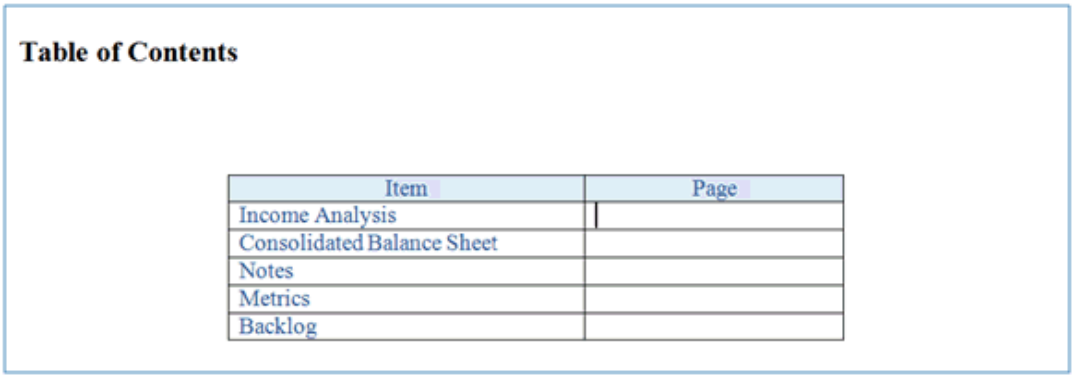
   ブックマークが作成されます。

ドックレットのページ番号相互参照またはリンクの挿入

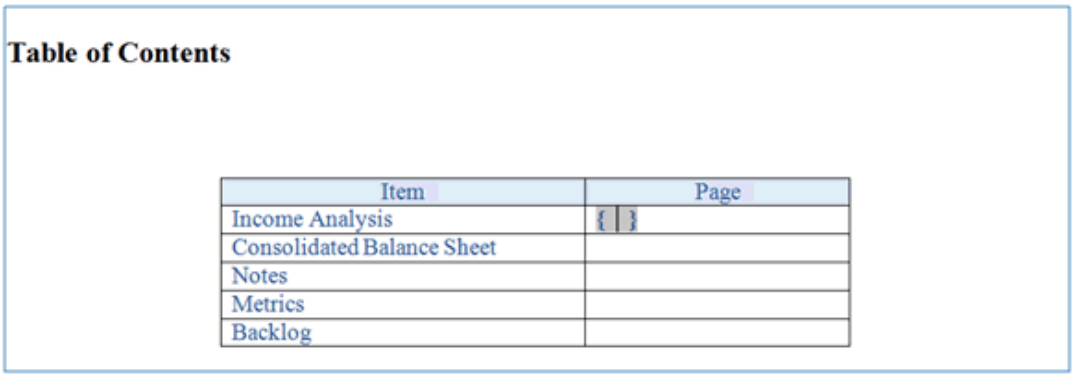
ターゲット・ブックマークを作成した後、ページ番号相互参照またはリンクをリンク元の文書のそのブックマークに挿入できます。

ページ番号相互参照を挿入するには:

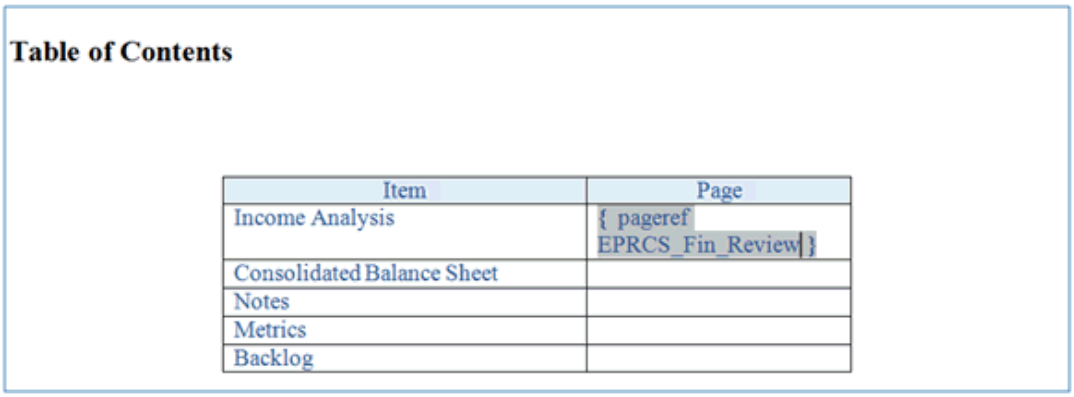
1. リンク元の文書で、相互参照する場所にカーソルを合せます。この例では、ページ番号相互参照を目次に追加します。



2. **[Ctrl]+[F9]**を押して、フィールド・ブラケットを挿入します。挿入ポイントがブラケットの間にあることを確認します。



3. `pageref`、空白、ブックマーク名の順に入力します。たとえば、`pageref EPRCS_Fin_Review`と入力します。



4. ソースおよびターゲットのドックレットをアップロードおよびチェックインしてレポート・パッケージに戻します。
5. **「プレビュー」**タブで、**「処理」**、**「プレビューのダウンロード」**の順に選択して、ページの相互参照を表示します。

6. ダウンロードしたレポート・パッケージの Word のプレビューでは、ページ番号を反映するために、ページの参照フィールドをリフレッシュする必要があります。

> **ノート:**
>
> Word で「エラー!ブックマークが定義されていません」と表示される場合があります。

Table of Contents

Item	Page
Income Analysis	**Error! Bookmark not defined.**
Consolidated Balance Sheet	
Notes	
Metrics	
Backlog	

7. **[F9]**を押してフィールド情報をリフレッシュします。

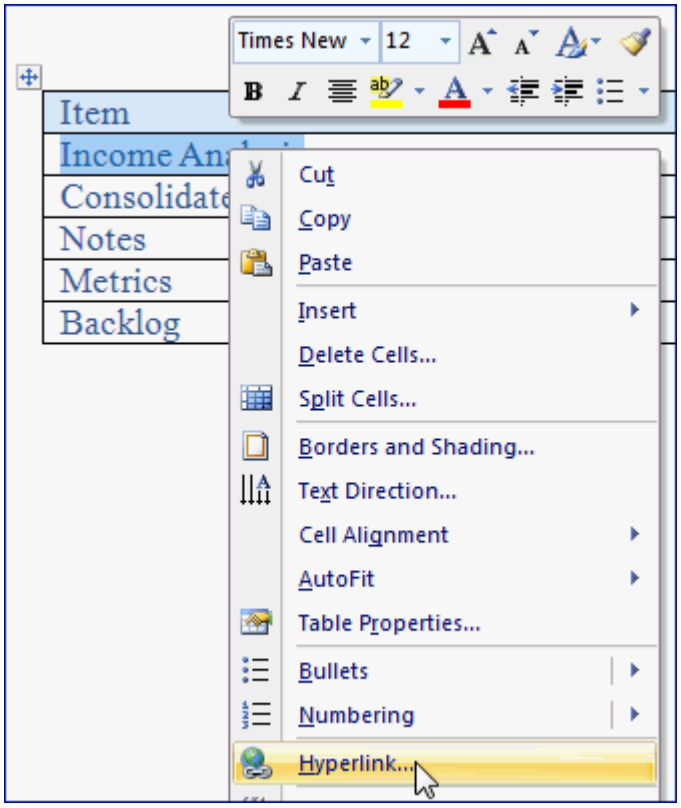
> **ノート:**
>
> フィールドが更新されて、ブックマークをドックレットに挿入したレポート・パッケージのページ番号が反映されます。

Table of Contents

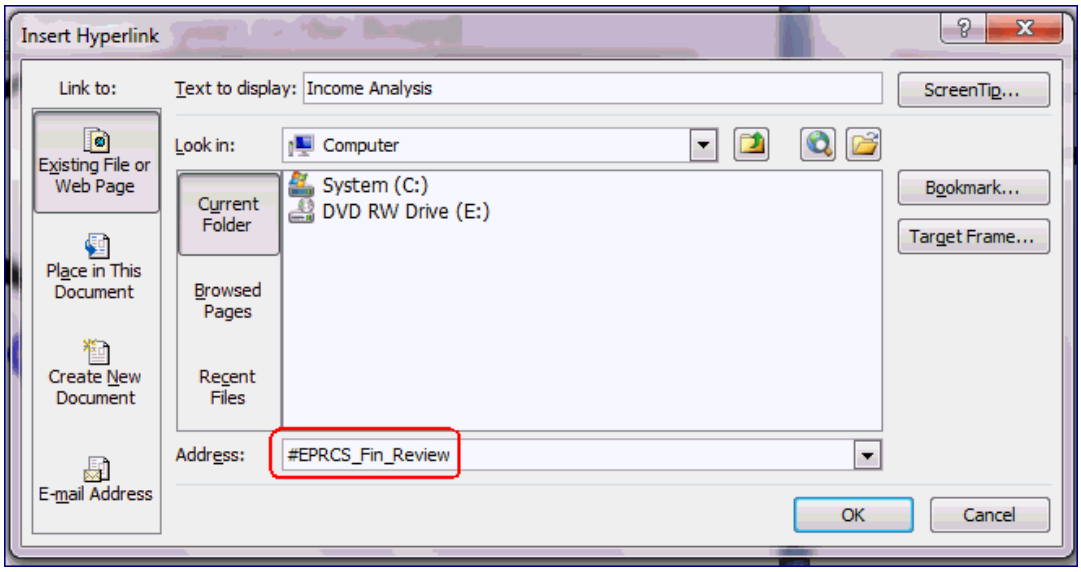
Item	Page
Income Analysis	2
Consolidated Balance Sheet	
Notes	
Metrics	
Backlog	

リンクを挿入するには:

1. リンク先として追加するテキストを強調表示して右クリックし、**「ハイパーリンク」**を選択します。



2. **「ハイパーリンクの挿入」**ダイアログ・ボックスで、**「アドレス」**に#に続けてブックマーク名を入力します。たとえば、`EPRCS_Fin_Review` と入力します。



3. 選択したテキストにリンクが追加されます。この例では、リンクが **Income Analysis** というテキストに追加されました。

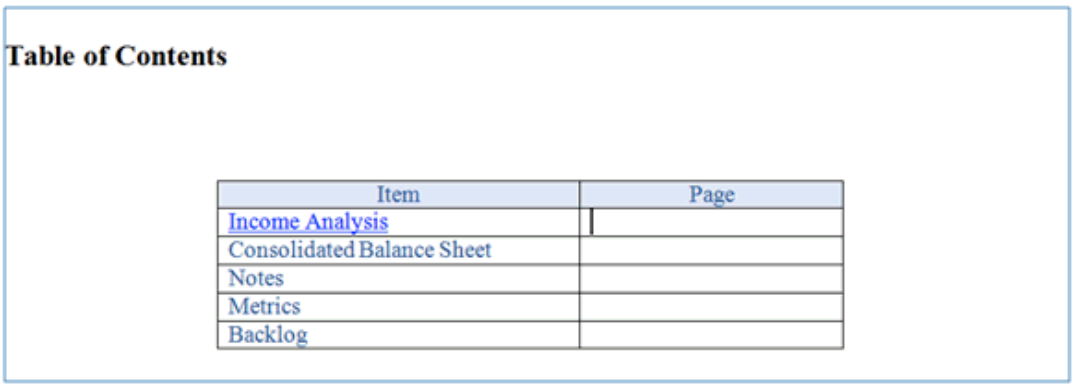
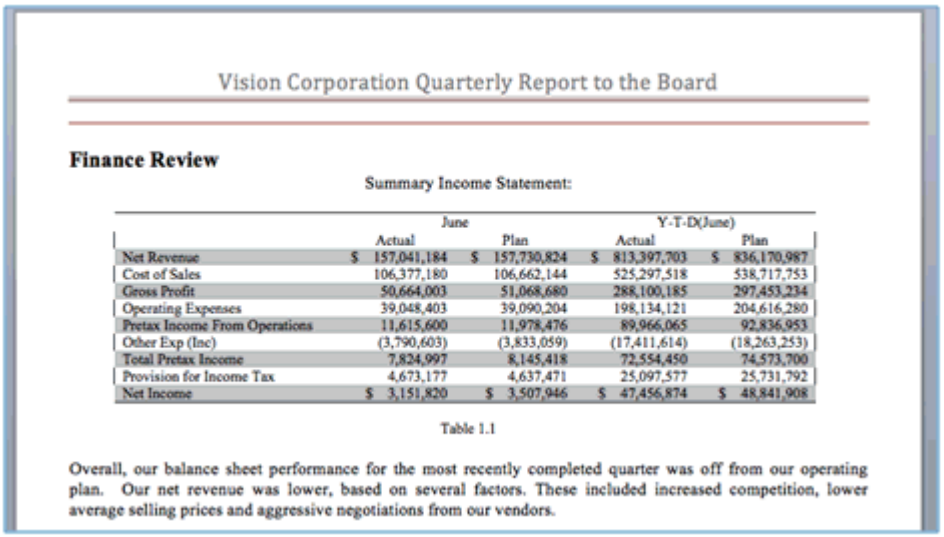


Table of Contents

Item	Page
Income Analysis	
Consolidated Balance Sheet	
Notes	
Metrics	
Backlog	

4. ドックレットをアップロードおよびチェックインしてレポート・パッケージに戻します。
5. **「プレビュー」**タブで、**「処理」**、**「プレビューのダウンロード」**の順に選択して、リンクを表示します。
6. リンクをクリックしてブックマークの場所にナビゲートします。



Vision Corporation Quarterly Report to the Board

Finance Review

Summary Income Statement:

	June		Y-T-D(June)	
	Actual	Plan	Actual	Plan
Net Revenue	$ 157,041,184	$ 157,730,824	$ 813,397,703	$ 836,170,987
Cost of Sales	106,377,180	106,662,144	525,297,518	538,717,753
Gross Profit	50,664,003	51,068,680	288,100,185	297,453,234
Operating Expenses	39,048,403	39,090,204	198,134,121	204,616,280
Pretax Income From Operations	11,615,600	11,978,476	89,966,065	92,836,953
Other Exp (Inc)	(3,790,603)	(3,833,059)	(17,411,614)	(18,263,253)
Total Pretax Income	7,824,997	8,145,418	72,554,450	74,573,700
Provision for Income Tax	4,673,177	4,637,471	25,097,577	25,731,792
Net Income	$ 3,151,820	$ 3,507,946	$ 47,456,874	$ 48,841,908

Table 1.1

Overall, our balance sheet performance for the most recently completed quarter was off from our operating plan. Our net revenue was lower, based on several factors. These included increased competition, lower average selling prices and aggressive negotiations from our vendors.

自動目次の使用

Microsoft Word の目次をドックレットに挿入するとき、手動、自動またはカスタムのいずれかのタイプを選択できます。手動タイプの場合は、リンクと相互参照を使用するか手動の目次を挿入して、ページ番号のリンクを作成できます(ドックレットのページへのリンクおよび相互参照の挿入を参照してください)。自動またはカスタム・タイプの場合、ドックレットがレポート・パッケージにマージされるときに目次が更新されます。たとえば、目次を含むレポート・パッケージまたはセクションをプレビューすると、動的に更新された目次が表示されます。

> **ノート:**
>
> 目次を含むドックレットのみをプレビューした場合、目次のエントリは表示されません。動的に更新された目次を表示するためには、ドックレットを含むレポート・パッケージまたはセクションをプレビューする必要があります。

> **ノート:**
>
> 自動またはカスタムの目次は Microsoft Word レポート・パッケージのみで使用できます。

ドックレットの承認または否認

このトピックは、すべてのタイプ(標準、リファレンス、サプリメンタル)の Office ベースのドックレットに適用されます。特に記載がないかぎり、用語の *ドックレット*は、すべての Office ベースのドックレットのタイプを示します。

承認者は、文書作成者がドックレットを提出した後で、ドックレットをレビューおよび承認します。文書作成者と同じ次のような機能にアクセスすることもできます。

- チェックアウト
- アップロード
- チェックイン
- 検査

次を参照してください。

- ドックレットの承認
- ドックレットの否認

ビデオ

目的	このビデオを見る
Word ベースのレポート・パッケージでのドックレットの承認と否認について学習します。	Smart View での Microsoft Word ベースのドックレットの作成と承認
PowerPoint ベースのレポート・パッケージでのドックレットの承認と否認について学習します。	Smart View での Microsoft PowerPoint ベースのドックレットの作成と承認

ドックレットの承認

このトピックは、すべてのタイプ(標準、リファレンス、サプリメンタル)の Office ベースのドックレットに適用されます。特に記載がないかぎり、用語の *ドックレット*は、すべての Office ベースのドックレットのタイプを示します。

承認者は、ドックレットが正しいことを確認した場合に、ドックレットを承認して完了します。複数の承認が必要な場合、承認者は今後の承認のためにドックレットを提出します。承認され

ると、文書作成者はドックレットをチェックアウトできなくなりますが、ドックレットをダウンロードして検査することはできます。

ドックレット、リファレンス・ドックレットまたは Office ベースのサプリメンタル・ドックレットを承認するには:

1. まだ開いていない場合、Smart View パネルで、ドックレットに移動し、ダブルクリックして開きます。

> **ノート:**
>
> レポート・センターの緑色の矢印、は、承認者による確認が必要なドックレットを示します。

2. 「Narrative Reporting」リボンで、**「承認」**をクリックします。



Smart View パネルで、承認されたドックレットが緑色のチェック・マーク付きでドックレット責任リストに表示されます。



ドックレットに複数のレベルの承認が必要な場合は、承認されたアーティファクトがゴム印アイコン付きでドックレット責任リストに表示されます。



ドックレットがすべての承認者によって承認されると、Narrative Reporting Web インタフェースでステータスが**「承認済」**に更新され、緑色のチェック・マークが Oracle Smart View for Office のドックレットに表示されます。

ドックレットの否認

このトピックは、すべてのタイプ(リファレンスおよびサプリメンタルを含む)の Office ベースのドックレットに適用されます。特に記載がないかぎり、用語の *ドックレット*は、すべての Office ベースのドックレットのタイプを示します。

ドックレットを承認する準備が整っていない場合は、自分で編集(ドックレットをチェックアウトして修正し、修正したバージョンをチェックイン)するか、否認して、編集のために文書作成者に返送できます。

ドックレット、リファレンス・ドックレットまたはサプリメンタル・ドックレットを否認するには:

1. まだ開いていない場合、Smart View パネルで、ドックレットに移動し、ダブルクリックして開きます。

2. 「Narrative Reporting」リボンで、**「否認」**をクリックします。



ドックレットが否認されると、そのステータスが**「否認済」**に更新されて、責任が文書作成者に戻り、通知が文書作成者に送信されます。複数の承認者レベルがある場合、承認パス内のすべての承認者に通知が送信されます。

文書作成者は、コンテンツを更新して、承認のために再提出する必要があります。

Smart View パネルで、否認されたドックレットが赤い X 印付きでドックレット責任リストに表示されます。



ドックレットのリコール

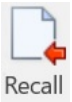
レポート・パッケージで有効になっている場合、文書作成者および承認者は「Narrative Reporting」リボンの**ドックレットのリコール**・ボタンを使用してドックレット・ワークフローを再開し、必要に応じてドックレットのコンテンツに変更を加えることができます。このアクションは、ドックレットが完了とマークされている場合、またはドックレットの送信後など、ドックレットが承認パス内の上位レベルにある場合に文書作成者と承認者が使用できます。

ドックレットのリコール設定がレポート・パッケージで有効になっていない場合、ドックレットのリコール・ボタンは「Narrative Reporting」リボンに表示されません。文書作成者または承認者は、ドックレットを送信または承認した後は、追加の変更が必要になってもそのドックレットのコンテンツを更新できません。レポート・パッケージの所有者がドックレット・ワークフローを否認または再開する必要があります。

ドックレットのリコールにより、選択したドックレットのみに対する文書作成プロセスが再開されます。文書作成者は変更を続行でき、承認フェーズが必要な場合は、更新済のドックレットを承認のために送信できます。

ドックレットをリコールするには:

1. リコールするドックレットを開きます。
2. 「Narrative Reporting」リボンで、**ドックレットのリコール**・ボタンをクリックします。



ドックレットのリコール・ボタンをクリックすると、**「送信」**ボタンが再び有効になります。

3. ドックレットの文書作成プロセスを続行します。たとえば、ドックレットをチェックアウトして変更を加え、アップロードしてチェックインし、必要に応じて承認のために送信します。

ドックレットの検査

このトピックは、すべてのタイプ(リファレンスおよびサプリメンタルを含む)およびすべてのサポートされているファイル形式の、Office ベースおよび Office ベース以外のドックレットに適用されます。

標準ドックレット、リファレンス・ドックレットおよびサプリメンタル・ドックレットの詳細は、「Narrative Reporting」リボンの**「検査」**をクリックします。



「検査」ボタンは、**「プロパティ」**ダイアログ・ボックスを起動します。

「プロパティ」ダイアログ・ボックスから、ドックレット、リファレンス・ドックレットまたは Office ベースのサプリメンタル・ドックレットの前のバージョンもダウンロードできます。

> **ノート:**
>
> 次に示す手順のステップはすべてオプションです。

標準ドックレット、リンクされた標準ドックレット、リファレンス・ドックレットまたはサプリメンタル・ドックレットの情報を表示するには:

1. レポート・パッケージがまだオープンされていない場合は、Smart View パネルでレポート・パッケージに移動してオープンします。
2. リストで標準ドックレット、リンクされた標準ドックレット、リファレンス・ドックレットまたはサプリメンタル・ドックレットを選択し、「Narrative Reporting」リボンの**「検査」**ボタンをクリックします。
3. **「プロパティ」**ダイアログ・ボックスで、**「プロパティ」**タブ(デフォルトのタブ)の情報を表示します。

   「プロパティ」タブに、ファイル名、ドックレット・タイプ、リンク・ステータス、抑制ステータス、ドックレットを作成したユーザーなど、ドックレットに関する基本情報が表示されます。

図 24-44 標準ドックレットのプロパティ

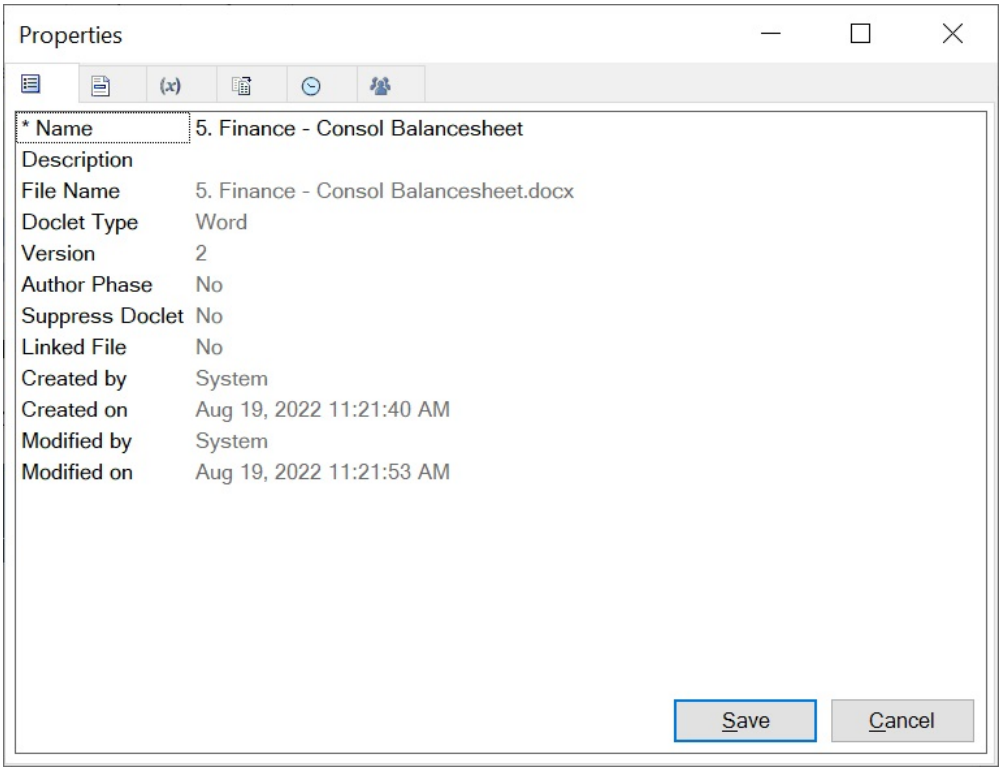


図 24-45 リンクされた標準ドックレットのプロパティ

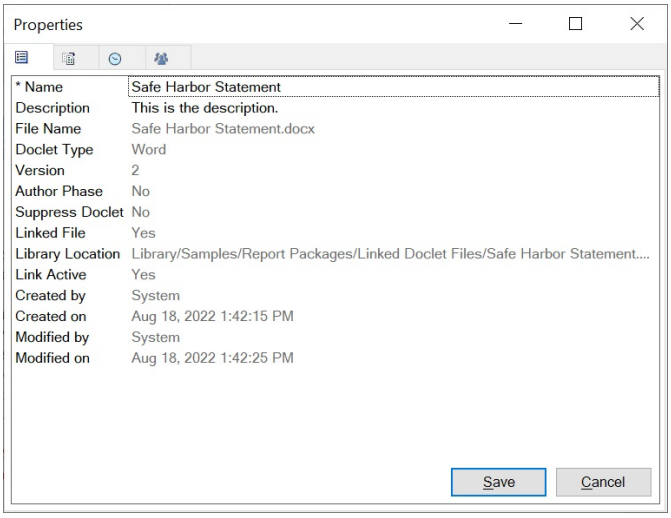


図 24-46 リファレンス・ドックレットのプロパティ

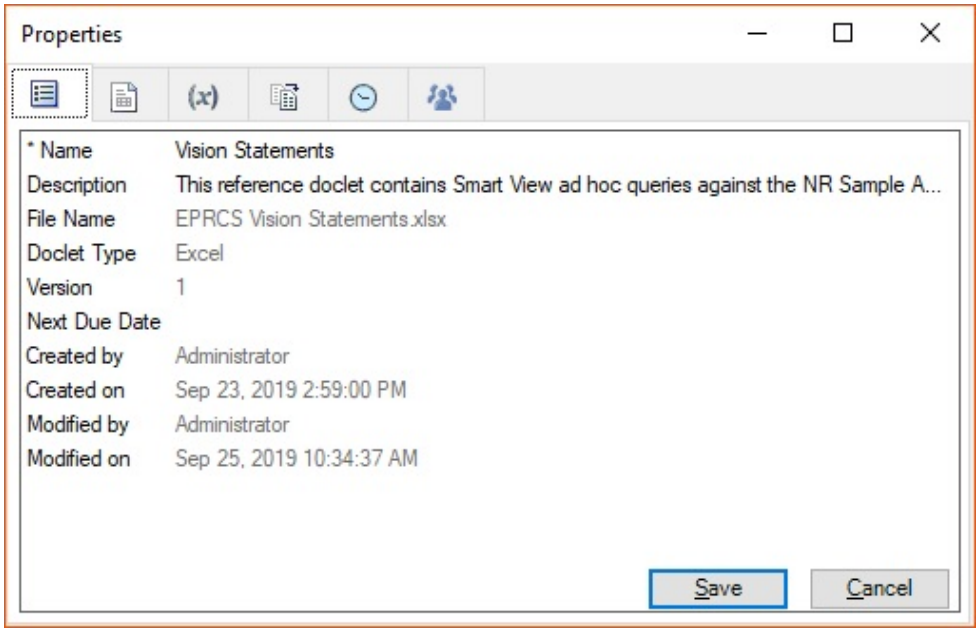
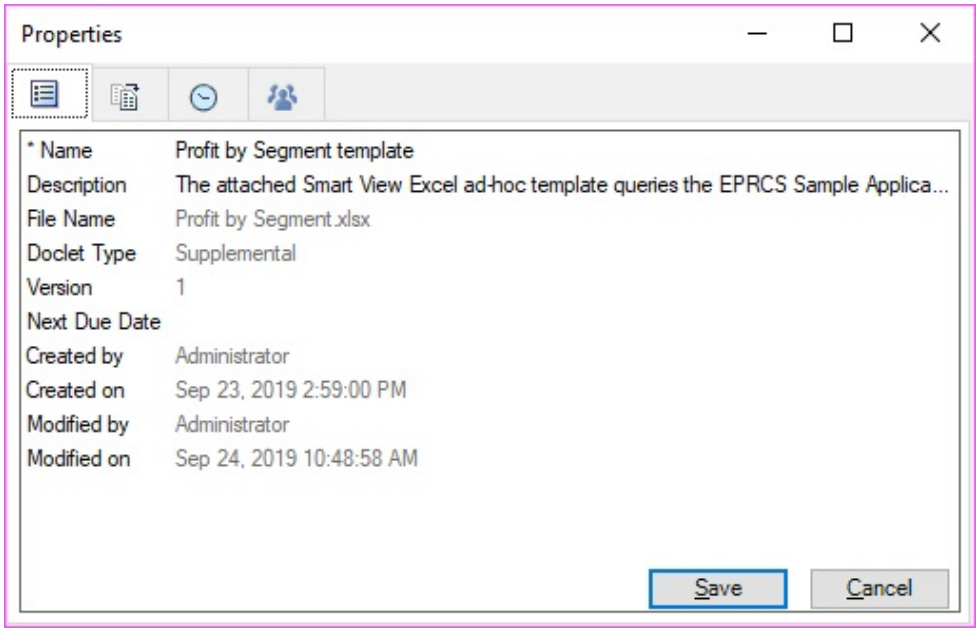
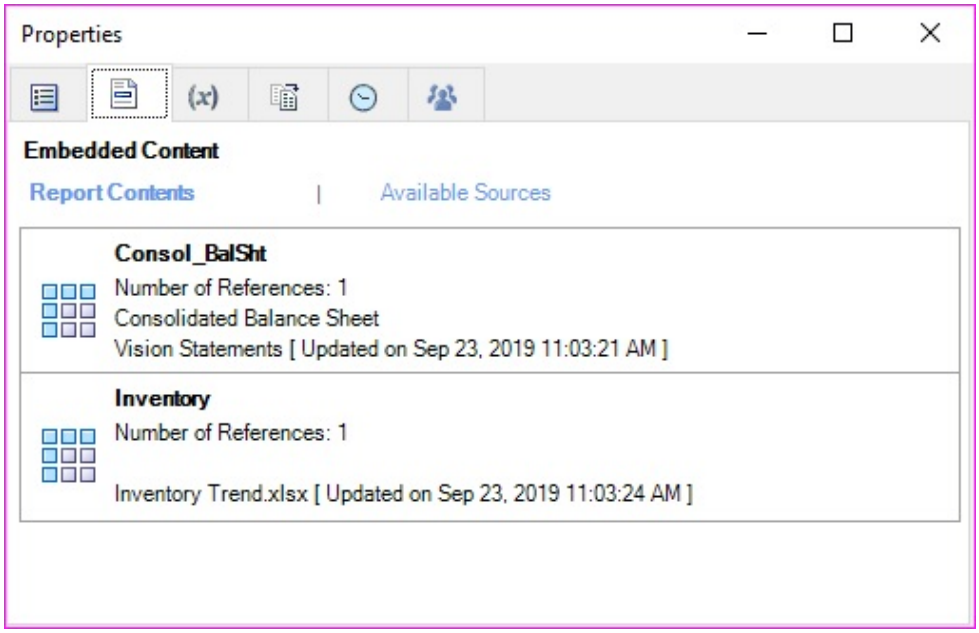


図 24-47 サプリメンタル・ドックレットのプロパティ



4. **「埋込みコンテンツ」**タブ、をクリックして、ドックレットで使用されている埋込みコンテンツのリストを表示します。

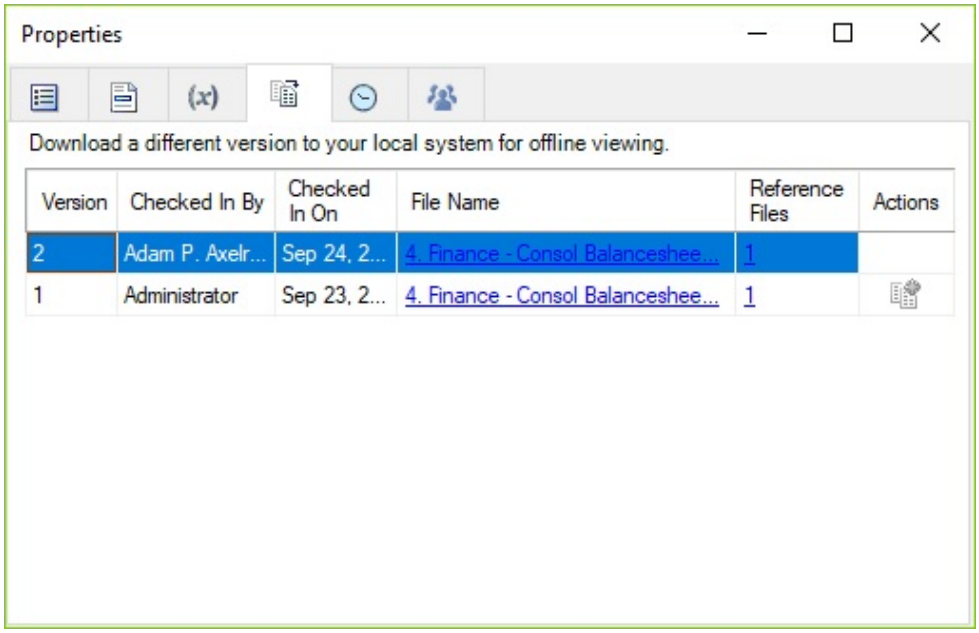


5. **「バージョン」**タブ、をクリックして、Office ベースのドックレットの前のバージョンをダウンロードします。

   ドックレットの新しいバージョンがチェックインされると、変更内容を確認するためにダウンロードして表示できるように以前のバージョンが格納されます。

> **ノート:**
>
> ドックレットのバージョン管理は、複数の自動チェックインの影響を最小限にするように最適化されています。変数または埋込みコンテンツの変更のためにドックレットで複数の自動チェックインが実行されるとき、システムによってドックレット・コンテンツが更新されますが、新しいバージョンは生成されません。

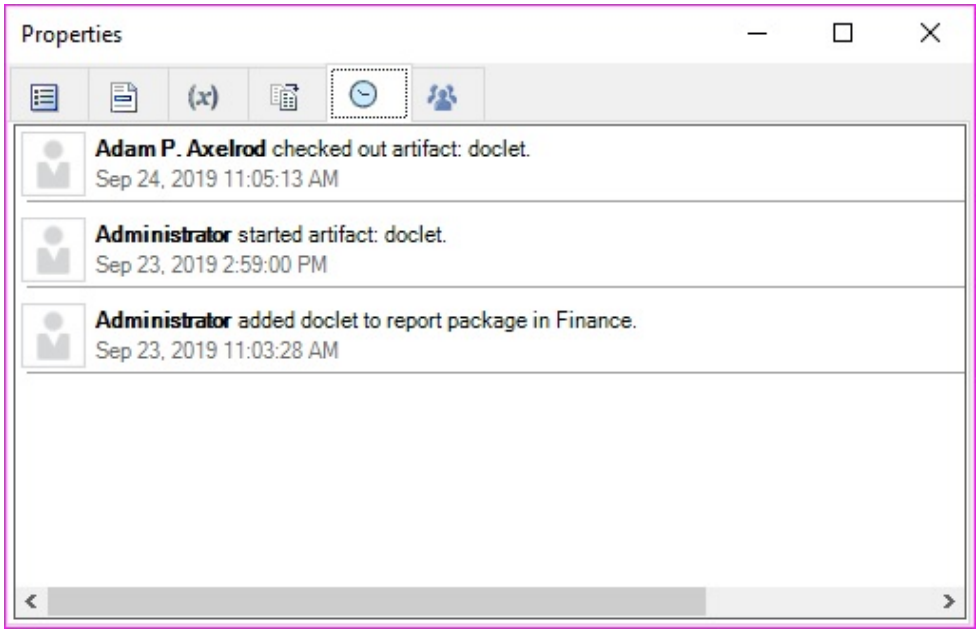
以前のバージョンのドックレットをダウンロードするには、表示するバージョンの横にあるリンクをクリックします。



ダウンロードされたドックレットの場所を通知するメッセージ。

すべてのタイプのドックレットをダウンロードできますが、Office ベースのドックレットのみ前のバージョンが含まれる場合があります。

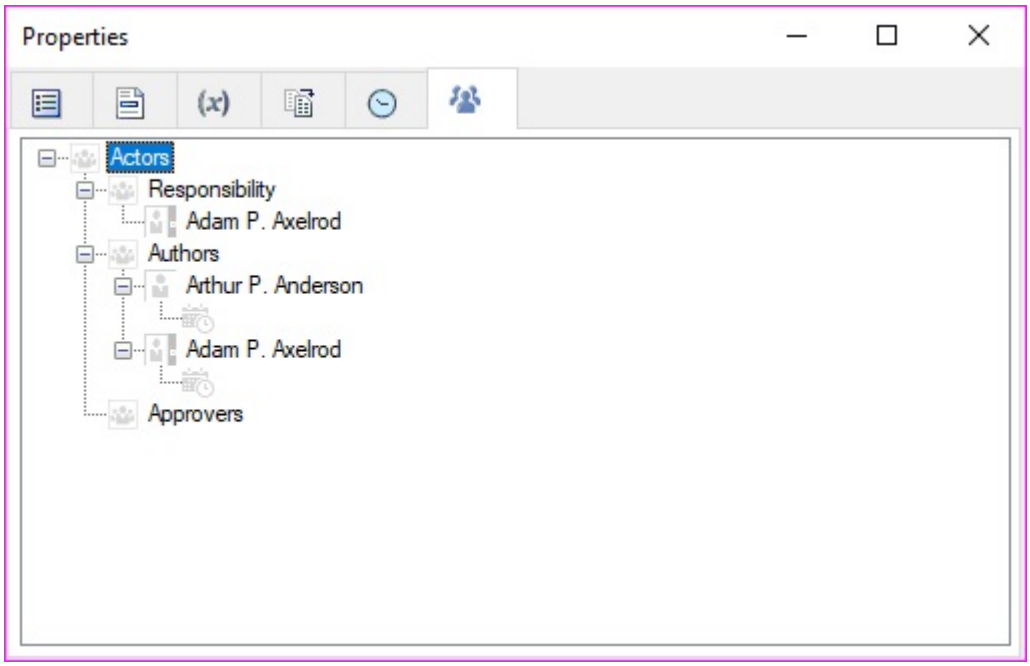
6. **「履歴」**タブ、をクリックして、最後に更新したユーザーなど、ドックレットに関する監査情報を表示します(該当する場合)。



7. **「アクター」**タブ をクリックし、ドックレットに関連付けられているアクターを表示します。

「責任」ノードには、現在ドックレットをチェックアウトしているユーザーが表示されます。**「文書作成者」**ノードには、ドックレットに割り当てられている文書作成者が表示されます。**「承認者」**ノードには、割り当てられている承認者が表示されます。

次の図では、現在、ドックレットをチェックアウトしているのは Adam P.Axelrod です。2 人の文書作成者が割り当てられており、承認者は割り当てられていません。



前のバージョンのドックレットに戻す

レポート・パッケージでドックレットを作成し、そのドックレットをプレビューした後、更新内容や結果が正しくなかった場合、前のドックレット・バージョンに戻すことができます。

ドックレット、リファレンス・ドックレット、サプリメンタル・ドックレットを前のバージョンに戻すことができます。

ドックレットを前のバージョンに戻すには:

1. レポート・パッケージを開きます。
2. ドックレットを開いてからチェックアウトします。

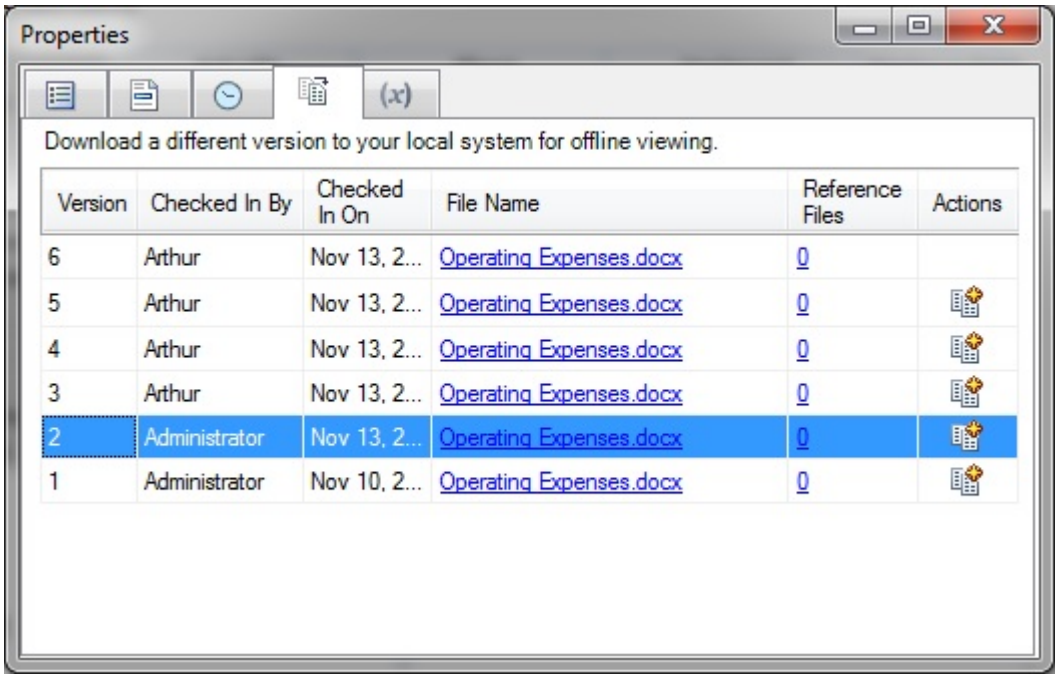
   ドックレットが、適切な Office アプリケーションで開きます。
3. 「Narrative Reporting」リボンで**「検査」**をクリックして、**「プロパティ」**ダイアログ・ボックスを起動します。



または、レポート・パッケージ・リストでドックレットを選択して、アクション・パネルで**「プロパティの表示」**リンクを選択します。

4. **「プロパティ」**ダイアログで、**「バージョン」**タブをクリックします。
5. **「バージョン」**タブで、現行に設定するドックレットのバージョンの をクリックします。

   次の例では、バージョン 2 を現行バージョンに設定するため、バージョン 2 の をクリックします。



   新しい進行中のドックレット・バージョンは、選択したドックレット・ファイルに基づいて作成されます。
6. 警告プロンプトで、**「はい」**をクリックして確定します。

   新しいバージョンのレポート・コンテンツは、前のバージョンに基づきます。ただし、埋込みコンテンツまたは前のバージョンに含まれている変数は、現在の値にリフレッシュされます。

> **ノート:**
>
> アクション・パネルの**「プロパティの表示」**リンクを選択して**「プロパティ」**ダイアログにアクセスした場合は、戻されたバージョンを表示するためにドックレットをクローズしてからオープンする必要があります。

7. ドックレットをレビューしてコンテンツが正しいことを確認します。
8. ドックレットをアップロードしてレポート・パッケージにチェックインして戻し、変更をレポートにコミットします。

レビューの実行

レビューは、Oracle Smart View for Office でレビュー・インスタンスにコメントを入力し、フィードバックを提供することで実行します。

次も参照:

- レビュー・フェーズ・プロセスについて
- Smart View でのレビュー・インスタンスの操作

レビュー・フェーズ・プロセスについて

レビュー・フェーズでは、レポートの関係者がレポート・パッケージのコンテンツをレビューし、フィードバックを提供できます。レビュー担当者は、レポート・パッケージの割り当てられた領域に関するコメントを提供します。これは、レポート・パッケージ全体の場合もあれば、セクションまたは特定のドックレットから構成されるサブセットの場合もあります。レビュー担当者は、Oracle Smart View for Office を使用してコメントを入力、レビューおよびコメントに応答することで、フィードバックを提供できます。

> **ノート:**
>
> Smart View では、レビューは Microsoft Word および PowerPoint ベースのレポート・パッケージでのみ実行できます。PDF ベースのレポート・パッケージでレビューを実行するには、Narrative Reporting Web を使用します。

レビュー・フェーズ・プロセス:

1. レポート・パッケージの所有者がレビュー・インスタンスを作成し、Narrative Reporting Web インタフェースでレビュー・サイクルを開始します。
2. 作業の開始を促す通知メッセージがレビュー担当者に送信されます。レビューが反復な場合、レビュー担当者は各反復の開始時に作業を開始するよう通知されます。
3. レビュー担当者がレビュー・インスタンスというドキュメントを Smart View で表示します。レビュー・インスタンスには、レビュー担当者に割り当てられたコンテンツのみが含まれます。

   レビュー・インスタンスには、すべてのファイル・タイプのサプリメンタル・ドックレットが含まれません。

   > **ノート:**
   >
   > レビュー担当者には割り当てられたコンテンツのみ表示されますが、1 つのレビュー・インスタンスに対してすべてのコメントが行われ、保持されます。

4. レビュー担当者は、コンテンツをハイライト表示し、プレーン・テキストまたはリッチ・テキスト形式でコメントを投稿します。これにはリンクと添付を含めることができます。
5. レビュー担当者は、コメント・スレッドに他のコメントを追加することで共同作業します。
6. レビュー担当者はレビューを完了としてマークし、レビューが終了したことをレポート・パッケージの所有者に示します。レビューを完了としてマークした後でレビュー担当者が追加のコメントを追加する必要がある場合、レビュー担当者は「コメント用に再オープン」して、レビューが完了していないことをレポート・パッケージの所有者に示すことができます。

   レポート・パッケージには、複数のレビュー・サイクルが定義されていることがあります。すべてのレビュー・サイクルが同じプロセスに従います。

共同レビュー・プロセス

レビュー担当者は、他のレビュー担当者のコメントを表示してコメントを追加し、コメント・スレッドを作成することで共同作業できます。たとえば、前のレビュー担当者が行った質問に対する回答を知っている場合などです。コメントに追加して回答を提供できます。

反復的なレビュー・プロセス

レビューは繰り返すことができるため、レポート・パッケージの所有者は、必要なレビューのタイプに応じて複数のレビュー・サイクルをスケジュールできます。

たとえば、複数のドラフト・レビュー・プロセスでは、レビュー・プロセスには次のものが含まれることがあります。

- 3 つのドラフトがある複数のレビュー・サイクル。
- ドラフトによって異なるレビュー割当て。次に例を示します。
  - マネージャ・レベルの最初のドラフト
  - エグゼクティブ・レベルの 2 つ目のドラフト
  - CEO、CFO などに対する 3 つ目のドラフト
- ユーザーをレビューに割り当てることのできる、領域によって異なるレビュー割当て:
  - レポート全体
  - セクション
  - ドックレット

反復的なレビュー・プロセスに関する重要ポイント:

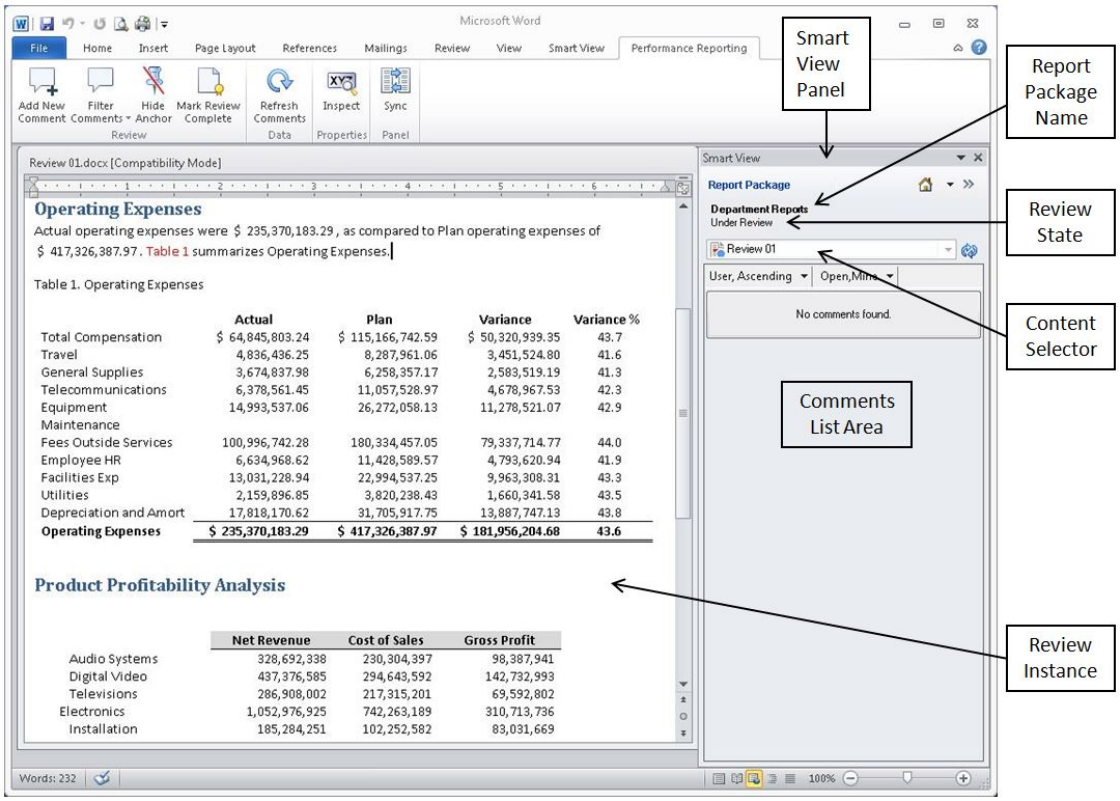
- 新しいレビュー・インスタンスにはコンテンツの変更が組み込まれます。
- コメントはレビュー・サイクルを全体で永続化されるため、レビュー担当者は以前のコメントと、それらがどのように対処されたかを確認できます。
- レビュー・フェーズは、すべてのレビュー・サイクルがクローズされると完了します。

Smart View でのレビュー・インスタンスの操作

レビューは、Oracle Smart View for Office でレビュー・インスタンスにコメントを入力し、フィードバックを提供することで実行します。レビュー・インスタンスには、レポート・パッケージのレビューが割り当てられた領域のドラフト・バージョンが表示されます(図 1 を参照)。レビュー・インスタンスは、レポート全体またはレポート・コンテンツのサブセットから構成されることがあります。レビュー・インスタンスには、リファレンス・ドックレットまたはすべてのファイル・タイプのサプリメンタル・ドックレットが含まれません。

レビュー手順を開始する前に、Microsoft Word または PowerPoint を起動し、Smart View での Narrative Reporting への接続の説明に従って Narrative Reporting に接続して、レポート・パッケージを開いている必要があります。

図 24-48 Word での Smart View のレビュー・インスタンスの例の一部



ビデオ

目的	このビデオを見る
Word ベースのレポート・パッケージでのレビュー・インスタンスの操作について学習します。	Smart View での Microsoft Word ベースのレポート・パッケージ・コンテンツのレビュー
PowerPoint ベースのレポート・パッケージでのレビュー・インスタンスの操作について学習します。	Smart View での Microsoft PowerPoint ベースのレポート・パッケージ・コンテンツのレビュー

レビュー・インスタンスの選択

レポート・パッケージのレビューの準備ができると、Narrative Reporting Web インタフェース・メッセージによって、作業を開始できることがレビュー担当者に通知されます。

例:

```
RReview is required for Sample Report Package - MS Word - Review Cycle 2
```

この例では、"Review Cycle 2"は、Oracle Smart View for Office の「コンテンツ・セレクタ」で"Review 02"を選択することを示しています。

Smart View のレビュー・インスタンスを選択するには:

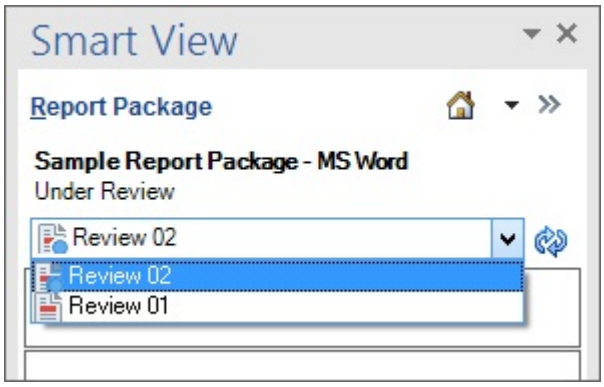
1. Smart View パネルの**「コンテンツ・セレクタ」**で、必要なレビュー・インスタンスが選択されていることを確認します。

   レポート・パッケージを最初に開いたとき、アクティブなレビュー・インスタンスが**「コンテンツ・セレクタ」**にデフォルトで表示されます。ただし、**「コンテンツ・セレクタ」**に表示されているアクティブなレビュー・インスタンスを開こうとしている場合でも、手動で選択する必要があります。

   > **ノート:**
   >
   > レポート・パッケージでレビュー・サイクルが 1 つしか定義されていない場合は、**「コンテンツ・セレクタ」**のレビュー・インスタンスを手動で選択する必要があります。

   図 1 で、"Review 01"および"Review 02"は、使用可能なオプションです。"Review 02"の横のドットは、このレビュー・インスタンスがアクティブで、レビュー・コメントの準備ができていることを示します。"Review 01"の横にはドットがないことに注意してください。これは、レビュー・インスタンスが新しいレビュー・コメントに対してクローズしていることを示しますが、"Review 01"をオープンして表示することはできます。

   図 24-49 コンテンツ・セレクタのレビュー・インスタンスの例

2. まだ選択されていない場合、必要なレビュー・インスタンスを選択します。

   レビュー・インスタンスを選択する場合、画面は図 1 のようになります。

   これで、レビュー・インスタンスでレビュー・コメントの使用を開始できるようになります。

コメントの投稿

次のトピックを参照してください:

- 新規コメントの投稿
- コメントへの返信の投稿

新規コメントの投稿

新規コメントを投稿するには:

1. 次のいずれかのアクションを行います:

- **Word でテキストにコメント:** Word ベースのレポート・パッケージでテキストにコメントを投稿するには、レビュー・インスタンスでコメントするテキストを選択し、「Narrative Reporting」リボンの**「新規コメントの追加」**をクリックします。



- **PowerPoint でテキストにコメント:** PowerPoint ベースのレポート・パッケージでテキストにコメントを投稿するには、コメントするスライドにカーソルを置いて、「Narrative Reporting」リボンの**「新規コメントの追加」**をクリックします。

  ピンはスライドの左上隅に置かれています。ピンをクリックしてドラッグし、コメントするテキストの上または近くに置きます。ピンをダブルクリックして **EPRCS コメント**・テキスト・ボックスを開きます。

> **ノート:**
>
> **「新規コメントの追加」**をクリックする前にテキストを選択した場合、ピンは選択の左上隅に置かれます。

- **Word でグラフィックにコメント:** Word ベースのレポート・パッケージでグラフィックにコメントを投稿するには、レビュー・インスタンスでコメントするグラフィックを選択し、「Narrative Reporting」リボンの**「新規コメントの追加」**をクリックします。

  ピンはグラフィックを含むページの左上隅に置かれています。ピンをクリックして、グラフィック内の必要な場所にドラッグ・アンド・ドロップします。ピンをダブルクリックして **EPRCS コメント**・テキスト・ボックスを開きます。

  グラフィックのみを選択します。グラフィック・マーカー、テキストまたはグラフィック周囲の空のスペースを選択しないでください。

- **PowerPoint でグラフィックにコメント:** PowerPoint ベースのレポート・パッケージでグラフィックにコメントを投稿するには、レビュー・インスタンスでコメントするグラフィックを選択し、「Narrative Reporting」リボンの**「新規コメントの追加」**をクリックします。

  ピンはグラフィックの左上隅に置かれています。ピンをクリックして、グラフィック内の必要な場所にドラッグ・アンド・ドロップします。ピンをダブルクリックして **EPRCS コメント**・テキスト・ボックスを開きます。

  グラフィックのみを選択します。グラフィック・マーカー、テキストまたはグラフィック周囲の空のスペースを選択しないでください。

- **Word で埋込みコンテンツにコメント:** Word で埋込みコンテンツにコメントを投稿するには、埋込みコンテンツの単一のインスタンス*内*でデータまたはテキスト・セルを選択し、「Narrative Reporting」リボンの**「新規コメントの追加」**をクリックします。

  たとえば、埋込みコンテンツ・オブジェクトの個々のセル内のデータまたはテキストを選択します。セルの範囲を選択できますが、ピンは範囲の最初のセル(範囲の左上のセル)にのみ置かれます。

  コメントする埋込みコンテンツ・オブジェクト全体を選択するには、埋込みコンテンツ・オブジェクト全体とともに埋込みコンテンツの上にある行からテキストを選択します。

一度に 1 つの埋込みコンテンツ・オブジェクトのみコメントを追加できます。同じコメントを他の埋込みコンテンツ・オブジェクトに追加する必要がある場合、埋込みコンテンツ・オブジェクトごとにコメントを個別に追加する必要があります。

- **自動目次にコメント(Word のみ):** Narrative Reporting 拡張機能バージョン 17.07+では、自動目次へのコメントは許可されません。自動目次に関連するコメントを追加するには、目次にできるだけ近い場所にコメントを配置してから、コメント内で目次を参照します。

  Narrative Reporting 拡張機能の 17.07 よりも前のバージョンでは、自動目次に対するコメントは見出しとタイトルのみで許可されています。自動目次の本文にコメントを付けることはできません。

- **手動目次にコメント(Word のみ):** 手動目次の見出しと本文の両方にコメントを付けることができます。

> **ヒント:**
>
> コメントの選択領域は空にできません。コメントを追加する場合は、グラフィックまたは少なくとも 1 つの単語または数値を選択します。
>
> 埋込みコンテンツ・オブジェクト全体のみを選択してコメントを追加できません。その選択は空の選択とみなされます。埋込みコンテンツとともに埋込みコンテンツの上にあるテキストを選択して、コメントの有効な選択領域とみなす必要があります。

2. **EPRCS コメント**にコメントを入力します。

   図 1 に、コメントするテキストを選択した状態の **EPRCS コメント**・テキスト・ボックスの例を示します。

図 24-50 Word でテキストを選択した状態の EPRCS コメント・テキスト・ボックス

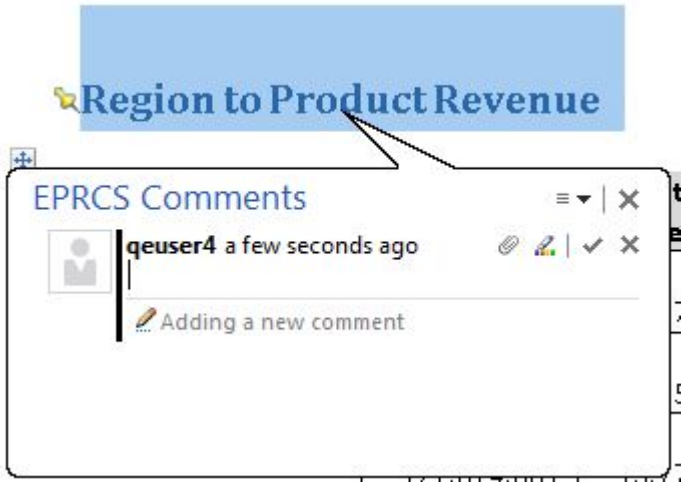
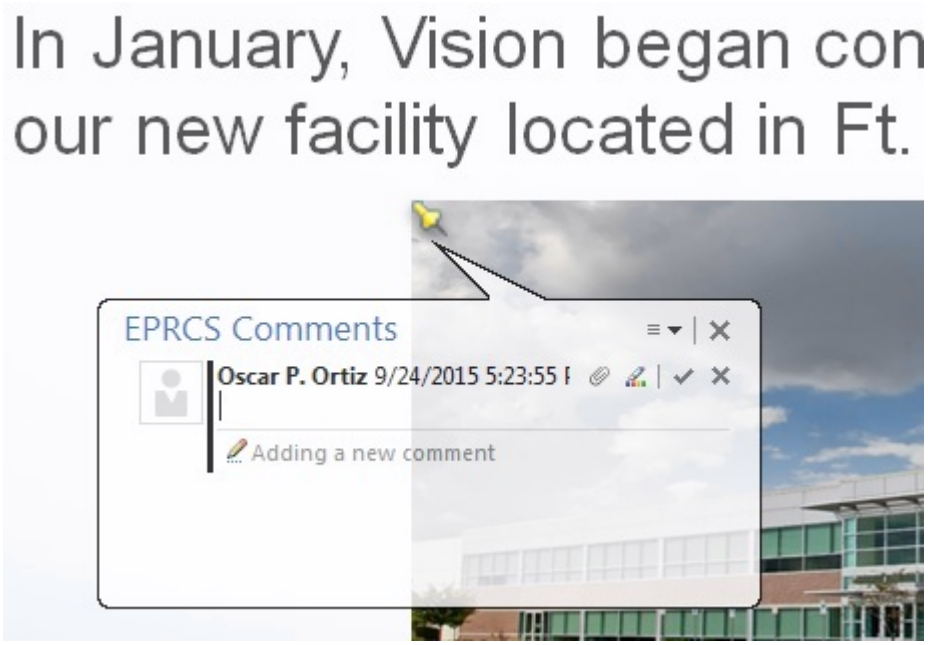


図 2 に、PowerPoint でコメントするグラフィックを選択した状態の **EPRCS コメント**・テキスト・ボックスの例を示します。ピンはグラフィックの左上隅に置かれていることに注意してください。

図 24-51 PowerPoint でグラフィックを選択した状態の EPRCS コメント・テキスト・ボックス



> **ノート:**
>
> コメントには、URL、テキストのフォーマットおよび添付を追加できます。コメントの編集および削除およびサポート・ファイルの添付とコメント・テキストのカスタマイズを参照してください。

3. **「入力」**、✔をクリックしてコメントを投稿します。

> **ノート:**
>
> コメントには、テキストまたは添付、あるいはその両方が含まれている必要があります。

コメントが Smart View パネルのコメント・ペインのコメントのリストに追加され、アンカー・アイコン、がレビュー・インスタンスに追加されてコメントがあることが示されます。

4. **EPRCS コメント**・テキスト・ボックスの右上隅で、**「クローズ」**、✕の順にクリックして終了します。

コメントへの返信の投稿

コメントへの返信を投稿するには:

1. Smart View パネルで、リスト内のコメントをダブルクリックして **EPRCS コメント**・テキスト・ボックスを起動します。

2. **EPRCS コメント**・テキスト・ボックスで、**「返答」**ボタン、↵をクリックして返信を入力します。

> **ノート:**
>
> コメントの返信にはテキストのフォーマットや添付を追加できます。詳細は、サポート・ファイルの添付とコメント・テキストのカスタマイズを参照してください。

3. **「入力」**ボタン、✔をクリックして、返信を投稿します。
4. **「クローズ」**、✖をクリックして、**EPRCS コメント**・テキスト・ボックスを終了します。

コメントのフィルタおよびソート

コメント管理パネルでコメントをフィルタ処理できます。たとえば、コメントの表示または非表示、オープンまたはクローズされているコメントの表示、またはユーザーのコメントの表示または非表示を実行できます。

コメントをフィルタおよびソートするには:

1. 「Narrative Reporting」リボンで、**「コメントのリフレッシュ」**ボタンをクリックして新規コメントと返信を表示します。



2. **オプション: 「アンカーの非表示」**または**「アンカーの表示」**ボタンをクリックして、レビュー・インスタンスのコメント・アンカーを非表示または表示します。

   「アンカーの非表示」は、レビュー・インスタンスを最初に開いたとき、つまりアンカーが現在表示されているときにデフォルトで表示されます。



   「アンカーの非表示」をクリックすると、ボタンが**「アンカーの表示」**に切り替わります。



   アンカーは、レビュー・インスタンス全体に表示され、コメントを入力する場所をマークします。アンカーはプッシュピン・アイコンで示されます。図 1 で、レビュー・インスタンスの一部にアンカーが円で囲まれています。

図 24-52 レビュー・インスタンス内のアンカーの例

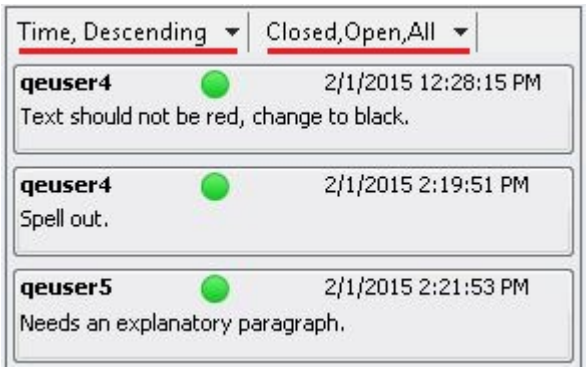


3. **「コメントのフィルタ」**、Comments をクリックし、表示オプションを選択します。
   - **オープン・コメント**
   - **クローズ済コメント**
   - **すべてのコメント**
   - **自分のコメント**

   「オープン・コメント」と**「クローズ済コメント」**を同時に表示することを選択できます。
4. Smart View パネルのコメント・リストで選択結果を確認します。

   または、コメント・ペインのドロップダウン・リストを使用して、フィルタおよびソート・オプションを選択できます。左側の見出しはコメントのソート用で、右側の見出しはフィルタリング用です。

   次の例は、時間の降順でソートされたコメントを示しています。「オープン」、「クローズ済」および「すべて」フィルタが選択されているため、すべてのコメントが表示されます。



5. **オプション:** Smart View パネルのコメントのリスト内をクリックしてコメントをオープンします。

コメントの編集および削除

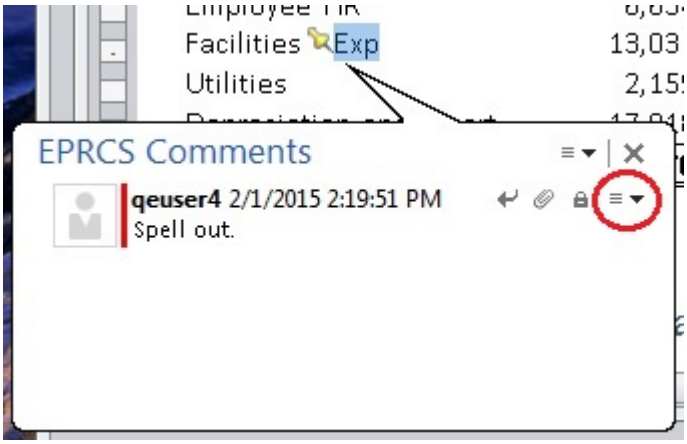
スレッド・エントリが投稿したスレッドの最後のエントリである場合、そのスレッド・エントリを編集できます。

自分が投稿したコメントを削除できます。投稿したコメント・スレッド・エントリがスレッドの最後のエントリである場合、そのコメント・スレッド・エントリを削除することもできます。

コメントを編集または削除するには:

1. Smart View パネルのコメント・リストで、開始したコメントをクリックします。
2. コメントを編集するには:
   a. 図 1 に示されているようにドロップダウン・リストの矢印をクリックし、**「変更」**を選択します。

図 24-53 ドロップダウン・リストが円で囲まれた「コメント」テキスト・ボックス



   b. コメント・テキストを編集します。

> **ノート:**
>
> コメントには、URL、テキストのフォーマットおよび添付を追加できます。サポート・ファイルの添付とコメント・テキストのカスタマイズを参照してください。

   c. **「入力」**、✔をクリックして、コメントを更新します。
   d. **「クローズ」**、✕をクリックして、**EPRCS コメント**・テキスト・ボックスを終了します。
3. コメントを削除するには、コメントまたはコメント・スレッドの最後のエントリのいずれかを選択し、そのコメントまたはスレッド・エントリについて、図 1 に示すドロップダウン・リストの矢印をクリックし、**「削除」**を選択します。

> **ノート:**
>
> スレッドの最後のエントリのみを削除できます。最後のエントリを削除しても、コメント・スレッド全体は削除されません。

4. 変更を取り消すには、**EPRCS コメント**・テキスト・ボックスの**「取消」**または**「クローズ」**ボタン、✕をクリックします。

サポート・ファイルの添付とコメント・テキストのカスタマイズ

コンピュータからローカル・ファイルを選択して、自分のコメントに添付できます。たとえば、コメントの 1 つにサポート・ドキュメントを関連付けたい場合があります。また、リッチ・テ

キスト・エディタを使用して、コメントのテキストをカスタマイズしたい場合もあります。たとえば、テキストを太字にしたり、別のフォント色を適用したい場合があります。コメントに URL を追加することもできます。

コメントにファイルを添付し、コメント・テキストをカスタマイズし、Web ページへのリンクを追加するには:

1. Smart View パネルのコメント・リストで、**EPRCS コメント**・テキスト・ボックスを起動するために開始したコメントをダブルクリックします。

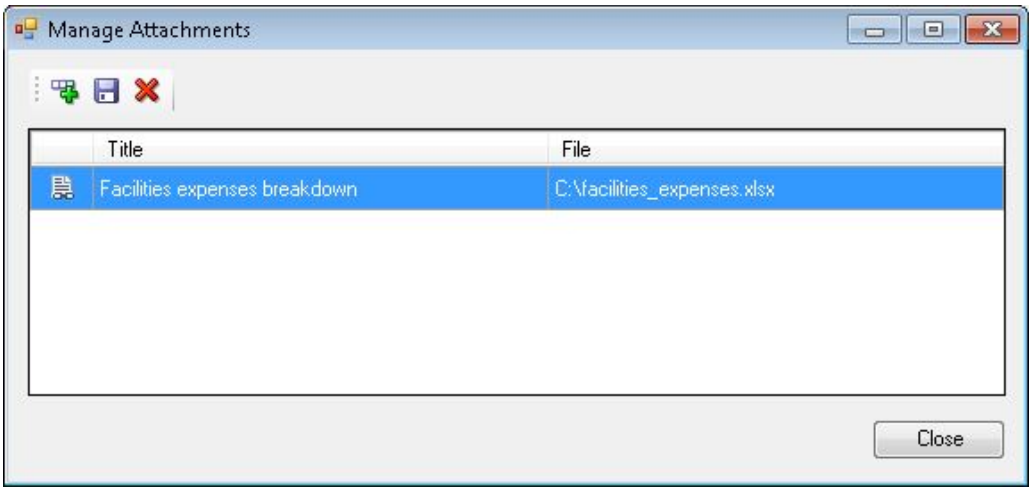
   選択するコメントは、スレッド内で唯一のコメントか最後のコメントである必要があります。

2. コメントにファイルを添付するには:

   a. **「添付の管理」**ボタン、をクリックします。

   b. **「添付の管理」**で、をクリックし、添付するファイルに移動して選択し、**「開く」**をクリックします。

   c. **「タイトル」**列で、ファイルの説明的なタイトルを追加し、**[Enter]**を押します。次に例を示します。



   d. **「保存」**、をクリックして添付とタイトル・テキストを保存します。

   「コメントには添付があります」という文が **EPRCS コメント**・テキスト・ボックスに追加されます。

> **ノート:**
>
> レビュー・インスタンスに含まれたすべてのユーザーが、すべてのコメントに関連付けられた添付を表示できるように、スレッド内のすべてのコメントで**「添付の管理」**ボタンを有効にします。

   e. コメントに添付するすべてのファイルに対して、ステップ 1 からステップ 2.d までを繰り返します。

3. コメント・テキストにカスタム・フォーマットを適用するには:

a. **EPRCS コメント**・テキスト・ボックスで、スレッドの最後のコメントを選択し、図 1 に示すドロップダウン・リストの矢印をクリックし、**「変更」**を選択します。

b. フォーマットするコメント・テキストを選択します。

c. **「フォーマット・バーの表示」**ボタンをクリックして、コメントにテキスト・フォーマットを追加します。

フォーマット・オプション:

- フォントのスタイル、サイズおよび色
- 太字、斜体および下線
- テキストを左揃え、右揃え、または中央揃えにする

d. **「入力」**をクリックして、変更を保持します。

4. コメントに URL を追加するには:

a. **EPRCS コメント**・テキスト・ボックスに URL を入力します。たとえば次のように入力します:

```
http://www.oracle.com
```

URL が認識されるようにするには、次のような有効な URL プロトコル識別子を前に付ける必要があります:

- `http://`
- `https://`

例:

```
http://www.oracle.com
```

コメントに URL を追加する前に、ブラウザで URL をテストして、動作することを確認することをお薦めします。

b. **「入力」**をクリックします。

5. **「クローズ」**、をクリックして、**EPRCS コメント**・テキスト・ボックスを終了します。

レビュー・コメントへの対処およびクローズ

レビュー・インスタンスにコメントが追加されると、コメントのステータスが「オープン」になります。コメント内の質問または検討事項が対処されると、ユーザーはコメントのステータスを「クローズ済」に変更できます。

コメントへの対処

一部のコメントは、コメントに対する単純な返信によって対処できます。その他のコメントでは、元のドックレットの改訂が必要になる場合があります。参照者を除く任意のユーザーが、コメントに応答または対処できます。レビューを完了としてマークすると、新規コメントを追加できなくなります。ただし、既存のコメントには引き続き返信できます。ユーザーがコメントに対して実行できるアクションの例を次に示します。

- 質問に回答し、コメントをクローズします。

たとえば、レビューでドックレット内の数値が最新の数値を表しているかどうかを尋ねられた場合は、それに関する知識を持つユーザーがコメントに返信し、クローズ済としてマークできます。

- ドックレットのコンテンツを編集し、コメントをクローズします。

  たとえば、レビューアが編集を提案した場合は、別のユーザーがドックレットをチェックアウトして編集してから、編集が行われたという返信をコメントに対して行い、コメントをクローズできます。

- 追加の改訂を行うためにドックレットをドックレットの文書作成者に送信します。

  たとえば、レビューアが、ドックレットに古いデータが使用されており、最新の数値で更新する必要があると提案した場合、レポート・パッケージの所有者は、文書作成者にドックレットを送信できます。ドックレットが再起動されると、ドックレットが再びオープンになったことを示す通知がドックレットの作成者に送信され、ドックレットのステータスが「開始済」に変更されます。文書作成者および承認者のドックレット期限は、レポート・パッケージの所有者が変更できます。この時点で、ドックレットは文書作成フェーズ(Smart View でのドックレットの文書作成を参照)と同じワークフローに従います。作成フェーズで割り当てられていた文書作成者および承認者によって編集および承認されます。

コメントのクローズ

コメントをクローズするには:

1. レビュー・センターのコメント・リストでコメントをダブルクリックします。
2. **EPRCS コメント**・ダイアログ・ボックスで、**「返答」**、↵をクリックし、返信テキストを入力します。
3. **「クローズ済としてマーク」**ボタン、🔒をクリックしてコメントをクローズします。

   コメントがクローズされたことを通知する返信が追加されます。

   コメントを再びオープンして追加コメントを追加するには、**「コメントの再オープン」**、🔓をクリックします。

レビュー・インスタンスの比較

Oracle Smart View for Office で、2 つのレビュー・インスタンスを比較して、レビュー・サイクル間(アクセスを持つレビュー・サイクル)で発生した変更の内容を確認できます。たとえば、選択したバージョンと前回のバージョンを比較したり、選択したバージョンと任意の過去のバージョンを比較したりできます。

これにより、レビュー担当者は、各レビュー・サイクルに割り当てられたすべてのコンテンツをレビューするのではなく、更新されたコンテンツのみのレビューに集中して、効率性を向上できます。

レビュー・インスタンスを比較するには:

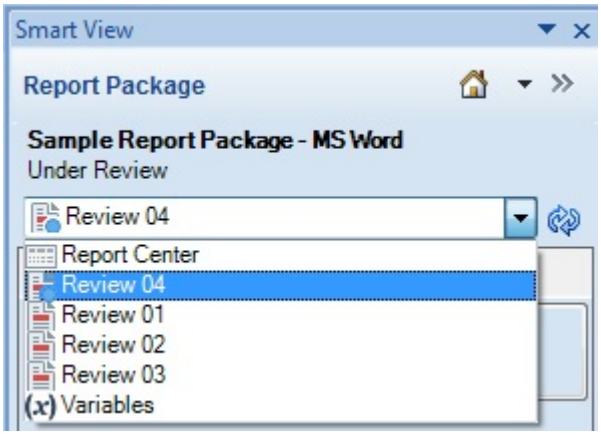
1. レポート・パッケージを開きます。

   レビュー・インスタンスの比較機能を使用するには、2 つ以上のレビュー・サイクルへのアクセス権を持っている必要があります。

2. **「コンテンツ・セレクタ」**で、比較の基とするレビュー・インスタンスを選択します。

   リストされるレビュー・インスタンスは、ユーザーに割り当てられているレビュー・インスタンスに従います。

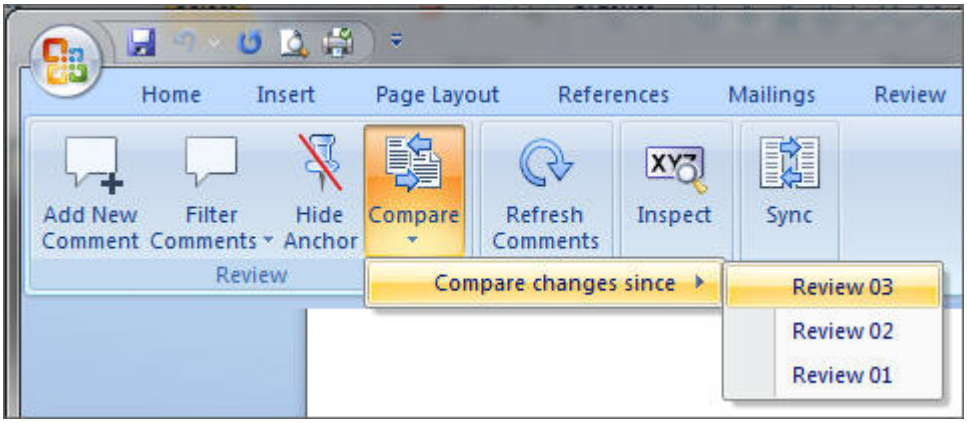
   次の例では、4 つのレビュー・インスタンスがリストされています。「Review 04」を選択します。選択すると、レビュー・インスタンスが Word で開きます。



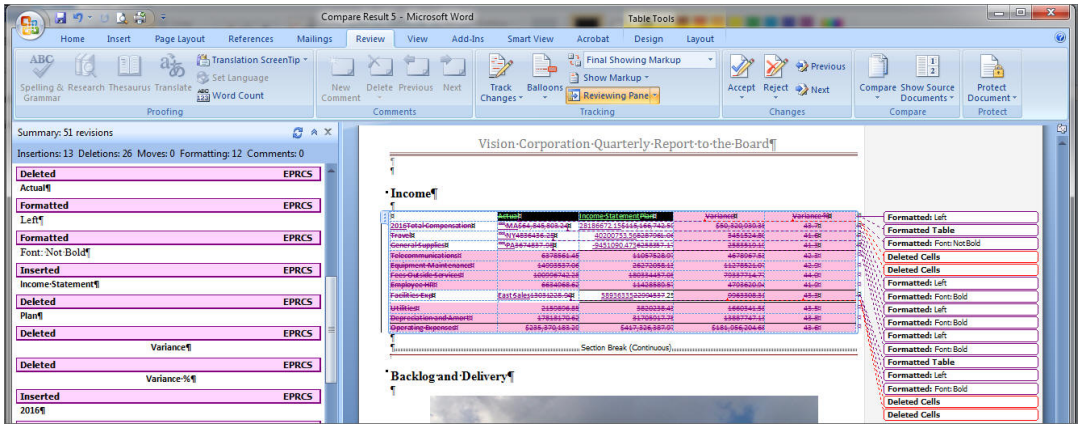
3. 「Narrative Reporting」リボンで、**「比較」**ボタンの矢印をクリックして**「次以降の変更の比較」**を表示し、ドロップダウン・リストからレビュー・インスタンスを選択します。

   「コンテンツ・セレクタ」で行ったレビュー・インスタンスの選択に応じて、対応する過去のレビュー・インスタンス・バージョンのリストが**「比較」**ドロップダウン・リストに表示されます。レビュー・インスタンスが 1 つしか存在しない場合、比較する対象の過去のバージョンはありません。

   次の例では、「Review 03」を選択します。つまり、Review 03 以降に Review 04 で発生した変更を調べます。



Smart View によって、2 つのレビュー・インスタンスがダウンロードされ、Microsoft Word の比較機能により、詳細な比較ドキュメントが生成されます。Word の「校閲」リボンの「前へ」および「次へ」ボタンを使用して、比較ドキュメント間を移動できます。



比較ドキュメントは表示のみできます。変更を維持するために、変更の受入れ機能を使用する必要はありません。

現在のレビュー・インスタンスに戻って必要なコメントを追加し、変更する任意のドックレットを開いて、チェックアウトできます。

4. 変更のレビューを終了したら、比較ドキュメントを閉じます。

レビューを完了としてマーク

レビューに問題がなく、レポート・パッケージの所有者に通知する場合は、レビューを完了としてマークします。

レビューを完了としてマークすると、追加のコメントを追加できなくなります。

レビューを完了としてマークするには:

1. 「Narrative Reporting」リボンで、**「レビュー完了としてマーク」**をクリックします。



> **ノート:**
>
> ボタンが**「コメント用に再オープン」**に切り替わります。

2. **オプション:** レポート・パッケージにレビュー・コメントをさらに追加するには、**「コメント用に再オープン」**ボタンをクリックします。



配布の操作

配布により、レポート・パッケージの所有者は、レポート・パッケージ開発の任意の時点で関係者にレポート・コンテンツを送信できます。

次も参照:

- 配布について
- 配布の表示

配布について

配布により、レポート・パッケージの所有者は、レポート・パッケージ開発の任意の時点で関係者にレポート・コンテンツを送信できます。受信者は、レポート・パッケージの所有者が選択するオプションに応じて、レポート・パッケージの所有者が割り当てたすべてのレポート・コンテンツを表示、ネイティブ・フォーマットでダウンロードまたは PDF としてダウンロードできます。

レポート・パッケージの所有者が配布を実行すると、受信者の電子メールおよび Narrative Reporting Web インタフェースの「メッセージ」タブに通知が送信されます。通知には、Narrative Reporting から配布コンテンツにアクセスするためのリンクが含まれます。電子メールのリンクをクリックして、Web インタフェースから配布を表示またはダウンロードできます。

または、Oracle Smart View for Office を起動し、レポート・パッケージを開き、「配布」パネルに移動し、Office から PDF フォーマットで配布を表示またはダウンロードできます。

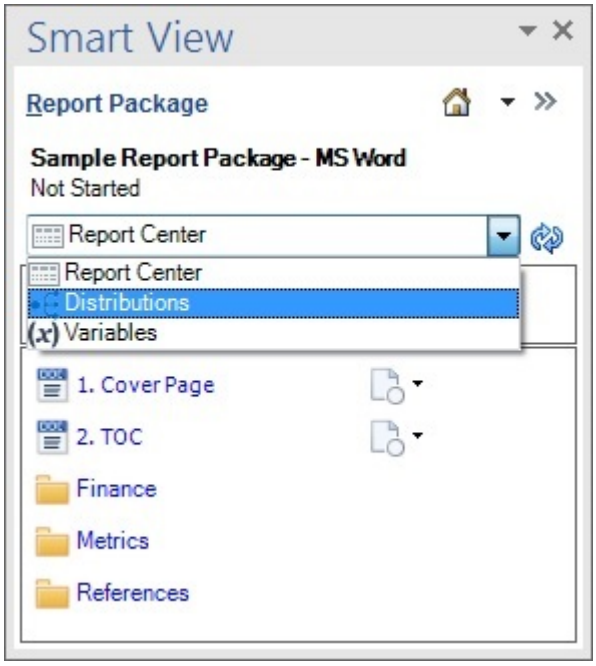
レポート・パッケージの所有者は、配布の設定の情報について *レポート・パッケージのレビュー、署名および受信* を参照できます。

配布の表示

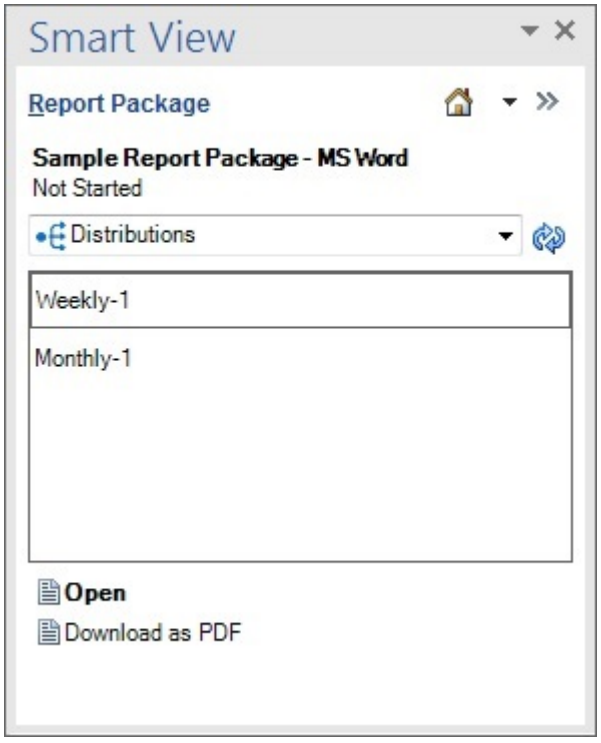
レポート・パッケージの所有者が配布を実行すると、受信者の電子メールおよび Web の「メッセージ」タブに通知が送信されます。通知には、配布コンテンツにアクセスするためのリンクが含まれます。Oracle Smart View for Office にログインし、レポート・パッケージの所有者が選択したオプションに応じて配布の PDF バージョンをダウンロードするか開いて表示することもできます。

配布を表示するには:

1. Smart View での Narrative Reporting への接続の説明に従って、Narrative Reporting に接続し、レポート・パッケージを開きます。
2. 「レポート・パッケージ」パネルで、ドロップダウン・リストから **「配布」** を選択します。



3. 「レポート・パッケージ」パネルの配布のリストから、配布を選択します。



4. 次のいずれかのアクションを行います:
   - **「開く」**をクリックして配布を即時に表示します。
   - **「PDF としてダウンロード」**をクリックして配布をダウンロードし、任意の時点で表示します。

サインオフの実行

署名者は、レポートのファイナライズされたコンテンツをレビューします。レポートをサインオフまたは否認できます。

次も参照:

- サインオフ・フェーズについて
- レポート・パッケージのサインオフまたは否認

サインオフ・フェーズについて

サインオフ・フェーズの目標は、主要な関係者から最終承認を得ることです。関係者のレビューによってコンテンツがファイナライズされ、レポート・パッケージがサインオフまたは否認されます。前のすべての文書作成およびレビュー・フェーズが完了している必要があり、すべてのドックレットがチェックインされて完了している必要もあります。サインオフ・フェーズでは、レポート・パッケージをロックし、承認済のコンテンツが変更されないようにすることができます。これはコンテンツに依存するレポートをロックして変更を防止するために役立ちます。

サインオフ・フェーズは次のプロセスに従います。

1. レポート・パッケージの所有者がサインオフ・インスタンスを作成し、サインオフ・フェーズを開始します。
2. 作業の開始を促す通知が署名者に送信されます。
3. 署名者は、サインオフ・インスタンスの形式のファイナライズされたコンテンツをレビューし、レポート・パッケージをサインオフまたは否認できます。

> **ノート:**
>
> すべての署名者が承認を提供すると、レポート・パッケージが最終としてマークされます。

レポート・パッケージのサインオフまたは否認

署名者は、最終的なレポートをレビューし、レポート・パッケージをサインオフまたは否認できます。さらに、署名者はアクションの詳細を含むノートを添付できます。

このトピックの手順を開始する前に、Microsoft Word または PowerPoint を起動し、Smart View での Narrative Reporting への接続の説明に従って Narrative Reporting に接続して、レポート・パッケージを開いている必要があります。

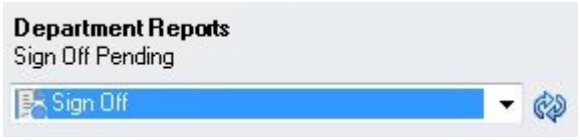
ビデオ

目的	このビデオを見る
Word ベースのレポート・パッケージのサインオフについて学習します。	 Smart View での Microsoft Word ベースのレポート・パッケージのサインオフ

目的	このビデオを見る
PowerPoint ベースのレポート・パッケージのサインオフについて学習します。	Smart View での Microsoft PowerPoint ベースのレポート・パッケージのサインオフ

レポート・パッケージをサインオフまたは否認するには:

1. Smart View パネルの**「コンテンツ・セレクタ」**ドロップダウン・リストで、**「サインオフ」**が選択されていることを確認します。



「サインオフ」を選択すると、レポート・パッケージをレビューしてサインオフするサインオフ・インスタンス・ドキュメントが起動します。

2. 次のいずれかを行います:

   - サインオフ・インスタンス・ドキュメントのレビューで問題がない場合は、「Narrative Reporting」リボンの**「サインオフ」**をクリックします。



     サインオフ・インスタンス・ドキュメントでサインオフすると、レポート・パッケージ・プロセスが完了し、レポートを発行する準備ができます。

   - サインオフ・インスタンス・ドキュメントに問題がある場合は、「Narrative Reporting」リボンの**「サインオフの却下」**をクリックします。



     レポート・パッケージの所有者は、問題に対処するための修正処理を実行できます。

3. **オプション:** サインオフ・インスタンス・ドキュメントでレポート・パッケージをサインオフするか否認するかにかかわらず、**「ノートの追加」**にコメントを追加し、**「サインオフ」**または**「サインオフの却下」**をクリックします。

すべての署名者がレポートを承認すると、レポート・パッケージのステータスは「最終」になります。

レポート・パッケージのリフレッシュ

Smart View パネルの「ライブラリ」ペイン内の「レポート・パッケージのリフレッシュ」コマンドを使用して、レポート・パッケージのコンテンツをリフレッシュできます。

「レポート・パッケージのリフレッシュ」を選択すると、Oracle Smart View for Office により、レポート・パッケージ内の各ドックレット(標準ドックレットとリファレンス・ドックレット)に対して次のアクションが実行されます:

- ダウンロード
- チェックアウト
- すべてのデータ・ポイント、埋込みコンテンツおよび変数のリフレッシュ。これには、すべての定義された Smart View Panel ソースの Excel リファレンスおよびサプリメンタル・ドックレット内のすべてのデータ・ポイントまたはデータ・シートが含まれます
- アップロード
- チェックイン

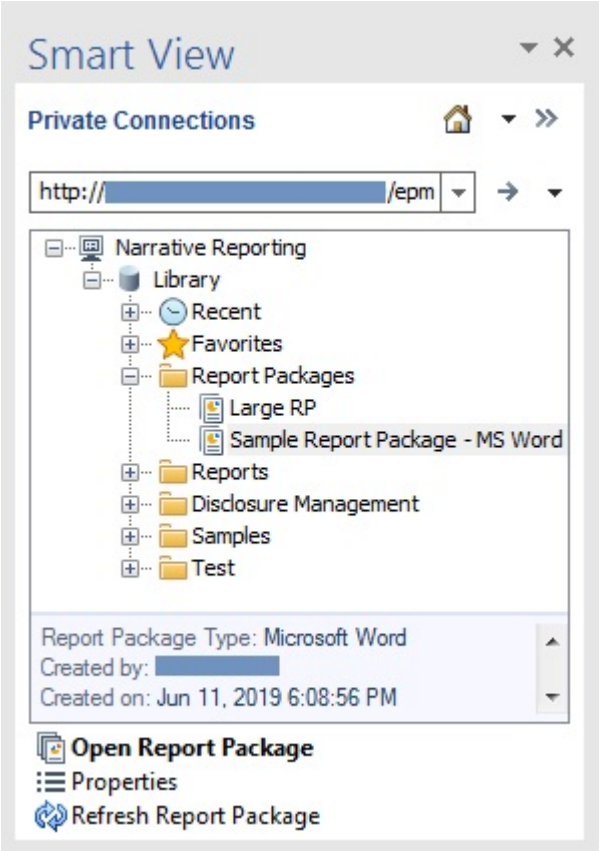
> **ノート:**
>
> **「レポート・パッケージのリフレッシュ」**を実行する際は、Smart View 問合せを含むドックレットなど、すべてのドックレットへのアクセス権が必要です。さらに、それらの問合せをリフレッシュするには、問合せがアクセスしているすべてのデータ・ソースへのログイン資格証明の入力を求められる場合があります。

レポート・パッケージをリフレッシュするには:

1. 「Smart View パネル」の「ライブラリ」ペインが選択されていることを確認します。

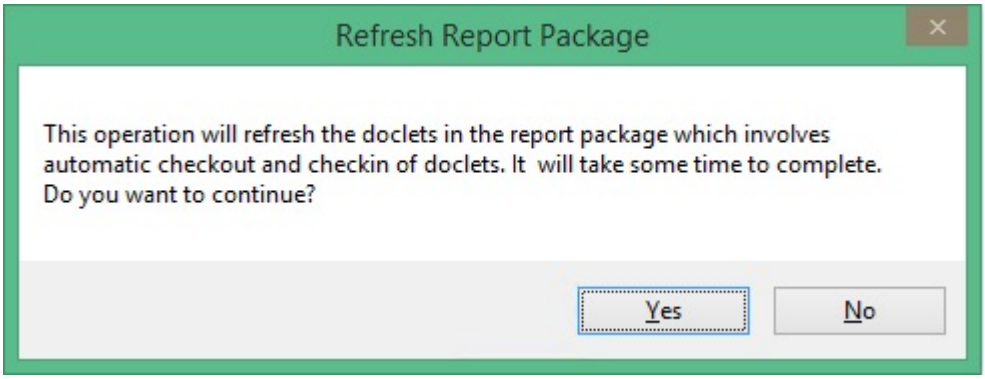
   「Narrative Reporting ホーム」から、「ライブラリ」をクリックし、**EPRCS** ノード、**「ライブラリ」**ノード、**「レポート・パッケージ」**フォルダの順に展開し、レポート・パッケージを選択します。

   次の例では、"Sample Report Package - MS Word"という名前のレポート・パッケージを選択できます。



2. レポート・パッケージが選択された状態で、アクション・パネルから**「レポート・パッケージのリフレッシュ」**をクリックします。

   処理に時間がかかる場合があることを知らせる**「レポート・パッケージのリフレッシュ」**プロンプトが表示されます。



3. プロンプトで、**「はい」**をクリックします。

   Smart View は、ドックレットのオープンおよびチェックアウト、データ・ポイント、Excel リファレンス・ドックレットのデータ・シート、埋込みコンテンツおよび変数のリフレッシュ、ならびにドックレットのクローズ処理を開始します。

   フォーカスが Office アプリケーション間を移動します。

   リフレッシュがすべてのドックレットで成功した場合、Smart View により、処理を開始した Office アプリケーションに戻されます。

レポート・パッケージ、セクションおよびドックレットの発行

レポート・パッケージ、特定のセクションおよび個々のドックレットを、Narrative Reporting Web アプリケーションから発行することに加えて、Smart View から直接発行できます。

PDF フォーマットまたはレポートのネイティブ・フォーマット(Word や PowerPoint など)でレポートを発行できます。発行されたレポートは、ローカル領域または Narrative Reporting ライブラリに保存できます。新しいバージョンを発行して保存する際に、すでに発行済のレポートを上書きすることもできます。

レポート・パッケージ、セクションまたはドックレットの発行時に、選択したすべてのレポート・コンテンツ用に単一のマージ・ファイルが作成されます。ただし、レポート・パッケージまたはセクションに存在するリファレンス・ドックレットやサプリメンタル・ドックレットなどのサポート・ドキュメントは、発行されません。

レポート・パッケージ、セクションまたはドックレットを発行するには:

1. 「Smart View パネル」の「ライブラリ」ペインが選択されていることを確認します。

   「Narrative Reporting ホーム」から、「ライブラリ」をクリックし、**「Narrative Reporting」**ノード、**「ライブラリ」**ノード、**「レポート・パッケージ」**フォルダの順に展開し、レポート・パッケージを選択します。

2. 選択したレポート・パッケージを発行するには、「アクション」パネルから**「レポートの公開」**をクリックします。

   または、選択したレポート・パッケージの特定のセクションまたはドックレットを発行するには、**「レポート・パッケージのオープン」**をクリックし、必要なセクションまたはドックレットを選択し、**「公開」**をクリックします。

   > **Note:**
   >
   > **「公開」**処理が「アクション」パネルに表示されるのは、セクションまたはドックレットに発行可能なコンテンツがある場合のみです。

3. **「公開」**ダイアログで、**「ファイル・タイプ」**フィールドの**「ネイティブ」**または**「PDF」**オプションのいずれかを選択します。

   > **Note:**
   >
   > PDF レポート・パッケージを発行する場合、デフォルトで**「PDF」**オプションが選択されています。

4. **「保存先」**フィールドで、**「ローカル」**または**「ライブラリ」**オプションのいずれかを選択し、**「参照」**をクリックしてレポートを保存する場所を選択します。
5. **オプション:** その場所に古いバージョンのレポートが存在する場合で、発行する現行バージョンでそれを上書きするには、**「既存のファイルを上書き」**チェック・ボックスを選択します。
6. **「OK」**をクリックして、レポート・パッケージ、セクションまたはドックレットを発行します。

ライブラリにネイティブ・フォーマットで発行した場合、発行したレポートは、Smart View パネルの Library/Documents の下の選択したフォルダに表示されます。

Smart View の Narrative Reporting での Office ドキュメントの Cloud EPM への保存

Oracle Smart View for Office では、Microsoft Office ドキュメントを Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management ライブラリに保存できます。Cloud EPM ライブラリに保存したドキュメントは、他のユーザーに対してアクセス可能にできます。保存したファイルをライブラリからダウンロードすることもできます。

Narrative Reporting での Office ドキュメントおよびその他のサポートされているデータ・ソースの保存の詳細は、Office ドキュメントの Cloud EPM への保存を参照してください。

Smart View でのレポートの操作

レポートは、Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management の財務および管理のレポートを作成するためのクラウドベースのレポート・ソリューションです。これにより、ユーザーは、Planning などの Cloud EPM ソース、および Oracle Essbase や ERP Cloud Financials などの他のソースを利用して、チャートやグリッドをレポートに挿入できます。

Narrative Reporting のレポートおよびその他のサポートされているデータ・ソースの操作の詳細は、レポートを参照してください。

Smart View での Narrative Reporting データの操作

Oracle Smart View for Office を使用して、サポートされているオンプレミスおよびクラウドのデータ・ソースからデータをコピーできます。

これには、Narrative Reporting データ・ソースが含まれ、データをレポート・パッケージのドックレットに貼り付けます。

たとえば、レポート・パッケージ内の同じドックレットまたは異なるドックレットに、Oracle Essbase および Narrative Reporting のデータを組み込むことができます。Word または PowerPoint のレポート・パッケージのドックレットに、Essbase ソースから作成された損益計算書レポートとともに、Narrative Reporting ソースから作成された損益計算書レポートが含まれている場合があります。コピーした領域のデータ・ポイントは Word または PowerPoint に保持されるため、ドックレットをリフレッシュしてデータを最新に保つことができます。

例: Smart View での Narrative Reporting データの操作のシナリオは、Excel のアド・ホック分析を使用してレポートを作成し、そのレポートからデータ・ポイントをコピーして Word のドックレットに貼り付けることを示しています。

例: Smart View での Narrative Reporting データの操作

この項のトピックでは、Narrative Reporting の次の機能について簡単に説明します。

- Narrative Reporting データ・ソースのアド・ホック問合せの実行およびデータの取得。
- ドックレットへの Narrative Reporting データのコピーと貼付けグリッドまたはデータ・ポイントの形式でデータをコピーして貼り付けることができます。

Narrative Reporting データに対するアド・ホック分析の実行

Narrative Reporting には、7 つのディメンションを含むモデルで構成されるサンプル・アプリケーションが付属しています。Narrative Reporting Web インタフェースで、ボタンをクリックしてサンプル・アプリケーションを作成します。

Oracle Smart View for Office でサンプル・モデルに接続する場合、表示する情報を含むデータ・レポートを作成できるアド・ホック問合せを実行できます。レポートからデータをコピーして Narrative Reporting レポート・パッケージのドックレットに貼り付けることができます。グリッドまたは個々のデータ・ポイントをコピーしてドックレットに貼り付けることができます。

このトピックのシナリオでは、Narrative Reporting でドックレットをレポート・パッケージに組み込むための準備として、アド・ホック・グリッドを作成し、個々のデータ・ポイントとグリッド全体をドックレットに貼り付ける方法を説明します。

ビデオ

目的	このビデオを見る
アド・ホック分析を使用したデータ分析について学習します。	Smart View での拡張アド・ホック・レポートの作成

Narrative Reporting データ・ソースからアド・ホック・グリッドを作成するには:

1. まだ実行していない場合、Excel を起動し、Narrative Reporting への接続の作成の説明に従ってデータ・ソース接続を設定します。
2. Excel で、Narrative Reporting データ・ソースに接続します。

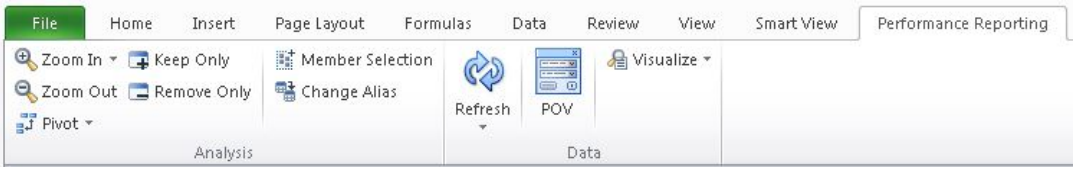
   Smart View での Narrative Reporting への接続を参照してください。
3. Smart View パネルで、**「レポート・アプリケーション」**、**「サンプル・アプリケーション」**の順に展開し、**サンプル・モデル**を右クリックして**「アドホック分析」**を選択します。

   初期のディメンションおよびデータがシート上に配置されます。「勘定科目」ディメンションと「会計カレンダ」ディメンションがアクティブなディメンションです。

> **ノート:**
>
> ディメンション「エンティティ」、セグメント合計、「通貨」、「年」および「シナリオ」は、グリッドの本文ではなく「POV」にあります。これらはグリッドのデータ・パースペクティブを 変更するために使用できますが、このシナリオではその機能を示しません。

	A	B	C	D	E	F
1		Entities	Total Segr	Currencie	Years	Scenarios
2		Accounts				
3	Fiscal Cale	########				

アド・ホック機能の「Narrative Reporting」リボンが表示されます。



4. 続行する前に、Smart View のリボンで**「オプション」**をクリックし、**「フォーマット」**タブを選択して、次のオプションが選択されていることを確認します。
   - **Excel フォーマットの使用**
   - **列の幅と行の高さの調整**

   「OK」をクリックします。
5. Smart View のリボンまたは「Narrative Reporting」リボンの**「リフレッシュ」**ボタンをクリックして、現在のグリッドのフォーマット変更の影響を確認します。

	A	B	C	D	E	F
1		Entities	Total Segments	Currencies	Years	Scenarios
2		Accounts				
3	Fiscal Calendar	50506747.63				

   レイアウトの目的は、行に「勘定科目」メンバーを表示し、列に「シナリオ」メンバーを表示して、単純な営業費用レポートを作成することです。
6. 「シナリオ」ディメンションを列に移動するには、「シナリオ」ディメンション・セルを右クリックしてドラッグし、「勘定科目」ディメンション・セルにドロップします。

	A	B	C	D	E
1		Entities	Total Segments	Currencies	Years
2		Scenarios			
3		Accounts			
4	Fiscal Calendar	50506747.63			

7. 「勘定科目」ディメンションを行に移動するには、「勘定科目」ディメンション・セルを右クリックしてドラッグし、「会計カレンダ」ディメンション・セルにドロップします。

	A	B	C	D	E	F
1			Entities	Total Segments	Currencies	Years
2			Scenarios			
3	Accounts	Fiscal Calendar	50506747.63			
4						

8. 「会計カレンダ」ディメンションを右クリックして「POV」行にドラッグし、「エンティティ」ディメンションにドロップします。

	A	B	C	D	E	F
1		Fiscal Calendar	Entities	tal Segments	Currencies	Years
2		Scenarios				
3	Accounts	50506747.63				

前のグリッドでは、「シナリオ」および「勘定科目」ディメンションがアクティブなディメンションです。ディメンション「会計カレンダ」、「エンティティ」、セグメント合計、「通貨」および「年」は、「POV」にあります。これは目的のディメンション・レイアウトです。

ここで、行および列メンバーにズーム・インし、「Narrative Reporting」リボンの「選択項目のみ保持」および「選択項目のみ削除」ボタンを使用して、表示する行および列レイアウトを作成します。

9. 「シナリオ」ディメンションを選択し、「Narrative Reporting」リボンで**「ズーム・イン」**をダブルクリックまたはクリックします。

	A	B	C	D	E	F	G
1		Fiscal Calendar	Entities	Total Segments	Currencies	Years	
2		Actual	Plan	Forecast	Variance	Variance %	Scenarios
3	Accounts	50506747.63	95734223.23	#Missing	-45227475.6	-47.24274567	50506747.63

10. **[Ctrl]**キーを押し、「予測」および「シナリオ」メンバーを選択し、「Narrative Reporting」リボンの**「選択項目のみ削除」**ボタンをクリックします。

グリッドは次のようになります。

	A	B	C	D	E	F	G
1		Fiscal Calendar	Entities	Total Segments	Currencies	Years	
2		Actual	Plan	Variance	Variance %		
3	Accounts	50506747.63	95734223.23	-45227475.6	-47.24274567		

ここで、「営業費用」メンバーにズーム・インします。

11. 「勘定科目」を選択し、「Narrative Reporting」リボンの**「ズーム・イン」**をダブルクリックまたはクリックします。

最初のズーム・インの結果:

	A	B	C	D	E	F
1		Fiscal Calendar	Entities	Total Segments	Currencies	Years
2		Actual	Plan	Variance	Variance %	
3	Income Statement	50506747.63	95734223.23	-45227475.6	-47.24274567	
4	Balance Sheet	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	
5	Statistics	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	
6	Accounts	50506747.63	95734223.23	-45227475.6	-47.24274567	

12. ズーム・インに進みます。
    a. 「損益計算書」メンバーで**「ズーム・イン」**をクリックします。

b. 「純利益」メンバーで**「ズーム・イン」**をクリックします。

c. 「税引前収益合計」メンバーで**「ズーム・イン」**をクリックします。

d. 「事業からの税引前利益」メンバーで**「ズーム・イン」**をクリックします。

グリッドは次のようになります。

	A	B	C	D	E	F
1		Fiscal Calendar	Entities	Total Segments	Currencies	Years
2		Actual	Plan	Variance	Variance %	
3	Gross Profit	336361285.4	602930074.5	-266568789.1	-44.212223	
4	Operating Expenses	235370183.29	417326388	181956204.7	43.60045517	
5	Pretax Income From Operations	100991102.1	185603686.5	-84612584.38	-45.58777144	
6	Other Exp (Inc)	-20797054.5	-37816841.08	-17019786.58	-45.00583893	
7	Total Pretax Income	80194047.61	147786845.4	-67592797.8	-45.73668083	
8	Provision for Income Tax	29687299.97	52052622.17	22365322.19	42.96675415	
9	Minority Interest Income	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	
10	Net Income	50506747.63	95734223.23	-45227475.6	-47.24274567	
11	Income Statement	50506747.63	95734223.23	-45227475.6	-47.24274567	
12	Balance Sheet	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	
13	Statistics	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	
14	Accounts	50506747.63	95734223.23	-45227475.6	-47.24274567	

13. 「営業費用」メンバーのみを保持するには、「営業費用」セルを選択し、「Narrative Reporting」リボンの**「選択項目のみ保持」**をクリックします。

グリッドは次のようになります。

	A	B	C	D	E	F
1		Fiscal Calendar	Entities	Total Segments	Currencies	Years
2		Actual	Plan	Variance	Variance %	
3	Operating Expenses	235370183.3	417326388	181956204.7	43.60045517	
4						

14. 「営業費用」メンバー・セルをダブルクリックまたはズーム・インします。

15. 展開されたグリッドで、行に「#Missing」と表示されているメンバー、営業費用シナジーおよび「配賦」を選択し、「Narrative Reporting」リボンの**「選択項目のみ削除」**をクリックします。

グリッドは次のようになります。

	A	B	C	D	E	F
1		Fiscal Calendar	Entities	Total Segments	Currencies	Years
2		Actual	Plan	Variance	Variance %	
3	Total Compensation	64845803.24	115166742.6	50320939.35	43.6939851	
4	Travel	4836436.25	8287961.057	3451524.802	41.64504126	
5	General Supplies	3674837.978	6258357.165	2583519.187	41.28110811	
6	Telecommunications	6378561.445	11057528.97	4678967.528	42.31476616	
7	Equipment Maintenance	14993537.06	26272058.13	11278521.07	42.92972028	
8	Fees Outside Services	100996742.3	180334457.1	79337714.77	43.99476177	
9	Employee HR	6634968.623	11428589.57	4793620.944	41.94411669	
10	Facilities Exp	13031228.94	22994537.25	9963308.314	43.3290229	
11	Utilities	2159896.852	3820238.434	1660341.582	43.46172656	
12	Depreciation and Amort	17818170.62	31705917.75	13887747.13	43.80175097	
13	Operating Expenses	235370183.3	417326388	181956204.7	43.60045517	
14						

ここで、左の列をフォーマットします。

16. 左揃えされたリストの場合は、Smart View のリボンで**「オプション」**をクリックし、**「メンバー・オプション」**タブをクリックします。
17. **「インデント」**で、**「なし」**を選択し、**「OK」**をクリックします。
18. Smart View のリボンまたは「Narrative Reporting」リボンで、**「リフレッシュ」**をクリックします。

    グリッドは次のようになります。

	A	B	C	D	E	F
1		Fiscal Calendar	Entities	Total Segments	Currencies	Years
2		Actual	Plan	Variance	Variance %	
3	Total Compensation	64845803.24	115166742.6	50320939.35	43.6939851	
4	Travel	4836436.25	8287961.057	3451524.802	41.64504126	
5	General Supplies	3674837.978	6258357.165	2583519.187	41.28110811	
6	Telecommunications	6378561.445	11057528.97	4678967.528	42.31476616	
7	Equipment Maintenance	14993537.06	26272058.13	11278521.07	42.92972028	
8	Fees Outside Services	100996742.3	180334457.1	79337714.77	43.99476177	
9	Employee HR	6634968.623	11428589.57	4793620.944	41.94411669	
10	Facilities Exp	13031228.94	22994537.25	9963308.314	43.3290229	
11	Utilities	2159896.852	3820238.434	1660341.582	43.46172656	
12	Depreciation and Amort	17818170.62	31705917.75	13887747.13	43.80175097	
13	Operating Expenses	235370183.3	417326388	181956204.7	43.60045517	

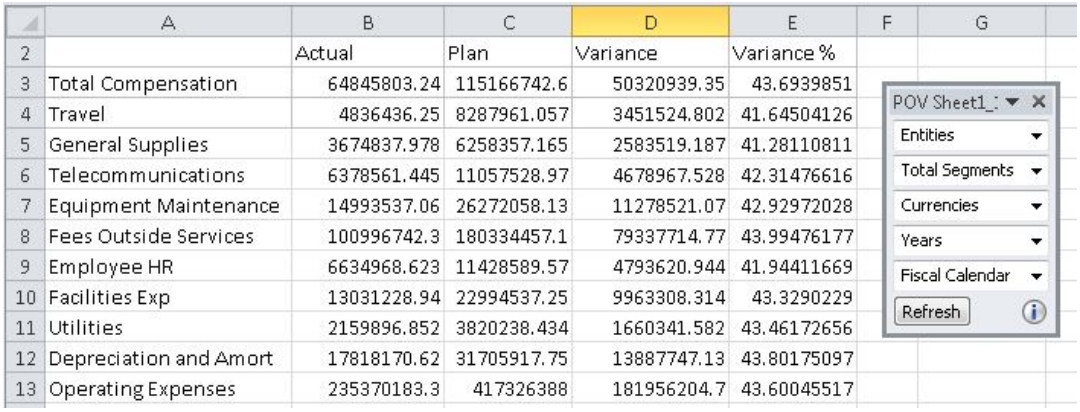
ここで、レポートの最初の行から「POV」メンバーを削除します。

19. 「Narrative Reporting」リボンで、**「POV」**ボタンをクリックします。



「POV」ボタンをクリックすると、図 1 に示すように、「POV」メンバーがグリッド上の**位置が固定されていない** POV ツールバーに移動します。

図 24-54 POV ツールバー



	A	B	C	D	E	F	G
2		Actual	Plan	Variance	Variance %		
3	Total Compensation	64845803.24	115166742.6	50320939.35	43.6939851		
4	Travel	4836436.25	8287961.057	3451524.802	41.64504126		
5	General Supplies	3674837.978	6258357.165	2583519.187	41.28110811		
6	Telecommunications	6378561.445	11057528.97	4678967.528	42.31476616		
7	Equipment Maintenance	14993537.06	26272058.13	11278521.07	42.92972028		
8	Fees Outside Services	100996742.3	180334457.1	79337714.77	43.99476177		
9	Employee HR	6634968.623	11428589.57	4793620.944	41.94411669		
10	Facilities Exp	13031228.94	22994537.25	9963308.314	43.3290229		
11	Utilities	2159896.852	3820238.434	1660341.582	43.46172656		
12	Depreciation and Amort	17818170.62	31705917.75	13887747.13	43.80175097		
13	Operating Expenses	235370183.3	417326388	181956204.7	43.60045517		

> **ノート:**
>
> POV ツールバーを Excel ウィンドウの上、下、左または右にドラッグすることで、POV ツールバーをグリッド上で移動またはドッキングできます。ツールバーをドラッグする際に、**[Ctrl]**キーを押したままにすることで、POV ツールバーをドッキングしないようにできます。

ここで、グリッドの数値にフォーマットを適用します。数値のフォーマットは、グリッドをコピーして Word に貼り付けるときに引き継がれます。

20. **[Ctrl]**キーを押しながら、レポートの最初と最後の行でドル金額を選択します(セル B3、C3、D3、B13、C13 および D13)。

	A	B	C	D	E
2		Actual	Plan	Variance	Variance %
3	Total Compensation	64845803.24	115166742.6	50320939.35	43.6939851
4	Travel	4836436.25	8287961.057	3451524.802	41.64504126
5	General Supplies	3674837.978	6258357.165	2583519.187	41.28110811
6	Telecommunications	6378561.445	11057528.97	4678967.528	42.31476616
7	Equipment Maintenance	14993537.06	26272058.13	11278521.07	42.92972028
8	Fees Outside Services	100996742.3	180334457.1	79337714.77	43.99476177
9	Employee HR	6634968.623	11428589.57	4793620.944	41.94411669
10	Facilities Exp	13031228.94	22994537.25	9963308.314	43.3290229
11	Utilities	2159896.852	3820238.434	1660341.582	43.46172656
12	Depreciation and Amort	17818170.62	31705917.75	13887747.13	43.80175097
13	Operating Expenses	235370183.3	417326388	181956204.7	43.60045517

21. セル B3、C3、D3、B13、C13 および D13 を選択し、Excel の「ホーム」リボンの**「数値」**グループで、**「通貨表示形式」**ボタン $ をクリックします。

    アメリカ英語以外の環境で作業している場合は、ロケールのデフォルト通貨記号を選択します。

22. Excel の「ホーム」リボンで、通貨と差異の割合の数値を次のように変更します。
    a. 列 B、C および D の数値のみ選択し、**「数値」**グループで**「桁区切りスタイル」**ボタン、 をクリックします。
    b. 列 E の差異%の数値のみ選択し、小数点以下 1 桁になるまで**「数値」**グループの**「小数点以下の表示桁数を減らす」**ボタン、をクリックします。

    図 2 に示すようなレポートが作成されます。

図 24-55 「Narrative Reporting」データ・ソースのアド・ホック・レポート

	A	B	C	D	E
2		Actual	Plan	Variance	Variance %
3	Total Compensation	$ 64,845,803.24	$ 115,166,742.59	$ 50,320,939.35	43.7
4	Travel	4,836,436.25	8,287,961.06	3,451,524.80	41.6
5	General Supplies	3,674,837.98	6,258,357.17	2,583,519.19	41.3
6	Telecommunications	6,378,561.45	11,057,528.97	4,678,967.53	42.3
7	Equipment Maintenance	14,993,537.06	26,272,058.13	11,278,521.07	42.9
8	Fees Outside Services	100,996,742.28	180,334,457.05	79,337,714.77	44.0
9	Employee HR	6,634,968.62	11,428,589.57	4,793,620.94	41.9
10	Facilities Exp	13,031,228.94	22,994,537.25	9,963,308.31	43.3
11	Utilities	2,159,896.85	3,820,238.43	1,660,341.58	43.5
12	Depreciation and Amort	17,818,170.62	31,705,917.75	13,887,747.13	43.8
13	Operating Expenses	$ 235,370,183.29	$ 417,326,387.97	$ 181,956,204.68	43.6

このフォーマットは、Word のレポート・パッケージのドックレットに引き継がれます。Word でドックレットを文書作成する場合、フォーマットを追加します(ドックレットへの Narrative Reporting データのコピーと貼付けを参照)。

23. レポートを保存し、ドックレットへの Narrative Reporting データのコピーと貼付けに進みます。

    このレポートの動的データ・ポイントをコピーして Narrative Reporting レポート・パッケージのドックレットに貼り付ける方法を示します。これは、ドックレットの文書作成者がレポート・パッケージ・ライフサイクルの文書作成フェーズ中に実行する一般的なタスクです。

ドックレットへの Narrative Reporting データのコピーと貼付け

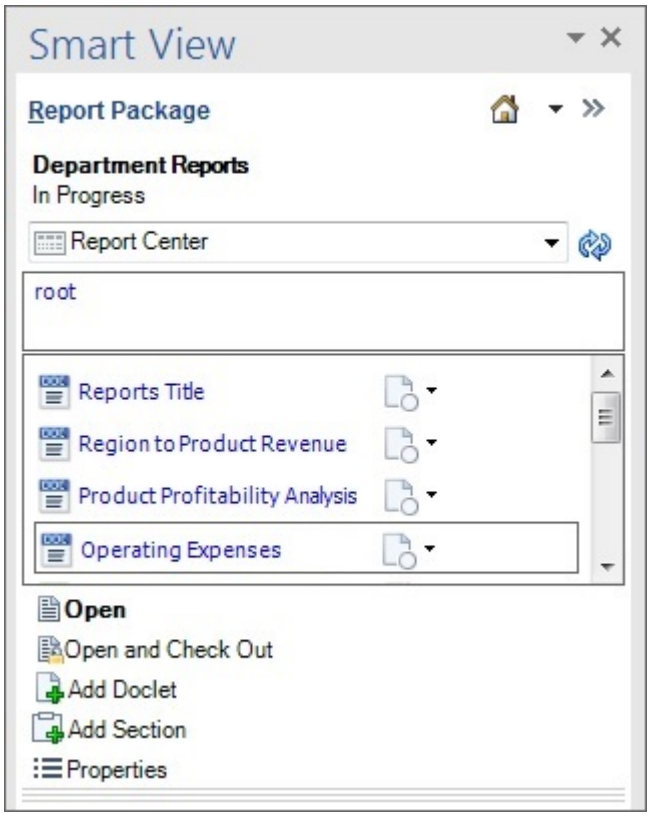
このデモでは、部署レポートという Word ベースのレポート・パッケージ例を操作します。Narrative Reporting データに対するアド・ホック分析の実行で作成したデータを使用して、「営業費用」というドックレットにリフレッシュ可能なデータ・ポイントを作成します。ドックレットには、データ・ポイントに散在するテキストと、完全なグリッドが含まれます。

> **ノート:**
>
> このトピックの手順は、PowerPoint ベースのレポート・パッケージで実行することもできます。

Narrative Reporting データをドックレットにコピーして貼り付けるには:

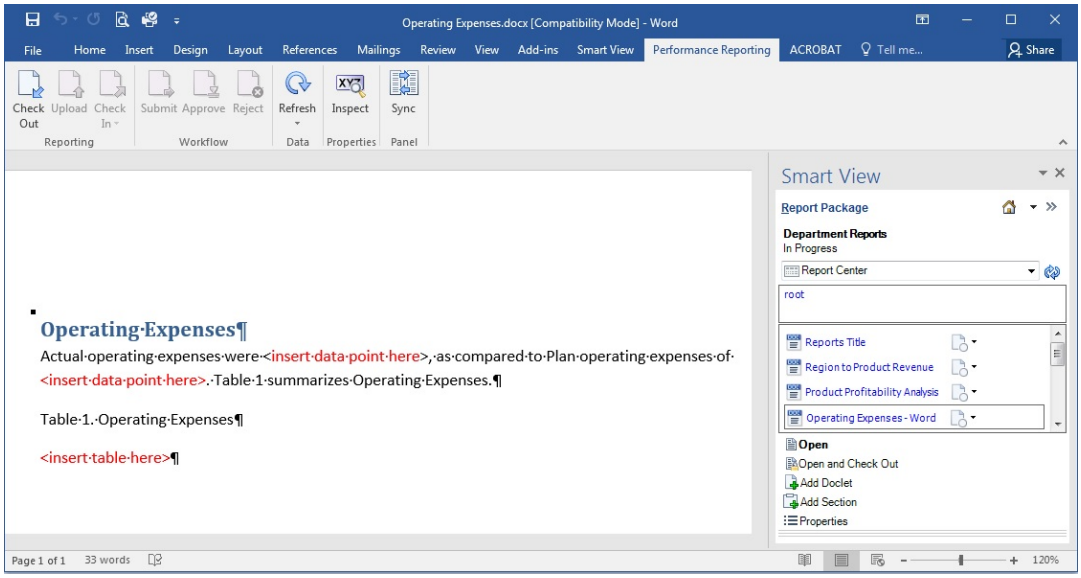
1. Word で、Smart View での Narrative Reporting への接続の説明に従って、Narrative Reporting データ・ソースに接続して、レポート・パッケージを開きます。
2. Smart View パネルで、チェックアウトするドックレットを選択します。

図 24-56 「営業費用」ドックレットが選択されている Smart View パネル



3. ドックレット名をダブルクリックして開きます。

図 24-57 チェックアウトの準備ができた、Smart View パネルから開いたドックレット



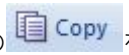
4. 「Narrative Reporting」リボンで、**「チェックアウト」**をクリックします。



ドックレットで文書作成できるようになりました。図 2 のドックレットの例には、データ・ポイントを貼り付ける段落内にプレースホルダが含まれます。表キャプションの下にグリッド全体を貼り付けることができます。

5. データ・ポイントをコピーして貼り付けるには:

   a. Narrative Reporting データに対するアド・ホック分析の実行で作成したアドレス・ホック・グリッドを開いて接続します。

   b. セル B13 の実績合計営業費用の数値を選択し、Smart View のリボンの

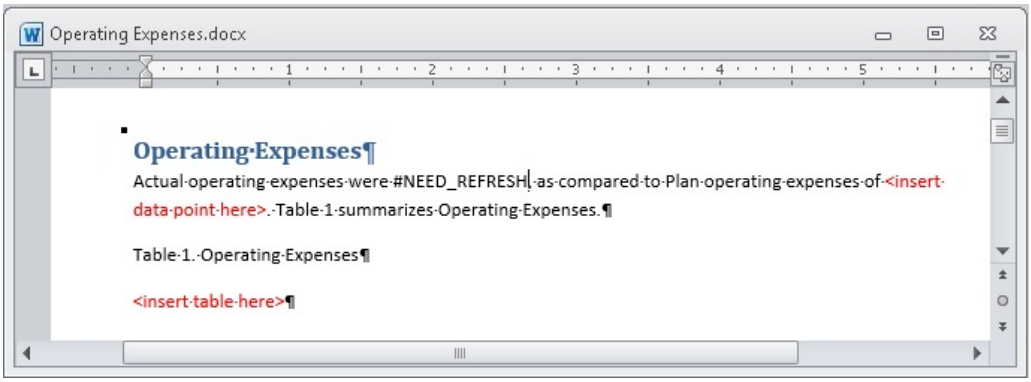
をクリックします。

	A	B
2		Actual
3	Total Compensation	$ 64,845,803.24
4	Travel	4,836,436.25
5	General Supplies	3,674,837.98
6	Telecommunications	6,378,561.45
7	Equipment Maintenance	14,993,537.06
8	Fees Outside Services	100,996,742.28
9	Employee HR	6,634,968.62
10	Facilities Exp	13,031,228.94
11	Utilities	2,159,896.85
12	Depreciation and Amort	17,818,170.62
13	Operating Expenses	$ 235,370,183.29

> **ヒント:**
>
> アド・ホック・グリッドに接続し、Smart View のリボンの**「コピー」**および**「貼付け」**ボタンを使用して、コピーして貼り付けるデータが Office アプリケーション間で動的に残るようにする必要があります。

   c. Word で、段落内の必要な場所にカーソルを置き、Smart View のリボンの**「貼付け」**をクリックします。

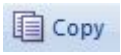
   貼付け操作により、プレースホルダ"#NEED_REFRESH"が生成されます。



このシナリオでは、プランの営業費用の 2 番目のデータ・ポイントが段落に貼り付けられます。

6. 範囲をコピーして貼り付けるには:

   a. Narrative Reporting データに対するアド・ホック分析の実行で作成したアド・ホック・グリッドに移動します。

   b. すべてのメンバーを含むグリッド全体を選択して、

をクリックします。図 3 の例では、セル A2 から E13 までが選択されています。

      Narrative Reporting データに対するアド・ホック分析の実行で行 1 の POV ディメンションを POV ツールバーに移動したことに注意してください。このため、コピーするグリッドは行 2 から開始します。

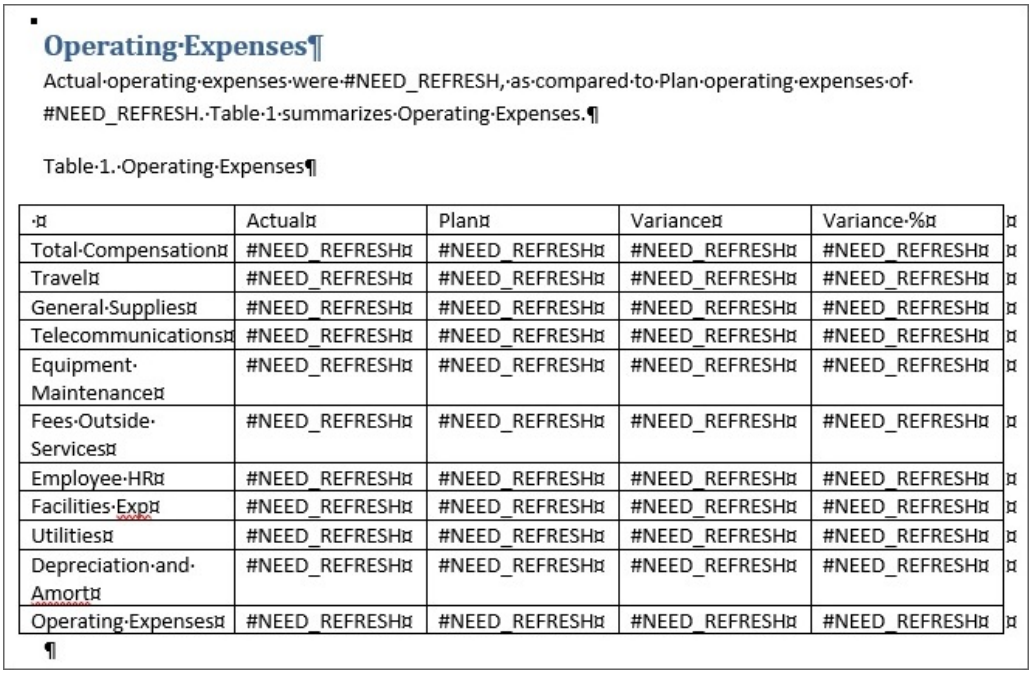
図 24-58 アド・ホック・レポート全体をコピー対象として選択

	A	B	C	D	E
2		Actual	Plan	Variance	Variance %
3	Total Compensation	$ 64,845,803.24	$ 115,166,742.59	$ 50,320,939.35	43.7
4	Travel	4,836,436.25	8,287,961.06	3,451,524.80	41.6
5	General Supplies	3,674,837.98	6,258,357.17	2,583,519.19	41.3
6	Telecommunications	6,378,561.45	11,057,528.97	4,678,967.53	42.3
7	Equipment Maintenance	14,993,537.06	26,272,058.13	11,278,521.07	42.9
8	Fees Outside Services	100,996,742.28	180,334,457.05	79,337,714.77	44.0
9	Employee HR	6,634,968.62	11,428,589.57	4,793,620.94	41.9
10	Facilities Exp	13,031,228.94	22,994,537.25	9,963,308.31	43.3
11	Utilities	2,159,896.85	3,820,238.43	1,660,341.58	43.5
12	Depreciation and Amort	17,818,170.62	31,705,917.75	13,887,747.13	43.8
13	Operating Expenses	$ 235,370,183.29	$ 417,326,387.97	$ 181,956,204.68	43.6

   c. Word で、必要な位置にカーソルを置き、Smart View のリボンで**「貼付け」**をクリックします。

      貼付け操作により、図 4 に示すように、表のすべてのセルにプレースホルダ "#NEED_REFRESH"が移入されます。

図 24-59 表キャプションの下に貼り付けられたアド・ホック・グリッド範囲



Operating·Expenses¶

Actual·operating·expenses·were·#NEED_REFRESH,·as·compared·to·Plan·operating·expenses·of·#NEED_REFRESH.·Table·1·summarizes·Operating·Expenses.¶

Table·1.·Operating·Expenses¶

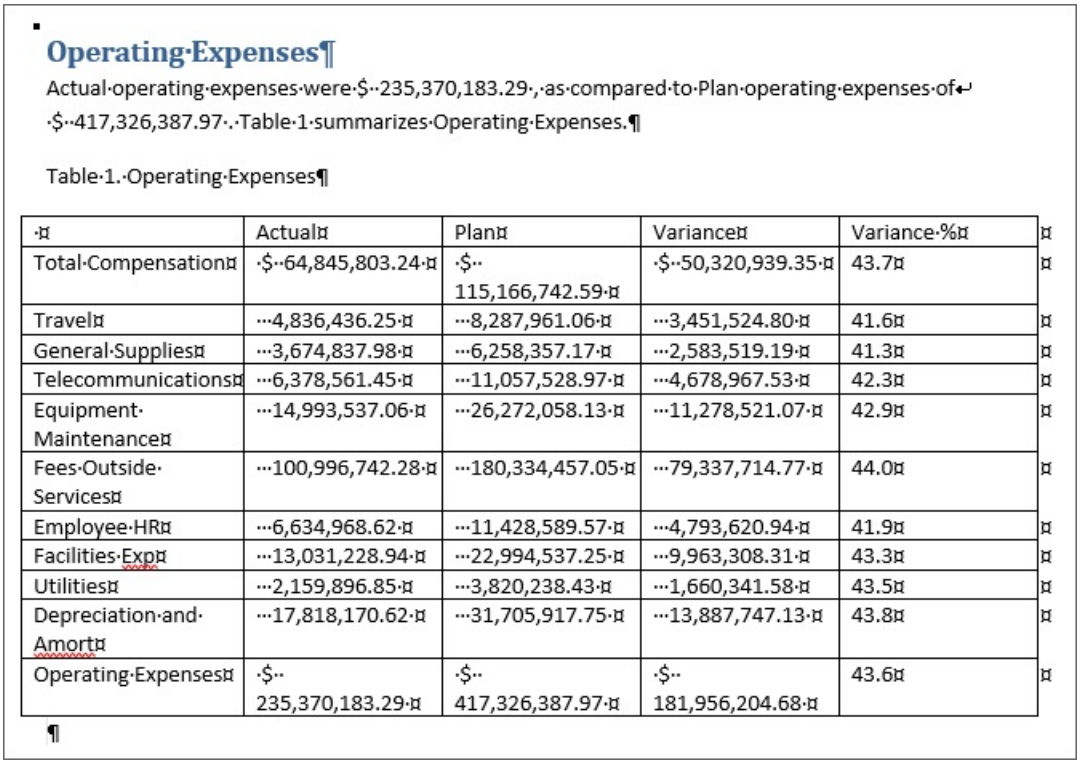
·¤	Actual¤	Plan¤	Variance¤	Variance·%¤	¤
Total·Compensation¤	#NEED_REFRESH¤	#NEED_REFRESH¤	#NEED_REFRESH¤	#NEED_REFRESH¤	¤
Travel¤	#NEED_REFRESH¤	#NEED_REFRESH¤	#NEED_REFRESH¤	#NEED_REFRESH¤	¤
General·Supplies¤	#NEED_REFRESH¤	#NEED_REFRESH¤	#NEED_REFRESH¤	#NEED_REFRESH¤	¤
Telecommunications¤	#NEED_REFRESH¤	#NEED_REFRESH¤	#NEED_REFRESH¤	#NEED_REFRESH¤	¤
Equipment·Maintenance¤	#NEED_REFRESH¤	#NEED_REFRESH¤	#NEED_REFRESH¤	#NEED_REFRESH¤	¤
Fees·Outside·Services¤	#NEED_REFRESH¤	#NEED_REFRESH¤	#NEED_REFRESH¤	#NEED_REFRESH¤	¤
Employee·HR¤	#NEED_REFRESH¤	#NEED_REFRESH¤	#NEED_REFRESH¤	#NEED_REFRESH¤	¤
Facilities·Exp¤	#NEED_REFRESH¤	#NEED_REFRESH¤	#NEED_REFRESH¤	#NEED_REFRESH¤	¤
Utilities¤	#NEED_REFRESH¤	#NEED_REFRESH¤	#NEED_REFRESH¤	#NEED_REFRESH¤	¤
Depreciation·and·Amort¤	#NEED_REFRESH¤	#NEED_REFRESH¤	#NEED_REFRESH¤	#NEED_REFRESH¤	¤
Operating·Expenses¤	#NEED_REFRESH¤	#NEED_REFRESH¤	#NEED_REFRESH¤	#NEED_REFRESH¤	¤

¶

データ・ポイントと範囲をリフレッシュする準備ができました。

7. Smart View のリボンまたは「Narrative Reporting」リボンで、**「リフレッシュ」**をクリックします。

結果のドックレット・ページは次のようになります。



Operating·Expenses¶

Actual·operating·expenses·were·$··235,370,183.29·,·as·compared·to·Plan·operating·expenses·of·$··417,326,387.97·.·Table·1·summarizes·Operating·Expenses.¶

Table·1.·Operating·Expenses¶

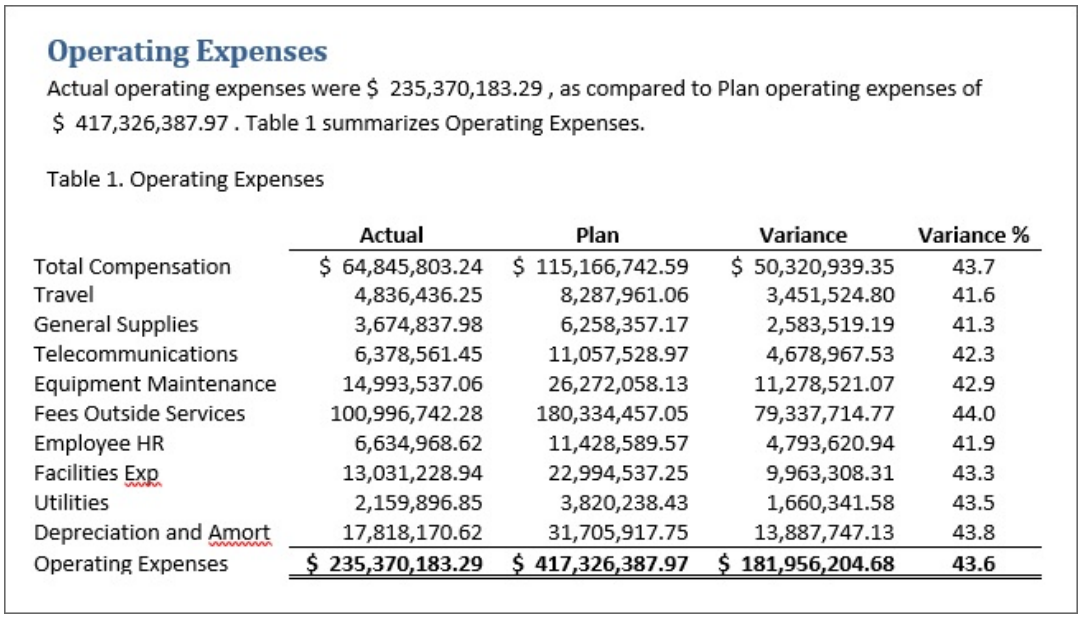
·¤	Actual¤	Plan¤	Variance¤	Variance·%¤	¤
Total·Compensation¤	·$··64,845,803.24·¤	·$·· 115,166,742.59·¤	·$··50,320,939.35·¤	43.7¤	¤
Travel¤	···4,836,436.25·¤	···8,287,961.06·¤	···3,451,524.80·¤	41.6¤	¤
General·Supplies¤	···3,674,837.98·¤	···6,258,357.17·¤	···2,583,519.19·¤	41.3¤	¤
Telecommunications¤	···6,378,561.45·¤	···11,057,528.97·¤	···4,678,967.53·¤	42.3¤	¤
Equipment·Maintenance¤	···14,993,537.06·¤	···26,272,058.13·¤	···11,278,521.07·¤	42.9¤	¤
Fees·Outside·Services¤	···100,996,742.28·¤	···180,334,457.05·¤	···79,337,714.77·¤	44.0¤	¤
Employee·HR¤	···6,634,968.62·¤	···11,428,589.57·¤	···4,793,620.94·¤	41.9¤	¤
Facilities·Exp¤	···13,031,228.94·¤	···22,994,537.25·¤	···9,963,308.31·¤	43.3¤	¤
Utilities¤	···2,159,896.85·¤	···3,820,238.43·¤	···1,660,341.58·¤	43.5¤	¤
Depreciation·and·Amort¤	···17,818,170.62·¤	···31,705,917.75·¤	···13,887,747.13·¤	43.8¤	¤
Operating·Expenses¤	·$·· 235,370,183.29·¤	·$·· 417,326,387.97·¤	·$·· 181,956,204.68·¤	43.6¤	¤

¶

8. Word のツールを使用して、ドックレットの表のフォーマットを設定します。
   a. 表全体を選択し、Word の**「レイアウト」**リボンから**「自動調整」**を選択し、**「自動調整 (文字列の幅)」**を選択します。
   b. 見出しを中央揃えにして太字にします。
   c. 「実績」、「プラン」および「差異」列のすべてのデータ値を右揃えにします。
   d. 差異%列のパーセンテージを中央揃えにします。
   e. 「営業費用」行の合計を太字にします。
   f. 表全体から罫線をクリアします。
   g. 列見出しの下および減価償却および償却行の「実績」、「プラン」、「差異」および差異%列の下に一重下線を追加します。
   h. 「営業費用」行の「実績」、「プラン」、「差異」および差異%列の下に二重下線を追加します。

   Word のフォーマットを適用した後、表は図 5 のようになります。

図 24-60 フォーマットされた Word の表を含むドックレットの例



Operating Expenses

Actual operating expenses were $ 235,370,183.29 , as compared to Plan operating expenses of $ 417,326,387.97 . Table 1 summarizes Operating Expenses.

Table 1. Operating Expenses

	Actual	Plan	Variance	Variance %
Total Compensation	$ 64,845,803.24	$ 115,166,742.59	$ 50,320,939.35	43.7
Travel	4,836,436.25	8,287,961.06	3,451,524.80	41.6
General Supplies	3,674,837.98	6,258,357.17	2,583,519.19	41.3
Telecommunications	6,378,561.45	11,057,528.97	4,678,967.53	42.3
Equipment Maintenance	14,993,537.06	26,272,058.13	11,278,521.07	42.9
Fees Outside Services	100,996,742.28	180,334,457.05	79,337,714.77	44.0
Employee HR	6,634,968.62	11,428,589.57	4,793,620.94	41.9
Facilities Exp	13,031,228.94	22,994,537.25	9,963,308.31	43.3
Utilities	2,159,896.85	3,820,238.43	1,660,341.58	43.5
Depreciation and Amort	17,818,170.62	31,705,917.75	13,887,747.13	43.8
Operating Expenses	$ 235,370,183.29	$ 417,326,387.97	$ 181,956,204.68	43.6

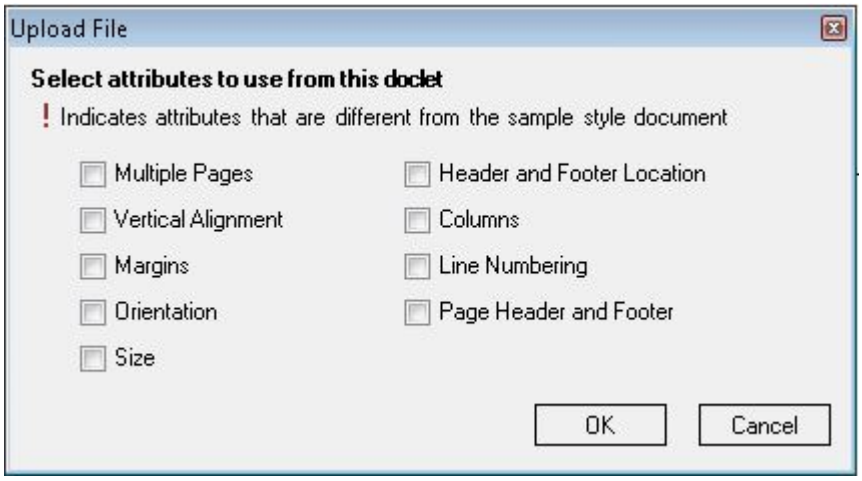
ドックレットで文書作成タスクを完了したので、それをアップロードしてチェックインし、他のドックレットの文書作成者が使用できるようにすることができます。

9. Word でドックレットを保存します。
10. 「Narrative Reporting」リボンで、**「アップロード」**をクリックします。



11. **「ファイルのアップロード」**ダイアログ・ボックスで、オーバーライドするスタイル属性の横のチェック・ボックスを選択し、**「OK」**をクリックします。

    レポート・パッケージのスタイル・サンプルと異なるドックレット内のスタイル属性は感嘆符で示されます。この場合は、オーバーライドするスタイル属性がありません。



12. 「Narrative Reporting」リボンで、**「チェックイン」**をクリックします。



    ドックレット責任リストでロック・アイコンがドックレットから削除され、ドックレットがチェックアウトされていないことを示します。

これにより、シナリオ例が完了します。サマリーに、次のタスクを実行する方法を示しました。

- Narrative Reporting データ・ソースに接続しているときにアド・ホック・レポートを作成します。
- Excel で数値とパーセンテージのデータをフォーマットします。
- レポート・パッケージをオープンし、文書作成の目的でドックレットをチェックアウトします。
- Excel のアド・ホック・グリッドからデータ・ポイントと範囲をコピーしてドックレットに貼り付け、Word の表を作成します。
- Word のフォーマットを使用して表をフォーマットします。
- ドックレットをアップロードしてチェックインします。

本番環境では、次に実行するステップはレポート・パッケージの要件に応じて異なります。ドックレットを承認のために提出することが必要な場合があります。他のドックレットの文書作成が必要な場合があります。後で、レポート・パッケージの一部または全部をレビューするよう求められることがあります。Oracle Smart View for Office でこれらのタスクをすべて実行できます。

25

Smart View および Account Reconciliation

Related Topics

- Account Reconciliation での Smart View の使用について
  このトピックでは、Oracle Smart View for Office をインストールして、接続を設定し、次に照合コンプライアンス用 Smart View 拡張機能をダウンロードするために必要な手順と、実際のインポート・トランザクションの手順について説明およびリンクを提供します。
- Smart View での Account Reconciliation の設定
  Oracle Smart View for Office で Account Reconciliation を設定できます。
- Smart View での Account Reconciliation への接続
  Microsoft Excel を起動して、Account Reconciliation にいつでも接続できます。
- 照合コンプライアンス用 Smart View 拡張機能を使用した Excel からのトランザクションの直接インポート
  このトピックでは、Smart View の Account Reconciliation 拡張機能を使用して、トランザクションを初期化し、照合コンプライアンスにインポートする方法について説明します。

Account Reconciliation での Smart View の使用について

このトピックでは、Oracle Smart View for Office をインストールして、接続を設定し、次に照合コンプライアンス用 Smart View 拡張機能をダウンロードするために必要な手順と、実際のインポート・トランザクションの手順について説明およびリンクを提供します。

Smart View の Account Reconciliation 拡張機能を使用することで、Excel を使用してトランザクションを照合コンプライアンスにロードできます。直接統合するには、Smart View の基本インストールに加えて照合コンプライアンス用 Smart View 拡張機能が必要です。

Smart View をインストールし、Account Reconciliation に接続して、照合コンプライアンス用 Smart View 拡張機能をインストールする方法は、Smart View での Account Reconciliation の設定のトピックを参照してください。

トランザクションを照合コンプライアンスにロードする手順は、照合コンプライアンス用 Smart View 拡張機能を使用した Excel からのトランザクションの直接インポートを参照してください。

Account Reconciliation の詳細は、Oracle Help Center のドキュメントを参照してください。

Smart View での Account Reconciliation の設定

Oracle Smart View for Office で Account Reconciliation を設定できます。

この項のトピックでは、Smart View での Account Reconciliation の設定について説明します。ワークフローは次のとおりです:

- Smart View インストーラのダウンロードと実行
- Account Reconciliation への接続の設定
- Account Reconciliation 拡張機能のインストール

Smart View インストーラのダウンロードと実行

Oracle Smart View for Office インストーラをダウンロードおよび実行するには:

1. Web ブラウザで Account Reconciliation を開始し、Cloud EPM ユーザー名とパスワードを使用してログインします。
2. Account Reconciliation Web インタフェースの右上隅で、ユーザー名の横にある矢印を選択してユーザー・メニューを表示し、**「ダウンロード」**を選択します。
3. **「ダウンロード」**ページ(Smart View の下)で、**「Oracle Technology Network からダウンロード」**をクリックします。

   ポップアップ・ブロッカ・メッセージが表示されて続行できない場合は、ブラウザで現在の Web アドレスのポップアップの表示を許可するために必要な手順に従います。
4. Oracle Technology Network の **Oracle Smart View for Office** 情報ページで、**「今すぐダウンロード」**をクリックします。

   このアクションを実行すると、**Oracle Software Delivery Cloud** ページが表示されます。

   プロンプトが表示されたら、Oracle のログイン資格情報を入力します。
5. **Oracle Software Delivery Cloud** ページでの操作:
   a. Oracle Gadgets ライセンス契約を確認し、**次のライセンス契約を確認し、同意します**チェック・ボックスを選択します。
   b. **「Oracle Smart View for Office <version>」**チェック・ボックスを選択します。
   c. **プラットフォーム**で、オプションを選択することが求められます。ただし、すべてのプラットフォーム用に 1 つの Smart View 実行可能ファイルしかないため、**「すべて」**オプションを選択することをお薦めします。
6. **「ダウンロード」**をクリックし、ブラウザの手順に従ってファイルをダウンロードし、コンピュータ上のフォルダに保存します。たとえば、ファイルを **Downloads** フォルダに保存します。

   Oracle Software Download Manager EXE ファイルが、コンピュータにダウンロードされます。
7. その EXE ファイルをダブルクリックし、**Oracle Download Manager** を起動し、これらのステップを実行します:
   a. **「宛先」**で、**「参照」**をクリックし、Smart View ダウンロード ZIP ファイルのフォルダに移動してから、**「次」**をクリックします。
   b. **「ステータス」**ウィンドウで、ZIP ファイルのダウンロードを許可し、**宛先を開く**をクリックして、ファイル・エクスプローラで ZIP のダウンロード場所を開きます。
8. ファイル・エクスプローラで ZIP ファイルの中身を解凍し、`SmartView.exe` をダブルクリックするか、`SmartView.exe` を右クリックして**「管理者として実行」**を選択し、インストール・ウィザードを開始します。

> **Note:**
>
> Smart View をインストールする際は、可能なかぎり**「管理者として実行」**コマンドを使用することをお薦めします。

9. Smart View の宛先フォルダを選択し、**「OK」**をクリックします。新しいインストール環境では、Smart View はデフォルトで次の場所にインストールされます:

   ```
   C:/Oracle/SmartView
   ```

   > **Note:**
   >
   > Smart View のインストールをアップグレードする場合、インストーラでは、Smart View がインストールされていたフォルダにデフォルト設定されます。

10. インストールが完了したら**「OK」**をクリックします。

Microsoft Excel、PowerPoint または Word を次に開いたときに、Smart View のリボンのタブが表示されます。

Account Reconciliation への接続の作成に進み、設定プロセスを続行します。

Account Reconciliation への接続の作成

Oracle Smart View for Office をインストールした後、Smart View インストーラのダウンロードと実行の説明に従って Account Reconciliation への接続を作成できます。

接続には、サービス URL に関する情報が必要です。Smart View の管理者は、接続の作成に必要な情報を提供する必要があります。

Account Reconciliation への接続には、Smart View のクイック接続方法を使用します。

> **Note:**
>
> 接続を作成するには、このトピックの手順を使用します。接続が作成された後は、Smart View での Account Reconciliation への接続の手順を使用して日常的に接続します。

クイック接続方法を使用して Account Reconciliation へのプライベート接続を作成するには:

1. Microsoft Excel、Word または PowerPoint を開き、Smart View のリボンを選択します。
2. Smart View のリボンで、**「パネル」**をクリックします。
3. Smart View パネルから、**「プライベート接続」**を選択します。

   または、Smart View パネルから、**「切替え先」**ボタンの横にある矢印、をクリックし、ドロップダウン・リストから**「プライベート接続」**を選択します。
4. 引き続き Smart View パネルで、図 1 に示すテキスト・ボックスに、Account Reconciliation のサービス URL を入力します。

Figure 25-1　クイック接続 - URL の入力



URL 構文:

`https://serviceURL/arm/arcs/svp`

Smart View の管理者は Account Reconciliation の URL を提供する必要があります

5. **[Enter]**を押します。

   または、サービス URL を入力したテキスト・ボックスの横にある**「実行」**ボタン、をクリックします。

6. Smart View パネルで、**ARCS** ノード、**「照合コンプライアンス」**、**「SmartView」**の順に展開し、アクション・パネルで**「接続」**をクリックします。
7. ログイン・ウィンドウで、Oracle Cloud アイデンティティ・サービス・ドメインの資格証明を入力し、**「サインイン」**をクリックします。
8. 次のいずれかのアクションを行います:
   - **「拡張機能アラート」**ダイアログが表示された場合は、**「拡張機能ダイアログに移動」**ボタンをクリックします。**「拡張機能アラート」**ダイアログに、インストールに使用できる最新の Account Reconciliation 拡張機能が表示されます。拡張機能の更新手順を完了するには、Account Reconciliation 拡張機能のインストールを参照してください。
   - **「拡張機能アラート」**ダイアログが表示されない場合は、Account Reconciliation 拡張機能のインストールを続行します

Account Reconciliation 拡張機能のインストール

このトピックでは、Oracle Smart View for Office 内での Account Reconciliation 拡張機能のインストールについて説明します。

この手順を開始する前に、Account Reconciliation への接続の作成のステップを実行します。

> **Note:**
>
> Account Reconciliation Web インタフェースから拡張機能をインストールすることもできます。Web から拡張機能をインストールするには、次を参照してください:
>
> - *管理者用スタート・ガイド*のクライアントのダウンロードおよびインストール
> - *ユーザー用スタート・ガイド*のクライアントのダウンロードおよびインストール

Smart View から Account Reconciliation 拡張機能をインストールするには:

1. Smart View リボンから、**「オプション」**、**「拡張機能」**の順に選択します。

> **Note:**
>
> Account Reconciliation への接続の作成のステップを完了したときに**「拡張機能アラート」**ダイアログが表示された場合は、すでに**「オプション」**ダイアログの**「拡張機能」**タブが表示されています。

2. **「更新、新規インストールおよびアンインストールのチェック」**リンクをクリックします。
3. **「拡張機能の更新の場所の選択」**で、Account Reconciliation 接続に対応するチェック・ボックスを選択し、**「更新の取得」**をクリックします。

   ダイアログ・ボックスが拡大され、拡張機能の問合せの進行状況およびステータスが提供されるメッセージ・ウィンドウが表示されます。
4. **「拡張機能の更新の場所の選択」**ダイアログで**「閉じる」**をクリックして、**「オプション」**ダイアログの**「拡張機能」**タブに戻ります。
5. **「拡張機能」**タブの拡張機能のリストで、**照合コンプライアンス**を探し、**「インストール」**リンク  をクリックしてインストーラを起動します。

> **Note:**
>
> リリース 25.100 以降では、Smart View の最小バージョンが必要でも、現在の Smart View インストールが最小バージョンでない場合は、メッセージ・アラートが表示されます。
>
> インストールを続行できますが、インストールする拡張機能の一部の機能は利用できない場合があります。

6. 「この拡張機能の更新を適用しますか?」と尋ねるポップアップ・ダイアログで、**「はい」**、**「OK」**の順にクリックして、**「オプション」**ダイアログの**「拡張機能」**タブを閉じます。

   拡張機能のインストールの進捗状況がダイアログに表示されます。
7. インストールが正常に終了したことを通知して Office の再起動を指示するメッセージ・ダイアログで、**「OK」**をクリックした後、Office を閉じて再起動します。

Smart View での拡張機能のインストールの詳細は、次のトピックを参照してください:

- 使用可能な拡張機能の最初のチェック
- 拡張機能のインストール

このトピックの手順を完了すると、Smart View で照合コンプライアンス拡張機能の使用を開始する手順が整います。

Smart View での Account Reconciliation への接続

Microsoft Excel を起動して、Account Reconciliation にいつでも接続できます。

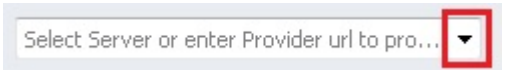
> **Note:**
>
> Account Reconciliation に接続する前に、Smart View インストーラのダウンロードと実行、Account Reconciliation への接続の作成および Account Reconciliation 拡張機能のインストールの手順を完了していることを確認します。

Account Reconciliation に接続するには:

1. Excel を起動して、Smart View のリボンを選択し、**「パネル」**をクリックします。
2. Smart View パネルで、**「プライベート接続」**を選択します。

   または、Smart View パネルから、**「切替え先」**ボタンの横にある矢印、をクリックし、ドロップダウン・リストから**「プライベート接続」**を選択します。
3. 図 1 に示されているテキスト・ボックスで、ドロップダウン・メニューを表示する矢印をクリックして、接続を選択します。

   Figure 25-2　ドロップダウン・リストのクイック接続の矢印

   Account Reconciliation への接続の作成の手順を使用してデータ・ソース接続を作成した場合、ドロップダウン・リストの**「クイック接続 URL」**の下にリストされます。
4. Smart View パネルで、**ARCS** ノード、**「照合コンプライアンス」**、**「SmartView」**の順に展開し、アクション・パネルで**「接続」**をクリックします。
5. **「ログイン」**ウィンドウで、**「ユーザー名」**と**「パスワード」**に入力し、**「サインイン」**をクリックします。

照合コンプライアンス用 Smart View 拡張機能を使用した Excel からのトランザクションの直接インポート

このトピックでは、Smart View の Account Reconciliation 拡張機能を使用して、トランザクションを初期化し、照合コンプライアンスにインポートする方法について説明します。

Oracle Smart View for Office の Account Reconciliation 拡張機能を使用することで、Excel を使用してトランザクションを照合コンプライアンスにロードできます。直接統合するには、Smart View の基本インストールに加えて照合コンプライアンス用 Smart View 拡張機能が必要です。

既存のトランザクションに対する**「追加」**、または既存のトランザクションをこの新しいインポート・ファイルに置き換える**「すべて 置換」**を使用できます。

Smart View をインストールする方法および照合コンプライアンス用 Smart View 拡張機能をダウンロードする方法は、Smart View での Account Reconciliation の設定を参照してください。

トランザクションをロードするには、Smart View 照合コンプライアンス・リボンの**「初期化」**オプション、**「インポート」**オプションを順に使用してデータをインポートします。**初期化**は、トランザクション・タイプとフォーマットの選択に基づいて、インポート用のスプレッドシートにヘッダー行(常に行 1)を準備します。**インポート**は、トランザクションの実際のインポートを実行します。

単一のインポートの 1 つ以上の照合で、いずれかのトランザクション・タイプ(残高の説明、ソース・システムに対する調整、サブシステムに対する調整、差異の説明)をロードできます。

初期化する手順は、インポートの初期化を参照してください

トランザクションをインポートする手順は、トランザクションのインポートを参照してください

> **ノート:**
>
> Smart View を介してロードされたトランザクションは、**事前マップ済トランザクションのインポート**とまったく同じ動作になります。事前マップ済トランザクションのインポートを参照してください。

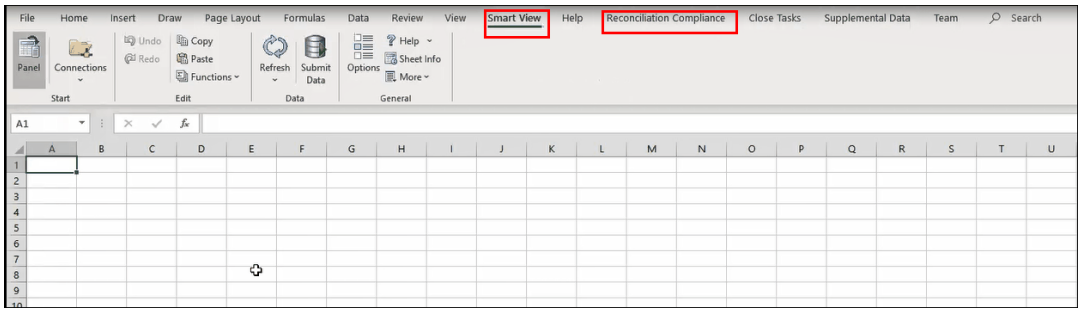
インポートの初期化

「初期化」オプションは、**「トランザクション・タイプ」**の指定および 1 つ以上のフォーマットの選択に基づいて、インポートのヘッダー行を準備します。**償却**のヘッダーと**アクション・プラン**のヘッダーを含めることもできます。

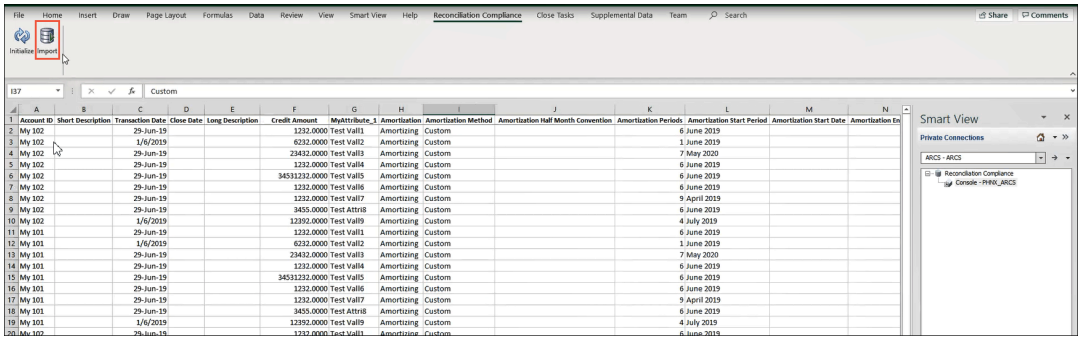
> **ノート:**
>
> 以前のロードと同じヘッダー行を使用してトランザクションをロードする場合は、「初期化」オプションを再度使用する必要はありません。**「インポート」**オプションに直接移動できます。

1. Smart View のインストール・ステップが完了した後は、**Excel** を開き、プライベート接続を確立します。

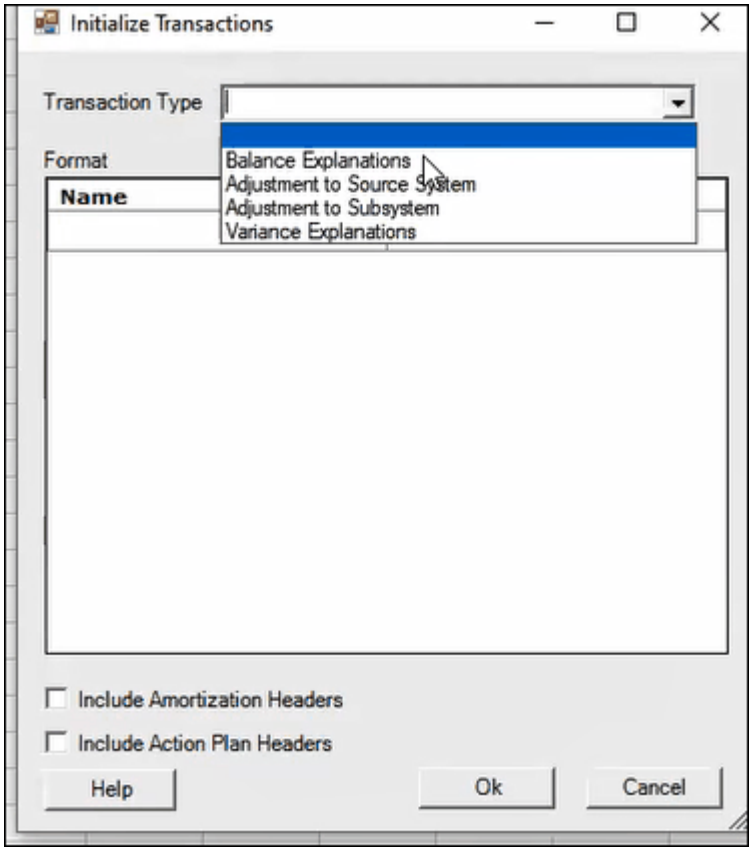
   Excel に、**Smart View** リボン・メニュー・オプションと**「照合コンプライアンス」**が表示されることに注意してください。



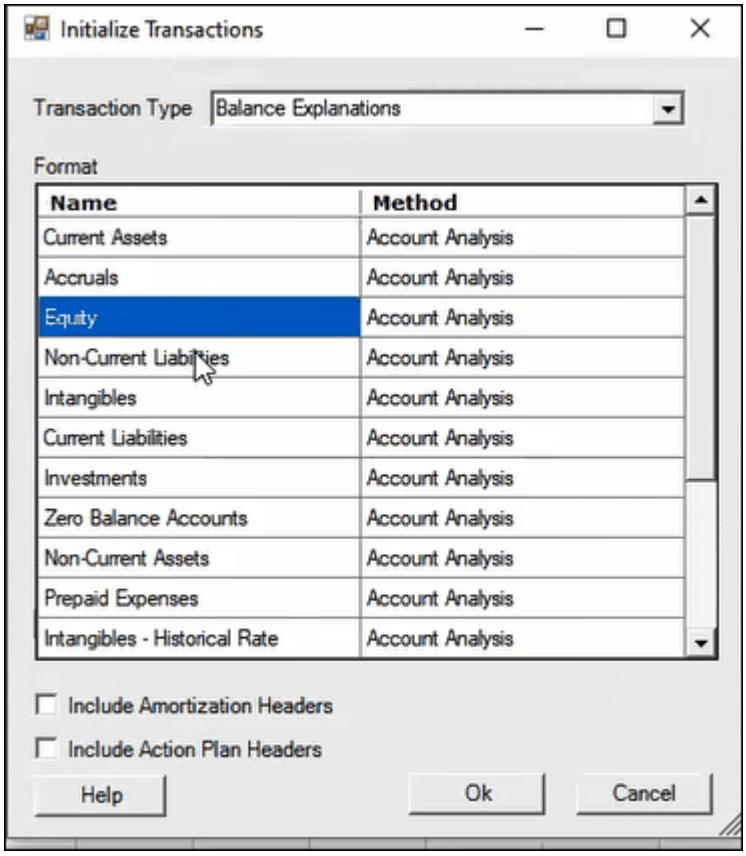
接続すると、**「初期化」**オプションと**「インポート」**オプションが、「照合コンプライアンス」リボンにアクティブで使用できる状態で表示されます。



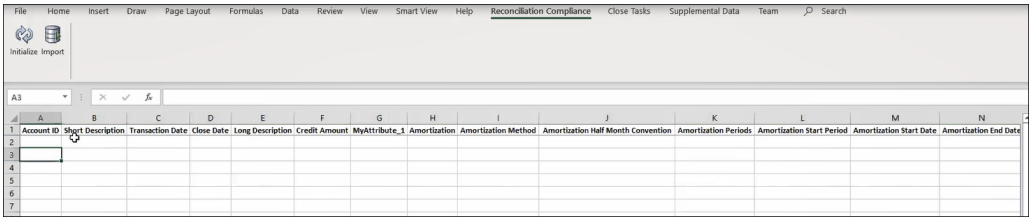
2. **「初期化」**をクリックします。



3. ドロップダウンから**トランザクション・タイプ**を選択し、そのトランザクション・タイプのフォーマットのリストを表示します。

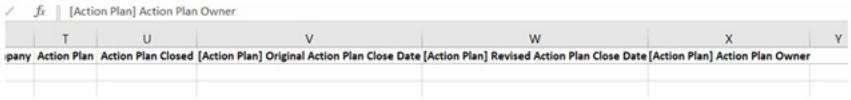


4. 1 つ以上の**フォーマット**を選択します。選択したフォーマットによって、初期化ステップの完了後にヘッダー行に作成される属性が決まります。
5. **償却ヘッダーを含める**または**アクション・プラン・ヘッダーを含める**(あるいはその両方)のチェック・ボックスを選択できます。次に、**「OK」**をクリックします。これらの選択を解除したままにすると、それらはヘッダー行に含まれなくなります。
   - **償却ヘッダー** - 償却に関する列が表示されたヘッダー行の例:



   - **アクション・プラン・ヘッダー** - アクション・プランの一部であり、名前に「アクション・プラン」という語が含まれるカスタム属性(システム属性ではない)は、その語が角括弧で囲まれて Smart View に表示されます。たとえば、「アクション・プラン所有者」という名前のカスタム属性は、[アクション・プラン]アクション・プラン所有者と Smart View に表示されます。この構文は、Smart View に表示される名前にのみ使用されます。カスタム属性の実際の名前は影響を受けず、変更されません。

     アクション・プラン列のカスタム属性を表示するヘッダー行の例を次に示します。



- **行と列** - スプレッドシートに独自の行と列を追加して、インポート前のノート、計算または作業プロセスに役立つ可能性のあるものを含めることができます。勘定科目 ID のない行と事前定義ヘッダーのない列は、**インポート**で無視されます。

  次に、Excel の列ヘッダーと、**Account Reconciliation** の事前にマップされた照合コンプライアンス・トランザクションのインポート・ファイル・レイアウトとの相違の要約を示します:

Smart View Excel トランザクション・インポート	事前にマップされた照合コンプライアンス・トランザクション・インポート・ファイル	ノート
Account ID	Reconciliation Account ID	これらは同じです。例: 101-22270
<Sub Segment Name>	SubSegmentx	選択したフォーマットの 1 つ以上がグループ照合である場合に使用されます。例: 保管
Short Description	Short Description	これらは同じです。例: 契約 - AirNow
Long Description	Long Description	これらは同じです。
Transaction Date	Transaction Date	これらは同じです。
Close Date	Close Date	これらは同じです。
<Entered> Amount	Amountx	Smart View インポートには、Account Reconciliation の通貨バケット構成に指定されているものと同じ通貨バケット名を使用します。 バケット名は構成可能です。デフォルトの名前は「入力」、「機能」または「レポート」です。
<Entered> Currency	Amount Currencyx	Smart View インポートには、Account Reconciliation の通貨バケット構成に指定されているものと同じ通貨バケット名を使用します。例: USD バケット名は構成可能です。デフォルトの名前は「入力」、「機能」または「レポート」です。
<Attribute>	Attributex Attribute Valuex	Smart View インポートには、Account Reconciliation の属性構成に指定されているものと同じ属性名を使用します。
Amortization	Amortization	例: 償却
Amortization Method	Amortization Method	例: 定額
Amortization Half Month Convention	Amortization Half Month Convention	例: いいえ
Amortization Periods	Amortization Periods	例: 7
Amortization Start Period	Amortization Start Period	例: 19 年 1 月

Smart View Excel トランザクション・インポート	事前にマップされた照合コンプライアンス・トランザクション・インポート・ファイル	ノート
Amortization Start Date Amortization End Date	Amortization Start Date Amortization End Date	
Amortization Original <Entered>	Amortization Original Amount1	Smart View インポートには、Account Reconciliation の構成に指定されているものと同じバケット名を使用します。バケット名は構成可能です。デフォルトの名前は「入力」、「機能」または「レポート」です。
Action Plan Closed	Action Plan Closed	例: Y
Action Plan Closed Date	Action Plan Closed Date	例: 2020 年 1 月 20 日
Action Plan <Attribute>	Action Plan AttributeX Action Plan Attribute Valuex	Smart View インポートには、Account Reconciliation の属性構成に指定されているものと同じアクション・プラン属性名を使用します。

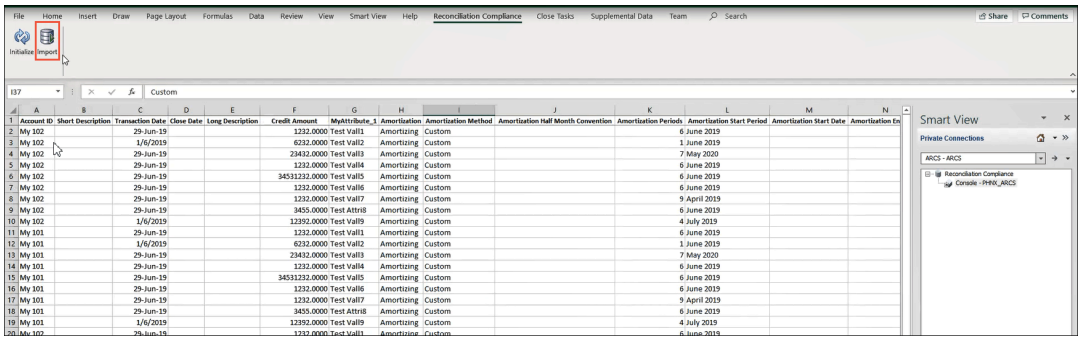
ノート:

- Smart View インポートでは、金額または日付のフィールドを、Excel で金額または日付形式として書式設定する必要があります。テキストやその他の形式にはできません。
- 通常、Excel では償却期間名が日付に変換されるため、インポート時にエラーが発生します。これを防止するには、列をテキストとして書式設定する(初期化で自動的に実行される)か、期間名に一重引用符を付けます(例: '2021 年 1 月')。

トランザクションのインポート

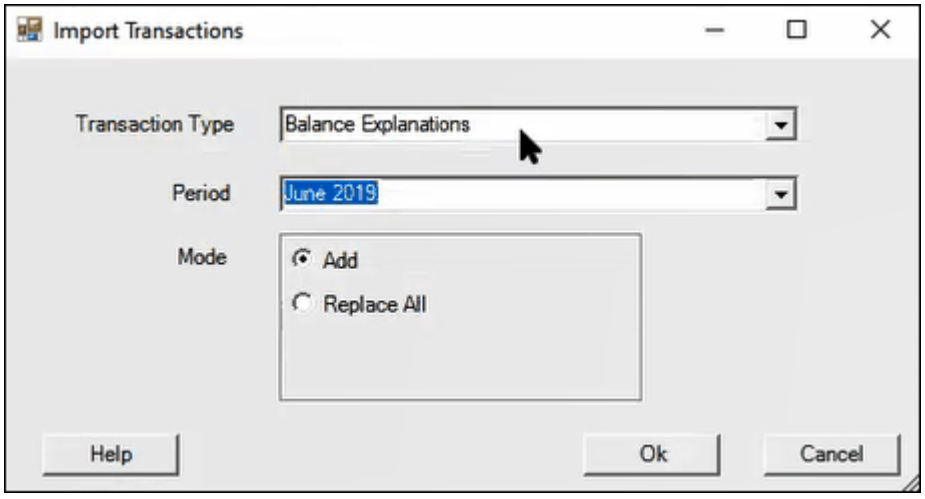
ヘッダー行のレイアウト準備が整った後、Smart View を介してトランザクションを照合コンプライアンスにロードできます。

1. Excel ヘッダー行の準備が整い、Account Reconciliation インスタンスに接続されていることを確認します。
2. ヘッダー行が構成されているシートにインポートするトランザクションを作成します。



3. Smart View の「照合コンプライアンス」リボンで、**「インポート」**をクリックします。
4. **「トランザクションのインポート」**ダイアログが表示されます。必要に応じて**「トランザクション・タイプ」**を変更できます。
5. **「オープン」**および**「クローズ済」**の期間のドロップダウンから期間を選択します。

> **ノート:**
>
> 期間の照合が作成されているかどうかに関係なく、その期間のトランザクションをロードできます。照合が作成されると、トランザクションが照合に表示されます。照合が削除された場合でも、**Smart View** を使用してロードされたトランザクションはデータベースに残存します。



6. **「追加」**または**「すべて 置換」**のいずれかのインポート・モードを選択します。次に、**「OK」**をクリックします。**「追加」**は、トランザクションを既存のトランザクションに追加します。**「すべて 置換」**は、既存のトランザクションをこの新しいトランザクション・インポート・ファイルに置き換えます。
処理が完了すると、**結果**ダイアログが表示されます。読取り専用アクセスの属性はすべて無視されることを示す警告が表示されます。必要に応じて、ファイルをダウンロードすることもできます。

> **ノート:**
>
> ヘッダー行を設定した後、トランザクションの別のインポートを実行する場合は、再度初期化せずに**「インポート」**に直接移動できます。

26

Smart View と Profitability and Cost Management

次も参照:

- Smart View と Profitability and Cost Management について
  収益性を最大限に高めるには、企業はコストおよび収益を正確に測定、配分および管理する必要があります。
- Smart View インストーラのダウンロードと実行
- Profitability and Cost Management へのデータ・ソース接続の作成
  Oracle Smart View for Office をインストールした後で、Profitability and Cost Management への接続を作成できます。

Smart View と Profitability and Cost Management について

収益性を最大限に高めるには、企業はコストおよび収益を正確に測定、配分および管理する必要があります。

Profitability and Cost Management は、製品、顧客、地域または部門などの事業区分の収益性を算出するために必要なコストおよび収益の配分を管理する分析ソフトウェア・ツールです。Profitability and Cost Management では、コストの分類、消費ベースのコスト計算およびシナリオ実行を使用して、収益性を測定し、効率的なプランニングおよび意思決定を図れます。

> **ノート:**
>
> Enterprise Profitability and Cost Management の詳細は、Smart View と Cloud EPM を参照してください。

この章のトピックを使用して、Profitability and Cost Management をインストールし、接続します。

- Smart View インストーラのダウンロードと実行
- Profitability and Cost Management へのデータ・ソース接続の作成

その後、Profitability and Cost Management 内のデータの操作を開始できるようになります。Oracle Smart View for Office と Profitability and Cost Management の併用に関する情報は、このガイド全体に含まれています。

- ディメンションとメンバー
- データおよびデータ・セル
- アド・ホック分析
- 一般的な操作
- スマート・クエリー

- スマート・スライス
- クエリー・デザイナおよび MDX 問合せ
- Smart View のオプション
- 関数
- フリー・フォーム・モード
- Smart View 診断およびヘルス・チェック

Smart View インストーラのダウンロードと実行

Oracle Smart View for Office インストーラを実行する前に、*ユーザー用スタート・ガイド*の Smart View の前提条件に記載されている Smart View の前提条件を確認してください。
Smart View インストーラをダウンロードおよび実行するには:

1. Web ブラウザで Profitability and Cost Management を起動し、ユーザー名とパスワードを使用してログインします。
2. Profitability and Cost Management Web インタフェースの右上隅で、ユーザー名の横にある矢印を選択してユーザー・メニューを表示し、**「ダウンロード」**を選択します。
3. **「ダウンロード」**ページ(Smart View の下)で、**「Oracle Technology Network からダウンロード」**をクリックします。

   ポップアップ・ブロッカ・メッセージが表示されて続行できない場合は、ブラウザで現在の Web アドレスのポップアップの表示を許可するために必要な手順に従います。
4. Oracle Technology Network の **Oracle Smart View for Office** 情報ページで、**Smart View for Office のダウンロード**をクリックし、**「今すぐダウンロード」**をクリックします。

   このアクションを実行すると、**Oracle Software Delivery Cloud** ページが表示されます。

   プロンプトが表示されたら、Oracle のログイン資格情報を入力します。
5. **Oracle Software Delivery Cloud** ページでの操作:
   a. Oracle Gadgets ライセンス契約を確認し、**次のライセンス契約を確認し、同意します**チェック・ボックスを選択します。
   b. **「Oracle Smart View for Office <version>」**チェック・ボックスを選択します。
   c. **プラットフォーム**で、オプションを選択することが求められます。ただし、すべてのプラットフォーム用に 1 つの Smart View 実行可能ファイルしかないため、**「すべて」**オプションを選択することをお薦めします。
6. **「ダウンロード」**をクリックし、ブラウザの手順に従ってファイルをダウンロードし、コンピュータ上のフォルダに保存します。たとえば、ファイルを **Downloads** フォルダに保存します。

   Oracle Software Download Manager EXE ファイルが、コンピュータにダウンロードされます。
7. その EXE ファイルをダブルクリックし、**Oracle Download Manager** を起動し、これらのステップを実行します:
   a. **「宛先」**で、**「参照」**をクリックし、Smart View ダウンロード ZIP ファイルのフォルダに移動してから、**「次」**をクリックします。
   b. **「ステータス」**ウィンドウで、ZIP ファイルのダウンロードを許可し、**宛先を開く**をクリックして、ファイル・エクスプローラで ZIP のダウンロード場所を開きます。

8. ファイル・エクスプローラで ZIP ファイルの中身を解凍し、SmartView.exe をダブルクリックするか、SmartView.exe を右クリックして**「管理者として実行」**を選択し、インストール・ウィザードを開始します。

> **ノート:**
>
> Smart View をインストールする際は、可能なかぎり**「管理者として実行」**コマンドを使用することをお薦めします。

9. Smart View の宛先フォルダを選択し、**「OK」**をクリックします。新しいインストール環境では、Smart View はデフォルトで次の場所にインストールされます:

   C:/Oracle/SmartView

> **ノート:**
>
> Smart View のインストールをアップグレードする場合、インストーラでは、Smart View がインストールされていたフォルダにデフォルト設定されます。

10. インストールが完了したら**「OK」**をクリックします。

    Microsoft Excel、PowerPoint または Word を次に開いたときに、Smart View のリボンのタブが表示されます。

    Profitability and Cost Management へのデータ・ソース接続の作成に進み、設定プロセスを続行します。

Profitability and Cost Management へのデータ・ソース接続の作成

Oracle Smart View for Office をインストールした後で、Profitability and Cost Management への接続を作成できます。

接続には、サーバーとポートに関する情報が必要です。クラウド・サービスの管理者は、接続の作成に必要な情報を提供する必要があります。クイック接続方法を使用して、クラウド・サービスへのプライベート接続を作成します。

クイック接続方法を使用してプライベート接続を作成するには:

1. Excel で、Smart View のリボンを選択し、「パネル」をクリックします。
2. 「Smart View」パネルで、**「プライベート接続」**を選択します。
3. 引き続き「Smart View」パネルで、テキスト・ボックスに接続先のデータ・ソースの URL を入力します。

   URL 構文:

   https://*serviceURL*/aps/smartview

4. 「実行」をクリックするか、**[Enter]**を押します。

5. ログイン・ウィンドウで、ログイン資格証明を入力し、ドロップダウン・メニューからデータ・ソースを選択します。

Profitability and Cost Management 内のデータの操作を開始できるようになりました。詳細は、Smart View と Profitability and Cost Management についてにリストされている機能領域を参照してください。

27

Smart View と Financial Reporting

次も参照:

- Financial Reporting ドキュメントのインポートについて
  Oracle Smart View for Office を使用して、Oracle Hyperion Financial Reporting レポートを、Microsoft Excel、Word および PowerPoint にインポートできます。
- ドキュメントの編集およびリフレッシュ
  Smart View のリボンには、いくつかの編集およびリフレッシュ・オプションがあります。
- Financial Reporting ドキュメントのリフレッシュ
  リフレッシュすると、最新のデータでレポートが更新されます。
- Financial Reporting のインポート・フォーマット
  Oracle Hyperion Financial Reporting ドキュメントは、Excel で表示できる*完全フォーマット* HTML、または接続して問合せを実行できる*問合せ準備* HTML としてインポートできます。
- Financial Reporting ドキュメントのインポート
  Oracle Hyperion Financial Reporting ドキュメントを、Excel、Word および PowerPoint にインポートできます。
- Financial Reporting レポートのエクスポート
  Oracle Hyperion Financial Reporting レポートをエクスポートできます。

Financial Reporting ドキュメントのインポートについて

Oracle Smart View for Office を使用して、Oracle Hyperion Financial Reporting レポートを、Microsoft Excel、Word および PowerPoint にインポートできます。

> **ノート:**
>
> この章の内容:
>
> - Financial Reporting への参照は、Financial Reporting の Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management および Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace バージョンに適用されます。
> - Cloud EPM への参照は、これらのビジネス・プロセスに適用されます: Planning、フリーフォーム、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting。

ドキュメントの編集およびリフレッシュ

Smart View のリボンには、いくつかの編集およびリフレッシュ・オプションがあります。

Office では、以前に Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management ビジネス・プロセスおよび Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace ソースからインポートしたドキュメントを編集およびリフレッシュできます。

- 編集 - フィルタ、POV、または埋め込まれた Cloud EPM および EPM Workspace のドキュメントのパラメータを変更します。
- リフレッシュ - 選択されたジョブを、Cloud EPM および EPM Workspace の最新データでリフレッシュします。Office ドキュメント全体ではなく、Office で選択されているジョブのみ更新されます。
- すべてリフレッシュ - Office ドキュメントのすべてのジョブを 更新します。

一般的な編集とリフレッシュの動作

- ページが削除されているインポート済みドキュメントをリフレッシュすると、残っているページのみがリフレッシュされます。削除されたページは復元されません。
- 編集またはリフレッシュした結果、インポート済みドキュメントのページ数が減った場合、除去されたページは Office に空白のページとして表示されます。
- 編集またはリフレッシュした結果、インポート済みドキュメントのページ数が増えた場合、これらのページは Office のドキュメントに追加されます。
- Word と PowerPoint でリフレッシュした場合、フォーマット見出しとコメントは保持されますが、Excel でリフレッシュした場合は保持されません。

ドキュメントのリフレッシュ時のセル参照の維持

Excel では、インポートされたドキュメント・セルまたは範囲を参照するカスタマイズされたワークシートは、インポートされたドキュメントで「すべてリフレッシュ」を実行すると更新されます。たとえば、インポートされたワークシート A および B は、カスタマイズされたワークシート C で参照されています。ワークシート A および B で「すべてリフレッシュ」を実行すると、ワークシート C がワークシート A および B の更新済データでリフレッシュされます。

Financial Reporting ドキュメントのリフレッシュ

リフレッシュすると、最新のデータでレポートが更新されます。

> **ノート:**
>
> このトピックで、Oracle Hyperion Financial Reporting への参照は、Financial Reporting のオンプレミスおよび Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management バージョンの両方に適用されます。

Financial Reporting でのリフレッシュの動作

- レポートで、リフレッシュするページを選択する必要があります。Word および PowerPoint では、リフレッシュ時にページが選択されていないと、ページが更新されないことを示すメッセージが表示されます。

- **「リフレッシュ」**を選択した場合は、レポートのすべてのページがリフレッシュされます。「すべてリフレッシュ」を選択した場合は、ドキュメント内のすべてのレポートがリフレッシュされます。
- データ・ソース接続がタイムアウトしたとき、以前に保存した関数グリッドを含むレポートをリフレッシュしようとすると、ログイン中に「無効なポインタ」エラーが発生します。これを回避するには、ワークブックおよび Excel を閉じます。その後、Excel を再起動してワークブックを開き、リフレッシュを実行します。

Financial Reporting ドキュメントの Cloud EPM または EPM System 接続に対するリフレッシュ

Cloud EPM ドキュメントまたは Oracle Enterprise Performance Management System ドキュメントを Excel、Word、PowerPoint でリフレッシュするには、次のアクションを実行します:

- 選択した Financial Reporting ドキュメントを、そのドキュメントに関連付けられているすべてのページも含めて更新するには、「Smart View」リボンの**「リフレッシュ」**を選択します。
- すべての Financial Reporting ドキュメントを更新するには、「Smart View」リボンの**「すべてリフレッシュ」**を選択します。

Financial Reporting ドキュメントの Essbase または Financial Management 接続に対するリフレッシュ

> **ノート:**
>
> これは、問合せ対応 HTML にインポートされた Financial Reporting レポートに適用されます。

Oracle Essbase または Oracle Hyperion Financial Management の接続をリフレッシュすると、プロバイダの最新データでレポートが更新され、Financial Reporting ドキュメントに対して、データの取得やズーム、ピボットなどのアド・ホック分析を実行できるようになります。

問合せ準備モードで操作を開始する前にインポートされたレポートの**「リフレッシュ」**を実行して、レポートおよび POV が同期していることを確認します。

問合せ準備 HTML でインポートされたレポートのリフレッシュは、すべてのページではなく 現在のページに適用されます。

Financial Reporting のインポート・フォーマット

Oracle Hyperion Financial Reporting ドキュメントは、Excel で表示できる*完全フォーマット* HTML、または接続して問合せを実行できる*問合せ準備* HTML としてインポートできます。

問合せ準備モードで操作を開始する前にインポートされたレポートの**「リフレッシュ」**を実行して、レポートおよび POV が同期していることを確認します。

Financial Reporting ドキュメントを問合せ対応 HTML としてインポートする場合は、現在のデータ・オブジェクトの選択されたページが HTML に変換され、Oracle Smart View for Office 固有のフォーマットが削除されます。このため、Smart View は、Web アプリケーションからは独立してデータ・ソースを再問合せできます。

Financial Reporting ドキュメントをフォーマット済 HTML としてインポートする場合は、現在のデータ・オブジェクトの選択されたページが HTML に変換され、Smart View フォーマット定義と計算済メンバーが保持されます。このため、Smart View ではデータ・ソースを直接問合せできませんが、Smart View コンテンツは Microsoft Office アプリケーションで利用できます。

> **ヒント:**
>
> Word または PowerPoint にイメージをインポートした後で、Office の「図の書式設定」オプションを使用してフォーマットします。たとえば、トリミングやサイズ変更を行います。「図の書式設定」設定は、イメージをリフレッシュした後も保持されます。

Financial Reporting ドキュメントのインポート

Oracle Hyperion Financial Reporting ドキュメントを、Excel、Word および PowerPoint にインポートできます。

次も参照:

- Financial Reporting ドキュメントのインポート
- Excel への Financial Reporting ドキュメントのインポート
- Word および PowerPoint への Financial Reporting ドキュメントのインポート
- Financial Reporting ドキュメントの編集
- PowerPoint ドキュメントでのテンプレートの作成
- PowerPoint テンプレートのリフレッシュ

Financial Reporting ドキュメントのインポート

> **ノート:**
>
> このトピックで、Oracle Hyperion Financial Reporting への参照は、Financial Reporting のオンプレミスおよび Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management バージョンの両方に適用されます。

表 27-1 Financial Reporting のインポート・ドキュメント・タイプ

ドキュメントのタイプ	Excel	Word、PowerPoint
レポート	完全フォーマット、問合せ対応、関数グリッド	イメージ、関数グリッド
スナップショット・レポート	完全フォーマット	イメージ
ブック	N/A	N/A
スナップショット・ブック	N/A	N/A
バッチ	N/A	N/A

表 27-1 (続き) Financial Reporting のインポート・ドキュメント・タイプ

ドキュメントのタイプ	Excel	Word、PowerPoint
グリッド・オブジェクト	N/A	N/A
イメージ・オブジェクト	N/A	N/A
チャート・オブジェクト	N/A	N/A
テキスト・オブジェクト	N/A	N/A
行と列のテンプレート	N/A	N/A

Excel への Financial Reporting ドキュメントのインポート

> **ノート:**
>
> このトピックで Oracle Hyperion Financial Reporting という記述は、Financial Reporting の Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management バージョンと Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace バージョンに適用されます。

Financial Reporting ドキュメントを Excel にインポートするには:

1. Smart View のリボンで、**「パネル」**を選択します。
2. Smart View Panel で、Cloud EPM ビジネス・プロセスまたは EPM Workspace データ・ソースに接続します。
3. インポートする Financial Reporting ドキュメントに移動します。
4. アクション・パネルで、**「開く」**をクリックします。

   「Workspace ドキュメントのインポート」ウィザードが表示されます。

   > **ノート:**
   >
   > 一部のウィザード画面は、一部のドキュメントに適用されません。

5. **「ドキュメントの選択」**で、リポジトリを展開し、Financial Reporting ドキュメントを選択して**「OK」**をクリックします。

   ドキュメントが**「Workspace ドキュメントのインポート」**ウィンドウでプレビューされます。

   > **ノート:**
   >
   > 一部のオプションは、一部のドキュメントに対して使用できない場合があります。

6. **「ユーザーの POV のプレビュー」**が表示されている場合は、現在の POV をプレビューするか、POV のメンバーを変更します。

> **ノート:**
>
> この画面を表示するには、EPM Workspace プリファレンスまたは Cloud EPM サービスのプリファレンスで「ユーザー視点」に対して「プレビュー」を選択します。

7. **「次へ」**をクリックします。
8. **オプション:** デフォルト値を変更する場合、**「プロンプトに応答」**でプロンプトを選択し、**「次へ」**をクリックします。

> **ノート:**
>
> この画面は、ドキュメントにプロンプトが含まれている場合にのみ表示されます。

9. **オプション:** **「プレビュー」**の**「グリッドの POV」**から POV を選択し、POV を変更します。
10. **「ページ」**を選択してページ・ディメンションを変更します。
11. 文書のすべてのページをインポートするには、**「すべてのページ」**を選択します。
12. **オプション:** Cloud EPM サービスまたは EPM Workspace 視点を使用して Financial Reporting ドキュメントをリフレッシュするには、**「ワークスペース 視点を使用してリフレッシュ」**を選択します。
13. **「次のフォーマットでドキュメントをインポート」**で、オプションを選択します:
    - **完全フォーマット** — 完全にフォーマットされた HTML でレポートを表示します。
    - **問合せ対応** - Oracle Hyperion Financial Management および Oracle Essbase データ・ソースに接続しているときにレポートのアド・ホック分析を実行できます。

      > **ノート:**
      >
      > 問合せ準備モードで操作を開始する前にインポートされたレポートの**「リフレッシュ」**を実行して、レポートおよび POV が同期していることを確認します。

    - **関数グリッド** — 動的なグリッド・フォーマットで、ステップ 18 で説明されているように、レポート・オプションをさらに選択できます。
14. 各ページを別々の Excel ワークシートに表示するには、**「ワークシート全体でページを分割」**を選択します。

> **ノート:**
>
> ステップ 13 の**「フォーマット済」**を選択した場合のみ、このオプションを使用できます。

15. **「終了」**をクリックします。

次のステップは、ステップ 13 で選択したオプションによって異なります。

次を選択した場合:

- **完全フォーマット** — ドキュメントが Office アプリケーションにインポートされ、Reporting and Analysis ドキュメントのみを表示できます。
- **問合せ対応** — ドキュメントが Office アプリケーションにインポートされ、Financial Management または Essbase データ・ソースに接続できるようになります。それにより、データの取得、ズーム、ピボットなどのアド・ホック分析を実行できます。
- **関数グリッド** - ステップ 16 に進みます。

16. をクリックして、**「ドキュメント・コンテンツ」**ペインをリフレッシュします。
17. **ドキュメント・コンテンツ**で関数グリッド・オブジェクトを選択し、右クリックして**「新規レポート・オブジェクト/コントロールの挿入」**を選択します。
18. **「新規レポート・オブジェクト/コントロールの挿入」**ダイアログ・ボックスで、グリッドに配置するレポートのタイプを次から選択します:

    - **関数グリッド** - 動的グリッド・フォーマット

      関数グリッドをリフレッシュすると、データ・セルはリフレッシュされますが、メンバーはリフレッシュされません。データとメンバーの両方をリフレッシュするためには、関数グリッドをシートに挿入し直す必要があります。このため、関数グリッドは、メンバーが適度に静的であるレポートの場合に最も有用です。メンバーが頻繁に変更される可能性があるレポートの場合は、レポート・タイプとして表およびチャートがより適しています。ワークシートに複数のレポートを含めることはできますが、関数グリッドは 1 つのみです。

      関数グリッドでは、SUM などの Excel の式を使用できます。そのような式を関数グリッドの一部として保持するためには、式を含むセルとグリッドの間に空の行を 1 行開けておき、式の定義で選択するセル範囲にその空の行を含める必要があります。これにより、データをリフレッシュした結果、グリッド内の行数が変わった場合でも、式を保持できるようになります。

      関数グリッドにフォーマットを設定するには、Excel のフォーマット機能を使用します。

    - **表**

      表レポートは、文書内で位置が固定されておらず移動やサイズ変更が可能なグリッド・フォーマットで、結果を表示します。表をリフレッシュするとメンバーとデータの両方がリフレッシュされます。表は、小さいスペースに大きいグリッドを表示する場合に有用です。スクロール・バーを使用して、行や列にすばやくアクセスできます。

      表レポートでは、ズーム・インおよびズーム・アウトが可能ですが、その他のアド・ホック操作を実行したり、フリー・フォームを使用したりすることはできません。

    - **チャート**

      チャート・レポートは、文書内で位置が固定されておらず移動やサイズ変更が可能なチャート・フォーマットで、結果を表示します。チャートをリフレッシュするとメンバーとデータの両方がリフレッシュされます。
19. **オプション:** 表やチャートを移動したりサイズを変更したりするには、**ドキュメント・コンテンツ**で、の隣の下矢印をクリックし、メニューから**「デザイン・モードの切替え」**を選択します。

    シート、スライド、ページ内でオブジェクトを移動できるようになります。

デザイン・モードを終了する準備ができたら、もう一度**「デザイン・モードの切替え」**を選択します。

20. リフレッシュします。
21. **オプション:** レポートにおける 1 つのディメンションの任意のメンバーまたはすべてのメンバーについて個別のレポートを作成し、そのレポートをワークブックのワークシートにわたってそれぞれ重ねて表示する方法については、レポートおよびアド・ホック・グリッドのカスケードを参照してください。

> **ノート:**
>
> - チャートおよび表を含むレポートでは、カスケード操作により、次回そのワークブックを開いた際に、チャートと表が重なって表示されることがあります。
> - Office 2016 で、Financial Reporting に接続している場合、複数のレポート・オブジェクトを連続して挿入した後、Microsoft Word が予期せずに中断または終了します

Word および PowerPoint への Financial Reporting ドキュメントのインポート

> **ノート:**
>
> このトピックで Oracle Hyperion Financial Reporting という記述は、Financial Reporting の Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management バージョンと Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace バージョンに適用されます。

Financial Reporting ドキュメントを Word および PowerPoint にインポートするには:

1. Smart View のリボンで、**「パネル」**を選択します。
2. Smart View パネルで、サポートされる Cloud EPM または EPM Workspace データ・ソースに接続します。
3. インポートする Financial Reporting ドキュメントに移動します。
4. アクション・パネルで、**「開く」**をクリックします。

   「Workspace ドキュメントのインポート」ウィザードが表示されます。
5. **「ドキュメントの選択」**で、リポジトリを展開し、Financial Reporting ドキュメントを選択して**「OK」**をクリックします。

   ドキュメントが**「Workspace ドキュメントのインポート」**ウィンドウでプレビューされます。

> **ノート:**
>
> 一部の画面は、一部のドキュメントに適用されません。

6. **「ユーザーの POV のプレビュー」**画面が表示されている場合は、現在の POV をプレビューするか、POV のメンバーを選択して変更します。

> **ノート:**
>
> この画面を表示するには、EPM Workspace プリファレンスまたは Cloud EPM サービスのプリファレンスで「ユーザー視点」に対して「プレビュー」を選択します。

7. **オプション:** デフォルト値を変更する場合、**「プロンプトに応答」**でプロンプトを選択し、**「次へ」**をクリックします。

> **ノート:**
>
> この画面は、ドキュメントにプロンプトが含まれている場合にのみ表示されます。

8. **「プレビュー」**で、**「グリッドの POV」**から POV を選択し、POV を変更します。

> **ノート:**
>
> 一部のウィザード画面は、一部のドキュメントに適用されません。

9. **「ページ」**を選択してページ・ディメンションを変更します。
10. **「すべてのページ」**を選択して、ドキュメントのすべてのページをインポートします。
11. **オプション:** 接続されている Cloud EPM サービスまたは EPM Workspace の視点を使用して Financial Reporting ドキュメントをリフレッシュするには、**「ワークスペース 視点を使用してリフレッシュ」**を選択します。
12. **「次のフォーマットでドキュメントをインポート」**で、オプションを選択します:
    - **イメージ** — ドキュメントをイメージとしてインポートします。
    - **関数グリッド** — ステップ 16 で説明されているように、レポート・オプションをさらに選択できる動的なグリッド・フォーマットをインポートします(Word でのみ使用可能)。
13. **「終了」**をクリックします。

    次のステップは、ステップ 12 で選択したオプションによって異なります。

    次を選択した場合:

    - **イメージ** — レポートがイメージとしてドキュメントにインポートされ、Word で Reporting and Analysis イメージは表示のみできます。
    - **関数グリッド** - ステップ 14 に進みます(Word のみ)。

14. をクリックして、**「ドキュメント・コンテンツ」**ペインをリフレッシュします。
15. **ドキュメント・コンテンツ**でレポート・オブジェクトを選択し、右クリックして**「新規レポート・オブジェクト/コントロールの挿入」**を選択します。
16. **「新規レポート・オブジェクト/コントロールの挿入」**ダイアログ・ボックスで、ページに配置するレポートのタイプを次から選択します:

    - **関数グリッド**—動的なグリッド・フォーマット

      関数グリッドをリフレッシュすると、データ・セルはリフレッシュされますが、メンバーはリフレッシュされません。データとメンバーの両方をリフレッシュするためには、関数グリッドをシートに挿入し直す必要があります。このため、関数グリッドは、メンバーが適度に静的であるレポートの場合に最も有用です。メンバーが頻繁に変更される可能性があるレポートの場合は、レポート・タイプとして表およびチャートがより適しています。ワークシートに複数のレポートを含めることはできますが、関数グリッドは 1 つのみです。

      関数グリッドでは、SUM などの Excel の式を使用できます。そのような式を関数グリッドの一部として保持するためには、式を含むセルとグリッドの間に空の行を 1 行開けておき、式の定義で選択するセル範囲にその空の行を含める必要があります。これにより、データをリフレッシュした結果、グリッド内の行数が変わった場合でも、式を保持できるようになります。

      関数グリッドにフォーマットを設定するには、Excel のフォーマット機能を使用します。

    - **Office 表**

      Office 表は、Word でのみ使用できます。Office 表では、結果がネイティブの Microsoft Office 表形式で表示されます。Office 表をリフレッシュすると、メンバーとデータの両方がリフレッシュされます。

      Office 表は Word 文書の一部であるかのように表示され操作できますが、表セルのメンバーとデータは Smart View プロバイダに接続されています。Office 表では、使い慣れた Word の表のフォーマットとスタイルを使用できます。レポートに POV オブジェクトを挿入すると、Office 表の POV を変更できます。フォーマットや POV を変更した後に Office 表をリフレッシュすると、結果には新しい POV が反映され、カスタム・フォーマットが保持されます。

      Office 表オブジェクトでは、ズーム・インやズーム・アウトはできません。また、その他のアド・ホック操作を実行したり、フリー・フォームも使用できません。

    - **表**

      表レポートは、文書内で位置が固定されておらず移動やサイズ変更が可能なグリッド・フォーマットで、結果を表示します。表をリフレッシュするとメンバーとデータの両方がリフレッシュされます。表は、小さいスペースに大きいグリッドを表示する場合に有用です。スクロール・バーを使用して、行や列にすばやくアクセスできます。

      表レポートでは、ズーム・インおよびズーム・アウトが可能ですが、その他のアド・ホック操作を実行したり、フリー・フォームを使用したりすることはできません。

    - **チャート**

      チャート・レポートは、文書内で位置が固定されておらず移動やサイズ変更が可能なチャート・フォーマットで、結果を表示します。チャートをリフレッシュするとメンバーとデータの両方がリフレッシュされます。

17. **オプション:** 表やチャートを移動したりサイズを変更したりするには、**ドキュメント・コンテンツ**で、の隣の下矢印をクリックし、メニューから**「デザイン・モードの切替え」**を選択します。

    シート、スライド、ページ内でオブジェクトを移動できるようになります。

    デザイン・モードを終了する準備ができたら、もう一度**「デザイン・モードの切替え」**を選択します。

18. リフレッシュします。

> **ノート:**
>
> Office 2016 で、Financial Reporting に接続している場合、複数のレポート・オブジェクトを連続して挿入した後、Microsoft Word が予期せずに中断または終了します

Financial Reporting ドキュメントの編集

> **ノート:**
>
> このトピックで Oracle Hyperion Financial Reporting という記述は、Financial Reporting の Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management バージョンと Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace バージョンに適用されます。

Excel、Word および PowerPoint で Financial Reporting ドキュメントを編集するには:

1. 編集する Financial Reporting ドキュメントを開きます。
2. Smart View のリボンから、

の矢印をクリックし、次に**「Reporting and Analysis ドキュメント」**、**「編集」**の順に選択します。

   「Workspace ドキュメントのインポート」ウィザードが表示されます。

   > **ノート:**
   >
   > 一部のウィザード画面は、一部のドキュメントに適用されません。

3. **「ユーザーの POV のプレビュー」**画面が表示されている場合は、現在の POV をプレビューするか、POV のメンバーを変更します。

> **ノート:**
>
> この画面を表示するには、EPM Workspace プリファレンスまたは Cloud EPM サービスのプリファレンスで「ユーザー視点」に対して「プレビュー」を選択します。

4. **オプション:** プロンプトを含むドキュメントでデフォルト値を変更するには、**「プロンプトに応答」**でプロンプトを選択し、**「次へ」**をクリックします。

> **ノート:**
>
> **「プロンプトに応答 m」**は、ドキュメントにプロンプトが含まれている場合にのみ表示されます。

5. POV を変更する場合は、**「グリッドの POV」**の**「プレビュー」**で、POV を選択します。
6. **「終了」**をクリックします。

PowerPoint ドキュメントでのテンプレートの作成

> **ノート:**
>
> このトピックで、Oracle Hyperion Financial Reporting への参照は、Financial Reporting のオンプレミスおよび Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management バージョンの両方に適用されます。

1 つ以上の Financial Reporting レポートをプレゼンテーションにインポートすることにより、保存可能な PowerPoint テンプレート・ドキュメントを作成できます。「テンプレートの作成」アクションのたびに新しい PowerPoint スライドが作成され、「テンプレートのリフレッシュ」が使用されたときにどこに配置されるかを示すレポート名が付けられます。

テンプレートを作成するには:

1. PowerPoint を開きます。
2. Reporting and Analysis プロバイダに接続します。
3. Smart View のリボンから、**「パネル」**、**「Reporting and Analysis ドキュメント」**、**「テンプレートの作成」**の順に選択します。
4. **「Workspace ドキュメントのインポート」**で、Financial Reporting ドキュメントを選択します。
   - **オプション:** ドキュメントのすべてのページをインポートするには、**「すべてのページ」**を選択します。ページごとに別のスライドが作成されます。
   - 現在の画面のプレゼンテーションをインポートするには、**「すべてのページ」**をクリアします。
5. **オプション:** Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace の視点または Cloud EPM サービスの視点を使用するには、**「ワークスペース 視点を使用してリフレッシュ」**を選択します。

6. **「OK」**をクリックします。ドキュメント名が PowerPoint プレゼンテーションにインポートされます。

PowerPoint テンプレートのリフレッシュ

> **ノート:**
>
> このトピックで、Oracle Hyperion Financial Reporting への参照は、Financial Reporting のオンプレミスおよび Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management バージョンの両方に適用されます。

テンプレートをリフレッシュするには:

1. テンプレートを含む PowerPoint プレゼンテーションを開きます。
2. Reporting and Analysis プロバイダに接続します。
3. Smart View のリボンから、**「パネル」**、**「Reporting and Analysis ドキュメント」**、**「テンプレートのリフレッシュ」**の順に選択します。
4. 必要に応じて、PowerPoint プレゼンテーションを編集および保存します。

Financial Reporting レポートのエクスポート

Oracle Hyperion Financial Reporting レポートをエクスポートできます。

Financial Reporting レポートを Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management または Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace から Oracle Smart View for Office にエクスポートする場合、レポートのユーザー POV は保持されません。ユーザー POV のデフォルトは、Smart View で最も最近使用されたユーザー POV です。

28

Smart View および Oracle Hyperion Planning

次も参照:

- Smart View および Oracle Hyperion Planning について
  Oracle Smart View for Office は、Oracle Hyperion Planning のいくつかの機能をサポートしています。
- Oracle Hyperion Planning の承認
  承認とは、プランニング・ユニットの送信、確認、承認プロセスです。
- Oracle Hyperion Planning のジョブ・ステータスのモニタリング
  ジョブ・コンソールを使用して、Oracle Hyperion Planning ジョブの実行ステータスを表示し、必要に応じて削除します。
- Oracle Hyperion Planning フォームでのページの検索
  Oracle Hyperion Planning の管理者が 1 つのフォームに対して複数のページ・ディメンションを設定している場合は、必要なデータが含まれるページを、ページのドロップダウン・メニューから選択します。
- バージョンのコピー
  データを 1 つのボトムアップまたは選択済シナリオのターゲット・バージョンから他のボトムアップまたは同じシナリオ内のターゲット・バージョンへコピーします。
- 複合フォーム
  Oracle Smart View for Office から Oracle Hyperion Planning の複合フォームを開くことができます。
- Oracle Hyperion Planning ビジネス・ルールの使用
  Oracle Hyperion Planning フォームおよびアド・ホック・グリッドで、ビジネス・ルールを使用して、Oracle Essbase のデータを計算できます。
- データの分散
  期間に対するデータの分散、グリッド分散を使用した値の分散、および一括割当てを使用した値の分散が可能です。
- メンバー式
  式を含むセル内の式を表示できます。
- サポート詳細
  サポート詳細は、メンバー・アウトラインに含まれないデータを作成するための、組込み型の計算機として機能します。
- ユーザー・プリファレンスの設定
  アプリケーション設定、表示設定およびユーザー変数のプリファレンスを設定します。
- Oracle Hyperion Planning へのネイティブ Excel フォーマットの保存
  Oracle Smart View for Office を使用すると、ネイティブ Excel フォーマットを、フォームまたはアド・ホック・グリッドの一部として、Oracle Hyperion Planning に保存できます。

Smart View および Oracle Hyperion Planning について

Oracle Smart View for Office は、Oracle Hyperion Planning のいくつかの機能をサポートしています。

データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Planning

このガイドには、Smart View でサポートされる Oracle Hyperion Planning の機能を使用するための手順情報のみが記載されています。Oracle Hyperion Planning の詳細は、Oracle Help Center で入手可能な *Oracle Hyperion Planning ユーザー・ガイド*を参照してください。このライブラリを開くには、Smart View のリボンから、**「ヘルプ」**の隣の矢印をクリックし、**「ドキュメンテーション」**をクリックします。

Planning を Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management で使用している場合は、Smart View と Cloud EPM を参照してください。

Oracle Hyperion Planning の承認

承認とは、プランニング・ユニットの送信、確認、承認プロセスです。

データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Planning

承認の役割が割り当てられている場合、ここで説明する承認関数を実行できます。役割の詳細は、管理者に問い合せてください。

関連トピック:

Oracle Hyperion Planning ユニットのステータスの変更

Oracle Hyperion Planning ユニットの検索

Oracle Hyperion Planning ユニットの移動パス

Oracle Hyperion Planning ユニットの注釈

不在時のアシスタント

Oracle Hyperion Planning ユニットのステータスの変更

データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Planning

1 つ以上のプランニング・ユニットのステータスを一度に変更できます。

プランニング・ユニットのステータスを表示または変更するには:

1. 適切なフォームを開きます。
2. 「Planning」リボンで**「承認」**を選択します。
3. **「承認の管理」**から、**「シナリオ」**および**「バージョン」**を選択します。
4. をクリックして、アクセス権を持つプランニング・ユニットのリストを表示します。
5. **オプション:** 表示モード・ボタンで、次のいずれかを選択します。
   - **フラット・ビュー**: プランニング・ユニットをリストとして表示します。

- **「ツリー・ビュー」**では、プランニング・ユニットが階層形式で表示されます(管理者のみが使用可能)。

  ツリー・ビューで**「開始」**を選択すると、プランニング・ユニットが開始され、**「除外」**を選択すると、プランニング・ユニットがプロセスから除外されます。
- **「マイ・プランニング・ユニット」**では、自分が所有するプランニング・ユニットのみが表示されます。

6. ステータスを変更するプランニング・ユニットまたはユニットを選択します。リストが長すぎてプランニング・ユニットを容易に特定できない場合、Oracle Hyperion Planning ユニットの検索の説明に従ってフィルタを検索するか、リストに適用できます。
7. 選択したプランニング・ユニットの詳細を表示するには、**「プランニング・ユニットの詳細」**をクリックします。

   「承認ステータス」タブには、プロセスのステータス、所有者、とられたアクション、およびステータスの変更日時の履歴が表示されます。

   「注釈」タブには、プランニング・ユニット用に入力されたすべての注釈が表示されます。Oracle Hyperion Planning ユニットの注釈を参照してください。
8. プランニング・ユニットのステータスを変更するには、**「ステータスの変更」**をクリックします。

   > **ノート:**
   >
   > 親エンティティのステータスを変更すると、子が「初回パス」状態時に除外されているかまたはすでに承認されている場合を除いて、親エンティティのすべての子もステータスが変更されます。

9. **「承認 - エンティティのステータスの変更」**からアクション、およびプランニング・ユニットの次の所有者を選択します。
10. **オプション**: **「注釈の入力」**の下に注釈を入力します。
11. **「送信」**をクリックします。
12. **オプション:** 変更したプランニング・ユニットを検証するには、をクリックします。一度に検証できるのは 1 つのプランニング・ユニットのみです。

関連トピック:

Oracle Hyperion Planning ユニットの検索

Oracle Hyperion Planning ユニットの移動パス

Oracle Hyperion Planning ユニットの注釈

不在時のアシスタント

Oracle Hyperion Planning ユニットの検索

データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Planning

「承認の管理」で、プランニング・ユニットのリストを検索したり、フィルタを適用することで、プランニング・ユニットを簡単に検索できます。フィルタ条件として、自動フィルタ、メンバーの選択、または世代を使用できます。

プランニング・ユニットのリストをフィルタ処理するには:

1. Oracle Hyperion Planning ユニットのステータスの変更の説明に従って、「承認の管理」を開き、シナリオおよびバージョンを選択します。
2. をクリックして、フィルタ処理を使用可能にします。

   フィルタ処理ツールを含むフィルタ・バーが、プランニング・ユニット・リストのすぐ上に表示されます。
3. 次の手順のいずれかを使用します:
   - **検索**

     特定のプランニング・ユニットを検索するには、その名前を**「プランニング・ユニット」**フィールドに入力し、をクリックします。
   - **自動フィルタ処理**
     a. フィルタ・バーで、**「承認ステータス」**、**「サブステータス」**または**「現在の所有者」**の列ヘッダーの矢印をクリックします。
     b. フィルタ条件となる列の値を選択します。これらの列の複数に自動フィルタを適用できます。
   - **メンバー選択によるフィルタ**
     a. フィルタ・バーでをクリックし、**「メンバー・セレクタ」**を選択します。
     b. をクリックして、プランニング・ユニット・リストのメンバーを選択します
     c. をクリックして、リストをフィルタ処理します。
   - **世代によるフィルタ**
     a. フィルタ・バーでをクリックし、**「世代」**を選択します。
     b. をクリックして、プランニング・ユニット・リストに表示する 1 つ以上の世代を選択します。
     c. をクリックして、リストをフィルタ処理します。
     d. **「OK」**をクリックします。
4. **オプション:** フィルタを適用する前にフィルタ選択を元に戻すには、をクリックします。

関連トピック:

Oracle Hyperion Planning ユニットのステータスの変更

Oracle Hyperion Planning ユニットの移動パス

Oracle Hyperion Planning ユニットの注釈

不在時のアシスタント

Oracle Hyperion Planning ユニットの移動パス

データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Planning

プランニング・ユニットは、次に基づいて個人から個人、および部署から部署へ移動します:

- プランニング・ユニットに割り当てられた所有者と確認者
- 階層内のプランニング・ユニットの場所

プランニング・ユニットの移動パスをグラフィカルな形式で表示するには:

1. 「Planning」リボンで**「承認」**を選択します。
2. **「承認の管理」**から、**「シナリオ」**および**「バージョン」**を選択します。
3. **「実行」**をクリックして、アクセス権を持つプランニング・ユニットのリストを表示します。
4. プランニング・ユニットを選択します。
5. をクリックします。

関連トピック:

Oracle Hyperion Planning ユニットのステータスの変更

Oracle Hyperion Planning ユニットの検索

Oracle Hyperion Planning ユニットの注釈

不在時のアシスタント

Oracle Hyperion Planning ユニットの注釈

データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Planning

開始したプランニング・ユニットのデータに関するコメントを追加または表示できます。注釈は、シナリオ、バージョンおよびエンティティ・メンバーの組合せなどによって異なります。

プランニング・ユニットの注釈を追加するには:

1. 「Planning」リボンで**「承認」**を選択します。
2. **「承認の管理」**から、**「シナリオ」**および**「バージョン」**を選択します。
3. **「実行」**をクリックして、アクセス権を持つプランニング・ユニットのリストを表示します。
4. 注釈を追加するプランニング・ユニットを選択します。リストをフィルタ処理するには、Oracle Hyperion Planning ユニットの検索を参照してください。
5. **オプション:** 選択したプランニング・ユニットに対する既存の注釈を表示するには、**「プランニング・ユニットの詳細」**、**「注釈」**タブの順にクリックします。
6. をクリックします。

7. **「承認 - 注釈の追加」**で、タイトルおよび注釈を入力します(1,500 文字以内)。マルチバイト・システムでは、注釈を 750 文字以内することをお薦めします。URL、リンクおよびテキストを入力できます。
8. **「送信」**をクリックします。

関連トピック:

Oracle Hyperion Planning ユニットのステータスの変更

Oracle Hyperion Planning ユニットの検索

Oracle Hyperion Planning ユニットの移動パス

不在時のアシスタント

不在時のアシスタント

データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Planning

不在時のアシスタントを設定して、不在中に届いたプランニング・ユニットを再割当てできます。

不在時のアシスタントを設定するには:

1. 「Planning」リボンで**「承認」**を選択します。
2. **「承認の管理」**から、**「不在時のアシスタント」**を選択します。
3. **「不在時のアシスタント」**から、**「現在不在です」**を選択します。
4. 「アクションの選択」からアクション、および不在中に届くプランニング・ユニットの次の所有者を選択します。
5. **オプション:** 注釈を入力します。
6. **「送信」**をクリックします。

関連トピック:

Oracle Hyperion Planning ユニットのステータスの変更

Oracle Hyperion Planning ユニットの検索

Oracle Hyperion Planning ユニットの移動パス

Oracle Hyperion Planning ユニットの注釈

Oracle Hyperion Planning のジョブ・ステータスのモニタリング

ジョブ・コンソールを使用して、Oracle Hyperion Planning ジョブの実行ステータスを表示し、必要に応じて削除します。

データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Planning

ビデオ

目的	このビデオを見る
ジョブ・ステータスのモニタリングについての説明など、Planning に関連する Oracle Smart View for Office の基本的な機能について学習します。	Oracle Planning and Budgeting Cloud による Smart View でのプラン・データの入力および保存

ジョブの実行ステータスをチェックするには:

1. Planning リボンまたは Planning アド・ホック・リボンで、**「詳細」**、**「ジョブ・コンソール」**の順に選択します。
2. デフォルトで、すべてのジョブが表示されます。ジョブのリストをフィルタするには、「フィルタ条件」から、次のジョブ条件のいずれかを選択します:
   - **タイプ**: ドロップダウン・メニューから、次のいずれかを選択します:
     - ビジネス・ルール
     - ルールセット(Calculation Manager)
     - シーケンス(Business Rule)
     - セル詳細のクリア
     - データのコピー
     - データのプッシュ
   - **ステータス**: ドロップダウン・メニューから、「処理中」、「完了」、「エラー」のいずれかを選択します。
   - **ジョブ名**
   - **ユーザー名**
   - **開始日**
   - **終了日**
3. **「実行」**をクリックします。

   ジョブ・コンソールが選択条件に合うジョブを表示します。

   > **ノート:**
   >
   > 自動リフレッシュするように**「ジョブ・コンソール」**ウィンドウを構成した場合は、指定した間隔の後に、選択基準に一致するジョブが表示されます。ジョブ・コンソールの自動リフレッシュは、Smart View 20.200 以降に適用されます。詳細は、ジョブ・コンソールの自動リフレッシュの構成を参照してください。

4. **オプション:** アプリケーション名およびジョブのプラン・タイプを表示するには、ジョブを選択し、**「詳細の表示」**をクリックします。
5. **オプション:** ジョブを削除するには、ジョブを選択して**「削除」**をクリックします。

ジョブ・コンソールの自動リフレッシュの構成

Oracle Smart View for Office 20.200 以降、Windows レジストリ設定 JobConsoleAutoRefreshInterval で指定した間隔で自動リフレッシュするように、「ジョブ・コンソール」ウィンドウを構成できます。

「実行」ボタンを使用して、必要な頻度で「ジョブ・コンソール」ウィンドウをリフレッシュすることもできます。ただし、JobConsoleAutoRefreshInterval 設定をレジストリに追加すると、「実行」ボタンをクリックしなくてもウィンドウが自動的に更新されます。

JobConsoleAutoRefreshInterval 設定は、次の HKEY_CURRENT_USER レジストリ・フォルダに新しい DWORD として追加します。

```
Computer\HKEY_CURRENT_USER\Software\Hyperion
Solutions\HyperionSmartView\Preferences
```

必要な時間間隔を指定します。最小値は 15 秒です(「基本」が「小数」に設定されている場合、値データは 15000 に設定されます)。

設定を追加した後、Smart View で「ジョブ・コンソール」ウィンドウを開いたままにして、指定した間隔でウィンドウがリフレッシュされるのを確認します。

コンピュータのレジストリを変更する権限を持つユーザーは、この設定を構成できます。ジョブ・コンソールの使用方法の詳細は、ジョブ・ステータスのモニタリングを参照してください。

Oracle Hyperion Planning フォームでのページの検索

Oracle Hyperion Planning の管理者が 1 つのフォームに対して複数のページ・ディメンションを設定している場合は、必要なデータが含まれるページを、ページのドロップダウン・メニューから選択します。

データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Planning

Oracle Hyperion Planning でページを検索するには:

1. 検索したいページ・ディメンションをクリックして強調表示します。
2. ドロップダウン・メニューから、操作したいデータが含まれるページ名を選択します。

バージョンのコピー

データを 1 つのボトムアップまたは選択済シナリオのターゲット・バージョンから他のボトムアップまたは同じシナリオ内のターゲット・バージョンへコピーします。

データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Planning

たとえば、「ベスト・ケース」バージョンを作成し、そのバージョンの一部またはすべてのデータを「ワースト・ケース」バージョンへコピーし、新規バージョンの開始点をすばやく作成できます。

ボトムアップ・バージョンとターゲット・バージョン間でのコピーは可能ですが、

- ボトムアップ・バージョンにコピーすると、選択したレベル 0 のメンバーのみがコピーされます。
- ターゲット・バージョンにコピーすると、選択したすべてのメンバーがコピーされます。

- 承認済プランニング・ユニット内のデータ保護のため、バージョンのコピーを行っても承認済のプランニング・ユニットにはコピーされません。

> **ノート:**
>
> データをコピーするには、コピーするデータの基準を指定するときに、シナリオ、勘定科目、エンティティ、期間およびバージョン・ディメンションの少なくとも 1 つのメンバーを選択する必要があります。

バージョンをコピーするには:

1. Planning のリボンまたは Planning アド・ホックのリボンから**「バージョンのコピー」**を選択します。
2. **「シナリオ」**から、コピーするシナリオを選択します。
3. **「コピー元」**から、ソース・バージョンを選択します。
4. **「コピー先」**から、宛先のバージョンを選択します。
5. **「実行」**をクリックし、選択したソース・バージョンの使用可能なエンティティ (プランニング・ユニット)を表示します。
6. 矢印キーを使用して、**「使用可能なエンティティ」**から、エンティティを選択します。「プロセス・ステータス」が、「開始していません」または「第 1 パス」のエンティティをコピーできます。
7. **オプション:** 関連情報をコピーするには、次のオプションのいずれかを選択します。
   - 勘定科目の注釈のコピー。選択されたエンティティの注釈のみがコピーされます。ボトムアップ・バージョンにコピーする場合は、レベル 0 のエンティティ (およびその注釈)のみがコピーされます。
   - セル・テキストおよびドキュメント・リンクのコピー
   - サポート詳細のコピー
8. **「データのコピー」**をクリックします。

> **ノート:**
>
> 他の Web ページをロードする前に、「バージョンのコピー」の完了メッセージが表示されるのを待ちます。

複合フォーム

Oracle Smart View for Office から Oracle Hyperion Planning の複合フォームを開くことができます。

データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Planning

Oracle Hyperion Planning の複合フォームを開くには:

1. 複合フォームを含む Oracle Hyperion Planning データ・ソースに接続します。

2. 「接続」ツリー・リストから、複合フォーム(で示されています)をダブルクリックします。

   複合フォームが新規の Excel ワークブックで開き、各サブフォームが個別のワークシートに表示されます。

Smart View では、Oracle Hyperion Planning マスター複合フォームがサポートされます。

Oracle Hyperion Planning ビジネス・ルールの使用

Oracle Hyperion Planning フォームおよびアド・ホック・グリッドで、ビジネス・ルールを使用して、Oracle Essbase のデータを計算できます。

ビジネス・ルールの中には情報の入力を促すものがあります。これは*実行時プロンプト*と呼ばれます。

データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Planning

> **ノート:**
>
> このビデオを見て、ビジネス・ルールについての説明など、Planning に関連する Oracle Smart View for Office の基本的な機能を確認してください。

ビデオ

目的	このビデオを見る
ビジネス・ルールについての説明など、Planning に関連する Smart View の基本的な機能について学習します。	 Oracle Planning and Budgeting Cloud による Smart View でのプラン・データの入力および保存

関連トピック:

Excel でのビジネス・ルールの起動

実行時プロンプトへの入力

「フォームの計算」および「通貨の計算」ビジネス・ルールの実行

Excel でのビジネス・ルールの起動

データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Planning

Excel でビジネス・ルールを起動して Oracle Essbase のデータを再計算するには:

1. Oracle Hyperion Planning アド・ホック・グリッドまたはフォーム(単一または複合)を開きます。
2. 未保存のすべてのデータを保存します。

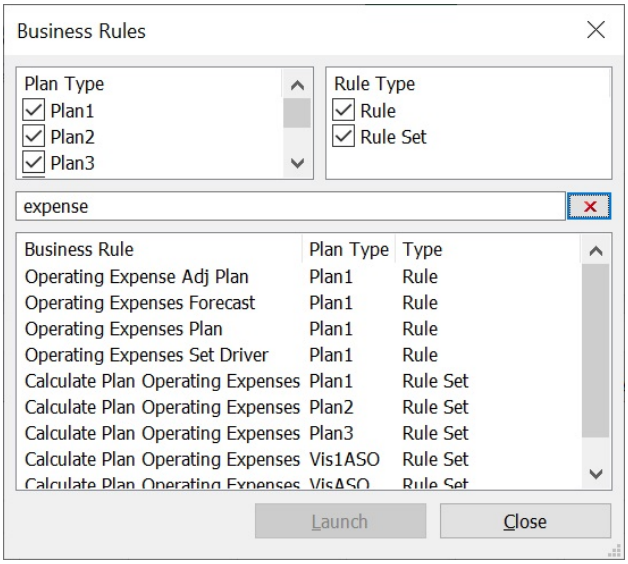
   ビジネス・ルールを起動すると、未保存のデータは失われます。
3. Planning のリボンから、**「計算」**、**「ビジネス・ルール」**の順に選択します。
4. **オプション:** キューブおよびルール・タイプ別にルールをフィルタ処理します。

デフォルトでは、すべてのキューブおよびルール・タイプのオプションが選択されています。検索を絞り込むには、表示する必要がないキューブおよびルール・タイプのチェック・ボックスの選択を解除します。選択内容に従ってリストがフィルタ処理されます。たとえば、Plan1 のみとすべてのルール・タイプを選択すると、Plan1 キューブにのみ適用されるすべてのタイプのビジネス・ルールが表示されます。

5. **オプション: 「プラン・タイプ」**および**「ルール・タイプ」**にある「検索」フィールドを使用して、名前または名前の一部でルールを検索します。

   「検索」フィールドに検索基準を入力し、**[Enter]**を押すか、「検索」フィールドの右側にある**「検索」**ボタン、 をクリックします。

   たとえば、文字列 expense を含むすべてのルールおよびルール・セットを検索できます。**[Enter]**を押すか、 をクリックすると、結果リストに、名前のどこか(先頭、中間または末尾)に「Expense」を含むすべてのビジネス・ルールまたはルール・セットが表示されます。



> **ノート:**
>
> 前のステップで説明したチェック・ボックスを使用して、結果をさらにフィルタできます。

検索をクリアして、すべてのビジネス・ルールおよびルール・セットを復元するには、 をクリックします。

「検索」フィールドは、Smart View 23.200 以降で使用可能です。

6. **「ビジネス・ルール」**の**「プランのタイプ」**で、使用するルールに関連付けられているプラン・タイプを選択します。
7. そのプラン・タイプについて一覧表示されたルールの中からルールを選択し、**「起動」**をクリックします。

   ビジネス・ルールに実行時プロンプトが含まれる場合、実行時プロンプトへの入力に示されている情報を入力します。

> **ノート:**
>
> リリース 11.2.5 以降、ユーザーは Oracle Smart View for Office から動的メンバー(オンザフライ・メンバーとも呼ばれます)を追加できます。動的メンバーを追加するには、**「実行時プロンプト」**テキスト・ボックスに新規メンバー名を手動で入力し、**「起動」**をクリックします。

計算が正常に処理されると、計算結果がデータベースの値に反映されます。

> **ヒント:**
>
> Oracle Hyperion Planning 管理者: Oracle Hyperion Planning のフォーム設計中に**「保存時に実行」**を有効にした複合フォームに直接添付された、実行時プロンプトを含むルールは、Smart View でサポートされません。常にルールを単一のフォームに添付し、**「保存時に実行」**を有効にして、単一のフォームから複合フォームにビジネス・ルールを添付する必要があります。これにより、すべての実行時プロンプト値がフォーム・コンテキストから正しく選択され、ビジネス・ルールが正常に起動します。

8. **「閉じる」**をクリックします。
9. Smart View のリボンから、**「リフレッシュ」**を選択します。

関連トピック:

実行時プロンプトへの入力

「フォームの計算」および「通貨の計算」ビジネス・ルールの実行

実行時プロンプトへの入力

データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Planning

起動時に、ビジネス・ルールが変数情報を入力するように指示することができます。いわゆる*実行時プロンプト*です。ビジネス・ルールのデザイナが実行時プロンプトを設定します。

実行時プロンプトを入力するには:

1. 実行プロンプトがあるビジネス・ルールを起動します。
2. 実行時プロンプトにより指定された入力タイプを入力または選択します。次の表は入力タイプをまとめたものです:

表 28-1 実行時プロンプトおよび予想される入力

アイコン	予想される入力タイプ
	1 つのメンバー選択 リリース 11.2.5 以降、動的メンバーを追加するには、**「実行時プロンプト」**テキスト・ボックスに新規メンバー名を手動で入力し、**「起動」**をクリックします。

表 28-1 (続き) 実行時プロンプトおよび予想される入力

アイコン	予想される入力タイプ
	複数メンバー選択
	数値(入力するか、セルのドロップダウン・メニューから選択する)
	テキスト値 - 高度な計算スクリプトのみで使用し、グラフィック表示のスクリプトでは使用しません
	データベースからのディメンション - 高度な計算スクリプトのみで使用し、グラフィック表示のスクリプトでは使用しません
	**Calculation Manager のビジネス・ルールのみ:** デザイナが実行時プロンプトに対して設定した各ディメンションから 1 つのメンバーのみを含むメンバーまたはメンバーの組合せ(たとえば、「売上->実績->1 月」は売り上げ、実績および 1 月のメンバー交差を参照しています)
	**Calculation Manager のビジネス・ルールのみ:** デザイナが実行時プロンプトに対して設定した各ディメンションから選択可能なメンバーの範囲(IDescendants("Marketing"),FY08 など)

実行時プロンプトが有効であることを確認してください。すべての実行時プロンプト値が有効になるまで、ビジネス・ルールを起動できません。

3. **「起動」**をクリックします。

   計算が正常に処理されると、データベースの値に計算結果が反映されます。

関連トピック:

Excel でのビジネス・ルールの起動

「フォームの計算」および「通貨の計算」ビジネス・ルールの実行

「フォームの計算」および「通貨の計算」ビジネス・ルールの実行

データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Planning

「フォームの計算」ビジネス・ルールは、小計を計算する各フォーム用に作成されています。「通貨の計算」ビジネス・ルールは、行、列またはページに複数の通貨が含まれるフォーム用に作成され、使用可能な通貨間で値を換算できます。

ビジネス・ルールを起動する順序は、データに影響を与える場合もあるので重要です。「フォームの計算」ビジネス・ルールと「通貨の計算」ビジネス・ルールの両方を起動する予定の場合は、フォームの小計を計算する前に、必ず換算を実行します。

「フォームの計算」および「通貨の計算」のビジネス・ルールを Excel で起動するには:

1. フォームを開きます。

   ビジネス・ルールを起動すると、スプレッドシートの未保存のデータは失われます。

2. 「Planning」リボンで**「計算」**、**「フォームに関する規則」**の順に選択します。

   フォームに関連付けられたビジネス・ルールが、「ビジネス・ルール」ダイアログ・ボックスに表示されます。

3. 次のいずれかまたは両方を実行します:
   - 通貨を換算するには、**「通貨の計算」**を選択します
   - 小計を計算するには、**「フォームの計算」**を選択します
4. **「起動」**をクリックします。

   計算が正常に処理されると、計算結果がデータベースの値に反映されます。

関連トピック:

Excel でのビジネス・ルールの起動

実行時プロンプトへの入力

データの分散

期間に対するデータの分散、グリッド分散を使用した値の分散、および一括割当てを使用した値の分散が可能です。

データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Planning

- 期間に対するデータの分散
- グリッド分散を使用した値の分散
- 一括割当てを使用した値の分散

期間に対するデータの分散

データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Planning

フォームで、期間の分散ルールは、ディメンションのプロパティ設定の一部として Oracle Hyperion Planning で設定されます。Excel でフォームを操作している場合、管理者がフォームをどのように設定したかに応じて、データ値を複数の方法で分散または配分できます:

- 要約期間の値を基本期間に戻す分散、または要約期間の値を親期間の最初の親または最初の子に戻す分散
- 親子間の既存の配分に基づく比例分散
- 予算管理者により 4-4-5、5-4-4、4-5-4 または「なし」のいずれかに設定されている、カレンダの四半期ごとの週次配布に基づく値の分散
- 特定のセルの値を一時的にロックした状態での、期間に対するデータの分散(特定セルをロックしたデータの分散を参照)
- 同じ行または列ディメンションで別個の期間それぞれに異なる分散ルールを使用して異なる期間に値を分散します。たとえば、FY2013 では式の充てん、FY2014 ではフローが可能です。

  この分散タイプでは、11.1.2.3.500 以降の Oracle Hyperion Planning リリースが必要です。

ノート

- 複数の通貨が混在するメンバーが含まれる要約期間のデータは分散できません。

- 子セル内の Excel 式は、分散時には無視されます。

期間に対してデータを分散するには:

1. フォームを開きます。
2. セルを選択し、新しい値を入力します。

   *Oracle Hyperion Planning ユーザー・ガイド*のデータの調整と分散に関する項に示されたルールに従い、値が配分されます
3. **「保存」**をクリックします。

関連トピック:

特定セルをロックしたデータの分散

グリッド分散を使用した値の分散

一括割当てを使用した値の分散

特定セルをロックしたデータの分散

データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Planning

期間に対してデータを分散する場合、他の値の再計算時に、1 つ以上のセルを一時的にロックしてそれらのセルの値を保護できます。様々な計算を基に期間上にデータを分散し、変化を確認してからデータベースに確定できます。セルをロックした分散の例は、*Oracle Hyperion Planning ユーザー・ガイド*を参照してください。

値を一時的にロックするには:

1. フォームを開きます。
2. フォームで、ロックするセルまたはセルのグループを選択します。
3. Planning のリボンから、**「ロック」**を選択します。

   色の変化は、セルがロックされたことを示します。これで、ロックされたセルに影響を与えることなく、他のセルのデータを自由に分散または操作できます。
4. セルのロックを解除するには、グリッドをリフレッシュします。

関連トピック:

グリッド分散を使用した値の分散

一括割当てを使用した値の分散

グリッド分散を使用した値の分散

データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Planning

管理者が「グリッド分散」を使用可能にしている場合、ターゲット・セルの既存の値に基づいて、グリッド上の複数のディメンションにわたって値を増減する量またはパーセンテージを指定することができます。分散データを計算する場合、読取り専用のセルとロックされたセル、およびサポート詳細の付いたセルは無視されます。アクセスできるセルのみに値を分散することで、データの整合性が保証されます。

グリッド分散を使用した値を分散するには:

1. ターゲット・セルに分散したい小計または合計ソース・セル値にカーソルを置きます。

2. Planning リボンまたは Planning アド・ホック・リボンから、**「調整」**、**「グリッド分散」**の順に選択します。
3. ドロップダウン・メニューから、次のいずれかを選択します:
   - **値**: 指定した量で値を増減します。
   - **パーセンテージ**: パーセンテージで値を増減します。
4. **「指定値ずつ増やす」**または**「指定値ずつ減らす」**を選択して値を入力します。
5. **「分散値」**に実際の分散値を入力します。

   たとえば、**「現在の値」**が 100 で、分散値を 125 にする場合、**「分散値」**に直接 125 と入力し、ステップ 4 の**「指定値ずつ増やす」**/**「指定値ずつ減らす」**オプションまたはテキスト・ボックスでは何もしません。

   または、**「指定値ずつ増やす」**に 25 と入力すると、**「分散値」**に 125 と表示されます。

   > **ノート:**
   >
   > **「分散値」**に値を入力しても、**「指定値ずつ増やす」**/**「指定値ずつ減らす」**テキスト・ボックスには影響はありません。ただし、**「指定値ずつ増やす」**/**「指定値ずつ減らす」**に値を入力すると、**「分散値」**テキスト・ボックスに分散値が反映されます。

6. 分散パターンを選択します。
   - **比例分散**: ターゲット・セルの既存値に基づいて、値を比例分散します(デフォルト)。
   - **均等分割**: ターゲット・セル間で均等に値を分散します。
   - **入力**: すべてのターゲット・セル内の値を置換します。

   管理者は他の分散パターンを追加できます。
7. **「分散」**をクリックします。指定した値またはパーセンテージがターゲット・セル全体に分散され、前の値を新しい値に置換します。
8. 新しい値を保存するには、**「保存」**をクリックします。

関連トピック:

特定セルをロックしたデータの分散

一括割当てを使用した値の分散

一括割当てを使用した値の分散

データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Planning

一括割当てを使用して、すべてのソース・セルの子孫およびすべてのディメンションでデータを分散できます。一括割当てによる分散は、グリッドに表示されないセルにデータを分散し、ターゲット・セルへのアクセス権を持つ必要はありません。

一括割当てはフォームでのみ可能で、管理者が一括割当てを使用可能にしておく必要があります。一括割当てを使用するには一括割当ての役割でプロビジョニングされる必要があります。

> **ノート:**
>
> 一括割当ては元に戻せません。

一括割当てを使用して値を分散するには:

1. 分散する小計または合計セルにカーソルを置きます。
2. Planning リボンまたは Planning アド・ホック・リボン(Oracle Hyperion Planning)から、**「調整」**、**「一括割当て」**の順に選択します。
3. 「分散値」に新しい値を入力して現在の値を置き換えるか、ドロップダウン・メニューから、次のいずれかを選択します:
   - **値**: 指定した量で値を増減します。
   - **パーセンテージ**: パーセンテージで値を増減します。
4. **「指定値ずつ増やす」**または**「指定値ずつ減らす」**を選択して値を入力します。
5. **「分散値」**に実際の分散値を入力します。

   たとえば、**「現在の値」**が 100 で、分散値を 125 にする場合、**「分散値」**に直接 125 と入力し、ステップ 4 の**「指定値ずつ増やす」**/**「指定値ずつ減らす」**オプションまたはテキスト・ボックスでは何もしません。

   または、**「指定値ずつ増やす」**に 25 と入力すると、**「分散値」**に 125 と表示されます。

   > **ノート:**
   >
   > **「分散値」**に値を入力しても、**「指定値ずつ増やす」**/**「指定値ずつ減らす」**テキスト・ボックスには影響はありません。ただし、**「指定値ずつ増やす」**/**「指定値ずつ減らす」**に値を入力すると、**「分散値」**テキスト・ボックスに分散値が反映されます。

6. 指定した値またはパーセンテージをターゲット・セル全体に分散するには、「分散タイプ」を選択します:
   - **比例分散**: ターゲット・セルの既存値に基づいて、値を比例分散します(デフォルト)。
   - **均等分割**: ターゲット・セル間で均等に値を分散します。
   - **入力**: すべてのターゲット・セル内の値を置換します。
   - **リレーショナル分散**: 様々なソースの場所に存在する値に基づいて、選択されたセルに分散します。このオプションを選択すると、**「選択済」**列に各ディメンションに対して現在選択されているメンバーが表示されます。
7. 「分散」をクリックします。新しい値は自動的に Oracle Essbase に保存されます。

関連トピック:

特定セルをロックしたデータの分散

グリッド分散を使用した値の分散

メンバー式

式を含むセル内の式を表示できます。

このようなセルは、Oracle Smart View for Office の**「オプション」**ダイアログ・ボックスの**「セルのスタイル」**タブで指定したセル・スタイルによってグリッドに示すことができます。

データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Planning

> **ノート:**
>
> Oracle Hyperion Planning Web インタフェースでは、Smart View の式で表示する前に、**「メンバー式」**プロパティをフォーム内で有効にする必要があります。適切な権限のあるユーザーが Oracle Hyperion Planning でフォームを開き、**「レイアウト」**タブ、**「ディメンション・プロパティ」**に進み、**「メンバー式」**を選択する必要があります。

メンバー式を表示するには:

1. フォームを開きます。
2. 表示する式を含むメンバーを選択します。
3. Planning のリボンから、**「詳細」**、**「メンバー式」**の順に選択します。

   式の詳細が表示されます。

> **ノート:**
>
> 式を使用して別のシートのメンバーが参照されている場合、データは返されません。たとえば、期間が別のシートの列にあり、他のすべてのシートでそのセルを参照している場合、他のシートでデータはリフレッシュされません。別のシートのメンバーを参照するデータを表示するには、メンバー式のセルの Excel セルのフォーマットを「標準」に設定します。

サポート詳細

サポート詳細は、メンバー・アウトラインに含まれないデータを作成するための、組込み型の計算機として機能します。

データの集約方法を定義するテキスト、値、および演算子を含めることができます。

データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Planning

関連トピック:

サポート詳細の追加

サポート詳細の階層における作業

サポート詳細の表示または変更

サポート詳細と Essbase の同期

サポート詳細の追加

データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Planning

「サポート詳細」を使用して、詳細アイテムがフォーム内のセルの値に集約される方法を指定します。

ビデオ

目的	このビデオを見る
サポート詳細の追加など、Planning に関連する基本的な Oracle Smart View for Office 機能の使用について学習します。	 Oracle Planning and Budgeting Cloud による Smart View でのプラン・データの入力および保存

値を計算するサポート詳細をフォームまたはアド・ホック・グリッド内に追加するには:

1. フォームまたはアド・ホック・グリッドを開き、セルを選択します。

   1 つの行また列内で、1 つのセルを選択するかまたは複数のセルを続けて選択できます。このセクションに行または列の組合せを含められません。書き込めるように、現地通貨のセルを選択してください。

2. Planning のリボンまたは Planning アド・ホックのリボンから、**「セルのアクション」**、**「サポート詳細」**の順に選択します。

   「サポート詳細」ウィンドウに選択したセルが反映されます。

3. 「無題」テキストに説明を入力します。

   テキストとそれに関連する演算子は、同じ親の下にいる子の間で同じものは使用できません。デフォルトでは、最大 1,500 文字入力できます。

4. ボタンを使用して、インデントされた階層を作成または変更し、目的の構造と計算を反映します。

   たとえば、**「子の追加」**をクリックして、選択したアイテムの直下にライン・アイテムを追加します。

5. アイテムごとに演算子を選択して、ライン・アイテム間の演算関係を設定します。

   次の演算子から選択します。

演算子	関数
+	加算
-	減算
*	乗算
/	除算
~	無視

6. データを入力して設定または計算をします。

   フォームで設定したものと同じ倍率を使用して、数字を入力します。

7. **「送信」**をクリックします。

値は動的に計算され、データを送信する前に集約されます。フォーム上のデータも送信されます。

関連トピック:

サポート詳細の階層における作業

サポート詳細の表示または変更

サポート詳細と Essbase の同期

サポート詳細の階層における作業

データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Planning

サポート詳細の階層は、適切な関係を作成するセルの値と算術演算子をサポートする情報のタイプを反映しています。

サポート詳細の階層を作成または変更するには:

1. フォームで、サポート詳細のセルを選択します。
2. Planning リボンまたは Planning アド・ホック・リボンから、**「サポート詳細」**を選択します。
3. データ値の詳細が含まれる階層内でアイテム上にカーソルを置き、次の表のオプションをクリックして行を作成または変更します:

表 28-2 「サポート詳細」オプション

オプション	結果
子の追加	選択されたセルの 1 レベル下にアイテムを追加します。子は無制限に追加できますが、パフォーマンスに与える影響を考慮してください。
兄弟の追加	選択されたセルと同じレベルにアイテムを追加します。兄弟は無制限に追加できますが、パフォーマンスに与える影響を考慮してください。
削除	選択されたアイテムの除去
すべて削除	すべてのサポート詳細を同時に除去
上位へ移動	選択されたアイテムを 1 つ上のレベルに移動
下位へ移動	選択されたアイテムを 1 つ下のレベルに移動
上へ移動	選択したアイテムをその兄弟の先祖より前に移動します
下へ移動	選択したアイテムをその兄弟の子孫より後に移動します
行の重複	選択アイテムの下に行を追加してテキスト、演算子、値などをコピーします。
入力	行内の現在のセルからその右のセルにデータをコピーします。
リフレッシュ	保管されたデータベースの最新の値を取得し、すでに保存された値を復元し、変更内容を上書きします。

4. **「送信」**をクリックします。

   送信操作により、詳細テキスト、値および集約値が保管されます。

関連トピック:

サポート詳細の追加

サポート詳細の表示または変更

サポート詳細と Essbase の同期

サポート詳細の表示または変更

データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Planning

サポート詳細を含むセルは、**「オプション」**ダイアログ・ボックスで指定されたセル・スタイルによって、グリッドで示すことができます。

計算またはサポート・データの表示または変更を行うには:

1. フォームを開き、詳細を表示または追加するセルを選択します。

   1 つの行また列内で、1 つのセルを選択するかまたは複数のセルを続けて選択できます。このセクションに行または列の組合せを含められません。書き込めるように、現地通貨のセルを選択してください。

2. Planning リボンまたは Planning アド・ホック・リボンから、**「サポート詳細」**を選択します。
3. 選択したセル内のデータを集約するライン・アイテムまたは計算を表示または変更します。

関連トピック:

サポート詳細の追加

サポート詳細の階層における作業

サポート詳細と Essbase の同期

サポート詳細と Essbase の同期

データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Planning

Oracle Hyperion Planning アプリケーションでは、セルのサポート詳細を削除すると、リレーショナル・データベース内の関連する値に影響が及びます。保管されている Oracle Essbase の値をどのように処理するかを指定します。値を `#Missing` に設定するか、サポート詳細を削除する前の状態のまま残しておくことができます。この機能は、サポート詳細をメモ帳や計算機として使用する場合に有用です。

サポート詳細と Essbase を同期するには:

1. フォームを開きます。
2. フォームで、除去するサポート詳細が含まれるセルをクリックします。
3. Planning リボンまたは Planning アド・ホック・リボンから、**「サポート詳細」**を選択します。
4. **「サポート詳細」**ウィンドウで、情報を削除して**「OK」**をクリックします。
5. 表示されるメッセージでオプションを選択して、 Essbase に保管されている削除済のサポート詳細の集約値をどのように処理するかを指定します:

- 値を Essbase から削除するには、**「値を#Missing に設定してください」**をクリックします。
- 値をそのまま Essbase に残すには、**「値をそのままにしてください」**をクリックします。

関連トピック:

サポート詳細の追加

サポート詳細の階層における作業

サポート詳細の表示または変更

ユーザー・プリファレンスの設定

アプリケーション設定、表示設定およびユーザー変数のプリファレンスを設定します。

データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Planning

Oracle Hyperion Planning アプリケーションのユーザー・プリファレンスを設定するには:

1. Smart View パネルのツリー・リストでアプリケーションを選択します。
2. 右クリックして**「ユーザー・プリファレンス」**を選択します。
3. **「プリファレンス」**で次のオプションを指定します。
   - **アプリケーション設定** - 電子メール・オプションを管理し、別名設定を指定し、承認のオプションを設定し、不在設定を指定します。

     > **ノート:**
     >
     > 別名表の変更を反映するには、プロバイダから切断し、再接続する必要があります。

   - **表示設定** - 数値フォーマットの設定、選択したページ・メンバーの記憶、ページ数が指定した数を超えた場合の検索の許可、メンバーのインデントの設定、集計演算子の使用、部分グリッド・フェッチの実行、各「ディメンション」ページのメンバー数の指定、各「アクセス権の割当て」ページに指定したレコードの表示、日付フォーマットの設定を行います。
   - **ユーザー変数**—大きいフォームやグリッドのナビゲートに役立つように管理者によって設定される変数。

     ユーザー変数に対して選択したメンバーを変更するには、 をクリックして「メンバー選択」ダイアログを起動します。

     Oracle Smart View for Office 21.100 以上: **「メンバー選択」**ダイアログで、別名表をメンバーに適用できます。 をクリックし、**「別名表」**を選択して、ポップアップ・ウィンドウのリストから別名表を選択します。表を選択して、ウィンドウを閉じます。これで、別名表の選択内容が「メンバー選択」ダイアログのメンバーに適用されます。ユーザー変数のメンバーを選択して、ダイアログを閉じます。

     「メンバー選択」で別名表を変更すると、ユーザー変数を設定したときのダイアログのビューのみ影響を受けます。

「メンバー選択」の使用の詳細は、メンバー・セレクタからのメンバーの選択を参照してください。

> **ノート:**

Web アプリケーション内のフォームで設定されたロケール、日付フォーマットおよび小数点/数値フォーマットのユーザー・プリファレンスは、Smart View 内のフォームには適用されません。

Oracle Hyperion Planning へのネイティブ Excel フォーマットの保存

Oracle Smart View for Office を使用すると、ネイティブ Excel フォーマットを、フォームまたはアド・ホック・グリッドの一部として、Oracle Hyperion Planning に保存できます。

データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Planning

保存されたフォーマットは、Oracle Hyperion Planning のブラウザ・インタフェースに適用され、フォームが Excel に表示される際にも適用されます。その後、Smart View でのフォーマットの表示方法を選択できます。これは、Smart View の既存のセル・スタイル機能の追加機能です(セルのスタイルに説明されています)。

これらのフォーマット・オプションは、図 1 に示された「Planning」リボンの**「フォーマット」**グループで使用可能です。

図 28-1 フォーマット・オプション



Oracle Hyperion Planning フォームでの Excel フォーマットの保存

データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Planning

Oracle Hyperion Planning フォームの Excel フォーマットを保存するには:

1. Oracle Smart View for Office で編集する Oracle Hyperion Planning フォームを開きます。
2. ネイティブ Excel フォーマット機能を使用して、フォーマットをシートに適用します。
3. 「Planning」リボンで、**「フォーマット」**グループから**「保存」**を選択します。
4. Smart View でのフォーマットの表示へ移動し、表示オプションを選択します。

関連トピック:

Smart View でのフォーマットの表示

フォーマットのクリア

アド・ホック・グリッドからの Excel フォーマットの保存

サポートされているネイティブ Excel フォーマット

ネイティブ Excel フォーマットおよび Oracle Hyperion Planning フォームの操作のガイドライン

Smart View でのフォーマットの表示

データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Planning

Excel にフォームが表示されたら、Oracle Smart View for Office のオプションを使用して、シートにフォーマットを表示できます。これらのオプションには、Planning アド・ホック・リボンの**「フォーマット」**グループの**「適用」**ボタンからアクセスします。

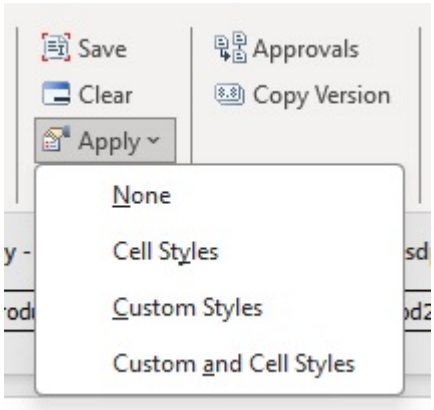
> **ヒント:**
>
> **「適用」**オプションは、*表示*オプションのみで、以前にフォームで保存されたセル・スタイルおよびネイティブ Excel フォーマットを表示できます。

Oracle Hyperion Planning フォームで、フォーマット表示オプションを切り替えるには:

1. Oracle Hyperion Planning フォームを開き、Planning アド・ホック・リボンの**「フォーマット」**グループの**「適用」**をクリックします(図 1 を参照)。

   「適用」オプションが表示されます。オプションが選択される前の初期の状態は、どのオプションも選択されていない状態です。オプションを選択すると、最後のオプション選択が、次にフォームを開くときまで保持されます。

図 28-2 「適用」オプション



2. オプションを選択します:

   - **なし** - シートにスタイル(Excel フォーマットまたは Smart View のセル・スタイル)は適用されません。シートにセル・スタイルやカスタム・スタイルが存在する場合でも、このオプションを選択するといずれも表示されません。ただし、それらは保存されているため、**「セルのスタイル」**、**「カスタム・スタイル」**または**「カスタム・スタイルとセルのスタイル」**オプションを使用して、後から表示できます。

- **セルのスタイル** - 「セルのスタイル」のトピックで説明されているように、Smart View のセル・スタイルのみがシートに適用されます。
- **カスタム・スタイル** - カスタムのユーザー定義ネイティブ Excel フォーマットのみがシートに適用されます。
- **カスタム・スタイルとセルのスタイル** - Excel フォーマットと Smart View のセル・スタイルの両方がシートに適用されます。**「カスタム・スタイルとセルのスタイル」**を選択すると、カスタムの Excel フォーマットより、セルのスタイルが優先されることに注意してください。

関連トピック:

Oracle Hyperion Planning フォームの Excel フォーマットの保存

フォーマットのクリア

アド・ホック・グリッドからの Excel フォーマットの保存

サポートされているネイティブ Excel フォーマット

ネイティブ Excel フォーマットおよび Oracle Hyperion Planning フォームの操作のガイドライン

フォーマットのクリア

データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Planning

フォームまたはアド・ホック・グリッドに関連付けられているフォーマットをクリアするには、「Planning」リボンの**「フォーマット」**グループから**「クリア」**を選択します。

「クリア」オプションを選択すると、Oracle Hyperion Planning サーバーのフォームやグリッドに関連付けられているすべての Excel フォーマットが削除されます。セル・スタイルは、保存されているカスタム・フォーマットに依存しないため、セル・スタイル機能は使用できます。

関連トピック:

Oracle Hyperion Planning フォームの Excel フォーマットの保存

Smart View でのフォーマットの表示

アド・ホック・グリッドからの Excel フォーマットの保存

サポートされているネイティブ Excel フォーマット

ネイティブ Excel フォーマットおよび Oracle Hyperion Planning フォームの操作のガイドライン

アド・ホック・グリッドからの Excel フォーマットの保存

データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Planning

アド・ホック・グリッドからフォーマットを保存するには:

1. 保存先のグリッドを作成するためにアド・ホック分析を実行します。
2. Excel のネイティブ・フォーマット機能を使用して、グリッドをフォーマットします。
3. Planning アド・ホックのリボンから、**「アド・ホック・グリッドの保存」**を選択します。
4. **「グリッドに名前を付けて保存」**ダイアログ・ボックスで、アド・ホック・グリッドをフォームとして保存する際に**「フォーマットの送信」**オプションを選択します。

保存したフォームを開き、Smart View でのフォーマットの表示の説明に従って表示オプションを選択できます。

関連トピック:

Oracle Hyperion Planning フォームの Excel フォーマットの保存

Smart View でのフォーマットの表示

フォーマットのクリア

サポートされているネイティブ Excel フォーマット

ネイティブ Excel フォーマットおよび Oracle Hyperion Planning フォームの操作のガイドライン

サポートされているネイティブ Excel フォーマット

データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Planning

表 1 は、Oracle Smart View for Office の Oracle Hyperion Planning フォームでサポートされるネイティブ Excel フォーマットおよびフォームが Web アプリケーションで表示される場合にフォーマットをサポートするかどうかをまとめています。

表 28-3 Smart View および Oracle Hyperion Planning でサポートされているネイティブ Excel フォーマット

フォーマット	Smart View	Oracle Hyperion Planning
フォント	**フォント**	**フォント**
フォント・ファミリ	はい	はい
フォント・サイズ	はい	はい
太字	はい	はい
斜体	はい	はい
取消し線	はい	いいえ
下線	1 本の途切れない実線のみ	いいえ
テキストの色	赤、緑、青	赤、緑、青
背景色	プレーン、実線、赤、緑、青	プレーン、赤、緑、青
配置	**配置**	**配置**
垂直	上、中央、下	いいえ
水平	左、中央、右	いいえ
インデント	左側のインデントのみで、レベルは 5 つ	いいえ
折返し	はい	いいえ
枠線	**枠線**	**枠線**
枠線の色	はい、各セルの 4 つの枠線に異なる色を設定できます(赤、緑、青)	はい
枠線の幅	はい、ポイント単位	はい
枠線のスタイル	なし、実線、二重線、点線、破線、鎖線、二点鎖線	なし、実線
数値および日付のフォーマット	**数値および日付のフォーマット**	**数値および日付のフォーマット**
数値のフォーマット	小数点、負数と正数の接尾辞および接頭辞、負数と正数の色、色は 8 色、パーセンテージ、指数のフォーマット、3 桁ごとの区切り文字の有無	いいえ
日付フォーマット	長い日付と短い日付、時間、分、秒、AM と PM	いいえ

表 28-3 (続き) Smart View および Oracle Hyperion Planning でサポートされているネイティブ Excel フォーマット

フォーマット	Smart View	Oracle Hyperion Planning
その他	**その他**	**その他**
読取り専用	はい	いいえ
列の幅と行の高さ	はい、ポイント単位	いいえ

関連トピック:

Oracle Hyperion Planning フォームの Excel フォーマットの保存

Smart View でのフォーマットの表示

フォーマットのクリア

アド・ホック・グリッドからの Excel フォーマットの保存

ネイティブ Excel フォーマットおよび Oracle Hyperion Planning フォームの操作のガイドライン

ネイティブ Excel フォーマットおよび Oracle Hyperion Planning フォームの操作のガイドライン

データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Planning

- グリッドを設計する際は、カスタムの Excel フォーマットと Oracle Smart View for Office のセル・スタイル間に競合が発生しないように注意してください。
- 一部のアド・ホック分析操作では、保持されない Excel フォーマットがあります。特定の操作を実行した後には、フォーマットを再適用する必要があります。
- 保存済のアド・ホック・グリッドを開くと、Smart View では、Oracle Hyperion Planning に保存されたフォーマットの保持が試行されます。さらにアド・ホック操作を実行すると、既存のフォーマット操作が適用されます; たとえば、**「Excel フォーマットの使用」**やセルのスタイルです。
- カスタムの Excel フォーマットをアド・ホック操作に保持するには、**「オプション」**ダイアログ・ボックスの**「フォーマット」**ページで、**「Excel フォーマットの使用」**と**「操作時にフォーマットを移動」**オプションを選択します。
- **「操作時にフォーマットを移動」**オプションが有効になっている場合、特にアド・ホック操作中に、フォーマットがパフォーマンスに影響します。
- 規模の大きいフォーム(セルが 20,000 個以上のフォームなど)でフォーマットの保存は推奨されません。
- Smart View に表示されるグリッドと、Oracle Hyperion Planning でブラウザに表示されるグリッドには違いがあります。保存済のグリッドが Oracle Hyperion Planning に表示される場合、Smart View に表示される際と同じように表示されないフォーマットがあります。Oracle Hyperion Planning のフォーマットは、可能なかぎり Smart View と同じように表示されます。
- Oracle Hyperion Planning の管理者が、フォームに特定のフォーマットを定義している場合があります。Oracle Hyperion Planning のエンド・ユーザーは、このフォーマットを上書きしてフォームに保存できます。その後、管理者が Oracle Hyperion Planning でそのフォー

ムに選択したオプションに基づいて、管理者のフォーマットにマージされます。詳細は、Oracle Hyperion Planning のドキュメントを参照してください。

- フォーマットの保存機能は、複合フォームでサポートされていません。
- 保存されている Oracle Hyperion Planning グリッドから起動されたアド・ホック分析は、グリッドの一部として保存されたフォーマット・オプションを継承します。

  保存されたグリッドから生成されたアド・ホック・グリッドに Smart View のセル・スタイルまたは Excel フォーマットの使用オプションを使用するには、次の手順を実行します:

  1. 保存されている Oracle Hyperion Planning グリッドをフォームとして開きます。
  2. 「Planning」リボンの**「フォーマット」**グループで、**「適用」**、**「なし」**の順に選択します。
  3. **「保存」**をクリックして、フォームを Oracle Hyperion Planning に保存します。
  4. 保存したフォームを使用して、アド・ホック分析を実行します。
- Excel フォーマットおよびカスタム・スタイルは静的グリッドでの使用を意図しています。次の操作からグリッドを変更すると、フォーマットが無効になる可能性があります。
  - POV
  - 抑制オプション
  - マージされたセル
  - 繰返しメンバー・ラベルのオプションの有効化またはクリア
  - フォーム定義へのメンバーの追加

サポートされているネイティブ Excel フォーマットは、Smart View のフォームでサポートされるネイティブ Excel フォーマット、およびフォームが Oracle Hyperion Planning Web アプリケーションで表示される場合にフォーマットがサポートされるかどうかをまとめています。

29

Smart View および Oracle Journals for Financial Management

Oracle Journals for Financial Management について

会計期間中、データ入力後または基本レベル・エンティティへのデータのロード後に、データを調整する必要がある場合があります。

データ・ソース・タイプ: Oracle Hyperion Financial Management

Oracle Journals for Financial Management は、アプリケーションで行われた変更の監査証跡を提供し、調整を行ったユーザーや影響のある勘定科目、エンティティおよび期間を示します。

Oracle Journals では、次のことが可能です:

- 借方と貸方による複式簿記の仕訳エントリの作成
- エントリの貸借一致、または単式エントリや貸借不一致のエントリの許可
- 将来の期間に対して繰り返される反復仕訳の作成
- 次期に逆仕訳エントリを作成する自動逆仕訳の作成
- アカウンタビリティを提供するための仕訳承認プロセスの使用

仕訳作成後、データベースに転記する前に、承認のためにスーパーバイザに仕訳を送信します。

Oracle Smart View for Office では、Oracle Journals for Financial Management は Financial Management Web インタフェースにある仕訳機能サブセットをサポートする拡張機能です。Oracle Journals を使用する前に、拡張機能をインストールして有効にする必要があります。Financial Management データ・ソースに接続した後、Financial Management アプリケーションを右クリックすると、アクション・パネルに 2 つの仕訳コマンドが表示されます。

- **仕訳の管理** - **「仕訳の管理」**ダイアログ・ボックスを起動します。操作する仕訳を選択すると、Oracle Journals のリボンが表示されます。
- **仕訳の作成** - **「仕訳の作成」**ダイアログ・ボックスを起動します。

操作する仕訳を選択するか、仕訳を作成すると、Oracle Journals のリボンが表示されます。リボン・アクションはコンテキスト・ベースで使用可能です。たとえば、仕訳が編集可能な場合、**「編集」**ボタンを使用できます。

Smart View で Oracle Journals for Financial Management 拡張機能を使用すると、次の仕訳タスクを実行できます。

- 仕訳を開き、ステータス、タイプ、残高タイプ、グループやクラスなどのプロパティを表示
- 新規の空の仕訳の作成、または標準テンプレートや繰返しテンプレートを使用した仕訳の作成

- Excel で開いているデータ・グリッドまたはデータ・フォームからグリッドまたはフォームで右クリックのオプションを使用して、またはリボンの**「仕訳の作成」**コマンドを使用して仕訳を作成
- 仕訳内のアド・ホック問合せの作成
- 仕訳の編集および保存
- 仕訳の送信、仕訳の戻し、承認、却下、転記、転記の戻しおよび削除
- データ・グリッドまたはデータ・フォームからのエンティティの 詳細レポートのオープン、および仕訳のクリックによるエンティティ 詳細レポートの詳細のドリル・ダウン

さらに、Smart View では、転記した仕訳を分析して、アド・ホック・グリッドで調整および合計を確認できます。選択した行または仕訳全体を分析できます。

最初に、Oracle Journals 拡張機能のインストールの指示に従って、Oracle Journals for Financial Management 拡張機能をインストールします。

> **ノート:**
>
> Oracle Journals for Financial Management 拡張機能は、Smart View バージョン 11.1.2.5.500 以降、および Financial Management 11.1.2.4.100 以降で動作します。
>
> Smart View 11.1.2.5.700 で導入された Oracle Journals for Financial Management 機能には、次が必要です。
>
> - Financial Management 11.1.2.4.204 と 11.1.2.4.204 PSE 25575478
> - Smart View 11.1.2.5.700+
> - Oracle Journals for Financial Management 拡張機能 11.1.2.5.700+ (Smart View 11.1.2.5.700+に含まれています)

Oracle Journals 拡張機能のインストール

Oracle Smart View for Office エンド・ユーザーおよび Smart View 管理者用の Oracle Journals 拡張機能をインストールできます。

Smart View エンド・ユーザーの場合

Oracle Journals 拡張機能をインストールする方法は複数あります。Smart View 管理者が、どの方法を使用すべきかを通知します。

拡張機能を自分の Smart View インストール・フォルダから直接インストールしている場合は、Smart View インストール・フォルダからのインストールを参照してください。

拡張機能を自動的に、またはオプションでインストールしている場合は、拡張機能のインストールを参照してください。

Smart View 管理者の場合

ユーザーが各自の Smart View インストールの `extensions` フォルダから直接、Oracle Journals 拡張機能をインストールできます。

または、Smart View の**「オプション」**ダイアログ・ボックスの**「拡張機能」**ページを使用して、Smart View エンド・ユーザーによる Oracle Journals 拡張機能のインストール方法を制御

することもできます。自動または手動インストールの設定方法の詳細は、*Oracle Smart View for Office インストレーションおよび構成ガイド*の拡張機能のインストールおよび更新の管理に関する項を参照してください。

自動または手動インストールを設定することを選択した場合、最初にテスト環境で Smart View をインストールしてから、Smart View インストールの `extensions` フォルダにある `UpdateList.xml` ファイルを参照してください。*Oracle Smart View for Office インストレーションおよび構成ガイド*の手動更新の拡張機能の構成に関する項で説明されているように、このファイルのエントリを `UpdateList.xml` ファイルに追加する Oracle Journals エントリのガイドラインとして使用します。

Smart View インストール・フォルダからのインストール

Oracle Journals 拡張機能をインストールする前に、Oracle Smart View for Office をインストールする必要があります。

この方法を使用して Oracle Journals 拡張機能をインストールするために、Office (Excel、Word または PowerPoint)を終了する必要はありません。

Oracle Journals for Financial Management を自分の Smart View インストールから直接インストールするには:

1. Smart View をインストールしたフォルダに移動して、`extensions` フォルダを開きます。

   たとえば、次の場所に移動します。

   ```
   C:\Oracle\SmartView\extensions
   ```

2. `SVFMJournalInstaller.svext` をダブルクリックします。
3. Office 製品が実行中である場合、プロンプトに従って Office を再起動します。たとえば、Excel が開いている場合は、Excel を再起動します。

   Office 製品が開いていない場合は、Excel を起動します。

仕訳の役割

実行可能な仕訳タスクは、管理者によって割り当てられた役割によって異なります。仕訳タスクを使用できない場合、無効になっています。

仕訳を開くには、ライン・アイテムで参照される 1 つ以上のセルに対して読取りアクセス権を持っている必要があります。セルに対する読取りアクセス権がない場合、仕訳レポートには、これらのセルに対する NOACCESS ステータスが表示されます。

仕訳を編集するには、仕訳のクラスに対してすべてのアクセス 権が必要です。仕訳を転記するには、クラスを使用する詳細行にあるすべてのディメンションのクラスに 対して、すべてのアクセス権が必要です。

次のデフォルトの役割が仕訳に関係しています。

- 仕訳管理者(無制限の仕訳アクセス権)
- テンプレートの管理
- 仕訳の作成
- 貸借不一致の仕訳の作成
- 繰返しの生成

- 仕訳の読取り
- 仕訳の承認
- 仕訳の転記

Smart View での仕訳の処理

仕訳の設定後、仕訳情報を入力して仕訳を処理できます。

次の手順を参照してください。

- 仕訳の作成
  - 仕訳プロパティの編集
  - アド・ホック・グリッドまたはデータ・フォームからの仕訳作成のガイドライン
- 仕訳を開く
- 仕訳のスキャン
- 仕訳ステータスの表示
- 「仕訳の管理」ウィンドウでのリスト表示の変更
- 仕訳の編集
- 仕訳詳細のディメンションのメンバーの選択
- 仕訳のセルのコピーと貼付け
- 仕訳の送信
- 仕訳を未送信にする
- 仕訳の承認
- 仕訳の却下
- 仕訳の転記
- 仕訳の転記の戻し
- 仕訳の削除

仕訳の作成

仕訳を使用して、勘定科目残高への調整の入力およびデータへの変更の監査証跡の維持を行います。

仕訳ラベルと説明、残高タイプ、視点および調整額を入力して、仕訳を作成します。仕訳のクラス、および仕訳のフィルタとソートに使用できる仕訳グループも入力できます。仕訳の作成後、ステータスは「作業中」になります。

仕訳グリッドと POV 間でエンティティ、ICP およびすべてのカスタム・ディメンションをドラッグできます。仕訳の詳細行のすべてのディメンションが同じである場合、ディメンションは POV ヘッダー情報に移動されます。同じでない場合、仕訳詳細に残ります。「勘定科目」ディメンションが詳細行に残り、他のすべてのディメンションがヘッダーに残ります。単一エンティティの仕訳を作成する場合、エンティティ・ディメンションを仕訳行にドラッグせずに POV ヘッダーからこれを使用できます。

仕訳データを入力した場合、仕訳をスキャンし、エントリが有効であることを確認できます。これにより、仕訳を転記する前に、必要な変更を加えることができます。仕訳のスキャンを参照してください。

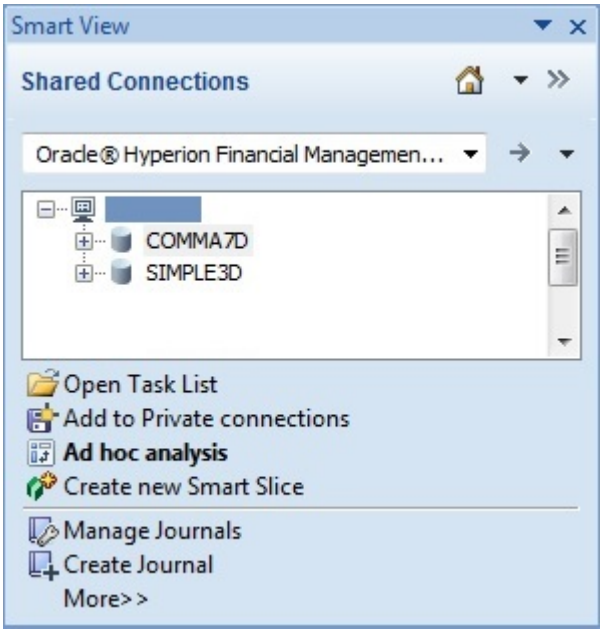
次の手順を実行する前に、Smart View パネルで、Oracle Hyperion Financial Management データ・ソースに接続していることを確認します。

仕訳を作成するには:

1. 次のいずれかのアクションを行います:
   - Smart View パネルで、Financial Management アプリケーションを右クリックし、**「仕訳の作成」**を選択します。

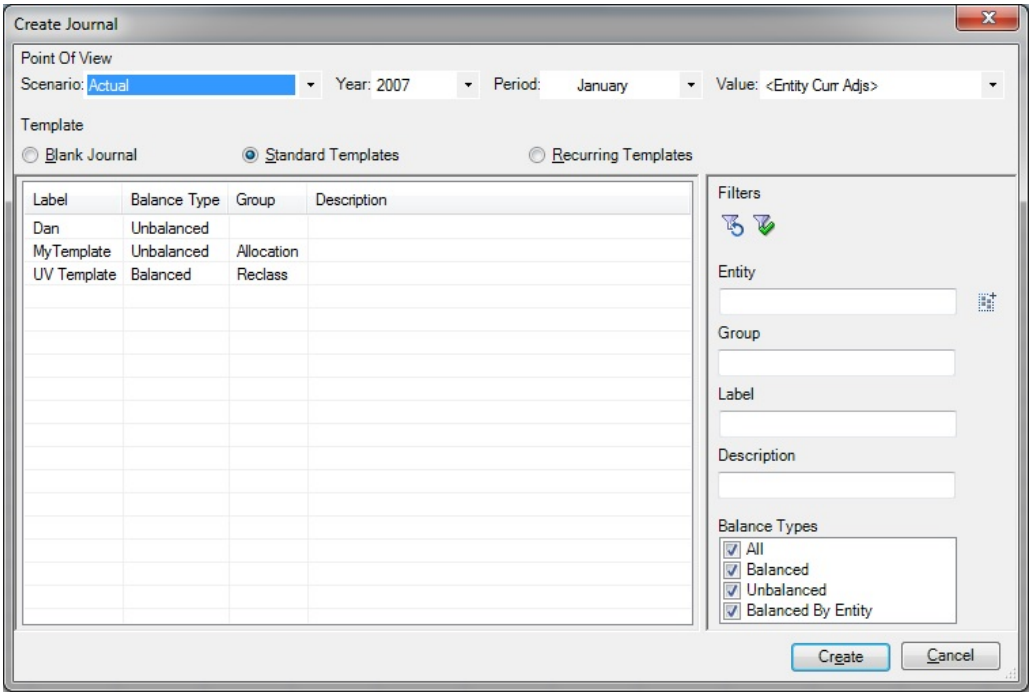
     または、図 1 の説明に従って、Smart View パネルで、Financial Management アプリケーションを選択し、アクション・パネルから**「仕訳の作成」**を選択します。

図 29-1 Smart View のアクション・パネルの「仕訳の作成」コマンド



「仕訳の作成」ダイアログ・ボックスが表示されます。

図 29-2 「仕訳の作成」ダイアログ・ボックス



- アド・ホック・グリッドまたはフォームから仕訳の基にするセルまたはセルの範囲を選択して、「HFM アド・ホック」リボンまたは HFM のリボンで**「仕訳の作成」**、Create Journal をクリックします。

  または、仕訳の基にするセルまたはセル範囲を右クリックして、**「Smart View」**、**「仕訳」**、**「仕訳の作成」**の順に選択します。

  > **ノート:**
  >
  > この方法を使用した仕訳の作成の詳細は、アド・ホック・グリッドまたはデータ・フォームからの仕訳作成のガイドラインを参照してください。

  仕訳が作成され、仕訳プロパティの編集に直接進むことができます。

  > **ノート:**
  >
  > さらに POV に変更を加える場合は、**「リフレッシュ」**または**「保存」**をクリックしないでください。**「リフレッシュ」**または**「保存」**をクリックした後は、POV はこの仕訳に対してロックされます。

2. 視点を変更するには、**「仕訳の作成」**で、ディメンション名の隣にあるテキスト・ボックスの矢印をクリックして、メンバーを選択します。

   「仕訳の作成」ダイアログ・ボックス(図 2)の上部の POV に表示されるディメンションは、常に、「シナリオ」、「年」、「期間」および「値」ディメンションです。

仕訳を作成する際に、「シナリオ」、「年」、「期間」および「値」の値が調整を入力する値となるようにします。

3. **「テンプレート」**からオプションを選択します。
   - 新しい空白の仕訳を作成するには、**「空の仕訳」**を選択します。

     「空の仕訳」を選択する場合、**「フィルタ」**領域のオプションは使用できないことに注意してください。

     ステップ 5 に進みます。
   - 標準仕訳テンプレートを使用するには、**「標準テンプレート」**を選択してから、リストからテンプレートを選択します。

     標準テンプレートには、頻繁に入力する調整についての勘定科目とエンティティが含まれています。

     オプション: 標準テンプレートのリストをフィルタ処理するには、ステップ 4 に進みます。それ以外の場合、ステップ 5 に進みます。
   - 仕訳の繰返しテンプレートを使用するには、**「繰返しテンプレート」**を選択してから、リストからテンプレートを選択します。

     繰返しテンプレートを使用すると、自動的に仕訳を作成できます。繰返しテンプレートから仕訳を作成すると、仕訳が作成されましたという確認メッセージを受け取ります。仕訳のステータスは、「承認済」になります。

     オプション: 繰返しテンプレートのリストをフィルタ処理するには、ステップ 4 に進みます。それ以外の場合、ステップ 5 に進みます。

> **ノート:**
>
> 選択した仕訳テンプレートのタイプにより、作成している仕訳の**「タイプ」**プロパティが決定され、これは 1 回かぎりの選択です。仕訳を作成した後は、仕訳の**「タイプ」**プロパティは表示できますが、編集はできません。

4. **オプション:** 標準または繰返しテンプレート・リストをフィルタ処理するには、次の基準から 1 つ以上のフィルタを設定し、**「フィルタの適用」**、をクリックします。
   - **エンティティ** — **「検索」**ボタン、をクリックし、**「メンバー選択」**ダイアログ・ボックスでフィルタするメンバーを選択します。

     または、メンバー名を修飾書式で、セミコロン(;)で区切ってテキスト・ボックスに直接入力します。たとえば、`EastSales` の場合、`EastRegion.EastSales` と入力します。
   - **グループ** - 仕訳グループ名をセミコロン(;)で区切って入力します。パーセント記号(%)をワイルドカード文字として使用できます。割り当てる仕訳グループはアプリケーション内に存在する必要があります。
   - **ラベル** - 仕訳ラベルを入力します。ラベルは最大 20 文字まで入力できます。パーセント記号(%)をワイルドカード文字として使用できます。入力できない文字は次のとおりです: . + - */ # {} ; , @
   - **説明** - 説明を入力します。パーセント記号(%)をワイルドカード文字として使用できます。
   - **残高タイプ** - 次のタイプを入力します: **すべて**、**貸借一致**、**貸借不一致**または**エンティティで貸借一致**。**「すべて」**を選択すると、すべての残高タイプが自動的に選択されます。

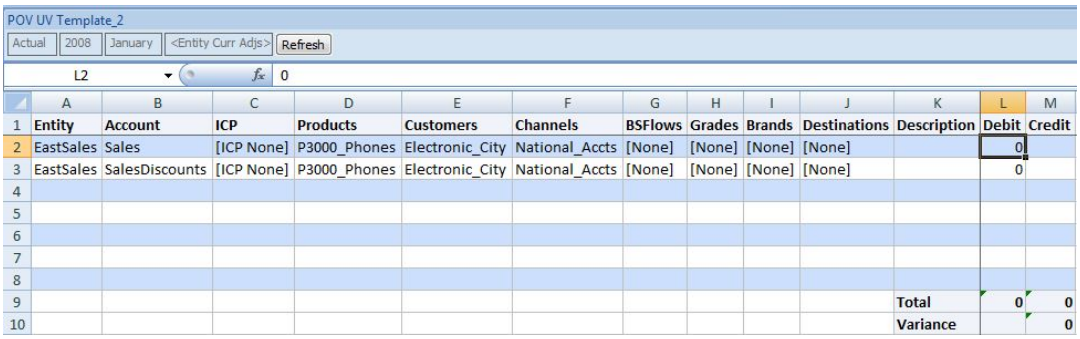
フィルタをクリアしてテンプレート・リスト全体を表示するには、**「フィルタのリセット」**、をクリックします。

5. **「仕訳の作成」**をクリックします。

   仕訳が表示されますが、仕訳の基本プロパティはまだ定義されていません。仕訳プロパティの編集の手順に進みます。

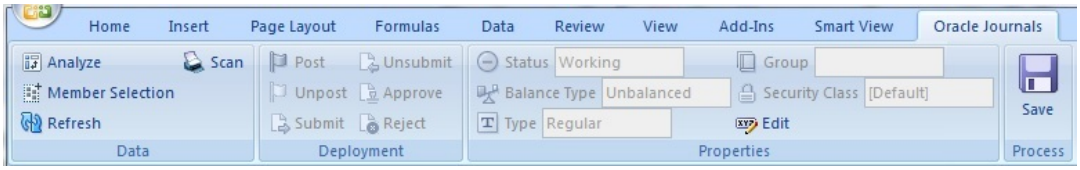
   残高一致の標準テンプレートを使用した仕訳の例を、図 3 に示します。この仕訳の POV は、「シナリオ」=実績、「年」=2008、「期間」=1 月、「値」=<Entity Curr Adjs>です。

図 29-3 標準テンプレートを使用した残高一致の仕訳の例



	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
1	Entity	Account	ICP	Products	Customers	Channels	BSFlows	Grades	Brands	Destinations	Description	Debit	Credit
2	EastSales	Sales	[ICP None]	P3000_Phones	Electronic_City	National_Accts	[None]	[None]	[None]	[None]		0	
3	EastSales	SalesDiscounts	[ICP None]	P3000_Phones	Electronic_City	National_Accts	[None]	[None]	[None]	[None]		0	
4													
5													
6													
7													
8													
9											Total	0	0
10											Variance		0

さらに、Oracle Journals のリボンが表示され、この手順で作成した仕訳のプロパティの編集に「編集」ボタンを使用できます。



6. 仕訳プロパティの編集に進みます。

仕訳プロパティの編集

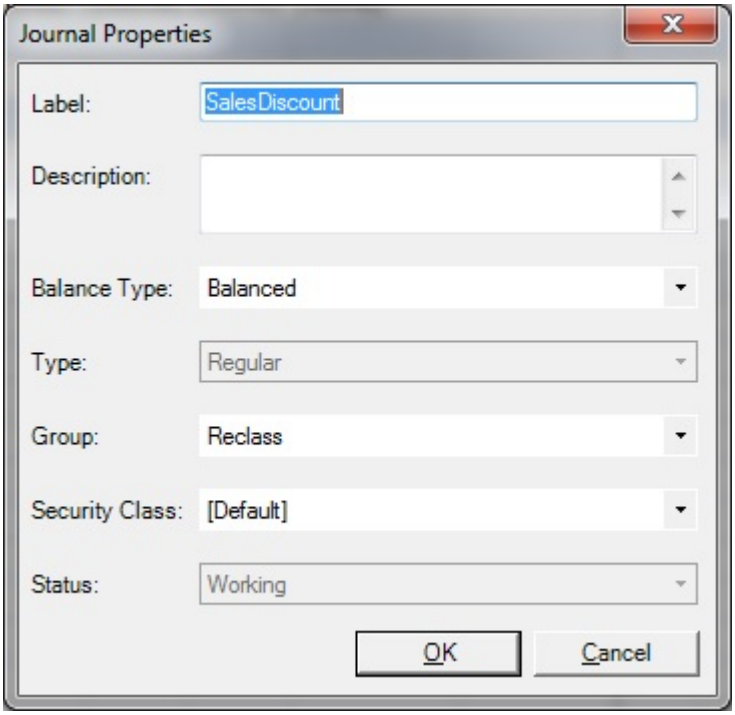
この手順を使用して、新しい仕訳のプロパティを定義したり、既存の仕訳のプロパティを編集します。

仕訳を編集するには:

1. 次のいずれかのアクションを行います:
   - 仕訳の作成(仕訳は開いていると想定します)の説明に従って作成した仕訳を編集するには、Oracle Journals のリボンの**「編集」**をクリックします。
   - 既存の仕訳を編集するには、仕訳を開き(仕訳を開くを参照)、Oracle Journals のリボンの**「編集」**をクリックします。

   「仕訳プロパティ」ダイアログ・ボックスが表示されます(図 1)。

図 29-4 「仕訳プロパティ」ダイアログ・ボックス - 例



2. 仕訳プロパティを編集します。
   - **ラベル** - 仕訳ラベルを入力します。

     ラベルは最大 20 文字まで入力できます。入力できない文字は次のとおりです:

     ```
     . + -  */ # {} ; , @
     ```

     アンパサンド文字(&)を使用できますが、**「仕訳の管理」**で適切に表示されません。たとえば、1 つのアンパサンドを仕訳名で使用すると、**「仕訳の管理」**の名前にはアンパサンドが表示されません。アンパサンドを続けて 2 つ使用すると、**「仕訳の管理」**の名前にアンパサンドが 1 つ表示されます。Oracle Smart View for Office で仕訳を開いた後は、名前が正しく表示されます。名前は Oracle Hyperion Financial Management Web インタフェースでも正しく表示されます。
   - **説明** - オプションの仕訳の説明を入力します。
   - **残高タイプ** - 次のタイプを選択します。
     - **貸借一致**
     - **貸借不一致**
     - **エンティティで貸借一致**
   - **タイプ** - 編集不可。**「タイプ」**は、仕訳の作成時に設定された仕訳タイプです(仕訳の作成を参照)。仕訳作成プロセス中に設定された仕訳タイプは、それ以降は変更できません。
   - **グループ** - 仕訳のグループを選択します。

     「グループ」プロパティを使用して、仕訳をタイプ別に分類することを支援します。仕訳グループの例として、Allocation または Overhead があります。
   - **クラス** - クラスを選択するか、デフォルト・クラスを使用します。

3. **ステータス** - 編集できません。**「デプロイメント」**グループでアクションを実行したときに、**「ステータス」**フィールドは変わります。ステータス・タイプは次のとおりです。
   - **作業中**
   - **送信済**
   - **承認済**
   - **拒否済**
   - **転記済**
4. 仕訳プロパティの更新が終了したら、**「OK」**をクリックします。
5. Oracle Journals のリボンで、**「保存」**ボタンをクリックして、変更を仕訳プロパティに保存します。



アド・ホック・グリッドまたはデータ・フォームからの仕訳作成のガイドライン

仕訳の作成の説明に従って、アド・ホック・グリッドまたはフォームから仕訳を作成する場合にこの項を参照してください。このトピックのレビューを終了したら、仕訳プロパティの編集のステップに進むことができます。

アド・ホック・グリッドまたはデータ・フォームで 1 つ以上のセルを選択することにより、仕訳作成プロセスを開始できます。次のことに注意してください。

- 仕訳の表示では、セル交差にある選択されたメンバーがライン・アイテムとして示されます。
- 選択されたセルには、「値」ディメンションの有効なメンバーが含まれている必要があります。
- 仕訳を保存する前に、POV ツールバーで必要な変更を行います。仕訳を保存またはリフレッシュした後には、POV に変更を加えることはできなくなります。

値メンバーの操作

- <Entity Currency>、<Entity Curr Adjs>または<Entity Curr Total>から 1 つ以上の値メンバーを選択すると、新しい仕訳では<Entity Curr Adjs>が値メンバーとして使用されます。
- 選択に<Parent Currency>、<Parent Curr Adjs>または<Parent Curr Total>からのメンバーが 1 つ以上含まれている場合、新しい仕訳では<Parent Curr Adjs>が値メンバーとして使用されます。
- [Parent]、[Parent Adjs]または[Parent Total]のうち、1 つ以上のメンバーを選択すると、新しい仕訳では[Parent Adjs]が値メンバーとして使用されます。
- [Proportion]、[Elimination]、[Contribution]、[Contribution Adjs]、[Contribution Total]の各メンバーのうち、1 つ以上が選択に含まれている場合、[Contribution Adjs]が使用されます。

- 選択したメンバーに<Currency>、<Currency>_Adjs または<Currency>_Total が含まれており、選択に 1 つのエンティティ・メンバーのみが含まれている場合、次のチェックが実行されます。
  - エンティティのデフォルト通貨が選択された通貨である場合、<Entity Curr Adjs>が値メンバーとして使用されます。
  - デフォルト通貨が選択された通貨ではなく、エンティティに単一の親がある場合、および親の通貨が選択された通貨である場合は、<Parent Curr Adjs>を値メンバーとして使用します。
  - 前述のいずれの条件にも当てはまらない場合、<Entity Currency>および<Parent Curr Adjs>を選択に使用できます。
- 前述の有効なメンバーのいずれも選択に含まれていない場合、エラー・メッセージが表示されます。
- <Entity Curr Adjs>と<Parent Curr Adjs>などの異なる有効なグループからのメンバーが選択に含まれている場合は、選択オプションが提供されます。

シナリオ、期間および年メンバー

選択に複数のシナリオ、期間または年メンバーが含まれている場合、それらのいずれかを選択するオプションが提供されます。それ以外の場合、選択した値が POV として使用されます。

仕訳を開く

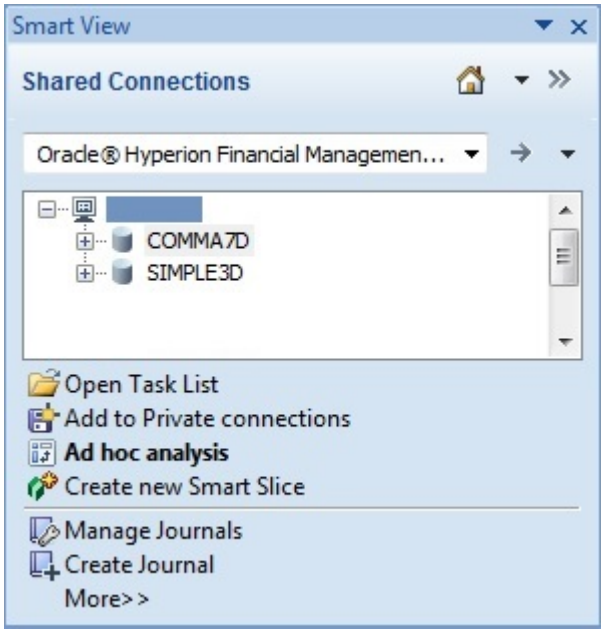
仕訳を開く前に、Smart View パネルで、Oracle Hyperion Financial Management データ・ソースに接続していることを確認します。

仕訳を開くには

1. Smart View パネルで、Financial Management アプリケーションを右クリックし、**「仕訳の管理」**を選択します。

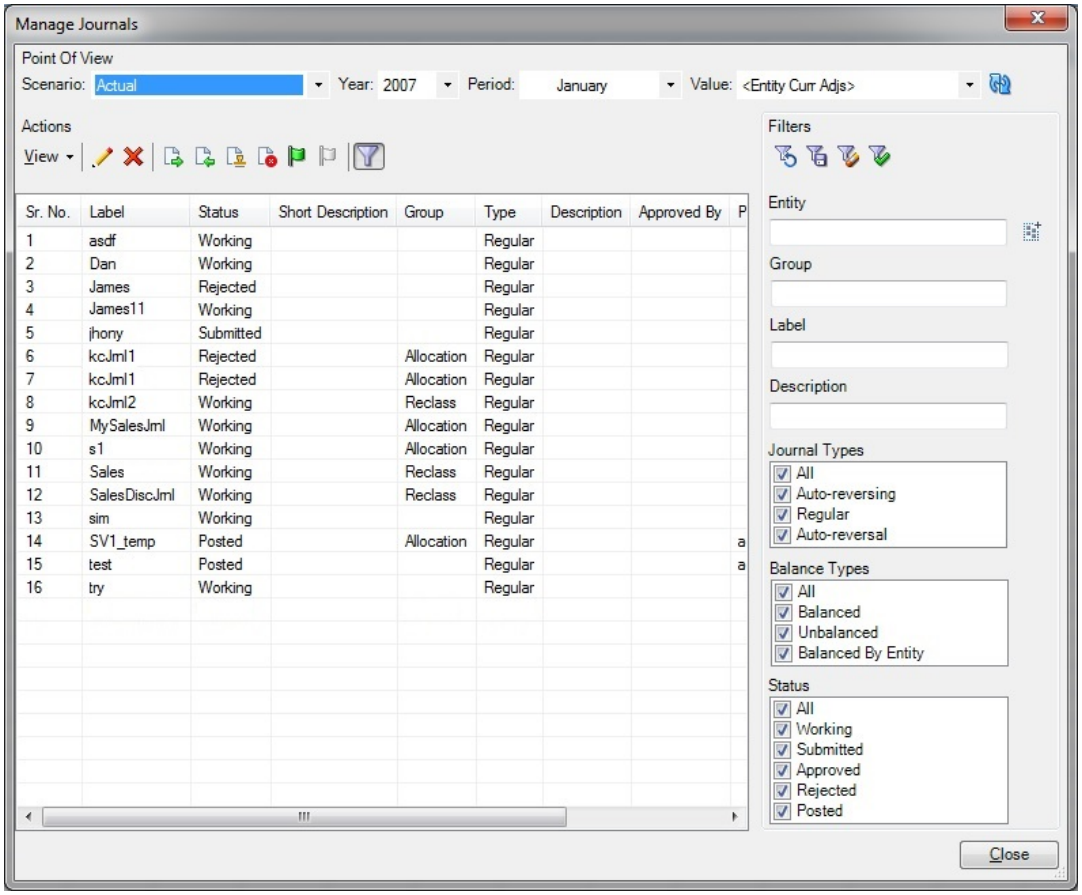
   または、図 1 に示されているように、Smart View パネルで Financial Management アプリケーションを選択し、アクション・パネルから**「仕訳の管理」**を選択します。

図 29-5 Smart View のアクション・パネルの「仕訳の管理」コマンド



「仕訳の管理」ウィンドウが表示されます。

図 29-6 「仕訳の管理」ダイアログ・ボックス



Sr. No.	Label	Status	Short Description	Group	Type	Description	Approved By	P
1	asdf	Working			Regular			
2	Dan	Working			Regular			
3	James	Rejected			Regular			
4	James11	Working			Regular			
5	jhony	Submitted			Regular			
6	kcJrnl1	Rejected		Allocation	Regular			
7	kcJrnl1	Rejected		Allocation	Regular			
8	kcJrnl2	Working		Reclass	Regular			
9	MySalesJrnl	Working		Allocation	Regular			
10	s1	Working		Allocation	Regular			
11	Sales	Working		Reclass	Regular			
12	SalesDiscJrnl	Working		Reclass	Regular			
13	sim	Working			Regular			
14	SV1_temp	Posted		Allocation	Regular			a
15	test	Posted			Regular			a
16	try	Working			Regular			

2. **オプション:** 仕訳のリストをフィルタするには、1 つ以上の次の基準のフィルタを設定して「フィルタの適用」、をクリックします

   - **エンティティ** — **「検索」**ボタン、をクリックし、**「メンバー選択」**ダイアログ・ボックスでフィルタするメンバーを選択します。

     または、メンバー名を修飾書式で、セミコロン(;)で区切ってテキスト・ボックスに直接入力します。たとえば、`EastSales` の場合、`EastRegion.EastSales` と入力します。
   - **グループ** - 仕訳グループ名をセミコロン(;)で区切って入力します。パーセント記号(%)をワイルドカード文字として使用できます。割り当てる仕訳グループはアプリケーション内に存在する必要があります。
   - **ラベル** - 仕訳ラベルを入力します。パーセント記号(%)をワイルドカード文字として使用できます。ラベルは最大 20 文字まで入力できます。入力できない文字は次のとおりです: . + - */ # {} ; , @
   - **説明** - 説明を入力します。パーセント記号(%)をワイルドカード文字として使用できます。
   - **仕訳タイプ** - **「すべて」**、**「自動逆仕訳」**、**「標準仕訳」**または**「承認済自動逆仕訳」**のタイプを選択します。

     > **ノート:**
     >
     > 承認済自動逆仕訳の仕訳は、システム生成の仕訳です。自動逆仕訳の仕訳を作成すると、翌月に、仕訳タイプが「承認済自動逆仕訳」のシステム生成の仕訳が作成されます。新規作成した仕訳は、「承認済自動逆仕訳」タイプの仕訳にはなりません。
   - **残高タイプ** - 次のタイプを入力します: **すべて**、**貸借一致**、**貸借不一致**または**エンティティで貸借一致**。**「すべて」**を選択すると、すべての残高タイプが自動的に選択されます。
   - **ステータス** - **「すべて」**、**「作業中」**、**「送信済」**、**「承認済」**、**「拒否済」**または**「転記済」**のステータスを選択します。

   フィルタをクリアして仕訳のリスト全体を表示するには、**「フィルタのリセット」**、をクリックします。

3. リストで仕訳を選択して、**「編集」**、をクリックします。

   または、リストの仕訳をダブルクリックして、これを開きます。

ここから、仕訳のスキャンまたは仕訳の編集などの他の仕訳タスクに進むことができます。

仕訳のスキャン

仕訳データの入力後、仕訳をスキャンして、すべてのエントリが有効であることを確認できます。

スキャン・プロセスを使用すると、エラーを特定し、仕訳を転記する前に必要な変更を加えることができます。

次の手順を実行する前に、Smart View パネルで、Oracle Hyperion Financial Management データ・ソースに接続していることを確認します。

仕訳をスキャンするには:

1. 仕訳を作成するか、または開きます。

   仕訳の作成または仕訳を開くを参照してください。

2. Oracle Journals のリボンで、**「スキャン」**、をクリックします。

   仕訳にエラーが含まれている場合、エラーを知らせるメッセージ・ウィンドウが表示されます。すべてのエントリが有効な場合、メッセージは表示されません。

3. **オプション:** 別の仕訳をスキャンするには、ステップ 1 およびステップ 2 を繰り返します。

4. 終了したら、**「閉じる」**をクリックします。

仕訳ステータスの表示

仕訳ステータスは、仕訳の現在の状態を示します。仕訳を作成、送信、承認、却下または転記したときに、仕訳のステータスは変わります。

仕訳ステータスを表示するには:

1. Smart View パネルで、Oracle Hyperion Financial Management アプリケーションを右クリックし、**「仕訳の管理」**を選択します。

   または、図 1 に示されているように、Smart View パネルで Financial Management アプリケーションを選択し、アクション・パネルから**「仕訳の管理」**を選択します。

2. **「仕訳の管理」**ダイアログ・ボックスで、仕訳の**「ステータス」**列を表示します。

   表 29-1 仕訳ステータス

ステータス	説明
作業中	仕訳は作成されています。保存されていますが、不完全である可能性があります。たとえば、ラベルや単一エンティティを割り当てる必要がある可能性があります。
送信済	仕訳は承認のために送信されています。
承認済	仕訳は転記のために承認されています。
却下済	仕訳は却下されているか、転記が戻されています。
転記済	仕訳の調整がデータベースに転記されています。

3. 終了したら、**「閉じる」**をクリックします。

「仕訳の管理」ウィンドウでのリスト表示の変更

「仕訳の管理」ダイアログ・ボックスの仕訳リストに、システムのすべての仕訳のラベル、ステータス、エンティティ、短い説明およびグループが表示されます。

仕訳のリストを短くすることができます。表示する列を選択し、表示される任意の 1 つの列を基準にしてリストをアルファベットの昇順または降順でソートできます。「エンティティ」または「親」列を表示するように選択して、いずれかの仕訳で「エンティティ」または「親」列に複数の値がある場合、個々の値ごとに別々の仕訳行が表示されます。

次の手順を実行する前に、Smart View パネルで、Oracle Hyperion Financial Management データ・ソースに接続していることを確認します。

リストに表示する仕訳の列を選択するには:

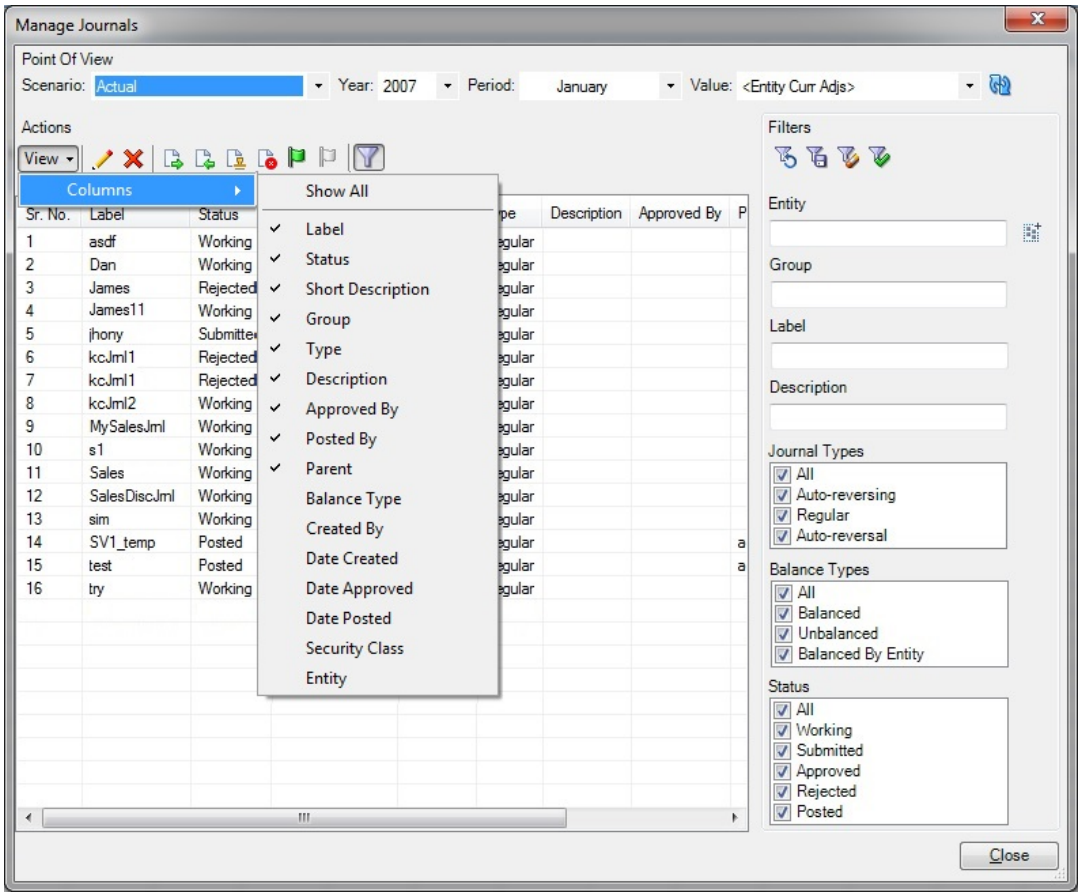
1. Smart View パネルで、Financial Management アプリケーションを右クリックし、**「仕訳の管理」**を選択します。

   または、Smart View パネルで Financial Management アプリケーションを選択し、アクション・パネル(図 1)から**「仕訳の管理」**を選択します。

2. **「表示」**、**「列」**の順に選択し、ドロップダウン・リストから表示する列または非表示にする列を選択するか、または、リストのすべての列を表示するには**「すべて 表示」**を選択します。

   図 1 に、列のドロップダウン・リストを示します。

図 29-7 「仕訳の管理」ダイアログ・ボックスに表示する列のリスト



3. **オプション:** ステップ 2 の**「すべて 表示」**を選択しなかった場合、追加する列ごとにステップ 2 を繰り返します。
4. **オプション:** 列のソート順を昇順から降順に変更するには、列のヘッダーをクリックします。
5. 終了したら、**「閉じる」**をクリックします。

仕訳の編集

すでに作成した仕訳を編集できます。

たとえば、仕訳の説明の変更、調整の追加または残高タイプの変更を行うことができます。

作業中、送信済および却下済の仕訳のみを編集できます。承認済または転記済の仕訳は編集できません。仕訳を編集するには、仕訳のクラスに対してすべてのアクセス 権が必要です。仕訳の役割を参照してください。

次の手順を実行する前に、Smart View パネルで、Oracle Hyperion Financial Management データ・ソースに接続していることを確認します。

仕訳を編集するには:

1. ステータスが**「作業中」**、**「送信済」**または**「却下済」**の仕訳を開きます。

   仕訳を開くを参照してください。

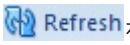
2. 仕訳プロパティを編集するには、Oracle Journals のリボンで**「編集」**をクリックしてから、仕訳プロパティの編集の手順を実行します。

3. 仕訳詳細の POV を変更するには:

   a. グリッド内のメンバー・セルをダブルクリックします。

   b. **「メンバー選択」**ダイアログ・ボックスでメンバーを選択し、**「OK」**をクリックします。

   c. 実行する POV 変更ごとにステップ 3.a およびステップ 3.b を繰り返します。

   d. **「リフレッシュ」**、

をクリックします

   メンバー選択の詳細は、仕訳詳細のディメンションのメンバーの選択を参照してください。

4. 仕訳エントリを更新するには、グリッドの**「借方」**または**「貸方」**列で変更するセルに直接入力します。

   「合計」および**「差異」**行の数字は自動的に更新されます。

5. Oracle Journals のリボンで、選択した仕訳を使用してアド・ホック分析を実行するには、**「分析」**、

を選択します。

   詳細は、アド・ホック分析を参照してください。

6. 仕訳をスキャンし、エントリが有効であることを確認するには、**「スキャン」**をクリックします。

   仕訳のスキャンを参照してください。

仕訳詳細のディメンションのメンバーの選択

仕訳詳細には、特定の仕訳に対してアクセスされるデータを指定するために定義するディメンション・メンバー・セットが含まれています。

各仕訳では、選択したディメンション情報を持つ仕訳詳細が保存され、これは次回仕訳を開いたときに自動的に表示されます。

視点には、「シナリオ」、「年」、「期間」および「値」ディメンションのメンバーが表示されます。仕訳詳細のメンバーを選択するには、行を選択して Oracle Journals のリボンで**「メンバー選択」**をクリックします。各ディメンションのメンバーを選択できる視点が表示されます。親の調整のための仕訳を作成するには、「値」ディメンションの Parent Adjs メンバーを選択します。「値」ディメンションが Parent Currency Adj、Parent Adj または Contribution Adj である場合、仕訳詳細の各行で、親メンバーを指定する必要があります。さらに、エンティティ 、勘定科目、会社間パートナおよびカスタム・ディメンションを指定する必要があります。

仕訳のステータスが「作業中」、「送信済」または「却下済」の場合に、仕訳詳細を選択できます。仕訳のステータスが「承認済」または「転記済」の場合は、仕訳詳細を変更できません。

次の手順を実行する前に、Smart View パネルで、Oracle Hyperion Financial Management データ・ソースに接続していることを確認します。

仕訳詳細のディメンションを選択するには:

1. 仕訳を作成するか、または開きます。

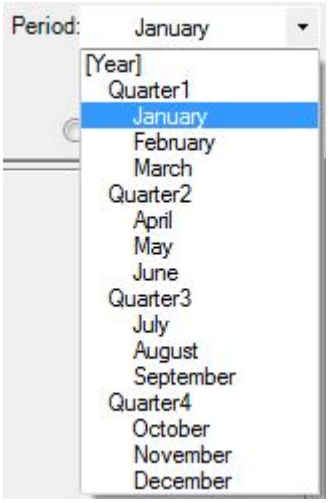
   「仕訳の作成」または**「仕訳の管理」**ウィンドウが表示されます。

   仕訳の作成または仕訳を開くを参照してください。

2. **「仕訳の作成」**または**「仕訳の管理」**の上部にある視点を変更するには、ディメンションのドロップダウン・テキスト・ボックスの矢印をクリックして、メンバーを選択します。

   このステップを繰り返し、必要に応じて「シナリオ」、「年」、「期間」および「値」ディメンションの視点を変更します。

   たとえば、「期間」ディメンションの視点を「6 月」から「7 月」に変更できます。



3. **「作成」**または**「閉じる」**をクリックします。

仕訳のセルのコピーと貼付け

セル間で仕訳グリッド内の情報をコピーして貼り付け、仕訳エントリを作成できます。

仕訳行をコピーして貼り付けるには:

1. 仕訳を作成するか、または開きます。

   「仕訳の作成」または**「仕訳の管理」**ウィンドウが表示されます。

   仕訳の作成または仕訳を開くを参照してください。

2. 次のいずれかのアクションを行います:

   - 仕訳グリッドで行を選択します。
   - セルを選択します。

3. Excel の「ホーム」リボンで、**「コピー」**ボタンをクリックします。

   または、右クリックして**「コピー」**を選択します。

4. 値を貼り付ける行またはセルを選択します。

5. Excel の「ホーム」リボンから、**「貼り付け」**ボタンをクリックします。

   または、右クリックして**「貼り付け」**を選択します。

6. Oracle Journals のリボンで、**「保存」**ボタンをクリックして、変更を仕訳プロパティに保存します。



仕訳の送信

仕訳作成および仕訳データの入力後、これらをデータベースに転記する前に、承認のためにスーパーバイザに仕訳を送信する必要があります。

仕訳を作成したときに送信できます。また、使用可能な仕訳のリストから仕訳を選択することにより、後で送信することもできます。

一度に 1 つの仕訳を送信したり、一括で送信したりできます。仕訳の送信後、ステータスは「送信済」に変わります。レビュー担当者が仕訳を承認または却下します。仕訳が承認された場合、これを転記できます。

次の手順を実行する前に、Smart View パネルで、Oracle Hyperion Financial Management データ・ソースに接続していることを確認します。

仕訳を送信するには:

1. Smart View パネルで、Financial Management アプリケーションを右クリックし、**「仕訳の管理」**を選択します。

   「仕訳の管理」ウィンドウが表示されます。

2. 仕訳詳細のディメンションのメンバーの選択で説明している視点を設定します。

3. 続行する前に、「リフレッシュ」、をクリックして、選択した POV に対応する仕訳になるように仕訳リストを更新します。

   仕訳リストのリフレッシュは、選択した POV とリストされた仕訳が同期していない場合に発生する可能性のあるエラーを回避するために役立ちます。

4. 次のタスクを実行します:

   - 開いていない仕訳を送信するには:
     - **「仕訳の管理」**ウィンドウで、**[Ctrl]**キーを押しながら、ステータスが「作業中」の仕訳を選択します。

       または、ステータスが「作業中」の仕訳を 1 つ選択します。

     - **「送信」**、をクリックします。
     - 仕訳の送信が終了したら、**「仕訳の管理」**ウィンドウで、**「閉じる」**をクリックします。
   - 開いた仕訳を送信するには:
     a. 仕訳を開くの説明に従って、仕訳を開きます。

b. Oracle Journals のリボンで、をクリックします。

仕訳を未送信にする

すでに送信した仕訳を未送信にできます。仕訳を未送信にした場合、ステータスは「送信済」から「作業中」に戻ります。

次の手順を実行する前に、Smart View パネルで、Oracle Hyperion Financial Management データ・ソースに接続していることを確認します。

仕訳を未送信にするには:

1. Smart View パネルで、Financial Management アプリケーションを右クリックし、**「仕訳の管理」**を選択します。

   「仕訳の管理」ウィンドウが表示されます。

2. 仕訳詳細のディメンションのメンバーの選択で説明している視点を設定します。

3. 続行する前に、「リフレッシュ」、をクリックして、選択した POV に対応する仕訳になるように仕訳リストを更新します。

   仕訳リストのリフレッシュは、選択した POV とリストされた仕訳が同期していない場合に発生する可能性のあるエラーを回避するために役立ちます。

4. 次のタスクを実行します:

   - 開いていない仕訳を未送信にするには:

     a. **「仕訳の管理」**ウィンドウで、**[Ctrl]**キーを押しながら、ステータスが「送信済」の仕訳を選択します。

        または、ステータスが「送信済」の仕訳を 1 つ選択します。

     b. **「未送信」**、をクリックします。

     c. 仕訳の未送信化が終了したら、**「仕訳の管理」**ウィンドウで、**「閉じる」**をクリックします。

   - 開いた仕訳を未送信にするには:

     a. 仕訳を開くの説明に従って、仕訳を開きます。

     b. Oracle Journals のリボンで、をクリックします。

仕訳の承認

仕訳の送信後、転記のためにこれを承認できます。

仕訳の作成および送信後に Oracle Journals のリボンから仕訳を承認できます。また、仕訳リストから仕訳を選択して後で承認することもできます。

一度に 1 つの仕訳を承認したり、一括で承認したりできます。仕訳の承認後に、ステータスが「承認済」に変わり、仕訳は編集できなくなります。

次の手順を実行する前に、Smart View パネルで、Oracle Hyperion Financial Management データ・ソースに接続していることを確認します。

仕訳を承認するには:

1. Smart View パネルで、Financial Management アプリケーションを右クリックし、**「仕訳の管理」**を選択します。

   「仕訳の管理」ウィンドウが表示されます。

2. 仕訳詳細のディメンションのメンバーの選択で説明している視点を設定します。

3. 続行する前に、「リフレッシュ」、をクリックして、選択した POV に対応する仕訳になるように仕訳リストを更新します。

   仕訳リストのリフレッシュは、選択した POV とリストされた仕訳が同期していない場合に発生する可能性のあるエラーを回避するために役立ちます。

4. 次のタスクを実行します:

   - 1 つ以上の開いていない仕訳を承認するには:

     a. **「仕訳の管理」**ウィンドウで、**[Ctrl]**キーを押しながら、ステータスが「送信済」の仕訳を選択します。

        または、ステータスが「送信済」の仕訳を 1 つ選択します。

     b. **「承認」**、をクリックします。

     c. 仕訳の承認が終了したら、**「仕訳の管理」**ウィンドウで、**「閉じる」**をクリックします。

   - 開いた仕訳を承認するには:

     a. 仕訳を開くの説明に従って、仕訳を開きます。

     b. Oracle Journals のリボンで、

をクリックします。

仕訳の却下

仕訳が承認のために送信された後または仕訳の承認後、これを却下できます。

一度に 1 つの仕訳を却下したり、一括で却下したりできます。仕訳の拒否後、ステータスは「却下済」に変わります。

仕訳を却下するには:

1. Smart View パネルで、Oracle Hyperion Financial Management アプリケーションを右クリックし、**「仕訳の管理」**を選択します。

   「仕訳の管理」ウィンドウが表示されます。

2. 仕訳詳細のディメンションのメンバーの選択で説明している視点を設定します。

3. 続行する前に、をクリックして、選択した POV に対応する仕訳になるように仕訳リストを更新します。

   仕訳リストのリフレッシュは、選択した POV とリストされた仕訳が同期していない場合に発生する可能性のあるエラーを回避するために役立ちます。

4. 次のタスクを実行します:

   - 1 つ以上の開いていない仕訳を却下するには:

     a. **「仕訳の管理」**ウィンドウで、**[Ctrl]**キーを押しながら、ステータスが「送信済」または「承認済」の仕訳を選択します。

        または、ステータスが「送信済」あるいは「承認済」の仕訳を 1 つ選択します。

b. **「却下」**、をクリックします。

c. 仕訳の却下が終了したら、**「仕訳の管理」**ウィンドウで、**「閉じる」**をクリックします。

- 開いた仕訳を拒否するには:

a. 仕訳を開くの説明に従って、ステータスが「送信済」または「承認済」の仕訳を開きます。

b. Oracle Journals のリボンで、

をクリックします。

仕訳の転記

仕訳の承認後、送信後、または送信および承認後に、仕訳を転記できます。

使用可能な仕訳のリストから仕訳を選択することにより、後で転記することもできます。

仕訳が転記されたシナリオ・ビューは、シナリオの属性 ZeroViewForAdj の設定によって異なります。この属性が「期別」に設定されている場合、仕訳は「期別」値に転記されます。この属性が「YTD」に設定されている場合、仕訳は「YTD」値に転記されます。

一度に 1 つの仕訳を転記したり、一括で転記したりできます。転記する前に、仕訳の期間を開いておく必要があります。また、詳細行のすべてのエンティティのクラスに 対して、すべてのアクセス権が必要です。

仕訳を転記できるかどうかは、仕訳のデータのプロセス・レベルによります。たとえば、レビュー担当者 2 のプロセス管理の役割があり、仕訳が影響を与えるデータがプロセス・レベル 6 である場合、仕訳を転記できません。詳細は、*Oracle Hyperion Financial Management ユーザー・ガイド*の「プロセス管理の使用方法」のプロセス・レベルに関する項を参照してください。

仕訳から調整を転記した場合、調整値は指定した調整メンバーに格納されます。Entity Currency Adjustments、Parent Currency Adjustments、Parent Adjustment および Contribution Adjustments の 4 つの Value ディメンションのメンバーは仕訳の転記に有効です。

Value ディメンションの次のいずれかを使用して、特定の親子の組合せ(ノード)に仕訳を転記できます。

- Parent Adjs - 集計の前にノードに適用されます。
- Contribution Adjs - コントリビューションの合計を判断する際にコントリビューションに適用されます。

> **ノート:**
>
> ノードの調整は、親の通貨で転記されます。

複数の仕訳が同じ勘定科目の Entity Currency Adjs メンバーに転記される場合、結果は累積値です。現在の仕訳の合計は、Entity Currency Adjs の既存の合計値に加算または減算されます。

仕訳を転記する際に、システムでは勘定科目残高が再計算され、データベースに調整が反映されます。仕訳ステータスは「転記済」に変更され、データ・グリッドに調整を表示できます。

> **ノート:**
>
> 転記済仕訳は削除しないでください。削除すると、仕訳で作成した調整値に対して未解決データが生じるためです。

仕訳を転記するには:

1. Smart View パネルで、Oracle Hyperion Financial Management アプリケーションを右クリックし、**「仕訳の管理」**を選択します。

   「仕訳の管理」ウィンドウが表示されます。
2. 仕訳詳細のディメンションのメンバーの選択で説明している視点を設定します。
3. 続行する前に、「リフレッシュ」をクリックして、選択した POV に対応する仕訳になるように仕訳リストを更新します。

   仕訳リストのリフレッシュは、選択した POV とリストされた仕訳が同期していない場合に発生する可能性のあるエラーを回避するために役立ちます。
4. 次のタスクを実行します:
   - 1 つ以上の開いていない仕訳を転記するには:
     a. **「仕訳の管理」**ウィンドウで、**[Ctrl]**キーを押しながら、ステータスが「承認済」の仕訳を選択します。

        または、ステータスが「承認済」の仕訳を 1 つ選択します。

     b. **「転記」**をクリックします。

     c. 仕訳の転記が終了したら、**「仕訳の管理」**ウィンドウで、**「閉じる」**をクリックします。
   - 開いた仕訳を転記するには:
     a. 仕訳を開くの説明に従って、ステータスが「承認済」の仕訳を開きます。

     b. Oracle Journals のリボンで、Post をクリックします。

仕訳の転記の戻し

仕訳の転記後、仕訳の転記を戻すことができます。

たとえば、エンティティに対して調整を行う仕訳をいくつか転記し、そのエンティティに対して新しいデータを受信したとします。仕訳の転記を戻し、新しいデータをロードし、再度仕訳を転記できます。

仕訳の転記を戻すと、仕訳のステータスは「却下済」に変わります。承認済自動逆仕訳の転記を戻すと、仕訳のステータスは「承認済」に変わります。

仕訳の転記を戻すには:

1. Smart View パネルで、Oracle Hyperion Financial Management アプリケーションを右クリックし、**「仕訳の管理」**を選択します。

   「仕訳の管理」ウィンドウが表示されます。
2. 仕訳詳細のディメンションのメンバーの選択で説明している視点を設定します。

3. 続行する前に、「リフレッシュ」、をクリックして、選択した POV に対応する仕訳になるように仕訳リストを更新します。

   仕訳リストのリフレッシュは、選択した POV とリストされた仕訳が同期していない場合に発生する可能性のあるエラーを回避するために役立ちます。

4. 次のタスクを実行します:

   - 1 つ以上の開いていない仕訳の転記を戻すには:

     a. **「仕訳の管理」**ウィンドウで、**[Ctrl]**キーを押しながら、ステータスが「転記済」の仕訳を選択します。

        または、ステータスが「転記済」の仕訳を 1 つ選択します。

     b. **「転記の戻し」**、をクリックします。

     c. 仕訳の転記の戻しが終了したら、**「仕訳の管理」**ウィンドウで、**「閉じる」**をクリックします。

   - 開いた仕訳の転記を戻すには:

     a. 仕訳を開くの説明に従って、ステータスが「転記済」の仕訳を開きます。

     b. Oracle Journals のリボンで、

をクリックします。

仕訳の検証

仕訳を送信、承認または転記すると、仕訳が検証されます。

次の条件がチェックされます。

- 期間はシナリオの基本期間単位の基本期間である必要があります。
- 仕訳を転記した場合または転記を戻した場合、期間は開いている必要があります。
- Value ディメンションは調整ディメンションである必要があります。
- 仕訳は、実行するアクションに対して適切なステータスである必要があります。
- ライン・アイテムが仕訳に対して存在している必要があります。
- エンティティと親が有効なディメンションである必要があります。通常の仕訳の場合、エンティティは調整を許可する必要があります。Parent Currency Adjs に対して仕訳を転記する場合、有効な親を入力する必要があります。エンティティは、仕訳エンティティに対して指定した親の子である必要があります。
- ノードに仕訳を転記する場合、親は子エンティティに対して調整を許可する必要があります。エンティティは、指定した親の子である必要があります。
- ノードの仕訳には、有効な親とエンティティの組合せがある必要があります。ノードの仕訳を転記しようとする場合、期間別組織のアプリケーション設定もチェックされます。エンティティは、転記する期間、親に対してアクティブである必要があります。
- 勘定科目が有効である必要があります。資産、負債、収益、費用、残高、フローまたは経常残高の勘定科目である必要があります。勘定科目は基本勘定科目である必要があり、メタデータで計算されるため、指定できません。ロールアップ・プロセスで計算できません。勘定科目は子を持つことはできません。
- 他のすべてのディメンションが有効である必要があります。ICP ディメンションは、ICP 最上位、ICP エンティティまたは空白にできませんが、ICP なしを選択できます。ICP を指定した場合、勘定科目は ICP 勘定科目として設定する必要があります。

- カスタム・ディメンションはメタデータで計算されるため、指定できません。また、ロールアップ・プロセスで計算できません。カスタム・ディメンションは子を持つことができません。
- 残高が一致した仕訳の場合、借方計は貸方計と同じである必要があります。残高が一致したエンティティ別の通常仕訳の場合、エンティティごとに借方計は貸方計と同じである必要があります。残高が一致したエンティティ別のノード仕訳の場合、ノードごとに借方計は貸方計と同じである必要があり、親エンティティと子エンティティは同じ通貨である必要があります。Value ディメンションがエンティティ通貨である場合、仕訳の親エンティティは異なる通貨にできますが、子エンティティと同じ通貨である必要があります。
- すべてのディメンションの交差が有効である必要があります。
- ライン・アイテムのセルを含むディメンションのサブキューブはロックできません。
- セルはルールの NoInput セルとして指定できません。

仕訳の分析

仕訳の転記後、Oracle Smart View for Office のアド・ホック分析を使用して、調整および合計をチェックできます。

1 つ以上の行または仕訳全体を分析できます。「作業中」、「転記済」、「送信済」、「承認済」または「却下済」のすべてのステータスの仕訳を分析できます。

アド・ホック・グリッドを形成すると、Value ディメンションは常に列に存在し、他のすべてのディメンションは行に存在します。行ディメンションは次の順序で表示されます。

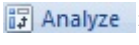
- エンティティ
- 勘定科目
- ICP
- カスタム

ディメンションの同じメンバーを選択した場合、ディメンションはグリッド POV に表示されます。

次の手順を実行する前に、Smart View パネルで、Oracle Hyperion Financial Management データ・ソースに接続していることを確認します。

仕訳を分析するには:

1. 仕訳を作成するか、または開きます。

   仕訳の作成または仕訳を開くを参照してください。
2. 仕訳詳細のディメンションのメンバーの選択で説明している視点を設定します。
3. 仕訳グリッドで 1 つ以上のディメンション、メンバーまたはデータ・セルを選択し、**「分析」**、

をクリックします。

   仕訳がアド・ホック・グリッドに変換され、アド・ホック分析を実行できることを確認します。

仕訳の削除

転記を戻した、不要な仕訳を削除できます。

承認済または転記済の仕訳は削除できません。削除すると、仕訳で作成した調整値に対して未解決データが生じます。

> **ノート:**
>
> 次の手順を実行する前に、Smart View パネルで、Oracle Hyperion Financial Management データ・ソースに接続していることを確認します。

仕訳を削除するには:

1. Smart View パネルで、Financial Management アプリケーションを右クリックし、**「仕訳の管理」**を選択します。

   「仕訳の管理」ウィンドウが表示されます。
2. **オプション:** ステータスで仕訳をフィルタ処理します。

   ステータスでフィルタ処理するには、次のオプションから 1 つ以上選択し、**「フィルタの適用」**、をクリックします。

   - **作業中**
   - **送信済**
   - **拒否済**

   承認済または転記済の仕訳は削除できません。
3. 仕訳を選択して、**「削除」**、をクリックします。

   または、**[Shift]**キーまたは**[Ctrl]**キーを使用して複数の仕訳を選択し、**「削除」**、をクリックします。
4. 確認のプロンプトで**「はい」**をクリックします。
5. 削除する仕訳ごとに、ステップ 2 からステップ 4 までを繰り返します。
6. **「閉じる」**をクリックして、**「仕訳の管理」**ウィンドウを終了します。

エンティティの詳細レポート

エンティティの詳細レポートは、指定したエンティティの特定のデータ・セルへの連結パス全体に関する完全な監査詳細を提供します。

このレポートでは、最初にエンティティ通貨値ディメンションに入力されたソース金額が示され、仕訳転記プロセスで生成された仕訳エントリや連結プロセスの一環として生成された監査取引詳細など、各「値」ディメンション内のそれに関連するすべての詳細が表示されます。勘定科目にライン・アイテム詳細が含まれている場合、このレポートには、その勘定科目に入力された関連するライン・アイテム詳細も表示されます。

このレポートは、通貨換算や会社間消去など、連結プロセスの各ステップで生成された金額の詳細を示す取引の表示機能を提供します。前の期間からの派生データの取引レコードも表示されます。

エンティティの詳細レポートの開始

エンティティの詳細レポートには、アド・ホック・グリッドまたはデータ・フォームからアクセスします。

開始する前に、Oracle Hyperion Financial Management アプリケーションに接続してアド・ホック・グリッドまたはフォームを開きます。

エンティティの詳細レポートを開始するには:

1. Financial Management アド・ホック・グリッドまたはフォームから、エンティティの取引詳細を表示するセルを選択します。
2. 右クリックして**「Smart View」**を選択し、**「仕訳」**、**「エンティティの詳細」**の順に選択します。

   または、HFM のリボンまたは「HFM アド・ホック」リボンで、

をクリックします。

   「エンティティの詳細」ダイアログ・ボックスが表示されます。

視点のレポート

エンティティの詳細レポートでは、使用中のデータ・グリッドからの視点が使用されます。レポートに使用される視点情報には、「シナリオ」、「年」、「期間」、「エンティティ」、「ビュー」、「勘定科目」、「ICP」および「カスタム」ディメンションが含まれます。「値」ディメンション情報は無視され、すべての値メンバーはレポートに表示されます。

レポートの実行時に選択できる勘定科目は 1 つのみです。選択した勘定科目が親勘定科目である場合、その勘定科目のライン・アイテム詳細、仕訳詳細または監査取引詳細は表示されません。親勘定科目の基本メンバーの詳細は列挙されません。基本メンバーのサポートは、カスタム・ディメンションにのみ適用されます。たとえば、Intercompany Partner, Custom1 が親メンバーである場合、この親メンバーのすべての 基本メンバーに転記されたすべてのエントリが表示されます。

レポートの行の選択

レポートに表示される行を選択できます。この選択はいつでも変更できます。

行には、Entity Currency、Entity Curr Adjs、Entity Curr Total、Parent Currency、Parent Curr Adjs、Parent Curr Total、Parent Adjs、Parent Total、Proportion、Elimination、Contribution、Contribution Adjs および Contribution Total を表示できます。

列には、金額、カスタム勘定科目、ICP、借方、貸方、ID または備考を表示できます。

該当するオプションの選択を解除することにより、一部の取引詳細またはディメンションを抑制できます。たとえば、レポートに仕訳詳細のみを表示する場合、仕訳オプションのみを選択したままにして、その他すべての行の表示オプションの選択を解除できます。勘定科目で使用されないため、Custom 列も抑制する場合は、列の表示からこれらのオプションの選択を解除できます。

Value 列には、すべての値メンバーが含まれています。親メンバーの通貨がエンティティの通貨と同じである場合、Parent Currency に関連する値メンバーの表示は、重複する情報であるた

め省略されます。Amount 列には、データ・サブキューブからの金額が含まれます。各取引詳細の金額は、データ・セルの符号に応じて Debit または Credit 列に格納されます。

Remarks 列には、金額に関する追加情報が含まれます。「値」ディメンションに応じて、金額が「入力」、「計算済」または「計算結果」であるか、監査取引に「種類」パラメータを使用するかなど、いくつかの使用可能な備考コメントを入力できます。前のレコードに関する情報を含めることもできます。エンティティの詳細取引レポートの主な目的の 1 つは、データベースに格納されている金額を構成したすべての取引レコードを表示することです。「前のライン・アイテムの詳細」、「仕訳」および「取引」の備考は、データベースに格納されている金額がライン・アイテム詳細、仕訳調整、連結消去、および前の期間からの派生データである可能性があることを示しています。

表 29-2 Remark 列で使用可能な値

「値」ディメンション	Remark
エンティティ 通貨	• 入力 • 計算済 • 前のライン・アイテムの詳細 • 計算結果
調整	• 計算済 • グループのラベル • 前の仕訳 • 計算結果
比例/消去	• 種類 • 前の取引 • 計算結果

レポートの行を選択するには:

1. エンティティの詳細レポートの開始の説明に従って、エンティティの詳細レポートを開始します。
2. **「エンティティの詳細」**ダイアログ・ボックスで、**「表示」**、**「行」**の順に選択し、表示する行を選択するか、**「すべて表示」**を選択します。

   表示を選択できる行タイプは、次のとおりです。

   - **基本詳細**—基本詳細の表示を参照してください
   - **ライン・アイテムの詳細(&L)**—ライン・アイテムの詳細の表示を参照してください
   - **仕訳**—仕訳詳細へのリンクを参照してください
   - **宛先取引**—ソース取引と宛先取引の表示を参照してください
   - **ソース取引**—ソース取引と宛先取引の表示を参照してください

基本詳細の表示

エンティティの詳細レポートでは、基本詳細を表示するオプションは、親メンバー・セルであるデータ・セルにのみ適用されます。基本詳細を表示するオプションが選択されていない場合、レポートには親セルの集約金額が 1 つのエントリとして表示されます。基本詳細を表示するように選択した場合、親セルの基本レコードからのすべての情報が表示されます。

たとえば、AllCustom1 が Custom 1 ディメンションの親メンバーであるとします。基本メンバーには、Opening、Appropriation、Variances、Increases、Decreases および Closing が含まれます。レポートに基本詳細を表示することを選択した場合、AllCustom1 のすべての適用可能な

基本レコードを含むレポートが生成されます。基本詳細の表示を選択しない場合、選択した親セルの金額のみが表示され、たとえば、親セル AllCustom1 は基本詳細なしで表示されます。

ライン・アイテムの詳細の表示

エンティティの詳細レポートでは、ライン・アイテムの詳細を表示するオプションは、ライン・アイテムの詳細を使用するように定義されているシナリオおよび勘定科目にのみ適用されます。ライン・アイテムの詳細情報は、エンティティ 通貨値ディメンションでのみ使用できます。

仕訳詳細へのリンク

エンティティの詳細レポートにいずれかの調整値メンバーの仕訳詳細が含まれている場合は、仕訳 ID とともに借方または貸方が表示されます。ID 列の仕訳 ID のリンクをクリックして、仕訳エントリのすべての情報を含む仕訳詳細ページを表示できます。

仕訳詳細にリンクするには:

1. エンティティの詳細レポートの開始の説明に従って、エンティティの詳細レポートを開始します。
2. レポートの ID 列にある仕訳 ID をクリックします。

   選択した仕訳 ID の仕訳詳細を含む、新しいワークシートが開きます。

ソース取引と宛先取引の表示

エンティティの詳細レポートから、連結プロセスから生成された監査取引の詳細情報を表示できます。取引詳細を表示するために、宛先取引を表示できます。金額を生成したソース取引も表示する場合は、ソース取引も表示できます。

これらの取引を格納するように連結ルール・ファイルを設定した場合にのみ、これらの取引を表示できます。ルール・ファイルで、HS.CON 関数と Nature パラメータを使用する必要があります。HS.CON 関数を使用しない場合、またはこの関数で Nature パラメータを指定しない場合、連結プロセス中に監査取引の詳細は生成されません。Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイドを参照してください。

Excel へのエンティティの詳細レポートのエクスポート

「エンティティの詳細」ダイアログ・ボックスで表示する行を選択した後、レポート・コンテンツを Excel ワークブックにエクスポートできます。

エンティティの詳細レポートを Excel にエクスポートするには:

1. エンティティの詳細レポートの開始およびレポートの行の選択の説明に従って、エンティティの詳細レポートを定義します。
2. **「エンティティの詳細」**ダイアログ・ボックスでをクリックします。

   レポートが新しい Excel ワークブックで開きます。

   エクスポートしたコンテンツは、表示目的でのみ使用できることに注意してください。エクスポートされたシートから Oracle Smart View for Office に接続することはできませんが、ワークブックの保存または印刷は可能です。

仕訳レポートの表示

仕訳レポートを表示して、仕訳のステータスを確認し、仕訳調整をレビューできます。

仕訳レポートは、Oracle Hyperion Financial Management Web アプリケーションで作成されます。Oracle Smart View for Office でそれらを表示できます

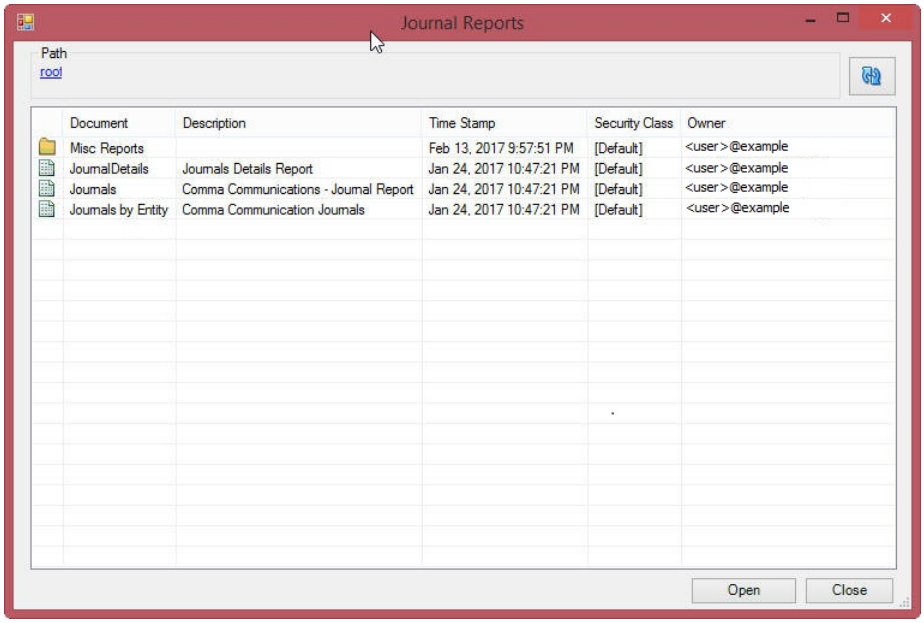
仕訳レポートを使用するには、Financial Management 11.1.2.4.204 と 11.1.2.4.204 PSE 25575478 が必要です。また、Smart View 11.1.2.5.700 と、11.1.2.5.700 に含まれる Oracle Journals 拡張機能をインストールする必要があります。

次の手順を実行する前に、Smart View パネルで、Financial Management データ・ソースに接続していることを確認します。

仕訳レポートを表示するには:

1. 「Smart View」パネルで、Financial Management アプリケーションを右クリックし、**「仕訳レポート」**を選択します。

   または、「Smart View」パネルで Financial Management アプリケーションを選択し、アクション・パネルから**「仕訳レポート」**を選択します。
2. **「仕訳レポート」**ダイアログで、表示する仕訳を選択し、**「開く」**をクリックします。

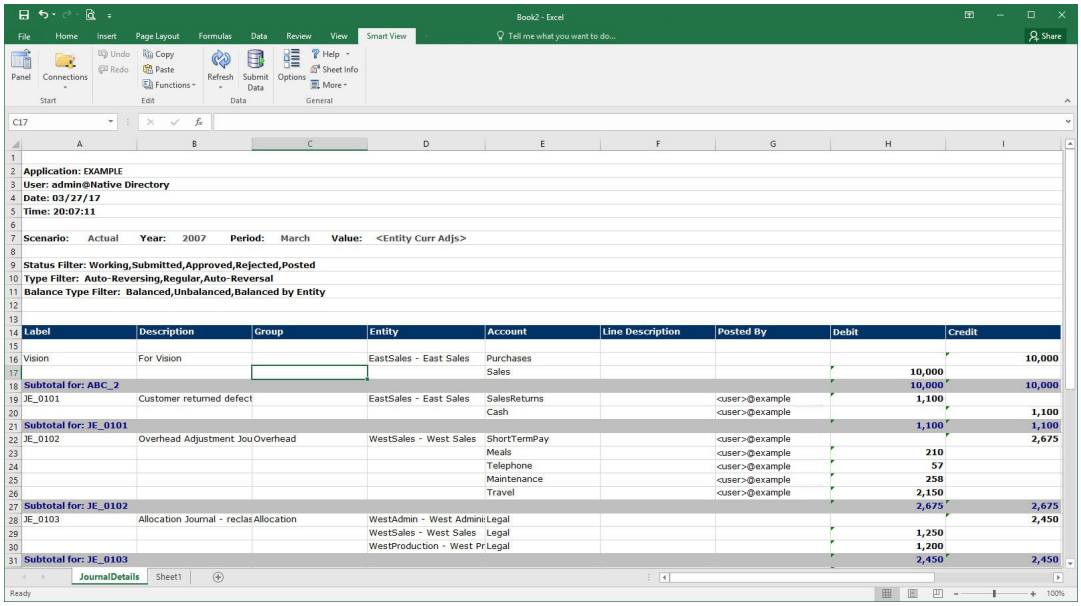


ノート:

フォルダをダブルクリックして、**「仕訳レポート」**ダイアログ・ボックスの他の仕訳に移動します。ダイアログの上部にあるリンクをクリックして、ルート・レベルに戻ります。

をクリックして仕訳のリストをリフレッシュします。

3. Excel で起動された仕訳レポートを表示します。次に例を示します。



Oracle Journals の地域および言語の設定

「地域と言語」設定で「スウェーデン語」などのヨーロッパ言語に設定されていると、Oracle Journals では値が切り捨てられて正しく表示されません。「英語」に設定されている場合、値は切り捨てられますが、正しく表示されるように展開できます。「地域と言語」設定で「日本語」などのアジア言語に設定されている場合、値は正しく表示されます。

30

Smart View および Oracle BI EE

次も参照:

- Oracle BI EE と Smart View について
  Oracle Smart View for Office を使用すると、ユーザーは Oracle Business Intelligence Enterprise Edition に接続し、ダッシュボードと分析において作成されたコンテンツを利用できます。
- Smart View での Oracle BI EE の機能とコンポーネント
  Oracle Smart View for Office の Oracle Business Intelligence Enterprise Edition データ・ソースに接続する場合、いくつかのアクションを実行できます。
- Oracle BI EE 拡張機能のインストール
  Oracle Business Intelligence Enterprise Edition 拡張機能のインストール方法は、エンド・ユーザーであるか管理者であるかによって異なります。
- Oracle BI EE の Windows システム・ロケールの操作
  各 Oracle Smart View for Office クライアント・マシンでは、あらゆるデータ(数値、日付、通貨、パーセンテージ)を正しく解釈するために、Windows システム・ロケールは Smart View のロケールと一致する必要があります。
- 複数の Oracle BI EE データ・ソースへの接続
  プライベート接続を使用して Oracle Business Intelligence Enterprise Edition データ・ソースに接続します。
- Oracle BI プレゼンテーション・カタログ
  Oracle BI プレゼンテーション・カタログは、カタログまたはカタログ・ツリーとも呼ばれ、Smart View パネルに表示されます。
- Oracle BI EE の分析、ビューおよびダッシュボードの操作
  Oracle Business Intelligence Enterprise Edition では、分析は個々のビューで構成されており、ダッシュボードは分析と個々のビューで構成されています。
- 「ビュー・デザイナ」を使用したビューの操作
  Oracle Smart View for Office のビュー・デザイナを使用して、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition サブジェクト・エリアに基づいてアド・ホック・ビューを作成できます。
- Oracle BI EE サーバーへの接続のトラブルシューティング
  Oracle Business Intelligence Enterprise Edition サーバーへの接続をトラブルシューティングできます

Oracle BI EE と Smart View について

Oracle Smart View for Office を使用すると、ユーザーは Oracle Business Intelligence Enterprise Edition に接続し、ダッシュボードと分析において作成されたコンテンツを利用できます。

Smart View ユーザーは、このコンテンツの操作に加えて、Oracle BI EE をデータ・ソースとして使用して、ビュー・デザイナによって単純なビューの形式のコンテンツを作成できます。作成したビューは、Oracle BI プレゼンテーション・カタログに発行して、さらに編集できます。

Smart View は、すべての Oracle BI EE コンテンツ・プロバイダ間でまとまりのある一貫したユーザー・エクスペリエンスを、Oracle BI EE に提供します。

Smart View の Oracle BI EE の機能およびコンポーネント

Oracle Smart View for Office の Oracle Business Intelligence Enterprise Edition データ・ソースに接続する場合、いくつかのアクションを実行できます。

- Oracle BI EE への接続
- Oracle BI プレゼンテーション・カタログのナビゲート
- Oracle BI EE の複数インスタンスへの接続および接続間での切替え
- Oracle BI プレゼンテーション・カタログから Microsoft Excel、PowerPoint および Word への作成済ビューのインポート。たとえば、次のようなことができます。
  - ビュー(Oracle BI EE の表、ピボット・テーブルおよびグラフ)をリフレッシュおよび編集可能なオブジェクトとして Excel に挿入します
  - 同じ Office ドキュメントに異なる接続からビューを挿入します
  - Excel のフォーマットを Oracle BI EE データに適用します。フォーマットはリフレッシュしても保持されます
- Oracle BI EE ダッシュボードのコンテンツをコピーして、Smart View クライアント・ドキュメントに貼り付けます。データ、メタデータ、およびビューのレイアウトがコピーされます
- Oracle BI EE をメタデータおよびデータのソースとして使用して、Excel に簡単なビューを作成します
- Smart View ドキュメントにインポートされたコンテンツに対して、ドリルやプロンプト選択などの操作を行います。
- Smart View のインポートされたコンテンツ(複数の接続からのコンテンツを含む)を管理します; たとえば、コンテンツのリフレッシュ、マスク、コピーと貼付け、および記録を行います
- Excel の Oracle BI EE オブジェクトからデータをマスクして、ユーザーがログインしなければデータを表示できないようにします。マスクされたオブジェクトは、リフレッシュ時に表示できます。
- Visual Basic を使用したプログラム。詳細は *Oracle Smart View for Office 開発者ガイド*を参照してください。

主なコンポーネントは次のとおりです:

- リボン - Oracle BI EE のリボンには、Smart View でのビューの設計と発行、Oracle BI EE からのビューの挿入とコピーおよび貼付け、プロンプトの編集、マスキング・データ、編集およびプリファレンスの設定のための Oracle BI EE コマンドがあります。
- カタログ - カタログとは、Excel に挿入できる Oracle BI EE のダッシュボード、分析およびビューの展開可能なツリー・リストです。各分析を展開すると、その分析で使用可能なすべてのビューが表示されます。Oracle BI EE でサポートおよび定義されていて、権限を持っているビューのみが表示されます。カタログをリフレッシュすると、使用可能な分析およびビューの最新リストを表示できます。

Oracle BI EE 拡張機能のインストール

Oracle Business Intelligence Enterprise Edition 拡張機能のインストール方法は、エンド・ユーザーであるか管理者であるかによって異なります。

次も参照:

- Smart View エンド・ユーザーの場合
- Smart View 管理者の場合

Smart View エンド・ユーザーの場合

Oracle BI EE 拡張機能をインストールするには:

1. Smart View 管理者の指示に従って、Oracle Smart View for Office をインストールします。

> **ノート:**
>
> 管理者が Smart View を自動インストールする場合があります。

2. Smart View がインストールされた後、Microsoft Excel、Word または PowerPoint を起動する*前*に、固有のユーザー名を使用してコンピュータにログインしていることを確認します。

> **ノート:**
>
> Oracle BI EE 拡張機能を正しくインストールして使用するためには、管理者でも他人のユーザー名ではなく、ユーザー自身のユーザー名でログインしている必要があります。

3. Microsoft Excel、Word または PowerPoint を起動します。

> **ノート:**
>
> Oracle BI EE 拡張機能をインストールするには、Excel、Word または PowerPoint を起動できます。Oracle BI EE 拡張機能のインストールは Outlook から起動しません。
>
> 詳細は、拡張機能のインストールを参照してください。

4. 拡張機能がインストールされていることを確認するには、Excel、Word または PowerPoint から、「Smart View」リボン、**「オプション」**、**「拡張機能」**の順に選択します。

Smart View 管理者の場合

Oracle Smart View for Office をインストールした後は、対象とするエンド・ユーザーが、Office を起動する前に Windows にログインしていることを確認してください。

または、Smart View の**「オプション」**ダイアログ・ボックスの**「拡張機能」**ページを使用して、Smart View エンド・ユーザーが Oracle BI EE 拡張機能をインストールする方法を制御できます。自動または手動インストールの設定方法の詳細は、*Oracle Smart View for Office インストレーションおよび構成ガイド*の拡張機能のインストールおよび更新の管理に関する項を参照してください。

自動または手動インストールを設定することを選択した場合、最初にテスト環境で Smart View をインストールしてから、Smart View インストールの `extensions` フォルダにある `UpdateList.xml` ファイルを参照してください。*Oracle Smart View for Office インストレーションおよび構成ガイド*の手動更新の拡張機能の構成に関する項で説明されているように、このファイルのエントリを `UpdateList.xml` ファイルに追加する Oracle BI EE エントリのガイドラインとして使用します。

Oracle BI EE の Windows システム・ロケールの操作

各 Oracle Smart View for Office クライアント・マシンでは、あらゆるデータ(数値、日付、通貨、パーセンテージ)を正しく解釈するために、Windows システム・ロケールは Smart View のロケールと一致する必要があります。

適用可能な Windows システム・ロケールは次のとおりです:

- Smart View の言語オプション
- Microsoft Office の言語
- Windows の地域の設定
- Windows のオペレーティング・システム

Oracle Business Intelligence Enterprise Edition データ・ソースを操作する際、Windows システム・ロケールが一致しない場合、データが正しく表示されないか、フォーマットが無視され、かわりにプレーン・データが表示される場合があります。

Windows システム・ロケールの不一致の例として、Windows のオペレーティング・システム、地域の設定および Office 言語が英語で Smart View がロシア語の場合などがあります。

ロケールの不一致が発生した場合、Smart View ログは次のような警告を示します: ロケールの不一致が検出されました。チャートでは未フォーマットのデータ値が使用されます。

複数の Oracle BI EE データ・ソースへの接続

プライベート接続を使用して Oracle Business Intelligence Enterprise Edition データ・ソースに接続します。

プライベート接続の詳細は、プライベート接続の作成を参照してください。

*Oracle Smart View for Office インストレーションおよび構成ガイド*の XML ファイルからの共有接続へのアクセスで説明しているように、共有接続を使用して接続するには、共有接続情報がファイルに格納されている必要があります。

また、Oracle Smart View for Office では、1 つの Office ワークシート、スライドまたはドキュメントにおいて、複数の Oracle BI EE プライベート接続がサポートされています。

たとえば、あるワークシートに、異なる 2 つの Oracle BI Presentation Catalog から 2 つのグラフを挿入し、シートをリフレッシュできます。各グラフは、異なる 2 つのサーバーの最新データで更新されます。

複数の Oracle BI EE サーバーに接続している場合は、次のことが可能です:

- Smart View パネルで接続間の切替えを行い、それぞれのカタログを参照できます。
- 同じ Office ドキュメントに異なる接続からビューを挿入できます。
- ビュー・デザイナが Smart View のリボンから起動され、Oracle BI EE のビューが選択されていない場合、ビュー・デザイナは、最後に使用した Oracle BI EE サーバーに接続されます。
- Smart View のリボンから貼付けを起動して、Oracle BI EE のコンテンツを貼り付ける場合、その貼付けアクションでは、最後に使用された Oracle BI EE 接続が使用されます。
- 異なる接続のビューを含むドキュメントをリフレッシュすると、ビューは、挿入元のサーバーに対してリフレッシュされます。
- Excel ワークシートごとに使用できる Excel ピボット・テーブルは、1 つのみです。また、Excel ピボット・テーブル・ビューは、常に新しいワークシートに挿入されます。データ・ソース接続が 1 つの場合も複数の場合も、これが既定の動作です。

複数の Oracle BI EE プライベート接続に接続するには:

1. **「Smart View ホーム」**、または  の横にある矢印をクリックすると表示されるメニューで、**「プライベート接続」**をクリックします
2. **「プライベート接続」**パネルで、ドロップダウン・メニューから接続を選択し、**「データ・ソースに接続」**にデータ・ソースのユーザー名およびパスワードを入力します。

   Oracle BI EE カタログからビューを挿入したものと仮定します。ステップ 3 に進みます。
3. ワークシート、スライド、またはドキュメントの異なる部分にカーソルを移動します。
4. **「プライベート接続」**パネルで、ドロップダウン・メニューから別の接続を選択します。
5. **「データ・ソースに接続」**に、2 つ目のデータ・ソースのユーザー名およびパスワードを入力します。

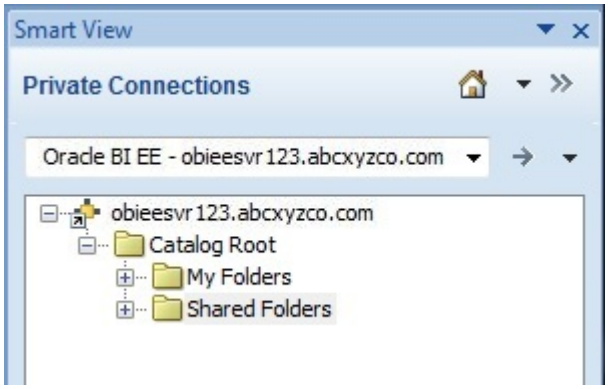
   これで、新たに接続されたデータ・ソースから Office ドキュメントにビューを挿入できます
6. 他のデータ・ソースの接続には、ステップ 3 からステップ 5 までを繰り返します。

Oracle BI プレゼンテーション・カタログ

Oracle BI プレゼンテーション・カタログは、カタログまたはカタログ・ツリーとも呼ばれ、Smart View パネルに表示されます。

カタログ・ツリーには、「カタログのルート」というルート・ノードと、デフォルトで「マイ・フォルダ」および「共有フォルダ」という 2 つのフォルダが表示されます。

図 30-1 Oracle BI Presentation Catalog またはカタログ・ツリー



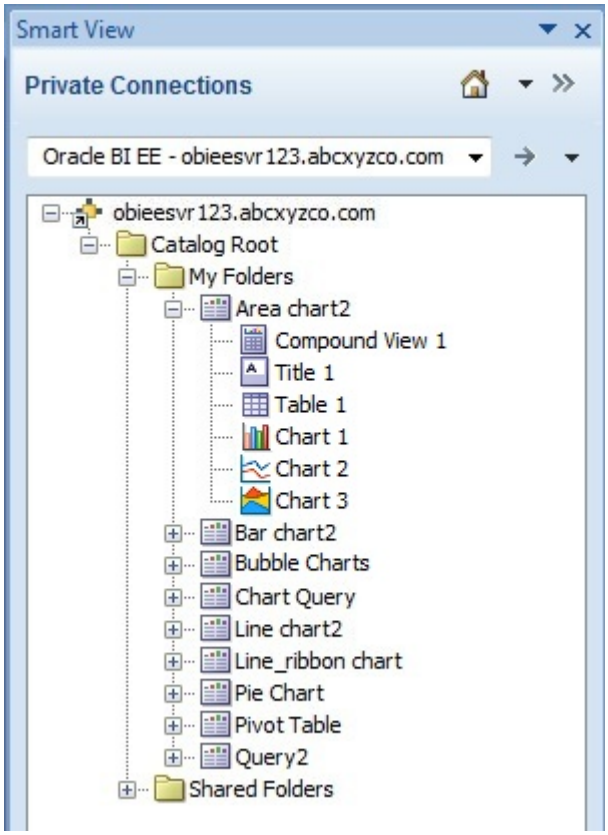
「マイ・フォルダ」に保存したアイテムは、フォルダを展開したときにのみ表示されます。他のユーザーが「マイ・フォルダ」に保存したアイテムは、それらのユーザーにのみ表示されます。

「共有フォルダ」に保存したアイテムは、BI コンシューマ権限でログオンしているすべてのユーザーが表示できます。BI コンシューマ権限を持っている場合、他のユーザーが「共有フォルダ」に保存したアイテムも表示できます。

アクセスできるフォルダのプロパティ (フォルダ作成者の名前や作成日など)を表示するには、カタログ・ツリーでフォルダを右クリックして**「フォルダ・プロパティの表示」**を選択します。

カタログ・ツリーのフォルダには、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition と Oracle Smart View for Office の両方の分析のリストと、作成されたサブフォルダが含まれます。分析ノード(たとえば、**My Folders** の下にある"Area chart2")を展開すると、図 2 に示されているように、格納されているビューのリストが表示されます(たとえば、"Compound View 1"および"Table 1")。

図 30-2 分析ノードのビューが表示されているカタログ・ツリー



分析作成者の名前、作成日および更新日などを含む分析のプロパティを表示するには、カタログ・ツリーで分析を右クリックして**「分析プロパティの表示」**を選択します。

Oracle BI EE のすべての分析の編集を選択できます。Smart View で作成されたビューの場合は、Smart View でそのビューを編集することも可能です。

Oracle BI EE で分析を編集するには、カタログ・ツリーで分析を右クリックして**「アンサーでの分析の編集」**を選択します。

このオプションを選択すると、デフォルト・ブラウザが起動され、Oracle BI EE で分析編集ウィザードが開きます。Oracle BI EE にまだログオンしていない場合は、資格証明を入力できるログイン・ダイアログ・ボックスが表示されます。Oracle BI EE でビューを編集するには、BI コンシューマ権限が必要です。

Smart View で分析を編集するには、カタログ・ツリーで分析を右クリックし、ビュー・デザイナで**「起動」**を選択します。

この場合、ビューは Smart View で作成されたものであることが必要です。編集するためにビューにアクセスする他の方法は、ビュー・デザイナの起動を参照してください。

カタログ・ツリーから、表ビュー、ピボット・テーブル・ビュー、グラフ・ビュー、タイトル、および複合ビューを Smart View に挿入することもできます。Oracle BI EE の分析、ビューおよびダッシュボードの操作を参照してください。

Oracle BI EE の分析、ビューおよびダッシュボードの操作

Oracle Business Intelligence Enterprise Edition では、分析は個々のビューで構成されており、ダッシュボードは分析と個々のビューで構成されています。

次も参照:

- サポートされている Oracle BI EE のビューおよびオブジェクト・タイプ
- 表とピボット・テーブルの挿入
- グラフの挿入
- 複合ビューの挿入
- ダッシュボードの挿入
- プロンプトの操作
- ページ・プロンプトの操作
- ビューのリフレッシュ・プリファレンスの指定
- ビューのリフレッシュ
- ビューのマスキング・データ
- Oracle BI EE オブジェクトのプロパティの表示
- Office アプリケーション間での Oracle BI EE オブジェクトのコピーと貼付け
- Oracle BI EE の分析の編集
- Oracle BI EE から Office へのビューのコピーおよび貼付け
- Oracle BI EE で作成されたビューの編集

サポートされている Oracle BI EE のビューおよびオブジェクト・タイプ

次のビューを Oracle Smart View for Office クライアント(Excel、PowerPoint、Word)にカタログから挿入するかコピーして貼り付けることができます。

> **ノート:**
>
> ドリル操作は、Smart View に挿入された Oracle Business Intelligence Enterprise Edition ビューでサポートされていません。(ドリル操作は、Smart View でズーム・インおよびズーム・アウトと呼ばれます。)

- **表ビュー**

  表ビューでは、データが **Oracle BI EE** の表示に似たフォーマット(ネイティブ・フォーマットとも呼ばれる)か、Excel 表のどちらかの表フォーマットで表示されます。

「挿入」オプションを使用すると、すべての Smart View クライアントにネイティブ・フォーマットで表ビューを挿入できます。このフォーマットでは、ソートまたはフィルタ処理を実行できません。同じデータのセルは 1 つのセルにマージされます。

Excel では、**「Excel 表として挿入」**コマンドを使用して、Excel 表として表ビューを挿入できます。このフォーマットでは、ソート、フィルタ処理などの詳細な分析操作を実行できます。

ノート:

- Excel では、1 つのワークシートに複数の表を挿入できますが、既存の表の上に表を挿入することはできません。ただし、次を実行できます:
  - 表を置き換える場合は、表内の任意のセルを選択し、Oracle BI EE のリボンの「削除」ボタンをクリックします。その後、ワークシートに表を挿入します。
  - ワークシートに別の表を挿入する場合は、表ビュー以外の場所にあるセル、またはその他のビュー・オブジェクトを選択して、表を挿入します。
- Excel では表ビューの一部のカスタム・フォーマットおよび Excel 表ビューを認識できず、そのビューを Excel に挿入する際にエラーが発生します。

- **ピボット・テーブル・ビュー**

  ピボット・テーブル・ビューでは、Oracle BI EE で定義されたグループ化フォーマット(ネイティブ・フォーマットとも呼ばれる)でデータが表示されます。ページ・アイテム・リストおよびグループ分割などの機能が保持されます。Excel のピボット・テーブル・フォーマットでデータを表示することもできます。

  「挿入」オプションを使用すると、すべての Smart View クライアントにネイティブ・フォーマットでピボット・テーブル・ビューを挿入できます。表ビューの挿入の場合と同様に、このフォーマットでは、ソートまたはフィルタ処理を実行できません。また、同じデータのセルは 1 つのセルにマージされます。

  Excel では、**「Excel ピボットとして挿入」**オプションを使用して、Excel ピボット・テーブルとしてピボット・テーブル・ビューを挿入することもできます。このフォーマットでは、ピボット、集計、ドリル、ソート、フィルタ処理などの詳細な分析操作を実行できます。

  ノート:

  - Excel ピボット・テーブル・ビューを使用する場合、サポートされるのは、数値データ型のメジャー列を含むビューのみです。
  - Excel ワークシートごとに使用できる Excel ピボット・テーブルは、1 つのみです。また、Excel ピボット・テーブル・ビューは、常に新しいワークシートに挿入されます。データ・ソース接続が 1 つの場合も複数の場合も、これが既定の動作です。
  - Excel ではピボット・テーブル・ビューの一部のカスタム・フォーマットを認識できないため、そのビューを Excel に挿入する際にエラーが発生します。
  - Smart View には、Oracle BI EE の"グラフのピボット結果"機能はありません。特定のピボット・テーブルの同じ行、列およびページ・ディメンションのグラフを表示するには、Oracle BI EE で個別のチャートを作成してから、そのチャートを Smart View に挿入する必要があります。

- **グラフ・ビュー**

  グラフ・ビューでは、Oracle BI EE グラフで定義されているグラフを Microsoft Office のチャートでサポートされているグラフ・タイプにマッピングしてデータが表示されます。

  「イメージとして挿入」オプションを使用すると、Smart View のクライアントに静的イメージとしてグラフを直接挿入できます。イメージを編集またはリフレッシュできません。

すべての Smart View クライアントで**「挿入」**オプションを使用すると、グラフを編集およびリフレッシュできます。Smart View は、視覚効果(2D、3D)、キャンバスのサイズ、チャート・タイトル、サブタイトル、軸タイトル、凡例、凡例の位置、軸スケール、データ・フォーマット(数値、日付、通貨フォーマット)、タイトルおよびラベル・フォーマットなどのグラフ・プロパティを含め、Oracle BI EE のグラフ・スタイルにできるだけ厳密に一致させようとします。

一致する Office のチャート・タイプが使用できない場合は、グラフ・ビューをイメージとして挿入できます。サポートされている Oracle BI EE のチャートおよびオブジェクトのタイプおよびサポートされていない Oracle BI EE のチャートおよびオブジェクトのタイプを参照してください。

- **ゲージ・ビュー**および**ファンネル・グラフ・ビュー**

  Oracle BI EE では、ゲージ・ビューとファンネル・グラフ・ビューはグラフ・ビューとは別のオブジェクト・タイプです。

  「イメージとして挿入」オプションを使用すると、Smart View のクライアントに静的イメージとしてゲージおよびファンネル・ビューを直接挿入できます。イメージは編集およびリフレッシュできません。

- **タイトル・ビュー**

  タイトル・ビューでは、レポートのタイトルが Oracle BI EE の一部である他の情報とともに表示されます。

  タイトル・ビューは通常、タイトル・テキスト、サブタイトル・テキスト、分析名、挿入日時、オプションのロゴ、オプションの URL (ヘルプ・リンクなど)で構成されています。タイトル・ビューは、1 つの Office オブジェクトとしてグループ化されたテキスト・ボックスとイメージの集合として Smart View クライアントに挿入されます。

- **複合ビュー**

  複合ビューでは、様々なビューの組合せとしてデータが表示されます。

  複合ビューはすべての Smart View クライアントに挿入できます。Smart View では、複合ビューを構成するすべてのサポート対象ビューが挿入されます。ビューの各タイプ(表、ピボット・テーブル、グラフ、ゲージ、ファンネル、フィルタおよびタイトル)が、それぞれのデフォルト・フォーマットで Smart View クライアントに挿入されます。

  Word では、すべてのビューがそれぞれの横または下に挿入され、アクティブな Word 文書のページに挿入されます。

  Excel または PowerPoint では、1 つのシートまたはスライドにすべてのビューを挿入するか、別個のシートまたはスライドに各ビューを挿入するかを選択するためのプロンプトが表示されます。

表とピボット・テーブルの挿入

挿入できる行および列の最大数は、使用している Excel のバージョンによって異なります。ワークシートのサイズ制限の詳細は、Microsoft Excel のドキュメントを参照してください。

表またはピボット・テーブルを挿入するには:

1. 表またはピボット・テーブルを開始する Excel ワークシート、PowerPoint スライドまたは Word ページの場所にカーソルを合せます。
2. カタログ・ツリーで、表またはピボット・テーブルを右クリックします。
3. 次のいずれかを選択します:

- **挿入** - 選択された表ビューまたはピボット・テーブル・ビューが Oracle Business Intelligence Enterprise Edition で定義されたフォーマットで挿入されます。図 1 および図 2 を参照してください。

  Oracle BI EE で表またはピボット・テーブルに対してプロンプトが定義されている場合は、**「プロンプト・セレクタ」**ダイアログ・ボックスが表示され、表示するデータを選択できます(それ以外の場合は、表またはピボット・テーブルが直接挿入されます)。最初の挿入後、Oracle BI EE のリボンの**「プロンプトの編集」**アイコンをクリックして、プロンプトを編集できます。詳細は、プロンプトの操作を参照してください。

  表またはピボット・テーブルに対してページ・プロンプト(Oracle BI EE のビュー・プロンプト)が定義されている場合は、Oracle BI EE のリボンの**「ページ・プロンプトの編集」**をクリックして編集することもできます。ページ・プロンプトの操作を参照してください。

  ノート:

図 30-3 Oracle BI EE のフォーマットで表として挿入される表ビュー

	A	B	C
1	D1 Office	Guadalupe Office	
2			
3	1- Revenue	2- Billed Quantity	T05 Per Name Year
4	1218703.43	126416	2008
5	1218703.43 Total	126416	2008 Total
6	1140273.25	124481	2009
7	1140273.25 Total	124481	2009 Total
8	1412013.01	153615	2010
9	1412013.01 Total	153615	2010 Total
10			
11			
12	D1 Office	Figueroa Office	
13			
14	1- Revenue	2- Billed Quantity	T05 Per Name Year
15	1335360.24	144293	2008
16	1335360.24 Total	144293	2008 Total
17	1142302.6	118765	2009
18	1142302.60 Total	118765	2009 Total
19	1613498.14	173192	2010
20	1613498.14 Total	173192	2010 Total

図 30-4 Oracle BI EE のフォーマットでピボット・テーブルとして挿入されるピボット・テーブル

	A	B	C	D	E	F
1			2008		2009	
2			1- Revenue	2- Billed Quantity	1- Revenue	2- Billed Quantity
3	D1 Office	D2 Department				
4	Montgomery Office Total		409261.44	44404	474402.83	49612
5	Montgomery Office	Entertainment Dept.	409261.44	44404	474402.83	49612
6	Blue Bell Office Total		762007.79	76964	626768.91	69812
7	Blue Bell Office	Entertainment Dept.	762007.79	76964	626768.91	69812
8	Foster Office Total		665353.16	73453	499749.5	53700
9	Foster Office	Technology Dept.	665353.16	73453	499749.5	53700
10	Glenn Office Total		380957.44	41450	335018.03	35817
11	Glenn Office	Technology Dept.	380957.44	41450	335018.03	35817
12	Tellaro Office Total		572256.65	62393	470830.43	51801
13	Tellaro Office	Technology Dept.	572256.65	62393	470830.43	51801
14	Madison Office Total		472503.56	51717	410123.97	47135
15	Madison Office	Translated Products	472503.56	51717	410123.97	47135
16	Eden Office Total		531569.71	62894	502306.03	54444
17	Eden Office	Translated Products	531569.71	62894	502306.03	54444
18	Sherman Office Total		780186.36	84984	680636.06	75006
19	Sherman Office	Translated Products	780186.36	84984	680636.06	75006

Oracle Smart View for Office クライアントでは、表はグリッド形式で表示されます。

- **Excel 表として挿入**(表ビューのみ) - 選択した表ビューは Excel 表として挿入されます。ページ・プロンプト・エッジおよびセクション・エッジの列(存在する場合)は、ドロップダウン見出しとして表上部に移動されます。Excel の操作を使用してフィルタ処理、式の定義、ソートおよび他の Excel タスクを実行する場合は、このオプションを選択します。

  表ビューが Excel 表として挿入されると、Oracle BI EE で定義されたプロンプトは使用できません。

  選択した表はワークシートに挿入されます。図 3 を参照してください。

図 30-5 Excel 表として挿入される表ビューの部分

	A	B	C	D	E
1	T05 Per Name Yea	D1 Office	D2 Department	2- Billed Quantity	1- Revenue
2	2008	Montgomery Office	Entertainment Dept.	44404	409261.44
3	2008	Blue Bell Office	Entertainment Dept.	76964	762007.79
4	2008	Foster Office	Technology Dept.	73453	665353.16
5	2008	Glenn Office	Technology Dept.	41450	380957.44
6	2008	Tellaro Office	Technology Dept.	62393	572256.65
7	2008	Madison Office	Translated Products	51717	472503.56
8	2008	Eden Office	Translated Products	62894	531569.71
9	2008	Sherman Office	Translated Products	84984	780186.36
10	2008	Casino Office	Test Programs Dept.	77474	739129.6
11	2008	Merrimon Office	Test Programs Dept.	55194	526620.06
12	2008	Perry Office	Equipment Dept.	109600	1095278.63
13	2008	Eiffel Office	Equipment Dept.	131681	1172037.85
14	2008	Spring Office	Operations Dept.	119880	1136782.66
15	2008	Mills Office	Operations Dept.	73890	713164.64
16	2008	College Office	Surplus Dept.	117934	1072744.45

- **Excel ピボットとして挿入**(ピボット・テーブル・ビューのみ) - 選択したピボット・テーブル・ビューは Excel ピボット・テーブルとして挿入されます。ページ・エッジおよ

びセクション・エッジの列(存在する場合)は、レポート・フィルタ領域にマップされ、メジャー・エッジの列は値領域に移動されます。集約、ピボット、ドリル、ソート、フィルタ処理などの詳細な分析を実行する場合は、このオプションを選択します。

選択した表またはピボット・テーブルがワークシートに挿入されます。図 4 を参照してください。

ノート:

- ピボット・テーブル・ビューが Excel ピボット・テーブルとして挿入されると、Oracle BI EE で定義されたプロンプトは使用できません。
- Excel ピボット・テーブル・ビューを使用する場合、サポートされるのは、数値データ型のメジャー列を含むビューのみです。
- Excel ワークシートごとに使用できる Excel ピボット・テーブルは、1 つのみです。また、Excel ピボット・テーブル・ビューは、常に新しいワークシートに挿入されます。データ・ソース接続が 1 つの場合も複数の場合も、これが既定の動作です。

図 30-6 Excel ピボット・テーブルとして挿入されるピボット・テーブル

	A	B	C	D	E	F	G
1				T05 Per Name Year			
2	D1 Office	D2 Department	Data	2008	2009	2010	Grand Total
3	Blue Bell Office	Entertainment Dept.	Sum of 2- Billed Quantity	76964	69812	85062	231838
4			Sum of 1- Revenue	762007.79	626768.91	801073.08	2189849.78
5	Blue Bell Office Sum of 2- Billed Quantity			76964	69812	85062	231838
6	Blue Bell Office Sum of 1- Revenue			762007.79	626768.91	801073.08	2189849.78
7	Casino Office	Test Programs Dept.	Sum of 2- Billed Quantity	77474	66313	88807	232594
8			Sum of 1- Revenue	739129.6	594498.95	846609.99	2180238.54
9	Casino Office Sum of 2- Billed Quantity			77474	66313	88807	232594
10	Casino Office Sum of 1- Revenue			739129.6	594498.95	846609.99	2180238.54
11	College Office	Surplus Dept.	Sum of 2- Billed Quantity	117934	104384	115288	337606
12			Sum of 1- Revenue	1072744.45	974454.3	1150437.44	3197636.19
13	College Office Sum of 2- Billed Quantity			117934	104384	115288	337606
14	College Office Sum of 1- Revenue			1072744.45	974454.3	1150437.44	3197636.19
15	Copper Office	Local Plants Dept.	Sum of 2- Billed Quantity	112428	98158	124486	335072
16			Sum of 1- Revenue	994751.43	924933.74	1159553.05	3079238.22
17	Copper Office Sum of 2- Billed Quantity			112428	98158	124486	335072
18	Copper Office Sum of 1- Revenue			994751.43	924933.74	1159553.05	3079238.22
19	Eden Office	Translated Products	Sum of 2- Billed Quantity	62894	54444	65983	183321

Oracle BI EE で作成されたビューの編集の説明に従って、表およびピボット・テーブルを編集できます。

> **ノート:**
>
> ピボット・チャートが埋め込まれたピボット・テーブルが Smart View に挿入されるとき、埋め込まれたピボット・チャートはインポートされません。Excel を使用して、挿入された Excel ピボット・テーブルに基づいてピボット・チャートを作成するか、Oracle Business Intelligence Answers を使用して新しいチャート・ビューを作成し、Smart View を使用してそのビューを挿入できます。
>
> - 挿入されたネイティブ Excel ピボット・テーブルに基づいてピボット・チャートを作成するには、次のステップを実行します:
>
> 1. Smart View で Excel ピボット・テーブルをクリックし、Excel の**「オプション」**リボンを選択します。
> 2. **「ツール」**グループで**「ピボットグラフ」**ボタンをクリックします。
> 3. **「チャートの挿入」**でチャートのスタイルを選択し、**「OK」**をクリックします。
>
> - 別のチャート・ビューを作成して挿入するには:
>
> 1. BI Answers で、別に新しいチャート・ビュー・オブジェクトを作成します。
> 2. Office アプリケーションで Smart View を使用して、新たに作成されたチャート・ビューを挿入します。

グラフの挿入

Oracle Smart View for Office は、グラフを挿入する際、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition のグラフを Microsoft Office 2007 以降でサポートされるチャート・タイプにマップしようとします。さらに、Smart View は、2D または 3D といった視覚効果や、キャンバス・サイズ、軸スケール、データ・フォーマット、フォントのスタイルや色の条件のフォーマットなどのグラフ・プロパティを一致させようとします。

一致するチャート・タイプがない場合は、グラフ・ビューはイメージとしてのみ挿入できます。

サポートされている Oracle BI EE のチャートおよびオブジェクトのタイプおよびサポートされていない Oracle BI EE のチャートおよびオブジェクトのタイプを参照してください。

グラフを挿入するには:

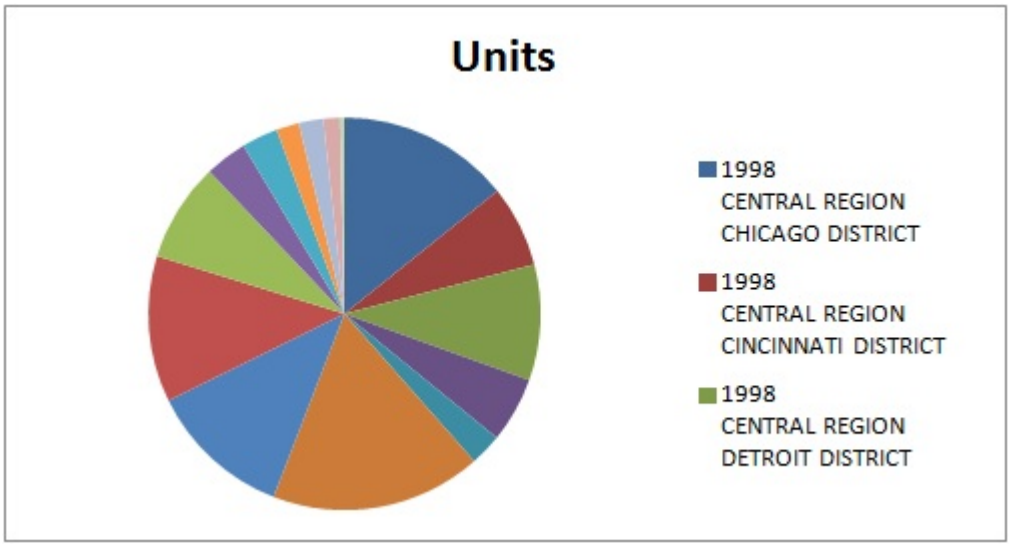
1. カタログから、グラフ・ビューを右クリックします。
2. オプションを選択します:
   - **挿入**—選択したグラフが、編集、マスク、リフレッシュが可能な Excel チャートとして挿入されます。

     Oracle BI EE でグラフに対してプロンプトが定義されている場合は、**「プロンプト・セレクタ」**ダイアログ・ボックスが表示され、表示するデータを選択できます(それ以外の場合は、グラフが直接挿入されます)。最初の挿入後、Oracle BI EE のリボンの**「プロンプトの編集」**アイコンをクリックして、プロンプトを編集できます。プロンプトの操作を参照してください。

     グラフに対してページ・プロンプト(Oracle BI EE のビュー・プロンプト)が定義されている場合は、Oracle BI EE のリボンの**「ページ・プロンプトの編集」**をクリックして編集することもできます。詳細は、プロンプトの操作を参照してください。

この分析に対してプロンプトが定義されていない場合は、グラフが直接挿入されます。図 1 を参照してください。

図 30-7 Excel チャートとして挿入された円グラフ・ビュー



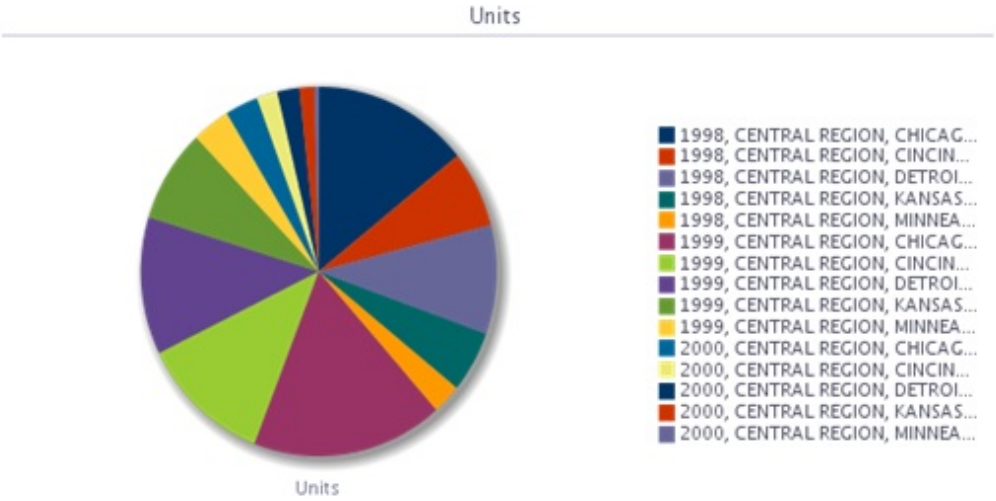
Oracle BI EE で作成されたビューの編集の説明に従って、この方法で挿入したグラフを編集できます。

- **イメージとして挿入** - 選択したグラフがグラフのイメージとして挿入され、編集またはカスタマイズできません。

  グラフがイメージとして直接挿入されると、Oracle BI EE で定義されたプロンプト、ページ・プロンプトおよびセクションは使用できません。

  ゲージ・ビューおよびファンネル・オブジェクトの挿入は、**「イメージとして挿入」**コマンドを使用してのみ実行できます。

図 30-8 イメージとして挿入された円グラフ・ビュー



挿入された後は、表示されるグラフのタイプが Excel チャートでもイメージでも、拡大してサイズを変更できます。

サポートされている Oracle BI EE のチャートおよびオブジェクトのタイプ

次のチャート・サブタイプがサポートされています:

- 折れ線
- 棒: 縦棒、横棒、積上げ縦棒、積上げ横棒、100%積上げ縦棒、100%積上げ横棒
- 面: 積上げ、100%積上げ
- 円グラフ
- バブル
- 散布
- 折れ線と棒の組合せ: 標準、積上げ
- レーダー

次のグラフは、イメージとしてのみ挿入できます。

- 時系列折れ線
- パレート
- ウォーターフォール

次のオブジェクトは、イメージとしてのみ挿入できます。

- ゲージ
- ファンネル

サポートされていない Oracle BI EE のチャートおよびオブジェクトのタイプ

次のビュー・タイプはサポートされていません:

- パフォーマンス・タイル
- トレリス・ビュー
- マップ・ビュー
- フィルタ・ビュー - カタログ・ツリーの**「分析プロパティの表示」**コマンドを使用すると、フィルタ・ビューのプロパティのみ表示できます。
- 選択ステップ
- 列セレクタ
- ビュー・セレクタ
- 凡例
- ナラティブ
- ティッカ

- 静的テキスト
- 論理 SQL
- セグメントの作成
- ターゲット・リストの作成
- 静的テキスト、ティッカまたは HTML ビュー
- スコアカード
- KPI または KPI ウォッチリスト

複合ビューの挿入

複合ビューを挿入するには:

1. カタログから、挿入する複合ビューを選択します。
2. 右クリックし、**「すべてのビューを 挿入」**を選択します。
3. プロンプトが表示されたら、オプションを選択します:
   - **「シート/スライドごとに 1 つのオブジェクト」**を選択して、別個の Excel シートまたは PowerPoint スライドに複合ビューの各オブジェクトを挿入します。
   - **「1 つのシート/スライドにすべてのオブジェクト」**を選択して、1 つの Excel シートまたは PowerPoint スライドにすべてのオブジェクトを表示します。

   Excel では、ワークブックに未使用のシートがあっても、オブジェクトは 1 つまたは複数の新しいシートに挿入されます。

   Word では、オブジェクトはその他のオブジェクトの横および下にシートが埋まるまで配置され、これがすべてのオブジェクトを保持するために必要なシートの数だけ続きます。

   表、ピボット・テーブル、およびグラフ・ビュー・タイプに対しては、デフォルト表示が選択されます。つまり、自動的に**「挿入」**アクションが使用されます。

   複合ビューにサポートされていないビュー・タイプがあると、メッセージで通知されます。サポートされていないビュー・タイプは挿入されません。

ノート:

- 「リフレッシュ」を実行して、選択したビューのプロンプトおよびページ・プロンプトを編集できます。複合ビューで選択されていないビューは変更されません。ビューのリフレッシュ、プロンプトの操作およびページ・プロンプトの操作を参照してください。
- Word および PowerPoint では、複合ビューを挿入するとき、または複合ビューがカタログから挿入されるかコピーして貼り付けられるときに、表やチャートが重なることがあります。これは、複合ビュー内のオブジェクトが特に大きい場合に顕著です。
- 複合ビューから複数のオブジェクトを PowerPoint に挿入して、スライド当たり 1 つのオブジェクト・オプションを選択すると、各オブジェクトに対して Excel インスタンスが開き、最小化されて Windows タスクバーに表示されます。ただし、挿入操作が完了しても、Excel インスタンスは自動的にクローズされません。このため、多数のオブジェクトを挿入するときにタスクバーが一杯になる可能性があります。タスクバーに表示される Excel インスタンスの数を最小限に抑えるには、「Office」ボタン(Excel の左上)をクリックし、**「Excel のオプション」**、**「詳細設定」**タブの順に選択します。**「表示」**オプションで**「すべてのウィンドウをタスクバーに表示する」**チェック・ボックスをクリアします。

ダッシュボードの挿入

ダッシュボードは、カタログ・ツリーにフォルダとして表示されます。ダッシュボード・フォルダを展開するとダッシュボード・ページを表示でき、ダッシュボード・ページを展開するとそのページに含まれている分析のリストを表示できます。Excel、PowerPoint および Word にダッシュボード・ページを挿入できます。

Office アプリケーションにダッシュボード・ページを挿入するには:

1. カタログからダッシュボード・ページを右クリックして、**「すべてのビューを 挿入」**を選択します。
2. プロンプトが表示されたら、オプションを選択します:
   - **「シート/スライドごとに 1 つのオブジェクト」**を選択して、別個の Excel シートまたは PowerPoint スライドにダッシュボードの各オブジェクトを挿入します。
   - **「1 つのシート/スライドにすべてのオブジェクト」**を選択して、1 つの Excel シートまたは PowerPoint スライドにすべてのオブジェクトを表示します。

   Word では、オブジェクトはその他のオブジェクトの横および下にシートが埋まるまで配置され、これがすべてのオブジェクトを保持するために必要なシートの数だけ続きます。

   表、ピボット・テーブル、およびグラフ・ビュー・タイプに対しては、デフォルト表示が選択されます。つまり、自動的に**「挿入」**アクションが使用されます。

   サポートされていないビュー・タイプがダッシュボードにあると、メッセージで通知されます。サポートされていないビュー・タイプは挿入されません。

> **ノート:**
>
> 「リフレッシュ」を実行して、選択したビューのプロンプトおよびページ・プロンプトを編集できます。ダッシュボードから選択されていないビューは変更されません。ビューのリフレッシュ、プロンプトの操作およびページ・プロンプトの操作を参照してください。

プロンプトの操作

プロンプトでは、挿入するビューの内容を判断する基準を指定できます。Oracle Smart View for Office は、ページ・プロンプトとプロンプトの両方をサポートします。ページ・プロンプトの詳細は、ページ・プロンプトの操作も参照してください。

Smart View のプロンプトは、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition のプロンプトと同等です。Smart View では、列プロンプトのみがサポートされています。

プロンプトは、Oracle BI EE の分析レベルで定義されます。ビューが Smart View に挿入されるたびに、これらのプロンプトに値を入力するように求められます。

Oracle BI EE で分析にプロンプトが定義されている場合、その分析から Smart View へ表、ピボット・テーブル、およびグラフ・ビューを挿入すると、そのビューに表示するデータを選択するためのプロンプトが表示されます。プロンプトが定義されている分析から複合ビューを挿入する場合、その複合ビュー内のすべてのビューに対して値を入力するためのプロンプトが 1 回だけ表示されます。

たとえば、「年」のプロンプトが分析に指定されていて、2010、2011 および 2012 年から選択できるとします。表、ピボット・テーブル、またはグラフを挿入すると、データを表示する年(2010、2011 または 2012)を選択するためのプロンプトが表示されます。または、複合ビューの挿入を選択でき、その場合は、行ったプロンプト選択が、挿入されるすべてのビューに適用されます。挿入後、各個別のビューのプロンプトを編集し、表示する別の年のデータを選択できます。

ビューは、個別にしか編集できません。編集操作では、編集中の各ビューに選択される値の入力を求めるプロンプトが表示されます。

挿入、またはコピーおよび貼り付けられたビューのプロンプトを編集できます。

> **ノート:**
>
> Oracle BI EE で階層列に定義されているプロンプトは、Smart View ではサポートされません。

プロンプトを編集するには:

1. ワークシートでビューを選択します:
   - グラフ・ビュー - グラフを選択します。
   - 表およびピボット・テーブル・ビュー—表内のセルを選択します。
2. Oracle BI EE のリボンから、**「プロンプトの編集」**ボタンを選択し、元の選択を表示します。

図 30-9 「プロンプトの編集」ボタン



サーバーでレポート定義が変更された場合、選択内容はリセットされているため、すべてのプロンプトと列を再度選択する必要があります。

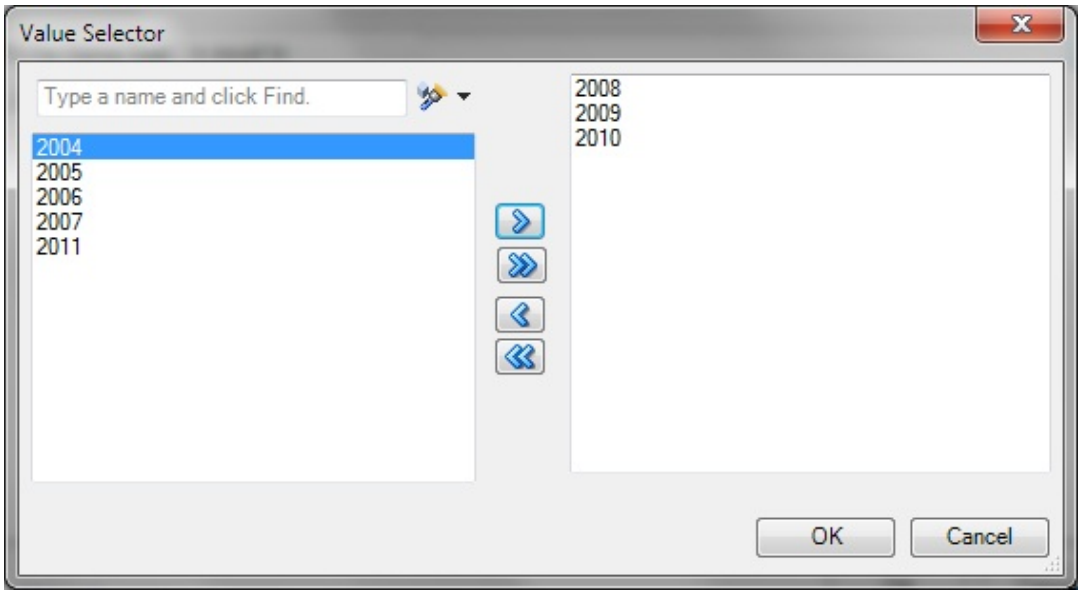
3. **プロンプト・セレクタ**で、プロンプト選択を変更します。

   Oracle BI EE でのプロンプトの設定方法によっては、**「プロンプト・セレクタ」**のドロップダウン・リストからデータを直接選択できます。**値セレクタ**・ダイアログ・ボックスから値を選択することもできます。

> **ノート:**
>
> プロンプト・セレクタで、ドロップダウン・リスト・コントロールまたはオプション・リストに表示できるアイテム数は 256 までという制限があります。これより多くのアイテムを表示するには、Oracle Business Intelligence Answers の `instance.config` で**プロンプト/MaxDropDownValues** の設定値を増やします。

次は、2008、2009 および 2010 の年が表示されるように選択されている**「値セレクタ」**の例です。

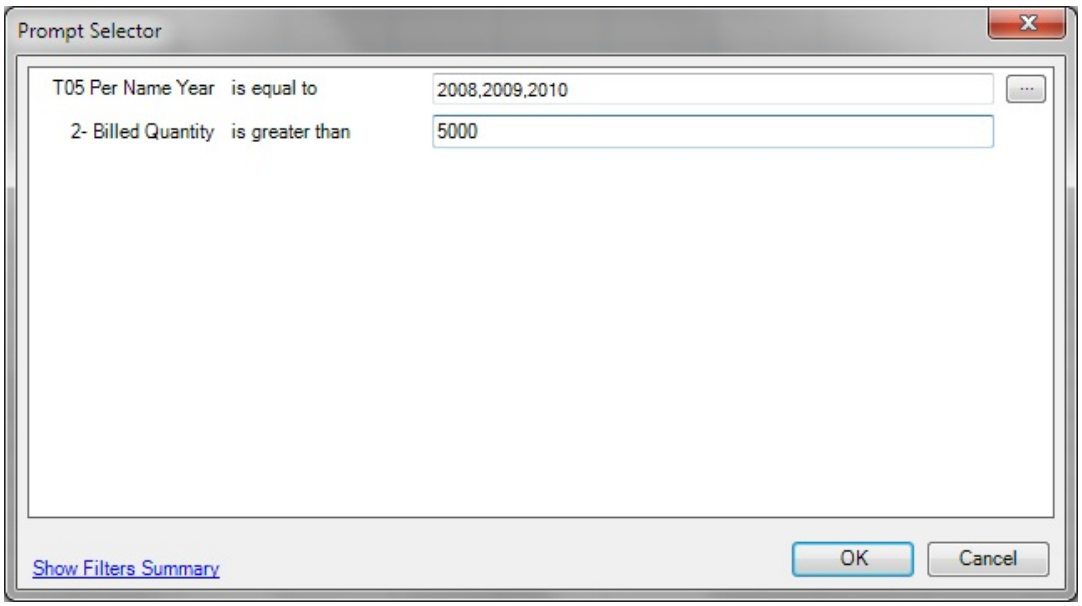
図 30-10 2008、2009 および 2010 年が選択された値セレクタ・ダイアログ・ボックス



「値セレクタ」で**「OK」**をクリックすると、**「プロンプト・セレクタ」**の例の 1 つ目のプロンプトに、選択内容が移入されます(図 3)。**プロンプト・セレクタ**の例の 2 つ目のプロンプトには、金額を直接入力する必要があります。この例では、表示する金額は、$5,000 を超える請求済数量です。

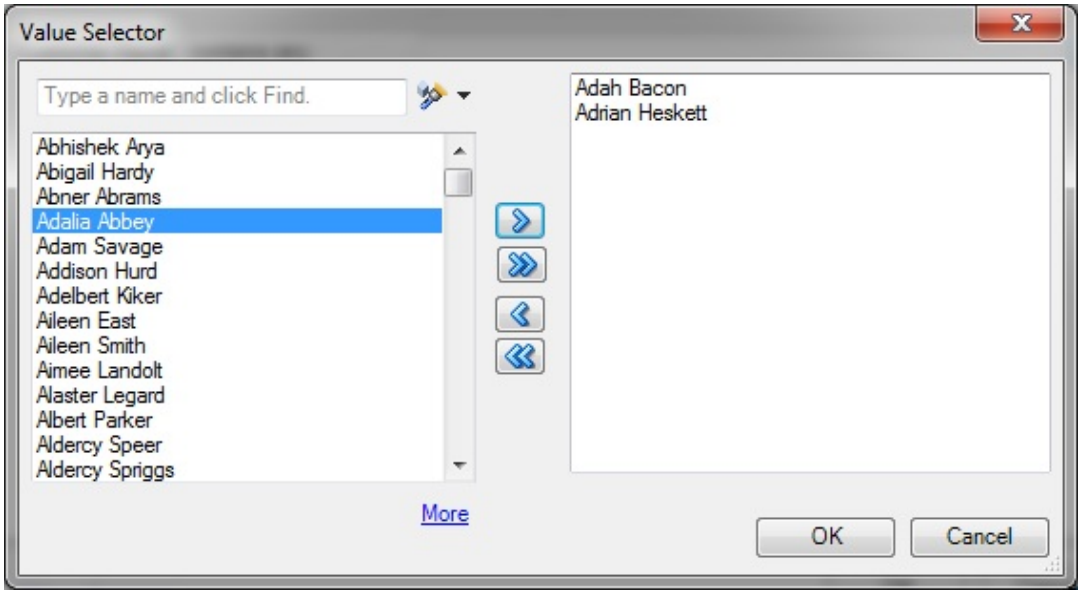
完了した**「プロンプト・セレクタ」**ダイアログは、図 3 のようになります。

図 30-11 入力済のプロンプト・セレクタ



場合によっては、選択元のデータが非常に長いことがあります。**「値セレクタ」**の大量のデータのロードに対応するために、Smart View では、グループの値が提供されます。最初に表示されるページをスクロールして選択を行い、**「詳細」**をクリックすると、次のグループが表示され、そこから選択を行います。データ・リスト全体が表示され、そこから選択を行うまで、**「詳細」**をクリックし続けます。図 4 に例を示します。

図 30-12 大量のデータ用に「詳細」オプションが表示されている「値セレクタ」



4. **「OK」**をクリックして**「プロンプト・セレクタ」**を閉じます。

   選択した後に**「OK」**をクリックすると、ビューがすぐにリフレッシュされて選択内容が反映されます。

5. この手順を繰り返してプロンプトを編集し、表示される出力を変更します。

ノート:

- BI Answers でプロンプト用に指定された選択リスト(ラジオ・ボタン・リストおよびチェック・ボックス・リスト)は、Smart View のリスト・コントロールに変換されます。
- ダブル列にプロンプトが定義されており、選択したプロンプト演算子が**「*ユーザーに指示」**の場合、次の演算子は実行時に機能しません:
  - 次より小さい
  - 次以下
  - 次より大きい
  - 次以上
  - 次と類似
  - 次と類似しない

  これを回避するには、**「*ユーザーに指示」**演算子を使用しないでください。かわりに、前述の演算子のいずれかを使用して、演算子を設計時に明示的に定義してください。これで演算子が機能するようになります。
- ユーザー入力で作成された日付プロンプトがテキストに設定され、デフォルト値が現在の日付を表示する SQL に設定されると、実際の現在の日付ではなく、`current_date` SQL がプロンプトに表示されます。

ページ・プロンプトの操作

ページ・プロンプトでは、挿入されたビューの内容を判断する基準を指定できます。Oracle Smart View for Office は、ページ・プロンプトとプロンプトの両方をサポートします。プロンプトの操作も参照してください。

Smart View の**ページ・プロンプト**は、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition のビュー・プロンプトに相当します。ビュー・プロンプトは、分析内の個々のビューに指定されます。Smart View では、Oracle BI EE の表プロンプト、グラフ・プロンプト、ゲージ・プロンプトがサポートされています。これらのプロンプトのタイプは、Smart View ではページ・プロンプトと呼ばれます。

ページ・プロンプトは、分析内のビューごとに異なる場合があります。分析内の個別の表ビューに年のページ・プロンプトを設定し、同じ分析内のピボット・テーブル・ビューに事業部門のページ・プロンプトを設定することができます。

ページ・プロンプトを含むビューを初めて挿入すると、ビューの状態がデフォルトで選択されます。たとえば、分析内の特定のビューに年のプロンプトが指定されており、2010、2011、2012 から選択できる場合、挿入時にこれらに対するプロンプトは表示されません。かわりに、ビューのデフォルトの状態が挿入されます。たとえば、選択可能な年のリストで最初の年である、2010 のデータが自動的に挿入されます。その後、ページ・プロンプトを編集し、別の年のデータを選択してこのビューに表示することができます。

挿入、またはコピーして貼り付けられたビューのページ・プロンプトを編集できます。

ページ・プロンプトを編集するには:

1. ワークシートでビューを選択します:

- グラフ・ビュー - グラフを選択します。
- 表およびピボット・テーブル・ビュー—表内の任意のセルを選択します。

2. Oracle BI EE のリボンから、**「ページ・プロンプトの編集」**ボタンを選択し、特定ビューに対するデフォルトのページ・プロンプトの選択内容を表示します。

図 30-13 「ページ・プロンプトの編集」ボタン

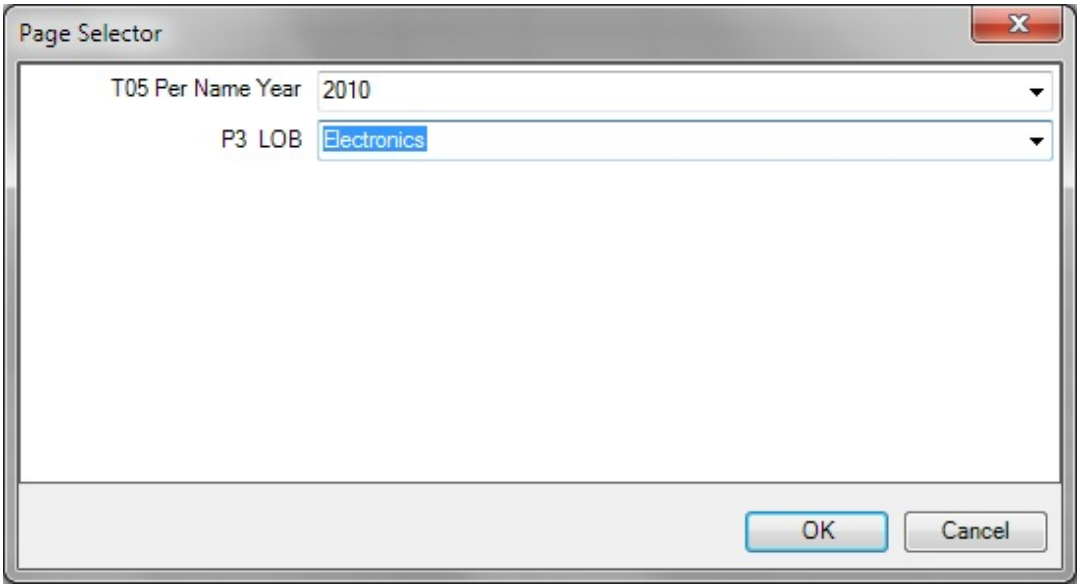


サーバーでレポート定義が変更された場合、選択内容はリセットされているため、すべてのページ・プロンプトを再度選択する必要があります。

3. **「ページ・セレクタ」**で、ドロップダウン・リストから選択してページ・プロンプトの選択を変更します。

図 2 は、ユーザーが年および事業部門を選択する**「ページ・セレクタ」**ダイアログ・ボックスを示しています。この例では、年は 2010、事業部門は電子機器が選択されています。

図 30-14 入力されたページ・セレクタ



4. **「OK」**をクリックして**「ページ・セレクタ」**を閉じます。

選択した後に**「OK」**をクリックすると、ビューがすぐにリフレッシュされて選択内容が反映されます。

5. この手順を繰り返してページ・プロンプトを編集し、表示される出力を変更します。

ビューのリフレッシュ・プリファレンスの指定

各ビューのリフレッシュ・プリファレンスを指定できます。ワークシート、スライドまたはページの各ビューに設定したリフレッシュ・プリファレンスは、Office ドキュメント(Excel ワー

クブック、PowerPoint スライド・プレゼンテーションまたは Word 文書)とともに保存されます。

ビューのリフレッシュ・プリファレンスを指定するには:

1. 1 つ以上の Oracle Business Intelligence Enterprise Edition ビューが Oracle Smart View for Office に挿入されていることを確認します。
2. **ドキュメント・コンテンツ**で、をクリックしてペインのコンテンツをリフレッシュします。

   アクティブな Office アプリケーションに挿入されたすべてのビューが**ドキュメント・コンテンツ**にツリー形式で表示されます。
3. **ドキュメント・コンテンツ**でビューを選択し、**「プロパティ」**を選択します。
4. **「プロパティ」**で、**「リフレッシュ・プリファレンス」**から次のいずれかのオプションを選択します:
   - **データのリフレッシュ** - 選択したビューまたは分析のデータ・ポイントのみがリフレッシュされます。

     シート、スライドまたはページのフォーマットに対する変更は保持されます。
   - **ビューの置換** - Oracle BI EE で設定されたフォーマット変更を含むビュー全体を置換します。

     このオプションを選択すると、ビュー定義が変更された場合、プロンプトおよびグラフの選択内容とカスタム・フォーマットがリフレッシュ時に失われます。

     > **ノート:**
     >
     > Oracle Business Intelligence Answers の**統一スケールの使用**オプションを選択またはクリアした場合は、Smart View でリフレッシュするときに**「ビューの置換」**オプションを使用する必要があります。
   - **リフレッシュしない**—リフレッシュが許可されません。
5. **「OK」**をクリックして、**リフレッシュ・プリファレンス**の選択内容を保存します。

   ビューのリフレッシュに進みます。

> **ノート:**
>
> Oracle BI EE のタイトル・ビューはリフレッシュ・アクションに含まれないため、タイトル・ビューに加えたすべてのカスタマイズは、ワークシートまたはワークブックをリフレッシュしても保持されます。

> **ノート:**
>
> BI Answers でフィルタを追加または削除したとき、追加されるフィルタが、表示される円グラフの数を定義するディメンションに適用される場合、円グラフがリフレッシュされません。変更が発生するフィルタ列が円グラフ数のディメンションとしても定義されている場合は、チャート・ビューのリフレッシュ・オプションを**「ビューの置換」**に変更してから、再びリフレッシュを実行します。これによって正常なリフレッシュが行われ、円グラフの数とチャート・タイトルが新しいデータを反映するように更新されます。

ビューのリフレッシュ

挿入されたビューの Oracle Business Intelligence からのデータをリフレッシュできます。次のように、Office ドキュメント・タイプに応じて、選択したビューまたはすべてのビューをリフレッシュできます。

Excel

- 個々のビュー
- 個々のワークシート
- ワークブック全体

PowerPoint

- 個々のビュー
- 個々のスライド
- プレゼンテーション全体

Word

- 個々のビュー
- ドキュメント全体

「ドキュメント・コンテンツ」ペイン、Oracle BI EE のリボンまたは Smart View のリボンからビューをリフレッシュできます。

リフレッシュ・アクションは、選択したビューに設定されているプリファレンスのリフレッシュに従って制限されます。詳細は、ビューのリフレッシュ・プリファレンスの指定を参照してください。

リフレッシュする際、タイトル・ビューはリフレッシュ・アクションに含まれないため、タイトル・ビューに加えたすべてのカスタマイズは、Office ドキュメントをリフレッシュしても保持されます。

Office ドキュメントに複数のオブジェクトがあり、先に接続せずにドキュメントをリフレッシュしようとすると、すべてのオブジェクトに対するログイン資格証明の入力が 1 回求められます。かわりに取り消すことを選択した場合、シートの各オブジェクトに**「データ・ソースに接続」**ダイアログ・ボックスが表示され、各オブジェクトについて**「取消」**をクリックする必要があります。たとえば、シート上にオブジェクトが 6 つある場合、ダイアログ・ボックスはオブジェクトごとに 6 回表示されます。

「ドキュメント・コンテンツ」ペインで Oracle Business Intelligence Enterprise Edition のビューをリフレッシュするには:

1. **「ドキュメント・コンテンツ」**で、ドロップダウン・リスト・ボックスに**「Oracle BI EE - ドキュメント階層」**が表示されていることを確認します。
2. **「ドキュメント・コンテンツ」**で をクリックしてツリーのコンテンツをリフレッシュします。

   「ドキュメント・コンテンツ」から、すべての Office アプリケーションにおける個々のビュー、個々のワークシートおよび個々のスライドをリフレッシュできます。
3. 次のいずれかのアクションを行います:
   - Excel のシート、PowerPoint のスライドまたは Word 文書で選択したビューをリフレッシュするには、**「ドキュメント・コンテンツ」**でツリーからビュー・オブジェクトを選択し、右クリック・メニューから**「ビューのリフレッシュ」**アクションを選択するか、ペインの下部で**「ビューのリフレッシュ」**リンクをクリックします。

     リフレッシュするビューごとに繰り返します。
   - 選択した Excel ワークシートまたは PowerPoint スライドのすべての Oracle BI EE ビューをリフレッシュするには、**「ドキュメント・コンテンツ」**でツリーからシートまたはスライドを選択し、右クリック・メニューから**「リフレッシュ」**アクションを選択するか、ペインの下部で**「リフレッシュ」**リンクをクリックします。

     リフレッシュするシートまたはスライドごとに繰り返します。

リボンを使用して、ワークシートまたはスライドのすべての Oracle BI EE ビュー、あるいは Word 文書全体をリフレッシュするには:

1. 次のいずれかのアクションを行います:
   - アクティブにするワークシートまたはスライドを選択します。
   - Word 文書にカーソルを置いて選択します。
2. Oracle BI EE リボンまたは Smart View リボンの**「リフレッシュ」**をクリックします。

Excel ワークブック、PowerPoint プレゼンテーションまたは Word 文書のすべての Oracle BI EE ビューをリフレッシュするには:

1. ワークブック、プレゼンテーションまたは文書内の任意の場所にカーソルを置いて選択します。
2. 次のいずれかのアクションを行います:
   - Excel ワークブックのすべての Oracle BI EE ビューをリフレッシュするには、Smart View リボンの**「リフレッシュ」**の下矢印をクリックし、**「すべてのワークシートのリフレッシュ」**を選択します。図 1 に、矢印を含む「リフレッシュ」アイコンを示します。

図 30-15 Excel および PowerPoint における下矢印が表示された「リフレッシュ」アイコン



または、Oracle BI EE リボンにある**「リフレッシュ」**で下矢印をクリックし、**「ワークブック・データのリフレッシュ」**を選択します。

- PowerPoint プレゼンテーションのすべての Oracle BI EE ビューをリフレッシュするには、Smart View リボンにある**「リフレッシュ」**の下矢印をクリックし、**「すべてのスライドのリフレッシュ」**を選択します。

  または、Oracle BI EE リボンにある「リフレッシュ」で下矢印をクリックし、**プレゼンテーション・データのリフレッシュ**を選択します。

- Word 文書のすべてのビューをリフレッシュするには、Oracle BI EE リボンまたは Smart View リボンの**「リフレッシュ」**をクリックします。図 2 に示すように、Word の「リフレッシュ」アイコンに下矢印は表示されません。

図 30-16 Word の「リフレッシュ」アイコン



> **ノート:**
>
> 要求された場合は、Oracle BI EE の資格証明を入力します。

ビューのマスキング・データ

Office ドキュメントに挿入する Oracle Business Intelligence Enterprise Edition ビューおよびビュー・デザイナを使用して作成されるビューのデータをマスクできます。マスキング・データのオプション:

- 選択されたビュー
- シートまたはスライドのすべてのビュー
- Office ドキュメントのすべてのビュー

Oracle Smart View for Office のマスク・データ機能を使用すると、次のアクションを実行できます:

- Excel のシートまたは PowerPoint のスライドで単一の Smart View オブジェクトを選択し、そのオブジェクトのデータのみをマスク
- アクティブな Excel ワークシートまたは PowerPoint スライドのデータをマスク
- アクティブなワークブック、プレゼンテーション、Word 文書のデータをマスク

データのマスクは次の場所から呼び出すことができます:

- Smart View パネルのドキュメント・コンテンツ
- Oracle BI EE のリボン

個別のビューでのマスキング・データ

Excel ワークシートまたは PowerPoint スライドの個別のビューでデータをマスクするには:

1. Excel または PowerPoint で、**ドキュメント・コンテンツ**の→をクリックし、ツリーの内容をリフレッシュします。

> **ノート:**
>
> Word 文書のデータは、全体のマスクのみ可能です。Word では、個々のビューのデータはマスクできません。

2. **ドキュメント・コンテンツ**で、マスクするデータを含むビューを見つけ、それを選択します。
3. **ドキュメント・コンテンツ**で**「データのマスク」**リンクをクリックします。

   表オブジェクトでは、セルが「リフレッシュが必要」というテキストに置き換えられます。グラフでは、エリアが空白になり、小さな鍵のイメージが表示されます。
4. 現在のワークブックまたはプレゼンテーションを保存します。

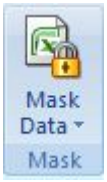
   ビューのマスク状態は保存後も変りません。
5. マスクされたビューでデータを表示するには、**ドキュメント・コンテンツ**の→をクリックし、ツリーからビューを選択して、**「ビューのリフレッシュ」**リンクをクリックします。

シートまたはスライドのマスキング・データ

Excel ワークシートまたは PowerPoint スライドのデータをマスクするには:

1. シートまたはスライドを選択する方法を選択します:
   - シートまたはスライドに直接カーソルを置きます。
   - **ドキュメント・コンテンツ**で→をクリックし、ツリーでシートまたはスライドを見つけて、それを選択します。
2. 選択したシートまたはスライドのすべてのオブジェクトのデータをマスクする方法を選択します:
   - Oracle BI EE のリボンで、**「データのマスク」**ボタンをクリックします。

     図 30-17 「データのマスク」ボタン

   - **ドキュメント・コンテンツ**で**「データのマスク」**リンクをクリックします。

   シートまたはスライドのデータがマスクされます。

> **ノート:**
>
> Word 文書のデータは、全体のマスクのみ可能です。Word では、個々のページのデータはマスクできません。

3. 現在のワークブックまたはプレゼンテーションを保存します。

   シートまたはスライドのマスク状態は保存後も変りません。

4. マスクされたシートまたはスライドでデータを表示するには、**ドキュメント・コンテンツ**の をクリックし、ツリーからシートまたはスライドを選択して、**「リフレッシュ」**リンクをクリックします。

   または、リフレッシュするシートまたはスライドにカーソルを置き、

をクリックします。

Office ドキュメント全体でのマスキング・データ

Office ドキュメント全体でデータをマスクするには:

1. 開いている Office ドキュメントで、Oracle BI EE のリボンから、次のアクションを実行します:

   - **Excel:** 

の下矢印をクリックし、**「ワークブック・データのマスク」**を選択します。
   - **PowerPoint:** 

の下矢印をクリックし、**「プレゼンテーション・データのマスク」**を選択します。
   - **Word:** 

をクリックします。

   > **ノート:**
   >
   > Word 文書は全体のみをマスクできます。Word では、個々のページはマスクできません。

2. 現在の Office ドキュメントを保存します。

   ワークブック、プレゼンテーションまたは文書のマスク状態は保存後も変りません。

3. マスクされたデータを表示するには、**ドキュメント・コンテンツ**の をクリックし、ツリーからシート、スライド、または文書を選択して、**「リフレッシュ」**リンクをクリックします。

または、リフレッシュするシート、スライド、または文書にカーソルを置き、

をクリックします。

Oracle BI EE オブジェクトのプロパティの表示

選択したオブジェクトの様々なプロパティを表示できます。

Oracle Business Intelligence Enterprise Edition オブジェクトのプロパティを表示するには:

1. Oracle BI EE オブジェクトを選択します。

   シートやスライドではなく、実際のビュー・オブジェクトを選択します。
2. **「ドキュメント・コンテンツ」**ペインの下部の**「プロパティ」**リンクをクリックします。

Office アプリケーション間での Oracle BI EE オブジェクトのコピーと貼付け

次のように Office アプリケーション内および Office アプリケーション間で Oracle Business Intelligence Enterprise Edition オブジェクトをコピーできます。

- グラフは、任意の Office アプリケーション内および Office アプリケーション間でコピーできます。
- 表とピボット・テーブルは、Word および PowerPoint 内と Word および PowerPoint 間でコピーできます。
- 表とピボット・テーブルは、Excel 内、Excel から別の Office アプリケーション、別の Office アプリケーションから Excel へコピーできません。
- 表とピボット・テーブルは、セクションとしてのみコピーと貼付けができます。

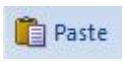
グラフ・ビューのコピーと貼付け

グラフ・ビューをコピーして貼り付けるには:

1. Excel、Word、または PowerPoint で、コピーするグラフ・ビューを選択します。

   ドキュメント・コンテンツを使用してビューを検索することもできますが、シート、スライド、またはページでグラフは直接選択します。
2. **Oracle BI EE** のリボンで、

をクリックします。
3. Office アプリケーションにアクセスし、グラフ・ビューを貼り付ける位置にカーソルを置きます。

   たとえば、Office アプリケーション内で貼り付ける場合(または、Excel からコピーして PowerPoint に貼り付ける場合は PowerPoint を開き)、Office ドキュメントでオブジェクトを貼り付ける位置にカーソルを置きます。
4. 

をクリックします。
5. コピーおよび貼り付けるすべてのグラフで繰り返します。

表またはピボット・テーブル・ビューのコピーと貼付け

表ビューまたはピボット・テーブル・ビューをコピーして貼り付けるには:

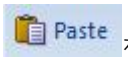
1. Word または PowerPoint で、コピーする表ビューまたはピボット・テーブル・ビューを選択します。

   ドキュメント・コンテンツを使用してビューを検索することもできますが、その場合でも、スライドまたはページで表またはピボット・テーブルを直接選択します。

2. **Oracle BI EE** のリボンで、

をクリックします。
3. Office アプリケーションにアクセスし、表またはピボット・テーブル・ビューを貼り付ける位置にカーソルを置きます。

   たとえば、Office アプリケーション内で貼り付ける場合(または、Word からコピーして PowerPoint に貼り付ける場合は PowerPoint を開き)、Office ドキュメントでオブジェクトを貼り付ける位置にカーソルを置きます。

4. 

をクリックします。
5. コピーおよび貼り付けるすべての表またはピボット・テーブルで繰り返します。

Oracle BI EE の分析の編集

使用可能な分析ビューで必要なデータが表示されない場合やデータが期待どおりに表示されない場合は、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition でビューを編集できます。

> **ノート:**
>
> Oracle BI EE でビューを編集するには、必須の Oracle BI EE 権限が必要です。

Oracle BI EE でビューを編集するには:

1. カタログでビューを右クリックして、**「アンサーでの分析の編集」**を選択します。
2. ログイン画面で、Oracle BI EE の資格証明を入力します。

   選択したビューが Oracle BI EE に表示されます。
3. Oracle BI EE でビューを編集して保存します。
4. Office アプリケーションに戻ります。
5. **Oracle BI EE** のリボンで**「リフレッシュ」**をクリックし、変更がビューに反映されていることを確認します。

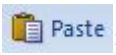
Oracle BI EE から Office へのビューのコピーおよび貼付け

Oracle Business Intelligence Enterprise Edition から Oracle Smart View for Office に、ビューをコピーして貼り付けられます。

貼り付けられたビューをリフレッシュすると、データはリフレッシュされますが、分析定義は、Oracle BI EE で変更されていたとしてもリフレッシュされません。

> **ノート:**
>
> Oracle BI EE から Smart View にビューをコピーして貼り付ける場合、一部のフォーマットが Office にインポートされないことがあります。

ビューをコピーして貼り付けるには:

1. Oracle BI EE にログインしていることを確認します。
2. Oracle BI EE またはインタラクティブ・ダッシュボードで、コピーする分析を起動します。
3. 分析の下部の**「コピー」**リンク(分析がコピー可能である場合にのみ表示されます)をクリックします。
4. Excel などの Office アプリケーションを開き、適切な Oracle BI EE データ・ソースに接続します。
5. **Oracle BI EE** のリボンで、

をクリックします。

Oracle BI EE で作成されたビューの編集

次も参照:

- 編集が可能および不可能な対象
- PowerPoint に挿入されたピボット・テーブルの編集
- その他のガイドライン

編集が可能および不可能な対象

Oracle Business Intelligence Enterprise Edition で作成されたビューを編集する場合、次に注意してください。

- **「挿入」**コマンドを使用して Microsoft オブジェクトとして挿入または貼り付けられた表ビューおよびグラフ・ビューは、Excel、PowerPoint または Word で編集できます。
- リストとして挿入または貼り付けられた表ビューおよびイメージとして挿入されたグラフ・ビューは、Excel で編集できません。
- イメージとして挿入または貼り付けられたビューは、PowerPoint で編集できません。

PowerPoint に挿入されたピボット・テーブルの編集

Oracle Business Intelligence Enterprise Edition で作成されたピボット・テーブル・ビューを編集する場合、次の点を考慮します。

小さいピボット・テーブル

PowerPoint の小さいピボット・テーブルの場合、列の幅と行の高さを変更するには、マウスを使用して列と行の枠線を目的の高さと幅にドラッグします。

大きいピボット・テーブル

大きいピボット・テーブル(特に行と列がスライド領域の外側にある表)の列の幅と行の高さを調整するには、PowerPoint の表の編集ツールを次のように使用します:

1. ピボット・テーブルを選択します。
2. PowerPoint で**「レイアウト」**リボンを選択します。
3. ピボット・テーブルの行または列を選択します。
4. **「セルのサイズ」**グループの高さと幅の値を変更して、高さと幅を調整します。

その他のガイドライン

Oracle Business Intelligence Enterprise Edition で作成されたビューを編集する場合、次のガイドラインに注意してください。

- Oracle Smart View for Office では、PowerPoint の"スライドの複製"コマンドを使用したチャートまたは表の複製はサポートされていません。

  PowerPoint では、チャートを含むスライドの複製後、どちらかのチャートのプロンプトを更新しようとすると、更新される元のチャートのみのプロンプトが更新されます。複製スライドのチャートは更新されません。

  PowerPoint スライドに挿入されて複製されたピボット・テーブルでは、どちらかのピボット・テーブルのプロンプトを変更した場合、元のスライドか複製スライドのどちらのプロンプトを変更したかどうかにかかわらず、元のスライドのピボット・テーブルのみが更新されます。
- Microsoft Office フォーマット・ツールを使用してグラフに加えられた一部の変更(色の変更など)は、プロンプトが変更され、グラフがリフレッシュされると、維持されないことがあります。Smart View では、このようなフォーマットの変更を追跡しません。これは Microsoft Office で行われます。グラフ系列が削除されると、その系列のフォーマットも Office によって削除されます。プロンプトを変更すると、系列の数および順序が変更され、これはフォーマットも変更されることを意味します。これは予期された動作です。
- Oracle BI EE の勘定科目プリファレンスで設定されているタイム・ゾーン・プリファレンスは、Smart View では公開されません。
- Smart View が Excel で表示できる桁の精度は、Excel で許可される桁の精度に制限されます。

  たとえば、次に示すのは、小数点以下 2 桁の 18 桁のフォーマットです:

  ```
  123456789123456789.12
  ```

  Excel の精度の制限は 15 桁であるため、15 桁を超える桁は Excel では 0 に変更され、次のように表示されます:

  ```
  123456789123456000.00
  ```

「ビュー・デザイナ」を使用したビューの操作

Oracle Smart View for Office のビュー・デザイナを使用して、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition サブジェクト・エリアに基づいてアド・ホック・ビューを作成できます。

Smart View で作成されたビューは、カタログに保存でき、Smart View または Oracle BI EE で編集できます。

ビュー・デザイナは、Microsoft Excel、Word および PowerPoint で使用できます。

ビュー・デザイナの起動

ビューを作成しているか編集しているかに応じ、このトピックで説明されている方法を使用して、ビュー・デザイナを起動できます。

ビュー・デザイナを起動するには:

1. 次のいずれかのアクションを行います:
   - 新規ビューを作成するには:
     - カタログ・ツリーの**カタログのルート**・ノードを右クリックして、**「新規ビューの作成」**を選択します。
     - カタログ・ツリーの**カタログのルート**・ノードを選択して、Smart View パネルの下部で**「新規ビューの作成」**を選択します。
     - Oracle BI EE のリボンで、「ビュー・デザイナ」アイコンをクリックします。

       図 30-18 「ビュー・デザイナ」アイコン

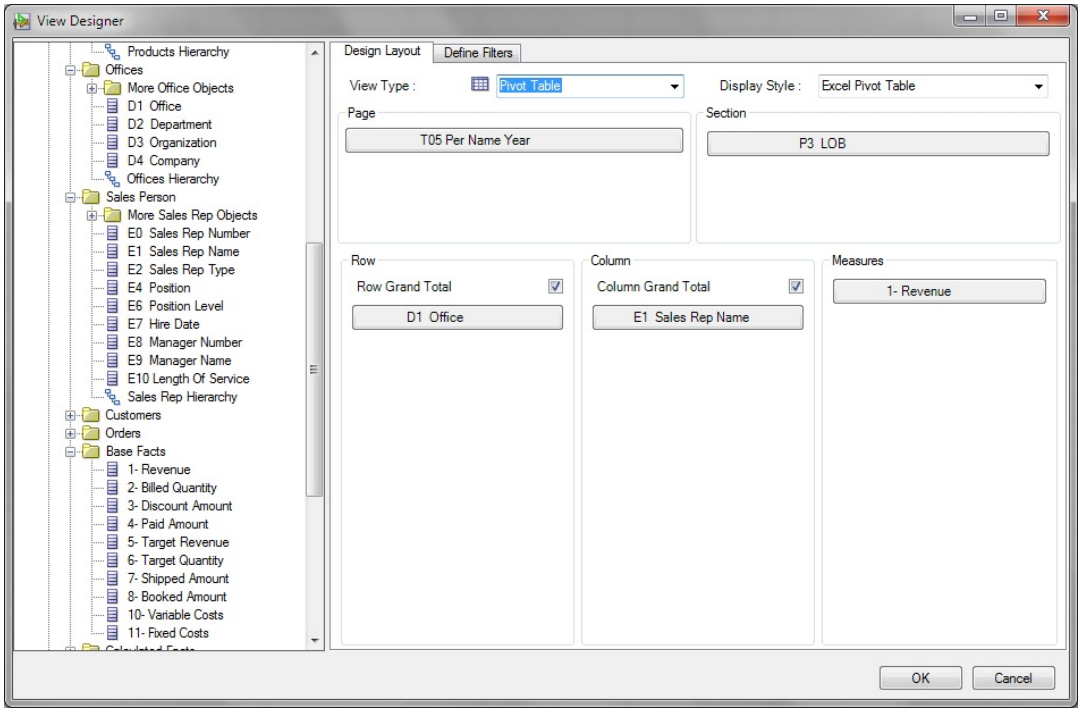
       

       Oracle BI EE のリボンを有効にするには、カタログ・ツリーのビューに接続している必要があります。
   - ビューを編集するには (ビューが作成済でビュー・デザイナから挿入済である必要があります):
     - カタログ・ツリーから、ビュー・デザイナで作成され Oracle Smart View for Office から Oracle BI プレゼンテーション・カタログに保存された、編集対象のビューを選択し、Smart View パネルの下部にある**「ビュー・デザイナでのビューのロード」**リンクを選択します。
     - 現在のまたは保存済の Office ドキュメントのワークシートで既存のビューを選択し、「ビュー・デザイナ」アイコン(図 1 を参照)をクリックします。
     - Excel ピボット・テーブルを編集するには、Excel ピボット・テーブルの内外を問わず、現在のまたは保存済のワークシート内の任意の場所をクリックし、「ビュー・デザイナ」アイコン(図 1 を参照)をクリックします。

       > **ノート:**
       >
       > Smart View のビュー・デザイナから作成および挿入されたビューのみ編集できます。Oracle Business Intelligence Enterprise Edition で作成したビューを編集するには、Oracle BI EE を使用する必要があります。

ビュー・デザイナの**「レイアウトの設計」**タブが表示されます。図 2 に、「ページ」、「セクション」、「行」、「列」および「メジャー」エッジが選択された、ビュー・デザイナの「レイアウトの設計」タブを示します。

図 30-19 ピボット・テーブル・レイアウト用の「ビュー・デザイナ」の「レイアウトの設計」タブ



2. ビュー・タイプおよび表示スタイルの定義の手順に従って、ビュー設計プロセスを続行します。

ビュー・タイプおよび表示スタイルの定義

ビューを作成する際は、ビュー・タイプおよび表示スタイルを定義します。これは、ビューの作成プロセス中に一度のみ行います。ビューが作成されると、これら 2 つの設定を編集できなくなります。

ビュー・タイプおよび表示スタイルを定義するには:

1. まだ実行していない場合、ビュー・デザイナを起動します(ビュー・デザイナの起動を参照)。
2. **「ビュー・タイプ」**で、作成するビューのタイプを選択します:
   - 表
   - ピボット・テーブル(デフォルト)
   - 折れ線グラフ
   - 棒グラフ
   - 縦棒グラフ
   - 面グラフ
   - 円グラフ
   - 散布図
   - 積重ね縦棒グラフ

この選択は、**「表示スタイル」**で使用可能なオプションとレイアウト領域のフィールドに影響します。

> **ノート:**
>
> Oracle Smart View for Office または Oracle Business Intelligence Enterprise Edition でビューを編集している場合は、この選択を変更できません。

3. **「表示スタイル」**で、表 1 から**「ビュー・タイプ」**および**「表示スタイル」**オプションを選択します。

   表示スタイルによって、Excel にビューを挿入する方法が決まります。

> **ノート:**
>
> Smart View または Oracle BI EE でビューを編集している場合は、この選択を変更できません。

表 30-1 選択したビュー・タイプと使用可能な表示スタイル

選択したビュー・タイプ	使用可能な表示スタイル
表	Excel テーブル 表
ピボット・テーブル(デフォルト) ***	Excel ピボット・テーブル(デフォルト) ピボット・テーブル
折れ線グラフ 棒グラフ 縦棒グラフ 面チャート 円グラフ 散布図 積上げ縦棒グラフ	Excel チャート チャート・イメージ

***メジャーおよびページ・セクション・エッジがどちらも数値の場合、「ピボット・テーブル」ビューを作成できません。

4. ビュー・レイアウトの定義の手順に従って、ビュー設計プロセスを続行します。

ビュー・レイアウトの定義

ビューの作成プロセス中に、ビュー・レイアウトを定義します。ビュー・デザイナで作成されたビューのビュー・レイアウトを編集することも可能です。

ビュー・レイアウトを定義または編集するには:

1. まだ実行していない場合、ビュー・デザイナを起動します(ビュー・デザイナの起動を参照)。

2. 新しいビューを作成する場合、ビュー・タイプおよび表示スタイルの定義のステップを実行します。

   ビューを編集する場合、ステップ 3 に進みます。

3. ビュー・デザイナの左側のペインで、サブジェクト・エリアとフォルダを展開し、使用する列を表示します。

4. 展開したサブジェクト・エリア・ツリーから列をドラッグし、レイアウト領域にドロップします。

   レイアウト領域のエッジは、表 1 に示されているように**「ビュー・タイプ」**で行った選択によって異なります。

表 30-2 選択したビュー・タイプと「ビュー・デザイナ」のレイアウト領域で使用可能なエッジ

ビュー・タイプの選択	レイアウト領域のエッジ
表	**ページ**、**セクション**、**行**、**列**、**メジャー** **オプション:** **「行」**エッジで、**「行の総計」**チェック・ボックスを選択します。
ピボット・テーブル(デフォルト)	**ページ**、**セクション**、**行**、**列**、**メジャー** **オプション:** **「行」**エッジで、**「行の総計」**チェック・ボックスを選択します。 **オプション:** **「列」**エッジで、**「列の総計」**チェック・ボックスを選択します。
折れ線グラフ	**ページ**、**セクション**、**グループ化(X)**、**折れ線(X)**、**データ: 折れ線(Y)**
棒グラフ	**ページ**、**セクション**、**グループ化(X)**、**棒(X)**、**データ: 棒(Y)**
縦棒グラフ	**ページ**、**セクション**、**グループ化(X)**、**縦棒(X)**、**データ: 縦棒(Y)**
面チャート	**ページ**、**セクション**、**グループ化(X)**、**面(X)**、**データ: 面(Y)**
円グラフ	**ページ**、**セクション**、**円**、**スライス**、**スライス・サイズ**
散布図	**ページ**、**セクション**、**グループ化(X)**、**色による変化**、**データ**
積上げ縦棒グラフ	**ページ**、**セクション**、**グループ化(X)**、**棒(X)**、**データ: 棒(Y)**

5. **オプション:** 「ビュー・デザイナ」のエッジにドラッグした列で、該当する場合は次のタスクを実行します:

   - エッジ間で列を移動するには、あるエッジから列をドラッグして別のエッジにドロップします。たとえば、**「行」**エッジから列をドラッグして、**「列」**エッジにドロップします。
   - エッジ内で列を再配置するには、列名をクリックして、**上**矢印または**下**矢印を選択します。
   - エッジの列または行に小計を追加するには、列を右クリックして**「小計」**を選択します。

> **ノート:**
>
> **「小計」**オプションをドロップダウン・メニューで選択できても、エッジの最後の列に適用される場合、このオプションは無視されます。

- 列を追加してこのビューの条件をフィルタ処理するには、列をクリックして**「フィルタに追加」**を選択します。

  選択した列が**「フィルタの定義」**タブの**「フィルタ式」**領域に追加され、さらに詳細を定義できます。詳細は、「ビュー・デザイナ」でのビューに対するフィルタ式の定義を参照してください。
- エッジから列を除去するには、列をクリックして**「除去」**を選択します。

6. **オプション:** 表またはピボット・テーブル・ビューを使用する場合は、表示スタイルに関係なく、次のようにします:
   - **ピボット・テーブル・ビュー: 「行」**および**「列」**エッジで、必要に応じて**「行の総計」**および**「列の総計」**チェック・ボックスを選択またはクリアします。
   - **表ビュー: 「行」**エッジで、**「行の総計」**チェック・ボックスを選択またはクリアします。
7. **オプション:** ピボット・テーブル表示スタイルを持つピボット・テーブル・ビューを使用する場合、**「メジャー・ラベル」**要素を使用して次のアクションを実行できます:
   - **「列」**エッジ内で**「メジャー・ラベル」**要素を並べ替えます。
   - **「メジャー・ラベル**を、**「メジャー」**エッジを*除く*他のエッジに移動します。

   「メジャー・ラベル」要素に関するノート:
   - 「メジャー・ラベル」要素は、メジャー・エッジ内のすべてのメジャー列のラベルを表します。ビュー・デザイナでは、「メジャー・ラベル」要素はデフォルトで**「列」**エッジに表示されます。
   - メジャー・ラベルが使用できるのは、**「ビュー・タイプ」**と**「表示タイプ」**の両方が**「ピボット・テーブル」**である場合のみです。
   - 「メジャー・ラベル」要素の別のエッジへの移動または「列」エッジ内での並替えを試行します。結果として、ピボット・テーブル・レイアウトが読み取りやすくなる場合があります。
   - メジャー・ラベルはビュー・デザイナから削除できません。
   - メジャー・ラベルはメジャー・エッジに配置できません。
8. フィルタを定義するには、**「フィルタ」**タブをクリックして、「ビュー・デザイナ」でのビューに対するフィルタ式の定義に進みます。

   フィルタを定義する予定がない場合は、**「OK」**をクリックします:
   - 新しいビューを作成する場合、そのビューは Excel に挿入されます。
   - ビューを編集する場合は、古いビューが削除され、更新されたビューが挿入されます。

「ビュー・デザイナ」でのビューに対するフィルタ式の定義

ビュー・レイアウトの定義でフィルタ処理するために追加された列は、ビュー・デザイナの「フィルタの定義」タブの「フィルタ式」領域に自動的に追加されます。

新規ビューを作成している場合でも、既存のビューを編集している場合でも、フィルタ列を追加し、すべての列のフィルタをさらに定義および絞込みできます。

ビュー・デザイナで作成したビューにフィルタ式を定義または編集するには:

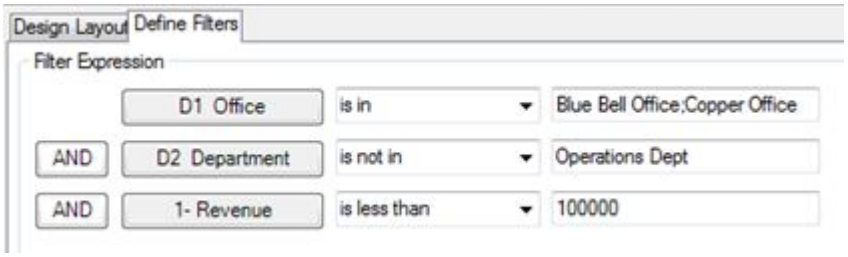
1. **「フィルタの定義」**タブを選択するビュー・レイアウトの定義のステップを実行します。

   フィルタ処理するために追加された列は、**「フィルタの定義」**タブに表示されます。
2. **オプション: 「フィルタの定義」**タブの**「フィルタ式」**領域に列を追加します。
3. **「フィルタ式」**で列を選択します。
4. 列名の横にあるドロップダウン・リストから、対応するフィルタ演算子を選択します。

   選択できる演算子のリストは、選択した列のタイプに基づいて移入されます。

   演算子を選択するガイドラインは、フィルタ演算子で説明します。
5. [...]をクリックし、「値セレクタ」で選択して、最終列のフィルタ値を指定します。

   たとえば、Sample Sales データベースに基づく一連のフィルタは次のようになります:

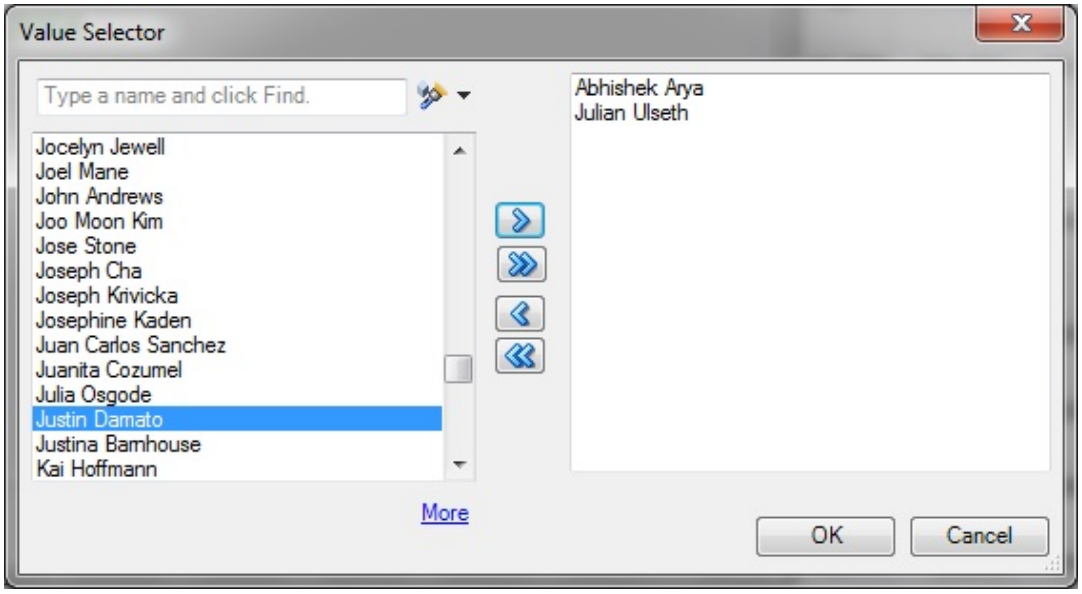


定義したフィルタは**「フィルタ要約」**ペインに要約されます。たとえば、このステップで定義されたフィルタでは、要約は次のようになります:



場合によっては、選択元のデータが非常に長いことがあります。値セレクタでの大量のデータのロードに対応するために、Oracle Smart View for Office では、値がグループ単位で表示されます。最初に表示されるページをスクロールして選択を行い、**「詳細」**をクリックすると、次のグループが表示され、そこから選択を行います。データ・リスト全体が表示され、そこから選択を行うまで、**「詳細」**をクリックし続けます。図 1 に例を示します。

図 30-20 大量のデータ用に「詳細」が表示されている「値セレクタ」

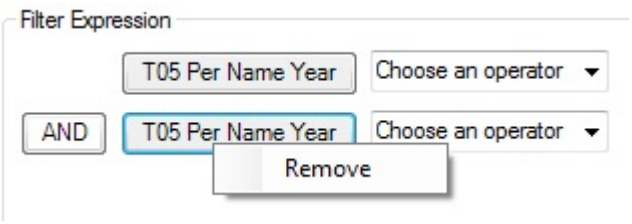


6. **オプション:** 必要に応じて、**「フィルタ式」**の論理演算子ボタンをクリックし、演算子を選択して変更します:
   - **AND**
   - **OR**

   デフォルトの論理演算子は**「AND」**です。

   フィルタ式の 1 つの行の論理演算子を変更すると、式のすべての行の論理演算子が自動的に変更されて、すべての行の演算子が同じになります。
7. **オプション:** フィルタ式から行を削除するには、行の列ボタンを右クリックして、図 2 に示すように**「削除」**を選択します。

図 30-21 フィルタ式の列を右クリックしたときに表示される除去オプション



8. フィルタの定義が終了したら、**「OK」**をクリックして Excel にビューを挿入します。

フィルタ演算子

演算子を選択して、必要な値を指定する際には、表 1 に示すガイドラインを使用します。選択できる演算子のリストは、実行している機能(フィルタの作成、またはダッシュボード・プロンプトの作成など)および選択した列のタイプに基づいて移入されます。

表 30-3 列フィルタ作成時の演算子の選択のガイドライン

演算子	使用ガイドライン
次と等しい/次にある	テキスト、数値または日付が含まれる列に対して有効です。1 つの値または複数の値を指定します。結果には、列のデータがフィルタの値と一致するレコードのみが含まれます。
次と等しくない/次にない	テキスト、数値または日付が含まれる列に対して有効です。1 つの値または複数の値を指定します。結果には、列のデータがフィルタの値と一致しないレコードのみが含まれます。
次より小さい	数値または日付が含まれる列に対して有効です。1 つの値を指定します。結果には、列のデータがフィルタの値より小さいレコードのみが含まれます。
次より大きい	数値または日付が含まれる列に対して有効です。1 つの値を指定します。結果には、列のデータがフィルタの値より大きいレコードのみが含まれます。
次以下	数値または日付が含まれる列に対して有効です。1 つの値または複数の値を指定します。結果には、列のデータがフィルタの値以下のレコードのみが含まれます。
次以上	数値または日付が含まれる列に対して有効です。1 つの値または複数の値を指定します。結果には、列のデータがフィルタの値以上のレコードのみが含まれます。
次の範囲内	数値または日付が含まれる列に対して有効です。2 つの値を指定します。結果には、列のデータがフィルタの 2 つの値の間にあるレコードのみが含まれます。
NULL である	テキスト、数値または日付が含まれる列に対して有効です。値を指定しません。この演算子では、列にデータがないことのみがテストされます。結果には、列にデータがないレコードのみが含まれます。 データが存在するかどうかがわかれば便利な場合がありますが、null 演算子を使用すればそのような条件をテストできます。たとえば、会社に世界規模の住所録があり、米国の住所のみを抽出する必要があるとします。「State」フィールドにデータがあるかどうかを確認すれば、この作業を行うことができます。このフィールドには、米国以外の住所の場合は値が移入されず(null であり)、米国の住所の場合は値が移入されます(null ではありません)。列で特定の値をチェックしなくても、米国の住所リストを取得できます。
NULL でない	テキスト、数値または日付が含まれる列に対して有効です。値を指定しません。この演算子では、列にデータがあることのみがテストされます。結果には、列にデータがあるレコードのみが含まれます。

表 30-3 (続き) 列フィルタ作成時の演算子の選択のガイドライン

演算子	使用ガイドライン
最上位である	テキストまたは日付が含まれる列に対して有効です。1 つの値を指定します。結果には、最初の n 件のレコードのみが含まれます(n はフィルタの値として指定した整数です)。 この演算子は、ランク付けされた結果に対して使用します。たとえば、この演算子を使用すると、アルファベット順で最初の 10 件のブランド名を含むリストを取得できます。
最下位である	テキストまたは日付が含まれる列に対して有効です。1 つの値を指定します。結果には、最後の n 件のレコードのみが含まれます(n はフィルタの値として指定した整数です)。 この演算子は、ランク付けされた結果に対して使用します。たとえば、この演算子を使用すると、最後の 10 件の販売取引の日付リストを取得できます。
最上位にあり	数値が含まれる列に対して有効です。1 つの値を指定します。結果には、最初の n 件のレコードのみが含まれます(n はフィルタの値として指定した整数です)。 この演算子は、ランク付けされた結果に対して使用します。たとえば、この演算子を使用すると、金額で販売上位 10 位のリストを取得できます。
最下位にあり	数値が含まれる列に対して有効です。1 つの値を指定します。結果には、最後の n 件のレコードのみが含まれます(n はフィルタの値として指定した整数です)。 この演算子は、ランク付けされた結果に対して使用します。たとえば、この演算子を使用すると、問題の報告が最も少ない顧客のリストを取得できます。
すべて含む	テキスト、数値または日付が含まれる列に対して有効です。1 つの値または複数の値を指定します。結果には、列のデータがフィルタのすべての値を含むレコードのみが含まれます。
含まない	テキスト、数値または日付が含まれる列に対して有効です。1 つの値または複数の値を指定します。結果には、列のデータがフィルタの値をまったく含まないレコードのみが含まれます。
いずれかを含む	テキスト、数値または日付が含まれる列に対して有効です。1 つの値または複数の値を指定します。結果には、列のデータがフィルタの値を少なくとも 1 つ含むレコードのみが含まれます。
次で始まる	テキスト、数値または日付が含まれる列に対して有効です。1 つの値を指定します。結果には、列のデータがフィルタの値で始まるレコードのみが含まれます。
次で終わる	テキスト、数値または日付が含まれる列に対して有効です。1 つの値を指定します。結果には、列のデータがフィルタの値で終わるレコードのみが含まれます。

表 30-3 (続き) 列フィルタ作成時の演算子の選択のガイドライン

演算子	使用ガイドライン
次と類似する(パターン照合)	テキストが含まれる列に対して有効です。1 つの値または複数の値を指定します。パーセント記号(%)をワイルドカード文字として使用する必要があります。最大で 2 つのパーセント記号を値に指定できます。結果には、列のデータがフィルタのパターン値と一致するレコードのみが含まれます。
次と類似しない(パターン照合)	テキストが含まれる列に対して有効です。1 つの値または複数の値を指定します。パーセント記号(%)をワイルドカード文字として使用する必要があります。最大で 2 つのパーセント記号を値に指定できます。結果には、列のデータがフィルタのパターン値と一致しないレコードのみが含まれます。

ビューの発行

ビュー・デザイナで作成するアド・ホック・ビュー定義を Oracle Smart View for Office に挿入した後に Oracle Business Intelligence Enterprise Edition の Oracle BI プレゼンテーション・カタログに発行できます。アド・ホック・ビューを発行すると、複合ビューおよびタイトル・ビューのデフォルト・ビューと該当するユーザー作成ビューで、Oracle BI EE に新しい分析が作成されます。

編集していたビューを発行する際には、Oracle BI プレゼンテーション・カタログ内のビューを上書きすることも、ビューの新しい名前を指定して編集したバージョンを発行し、2 つのバージョンのビューを Oracle BI EE に保持することもできます。

Oracle BI プレゼンテーション・カタログにビューを発行するには:

1. ビュー・デザイナで作成または編集したビュー内にカーソルを置きます。
2. Oracle BI EE のリボンで、**「ビューの発行」**アイコン(図 1)をクリックします。

図 30-22 「ビューの発行」アイコン



3. **「レポートの保存」**で、**「カタログのルート」**の隣の  をクリックし、Oracle BI プレゼンテーション・カタログ内でビューを保存する場所に移動します。
4. **「分析名」**に名前を入力します。

   編集したビューを発行する際は、同じ名前を指定して、編集したビューを上書きすることも、新しい名前を指定して、そのビューのオリジナル・バージョンをそのまま保持することもできます。
5. **「保存」**をクリックします。

   保存されるビューのコンポーネントには、Table 1、Pivot Table 1、Chart 1 などのデフォルトの命名ルールが適用されます。

例 30-1 ノート

- Smart View で作成および編集されたビューを発行する場合は、上書きする必要があります。
- Oracle BI プレゼンテーション・カタログで既存のビューを上書きする際、そのビューが Oracle BI EE で作成されたものである場合には、エラー・メッセージが表示されます。
- Oracle BI EE で行った変更を表示するには、ビューを再挿入する必要があります。
- 発行された後では、次のようにビューに変更を加えることができます。
  - ビューが Oracle BI EE で作成された場合は、Oracle BI EE を使用します。
  - Smart View で作成されたビューの場合は、Smart View で編集することも、Oracle BI EE で編集することも可能です。
- ビュー・デザイナで作成されたビューのデータをリフレッシュできます。

  「ビュー・デザイナ」で作成したアド・ホック・ビューはスナップショットとして残り、カタログに発行された分析との同期は維持されません。
- Oracle BI EE でビューに加えた変更は、Excel で表示するアド・ホック・ビューには反映されません。Oracle BI EE で加えた変更を表示するには、カタログ・ツリーから Smart View の新しいシートにビューを再挿入する必要があります。

「ビュー・デザイナ」で作成したビューの編集

次も参照:

- 「ビュー・デザイナ」で作成したビューの編集について
- 「ビュー・デザイナ」で作成したビューの編集のガイドライン
- 編集するビューへのアクセス
- ビューが作成された場所の特定
- 「ビュー・デザイナ」で作成したビューの編集

「ビュー・デザイナ」で作成したビューの編集について

ビュー・デザイナで作成または編集されたビューを編集するには、Oracle Smart View for Office のビュー・デザイナを使用します。

次の場合は、Smart View のビュー・デザイナを使用しないでください:

- Oracle Business Intelligence Enterprise Edition で作成したビューを編集する場合
- Smart View で作成し、Oracle BI EE で編集したビューを編集する場合

ビューの編集のプロセス・フローには、次のタスクが含まれます:

- 「ビュー・デザイナ」で作成したビューの編集のガイドラインの情報のレビュー
- 編集するビューへのアクセス
- ビューが作成された場所の特定
- 「ビュー・デザイナ」で作成したビューの編集

「ビュー・デザイナ」で作成したビューの編集のガイドライン

- ビュー・デザイナを使用して編集できるのは、Oracle Smart View for Office のビュー・デザイナから作成および挿入されたビューのみです。
- Smart View で作成されたビューは、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition でも編集できます。ただし、Smart View で作成し、Oracle BI EE で編集したビューは、ビュー・デザイナで編集できなくなります。

> **ノート:**
>
> Oracle BI EE で作成されたビューを編集するには Oracle BI EE アプリケーションを使用します(Oracle BI EE の分析の編集を参照してください)。

- ビュー・デザイナを使用して表ビューまたはピボット・テーブル・ビューを編集すると、Smart View によって置換操作が実行され、シートのビューが新たに編集されたビューで実際に置き換えられます。つまり、シート上の表が削除され、新しい表が挿入されます。新しい表の行または列が前の表よりも多い場合、ビュー・デザイナでビューを編集する前にシートに追加していたコンテンツまたは式が削除される可能性があり、それらを再び追加する必要があります。

編集するビューへのアクセス

> **ノート:**
>
> 次の手順は「ビュー・デザイナ」で作成したビューに適用されます。

編集するビューにアクセスするには:

1. 次のいずれかの方法でビューにアクセスします:
   - **設計セッション中** - たとえば、ビュー・デザイナでビューを作成し、「OK」をクリックしてビューを挿入した後、Office ドキュメント内のビューを選択し、ビュー・デザイナ・アイコンをクリックして、編集するためのビュー・デザイナを再起動します。
   - **保存済の Office ドキュメントのビューから** - Office ドキュメント内のビューを選択しビュー・デザイナ・アイコンをクリックして、編集するためのビュー・デザイナを再起動します。
   - **プレゼンテーション・カタログ内の発行済ビューから** - **「ビュー・デザイナでのビューのロード」**コマンドを使用して、カタログ・ツリーから Oracle Smart View for Office のビュー・デザイナにビューをロードします。ビューを選択する際は、**「ビュー・デザイナでのビューのロード」**コマンドを、「アクション」パネルまたは右クリック・メニューから使用できます。

     編集するビューをカタログ・ツリーから選択するには、Office ドキュメントに最初に*挿入しない*でください。編集する際は、**「ビュー・デザイナでのビューのロード」**コマンドを必ず使用してください。
2. ビューが作成された場所の特定で説明しているプロセスに進み、ビュー・デザイナでビューを編集するかどうかを決定します。

> **ノート:**
>
> Oracle Business Intelligence Enterprise Edition で作成されたビューを編集するために、Smart View のビュー・デザイナを使用しないでください。Oracle BI EE でビューを作成するために使用されたフォーマットおよび設計機能をビュー・デザイナがサポートしていない場合、ビューをロードできません。このため、ビュー・デザイナは、Smart View のビュー・デザイナを使用して作成および挿入されたビューのみを編集するために使用してください。

ビューが作成された場所の特定

Smart View でビューを編集する場合、Oracle Smart View for Office のビュー・デザイナでビューが作成されたかどうかを把握する必要があります。

シート上のビューが Smart View と Oracle Business Intelligence Enterprise Edition のいずれで作成されたか不明な場合、「ドキュメント・コンテンツ」ペインでビューの作成元を確認できます。

ビューの作成元を特定するには:

1. ビューを含む Office ドキュメントを開きます。
2. 「ドキュメント・コンテンツ」ペイン内でビューを見つけ、ビュー名を右クリックして**「プロパティ」**を選択します。
3. **「ソースの表示」**フィールドの値が **AdHocDesigner** であることを確認してください。

   可能な値は次のとおりです:

   - **AdHocDesigner** - ビューの作成元は Smart View のビュー・デザイナです
   - **Catalog** - ビューの作成元は Oracle BI プレゼンテーション・カタログです
   - **CopyFromAnswers** - ビューが Oracle BI EE からコピーされ、Smart View Office ドキュメントに貼り付けられます

   AdHocDesigner とマークされるビューは、ビュー・デザイナで編集する必要のあるビューのみです。

   場合によっては、Oracle BI EE で作成されたビューが、Smart View のビュー・デザイナにロードされる場合があることに注意してください。ビュー・デザイナで Oracle BI EE からのビューを操作する場合、自己責任で行ってください。ビュー・デザイナでのこれらのビューの編集はサポートされていません。サポートされているのは、Smart View のビュー・デザイナを使用して作成および編集されたビューの編集に対するビュー・デザイナの使用のみです。
4. **「ソースの表示」**プロパティが **「AdHocDesigner」**の場合、ビューをビュー・デザイナで編集できます。

   「ソースの表示」が **Catalog** または **CopyFromAnswers** の場合、Oracle BI EE でビューを編集します。

「ビュー・デザイナ」で作成したビューの編集

> **ノート:**
>
> このトピックは、Oracle Smart View for Office のビュー・デザイナから作成したビューの編集に関するものです。Oracle Business Intelligence Enterprise Edition で作成されたビューを使用する場合、Oracle BI EE で作成されたビューの編集を参照してください。

Smart View のビュー・デザイナで作成されたビューを操作する場合は、次のいずれかの方法でビューを編集できます:

- ビュー・デザイナの起動または「ビュー・デザイナ」で作成したビューの編集についての説明に従って、編集するビューを Smart View のビュー・デザイナにロードします。

  ビューのレイアウトの編集(列の追加や削除など)、またはフィルタの変更を実行できます。Smart View でのビューの編集の詳細は、次のトピックを参照してください:

  – ビュー・レイアウトの定義
  – 「ビュー・デザイナ」でのビューに対するフィルタ式の定義
- Oracle BI EE で分析を開きます。詳細は、Oracle BI EE のドキュメントを参照してください。次に、更新されたビューを Smart View に挿入します。

> **ノート:**
>
> ビューがビュー・デザイナで作成されてから Oracle BI EE で編集された場合、その後は Oracle BI EE のみで編集することをお勧めします。ビューの編集に Smart View を使用しないでください。ガイドラインは、編集が可能および不可能な対象を参照してください。

「ビュー・デザイナ」で作成したビューのデータのリフレッシュ

ビュー・デザイナで作成したビューは、カタログ・ツリーから Office アプリケーションに挿入したビューをリフレッシュするのと同じ方法でリフレッシュできます。

詳細は、ビューのリフレッシュ・プリファレンスの指定およびビューのリフレッシュを参照してください。

Oracle BI EE サーバーへの接続のトラブルシューティング

Oracle Business Intelligence Enterprise Edition サーバーへの接続をトラブルシューティングできます

トラブルシューティングする際、次の動作に注意してください。

- Oracle BI EE サーバーがダウンしているときに Oracle Smart View for Office から Oracle BI EE に接続しようとすると、エラー・メッセージが表示されます。ただし、エラー・メッセージで**「OK」**をクリックした後、**「データ・ソースに接続」**ダイアログ・ボックスが間違って表示されます。**「取消」**をクリックして、ダイアログ・ボックスを閉じます。
- 接続タイムアウトが発生した後でビューを挿入しようとすると、**「データ・ソースに接続」**ダイアログ・ボックスが表示されます。**「取消」**をクリックすると、ダイアログ・ボックスが再起動されます。**「取消」**をクリックするとエラー・メッセージが表示されます。
- セッションがタイムアウトした後、ビュー・デザイナで**「OK」**をクリックすると、オブジェクト参照エラーが返されます。

31

Smart View と Oracle Analytics Cloud

次も参照:

- Oracle Analytics Cloud および Smart View について
  Oracle Smart View for Office を使用すると、ユーザーは Oracle Analytics Cloud に接続し、Oracle Analytics Cloud のダッシュボードと分析で作成されたコンテンツを利用できます。
- Smart View の Oracle Analytics Cloud の機能およびコンポーネント
  Oracle Smart View for Office の Oracle Analytics Cloud データ・ソースに接続する場合、いくつかのアクションを実行できます。
- Oracle Analytics Cloud 拡張機能のインストール
  Oracle Analytics Cloud 拡張機能のインストール方法は、エンド・ユーザーであるか管理者であるかによって異なります。
- Oracle Analytics Cloud の Windows システム・ロケールの操作
  各 Oracle Smart View for Office クライアント・マシンでは、あらゆるデータ(数値、日付、通貨、パーセンテージ)を正しく解釈するために、Windows システム・ロケールは Smart View のロケールと一致する必要があります。
- 複数の Oracle Analytics Cloud データ・ソースへの接続
  プライベート接続を使用して Oracle Analytics Cloud データ・ソースに接続します。
- Oracle BI プレゼンテーション・カタログ
  Oracle BI プレゼンテーション・カタログは、カタログまたはカタログ・ツリーとも呼ばれ、Smart View パネルに表示されます。
- Oracle Analytics Cloud の分析、ビューおよびダッシュボードの操作
  Oracle Analytics Cloud では、分析は個々のビューで構成されており、ダッシュボードは分析と個々のビューで構成されています。
- 「ビュー・デザイナ」を使用したビューの操作
  Oracle Smart View for Office のビュー・デザイナを使用して、Oracle Analytics Cloud サブジェクト・エリアに基づいてアド・ホック・ビューを作成できます。

Oracle Analytics Cloud および Smart View について

Oracle Smart View for Office を使用すると、ユーザーは Oracle Analytics Cloud に接続し、Oracle Analytics Cloud のダッシュボードと分析で作成されたコンテンツを利用できます。

Smart View ユーザーは、このコンテンツの操作に加えて、Oracle Analytics Cloud をデータ・ソースとして使用して、ビュー・デザイナによって単純なビューの形式のコンテンツを作成できます。作成したビューは、Oracle BI プレゼンテーション・カタログに発行して、さらに編集できます。

Smart View は、すべての Oracle Analytics Cloud コンテンツ・プロバイダ間でまとまりのある一貫したユーザー・エクスペリエンスを、Oracle Analytics Cloud ユーザーに提供します。

> **ノート:**
>
> Smart View で Oracle Analytics Cloud 関連の機能を使用するには、Oracle Analytics Cloud 17.3.2 以上が必要です。

Smart View の Oracle Analytics Cloud の機能およびコンポーネント

Oracle Smart View for Office の Oracle Analytics Cloud データ・ソースに接続する場合、いくつかのアクションを実行できます。

- Oracle Analytics Cloud への接続
- Oracle BI プレゼンテーション・カタログのナビゲート
- Oracle Analytics Cloud の複数インスタンスへの接続および接続間での切替え
- Oracle BI プレゼンテーション・カタログから Microsoft Excel、PowerPoint および Word への作成済ビューのインポート。たとえば、次のようなことができます。
  - ビュー(Oracle Analytics Cloud の表、ピボット・テーブルおよびグラフ)をリフレッシュおよび編集可能なオブジェクトとして Excel に挿入します
  - 同じ Office ドキュメントに異なる接続からビューを挿入します
  - Excel のフォーマットを Oracle Analytics Cloud データに適用します。フォーマットはリフレッシュしても保持されます
- Oracle Analytics Cloud ダッシュボードのコンテンツをコピーして、Smart View クライアント・ドキュメントに貼り付けます。データ、メタデータ、およびビューのレイアウトがコピーされます
- Oracle Analytics Cloud をメタデータおよびデータのソースとして使用して、Excel に簡単なビューを作成します
- Smart View ドキュメントにインポートされたコンテンツに対して、ドリルやプロンプト選択などの操作を行います。
- Smart View のインポートされたコンテンツ(複数の接続からのコンテンツを含む)を管理します; たとえば、コンテンツのリフレッシュ、マスク、コピーと貼付け、および記録を行います
- Excel の Oracle Analytics Cloud オブジェクトからデータをマスクして、ユーザーがログインしなければデータを表示できないようにします。マスクされたオブジェクトは、リフレッシュ時に表示できます。
- Visual Basic を使用したプログラム。詳細は、*Smart View for Office 用のアプリケーションの開発*を参照してください。

主なコンポーネントは次のとおりです:

- リボン - Oracle Analytics Cloud のリボンには、Smart View でのビューの設計と発行、Oracle Analytics Cloud からのビューの挿入とコピーおよび貼付け、プロンプトの編集、マスキング・データ、編集およびプリファレンスの設定のための Oracle Analytics Cloud コマンドがあります。

- カタログ - カタログとは、Excel に挿入できる Oracle Analytics Cloud のダッシュボード、分析およびビューの展開可能なツリー・リストです。各分析を展開すると、その分析で使用可能なすべてのビューが表示されます。Oracle Analytics Cloud でサポートおよび定義されていて、権限を持っているビューのみが表示されます。カタログをリフレッシュすると、使用可能な分析およびビューの最新リストを表示できます。

Oracle Analytics Cloud 拡張機能のインストール

Oracle Analytics Cloud 拡張機能のインストール方法は、エンド・ユーザーであるか管理者であるかによって異なります。

次も参照:

- Smart View エンド・ユーザーの場合
- Smart View 管理者の場合

Smart View エンド・ユーザーの場合

Oracle Analytics Cloud の拡張機能をインストールするには:

1. Smart View 管理者の指示に従って、Oracle Smart View for Office をインストールします。

   > **ノート:**
   >
   > 管理者が Smart View を自動インストールする場合があります。

2. Smart View がインストールされた後、Microsoft Excel、Word または PowerPoint を起動する*前*に、固有のユーザー名を使用してコンピュータにログインしていることを確認します。

   > **ノート:**
   >
   > Oracle Analytics Cloud の拡張機能を正しくインストールして使用するためには、管理者でも他人のユーザー名ではなく、ユーザー自身のユーザー名でログインしている必要があります。

3. Microsoft Excel、Word または PowerPoint を起動します。

   > **ノート:**
   >
   > Oracle BI EE 拡張機能をインストールするには、Excel、Word または PowerPoint を起動できます。Oracle BI EE 拡張機能のインストールは Outlook から起動しません。
   >
   > 詳細は、拡張機能のインストールを参照してください。

4. Oracle Analytics Cloud の拡張機能がインストールされていることを確認するには、Excel、Word または PowerPoint から、Smart View リボン、**「オプション」**、**「拡張機能」**の順に選択し、"Oracle BI EE"という名前の拡張機能がリストされていることを確認します。

   拡張機能がリストされない場合は、Smart View 管理者に連絡してください。

Smart View 管理者の場合

Oracle Smart View for Office のインストール後初めて Office アプリケーションを起動するときに、Oracle Analytics Cloud 拡張機能が自動的にインストールされます。対象とするエンド・ユーザーが、Office を起動する前に Windows にログインしていることを確認してください。

あるいは、Smart View の**「オプション」**ダイアログの**「拡張機能」**ページを使用して、Smart View のエンド・ユーザーが Oracle Analytics Cloud 拡張機能をインストールする方法を制御できます。自動または手動インストールの設定方法の詳細は、*Oracle Smart View for Office インストレーションおよび構成ガイド*の拡張機能のインストールおよび更新の管理に関する項を参照してください。

自動または手動インストールを設定することを選択した場合、最初にテスト環境で Smart View をインストールしてから、Smart View インストールの `extensions` フォルダにある `UpdateList.xml` ファイルを参照してください。*Oracle Smart View for Office インストレーションおよび構成ガイド*の手動更新の拡張機能の構成に関する項で説明されているように、このファイルのエントリを `UpdateList.xml` ファイルに追加する Oracle Analytics Cloud エントリのガイドラインとして使用します。

Oracle Analytics Cloud の Windows システム・ロケールの操作

各 Oracle Smart View for Office クライアント・マシンでは、あらゆるデータ(数値、日付、通貨、パーセンテージ)を正しく解釈するために、Windows システム・ロケールは Smart View のロケールと一致する必要があります。

適用可能な Windows システム・ロケールは次のとおりです:

- Smart View の言語オプション
- Microsoft Office の言語
- Windows の地域の設定
- Windows のオペレーティング・システム

Oracle Analytics Cloud データ・ソースを操作する際、Windows システム・ロケールが一致しない場合、データが正しく表示されないか、フォーマットが無視され、かわりにプレーン・データが表示される場合があります。

Windows システム・ロケールの不一致の例として、Windows のオペレーティング・システム、地域の設定および Office 言語が英語で Smart View がロシア語の場合などがあります。

ロケールの不一致が発生した場合、Smart View ログは次のような警告を示します: ロケールの不一致が検出されました。チャートでは未フォーマットのデータ値が使用されます。

複数の Oracle Analytics Cloud データ・ソースへの接続

プライベート接続を使用して Oracle Analytics Cloud データ・ソースに接続します。

プライベート接続の作成を参照してください。

*Oracle Smart View for Office インストレーションおよび構成ガイド*の XML ファイルからの共有接続へのアクセスで説明しているように、共有接続を使用して接続するには、共有接続情報がファイルに格納されている必要があります。

また、Oracle Smart View for Office では、1 つの Office ワークシート、スライドまたはドキュメントにおいて、複数の Oracle Analytics Cloud プライベート接続がサポートされています。

たとえば、あるワークシートに、異なる 2 つの Oracle BI Presentation Catalog から 2 つのグラフを挿入し、シートをリフレッシュできます。各グラフは、異なる 2 つのサーバーの最新データで更新されます。

複数の Oracle Analytics Cloud サーバーに接続している場合は、次のことが可能です。

- Smart View パネルで接続間の切替えを行い、それぞれのカタログを参照できます。
- 同じ Office ドキュメントに異なる接続からビューを挿入できます。
- ビュー・デザイナが Smart View のリボンから起動され、Oracle Analytics Cloud のビューが選択されていない場合、ビュー・デザイナは、最後に使用した Oracle Analytics Cloud サーバーに接続されます。
- Smart View のリボンから貼付けを起動して、Oracle Analytics Cloud のコンテンツを貼り付ける場合、その貼付けアクションでは、最後に使用された Oracle Analytics Cloud 接続が使用されます。
- 異なる接続のビューを含むドキュメントをリフレッシュすると、ビューは、挿入元のサーバーに対してリフレッシュされます。
- Excel ワークシートごとに使用できる Excel ピボット・テーブルは、1 つのみです。また、Excel ピボット・テーブル・ビューは、常に新しいワークシートに挿入されます。データ・ソース接続が 1 つの場合も複数の場合も、これが既定の動作です。

複数の Oracle Analytics Cloud プライベート接続に接続するには:

1. **「Smart View ホーム」**、または  の横にある矢印をクリックすると表示されるメニューで、**「プライベート接続」**をクリックします
2. **「プライベート接続」**パネルで、ドロップダウン・メニューから接続を選択し、**「データ・ソースに接続」**にデータ・ソースのユーザー名およびパスワードを入力します。

   Oracle Analytics Cloud カタログからビューを挿入したものと仮定します。ステップ 3 に進みます。
3. ワークシート、スライド、またはドキュメントの異なる部分にカーソルを移動します。
4. **「プライベート接続」**パネルで、ドロップダウン・メニューから別の接続を選択します。
5. **「データ・ソースに接続」**に、2 つ目のデータ・ソースのユーザー名およびパスワードを入力します。

   これで、新たに接続されたデータ・ソースから Office ドキュメントにビューを挿入できます
6. 他のデータ・ソースの接続には、ステップ 3 からステップ 5 までを繰り返します。

Oracle BI プレゼンテーション・カタログ

Oracle BI プレゼンテーション・カタログは、カタログまたはカタログ・ツリーとも呼ばれ、Smart View パネルに表示されます。

カタログ・ツリーには、「カタログのルート」というルート・ノードと、デフォルトで「マイ・フォルダ」および「共有フォルダ」という 2 つのフォルダが表示されます。

図 31-1 Oracle BI Presentation Catalog またはカタログ・ツリー



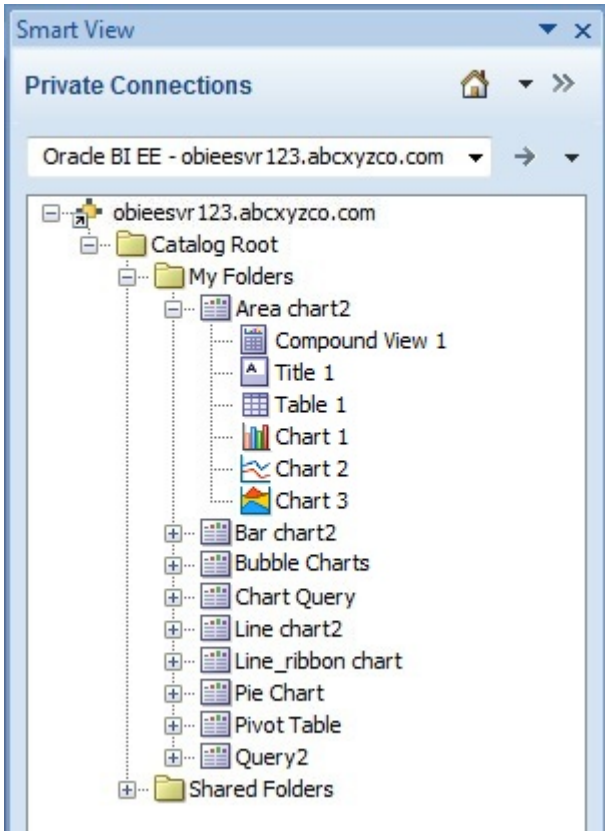
「マイ・フォルダ」に保存したアイテムは、フォルダを展開したときにのみ表示されます。他のユーザーが「マイ・フォルダ」に保存したアイテムは、それらのユーザーにのみ表示されます。

「共有フォルダ」に保存したアイテムは、BI コンシューマ権限でログオンしているすべてのユーザーが表示できます。BI コンシューマ権限を持っている場合、他のユーザーが「共有フォルダ」に保存したアイテムも表示できます。

アクセスできるフォルダのプロパティ (フォルダ作成者の名前や作成日など)を表示するには、カタログ・ツリーでフォルダを右クリックして**「フォルダ・プロパティの表示」**を選択します。

カタログ・ツリーのフォルダには、Oracle Analytics Cloud と Oracle Smart View for Office の両方の分析のリストと、作成されたサブフォルダが含まれます。分析ノード(たとえば、**My Folders** の下にある"Area chart2")を展開すると、格納されているビューのリストが表示されます(たとえば、"Compound View 1"および"Table 1")。

図 31-2 分析ノードのビューが表示されているカタログ・ツリー



分析作成者の名前、作成日および更新日などを含む分析のプロパティを表示するには、カタログ・ツリーで分析を右クリックして**「分析プロパティの表示」**を選択します。

Oracle Analytics Cloud のすべての分析の編集を選択できます。Smart View で作成された分析のビューの場合は、Smart View でそのビューを編集することも可能です。

Oracle Analytics Cloud で分析を編集するには、カタログ・ツリーで分析を右クリックして**「アンサーでの分析の編集」**を選択します。

このオプションを選択すると、デフォルト・ブラウザが起動され、Oracle Analytics Cloud で分析編集ウィザードが開きます。Oracle Analytics Cloud にまだログオンしていない場合は、資格証明を入力できるログイン・ダイアログ・ボックスが表示されます。Oracle Analytics Cloud で分析を編集するには BI コンシューマ権限が必要です。

Smart View でビューを編集するには、カタログ・ツリーでビューを右クリックし、ビュー・デザイナで**「ビュー・デザイナでのビューのロード」**を選択します。

この場合、ビューは Smart View で作成されたものであることが必要です。編集するためにビューにアクセスする他の方法は、ビュー・デザイナの起動を参照してください。

カタログ・ツリーから、表ビュー、ピボット・テーブル・ビュー、グラフ・ビュー、タイトル、および複合ビューを Smart View に挿入することもできます。Oracle Analytics Cloud の分析、ビューおよびダッシュボードの操作を参照してください。

Oracle Analytics Cloud の分析、ビューおよびダッシュボードの操作

Oracle Analytics Cloud では、分析は個々のビューで構成されており、ダッシュボードは分析と個々のビューで構成されています。

次も参照:

- サポートされている Oracle Analytics Cloud のビューおよびオブジェクトのタイプ
- 表とピボット・テーブルの挿入
- グラフの挿入
- 複合ビューの挿入
- ダッシュボードの挿入
- プロンプトの操作
- ページ・プロンプトの操作
- ビューのリフレッシュ・プリファレンスの指定
- ビューのリフレッシュ
- ビューのマスキング・データ
- Oracle Analytics Cloud オブジェクトのプロパティの表示
- Office アプリケーション間での Oracle Analytics Cloud オブジェクトのコピーと貼付け
- Oracle Analytics Cloud の分析の編集
- Oracle Analytics Cloud から Office へのビューのコピーおよび貼付け
- Oracle Analytics Cloud で作成されたビューの編集

サポートされている Oracle Analytics Cloud のビューおよびオブジェクトのタイプ

次のビューを Oracle Smart View for Office クライアント(Excel、PowerPoint、Word)にカタログから挿入するかコピーして貼り付けることができます。

> **ノート:**
>
> ドリル操作は、Smart View に挿入された Oracle Analytics Cloud ビューでサポートされていません。(ドリル操作は、Smart View でズーム・インおよびズーム・アウトと呼ばれます。)

- **表ビュー**

  表ビューでは、データが Oracle Analytics Cloud の表示に似たフォーマット(ネイティブ・フォーマットとも呼ばれる)か、Excel 表のどちらかの表フォーマットで表示されます。

「挿入」オプションを使用すると、すべての Smart View クライアントにネイティブ・フォーマットで表ビューを挿入できます。このフォーマットでは、ソートまたはフィルタ処理を実行できません。同じデータのセルは 1 つのセルにマージされます。

Excel では、**「Excel 表として挿入」**コマンドを使用して、Excel 表として表ビューを挿入できます。このフォーマットでは、ソート、フィルタ処理などの詳細な分析操作を実行できます。

ノート:

- Excel では、1 つのワークシートに複数の表を挿入できますが、既存の表の上に表を挿入することはできません。ただし、次を実行できます:
  - 表を置き換える場合は、表内の任意のセルを選択し、Oracle BI EE のリボンの「削除」ボタンをクリックします。その後、ワークシートに表を挿入します。
  - ワークシートに別の表を挿入する場合は、表ビュー以外の場所にあるセル、またはその他のビュー・オブジェクトを選択して、表を挿入します。
- Excel では表ビューの一部のカスタム・フォーマットを認識できず、Excel 表ビューは Excel で認識されないため、そのビューを Excel に挿入する際にエラーが発生します。

- **ピボット・テーブル・ビュー**

  ピボット・テーブル・ビューでは、Oracle Analytics Cloud で定義されたグループ化フォーマット(ネイティブ・フォーマットとも呼ばれる)でデータが表示されます。ページ・アイテム・リストおよびグループ分割などの機能が保持されます。Excel のピボット・テーブル・フォーマットでデータを表示することもできます。

  「挿入」オプションを使用すると、すべての Smart View クライアントにネイティブ・フォーマットでピボット・テーブル・ビューを挿入できます。表ビューの挿入の場合と同様に、このフォーマットでは、ソートまたはフィルタ処理を実行できません。また、同じデータのセルは 1 つのセルにマージされます。

  Excel では、**「Excel ピボットとして挿入」**オプションを使用して、Excel ピボット・テーブルとしてピボット・テーブル・ビューを挿入することもできます。このフォーマットでは、ピボット、集計、ドリル、ソート、フィルタ処理などの詳細な分析操作を実行できます。

  ノート:

  - Excel ピボット・テーブル・ビューを使用する場合、サポートされるのは、数値データ型のメジャー列を含むビューのみです。
  - Excel ワークシートごとに使用できる Excel ピボット・テーブルは、1 つのみです。また、Excel ピボット・テーブル・ビューは、常に新しいワークシートに挿入されます。データ・ソース接続が 1 つの場合も複数の場合も、これが既定の動作です。
  - Excel ではピボット・テーブル・ビューの一部のカスタム・フォーマットを認識できないため、そのビューを Excel に挿入する際にエラーが発生します。
  - Smart View には、Oracle Analytics Cloud の"グラフのピボット結果"機能はありません。特定のピボット・テーブルの同じ行、列およびページ・ディメンションのグラフを表示するには、Oracle Analytics Cloud で個別のチャートを作成してから、そのチャートを Smart View に挿入する必要があります。

- **グラフ・ビュー**

  グラフ・ビューでは、Oracle Analytics Cloud で定義されているグラフを Microsoft Office のチャートでサポートされているグラフ・タイプにマッピングしてデータが表示されます。

  「イメージとして挿入」オプションを使用すると、Smart View のクライアントに静的イメージとしてグラフを直接挿入できます。イメージを編集またはリフレッシュできません。

すべての Smart View クライアントで**「挿入」**オプションを使用すると、グラフを編集およびリフレッシュできます。Smart View は、視覚効果(2D、3D)、キャンバスのサイズ、チャート・タイトル、サブタイトル、軸タイトル、凡例、凡例の位置、軸スケール、データ・フォーマット(数値、日付、通貨フォーマット)、タイトルおよびラベル・フォーマットなどのグラフ・プロパティを含め、Oracle Analytics Cloud のグラフ・スタイルにできるだけ厳密に一致させようとします。

一致する Office のチャート・タイプが使用できない場合は、グラフ・ビューをイメージとして挿入できます。サポートされている Oracle Analytics Cloud のチャートおよびオブジェクトのタイプおよびサポートされていない Oracle Analytics Cloud のチャートおよびオブジェクトのタイプを参照してください。

- **ゲージ・ビュー**および**ファンネル・グラフ・ビュー**

  Oracle Analytics Cloud では、ゲージ・ビューとファンネル・グラフ・ビューはグラフ・ビューとは別のオブジェクト・タイプです。

  「イメージとして挿入」オプションを使用すると、Smart View のクライアントに静的イメージとしてゲージおよびファンネル・ビューを直接挿入できます。イメージは編集およびリフレッシュできません。

- **タイトル・ビュー**

  タイトル・ビューでは、レポートのタイトルが Oracle Analytics Cloud のタイトル・ビューの一部である他の情報とともに表示されます。

  タイトル・ビューには通常、タイトル・テキスト、サブタイトル・テキスト、分析名、挿入日時、オプションのロゴ、オプションの URL (ヘルプ・リンクなど)が含まれます。タイトル・ビューは、1 つの Office オブジェクトとしてグループ化されたテキスト・ボックスとイメージの集合として Smart View クライアントに挿入されます。

- **複合ビュー**

  複合ビューでは、様々なビューの組合せとしてデータが表示されます。

  複合ビューはすべての Smart View クライアントに挿入できます。Smart View では、複合ビューを構成するすべてのサポート対象ビューが挿入されます。ビューの各タイプ(表、ピボット・テーブル、グラフ、ゲージ、ファンネル、フィルタおよびタイトル)が、それぞれのデフォルト・フォーマットで Smart View クライアントに挿入されます。

  Word では、すべてのビューがそれぞれの横または下に挿入され、アクティブな Word 文書のページに挿入されます。

  Excel または PowerPoint では、1 つのシートまたはスライドにすべてのビューを挿入するか、別個のシートまたはスライドに各ビューを挿入するかを選択するためのプロンプトが表示されます。

表とピボット・テーブルの挿入

挿入できる行および列の最大数は、使用している Excel のバージョンによって異なります。ワークシートのサイズ制限の詳細は、Microsoft Excel のドキュメントを参照してください。

表またはピボット・テーブルを挿入するには:

1. 表またはピボット・テーブルを開始する Excel ワークシート、PowerPoint スライドまたは Word ページの場所にカーソルを合せます。
2. Smart View パネルのカタログ・ツリーで、表またはピボット・テーブルを右クリックします。
3. 次のいずれかを選択します:

- **挿入** - 選択された表ビューまたはピボット・テーブル・ビューが Oracle Analytics Cloud で定義されたフォーマットで挿入されます。図 1 および図 2 を参照してください

  Oracle Analytics Cloud で表またはピボット・テーブルに対してプロンプトが定義されている場合は、**「プロンプト・セレクタ」**ダイアログ・ボックスが表示され、表示するデータを選択できます(それ以外の場合は、表またはピボット・テーブルが直接挿入されます)。最初の挿入後、Oracle Analytics Cloud のリボンの**「プロンプトの編集」**アイコンをクリックして、プロンプトを編集できます。詳細は、プロンプトの操作を参照してください。

  表またはピボット・テーブルに対してページ・プロンプト(Oracle Analytics Cloud のビュー・プロンプト)が定義されている場合は、Oracle Analytics Cloud のリボンの**「ページ・プロンプトの編集」**をクリックして編集することもできます。次を参照してください。ページ・プロンプトの操作

図 31-3 Oracle Analytics Cloud のフォーマットで表として挿入される表ビュー

	A	B	C
1	D1 Office	Guadalupe Office	
2			
3	1- Revenue	2- Billed Quantity	T05 Per Name Year
4	1218703.43	126416	2008
5	1218703.43 Total	126416	2008 Total
6	1140273.25	124481	2009
7	1140273.25 Total	124481	2009 Total
8	1412013.01	153615	2010
9	1412013.01 Total	153615	2010 Total
10			
11			
12	D1 Office	Figueroa Office	
13			
14	1- Revenue	2- Billed Quantity	T05 Per Name Year
15	1335360.24	144293	2008
16	1335360.24 Total	144293	2008 Total
17	1142302.6	118765	2009
18	1142302.60 Total	118765	2009 Total
19	1613498.14	173192	2010
20	1613498.14 Total	173192	2010 Total

図 31-4 Oracle Analytics Cloud のフォーマットでピボット・テーブルとして挿入されるピボット・テーブル

	A	B	C	D	E	F
1			2008		2009	
2			1- Revenue	2- Billed Quantity	1- Revenue	2- Billed Quantity
3	D1 Office	D2 Department				
4	Montgomery Office Total		409261.44	44404	474402.83	49612
5	Montgomery Office	Entertainment Dept.	409261.44	44404	474402.83	49612
6	Blue Bell Office Total		762007.79	76964	626768.91	69812
7	Blue Bell Office	Entertainment Dept.	762007.79	76964	626768.91	69812
8	Foster Office Total		665353.16	73453	499749.5	53700
9	Foster Office	Technology Dept.	665353.16	73453	499749.5	53700
10	Glenn Office Total		380957.44	41450	335018.03	35817
11	Glenn Office	Technology Dept.	380957.44	41450	335018.03	35817
12	Tellaro Office Total		572256.65	62393	470830.43	51801
13	Tellaro Office	Technology Dept.	572256.65	62393	470830.43	51801
14	Madison Office Total		472503.56	51717	410123.97	47135
15	Madison Office	Translated Products	472503.56	51717	410123.97	47135
16	Eden Office Total		531569.71	62894	502306.03	54444
17	Eden Office	Translated Products	531569.71	62894	502306.03	54444
18	Sherman Office Total		780186.36	84984	680636.06	75006
19	Sherman Office	Translated Products	780186.36	84984	680636.06	75006

Oracle Smart View for Office クライアントでは、表はグリッド形式で表示されます。

- **Excel 表として挿入**(表ビューのみ) - 選択した表ビューは Excel 表として挿入されます。ページ・プロンプト・エッジおよびセクション・エッジの列(存在する場合)は、ドロップダウン見出しとして表上部に移動されます。Excel の操作を使用してフィルタ処理、式の定義、ソートおよび他の Excel タスクを実行する場合は、このオプションを選択します。

  表ビューが Excel 表として挿入されると、Oracle Analytics Cloud で定義されたプロンプトは使用できません。

  選択した表はワークシートに挿入されます。

図 31-5 Excel 表として挿入される表ビューの部分

	A	B	C	D	E
1	T05 Per Name Yea	D1 Office	D2 Department	2- Billed Quantity	1- Revenue
2	2008	Montgomery Office	Entertainment Dept.	44404	409261.44
3	2008	Blue Bell Office	Entertainment Dept.	76964	762007.79
4	2008	Foster Office	Technology Dept.	73453	665353.16
5	2008	Glenn Office	Technology Dept.	41450	380957.44
6	2008	Tellaro Office	Technology Dept.	62393	572256.65
7	2008	Madison Office	Translated Products	51717	472503.56
8	2008	Eden Office	Translated Products	62894	531569.71
9	2008	Sherman Office	Translated Products	84984	780186.36
10	2008	Casino Office	Test Programs Dept.	77474	739129.6
11	2008	Merrimon Office	Test Programs Dept.	55194	526620.06
12	2008	Perry Office	Equipment Dept.	109600	1095278.63
13	2008	Eiffel Office	Equipment Dept.	131681	1172037.85
14	2008	Spring Office	Operations Dept.	119880	1136782.66
15	2008	Mills Office	Operations Dept.	73890	713164.64
16	2008	College Office	Surplus Dept.	117934	1072744.45

- **Excel ピボットとして挿入**(ピボット・テーブル・ビューのみ) - 選択したピボット・テーブル・ビューは Excel ピボット・テーブルとして挿入されます。ページ・エッジおよ

びセクション・エッジの列(存在する場合)は、レポート・フィルタ領域にマップされ、メジャー・エッジの列は値領域に移動されます。集約、ピボット、ドリル、ソート、フィルタ処理などの詳細な分析を実行する場合は、このオプションを選択します。

選択した表またはピボット・テーブルがワークシートに挿入されます。図 4 を参照してください。

ノート:

- ピボット・テーブル・ビューが Excel ピボット・テーブルとして挿入されると、Oracle Analytics Cloud で定義されたプロンプトは使用できません。
- Excel ピボット・テーブル・ビューを使用する場合、サポートされるのは、数値データ型のメジャー列を含むビューのみです。
- Excel ワークシートごとに使用できる Excel ピボット・テーブルは、1 つのみです。また、Excel ピボット・テーブル・ビューは、常に新しいワークシートに挿入されます。データ・ソース接続が 1 つの場合も複数の場合も、これが既定の動作です。

図 31-6 Excel ピボット・テーブルとして挿入されるピボット・テーブル

	A	B	C	D	E	F	G
1				T05 Per Name Year			
2	D1 Office	D2 Department	Data	2008	2009	2010	Grand Total
3	Blue Bell Office	Entertainment Dept.	Sum of 2- Billed Quantity	76964	69812	85062	231838
4			Sum of 1- Revenue	762007.79	626768.91	801073.08	2189849.78
5	Blue Bell Office Sum of 2- Billed Quantity			76964	69812	85062	231838
6	Blue Bell Office Sum of 1- Revenue			762007.79	626768.91	801073.08	2189849.78
7	Casino Office	Test Programs Dept.	Sum of 2- Billed Quantity	77474	66313	88807	232594
8			Sum of 1- Revenue	739129.6	594498.95	846609.99	2180238.54
9	Casino Office Sum of 2- Billed Quantity			77474	66313	88807	232594
10	Casino Office Sum of 1- Revenue			739129.6	594498.95	846609.99	2180238.54
11	College Office	Surplus Dept.	Sum of 2- Billed Quantity	117934	104384	115288	337606
12			Sum of 1- Revenue	1072744.45	974454.3	1150437.44	3197636.19
13	College Office Sum of 2- Billed Quantity			117934	104384	115288	337606
14	College Office Sum of 1- Revenue			1072744.45	974454.3	1150437.44	3197636.19
15	Copper Office	Local Plants Dept.	Sum of 2- Billed Quantity	112428	98158	124486	335072
16			Sum of 1- Revenue	994751.43	924933.74	1159553.05	3079238.22
17	Copper Office Sum of 2- Billed Quantity			112428	98158	124486	335072
18	Copper Office Sum of 1- Revenue			994751.43	924933.74	1159553.05	3079238.22
19	Eden Office	Translated Products	Sum of 2- Billed Quantity	62894	54444	65983	183321

Oracle Analytics Cloud の分析の編集の説明に従って、表およびピボット・テーブルを編集できます。

グラフの挿入

Oracle Smart View for Office は、グラフを挿入する際、Oracle Analytics Cloud のグラフを Microsoft Office 2007 以降でサポートされるチャート・タイプにマップしようとします。さらに、Smart View は、2D または 3D といった視覚効果や、キャンバス・サイズ、軸スケール、データ・フォーマット、フォントのスタイルや色の条件のフォーマットなどのグラフ・プロパティを一致させようとします。

一致するチャート・タイプがない場合は、グラフ・ビューがイメージとしてのみ挿入される場合があります。

サポートされている Oracle Analytics Cloud のチャートおよびオブジェクトのタイプおよびサポートされていない Oracle Analytics Cloud のチャートおよびオブジェクトのタイプを参照してください。

グラフを挿入するには:

1. カタログから、グラフ・ビューを右クリックします。

2. オプションを選択します:

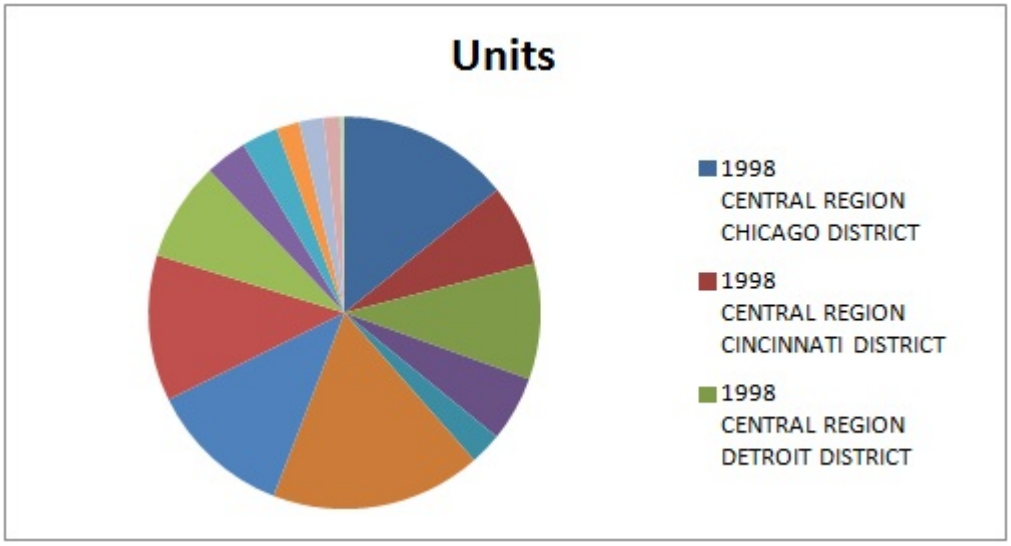
   - **挿入**—選択したグラフが、編集、マスク、リフレッシュが可能な Excel チャートとして挿入されます。

     Oracle Analytics Cloud でグラフに対してプロンプトが定義されている場合は、**「プロンプト・セレクタ」**ダイアログ・ボックスが表示され、表示するデータを選択できます(それ以外の場合は、グラフが直接挿入されます)。最初の挿入後、Oracle Analytics Cloud のリボンの**「プロンプトの編集」**アイコンをクリックして、プロンプトを編集できます。プロンプトの操作を参照してください。

     グラフに対してページ・プロンプト(Oracle Analytics Cloud のビュー・プロンプト)が定義されている場合は、Oracle Analytics Cloud のリボンの**「ページ・プロンプトの編集」**をクリックして編集することもできます。詳細は、プロンプトの操作を参照してください。

     この分析に対してプロンプトが定義されていない場合は、グラフが直接挿入されます。図 1 を参照してください。

     図 31-7 Excel チャートとして挿入された円グラフ・ビュー

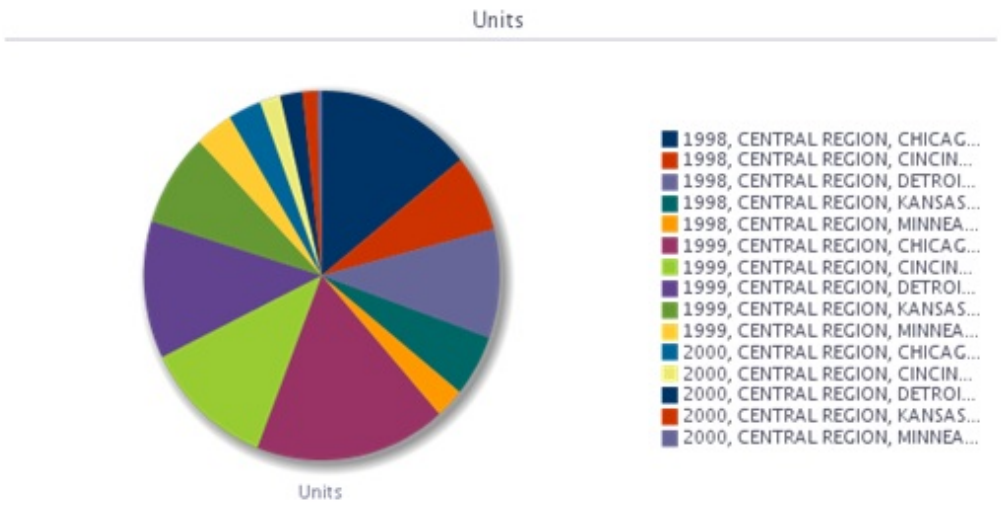
     Oracle Analytics Cloud で作成されたビューの編集の説明に従って、この方法で挿入したグラフを編集できます。

   - **イメージとして挿入** - 選択したグラフがグラフのイメージとして挿入され、編集またはカスタマイズできません。

     グラフがイメージとして直接挿入されると、Oracle Analytics Cloud で定義されたプロンプト、ページ・プロンプトおよびセクションは使用できません。

     ゲージ・ビューおよびファンネル・オブジェクトの挿入は、**「イメージとして挿入」**コマンドを使用してのみ実行できます。

図 31-8 イメージとして挿入された円グラフ・ビュー



挿入された後は、表示されるグラフのタイプが Excel チャートでもイメージでも、拡大してサイズを変更できます。

サポートされている Oracle Analytics Cloud のチャートおよびオブジェクトのタイプ

次のチャート・サブタイプがサポートされています:

- 折れ線
- 棒: 縦棒、横棒、積上げ縦棒、積上げ横棒、100%積上げ縦棒、100%積上げ横棒
- 面: 積上げ、100%積上げ
- 円グラフ
- バブル
- 散布
- 折れ線と棒の組合せ: 標準、積上げ
- レーダー

次のグラフは、イメージとしてのみ挿入できます。

- 時系列折れ線
- パレート
- ウォーターフォール

次のオブジェクトは、イメージとしてのみ挿入できます。

- ゲージ
- ファンネル

サポートされていない Oracle Analytics Cloud のチャートおよびオブジェクトのタイプ

次のビュー・タイプはサポートされていません:

- パフォーマンス・タイル
- トレリス・ビュー
- マップ・ビュー
- フィルタ・ビュー - カタログ・ツリーの**「分析プロパティの表示」**コマンドを使用すると、フィルタ・ビューのプロパティのみ表示できます。
- 選択ステップ
- 列セレクタ
- ビュー・セレクタ
- 凡例
- ナラティブ
- ティッカ
- 静的テキスト
- 論理 SQL
- セグメントの作成
- ターゲット・リストの作成

複合ビューの挿入

複合ビューを挿入するには:

1. カタログから、挿入する複合ビューを選択します。
2. 右クリックし、**「すべてのビューを 挿入」**を選択します。
3. プロンプトが表示されたら、オプションを選択します:
   - **「シート/スライドごとに 1 つのオブジェクト」**を選択して、別個の Excel シートまたは PowerPoint スライドに複合ビューの各オブジェクトを挿入します。
   - **「1 つのシート/スライドにすべてのオブジェクト」**を選択して、1 つの Excel シートまたは PowerPoint スライドにすべてのオブジェクトを表示します。

   Excel では、ワークブックに未使用のシートがあっても、オブジェクトは 1 つまたは複数の新しいシートに挿入されます。

   Word では、オブジェクトはその他のオブジェクトの横および下にシートが埋まるまで配置され、これがすべてのオブジェクトを保持するために必要なシートの数だけ続きます。

   表、ピボット・テーブル、およびグラフ・ビュー・タイプに対しては、デフォルト表示が選択されます。つまり、自動的に**「挿入」**アクションが使用されます。

   複合ビューにサポートされていないビュー・タイプがあると、メッセージで通知されます。サポートされていないビュー・タイプは挿入されません。

> **ノート:**
>
> 「リフレッシュ」を実行して、選択したビューのプロンプトおよびページ・プロンプトを編集できます。複合ビューで選択されていないビューは変更されません。ビューのリフレッシュ、プロンプトの操作およびページ・プロンプトの操作を参照してください。

ダッシュボードの挿入

ダッシュボードは、カタログ・ツリーにフォルダとして表示されます。ダッシュボード・フォルダを展開するとダッシュボード・ページを表示でき、ダッシュボード・ページを展開するとそのページに含まれている分析のリストを表示できます。Excel、PowerPoint および Word にダッシュボード・ページを挿入できます。

Office アプリケーションにダッシュボード・ページを挿入するには:

1. カタログからダッシュボード・ページを右クリックして、**「すべてのビューを挿入」**を選択します。
2. プロンプトが表示されたら、オプションを選択します:
   - **「シート/スライドごとに 1 つのオブジェクト」**を選択して、別個の Excel シートまたは PowerPoint スライドにダッシュボードの各オブジェクトを挿入します。
   - **「1 つのシート/スライドにすべてのオブジェクト」**を選択して、1 つの Excel シートまたは PowerPoint スライドにすべてのオブジェクトを表示します。

   Word では、オブジェクトはその他のオブジェクトの横および下にシートが埋まるまで配置され、これがすべてのオブジェクトを保持するために必要なシートの数だけ続きます。

   表、ピボット・テーブル、およびグラフ・ビュー・タイプに対しては、デフォルト表示が選択されます。つまり、自動的に**「挿入」**アクションが使用されます。

   サポートされていないビュー・タイプがダッシュボードにあると、メッセージで通知されます。サポートされていないビュー・タイプは挿入されません。

> **ノート:**
>
> 「リフレッシュ」を実行して、選択したビューのプロンプトおよびページ・プロンプトを編集できます。ダッシュボードから選択されていないビューは変更されません。ビューのリフレッシュ、プロンプトの操作およびページ・プロンプトの操作を参照してください。

プロンプトの操作

プロンプトでは、挿入するビューの内容を判断する基準を指定できます。Oracle Smart View for Office は、ページ・プロンプトとプロンプトの両方をサポートします。ページ・プロンプトの詳細は、ページ・プロンプトの操作を参照してください。

Smart View のプロンプトは、Oracle Analytics Cloud のプロンプトに相当します。Smart View では、列プロンプトのみがサポートされています。

プロンプトは、Oracle Analytics Cloud の分析レベルで定義されます。ビューが Smart View に挿入されるたびに、これらのプロンプトに値を入力するように求められます。

Oracle Analytics Cloud で分析にプロンプトが定義されている場合、その分析から Smart View へ表、ピボット・テーブル、およびグラフ・ビューを挿入すると、そのビューに表示するデータを選択するためのプロンプトが表示されます。プロンプトが定義されている分析から複合ビューを挿入する場合、その複合ビュー内のすべてのビューに対して値を入力するためのプロンプトが 1 回だけ表示されます。

たとえば、「年」のプロンプトが分析に指定されていて、2010、2011 および 2012 年から選択できるとします。表、ピボット・テーブル、またはグラフを挿入すると、データを表示する年(2010、2011 または 2012)を選択するためのプロンプトが表示されます。または、複合ビューの挿入を選択でき、その場合は、行ったプロンプト選択が、挿入されるすべてのビューに適用されます。挿入後、各個別のビューのプロンプトを編集し、表示する別の年のデータを選択できます。

ビューは、個別にしか編集できません。編集操作では、編集中の各ビューに選択される値の入力を求めるプロンプトが表示されます。

挿入、またはコピーおよび貼り付けられたビューのプロンプトを編集できます。

> **ノート:**
>
> Oracle Analytics Cloud で階層列に定義されているプロンプトは、Smart View ではサポートされません。

プロンプトを編集するには:

1. ワークシートでビューを選択します:
   - グラフ・ビュー - グラフを選択します。
   - 表およびピボット・テーブル・ビュー—表内のセルを選択します。
2. Oracle Analytics Cloud のリボンから、**「プロンプトの編集」**ボタンを選択し、元の選択を表示します。

   図 31-9 「プロンプトの編集」ボタン

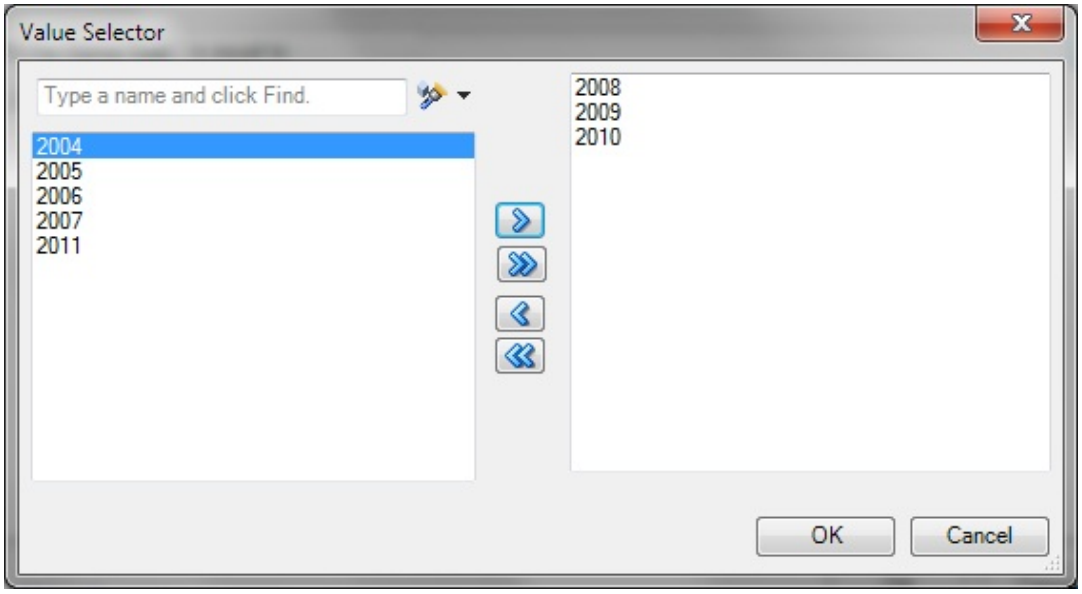
   

   サーバーでレポート定義が変更された場合、選択内容はリセットされているため、すべてのプロンプトと列を再度選択する必要があります。
3. **プロンプト・セレクタ**で、プロンプト選択を変更します。

   Oracle Analytics Cloud でのプロンプトの設定方法によっては、**「プロンプト・セレクタ」**のドロップダウン・リストからデータを直接選択できます。**値セレクタ**・ダイアログ・ボックスから値を選択することもできます。

   図 2 は、年 2008、2009 および 2010 が表示されるように選択されている**「値セレクタ」**の例です。

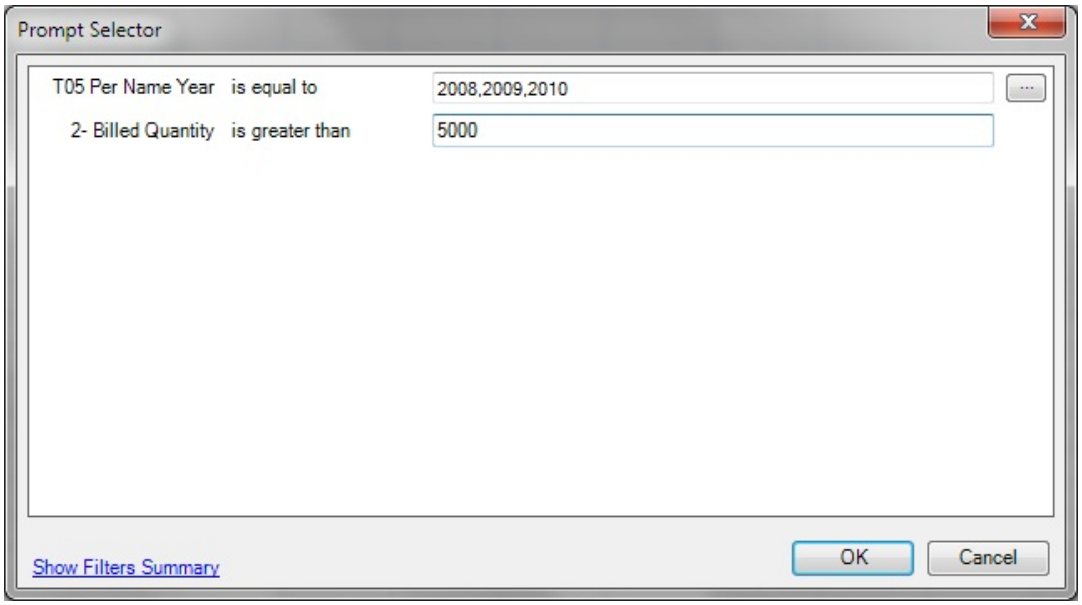
図 31-10 2008、2009 および 2010 年が選択された値セレクタ・ダイアログ・ボックス



「値セレクタ」で**「OK」**をクリックすると、**「プロンプト・セレクタ」**の例の 1 つ目のプロンプトに、選択内容が移入されます。**プロンプト・セレクタ**の例の 2 つ目のプロンプトには、金額を直接入力する必要があります。この例では、表示する金額は、$5,000 を超える請求済数量です。

完了した**「プロンプト・セレクタ」**ダイアログは、図 3 のようになります。

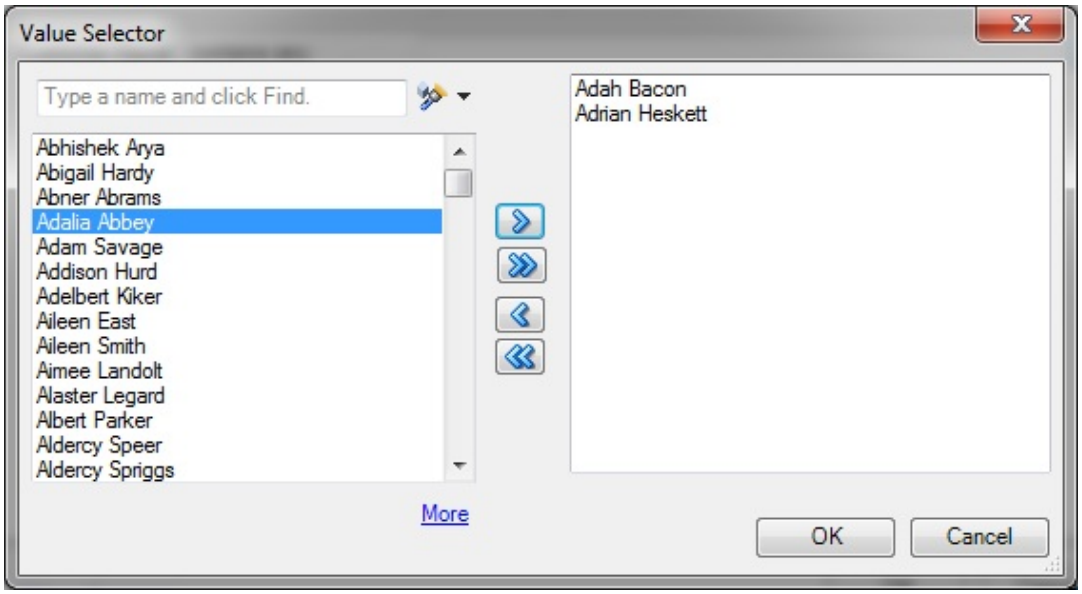
図 31-11 入力済のプロンプト・セレクタ



場合によっては、選択元のデータが非常に長いことがあります。**「値セレクタ」**の大量のデータのロードに対応するために、Smart View では、グループの値が提供されます。最初に表示されるページをスクロールして選択を行い、**「詳細」**をクリックすると、次のグループ

が表示され、そこから選択を行います。データ・リスト全体が表示され、そこから選択を行うまで、**「詳細」**をクリックし続けます。図 4 に例を示します。

図 31-12 大量のデータ用に詳細が表示されている「値セレクタ」



4. **「OK」**をクリックして**「プロンプト・セレクタ」**を閉じます。

   選択した後に**「OK」**をクリックすると、ビューがすぐにリフレッシュされて選択内容が反映されます。

5. この手順を繰り返してプロンプトを編集し、表示される出力を変更します。

ページ・プロンプトの操作

ページ・プロンプトでは、挿入されたビューの内容を判断する基準を指定できます。Oracle Smart View for Office は、ページ・プロンプトとプロンプトの両方をサポートします。プロンプトの操作も参照してください。

Smart View の**ページ・プロンプト**は、Oracle Analytics Cloud のビュー・プロンプトに相当します。ビュー・プロンプトは、分析内の個々のビューに指定されます。Smart View では、Oracle Analytics Cloud の表プロンプト、グラフ・プロンプト、ゲージ・プロンプトがサポートされています。これらのプロンプトのタイプは、Smart View ではページ・プロンプトと呼ばれます。

ページ・プロンプトは、分析内のビューごとに異なる場合があります。分析内の個別の表ビューに年のページ・プロンプトを設定し、同じ分析内のピボット・テーブル・ビューに事業部門のページ・プロンプトを設定することができます。

ページ・プロンプトを含むビューを初めて挿入すると、ビューの状態がデフォルトで選択されます。たとえば、分析内の特定のビューに年のプロンプトが指定されており、2010、2011、2012 から選択できる場合、挿入時にこれらに対するプロンプトは表示されません。かわりに、ビューのデフォルトの状態が挿入されます。たとえば、選択可能な年のリストで最初の年である、2010 のデータが自動的に挿入されます。その後、ページ・プロンプトを編集し、別の年のデータを選択してこのビューに表示することができます。

挿入、またはコピーして貼り付けられたビューのページ・プロンプトを編集できます。

ページ・プロンプトを編集するには:

1. ワークシートでビューを選択します:
   - グラフ・ビュー - グラフを選択します。
   - 表およびピボット・テーブル・ビュー—表内の任意のセルを選択します。
2. Oracle Analytics Cloud のリボンから、**「ページ・プロンプトの編集」**ボタンを選択し、特定ビューに対するデフォルトのページ・プロンプトの選択内容を表示します。

図 31-13 「ページ・プロンプトの編集」ボタン

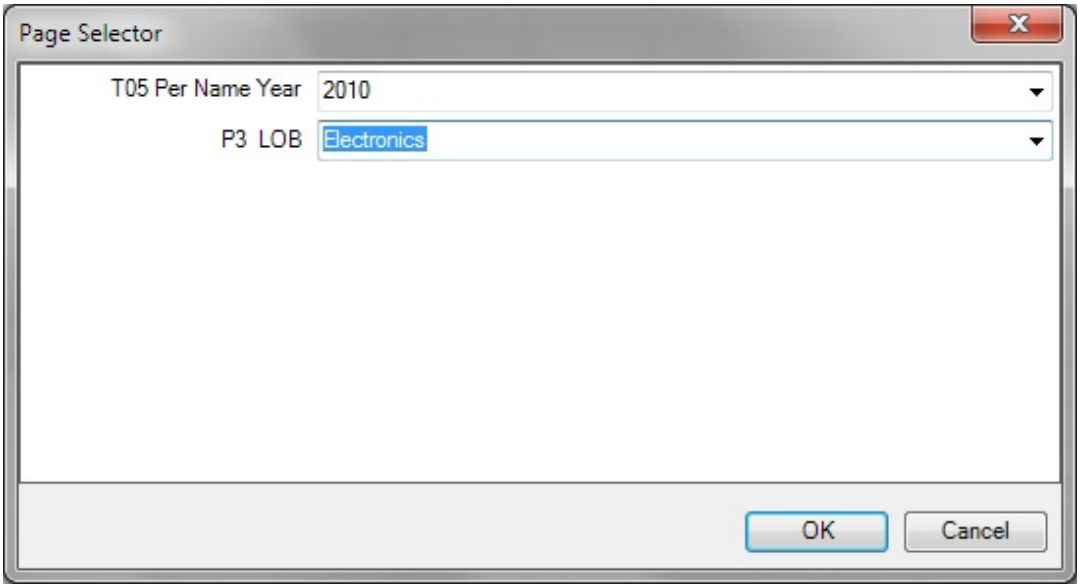


サーバーでレポート定義が変更された場合、選択内容はリセットされているため、すべてのページ・プロンプトを再度選択する必要があります。

3. **「ページ・セレクタ」**で、ドロップダウン・リストから選択してページ・プロンプトの選択を変更します。

   ページ・プロンプトの操作は、ユーザーが年および事業部門を選択する**「ページ・セレクタ」**ダイアログ・ボックスを示しています。この例では、年は 2010、事業部門は電子機器が選択されています。

図 31-14 入力されたページ・セレクタ



4. **「OK」**をクリックして**「ページ・セレクタ」**を閉じます。

   選択した後に**「OK」**をクリックすると、ビューがすぐにリフレッシュされて選択内容が反映されます。
5. この手順を繰り返してページ・プロンプトを編集し、表示される出力を変更します。

ビューのリフレッシュ・プリファレンスの指定

各ビューのリフレッシュ・プリファレンスを指定できます。ワークシート、スライドまたはページの各ビューに設定したリフレッシュ・プリファレンスは、Office ドキュメント(Excel ワークブック、PowerPoint スライド・プレゼンテーションまたは Word 文書)とともに保存されます。

ビューのリフレッシュ・プリファレンスを指定するには:

1. 1 つ以上の Oracle Analytics Cloud ビューが Oracle Smart View for Office に挿入されたことを確認します。
2. **ドキュメント・コンテンツ**で、をクリックしてペインのコンテンツをリフレッシュします。

   アクティブな Office アプリケーションに挿入されたすべてのビューが**ドキュメント・コンテンツ**にツリー形式で表示されます。
3. **ドキュメント・コンテンツ**でビューを選択し、**「プロパティ」**を選択します。
4. **「プロパティ」**で、**「リフレッシュ・プリファレンス」**から次のいずれかのオプションを選択します:
   - **データのリフレッシュ** - 選択したビューまたは分析のデータ・ポイントのみがリフレッシュされます。

     シート、スライドまたはページのフォーマットに対する変更は保持されます。
   - **ビューの置換** - Oracle Analytics Cloud で設定されたフォーマット変更を含むビュー全体を置換します。

     このオプションを選択すると、ビュー定義が変更された場合、プロンプトおよびグラフの選択内容とカスタム・フォーマットがリフレッシュ時に失われます。

     > **ノート:**
     >
     > Oracle Business Intelligence Enterprise Edition のタイトル・ビューはリフレッシュ・アクションに含まれないため、タイトル・ビューに加えたすべてのカスタマイズは、ワークシートまたはワークブックをリフレッシュしても保持されます。
   - **リフレッシュしない**—リフレッシュが許可されません。
5. **「OK」**をクリックして、**リフレッシュ・プリファレンス**の選択内容を保存します。

   ビューのリフレッシュに進みます。

ビューのリフレッシュ

挿入されたビューの Oracle Analytics Cloud からのデータをリフレッシュできます。次のように、Office ドキュメント・タイプに応じて、選択したビューまたはすべてのビューをリフレッシュできます。

Excel

- 個々のビュー

- 個々のワークシート
- ワークブック全体

PowerPoint

- 個々のビュー
- 個々のスライド
- プレゼンテーション全体

Word

- 個々のビュー
- ドキュメント全体

「ドキュメント・コンテンツ」ペイン、Oracle BI EE のリボンまたは Smart View のリボンからビューをリフレッシュできます。

リフレッシュ・アクションは、選択したビューに設定されているプリファレンスのリフレッシュに従って制限されます。詳細は、ビューのリフレッシュ・プリファレンスの指定を参照してください。

リフレッシュする際、タイトル・ビューはリフレッシュ・アクションに含まれないため、タイトル・ビューに加えたすべてのカスタマイズは、Office ドキュメントをリフレッシュしても保持されます。

Office ドキュメントに複数のオブジェクトがあり、先に接続せずにドキュメントをリフレッシュしようとすると、すべてのオブジェクトに対するログイン資格証明の入力が 1 回求められます。かわりに取り消すことを選択した場合、シートの各オブジェクトに**「データ・ソースに接続」**ダイアログ・ボックスが表示され、各オブジェクトについて**「取消」**をクリックする必要があります。たとえば、シート上にオブジェクトが 6 つある場合、ダイアログ・ボックスはオブジェクトごとに 6 回表示されます。

「ドキュメント・コンテンツ」ペインから Oracle Analytics Cloud ビューをリフレッシュするには:

1. **「ドキュメント・コンテンツ」**で、ドロップダウン・リスト・ボックスに**「Oracle Analytics Cloud - ドキュメント階層」**が表示されていることを確認します。
2. **「ドキュメント・コンテンツ」**で  をクリックしてツリーのコンテンツをリフレッシュします。

   「ドキュメント・コンテンツ」から、すべての Office アプリケーションにおける個々のビュー、個々のワークシートおよび個々のスライドをリフレッシュできます。
3. 次のいずれかのアクションを行います:
   - Excel のシート、PowerPoint のスライドまたは Word 文書で選択したビューをリフレッシュするには、**「ドキュメント・コンテンツ」**でツリーからビュー・オブジェクトを選択し、右クリック・メニューから**「ビューのリフレッシュ」**アクションを選択するか、ペインの下部で**「ビューのリフレッシュ」**リンクをクリックします。

     リフレッシュするビューごとに繰り返します。
   - 選択した Excel ワークシートまたは PowerPoint スライドのすべての Oracle Analytics Cloud ビューをリフレッシュするには、**「ドキュメント・コンテンツ」**でツリーからシートまたはスライドを選択し、右クリック・メニューから**「リフレッシュ」**アクションを選択するか、ペインの下部で**「リフレッシュ」**リンクをクリックします。

リフレッシュするシートまたはスライドごとに繰り返します。

リボンを使用して、ワークシートまたはスライドのすべての Oracle Analytics Cloud ビュー、あるいは Word 文書全体をリフレッシュするには:

1. 次のいずれかのアクションを行います:
   - アクティブにするワークシートまたはスライドを選択します。
   - Word 文書にカーソルを置いて選択します。
2. Oracle BI EE リボンまたは Smart View リボンの**「リフレッシュ」**をクリックします。

Excel ワークブック、PowerPoint プレゼンテーションまたは Word 文書のすべての Oracle Analytics Cloud ビューをリフレッシュするには:

1. ワークブック、プレゼンテーションまたは文書内の任意の場所にカーソルを置いて選択します。
2. 次のいずれかのアクションを行います:
   - Excel ワークブックのすべての Oracle Analytics Cloud ビューをリフレッシュするには、Smart View リボンの**「リフレッシュ」**の下矢印をクリックし、**「すべてのワークシートのリフレッシュ」**を選択します。図 1 に、矢印が付いた「リフレッシュ」アイコンを示します。

     図 31-15 Excel および PowerPoint における下矢印が表示された「リフレッシュ」アイコン

     または、Oracle BI EE リボンにある**「リフレッシュ」**で下矢印をクリックし、**「ワークブック・データのリフレッシュ」**を選択します。
   - PowerPoint プレゼンテーションのすべての Oracle Analytics Cloud ビューをリフレッシュするには、Smart View リボンにある**「リフレッシュ」**の下矢印をクリックし、**「すべてのスライドのリフレッシュ」**を選択します。

     または、Oracle BI EE リボンにある「リフレッシュ」で下矢印をクリックし、**プレゼンテーション・データのリフレッシュ**を選択します。
   - Word 文書のすべてのビューをリフレッシュするには、Oracle BI EE リボンまたは Smart View リボンの**「リフレッシュ」**をクリックします。図 2 に示すように、Word の「リフレッシュ」アイコンに下矢印は表示されません。

     図 31-16 Word の「リフレッシュ」アイコン

> **ノート:**
>
> 要求された場合は、Oracle Analytics Cloud の資格証明を入力します。

ビューのマスキング・データ

Office ドキュメントに挿入した Oracle Analytics Cloud ビューおよびビュー・デザイナを使用して作成したビューのデータをマスクできます。マスキング・データのオプション:

- 選択されたビュー
- シートまたはスライドのすべてのビュー
- Office ドキュメントのすべてのビュー

Oracle Smart View for Office のマスク・データ機能を使用すると、次のアクションを実行できます:

- Excel のシートまたは PowerPoint のスライドで単一の Smart View オブジェクトを選択し、そのオブジェクトのデータのみをマスク
- アクティブな Excel ワークシートまたは PowerPoint スライドのデータをマスク
- アクティブなワークブック、プレゼンテーション、Word 文書のデータをマスク

データのマスクは次の場所から呼び出すことができます:

- Smart View パネルのドキュメント・コンテンツ
- Oracle Analytics Cloud のリボン

個別のビューでのマスキング・データ

Excel ワークシートまたは PowerPoint スライドの個別のビューでデータをマスクするには:

1. Excel または PowerPoint で、**ドキュメント・コンテンツ**のをクリックし、ツリーの内容をリフレッシュします。

   > **ノート:**
   >
   > Word 文書のデータは、全体のマスクのみ可能です。Word では、個々のビューのデータはマスクできません。

2. **ドキュメント・コンテンツ**で、マスクするデータを含むビューを見つけ、それを選択します。
3. **ドキュメント・コンテンツ**で**「データのマスク」**リンクをクリックします。

   表オブジェクトでは、セルが「リフレッシュが必要」というテキストに置き換えられます。グラフでは、エリアが空白になり、小さな鍵のイメージが表示されます。
4. 現在のワークブックまたはプレゼンテーションを保存します。

   ビューのマスク状態は保存後も変りません。

5. マスクされたビューでデータを表示するには、**ドキュメント・コンテンツ**のをクリックし、ツリーからビューを選択して、**「ビューのリフレッシュ」**リンクをクリックします。

シートまたはスライドのマスキング・データ

Excel ワークシートまたは PowerPoint スライドのデータをマスクするには:

1. シートまたはスライドを選択する方法を選択します:
   - シートまたはスライドに直接カーソルを置きます。
   - **ドキュメント・コンテンツ**でをクリックし、ツリーでシートまたはスライドを見つけて、それを選択します。
2. 選択したシートまたはスライドのすべてのオブジェクトのデータをマスクする方法を選択します:
   - Oracle Analytics Cloud のリボンで、**「データのマスク」**ボタンをクリックします。

     図 31-17 「データのマスク」ボタン

   - **ドキュメント・コンテンツ**で**「データのマスク」**リンクをクリックします。

   シートまたはスライドのデータがマスクされます。

   > **ノート:**
   >
   > Word 文書のデータは、全体のマスクのみ可能です。Word では、個々のページのデータはマスクできません。

3. 現在のワークブックまたはプレゼンテーションを保存します。

   シートまたはスライドのマスク状態は保存後も変りません。
4. マスクされたシートまたはスライドでデータを表示するには、**ドキュメント・コンテンツ**のをクリックし、ツリーからシートまたはスライドを選択して、**「リフレッシュ」**リンクをクリックします。

   または、リフレッシュするシートまたはスライドにカーソルを置き、

   をクリックします。

Office ドキュメント全体でのマスキング・データ

Office ドキュメント全体でデータをマスクするには:

1. 開いている Office ドキュメントで、Oracle Analytics Cloud のリボンから、次のアクションを実行します。

- **Excel:** 

の下矢印をクリックし、**「ワークブック・データのマスク」**を選択します。
- **PowerPoint:** 

の下矢印をクリックし、**「プレゼンテーション・データのマスク」**を選択します。
- **Word:** 

をクリックします。

> **ノート:**
>
> Word 文書は全体のみをマスクできます。Word では、個々のページはマスクできません。

2. 現在の Office ドキュメントを保存します。

   ワークブック、プレゼンテーションまたは文書のマスク状態は保存後も変りません。

3. マスクされたデータを表示するには、**ドキュメント・コンテンツ**の  をクリックし、ツリーからシート、スライド、または文書を選択して、**「リフレッシュ」**リンクをクリックします。

   または、リフレッシュするシート、スライド、または文書にカーソルを置き、

をクリックします。

Oracle Analytics Cloud オブジェクトのプロパティの表示

選択したオブジェクトの様々なプロパティを表示できます。

Oracle Analytics Cloud オブジェクトのプロパティを表示するには:

1. Oracle Analytics Cloud ビューを選択します。

   シートやスライドではなく、実際のビュー・オブジェクトを選択します。

2. **「ドキュメント・コンテンツ」**ペインの下部の**「プロパティ」**リンクをクリックします。

Office アプリケーション間での Oracle Analytics Cloud オブジェクトのコピーと貼付け

次のように Office アプリケーション内および Office アプリケーション間で Oracle Analytics Cloud オブジェクトをコピーできます。

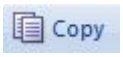
- グラフは、任意の Office アプリケーション内および Office アプリケーション間でコピーできます。
- 表とピボット・テーブルは、Word および PowerPoint 内と Word および PowerPoint 間でコピーできます。
- 表とピボット・テーブルは、Excel 内、Excel から別の Office アプリケーション、別の Office アプリケーションから Excel へコピーできません。
- 表とピボット・テーブルは、セクションとしてのみコピーと貼付けができます。

グラフ・ビューのコピーと貼付け

グラフ・ビューをコピーして貼り付けるには:

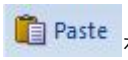
1. Excel、Word、または PowerPoint で、コピーするグラフ・ビューを選択します。

   ドキュメント・コンテンツを使用してビューを検索することもできますが、シート、スライド、またはページでグラフは直接選択します。

2. **Oracle Analytics Cloud** のリボンで 

をクリックします。
3. Office アプリケーションにアクセスし、グラフ・ビューを貼り付ける位置にカーソルを置きます。

   たとえば、Office アプリケーション内で貼り付ける場合(または、Excel からコピーして PowerPoint に貼り付ける場合は PowerPoint を開き)、Office ドキュメントでオブジェクトを貼り付ける位置にカーソルを置きます。

4. 

をクリックします。
5. コピーおよび貼り付けるすべてのグラフで繰り返します。

表またはピボット・テーブル・ビューのコピーと貼付け

表ビューまたはピボット・テーブル・ビューをコピーして貼り付けるには:

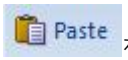
1. Word または PowerPoint で、コピーする表ビューまたはピボット・テーブル・ビューを選択します。

   ドキュメント・コンテンツを使用してビューを検索することもできますが、その場合でも、スライドまたはページで表またはピボット・テーブルを直接選択します。

2. **Oracle Analytics Cloud** のリボンで 

をクリックします。
3. Office アプリケーションにアクセスし、表またはピボット・テーブル・ビューを貼り付ける位置にカーソルを置きます。

   たとえば、Office アプリケーション内で貼り付ける場合(または、Word からコピーして PowerPoint に貼り付ける場合は PowerPoint を開き)、Office ドキュメントでオブジェクトを貼り付ける位置にカーソルを置きます。

4. をクリックします。
5. コピーおよび貼り付けるすべての表またはピボット・テーブルで繰り返します。

Oracle Analytics Cloud の分析の編集

使用可能なビューで必要なデータが表示されない場合やデータが期待どおりに表示されない場合は、Oracle Analytics Cloud でビューを編集できます。

> **ノート:**
>
> Oracle Analytics Cloud でビューを編集するには、必須の権限が必要です。

Oracle Analytics Cloud でビューを編集するには:

1. カタログでビューを右クリックして、**「アンサーでの分析の編集」**を選択します。
2. ログイン画面で、Oracle Analytics Cloud の資格証明を入力します。

   選択したビューが Oracle Analytics Cloud に表示されます。
3. Oracle Analytics Cloud でビューを編集して保存します。
4. Office アプリケーションに戻ります。
5. **Oracle Analytics Cloud** のリボンで**「リフレッシュ」**をクリックし、変更がビューに反映されていることを確認します。

Oracle Analytics Cloud から Office へのビューのコピーおよび貼付け

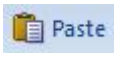
Oracle Analytics Cloud から Oracle Smart View for Office に、ビューをコピーして貼り付けられます。

貼り付けられたビューをリフレッシュすると、データはリフレッシュされますが、ビュー定義は、Oracle Analytics Cloud で変更されていたとしてもリフレッシュされません。

> **ノート:**
>
> Oracle Analytics Cloud から Smart View にビューをコピーして貼り付ける場合、一部のフォーマットが Office にインポートされないことがあります。

ビューをコピーして貼り付けるには:

1. Oracle Analytics Cloud にログインします。
2. Oracle Analytics Cloud またはインタラクティブ・ダッシュボードで、コピーする分析を起動します。
3. 分析の下部の**「コピー」**リンク(分析がコピー可能である場合にのみ表示されます)をクリックします。

4. Excel などの Office アプリケーションを開き、適切な Oracle Analytics Cloud データ・ソースに接続します。
5. **Oracle Analytics Cloud** のリボンで 

をクリックします。

Oracle Analytics Cloud で作成されたビューの編集

次も参照:

- 編集が可能および不可能な対象
- PowerPoint に挿入されたピボット・テーブルの編集
- その他のガイドライン

編集が可能および不可能な対象

Oracle Analytics Cloud で作成されたビューを編集する場合、次に注意してください。

- **「挿入」**コマンドを使用して Microsoft オブジェクトとして挿入または貼り付けられた表ビューおよびグラフ・ビューは、Excel、PowerPoint または Word で編集できます。
- リストとして挿入または貼り付けられた表ビューおよびイメージとして挿入されたグラフ・ビューは、Excel で編集できません。
- イメージとして挿入または貼り付けられたビューは、PowerPoint で編集できません。

PowerPoint に挿入されたピボット・テーブルの編集

Oracle Analytics Cloud で作成されたピボット・テーブル・ビューを編集する場合、次の点を考慮します。

小さいピボット・テーブル

PowerPoint の小さいピボット・テーブルの場合、列の幅と行の高さを変更するには、マウスを使用して列と行の枠線を目的の高さと幅にドラッグします。

大きいピボット・テーブル

大きいピボット・テーブル(特に行と列がスライド領域の外側にある表)の列の幅と行の高さを調整するには、PowerPoint の表の編集ツールを次のように使用します:

1. ピボット・テーブルを選択します。
2. PowerPoint で**「レイアウト」**リボンを選択します。
3. ピボット・テーブルの行または列を選択します。
4. **「セルのサイズ」**グループの高さと幅の値を変更して、高さと幅を調整します。

その他のガイドライン

Oracle Analytics Cloud で作成されたビューを編集する場合、次のガイドラインに注意してください。

- Oracle Smart View for Office では、PowerPoint の"スライドの複製"コマンドを使用したチャートまたは表の複製はサポートされていません。

PowerPoint では、チャートを含むスライドの複製後、どちらかのチャートのプロンプトを更新しようとすると、更新される元のチャートのみのプロンプトが更新されます。複製スライドのチャートは更新されません。

PowerPoint スライドに挿入されて複製されたピボット・テーブルでは、どちらかのピボット・テーブルのプロンプトを変更した場合、元のスライドか複製スライドのどちらのプロンプトを変更したかどうかにかかわらず、元のスライドのピボット・テーブルのみが更新されます。

- Microsoft Office フォーマット・ツールを使用してグラフに加えられた一部の変更(色の変更など)は、プロンプトが変更され、グラフがリフレッシュされると、維持されないことがあります。Smart View では、このようなフォーマットの変更を追跡しません。これは Microsoft Office で行われます。グラフ系列が削除されると、その系列のフォーマットも Office によって削除されます。プロンプトを変更すると、系列の数および順序が変更され、これはフォーマットも変更されることを意味します。これは予期された動作です。

「ビュー・デザイナ」を使用したビューの操作

Oracle Smart View for Office のビュー・デザイナを使用して、Oracle Analytics Cloud サブジェクト・エリアに基づいてアド・ホック・ビューを作成できます。

Smart View で作成されたビューは、Oracle BI Presentation Catalog、Oracle Business Intelligence に保存でき、Smart View または Oracle Analytics Cloud で編集できます。

ビュー・デザイナは、Microsoft Excel、Word および PowerPoint で使用できます。

ビュー・デザイナの起動

ビューを作成しているか編集しているかに応じ、このトピックで説明されている方法を使用して、ビュー・デザイナを起動できます。

ビュー・デザイナを起動するには:

1. 次のいずれかのアクションを行います:
   - 新規ビューを作成するには:
     - カタログ・ツリーの**カタログのルート**・ノードを右クリックして、**「新規ビューの作成」**を選択します。
     - カタログ・ツリーの**カタログのルート**・ノードを選択して、Smart View パネルの下部で**「新規ビューの作成」**を選択します。
     - Oracle BI EE のリボンで、「ビュー・デザイナ」アイコンをクリックします。

図 31-18 「ビュー・デザイナ」アイコン



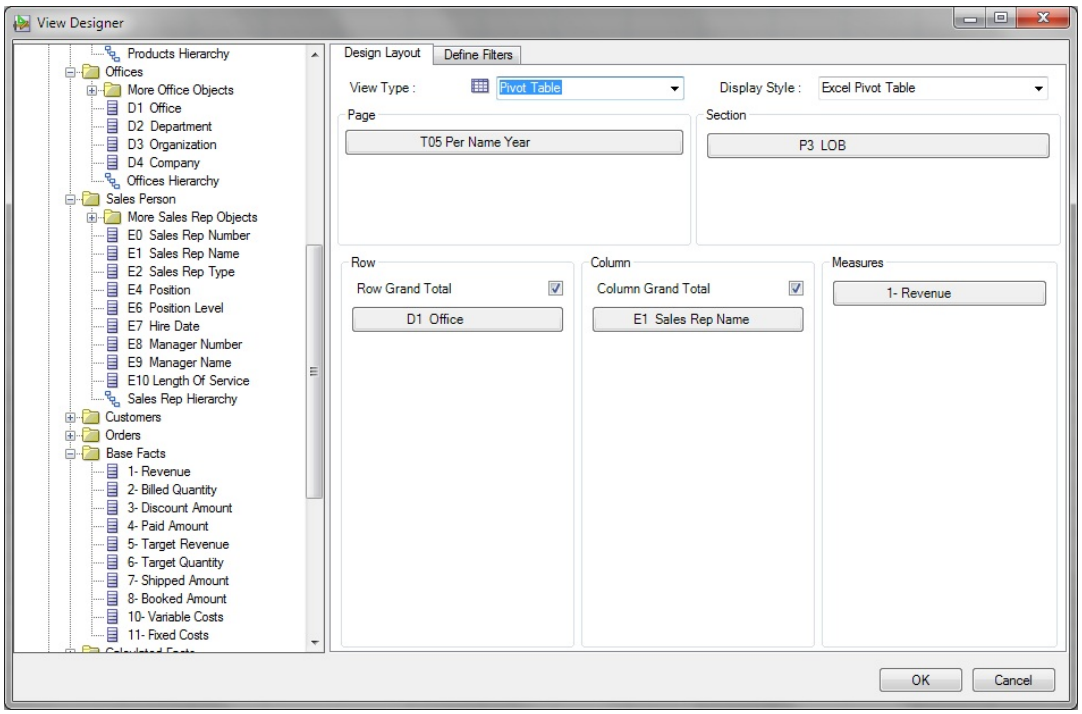
Oracle Analytics Cloud のリボンを有効にするには、カタログ・ツリーのビューに接続している必要があります。

- ビューを編集するには(ビューが作成済でビュー・デザイナから挿入済である必要があります):
  - カタログ・ツリーから、ビュー・デザイナで作成され Oracle Smart View for Office から Oracle BI プレゼンテーション・カタログに保存された、編集対象のビューを選択し、Smart View パネルの下部にある**「ビュー・デザイナでのビューのロード」**リンクを選択します。
  - 現在のまたは保存済の Office ドキュメントのワークシートで既存のビューを選択し、「ビュー・デザイナ」アイコン(図 1 を参照)をクリックします。
  - Excel ピボット・テーブルを編集するには、Excel ピボット・テーブルの内外を問わず、現在のまたは保存済のワークシート内の任意の場所をクリックし、「ビュー・デザイナ」アイコン(図 1 を参照)をクリックします。

> **ノート:**
>
> Smart View のビュー・デザイナから作成および挿入されたビューのみ編集できます。Oracle Analytics Cloud で作成されたビューを編集するには、Oracle Analytics Cloud を使用する必要があります。

ビュー・デザイナの**「レイアウトの設計」**タブが表示されます。図 2 に、「ページ」、「セクション」、「行」、「列」および「メジャー」エッジが選択された、ビュー・デザイナの「レイアウトの設計」タブを示します。

図 31-19 ピボット・テーブル・レイアウト用の「ビュー・デザイナ」の「レイアウトの設計」タブ



2. ビュー・タイプおよび表示スタイルの定義の手順に従って、ビュー設計プロセスを続行します。

ビュー・タイプおよび表示スタイルの定義

ビューを作成する際は、ビュー・タイプおよび表示スタイルを定義します。これは、ビューの作成プロセス中に一度のみ行います。ビューが作成されると、これら 2 つの設定を編集できなくなります。

ビュー・タイプおよび表示スタイルを定義するには:

1. まだ実行していない場合、ビュー・デザイナを起動します(ビュー・デザイナの起動を参照)。
2. **「ビュー・タイプ」**で、作成するビューのタイプを選択します:
   - 表
   - ピボット・テーブル(デフォルト)
   - 折れ線グラフ
   - 棒グラフ
   - 縦棒グラフ
   - 面グラフ
   - 円グラフ
   - 散布図
   - 積重ね縦棒グラフ

   この選択は、**「表示スタイル」**で使用可能なオプションとレイアウト領域のフィールドに影響します。

   > **ノート:**
   >
   > Oracle Smart View for Office または Oracle Analytics Cloud でビューを編集している場合は、この選択を変更できません。

3. **「表示スタイル」**で、表 1 から**「ビュー・タイプ」**および**「表示スタイル」**オプションを選択します。

   表示スタイルによって、Excel にビューを挿入する方法が決まります。

   > **ノート:**
   >
   > Smart View または Oracle Analytics Cloud でビューを編集している場合は、この選択を変更できません。

表 31-1 選択したビュー・タイプと使用可能な表示スタイル

選択したビュー・タイプ	使用可能な表示スタイル
表	Excel テーブル 表
ピボット・テーブル(デフォルト)	Excel ピボット・テーブル(デフォルト) ピボット・テーブル
折れ線グラフ 棒グラフ 縦棒グラフ 面チャート 円グラフ 散布図 積上げ縦棒グラフ	Excel チャート チャート・イメージ

4. ビュー・レイアウトの定義 の手順に従って、ビュー設計プロセスを続行します。

ビュー・レイアウトの定義

ビューの作成プロセス中に、ビュー・レイアウトを定義します。ビュー・デザイナで作成されたビューのビュー・レイアウトを編集することも可能です。

ビュー・レイアウトを定義または編集するには:

1. まだ実行していない場合、ビュー・デザイナを起動します(ビュー・デザイナの起動を参照)。
2. 新しいビューを作成する場合、ビュー・タイプおよび表示スタイルの定義のステップを実行します。

   ビューを編集する場合、ステップ 3 に進みます。
3. ビュー・デザイナの左側のペインで、サブジェクト・エリアとフォルダを展開し、使用する列を表示します。
4. 展開したサブジェクト・エリア・ツリーから列をドラッグし、レイアウト領域にドロップします。

   レイアウト領域のエッジは、表 1 に示されているように**「ビュー・タイプ」**で行った選択によって異なります。

表 31-2 選択したビュー・タイプと「ビュー・デザイナ」のレイアウト領域で使用可能なエッジ

ビュー・タイプの選択	レイアウト領域のエッジ
表	**ページ**、**セクション**、**行**、**列**、**メジャー** **オプション:**「**行**」エッジで、「**行の総計**」チェック・ボックスを選択します。
ピボット・テーブル(デフォルト)	**ページ**、**セクション**、**行**、**列**、**メジャー** **オプション:**「**行**」エッジで、「**行の総計**」チェック・ボックスを選択します。 **オプション:**「**列**」エッジで、「**列の総計**」チェック・ボックスを選択します。
折れ線グラフ	**ページ**、**セクション**、**グループ化(X)**、**折れ線(X)**、**データ: 折れ線(Y)**

表 31-2 (続き) 選択したビュー・タイプと「ビュー・デザイナ」のレイアウト領域で使用可能なエッジ

ビュー・タイプの選択	レイアウト領域のエッジ
棒グラフ	**ページ**、**セクション**、**グループ化(X)**、**棒(X)**、**データ: 棒(Y)**
縦棒グラフ	**ページ**、**セクション**、**グループ化(X)**、**縦棒(X)**、**データ: 縦棒(Y)**
面チャート	**ページ**、**セクション**、**グループ化(X)**、**面(X)**、**データ: 面(Y)**
円グラフ	**ページ**、**セクション**、**円**、**スライス**、**スライス・サイズ**
散布図	**ページ**、**セクション**、**グループ化(X)**、**色による変化**、**データ**
積上げ縦棒グラフ	**ページ**、**セクション**、**グループ化(X)**、**棒(X)**、**データ: 棒(Y)**

5. **オプション:** 「ビュー・デザイナ」のエッジにドラッグした列で、該当する場合は次のタスクを実行します:

   - エッジ間で列を移動するには、あるエッジから列をドラッグして別のエッジにドロップします。たとえば、**「行」**エッジから列をドラッグして、**「列」**エッジにドロップします。
   - エッジ内で列を再配置するには、列名をクリックして、**上**矢印または**下**矢印を選択します。
   - エッジの列または行に小計を追加するには、列を右クリックして**「小計」**を選択します。

     > **ノート:**
     >
     > **「小計」**オプションをドロップダウン・メニューで選択できても、エッジの最後の列に適用される場合、このオプションは無視されます。

   - 列を追加してこのビューの条件をフィルタ処理するには、列をクリックして**「フィルタに追加」**を選択します。

     選択した列が**「フィルタの定義」**タブの**「フィルタ式」**領域に追加され、さらに詳細を定義できます。詳細は、「ビュー・デザイナ」でのビューに対するフィルタ式の定義を参照してください。
   - エッジから列を除去するには、列をクリックして**「除去」**を選択します。

6. **オプション:** 表またはピボット・テーブル・ビューを使用する場合は、表示スタイルに関係なく、次のようにします:

   - **ピボット・テーブル・ビュー:** **「行」**および**「列」**エッジで、必要に応じて**「行の総計」**および**「列の総計」**チェック・ボックスを選択またはクリアします。
   - **表ビュー:** **「行」**エッジで、**「行の総計」**チェック・ボックスを選択またはクリアします。

7. **オプション:** ピボット・テーブル表示スタイルを持つピボット・テーブル・ビューを使用する場合、**「メジャー・ラベル」**要素を使用して次のアクションを実行できます:

   - **「列」**エッジ内で**「メジャー・ラベル」**要素を並べ替えます。
   - **「メジャー・ラベル**を、**「メジャー」**エッジを*除く*他のエッジに移動します。

   「メジャー・ラベル」要素に関するノート:

- 「メジャー・ラベル」要素は、メジャー・エッジ内のすべてのメジャー列のラベルを表します。ビュー・デザイナでは、「メジャー・ラベル」要素はデフォルトで**「列」**エッジに表示されます。
- メジャー・ラベルが使用できるのは、**「ビュー・タイプ」**と**「表示タイプ」**の両方が**「ピボット・テーブル」**である場合のみです。
- 「メジャー・ラベル」要素の別のエッジへの移動または「列」エッジ内での並替えを試行します。結果として、ピボット・テーブル・レイアウトが読み取りやすくなる場合があります。
- メジャー・ラベルはビュー・デザイナから削除できません。
- メジャー・ラベルはメジャー・エッジに配置できません。

8. フィルタを定義するには、**「フィルタ」**タブをクリックして、「ビュー・デザイナ」でのビューに対するフィルタ式の定義に進みます。

   フィルタを定義する予定がない場合は、**「OK」**をクリックします:

   - 新しいビューを作成する場合、そのビューは Excel に挿入されます。
   - ビューを編集する場合は、古いビューが削除され、更新されたビューが挿入されます。

「ビュー・デザイナ」でのビューに対するフィルタ式の定義

ビュー・レイアウトの定義でフィルタ処理するために追加された列は、ビュー・デザイナの「フィルタの定義」タブの「フィルタ式」領域に自動的に追加されます。

新規ビューを作成している場合でも、既存のビューを編集している場合でも、フィルタ列を追加し、すべての列のフィルタをさらに定義および絞込みできます。

ビュー・デザイナで作成したビューにフィルタ式を定義または編集するには:

1. **「フィルタの定義」**タブを選択するビュー・レイアウトの定義のステップを実行します。

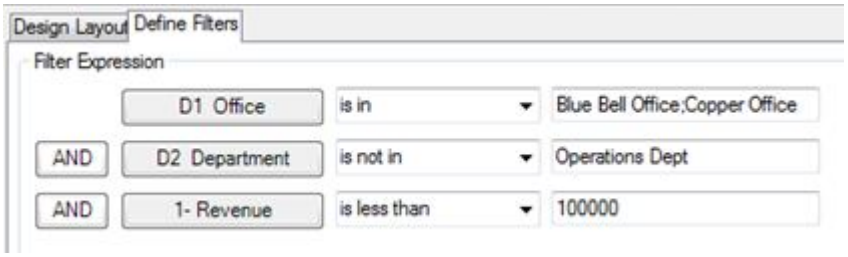
   フィルタ処理するために追加された列は、**「フィルタの定義」**タブに表示されます。
2. **オプション: 「フィルタの定義」**タブの**「フィルタ式」**領域に列を追加します。
3. **「フィルタ式」**で列を選択します。
4. 列名の横にあるドロップダウン・リストから、対応するフィルタ演算子を選択します。

   選択できる演算子のリストは、選択した列のタイプに基づいて移入されます。

   演算子を選択するガイドラインは、フィルタ演算子で説明します。
5. 

をクリックし、「値セレクタ」で選択して、最終列のフィルタ値を指定します。

   たとえば、Sample Sales データベースに基づく一連のフィルタは次のようになります:

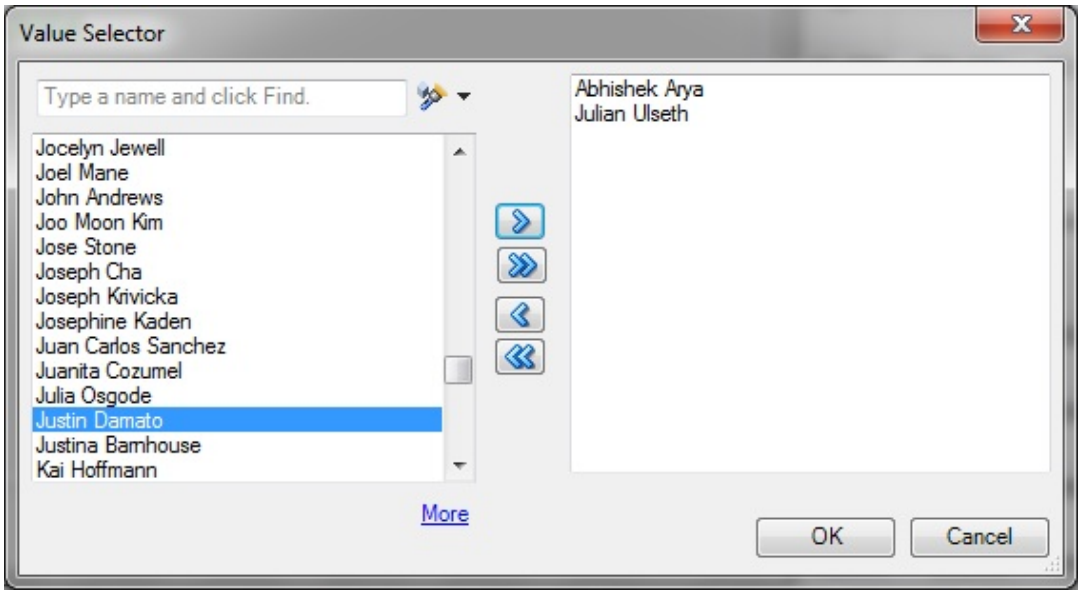


定義したフィルタは**「フィルタ要約」**ペインに要約されます。たとえば、このステップで定義されたフィルタでは、要約は次のようになります:



場合によっては、選択元のデータが非常に長いことがあります。値セレクタでの大量のデータのロードに対応するために、Oracle Smart View for Office では、値がグループ単位で表示されます。最初に表示されるページをスクロールして選択を行い、**「詳細」**をクリックすると、次のグループが表示され、そこから選択を行います。データ・リスト全体が表示され、そこから選択を行うまで、**「詳細」**をクリックし続けます。図 1 に例を示します。

図 31-20 大量のデータ用に「詳細」が表示されている「値セレクタ」

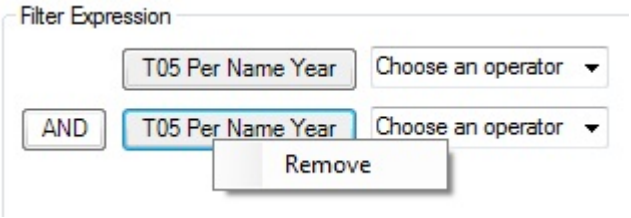


6. **オプション:** 必要に応じて、**「フィルタ式」**の論理演算子ボタンをクリックし、演算子を選択して変更します:
   - **AND**
   - **OR**

   デフォルトの論理演算子は**「AND」**です。

   フィルタ式の 1 つの行の論理演算子を変更すると、式のすべての行の論理演算子が自動的に変更されて、すべての行の演算子が同じになります。
7. **オプション:** フィルタ式から行を削除するには、行の列ボタンを右クリックして、図 2 に示すように**「削除」**を選択します。

図 31-21 フィルタ式の列を右クリックしたときに表示される除去オプション



8. フィルタの定義が終了したら、**「OK」**をクリックして Excel にビューを挿入します。

フィルタ演算子

演算子を選択して、必要な値を指定する際には、表 1 に示すガイドラインを使用します。選択できる演算子のリストは、実行している機能(フィルタの作成、またはダッシュボード・プロンプトの作成など)および選択した列のタイプに基づいて移入されます。

表 31-3 列フィルタ作成時の演算子の選択のガイドライン

演算子	使用ガイドライン
次と等しい/次にある	テキスト、数値または日付が含まれる列に対して有効です。1 つの値または複数の値を指定します。結果には、列のデータがフィルタの値と一致するレコードのみが含まれます。
次と等しくない/次にない	テキスト、数値または日付が含まれる列に対して有効です。1 つの値または複数の値を指定します。結果には、列のデータがフィルタの値と一致しないレコードのみが含まれます。
次より小さい	数値または日付が含まれる列に対して有効です。1 つの値を指定します。結果には、列のデータがフィルタの値より小さいレコードのみが含まれます。
次より大きい	数値または日付が含まれる列に対して有効です。1 つの値を指定します。結果には、列のデータがフィルタの値より大きいレコードのみが含まれます。
次以下	数値または日付が含まれる列に対して有効です。1 つの値または複数の値を指定します。結果には、列のデータがフィルタの値以下のレコードのみが含まれます。
次以上	数値または日付が含まれる列に対して有効です。1 つの値または複数の値を指定します。結果には、列のデータがフィルタの値以上のレコードのみが含まれます。
次の範囲内	数値または日付が含まれる列に対して有効です。2 つの値を指定します。結果には、列のデータがフィルタの 2 つの値の間にあるレコードのみが含まれます。

表 31-3 (続き) 列フィルタ作成時の演算子の選択のガイドライン

演算子	使用ガイドライン
NULL である	テキスト、数値または日付が含まれる列に対して有効です。値を指定しません。この演算子では、列にデータがないことのみがテストされます。結果には、列にデータがないレコードのみが含まれます。 データが存在するかどうかがわかれば便利な場合がありますが、null 演算子を使用すればそのような条件をテストできます。たとえば、会社に世界規模の住所録があり、米国の住所のみを抽出する必要があるとします。「State」フィールドにデータがあるかどうかを確認すれば、この作業を行うことができます。このフィールドには、米国以外の住所の場合は値が移入されず(null であり)、米国の住所の場合は値が移入されます(null ではありません)。列で特定の値をチェックしなくても、米国の住所リストを取得できます。
NULL でない	テキスト、数値または日付が含まれる列に対して有効です。値を指定しません。この演算子では、列にデータがあることのみがテストされます。結果には、列にデータがあるレコードのみが含まれます。
最上位である	テキストまたは日付が含まれる列に対して有効です。1 つの値を指定します。結果には、最初の n 件のレコードのみが含まれます(n はフィルタの値として指定した整数です)。 この演算子は、ランク付けされた結果に対して使用します。たとえば、この演算子を使用すると、アルファベット順で最初の 10 件のブランド名を含むリストを取得できます。
最下位である	テキストまたは日付が含まれる列に対して有効です。1 つの値を指定します。結果には、最後の n 件のレコードのみが含まれます(n はフィルタの値として指定した整数です)。 この演算子は、ランク付けされた結果に対して使用します。たとえば、この演算子を使用すると、最後の 10 件の販売取引の日付リストを取得できます。
最上位にあり	数値が含まれる列に対して有効です。1 つの値を指定します。結果には、最初の n 件のレコードのみが含まれます(n はフィルタの値として指定した整数です)。 この演算子は、ランク付けされた結果に対して使用します。たとえば、この演算子を使用すると、金額で販売上位 10 位のリストを取得できます。
最下位にあり	数値が含まれる列に対して有効です。1 つの値を指定します。結果には、最後の n 件のレコードのみが含まれます(n はフィルタの値として指定した整数です)。 この演算子は、ランク付けされた結果に対して使用します。たとえば、この演算子を使用すると、問題の報告が最も少ない顧客のリストを取得できます。
すべて含む	テキスト、数値または日付が含まれる列に対して有効です。1 つの値または複数の値を指定します。結果には、列のデータがフィルタのすべての値を含むレコードのみが含まれます。

表 31-3 (続き) 列フィルタ作成時の演算子の選択のガイドライン

演算子	使用ガイドライン
含まない	テキスト、数値または日付が含まれる列に対して有効です。1 つの値または複数の値を指定します。結果には、列のデータがフィルタの値をまったく含まないレコードのみが含まれます。
いずれかを含む	テキスト、数値または日付が含まれる列に対して有効です。1 つの値または複数の値を指定します。結果には、列のデータがフィルタの値を少なくとも 1 つ含むレコードのみが含まれます。
次で始まる	テキスト、数値または日付が含まれる列に対して有効です。1 つの値を指定します。結果には、列のデータがフィルタの値で始まるレコードのみが含まれます。
次で終わる	テキスト、数値または日付が含まれる列に対して有効です。1 つの値を指定します。結果には、列のデータがフィルタの値で終わるレコードのみが含まれます。
次と類似する(パターン照合)	テキストが含まれる列に対して有効です。1 つの値または複数の値を指定します。パーセント記号(%)をワイルドカード文字として使用する必要があります。最大で 2 つのパーセント記号を値に指定できます。結果には、列のデータがフィルタのパターン値と一致するレコードのみが含まれます。
次と類似しない(パターン照合)	テキストが含まれる列に対して有効です。1 つの値または複数の値を指定します。パーセント記号(%)をワイルドカード文字として使用する必要があります。最大で 2 つのパーセント記号を値に指定できます。結果には、列のデータがフィルタのパターン値と一致しないレコードのみが含まれます。

ビューの発行

ビュー・デザイナで作成するアド・ホック・ビュー定義を Oracle Smart View for Office に挿入した後に Oracle Analytics Cloud の Oracle BI プレゼンテーション・カタログに発行できます。アド・ホック・ビューを発行すると、複合ビューおよびタイトル・ビューのデフォルト・ビューと該当するユーザー作成ビューで、Oracle Analytics Cloud に新しい分析が作成されます。

編集していたビューを発行する際には、Oracle BI プレゼンテーション・カタログ内のビューを上書きすることも、ビューの新しい名前を指定して編集したバージョンを発行し、2 つのバージョンのビューを Oracle Analytics Cloud に保持することもできます。

Oracle BI プレゼンテーション・カタログにビューを発行するには:

1. ビュー・デザイナで作成または編集したビュー内にカーソルを置きます。
2. Oracle Analytics Cloud のリボンで、**「ビューの発行」**アイコン(ビューの発行)をクリックします。

図 31-22 「ビューの発行」アイコン



3. **「レポートの保存」**で、**「カタログのルート」**の隣の  をクリックし、Oracle BI プレゼンテーション・カタログ内でビューを保存する場所に移動します。
4. **「分析名」**に名前を入力します。

   編集したビューを発行する際は、同じ名前を指定して、編集したビューを上書きすることも、新しい名前を指定して、そのビューのオリジナル・バージョンをそのまま保持することもできます。
5. **「保存」**をクリックします。

   保存されるビューのコンポーネントには、Table 1、Pivot Table 1、Chart 1 などのデフォルトの命名ルールが適用されます。

例 31-1 ノート

- Smart View で作成および編集されたビューを発行する場合は、上書きする必要があります。
- Oracle BI プレゼンテーション・カタログで既存のビューを上書きする際、そのビューが Oracle Analytics Cloud で作成されたものである場合には、エラー・メッセージが表示されます。
- Oracle Analytics Cloud で行った変更を表示するには、ビューを再挿入する必要があります。
- 発行された後では、次のようにビューに変更を加えることができます。
  - ビューが Oracle Analytics Cloud で作成された場合は、Oracle Analytics Cloud を使用します。
  - Smart View で作成されたビューの場合は、Smart View で編集することも、Oracle Analytics Cloud で編集することも可能です。
- ビュー・デザイナで作成されたビューのデータをリフレッシュできます。

  「ビュー・デザイナ」で作成したアド・ホック・ビューはスナップショットとして残り、カタログに発行された分析との同期は維持されません。
- Oracle Analytics Cloud でビューに加えた変更は、Excel で表示するアド・ホック・ビューには反映されません。Oracle Analytics Cloud で加えた変更を表示するには、カタログ・ツリーから Smart View の新しいシートにビューを再挿入する必要があります。

「ビュー・デザイナ」で作成したビューの編集

次も参照:

- 「ビュー・デザイナ」で作成したビューの編集について
- 「ビュー・デザイナ」で作成したビューの編集のガイドライン
- 編集するビューへのアクセス
- ビューが作成された場所の特定
- 「ビュー・デザイナ」で作成したビューの編集

「ビュー・デザイナ」で作成したビューの編集について

ビュー・デザイナで作成または編集されたビューを編集するには、Oracle Smart View for Office のビュー・デザイナを使用します。

次の場合は、Smart View のビュー・デザイナを使用しないでください:

- Oracle Analytics Cloud で作成したビューを編集する場合
- Smart View で作成し、Oracle Analytics Cloud で編集したビューを編集する場合

ビューの編集のプロセス・フローには、次のタスクが含まれます:

- 「ビュー・デザイナ」で作成したビューの編集のガイドラインの情報のレビュー
- 編集するビューへのアクセス
- ビューが作成された場所の特定
- 「ビュー・デザイナ」で作成したビューの編集

「ビュー・デザイナ」で作成したビューの編集のガイドライン

- ビュー・デザイナを使用して編集できるのは、Oracle Smart View for Office のビュー・デザイナから作成および挿入されたビューのみです。
- Smart View で作成されたビューは、Oracle Analytics Cloud でも編集できます。ただし、Smart View で作成し、Oracle Analytics Cloud で編集したビューは、ビュー・デザイナで編集できなくなります。

  > **ノート:**
  >
  > Oracle Analytics Cloud で作成されたビューを編集するには Oracle Analytics Cloud アプリケーションを使用します(Oracle Analytics Cloud の分析の編集を参照してください)。

- ビュー・デザイナを使用して表ビューまたはピボット・テーブル・ビューを編集すると、Smart View によって置換操作が実行され、シートのビューが新たに編集されたビューで実際に置き換えられます。つまり、シート上の表が削除され、新しい表が挿入されます。新しい表の行または列が前の表よりも多い場合、ビュー・デザイナでビューを編集する前にシートに追加していたコンテンツまたは式が削除される可能性があり、それらを再び追加する必要があります。

編集するビューへのアクセス

> **ノート:**
>
> 次の手順は「ビュー・デザイナ」で作成したビューに適用されます。

編集するビューにアクセスするには:

1. 次のいずれかの方法でビューにアクセスします:

- **設計セッション中** - たとえば、ビュー・デザイナでビューを作成し、「OK」をクリックしてビューを挿入した後、Office ドキュメント内のビューを選択し、ビュー・デザイナ・アイコンをクリックして、編集するためのビュー・デザイナを再起動します。
- **保存済の Office ドキュメントのビューから** - Office ドキュメント内のビューを選択しビュー・デザイナ・アイコンをクリックして、編集するためのビュー・デザイナを再起動します。
- **プレゼンテーション・カタログ内の発行済ビューから** - **「ビュー・デザイナでのビューのロード」**コマンドを使用して、カタログ・ツリーから Oracle Smart View for Office のビュー・デザイナにビューをロードします。ビューを選択する際は、**「ビュー・デザイナでのビューのロード」**コマンドを、「アクション」パネルまたは右クリック・メニューから使用できます。

  編集するビューをカタログ・ツリーから選択するには、Office ドキュメントに最初に*挿入しない*でください。編集する際は、**「ビュー・デザイナでのビューのロード」**コマンドを必ず使用してください。

2. ビューが作成された場所の特定で説明しているプロセスに進み、ビュー・デザイナでビューを編集するかどうかを決定します。

> **ノート:**
>
> Oracle Analytics Cloud で作成されたビューを編集するために、Smart View のビュー・デザイナを使用しないでください。Oracle Analytics Cloud でビューを作成するために使用されたフォーマットおよび設計機能をビュー・デザイナがサポートしていない場合、ビューをロードできません。このため、ビュー・デザイナは、Smart View のビュー・デザイナを使用して作成および挿入されたビューのみを編集するために使用してください。

ビューが作成された場所の特定

Smart View でビューを編集する場合、Oracle Smart View for Office のビュー・デザイナでビューが作成されたかどうかを把握する必要があります。

シート上のビューが Smart View と Oracle Analytics Cloud のいずれで作成されたか不明な場合、「ドキュメント・コンテンツ」ペインでビューの作成元を確認できます。

ビューの作成元を特定するには:

1. ビューを含む Office ドキュメントを開きます。
2. 「ドキュメント・コンテンツ」ペイン内でビューを見つけ、ビュー名を右クリックして**「プロパティ」**を選択します。
3. **「ソースの表示」**フィールドの値が **AdHocDesigner** であることを確認してください。

   可能な値は次のとおりです:

   - **AdHocDesigner** - ビューの作成元は Smart View のビュー・デザイナです
   - **Catalog** - ビューの作成元は Oracle Analytics Cloud の Oracle BI プレゼンテーション・カタログです
   - **CopyFromAnswers** - ビューが Oracle Analytics Cloud からコピーされ、Smart View Office ドキュメントに貼り付けられます

AdHocDesigner とマークされるビューは、ビュー・デザイナで編集する必要のあるビューのみです。

場合によっては、Oracle Analytics Cloud で作成されたビューが、Smart View のビュー・デザイナにロードされる場合があることに注意してください。ビュー・デザイナで Oracle Analytics Cloud からのビューを操作する場合、自己責任で行ってください。ビュー・デザイナでのこれらのビューの編集はサポートされていません。サポートされているのは、Smart View のビュー・デザイナを使用して作成および編集されたビューの編集に対するビュー・デザイナの使用のみです。

4. **「ソースの表示」**プロパティが**「AdHocDesigner」**の場合、ビューをビュー・デザイナで編集できます。

   「ソースの表示」が **Catalog** または **CopyFromAnswers** の場合、Oracle Analytics Cloud でビューを編集します。

「ビュー・デザイナ」で作成したビューの編集

次も参照:

- 「ビュー・デザイナ」で作成したビューの編集について
- 「ビュー・デザイナ」で作成したビューの編集のガイドライン
- 編集するビューへのアクセス
- ビューが作成された場所の特定
- 「ビュー・デザイナ」で作成したビューの編集

「ビュー・デザイナ」で作成したビューのデータのリフレッシュ

ビュー・デザイナで作成したビューは、カタログ・ツリーから Office アプリケーションに挿入したビューをリフレッシュするのと同じ方法でリフレッシュできます。

詳細は、ビューのリフレッシュ・プリファレンスの指定およびビューのリフレッシュを参照してください。

32

Smart View と Essbase クラウド

次も参照:

- Smart View と Essbase クラウドについて
  Oracle Essbase は、サブスクリプションベースのビジネス分析ソリューションで、マーケットプレイスおよび Oracle Analytics Cloud を介して Oracle Cloud Infrastructure 上に構築およびデプロイされます。
- Smart View インストーラの実行
  Oracle Smart View for Office インストーラを実行する前に、Smart View の前提条件を確認します。
- Essbase へのデータ・ソース接続の作成
  Oracle Smart View for Office をインストールした後で、Oracle Essbase への接続を作成できます。
- 監査証跡でのユーザー・アクティビティの 追跡
  監査証跡は Oracle Essbase キューブに対するユーザー・アクティビティを 追跡します。

Smart View と Essbase クラウドについて

Oracle Essbase は、サブスクリプションベースのビジネス分析ソリューションで、マーケットプレイスおよび Oracle Analytics Cloud を介して Oracle Cloud Infrastructure 上に構築およびデプロイされます。

Oracle Smart View for Office を使用して、Microsoft Office で Essbase データを操作して分析、モデル化、コラボレーションおよびレポートを実行できます。

> **ノート:**
>
> この章の Essbase および Essbase クラウドとは、マーケットプレイスを介した Oracle Cloud Infrastructure 上の Essbase を指し、次のサービスが含まれています:
>
> - Essbase 19c
> - Essbase 21c
>
> Essbase クラウドは Oracle Analytics Cloud - Essbase も指します。

この項のトピックを使用して、Essbase をインストールし、接続します:

- Smart View インストーラの実行
- Essbase へのデータ・ソース接続の作成

その後、Essbase でデータの操作を開始できます。Smart View と Essbase の使用に関する情報は、このガイド全体に含まれています:

- ディメンションとメンバー

- データおよびデータ・セル
- アド・ホック分析
- アド・ホック・グリッドの属性関連付け処理の有効化
- 一般的な操作
- スマート・クエリー
- スマート・スライス
- クエリー・デザイナおよび MDX 問合せ
- Smart View のオプション
- 関数
- フリー・フォーム・モード
- Smart View 診断およびヘルス・チェック

この章での監査証跡の使用方法に関する情報。監査証跡でのユーザー・アクティビティの 追跡を参照してください。

Smart View インストーラの実行

Oracle Smart View for Office インストーラを実行する前に、Smart View の前提条件を確認します。

Smart View の前提条件

- Smart View の最新リリース

  Oracle テクニカル・リソースの**ダウンロード**・タブにある Smart View の最新リリースは常に動作保証されています。
- Microsoft Office
- Microsoft .NET Framework

具体的なバージョン要件は次に記載されています:

- *Oracle Essbase の使用*の Smart View インストーラのダウンロードと実行の Smart View の前提条件
- *Oracle Analytics Cloud - Essbase の使用*の Smart View インストーラのダウンロードと実行の Smart View の前提条件

Smart View のインストール

1. Oracle Essbase にログインします。
2. Oracle テクニカル・リソースの Smart View ダウンロード・ページにアクセスします:
   - Oracle Essbase 19c、21c の場合:
     a. Essbase にログインします。
     b. **「コンソール」**をクリックします。
     c. **「デスクトップ・ツール」**タブで、**「Smart View for Essbase」**の右にある「参照」アイコンをクリックします。
   - Oracle Analytics Cloud - Essbase:

a. アプリケーション・ホーム・ページで、**「ユーティリティ」**をクリックします。

b. **「ユーティリティ」**ページで、**「Smart View for Essbase」**を選択します。

3. Oracle テクニカル・リソースの Smart View のダウンロード・ページで、**「ライセンス契約に同意」**、**「今すぐダウンロード」**の順にクリックします。

   Oracle のサインイン・ページが表示される場合は、Oracle ユーザー名(通常は電子メール・アドレス)とパスワードでサインインします。

4. ブラウザのステップに従って.zip ファイルをダウンロードし、コンピュータ上のフォルダに保存します。

5. 前のステップで使用したフォルダに移動し、`smartview.exe` をダブルクリックしてインストール・ウィザードを起動します。

6. Smart View の宛先フォルダを選択し、**「OK」**をクリックします。

   新規インストールの場合、Smart View はデフォルトで `C:\Oracle\smartview` にインストールされます。Smart View のインストールをアップグレードする場合、インストーラでは、Smart View がインストールされていたフォルダにデフォルト設定されます。

7. インストールが完了したら**「OK」**をクリックします。

Essbase へのデータ・ソース接続の作成に進み、設定プロセスを続行します。

Essbase へのデータ・ソース接続の作成

Oracle Smart View for Office をインストールした後で、Oracle Essbase への接続を作成できます。

接続には、サーバーとポートに関する情報が必要です。クラウド・サービスの管理者は、接続の作成に必要な情報を提供する必要があります。クイック接続方法を使用して、クラウド・サービスへのプライベート接続を作成します。

クイック接続方法を使用してプライベート接続を作成するには:

1. Excel で、「Smart View」リボンを選択し、**「パネル」**をクリックします。

2. Smart View パネルで、**「切替え先」**ボタンの矢印をクリックし、リストから**「プライベート接続」**を選択します。

3. 引き続き「Smart View パネル」で、テキスト・ボックスに、接続するデータ・ソースの URL を入力します。

   URL 構文:

   ```
   https://server/essbase/smartview
   ```

4. **「実行」**をクリックするか、**[Enter]**を押します。

5. ログイン・ウィンドウで、ログイン資格証明を入力し、ドロップダウン・メニューからデータ・ソースを選択します。

Essbase でデータの操作を開始できます。詳細は、Smart View と Essbase クラウドにリストされている機能領域を参照してください。

監査証跡でのユーザー・アクティビティの 追跡

監査証跡は Oracle Essbase キューブに対するユーザー・アクティビティを 追跡します。

次も参照:

- 監査証跡について
- 監査証跡の起動
- 監査証跡のコンテンツのシートへのエクスポート
- 監査証跡エントリのリストのリフレッシュ
- 監査証跡エントリからのアド・ホック・グリッドの開始

監査証跡について

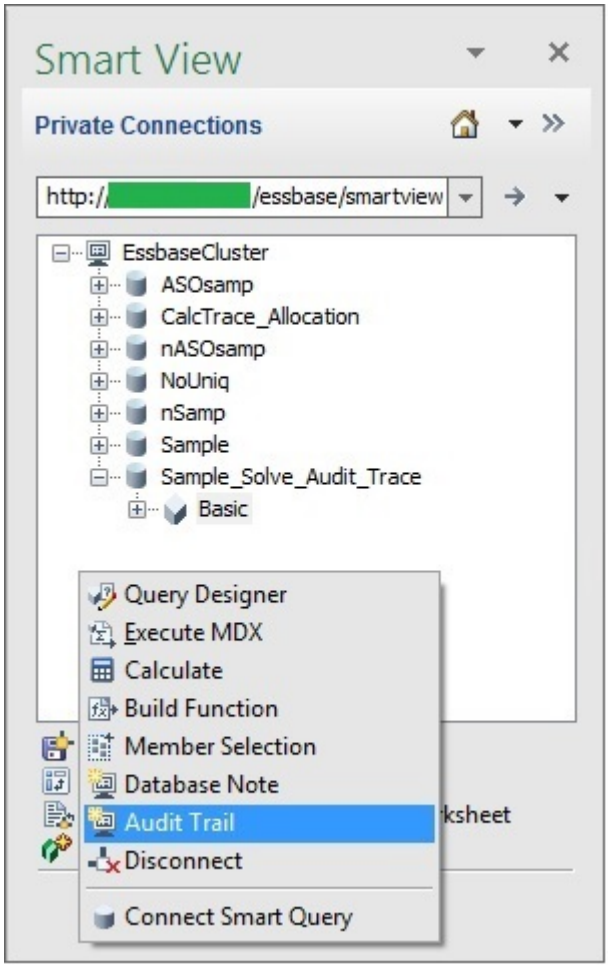
データ・ソース・タイプ: Oracle Essbase クラウド

監査証跡は Essbase キューブに対するユーザー・アクティビティを 追跡します。

Oracle Smart View for Office 11.1.2.5.710 以降、Essbase に接続した際のデータの入力を追跡できます。たとえば、監査証跡をアクティブ化すると、アド・ホック・グリッドのすべての書込み可能セルにあるデータの更新と発行を追跡して、監査証跡のリスト項目として表示できます。

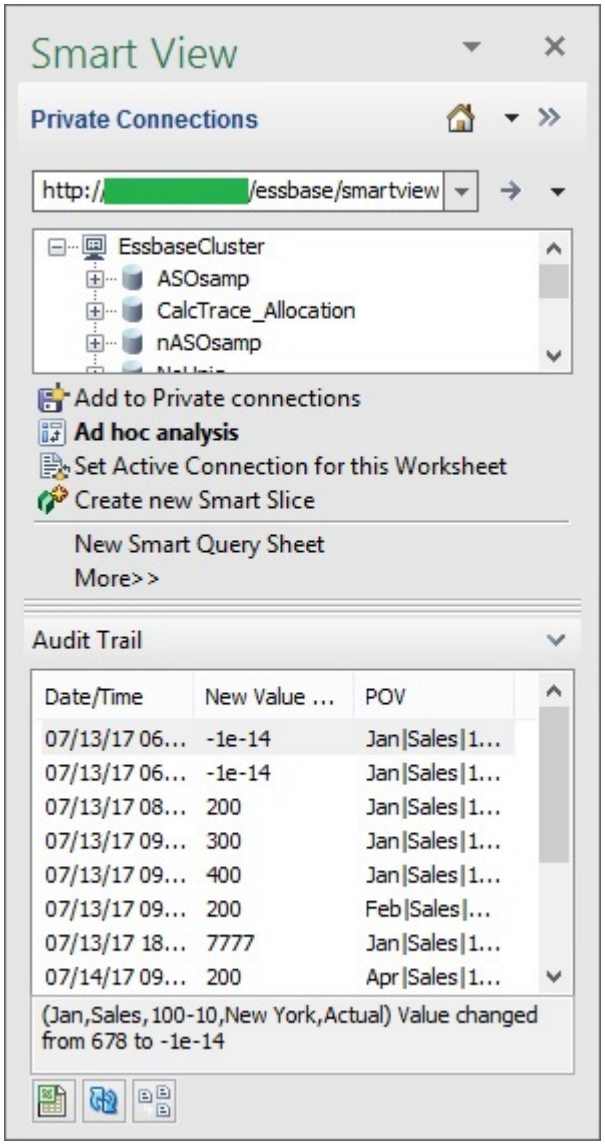
Smart View は、監査証跡アクティビティを Smart View パネル内のペインに記録します。キューブに接続した後で、アクション・パネルで**「監査証跡」**を選択して「監査証跡」ペインにアクセスします。

図 32-1 アクション・パネルのコンテキスト・メニューでの「監査証跡」の選択



「監査証跡」ペインは Smart View パネル内に表示されます。例:

図 32-2 「監査証跡」ペインの例



追跡したユーザー・アクティビティごとに 次の情報が格納されます。

- ユーザー ID
- 日付/時間
- 操作のタイプ
- コメント/リンク・レポート・オブジェクト(LRO)
- 新しい値
- 古い値
- POV メンバー

「日付/時間」、「新規の値」、「LRO」および「POV」のみが「監査証跡」ペインに表示されます。「監査証跡」内でログ・エントリを選択すると、ペインの一番下にその他の情報が表示されます。エントリの詳細をエクスポートすると、そのエントリのすべえの情報を確認できます。

「監査証跡」ペインのログ・エントリのリストをリフレッシュすることや、選択したエントリを別のシートで開いて、そのエントリの POV を表示することもできます。

監査証跡の起動

Smart View パネルのアクション・パネルから「監査証跡」ペインを起動します。

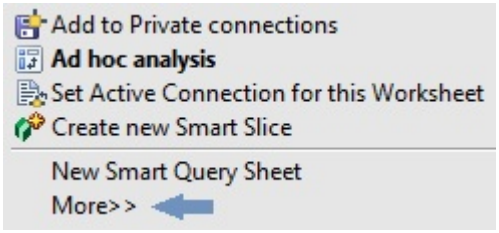
「監査証跡」ペインを起動するには:

1. プライベート接続を使用して Oracle Essbase データ・ソースにサインインし、キューブに接続します。

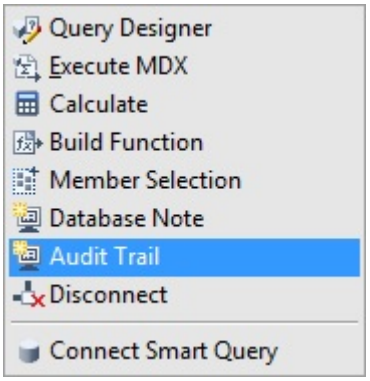
   詳細は、データ・ソースへの接続を参照してください。

2. アクション・パネルで、**「詳細」**を選択し、ポップアップ・メニューから**「監査証跡」**を選択します。

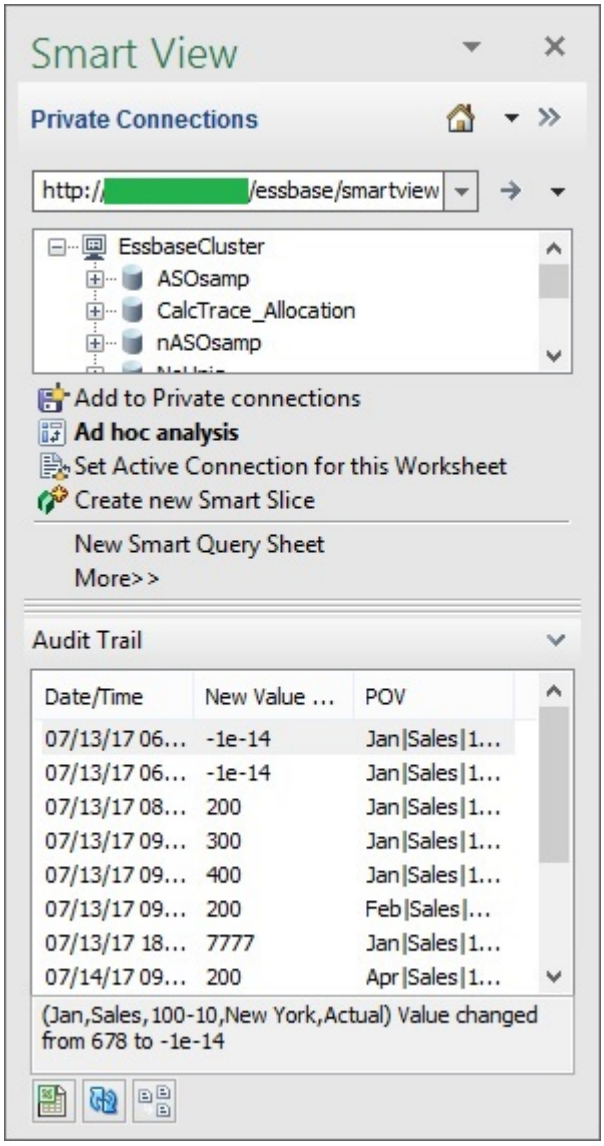
   アクション・パネルは Smart View パネルの一番下にあり、接続しているデータ・ソースとキューブに固有のアクション項目が含まれます。



「詳細」を選択すると、ポップアップ・メニューが表示され、そこで**「監査証跡」**を選択できます。



「監査証跡」ペインは Smart View パネルの一番下の部分に表示されます



ここで、**「監査証跡」**ペインの一番下にある 3 つのボタンを使用して項目を操作できます。



3. 次のいずれかのアクションを行います:
   - 監査証跡のコンテンツを別のシートにエクスポートします
     監査証跡のコンテンツのシートへのエクスポートを参照してください。
   - **「監査証跡」**ペインの項目のリストをリフレッシュします
     監査証跡エントリのリストのリフレッシュを参照してください
   - 監査証跡リストの項目に基づいてアド・ホック・シートを開きます
     監査証跡エントリからのアド・ホック・グリッドの開始を参照してください

監査証跡のコンテンツのシートへのエクスポート

各エントリの詳細など監査証跡の項目を Excel シートにエクスポートし、保存して分析することができます。

監査証跡のコンテンツをワークシートにエクスポートするには:

1. 監査証跡の起動の説明に従って、特定の Oracle Essbase キューブの**「監査証跡」**ペインを起動します。
2. **「監査証跡」**ペインの一番下で**「シートにエクスポート」**  をクリックします。

   「監査証跡」に表示されていない詳細も含めてすべてのエントリが、新しいワークシートにエクスポートされます。詳細には、次の情報が含まれます。

   - ユーザー ID
   - 日付/時間
   - 操作のタイプ
   - トランザクション ID
   - Scenario
   - コメント/リンク・レポート・オブジェクト(LRO)
   - 新しい値
   - 古い値
   - POV メンバー

   シート内のエントリは並べ替えたりフィルタ処理したりすることができます。列によっては見出しやエントリが見えるように幅を広げる必要があります。

   次に示す例は、監査証跡のコンテンツがシートにエクスポートされた最初の状態です。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
1	User	Date/T	Cell No	New Va	Old Val	Operat	Scenari	Transac	Membe	Membe	Membe	Members	Members
2	<user>	########		200	99	INPUT		0	Jan	Sales	100-10	New York	Actual
3	<user>	########		949	645	INPUT		0	Feb	Sales	100-10	New York	Actual
4	<user>	########		99	2200	INPUT		0	Jan	Sales	100-10	New York	Actual
5	<user>	########		1212	4860	INPUT		0	Jan	Sales	100-10	Market	Scenario
6	<user>	########		112	111	INPUT		0	Jan	Sales	100	East	Actual
7	<user>	########		111	2105	INPUT		0	Jan	Sales	100	East	Actual
8	<user>	########	[http://www.oracle.com] with			INPUT		0	Jan	Misc	Product	Market	Budget
9	<user>	########	[TestFunction.xlsx] with descri			INPUT		0	Jan	Misc	Product	Market	Actual
10	<user>	########	[Some Cell Note Here] is attach			INPUT		0	Jan	Misc	Product	Market	Scenario
11	<user>	########		23	75	INPUT		0	Jan	Misc	Product	Market	Scenario
12	<user>	########		21321	17378	INPUT		0	Jan	Margin	Product	Market	Scenario

   列によっては見出しやエントリが見えるように幅を広げる必要があります。
3. ワークシートは保存することも、ただ閉じることもできます。

監査証跡エントリのリストのリフレッシュ

「監査証跡」を起動した後で、監査証跡に記録されるいくつかのアクションを実行したとします。最新のエントリを表示するには、**「監査証跡」**ペインをリフレッシュする必要があります。

「監査証跡」ペインをリフレッシュするには:

1. 監査証跡の起動の説明に従って、特定の Oracle Essbase キューブの**「監査証跡」**ペインを起動します。
2. シートで様々なアクションを実行した後で、「リフレッシュ」  をクリックします。
3. **「監査証跡」**ペインに追加された新しいエントリを確認します。

監査証跡エントリからのアド・ホック・グリッドの開始

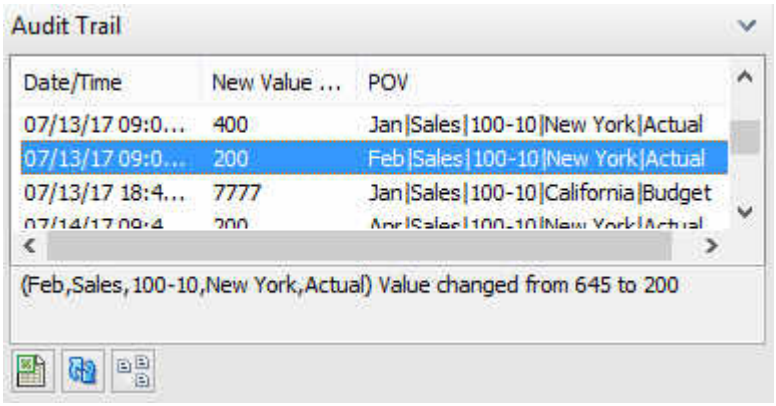
「監査証跡」ペインのリストからエントリを選択して、アド・ホック・グリッドを開始できます。アド・ホック・グリッドは、選択した監査証跡エントリの POV に基づいて構成されます。

監査証跡リストのエントリからアド・ホック・グリッドを開始するには:

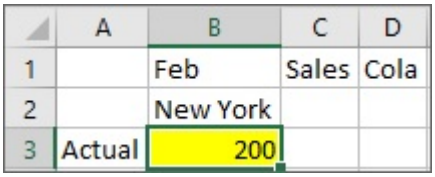
1. 監査証跡の起動の説明に従って、特定の Oracle Essbase キューブの**「監査証跡」**ペインを起動します。
2. **「監査証跡」**ペインでエントリを選択し、ペインの一番下にある**選択した POV のアド・ホック**  をクリックします。

   選択したエントリの POV に基づくアド・ホックが、アクティブなワークシートとして開きます。

   たとえば、次のエントリを選択したとします。エントリ・リストの下に示されているように、「新規の値」が 200、「POV」が Feb、Sales、100-10、New York、Actual です。



 をクリックすると、次のアド・ホック・グリッドが表示されます。



3. 他のアド・ホック・グリッドと同様にグリッドを使用します。
4. 必要に応じて、他の監査証跡エントリでもこれらのステップを繰り返します。

33

Smart View 診断およびヘルス・チェック

次も参照:

- Smart View 診断およびヘルス・チェックについて
  Oracle Smart View for Office 診断ツールを使用すると、Oracle サポート用の情報を収集できます。**「ヘルス・チェック」**を使用すると、Smart View のパフォーマンスを最適化でき、システムに関する情報を迅速に確認できます。
- Smart View 診断ツールの使用
  Oracle Smart View for Office 診断ツールを使用して、Oracle サポートが問題をトラブルシューティングするうえで役立つ情報を収集します。
- システムのヘルス・チェックの実行
  システムのヘルス・チェックを実行して、パフォーマンスを最適化できます。
- Microsoft Office ドキュメントのヘルス・チェックの実行
  ヘルス・チェックを実行して、Microsoft Excel ワークブック、Word ドキュメントまたは PowerPoint プレゼンテーションのパフォーマンスを最適化できます。

Smart View 診断およびヘルス・チェックについて

Oracle Smart View for Office 診断ツールを使用すると、Oracle サポート用の情報を収集できます。**「ヘルス・チェック」**を使用すると、Smart View のパフォーマンスを最適化でき、システムに関する情報を迅速に確認できます。

Smart View の操作中に、自身で解決できない問題が発生する場合があります。Smart View のリボンにある**「診断」**グループのツールを使用して、ファイルとスクリーンショットを作成して収集し、Oracle サポートに送信します。収集したファイルおよびスクリーンショットは、問題をトラブルシューティングおよび解決するために Oracle サポートで使用されます。

「ヘルス・チェック」ダイアログを使用して、パフォーマンスを最適化し、マシン、Microsoft Office バージョン、Smart View バージョンおよびインストールした拡張機能に関する情報を取得することもできます。

関連トピック:

Smart View 診断ツールの使用

システムのヘルス・チェックの実行

Microsoft Office ドキュメントのヘルス・チェックの実行

Smart View 診断ツールの使用

Oracle Smart View for Office 診断ツールを使用して、Oracle サポートが問題をトラブルシューティングするうえで役立つ情報を収集します。

Related Topics

- Smart View リボンの診断グループの表示
  Smart View リボンの**「診断」**オプションを表示または非表示するように選択できます。

- 診断機能のカスタマイズ
  診断ツールの特定の機能をカスタマイズできます。
- Smart View 診断ツールの使用
  Oracle Smart View for Office 診断ツールを使用して、ログ・ファイルおよびスクリーンショットの形式で問題に関するデータを収集します。
- 「トラフィックのトレース」ツールの使用
  「トラフィックのトレース」ツールを使用して、ネットワーク・トラフィック・ログをリアルタイムで簡単に表示し、トラフィックを取得し、さらに診断するためにインポートできます。
- 診断フォルダの消去
  診断 zip ファイルを Oracle サポートに送信したら、診断フォルダのファイルをクリアできます。

Smart View リボンの診断グループの表示

Smart View リボンの**「診断」**オプションを表示または非表示するように選択できます。

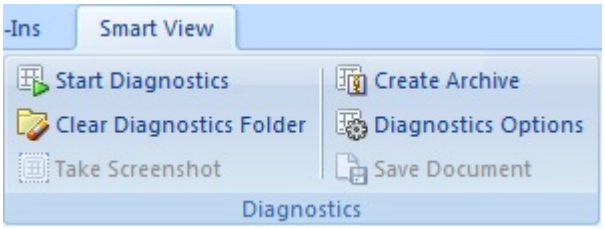
Oracle Smart View for Office を最初にインストールして開いたときには、**「診断」**オプションは表示されません。

「診断」オプションのグループを表示するには:

1. 問題が発生している Office アプリケーションを開きます。
2. Smart View リボンから、**「オプション」**を選択し、**「詳細」**タブを選択します。
3. **「詳細」**で、**「Smart View リボンの診断グループを表示」**を選択し、**「OK」**をクリックして**「オプション」**ダイアログ・ボックスを閉じます。

   「診断」グループが Smart View のリボンに自動的に表示されます(図 1 を参照)。Office アプリケーションを再起動する必要はありません。

図 33-1 Smart View リボンの診断グループのツール



4. 問題が発生している各 Office アプリケーションで、この手順を繰り返します。

> **ノート:**
>
> **「診断」**グループは、各 Office アプリケーションで個別に有効にする必要があります。**「診断」**グループは、有効にするまで他の Office アプリケーションでは表示されません。

5. **オプション:** **「診断」**ツールの使用が終了したとき、Smart View リボンの**「診断」**グループを非表示にするには、**「オプション」**ダイアログ・ボックスの**「詳細」**タブで、**「診断」リボン・タブの表示**チェック・ボックスをクリアします。

診断機能のカスタマイズ

診断ツールの特定の機能をカスタマイズできます。

このトピックの手順では、**「診断オプション」**ダイアログ・ボックスで使用可能な各オプションについて説明します。

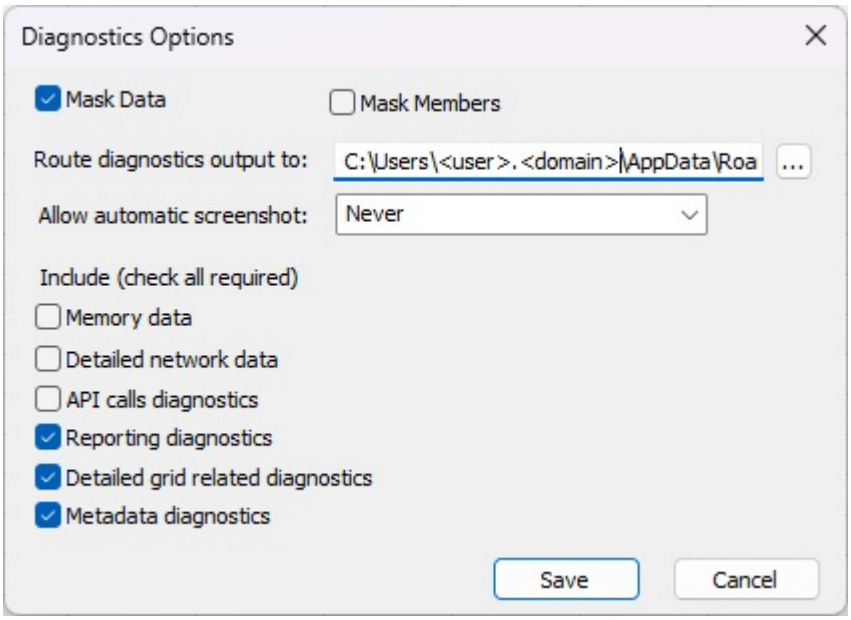
> **ノート:**
>
> 次に示す手順のステップはすべてオプションです。

「診断」ツールをカスタマイズするには:

1. Smart View リボンの**「診断」**グループで、**「診断オプション」**を選択します。

   図 1 に示すように、**「診断オプション」**が表示されます。

図 33-2 「診断オプション」ダイアログ・ボックス



2. Office ドキュメントのデータ値を非表示にするには、**「データのマスク」**を選択します(デフォルトで選択されています)。

   機密保持の目的で出力内のデータ値を非表示にする必要がある場合は、このオプションが選択されていることを確認してください。

> **ノート:**
>
> **「データのマスク」**または**「メンバーのマスク」**(次のステップを参照)あるいはその両方を選択すると、10,000+セルのグリッドなどの大きいグリッドのパフォーマンスに大きな影響を与える可能性があります。

3. Office ドキュメントのメンバー名を非表示にするには、**「メンバーのマスク」**を選択します。

   機密保持の目的で出力内のメンバー名を非表示にする必要がある場合、このオプションを選択します。

4. 診断出力ファイルをデフォルト以外のフォルダに送るには、**「診断出力のルーティング先」**で、をクリックし、ファイルを保管するフォルダの場所に移動します。

   フォルダの場所を手動で入力することもできます。

   デフォルトのフォルダの場所は次のとおりです:

   ```
   C:\Users\<user.domain>\AppData\Roaming\Oracle\SmartView\Diagnostics
   ```

5. 表示される各警告またはエラー・メッセージで自動スクリーンショットを許可するには、次のオプションを選択します:

   - **エラー**
   - **警告**

   自動スクリーンショットを許可しない場合、**「なし」**(デフォルト)を選択します。

6. 必要に応じて次のオプションを選択します:

   - **メモリー・データ**
   - **詳細ネットワーク・データ**
   - **API コール診断**
   - **レポート診断**—デフォルトで選択されています
   - **詳細グリッド関連診断**—デフォルトで選択されています
   - **メタデータ診断**—デフォルトで選択されています

   前述のように、特定の項目はデフォルトで選択されています。多くの場合は、これらが問題の診断に必要なすべてです。

   残りの項目が問題の領域と考えられる場合、または Oracle サポートからそのようにアドバイスされた場合は、残りの項目を選択します。問題に関係がないと考えられる項目の選択は解除することもできます。

   > **ノート:**
   >
   > 診断が使用可能で**「メモリー・データ」**オプションが選択されている場合、Oracle Smart View for Office のパフォーマンスが低下し、最大で通常の 2 倍遅くなる可能性があります。
   >
   > メモリーの問題が発生した場合のみ、このオプションを選択する必要があります。たとえば、32 ビット・マシンで、Smart View が異常終了したり、大きいスプレッドシートのロードに時間がかかりすぎる場合は、診断の収集時に**「メモリー・データ」**を選択する必要があります。

7. **「保存」**をクリックして、オプションの選択を保存します。

Smart View 診断ツールの使用

Oracle Smart View for Office 診断ツールを使用して、ログ・ファイルおよびスクリーンショットの形式で問題に関するデータを収集します。

収集するデータは、セッション・フォルダ(デフォルトの診断フォルダの場所または診断機能のカスタマイズで指定する場所)に格納されます。診断データの収集が終了したら、診断ツールを使用してファイルを zip フォーマットで圧縮します。その後、ZIP ファイルを分析用に Oracle サポートに送信します。

このトピックの手順では、診断データの収集、zip フォーマットでの圧縮および Oracle サポートへの送信の方法について説明します。

Smart View 診断ツールを使用するには:

1. **「診断の開始」**をクリックします。

   「診断の開始」をクリックすると、Microsoft Office の再起動に関するメッセージが表示されます。Office を再起動する必要はありませんが、再起動することをお薦めします。Office を再起動すると、診断ツールでは、より多くの情報(発生する可能性がある問題の原因となるステップなど)を収集できます。

   > **ノート:**
   >
   > **「診断の開始」**をクリックすると、メニューは**「診断の停止」**に切り替わります。

2. Office を再起動した場合、診断している問題の原因となる Smart View でステップを実行します。
3. **オプション: 「トラフィックのトレース」**アクションを使用して、**「ネットワーク・トラフィック・トレース」**ダイアログを起動します。ここで、リクエスト・ログおよびレスポンス・ログを含むネットワーク・トラフィックの詳細を時系列で表示して取得できます。

   トラフィックのトレースツールを使用するには、「トラフィックのトレース」ツールの使用を参照してください。
4. **「スクリーンショットの取得」**をクリックして、問題を文書化する際に役立ちそうなスクリーンショットを取得できます。

   > **ノート:**
   >
   > スクリーンショットには、アプリケーションだけではなく、画面全体が含まれます。スクリーンに表示される可能性がある機密情報は、スクリーンショットに含まれないように、必ず最小限になるようにしてください。

5. **「ドキュメントの保存」**をクリックして、現在開いている Office ドキュメントを、現在のセッションの診断フォルダに保存します。

   必要に応じて、ドキュメントの保存を複数実行できます。問題を最適に示し、表示するために、行っている作業中に様々なポイントでドキュメントを保存することをお薦めします。保存するたびに、Smart View では、ファイル名に接尾辞を追加します((0)、(1)、(2)など)。ドキュメントは上書きされません。

ドキュメントは現在の診断セッション・フォルダに保管されます。デフォルトの場所は次のとおりです:

```
C:\Users\username.domain\AppData\Roaming\Oracle\SmartView\Diagnostics
```

6. Oracle サポートに問題を適切に文書化するために必要な診断情報を収集し終えたら、**「診断の停止」**をクリックします。
7. **「アーカイブの作成」**をクリックし、**「アーカイブの作成」**ダイアログ・ボックスで、アーカイブを保存するフォルダとファイル名を指定するか、デフォルトのフォルダの場所とファイル名を使用します。

   ファイルは、システムの「マイ ドキュメント」フォルダに次のように保管されます:

   ```
   My Documents\Documents
   ```

   ファイルは次のフォーマットで名前が付けられます:

   ```
   SmartView_Diagnostics_ddmmyyyy.zip
   ```

8. Oracle サポートで、問題のサービス・リクエスト(SR)に zip ファイルを添付します。

「トラフィックのトレース」ツールの使用

「トラフィックのトレース」ツールを使用して、ネットワーク・トラフィック・ログをリアルタイムで簡単に表示し、トラフィックを取得し、さらに診断するためにインポートできます。

Oracle Smart View for Office に組込みの**「トラフィックのトレース」**ツールは、ユーザーが Smart View に固有のネットワーク・トラフィックの詳細をリアルタイムで表示および取得するのに役立ち、Oracle サポートが問題をデバッグする機能を向上させます。

「トラフィックのトレース」ツールは、Smart View リリース 24.200 以降で利用できます。

「トラフィックのトレース」ツールを使用すると、次のことができます:

- ネットワーク・トラフィック・ログの表示と取得に説明されているとおり、ネットワーク・トラフィック・ログを取得しながら、リアルタイムで簡単に表示します
- 取得したネットワーク・トラフィック・ログをインポートして、さらに診断を行う方法は、取得されたネットワーク・トラフィック・ログのインポートに説明されています

ネットワーク・トラフィック・ログの表示と取得

ネットワーク・トラフィック・トレースを開始する前に診断を開始するか、最初に診断を開始せずにネットワーク・トラフィック・トレースを直接開始するかのどちらもできます。**「診断の開始」**オプションを使用すると、ネットワーク・トラフィック・ログも取得されます。ただし、**「トラフィックのトレース」**オプションを使用すると、**「ネットワーク・トラフィック・トレース」**ダイアログで、リアルタイムでリクエスト・ログおよびレスポンス・ログを表示できます。

リアルタイムでネットワーク・トラフィック・ログを表示して取得するには:

1. 「Smart View」リボンで、**「診断」**の**「トラフィックのトレース」**をクリックします。

> **Note:**
>
> **「診断」**グループ・アクションが「Smart View」リボンに表示されます。これは、**「Smart View リボンの診断グループを表示」**オプションを**「オプション」**ダイアログの**「詳細」**タブで有効にした場合です。

2. **「ネットワーク・トラフィック・トレース」**ダイアログで、**「Smart View トラフィック」**オプションを**「取得」**リストから選択し、**「取得の開始」**をクリックします。
取得されたリクエスト・ログおよびレスポンス・ログを含むネットワーク・トラフィックの詳細を時系列で表示できます。
   - 各ログ・エントリのリクエストおよびレスポンスのタイムスタンプを表示するには、**「時間の表示」**チェック・ボックスを選択します
   - 現在のセッションで表示できるすべてのリクエストおよびレスポンスをクリアするには、**「ネットワーク・トラフィック・トレース」**ダイアログで、**「クリア」**をクリックします。表示のみがクリアされることに注意してください。ネットワーク・トラフィック・ログ・ファイルが、**Diagnostics** フォルダから削除されることはありません。

> **Note:**
>
> - **「取得の開始」**ボタンをクリックすると、**「取得の停止」**に切り替わります。
> - 最初に診断を開始しなくても、いつでもトラフィックのトレースを開始できます。**「取得の開始」**を**「ネットワーク・トラフィック・トレース」**ダイアログでクリックすると、**「診断の開始」**メニューが自動的に**「診断の停止」**に切り替わり、診断がトラフィックの詳細と一緒に取得されることが示されます。

3. トレースするアクションを取得したら、**「取得の停止」**をクリックし、**「閉じる」**をクリックし、**「ネットワーク・トラフィック・トレース」**ダイアログを閉じます。
ネットワーク・トラフィック・ログは、次のデフォルトの場所にある **Diagnostics** フォルダに保存されます:

```
C:\Users\[computeruserfolder]\AppData\Roaming\Oracle\SmartView\Diagnostics
```

取得されたネットワーク・トラフィック・ログのインポート

以前に取得されたネットワーク・トラフィック・ログは、**「トラフィックのトレース」**ツールにインポートして、さらに診断や分析を行えます。

> **Note:**
>
> Oracle Smart View for Office 24.200 以降を使用して生成および取得されたネットワーク・トラフィック・ログのみが、**「トラフィックのトレース」**ツールにインポートできます。以前のバージョンの Smart View を使用して生成された診断ログは、**「トラフィックのトレース」**ツールへのインポートではサポートされません。

取得したネットワーク・トラフィック・ログをインポートするには:

1. 「Smart View」リボンで、**「診断」**の**「トラフィックのトレース」**をクリックします。

> **Note:**
>
> **「診断」**グループ・アクションが「Smart View」リボンに表示されます。これは、**「Smart View リボンの診断グループを表示」**オプションを**「オプション」**ダイアログの**「詳細」**タブで有効にした場合です。

2. **「ネットワーク・トラフィック・トレース」**ダイアログで、**「インポート」**をクリックします。フォルダ選択ダイアログが起動します。
デフォルトの場所が、Diagnostics フォルダに開きます:

   ```
   C:\Users\[computeruserfolder]\AppData\Roaming\Oracle\SmartView\Diagnostics
   ```

   このフォルダには、少なくとも 1 つのタイムスタンプ付きフォルダがあることがわかります。

3. ドキュメントをインポートするタイムスタンプ付きフォルダを選択し、**「インポート」**をクリックします。
通常は、このトレースを実行する日時に対応するタイムスタンプ付きのフォルダを選択します。

   たとえば、フォルダは次のようになります:

   ```
   2024-09-10T09.50.45_2712Smart View
   ```

   タイムスタンプ付きフォルダを選択することに注意してください。そのタイムスタンプ付きフォルダ内の XML フォルダなどのサブフォルダは選択しないでください。サブフォルダを選択した場合、何もインポートされません。

4. 各ログ・エントリについて、「リクエスト・ヘッダー」、「リクエスト Cookie」、「リクエスト本文」、「レスポンス・ヘッダー」、「レスポンス Cookie」、「レスポンス本文」の各タブの詳細を確認します。
   - リクエストおよびレスポンスの本文の詳細をメモ帳で表示するには、**メモ帳で開く**をクリックします。
   - 現在のリクエスト・ファイルとレスポンス・ファイルが保存されている現在の作業ディレクトリを開くには、**「場所を開く」**をクリックします。
5. **「閉じる」**をクリックし、**「ネットワーク・トラフィック・トレース」**ダイアログを閉じます。

診断フォルダの消去

診断 zip ファイルを Oracle サポートに送信したら、診断フォルダのファイルをクリアできます。

> **ノート:**
>
> 診断の実行中に診断フォルダをクリアすると、現在開いている Microsoft Office アプリケーションの現在のセッション・フォルダを除くすべてのフォルダがクリアされます。診断が実行されていないときに診断フォルダをクリアすると、すべての最新のセッション・フォルダを含むすべての診断フォルダがクリアされます。

現在のセッション・フォルダを除くすべての診断フォルダのクリア

現在のセッション・フォルダを除くすべての診断フォルダをクリアするには:

1. 診断が実行中であることを確認します。
2. **「診断フォルダのクリア」**をクリックします。
   このアクションによって、現在実行中の Office アプリケーション用に作成されたものを除くすべての診断フォルダがクリアされます。

最新のセッション・フォルダを含むすべての診断フォルダのクリア

最新のセッション・フォルダを含むすべての診断フォルダをクリアするには:

1. Smart View リボンの**「診断」**グループで、**「診断の停止」**をまだクリックしていない場合はクリックします。
2. 問題が発生しているものも含み、開いているすべての Office アプリケーションを閉じます。
3. 任意の Office アプリケーションを開き、**「診断フォルダのクリア」**をクリックします。
   このアクションによって、Office アプリケーションの最新のセッション・フォルダを含むすべての診断フォルダがクリアされます。

システムのヘルス・チェックの実行

システムのヘルス・チェックを実行して、パフォーマンスを最適化できます。

ヘルス・チェックを実行すると、特定のレジストリ設定、Microsoft Office バージョン、Oracle Smart View for Office バージョンおよびインストールした拡張機能など、マシンに関する情報を取得することもできます。

> **ノート:**
>
> ヘルス・チェック機能は、Smart View を Excel とともに使用している場合にのみ使用できます。

ヘルス・チェックを実行するには:

1. Excel の Smart View のリボンから、**「ヘルプ」**の隣にある矢印をクリックし、**「ヘルス・チェック」**を選択します。

   「ヘルス・チェック」ダイアログが表示されます。
2. 次のシステム情報を確認します。この情報は編集できません:
   - **バージョン情報** - オペレーティング・システム、Excel のバージョン、Smart View のバージョン、Internet Explorer のバージョン、WebView2 ランタイムのバージョン、.NET Framework のバージョン

> **ノート:**
>
> – Microsoft Edge WebView2 ランタイムがインストールされている場合、**「WebView2 Runtime バージョン」**にバージョン番号が表示されます。WebView2 を使用可能または使用不可にするには、次のステップで**「Smart View のオプション」**グループの**「WebView2 Runtime」**オプションを参照してください。
>
> – WebView2 ランタイムがインストールされていない場合、**「WebView2 Runtime バージョン」**には**「なし」**と表示され、**「Smart View のオプション」**グループに**「WebView2 Runtime」**オプションは表示されません。

> **ノート:**
>
> Smart View は、次のダイナミック・リンク・ライブラリファイル(DLL)を使用して特定の機能を実装します:
>
> – **BIPlusConnector.dll:** これは、拡張機能、レポート、検索、セル・アクション、新しいシートでのドリルスルーなどの機能の管理に使用されます。
>
> – **Profiler.dll:** これは診断の管理に使用されます。
>
> – **HsSpread.dll:** これは拡張機能の管理に使用されます。
>
> リリース・バージョンや登録ステータスを表示できます。
>
> – DLL が正しく登録されている場合、ステータスは「登録済」と表示されます。たとえば、「24.100 / 登録済」が表示されます。
>
> – DLL が正しく登録されていない場合、ステータスは「未登録」と表示されます。このような場合は、**「登録」**オプションを**「修正/更新/ヘルプ・リンク」**列のドロップダウン・リストから選択し、**「設定の更新」**をクリックして登録を開始します。

- **ハードウェア情報** - RAM メモリー、プロセッサ、Smart View インストール済ドライブ領域
- **Excel アドイン** - インストールされている Excel アドインによって異なります
- **COM アドイン** - インストールされている COM アドインによって異なります

3. 次の情報を必要に応じて更新します。設定を変更した場合は、**「設定の更新」**をクリックして変更を適用します。

   オプションで、**「推奨設定」**をクリックして、すべてのオプションを Smart View に最適な設定にします。

   これらは編集可能な設定です:

   - **レジストリ情報**

     実行に時間のかかる大きな問合せを処理する場合やインターネット接続が遅い場合に、HTTP セッション・タイムアウトが発生することがあります。タイムアウトの発生を減らすには、タイムアウト値を設定します。(いずれかのタイムアウト値を変更した場合は、新しい値を適用するためにすべての Microsoft Office アプリケーションを再起動する必要があります。)

- **KeepAlive タイムアウト** - デフォルト値は 900 秒です。値を変更するには、**「修正/更新/情報」**列をクリックし、新しい値を入力して**「設定の更新」**をクリックします。
- **受信タイムアウト** - デフォルト値は 900 秒です。値を変更するには、**「修正/更新/情報」**列をクリックし、新しい値を入力して**「設定の更新」**をクリックします。
- **ServerInfo タイムアウト** - デフォルト値は 900 秒です。値を変更するには、**「修正/更新/情報」**列をクリックし、新しい値を入力して**「設定の更新」**をクリックします。
- **現在の解像度** - 読取り専用システム・ディスプレイの現在の解像度。
- **USER プロセス・ハンドラ割当て** - 読取り専用です。プロセス・ハンドラの数。プロセス・ハンドルは、Oracle Smart View for Office のシステム・リソースへのアクセスを制限します。
- **プロセス当たりのシステム DPI の有効化** - Windows 10 のディスプレイ設定のみ。Office アプリケーションを 100%以外のスケーリング・レベルで使用している場合、ドラッグアンドドロップが正常に機能するには、**「使用可能」**を選択します。デフォルトの値は**「使用不可」**です。

  高 DPI ディスプレイを主モニターとして使用して、標準 DPI を拡張モニターとして使用している場合、ドラッグアンドドロップが拡張標準 DPI ディスプレイ・モニターで機能しない場合があります。これは、マウス・ドライバがマウス・アクションに誤った座標を提供するためであり、結果としてドラッグアンドドロップが正常に動作しません。
- **ブラウザ・エミュレーション・モード**—Smart View および Smart View 拡張機能の特定のブラウザベースの画面が適切に表示されるように、必要なレジストリ・キーをすべての Office アプリケーション(Excel、Word、PowerPoint、Outlook)に追加します。

  ブラウザのバージョンに対応するオプションを選択します:

  * **12001**—Microsoft Edge の互換性
  * **11001**—Internet Explorer 11 の互換性
  * **10001**—Internet Explorer 10 の互換性
  * **使用不可**

  このオプションはデフォルトで有効であり、値**「デフォルト」**が表示されています。

- **Smart View のオプション**
  - **バッファを元に戻す** - 1 回の操作で許可される元に戻す処理とやり直し処理の数。デフォルト値は 9 です。値を変更するには、**「修正/更新/情報」**列をクリックし、新しい値を入力して**「設定の更新」**をクリックします。1 から 100 の値を入力できます。(「元に戻す」と「やり直し」の使用を参照してください)。
  - **メタデータ・ストレージの向上** - このオプションは、異なるバージョンの Smart View 間の相互運用性に関連します。これにより、内部データ構造の記憶域の効率を高めることができます。

    デフォルト値は**選択済**です。組織のすべてのユーザーが Smart View 9.3.1.6 以上の場合、このオプションは必ず選択する必要があります。

    このオプションが**選択解除済**である場合、互換性の目的でメタデータのコピーが 2 つ保持されます。その結果、全体的なパフォーマンスが低下する場合があります。次の状況では、このオプションの選択を解除します:

    - リリース 9.3.1.6 より前の Smart View のユーザー、または Smart View のリリースにかかわらず Microsoft Office 2002 以前のユーザーに Excel ワークブックを送信する場合。
    - リリース 9.3.1.6 より前の Smart View のユーザー、または Smart View のリリースにかかわらず Microsoft Office 2002 以前のユーザーから送信されたワークブックを開く場合。

    > **ノート:**
    >
    > このオプションを**選択解除済**に変更した場合、**「修正/更新/ヘルプ・リンク」**列の値は**「修正」**に変更されます。システムに問題があり、パフォーマンスを最適化する場合は、値を**選択済**に戻すことでこの設定を"修正"する必要があります。

  - **互換性**—Smart View for Office と Smart View for Office (Mac およびブラウザ)間のフォームおよび通常のアド・ホック・グリッドの互換性を管理します。デフォルトの値は**「使用不可」**です。
    - 互換性を有効にするには、**「修正/更新/ヘルプ・リンク」**列をクリックし、**「使用可能」**を選択してから**「設定の更新」**をクリックします。
    - 互換性を無効にするには、**「修正/更新/ヘルプ・リンク」**列をクリックし、**「使用不可」**を選択してから**「設定の更新」**をクリックします。

    詳細は、Smart View と Smart View (Mac およびブラウザ)の間でのフォームおよびアド・ホック・グリッドの互換性を持った操作を参照してください。
  - **WebView2 ランタイム** - オプションを選択して、Microsoft Edge WebView2 ランタイムのインストール済バージョンを使用可能または使用不可にします:
    - **UI に対して使用可能にする** - 使用可能な場合、WebView2 はログイン時の認証シナリオを支援するために Smart View で使用されます。ランタイム時に、Smart View はマシンにインストールされた WebView2 ランタイムを検出し、WebView2 ベースのダイアログを起動してログイン・ページをホストします。Webview2 は、Microsoft Edge ブラウザとも連携して、Oracle Hyperion Financial Reporting (クラウドおよびオンプレミス)からレポートをインポートする際にウィザードを表示します。
    - **すべてに対して使用可能にする** - これがデフォルトの設定です。**「UI に対して使用可能にする」**で説明されている認証シナリオを操作し、ネットワークに対して WebView2 を使用可能にします。接続の問題の診断にこのオプションを使用することをお薦めします。
    - **使用不可** - WebView2 を使用不可にする場合に選択します。

    使用可能か使用不可かに関係なく、インストール済の WebView2 ランタイムのバージョンが**「バージョン情報」**グループの **WebView2 ランタイムのバージョン**に表示されます。WebView2 ランタイムがインストールされていない場合、**WebView2 ランタイムのバージョン**には**「なし」**と表示されます(前のステップを参照)。

    WebView2 の要件は、*Oracle Smart View for Office Readme* の Microsoft Edge WebView2 のサポートを参照してください。

- **グラフィック設定**

次の 2 つのオプションは、Microsoft Office のちらつきを軽減することでユーザー・エクスペリエンスを向上させます。

- **アドイン・タスク・ペインでのウィンドウの遷移の無効化**—デフォルト値は**「使用可能」**です。このオプションを無効にするには、**「修正/更新/ヘルプ・リンク」**列をクリックし、**「使用不可」**を選択して**「設定の更新」**をクリックします。

  ノート: このオプションを**「使用不可」**に変更した場合、**「修正/更新/ヘルプ・リンク」**列の値は**「修正」**に変わります。システムに問題があり、パフォーマンスを最適化する場合は、値を**「使用可能」**に戻すことでこの設定を"修正"する必要があります。

- **アニメーションの使用不可** - この設定は Office のアニメーションを無効にします。デフォルト値は"使用可能"です。このオプションを無効にするには、**「修正/更新/ヘルプ・リンク」**列をクリックし、**「使用不可」**を選択して**「設定の更新」**をクリックします。

  ノート: このオプションを**「使用不可」**に変更した場合、**「修正/更新/ヘルプ・リンク」**列の値は**「修正」**に変わります。システムに問題があり、パフォーマンスを最適化する場合は、値を**「使用可能」**に戻すことでこの設定を"修正"する必要があります。

4. **「設定の更新」**をクリックして、行った変更を保存します
5. **オプション: 「ヘルス・チェック」**ダイアログ・ボックスのいずれかの情報を変更した後、デフォルト値に戻す場合は、**「推奨設定」**をクリックします。

   「推奨設定」を選択すると、変更される設定を示すダイアログが表示されます。ダイアログで**「はい」**をクリックします。次に、**「設定の更新」**をクリックして変更を保存します。

   > **ノート:**
   >
   > **「推奨設定」**をクリックすると、ボタンは使用不可になります。その後、**「ヘルス・チェック」**ダイアログで設定を変更しても、ボタンは使用不可のままです。**「推奨設定」**ボタンを再度使用するには、**「ヘルス・チェック」**ダイアログを閉じてから再度開く必要があります。

6. **オプション: 「Excel にエクスポート」**をクリックして、ヘルス・チェック情報を新しい Excel スプレッドシートにエクスポートします。
7. **「閉じる」**をクリックして**「ヘルス・チェック」**ダイアログ・ボックスを閉じます。
8. Excel を再起動してログインします。

Microsoft Office ドキュメントのヘルス・チェックの実行

ヘルス・チェックを実行して、Microsoft Excel ワークブック、Word ドキュメントまたは PowerPoint プレゼンテーションのパフォーマンスを最適化できます。

Related Topics

- ヘルス・チェックについて
  Oracle Smart View for Office の「ヘルス・チェック」ツールを使用して、Microsoft Excel ワークブック、Word ドキュメントまたは PowerPoint プレゼンテーションのパフォーマンスを最適化します。
- ヘルス・チェックの実行

ヘルス・チェックについて

Oracle Smart View for Office の「ヘルス・チェック」ツールを使用して、Microsoft Excel ワークブック、Word ドキュメントまたは PowerPoint プレゼンテーションのパフォーマンスを最適化します。

「ヘルス・チェック」ツールを使用して行う処理は、非 Smart View の一部の関連オブジェクトを修正または削除(あるいはその両方)して、Smart View のパフォーマンスを最適化することです。

また、「ヘルス・チェック」ツールを使用して、各 Office アプリケーションの特定のアイテム(名前付き範囲、スタイル、タグ、問合せオブジェクト、その他のオブジェクトなど)に関する情報を取得できます。

「Smart View」リボンの**「全般」**グループにある**「ヘルス・チェック」**ダイアログにアクセスします。

Microsoft Office のヘルス・チェック・アイテム

「ヘルス・チェック」ダイアログを起動すると、選択した Excel ワークブック、Word ドキュメントまたは PowerPoint プレゼンテーションが開き、ダイアログに次のアイテムがリストされます。

- Microsoft Excel のワークブックのヘルス・チェック
  - 名前付き範囲
  - 図形
  - スタイル
  - リンク
  - ハイパーリンク
  - シート
- Microsoft Word のドキュメントのヘルス・チェック
  - 表
  - インライン図形
  - 図形
  - スタイル
  - 問合せオブジェクト

    > **Note:**
    >
    > パフォーマンスを改善するには、**「修正」**をクリックして、Word に貼り付けられたデータ・ポイントの重複問合せを削除します。

  - 非表示の問合せオブジェクト
  - コメント・オブジェクト
  - 変数

  - ブックマーク
  - コンテンツ制御
- Microsoft PowerPoint のプレゼンテーションのヘルス・チェック
  - 図形
  - タグ
  - スライド

各アイテムをプレビューし、それに応じてアイテムを削除または修正できます。変更は、Microsoft Excel、Word または PowerPoint のドキュメントのコピー内で行われます。**「保存」**を実行すると、変更がコピー内に保存されます。元のファイル名でファイルを保存するには、元のファイルを閉じてから、**「名前を付けて保存」**を実行します。

Narrative Reporting: ヘルス・チェックを実行して、*さらに* Office タイプのドックレット(Microsoft Office ドキュメントのヘルス・チェックの実行で説明)をリフレッシュする場合は、最初にヘルス・チェックを実行してから、正しいドックレット名で一時ファイルを保存します。次に、保存したドックレットをアップロードしてチェックインします(ドックレットのチェックインを参照)。次に、ドックレットをチェックアウトし、リフレッシュを実行してから、ドックレットをアップロードし、チェックインします。

ヘルス・チェックの実行

ヘルス・チェックを実行して、Microsoft Excel ワークブック、Word ドキュメントまたは PowerPoint プレゼンテーションのパフォーマンスを最適化できます。また、「ヘルス・チェック」ツールを使用して、各 Office アプリケーションの特定のアイテム(名前付き範囲、スタイル、タグ、問合せオブジェクト、その他のオブジェクトなど)に関する情報を取得できます。

> **Note:**
>
> ヘルス・チェック機能は、Microsoft Excel、Word および PowerPoint を含む Oracle Smart View for Office を使用する場合のみ利用可能です。

ヘルス・チェックを実行するには:

1. 「Smart View」リボンから、次のタスクを実行します。
   - Excel: **「詳細」**の横にある矢印をクリックし、**「ワークブックのヘルス・チェック」**を選択します。
   - Word: **「全般」**グループの**「ドキュメントのヘルス・チェック」**をクリックします。
   - PowerPoint: **「全般」**グループの**「プレゼンテーションのヘルス・チェック」**をクリックします。

   「ヘルス・チェック」ダイアログが表示され、アクティブな Excel ワークブック、Word ドキュメントまたは PowerPoint プレゼンテーションのコピーが開きます。

> **Note:**
>
> **「ヘルス・チェック」**ダイアログでは、デフォルトで最初のアイテムが選択され、Microsoft Office または Smart View で提供される制限に関する情報が表示されます。

2. **「ヘルス・チェック」**ダイアログで、アイテムを選択し、次のタスクを実行します。
   - **プレビュー**—選択したアイテムの名前または ID がリストされます。
   - **修正**—選択したアイテムに基づいて、問題を修正します。
   - **すべて修正**—該当する非 Smart View の関連アイテムを削除し、Smart View オブジェクトを修正します。
   - **削除**—選択したアイテムの該当する非 Smart View の関連オブジェクトを削除します。
3. **「閉じる」**をクリックしてダイアログを終了します
4. 作業したファイル・コピーを保存するには、**「保存」**をクリックします。

   「保存」を実行すると、変更がファイル・コピー内に保存されます。元のファイル名で保存するには、元のファイルを閉じてから、**「名前を付けて保存」**を実行します。

A

Smart View での他のアプリケーションの使用方法

次も参照:

- Crystal Ball EPM
  Oracle Crystal Ball Enterprise Performance Management は、Oracle Smart View for Office データ・ソースのデータをシミュレーションおよび予測のワークブックで分析するために使用します。
- Smart View および Spreadsheet Add-in
  Oracle Smart View for Office と Oracle Essbase Spreadsheet Add-in が同じコンピュータにインストールされている場合は、マウス・コントロールの競合が発生しないようにしてください。

Crystal Ball EPM

Oracle Crystal Ball Enterprise Performance Management は、Oracle Smart View for Office データ・ソースのデータをシミュレーションおよび予測のワークブックで分析するために使用します。

これは Crystal Ball EPM モデルを伴う 1 つ以上のワークシートで構成される Excel ワークブックであり、各ワークシートはサポートされている任意のデータ・ソースに接続することができます。これらは Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace リポジトリに一元的に格納され、Smart View パネルを通じてアクセスと管理が可能です。

詳細は、Crystal Ball EPM のドキュメント・セットを参照してください。

関連トピック:
Crystal Ball EPM ワークブックの操作

ツールバー操作

リポジトリ・オプション

> **ノート:**
>
> 適切なライセンスを保有している場合には、Crystal Ball EPM を Smart View とともに使用できます。

Crystal Ball EPM ワークブックの操作

Smart View パネルから実行できる Oracle Crystal Ball Enterprise Performance Management のシミュレーションおよび予測のワークブックの操作は、管理者が設定する権限によって異なります。

Crystal Ball EPM ワークブックのデータを操作するには:

1. Smart View のリボンで、**「パネル」**を選択します。
2. Smart View パネルでをクリックし、**「ワークブックのシミュレーション」**を選択します。
3. をクリックし、要求された場合には Crystal Ball EPM リポジトリにログインします。そのユーザーが権限を持つワークブックのツリー・リストが表示されます。
4. ワークブックをダブルクリックして開きます。
5. Crystal Ball EPM 製品ドキュメントでの説明に従って、Crystal Ball EPM の操作を実行します。

   ワークシート上の Crystal Ball EPM モデルは、データ・ソースのワークシートとは別に保管することをお薦めします。
6. 必要に応じて**「データの送信」**をクリックします。

ツールバー操作

ツールバー操作

Oracle Crystal Ball の「ワークブックのシミュレーション」ツールバーのボタンを使用して、ツリー・リストのワークブックおよびフォルダに対して次の操作を実行します。

- リポジトリへの接続
- ワークブックの追加、保存、削除
- フォルダの追加と名前変更

  表 1 にリストされている文字は、フォルダ名で使用できません。

表 A-1 フォルダ名で制限されている文字のリスト

文字	説明
\	円記号(バックスラッシュ)
/	スラッシュ
%	パーセント記号
?	疑問符
+	プラス符号
<	小なり記号
>	大なり記号
|	縦棒
'	一重引用符
"	二重引用符
*	アスタリスク
:	コロン

- ツリー・リストのリフレッシュ
- ワークブック・ファイルの格納先、および通信する Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace エージェントの場所を指定するオプションを設定

します(これらのオプションは、サーバーで稼働している全セッションで適用されます)。これには、**「オプション」**をクリックして次の情報を入力します。

- **URL**: Web サービス・エージェントの URL。次の構文を使用します: `http://<host>/raframework/services/BiPlus`
- **フォルダ**: ワークブック・ファイルを保存するリポジトリ・フォルダの名前

リポジトリ・オプション

ワークブック・ファイルの格納先、および通信する Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace エージェントの場所を指定するリポジトリ・オプションを設定します。

リポジトリ・オプションは、サーバー上で実行中のすべてのセッションに適用されます。

- **URL**: Web サービス・エージェントの URL。次の構文を使用します: `http://<host>/raframework/services/BiPlus`
- **フォルダ**: ワークブック・ファイルを保存するリポジトリ・フォルダの名前

Smart View および Spreadsheet Add-in

Oracle Smart View for Office と Oracle Essbase Spreadsheet Add-in が同じコンピュータにインストールされている場合は、マウス・コントロールの競合が発生しないようにしてください。

Smart View および Spreadsheet Add-in の両方が同じコンピュータ上にインストールされている場合、マウス・アクションは Spreadsheet Add-in のコマンドと解釈されます。Smart View でマウス・コマンドを制御する場合は、Spreadsheet Add-in を介して確立された Oracle Essbase 接続でのみ、コマンドに対応するよう Spreadsheet Add-in に指示できます。

Smart View でマウス・コマンドを制御できるようにするには:

1. Excel を開きます。
2. 「Essbase」、**「オプション」**、**「グローバル」**の順に選択します。
3. **「接続されているシートに制限」**を選択します。
4. **「OK」**をクリックします。

   Essbase への接続が、Smart View ではなく Spreadsheet Add-in を介して確立されている場合以外、Smart View がマウス・コマンドを制御します。

> **ノート:**
>
> 同じワークブック内で Smart View および Spreadsheet Add-in からデータ・ソースに接続することは可能ですが、同じワークシート上では接続できません。

B

関数の移行

次も参照:

- 関数の移行について
  Oracle Hyperion Financial Management と Oracle Hyperion Enterprise®の関数は、移行ユーティリティを使用して現在の Oracle Smart View for Office 構文に変換することができます。
- ワークブックの変換
  移行ユーティリティを使用すると、Oracle Hyperion Financial Management または Oracle Hyperion Enterprise®の関数を含むワークブックを変換できます。
- 1 つのワークブックの変換
  このトピックの手順を使用して、Oracle Hyperion Financial Management または Oracle Hyperion Enterprise®の関数を含むワークブックを変換します。
- 複数のワークブックの変換
  このトピックの手順を使用して、Oracle Hyperion Financial Management または Oracle Hyperion Enterprise®の関数を含むワークブックを変換します。
- 関数の接続の移行
  Oracle Hyperion Financial Management では、Oracle Smart View for Office に移行するときに、アプリケーション参照を含まない関数に対して接続または接続参照を選択できます。

関数の移行について

Oracle Hyperion Financial Management と Oracle Hyperion Enterprise®の関数は、移行ユーティリティを使用して現在の Oracle Smart View for Office 構文に変換することができます。

> **ノート:**
>
> Smart View の関数移行ユーティリティは 64 ビット Office ではサポートされていません。Microsoft 社がこの問題に対処する予定です。それまで、32 ビット・バージョンの Office を使用してください。

ワークブックの変換

移行ユーティリティを使用すると、Oracle Hyperion Financial Management または Oracle Hyperion Enterprise®の関数を含むワークブックを変換できます。

データ・ソース・タイプ: Financial Management、Hyperion Enterprise

Financial Management のデータ取得関数または Hyperion Enterprise の HP 取得関数および VBA 取得関数を含むワークブックを変換できます。たとえば、HFMVal、HFMLnk、HFMLab、HFMDes および HFMCur などの Financial Management 関数や、HPVal、HPLnk、HPCur、HPHea、HPCde および HPFul などの Hyperion Enterprise 関数を変換できます。

ユーティリティでは変換できない関数もあります。一部の関数は手動で調整する必要があります。

セル参照を使用する関数については、次の関数が変換されます。

- 関数のすべてのパラメータがセル参照である場合。たとえば、次のように指定できます: =HFMVal(B1&C1&B2&C3&B5&C5&B6&C6)
- 関数でディメンション・パラメータが指定されていて、メンバーがセル参照で、ピリオド・セパレータがハード・コード化されている場合。たとえば、次のように指定できます: =HFMVal("S#"&D2&".Y#"&D3&".VW#"&D5&".')

セル参照を使用する次の関数は変換**されません**。

- 関数でディメンション・パラメータが指定されていて、メンバーおよびピリオド・セパレータがセル参照である場合。たとえば、次のように指定できます: =HFMVal("S#"&E2&"Y#"&E3&"VW#"&E5)。ここで、E2=Actual、E3=2004、E5="<Scenario View>"です。
- 関数でディメンション・パラメータが指定されていて、メンバーがセル参照で、ピリオド・セパレータが個別のセル内にある場合、関数は変換されません。たとえば、次のように指定できます: =HFMVal("S#"&F2&C1&"Y#"&F3&C1&"VW#&F5&C1)。ここで、C1=. (ピリオド・セパレータ)です。
- 関数で指定されているアプリケーションがセル参照である場合。
- ワークブックのセルに 1024 文字を超える文字が含まれている場合、ワークブックは正しく変換されません。セルに含まれるデータのサイズを小さくするには、複数の関数を参照するか、バックグラウンド POV で設定できるディメンションを除去します。

移行ユーティリティを実行する前に、パスが正しいことを確認します(デフォルト・パスは `MIDDLEWARE_HOME\EPMSystem11R1\common\empstatic\wsspace\` です)。移行中には、Excel によってアドイン・ファイルの元のパスが関数に挿入されます。そのため関数が長くなりすぎ、エラーになることがあります。Excel の制限上、Oracle Smart View for Office の関数は 256 文字を超えることができません。

1 つのワークブックの変換

このトピックの手順を使用して、Oracle Hyperion Financial Management または Oracle Hyperion Enterprise®の関数を含むワークブックを変換します。

データ・ソース・タイプ: Financial Management、Hyperion Enterprise

ワークブックを変換するには:

1. Smart View のリボンから、**「詳細」**を選択し、**「アクティブ・ワークブックの移行(Financial Management)」**または**「アクティブ・ワークブックの移行(Hyperion Enterprise)」**を選択します。

   関数にアプリケーション参照が含まれている場合は、アプリケーションを対応する接続にマップする必要があります。

2. **「変換」**、**「OK」**の順にクリックします。

   移行結果が表示されます。これには、変換できなかった関数の一覧が含まれます。これらの関数は手動で調整できます。

3. 変換結果を保存するには、**「結果の保存」**をクリックし、結果ファイルを保管する場所を選択して**「保存」**をクリックします。
4. **「閉じる」**をクリックします。

複数のワークブックの変換

このトピックの手順を使用して、Oracle Hyperion Financial Management または Oracle Hyperion Enterprise®の関数を含むワークブックを変換します。

データ・ソース・タイプ: Financial Management、Hyperion Enterprise

複数のワークブックを変換するには:

1. Smart View のリボンから、**「詳細」**を選択し、**「移行のバッチ処理(Financial Management)」**または**「移行のバッチ処理(Hyperion Enterprise)」**を選択します。
2. 「移行ウィザード」で**「追加」**をクリックし、変換するワークブックを選択します。
3. **「次へ」**をクリックします。関数にアプリケーション参照が含まれている場合は、アプリケーションを接続にマップする必要があります。

   移行結果が表示されます。これには、変換できなかった関数の一覧が含まれます。これらの関数は手動で調整できます。
4. Financial Management で、**「結果の保存」**をクリックし、結果ファイルの場所を選択して**「保存」**をクリックします。

   Hyperion Enterprise の場合は、変換されたワークブックが自動的に元のワークブックの保存場所に保存されます。
5. **「完了」**をクリックします。

関数の接続の移行

Oracle Hyperion Financial Management では、Oracle Smart View for Office に移行するときに、アプリケーション参照を含まない関数に対して接続または接続参照を選択できます。

データ・ソース・タイプ: Financial Management

関数の接続を移行するには:

1. Smart View のリボンから、**「詳細」**、**アクティブ接続の移行(HFM)**の順に選択します。
2. **「関数移行 - アプリケーション参照」**で、いずれかのオプションを選択します。
   - **関数を接続参照で更新しない。**
   - **「接続名を既存関数に追加」**を選択し、「接続名」リストから接続名を選択します。この場合、指定された接続名を使用するすべての関数が更新されます。
   - **「選択したワークシート内の接続リストを参照して関数を更新」**を選択し、「セルの参照」で参照するセル(例: A2)を入力します。この場合、現在のワークシートのセルを参照するすべての関数が更新されます。
   - **「新ワークシートの接続リストを参照して関数を更新」**を選択し、「ワークシート名」と「セルの参照」を入力します。この場合、ワークブック内の別のワークシートのセルを参照するすべての関数が更新されます。

> **ヒント:**
>
> 関数で接続名を参照するためのドロップダウン・リストを任意のセルに作成できます。Smart View のリボンから、**「詳細」**、**「接続リストの挿入」**の順に選択すると、現在のセルで選択できる接続のリストが表示されます。

3. **「OK」**をクリックします。

C

情報の検索

次も参照:

- ベスト・プラクティス
  Oracle Smart View for Office の操作に関するベスト・プラクティス
- Smart View に関するよくある質問(FAQ)
  この FAQ では、Oracle Smart View for Office に関するよくある質問に役立つリソースへのリンクを示します。
- アクセシビリティ
  このトピックでは、Oracle Smart View for Office で利用可能なアクセシビリティ・ドキュメントについて説明します。
- VBA 関数
  Oracle Smart View for Office の VBA 関数に関する情報は、*Oracle Smart View for Office 開発者ガイド*または *Oracle Smart View for Office アプリケーションの開発*にあります。
- 問題のトラブルシューティング
  この項では、Oracle Smart View for Office の問題のトラブルシューティングについてリソースを提供します。
- データ・プロバイダ情報リソース
  Oracle Help Center では、Oracle Smart View for Office とともに動作するデータ・プロバイダのドキュメントや他のユーザー支援リソースを入手できます。

ベスト・プラクティス

Oracle Smart View for Office の操作に関するベスト・プラクティス

Smart View を操作する際は、次のベスト・プラクティスを使用します。

この表では、このガイドで説明するベスト・プラクティスへのリンクを示します。

Table C-1　ベスト・プラクティスの参照

カテゴリ	ベスト・プラクティスの対象	参照する項
接続 URL マッピングの管理	アド・ホック・グリッドが含まれている保存済のワークブックの操作	接続 URL マッピングの管理について
Smart View のオプション - シート	「リセット」オプションの使用	シート・オプション
Smart View のオプション - 詳細	「次回起動時にログ・ファイルをクリア」オプションの使用	詳細オプション
Smart View のオプション - セルのスタイル	セルのスタイルを操作する際のガイドライン	セルのスタイル
Smart View のオプション - 拡張機能	拡張機能の有効化および無効化	拡張機能の有効化および無効化
Smart View のオプション - 拡張機能	使用可能な拡張機能の最初のチェック	使用可能な拡張機能の最初のチェック

Table C-1　(Cont.) ベスト・プラクティスの参照

カテゴリ	ベスト・プラクティスの対象	参照する項
Smart View のオプション - 拡張機能	拡張機能のインストール	拡張機能のインストール
Smart View のオプション - 拡張機能	拡張機能の更新	拡張機能の更新
ディメンションとメンバー	数値メンバー名の操作	数値メンバー名に関するベスト・プラクティス
メンバー・セレクタ	メンバーの検索	メンバー・セレクタからのメンバーの選択
POV マネージャ	POV マネージャの操作	POV マネージャ
データおよびセル	データの送信オプションの使用	データの送信オプションの使用に関するベスト・プラクティス
ドリルスルー・レポート	POV 詳細のコピーと貼付け	ドリルスルー・レポートのソース POV の表示
添付	ファイルの添付	添付の追加
データ・フォーム	Excel でのフォームの操作	Excel でのフォームの操作
フレックス・フォーム	フレックス・フォームの操作	フレックス・フォームの操作に関するベスト・プラクティス
アド・ホック分析	アド・ホック分析の開始	アド・ホック分析の開始
Oracle Essbase での Excel の式	グリッドの外側の式の保持	Essbase アド・ホック・グリッドの内側および外側にある Excel 式の保持
オンザフライ計算	変更を送信せずに計算を実行する(オンザフライ計算)	ガイドラインおよび考慮事項
ワークシート上の複数のグリッド	ワークシート上の複数のグリッドの操作	ガイドラインおよびベスト・プラクティス
レポートおよびアド・ホック・グリッドを重ねて表示	メンバー名の入力	レポートおよびアド・ホック・グリッドを重ねて表示
ブック	インストーラの実行	Smart View インストーラのダウンロードと実行
ブック	クイック接続の使用	Cloud EPM ビジネス・プロセスへの接続の作成
ブック	言語設定の使用	Smart View でのダウンロードされたブックの操作
フリー・フォーム・モード	フリーフォーム・モードでの操作	フリーフォームに関するガイドラインおよびベスト・プラクティス
コピーと貼付け	Excel でのコピーと貼付け	Excel のコピーおよび貼付けのガイドラインおよびベスト・プラクティス
Cloud EPM ライブラリの Office ドキュメント	Office ドキュメントの Cloud EPM ライブラリへの保存	Smart View を使用した Office ドキュメントの Cloud EPM ライブラリへの保存
メタデータ	メタデータのコピー、貼付けおよびインポート	メタデータのインポートに関するガイドラインおよびベスト・プラクティス
シート情報	シート情報の表示	シート情報ガイドライン

Table C-1　(Cont.) ベスト・プラクティスの参照

カテゴリ	ベスト・プラクティスの対象	参照する項
フォームとアド・ホック・グリッドの Web 起動	Web アプリケーションからの起動	Web アプリケーション(Web 起動)からフォームおよびアド・ホック・グリッドを開く
フォームとアド・ホック・グリッドでのパーセンテージ値	パーセンテージ値の入力	フォームとアド・ホック・グリッドでのパーセンテージ値の入力
Smart View 製品間の互換性	Smart View 製品間の互換性の操作	Smart View 製品間の動作の互換性に関するベスト・プラクティス
関数	関数の使用	関数の使用
関数ビルダー	関数ビルダーの使用	関数ビルダーでの関数の作成
関数ビルダー	セル参照の使用	セル参照の使用
関数	関数の手動作成	関数構文のガイドライン
関数	「リンクの修正」オプションの使用	関数内のリンクの修正

Smart View に関するよくある質問(FAQ)

この FAQ では、Oracle Smart View for Office に関するよくある質問に役立つリソースへのリンクを示します。

よくある質問

- Smart View のサポート・マトリックスおよび互換性はどこで確認できますか。
- Smart View は Microsoft Office 32 ビットおよび 64 ビット・バージョンと互換性がありますか。
- Microsoft 社による 2022 年 6 月 15 日の Internet Explorer 11 の廃止に伴い、Smart View にはどのような影響がありますか。
- Smart View アド・ホック分析でプロバイダ・エラーに対処するにはどうすればよいですか。
- Smart View アド・ホック・シートをリフレッシュするときに発生する、メンバーが正しい位置にないことを示すエラーに対処するにはどうすればよいですか。
- フォーム内の変更されたセルの外側をクリックしたときに Smart View が失敗しないようにするにはどうすればよいですか。
- Smart View および WebView2 の Cookie をクリアするにはどうすればよいですか。
- Code -1 接続エラーの HTTP エラーに対処するにはどうすればよいですか。
- HTTP セッション・タイムアウトを防ぐにはどうすればよいですか。
- Smart View でメモリー使用量を制限し、不安定さを防ぎ、パフォーマンスを向上させるにはどうすればよいですか。
- Smart View および Office アドインを使用可能または使用不可にするにはどうすればよいですか。
- WebView2 の使用中に「すべて切断」コマンドの使用で Excel が失敗しないようにするにはどうすればよいですか。

- Microsoft Office のインストール時に.NET インストール・オプションを有効にする必要があるのはなぜですか。
- Smart View を Windows の Program Files フォルダにインストールしないのはなぜですか。
- Smart View で診断ツールを使用してヘルス・チェックを実行するにはどうすればよいですか。
- 拡張機能のインストール、更新または削除中にすべての Office アプリケーションが閉じていることを確認するにはどうすればよいですか。
- 拡張機能のインストールに関する問題を解決するにはどうすればよいですか。
- 起動時にアドインまたは AddIn クラスのエラーを防ぐにはどうすればよいですか。

Smart View のサポート・マトリックスおよび互換性はどこで確認できますか。

Smart View のサポート・マトリックスおよび互換性に関する情報については、次のトピックを参照してください:

- *管理者用スタート・ガイド*の Smart View の前提条件。
- *Oracle Smart View for Office Readme* のインストール情報。

Smart View は Microsoft Office 32 ビットおよび 64 ビット・バージョンと互換性がありますか。

はい。Smart View では、64 ビット・バージョンと 32 ビット・バージョンの Microsoft Office 用に 1 つのインストーラが使用されます。Smart View のインストール中に、インストーラは対応するオペレーティング・システムおよび Microsoft Office ビット・タイプを自動的に検出し、それに応じてインストールします。詳細は、*『Oracle Smart View for Office インストレーションおよび構成ガイド』*の Smart View のインストールについてを参照してください。

Smart View を Windows の Program Files フォルダにインストールしないのはなぜですか。

Windows 10 などの Windows オペレーティング・システムでは、管理者以外のユーザーは、`Program Files` フォルダまたは `Program Files (x86)` を変更する権限がありません。管理者が Smart View を `Program Files` または `Program Files (x86)` にインストールした場合、管理者以外のユーザーは Smart View をアンインストールできません。

Smart View のデフォルトのインストール・フォルダは `C:\Oracle\SmartView` です。Smart View を `Program Files` または `Program Files (x86)` フォルダにインストールしないことをお薦めします。Smart View のインストールに関するガイドラインと手順は、*『Oracle Smart View for Office インストレーションおよび構成ガイド』*の Smart View のインストールを参照してください。

Microsoft 社による 2022 年 6 月 15 日の Internet Explorer 11 の廃止に伴い、Smart View にはどのような影響がありますか。

これに関する情報および推奨事項は、*『Oracle Smart View for Office インストレーションおよび構成ガイド』*の Internet Explorer 11 のサポート終了と Smart View を参照してください

Microsoft Office のインストール時に.NET インストール・オプションを有効にする必要があるのはなぜですか。

Microsoft Office のインストール時に.NET インストール・オプションを有効にする必要があります。有効にすると、Office と他のプログラムおよびアドイン(Smart View や Smart View 拡張機能など)との相互運用性をサポートするファイルが Office インストールに配置されます。詳

細は、『*Oracle Smart View for Office インストレーションおよび構成ガイド*』の.NET インストール・オプションの要件を参照してください。

拡張機能のインストール、更新または削除中にすべての Office アプリケーションが閉じていることを確認するにはどうすればよいですか。

拡張機能を適切にインストール、削除または更新するには、すべての Office アプリケーションをシャット・ダウンする必要があります。Office のいずれかのインスタンスがまだ実行されている場合、Smart View は拡張機能の更新を正しく適用できません。すべての Office インスタンスが正しく閉じられているかどうかを確認するには、『*Oracle Smart View for Office インストレーションおよび構成ガイド*』の拡張機能の更新と開いたままの Office アプリケーションの説明に従って、Windows タスク・マネージャを開き、Office アプリケーションの名前を探します。

拡張機能のインストールに関する問題を解決するにはどうすればよいですか。

拡張機能のインストール中に、成功または失敗のステータスを示すインストーラ・メッセージ・ウィンドウがフォーカスを失い、開いている他のウィンドウの背後に隠れることがあります。ステータス・メッセージが表示されない場合、ユーザーは拡張機能のインストールを再試行しようとしますが、以前に開いたメッセージ・ウィンドウがフォルダとファイルを保留しているためにエラーが発生する可能性があります。このような拡張機能のインストールに関する問題を解決するには、『*Oracle Smart View for Office インストールおよび構成ガイド*』の Cloud EPM からの拡張機能のインストールとメッセージ・ウィンドウのフォーカスの説明に従って、最初に以前の保留中の拡張機能のインストールを削除し、インストールを再試行します。

Smart View および Office アドインを使用可能または使用不可にするにはどうすればよいですか。

Excel のオプションの**「アドイン」**タブから、Smart View および他の Microsoft Office アドインを使用可能および使用不可にできます。場合によっては、他の Office アドインを使用不可にすると、Smart View のパフォーマンスが向上することがあります。詳細は、『*Oracle Smart View for Office インストレーションおよび構成ガイド*』の Smart View および他の Office アドインの使用可能/使用不可を参照してください。

Smart View リボンが、インストール後に表示されません。どうすればよいですか。

Smart View を管理者以外のユーザーとしてインストールし、Smart View リボンが表示されない場合、この問題をトラブルシューティングするために、*Oracle Smart View for Office インストレーションおよび構成ガイド*の管理者以外のユーザーによるインストール後に、「Smart View」リボンが表示されないで説明されている指示をお試しください。

起動時にアドインまたは AddIn クラスのエラーを防ぐにはどうすればよいですか。

Smart View をインストールした後に Office を起動すると、次のいずれかのエラーが表示される場合があります: 「アドイン・クラスのインストール済プロパティを設定できません。」または「AddIns クラスの追加メソッドが失敗しました。」これらのエラーを防ぐには、*Oracle Smart View for Office インストレーションおよび構成ガイド*の Smart View をインストールした後に初めて Excel を起動したときのエラーまたは Smart View をインストールした後に Office を起動したときのエラーのいずれかの指示に従ってください。

Smart View アド・ホック分析でプロバイダ・エラーに対処するにはどうすればよいですか。

接続 URL 構文と資格証明を確認し、Smart View の Cookie をクリアします。これに対処するには、『*Oracle Smart View for Office インストレーションおよび構成ガイド*』の次のトピックを参照してください:

- ログインの問題の診断

- Smart View の Cookie のクリア

アド・ホック分析の実行中に、「有効なデータ行がないため、アド・ホック・グリッドを開けません。」というようなエラーが表示される場合は、Smart View の「オプション」ダイアログの「行の抑制」、「列の抑制」および「欠落ブロックの抑制」オプションの選択を解除します。詳細は、*『Oracle Smart View for Office ユーザーズ・ガイド』*のアド・ホック分析の開始を参照してください。

Smart View アド・ホック・シートをリフレッシュするときに発生する、メンバーが正しい位置にないことを示すエラーに対処するにはどうすればよいですか。

このエラーを解決するには、次を試行してください:

- 一方のアド・ホック・シートから他方のアド・ホック・シートにコンテンツをコピーした後、Smart View の「メタデータのインポート」コマンドを使用して、追加のメタデータが他方のシートに引き継がれるようにします。詳細は、*『Oracle Smart View for Office ユーザーズ・ガイド』*の Office アプリケーションのメタデータのインポートを参照してください。
- 必要な別名表をプライベート接続レベルで設定し、接続を開くたびにデフォルトで適用されるようにします。詳細は、*『Oracle Smart View for Office ユーザーズ・ガイド』*の接続の別名表の選択を参照してください。
- フォームの行ドロップダウン・メンバー・セレクタで、このエラーに直面することなくデータを入力および送信できるようになりました。共有メンバーまたは重複する別名に関連付けられたメンバーを選択して操作する場合、ドロップダウン・メンバー・セレクタには、修飾名や個々の別名ではなく、共有メンバーおよび重複する別名のメンバー名が表示されるようになりました。詳細は、*『Oracle Smart View for Office ユーザーズ・ガイド』*のフォームの行ディメンションでのドロップダウン・メンバー・セレクタの使用を参照してください。

フォーム内の変更されたセルの外側をクリックしたときに Smart View が失敗しないようにするにはどうすればよいですか。

Smart View リリース 21.110 以降では、フォームにデータを入力し、変更したセルの外側をクリックした後、Excel が断続的に終了しなくなりました。Smart View のバージョンがリリース 21.110 以降に更新されていることを確認してください。

Smart View および WebView2 の Cookie をクリアするにはどうすればよいですか。

場合によっては、サインオフとその後のログイン・プロセスを容易にするために、Smart View および WebView2 の Cookie をクリアする必要があります。Cookie のクリアは、ビジネス・プロセスに接続するためのログイン・ダイアログが Smart View で表示されない場合にも機能します。詳細は、*『Oracle Smart View for Office インストレーションおよび構成ガイド』*の次のトピックを参照してください:

- Smart View の Cookie のクリア
- WebView2 の Cookie のクリア

Code -1 接続エラーの HTTP エラーに対処するにはどうすればよいですか。

Smart View が次のスクリプト・エラーで Planning または Planning モジュールへの接続に失敗することがあります:

```
An HTTP error occurred with the code "-1"
```

このエラーを解決するには、*『Oracle Smart View for Office インストレーションおよび構成ガイド』*の接続エラーで提案されている回避策を参照してください。

HTTP セッション・タイムアウトを防ぐにはどうすればよいですか。

実行に時間のかかる大きな問合せを処理する場合やインターネット接続が遅い場合など、HTTP セッション・タイムアウトが発生することがあります。HTTP セッション・タイムアウトを回避するには、*『Oracle Smart View for Office インストレーションおよび構成ガイド』*の Smart View の HTTP セッション・タイムアウトの説明に従って、Windows レジストリのインターネット設定キーに DWORDS 値を追加します。

Smart View でメモリー使用量を制限し、不安定さを防ぎ、パフォーマンスを向上させるにはどうすればよいですか。

Smart View は Microsoft Office のアドインです。アドインとして、Microsoft Excel プロセスにロードされます。Smart View を使用してレポートを Excel にインポートすると、Excel プロセスがメモリーを消費し、パフォーマンスに悪影響を及ぼす可能性があります。

メモリー使用量を制限し、パフォーマンスを向上させるには、*『Oracle Smart View for Office インストールおよび構成ガイド』*の Excel と連携する Smart View のパフォーマンスおよびメモリー使用量の考慮事項に記載されているアクションを実行します。

MacAfee や Trellix など、Microsoft Office をモニタリングする一部のサードパーティ・ツールも、Smart View に干渉し、Office および Smart View の安定性の問題を引き起こす可能性があります。回避策は、*『Oracle Smart View for Office インストレーションおよび構成ガイド』*の Smart View の安定性に影響を与える可能性があるサードパーティのモニタリング・ツールを参照してください。

WebView2 の使用中に「すべて切断」コマンドの使用で Excel が失敗しないようにするにはどうすればよいですか。

WebView2 を使用していて、「すべて切断」コマンドが機能しない、または「すべて切断」操作中に Excel が失敗するという問題がある場合は、*『Oracle Smart View for Office インストレーションおよび構成ガイド』*の WebView2 と切断の問題の説明に従って、レジストリ・フラグ PreserveThirdPartyCookies を追加し、「0」に設定してみてください。

Smart View で診断ツールを使用してヘルス・チェックを実行するにはどうすればよいですか。

Smart View の使用中に自分で解決できない問題が発生した場合は、Smart View 診断ツールを使用して、ログ・ファイルとスクリーンショットを作成して収集し、Oracle サポートに送信します。システムの"ヘルス・チェック"を実行してパフォーマンスを最適化し、マシン、Microsoft Office バージョン、Smart View バージョンおよびインストールした拡張機能に関する情報を取得できます。

詳細は次のトピックを参照してください。

- *『Oracle Smart View for Office インストレーションおよび構成ガイド』*の診断ツールおよびヘルス・チェック
- *『Oracle Smart View for Office ユーザーズ・ガイド』*の Smart View 診断ツールの使用
- *『Oracle Smart View for Office ユーザーズ・ガイド』*のシステムのヘルス・チェックの実行

アクセシビリティ

このトピックでは、Oracle Smart View for Office で利用可能なアクセシビリティ・ドキュメントについて説明します。

各リリースの *Oracle Smart View for Office アクセシビリティ・ガイド*は、Oracle Help Center で入手できます。このライブラリを開くには、Smart View のリボンから、**「ヘルプ」**の隣の矢印をクリックし、**「ドキュメンテーション」**をクリックします。**「Smart View For Office」**セクションにスクロールし、使用している Smart View バージョンのリンクをクリックします。

また、*アクセシビリティ・ガイド*には、Smart View のアクセシビリティ機能に関する情報が記載されています。このガイドは、Oracle Help Center にあるすべての Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management ビジネス・プロセスの**「ブック」**タブから入手できます。

アクセシビリティ・ガイドには、次のトピックの有用な情報が記載されています:

- Smart View のアクセシビリティの使用可能化
- JAWS の操作
- Microsoft Office テーマ(ダーク・テーマを含む)の使用
- Smart View のリボンおよびパネルにアクセスするためのアクセス・キーの使用
- ローカルでのヘルプのインストールと構成

VBA 関数

Oracle Smart View for Office の VBA 関数に関する情報は、*Oracle Smart View for Office 開発者ガイド*または *Oracle Smart View for Office アプリケーションの開発*にあります。

オンプレミス・バージョンの *Oracle Smart View for Office 開発者ガイド*は、Oracle Help Center にあります。このライブラリを開くには、Smart View のリボンから、**「ヘルプ」**の隣にある矢印をクリックし、**「ドキュメンテーション」**を選択します。**「Smart View For Office」**セクションにスクロールし、使用している Smart View バージョンのリンクをクリックします。

クラウドのみバージョンの *Oracle Smart View for Office アプリケーションの開発*は、サポート対象の Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management ビジネス・プロセスの**「ブック」**タブにあります。Oracle Help Center の Oracle Enterprise Performance Management (EPM)ページに移動し、Cloud EPM ビジネス・プロセスを検索します。

問題のトラブルシューティング

この項では、Oracle Smart View for Office の問題のトラブルシューティングについてリソースを提供します。

*Oracle Smart View for Office インストレーションおよび構成ガイド*は、Smart View の問題をトラブルシューティングする方法に関する詳細な情報を提供します。これには、インストールの問題、拡張機能の更新、パフォーマンスの向上および診断ツールに関するヒントと回避策が含まれます。

詳細は、ヒントとトラブルシューティングを参照してください。

また、*オペレーション・ガイド*は、Smart View の問題をトラブルシューティングする方法に関する詳細情報を提供します。これには、インストールの問題、拡張機能の更新、パフォーマンスの向上および診断ツールに関するヒントと回避策が含まれます。

詳細は、*オペレーション・ガイド*の Smart View の Windows プラグインに関する問題の修正に関する項を参照してください

データ・プロバイダ情報リソース

Oracle Help Center では、Oracle Smart View for Office とともに動作するデータ・プロバイダのドキュメントや他のユーザー支援リソースを入手できます。

Smart View ドキュメント・ライブラリを開くには、Smart View のリボンで、**「ヘルプ」**の横にある矢印をクリックして、**「ドキュメンテーション」**をクリックします。

一般に、このガイドには、Smart View でサポートされるデータ・プロバイダの機能を使用するための手順情報のみが記載されています。データ・プロバイダの詳細は、Oracle Help Center で入手可能な製品ドキュメントを参照してください。

- Oracle Enterprise Performance Management System および Oracle Essbase のユーザー支援については、Oracle Help Center で**オンプレミス・アプリケーション**をクリックし、Enterprise Performance Management をクリックしてください。
- Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management のユーザー支援については、Oracle Help Center の **Cloud Applications** をクリックし、Cloud Applications Suite ページの Enterprise Performance Management で自分の Cloud EPM 製品を見つけてください。
- Oracle Analytics Cloud および Oracle Essbase ユーザー支援については、Oracle Help Center の Oracle Analytics Cloud ページを参照してください。